

茨城県教育財団文化財調査報告第326集

しもひらつかかぶきだい
下平塚蕪木台遺跡

葛城一体型特定土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

上 卷

平成 21 年 3 月

独立行政法人都市再生機構茨城地域支社
財団法人茨城県教育財団



下平塚蕪木台遺跡（南西方向から）



第5号井戸跡木製井戸枠出土状況



第55・100号住居跡完掘状況



版築技法による貼床構築状況

序

茨城県では、つくば市を日本における科学技術の研究開発の中核として、さらに国際交流の拠点としてふさわしい街にすべく整備を進めております。

この新しい街づくりの一環として、つくば市と独立行政法人都市再生機構茨城地域支社は市と首都圏を直結する「つくばエクスプレス」の整備とその沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を計画的に推進しています。

しかしながら、この事業地内には埋蔵文化財包蔵地である下平塚蕪木台遺跡など数遺跡が所在することから、これらを記録保存の方法により保護する必要があるため、当財団が独立行政法人都市再生機構茨城地域支社から開発区域内における埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、平成7年度から13年間にわたって神田遺跡、六十日遺跡、西平塚梨ノ木遺跡の発掘調査を実施してまいりました。その成果は既に『文化財調査報告』第121・134・160・183・196集として刊行したところです。

本書は、第196集に続き、下平塚蕪木台遺跡の平成18・19年度の調査成果を収録したものであります。本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、委託者であります独立行政法人都市再生機構茨城地域支社から多大なご協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、ご協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成21年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 稲葉節生

例 言

1 本書は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年4月1日から5月31日及び平成19年6月1日から平成20年3月31日まで発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字下平塚字狐脇834番地の1ほかに所在する下平塚^{しもひらつかかぶきだい}蕪木台遺跡の発掘調査報告書である。

2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調査 平成18年4月1日～5月31日、平成19年6月1日～平成20年3月31日

整理 平成20年2月1日～平成20年3月31日、平成20年4月1日～平成21年3月31日

3 当遺跡の発掘調査は、平成18年度が調査課長川井正一のもと、平成19年度が調査課長瓦吹堅のもと、以下の者が担当した。

平成18年度

首席調査員兼班長 榎村 宣行

主任調査員 田中 幸夫

主任調査員 花見 勝博

平成19年度

首席調査員兼班長 三谷 正

首席調査員 白田 正子 平成19年6月～7月、平成19年9月～平成20年3月

主任調査員 照山 大作 平成19年6月～7月

主任調査員 本橋 弘巳 平成19年8月～10月

主任調査員 井上 琢哉 平成19年9月

主任調査員 齋藤 真哉 平成19年9月

主任調査員 齋藤 和浩 平成19年6月～平成20年3月

副主任調査員 櫻井 完介 平成19年6月～8月、平成19年10月、平成20年1月～3月

調査員 越川 欣和 平成19年6月～7月

調査員 川井 伸也 平成19年6月～7月

調査員 中村 博子 平成20年2月

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、以下の者が担当した。

平成19年度

副主査 川井 正一 第1章～第3章第2節 第3章第3節3(1)・(7)、5(2)・(4)

平成20年度

首席調査員兼班長 白田 正子 第3章第3節1、2、3(1)・(2)・(6)・(7)、4(1)、5(4) 第4節

主任調査員 飯田 浩彦 第3章第3節5(2)の一部

主任調査員 本橋 弘巳 第3章第3節3(3)～(7)、4(3)

主任調査員 齋藤 和浩 第1章～第3章第2節 第3節3(1)、4(2)、5(1)・(3)

調査員 江原美奈子 第3章第3節3(7)、5(2)

5 本書の作成にあたり、当遺跡から出土した木製品の保存処理と樹種同定は吉田生物株式会社、土壌分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、考察は付章として掲載した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、 $X = +10,800\text{m}$ 、 $Y = +23,160\text{m}$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C..., 西から東へ1, 2, 3... とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c... j, 西から東へ1, 2, 3... 0とし、名称は大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」のように呼称した。

2 遺構・遺物・土層の実測図、一覧表、遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。





遺構 SI- 竪穴住居跡 SB- 掘立柱建物跡 SK- 土坑 SE- 井戸跡 SD- 溝跡 SN- 粘土採掘坑
SH- 方形竪穴遺構 PG- ピット群
遺物 P- 土器・陶器・磁器 DP- 土製品 M- 金属製品 Q- 石器・石製品 T- 瓦
TP- 拓本記録土器 W- 木製品 N- 自然遺物
土層 K- 攪乱

3 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

4 土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。

5 遺構・遺物実測図の縮尺は、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は400分の1、遺構実測図は原則として60分の1で掲載した。
- (2) 遺物実測図は原則として3分の1で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについては個々に縮尺を表示した。
- (3) 遺構及び遺物の実測図中の表示は次のとおりである。

 焼土・赤彩・施釉・樹皮	 炉・火床面・繊維土器断面					
	井戸枠現存面・漆処理					
 竈部材・粘土範囲・黒色処理	 柱痕・抜き取り痕・柱あたり・煤・油煙					
●土器・陶器	○土製品	□石器・石製品	△金属製品	■瓦	▲木製品	★自然遺物
— — — — — 硬化面						

6 遺物観察表及び遺構一覧表の作成方法は、次のとおりである。

- (1) 遺物番号は通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。
- (2) 計測値の単位は、cm及びgで示した。
- (3) 遺物観察表及び遺構一覧表とも () は現存値、[] は推定値であることを示している。
- (4) 備考欄には、土器の現存率及び写真図版番号を記した。

7 竪穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

目 次

— 上 卷 —

序	
例言	
凡例	
目次	
概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	6
第2章 位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の成果	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 遺構と遺物	15
1 古墳時代の遺構と遺物	15
竪穴住居跡	15
2 奈良時代の遺構と遺物	30
(1) 竪穴住居跡	30
(2) 掘立柱建物跡	129
(3) 井戸跡	139
(4) 土坑	141
3 平安時代の遺構と遺物	145
(1) 竪穴住居跡	145
(2) 掘立柱建物跡	321
(3) 方形竪穴遺構	359

— 下 卷 —

(4) 鍛冶工房跡	363
(5) 粘土採掘坑	366
(6) 井戸跡	376
(7) 土坑	391
4 中世・近世の遺構と遺物	407
(1) 掘立柱建物跡	407
(2) 溝跡	417
(3) 井戸跡	418
5 その他の遺構と遺物	420
(1) 溝跡	420
(2) 土坑	426
(3) ピット群	462
(4) 遺構外出土遺物	480
第4節 まとめ	486
1 集落の変遷	486
2 河内郡内における集落の動向	499
付 章	509
下平塚蕪木台遺跡における黒色土の分析	509
下平塚蕪木台遺跡出土井戸枠の樹種について	517
写真図版	PL1 ~ PL96
抄録	
付図	

しもひらつかかぶき だい 下平塚蕪木台遺跡の概要

【はじめに】

しもひらつかかぶき だい い せき
下平塚蕪木台遺跡は、つくば市のほぼ中央部を流れる蓮沼川右岸の標高24 mほどの台地上に位置しています。今回の調査は「つくばエクスプレス」沿線開発関連の葛城一体型特定土地区画整理事業に先だって行いました。この事業地内に当遺跡があることから、遺跡の内容を記録して保存するために、茨城県教育財団が平成18・19年度に約25,000㎡にわたって発掘調査を実施しました。

調査を行った結果、古墳時代後期（約1450～1300年前）の^{たてあなじゅうきよあと}竪穴住居跡5軒、奈良時代から平安時代にかけて（約1300～1000年前）の^{ほったてばしらたてもあと}竪穴住居跡120軒、^{い どあと}掘立柱建物跡33棟、井戸跡6基、^{かじこうぼうあと}鍛冶工房跡1基、^{ねん どさいくつこう}粘土採掘坑20基、^{おおがた どうこう}大形土坑1基、^{ほうけいたてあな い こう}方形竪穴遺構2基、中世以降の掘立柱建物跡10棟、井戸跡2基、溝跡24条を確認しました。

これまで、蓮沼川流域では、^{かりま}左岸の^{じん でん い せき}荻間神田遺跡・^{かりまろくじゅうめい い せき}荻間六十目遺跡などで集落跡が調査されていましたが、右岸には大きな集落跡が確認されていなかったため、蓮沼川流域の歴史を知る上で貴重な遺跡となります。



調査区全景（南西方向から）

【調査の内容】

遺跡の中央部には主屋である庇付^{ひさし}掘立柱建物跡や倉庫である掘立柱建物跡、大形の竪穴住居跡がまとまって確認できました。これらの建物群の東側には、鍛冶工房跡、作業場である方形竪穴遺構、井戸跡などが確認でき工房エリアとなっていました。



はんちくぎぼう

版築技法で構築された住居跡〈第55・100号住居跡〉

一回り小さい第100号住居跡の上に貼床をして第55号住居を構築しています。貼床は、湿気を取り除くための黒色の珪藻土^{けいそうど}や焼土・灰・ローンを混ぜた褐色土など違う土を交互にのせては突き固め、また土をのせては突き固める版築という技法を使って強固な地盤にしています。そのため、土層の断面は何層ものサンドウィッチ状をしています。住居構築の際にこの技法が使われることは大変珍しいことです。

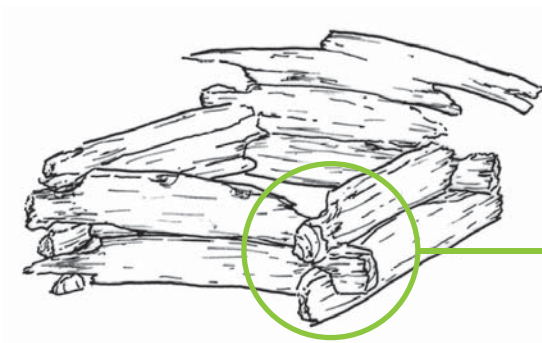
鍛冶工房跡

写真奥の小さく浅い穴は鉄を溶かしていた炉跡で、手前の大きく深い穴は鍛冶を行った際に出た鉄滓や焼土を捨てた所です。炉の左にある細長く浅い穴は、^{ふいご}鞴を設置したところです。ここから小鍛冶の際に飛び散った鍛造剥片^{たんぞうはくへん}や粒状^{りゅうじょう}滓^{さい}が多量に出てきました。

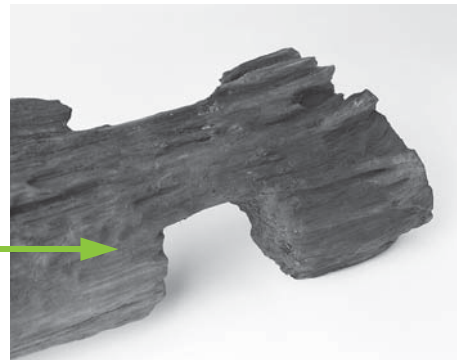




井戸跡〈第5号井戸跡〉
底から木製の井戸枠が井桁いげたに組まれた状態で出土しました。木枠の両端部の上下をL字やコ字状に削り抜いて校倉あぜくら作りのように組み上げています。貴重な一例です。



出土状況復元図



コ字状削り抜き部分



粘土採掘坑

住居跡の床面にいくつもの穴が掘り込まれています。これらの穴は粘土を採掘した痕あとです。住居廃絶からあまり時間が経たないうちに粘土採掘を行ったようです。



大形土坑〈第162号土坑〉

直径が4 m以上もある土坑で、底部がくぼんでいるのが特徴です。氷室ひむろじょう状土坑とも呼ばれています。くぼんだ所から「万益」「上」の墨書土器2点が出土しています。

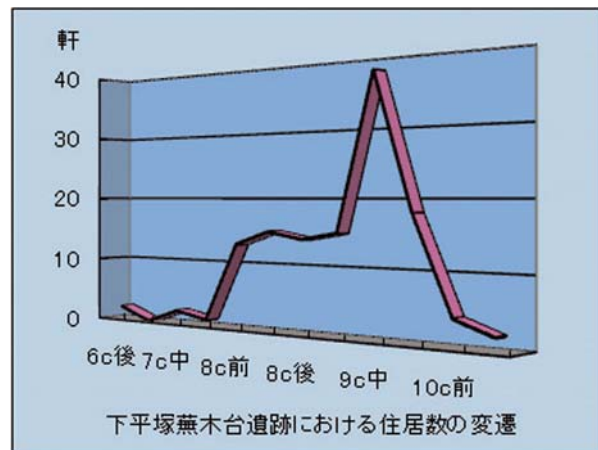
どの住居にも^{かまど}竈が作られています。竈の袖には補強材として、土師器や須恵器の甕等が使われていました。



移動式の置き竈も出土しています。左のような作り付けの竈がほとんどで、置き竈はこの1例だけです。

【調査でわかったこと】

調査の結果、下平塚蕪木台遺跡は、古墳時代の終わり頃（約1450年前）に形成されはじめ、平安時代の中頃（約1000年前）まで継続する集落であることがわかりました。この集落は、蓮沼川を望む低地の水田開発に伴うものと思われます。集落形成当初の住居数はわずかでしたが、奈良時代に入ると住居数13～15軒の規模で、安定して営まれています。9世紀の中頃には住居数は38軒になり集落が繁栄します。集落は、竪穴住居だけでなく、掘立柱建物、井戸、鍛冶工房、氷室状土坑、粘土採掘坑など様々な施設で構成されていました。



当時の役所の建物や倉、寺などを構築する際に用いられる版築技法を使った住居跡が確認されたことにより、この集落に住んでいた人の中にはこの技法を知っていた、あるいは見たことがある人がいたと思われます。このことから、この集落には都・郡の役所あるいは寺などの建設の際に^{ぞうよう}雑徭として駆り出された人がいたことが想像されます。

今回の調査により、蓮沼川流域開発のための中心となるような集落が展開していたことがわかり、当時の河内郡内の様子を考える上でも意義深い遺跡の一つと言えます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

つくば市は、世界に開かれた国際交流の中心、世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として、21世紀の新しい街づくりを進めている。その一環として取り組んでいるのが、2005年8月に開業した「つくばエクスプレス」沿線の開発である。葛城地区については、平成10年度から事業主体が茨城県から住宅・都市整備公団つくば開発局（平成9年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に、平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に、平成16年7月から独立行政法人都市再生機構茨城地域支社に名称を変更）に変更されて、土地区画整理事業を進めている。

平成6年8月18日、茨城県知事から茨城県教育委員会教育長あてに、葛城地区土地区画整理事業地内（加吹地区）における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は平成6・7年度に現地踏査を実施した。さらに平成10年11月18～20日、12月17日、及び平成17年10月18日に試掘調査を実施し、下平塚蕪木台遺跡の所在を確認した。平成17年11月8日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに、事業地内に下平塚蕪木台遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成18年1月31日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社葛城開発事務所長から茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事等の通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、計画変更による現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成18年2月14日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社葛城開発事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施しよう通知した。

平成18年2月24日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から、茨城県教育委員会教育長あてに、葛城一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成18年2月24日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに下平塚蕪木台遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から下平塚蕪木台遺跡埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成18年4月1日から5月31日まで第1次調査を実施し、平成19年6月1日から平成20年3月31日まで第2次調査を実施した。

平成19年5月18日・21日、8月27日に茨城県教育委員会は下平塚蕪木台遺跡の試掘調査を再度実施した。平成19年5月22日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに、事業地内に下平塚蕪木台遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成19年5月23日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から茨城県教育委員会教育長あてに、葛城一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成19年5月28日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに下平塚蕪木台遺跡について、発掘調査の範囲及び面積について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成19年6月1日から平成20年3月31日まで第2次調査を実施した。

第2節 調査経過

下平塚蕪木台遺跡の調査は、平成18年4月1日から5月31日まで、及び平成19年6月1日から平成20年3月31日までの延べ12か月間にわたって実施した。

以下、その概要を表で記載する。

期間 工程	平成18年		平成19年									平成20年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
調査準備 表土除去 遺構確認	■		■						■					
遺構調査	■		■											
遺物洗浄 注記作業 写真整理	■		■											
補足調査 撤 収													■	

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

下平塚蕪木台遺跡は、茨城県つくば市大字下平塚字狐脇834番地の1ほかに所在している。

つくば市は茨城県の南西部に位置し、東方約5kmには霞ヶ浦、北端には筑波山がある。当遺跡付近の地勢は、筑波山の南西麓を南下する桜川の低地と、西側を小貝川によって、限られた標高25～26mではほぼ平坦な筑波・稲敷台地からなっている。この台地には、花室川、蓮沼川、東谷田川、西谷田川など中小河川が南流して、台地縁辺部を樹枝状に開析している。そのため、谷津や低地が南北に細長く発達し、北から南に細長く延びる舌状台地が形成されている。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり、地質的には、新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積している。下層は成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上部に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層、さらにその上部に関東ローム層が堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。関東ローム層は、新期ロームに属し、武蔵野ローム、立川ロームに比定され、軽石層の分布から、富士・箱根火山群の活動に由来するものと考えられる。

当遺跡は、つくば市の中央部、東谷田川と合流して牛久沼へ注ぐ蓮沼川右岸の標高24mの台地上に立地している。台地の北側には東側から亜支谷が入り込んでいる。台地と蓮沼川低位面との比高は約6mである。

第2節 歴史的環境

下平塚蕪木台遺跡は、縄文時代と奈良・平安時代の複合集落遺跡である。ここでは蓮沼川と周辺の花室川・東谷田川・小野川流域における遺跡を中心に、その分布の概要について述べる。

旧石器時代の遺跡数は他の時代と比べて極めて少ない。蓮沼川左岸の^{かりまじんてん}菟間神田遺跡²⁾〈33〉、3か所の石器集中地点からナイフ形石器、搔器、楔形石器、尖頭器、石核、石刃、剥片などが多数出土した花室川左岸の^{ひがしおか}東岡中原遺跡³⁾〈26〉、ナイフ形石器や尖頭器が出土した花室川左岸の^{しばさき}柴崎遺跡⁴⁾〈20〉などがみられる程度である。

縄文時代の遺跡は、多数確認されている。蓮沼川右岸では^{にしひらつかなしのき}西平塚梨ノ木遺跡⁵⁾〈4〉、蓮沼川左岸では^{かりまろくじゅうめ}菟間六十目遺跡⁶⁾〈36〉、花室川左岸では、柴崎遺跡（早期～前期、後期）、桜川右岸では^{うえのじんば}上野陣場遺跡（早期～中期）⁷⁾〈17〉、^{うえのふるやしき}上野古屋敷遺跡（早期～中期）⁸⁾〈19〉、^{かみさかいあさひだい}上境旭台貝塚（後期～晩期）、^{なかねなかやつ}中根中谷津遺跡（後期～晩期）⁹⁾、東谷田川流域では^{さかまる}酒丸遺跡、^{さかまるやかしろ}酒丸八ヶ代遺跡、^{しまなさかまつ}島名境松遺跡、^{やたべふくだ}谷田部福田遺跡、^{やたべだいなるい}谷田部台成井遺跡などが確認されている。

弥生時代の遺跡も少なく、蓮沼川左岸では菟間神田遺跡、菟間六十目遺跡が確認されているほか、桜川右岸の上野陣場遺跡と上野古屋敷遺跡では後期の集落跡が確認されている。

古墳時代の遺跡は多数見られ、集落跡と古墳が確認されている。蓮沼川流域では菟間神田遺跡・菟間六十目遺跡で前期の集落跡が確認されているほか、^{かりま}菟間遺跡〈2〉、^{かなめしょうじんば}要精進場遺跡〈7〉、^{はすぬまやざき}蓮沼矢崎遺跡〈9〉が存在している。花室川流域では柴崎遺跡で後期、東岡中原遺跡で中期から後期にかけての集落跡が確認されているほか、^{しばさきかたおかしょうかん}柴崎片岡上館〈22〉、^{しばさきみなみ}柴崎南遺跡〈24〉がある。桜川右岸では、上野陣場遺跡と上野古屋敷遺跡で前期から後期の集落跡が確認されているほか、^{くりはらおおやま}栗原大山遺跡〈15〉がある。古墳は、蓮沼川流域では^{かなめなかね}要中根古

墳〈10〉、西大橋中内台古墳群〈31〉、西大橋塚山古墳〈32〉、桜川右岸では当地域最大の全長80mの前方後円墳である上野天神塚古墳や上野定使古墳群のほか、栗原愛宕塚古墳〈13〉、栗原十日塚古墳〈14〉などが確認されている。様相が判明している古墳の時期は、いずれも後期である。

奈良・平安時代の当該地は、河内郡菅田郷に属し、北は筑波郡に接している。12世紀には大井庄、さらに田中庄に属していた。菅田郷の郷域は、『新編常陸国誌』によれば、現在のつくば市松塚を東端とし、横町、中根、金田、上野、上境、柴崎、東岡、妻木、さらに花室川を越えて学園都市の中央部である吾妻、天久保を経て、苅間、大橋、新井、柳橋と蓮沼川に沿って南西へ広がり、大白裕、小白裕を西限とした地域に比定している¹⁰⁾。この地域における奈良・平安時代の遺跡は41か所確認されているが、当遺跡が存在する蓮沼川流域における遺跡は希薄で、桜川と花室川に挟まれた中根、金田を中心とする台地上に集中している。すなわち、当遺跡の東約3.5kmに位置し、国指定史跡である金田官衙遺跡（金田西遺跡・金田西坪A遺跡・金田西坪B遺跡）、九重東岡廃寺を中心として、約4km四方に密集している。金田西坪A遺跡は従来から河内郡家の正倉跡と推定されていたが、2002年に金田西・金田西坪B遺跡及び九重東岡廃寺の確認調査を実施したところ、多数の掘立柱建物跡等が確認され、河内郡家の郡庁院、正倉院及び関連建物群であることが明らかになった¹¹⁾。九重東岡廃寺は、礎石、瓦塔、瓦、蔵骨器などが出土しており、確認調査で基壇の一部と溝、堂宇と想定される掘立柱建物跡が検出されているが、寺域や伽藍配置等については不明である¹²⁾。河内郡家の周辺には、西側に隣接し、金田官衙遺跡とほぼ同時期に展開し密接に関係する集落跡と考えられている東岡中原遺跡、北西約2kmにあり160軒以上の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が確認された柴崎遺跡などが存在している。蓮沼川流域では、左岸に竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡6棟などが確認された苅間六十目遺跡、竪穴住居跡142軒、大形竪穴遺構3基などが確認された苅間神田遺跡のほか、苅間西ノ下遺跡〈34〉、下平塚堂所遺跡〈38〉、右岸に竪穴住居跡1軒が確認された西平塚梨ノ木遺跡、西平塚シタ遺跡〈3〉、要精進場遺跡、下平塚堂ノ下遺跡〈39〉などが存在している。また、東谷田川右岸には、県内最大規模の集落遺跡である島名熊の山遺跡が存在している。

中世・近世以降の遺跡は、近年のつくば市教育委員会による分布調査で数多く確認され、中世は54遺跡、近世は50遺跡に及んでいる¹³⁾。蓮沼川流域では、中世・近世の地下式坑、井戸跡、墓坑などが確認された西平塚梨ノ木台遺跡、中世の掘立柱建物跡、方形竪穴遺構、井戸跡、墓坑などが確認された苅間神田遺跡、中世・近世の火葬施設や地下式坑などが確認された苅間六十目遺跡のほか、西平塚シタ遺跡、要弥平太遺跡〈5〉、要猿壁遺跡〈6〉、要本屋敷遺跡〈8〉、苅間西ノ下遺跡、苅間屋敷塚、下平塚堂所遺跡、下平塚堂ノ下遺跡などが存在している。また、城館跡も多く、蓮沼川流域には苅間城跡〈37〉、小野川流域には小野崎館跡〈30〉、桜川右岸には方穂故城跡、柴崎片岡上館跡、金田城跡、花室城跡、上ノ室城跡など、小田氏関係の城館跡がある。当地域は鎌倉時代から室町時代にかけては小田氏、戦国時代においては小田氏と佐竹氏の支配下となり、佐竹氏が秋田へ移封後は土浦藩に属することになり、明治4年（1871年）の廃藩置県に至っている。

※ 文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1中の該当遺跡番号と同じである。

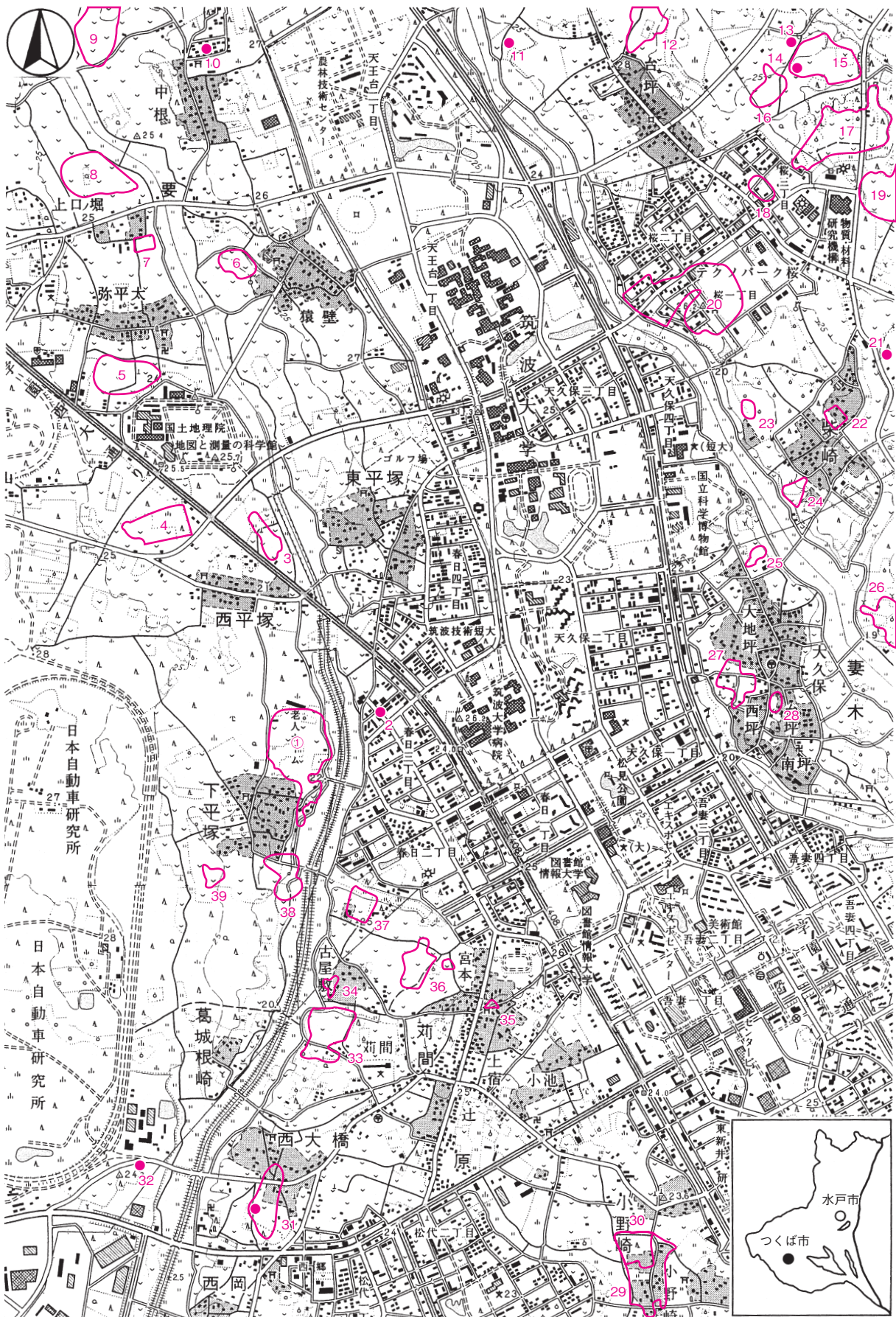
註

1) 大森昌衛・蜂須紀夫「茨城の地質をめぐって」『日曜の地学』8 築地書館 1979年9月

2) a 成島一也「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－神田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第121集 1997年3月

b 長岡正雄「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－神田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第134集 1998年3月

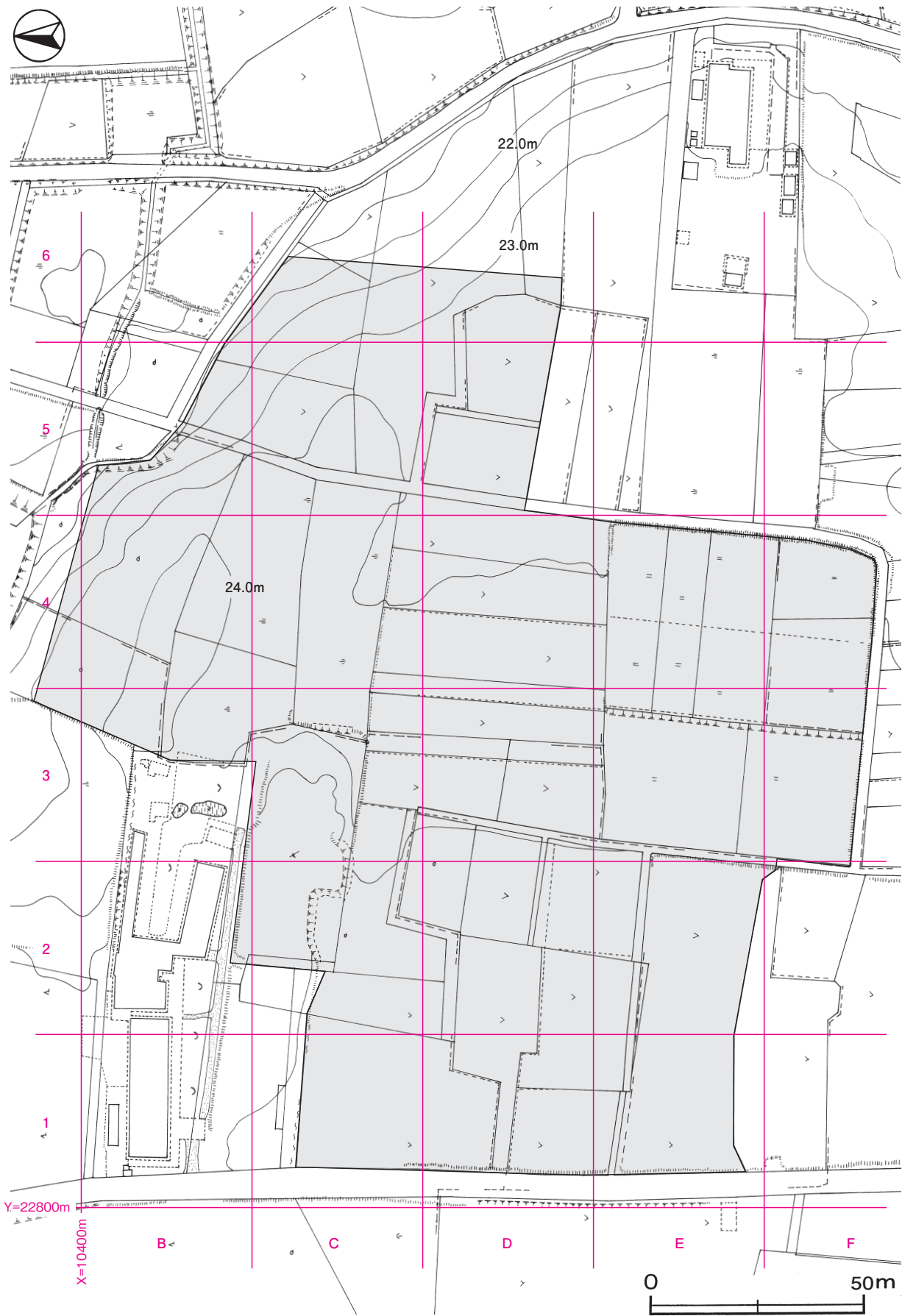
- c 飯島一生「神田遺跡3 葛城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第183集 2002年3月
- 3) a 成島一也「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ-中原遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第155集 2000年3月
- b 成島一也・宮田和男「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ-中原遺跡2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第159集 2000年3月
- c 白田正子・高野節夫・仲村浩一郎・島田和宏「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-中原遺跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年3月
- d 駒澤悦郎「東岡中原遺跡4 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第252集 2004年3月
- 4) a 高村勇「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）柴崎遺跡Ⅰ・Ⅱ-1区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第54集 1990年3月
- b 佐藤正好・松浦敏「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）柴崎遺跡Ⅱ区・中塚遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第63集 1991年3月
- c 土生朗治「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）柴崎遺跡Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第72集 1992年3月
- d 萩野谷悟「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）柴崎遺跡Ⅱ区・Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集 1994年9月
- 5) 高野節夫「西平塚梨ノ木遺跡 葛城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第196集 2002年3月
- 6) 小澤重雄「葛城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ-六十目遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第160集 2000年3月
- 7) 川上直登・長谷川聡・大塚雅昭「上野陣場遺跡 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第182集 2002年3月
- 8) a 三谷正・桑村裕「上野古屋敷遺跡1 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第285集 2007年3月
- b 川井正一「上野古屋敷遺跡2 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第307集 2008年3月
- 9) 川村満博「(仮称)中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ-中根中谷津遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第139集 1998年9月
- 10) 中山信名著 栗田寛補訂『新編常陸国誌』宮崎報恩会版 崙書房 1978年12月
- 11) 白田正子「金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡廃寺 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第209集 2003年3月
- 12) a 九重廃寺遺跡調査団『東岡遺跡-九重廃寺跡調査報告-』桜村教育委員会 1984年3月
- b 白田正子『九重東岡廃寺確認調査報告書1』茨城県教育財団 2001年3月
- 13) a つくば市教育委員会『つくば市遺跡分布調査報告書 -谷田部地区・桜地区-』2001年3月
- b つくば市教育委員会『つくば市遺跡地図』2001年7月



第1図 下平塚蕪木台遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院2万5千分の1「上郷」「谷田部」)

表1 下平塚蕪木台遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平			中世・近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世・近世
①	下平塚蕪木台遺跡		○		○	○	○	21	柴崎大日古墳				○		
2	荇間遺跡				○			22	柴崎片岡上館				○	○	○
3	西平塚シタ遺跡					○	○	23	柴崎ボツケ遺跡					○	
4	西平塚梨ノ木遺跡		○			○	○	24	柴崎南遺跡		○		○	○	○
5	要弥平太遺跡	○					○	25	妻木鴻ノ巢遺跡				○	○	
6	要猿壁遺跡						○	26	東岡中原遺跡	○	○		○	○	○
7	要精進場遺跡				○	○		27	妻木坪内遺跡					○	○
8	要本屋敷遺跡						○	28	妻木宮前遺跡					○	○
9	蓮沼矢崎遺跡				○	○		29	小野崎宿遺跡						○
10	要中根古墳				○			30	小野崎館跡						○
11	栗原白旗遺跡						○	31	西大橋中内台古墳群				○		
12	栗原才十郎遺跡		○					32	西大橋塚山古墳				○		
13	栗原愛宕塚古墳				○			33	荇間神田遺跡	○	○	○	○	○	○
14	栗原十日塚古墳				○			34	荇間西ノ下遺跡					○	○
15	栗原大山遺跡				○	○		35	荇間屋敷塚						○
16	栗原大山西遺跡					○		36	荇間六十目遺跡		○	○	○	○	○
17	上野陣場遺跡		○	○	○	○	○	37	荇間城跡						○
18	上野中塚遺跡		○			○		38	下平塚堂所遺跡				○	○	○
19	上野古屋敷遺跡		○	○	○	○	○	39	下平塚堂ノ下遺跡				○	○	○
20	柴崎遺跡	○			○	○	○								



第2図 下平塚蕪木台遺跡グリッド設定図(独立行政法人 都市再生機構茨城地域支社・葛城地区現況調整土地計画図500分の1を使用)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

下平塚蕪木台遺跡は、つくば市の中央部に位置し、蓮沼川右岸の標高24mの舌状台地上に立地している。遺跡の範囲は東西300m、南北500mと広大なものであるが、平成18年度の調査面積は1,293㎡、平成19年度の調査面積は24,306㎡である。平成18年度の第1次調査（1区）は遺跡の北端部、平成19年度の第2次調査（2区）は遺跡の南部を行った。

第1次調査では、平安時代の竪穴住居跡2軒、土坑2基、時期不明の土坑19基、第2次調査では竪穴住居跡121軒、掘立柱建物跡43棟、方形竪穴遺構2基、鍛冶工房跡1基、粘土採掘坑20基、井戸跡8基、土坑199基、溝25条、ピット群11か所を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に136箱出土している。主な出土遺物として、縄文土器片（深鉢）、土師器（坏・甕・甑）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・長頸壺・甕・甑・鉢）、灰釉陶器（長頸瓶）、土製品（土器片円盤・紡錘車・管状土錘）、石器・石製品（玦状耳飾り・紡錘車・砥石）、鉄製品（刀子・鎌・鍬・釘）、木製品（井戸杵）などである。

第2節 基本層序

調査区の北西部（B 3 d9区）にテストピットを設定し、基本土層の堆積状況の観察を行った（第3図）。

第1層は、暗褐色を呈する現耕作土である。粘性・締まりともに弱く、層厚は22～32cmである。

第2層は、黒褐色を呈する腐食土層である。粘性・締まりとも普通で、層厚は12～19cmである。

第3層は、褐色を呈する腐食土層である。粘性・締まりとも普通で、層厚は13～21cmである。

第4層は、黒色粒子を少量含み、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとも普通で、層厚は21～27cmである。

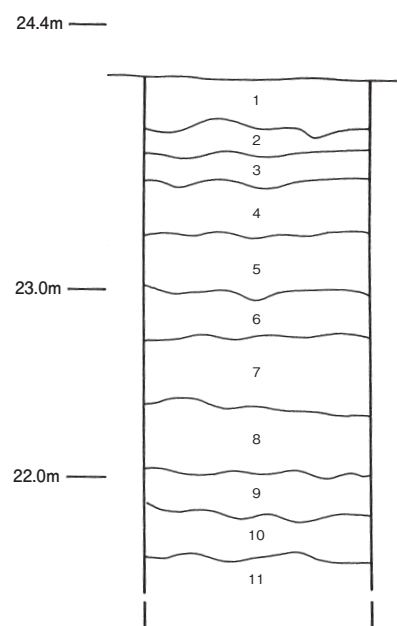
第5層は、黒色粒子を少量、赤色粒子・白色粒子を微量含み、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともにやや強く、層厚は26～33cmである。

第6層は、黒色粒子を少量、赤色粒子・白色粒子を微量含み、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は18～25cmである。第1黒色帯（BB I）に相当する。

第7層は、黒色粒子・赤色粒子・白色粒子を微量含み、にぶい褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は32～45cmである。

第8層は、黒色粒子少量、赤色粒子・白色粒子を微量含み、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は30～40cmである。第2黒色帯（BB II）に相当する。

第9層は、粘土粒子・赤色粒子・白色粒子を微量含み、にぶい



第3図 基本土層図

褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は19～25cmである。

第10層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は14～26cmである。

第11層は、鉄分を多量に含み、にぶい黄褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は16cmまで確認したが、下層が未掘のため不明である。

住居跡等の遺構は、第4層の上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡5軒が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第17号住居跡（第4・5図）

位置 調査区南部のF3e7区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 竈及び北壁の一部を第38号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南側が調査区域外に延びているために、東西軸は7.86mで、確認できた南北軸は6.70mである。

形状から、主軸方向がN-20°-Wの方形と推測できる。壁高は13~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が、南壁を除いて巡っている。

竈 2か所。遺存状況から、竈2が構築、撤去された後に、新たに竈1が構築され、住居廃絶時まで使用されていたと考えられる。竈1は北壁のやや西寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで127cm、燃焼部幅62cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、砂質粘土粒子を含む黒褐色土を積み上げて構築されている。第5・6・10層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き25cm、幅35cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。竈2は、竈1の東側に近接して付設されている。竈2から竈1へ作り替えられているため袖部は失われており、火床部だけが確認できた。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。

竈土層解説

1 極暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子中量
2 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	7 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
4 極赤褐色	焼土粒子少量	9 黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量	10 暗褐色	焼土ブロック微量

ピット 6か所。P1~P5は深さ29~39cmで、規模と位置から主柱穴で、本来は6本主柱であったと思われる。西壁際に位置しているP6は深さ17cmで性格は不明である。

ピット土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量		

貯蔵穴 北東コーナー部に位置しており、長軸118cm、短軸82cmの隅丸長方形で深さ37cmである。底面は鍋底状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック中量		

覆土 6層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

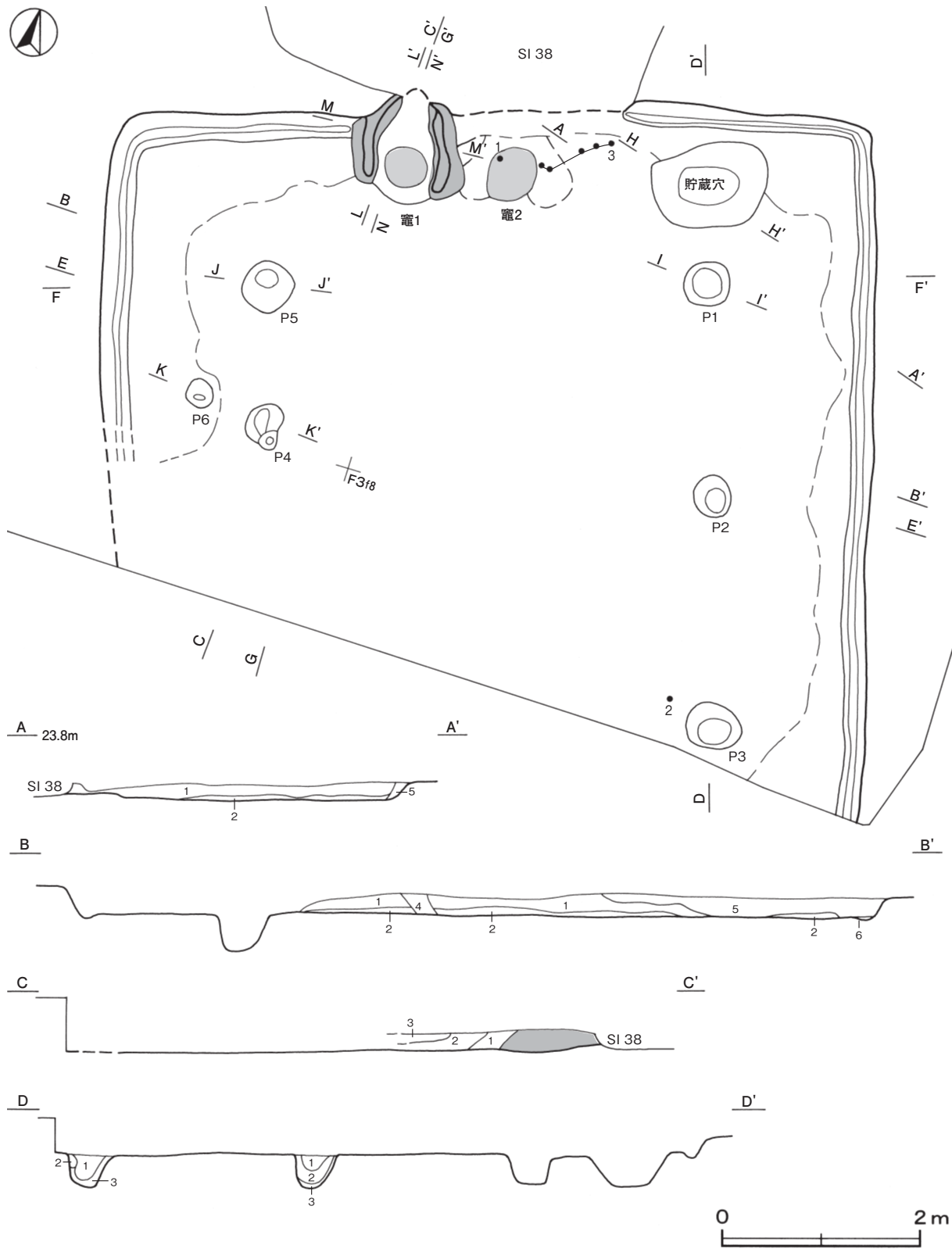
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	4 黒褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 褐色	ロームブロック中量	6 暗褐色	ローム粒子微量（壁溝）

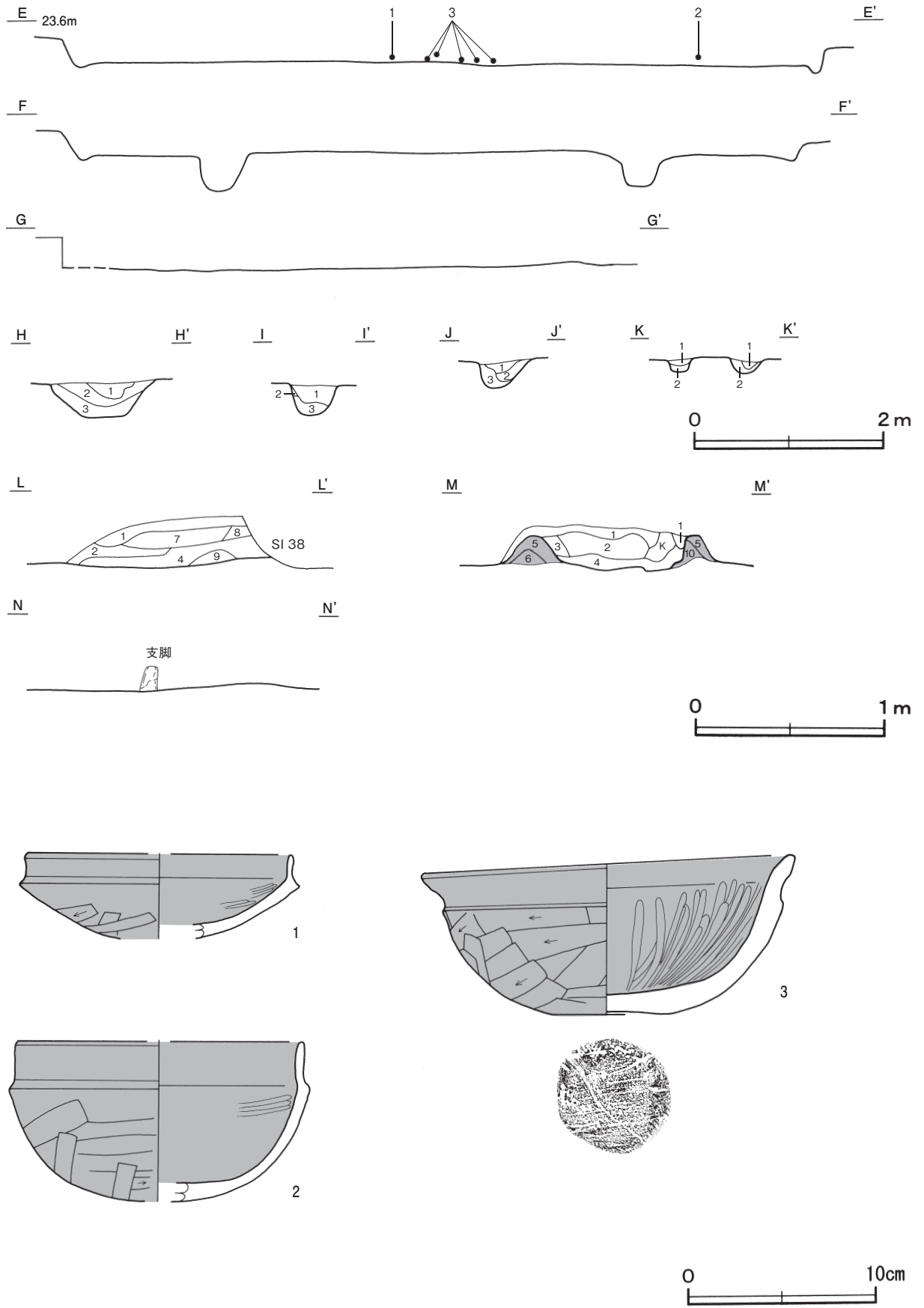
遺物出土状況 土師器坏1点、椀2点のほか、土師器片61点（坏17・甕44）、須恵器坏片2点が出土している。

1は竈2左袖付近の覆土下層、2はP3西側の覆土下層からそれぞれ出土している。3は竈2東側の床面から出土した破片が接合したものである。この他に、竈1の火床面から土製支脚が出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第4図 第17号住居跡実測図



第5図 第17号住居跡・出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.0]	(4.5)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土下層	35% PL61
2	土師器	椀	[15.2]	(8.5)	—	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土下層	30%
3	土師器	椀	19.4	8.6	5.6	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部ヘラ削り 底部一 方向のヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	床面	70% PL61

第48号住居跡（第6～8図）

位置 調査区西部のC 2il区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 竈上部を第25号溝に、西壁の一部を第92号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.30m、短軸6.14mの方形で、主軸方向はN-19°-Wである。壁高は16～32cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで138cm、燃焼部幅55cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、土師器甕を袖材として据え付け、白色粘土ブロックや砂粒を含む黒褐色土を積み上げて構築されている。第6～8・10層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き40cm、幅56cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・白色粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 にぶい褐色 白色粘土ブロック多量、ロームブロック・砂粒少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂粒微量 | 9 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量 | 10 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 暗赤褐色 火床面、赤変硬化 | |
| 6 黒褐色 焼土ブロック中量、白色粘土粒子少量 | |

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ43～56cmで、規模と位置から主柱穴である。南壁寄りの中央部に位置しているP 5・P 6は、深さ19・25cmで竈と向き合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットとみられ、同時に使用されていたか、P 5からP 6へ、またはP 6からP 5への作り替えが行われた可能性もある。

ピット土層解説

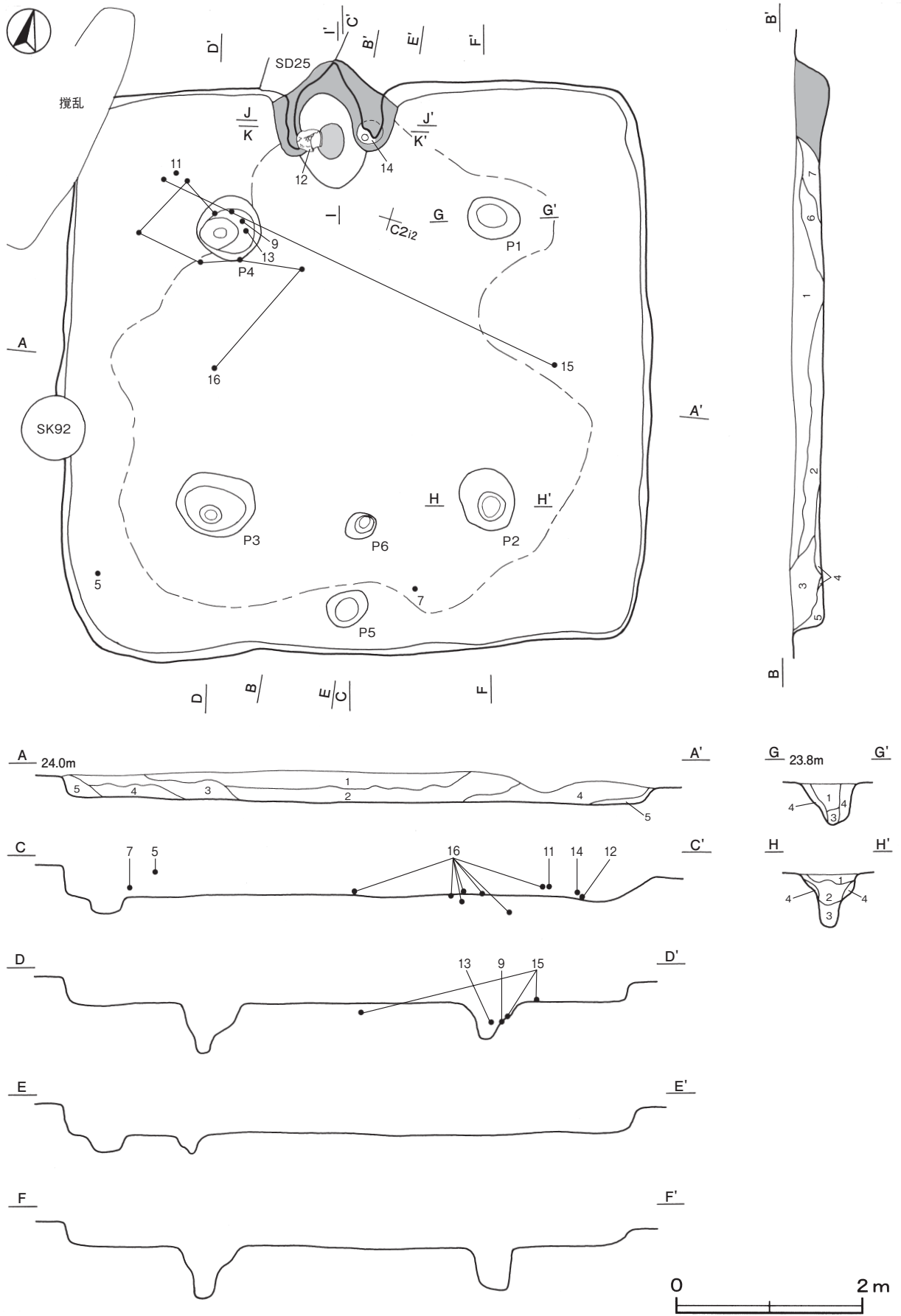
- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 焼土粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

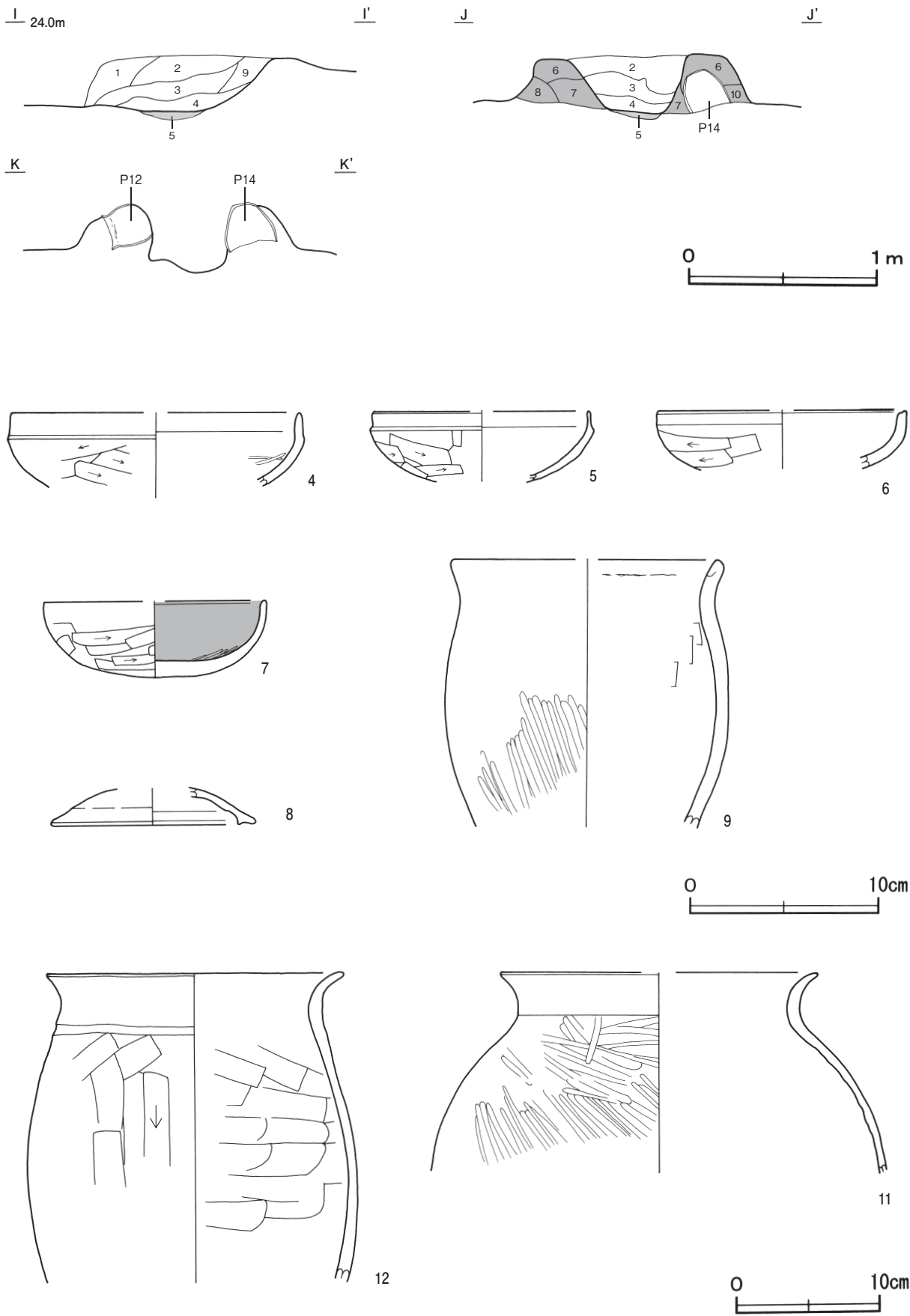
土層解説

- | | |
|--------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 暗灰色 粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 7 暗灰色 ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | |

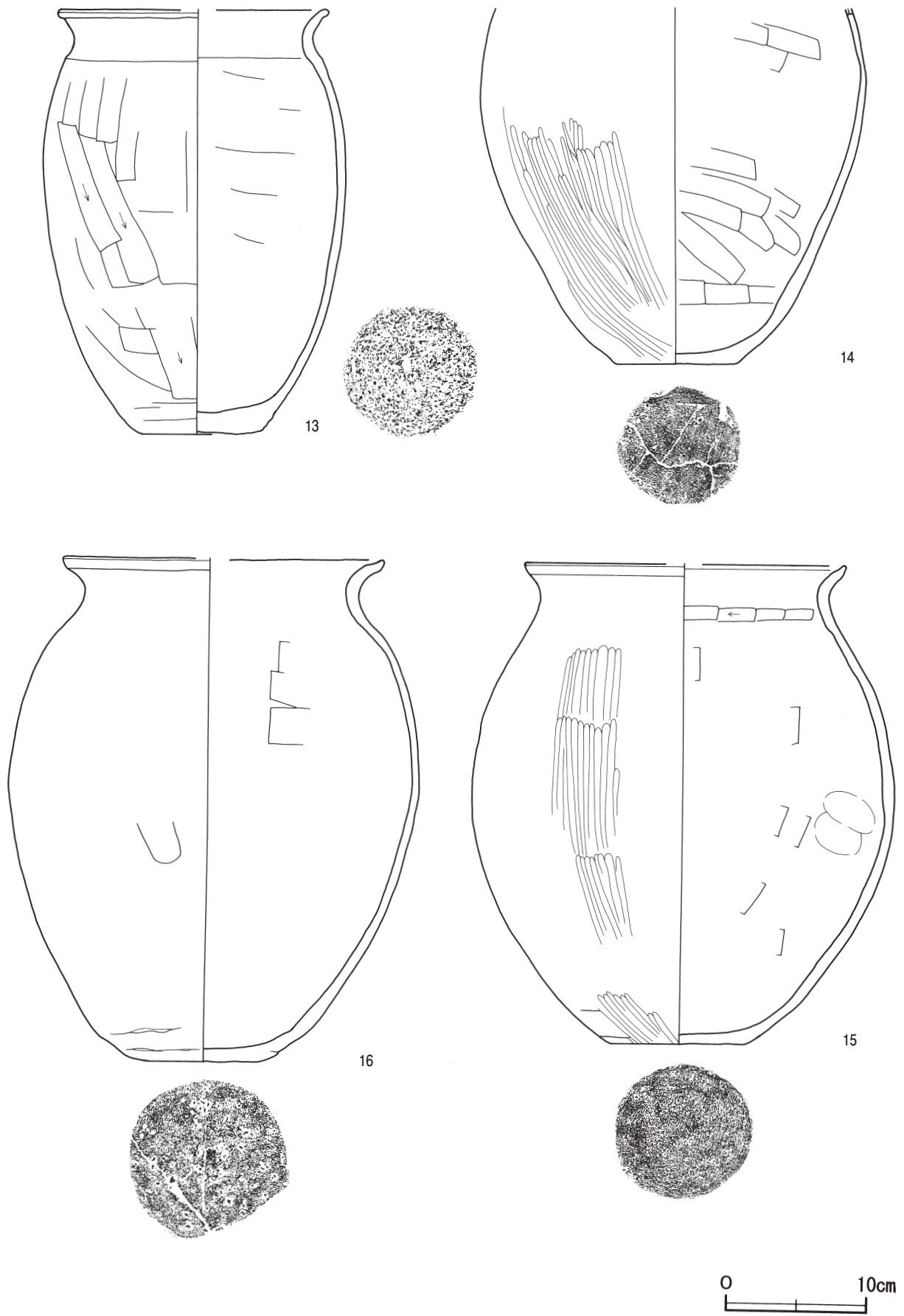
遺物出土状況 土師器坏4点、小形甕1点、甕6点、須恵器蓋1点のほか、土師器片395点（坏84・甕307・甌4）、須恵器片21点（坏13・蓋3・甕5）が出土している。7はP 5東側の覆土下層、9・13はP 4内、5は西壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。16はP 4内と周辺の床面から出土した破片が接合したものである。12は竈左袖部に据えられていたものが倒れた状態で、14は竈右袖基部に逆位で据えられていた状態でそれぞれ出土しており、袖部の補強材として使用されていたものである。4・6・8は覆土中からそれぞれ出土している。所見 時期は、出土土器から7世紀中葉に比定できる。



第6图 第48号住居跡実測図



第7図 第48号住居跡・出土遺物実測図



第8図 第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表（第7・8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	土師器	坏	[15.2]	(3.9)	—	石英・砂粒・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラ磨き 体部ヘラ削り	覆土中	5%
5	土師器	坏	[11.4]	(3.7)	—	長石・石英・砂粒	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面横ナデ 体部ヘラ削り	覆土上層	20%
6	土師器	坏	[13.0]	(3.1)	—	赤色粒子・砂粒	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面横ナデ 体部ヘラ削り	覆土中	15%
7	土師器	坏	[11.8]	4.0	—	長石・砂粒・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラ磨き 体部ヘラ削り 黒色処理	覆土下層	40% PL61
8	須恵器	蓋	[10.6]	(2.0)	—	砂粒	灰白	普通	体部内・外面口ロナデ	覆土中	5%
9	土師器	小形甕	[14.6]	(14.2)	—	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラ当て痕 体部ヘラ磨き	P4内	30%
11	土師器	甕	[22.0]	(14.0)	—	長石・石英・小礫	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面剥離 体部ヘラ磨き	覆土下層	20%
12	土師器	甕	20.6	(21.6)	—	長石・石英・小礫	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ 体部ヘラ削り	竈左袖材	50%
13	土師器	甕	[18.8]	30.1	8.7	長石・石英・小礫	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ 体部ヘラ削り	P4内	60% PL61
14	土師器	甕	—	(25.2)	8.6	長石・石英・小礫	にぶい橙	普通	体部ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈右袖材	50%
15	土師器	甕	[22.6]	34.0	9.6	長石・石英・小礫・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 底部磨き後ナデ 内面ヘラナデ 指頭押圧 体部ヘラ磨き	P4内, 床	50% PL62
16	土師器	甕	[22.6]	35.8	11.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	P4内, 床	60% PL62

第61号住居跡（第9～11図）

位置 調査区南西部のE2g4区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第160号土坑を掘り込み、ほぼ中央部を第136・137・139号土坑（第6号粘土採掘坑）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.94m、短軸4.07mの長方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁高は5～20cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、支柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が全周している。貼床は外周部を溝状に掘り込み、ロームブロック主体の暗褐色土を埋土し、中央部は確認面から約25cmの不整形な土坑状に掘り込み、ロームブロック・粘土ブロック・焼土・炭化物混じりのにぶい褐色土を埋めて構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部までの長さは135cmで、燃焼部幅は52cmである。袖部は僅かに地山を掘り残し、土師器甕を袖材として据え付け、ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックを含む灰褐色土を積み上げて構築している。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き72cm、幅152cm掘り込んで構築している。火床部は床面を掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。竈土層中の第8～10層は袖部の構築土である。

竈土層解説

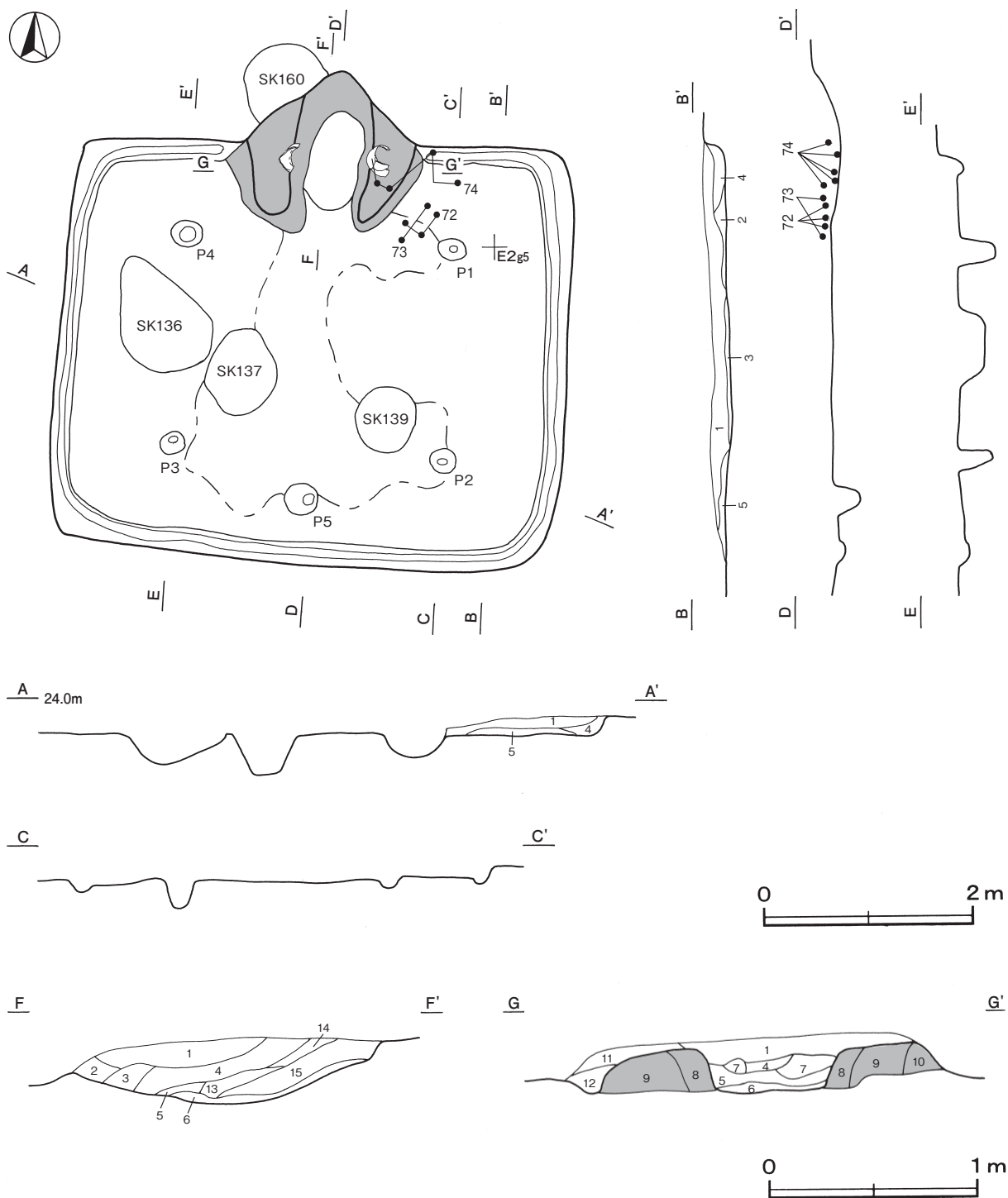
1 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量	9 灰褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
3 黒褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
4 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	12 灰褐色	粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
5 暗褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量	13 暗褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化物少量
6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	14 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7 褐色	粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	15 にぶい黄褐	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
8 褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量		

ピット 7か所。P1～P4の深さは12～39cmで、いずれもコーナー部に位置していることから支柱穴である。P5は深さ27cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口に伴うピットである。なお、床下P1・床下P2が竈を挟むように北壁際に位置しているが、性格は不明である。

覆土 5層に分層できる。第6～12層は貼床の構築土である。ロームブロックや焼土ブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

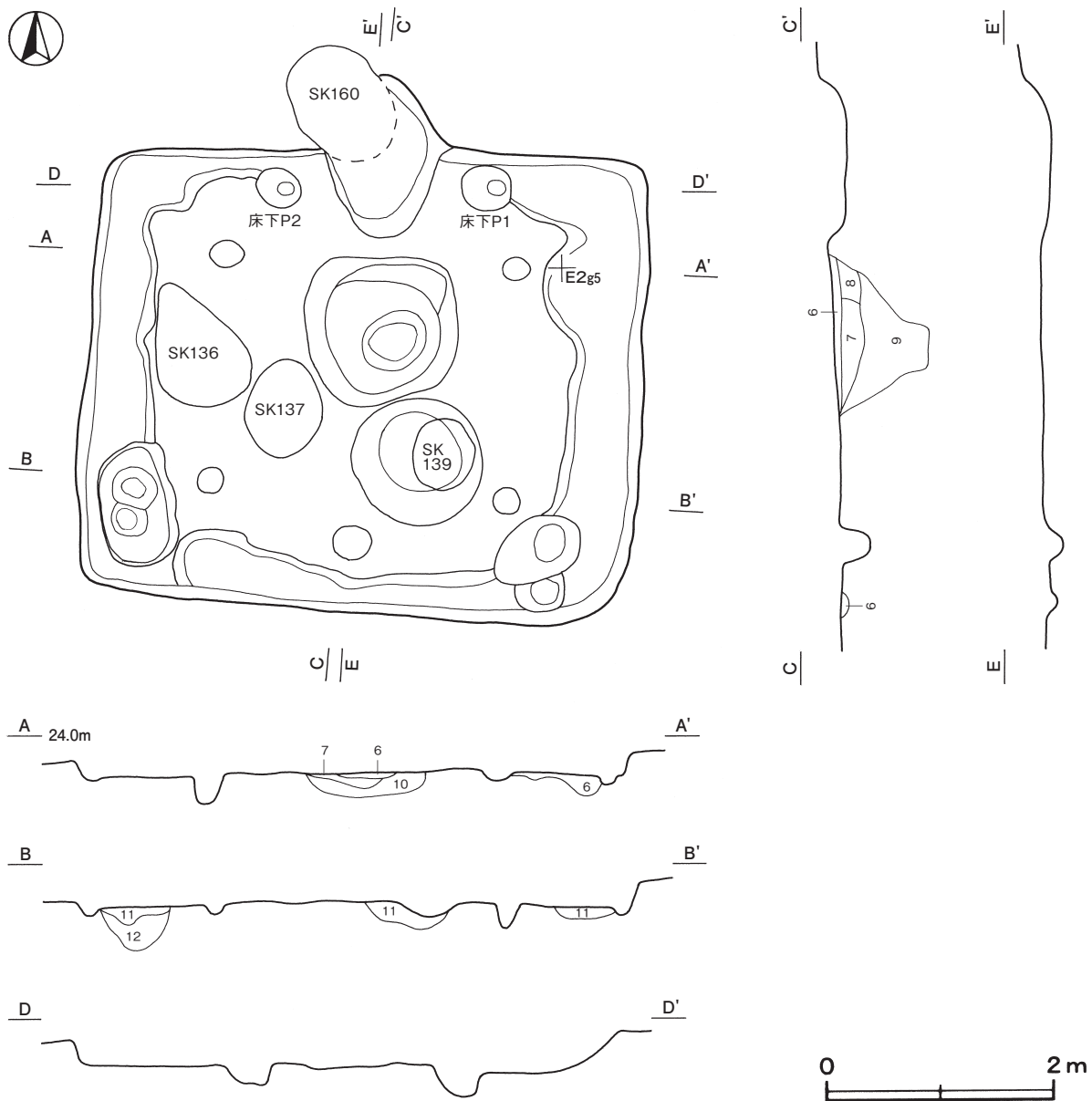
- | | | | |
|--------|---------------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量 | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 粘土小ブロック少量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 暗 褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 暗 褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック・山砂少量 | 12 暗 褐色 | ロームブロック少量 |



第9図 第61号住居跡実測図(1)

遺物出土状況 土師器坏2点、甕1点のほか、土師器片149点（坏10・甕136・小形甕3）、須恵器片17点（坏13・甕4）が竈周辺を中心に出土している。72・73は竈右袖東側の覆土下層から出土した破片が接合したものである。74は竈右袖の補強材として使用されていたもので、逆位で据え付けられた状態で出土したものと右袖脇床面から出土した破片が接合したものである。

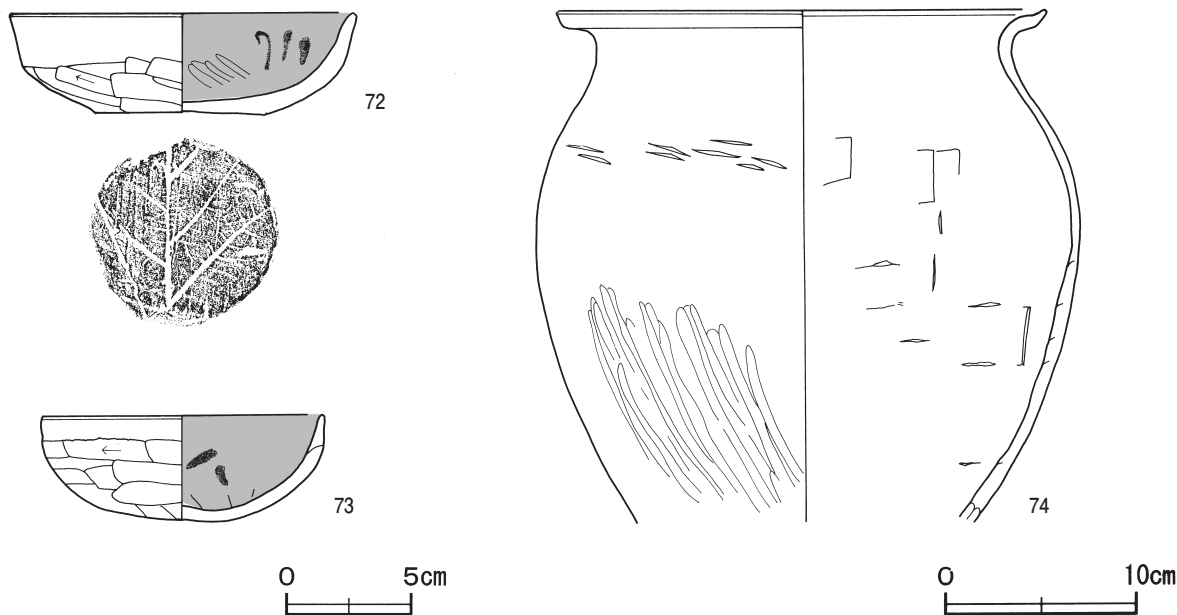
所見 時期は、出土時期からに7世紀中葉に比定できる。



第10図 第61号住居跡実測図（2）

第61号住居跡出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
72	土師器	坏	13.6	4.0	6.7	砂粒・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理 口縁部内面漆附着	覆土下層	100% PL61
73	土師器	坏	11.1	4.2	—	砂粒・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部ヘラ削り 内面ナデ 黒色処理 内面漆附着	覆土下層	90% PL61
74	土師器	甕	25.9	(27.1)	—	長石・石英・小礫	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土中層	70% PL61



第11図 第61号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡 (第12・13図)

位置 調査区南西部のE 2 f9区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 床面を第47号土坑、南東部を第63号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.65m、短軸4.39mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は35~40cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が南部と北西コーナー部に巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで98cm、燃焼部幅50cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、白色粘土ブロックを含む灰黄褐色土を積み上げて構築されている。第10・11層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き45cm、幅98cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

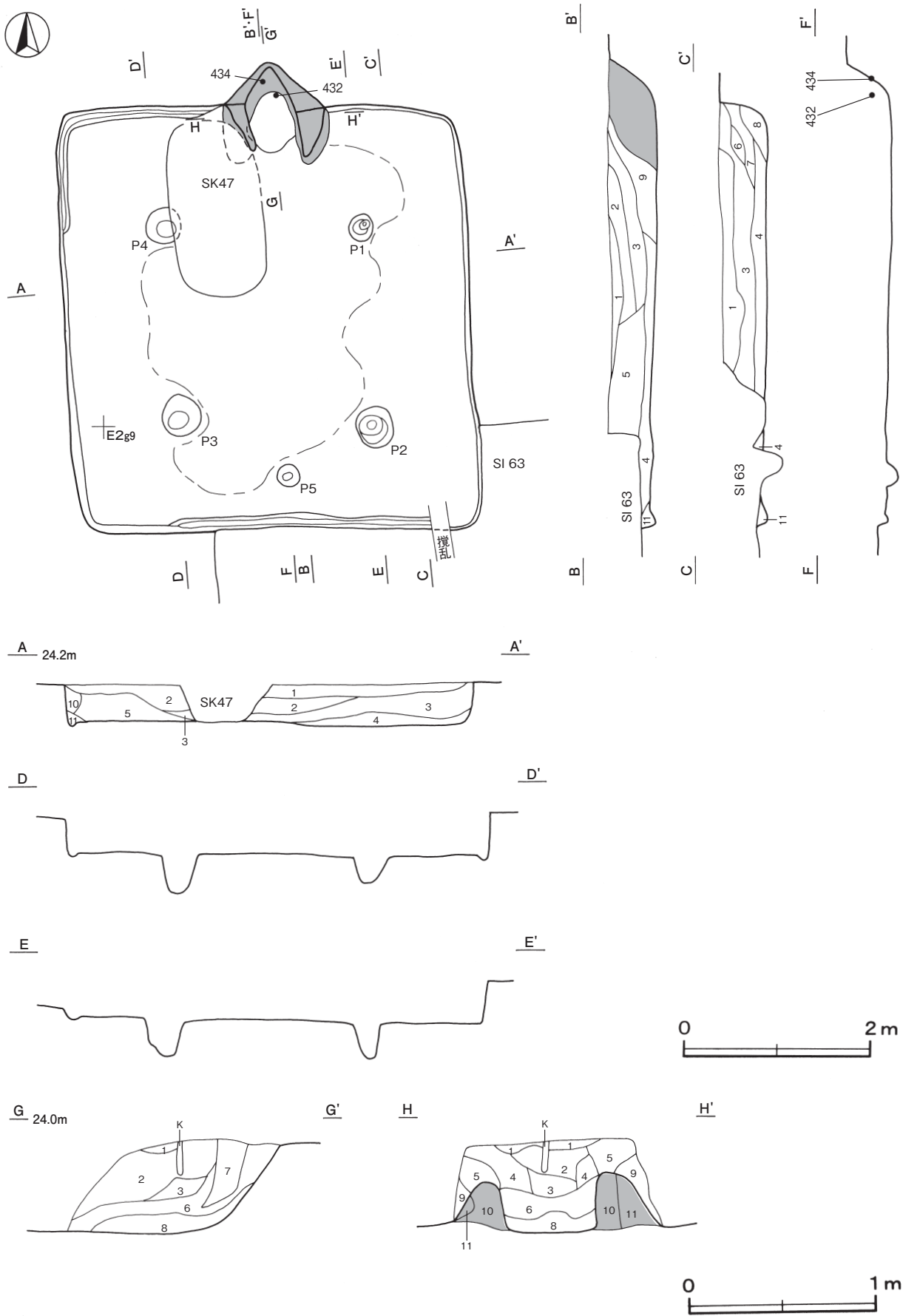
- | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| 1 灰黄褐色 白色粘土粒子中量、焼土粒子少量 | 6 褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 白色粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 灰黄色 白色粘土ブロック中量 |
| 3 にぶい褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・白色粘土ブロック少量 | 8 にぶい橙色 焼土ブロック・白色粘土ブロック・炭化物中量 |
| 4 にぶい黄褐色 焼土ブロック・白色粘土ブロック少量 | 9 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、白色粘土粒子少量 |
| 5 にぶい褐色 ロームブロック・白色粘土粒子中量 | 10 灰黄褐色 白色粘土ブロック多量 |
| | 11 灰黄褐色 ロームブロック・白色粘土粒子少量 |

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ30~46cmで規模と位置から支柱穴である。P 5は深さ14cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 11層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれて、不自然な堆積であることから埋め戻されている。

土層解説

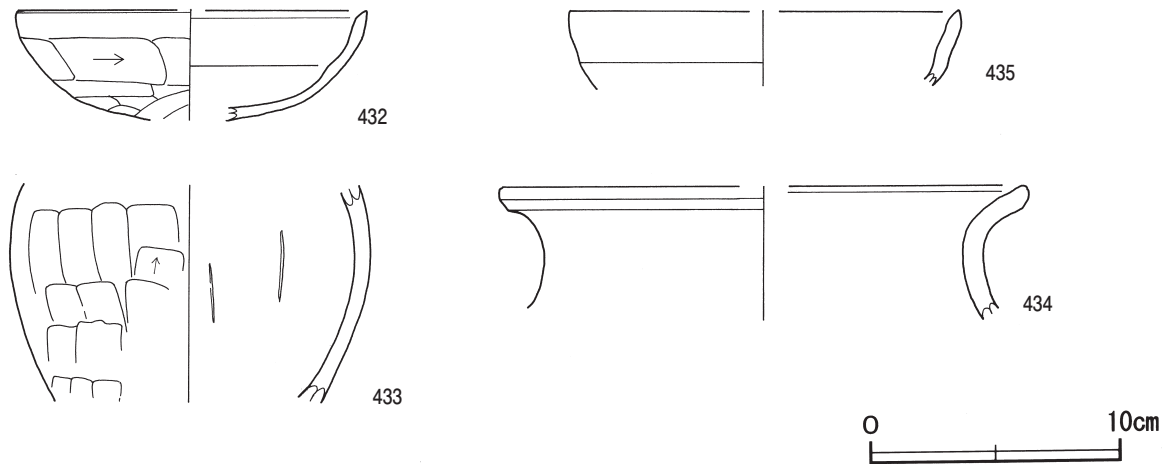
- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 灰黄褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 黒褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 8 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック多量 | 9 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量 | 10 褐色 ローム粒子少量 |
| 5 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 11 褐色 ローム粒子微量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | |



第12图 第62号住居迹实测图

遺物出土状況 土師器坏2点、椀・甕各1点のほか、土師器片82点（坏1・椀14・甕67）、土製支脚片1点が出土している。また、混入した須恵器片22点も出土している。432・434は竈の燃焼部、433・435は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から6世紀後葉に比定できる。



第13図 第62号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
432	土師器	坏	[13.8]	(4.4)	—	長石・赤色粒子	橙	普通	体部ヘラ削り	竈覆土中層	40%
435	土師器	坏	[15.6]	(3.0)	—	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5%
433	土師器	椀	—	(8.6)	—	長石・赤色粒子	橙	普通	体部縦位のヘラ削り 内面ヘラ当て痕	覆土中	10%
434	土師器	甕	[20.9]	(5.3)	—	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈底面	10%

第107号住居跡（第14・15図）

位置 調査区東部のC 5 h5区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 西壁の一部を第94号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.25m、短軸5.10mの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は8~11cmで、ほぼ直立している。

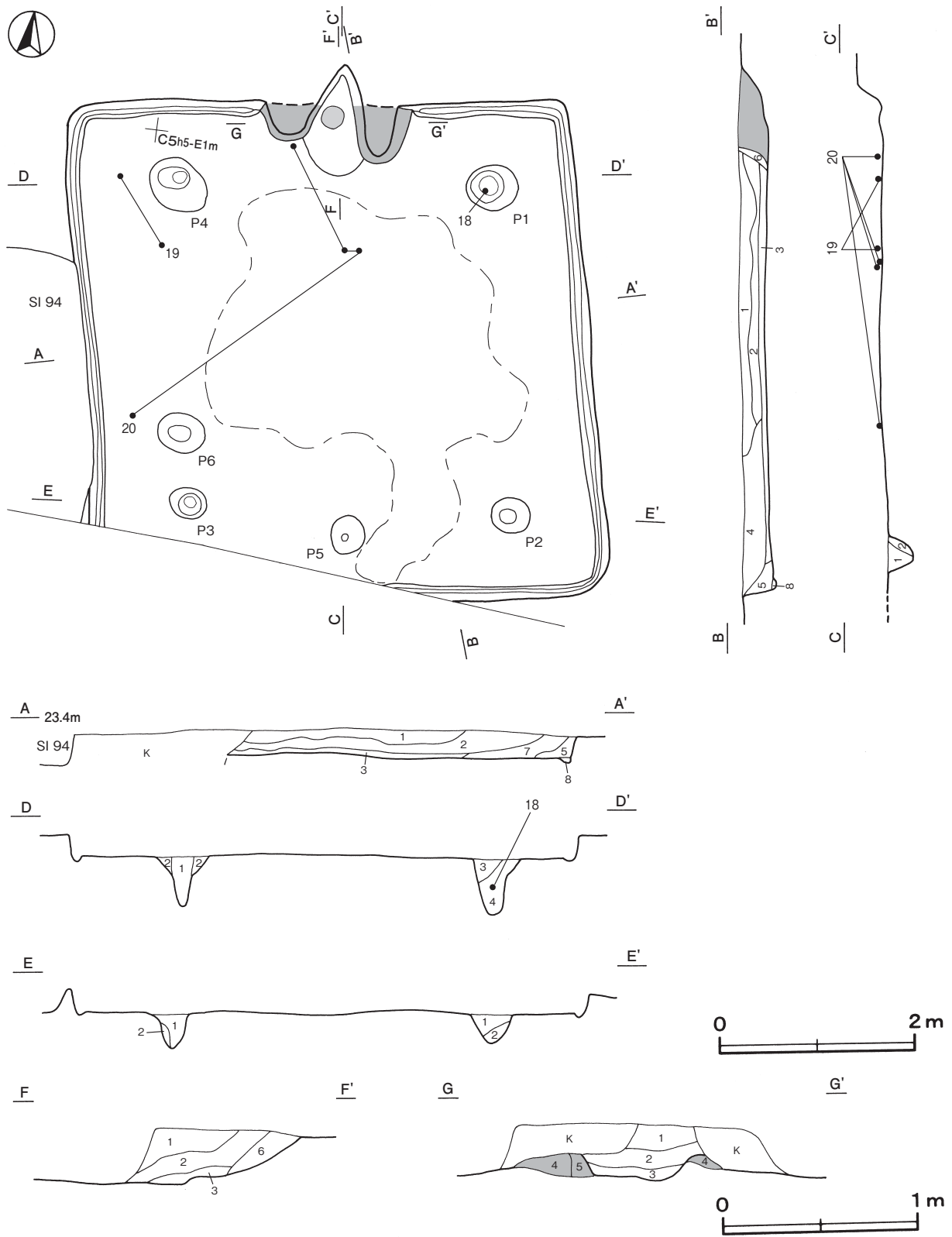
床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで112cm、燃焼部幅50cmである。袖部は地山をわずかに掘り残し、その上に、砂質粘土粒子を含む褐色土を積み上げて構築している。袖部上面は攪乱により削りとられている。第4・5層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き40cm、幅34cm掘り込んで構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	4 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量
2 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	5 にぶい褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック少量

ピット 6か所。P1～P4は深さ37～69cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ21cmで性格は不明である。



第14図 第107号住居跡実測図

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|---------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |

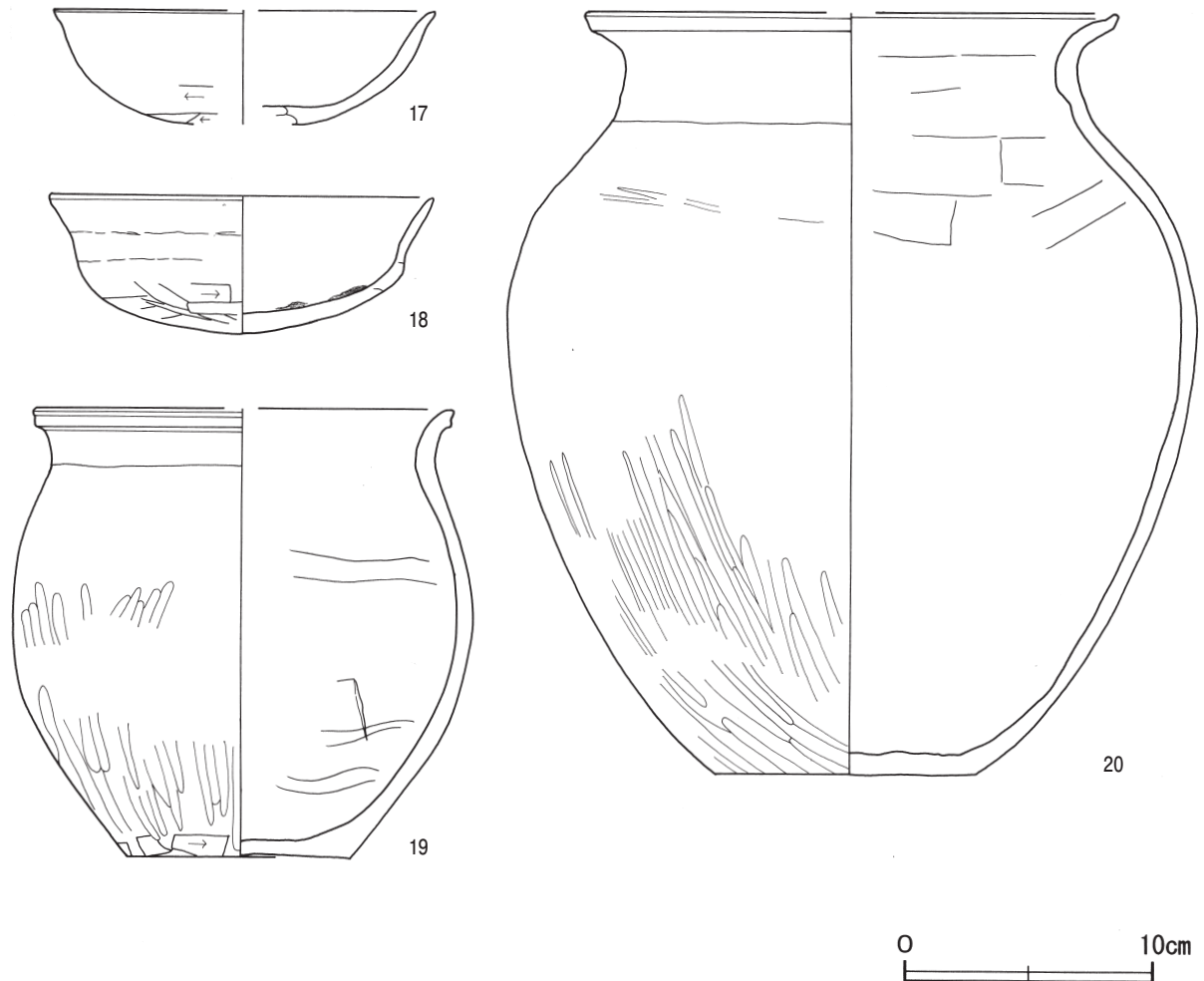
覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック中量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | 炭化粒子微量(壁溝) |

遺物出土状況 土師器坏2点, 小形甕・甕各1点のほか, 土師器片120点(坏21・甕99)が出土している。また, 流れ込んだ須恵器片9点も出土している。18はP 1の覆土中層, 19はP 4西側の床面からそれぞれ出土している。20はP 6西側の床面と竈左袖付近の床面から出土した破片が接合したものである。17は覆土中から出土している。18の土師器坏は内面に漆が付着している。

所見 いずれの遺物も, 廃絶時に遺棄されたものである。特に18の土師器坏は柱穴を抜き取った後に埋納されたもので, 柱穴はロームと砂質粘土で埋め戻されている。時期は, 出土土器から7世紀後葉に比定できる。



第15図 第107号住居跡出土遺物実測図

第107号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	土師器	坏	[15.3]	(4.6)	—	長石・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部ヘラ削り	覆土中	40%
18	土師器	坏	15.5	5.5	—	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面漆付着 体部ヘラ削り	P1覆土中層	100% PL61
19	土師器	小形甕	[16.8]	18.0	8.8	長石・石英・小礫	明赤褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部ヘラ磨き 体部外面下位ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	50%
20	土師器	甕	[21.4]	30.0	10.6	長石・石英・小礫	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部上半ヘラナデ 体部下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	30%

表2 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
								主柱穴	出入口	ピット	竈			
17	F 3 e7	[方形]	N-20°-W	7.86 × 6.70	13~26	平坦	ほぼ全周	5	—	1	北2	人為	土師器・須恵器・土製支脚	6C後 本跡→38住
48	C 2 i1	方形	N-19°-W	6.30 × 6.14	16~32	平坦	—	4	2	—	北壁	人為	土師器・須恵器	7C中 本跡→25溝・92土坑
61	E 2 g4	長方形	N-5°-E	4.94 × 4.07	5~20	平坦	全周	4	1	2	北壁	人為	土師器・須恵器	7C中 160土坑→本跡→136・137・139土坑
62	E 2 f9	方形	N-3°-W	4.75 × 4.39	35~40	平坦	一部	4	1	—	北壁	人為	土師器・土製支脚	6C後 本跡→63住・47土坑
107	C 5 h5	方形	N-7°-W	5.25 × 5.10	8~11	平坦	全周	4	1	1	北壁	人為	土師器・須恵器	7C後 本跡→94住

2 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構と遺物は、竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡7棟、井戸跡2基、土坑4基が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第3号住居跡（第16・17図）

位置 調査区北部のF 3 b2区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北壁を第28号土坑、床面を第4号掘立柱建物のP 1・P 6に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.58m、短軸3.49mの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は22cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで100cm、燃焼部幅58cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、ロームブロックを含む暗褐色土を積み上げて構築されている。第13・14層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き45cm、幅97cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。第6層が火床部上面、第15・16層が掘方への埋土である。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	10 灰黄褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 灰黄褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量	12 灰黄褐色	焼土ブロック・炭化物少量
4 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	14 暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	15 黒色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
7 にぶい褐色	炭化物・焼土粒子少量	16 黒色	炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
8 にぶい褐色	焼土ブロック中量		
9 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量		

ピット 深さは14cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

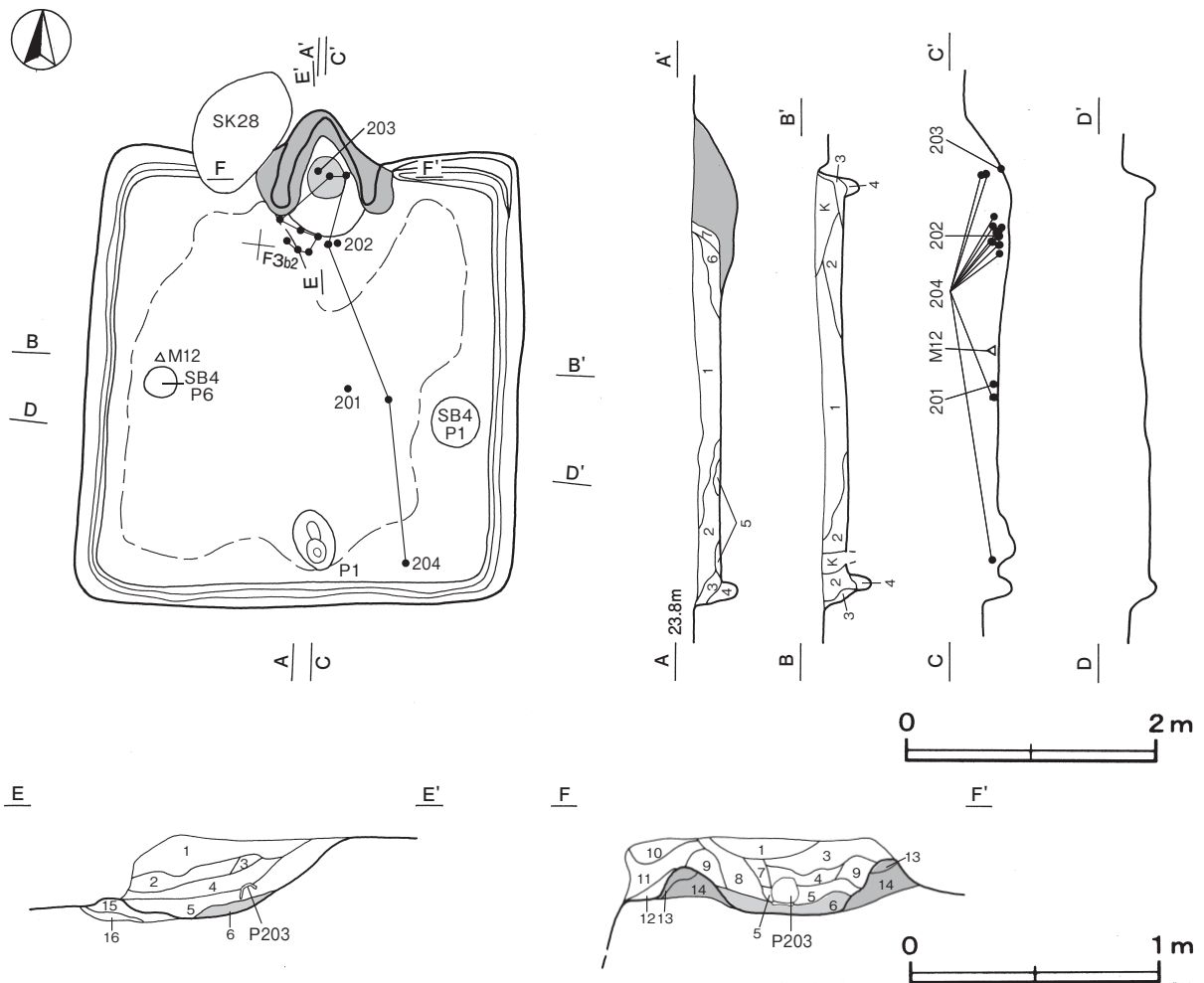
覆土 7層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

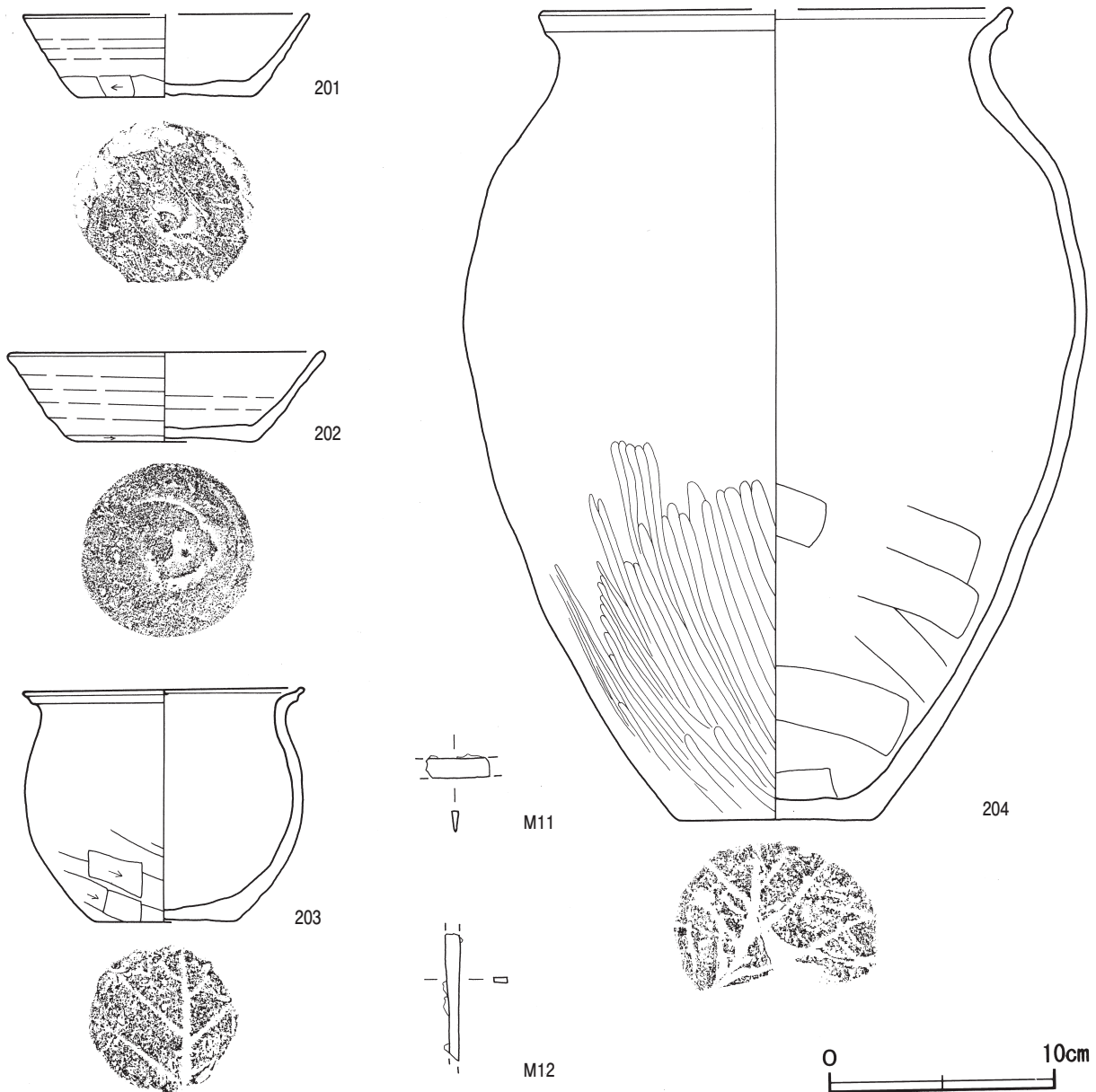
- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・黒色土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |
| 5 黒色 | 黒色土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器小形甕・甕各1点, 須恵器坏2点, 刀子・鉄鏃各1点のほか, 土師器片117点(坏9・甕108), 須恵器片11点(坏8・蓋1・甕2)が出土している。201は中央部の床面, 202は竈前面の覆土下層, M11は覆土中, M12は西側の床面からそれぞれ出土している。203は竈の火床面に支脚として逆位に据えられた状態で出土している。204は南部壁際の床面と竈前面の覆土下層, 竈内の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第16図 第3号住居跡実測図



第17図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表（第17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
201	須恵器	坏	[12.6]	3.7	7.6	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り 後雑な多方向の手持ちヘラ削り	床面	50%
202	須恵器	坏	13.8	4.0	7.8	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り 後雑な一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	70% PL62
203	土師器	小形甕	12.3	10.4	6.4	長石・石英	橙	普通	体部下位手持ちヘラ削り	火床底面	100% PL62
204	土師器	甕	[20.8]	35.8	8.6	長石	灰	普通	体部ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	刀子	(2.9)	(1.0)	0.3	(2.50)	鉄	刃部断面三角形	覆土中	
M12	鏃	(5.6)	(0.7)	0.25	(2.68)	鉄	鏃身部欠損 茎部断面長方形	床面	

第7号住居跡（第18・19図）

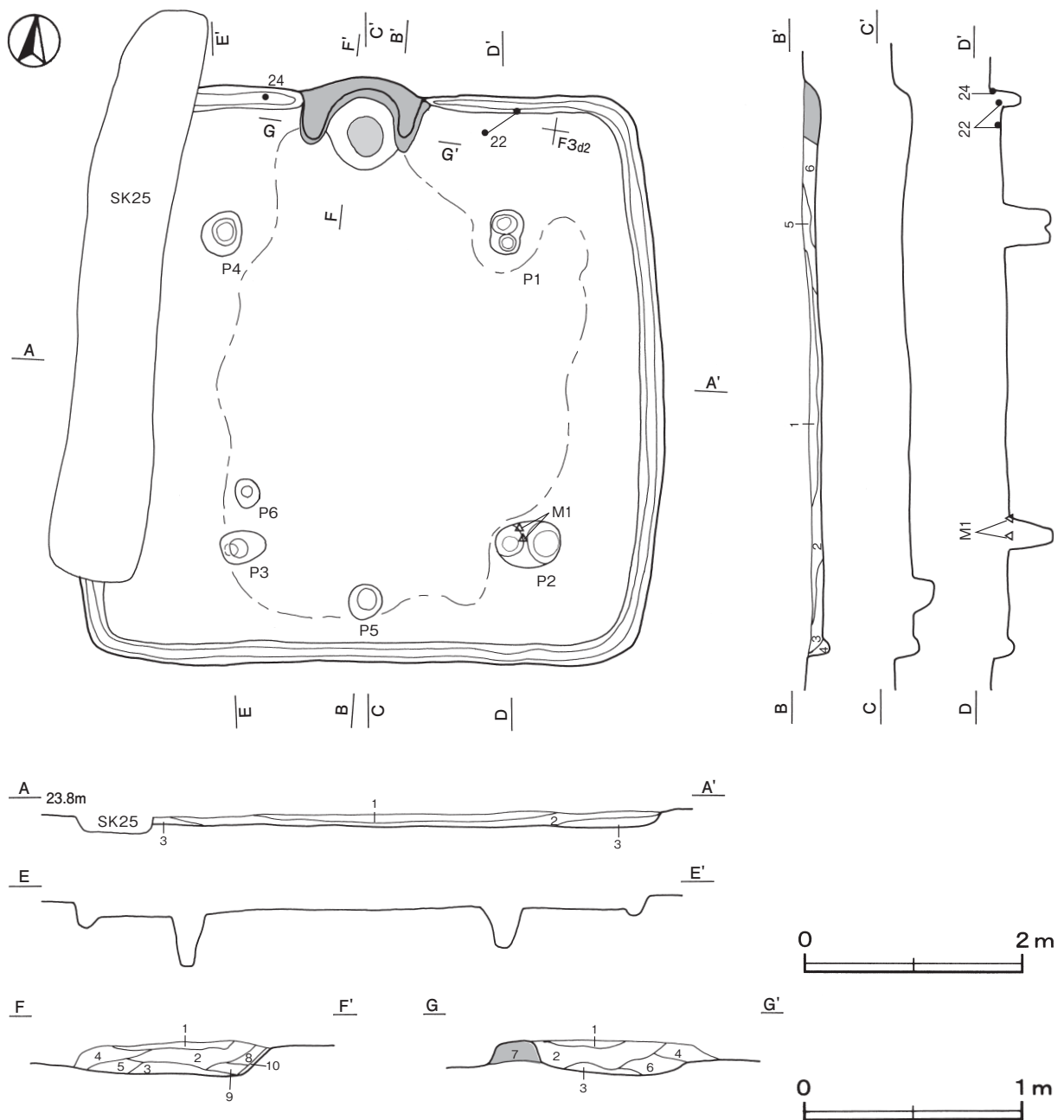
位置 調査区北部のF 3 d1区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 西壁部を第25号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.25m、短軸5.17mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は15cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで82cm、燃焼部幅66cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、ロームブロックと粘土ブロックを含む灰黄褐色土を積み上げて構築されている。第7層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ掘り込まずに構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床



第18図 第7号住居跡実測図

面は火を受けて赤変硬化している。

甕土層解説

- | | | | |
|-----------|--------------------------------|----------|-----------------------------------|
| 1 褐 灰 色 | 焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 8 黒 褐 色 | 焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰 黄 褐 色 | 焼土ブロック中量 | 9 暗 褐 色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック少量 | 10 黒 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック・炭化物微量 |
| 4 灰 黄 褐 色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |
| 5 褐 灰 色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | | |
| 6 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック中量 | | |
| 7 灰 黄 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | | |

ピット 6か所。P1～P4は深さ40～47cmで、いずれもコーナー部に位置していることから支柱穴で、P1・P2は同一か所に2か所掘り込まれていることから、柱の立て替えが考えられる。P5は深さ21cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ32cmで、P3の北側に位置していることから補助柱穴とみられる。

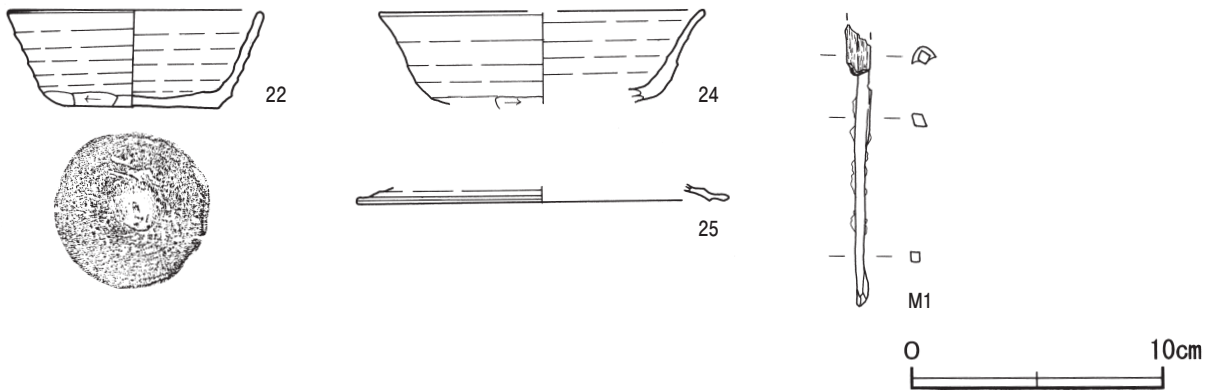
覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれているが、レンズ状の堆積から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 6 黒 褐 色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 須恵器坏2点、蓋1点、鉄鏃1点のほか、土師器片176点（坏43・甕133）、須恵器片60点（坏28・蓋3・甕29）が出土している。また、混入した灰釉陶器長頸瓶片2点が出土している。22は北壁際の床面、24は壁溝、M1はP2上層、25は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第19図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備 考
22	須恵器	坏	10.0	3.9	6.1	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、雑な一方向の手持ちヘラ削り	床面	100% PL62
24	須恵器	坏	[12.8]	(3.6)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	壁溝	10%
25	須恵器	蓋	[14.5]	(0.7)	—	長石	灰	普通	かえり有り	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M1	鏃カ	(11.2)	0.5	0.5	(5.95)	鉄	鏃身部欠損 断面方形 木部有り	P2上層	

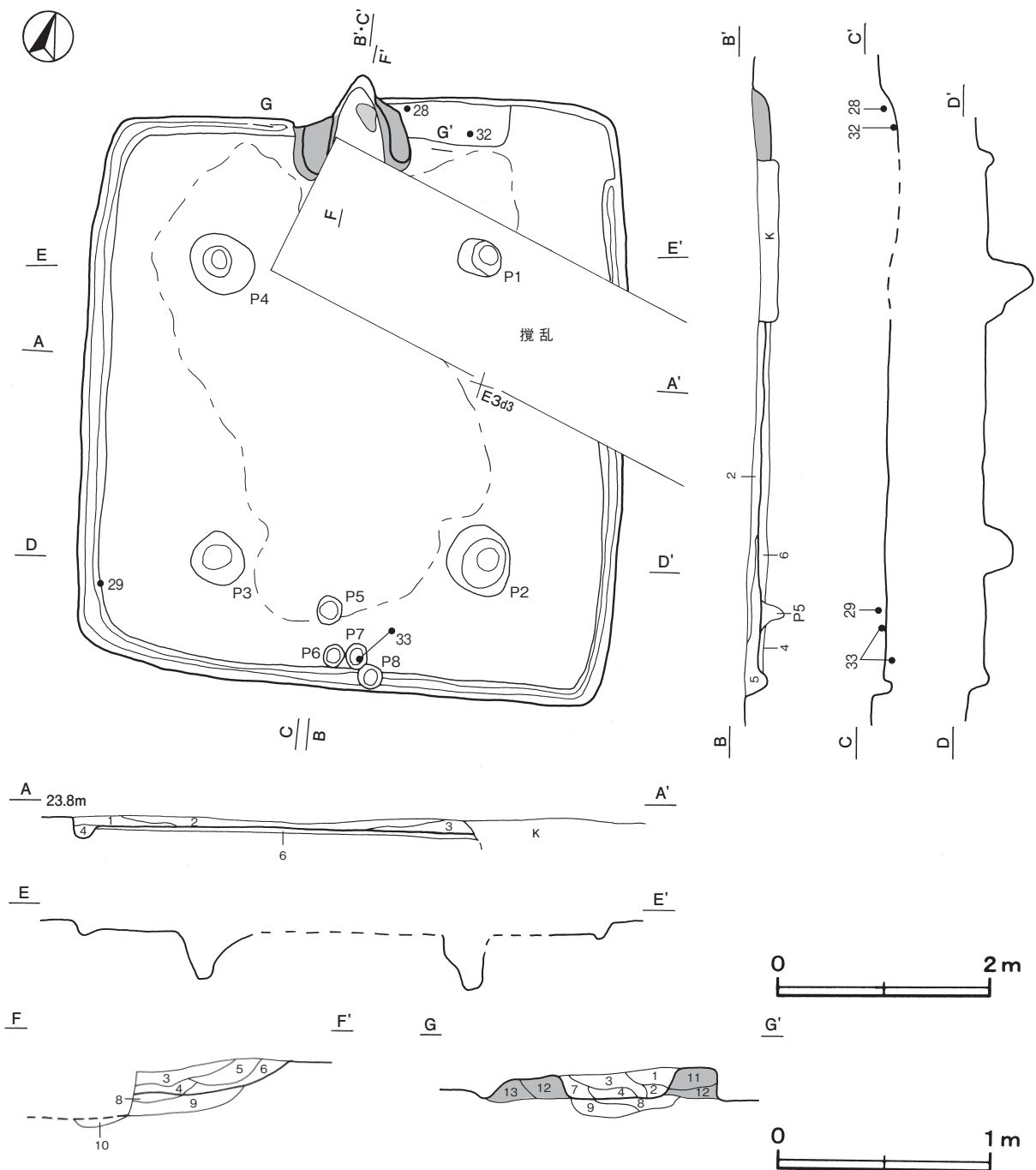
第10号住居跡（第20～22図）

位置 調査区北部のE 3 d2区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。北部に重機によるトレンチ状の攪乱を受けている。

重複関係 第122号住居跡の上部に構築されている。

規模と形状 長軸5.20m、短軸5.14mの方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は13cmで、やや外傾して立ち上がっている。竈の東側には、幅100cm、奥行き45cmの棚が設けられている。確認面からは25cm掘り込まれている。

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が、北東コーナー部を除いて巡っている。貼床は、



第20図 第10号住居跡実測図

第122号住居跡の床面上にロームブロックを含む褐色土を5cmほど埋めて構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部までは推定で110cm、燃焼部幅52cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、砂質粘土ブロックを含む灰黄褐色土を積み上げて構築されている。第11～13層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き40cm、幅40cm掘り込み構築している。第122号住居跡竈の上部に本住居の竈が構築されており、本跡竈の火床部は第8層上面である。火床面は火を受けて赤変している。第8～10層は、掘方への埋土である。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量（掘り方）
2 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量（掘り方）
3 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量（掘り方）
4 褐色	焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	11 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
5 暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	12 灰黄褐色	砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック微量
7 黒褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量		

ピット 8か所。P1～P4は深さ26～43cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。P5は深さ27cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6～P8は深さ10～25cmで、いずれも南壁下中央部に位置しているが、性格は不明である。

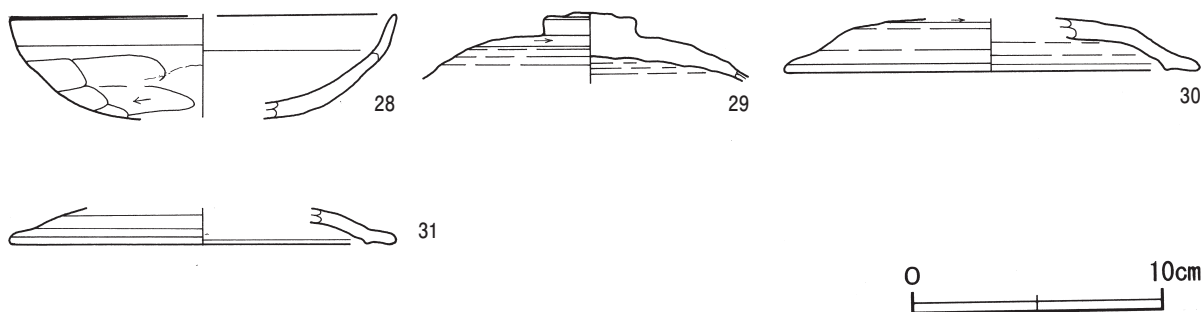
覆土 5層に分層できる。第6層は貼床の構築土である。レンズ状の堆積をしているが、各層にロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

土層解説

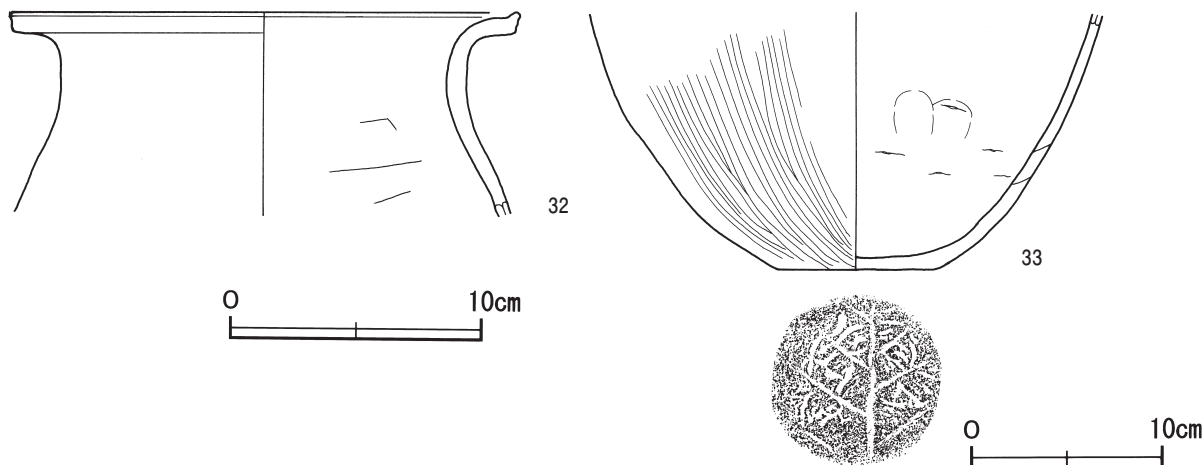
1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	5 黒褐色	ローム粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック・黒色粒子少量

遺物出土状況 土師器坏1点、甕2点、須恵器蓋3点のほか、土師器片60点（坏17・甕43）、須恵器片10点（坏7・蓋3）が出土している。28・32は棚状施設の床面、29は西壁際の覆土下層、30・31は覆土中からそれぞれ出土している。33はP7の底面とP7北東部の床面から出土した破片が接合したものである。棚状施設の床面からは、図示した他にも32と同一個体と思われる土師器甕片が潰れた状態で出土している。

所見 本跡は竈右袖側に棚状の施設を持つ住居である。本跡の床は第122号住居跡の床に重ねて構築し、拡張を行っている。このことから、構築に際して時間差はないものと思われる。時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第21図 第10号住居跡出土遺物実測図（1）



第22図 第10号住居跡出土遺物実測図（2）

第10号住居跡出土遺物観察表（第21・22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
28	土師器	坏	[15.4]	4.1	—	赤色粒子・砂粒	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ナデ	棚の床面	30%
29	須恵器	蓋	—	(2.8)	—	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り 内面ロクロナデ	覆土下層	50%
30	須恵器	蓋	[16.2]	(2.1)	—	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り かえり有り	覆土中	20%
31	須恵器	蓋	[15.2]	1.5	—	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラナデ	覆土中	10%
32	土師器	甕	[20.0]	(8.1)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	内面ヘラ当て痕	棚の床面	10%
33	土師器	甕	—	(15.6)	8.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部ヘラ磨き 内面ヘラナデ 指頭押圧痕	P7内と床面	10%

第122号住居跡（第23図）

位置 調査区北部のE 3 d2区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 上部に第10号住居が構築されている。

規模と形状 長軸4.45m、短軸4.18mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は23cmで、外傾して立ちあがっている。

床 ほぼ平坦な貼床である。主柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が東半部に巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。上部に第10号住居の竈が構築されているため、袖部は壊されている。焚口部から煙道部までの長さは93cmで、燃焼部幅は55cmである。

土層解説（第10号住居跡竈土層図参照）

8 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

9 暗褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

10 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ19～40cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。P5は深さ17cmで、南壁下の東壁寄りに位置していることから出入口施設に伴うピットである。

覆土 上部に10号住居跡が構築されているので、本跡の覆土は認められない。第1・2層は本跡の貼床構築土である。

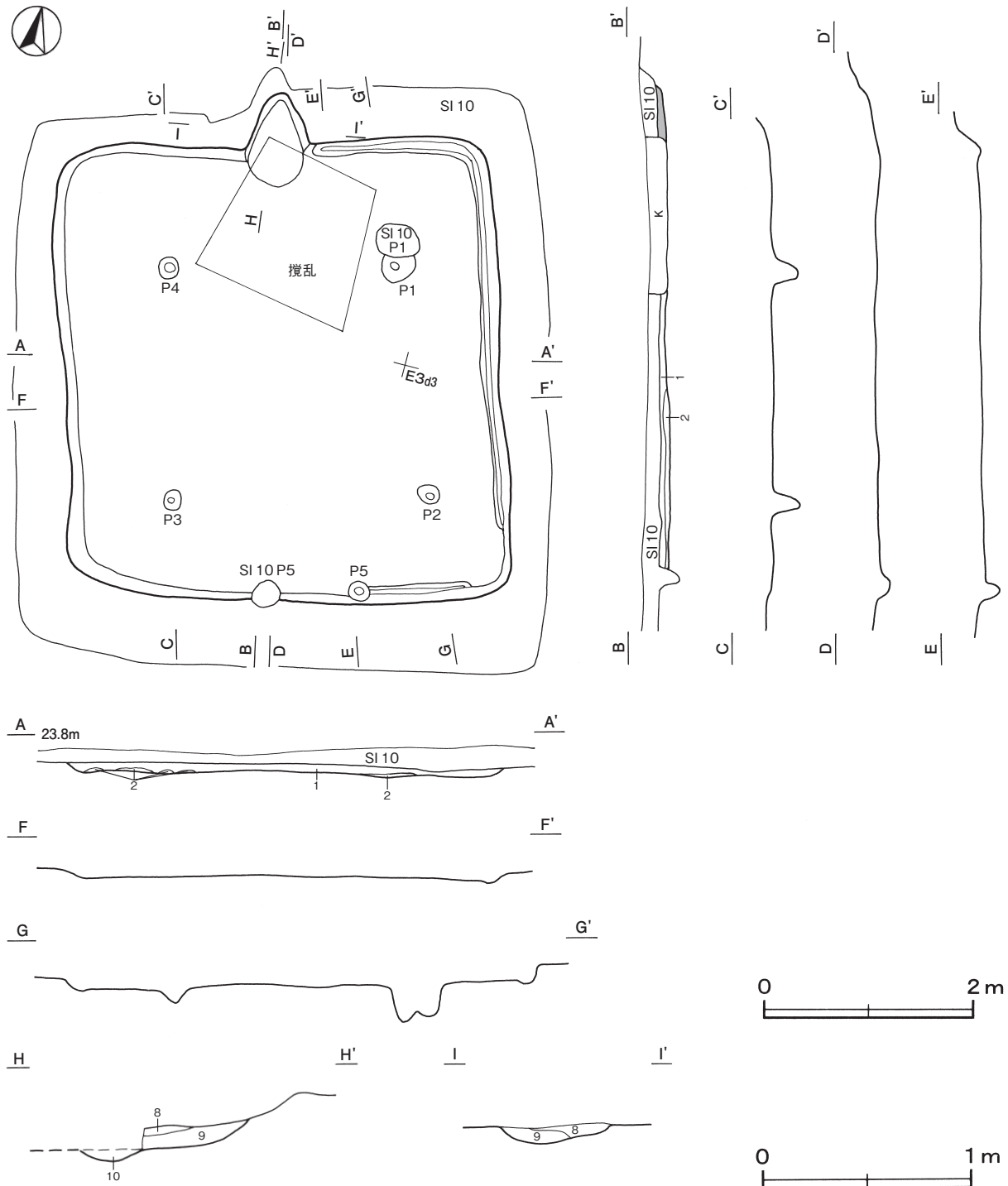
土層解説

1 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック・黒色土粒子少量

所見 本跡の床上に貼床・拡張を行い、第10号住居が構築されているが、構築の時間差は少ないと見られる。

このことから、遺物は出土していないので断定はできないが、第10号住居とほぼ同時期の8世紀前葉と推定される。



第23図 第122号住居跡実測図

第11号住居跡（第24・25図）

位置 調査区北部のF 3 a5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北東部を第12号住居、南西コーナー部を第3号掘立柱建物のP 4に掘り込まれている。

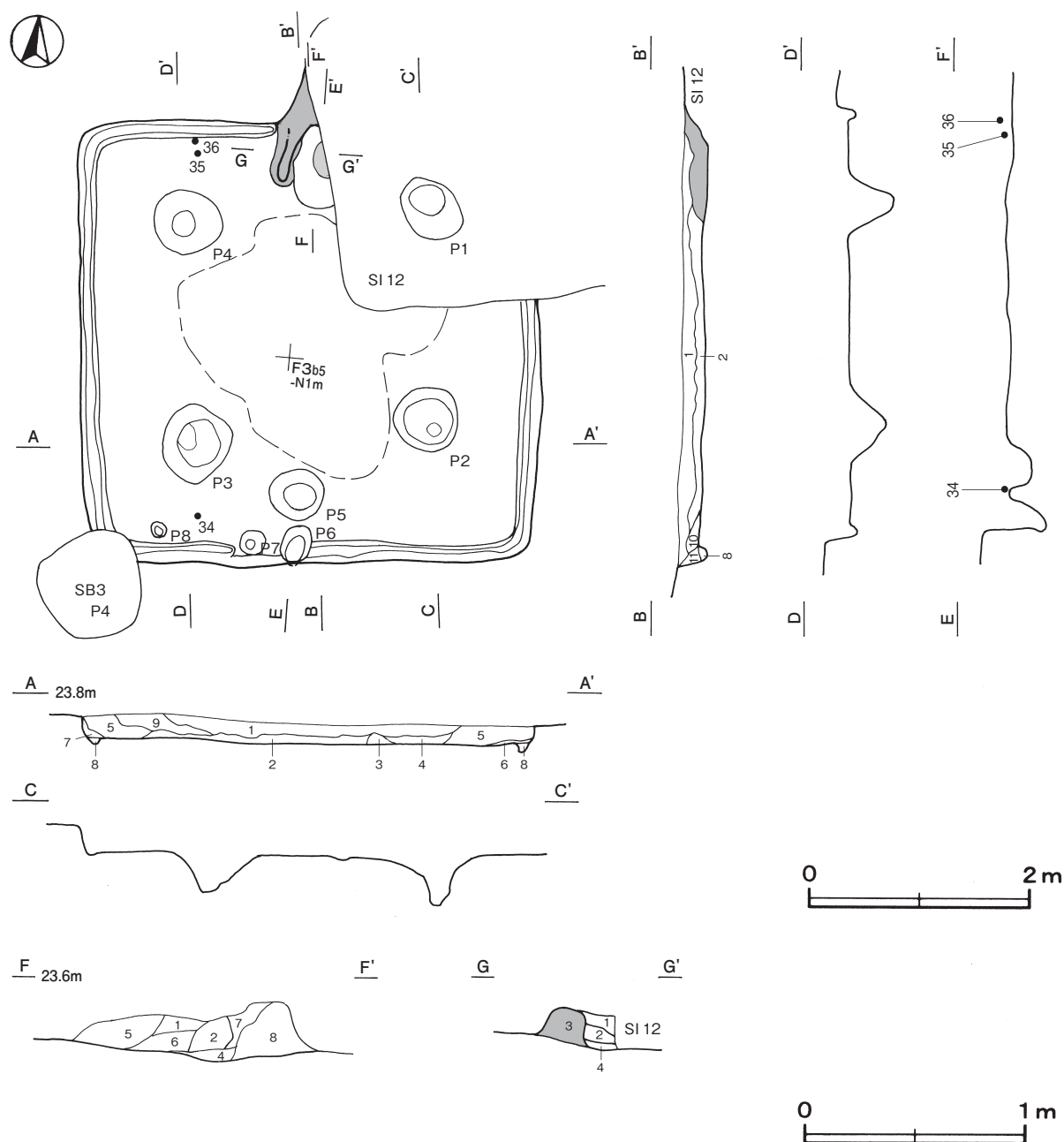
規模と形状 長軸4.19m, 短軸4.04mの方形で, 主軸方向はN-6°-Wである。壁高は20cmで, やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 支柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されているが, 東半部が第12号住居に掘り込まれており, 西側の袖部と火床部の一部を確認した。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, ロームブロックと粘土ブロックを含むにぶい褐色土を積み上げて構築されている。第3層が袖部の構築土である。火床部は床面を若干掘り込んでいる。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 灰褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物少量 |
| 3 にぶい褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| | 8 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |



第24図 第11号住居跡実測図

ピット 8か所。P1～P4は深さ32～45cmで、各コーナー部寄りに位置していることから主柱穴である。P5は深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6・P7は、深さ30cmで、南壁下に位置していることから出入り口施設に伴うピットの可能性がある。P8は南西コーナー部に位置しているが、性格は不明である。

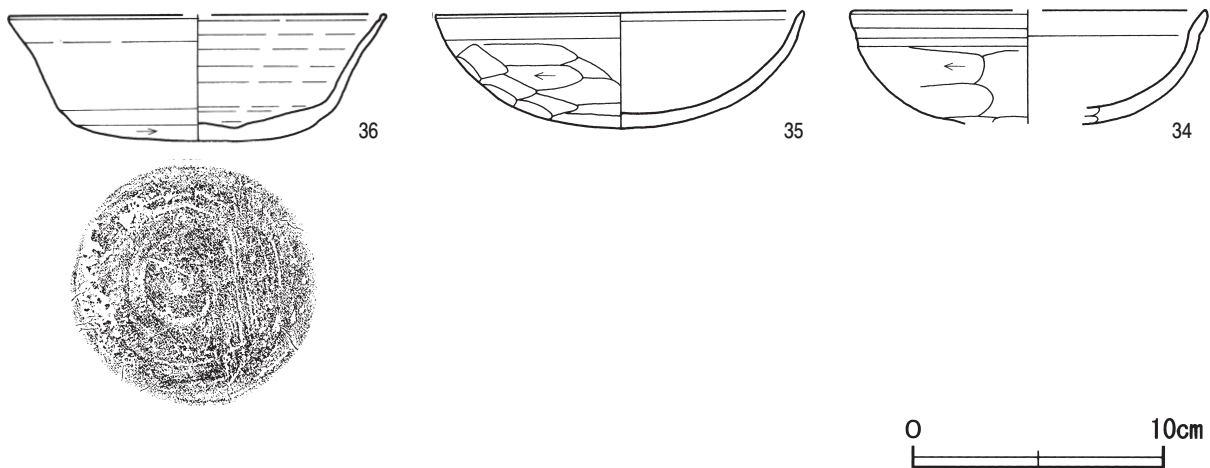
覆土 11層に分層できる。レンズ状の堆積を呈しているが、大半の層にロームブロックが含まれており、埋め戻されていると思われる、人為堆積とみられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 8 褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量(壁溝) |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| | | 11 暗褐色 | 炭化物・焼土粒子少量, ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器坏2点, 須恵器坏1点のほか, 土師器片21点(坏3・甕18), 須恵器坏片1点が出土している。34は南壁際の床面, 35・36は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第25図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表(第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	土師器	坏	[14.1]	(4.5)	[7.7]	長石・砂粒	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ナデ	床面	20%
35	土師器	坏	14.6	4.6	—	長石・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	80% PL62
36	須恵器	坏	[15.1]	5.1	9.7	長石・雲母	灰	普通	底部右ロクロ回転ヘラ削り 口唇部沈線有り	覆土下層	70% PL62

第20号住居跡(第26図)

位置 調査区北部のF3a1区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。西半部は調査区域外である。

規模と形状 南北軸3.34mで、東西軸は1.25mだけ確認できた。主軸方向がN-4°-Wの方形と推測できる。壁高は18cmで、ほぼ直立している。

床 確認できた範囲はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。P2周辺の床面には、柱状の炭化材が存在していた。

ピット 2か所。P1は深さ39cmで、南東コーナーに位置しており、主柱穴の可能性はある。P2は深さ12cmで、東壁際に位置しており、性格は不明である。

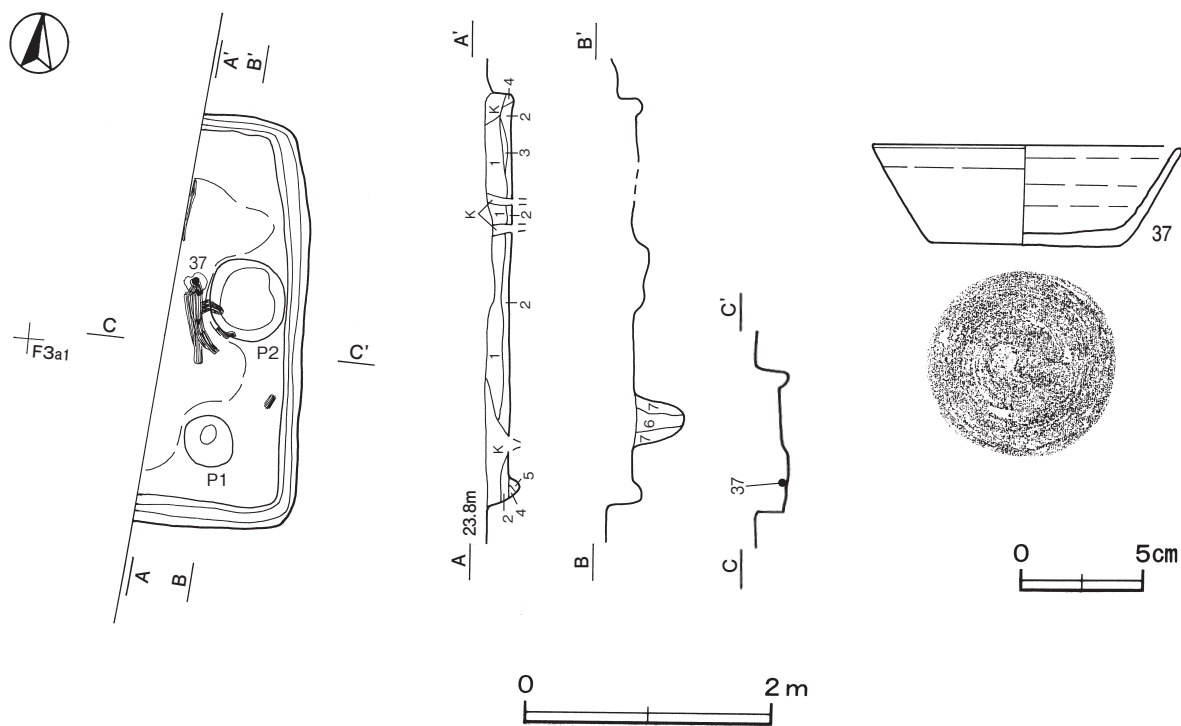
覆土 5層に分層できる。すべての層にロームブロックを含み、水平な堆積であることから埋め戻されている。第6・7層はP1の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量（壁溝） |
| 2 黒褐色 | 炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 炭化物多量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量（壁溝） | | |

遺物出土状況 須恵器坏1点のほか、土師器片16点（坏3・甕13），須恵器坏片6点が出土している。37はP2西側の床面から出土している。覆土中からは、壁材と思われる焼けたスサ入りの粘土が出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。床面から炭化材が出土していることから、焼失家屋とみられる。



第26図 第20号住居跡・出土遺物実測図

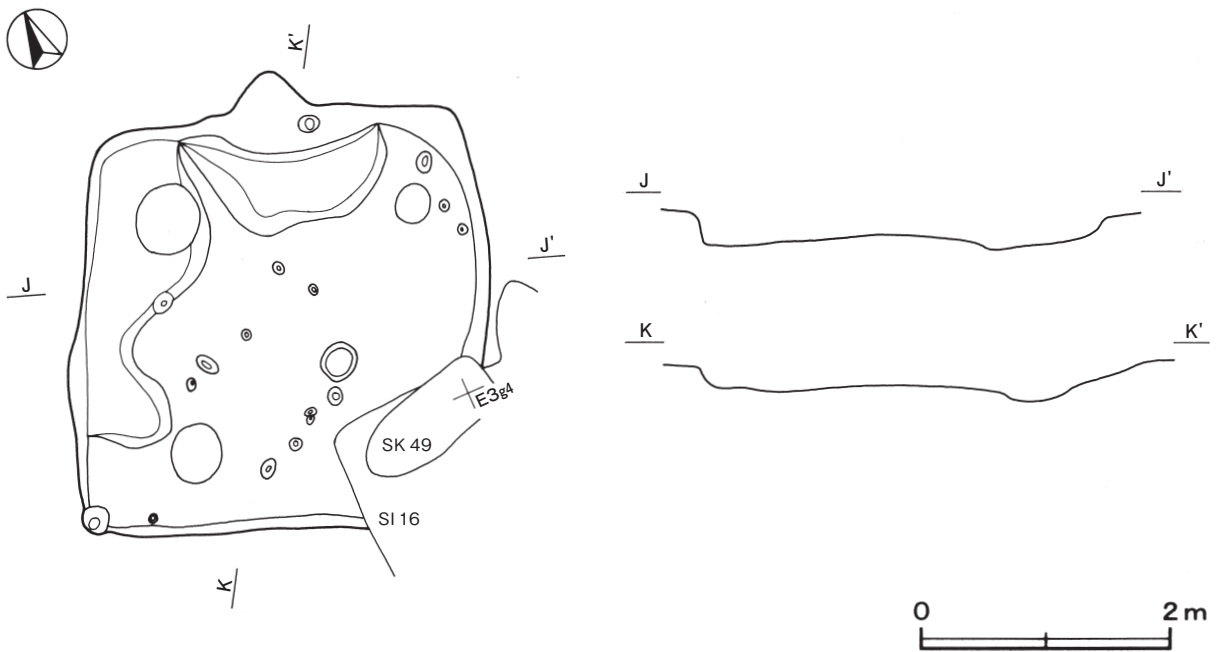
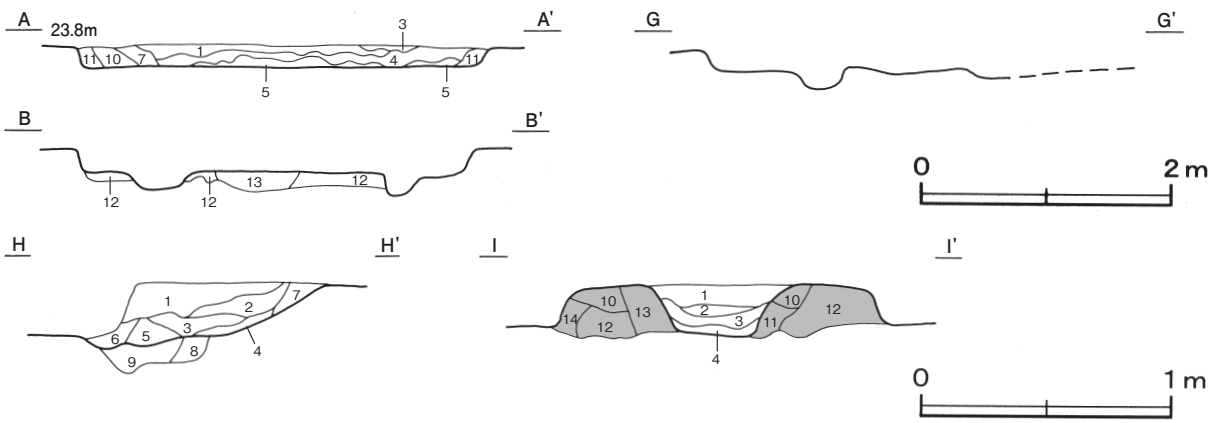
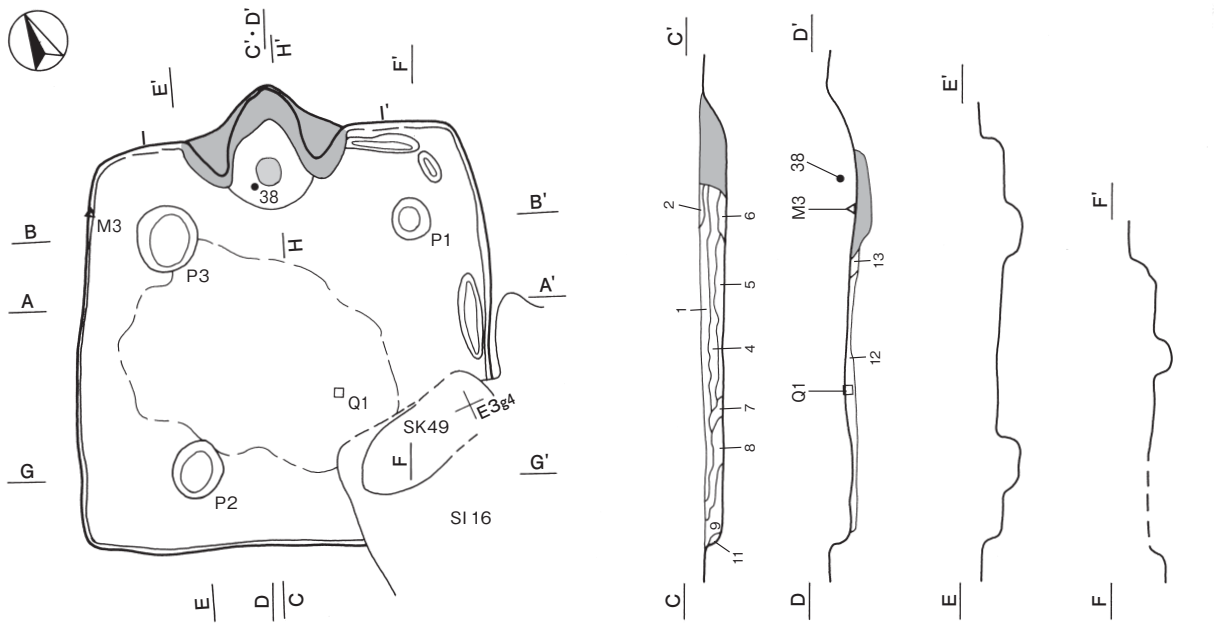
第20号住居跡出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	須恵器	坏	12.4	4.1	7.8	長石・雲母	灰黄	普通	底部右ロクロ回転ヘラ削り	床面	95% PL62

第24号住居跡（第27～29図）

位置 調査区北部のE3f3区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南東コーナー部を第16号住居、第49号土坑に掘り込まれている。



第27图 第24号住居跡実测图

規模と形状 長軸3.34m, 短軸3.26mの方形で, 主軸方向はN-22°-Eである。壁高は17cmで, やや外傾して立ち上がっている。

床 中央部が若干高い他はほぼ平坦な貼床で, 壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が北東部だけに認められる。貼床は, 壁際を確認面から25cmとやや深く, 中央部を18cmほど掘り込み, ロームブロックを含む褐色土を埋めて構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで100cm, 燃焼部幅は62cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, ロームブロックと粘土ブロックを含む暗褐色土を積み上げて構築されている。第10~14層が袖部の構築土である。煙道部は, 壁外へ三角形に奥行き37cm, 幅110cm掘り込み構築されている。火床部は, 床面を約25cm掘り込んでおり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。第8・9層が掘方への埋土である。

竈土層解説

1	暗褐色	粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量	9	にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
2	にぶい褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量, 粘土ブロック・ローム粒子微量
3	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量, ロームブロック少量	11	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量, 粘土ブロック・ローム粒子微量
4	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量	12	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
5	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量	13	にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	14	にぶい褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量
7	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量			
8	褐色	ローム粒子微量			

ピット 3か所。P1・P2はそれぞれ深さ18cm, P3は深さ15cmで, いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。南東コーナー部の主柱穴は, 第16号住居によって失われている。

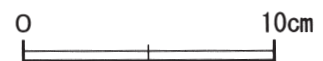
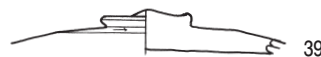
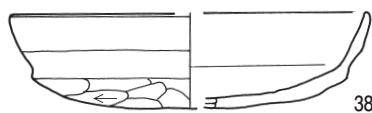
覆土 11層に分層できる。第12・13層は貼床の構築土である。壁際の第4~6層は自然堆積であるが, それ以外はロームブロックが含まれている層が多く, 埋め戻されている。

土層解説

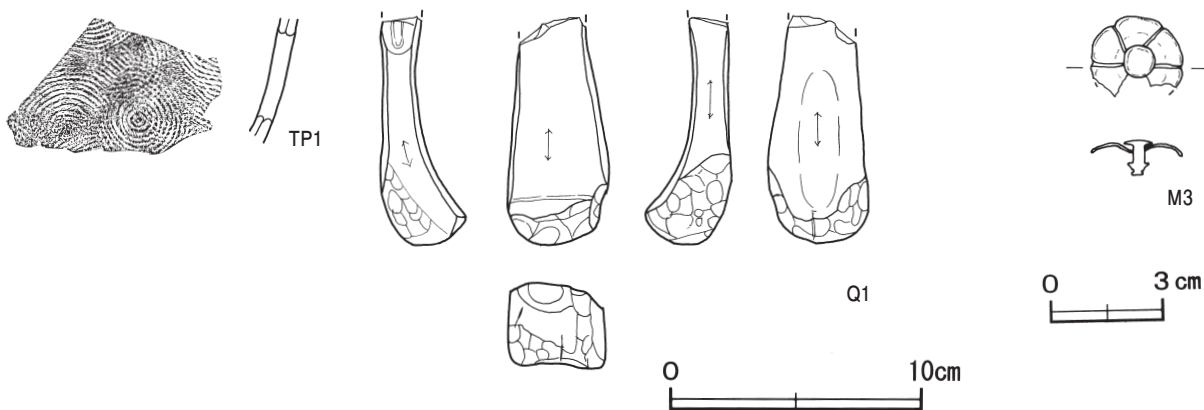
1	暗褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子少量	9	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量	11	褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12	にぶい褐色	ロームブロック少量
6	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
7	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器坏・須恵器蓋・砥石・銅製品(飾り金具カ)各1点のほか, 土師器片111点(坏19・甕92), 須恵器9点(坏3・蓋1・甕5)が出土している。Q1は中央部, M3は西壁際の床面, 38は竈焚き口付近の覆土下層, 39・TP1は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第28図 第24号住居跡出土遺物実測図(1)



第29図 第24号住居跡出土遺物実測図（2）

第24号住居跡出土遺物観察表（第28・29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
38	土師器	坏	[14.2]	(3.8)	[12.6]	赤色粒子	にぶい褐	普通	底部手持ちヘラ削り	覆土下層	25% PL63
39	須恵器	蓋	—	(1.8)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20%
TP1	須恵器	甕	—	—	(5.0)	長石・雲母	灰	普通	外面同心円状叩き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	(9.0)	4.0	3.5	(103.9)	凝灰岩	砥面5面	床面	PL93
M3	飾り金具カ	(7.15)	2.45	0.9	(1.58)	銅	花卉状	床面	

第25号住居跡（第30図）

位置 調査区北部のD 2h7区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.77m、短軸5.02mの長方形で、主軸方向はN-12°-Wである。上部が削平されているため壁は認められない。

床 削平が床面まで及んでいるため、南壁寄りの一部に硬化面が認められるだけである。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されていたとみられるが、上部が削平されているため、確認できたのは火床部の下部だけである。火床部は床面を10cmほど掘り込んでいる。

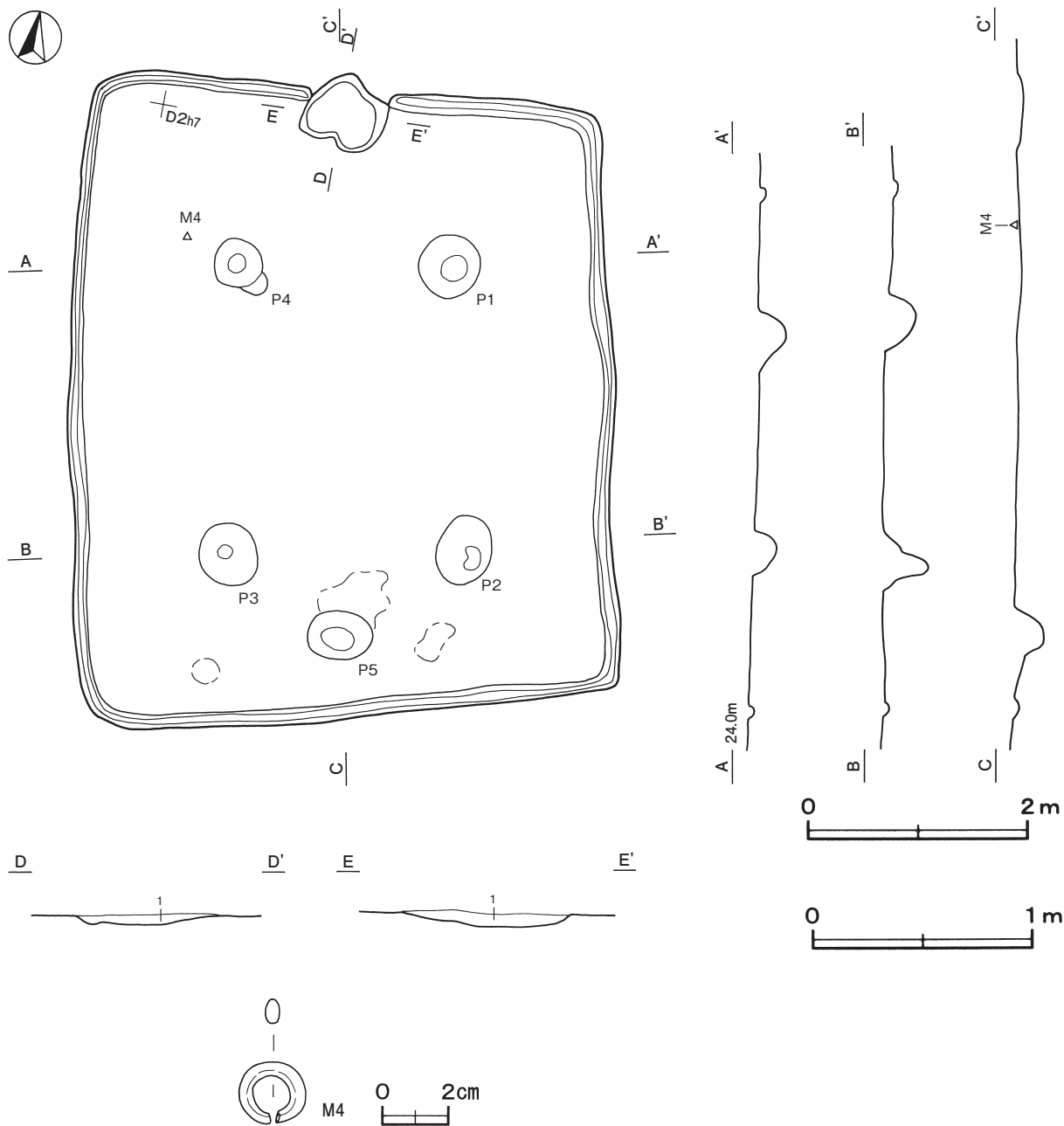
電土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量

ピット 5か所。P1・P2・P4はいずれも深さ25cm、P3は深さ40cmで、いずれもコーナー部に位置していることから支柱穴である。P5は深さ26cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

遺物出土状況 銅製耳環1点のほか、土師器甕片3点が出土している。M4は、P4西側の床面から出土している。

所見 出土遺物が少なく時期決定は難しいが、出土土器から8世紀代と思われる。



第30図 第25号住居跡・出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表（第30図）

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	耳環	2.1	0.7	—	7.35	銅	開口部有り 断面円形 一部鍍金残存	床面	PL95

第26号住居跡（第31～33図）

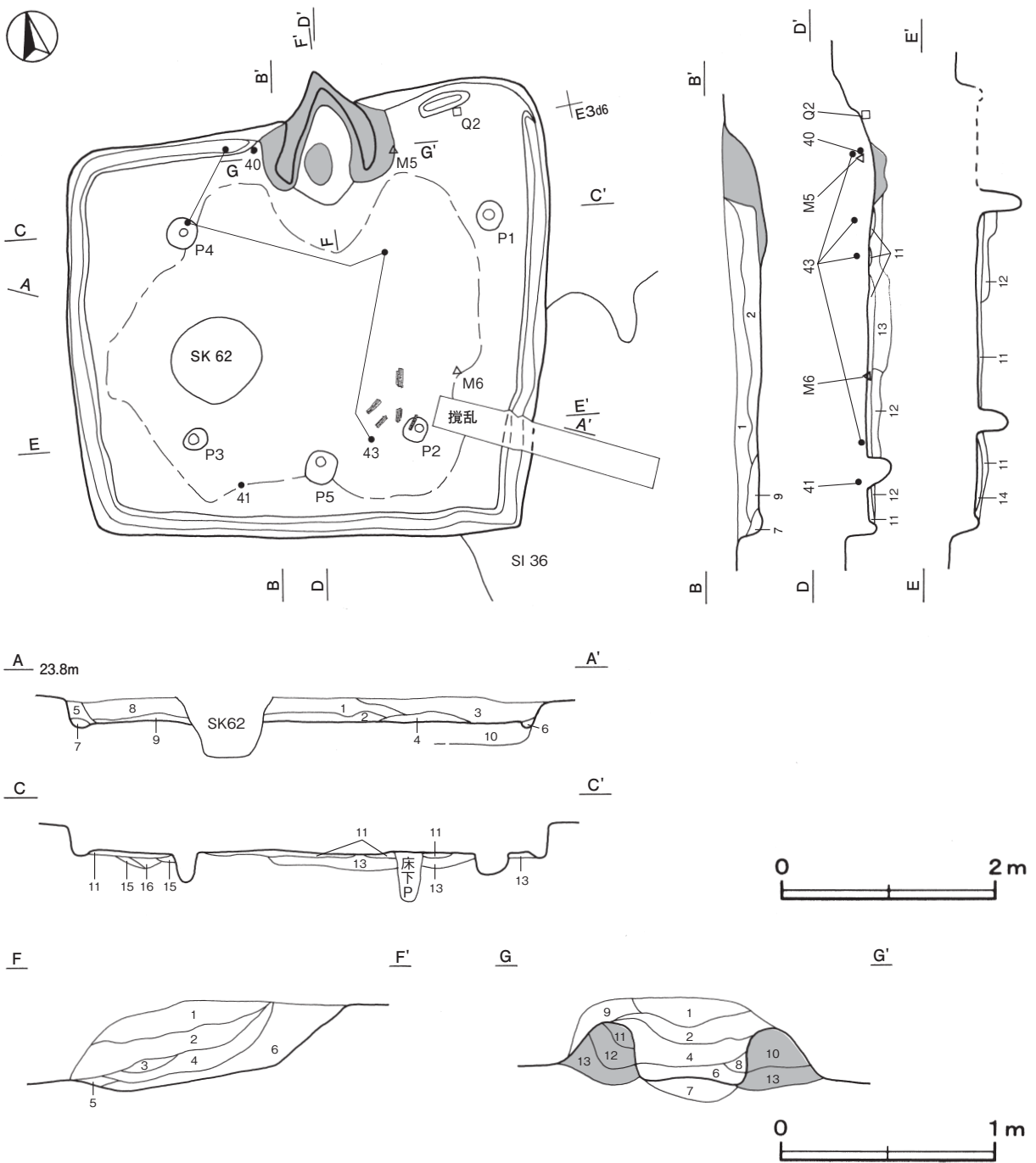
位置 調査区北部のE 3 d5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第36号住居跡を掘り込み、西部床面を第62号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.49m、短軸3.77mの長方形で、主軸方向はN-12°-Eである。北東コーナー部が北側に25cmほど張り出している。壁高は29cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。P2周辺の床面に炭化材が確認された。貼床は、確認面から土坑状に25~40cm掘り込み、ロームブロックを含む暗褐色土を埋めて構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで127cm、燃烧部幅は68cmである。袖部は床面を若干掘り込んで、ロームブロックを含む褐色土を積み上げて構築されている。第10~13層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き40cm、幅40cm掘り込み構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。



第31図 第26号住居跡実測図(1)

竈土層解説

1 黒 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量	9 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量
3 暗 褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量	10 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量	11 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
5 黒 色	焼土粒子・灰少量, ロームブロック・炭化粒子微量	12 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
6 暗 褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子微量	13 暗 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
7 暗 褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量		

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ19～46cmでいずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。P 5は深さ23cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

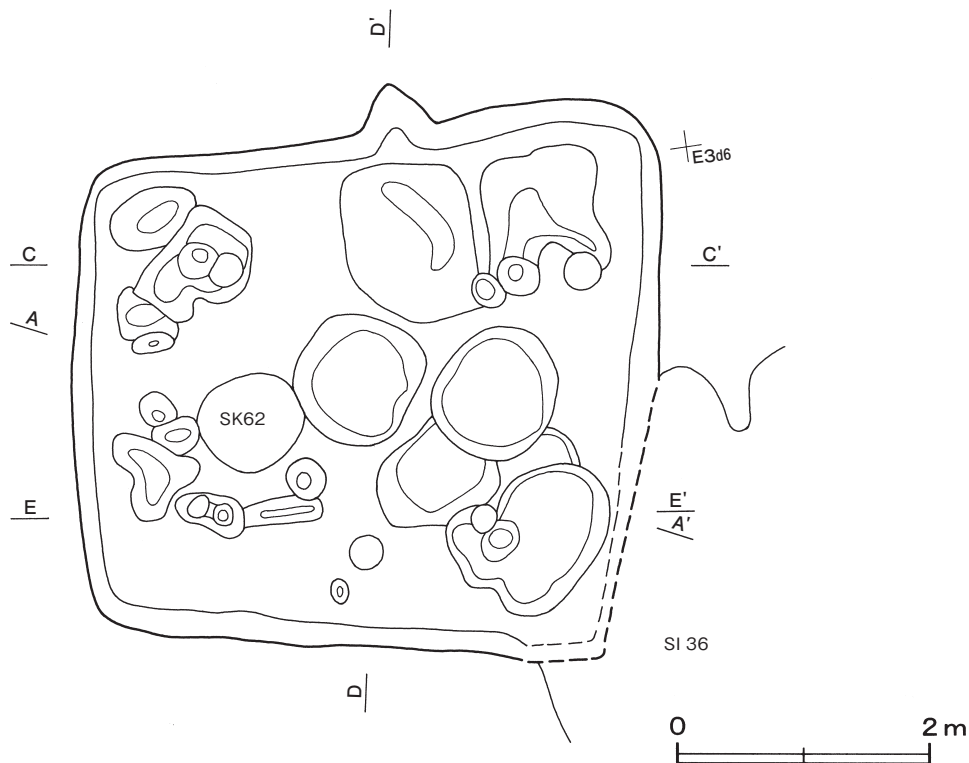
覆土 9層に分層できる。第10～16層は、貼床の構築土である。大半の層にロームブロックを含んでいることから人為堆積である。

土層解説

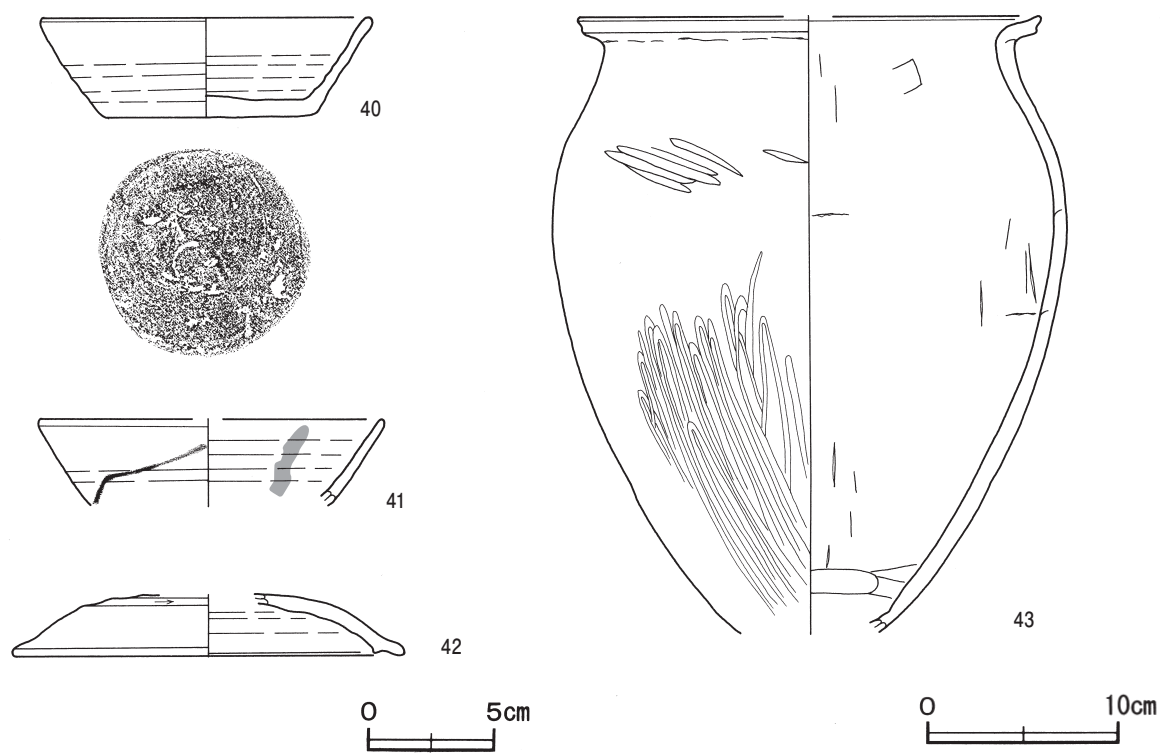
1 褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量
2 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	10 明 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
3 褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	11 暗 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
4 暗 褐色	炭化材中量, 焼土ブロック少量	12 にぶい褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
5 褐色	ロームブロック中量	13 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
6 明 褐色	ロームブロック中量	14 暗 褐色	ローム粒子微量
7 暗 褐色	ロームブロック少量	15 暗 褐色	ロームブロック少量
8 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	16 暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器甕1点, 須恵器坏2点, 蓋1点, 刀子・鉄鎌・砥石各1点のほか, 土師器片240点(坏47・甕193), 須恵器片27点(坏16・蓋1・甕10)が出土している。40は北壁際, 41は南壁寄り, Q 2・M 5は北壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。43は北壁際, P 4付近及び中央部の覆土下層や床面から出土した破片が接合したものである。M 6は東部の床面, 42は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉に比定できる。床面から炭化材が出土していることから, 焼失家屋とみられる。



第32図 第26号住居跡実測図(2)



第33図 第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
40	須恵器	坏	13.0	4.0	8.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部右ロクロ回転ヘラ削り	覆土下層	95% PL63
41	須恵器	坏	[13.6]	(3.4)	—	長石・石英	灰	普通	火捺有り 内面油煙	覆土下層	30%
42	須恵器	蓋	[15.4]	(2.5)	—	長石・石英	灰	普通	天井部右ロクロ回転ヘラ削り	覆土中	10%
43	土師器	甕	[24.6]	(32.6)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕 輪積痕	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 2	砥石	(11.1)	7.6	3.6	(453.0)	凝灰岩	砥面 5 面	覆土下層	PL93
M 5	刀子	(5.8)	(1.5)	0.3	(6.40)	鉄	刃部断面三角形 茎部欠損	覆土下層	
M 6	鎌	(14.9)	4.2	0.4	(47.9)	鉄	柄装着部上方へ90度折り曲げ 刃部中央研ぎ減り	床面	PL94

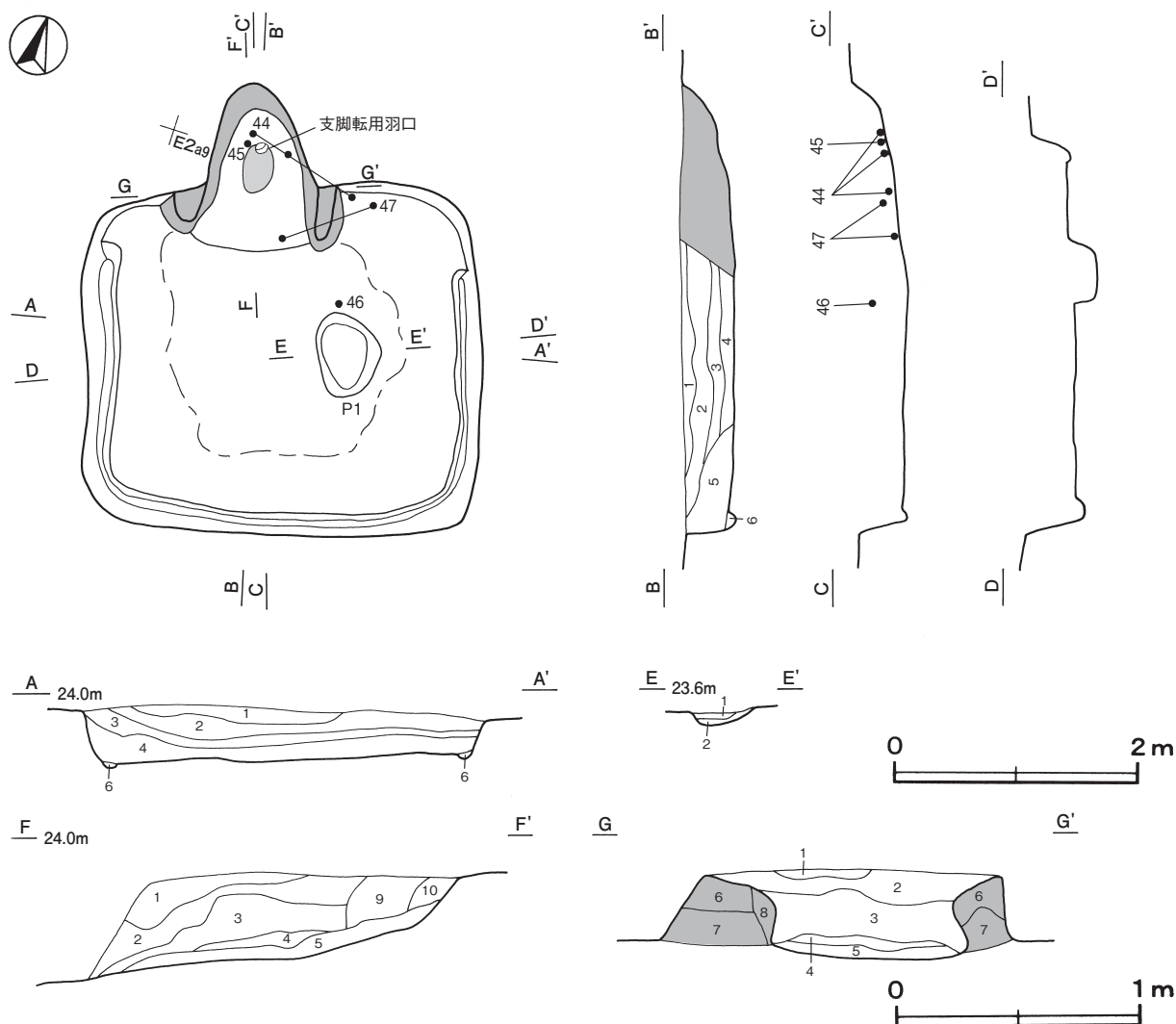
第28号住居跡 (第34・35図)

位置 調査区北部のE 2 a9区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.29m、短軸2.93mの長方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は28~44cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が北壁を除いて巡っている。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで136cm、燃烧部幅は67cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に褐色土を積み上げて構築されている。第6~8層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き75cm、幅88cm掘り込み構築されている。火床部は壁外に位置し、床面より若干高く、火床面は赤変硬化し、支脚として転用された羽口が据えられている。



第34図 第28号住居跡実測図

竈土層解説

1 黒 褐色	焼土ブロック中量	6 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
2 暗 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量	7 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	8 褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
4 黒 褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
5 黒 褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子微量	10 褐色	ロームブロック少量

ピット 長径70cm, 短径55cmの楕円形で, 深さは23cmである。底面は鍋底状で, 壁はわずかに外傾して立ち上がっている。覆土に焼土・炭化物・灰が混じっており, 灰捨て場であった可能性がある。

ピット土層解説

1 黒 褐色	灰中量, 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量	2 黒 褐色	炭化物・灰中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量
--------	----------------------------	--------	----------------------------

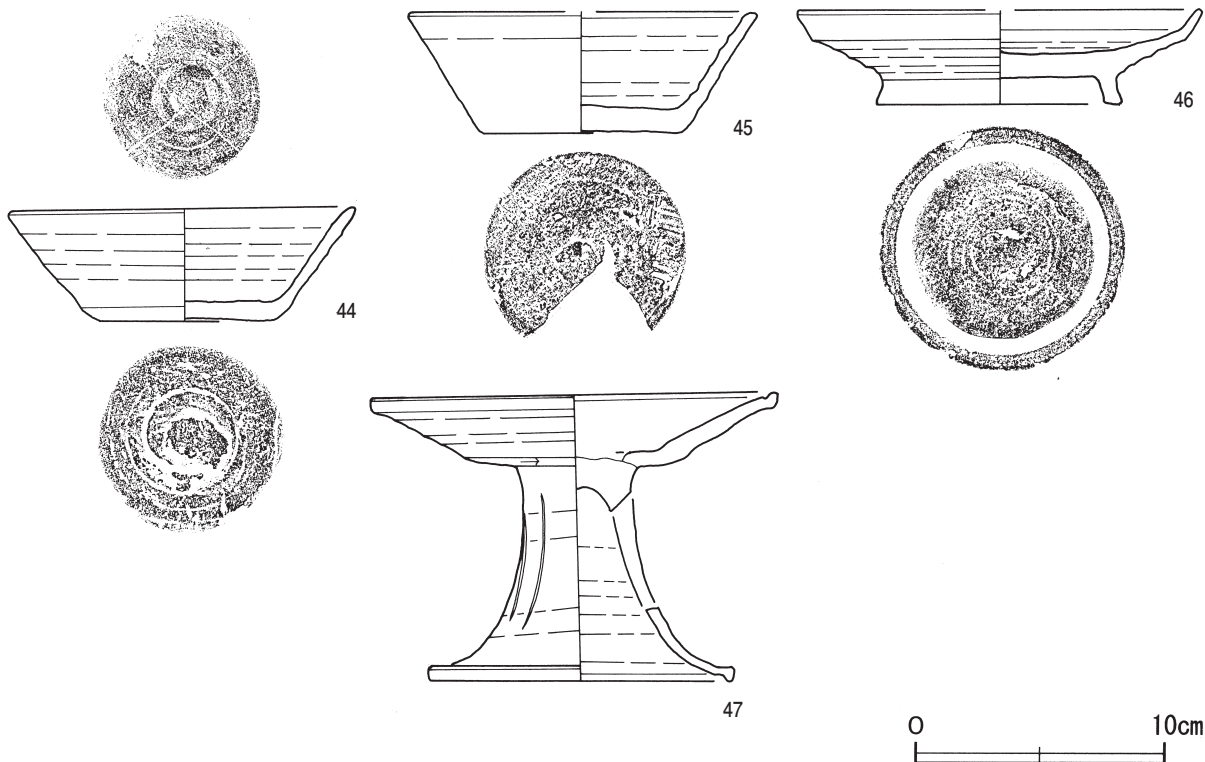
覆土 6層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
2 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗 褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 須恵器坏2点, 須恵器盤・高盤各1点のほか, 土師器甕片45点, 須恵器片17点(坏7・蓋1・壺1・甕8)が出土している。44は竈の燃焼部底面と北壁際の床面から出土した破片が, 47は竈焚口部の底面と北壁際の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したもので, 火熱を受けている。45は竈の燃焼部底面から, 46はP1北側の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第35図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表（第35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
44	須恵器	坏	13.6	4.6	7.0	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、雑なナデ「×」刻書 二次焼成	底部内面 燃焼部底面	80% PL63
45	須恵器	坏	[13.7]	4.9	8.0	長石・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、雑な削り	燃焼部底面	40%
46	須恵器	盤	[16.0]	3.8	9.8	長石・小礫	灰	普通	底部右クワ回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土上層	40%
47	須恵器	高盤	16.0	11.6	[12.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	坏部外面回転ヘラ削り 脚部透かし5か所	焚口部底面	60% PL63

第30号住居跡（第36・37図）

位置 調査区北部のE 2 b6区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 床面を第94・104～108号土坑（第5号粘土採掘坑）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.78m、短軸3.68mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は40cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、支柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が北東コーナー部と南東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで106cm、燃焼部幅は55cmである。袖部は地山を掘り残して構築されている。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き35cm、幅78cm掘り込み構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1 褐 色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	5 暗 褐 色	焼土ブロック・炭化物中量
2 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	6 暗 褐 色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量	7 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
4 黒 褐 色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量	8 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
		9 暗 褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子微量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ41～49cmで、いずれもコーナー部に位置していることから支柱穴である。P 5は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P 6は深さ30cmで南東コーナー部に位置しているが、性格は不明である。

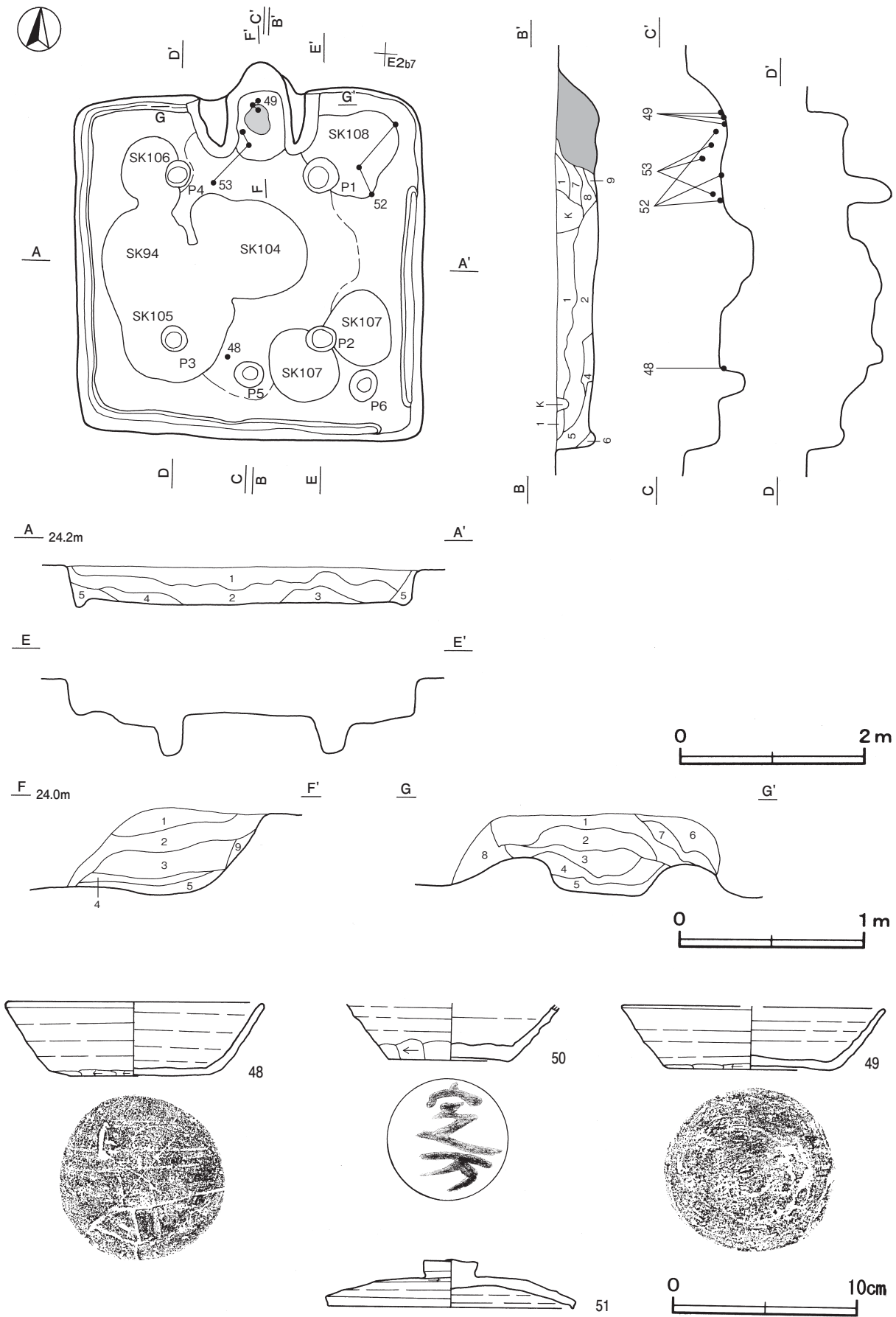
覆土 9層に分層できる。第2～4層はロームブロックが含まれていることから埋め戻されており、その他はレンズ状の自然堆積である。

土層解説

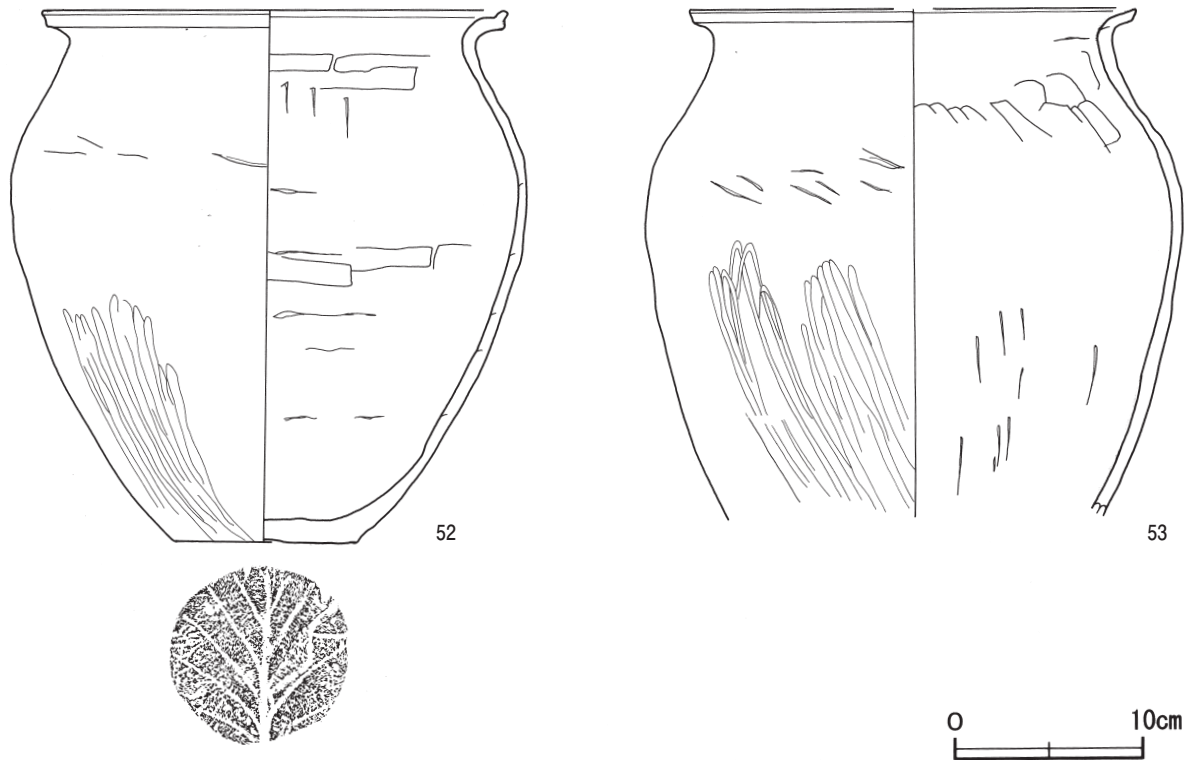
1 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	7 にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	8 にぶい黄褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
3 極暗褐色	ロームブロック微量	9 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
4 極暗褐色	ロームブロック少量		
5 暗褐色	ロームブロック少量		
6 暗褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 須恵器坏3点、須恵器蓋1点、土師器甕2点のほか、土師器片213点（坏22・甕191）、須恵器片46点（坏32・盤1・甕13）が出土している。48は南部の床面、49は竈の火床部底面、50・51は覆土中からそれぞれ出土している。52は北東コーナー部の床面、53は竈前面の覆土下層、竈内の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。なお、50の底部外面には「定カ万」の文字が墨書されている。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。床面は6基の粘土採掘坑に掘り込まれている。



第36图 第30号住居跡・出土遺物実測図



第37図 第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表 (第36・37図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
48	須恵器	坏	13.8	4.1	8.4	長石・雲母	灰	普通	体部下端・底部外周手持ちヘラ削り 底部中央一方向のヘラ削り	床面	95% PL63
49	須恵器	坏	[14.2]	3.4	9.0	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部右ロクロ回転ヘラ削り	火床部底面	50% PL63
50	須恵器	坏	—	(3.1)	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向手持ちヘラ削り 底部外面墨書「定ッ万」	覆土中	30% PL89
51	須恵器	蓋	13.2	2.6	—	長石・石英	灰	普通	天井部右ロクロ回転ヘラ削り	覆土中	50% PL63
52	土師器	甕	24.8	28.7	9.9	長石・石英	明赤褐色	普通	外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕	床面	70% PL63
53	土師器	甕	[24.0]	(27.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕	覆土下層	20%

第31号住居跡 (第38図)

位置 調査区北部のE 2 a5区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.79m、短軸2.65mの方形で、主軸方向はN-27°-Wである。壁高は23cmで、ほぼ直立している。

床 東半部がやや低く、中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで101cm、燃烧部幅は55cmである。袖部は地山を掘り残して構築されている。煙道部は、壁外へ逆U字形に奥行き49cm、幅85cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
 2 褐色 焼土ブロック・山砂少量
 3 褐色 焼土ブロック中量、山砂少量

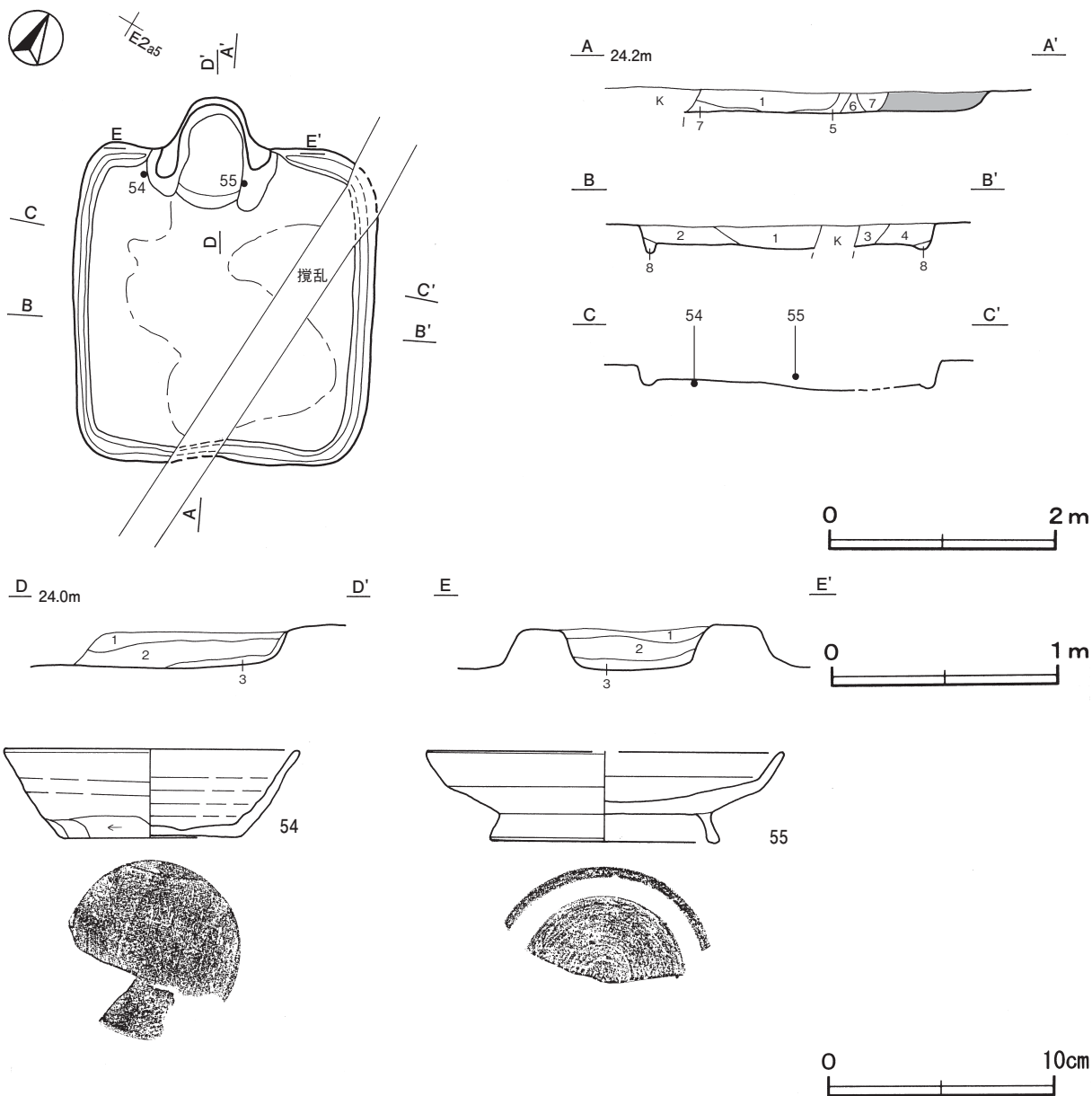
覆土 8層に分層できる。ロームブロックが含まれ不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 3 褐色 灰色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | 焼土粒子少量 |

遺物出土状況 須恵器坏・盤各1点のほか, 土師器甕片21点, 須恵器片15点(坏11・甕3・盤1)が出土している。54は竈左袖脇の床面, 55は竈右袖上からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第38図 第31号住居跡・出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

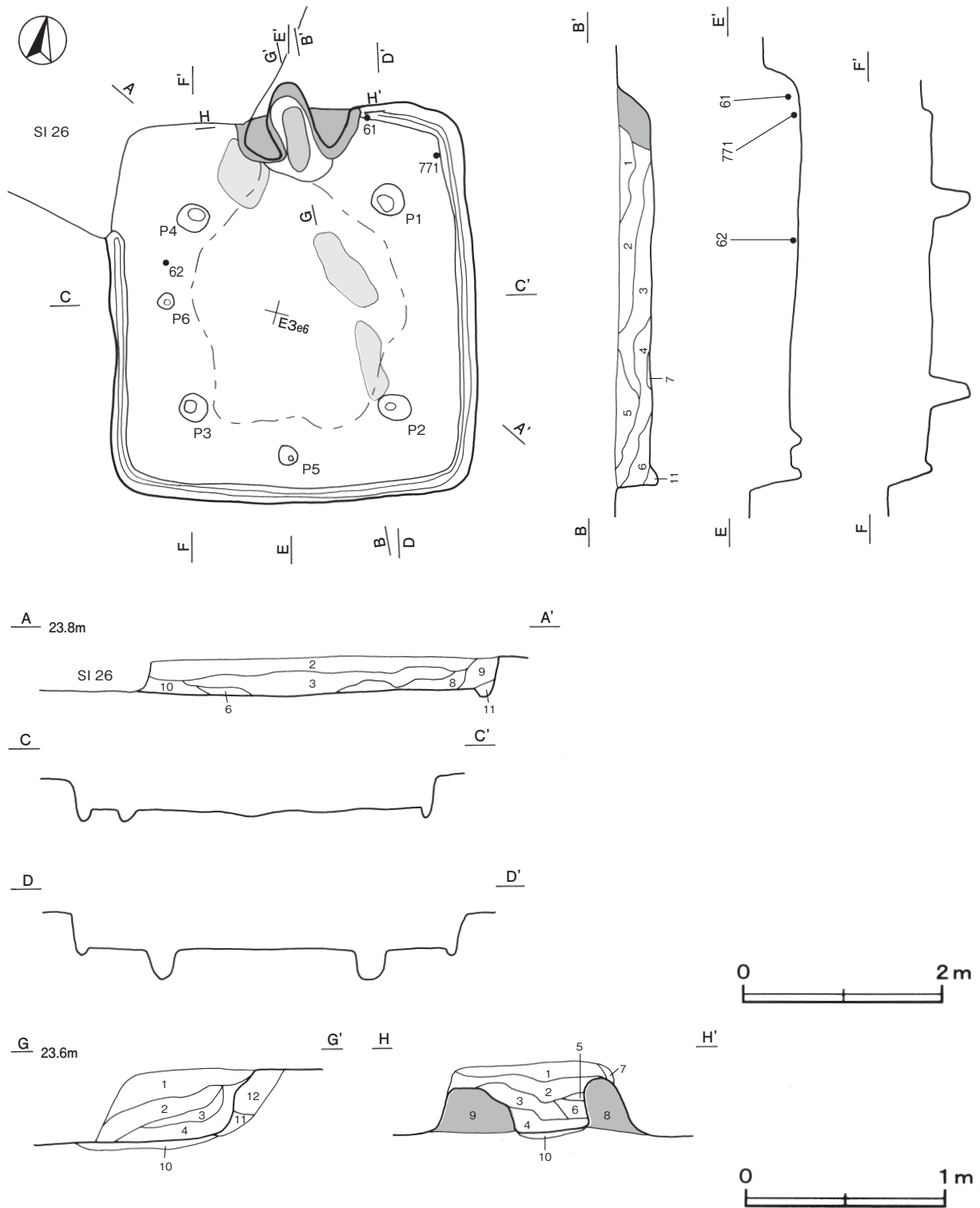
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
54	須恵器	坏	13.0	4.0	7.8	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向手持ちへら削り	床面	60% PL64
55	須恵器	盤	[15.8]	4.0	10.0	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	底部回転へら削り後, 高台貼り付け	竈右袖	40% PL64

第36号住居跡（第39・40図）

位置 調査区北部のE 3 d5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北西部を第26号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.98m、短軸3.62mの方形で、主軸方向はN-14°-Wである。壁高は34cmで、ほぼ直立し



第39図 第36号住居跡実測図

ている。

床 ほぼ平坦で、主柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が北西コーナー部を除いて巡っている。竈西側と中央部東壁寄りに焼土の堆積が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで101cm、燃焼部幅は44cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを含む極暗褐色土を積み上げて構築されている。第8・9層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き43cm、幅76cm掘込み構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。第10～12層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	8 極暗褐色	粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 にぶい黄褐色	粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量	9 極暗褐色	粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	10 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
5 にぶい黄褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
6 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子少量	12 黒褐色	焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量

ピット 6か所。P1～P4は深さ31～42cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。P5は深さ16cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ16cmで、西壁際に位置しているが性格は不明である。

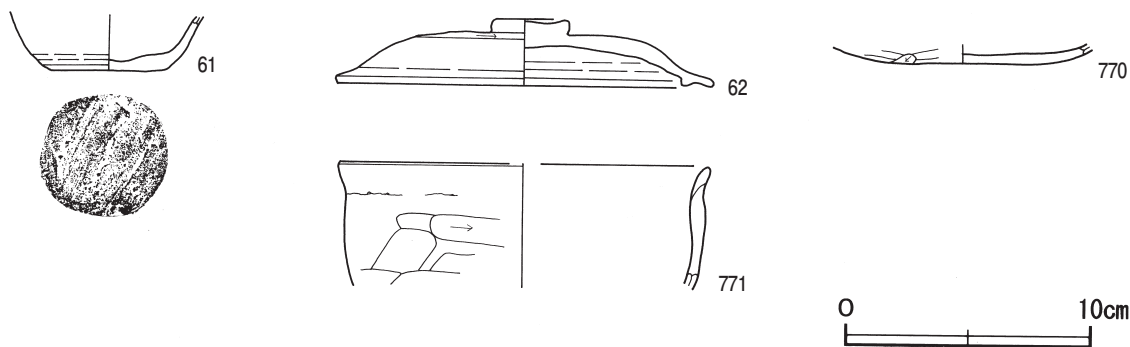
覆土 11層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、不自然な堆積であることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗褐色	焼土粒子少量, ロームブロック微量
3 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量	8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量
4 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
		11 暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器坏・碗各1点、須恵器坏・蓋各1点のほか、土師器片36点（坏10・甕26）、須恵器坏片2点が出土している。61は北壁際の覆土下層、62は西側の床面、771は北東コーナー部の床面、770は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。竈西側と中央部東壁寄りの床面上に焼土が堆積しており、床面も赤く焼けた状態であったことから焼失家屋とみられる。



第40図 第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
61	須恵器	坏	—	(2.3)	5.0	長石	明赤褐色	普通	底部手持ちヘラ削り	覆土下層	20%
62	須恵器	蓋	15.4	2.7	—	長石・石英・雲母	浅黄	普通	天井部右ロクロ回転ヘラ削り	床面	100% PL64
770	土師器	坏	—	(0.8)	—	赤色粒子	にぶい橙	普通	底部手持ちヘラ削り	覆土中	10%
771	土師器	椀	[17.0]	(5.1)	—	長石	橙	普通	体部手持ちヘラ削り	床面	10%

第45号住居跡（第41～43図）

位置 調査区西端部のC 1j7区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.73m、短軸4.42mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は27～35cmで、わずかに外傾して立ち上がっている。

床 南側の中央部がくぼんでいる。くぼみ部と壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで106cm、燃焼部幅60cmである。左袖部は床面と同じ高さの地山の上に、右袖部は地山をわずかに掘り残した上に、粘土ブロックを芯材に据え、周りに粘土粒子を含む褐色土を貼り付けて構築されている。第11～13層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形状に奥行き35cm、幅52cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さである。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	8 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
1 黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量	9 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量
3 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	10 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
4 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	11 黒褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
5 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	12 褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
6 暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物少量	13 赤褐色	赤変硬化した内壁
7 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量		

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ28～37cmで、規模と位置から支柱穴である。P 5は深さ19cmで南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットである。P 6は深さ59cmと深く、竈前面に位置しており、性格は不明である。

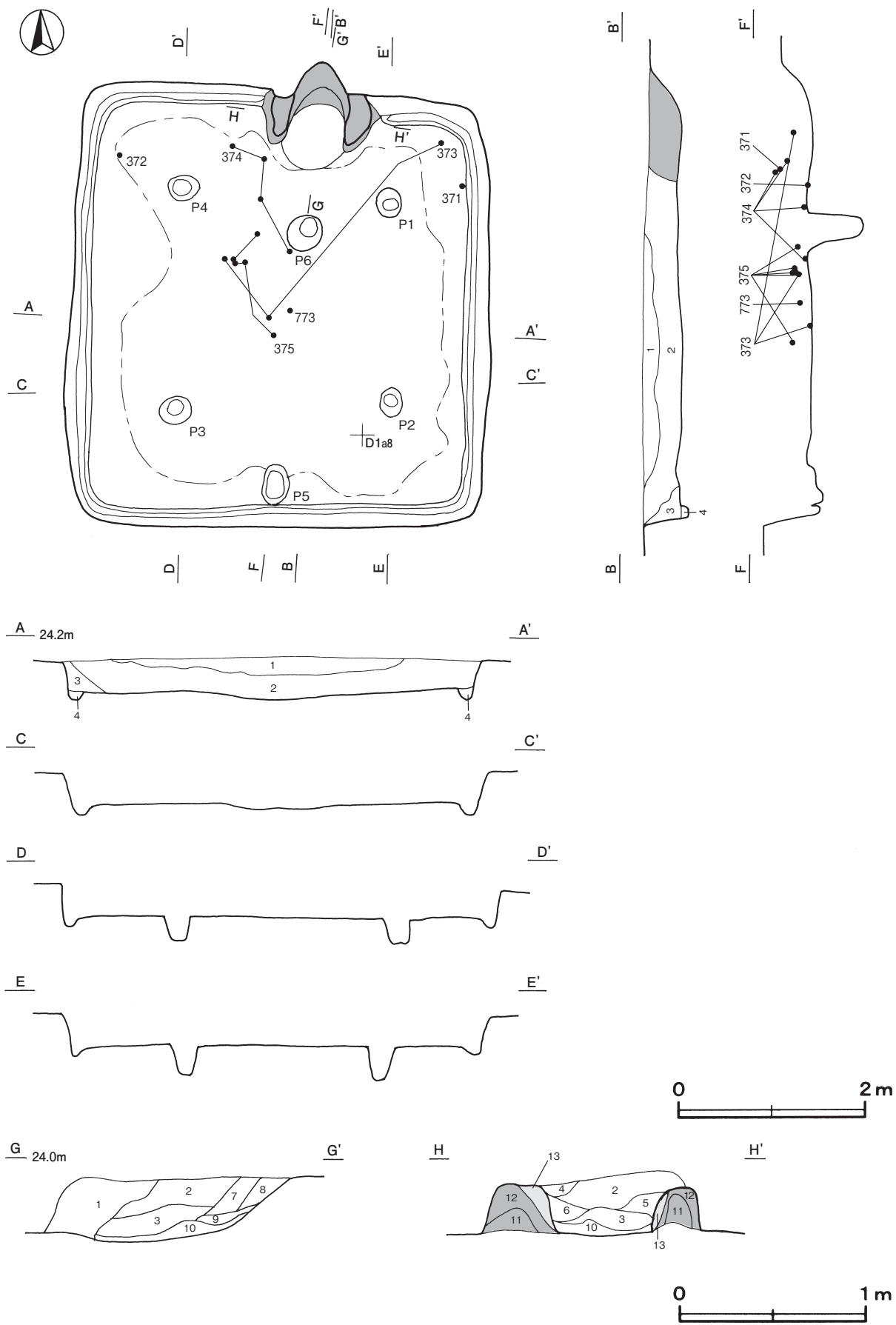
覆土 4層に分層できる。大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

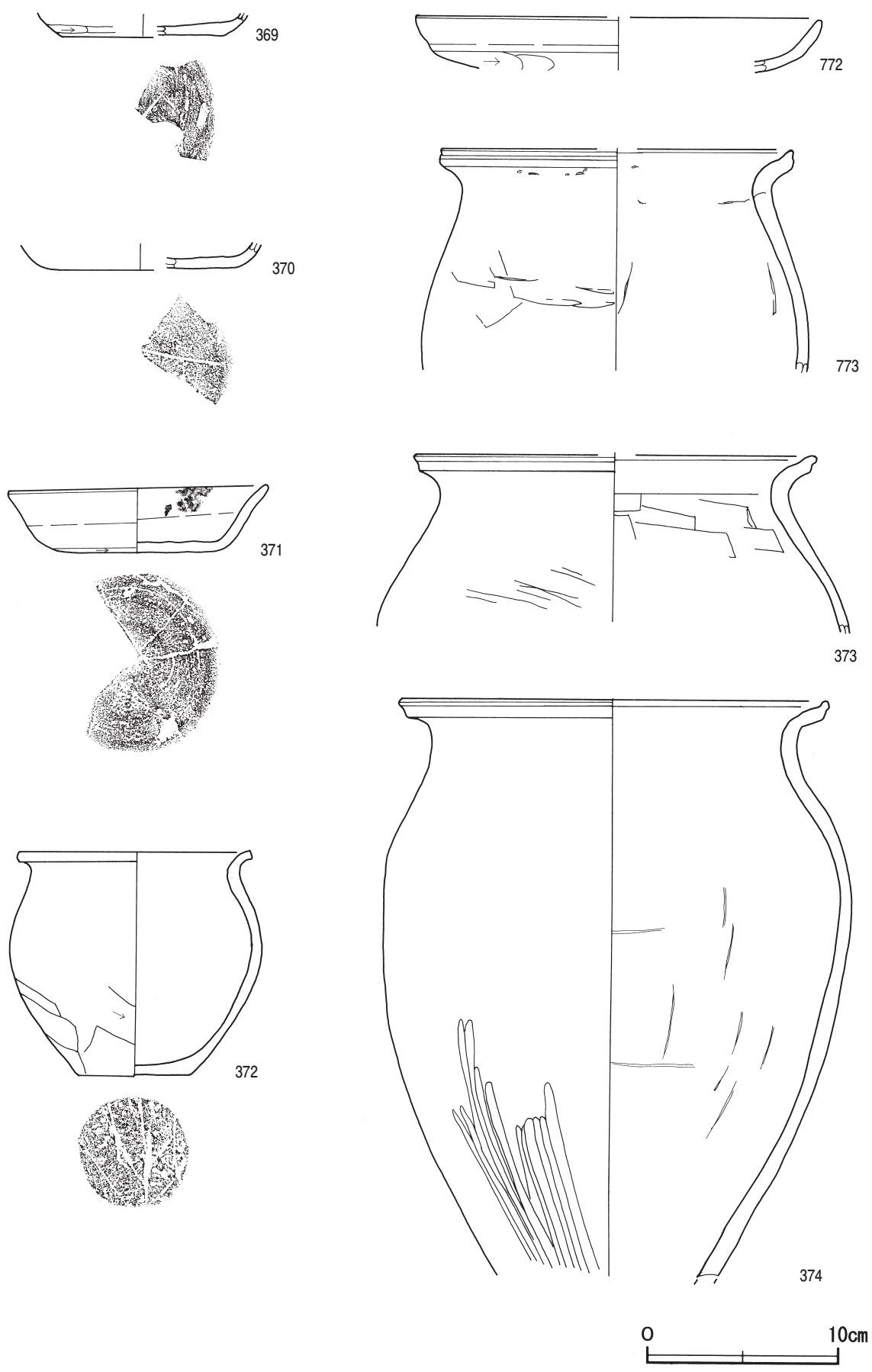
1 黒褐色	ローム粒子微量	3 黒褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック少量	4 暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器盤・小形甕各1点、甕4点、須恵器坏3点、甕1点、不明鉄製品1点のほか、土師器片200点（坏20・甕180）、須恵器片26点（坏17・甕9）が出土している。369・772・TP99・M30は覆土中、370は竈の覆土中、372は北西コーナー部の床面、773は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。371は東壁際の覆土中層と覆土中から出土した破片、373は北東コーナー部と中央部の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合している。374は北側中央部の床面に横位で潰れた状態で出土したものと覆土中から出土した破片、375は中央部の床面から潰れた状態で出土したものと覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

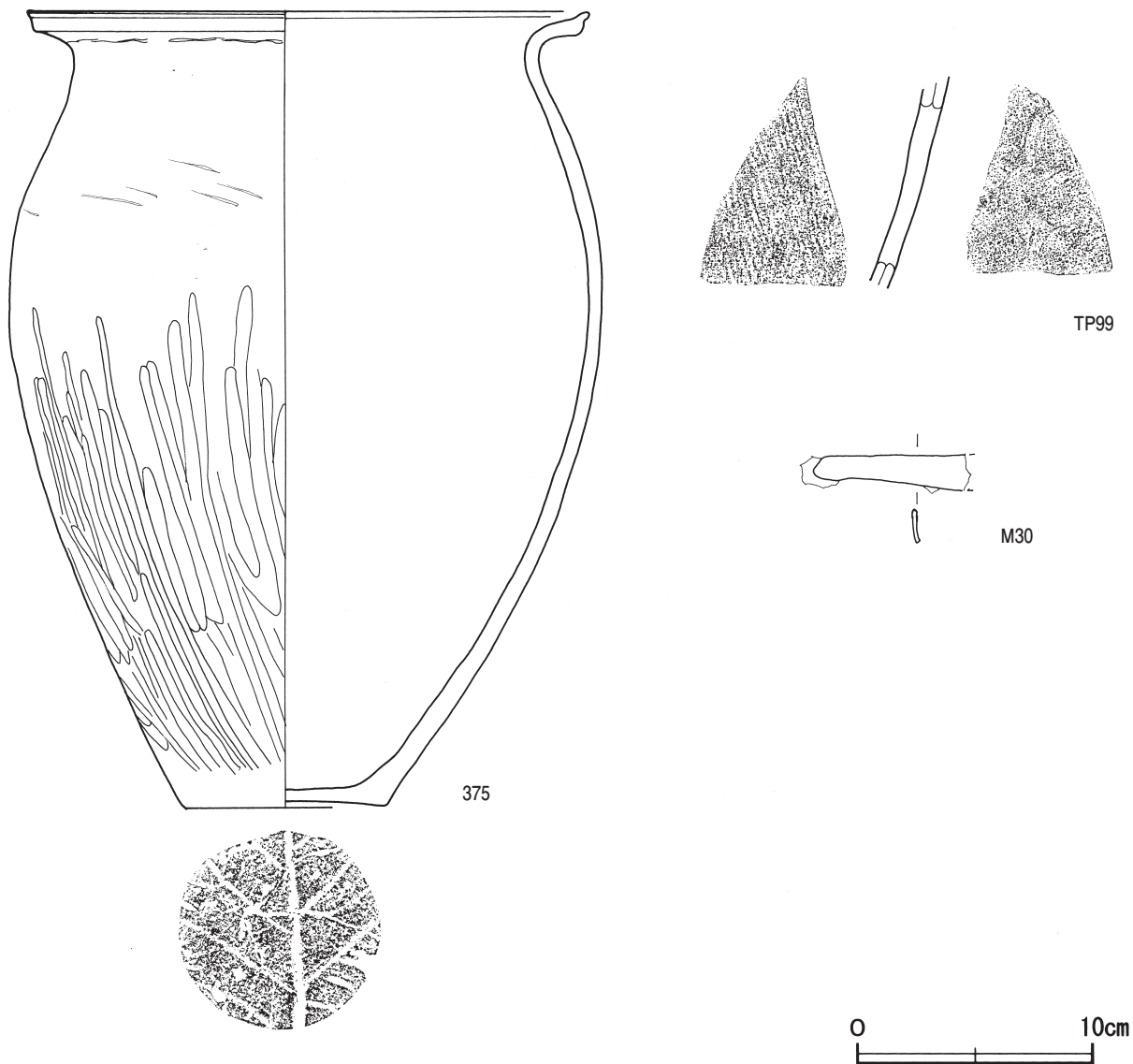
所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第41图 第45号住居跡実測図



第42図 第45号住居跡出土遺物実測図（1）



第43図 第45号住居跡出土遺物実測図（2）

第45号住居跡出土遺物観察表（第42・43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
369	須恵器	坏	—	(1.2)	[8.4]	長石・雲母	にぶい黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り ヘラ書きあり	覆土中	10%
370	須恵器	坏	—	(1.4)	[10.0]	長石・雲母	にぶい黄	普通	底部不定方向のヘラ削り ヘラ書きあり	竈覆土中	10%
371	須恵器	坏	13.5	3.6	8.7	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り 内面漆付着	覆土中層	50% PL64
772	土師器	盤	[21.0]	(2.8)	—	赤色粒子	にぶい橙	普通	底部手持ちヘラ削り	覆土中	5%
372	土師器	小形甕	12.0	11.8	5.8	長石粗い	褐灰	普通	体部下手持ちヘラ削り	床面	80%
373	土師器	甕	[21.0]	(9.2)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ当て痕 内面ヘラ状工具によるナデ	覆土下層	10%
374	土師器	甕	22.6	(30.1)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕	床面 覆土中	70% PL64
375	土師器	甕	23.7	33.8	8.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下半ヘラ磨き 上位ヘラ当て痕	床面 覆土下層	70% PL64
773	土師器	甕	[18.4]	(11.6)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部上位ヘラ当て痕	覆土下層	5%
TP99	須恵器	甕	—	(8.9)	—	長石	灰	良好	外面縦位の平行叩き 内面同心円文当て具後ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M30	不明鉄製品	(6.7)	(1.5)	(0.4)	(7.2)	鉄	断面長方形	覆土中	

第53号住居跡（第44～49図）

位置 調査区北部のC 3 i4区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北西コーナー部を第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.51m、短軸4.33mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は43～54cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで148cm、燃焼部幅38cmである。左袖部は床面と同じ高さの地山の上に、右袖部は地山を10cmほど掘り込んで粘土ブロック・ローム粒子を含むにぶい褐色土を積み上げて構築されている。内壁は赤変硬化している。第12・13層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き65cm、幅48cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を10cmほど掘り込んで、ロームブロックを含んだ褐色土を埋土して構築されており、第7層が埋土である。火床面は赤変していない。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	9 にぶい赤褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量
2 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量	10 黒褐色	炭化物多量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	12 にぶい褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	炭化物多量、ローム粒子・焼土粒子少量	13 赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子中量、ローム粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量		
7 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量		
8 極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量		

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ22～52cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。P 5は深さ23cmで、南壁寄りの中央部から西寄りに位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

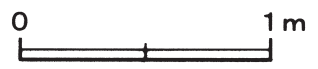
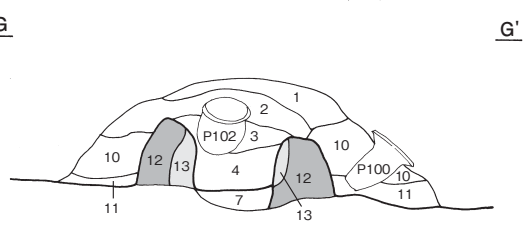
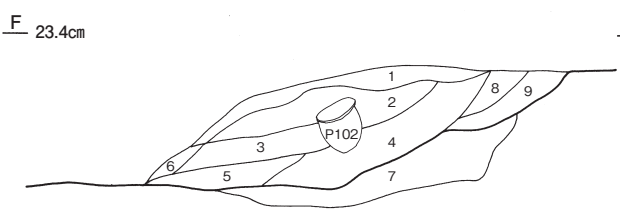
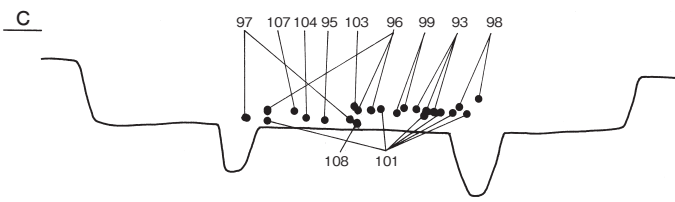
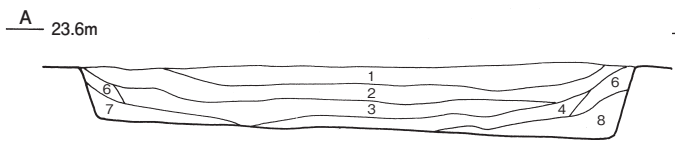
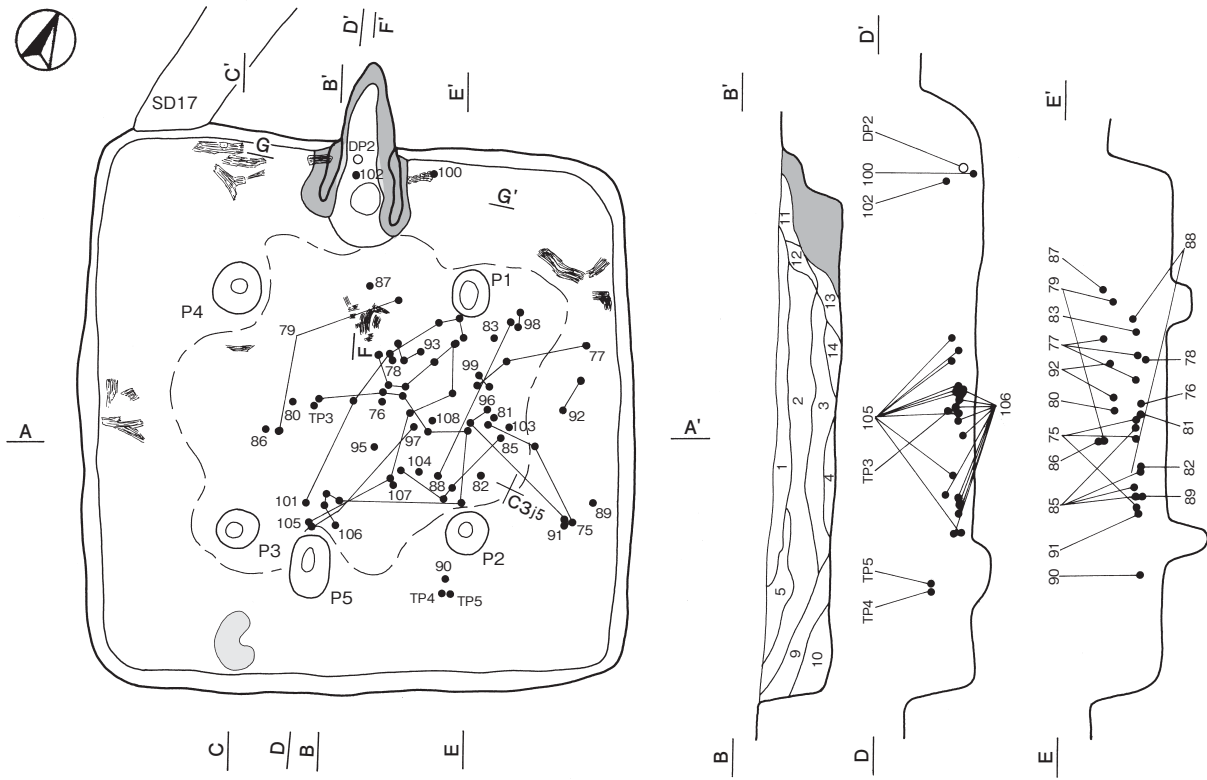
覆土 14層に分層できる。下層・中層には焼土ブロック・ロームブロック・炭化材などが含まれており、不規則な堆積であることから埋め戻されている。1・2層は自然堆積と思われる。

土層解説

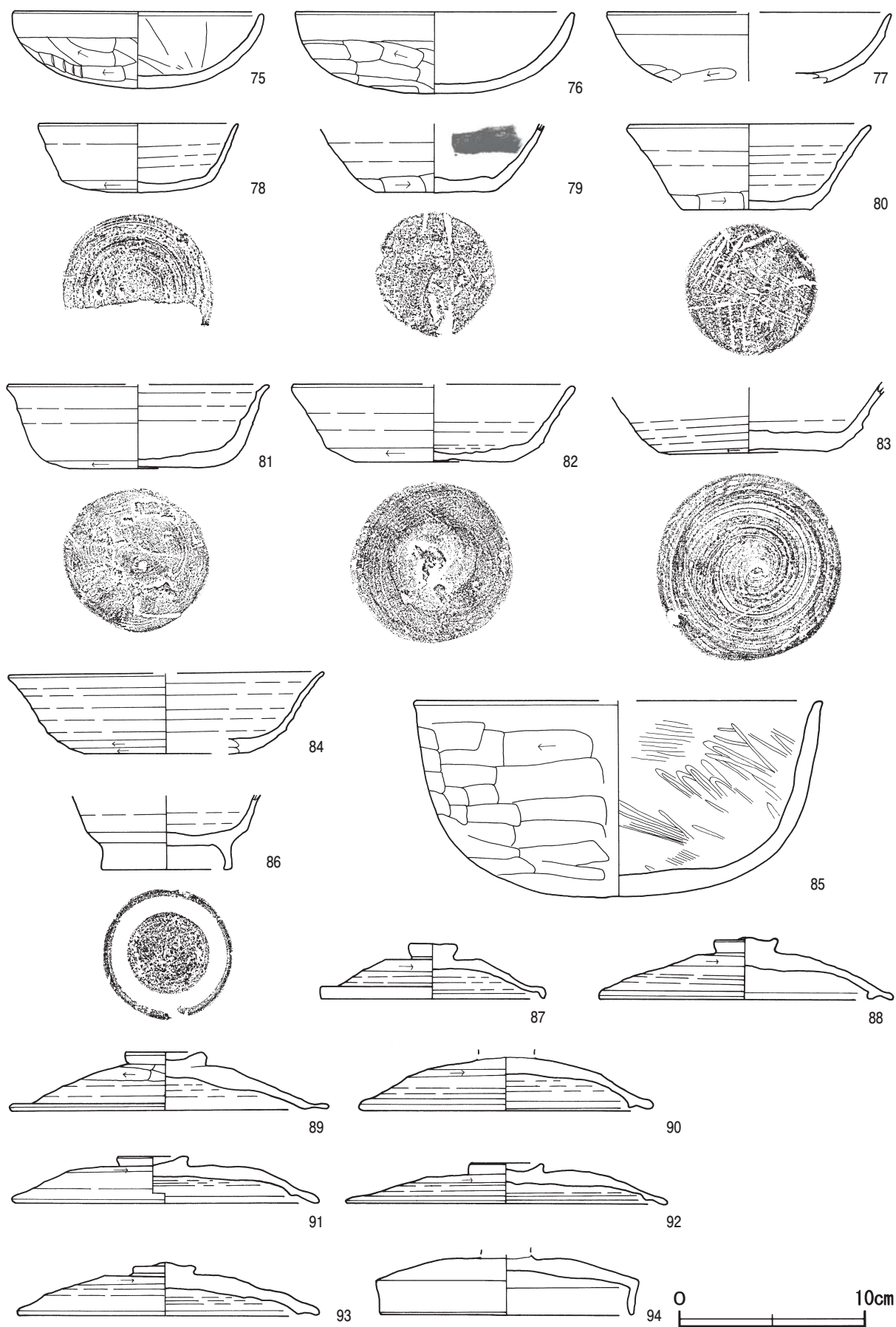
1 黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	9 黒色	炭化物少量、ローム粒子微量
2 黒色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	11 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
4 極暗褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	12 黒褐色	砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒色	ローム粒子・焼土粒子少量	13 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒少量
6 極暗褐色	炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量	14 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
7 暗褐色	ロームブロック・炭化材中量、焼土ブロック少量		
8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量		

遺物出土状況 土師器坏3点、椀1点、小形甕4点、甕6点、甗1点、須恵器坏7点、蓋7点、甕2点、高台付坏・短頸壺・長頸壺・土製支脚各1点のほか、土師器片509点（坏83・椀14・小形甕8・甕404）、須恵器片80点（坏34・高台付坏4・盤3・蓋7・瓶類1・甕31）が出土している。大部分が中央部から東壁寄りにかけての覆土下・中層から一括廃棄された状態で出土しており、75・76・78・81～85・88～91・93～99・101・103～107がこれにあたる。77・79・80・86・87・92・TP4・TP5は覆土上層から出土している。竈内からは火床面にDP2が据えられ、その上に102がのせられていたものが倒れかけた状態で出土している。100は右袖脇のほぼ床面上から倒れかかった状態で出土している。108の須恵器大甕は中央部の床面近く及び覆土下層にかけて横位で置かれたものが潰れた状態で出土している。1個体分は確認できているが、剥離が激しく接合復元が不可能であった。それぞれの壁際の床面から覆土下層にかけて炭化材・焼土が出土している。焼土や炭化材を断ち割って確認したところ、床面が焼けている状況は確認されなかった。

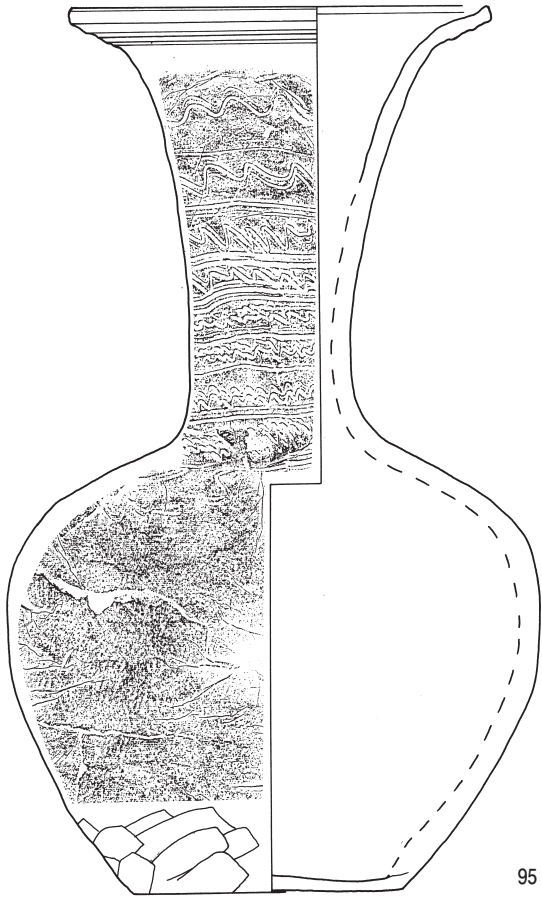
所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。覆土や遺物出土状況から、住居廃絶後間もなく第4・6・7・8・13・14層などの土で埋め戻され、同時に遺物が廃棄されたものと思われる。



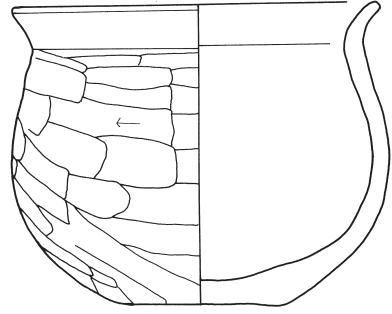
第44图 第53号住居跡実測図



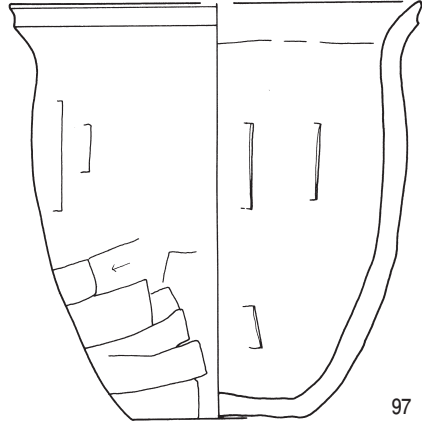
第45図 第53号住居跡出土遺物実測図(1)



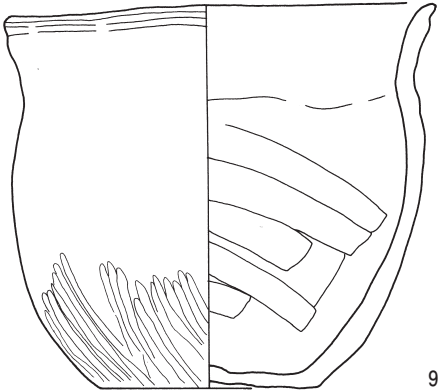
95



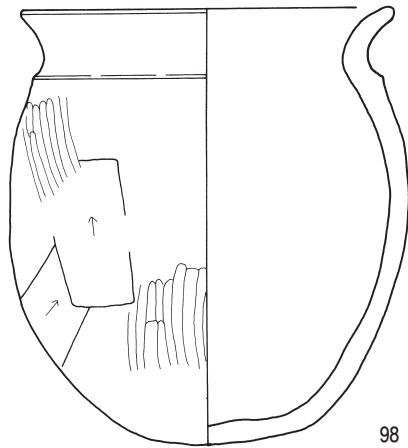
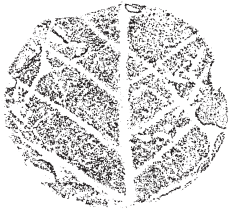
96



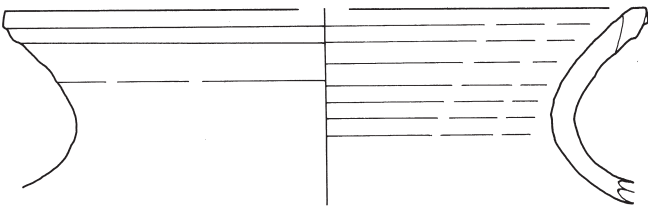
97



99



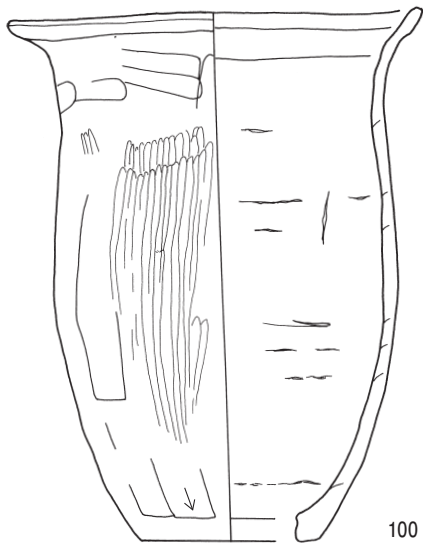
98



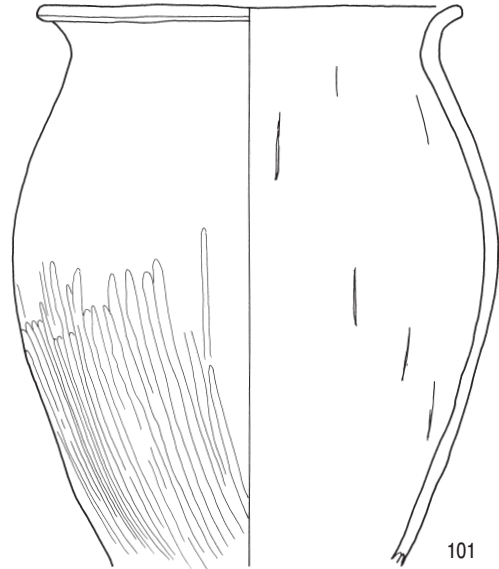
107



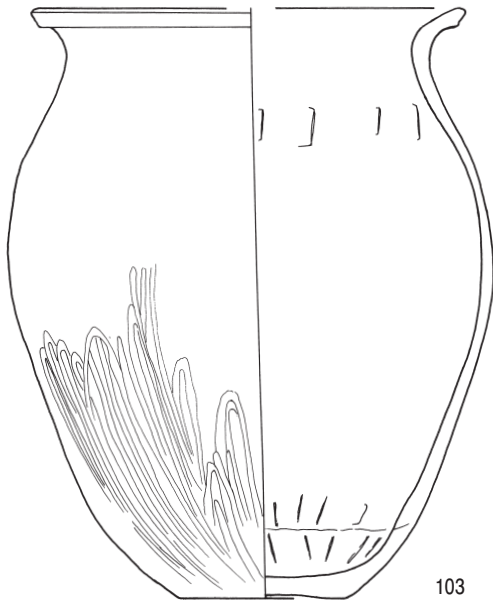
第46图 第53号住居跡出土遺物実測図(2)



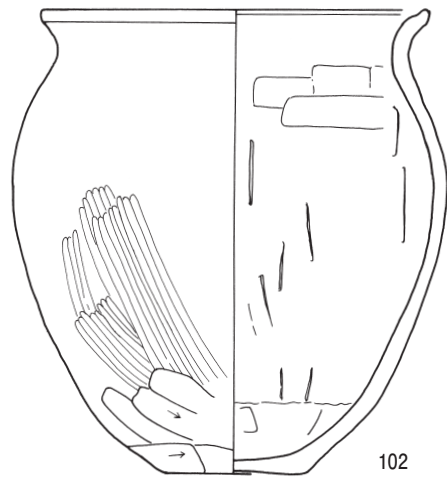
100



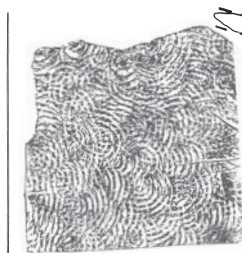
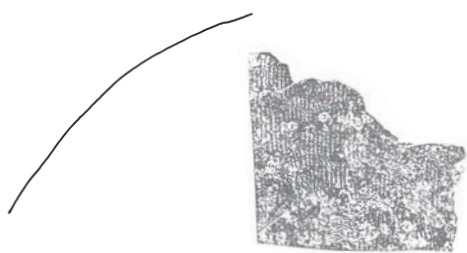
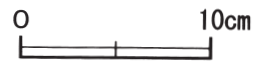
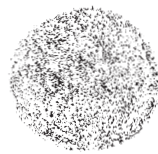
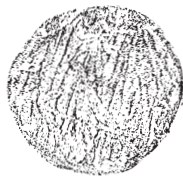
101



103



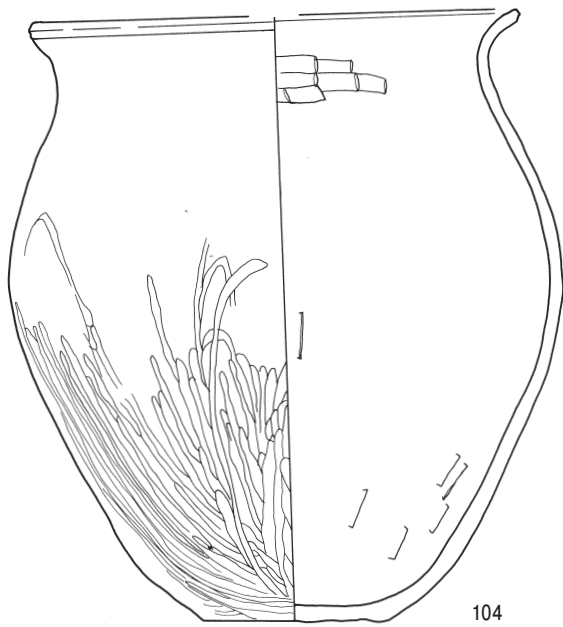
102



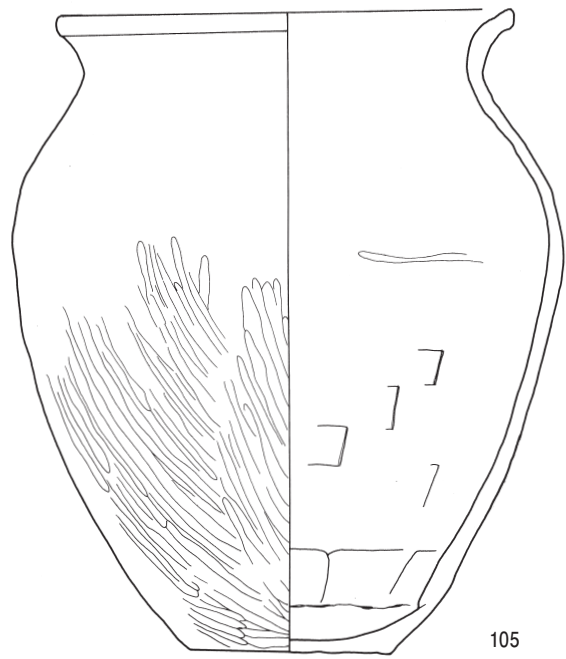
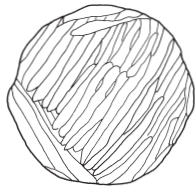
108



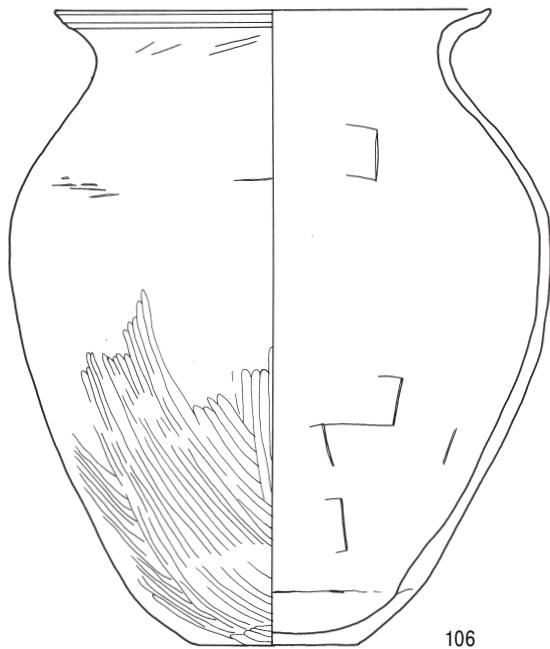
第47図 第53号住居跡出土遺物実測図（3）



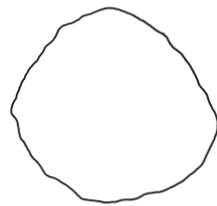
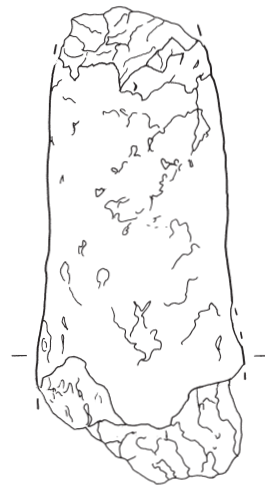
104



105



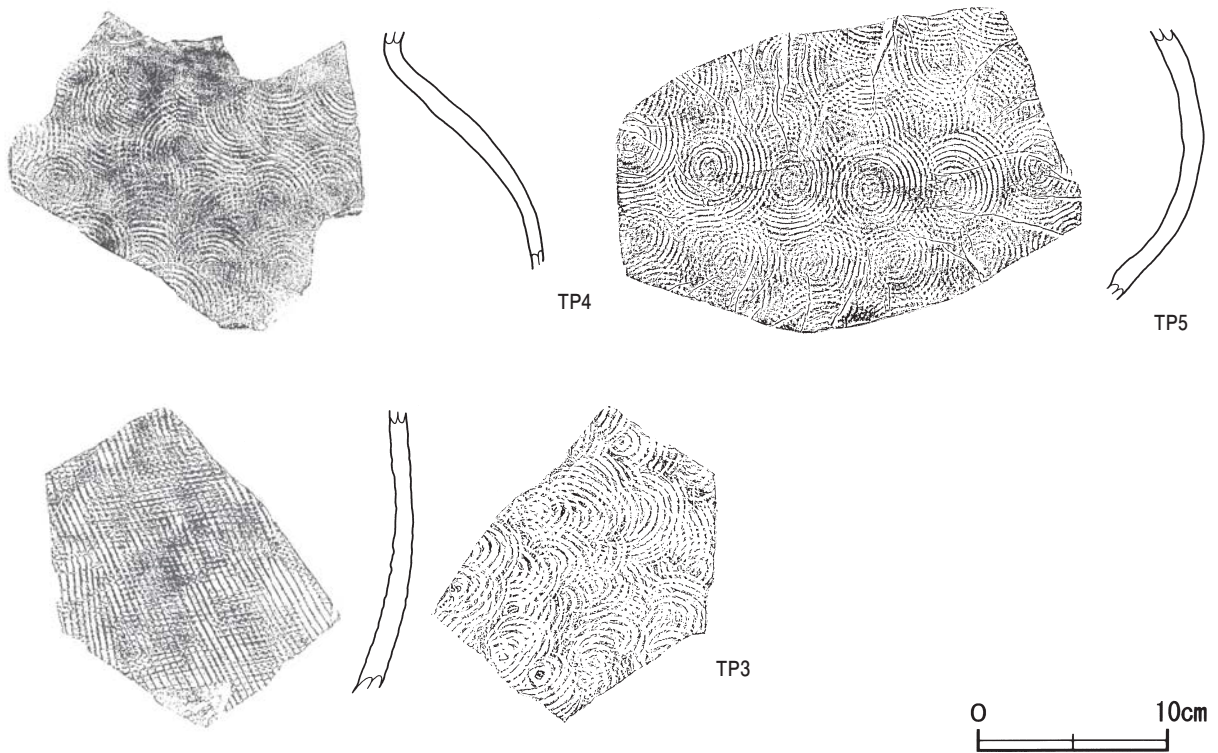
106



DP2



第48図 第53号住居跡出土遺物実測図（4）



第49図 第53号住居跡出土遺物実測図（5）

第53号住居跡出土遺物観察表（第45～49図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
75	土師器	坏	13.6	4.1	—	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部から体部手持ちヘラ削り	覆土下層	95% PL64
76	土師器	坏	14.8	4.4	—	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部から体部手持ちヘラ削り	覆土下層	90% PL64
77	土師器	坏	15.1	(3.7)	—	赤色粒子	橙	普通	底部から体部手持ちヘラ削り	覆土上層	50% PL64
78	須恵器	坏	10.6	3.7	8.0	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り 丸底気味	覆土下層	70% PL64
79	須恵器	坏	—	(3.7)	6.4	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り 内面漆付着	覆土上層	40%
80	須恵器	坏	12.8	4.6	7.0	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	80% PL65
81	須恵器	坏	[14.0]	4.5	10.0	長石・赤色粒子	灰黄	良好	底部回転ヘラ削り	覆土下層	50% PL66
82	須恵器	坏	[14.9]	4.2	11.4	長石・雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	40% PL66
83	須恵器	坏	—	(3.6)	10.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	50%
84	須恵器	坏	[17.0]	4.3	[12.0]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	20%
85	土師器	椀	[21.8]	10.5	—	長石・石英	明赤褐	普通	体部・底部手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	50% PL65
86	須恵器	高台付坏	—	4.0	7.0	長石・石英	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け 内面重ね焼き痕	覆土上層	30%
87	須恵器	蓋	12.0	3.0	—	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	天井部回転ヘラ削り 内面重ね焼き痕	覆土上層	55% PL65
88	須恵器	蓋	15.8	3.3	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	不良	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土下層	80% PL65
89	須恵器	蓋	17.0	3.1	—	長石・石英・雲母	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土下層	70% PL65
90	須恵器	蓋	15.4	(2.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	不良	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	90% PL65
91	須恵器	蓋	16.4	2.5	—	長石・雲母・赤色粒子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け 内面「×」刻書	覆土下層	80% PL65
92	須恵器	蓋	[17.2]	2.7	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土上層	50% PL65
93	須恵器	蓋	16.2	2.9	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	不良	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土下層	80% PL65
94	須恵器	短頸壺蓋	[13.6]	(3.2)	—	長石	灰	良好	天井部自然袖付着	覆土中層	20% PL65
95	須恵器	長頸壺	16.8	35.3	10.8	石英	灰	良好	頸部2本1組のヘラ状工具により、8段に区画し、その間に櫛描波状文 体部同心円文の叩き後、ナデ 体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	80% PL66
96	土師器	小形甕	15.2	12.0	6.4	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	60% PL66

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
97	土師器	小形甕	[16.4]	16.6	7.0	長石・石英・礫	橙	普通	体部下手持ちヘラ削り 内面ヘラ当て痕	覆土下層	70% PL66
98	土師器	小形甕	14.8	17.4	—	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	体部粗いヘラ削り後ヘラ磨き	覆土下層	70% PL66
99	土師器	小形甕	17.4	15.3	8.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	90% PL66
100	土師器	甕	21.9	28.3	9.5	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部縦位のヘラ削り後、ヘラ磨き	床面	80% PL67
101	土師器	甕	22.0	(29.8)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	体部ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕	覆土下層	70% PL67
102	土師器	甕	20.6	24.6	7.4	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕	竈	95% PL67
103	土師器	甕	[22.6]	31.4	9.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕	覆土下層	70% PL67
104	土師器	甕	[26.2]	32.8	9.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下半・底部ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕	覆土下層	60% PL67
105	土師器	甕	23.9	34.4	10.7	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕	覆土下層	80% PL68
106	土師器	甕	22.2	33.8	8.7	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕	覆土下層	80% PL68
107	須恵器	甕	[25.6]	(7.8)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロナデ	覆土下層	5%
108	須恵器	大甕	—	(19.2)	—	長石・石英・雲母	灰黄	不良	体部縦位の平行叩き 内面同心円文の当て具痕	覆土下層	10%
TP3	須恵器	甕	—	(15.3)	—	長石	灰	普通	体部擬格子の叩き 内面同心円文の当て具痕	覆土中層	PL89
TP4	須恵器	甕	—	(12.7)	—	長石・雲母	灰	普通	外面同心円文の叩き 内面押圧痕	覆土中層	PL89
TP5	須恵器	甕	—	(14.4)	—	長石・雲母	灰	普通	外面同心円文の叩き 内面押圧痕	覆土中層	PL89

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
DP2	支脚	(19.1)	(8.3)	7.8	—	(984.0)	土(長石・細砂)	ナデ	竈火床面	

第54号住居跡（第50図）

位置 調査区北部のC 3 e0区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.06m、短軸2.83mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は39~49cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで100cm、燃焼部幅36cmである。袖部は地山を削り残した上に、ロームブロック・砂質粘土ブロックを含む明黄褐色土を積み上げて構築されている。第6~8層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き33cm、幅60cm掘り込み構築されている。火床部は床面とほほ同じ高さで、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	6	にぶい赤褐色	焼土ブロック・山砂少量
3	にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子微量	7	にぶい褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
4	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	8	明黄褐色	ロームブロック多量、砂質粘土ブロック少量

ピット 深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

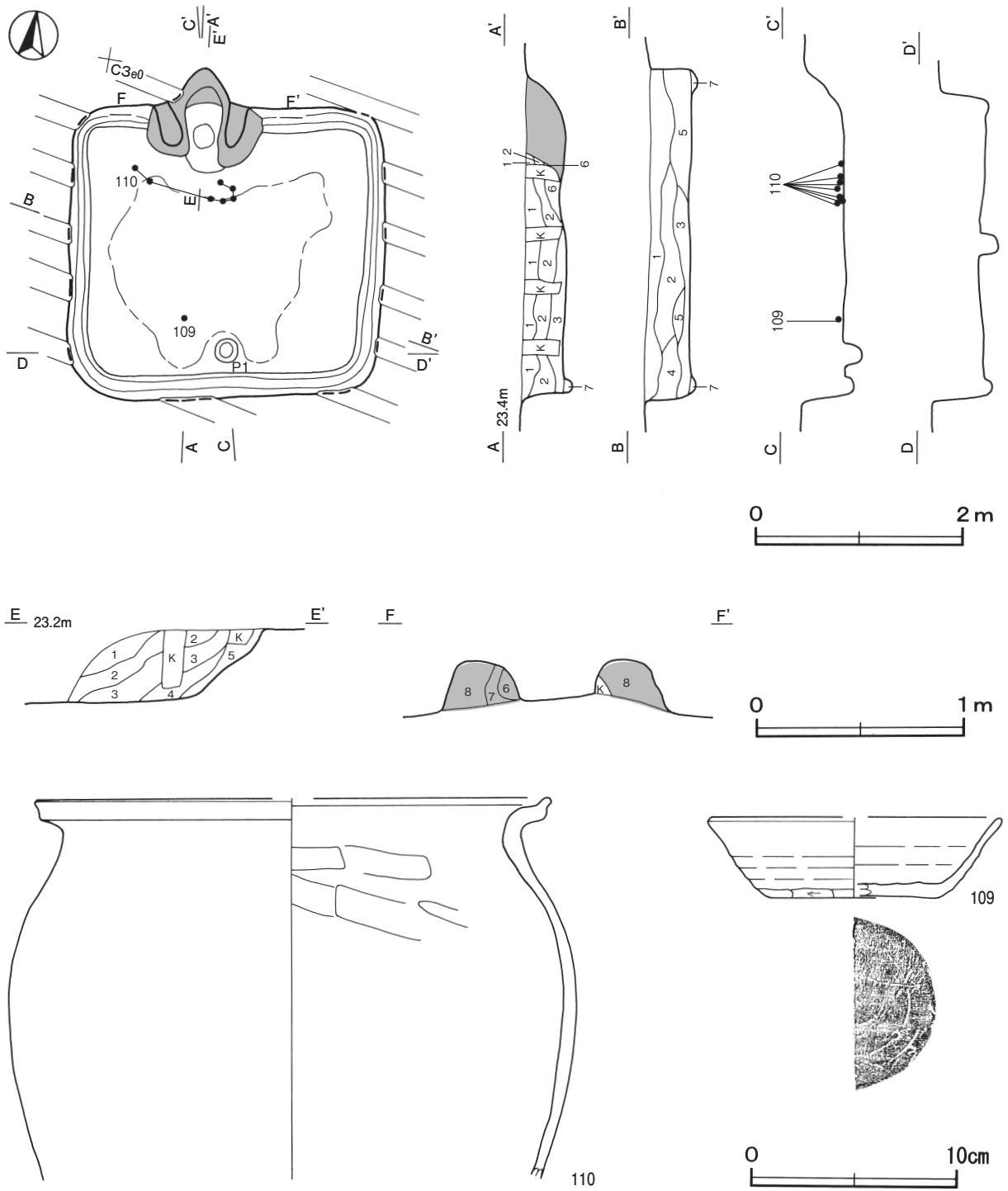
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5	褐色	ロームブロック多量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
3	極暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量	7	にぶい褐色	ロームブロック中量
4	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器甕、須恵器坏各1点のほか、土師器片33点（坏1・甕32）が出土している。109は南部の覆土下層、110は北部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第50図 第54号住居跡・出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表 (第50図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
109	須恵器	坏	[14.0]	3.9	[8.1]	長石・石英	にぶい橙	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	覆土下層	40%
110	土師器	甕	[24.6]	(18.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラナデ	床面	20%

第57号住居跡（第51・52図）

位置 調査区北部のC 2e3区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 西壁を第56号住居に、南壁を第9号溝に掘り込まれている。

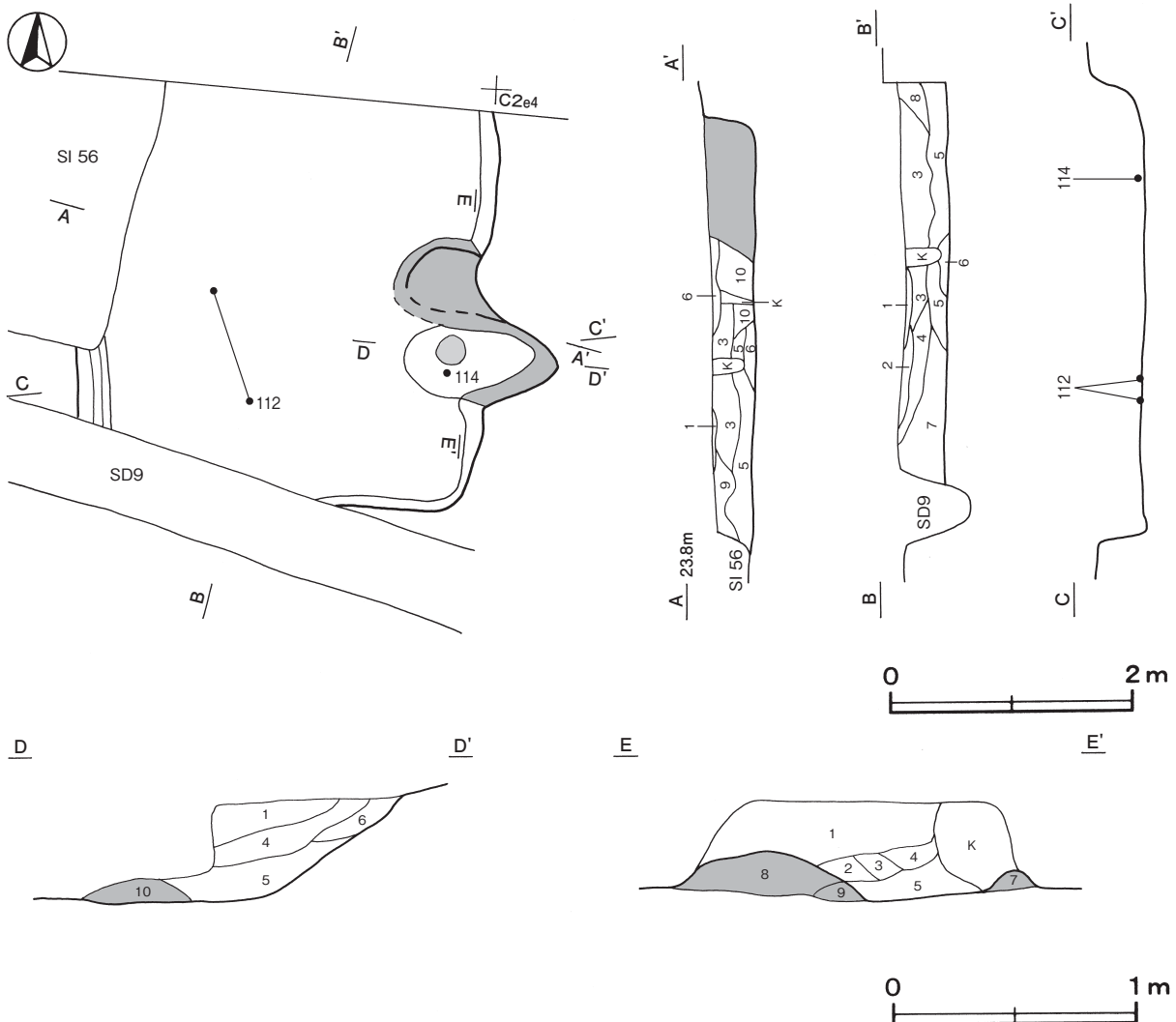
規模と形状 北壁が調査区域外に延び、南壁が第9号溝に掘り込まれているため、東西軸は3.49m、確認できた南北軸は3.47mで、主軸方向がN-90°-Eの方形と推測できる。壁高は35~44cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁溝が西壁の一部に巡っている。

竈 東壁のやや南寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで128cm、燃焼部幅59cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、ロームブロックを含む暗褐色土を積み上げて構築されている。左袖部は良好に遺存しているが、右袖は一部しか遺存していなかった。第7~9層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き60cm、幅80cm掘り込んで構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。

電土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |



第51図 第57号住居跡実測図

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|---------------------------------|
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 粘土粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化材中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |

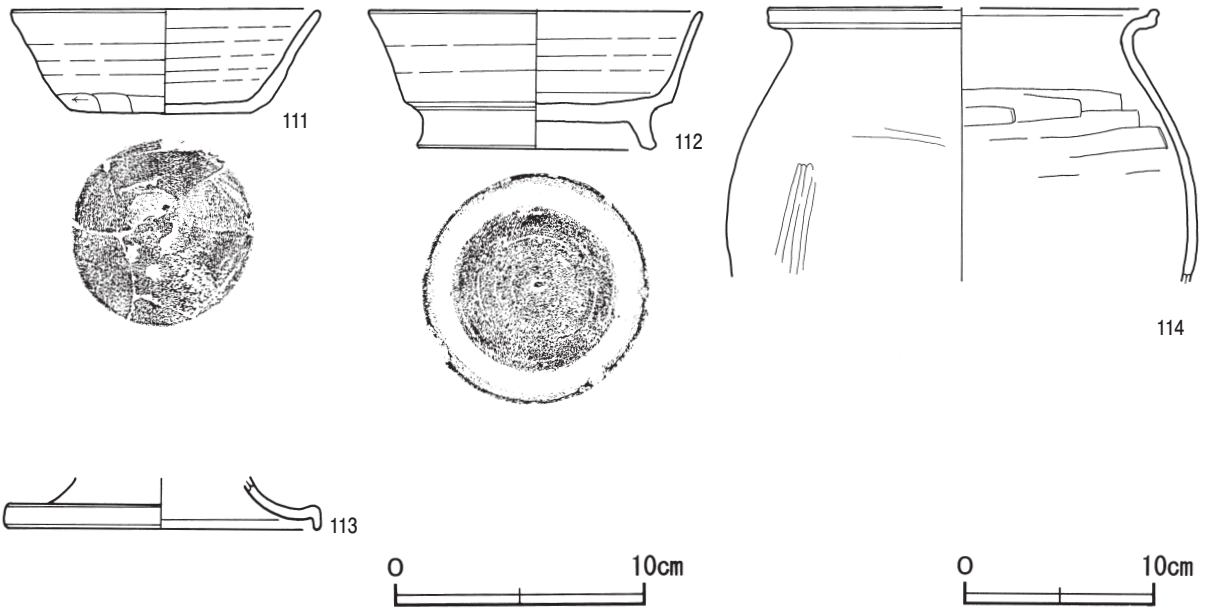
覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | | |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器甕1点, 須恵器坏・高台付坏・高盤各1点のほか, 土師器片131点(坏1・甕130), 須恵器片30点(坏23・盤1・甕5・鉢1)が出土している。112は南部と中央部の床面から出土した破片が接合したもの, 114は竈の底面から出土したものである。111・113は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第52図 第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表 (第52図)

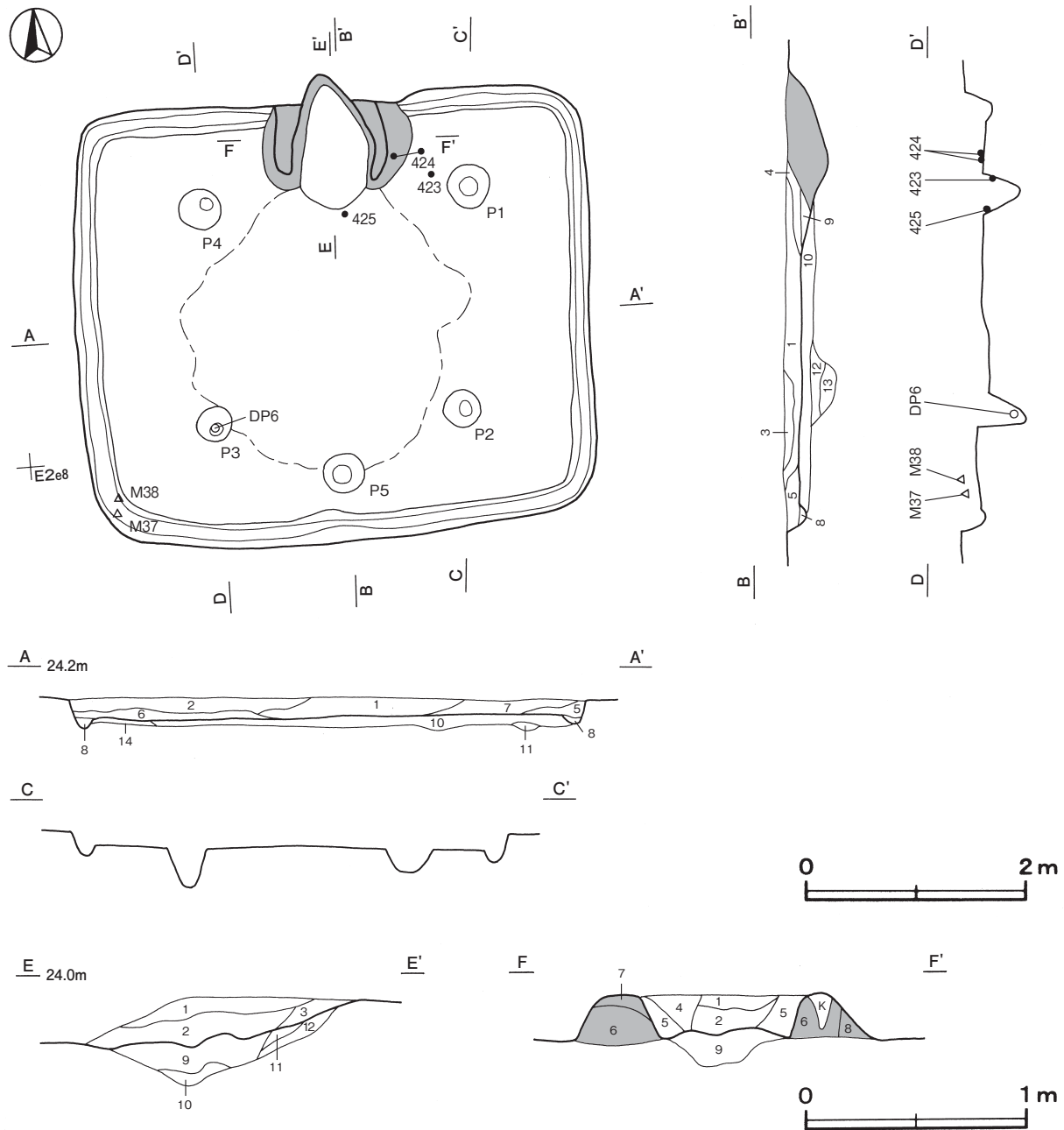
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
111	須恵器	坏	12.3	4.2	7.2	長石・小礫	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り	覆土中	70% PL68
112	須恵器	高台付坏	13.2	5.6	9.3	長石・小礫	灰	良好	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け 外面自然釉	床面	80% PL68
113	須恵器	高盤	—	(2.0)	[12.8]	長石・雲母	橙	—	二次焼成のため調整不明	覆土中	10%
114	土師器	甕	[20.6]	(14.5)	—	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	燃焼部底面	20%

第58号住居跡（第53～55図）

位置 調査区南西部のE 2 d8区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.68m、短軸4.00mの長方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は45～55cmで、ほぼ直立している。

床 掘方調査の結果、床面が2面あることが確認された。上面はほぼ平坦な貼床で、支柱穴の内側に硬化面が認められる。貼床は下面の床面上にロームブロック・焼土ブロックなどを含む暗褐色土を14cm埋めて構築されている。壁溝が全周している。下面は拡張以前の床面で、南側に長径86cm、深さ22cm、ロームブロックを含む褐色土を埋土とした不整形な土坑状の掘り込みが確認されている。壁溝が全周している。



第53図 第58号住居跡実測図（1）

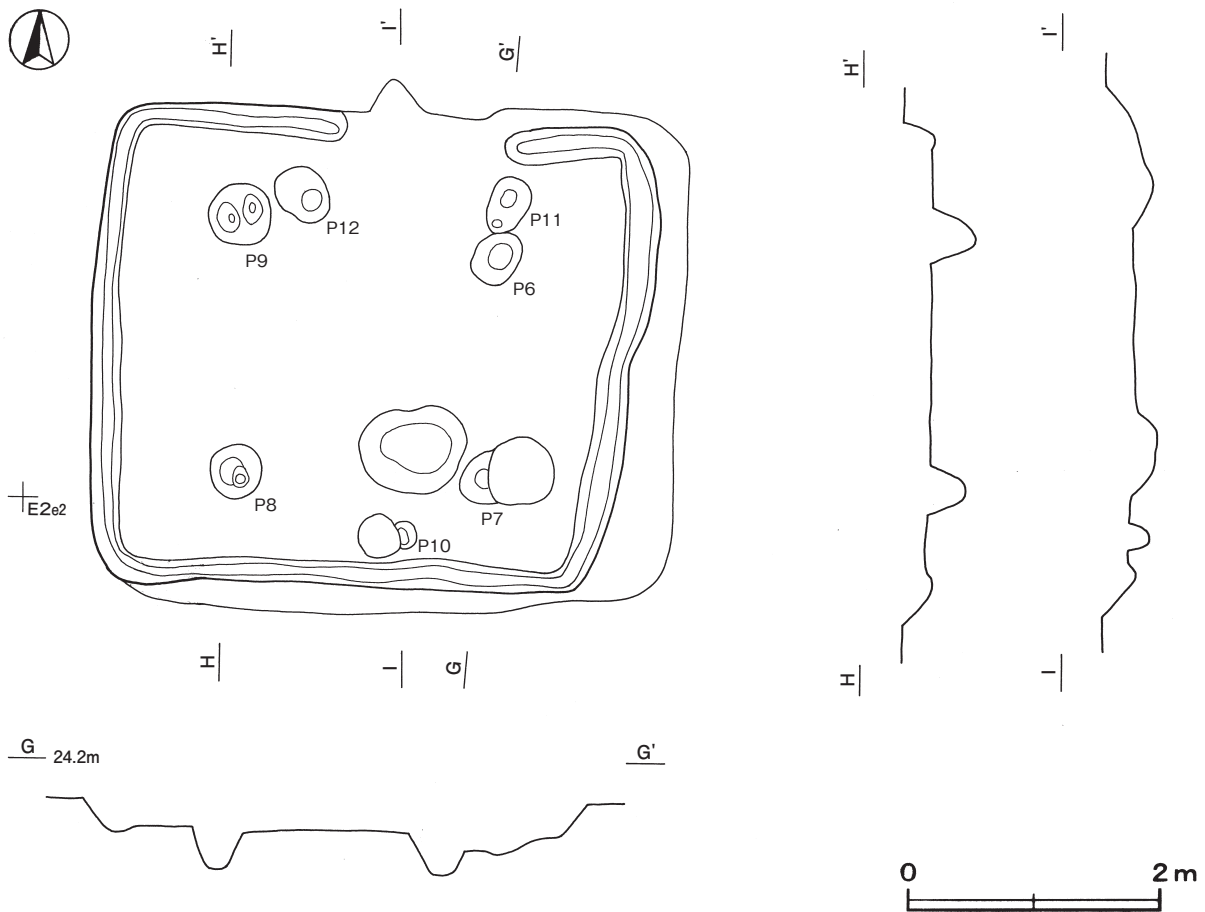
竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで125cm，燃烧部幅は63cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に，粘土ブロックを含む褐色土を積み上げて構築されている。第6～8層は袖部の構築土である。煙道部は，壁外へ三角状に奥行き27cm，幅44cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は赤変硬化していない。第9～12層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	7 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	9 暗褐色	焼土ブロック・灰中量，ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量	10 にぶい黄褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5 にぶい黄褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量	11 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6 褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土ブロック少量	12 褐色	炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量

ピット 12か所。P1～P4は深さ21～43cmで，いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。P5は深さ16cmで，南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6～P9は深さ30～34cmで，配置から拡張以前の主柱穴である。P11・P12は，竈を挟むように北壁際に位置していることから，竈の付属施設の柱穴と考えられる。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックを多く含む人為堆積である。第10・11・14層は貼床の構築土である。第12・13層は掘方への埋土である。



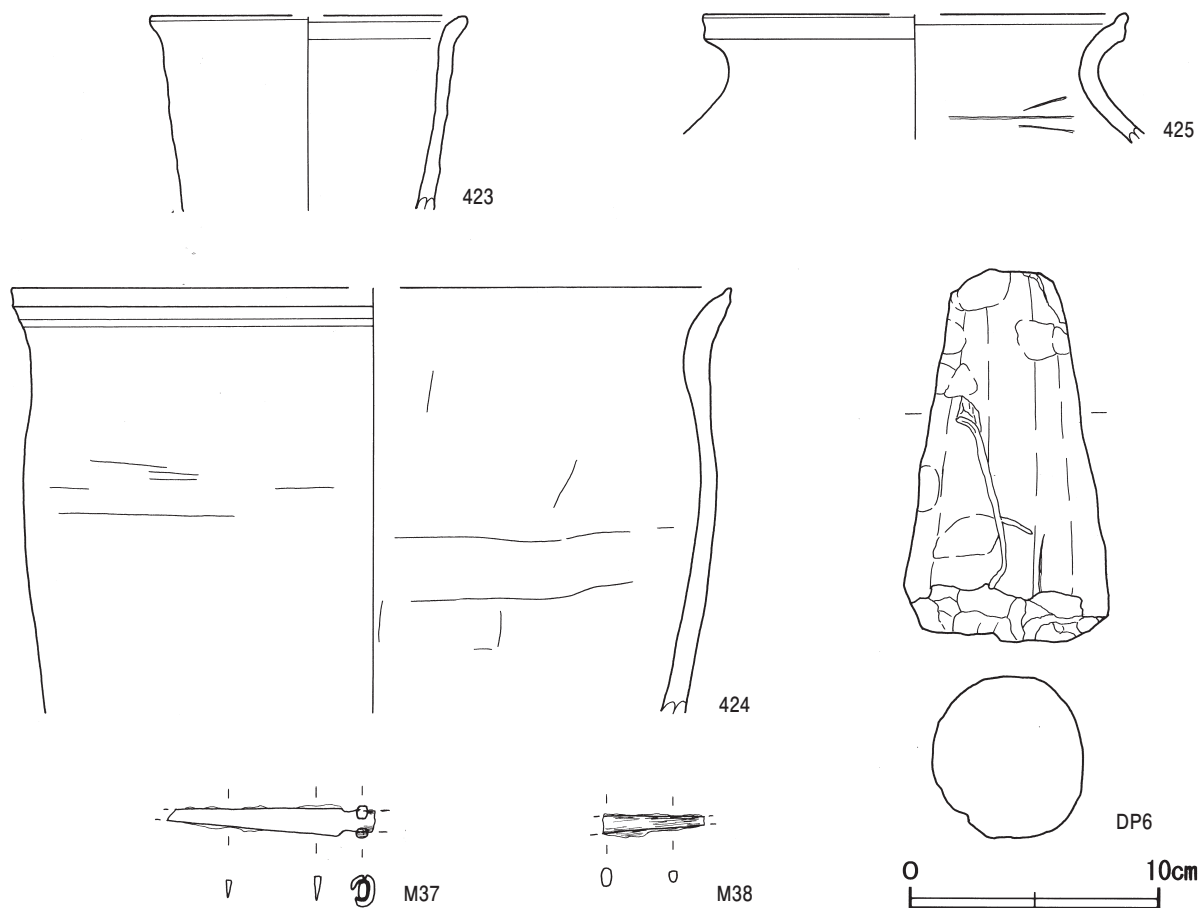
第54図 第58号住居跡実測図(2)

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 黒色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器小形甕 1点, 甕 2点, 土製支脚 1点, 刀子 2点のほか, 土師器片125点(坏17・甕108), 須恵器片10点(坏7・甕3)が出土している。424は竈右袖部, 425は竈前面の床面からそれぞれ出土している。423は竈右袖前面の貼床構築土内から出土しており, 拡張以前の住居に伴う遺物と考えられる。DP6はピット3の覆土下層から, M37・M38は南西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。また, 拡張以前の時期については, 出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第55図 第58号住居跡出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表 (第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
423	土師器	小形甕	[12.7]	(7.8)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	内面ヘラナデ	貼床構築土内	15%
424	土師器	甕	[14.5]	(17.0)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ 輪積痕	竈下層	30%
425	土師器	甕	[16.9]	(5.1)	—	長石・石英・雲母	明褐	普通	輪積痕	床面	5%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP6	支脚	15.0	4.3	8.2	620.0	土(長石・石英)	ナデ 指頭痕	P3下層	PL91

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M37	刀子	(8.5)	1.1	0.4	(6.7)	鉄	刃部・茎部欠損 両閃 刃部断面三角形 茎部に木質残存 貴金具残存	覆土中層	PL94
M38	刀子	(4.1)	0.8	0.4	(2.7)	鉄	刃部欠損 茎部断面長方形 茎部に木質残存	覆土中層	

第59号住居跡 (第56～58図)

位置 調査区南西部のE2f6区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南東コーナー部の床面を第140号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.45m、短軸4.16mの方形で、主軸方向はN-8°-Eである。壁高は12～20cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で、主柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝がほぼ全周している。貼床は、外周部を確認面から20cmほど掘り込み、ロームブロックを含む暗褐色土を埋めて構築されている。また中央部には、長径87～131cm、深さ54～82cm、ロームブロックを含む暗褐色土を埋土した不整形な土坑状の掘り込みが4か所確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで100cm、燃焼部幅は60cmである。袖部は床面を10cmほど掘り込んだ地山の上に、粘土ブロックを含むいぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。第12～14層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き14cm、幅57cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を5cm掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2 黒褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	9 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子微量
3 いぶい黄褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量	10 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 褐色	炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	12 褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
6 暗褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	13 いぶい黄褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック少量
7 暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量	14 いぶい黄褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ46～59cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。

P5は深さ39cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

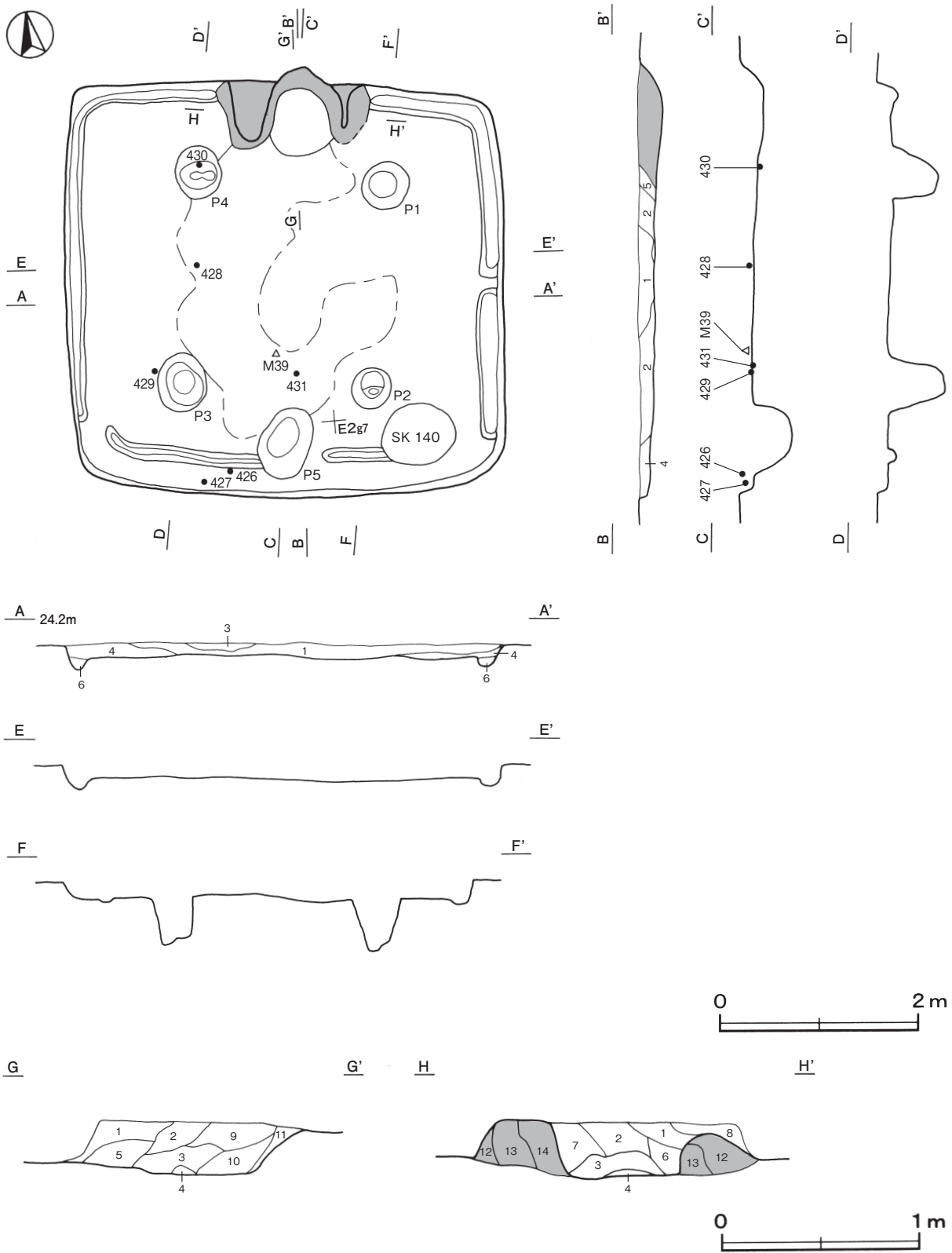
覆土 6層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。第7層は貼床の構築土である。第8～16層は掘方への埋土である。

土層解説

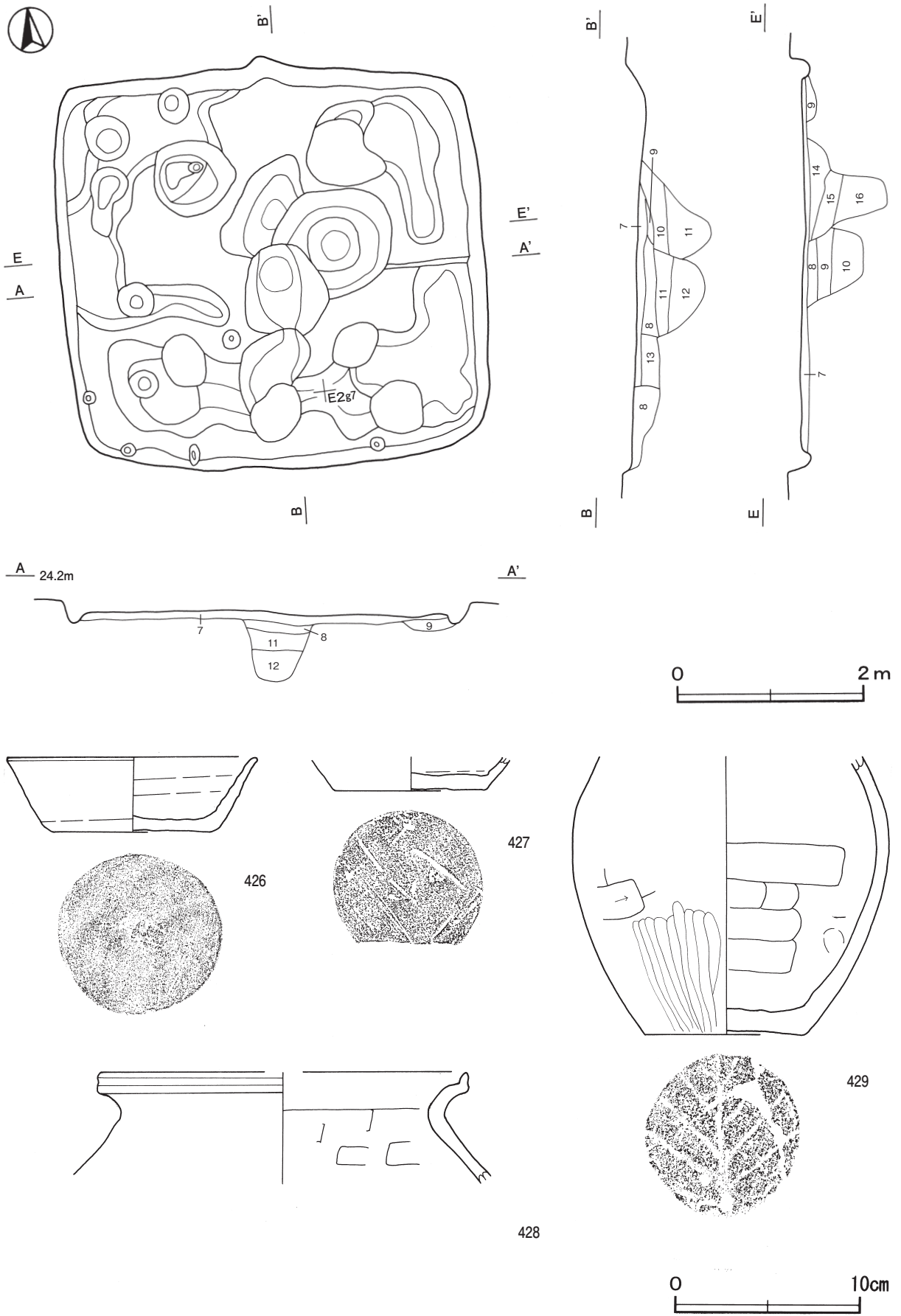
1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	灰多量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11 褐色	ロームブロック中量
4 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	13 黒褐色	ロームブロック少量
6 極暗褐色	ロームブロック中量	14 灰褐色	ロームブロック中量
7 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	15 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
8 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量	16 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器甕3点、須恵器坏2点、甗1点、鉄釘1点のほか、土師器片229点(坏17・甕212)、須恵器片64点(坏46・蓋1・瓶1・甕16)、が出土している。430は竈前面、428は中央部の床面、429は南西部の

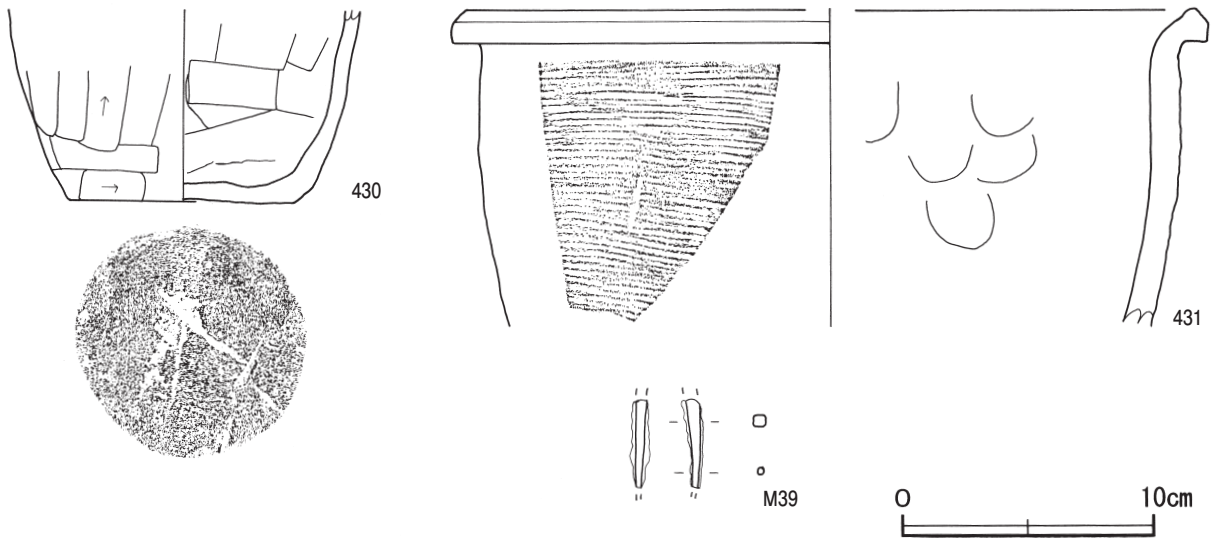
床面，431は貼床構築土内，426・427は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。
 所見 時期は，出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第56図 第59号住居跡実測図（1）



第57図 第59号住居跡・出土遺物実測図



第58図 第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表（第57・58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
426	須恵器	坏	13.5	4.1	8.5	長石・石英	暗灰褐	普通	底部一方向のヘラ削り	覆土中層	95% PL68
427	須恵器	坏	—	(1.9)	8.3	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土中層	25%
428	土師器	甕	[19.6]	(5.9)	—	長石・石英	明赤褐	普通	内面ヘラナデ	床面	5%
429	土師器	甕	—	(15.0)	8.5	長石・石英・雲母	褐	普通	体部中位ヘラ削り 下位ヘラ磨き 内面ヘラナデ指頭痕	床面	60%
430	土師器	甕	—	(7.7)	9.0	長石・石英・雲母	灰褐	やや不良	体部ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	床面	30%
431	須恵器	甗	[29.0]	(12.5)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部横位の平行叩き 内面当て具痕	貼床内	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M39	釘	(3.6)	0.6	0.4	(4.0)	鉄	頭部・端部欠損 断面長方形	覆土中層	

第68号住居跡（第59・60図）

位置 調査区北部のB 3i7区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.04m、短軸3.38mの長方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は34~39cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで110cm、燃焼部幅は49cmである。袖部は床面と同じ高さの地上の上に、砂質粘土ブロックを含むにぶい赤褐色土を積み上げて構築されている。第9層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き49cm、幅80cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を約17cm掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

電土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	7	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	8	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
4	黒褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量	9	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
5	暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量			

ピット 深さは15cmで、中央部に位置しているが、性格は不明である。

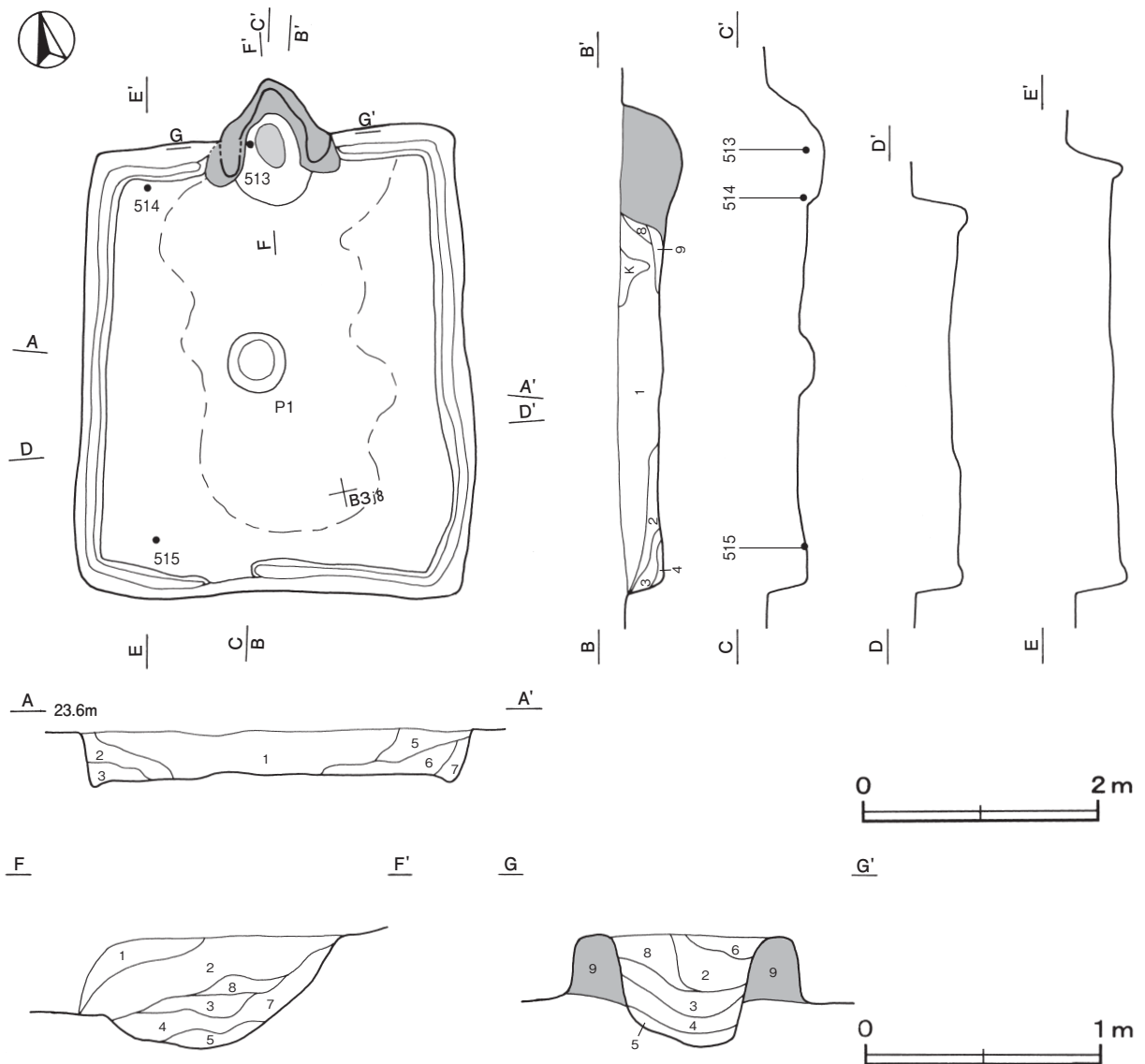
覆土 9層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

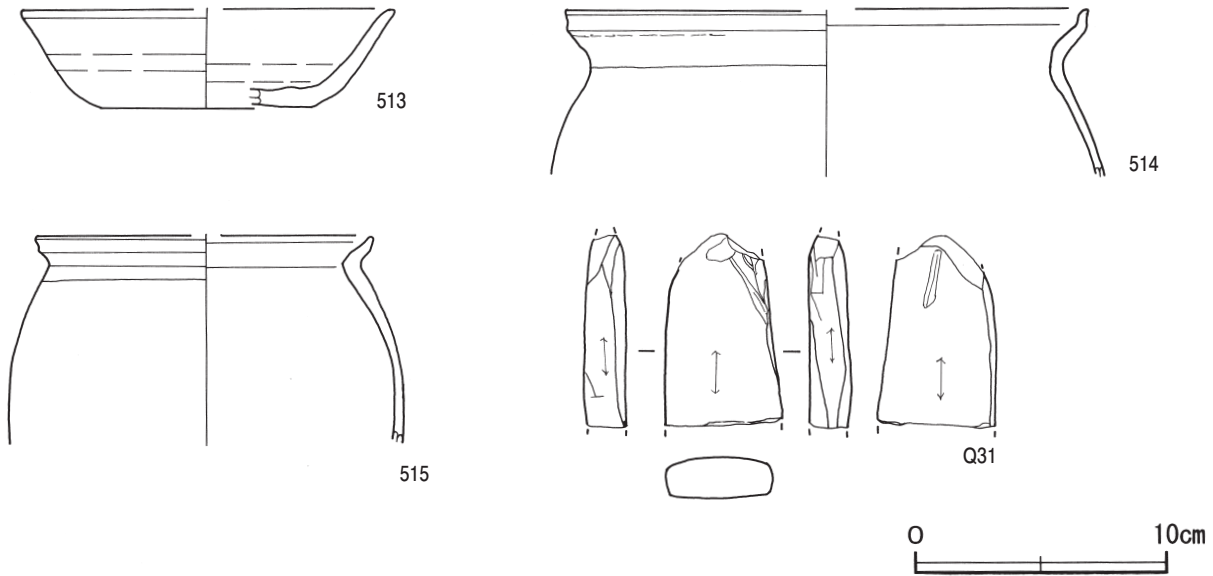
- | | | | |
|-------|------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器小形甕・甕各1点, 須恵器坏1点, 砥石1点のほか, 土師器片87点(坏7・高台付坏1・甕79), 須恵器片34点(坏13・甕21)が出土している。513は竈の火床部付近から出土しており, 二次焼成を受けている。514は北西部, 515は南西部の床面, Q31は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第59図 第68号住居跡実測図



第60図 第68号住居跡出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備 考
513	須恵器	坏	[15.0]	3.9	[8.4]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ削り	竈火床面	30%
514	土師器	甕	[20.8]	(6.6)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内面ヘラナデ 輪積痕	床面	5%
515	土師器	小形甕	[13.4]	(8.3)	—	長石・石英	明赤褐	普通	内面ヘラナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q31	砥石	(7.6)	4.7	1.7	(77.7)	凝灰岩	砥面4面のうち1面に溝状の研磨痕あり	覆土中	PL93

第69号住居跡（第61・62図）

位置 調査区北部のC 4 a7区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

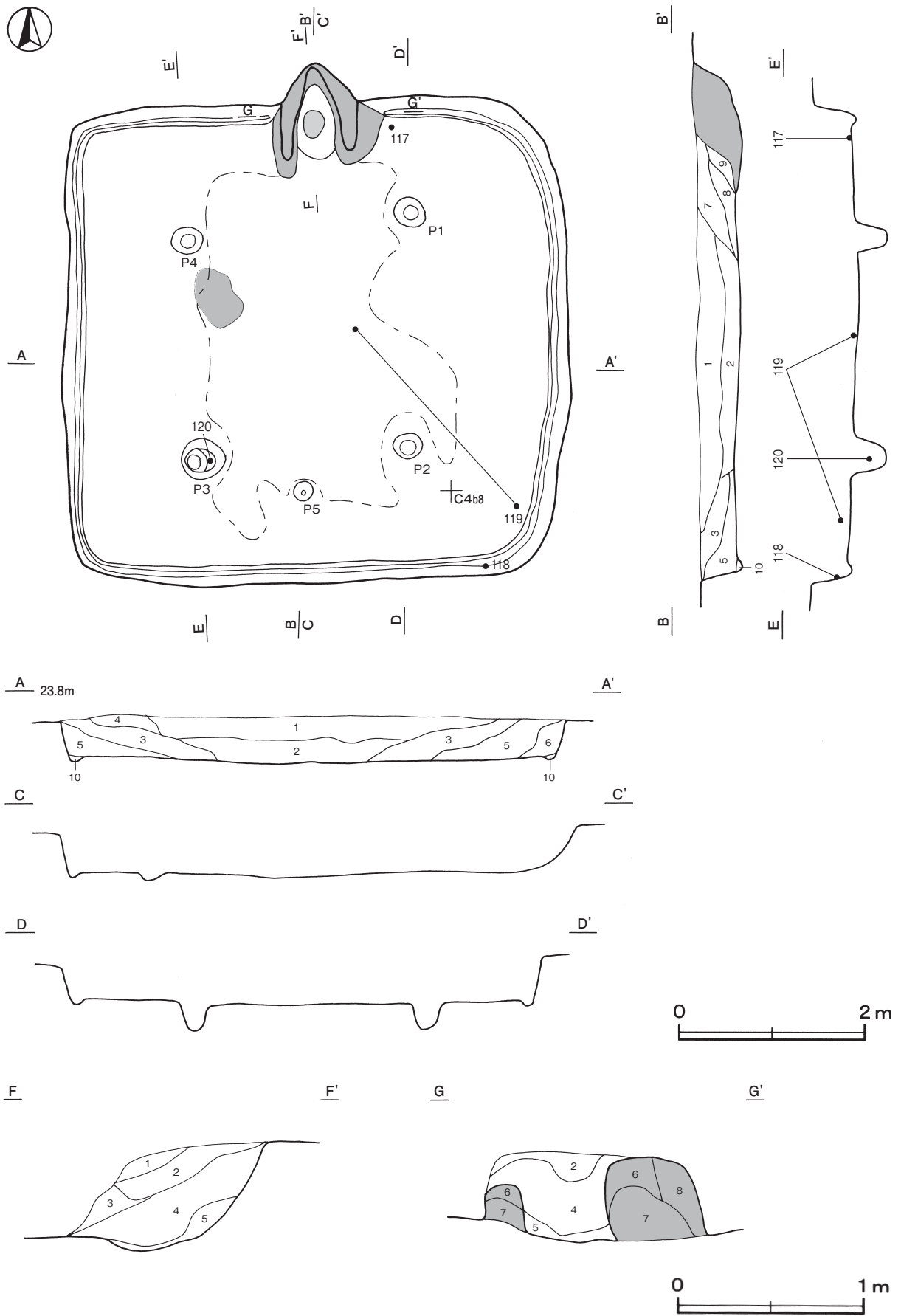
規模と形状 長軸5.54m、短軸5.22mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は40~48cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、主柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が全周している。西部の床面直上に粘土塊が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで114cm、燃焼部幅53cmである。右袖部は床面をわずかに掘り込み、左袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、砂質粘土ブロックを含む暗褐色土やにぶい褐色土を積み上げて構築されている。第6~8層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き45cm、幅46cm掘り込み構築されている。火床部は赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|---------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、
焼土粒子微量 | 6 にぶい褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・
炭化粒子微量 | 7 褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子
微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |



第61图 第69号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ25～40cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ11cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

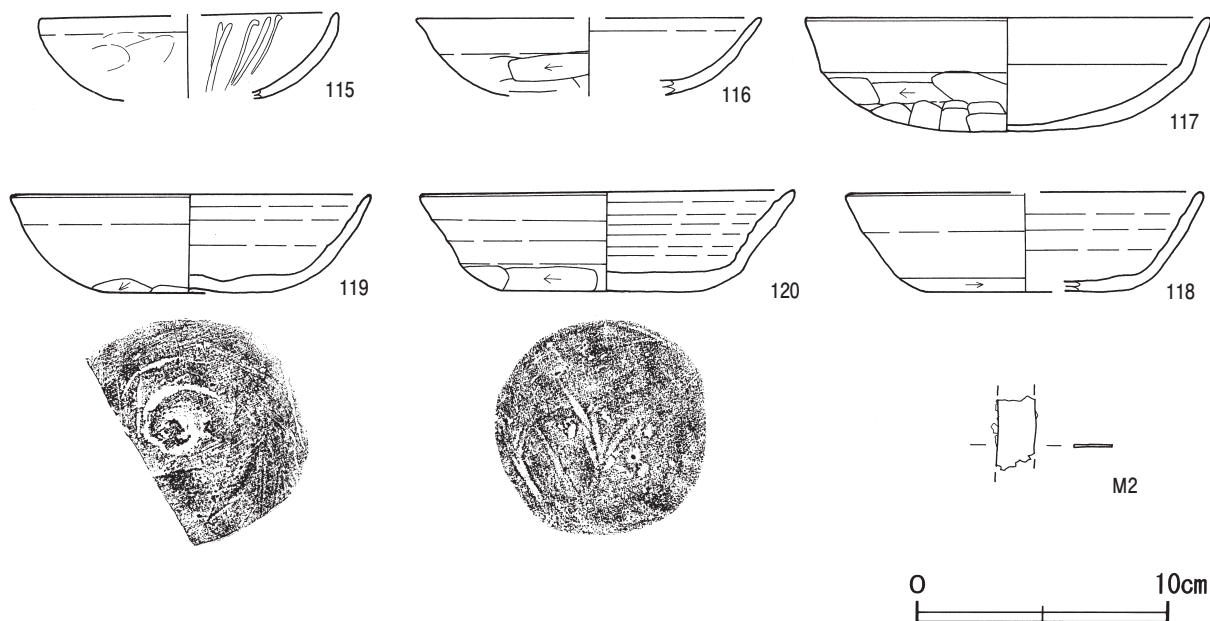
覆土 10層に分層できる。レンズ状の堆積をしているが、各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子多量，ロームブロック中量 | 6 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量，ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 8 にぶい褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量 | 9 灰褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 10 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器坏3点，須恵器坏3点，不明鉄製品1点のほか，土師器片115点（坏29・甕86），須恵器片26点（坏18・甕7・瓶1）が出土している。117は竈右袖脇の床面，118は南東コーナー部の覆土下層，120はP3内の覆土中層からそれぞれ出土している。119は南東コーナー部の覆土下層と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。115・116は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第62図 第69号住居跡出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
115	土師器	坏	[12.0]	(3.3)	—	長石・赤色粒子	橙	良好	体部指頭痕 内面ヘラ磨き	覆土中	5%
116	土師器	坏	[13.8]	(3.1)	—	石英	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り	覆土中	50%
117	土師器	坏	[16.0]	4.5	—	長石・赤色粒子	明赤褐色	普通	底部手持ちヘラ削り	床面	60% PL68
118	須恵器	坏	[14.0]	3.9	[10.0]	長石・小礫	灰	普通	底部不定方向の手持ちヘラ削り 外周回転ヘラ削り	覆土下層	20%
119	須恵器	坏	[14.2]	3.9	[8.0]	長石・小礫	灰	良好	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向の手持ちヘラ削り	覆土下層 床面	30%
120	須恵器	坏	14.8	4.0	11.3	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	不良	底部不定方向の手持ちヘラ削り 外周手持ちヘラ削り	P3覆土 中層	98% PL68

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	不明鉄製品	(2.9)	1.6	0.1	(1.70)	鉄	板状	覆土中	

第71号住居跡 (第63・64図)

位置 調査区北部のC 4 a5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

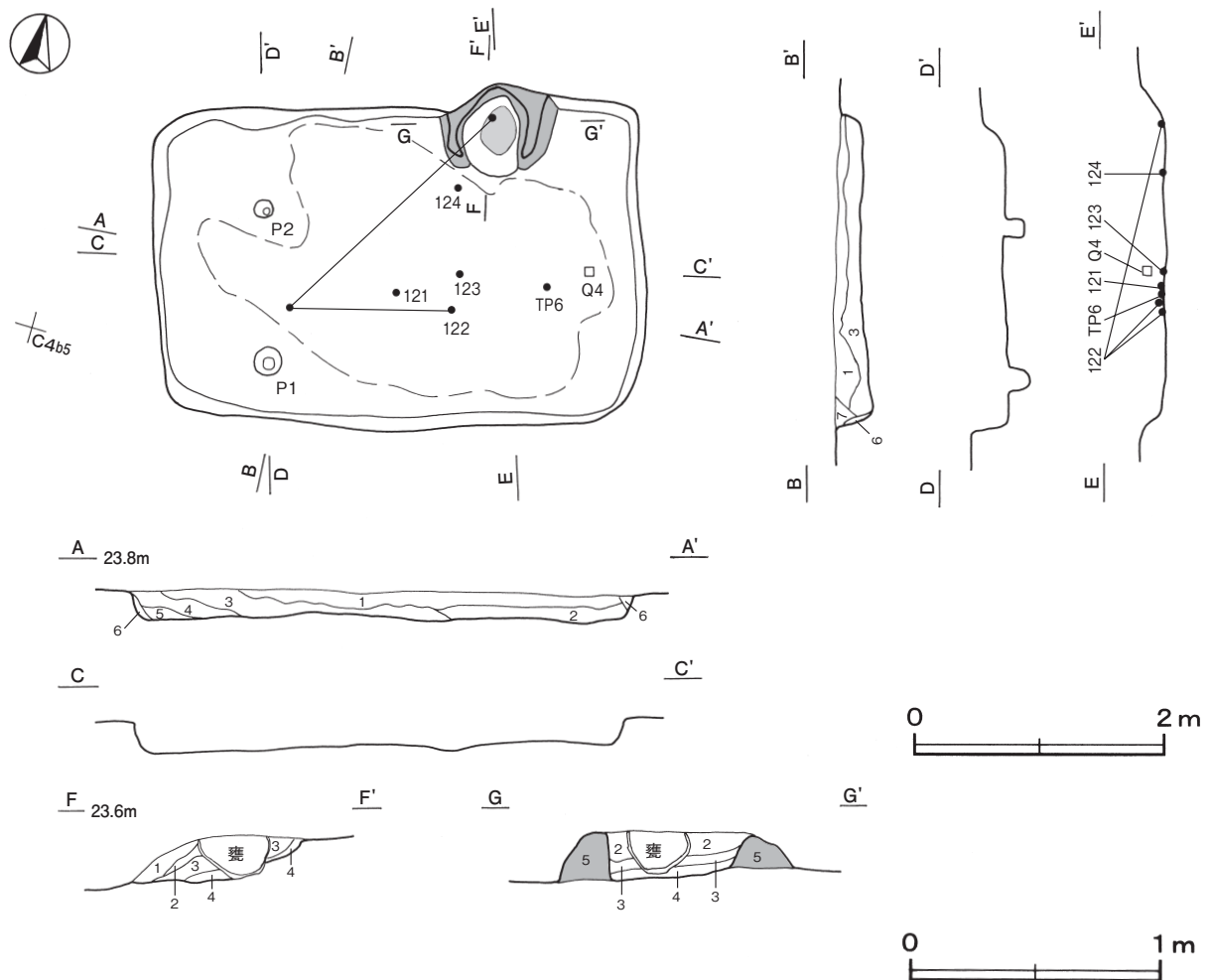
規模と形状 長軸3.94m、短軸2.57mの長方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は17~23cmで、外傾して立ちあがっている。

床 中央部がわずかに高く、壁際を除いて硬化面が認められる。

竈 北壁の東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで75cm、燃焼部幅45cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、ロームブロックを含む黄褐色粘土を積み上げて構築されている。第5層が袖部の構築土である。火床部は床面と同じ高さで、火床面は赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| | | 5 黄褐色 | ロームブロック・黄褐色粘土ブロック中量 |



第63図 第71号住居跡実測図

ピット 2か所。P1・P2はいずれも深さ18cmで、南西・北西コーナー部に位置していることから支柱穴の可能性はある。

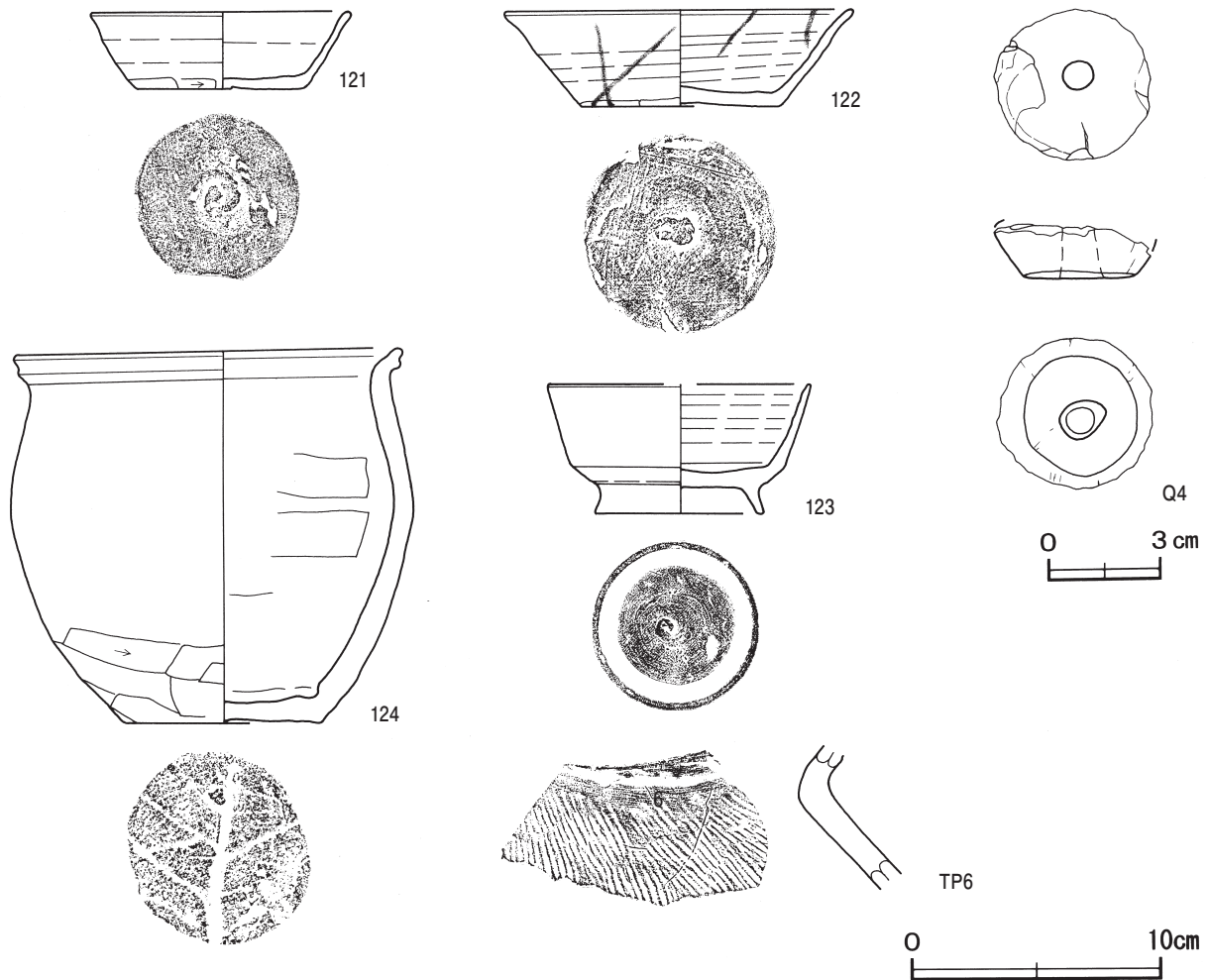
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていること、不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック多量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器小形甕1点、須恵器坏2点、高台付坏1点、甕1点、石製紡錘車1点のほか、土師器片112点(坏4・甕107・小形甕1)、須恵器片10点(坏5・甕5)が出土している。121・123・TP6は中央部の床面、124は竈左袖付近の床面、Q4は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。122は中央部と西部の床面、竈の火床面から出土した破片が接合したものである。図示はしていないが、竈火床面には、土師器甕の体部下半部が置かれた状態で出土している。

所見 本跡は長軸が短軸の1.5倍という横長の住居跡である。時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第64図 第71号住居跡出土遺物実測図

第71号住居跡出土遺物観察表（第64図）

	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
121	須恵器	坏	10.2	3.2	6.6	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向の手持ちヘラ削り	床面	60% PL68
122	須恵器	坏	13.8	3.9	8.0	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向の手持ちヘラ削り 火襷あり	床面	70% PL69
123	須恵器	高台付坏	[10.4]	5.2	6.8	石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	床面	80% PL69
124	土師器	小形甕	15.4	15.1	8.0	長石	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	100% PL69
TP6	須恵器	甕	—	(5.8)	—	長石・赤色粒子	褐	不良	外面縦位の平行叩き	床面	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	紡錘車	(4.1)	(1.5)	0.8	(20.4)	粘板岩	断面逆台形 側面研磨	覆土中層	

第72号住居跡（第65・66図）

位置 調査区北部のC4f7区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北西コーナー付近の床面を第48号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.77m、短軸4.54mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は45cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。北西コーナー付近を除いて壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで123cm、燃焼部幅は62cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、砂質粘土ブロックを含む灰黄褐色土を積み上げて構築されている。第6・7層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に15cm、幅90cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|---------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 | 6 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土ブロック多量、砂質粘土粒子少量 | 7 にぶい褐色 | 焼土粒子少量、砂質粘土ブロック微量 |
| 4 灰黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1～P3は深さ15～29cmで、規模と位置から主柱穴である。P4は深さ24cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

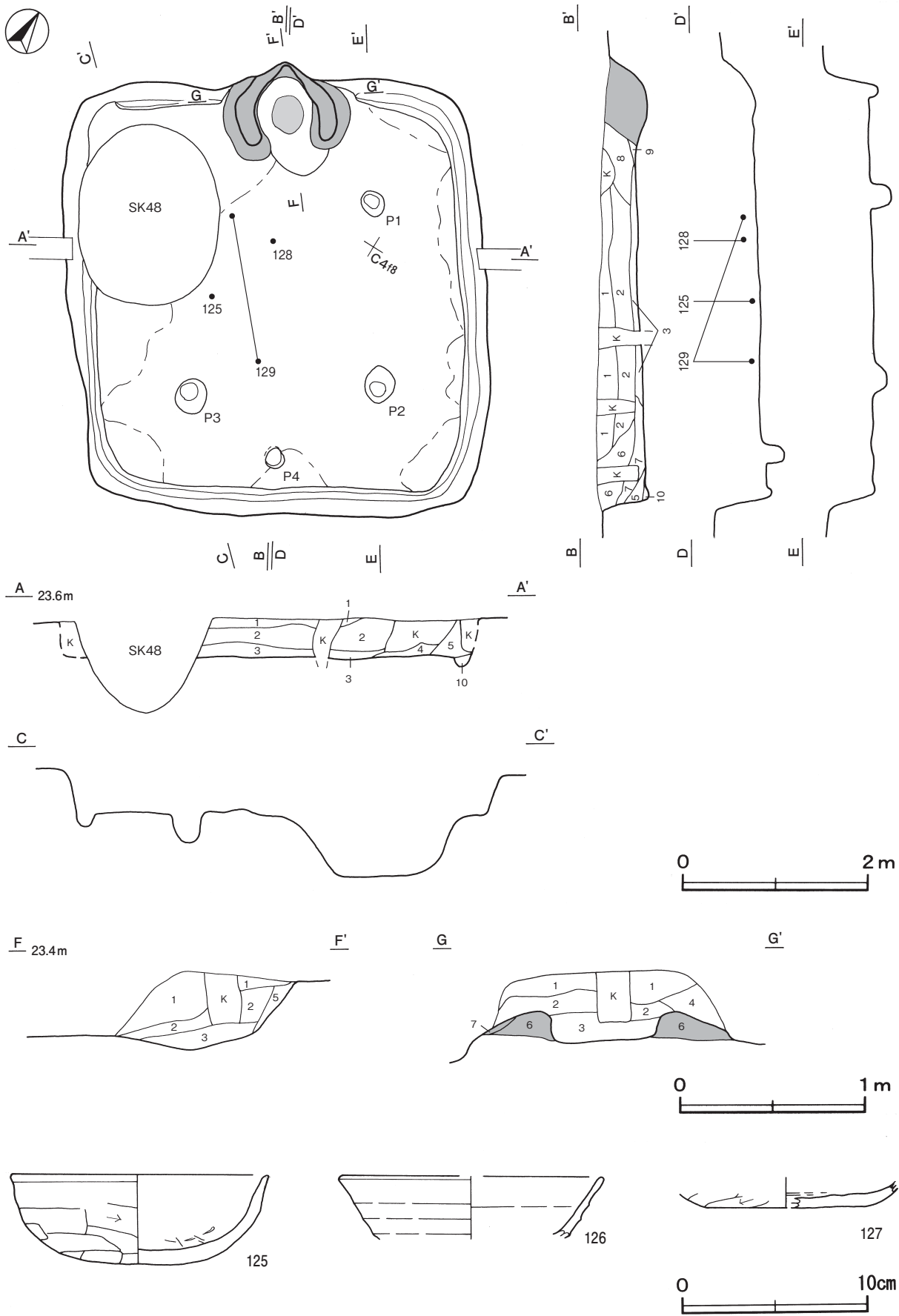
覆土 10層に分層できる。レンズ状の堆積を呈しているが、各層にロームブロックが含まれており、埋め戻されている。

土層解説

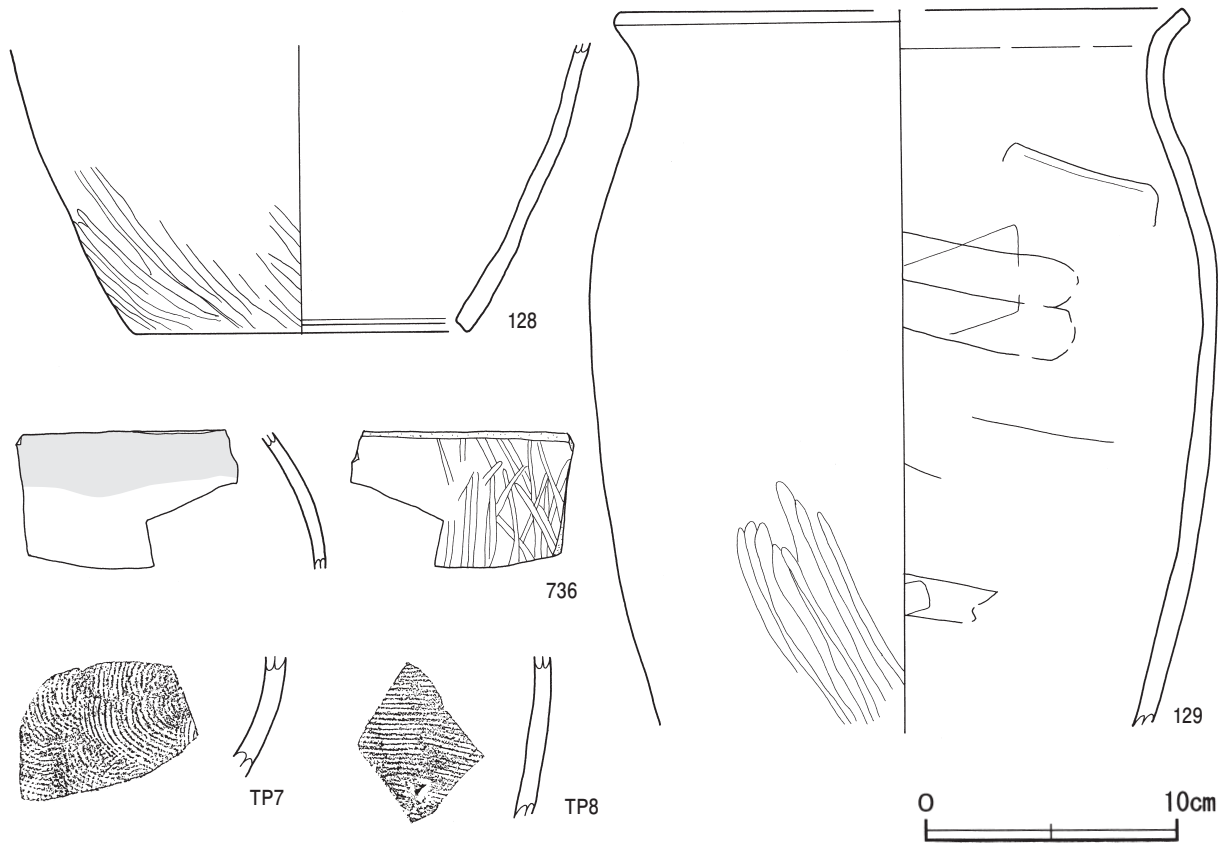
- | | | | |
|--------|------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 9 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量、白色粘土ブロック少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック多量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器坏・甑・甕が各1点、須恵器坏2点、甕2点、灰釉陶器甕カ1点のほか、土師器片206点（坏15・甕187・甑4）、須恵器片38点（坏14・甕24）が出土している。736の灰釉陶器は混入である。125は西部、128は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。126・127・736・TP7・TP8は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第65図 第72号住居跡・出土遺物実測図



第66図 第72号住居跡出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表 (第65・66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
125	土師器	坏	13.7	4.8	—	長石・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り	覆土下層	70% PL69
126	須恵器	坏	[14.0]	(3.3)	—	長石・石英	灰黄	不良	ロクロナデ	覆土中	20%
127	須恵器	坏	—	(1.2)	[8.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	不良	底部不定方向の手持ちヘラ削り 二次底面	覆土中	20%
128	土師器	甎	—	(11.4)	[13.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ磨き	覆土下層	10%
129	土師器	甎	[23.0]	(28.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	40%
736	灰釉陶器	甎カ	—	(5.4)	—	堅密	灰	良好	外面斜位の平行叩き 内面同心円文の当て具痕を消す磨き	覆土中	5%
TP7	須恵器	甎	—	(4.8)	—	長石・雲母	灰	普通	外面同心円文の叩き	覆土中	
TP8	須恵器	甎	—	(6.5)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	外面横位の平行叩き	覆土中	

第76号住居跡 (第67図)

位置 調査区北部のC 5 a5区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南東部は攪乱を受けているために、南北軸は3.42mで、確認できた東西軸は3.28mだけである。主軸方向がN-9°-Eの方形と推測できる。壁高は27cmで、ほぼ直立している。

床 確認できた範囲はほぼ平坦で、竈前面から中央寄りの部分に硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで76cm、燃焼部幅は48cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、砂質粘土ブロックを含む灰褐色土を積み上げて構築されている。第5～7層が袖部の構築土である。火床部は壁外に位置し、床面より若干高く、火床面は赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 にぶい褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子微量 | | |

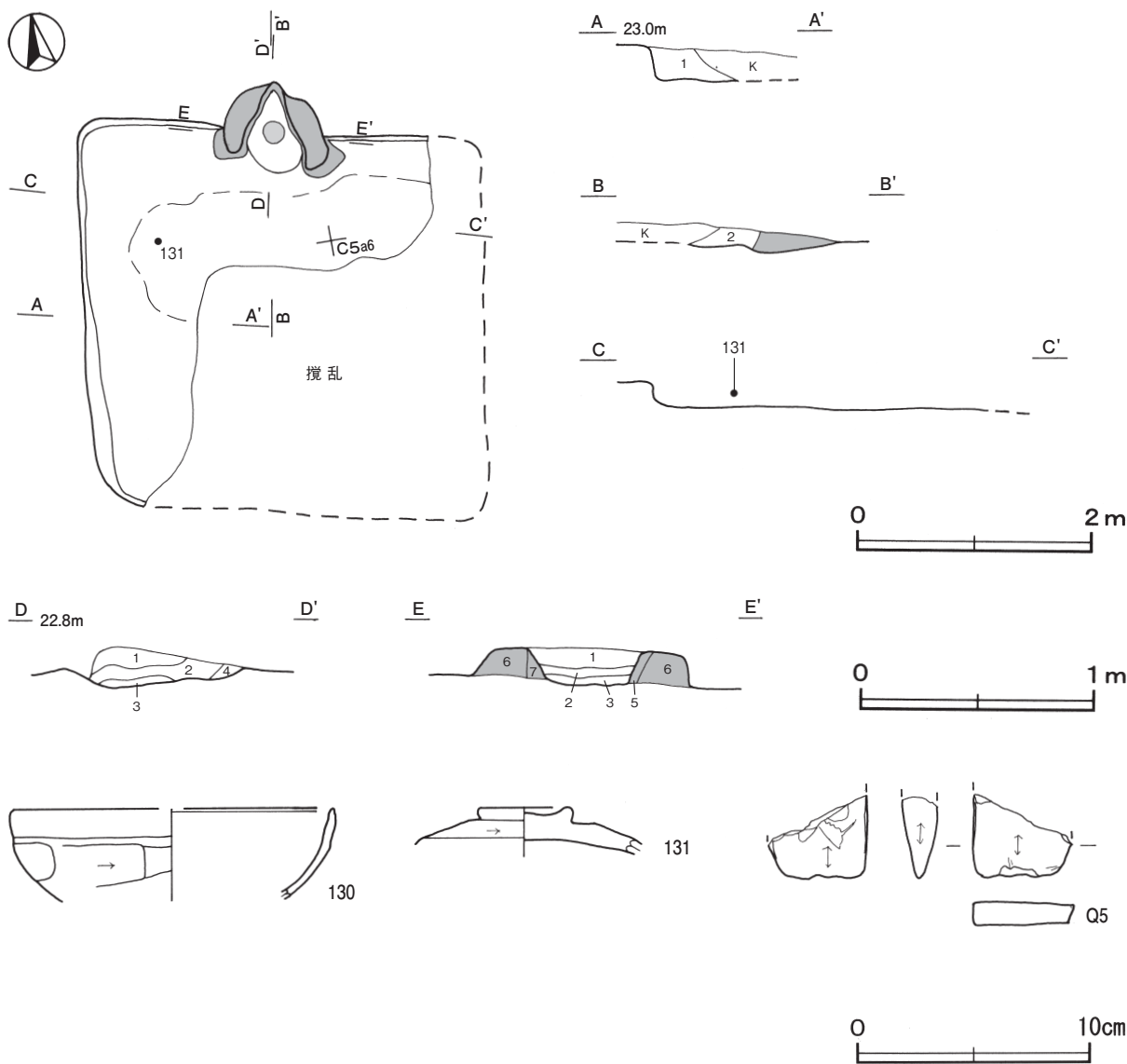
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
|-------|-----------|-------|--------------|

遺物出土状況 土師器坏・須恵器蓋・砥石各1点のほか、土師器片18点（坏3・甕15）、須恵器片5点（坏2・甕3）が出土している。131は西部の覆土中層から、130・Q5は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第67図 第76号住居跡・出土遺物実測図

第76号住居跡出土遺物観察表（第67図）

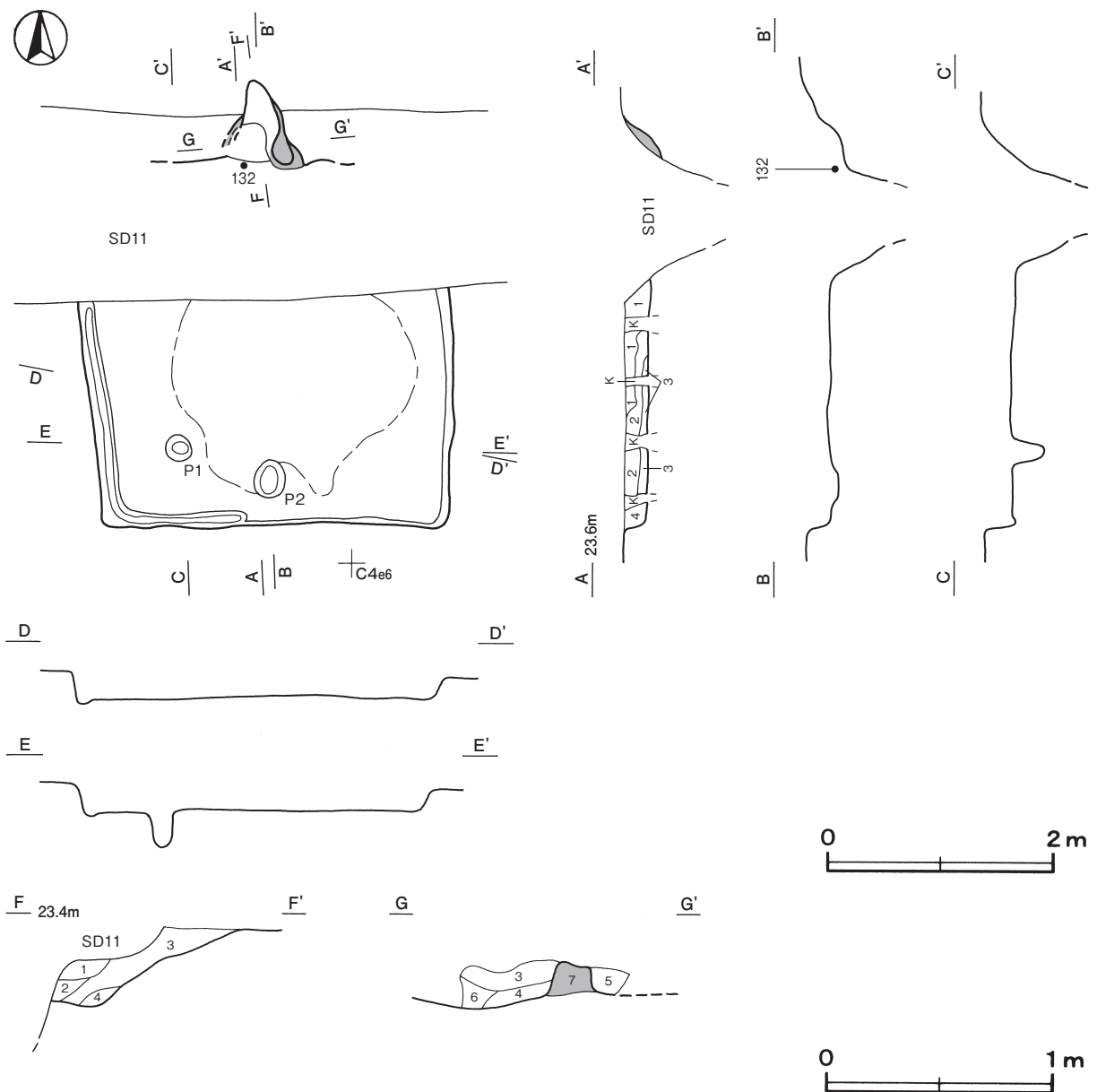
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
130	土師器	坏	[13.6]	(3.9)	—	長石	橙	普通	体部手持ちヘラ削り	覆土中	10%
131	須恵器	蓋	—	(2.0)	—	長石・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	砥石	(3.5)	(4.2)	1.5	(21.1)	粘板岩	砥面3面	覆土中	

第80号住居跡（第68・69図）

位置 調査区北部のC 4 d5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北部を第11号溝に掘り込まれている。



第68図 第80号住居跡実測図

規模と形状 東西軸は3.30m, 確認できた南北軸は2.08mで, 主軸方向がN-0°の方形と推測できる。壁高は19~25cmで, やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が南西コーナー部から西壁にかけて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部と左袖が第11号溝に掘り込まれているため, 確認できた焚口部付近から煙出部までは70cm, 燃焼部幅は49cmである。右袖部はわずかに地山を掘り残し, 砂質粘土を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。第7層が袖部の構築土である。煙道部は, 壁外へ三角形状に奥行き30cm, 幅48cm掘り込み構築されている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1 灰黄褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 4 暗灰黄色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗灰黄色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 6 暗灰黄色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| | 7 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |

ピット 2か所。P1は深さ30cmで南西コーナー部に位置していることから主柱穴とみられる。P2は深さ10cmで, 南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットである。

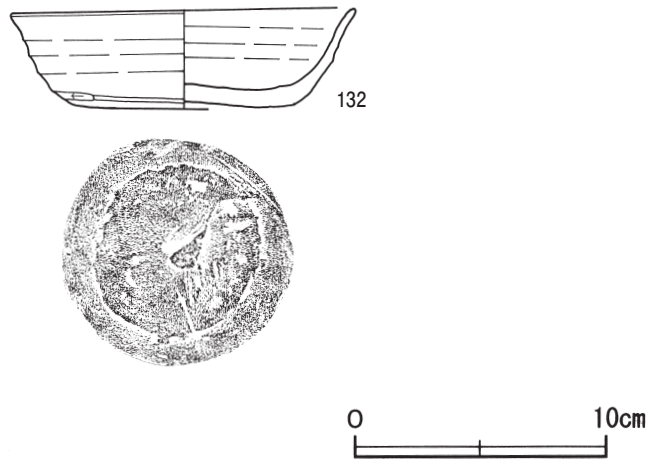
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積を示していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 黒褐色 ローム粒子微量 |

遺物出土状況 須恵器坏1点のほか, 土師器片29点(坏2・甕27), 須恵器6点(坏5・甕1)が出土している。132は竈燃焼部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第69図 第80号住居跡出土遺物実測図

第80号住居跡出土遺物観察表 (第69図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
132	須恵器	坏	13.4	4.0	10.0	長石・雲母	にぶい赤褐	—	底部回転ヘラ切りを残す雑なナデ 二次焼成	燃焼部下層	70% PL69

第81号住居跡（第70・71図）

位置 調査区中央部のC4h5区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南部を第91号住居と第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸4.49m、確認できた南北軸は1.76mで、形状から、主軸方向がN-4°-Wの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は22cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 中央部がわずかに高く、竈前面に硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。煙出部が攪乱を受けているため、焚口部から煙出部まで104cmと推測でき、燃焼部幅は60cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、砂質粘土とロームブロックを含んだ暗褐色土を積み上げて構築されている。第3・4層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形状に奥行き推定45cm、幅120cmほど掘り込んで構築されている。火床部は床面を10cmほど掘り込んでおり、火床部は赤変硬化している。

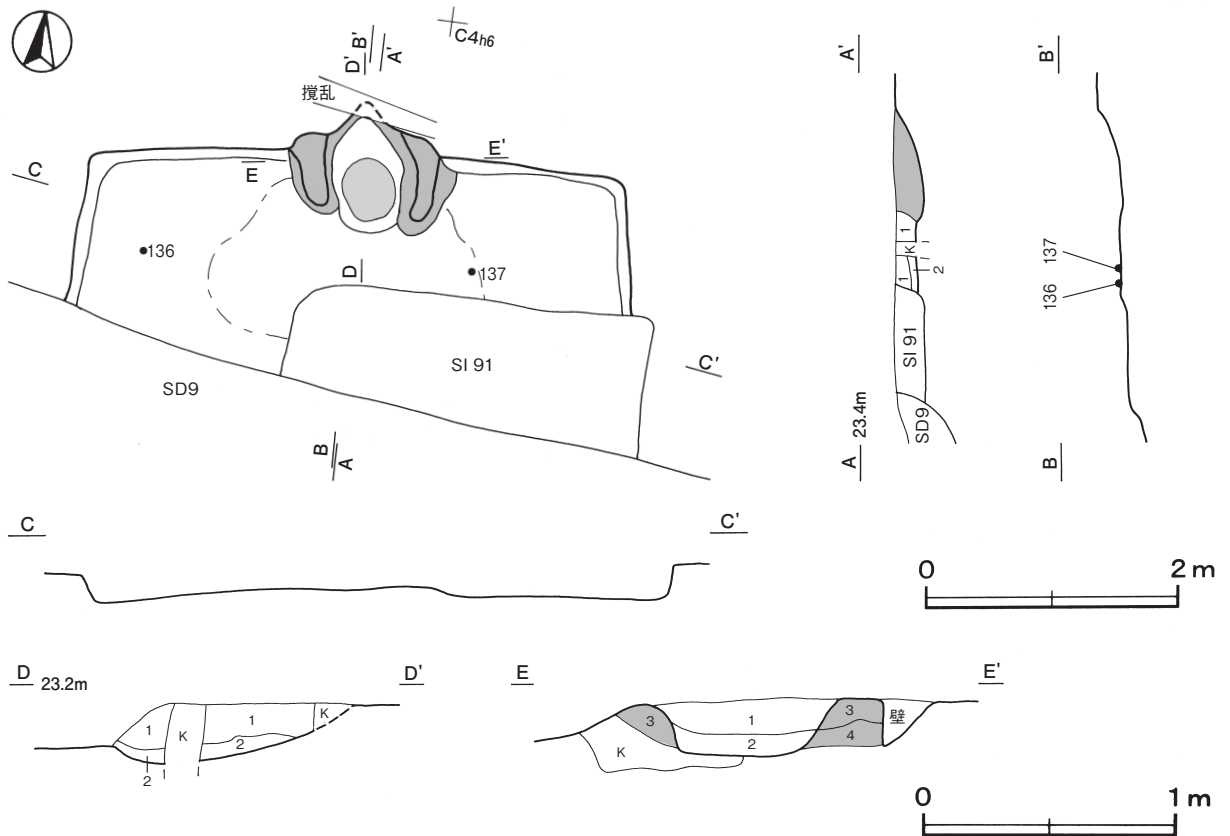
竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 3 暗褐色 砂質粘土粒子中量 |
| 2 灰黄褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |

覆土 2層に分層できる。攪乱が多い上、調査範囲が狭いため判断は難しいが、ブロック状の焼土や粘土が多く含まれていることから埋め戻されていると思われる。

土層解説

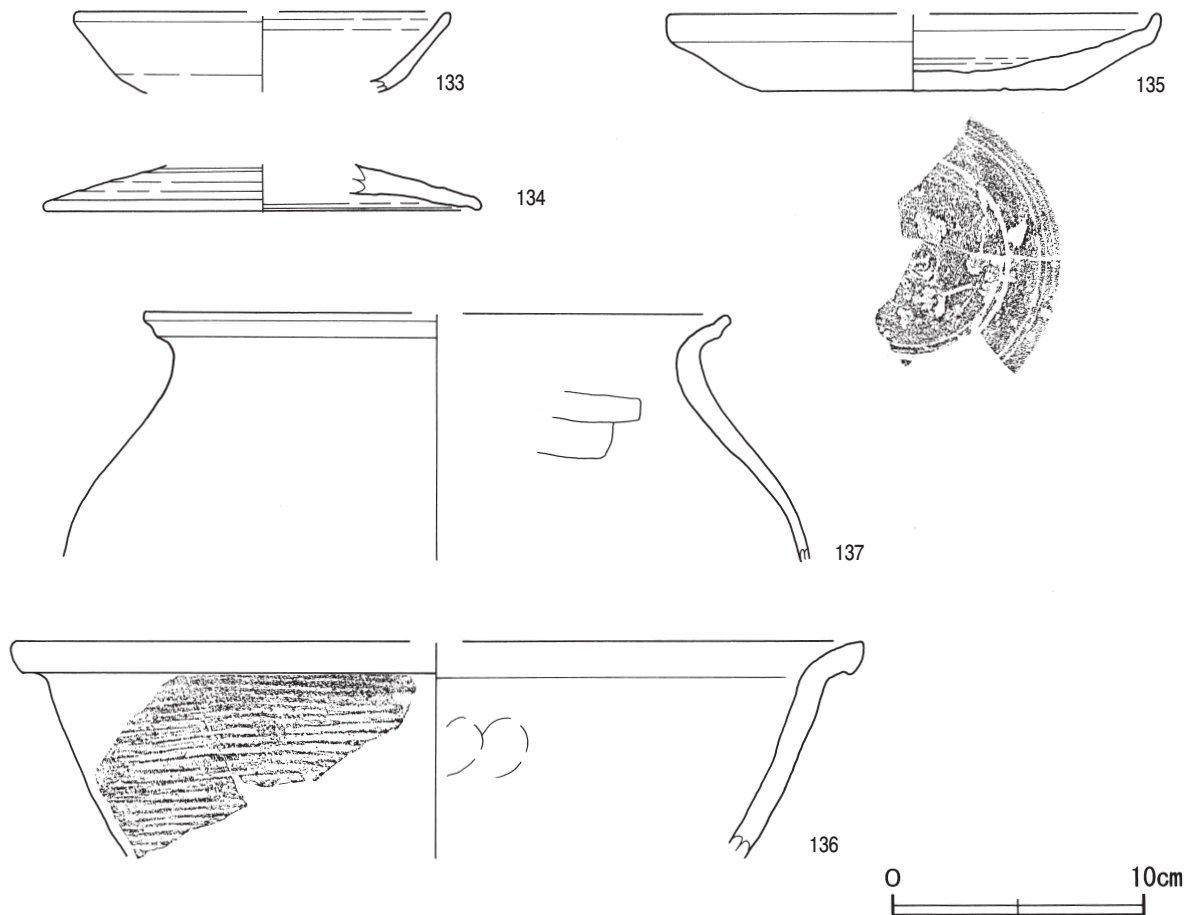
- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 2 灰褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量、ローム粒子微量 |
|-------------------------------|-------------------------------|



第70図 第81号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器甕，須恵器坏・蓋・盤・鉢各1点のほか，土師器片157点（坏12・甕145），須恵器片25点（坏13・高台付坏2・蓋1・甕9）が出土している。136・137は北部の床面，133・134は覆土中からそれぞれ出土している。135は竈の覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第71図 第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
133	須恵器	坏	[15.0]	(3.1)	—	長石	にぶい黄橙	不良	ロクロナデ	覆土中	10%
134	須恵器	蓋	[16.4]	(1.9)	—	長石・小礫	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
135	須恵器	盤	[19.6]	3.1	[12.0]	長石・雲母	にぶい黄橙	—	底部回転ヘラ削り 二次焼成	竈覆土中	30%
136	須恵器	鉢	[33.6]	(8.6)	—	長石・小礫	灰	普通	体部横位の平行叩き 内面押圧痕	床面	5%
137	土師器	甕	[23.0]	(9.8)	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラナデ	床面	10%

第84号住居跡（第72・73図）

位置 調査区北東部のC5f4区で，標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南東部を第163号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.40m，短軸3.84mの長方形で，主軸方向はN-18°-Wである。壁高は20~23cmで外傾して

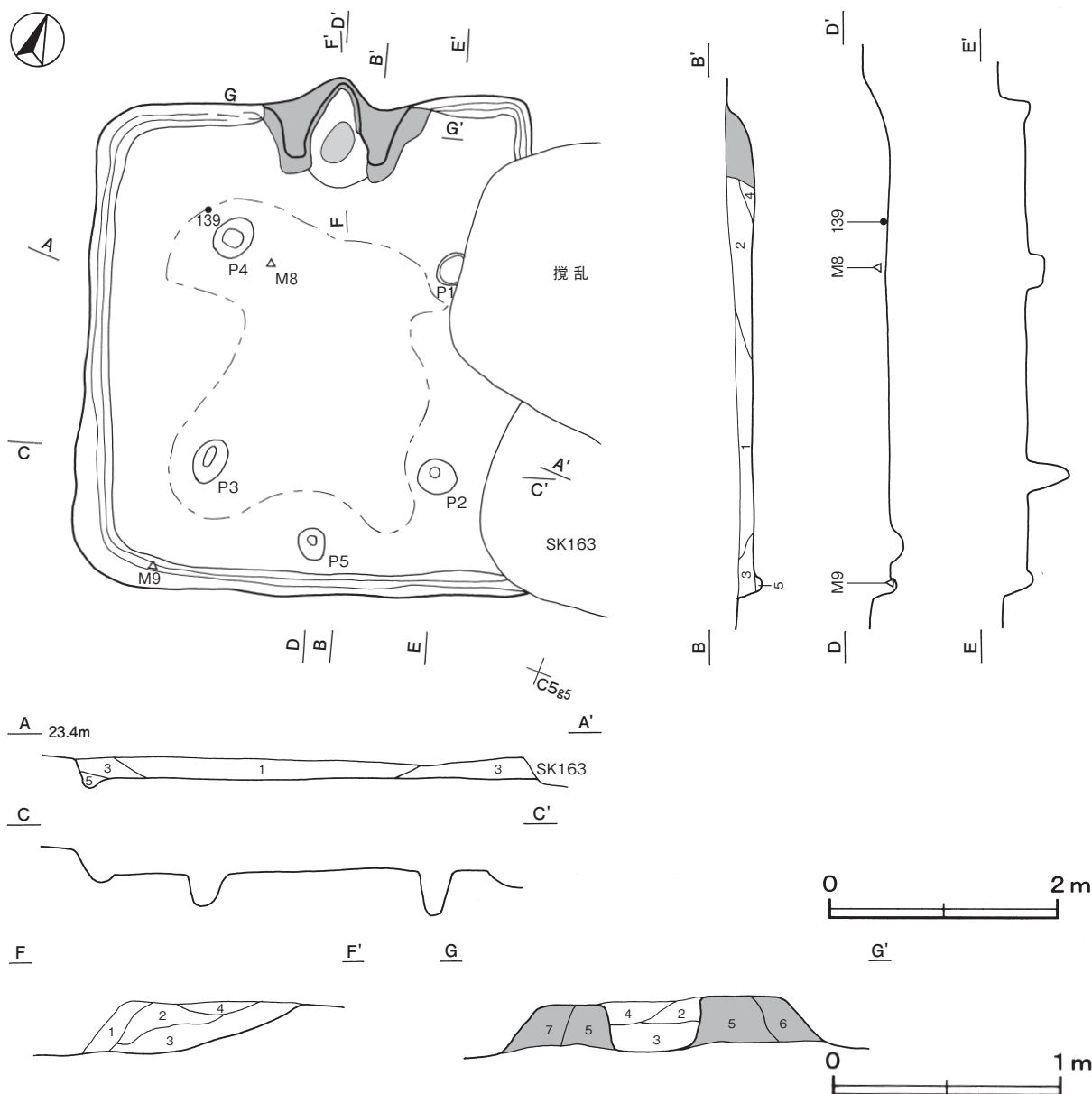
立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで100cm， 燃烧部幅は53cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に， 内壁側には砂質粘土ブロックを含む灰褐色土を， 外側にはロームブロックを含む暗褐色土を貼り付けるように構築されている。第5～7層が袖部の構築土である。煙道部は， 壁外へ三角形状に奥行き23cm， 幅60cm掘り込み構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで， 火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 5 灰褐色 砂質粘土ブロック中量， 焼土ブロック少量， 炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 砂質粘土ブロック中量， 焼土粒子少量 | 6 暗褐色 炭化粒子少量， ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック中量， ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量， 焼土粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量， 焼土ブロック・ローム粒子少量 | |



第72図 第84号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ20～40cmで位置と形状から支柱穴である。P5は深さ14cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

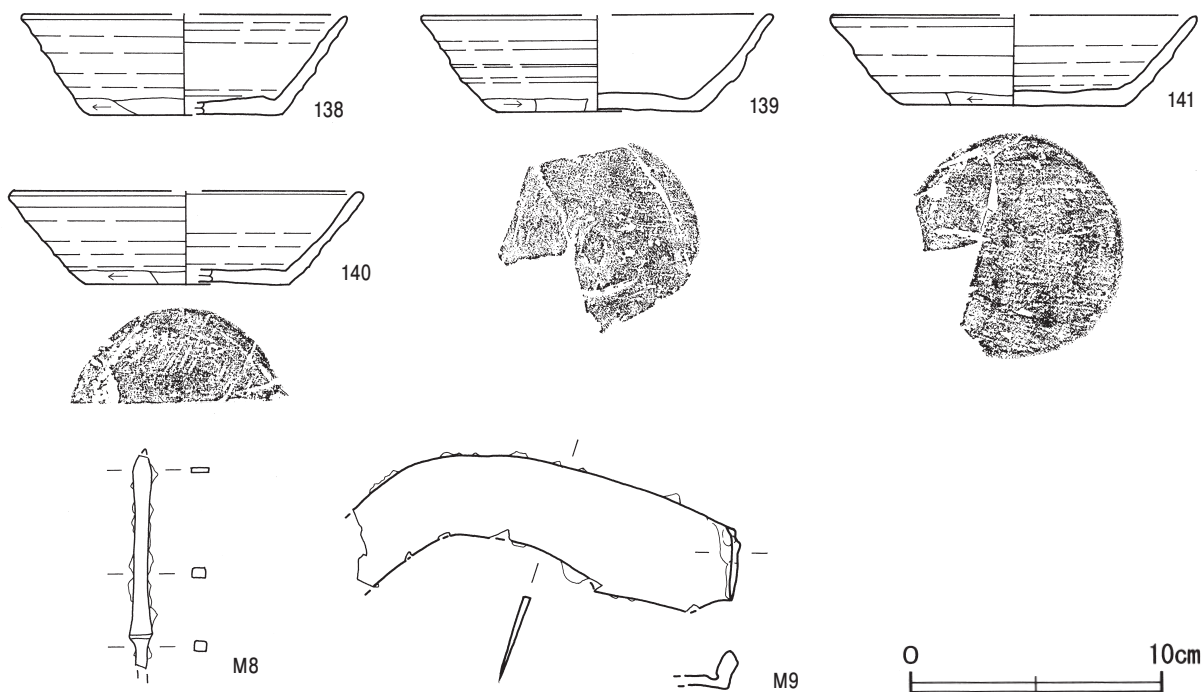
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | | |

遺物出土状況 須恵器坏4点、鉄鏃・鉄鎌各1点のほか、土師器片100点（坏6・甕94）、須恵器片29点（坏23・甕6）が出土している。M8はP4付近の床面、M9は南西コーナー部の壁溝、139はP4北側の覆土下層、141は竈の覆土中、138・140は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第73図 第84号住居跡出土遺物実測図

第84号住居跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
138	須恵器	坏	[13.0]	4.0	[7.8]	長石	灰	良好	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残すナデ	覆土中	20%
139	須恵器	坏	[13.8]	3.7	[8.2]	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す一方向の手持ちへら削り	覆土下層	30%
140	須恵器	坏	[13.8]	3.7	[8.2]	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す一方向の手持ちへら削り	覆土中	40%
141	須恵器	坏	[14.6]	3.6	8.8	長石・雲母・小礫	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す一方向の手持ちへら削り	竈覆土中	60% PL69

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	鏃	(8.5)	1.0	0.4	(12.4)	鉄	鏃身部欠損 茎部断面長方形	床面	PL94
M9	鎌	(15.5)	(4.5)	(0.4)	(64.1)	鉄	柄装着部上方へ90度折り曲げ	覆土下層	PL94

第85号住居跡（第74・75図）

位置 調査区北東部のC5f5区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が攪乱を受けているため、東西軸は4.13m、確認できた南北軸は1.39mである。形状から、主軸方向がN-5°-Eの方形と推測できる。壁高は15~18cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、南壁の中央部に硬化面が認められる。壁溝が南東コーナーから南西コーナーにかけて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱のために三角形の煙出部が奥行き19cm、幅38cmで確認できただけである。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 にぶい褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 | 2 灰黄褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 |
|----------------------------|-------------------------|

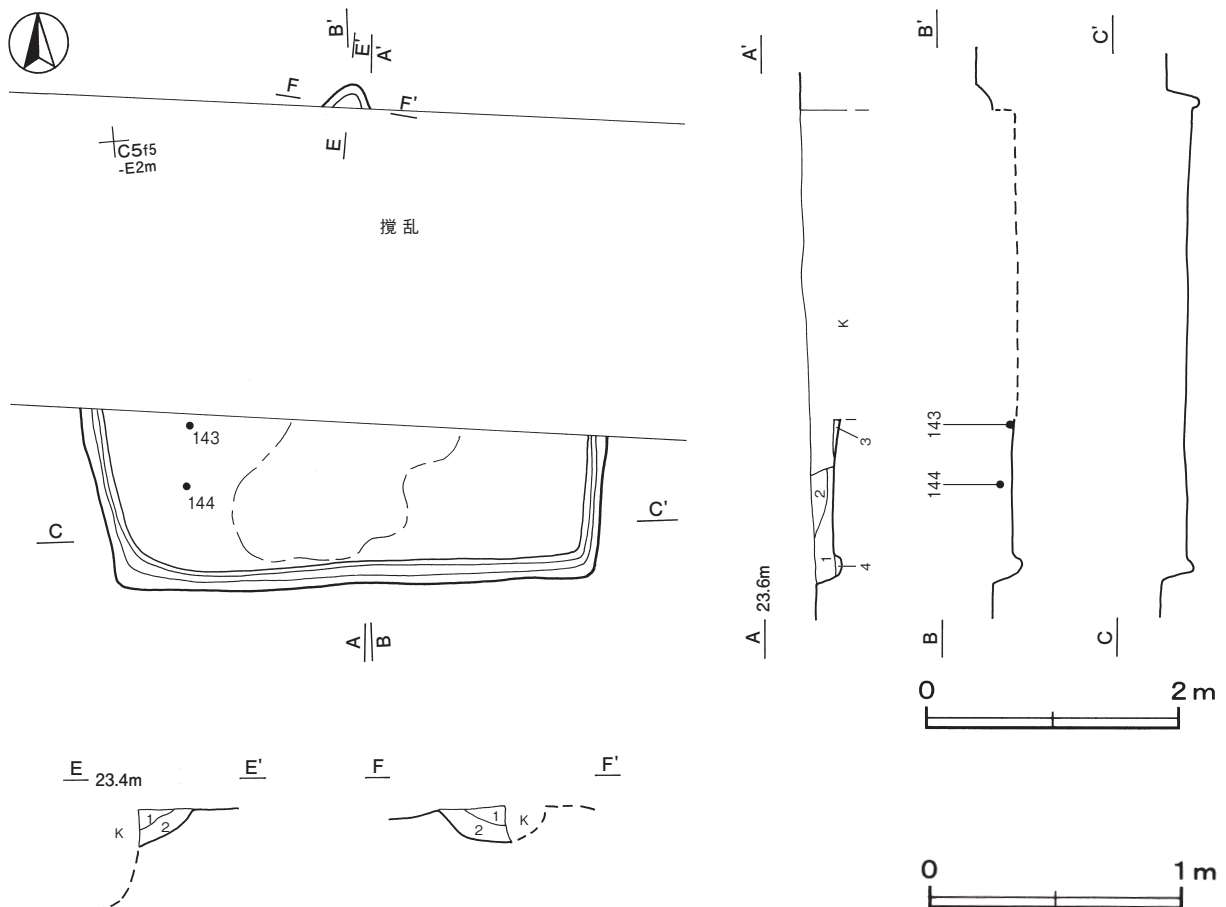
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

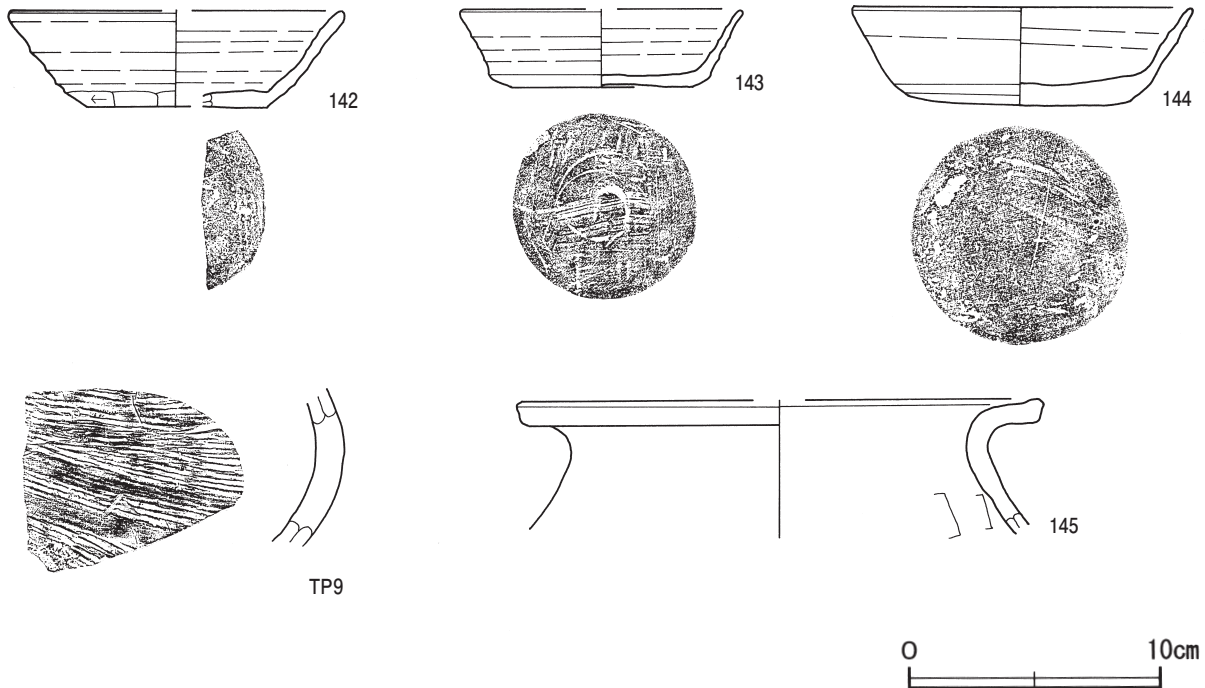
- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 3 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器甕1点、須恵器坏3点、甕1点のほか、土師器片136点（坏3・甕133）、須恵器片60点（坏36・蓋1・甕23）が出土している。143は南西コーナー部の床面、144は南西コーナー部の覆土下層、142・145・TP9は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第74図 第85号住居跡実測図



第75図 第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
142	須恵器	坏	[13.2]	3.8	[7.2]	長石	黄灰	良好	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す一方向のナデ	覆土中	40%
143	須恵器	坏	[11.0]	3.1	7.2	長石・雲母	灰	普通	底部回転へら切り痕を残す一方向の手持ちへら削り	床面	60%
144	須恵器	坏	13.3	4.1	10.2	長石・雲母・小礫	灰	普通	底部回転へら切り痕を残す一方向の手持ちへら削り 二次底面あり	覆土下層	70% PL69
145	土師器	甕	[20.6]	(5.4)	—	長石・雲母・小礫	灰	普通	内面へら当て痕	覆土中	10%
TP9	須恵器	甕	—	(6.3)	—	長石	灰	普通	外面横位の平行叩き	覆土中	

第86号住居跡（第76・77図）

位置 調査区中央部のC 4 i6区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南西コーナーを第88号住居、南部を第90号住居、北部を第8・9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.92m、短軸3.55mの長方形で、主軸方向はN-8°-Eである。壁高は20~25cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、支柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで84cm、燃烧部幅は42cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、砂質粘土ブロックを含む褐色土を積み上げて構築されている。第6~8層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き17cm、幅95cm掘り込み構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 におい褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

7 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量

8 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ28～45cmで、いずれもコーナー部に位置していることから支柱穴である。P5は深さ24cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

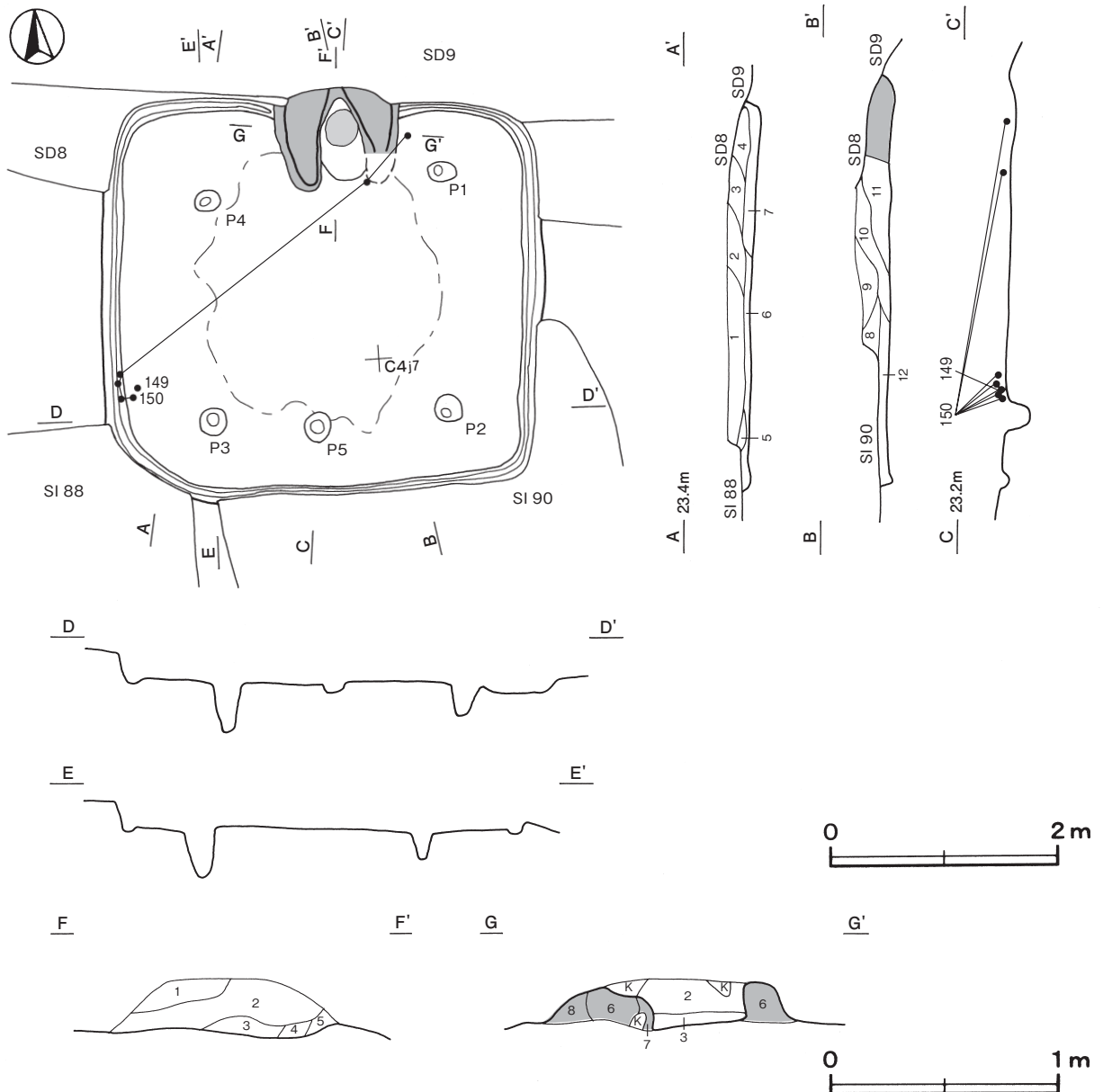
覆土 12層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
 2 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量, ローム粒子微量
 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
 5 暗褐色 ロームブロック少量
 6 暗褐色 ローム粒子少量

7 暗褐色 ロームブロック中量
 8 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
 9 褐色 ロームブロック多量
 10 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量
 11 灰黄褐色 白色粘土ブロック多量
 12 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量

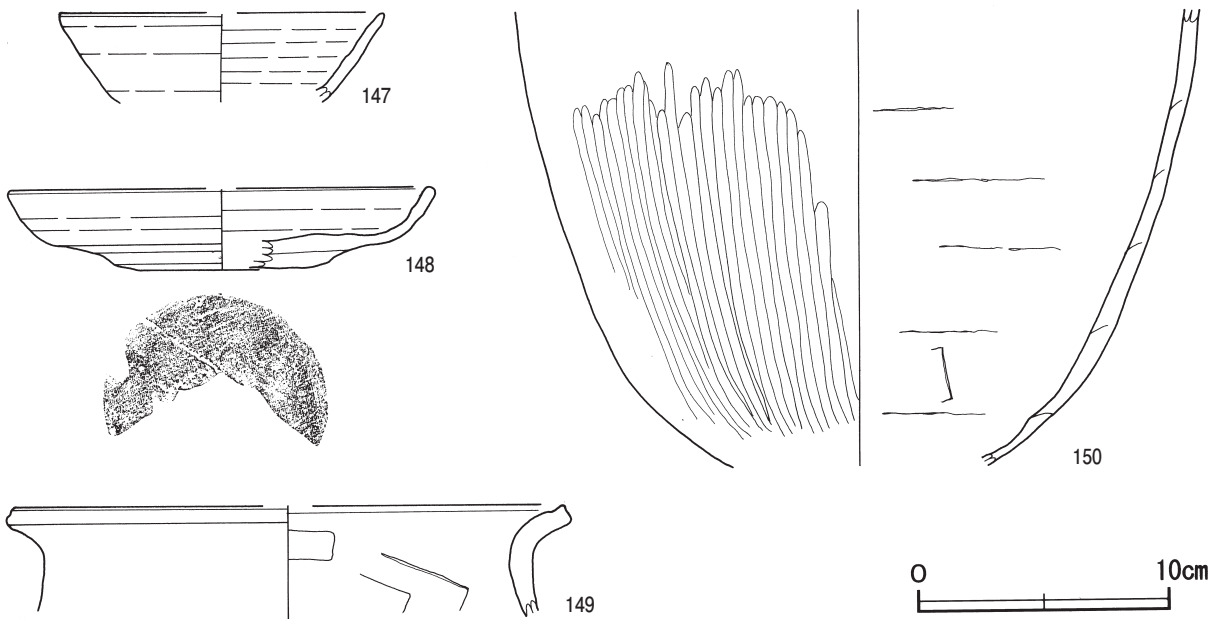
遺物出土状況 土師器甕2点, 須恵器坏・盤カ各1点のほか, 土師器片91点(坏6・甕85), 須恵器片16点(坏15・甕1)が出土している。149は西壁際の覆土下層, 147・148は覆土中からそれぞれ出土している。150は南



第76図 第86号住居跡実測図

西コーナー部の壁溝中と竈付近の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、重複関係と出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第77図 第86号住居跡出土遺物実測図

第86号住居跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
147	須恵器	坏	[12.8]	(3.5)	—	長石	灰黄	普通	ロクロナデ	覆土中	10%
148	須恵器	盤カ	[16.6]	3.2	[8.6]	長石・雲母	灰	普通	底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土中	30%
149	土師器	甕	[21.8]	(4.5)	—	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	—	内面ヘラ当て痕 二次焼成	覆土下層	10%
150	土師器	甕	—	(18.1)	—	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕	覆土下層	30%

第87号住居跡（第78～80図）

位置 調査区北東部のC 5 g2区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 竈の煙道部を第164号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.23m、短軸4.15mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は50～54cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。遺残しているのは焚口部から火床部までで、奥行き59cm、燃焼部幅は63cmである。火床部は床面よりやや高く、火床面は赤変硬化している。

電土層解説

- 1 灰黄褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、
ロームブロック微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ28～45cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。

P5は深さ24cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

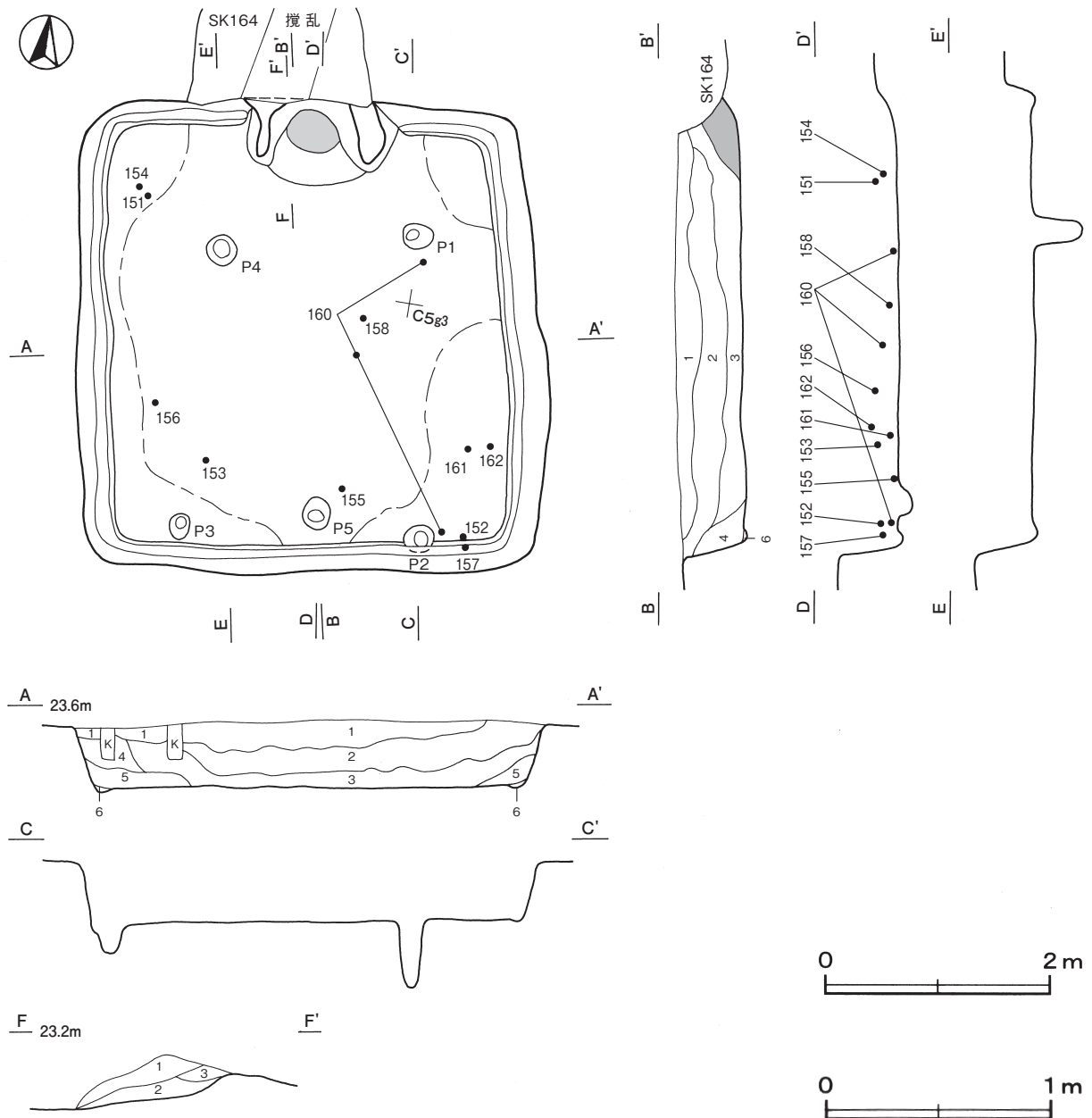
覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

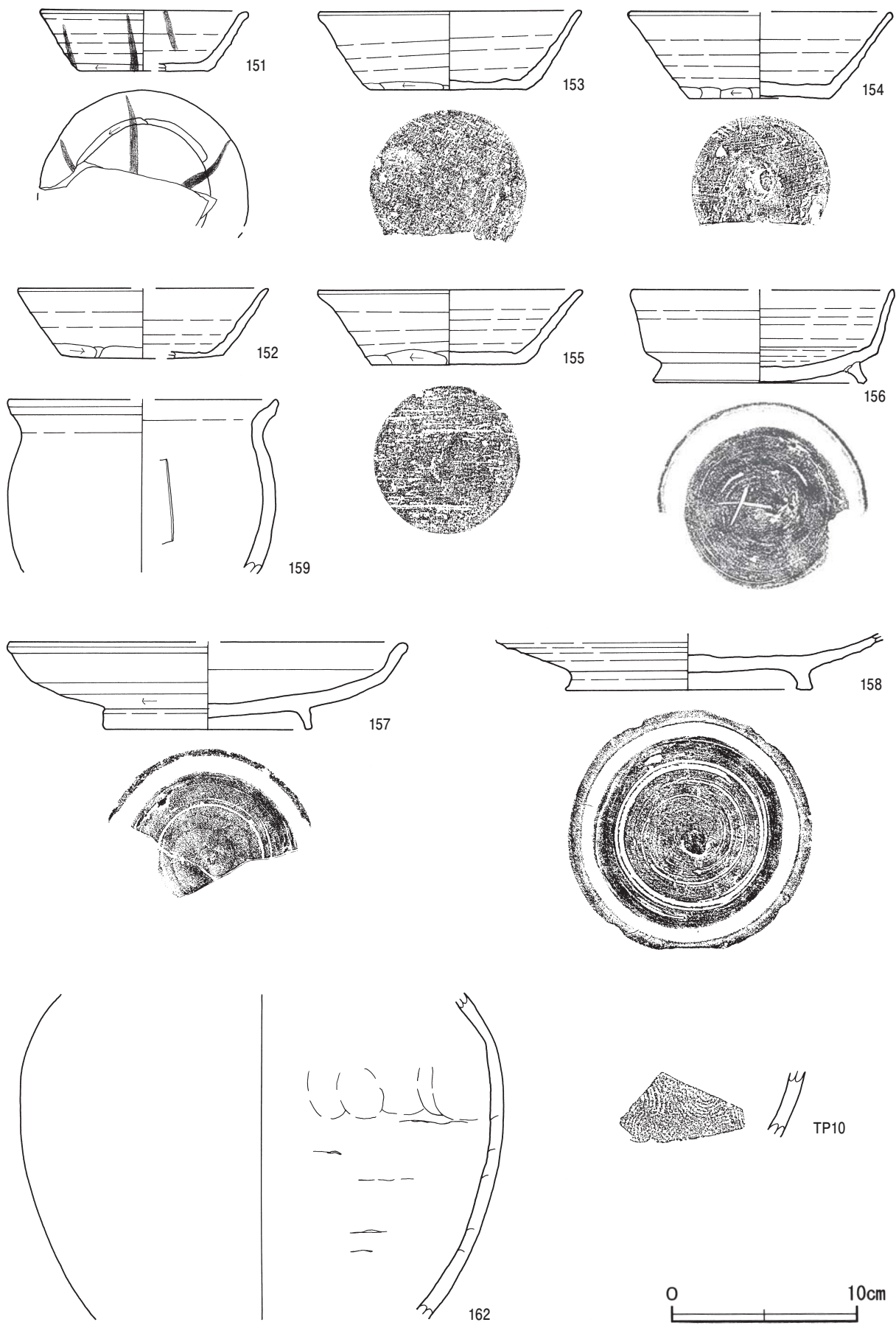
- | | | | |
|---------|------------------------|---------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 5 褐 色 | 焼土粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器小形甕・甕各1点, 須恵器坏5点, 高台付坏1点, 盤2点, 甕2点, 短頸壺カ1点, 石製紡錘車・砥石各1点のほか, 土師器甕片230点, 須恵器片121点(坏92・高台付坏8・盤2・甕19)が出土している。151・154は北西コーナー部の覆土下層, 152・157は南東コーナー部の覆土下層, 153は南西部の覆土中層, 158は中央部の覆土下層, 161は東壁寄りの覆土下層, 162は東壁寄りの覆土中層, 159, Q 6・7, TP10は覆土中からそれぞれ出土している。160は東寄りの覆土下層から中層で出土した破片が接合したものである。155はP 5周辺の床面, 156は西側の覆土中層からそれぞれ出土している。

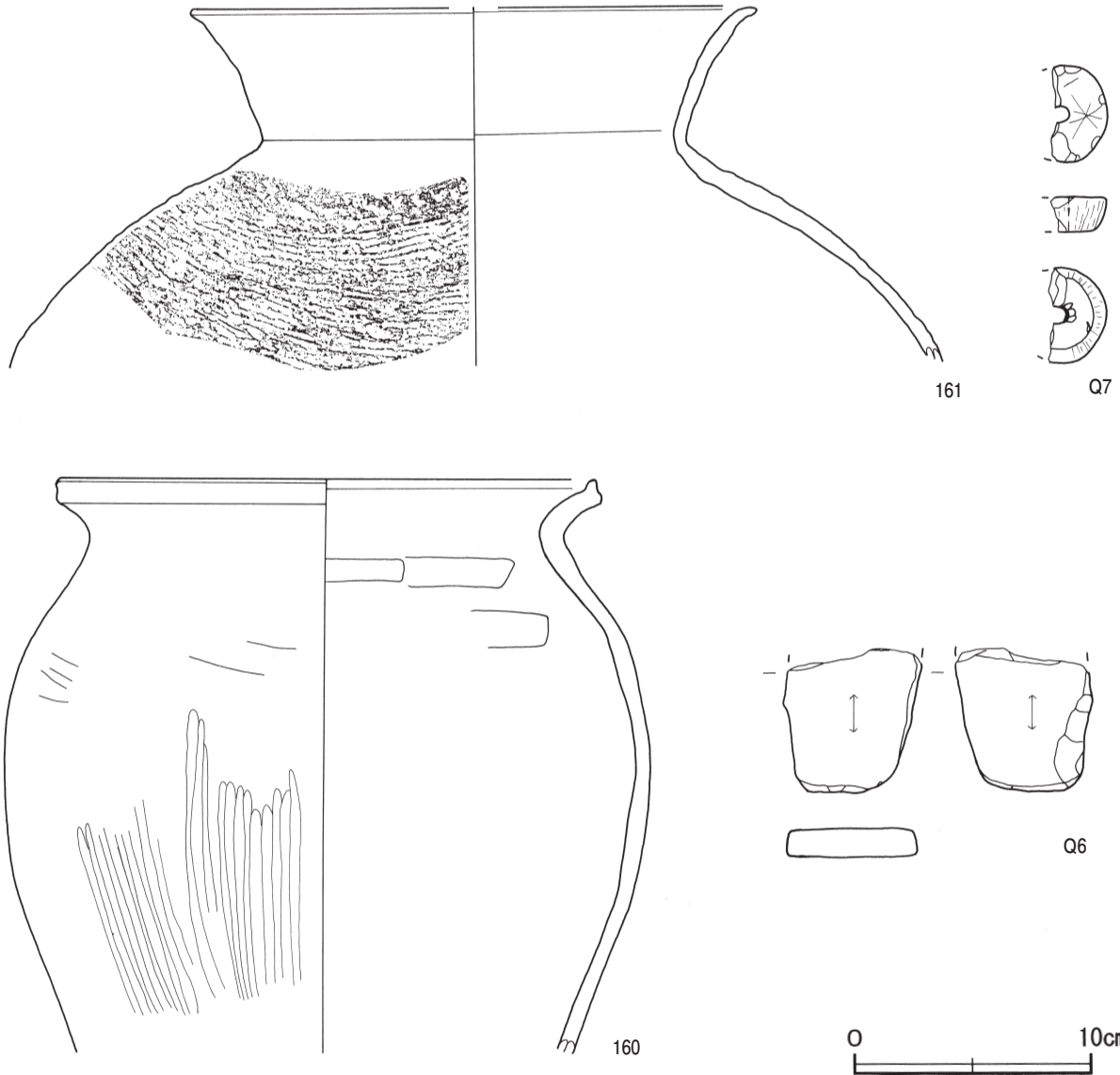
所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第78図 第87号住居跡実測図



第79図 第87号住居跡出土遺物実測図(1)



第80図 第87号住居跡出土遺物実測図（2）

第87号住居跡出土遺物観察表（第79・80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
151	須恵器	坏	11.0	3.3	7.0	長石	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方方向の手持ちへら削り 火襷あり	覆土下層	60% PL69
152	須恵器	坏	[13.3]	3.8	[8.8]	長石	灰白	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向の手持ちへら削り	覆土下層	30% PL69
153	須恵器	坏	14.0	4.3	8.6	長石	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方方向の手持ちへら削り	覆土中層	70% PL70
154	須恵器	坏	[14.0]	4.7	7.6	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す一方方向の手持ちへら削り	覆土下層	60% PL70
155	須恵器	坏	14.0	4.1	8.2	長石・雲母・小石	オリーブ黒	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方方向の手持ちへら削り	床面	90% PL70
156	須恵器	高台付坏	[14.0]	5.0	[11.2]	長石	灰	普通	底部回転へら削り後、高台貼り付け 底部外面へら書き「×」	覆土中層	70%
157	須恵器	盤	[21.2]	4.7	[11.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転へら削り後、高台貼り付け	覆土下層	30%
158	須恵器	盤	—	(3.0)	13.3	長石・石英	灰	普通	底部回転へら削り後、高台貼り付け	覆土下層	50%
159	土師器	小形甕	[14.6]	(9.3)	—	長石・雲母・小石	にぶい赤褐	普通	内面へら当て痕	覆土中	10%
160	土師器	甕	22.6	(24.2)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下半へら磨き 内面へら当て痕	覆土中～下層	60% PL69
161	須恵器	甕	[24.0]	(15.0)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部横位の平行叩き 内・外面共に剥離が激しい	覆土下層	20%
162	須恵器	短頸壺カ	—	(17.5)	—	砂粒	灰	良好	体部外面ナデ わずかに斜位の平行叩きを残す 内面押圧痕 輪積痕	覆土中層	10%
TP10	須恵器	甕	—	(3.6)	—	雲母	灰	普通	外面同心円文の叩き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	砥石	6.0	5.8	2.9	(90.8)	凝灰岩	砥面2面	覆土中	

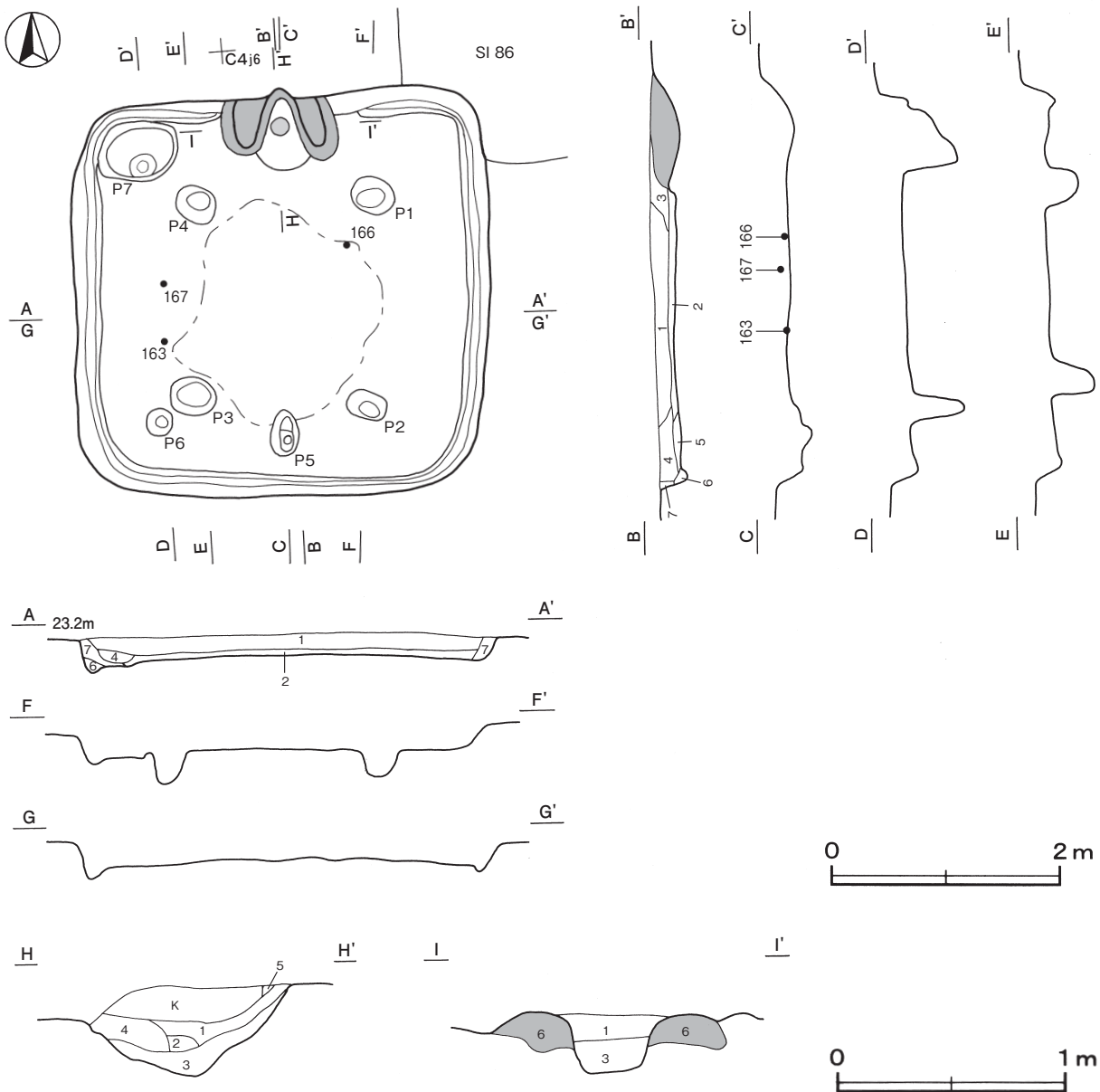
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	紡錘車	4.0	1.5	0.6	(20.6)	粘板岩	断面逆台形 全面研磨	覆土中	

第88号住居跡（第81～83図）

位置 調査区中央部のC 4 j6区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北東コーナー部が第86号住居跡の上部に構築されている。

規模と形状 長軸3.69m、短軸3.57mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は18~23cmで、外傾して立ち上がっている。



第81図 第88号住居跡実測図

床 中央部がわずかに高く、主柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで76cm、燃烧部幅は32cmである。袖部は地山を10cmほど掘り込み、白色粘土ブロック主体のにぶい褐色土を積み上げて構築されている。第6層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き10cm、幅20cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を20cmほど掘り込んでおり、火床面は赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・白色粘土粒子少量 | 4 暗赤褐色 ロームブロック・炭化粒子・白色粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・白色粘土粒子少量 | 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 にぶい褐色 白色粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ25～34cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。P 5は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P 6・P 7は深さ50cm・43cmで、それぞれ南西コーナー部、北西コーナー部に位置するが性格は不明である。

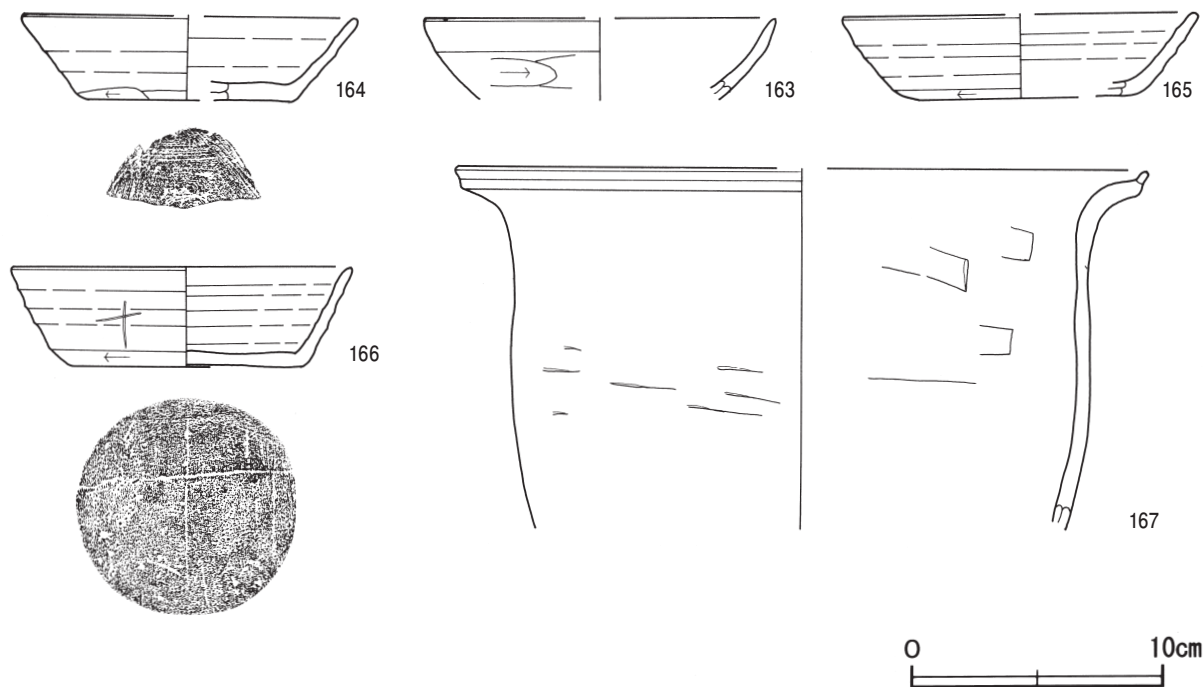
覆土 7層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

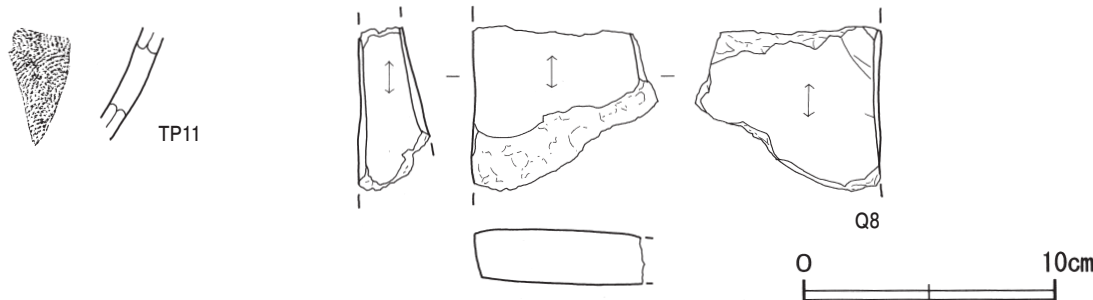
- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子・白色粘土粒子少量 | 7 にぶい褐色 ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器坏・甕各1点、須恵器坏3点、甕1点、砥石1点のほか、土師器片92点（坏5・甕86・甗1）、須恵器片15点（坏13・甕2）が出土している。163は西側、166は中央部の床面からそれぞれ出土している。166の体部外面には「十」の刻書が施されている。167は西部の覆土下層、164・165・TP11・Q 8は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係、遺構配置、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第82図 第88号住居跡出土遺物実測図（1）



第83図 第88号住居跡出土遺物実測図(2)

第88号住居跡出土遺物観察表(第82・83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
163	土師器	坏	[14.0]	(3.2)	—	長石	橙	普通	体部手持ちヘラ削り	床面	10%
164	須恵器	坏	[13.2]	3.5	[8.0]	長石	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土中	30%
165	須恵器	坏	[14.0]	3.3	[9.0]	長石・雲母	灰オリーブ	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中	30%
166	須恵器	坏	13.3	4.0	9.0	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り 体部外面「十」刻書	床面	80% PL70
167	土師器	甕	[27.4]	(14.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部ヘラ当て痕 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土下層	20%
TP11	須恵器	甕	—	(4.3)	—	長石・雲母	灰	普通	外面同心円文の叩き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q8	砥石	(6.5)	(7.4)	2.9	(135.0)	凝灰岩	砥面3面	覆土中	

第89号住居跡(第84・85図)

位置 調査区北西部のC5f1区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南壁中央部を第165号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.78m、短軸3.66mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は36~44cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、主柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が東壁の一部と南西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで88cm、燃焼部幅は46cmである。袖部は地山をわずかに掘り残し、砂質粘土ブロックを含むにぶい褐色土を積み上げて構築されている。第6~8層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き15cm、幅30cm掘り込み構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|---------|------------------|
| 1 にぶい褐色 | ローム粒子微量 | 5 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 6 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック多量 |
| 3 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |

ピット 5か所。P1~P4は深さ19~48cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。

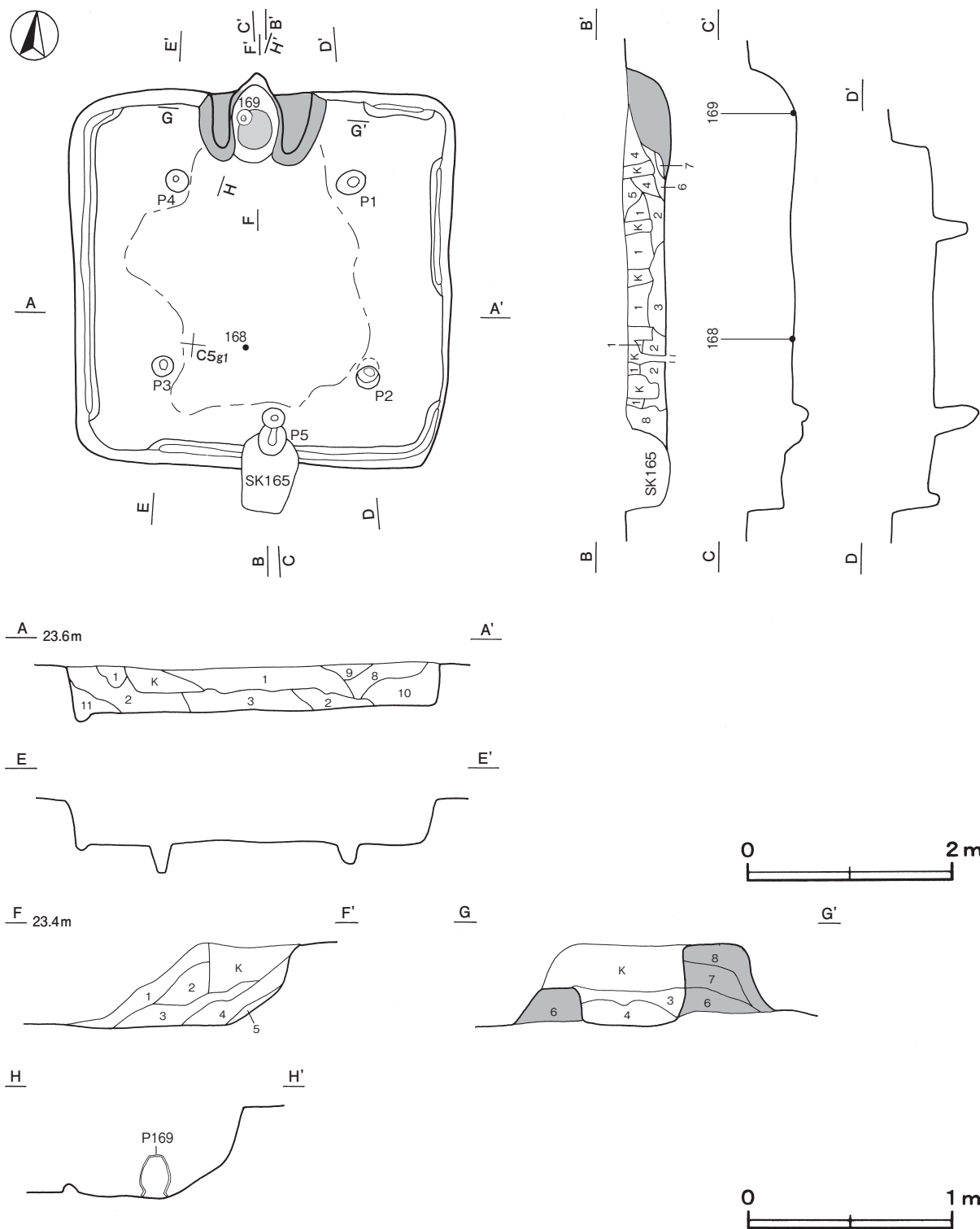
P5は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 11層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれており、不規則な堆積であることから埋め戻さ

れている。

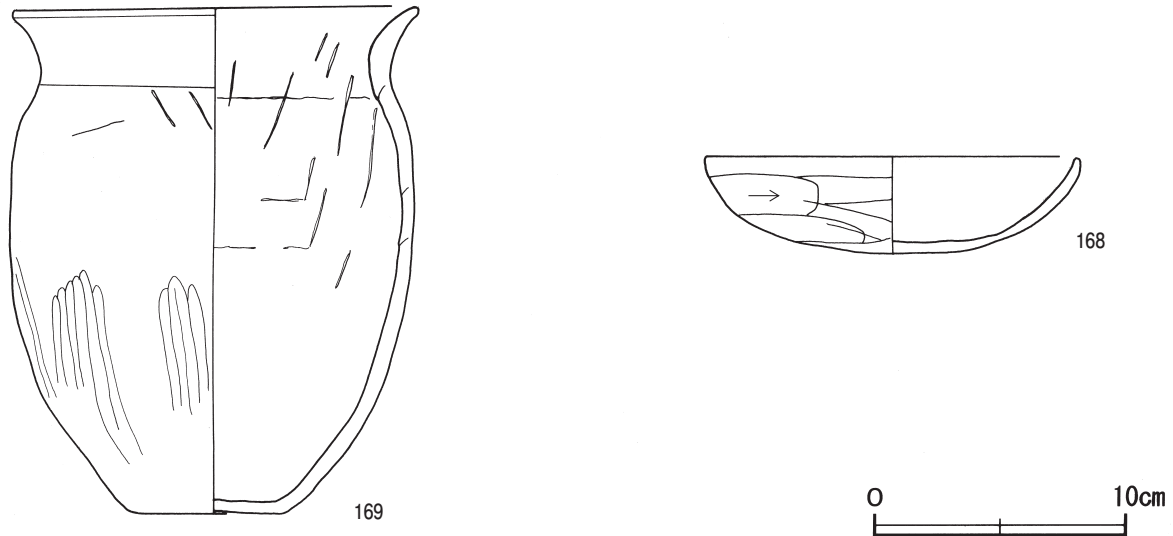
土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------|----------|------------------------|
| 1 にぶい褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗灰黄色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 10 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 11 暗褐色 | ローム粒子中量 |



第84図 第89号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器坏・小形甕各1点のほか、土師器甕片21点が出土している。168は中央部の床面から出土している。169は竈の火床面に逆位で据えられた状況で出土しており、支脚として使用されていたものである。
 所見 時期は、出土土器から8世紀前葉あるいは7世紀末葉に比定できる。



第85図 第89号住居跡出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
168	土師器	坏	14.7	3.9	—	赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り	床面	40% PL70
169	土師器	小形甕	15.8	20.1	6.0	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部上半ヘラナデ 下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕 輪積痕	竈火床面	90% PL70

第90号住居跡（第86～88図）

位置 調査区中央部のC 4j7区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第86号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.59m、短軸3.24mの長方形で、主軸方向はN-77°-Eである。壁高は19～24cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が南部と西部を巡っている。北半分の床面はとらえることができなかった。

竈 東壁南寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで65cm、燃烧部幅は52cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを含む灰黄褐色土を積み上げて構築されている。第5層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へほとんど掘り込まず、火床面から外傾して立ち上がっている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 5 灰黄褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |

ピット 深さ17cmで、西壁際の竈と相対して位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

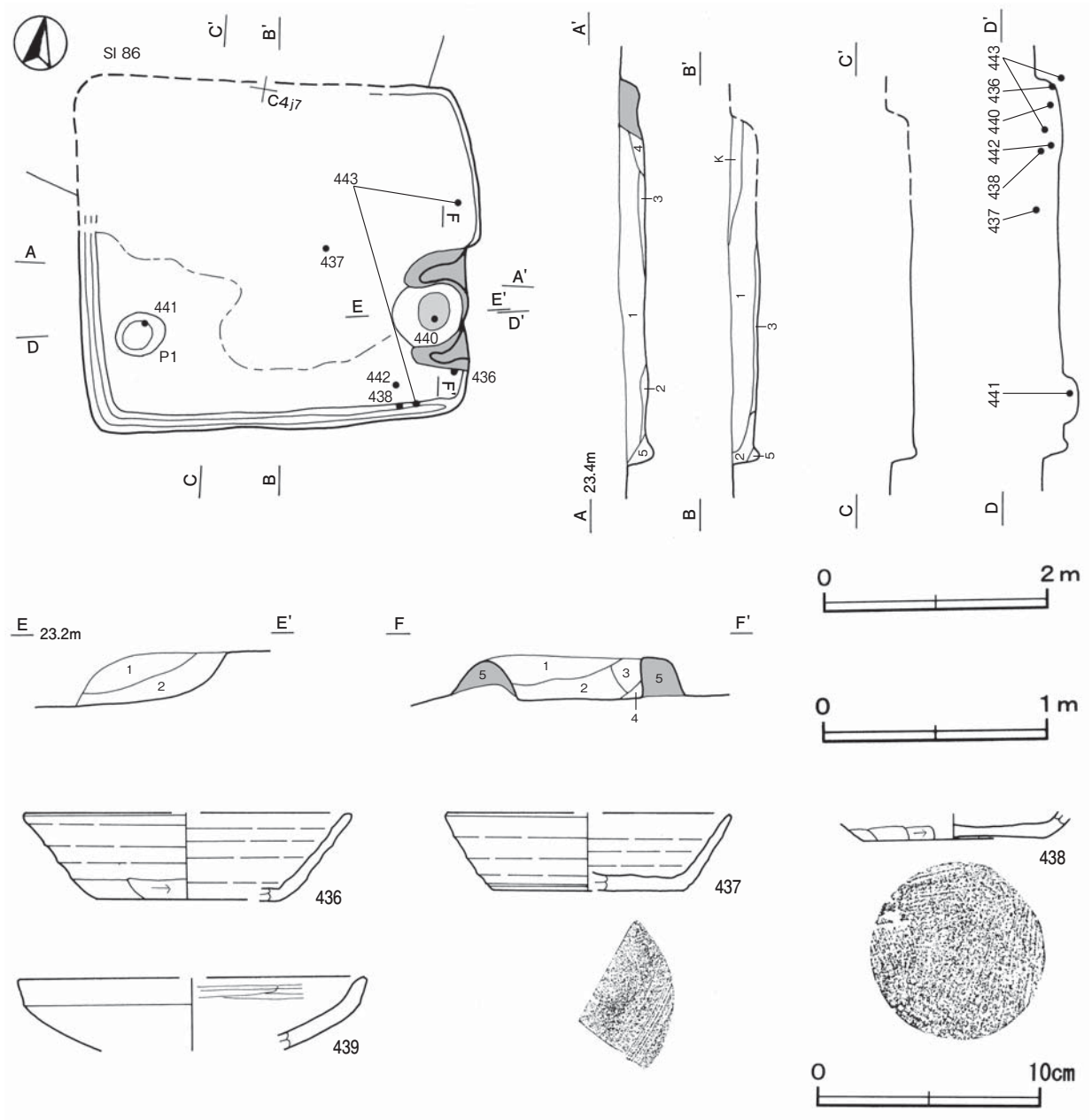
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

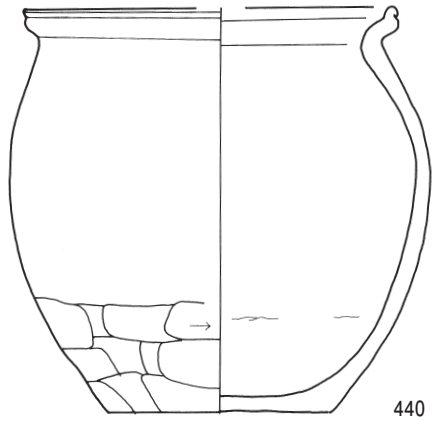
- | | | | |
|-------|--------------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 暗赤褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器坏1点、小形甕1点、甗1点、須恵器坏3点、甕2点のほか、土師器片55点（坏51・盤1・甗3）、須恵器片28点（坏21・甕7）が出土している。440は竈の火床部、441はP1内、436は東壁際の覆土下層、437は中央部の覆土上層、438・442は南部の覆土中層、439は覆土中からそれぞれ出土している。443は南壁際の覆土中層と東壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

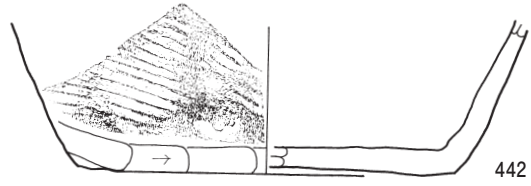
所見 時期は、重複関係と遺構の配置および出土土器などから8世紀後葉に比定できる。



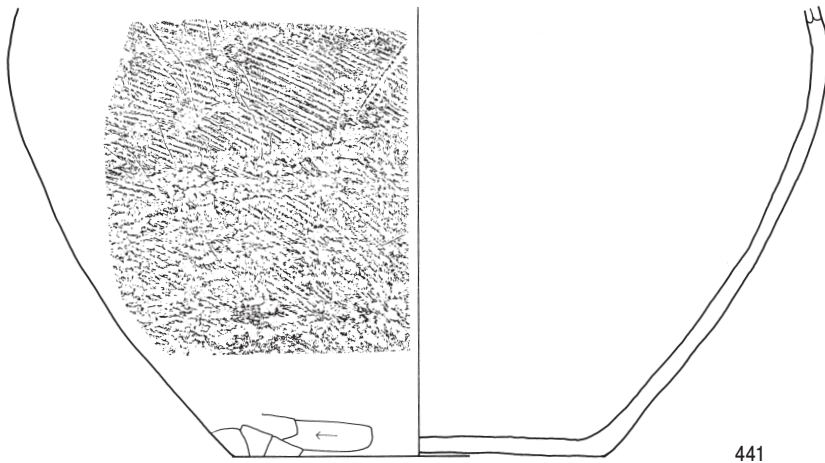
第86図 第90号住居跡・出土遺物実測図



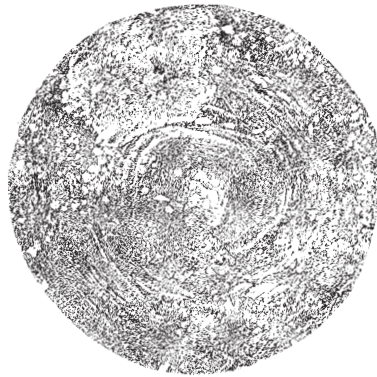
440



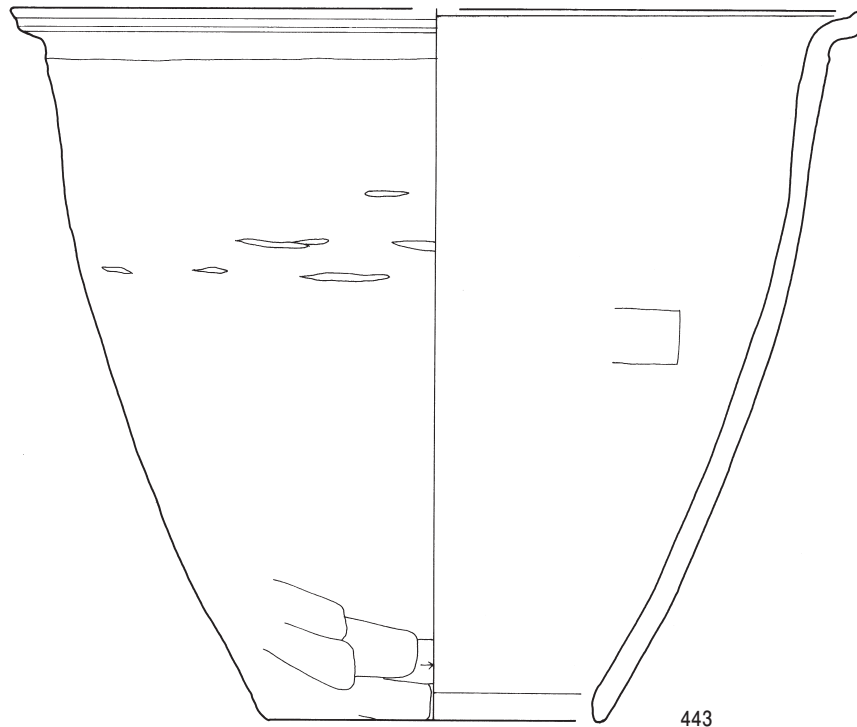
442



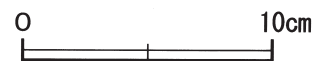
441



第87图 第90号住居跡出土遺物実測図(1)



443



第88図 第90号住居跡出土遺物実測図（2）

第90号住居跡出土遺物観察表（第86～88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
436	須恵器	坏	[14.6]	3.9	[8.2]	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	10%
437	須恵器	坏	[12.6]	3.5	[8.6]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土上層	10%
438	須恵器	坏	—	(1.1)	8.2	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土中層	25%
439	土師器	坏	[15.6]	(3.2)	—	白色粒子・赤色粒子	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	10%
440	土師器	小形甕	[14.5]	16.2	8.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	竈火床面	80% PL70
441	須恵器	甕	—	(23.3)	19.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部斜位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り	P1覆土 中層	50% PL70
442	須恵器	甕	—	(5.8)	[15.0]	長石・石英	灰	普通	体部斜位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り	覆土中層	10%
443	土師器	甑	[34.0]	28.2	13.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	20%

第92号住居跡（第89～92図）

位置 調査区中央部のD 4 a8区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第112号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.06m、短軸4.03mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は15～21cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が南壁の中央部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱のため、遺存しているのは左側の一部分である。規模は、焚口部から

煙出部までは推定73cmで、 燃焼部幅20cmしか確認できなかった。左袖部は遺存していないが、 右袖部は床面の状況から想定した。煙道部は、 遺存している部分で壁外に68cm、 燃焼部幅で20cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、 火床面は赤変している。

竈土層解説

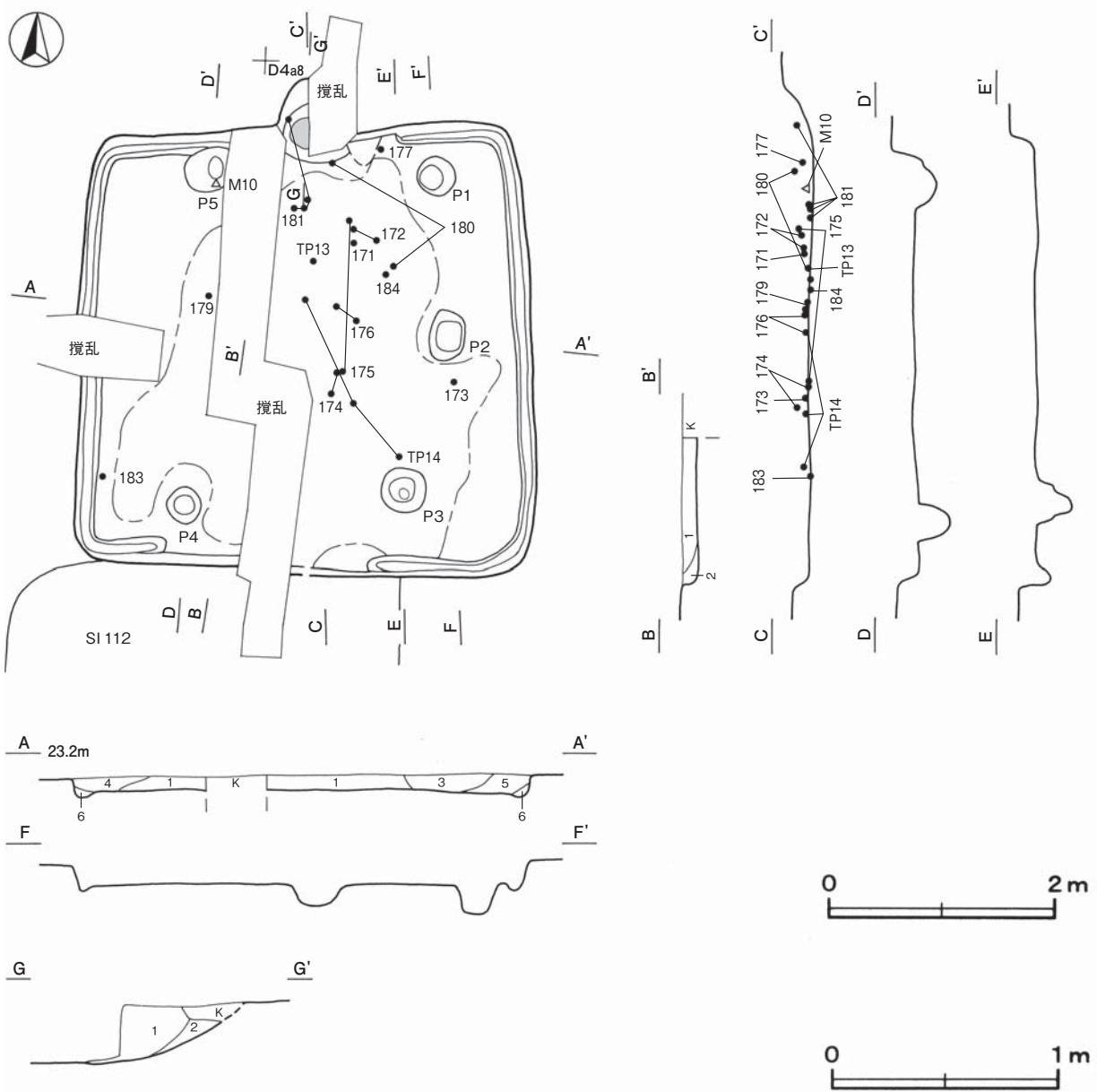
- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗 褐 色 焼土ブロック多量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 2 灰 黄 褐 色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
|----------------------------------|----------------------------------|

ピット 5か所。P1～P5は深さ18～33cmで、 規模と位置から支柱穴である。

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

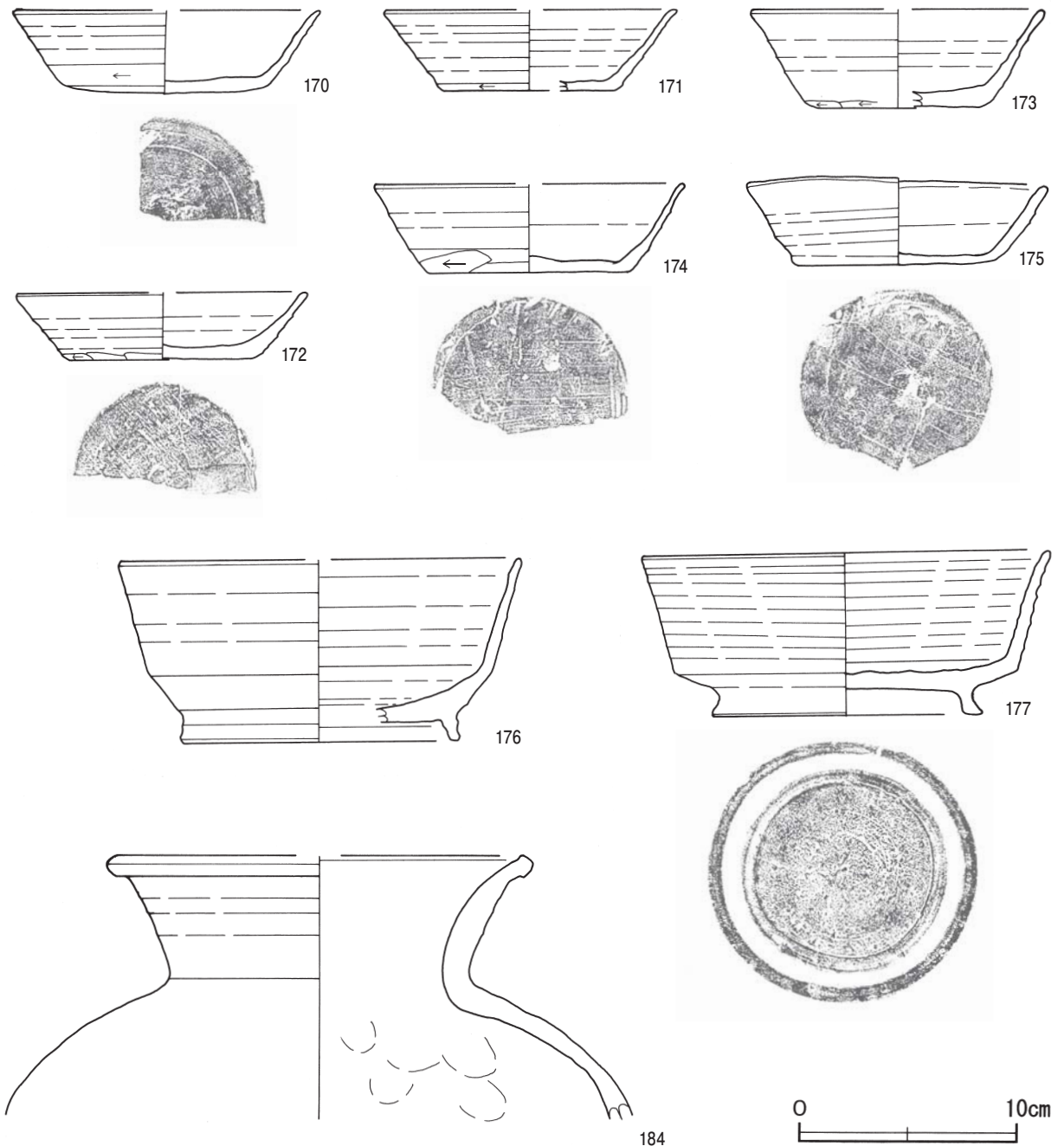
- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量 | 4 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 2 暗 褐 色 焼土粒子中量, ローム粒子少量 | 5 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 6 にぶい褐色 ローム粒子微量 |



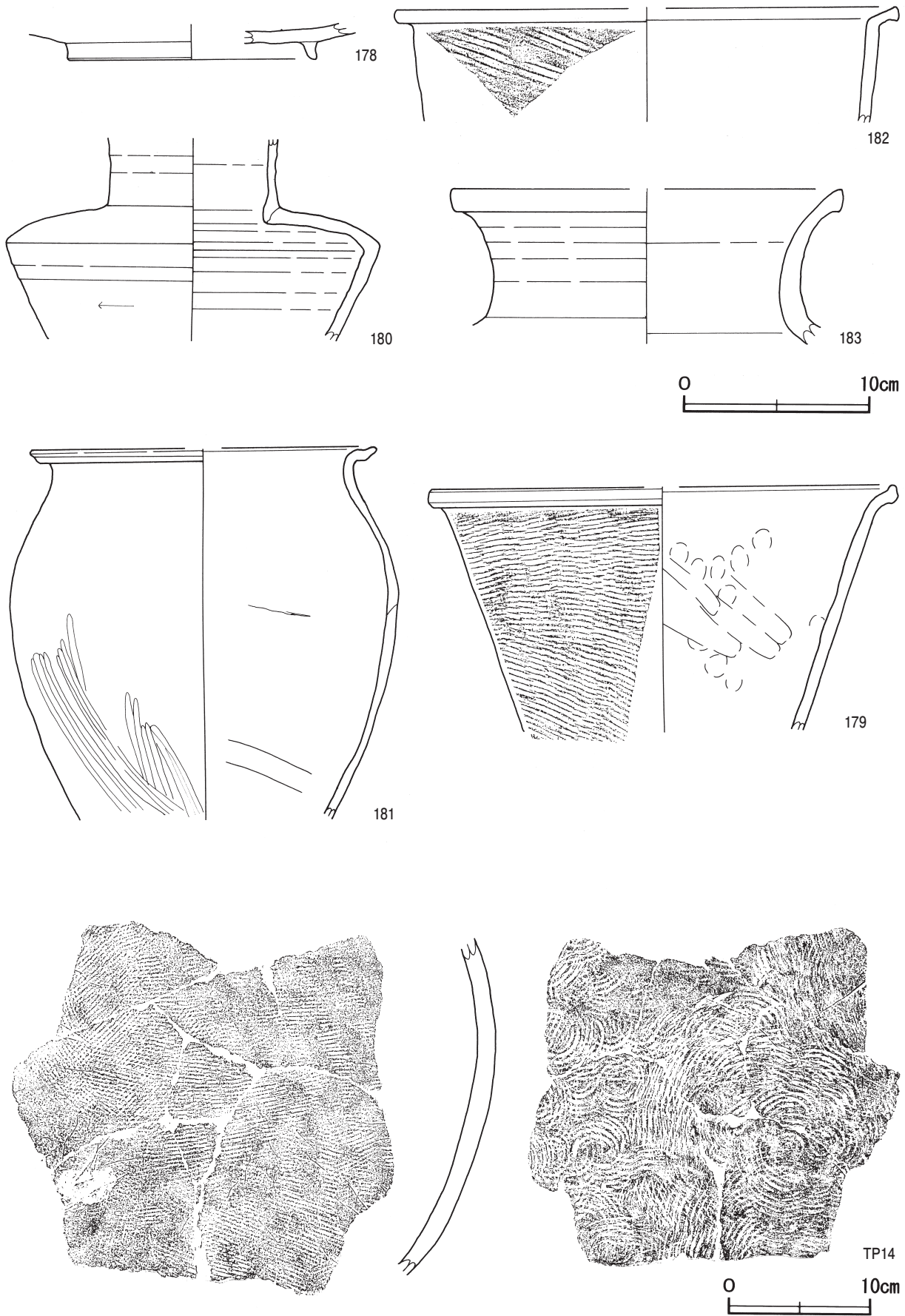
第89図 第92号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器甕1点、須恵器坏6点、甕5点、高台付坏・鉢各2点、盤・長頸壺各1点、刀子1点のほか、土師器片332点（坏10・小形甕3・甕318・甗1）、須恵器片149点（坏106・高台付坏3・蓋4・瓶5・甕29・甗2）が出土している。173は東部、176は中央部、179は西部、183は西壁際、184は中央部、M10はP5付近、TP13は北部の床面からそれぞれ出土している。171・172は中央部、177は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。TP14は中央部の床面とP3の北部の床面、174は中央部の床面と覆土下層、175は中央部の床面と北部寄りの覆土下層、180は中央部の床面と竈前面の覆土中層、181は竈前面の床面と竈の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。170・178・182・TP12は覆土中から出土している。

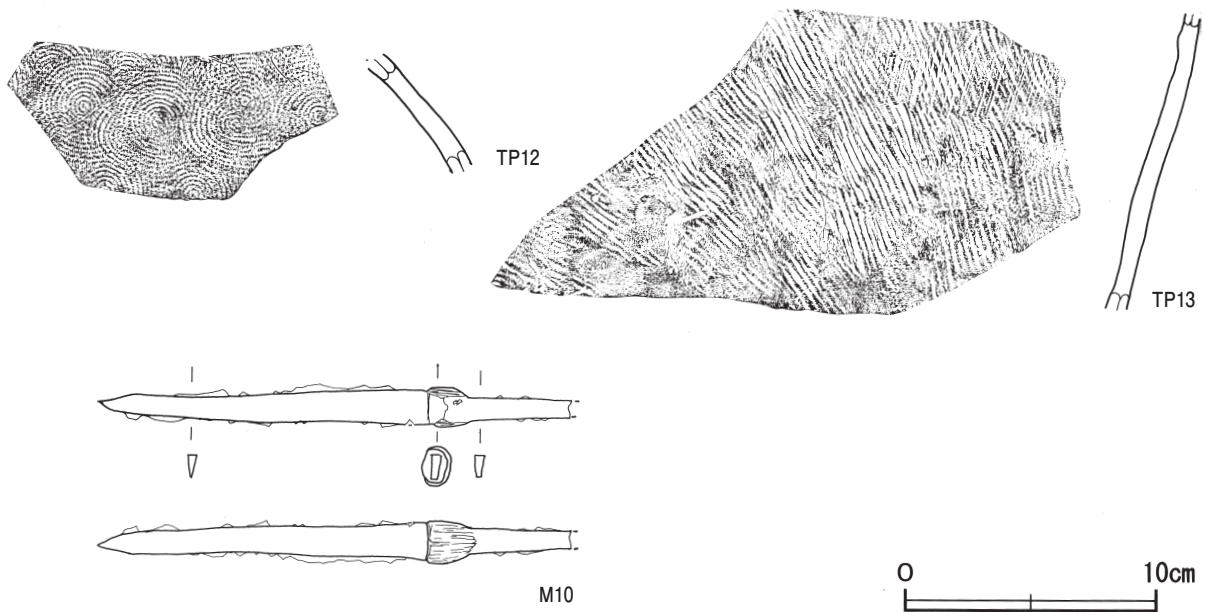
所見 時期は、出土土器と重複関係から8世紀中葉に比定できる。



第90図 第92号住居跡出土遺物実測図（1）



第91図 第92号住居跡出土遺物実測図(2)



第92図 第92号住居跡出土遺物実測図(3)

第92号住居跡出土遺物観察表(第90~92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
170	須恵器	坏	[14.0]	3.8	[9.4]	長石	灰	良好	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中	30%
171	須恵器	坏	[13.2]	3.7	[7.8]	長石・雲母	灰	良好	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	20%
172	須恵器	坏	[13.2]	3.1	[8.4]	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	50% PL70
173	須恵器	坏	[13.2]	4.5	[6.4]	長石・雲母・細礫	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	40% PL70
174	須恵器	坏	[14.0]	4.1	9.0	長石・雲母	オリーブ黒	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り 二次焼成	床面・覆土下層	40% PL71
175	須恵器	坏	13.8	4.0	8.8	長石・雲母	褐灰	—	底部一方向手持ちヘラ削り 底部外面「×」ヘラ書き 二次焼成	床面・覆土下層	100% PL71
176	須恵器	高台付坏	[18.3]	8.4	[12.6]	長石・雲母	灰黄	—	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け 二次焼成	床面	40%
177	須恵器	高台付坏	18.6	7.5	12.2	長石・細礫	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	80% PL71
178	須恵器	盤	—	(1.9)	[13.2]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	二次焼成	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中	10%
179	須恵器	鉢	[32.6]	(17.2)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面上半横位 下半斜位の平行叩き 内面指頭押圧 指頭ナデ	床面	30%
180	須恵器	長頸壺	—	(11.0)	—	細礫	灰	良好	肩部自然袖 体部下位回転ヘラ削り 輪積痕	床面・覆土中層	30% PL71
181	土師器	甕	[24.6]	(26.5)	—	長石	にぶい橙	普通	体部下半ヘラ磨き 輪積痕	床面・覆土中層	20%
182	須恵器	鉢	[26.8]	(6.1)	—	長石	灰	良好	体部下半斜位の平行叩き	覆土中	10%
183	須恵器	甕	[21.0]	(8.4)	—	長石・細礫	灰	普通	頸部ロクロナデ	床面	10%
184	須恵器	甕	[18.6]	(12.0)	—	長石	オリーブ黒	普通	肩部自然袖 体部横位の平行叩き 内面押圧痕	床面	20%
TP12	須恵器	甕	—	(4.8)	—	長石・雲母	灰	普通	外面同心円文の叩き	覆土中	
TP13	須恵器	甕	—	(11.9)	—	長石・雲母	灰	普通	外面斜位の平行叩き 内面強い押圧痕	床面	
TP14	須恵器	甕	—	(23.9)	—	長石・雲母	灰	普通	外面斜位の平行叩き 内面同心円文の当て具痕	床面	PL89

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	刀子	(19.7)	(1.65)	0.4	(28.0)	鉄	刃部断面三角形 茎部木質付着	床面	PL94

第103号住居跡(第93~95図)

位置 調査区北東部のD5b4区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南半分が攪乱を受けているため、東西軸は3.09mで、確認できた南北軸は1.91mである。形状が

ら、主軸方向がN-9°-Eの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は10~13cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。確認した部分では壁溝が全周している。

竈 北壁東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで83cm、燃烧部幅48cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、白色粘土ブロックを含む灰黄褐色土と暗褐色土を積み上げて構築されている。第7・8層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形状に奥行き25cm、幅98cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子・白色粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 7 灰黄褐色 | 白色粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック・白色粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |
| 5 にぶい褐色 | ローム粒子少量 | | |

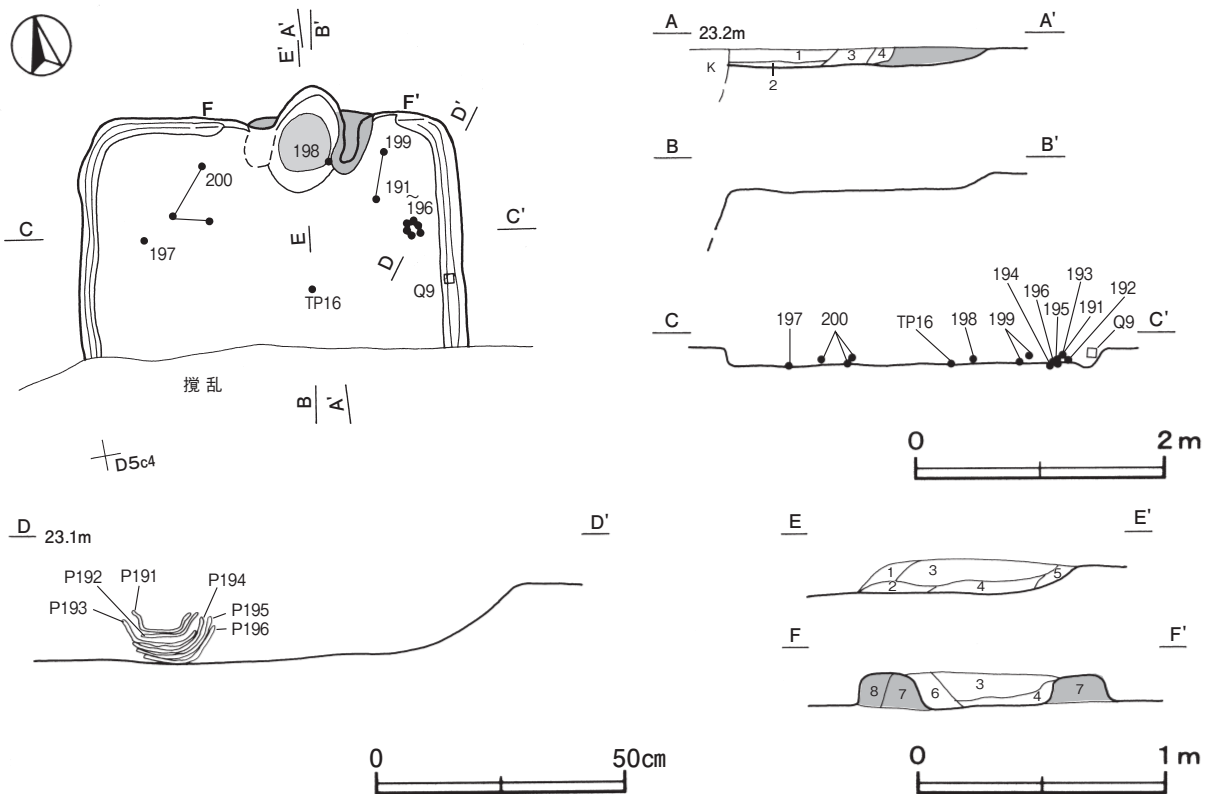
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

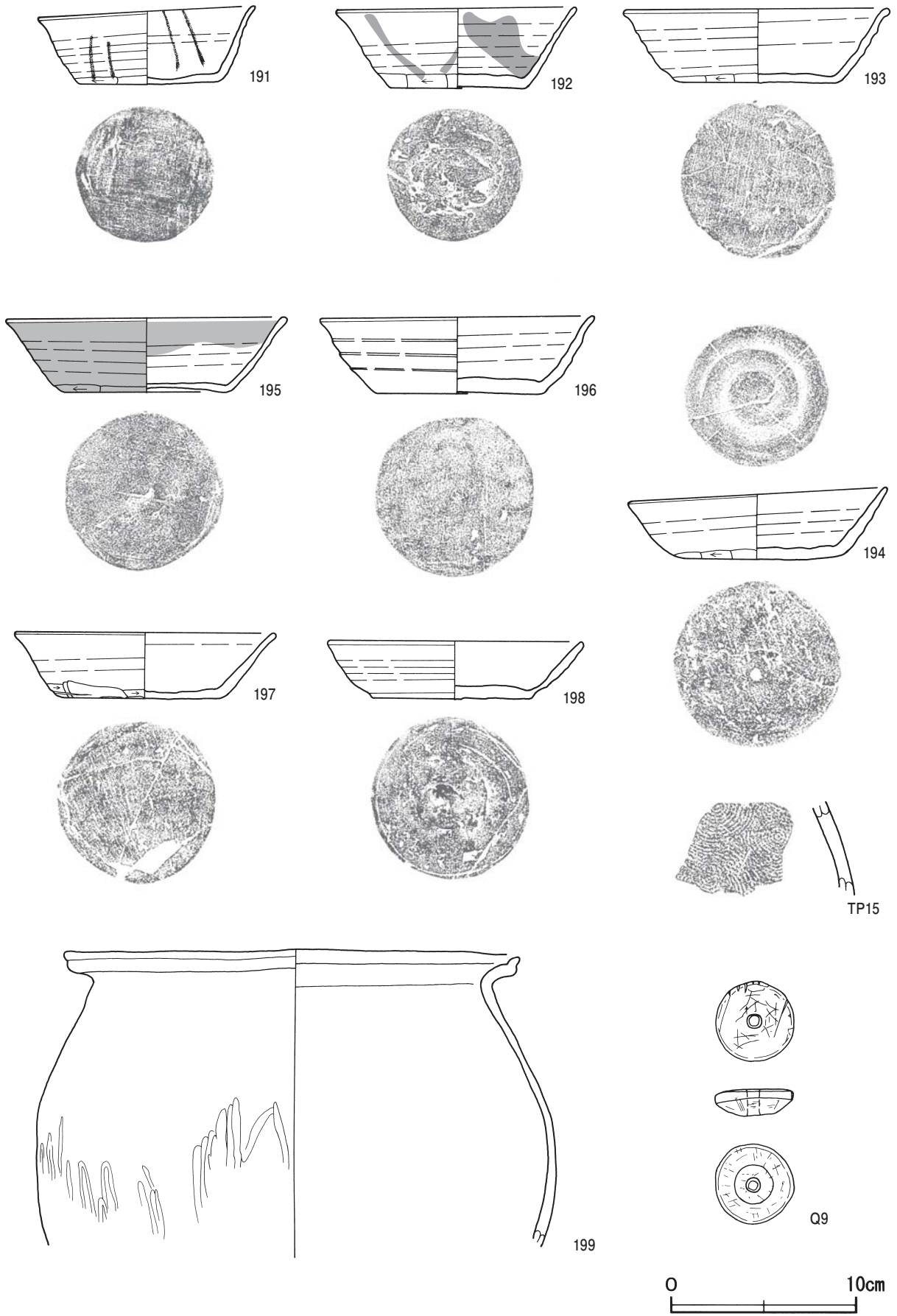
- | | | | |
|---------|-----------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック中量 | 4 灰黄褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器甕・鉢各1点、須恵器坏8点、甕2点、石製紡錘車1点のほか、土師器片80点（坏3・甕77）、須恵器片79点（坏28・高台付坏1・盤1・甕49）が出土している。191~196は東壁際の床面から6枚重ねて正位で置かれた状態で出土している。その南側の壁溝覆土上層からはQ9が出土している。197は西壁寄りの床面、198は竈右袖、TP16は中央部の床面、TP15は覆土中からそれぞれ出土している。199は北東部の床面、200は北西部の床面から出土した破片がそれぞれ接合している。

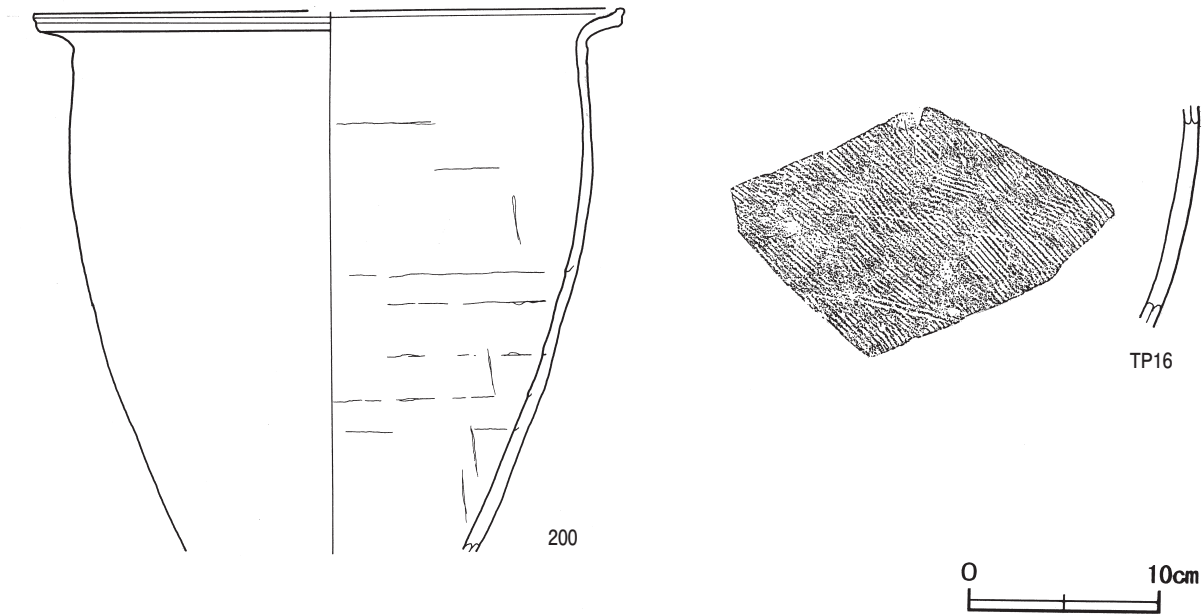
所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第93図 第103号住居跡実測図



第94図 第103号住居跡出土遺物実測図(1)



第95図 第103号住居跡出土遺物実測図(2)

第103号住居跡出土遺物観察表(第94・95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
191	須恵器	坏	11.6	4.3	7.5	長石	灰	良好	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り 火襷あり	床面	100% PL71
192	須恵器	坏	12.9	4.4	7.4	石英	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り 内外面油煙	床面	80% PL71
193	須恵器	坏	14.4	4.1	8.6	長石・石英・雲母	灰白	不良	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り	床面	90% PL71
194	須恵器	坏	13.9	4.0	8.0	長石・雲母・細礫 粗い	灰黄	—	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り 二次焼成 底部内面「×」刻書	床面	100% PL71
195	須恵器	坏	15.0	4.1	8.8	長石・雲母	にぶい黄褐	—	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り 口縁部内面から体部煤付着	床面	100% PL71
196	須恵器	坏	14.6	4.3	8.8	長石・石英・雲母	浅黄	—	底部一方向の手持ちへら削り 二次焼成	床面	95% PL71
197	須恵器	坏	14.2	3.6	8.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	—	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り 二次焼成	床面	90% PL72
198	須恵器	坏	13.6	3.1	8.5	長石・雲母・細礫 粗い	灰	普通	底部回転へら切り痕を残す雑なナデ	竈右袖	95% PL72
199	土師器	甕	24.6	(15.9)	—	長石・細礫	橙	普通	体部へら磨き	床面	30%
200	土師器	鉢	[31.4]	(28.7)	—	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部丁寧なナデ 内面へら当て痕 輪積痕	床面	30%
TP15	須恵器	甕	—	(5.0)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	外面同心円文の叩き	覆土中	
TP16	須恵器	甕	—	(11.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	不良	外面斜位の平行叩き	床面	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	紡錘車	4.3	1.5	0.7	35.9	粘板岩	断面逆台形 全面研磨 「大・大・大・・・」の刻書	壁溝覆土中	PL92

第106号住居跡(第96・97図)

位置 調査区北西部のC5j1区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 竈の煙道部上面を8号溝に、北西コーナー部を第173号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.83m、短軸2.55mの長方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで80cm、燃焼部幅32cmである。袖部は地山をわ

ずかに掘り残した上に、ロームブロック・白色粘土粒子を含むにぶい褐色土を積み上げて構築されている。第6～8層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き35cm、幅83cm掘り込んで構築されている。火床部は壁外に位置し、床面よりも高く、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------|
| 1 灰黄褐色 焼土粒子・白色粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 白色粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 にぶい褐色 白色粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 7 灰褐色 ロームブロック少量 |
| 4 暗灰黄色 白色粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 にぶい褐色 ローム粒子・白色粘土粒子少量 |

ピット 深さは12cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部から東寄りに位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

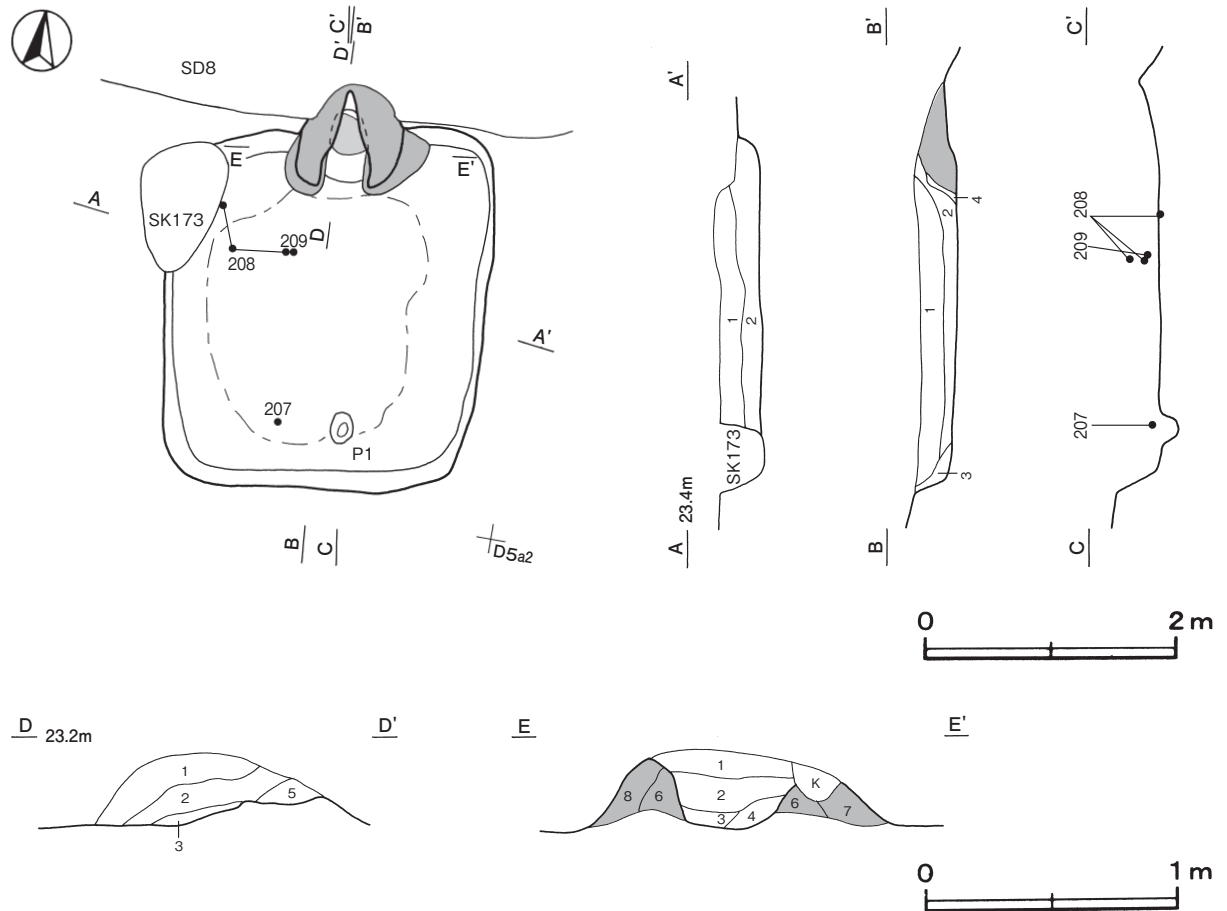
覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積をしていることから自然堆積である。

土層解説

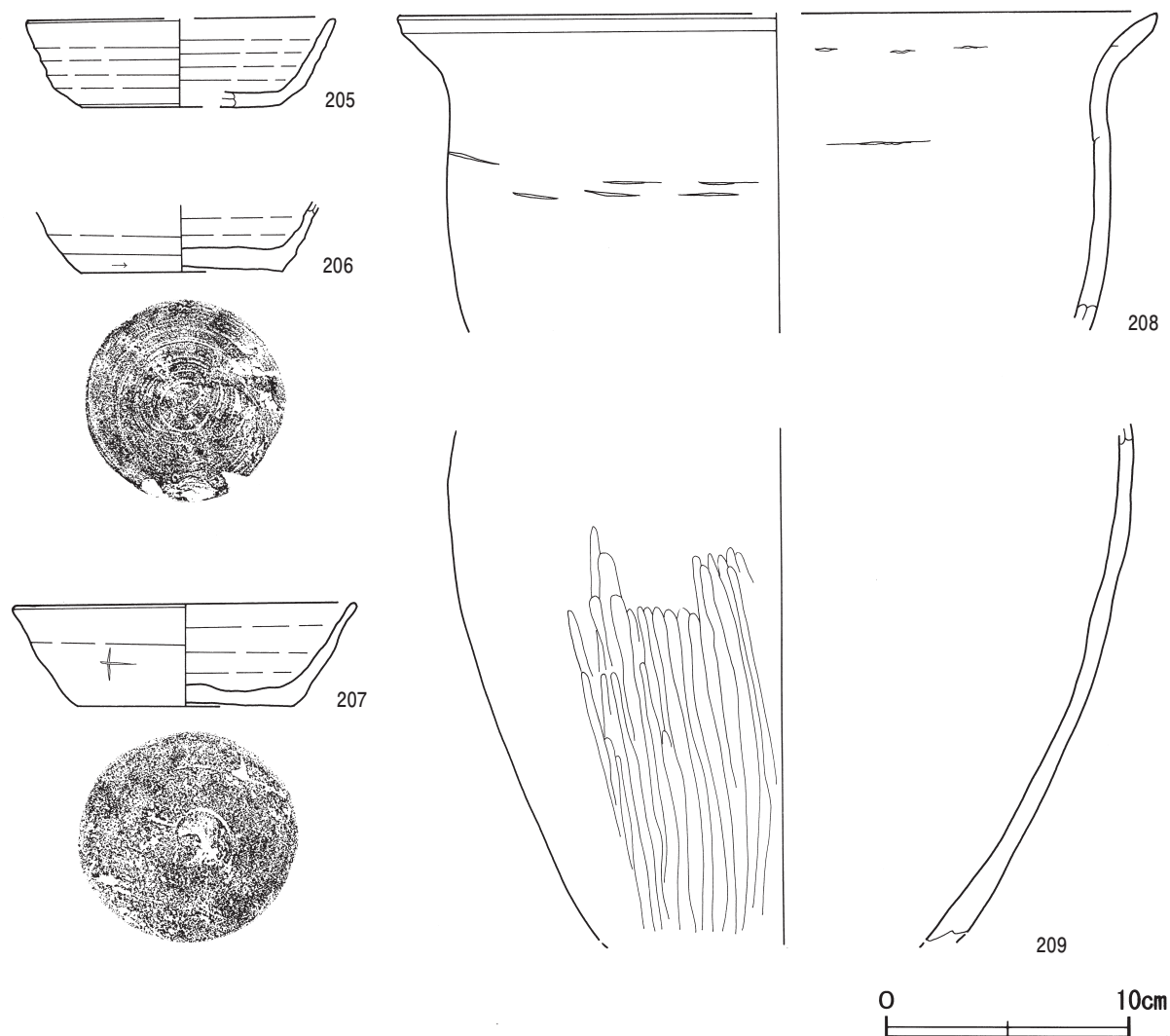
- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・白色粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器甕2点、須恵器坏3点のほか、土師器片65点(坏6・甕59)、須恵器坏片6点が出土している。207はP1西側の床面、209は中央部北側の覆土下層、205・206は覆土中からそれぞれ出土している。208は北西部の覆土中層と床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第96図 第106号住居跡実測図



第97図 第106号住居跡出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
205	須恵器	坏	[12.6]	3.6	[8.0]	長石・石英・雲母	暗灰黄	—	底部一方向の手持ちヘラ削り 二次焼成	覆土中	30%
206	須恵器	坏	—	(2.8)	8.2	長石・石英	灰	良好	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中	40%
207	須恵器	坏	13.8	4.3	8.7	長石・石英・雲母	灰白色	不良	底部回転ヘラ削り 体部「十」刻書	床面	95% PL72
208	土師器	甕	[31.0]	(13.1)	—	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ヘラ当て痕 輪積痕	床面 覆土中層	20%
209	土師器	甕	—	(21.1)	—	長石・石英	橙	普通	体部ヘラ磨き 内面ナデ	覆土下層	50%

第108号住居跡（第98・99図）

位置 調査区北西部のC5h4区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南東コーナー部から南壁を第94号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.27m、短軸3.90mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は21~25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで96cm，燃烧部幅41cmである。袖部は地山を若干掘り残した上に，ロームブロックや白色粘土粒子を含む褐色土を積み上げて構築されている。第6層が袖部の構築土である。煙道部は，壁外へ三角形に奥行き35cm，幅85cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込こんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1 にぶい褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 にぶい褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 6 褐色 ロームブロック中量，白色粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック中量 | |
| 4 暗褐色 ローム粒子微量 | |

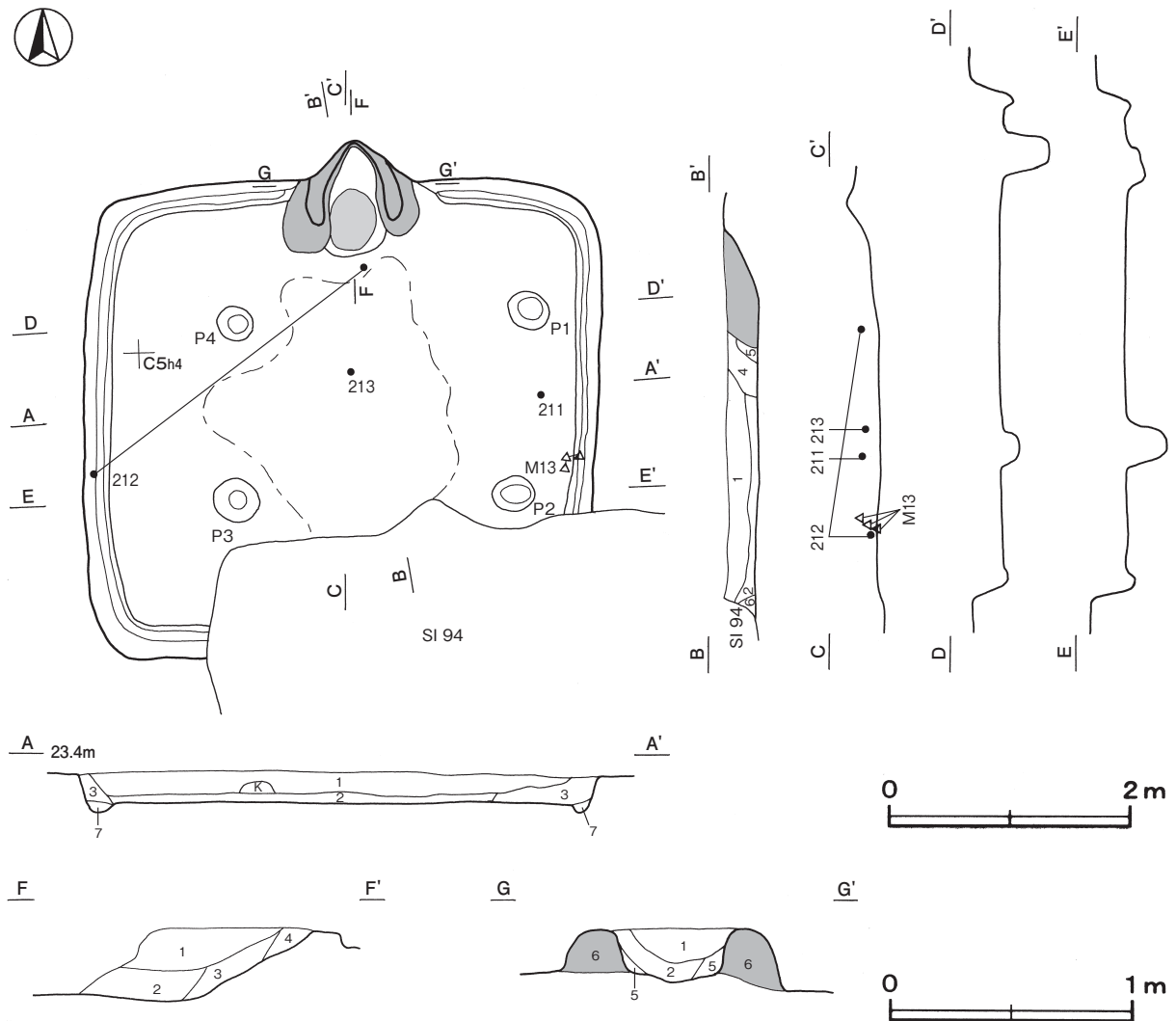
ピット 4か所。P1～P4は深さ14～38cmで，位置と形状から支柱穴である。

覆土 7層に分層できる。レンズ状に堆積をしているが，ロームブロックや砂質粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量，砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 4 灰黄褐色 ロームブロック少量 |
| 2 にぶい褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック少量 | 5 にぶい褐色 砂質粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量 | 6 褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量 |
| | 7 暗褐色 ローム粒子微量 |

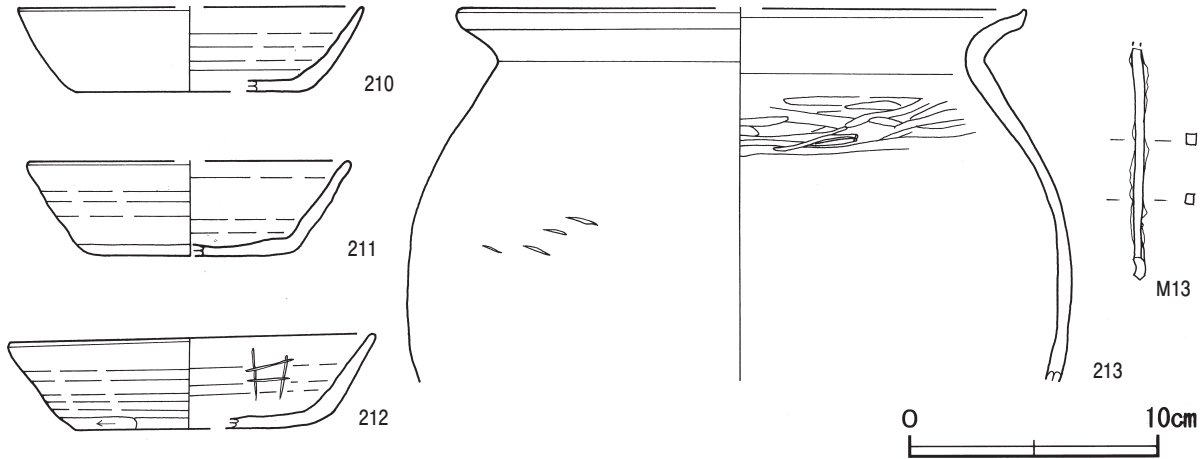
遺物出土状況 土師器甕1点，須恵器坏3点，鉄鏃1点のほか，土師器片130点（甕129・甌1），須恵器片20



第98図 第108号住居跡実測図

点（坏19・甕1）が出土している。211は東部の覆土中層，213は中央部の覆土下層，210は覆土中からそれぞれ出土している。212は竈前面の覆土中層と西壁際の床面から出土した破片が，M13は東壁際の覆土下層と床面から出土した破片がそれぞれ接合している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第99図 第108号住居跡出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表（第99図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
210	須恵器	坏	[13.8]	3.4	[9.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	20%
211	須恵器	坏	[12.8]	3.8	[8.2]	長石・石英・雲母	灰	良好	底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	20%
212	須恵器	坏	14.6	3.8	9.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り 体部内面「井」刻書 二次焼成	床面 覆土中層	80% PL72
213	土師器	甕	[22.8]	(14.9)	—	長石・細礫	にぶい褐	普通	体部ヘラ当て痕 頸部内面ヘラ状工具のナデ	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	鏃	(9.2)	(9.55)	(0.55)	(5.60)	鉄	鏃身部欠損 茎部断面方形	覆土下層・床面	

第112号住居跡（第100・101図）

位置 調査区中央部のD 4 b7区で，標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北壁を第92号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.67m，短軸3.58mの方形で，主軸方向はN-0°である。壁高は31~36cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部に硬化面が認められる。壁溝がほぼ全周している。

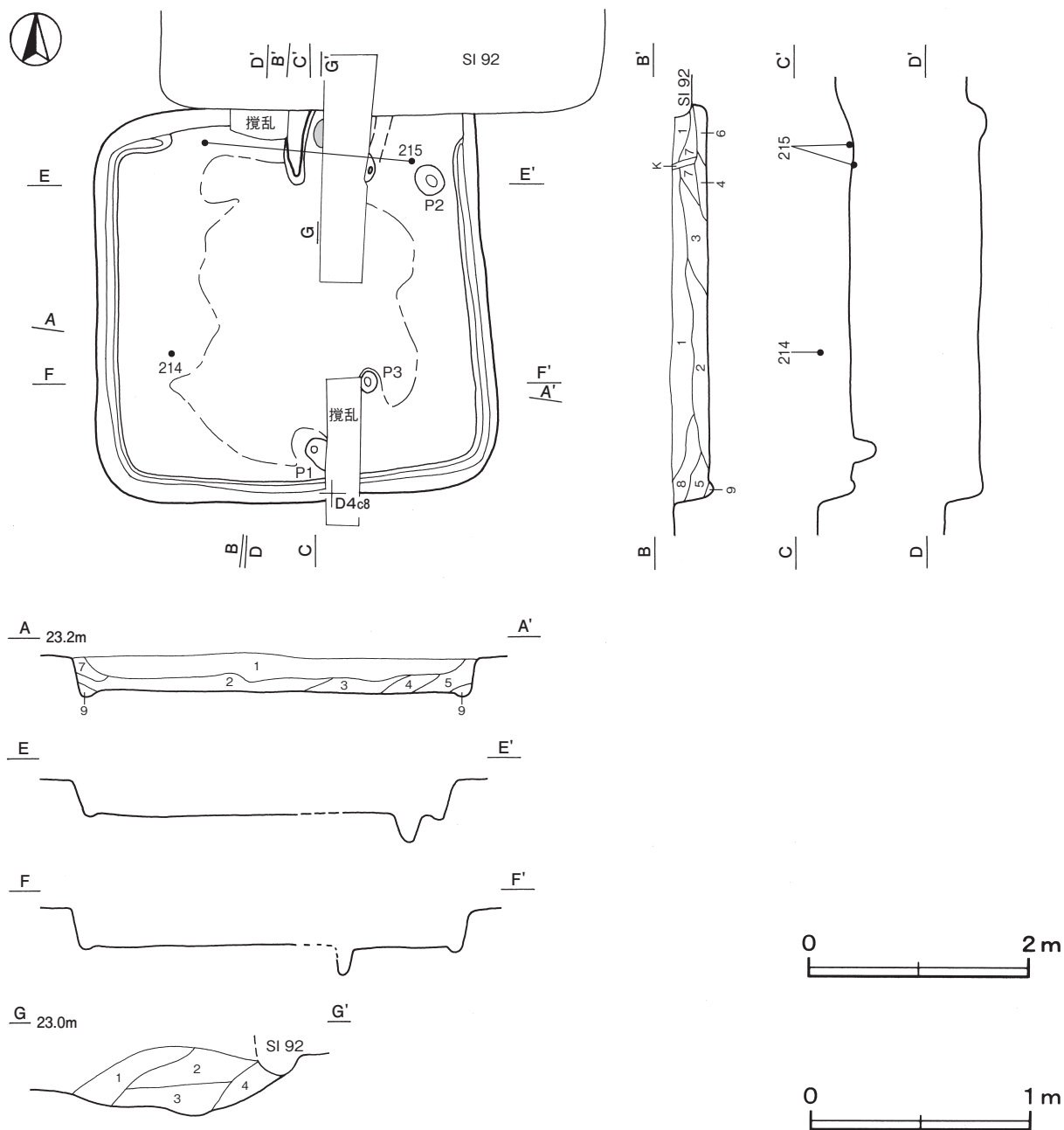
竈 北壁のやや東寄りに付設されている。第92号住居により煙道部の大部分が，攪乱により東半分が壊されており，遺存する規模は焚口部から燃焼部まで60cm，燃焼部幅は推定55cmである。袖部の遺存状況は悪く，床面の状況から想定した。火床部は床面を若干掘り込んでおり，遺存している火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 白色粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 | 4 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

ピット 3か所。P1は深さ23cmで、竈と向かい合う南壁寄り位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P2は深さ23cmで北東コーナーに、P3は深さ26cmで南部の中央寄りに位置しているが、性格は不明である。

覆土 9層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックなどを含み、不規則な堆積であることから埋め戻されている。



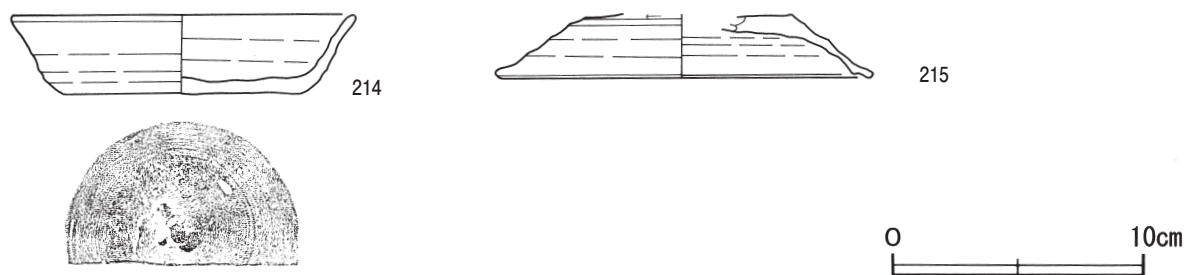
第100図 第112号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|--------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 黒 褐 色 | 白色粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | 7 黒 褐 色 | 白色粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗 褐 色 | ローム粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 須恵器坏・蓋各1点のほか, 土師器片61点(坏9・小形甕1・甕51), 須恵器片11点(坏4・甕7)が出土している。214は西部の覆土上層, 215は北部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から8世紀前葉に比定できる。



第101図 第112号住居跡出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表 (第101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備 考
214	須恵器	坏	[13.6]	3.1	9.4	長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土上層	50% PL72
215	須恵器	蓋	14.7	(2.5)	—	長石・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	40%

第118号住居跡 (第102・103図)

位置 調査区南部のF 3c8区で, 標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第214号土坑を掘り込んで, 南東部を第116号住居に, 北東部を第215・226号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は3.34m, 確認できた南西・北東軸は3.20mである。形状から, 主軸方向がN-36°-Wの長方形と推測できる。壁高は36cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

竈 北西壁のやや西寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで103cm, 燃焼部幅51cmである。袖部は地山を掘り残して構築されている。煙道部は, 壁外へ三角形に奥行き80cm, 幅86cm掘り込んで構築されている。

火床部は床面を掘り込んでおり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 褐 色 | 白色粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 7 黒 褐 色 | 焼土ブロック・白色粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | | |
| 4 褐 色 | 焼土ブロック・灰中量, 炭化物少量 | | |
| 5 黒 褐 色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・白色粘土粒子少量, 炭化物微量 | | |

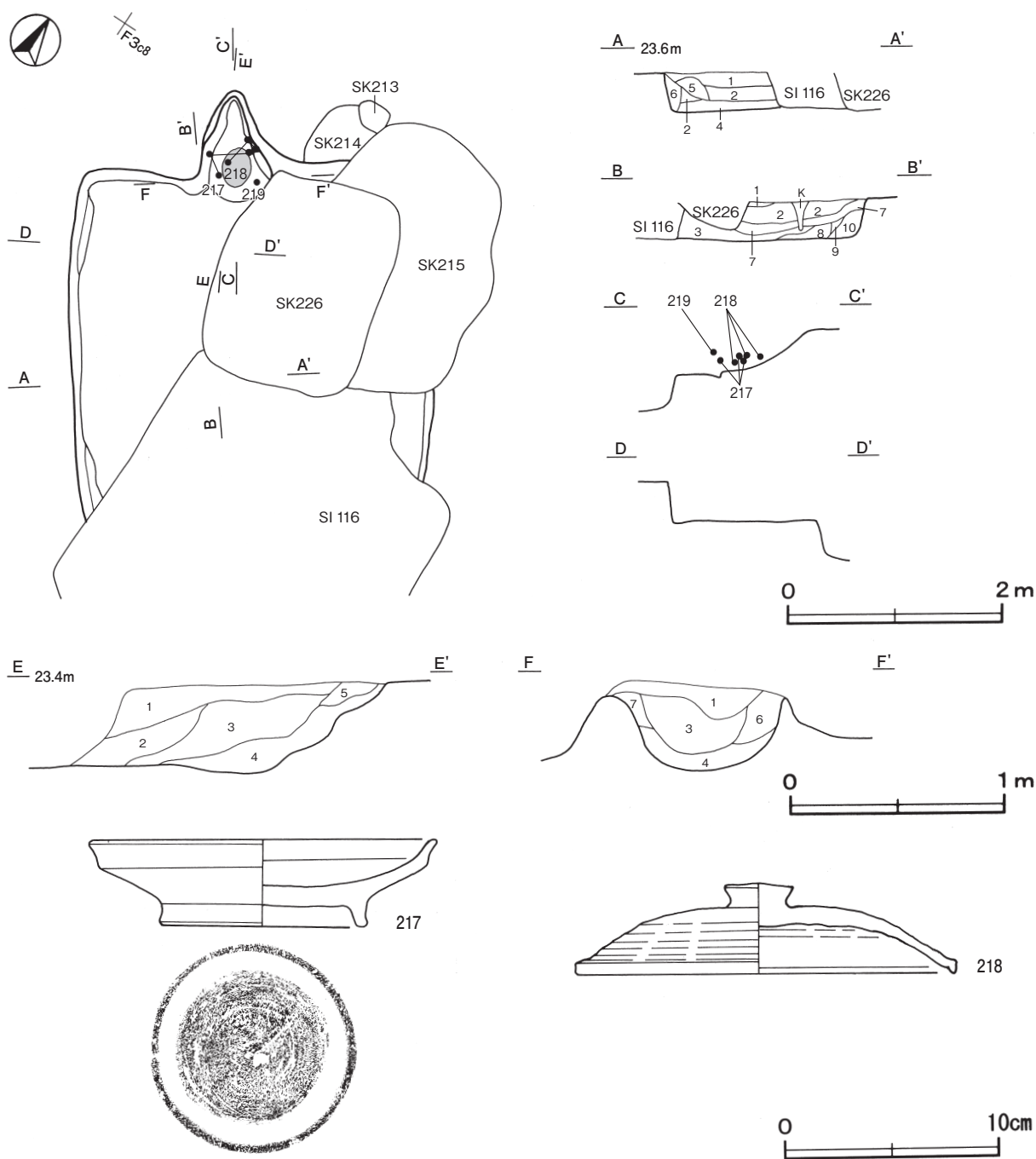
覆土 10層に分層できる。大半の層にロームブロックを含み, 不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

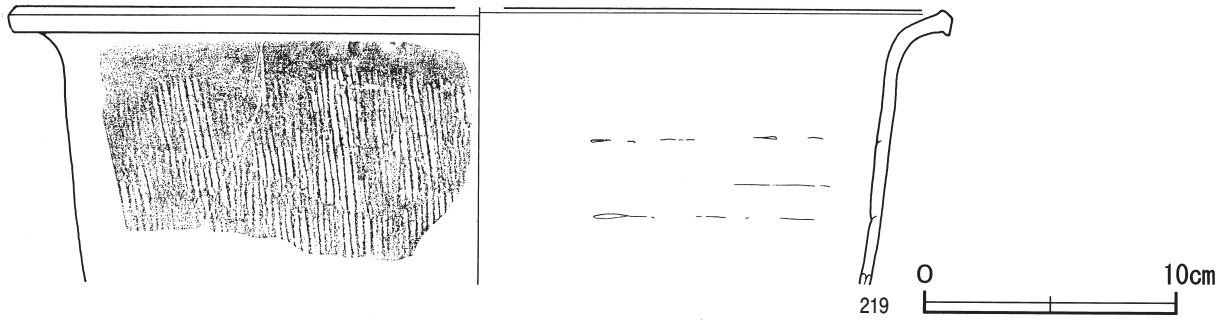
- | | | | |
|--------|-------------------------------|----------|-------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 極 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量 | 7 黒 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 黒 褐色 | ローム粒子少量, 白色粘土粒子微量 |
| | | 9 黒 褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 10 黒 褐色 | 白色粘土ブロック・ローム粒子少量 |

遺物出土状況 須恵器盤・蓋・鉢各1点のほか, 土師器甑片35点, 須恵器片12点(坏10・甕2)が出土している。217・218は竈火床部の底面近く, 219は竈の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から8世紀後葉に比定できる。



第102図 第118号住居跡・出土遺物実測図



第103図 第118号住居跡出土遺物実測図

第118号住居跡出土遺物観察表 (第102・103図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
217	須恵器	盤	16.0	4.1	9.4	長石・細礫, 粗い	灰	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	火床部底面	90% PL72
218	須恵器	蓋	17.8	4.2	3.2	長石・雲母・小礫, 粗い	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	火床部底面	90% PL72
219	須恵器	鉢	[37.0]	(10.9)	-	長石・雲母	にぶい黄褐	不良	体部縦位の平行叩き 輪積痕	竈覆土中層	10%

第119号住居跡 (第104図)

位置 調査区南東部のF 4 c8区で, 標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.62m, 短軸2.59mの方形で, 主軸方向はN-5°-Eである。壁高は30~44cmで, やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 竈前面から南壁にかけて硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで184cm, 燃焼部幅は42cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, 粘土ブロックを含むにぶい赤褐色土を積み上げて構築されている。第7~9層は袖部の構築土である。煙道部は, 壁外へ奥行き127cm, 幅69cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と比べ若干くぼんでおり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 灰褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| | 9 にぶい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |

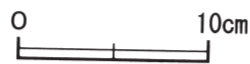
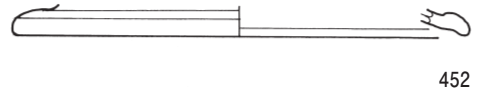
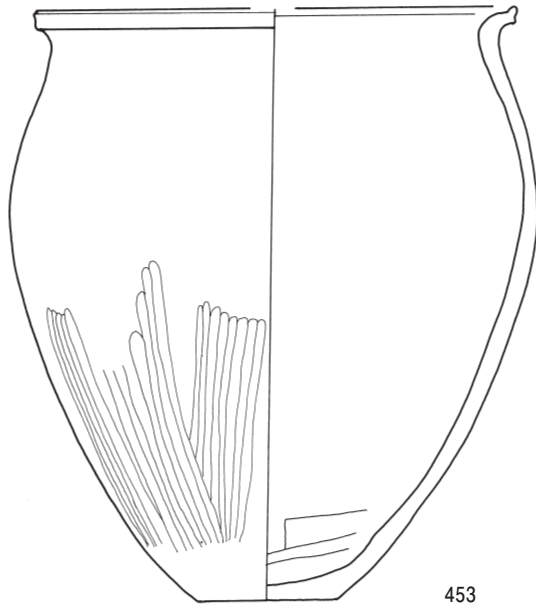
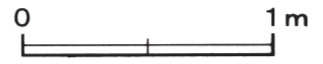
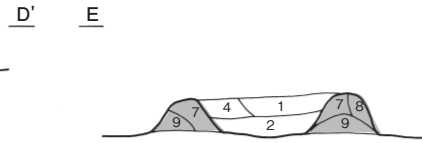
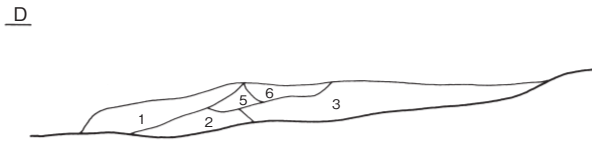
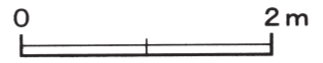
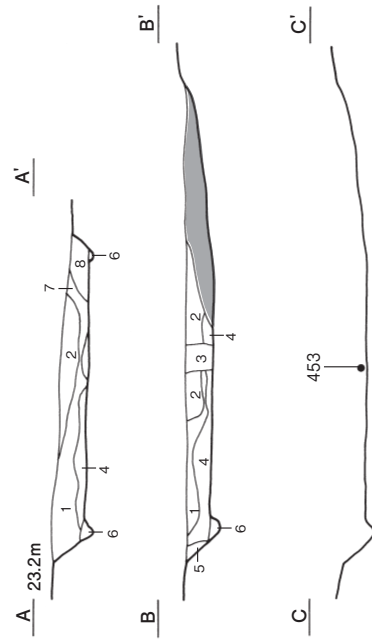
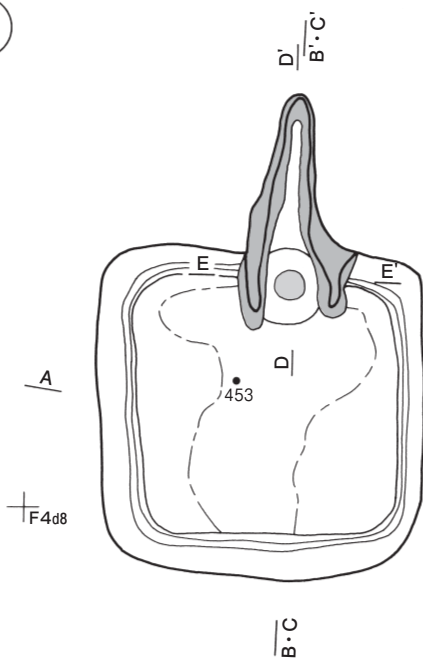
覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含む層が多いことから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器甕1点, 須恵器蓋1点のほか, 土師器片22点(坏2・高台付坏1・甕19), 須恵器甕片5点が出土している。そのほか, 混入した陶器片1点も出土している。453は中央部の覆土下層, 452は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡のほかに, 当遺跡で竈の煙道部が壁外に長く掘り込まれている住居跡は, 第120・121号住居跡が確認されている。時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第104图 第119号住居跡・出土遺物実測図

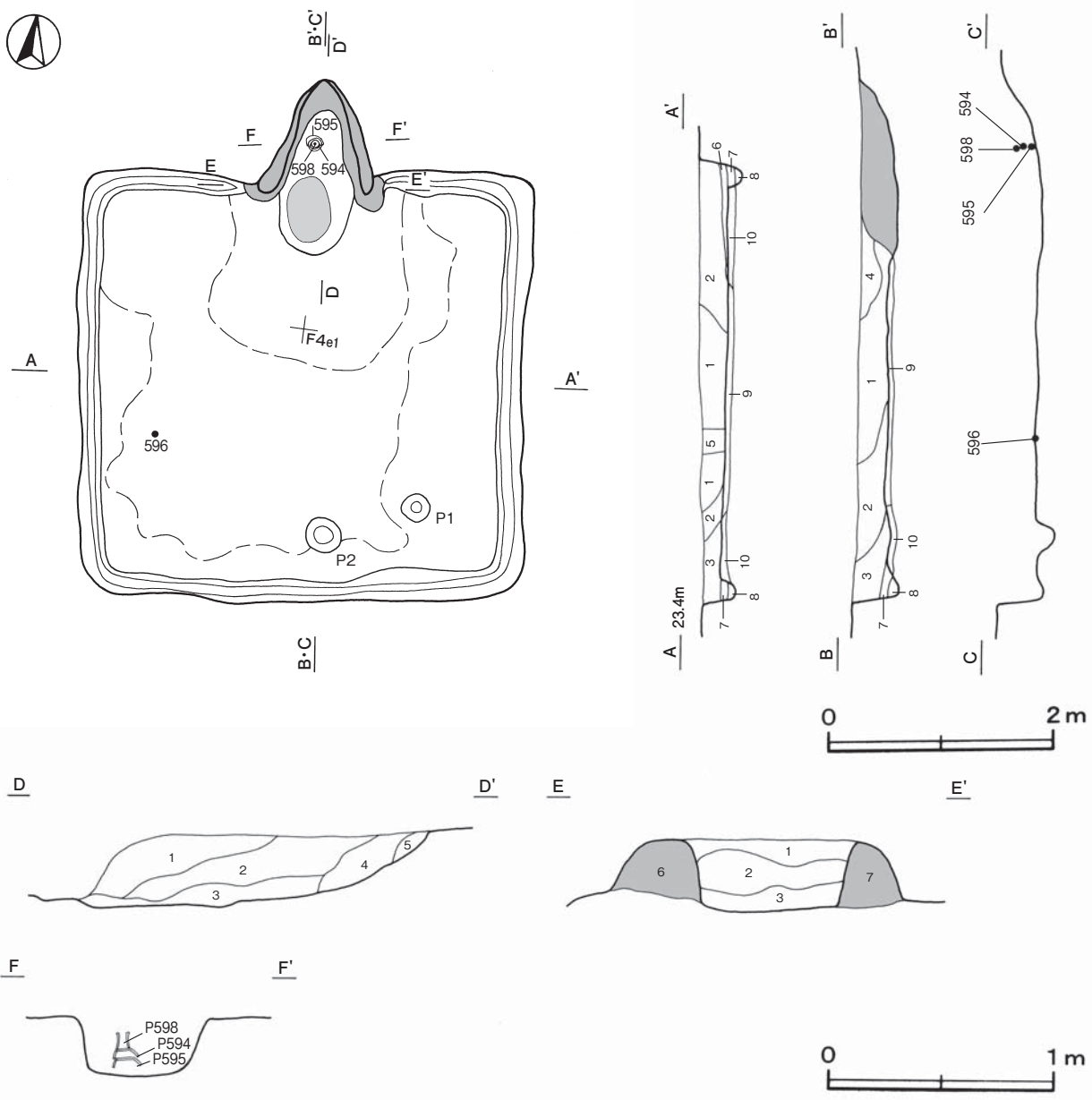
第119号住居跡出土遺物観察表（第104図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
452	須恵器	蓋	[17.9]	(1.1)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロ成形	覆土中	5%
453	土師器	甕	[25.0]	30.9	7.3	長石・石英・雲母	橙	普通	体部ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	70% PL73

第121号住居跡（第105・106図）

位置 調査区南部のF 3 e0区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.02m、短軸3.82mの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は28~42cmで、ほぼ直立している。



第105図 第121号住居跡実測図

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部に硬化面が認められ、竈前面は特に硬化している。壁溝が全周している。貼床は、ロームブロックを含む黒褐色土を7cmほど埋めて構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで153cm、燃烧部幅は56cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを含むにぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。第6・7層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き84cm、幅88cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と比べ若干くぼみ、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 焼土ブロック・白色粘土ブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 | 7 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、炭化物微量 |
| 4 褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | |

ピット 2か所。P1は深さ24cmで、コーナー部に位置していることから支柱穴と考えられる。P2は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

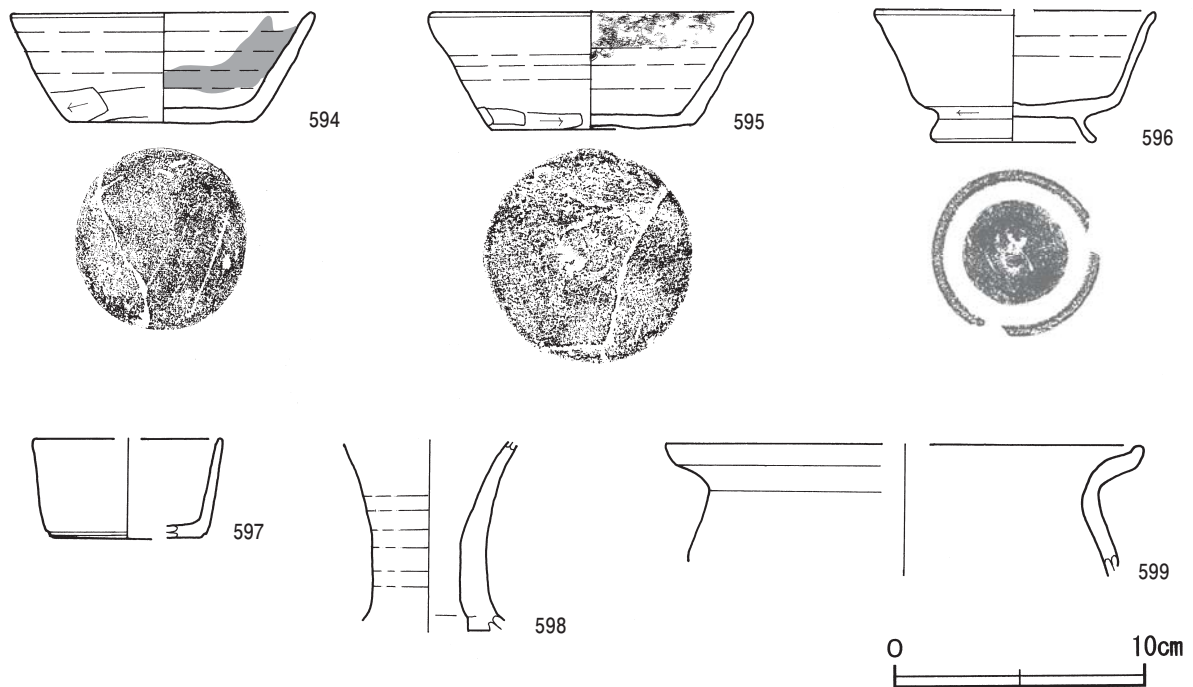
覆土 8層に分層できる。不自然な堆積であることから埋め戻されている。第9・10層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量 | 10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器杯・甕各1点、須恵器杯1点、高台付杯1点、コップ形土器1点、長頸壺1点のほか、土師器片137点（杯6・蓋1・甕130）、須恵器片60点（杯29・高台付杯1・蓋3・甕類27）、礫4点が出土している。594・595・598は竈の火床部にそれぞれ逆位の状態で重なって出土しており、支脚に転用されたものと考えられる。596は西部の床面、597・599は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第106図 第121号住居跡出土遺物実測図

第121号住居跡出土遺物観察表（第106図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
594	土師器	坏	11.8	4.4	7.0	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方のヘラ削り	竈火床部	100% PL72 油煙付着
595	須恵器	坏	13.0	4.7	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	竈火床部	95% PL72 漆付着
596	須恵器	高台付坏	[11.2]	5.2	6.6	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	床面	60% PL72
597	須恵器	コップ形土器	[7.5]	3.9	[5.7]	長石・石英・黒色粒子	褐灰	普通	ロクロ成形 自然釉付着	覆土中	20%
598	須恵器	長頸壺	—	(7.6)	—	長石	灰	普通	頸部内・外面ロクロナデ	竈火床部	10% PL72
599	土師器	甕	[19.0]	(5.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	10%

表3 奈良時代竈穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
								主柱穴	出入口	ピット	竈			
3	F 3b2	方形	N-7°-W	3.58 × 3.49	22	平坦	全周	—	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器・刀子・鉄鏃	8C後 本跡→4掘立、28土坑
7	F 3d1	方形	N-5°-W	5.25 × 5.17	15	平坦	全周	4	1	1	北壁	自然	土師器・須恵器・鉄鏃	8C中 本跡→25土坑
10	E 3d2	方形	N-16°-W	5.20 × 5.14	13	貼床	全周	4	1	3	北壁	人為	土師器・須恵器	8C前 122住→本跡
11	F 3a5	方形	N-6°-W	4.19 × 4.04	20	平坦	全周	4	1	3	北壁	人・自	土師器・須恵器	8C前 3掘立 本跡→12住
20	D 3j1	[方形]	N-4°-W	3.34 × (1.25)	18	平坦	全周	1	1	—	不明	人為	土師器・須恵器	8C中
24	E 3f3	方形	N-22°-E	3.34 × 3.26	17	平坦	一部	4	—	—	北壁	自・人	土師器・須恵器・砥石・銅製飾り金具カ	8C前 本跡→16住、49土坑
25	D 2h7	長方形	N-12°-W	5.77 × 5.02	0	平坦	全周	4	1	—	北壁	無	土師器・銅製耳環	8C代
26	E 3d5	長方形	N-12°-E	4.49 × 3.77	29	平坦	全周	4	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器・砥石・刀子・鎌	8C中 36住→本跡→62土坑
28	E 2a9	長方形	N-18°-W	3.29 × 2.93	28~44	平坦	一部	—	—	—	北壁	自然	土師器・須恵器	8C後
30	E 2b6	方形	N-2°-W	3.78 × 3.68	40	平坦	全周	4	1	1	北壁	人・自	土師器・須恵器・墨書土器	8C中 本跡→94・104~108土坑
31	E 2a5	方形	N-27°-W	2.79 × 2.65	23	傾斜	全周	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器	8C後
36	E 3d5	方形	N-14°-W	3.98 × 3.62	34	平坦	ほぼ全周	4	1	1	北壁	自・人	土師器・須恵器	8C前 本跡→26住
45	C 1j7	方形	N-4°-E	4.73 × 4.42	27~35	凸凹	全周	4	1	1	北壁	人為	土師器・須恵器・不明鉄製品	8C中
53	C 3i4	方形	N-23°-W	4.51 × 4.33	43~54	平坦	—	4	1	—	北壁	人・自	土師器・須恵器・土製支脚	8C前 本跡→17溝
54	C 3e0	方形	N-10°-W	4.06 × 2.83	39~49	平坦	全周	—	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器	8C後
57	C 2e3	方形	N-90°-E	3.49 × 3.47	35~44	平坦	一部	—	—	—	東壁	人為	土師器・須恵器	8C後 本跡→56住、9溝
58	E 2d8	長方形	N-2°-E	4.68 × 4.00	45~55	平坦	全周	4	1	7	北壁	人為	土師器・須恵器・土製支脚・刀子	8C後
59	E 2f6	方形	N-8°-E	4.45 × 4.16	12~20	平坦	全周	4	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器・釘	8C中 本跡→140土坑
68	B 3i7	長方形	N-10°-E	4.04 × 3.38	34~39	平坦	全周	—	—	1	北壁	自然	土師器・須恵器・砥石	8C後
69	C 4a7	方形	N-2°-E	5.54 × 5.22	40~48	平坦	全周	4	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器・不明鉄製品	8C前
71	C 4a5	長方形	N-16°-W	3.94 × 2.57	17~23	平坦	—	2	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・石製紡錘車	8C中
72	C 4f7	方形	N-30°-W	4.77 × 4.54	45	平坦	ほぼ全周	3	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器・灰釉陶器	8C中 本跡→48土坑
76	C 5a5	方形	N-9°-E	3.42 × 3.28	27	平坦	—	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・砥石	8C前
80	C 4d5	方形	N-0°	3.30 × 2.08	19~25	平坦	一部	1	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器	8C前 本跡→11溝
81	C 5h5	[方形・長方形]	N-4°-W	4.49 × (1.76)	22	平坦	—	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器	8C後 本跡→91住、9溝
84	C 5f4	長方形	N-18°-W	4.40 × 3.84	20~23	平坦	全周	4	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器・鉄鏃・鉄鎌	8C中 本跡→163土坑
85	C 4f5	[方形]	N-5°-E	4.13 × (1.39)	15~18	平坦	[全周]	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器	8C中
86	C 4i6	長方形	N-8°-E	3.92 × 3.55	20~25	平坦	全周	4	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器	8C前 本跡→88・90住、8・9溝
87	C 5g2	方形	N-10°-W	4.23 × 4.15	50~54	平坦	全周	4	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器・砥石・石製紡錘車	8C後 本跡→164土坑
88	C 4j6	方形	N-3°-E	3.69 × 3.57	18~23	平坦	全周	4	1	2	北壁	人為	土師器・須恵器・砥石	8C中 86住→本跡

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
								主柱穴	出入口	ピット	竈			
89	C 5 f1	方形	N-10°-W	3.78 × 3.66	36~44	平坦	ほぼ全周	4	1	—	北壁	人為	土師器	7C末・8C前 本跡→165土坑
90	C 4 j7	長方形	N-77°-E	3.59 × 3.24	19~24	平坦	半周	—	1	—	東壁	人為	土師器・須恵器	8C後 86住→本跡
92	D 4 a8	方形	N-2°-W	4.06 × 4.03	15~21	平坦	ほぼ全周	5	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・刀子	8C中 112住→本跡
103	D 5 b4	[方形・長方形]	N-9°-E	3.09 × (1.91)	10~13	平坦	[全周]	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・石製紡錘車	8C中
106	C 5 j1	長方形	N-8°-W	2.83 × 2.55	38	平坦	—	—	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器	8C中 本跡→8溝, 173土坑
108	C 5 h4	方形	N-0°	4.27 × 3.90	21~25	平坦	全周	4	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・鉄鏃	8C中 本跡→94住
112	D 4 b7	方形	N-0°	3.67 × 3.58	31~36	平坦	ほぼ全周	—	1	2	北壁	人為	土師器・須恵器	8C前 本跡→92住
118	F 3 c8	[長方形]	N-36°-W	(3.34 × 3.20)	36	平坦	—	—	—	—	北西壁	人為	土師器・須恵器	8C後 214土坑→本跡→116住, 215・226土坑
119	F 4 c8	方形	N-5°-E	2.62 × 2.59	30~44	平坦	全周	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器	8C後
121	F 3 e0	方形	N-7°-W	4.02 × 3.82	28~42	平坦	全周	1	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器・礫	8C後
122	E 3 d2	方形	N-17°-W	4.45 × 4.18	23	平坦	一部	4	1	—	北壁	人為		8C前 本跡→10住

(2) 掘立柱建物跡

第23号掘立柱建物跡 (第107図)

位置 調査区西部のC 2 j7区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第149号土坑と重複しているが、柱穴との重複が無いため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-10°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.30m、梁行4.20mで、面積は26.46㎡である。柱間寸法は桁行・梁行ともに2.10m (7尺) の等間隔に配置され、柱筋は揃っている。南西隅の柱穴は攪乱のため、確認できなかった。

柱穴 9か所。平面形は隅丸方形又は隅丸長方形で、長軸80~110cm、短軸67~85cmである。深さは40~65cmで、掘方の断面形は逆台形又はU字形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕、第3~7層が埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

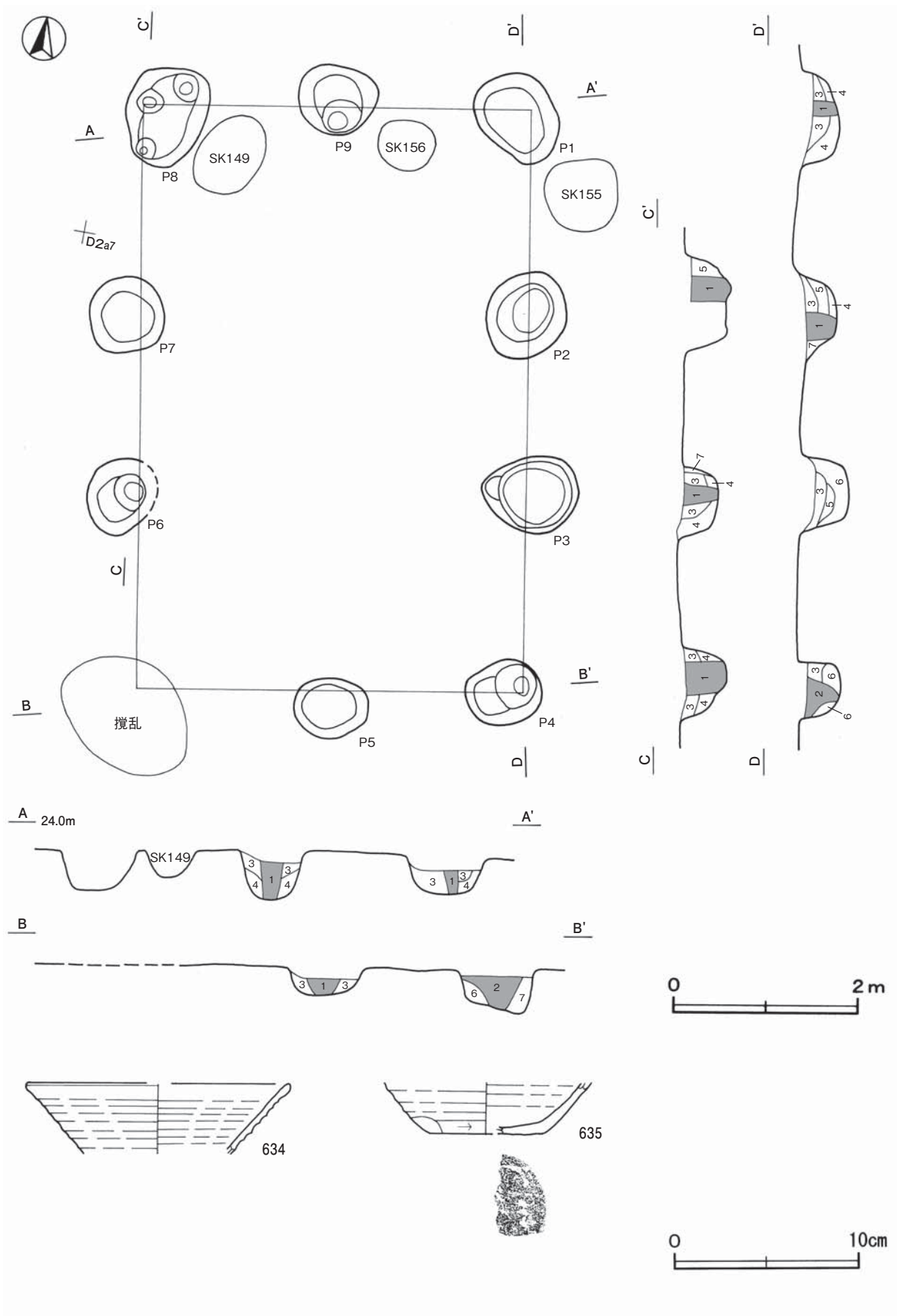
1 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック中量 (締まり強)
3 明褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量 (締まり強)	6 褐色	ロームブロック多量
		7 褐色	ローム粒子中

遺物出土状況 須恵器坏2点のほか、土師器甕片9点、須恵器片8点 (坏5・蓋1・甕1・甌1) が出土している。634はP 1の柱抜き取り痕、635はP 9の埋土から出土している。

所見 時期は、埋土の出土土器から8世紀後葉に比定できる。南4mに位置する第24・25号掘立柱建物跡、南15mに位置する第26号掘立柱建物跡と桁行方向・規模等がほぼ一致することから同時期に存在していたと推測される。

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第107図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
634	須恵器	坏	[14.0]	(3.8)	—	長石	灰	普通	ロクロナデ	P 1抜き取り痕	30%
635	須恵器	坏	—	(2.9)	[6.0]	長石・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り り痕を残す不定方向のヘラ削り	P 9埋土	20%



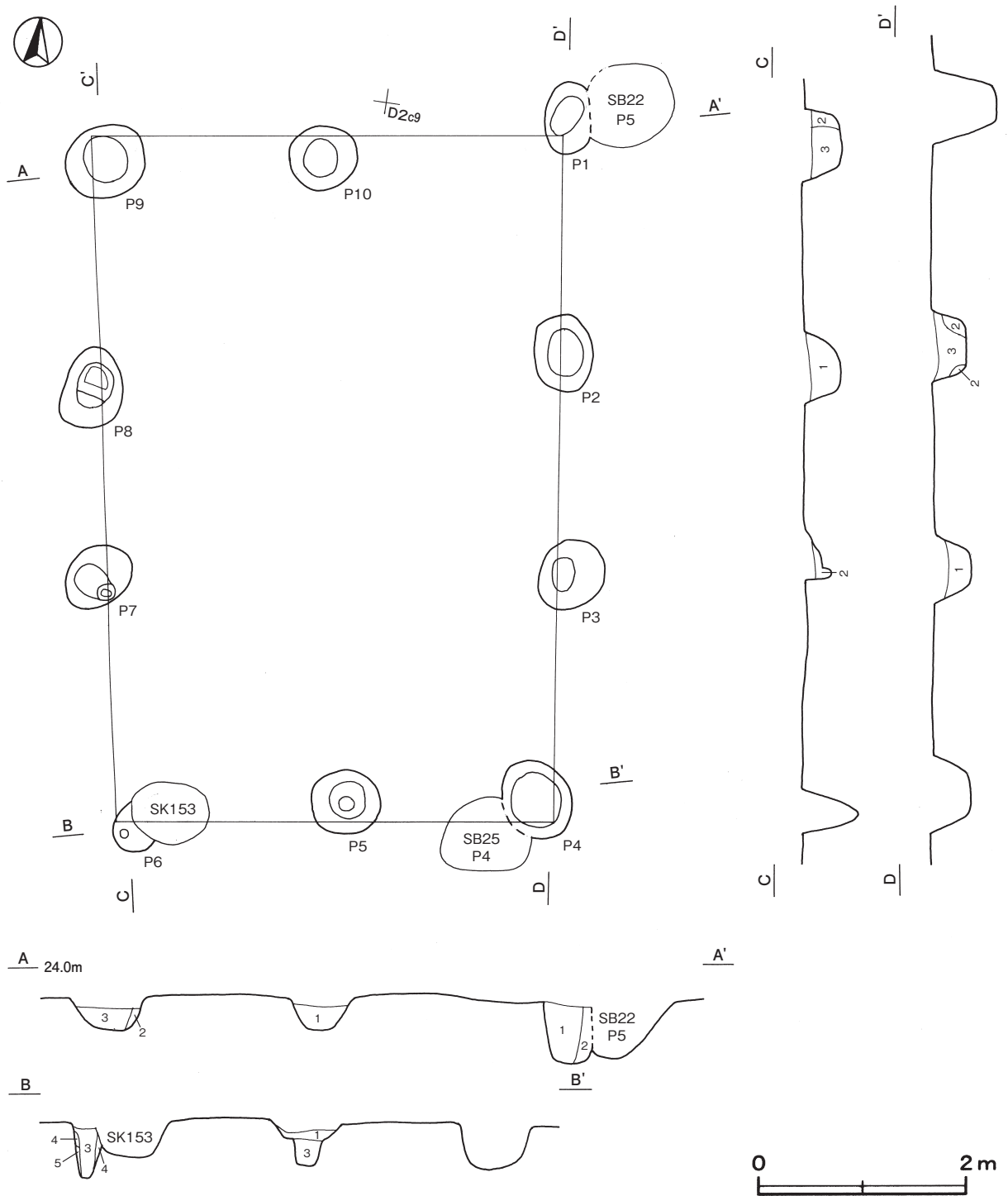
第107図 第23号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第24号掘立柱建物跡（第108図）

位置 調査区西部のD 2 c8区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P 6が第153号土坑に、P 1が第22号掘立柱建物P 5に掘り込まれている。第25号掘立柱建物とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-8°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.60m、北梁行4.5m・南梁行4.2mで、面積は26.70㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から2.4m（8尺）、2.1m（7尺）、



第108図 第24号掘立柱建物跡実測図

2.1m（7尺）、北梁行が2.25m（7.5尺）の等間隔、南梁行が2.10m（7尺）の等間隔に配置されている。

柱穴 10か所。平面形は円形で、径48～68cmである。深さは30～55cmで、掘方の断面形は逆台形又はU字形である。土層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 極暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器甕片35点、須恵器坏片・甕片各1点がP2～P4の覆土中から出土しているが、細片のため図示できない。

所見 第25号掘立柱建物跡との新旧関係は不明であるが、桁行方向・規模がほぼ一致することから、本跡から第25号掘立柱建物への建て替え、あるいは第25号掘立柱建物跡から本跡への建て替えが推測される。また、北4mに存在する第23号掘立柱建物跡と桁行方向・規模等がほぼ一致することから同時期に存在していたものと考えられ、時期は8世紀後葉と思われる。

第25号掘立柱建物跡（第109図）

位置 調査区西部のD2c8区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P1が第150号土坑に掘り込まれている。第24号掘立柱建物とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-11°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.00m、梁行4.2mで、面積は25.20㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から2.1m（7尺）・1.8m（6尺）・2.1m（7尺）、梁行が2.1m（7尺）の等間隔に配置されている。

柱穴 10か所。平面形は円形で、径75～90cmである。深さは33～70cmで、掘方の断面形は逆台形又はU字形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2・3層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器甕片1点が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 第24号掘立柱建物跡との新旧関係は不明であるが、桁行方向・規模がほぼ一致することから、本跡から第24号掘立柱建物への建て替え、あるいは第24号掘立柱建物跡から本跡への建て替えが推測される。また、北4mに存在する第23号掘立柱建物跡と桁行方向・規模等がほぼ一致することから同時期に存在していたものと考えられ、時期は8世紀後葉と思われる。

第26号掘立柱建物跡（第110図）

位置 調査区中央部のD2f9区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P1～P3・P9が第43号住居跡に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-18°-Wの南北棟である。規模は、桁行4.80m、梁行3.90mで、面積は18.72㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.8m（6尺）・1.5m（5尺）・1.5m（5尺）、梁行が1.95m（6.5尺）の等間隔に配置されている。東平の柱穴1か所は確認できなかった。

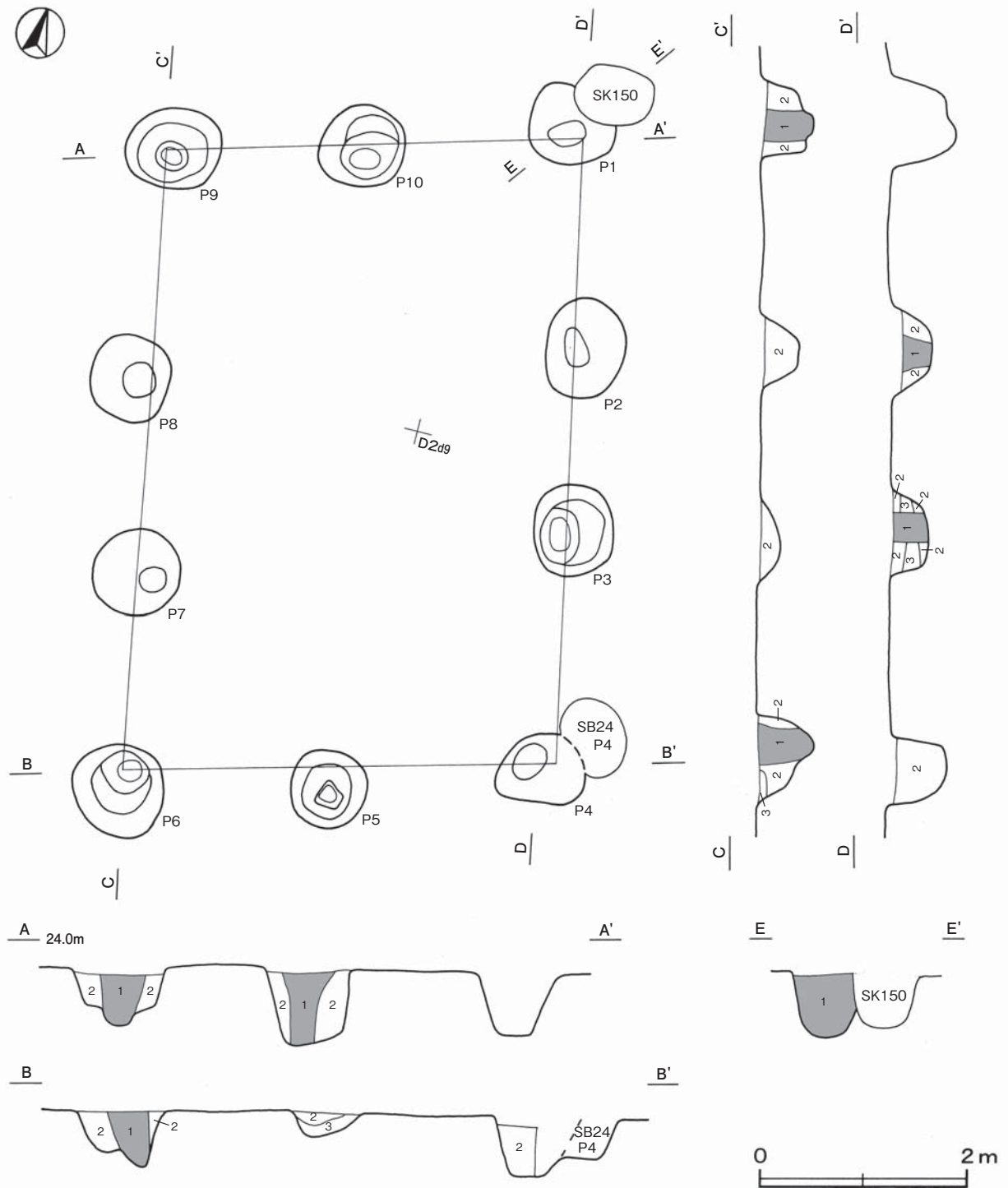
柱穴 9か所。平面形は円形で、径65～85cmである。深さは26～55cmで、掘方の断面形は逆台形又はU字形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2・3層は埋土、第4～7層は抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 (締まり強) |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 (締まり強) | 6 暗褐色 ロームブロック多量 |
| | 7 にぶい褐色 ローム粒子中量 |

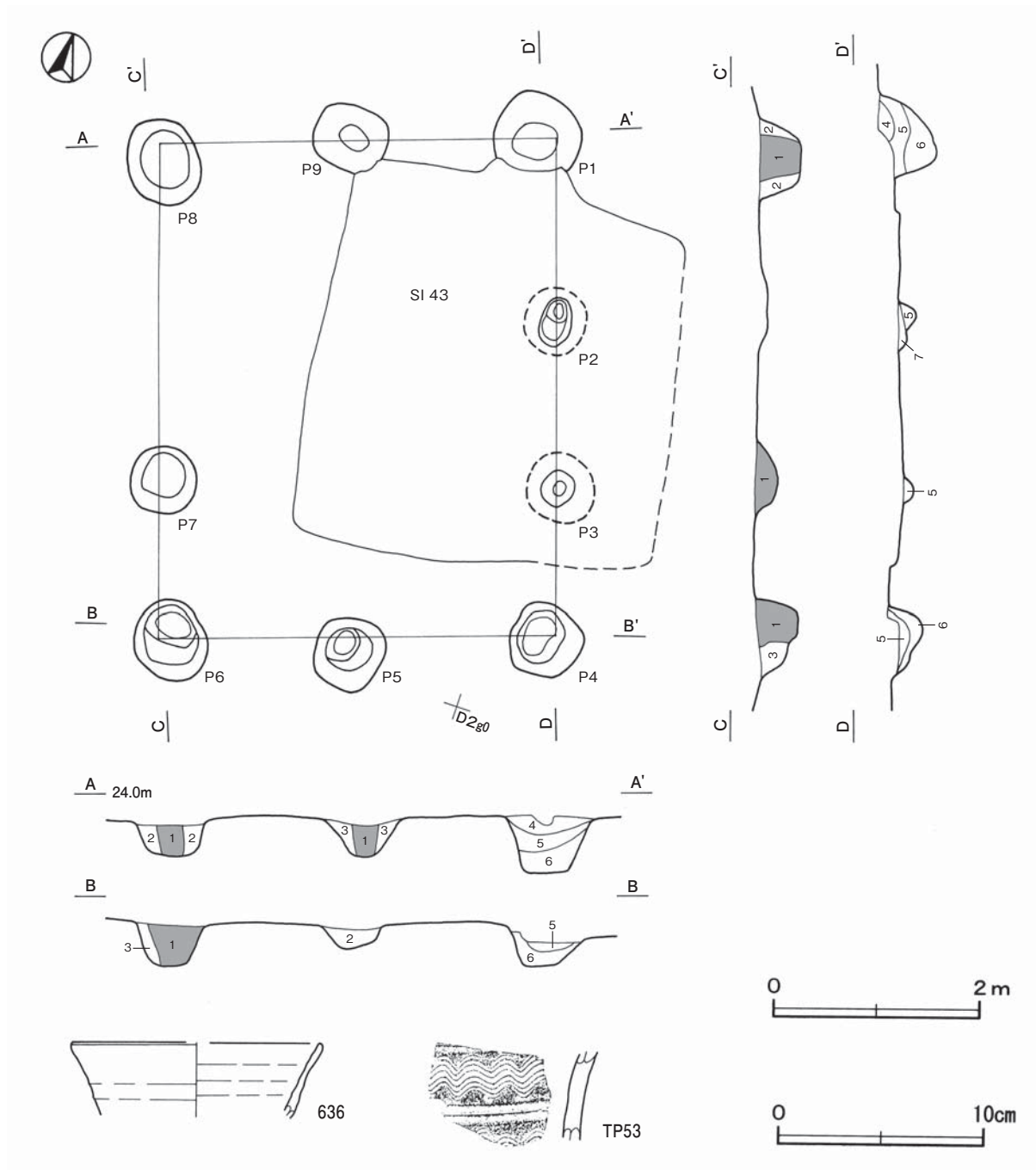
遺物出土状況 須恵器坏1点, 甕1点が出土している。636・TP53はP8の埋土から出土している。

所見 埋土から出土している土器が8世紀後葉に比定できるものであること, 9世紀中葉の第43号住居に掘り込まれていることなどから, 時期は8世紀後葉に比定できる。北4mに位置する第24・25号掘立柱建物跡, 北



第109図 第25号掘立柱建物跡実測図

15mに位置する第23号掘立柱建物跡と桁行方向・規模等がほぼ一致することから同時期に存在していたと推測される。



第110図 第26号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

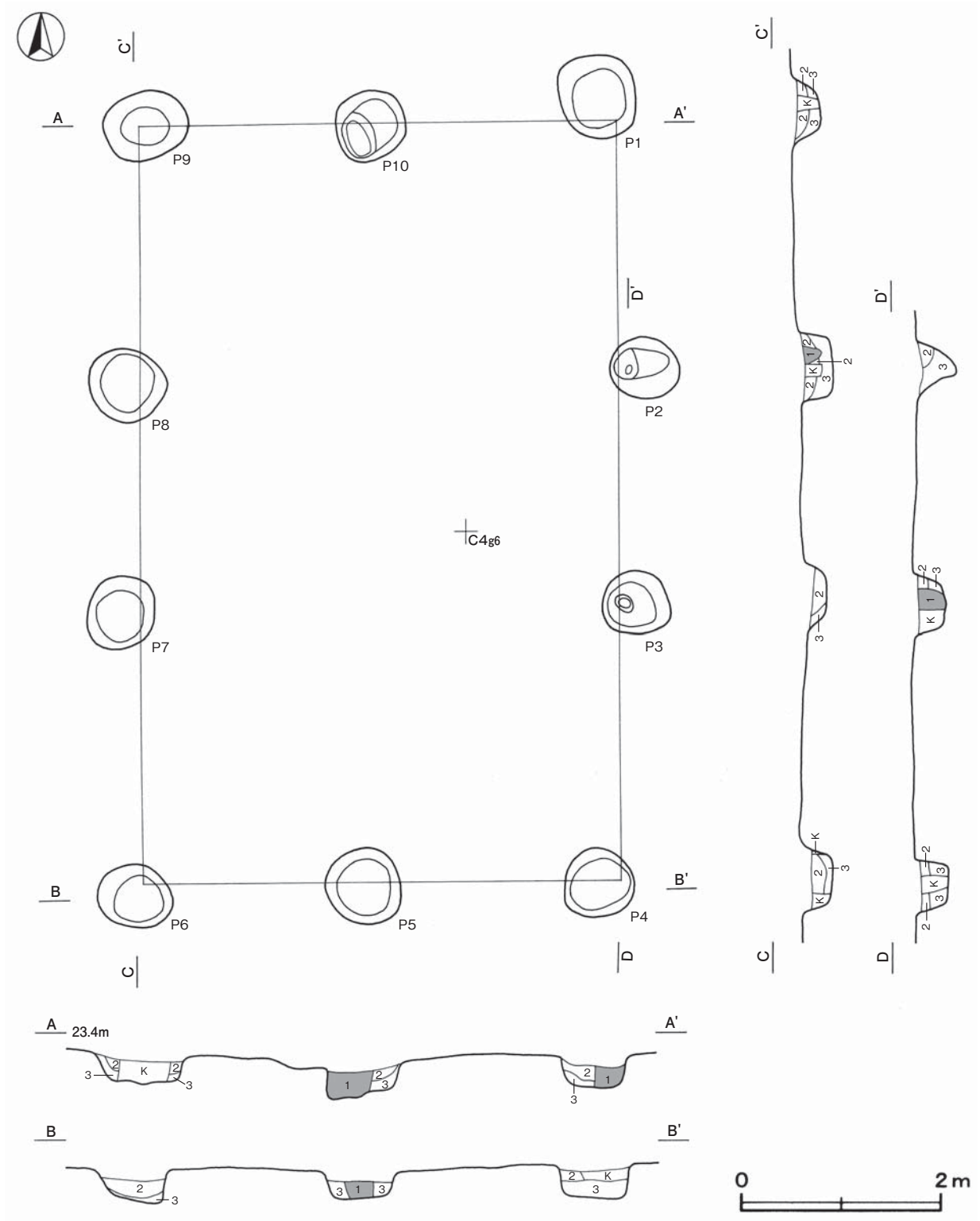
第26号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
636	須恵器	坏	[12.0]	(3.1)	—	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	P 8 埋土	10%
TP53	須恵器	甕	—	(4.3)	—	長石	暗灰	良好	頸部破片 8本1組の櫛描波状文	P 8 埋土	PL89

第31号掘立柱建物跡（第111図）

位置 調査区北部のC 4 f5区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN - 0°の南北棟である。規模は，桁行7.80m，梁行4.80mで，面積は37.44㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から2.4m（8尺）・2.4m（8尺）・2.7m（9尺），



第111図 第31号掘立柱建物跡実測図

梁行が2.4m（8尺）の等間隔に配置され、柱筋は揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形で、径35～85cmである。深さは28～36cmで、掘方の断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2・3層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

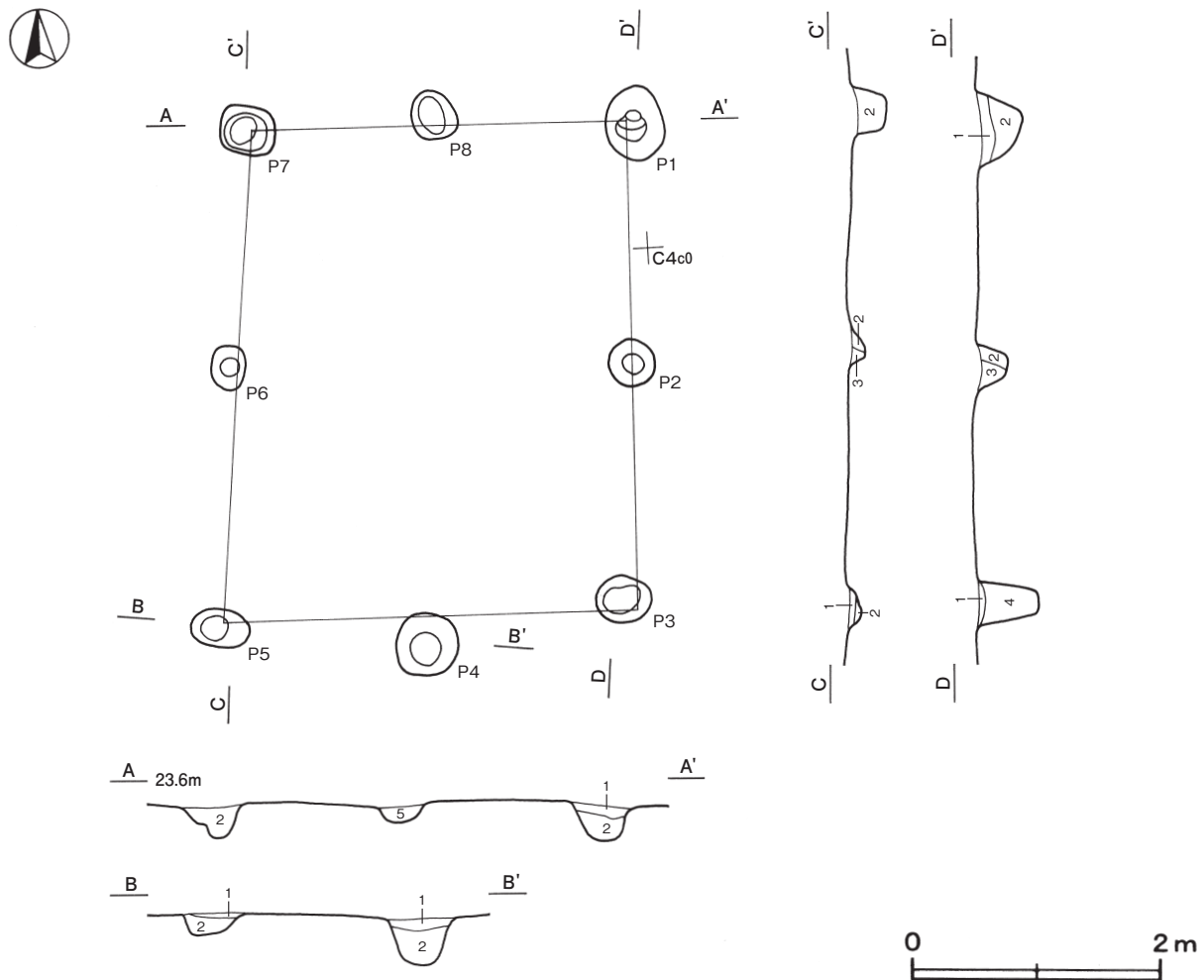
所見 出土土器がないため時期判断は困難であるが、周囲に軸方向を同じくする8世紀代の竪穴住居跡が存在していることから、時期は8世紀代と考えられる。

第32号掘立柱建物跡（第112図）

位置 調査区北部のC4c9区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-2°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.90m、北梁行3.00m、南梁行3.30mで、面積は12.87㎡である。柱間寸法は桁行が1.95m（6.5尺）の等間隔、北梁行が1.5m（5尺）の等間隔、南梁行が1.65m（5.5尺）の等間隔に配置されている。

柱穴 8か所。平面形は円形で、径40～60cmである。深さは20～37cmで、掘方の断面形はU字形である。土層は抜き取り後の覆土である。



第112図 第32号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 4 暗 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | | |

所見 出土土器がないため時期判断は困難であるが、周囲に軸方向を同じくする8世紀代の竪穴住居跡が存在していることから、時期は8世紀代と考えられる。

第35号掘立柱建物跡（第113・114図）

位置 調査区北部のD 4 j3区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-4°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.00m、北梁行4.20m、南梁行4.50mで、面積は27.00㎡である。桁行の柱間寸法は北妻から東平が2.1m（7尺）・1.8m（6尺）・2.1m（7尺）、西平が2.1m（7尺）・2.1m（7尺）・1.8m（6尺）、北梁行が2.1m（7尺）の等間隔、南梁行が2.1m（7尺）・2.4m（8尺）に配置されている。P 1～P 4, P 7～P 10の底面で、柱のあたりが確認されている。

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形で、一辺95～120cmである。深さは30～75cmで、掘方の断面形は逆台形である。

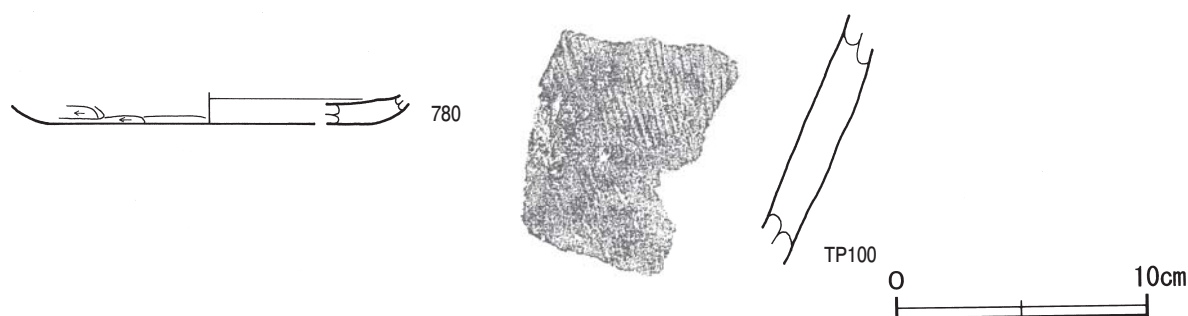
土層は第1層が柱抜き取り痕、第2～5層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|---------|---------------|---------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子微量（締まり弱） | 4 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器皿1点、須恵器甕1点のほか、土師器甕片2点が出土している。780はP 1, TP100はP 2の埋土からそれぞれ出土している。

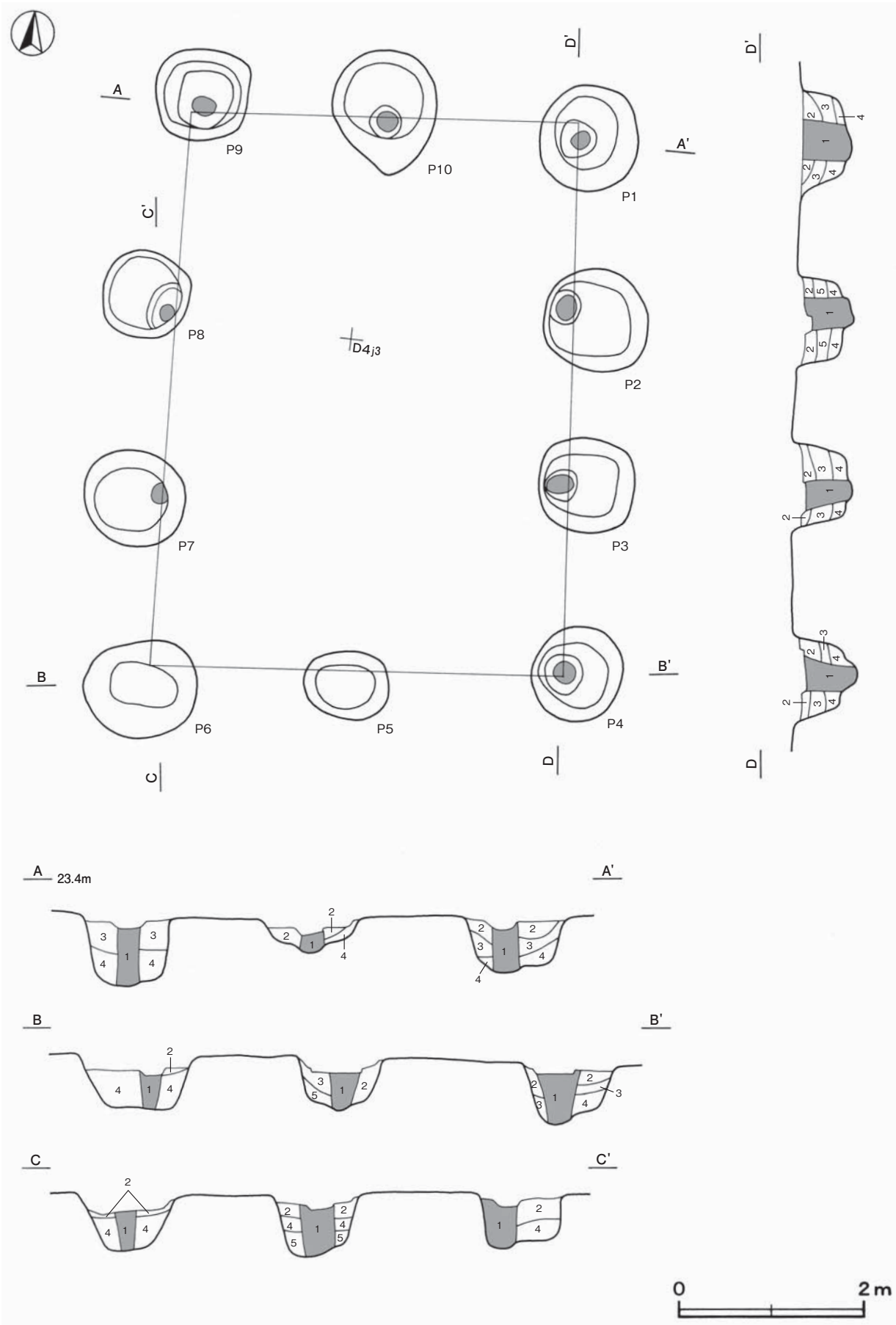
所見 柱穴は加重を受けた痕跡が認められ、屋として機能していたと思われる。時期は、出土土器から8世紀中葉から後葉に比定できる。



第113図 第35号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第35号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第113図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備 考
780	土師器	皿	—	(1.2)	[13.0]	長石・赤色粒子	赤褐色	普通	底部手持ちヘラ削り	P 1埋土	10%
TP100	須恵器	甕	—	(9.8)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	外面斜位の平行叩き	P 2埋土	



第114图 第35号掘立柱建物跡実測図

表4 奈良時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	構造	桁行方向	柱間数		規模(m)		面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴 (cm)			主な 出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				桁行 × 梁間	桁行 × 梁間	桁行	梁間		柱穴数	平面形	深さ				
23	D 2 j7	側柱	N-10°-W	3 × 2	6.30 × 4.20	26.46	2.10	2.10	9	隅丸方形 隅丸長方形	40~65	土師器 須恵器	8C後 149土坑との 新旧不明		
24	D 2 C8	側柱	N-8°-W	3 × 2	6.60 × 4.50	26.70	2.40 2.10	2.25	10	円形	30~55	土師器 須恵器	8C後 本跡→153土 坑, 22掘立・25掘立との 新旧不明		
25	D 2 C8	側柱	N-11°-W	3 × 2	6.00 × 4.20	25.20	2.10 1.80	2.10	10	円形	33~70	土師器	8C後 本跡→150土坑 24掘立との新旧不明		
26	D 2 f9	側柱	N-18°-W	3 × 2	4.80 × 3.90	18.72	1.80 1.50	1.95	9	円形	26~55	須恵器	8C後 本跡→43住		
31	C 4 f5	側柱	N-0°	3 × 2	7.80 × 4.80	37.44	2.40 2.70	2.40	10	円形	28~36		8C代		
32	C 4 e9	側柱	N-2°-E	2 × 2	3.90 × 3.00	12.87	1.95 1.65		8	円形	20~37		8C代		
35	D 4 j3	側柱	N-4°-W	3 × 2	6.00 × 4.20 4.50	27.00	2.10 1.80	2.10 2.40	10	隅丸方形	30~75	土師器 須恵器	8C中~後		

(3) 井戸跡

第6号井戸跡(第115・116図)

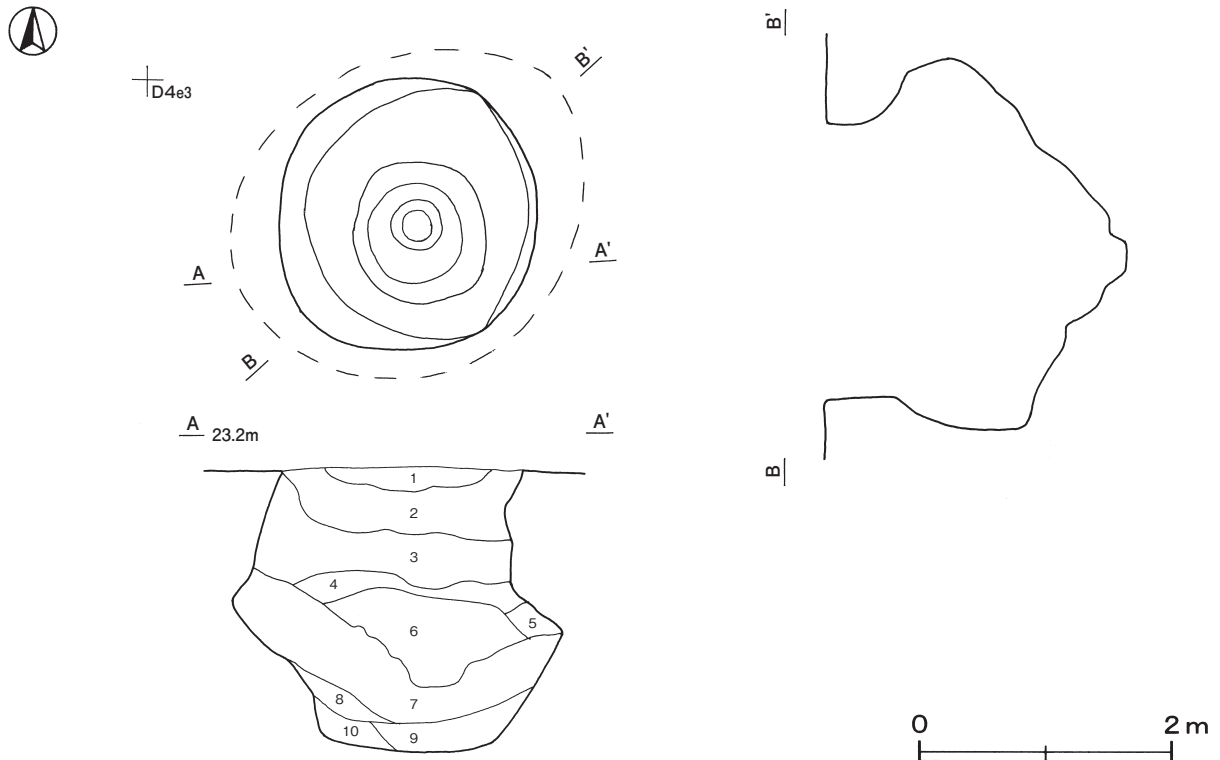
位置 調査区中央部のD 4 e3区, 標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は長径2.27m, 短径2.05mの円形である。内壁がオーバーハングしており, 本来の形状は不明である。深さは244cm, 底面は皿状で, 粘土層を掘り込んでいる。

覆土 10層に分層できる。全体的にロームブロックや粘土ブロックを含んでいることから, 埋め戻されている。

土層解説

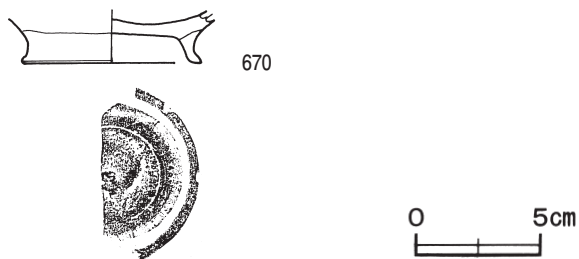
- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 6 浅黄色 | 粘土ブロック多量 |
| 2 黒色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 |
| 3 黒色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 8 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 9 紫灰色 | 粘土ブロック多量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子少量 | 10 明黄褐色 | 粘土ブロック多量 |



第115図 第6号井戸跡実測図

遺物出土状況 須恵器高台付坏1点のほか、土師器片9点（坏2・甕7）、須恵器片26点（坏9・蓋1・盤1・甕15）、種子2点（桃カ）が出土している。670は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第116図 第6号井戸跡出土遺物実測図

第6号井戸跡出土遺物観察表（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
670	須恵器	高台付坏	—	(2.2)	[7.2]	長石	灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中	10%

第8号井戸跡（第117図）

位置 調査区中央部のD4f0区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

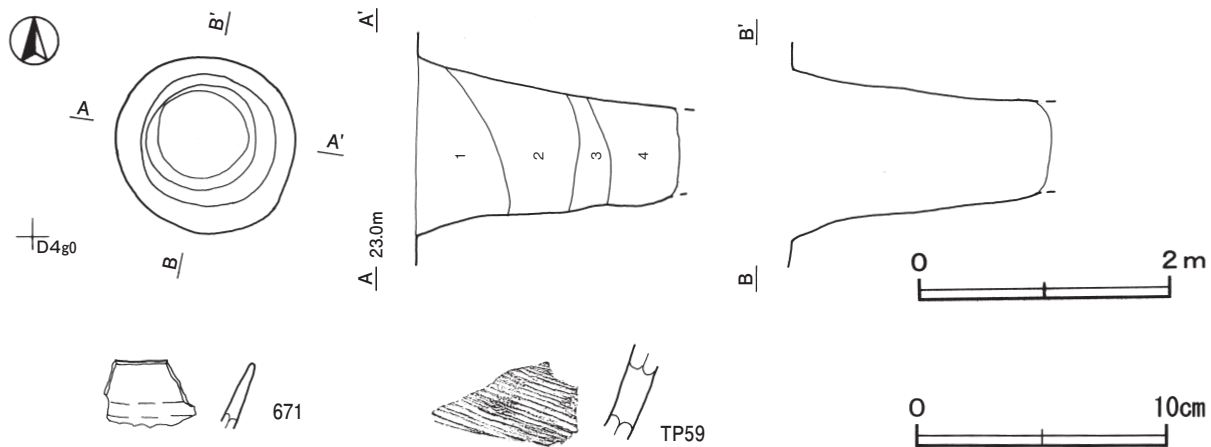
規模と形状 確認面は長径2.15m、短径2.12mの円形で、形状は円筒形である。確認面から210cmほど掘り下げた時点で、崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量

遺物出土状況 須恵器坏・甕各1点のほか、土師器甕片12点、須恵器片4点（坏2・甕2）が出土している。



第117図 第8号井戸跡・出土遺物実測図

671・TP59は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から奈良時代に比定できる。

第8号井戸跡出土遺物観察表（第117図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
671	須恵器	坏	—	(2.7)	—	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%
TP59	須恵器	甕	—	(3.7)	—	長石	灰	普通	外面横位の平行叩き	覆土中	

表5 奈良時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径 × 短径	深さ (cm)					
6	D 4 e3	—	円形	2.27 × 2.05	244	不明	皿状	人為	土師器・須恵器	
8	D 4 f0	—	円形	2.15 × 2.12	(210)	円筒形	不明	人為	土師器・須恵器	

(4) 土坑

第110号土坑（第118・119図）

位置 調査区北部のC 3 g4区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9・10号溝に上面を掘り込まれている。

規模と形状 径1.3mほどの円形で、深さは98cm、底面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

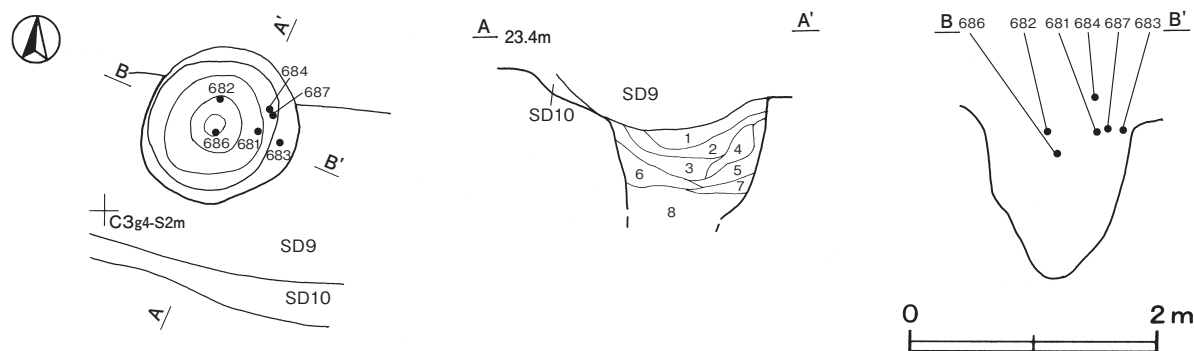
覆土 8層に分層される。ロームを多く含んでおり、埋め戻しの状況を示した人為堆積である。

土層解説

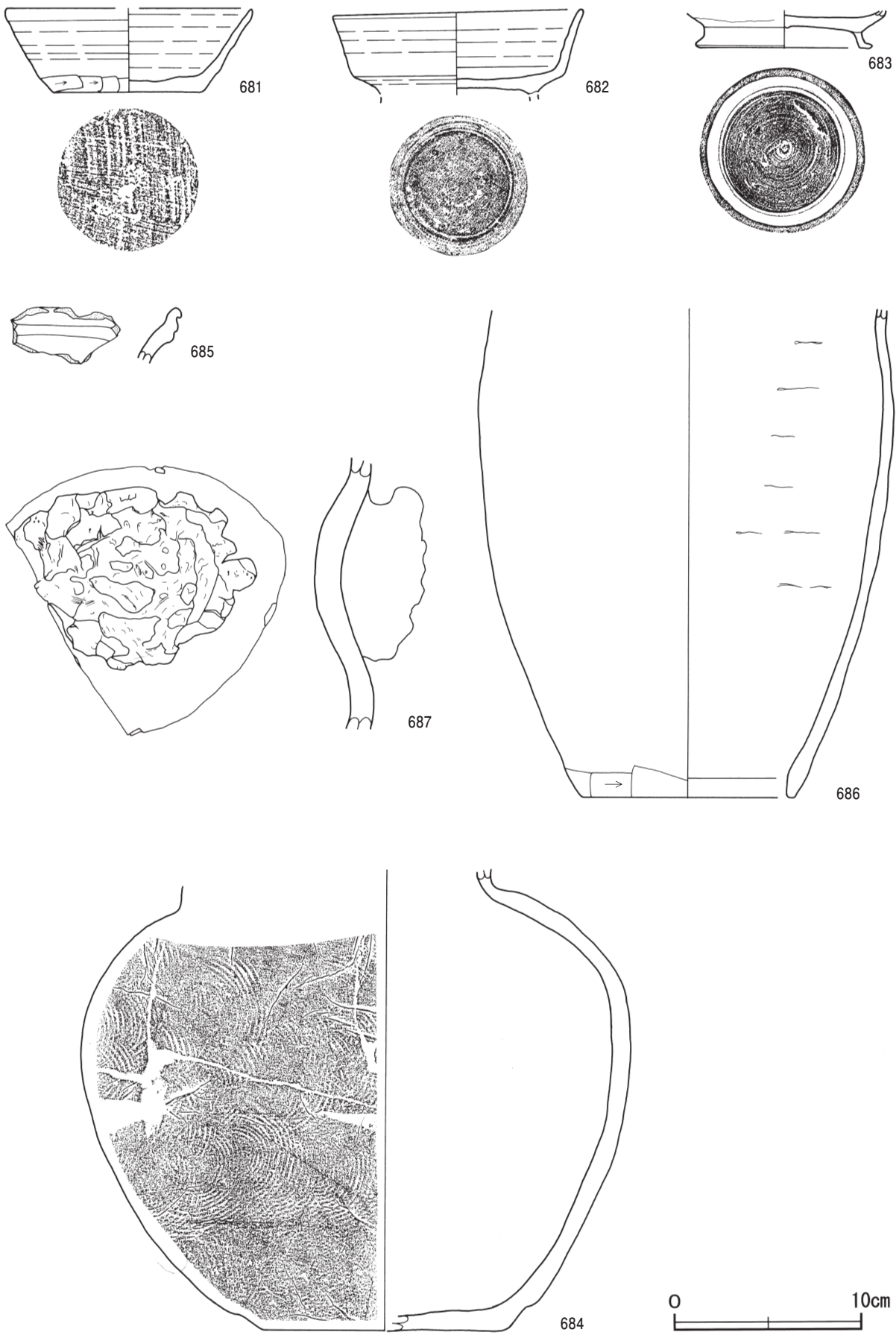
- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 明褐色 | ローム粒子多量 | 8 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器甗1点、須恵器杯1点、高台付坏2点、壺1点、甕2点のほか、土師器片51点（甕50・不明1）、須恵器片30点（坏21・高台付坏1・蓋2・甕5・不明1）のほか、流れ込んだ礫1点、鉄滓3点も出土している。図示したもの以外の土器も、ほとんどが覆土上層の中央部にまとまって出土している。684は第9号溝の覆土下層から出土した破片と本跡の破片が接合している。

所見 土器の出土状況から、廃棄土坑と推定される。時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第118図 第110号土坑実測図



第119図 第110号土坑出土遺物実測図

第110号土坑出土遺物観察表（第119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
681	須恵器	坏	[13.2]	4.5	7.8	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土上層	60% PL72
682	須恵器	高台付坏	13.3	(4.5)	—	長石・石英	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土上層	70% PL73
683	須恵器	高台付坏	10.5	(2.0)	9.0	長石	褐灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土上層	30%
684	須恵器	壺	—	(24.6)	[130]	長石・雲母・赤色粒子	暗灰黄	普通	体部同心円状の叩き 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土上層	80%
685	須恵器	甕	—	(3.0)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部内・外面ナデ	覆土中	5%
686	土師器	甗	—	(26.0)	[11.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ 外面下端ヘラ削り 輪積痕	覆土上層	60%
687	須恵器	甕	—	(14.3)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	体部斜位の叩き 焼成時に粘土塊付着により歪んでいる	覆土上層	5%

第116号土坑（第120図）

位置 調査区北西部のC3e8区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.52m、短径0.42mの楕円形で、長径方向はN-7°-Eである。深さは42cmで、底面は北東部がピット状に下がっている。西・南壁は緩やかに傾斜して立ち上がっているが、東・北壁は直立している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックをやや多く含んでいるが、堆積状況から自然堆積と考えられる。

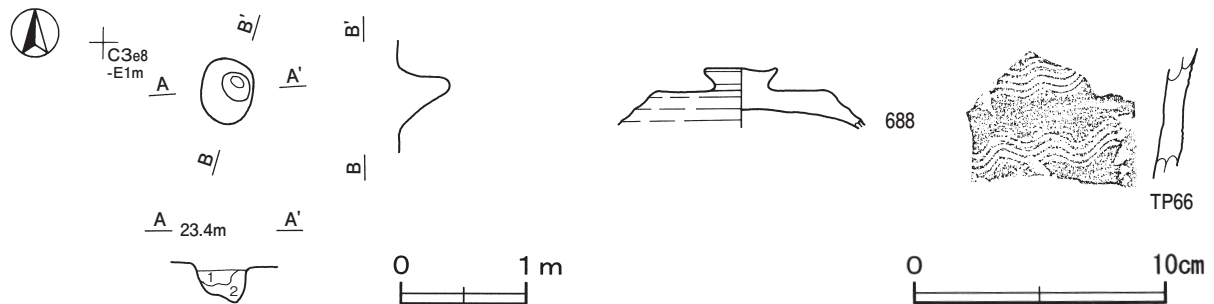
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 須恵器蓋・甕各1点のほか、土師器片5点（坏2・甕3）、須恵器甕片2点、陶器挿鉢片1点が出土している。688・TP66とも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第120図 第116号土坑・出土遺物実測図

第116号土坑出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
688	須恵器	蓋	—	(2.4)	—	長石・赤色粒子	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
TP66	須恵器	甕	—	(5.1)	—	長石・雲母	褐灰	普通	外面に櫛歯状工具による波状文	覆土中	

第143号土坑（第121図）

位置 調査区南西部のE2f7区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.42m、短軸0.80mの隅丸長方形で、長軸方向はN-86°-Eである。深さは32cmで、底面はやや凹凸がある。壁は、外傾して立ち上がっている。

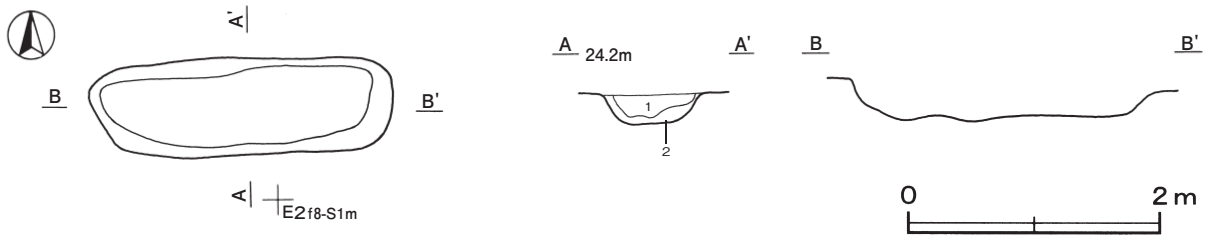
覆土 2層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子を含んでいるが、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 にぶい褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片10点（坏2・甕8），須恵器瓶片1点^が出土している。

所見 時期は、出土土器から奈良時代と考えられる。



第121図 第143号土坑実測図

第146号土坑（第122図）

位置 調査区南西部のE 2 d5区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.01m、短径0.92mの円形である。深さは40cmで、底面は皿状である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。

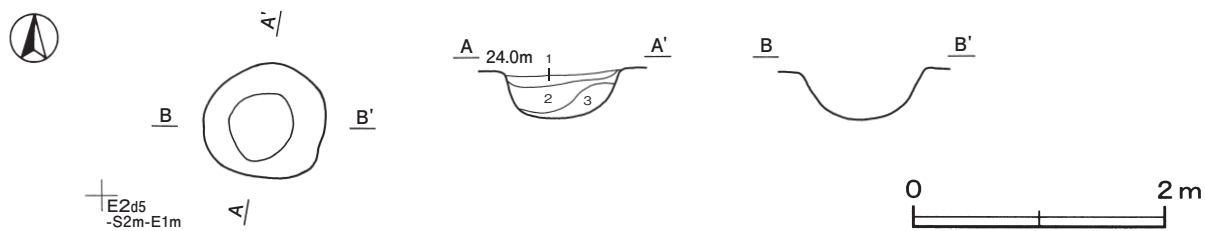
覆土 3層に分層できる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 須恵器片3点（坏1・甕1・瓶1）^が出土している。

所見 出土土器から奈良時代と考えられる。



第122図 第146号土坑実測図

表6 奈良時代土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
110	C 3 g4	円形	—	1.28 × 1.22	98	外傾	U字	人為	土師器・須恵器・礫・鉄滓	8C中 本跡→9・10溝
116	C 3 e8	楕円形	N-7°-E	0.52 × 0.42	42	直立・緩斜	ビット状	自然	土師器・須恵器・陶器	8C中
143	E 2 f7	隅丸長方形	N-86°-E	2.42 × 0.80	32	外傾	凹凸	自然		
146	E 2 d5	円形	—	1.01 × 0.92	40	緩斜	皿状	自然	須恵器	

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡77軒、掘立柱建物跡26棟、方形竪穴遺構2基、鍛冶工房跡1基、粘土採掘坑20基（第1～7号粘土採掘坑群）、井戸跡4基、土坑28基が確認されている。以下、検出された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡（第123～125図）

位置 調査区北部のB4e9区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.24m、短軸3.23mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は59cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が、東壁中央部を除いて巡っている。貼床は、中央部と四隅を土坑状にやや深く、それ以外は確認面から約50cm掘り下げ、ロームブロックを主体とする褐色土を埋めて構築されている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで127cm、燃烧部幅62cmである。袖部は床面を若干掘りくぼめ、褐色土を埋め戻した上に粘土粒子を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。第7～9層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き30cm、幅55cm掘り込んで構築している。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。第10層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1 灰褐色	炭化粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	6 灰褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	7 灰褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3 灰褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	8 褐灰色	粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	9 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	10 明褐色	焼土粒子微量（掘方埋土）

ピット 3か所。P1は深さ24cm、P3は深さ32cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、いずれも出入り口施設に伴うピットである。P2は深さ17cmで、北東コーナー部に位置しており、性格は不明である。

覆土 9層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。9層は、貼床の構築土である。

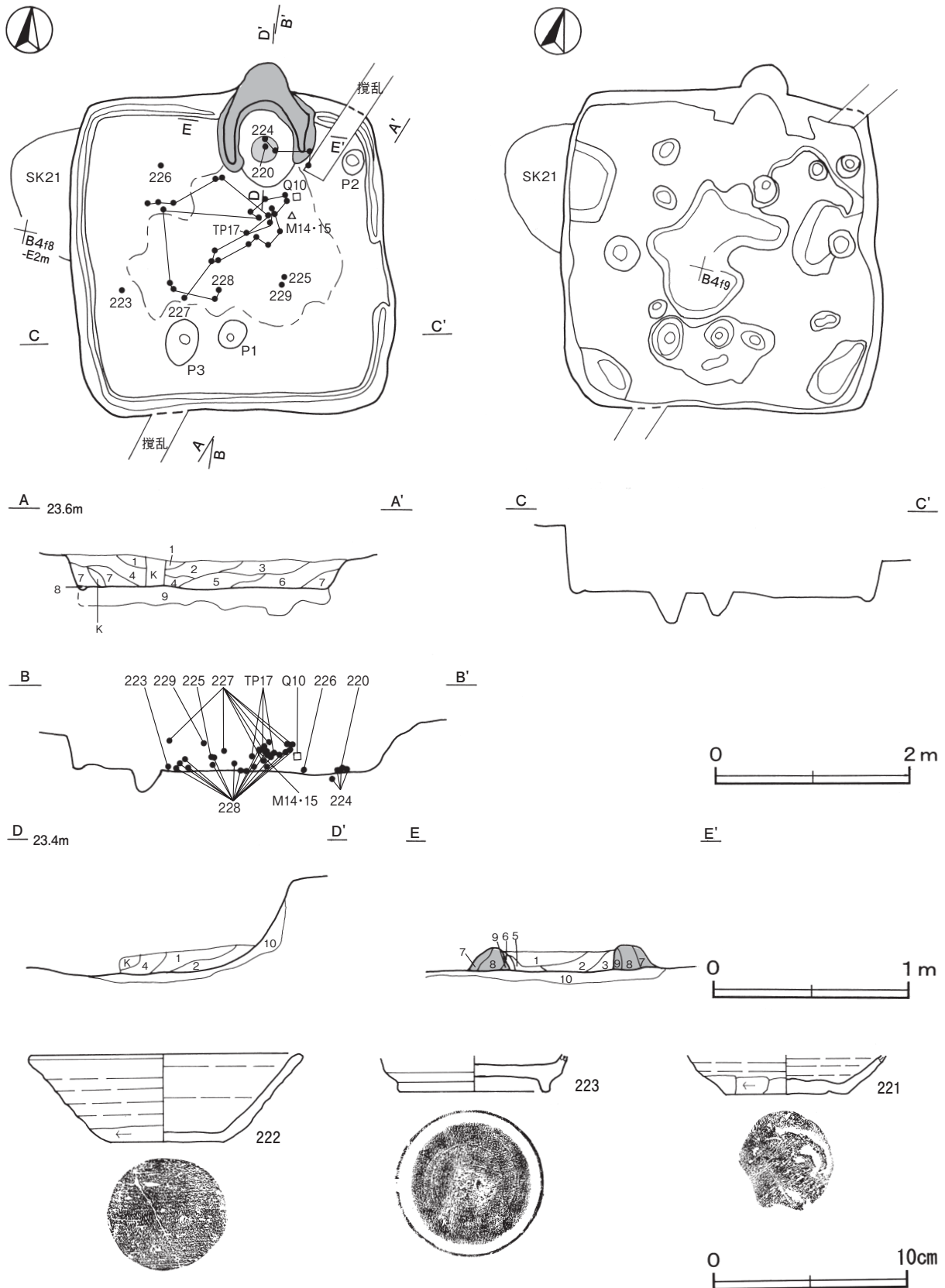
土層解説

1 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	5 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量
2 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	6 褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量
3 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量	8 褐色	ローム粒子少量
		9 明褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量

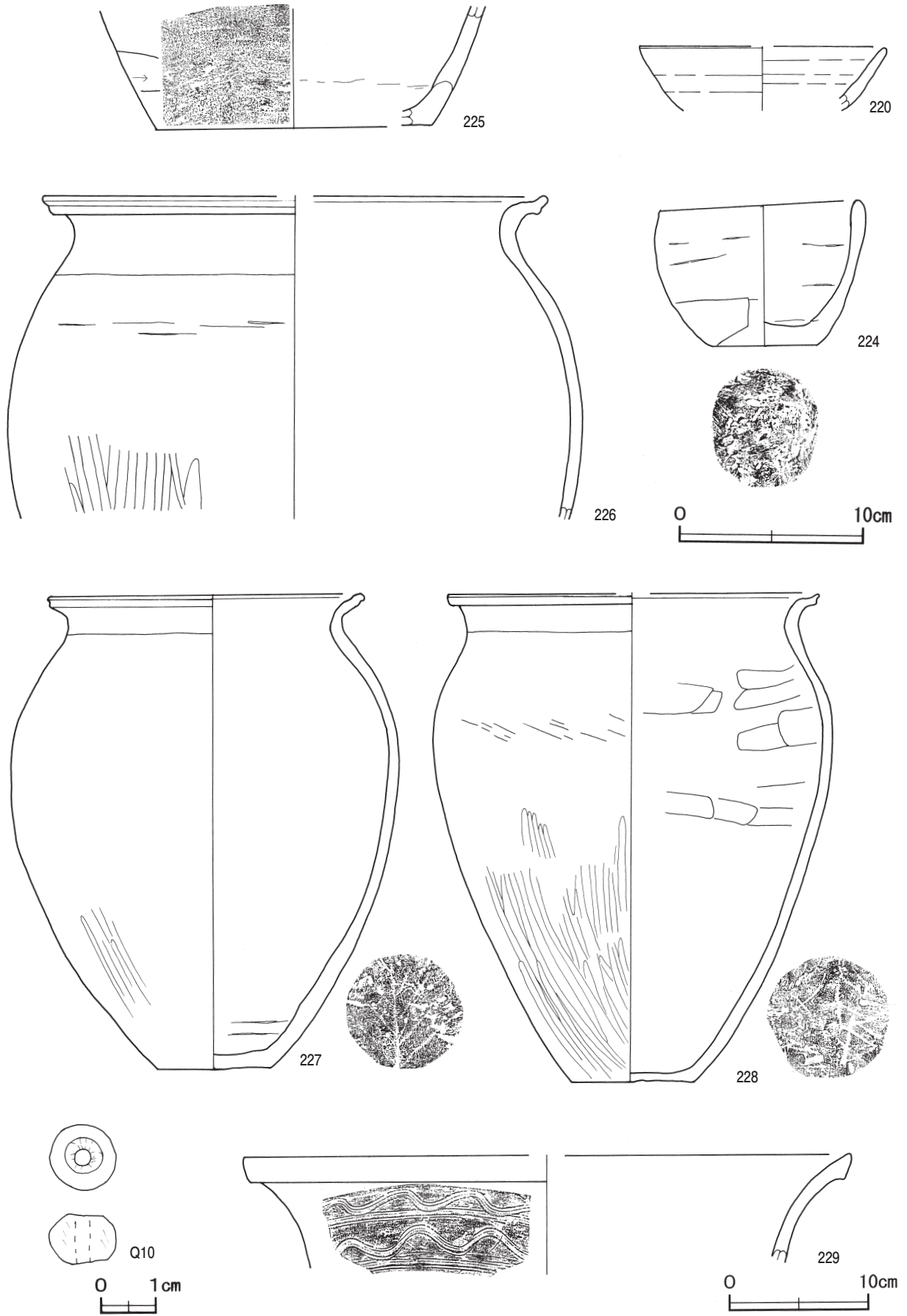
遺物出土状況 土師器小形鉢1点、甕3点、須恵器坏3点、高台付坏・鉢各1点、甕2点、石製丸玉1点、鉄鎌・釘各1点のほか、土師器甕片92点、須恵器片11点（坏5・鉢1・甕5）が出土している。また、流れ込んだ塊状耳飾り1点も出土している。224は、竈の火床部から出土した破片、227・228は、中央部の覆土上層から下層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。226は北西部の床面、220は竈の火床面から出土している。223は西壁寄りの覆土下層、225は中央部の覆土中層、229・TP17・Q10・M14・M15は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。220・223・224・226は、住居の廃絶時に遺棄されたものとみられ、227・228は

住居廃絶後に投棄されたものである。

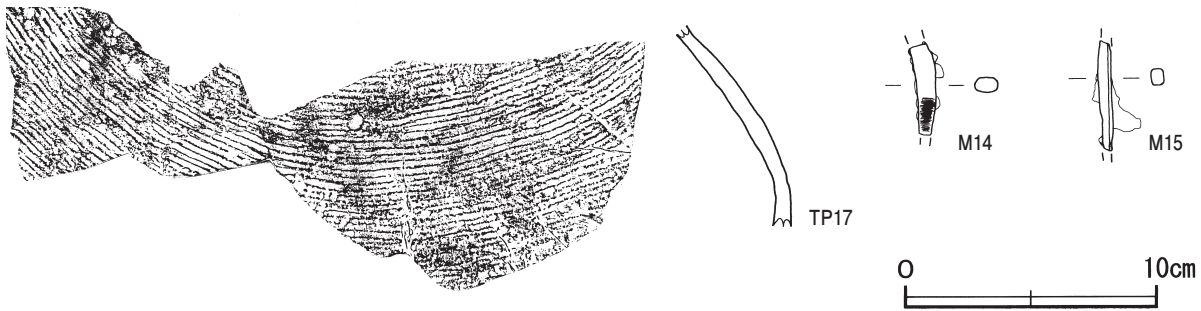
所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第123図 第1号住居跡・出土遺物実測図



第124図 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第125図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)

第1号住居跡出土遺物観察表(第123~125図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
220	須恵器	坏	[13.2]	(3.5)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	器面摩滅により調整痕不明	竈火床部	10%
221	須恵器	坏	—	(2.0)	[6.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中	20%
222	須恵器	坏	14.0	4.5	5.7	長石・石英・雲母	灰褐	やや不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中	70% PL73
223	須恵器	高台付坏	—	(1.9)	7.6	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	20%
224	土師器	小形鉢	10.7	7.9	6.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部下半斜位のヘラナデ 輪積痕	竈火床部	60% PL73
225	須恵器	鉢	—	(6.4)	[15.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部縦位の平行叩き 体部下端横位のヘラ削り	覆土中層	10%
226	土師器	甕	[27.0]	(17.4)	—	砂粒・雲母・スコリア	にぶい褐	普通	口頸部横ナデ 体部上半ナデ	床面	20%
227	土師器	甕	22.5	34.3	8.0	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部横ナデ 体部下半縦位のヘラ磨き	覆土中層 ~下層	70% PL74
228	土師器	甕	[26.7]	35.3	9.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口頸部横ナデ 体部下半縦位のヘラ磨き	覆土中層 ~下層	70% PL74
229	須恵器	甕	[44.0]	(7.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	3本櫛歯状工具による平行線と波状文	覆土上層	5%
TP17	須恵器	甕	—	(8.0)	—	細砂・雲母・スコリア	にぶい橙	やや不良	外面横位の平行叩き 内面横位のナデ	覆土上層	PL90

番号	器種	径	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	丸玉	1.2	—	0.9	1.8	滑石	孔径0.25cm 一方向から穿孔	覆土上層	PL92

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M14	釘	(3.5)	1.0	0.6	(4.26)	鉄	両端部欠損 木質付着	覆土上層	
M15	鎌カ	(4.3)	0.6	0.6	(3.14)	鉄	刃部欠損	覆土上層	

第2号住居跡(第126図)

位置 調査区北部のA4j1区で、標高23.0mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 北部の大半が調査区域外に伸びているため、東西軸は2.90mで、南北軸は1.30mしか確認できなかったが、主軸方向がN-1°-Eの方形と推測できる。壁高は50cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 確認できた部分はほぼ平坦で、部分的に貼床である。調査した範囲の壁下には、壁溝が巡っている。貼床は、部分的に土坑状に掘りくぼめ、ロームブロックを主体とする褐色土を埋めて構築されている。

ピット 深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

覆土 14層に分層できる。第1・2層は自然堆積で、それ以下の層はロームブロックや焼土ブロックが含まれている層が多く、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。第14層は、貼床の構築土である。

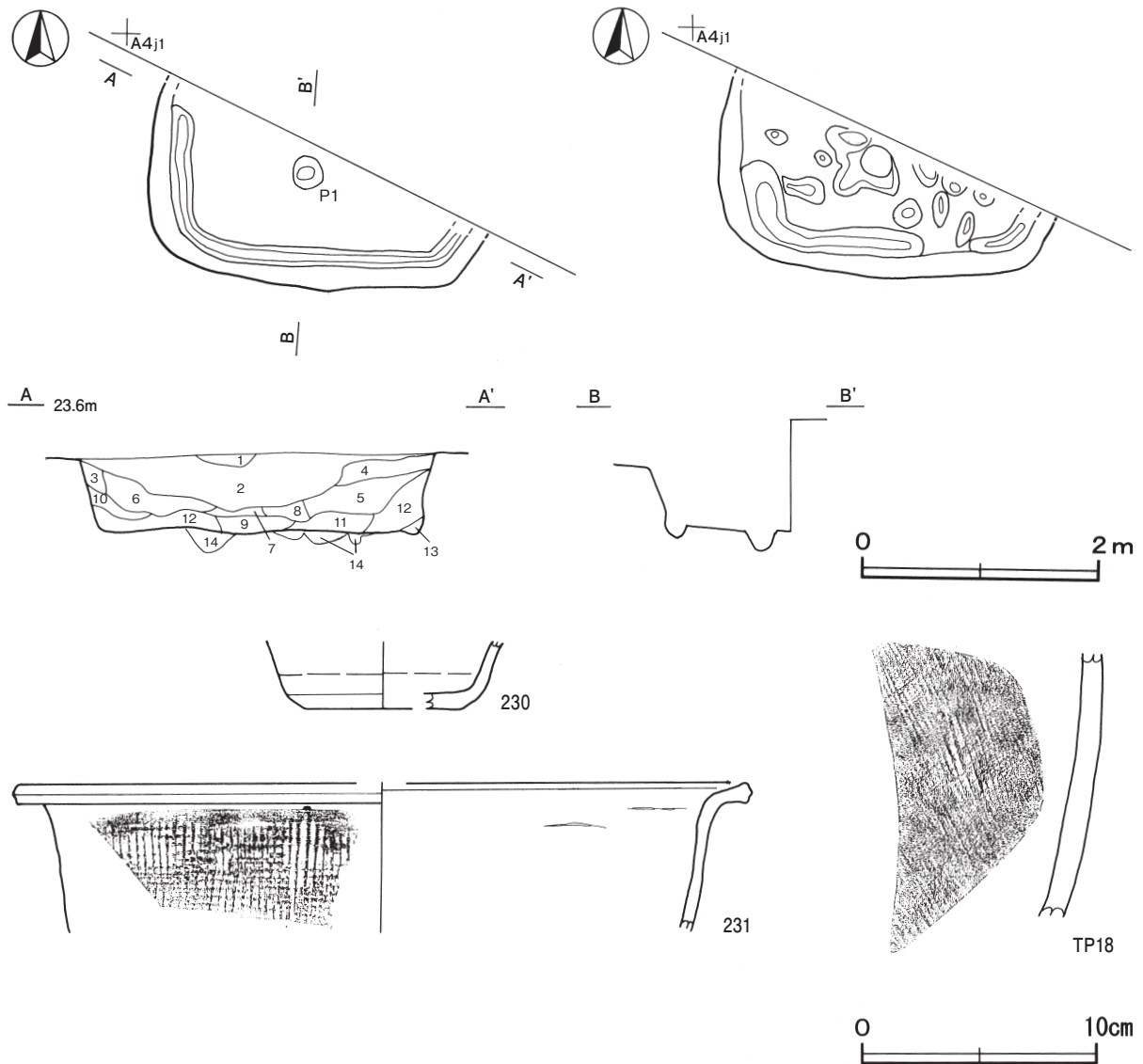
土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量(縮まりなし) | 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量,炭化粒子微量 | | |

- | | | | | | |
|---|-------|--------------------------|----|-------|---------------------|
| 4 | 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 | 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 5 | 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 | 褐 色 | ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 6 | 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 | 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 | 褐 色 | ロームブロック微量 | 12 | 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 8 | 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 13 | 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| | | | 14 | 明 褐 色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 須恵器坏・鉢・甕各1点のほか、土師器片8点（坏1・甕7）、須恵器片7点（坏1・甕5・鉢1）が、覆土中から出土している。また、流れこんだ縄文土器片1点も出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第126図 第2号住居跡・出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
230	須恵器	坏	—	(2.9)	[6.6]	長石・石英	灰	普通	底部ナデ	覆土中	20%
231	須恵器	鉢	[31.0]	(6.2)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部格子状の平行叩き 内面横位のナデ	覆土中	10%
TP18	須恵器	甕	—	(11.0)	—	細砂	灰黄	普通	外面斜位の平行叩き 内面無文の当て具痕	覆土中	

第4号住居跡（第127・128図）

位置 調査区北部のE3i6区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北壁を第23号土坑に、南東コーナー部を第22号土坑に、北西部の床面を第5号掘立柱建物P4に掘り込まれている。

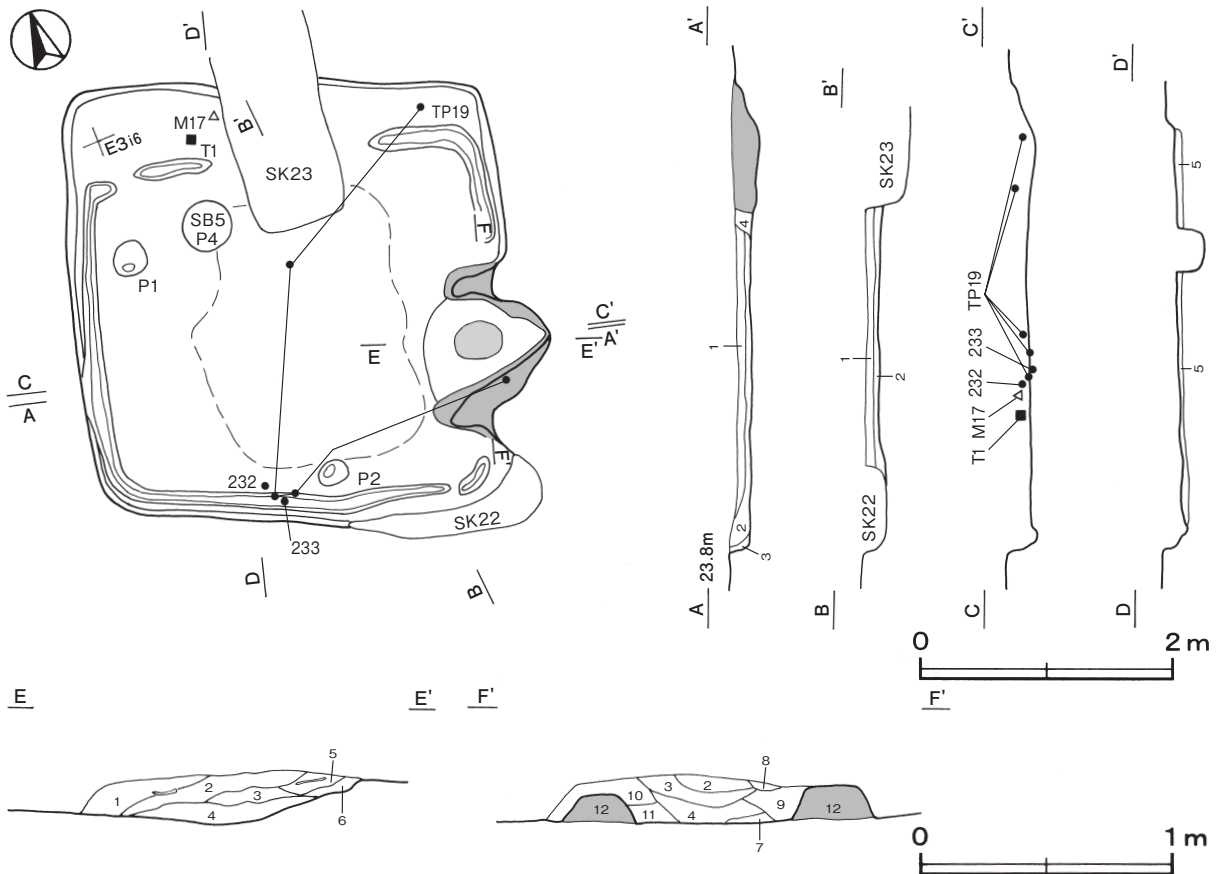
規模と形状 長軸3.53m、短軸3.46mの方形で、主軸方向はN-113°-Eである。壁高は15cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝がほぼ全周しているが、北壁部は壁からやや離れて内側を巡っている。貼床は、地山を25cmほど掘り込み、ロームブロックを含む暗褐色土を埋め戻して構築されている。

竈 東壁のやや南寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで100cm、燃烧部幅74cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、白色粘土ブロックとロームブロックを含む灰黄褐色土を積み上げて構築されている。第12層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き35cm、幅71cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

電土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|---------|---------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子・白色粘土粒子少量 | 7 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・白色粘土ブロック少量 | 8 褐色 | 焼土ブロック中量、白色粘土ブロック少量 |
| 3 にぶい黄橙色 | 白色粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 9 灰褐色 | 焼土ブロック中量、白色粘土粒子少量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・白色粘土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 灰黄褐色 | 白色粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |



第127図 第4号住居跡実測図

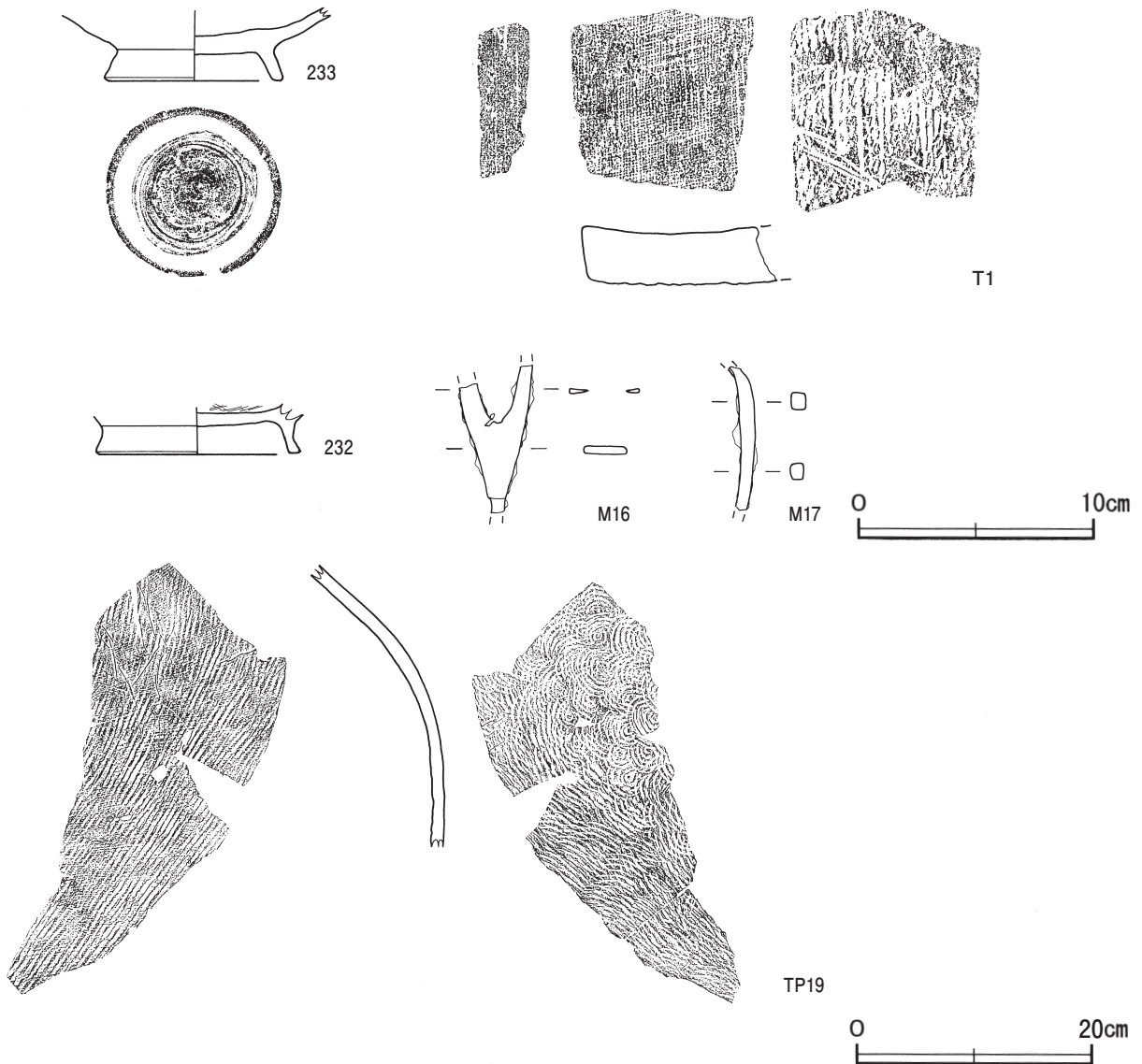
ピット 2か所。P 1は深さ30cmで、竈と向かい合う西壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P 2は深さ28cmで、南壁際の中央部に位置しているが、性格は不明である。

覆土 4層に分層できる。第5層は貼床の構築土である。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器高台付坏1点，須恵器盤・甕各1点，鉄鍬・釘カ各1点，平瓦1点のほか，土師器片116点（坏30・甕86），須恵器片47点（坏22・高台付坏1・甕24）が出土している。232は南壁際の覆土下層，233は南部の壁溝内，M16は覆土中，M17は北壁際の覆土上層，T 1は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。TP19は南部の壁溝内，竈右袖部，中央部の覆土上層，北東部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。所見 時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第128図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
232	土師器	高台付坏	—	(2.0)	[8.6]	赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部内面へラ磨き 底部回転へラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	20%
233	須恵器	盤	—	(3.0)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	底部回転へラ削り後、高台貼り付け	壁溝	30%
TP19	須恵器	甕	—	(23.8)	—	長石・細礫	灰	普通	外面斜位の平行叩き 内面同心円文の当て具痕	壁溝・竈袖	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M16	鎌	(6.3)	(3.1)	0.3	(10.25)	鉄	雁股鎌 茎部欠損	覆土中	PL94
M17	釘カ	(6.1)	0.65	0.95	(9.05)	鉄	断面方形	覆土上層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 1	平瓦	(8.7)	(8.3)	2.3	(237.0)	長石・細礫	灰	普通	凸面短縄叩き 凹面糸切り痕 布目痕	覆土下層	10%

第5号住居跡（第129・130図）

位置 調査区北部のE 3 g6区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.31m、短軸2.97mの長方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は16~25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で、主柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が、北東コーナー部と南壁下の西側を除いて巡っている。貼床は、北東隅と北西隅が土坑状に地山を40cm、それ以外の部分を18~25cmほど掘り込み、ロームブロックを含む暗褐色土を埋め戻して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで109cm、燃焼部幅46cmである。袖部は地山を掘り残している。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き47cm、幅55cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ12~26cmで、いずれも各コーナー部に位置していることから主柱穴である。P 5は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

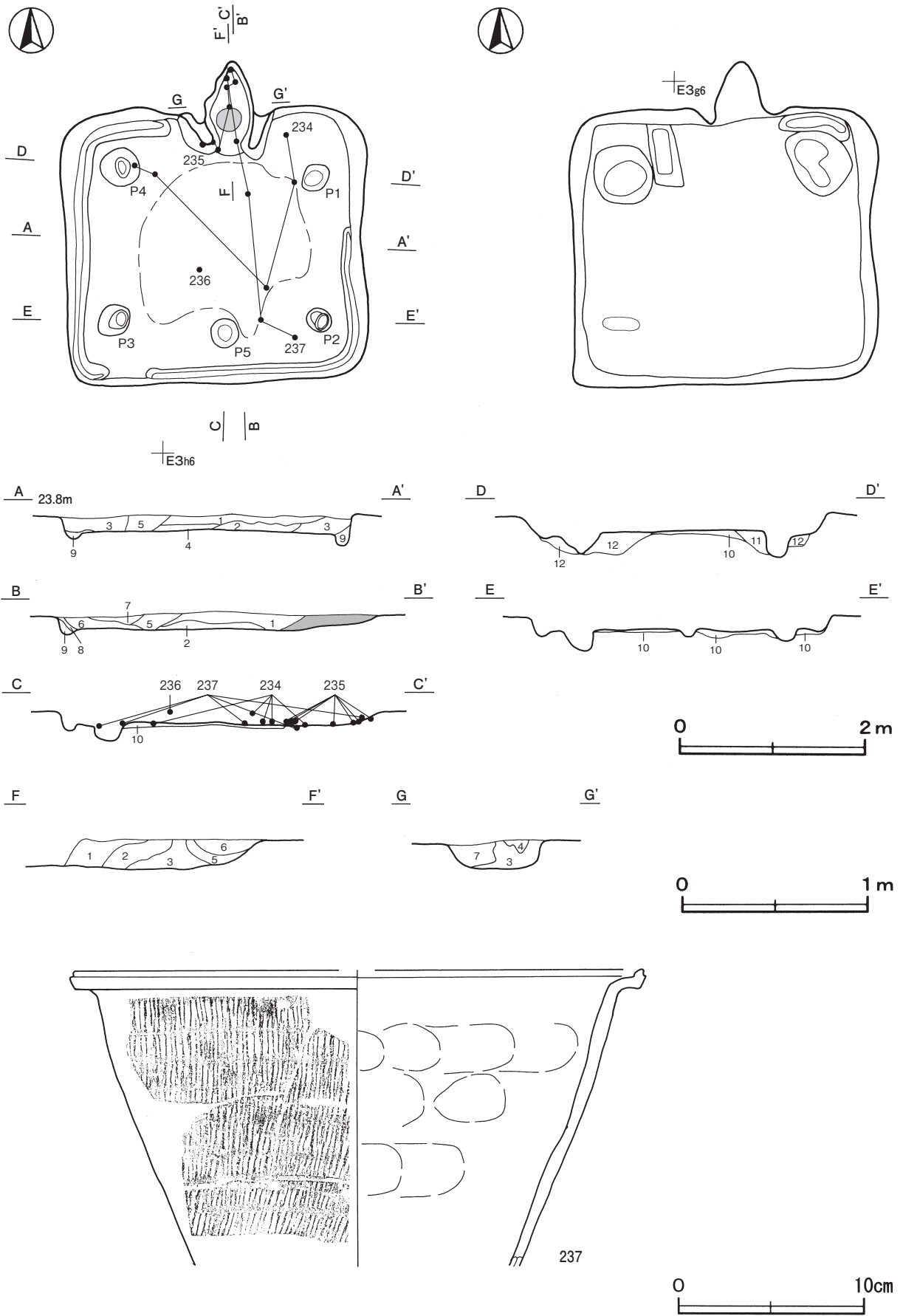
覆土 9層に分層できる。第10~12層は貼床の構築土である。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

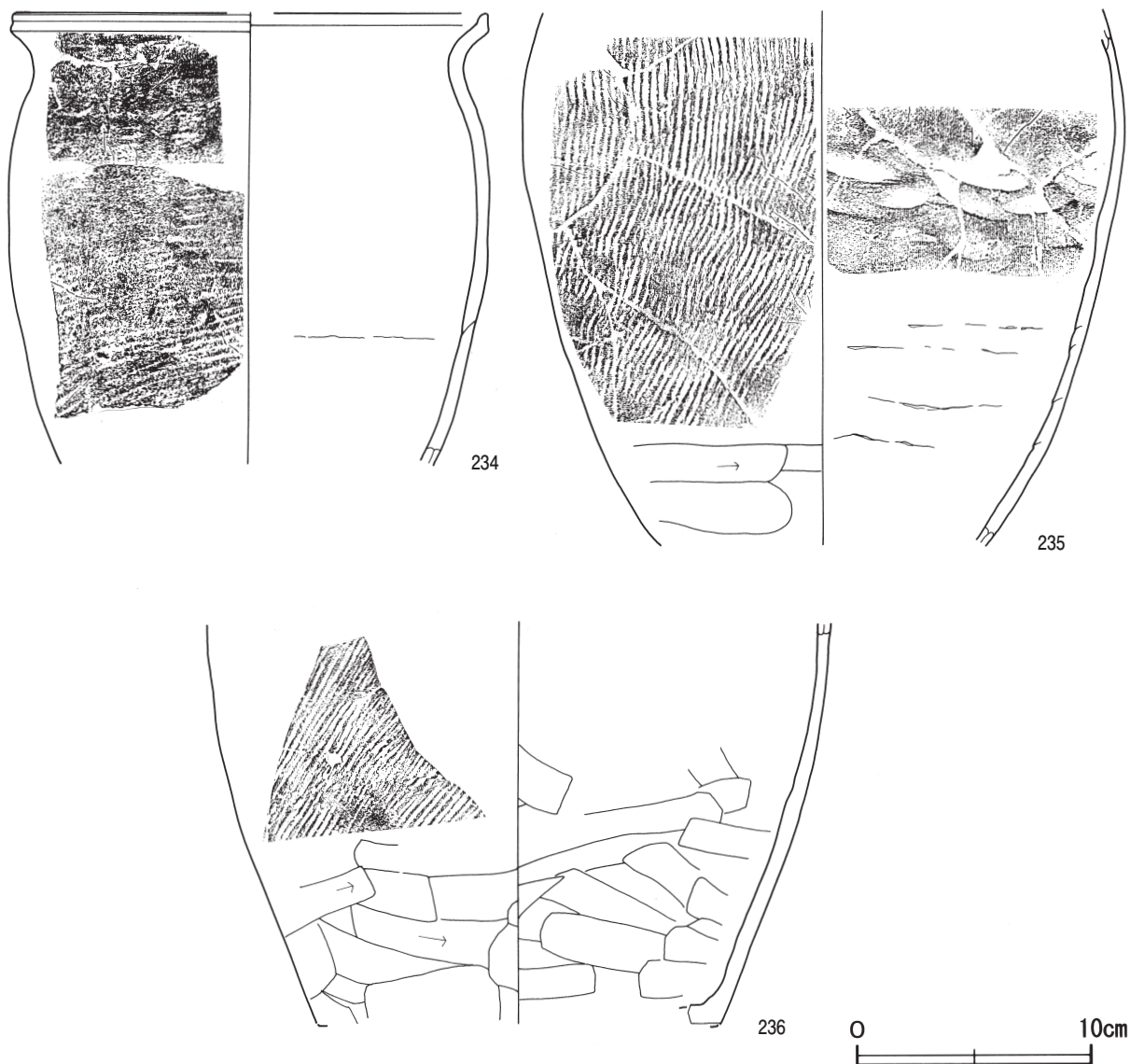
- | | | | |
|----------|-----------------------|-----------|----------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | 炭化物中量、焼土粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器甕1点、須恵器鉢1点・甕2点のほか、土師器片113点（坏2・甕111）、須恵器片90点（坏46・蓋1・甕43）が出土している。234は北部の床面から覆土上層にかけて、235は竈焚き口の底面と火床面、237は南東部・北部の床面と竈燃焼部の底面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。236は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第129图 第5号住居跡・出土遺物実測図



第130図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第129・130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
234	土師器	甕	[20.0]	(19.2)	—	長石・石英	明赤褐	—	体部横位の粗いハケ目調整、ナデ ナデ 二次焼成 輪積痕	床面～覆土上層	10%	
235	須恵器	甕	—	(22.9)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部縦位の平行叩き 削り 内面当て具痕	体部下端手持ちヘラ 輪積痕	火床面	30%
236	須恵器	甕	—	(17.1)	—	長石・雲母・赤色粒子	黄灰色	普通	体部斜位の平行叩き 削り 内面ヘラナデ	体部下端手持ちヘラ	床面～覆土上層	10%
237	須恵器	鉢	[30.6]	(15.9)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	体部縦位の平行叩き	内面当て具痕	床面	30%

第6号住居跡（第131・132図）

位置 調査区北部のF 3 e6区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

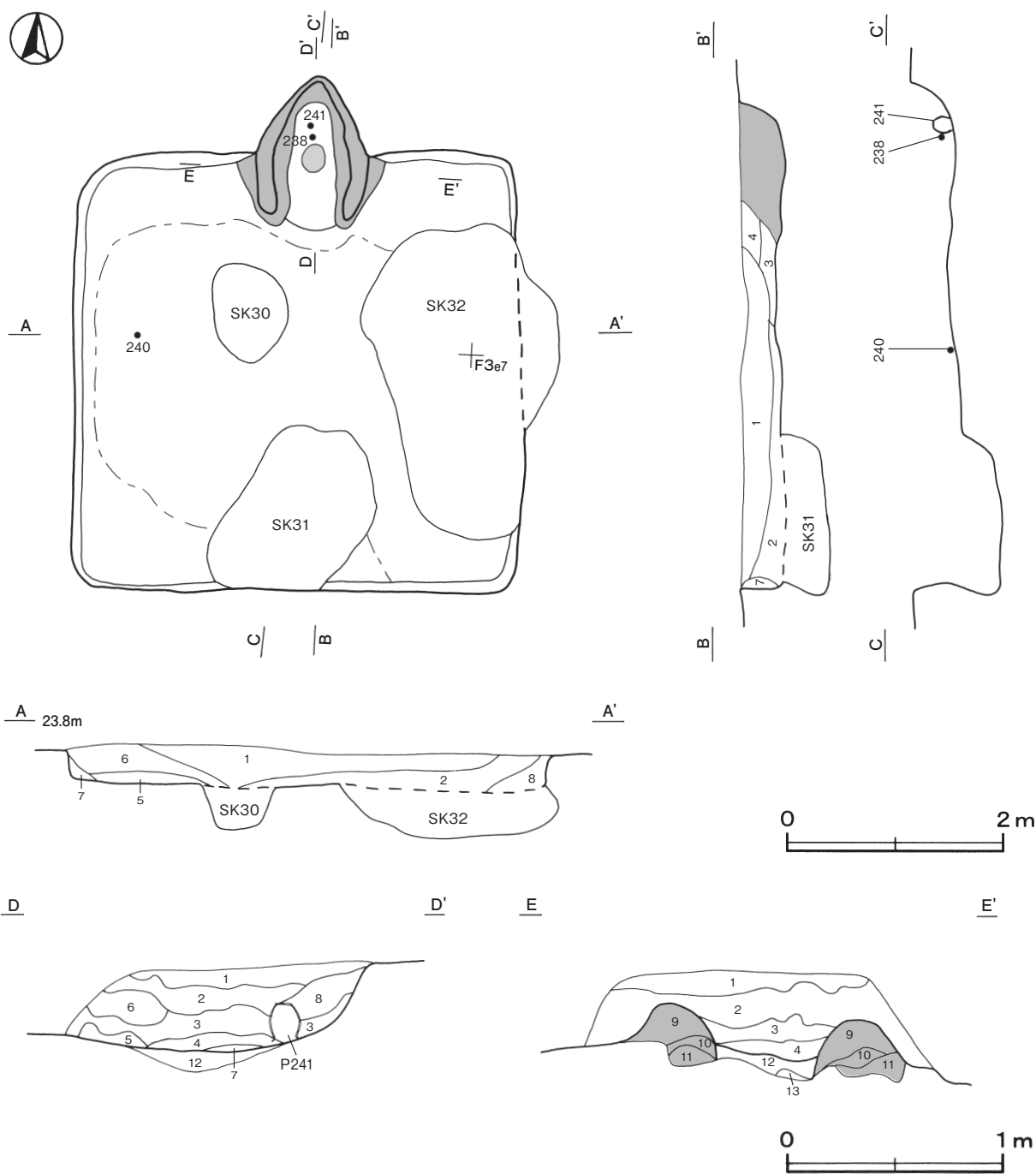
重複関係 北西部を第30号土坑、南部を第31号土坑、東部を第32号土坑に掘り込まれている。なお、いずれの土坑も第1号粘土採掘坑である。

規模と形状 長軸4.16m、短軸4.05mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は38cmで、ほぼ直立し

ている。

床 若干凹凸があり，壁際を除いて硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで154cm， 燃烧部幅73cmである。袖部は地山を10cmほど掘りくぼめ， ロームブロックを含む暗褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は， 壁外へ三角形に奥行き37cm， 幅52cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を20cmほど掘り込んで， ロームブロックを埋土して構築されている。第9～11層が袖部， 第12・13層が火床部の構築土である。火床面は火を受けて赤変硬化している。



第131図 第6号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|-------------------------|----------|--------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 10 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 11 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 暗 褐 色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 黒 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | | |
| 7 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |
| 8 黒 褐 色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 土坑に掘り込まれていることもあり、認められない。

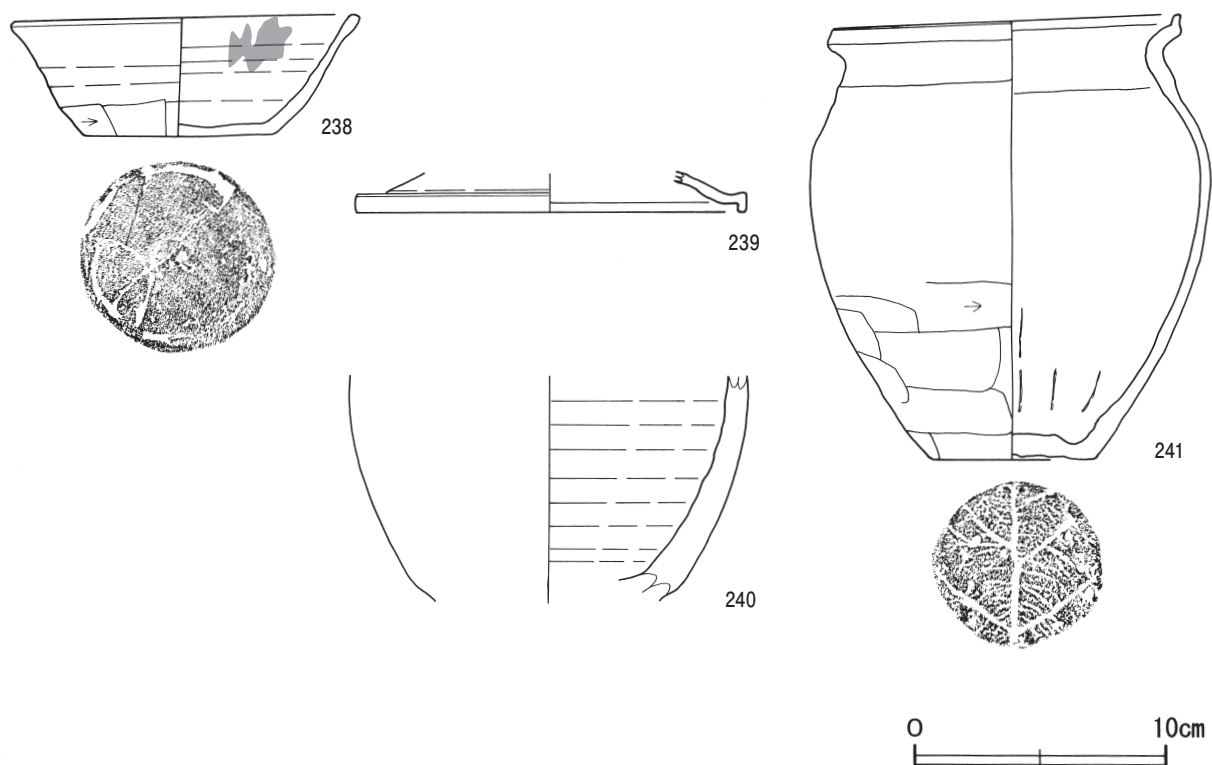
覆土 8層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------|---------|------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器小形甕1点, 須恵器坏・蓋・長頸瓶各1点のほか, 土師器片377点(坏15・甕362), 須恵器片121点(坏94・蓋4・盤1・長頸瓶1・甕21)が出土している。238は竈火床部の覆土中層, 239は覆土中, 240は西部の床面から出土している。241は竈燃焼部の底面から逆位で据えられた状態で出土しており, 支脚として転用されていたものである。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀前葉に比定できる。竈の火床部の奥に支脚転用の小形甕が据えられていたことから, 縦並びの二つ掛けの竈であったことが想定できる。また, 床面は3基の粘土採掘坑に掘り込まれており, これらの土坑は, 本跡が埋没する以前に掘り込まれていることから本住居が廃絶後間もなく掘られたと思われる。



第132図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表（第132図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
238	須恵器	坏	13.6	4.9	7.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り 口縁部内面油煙付着	火床部中層	95% PL73
239	須恵器	蓋	[15.6]	(1.6)	—	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	覆土中	10%
240	須恵器	長頸瓶	—	(9.1)	—	長石	灰	普通	体部自然袖付着	床面	10%
241	土師器	小形甕	13.6	17.3	6.5	長石・石英・細礫、粗い	橙	普通	体部下手持ちヘラ削り 内面ヘラ当て痕	燃烧部底面	95% PL73

第8号住居跡（第133～135図）

位置 調査区南部のE3f5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第236号土坑を掘り込み、東部を第235号土坑（第7号粘土採掘坑）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.18m、短軸3.98mの方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は24～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が北壁の東側を除いて巡っている。貼床は外周部を深さ10～20cmの溝状に掘り込み、ロームブロックを含むふい褐色土を、出入り口付近は深さ20cmの不整形な土坑状に掘り込み、ロームブロックを含む黒褐色土を埋土し構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで123cm、燃烧部幅47cmである。袖部は地山を床面から10cmほど掘り込んで焼土ブロックを含む暗褐色土を埋土し、ロームブロック・砂質粘土ブロックを含む黄褐色土を積み上げて構築されている。第15～20層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き73cm、幅42cm掘り込んで構築されている。焚き口から火床部にかけては深さ40cmの土坑状に掘り込みロームブロックと焼土ブロックを含む暗褐色土を埋土して構築されている。第21～23層は掘方への埋土である。火床部には灰が含まれており、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	11	暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量
2	黒褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	12	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
3	灰黄褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・灰少量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	14	暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子少量
5	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	15	灰黄褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
6	黒褐色	焼土粒子少量	16	にぶい黄褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量
7	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	17	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量
8	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	18	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
9	黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	19	暗褐色	ロームブロック中量
10	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	20	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
			21	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・灰少量
			22	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
			23	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量

ピット 6か所。P1～P4は深さ13cmで規模と位置から支柱穴である。P5は深さ38cmで南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ13cmで性格は不明である。

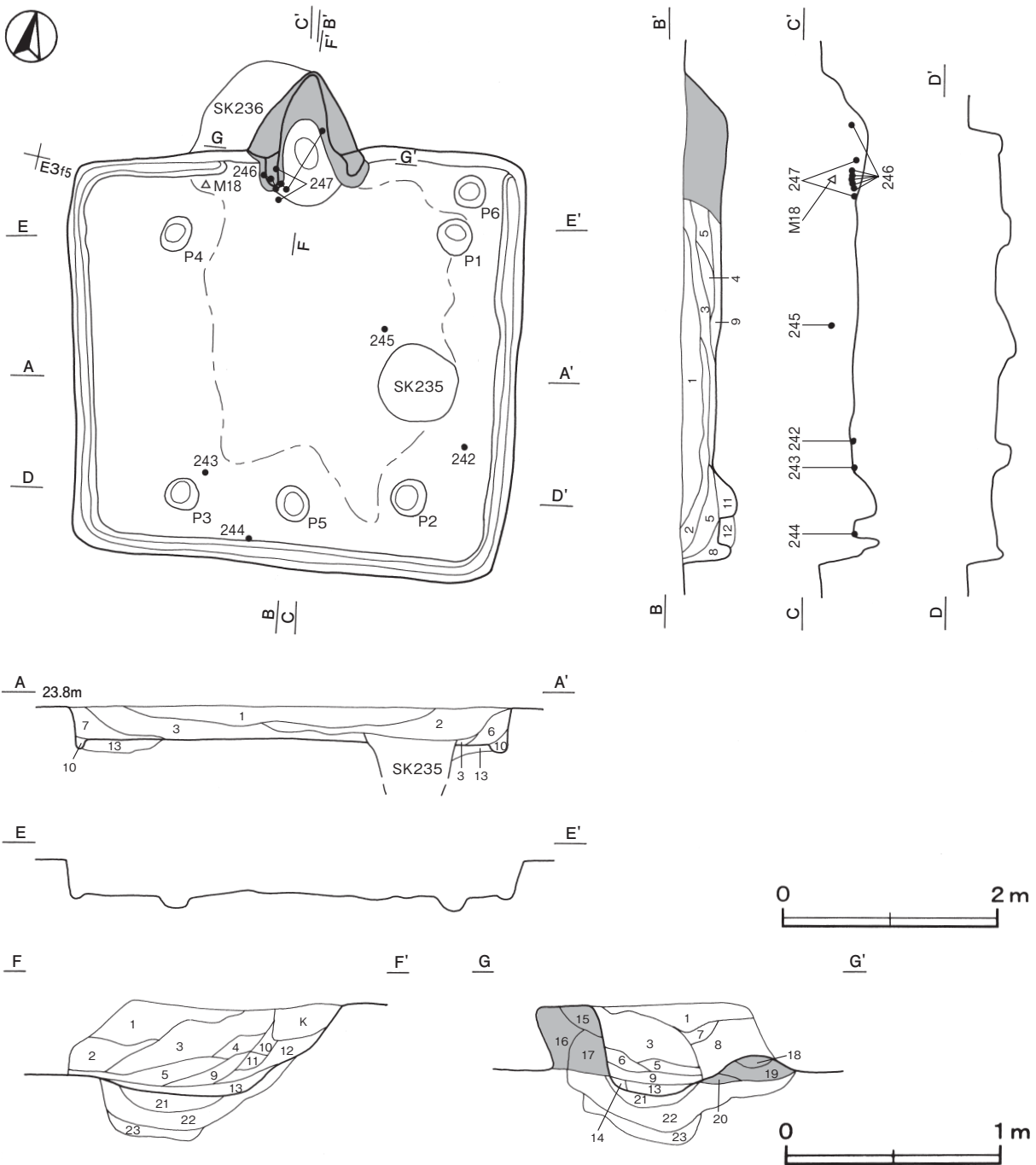
覆土 10層に分層できる。第11層はP5の覆土、第12・13層は貼床の構築土である。レンズ状の堆積から自然堆積である。

土層解説

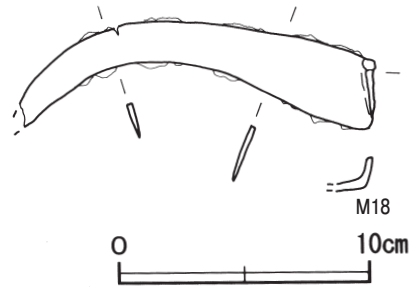
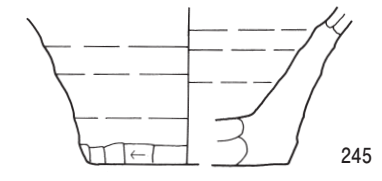
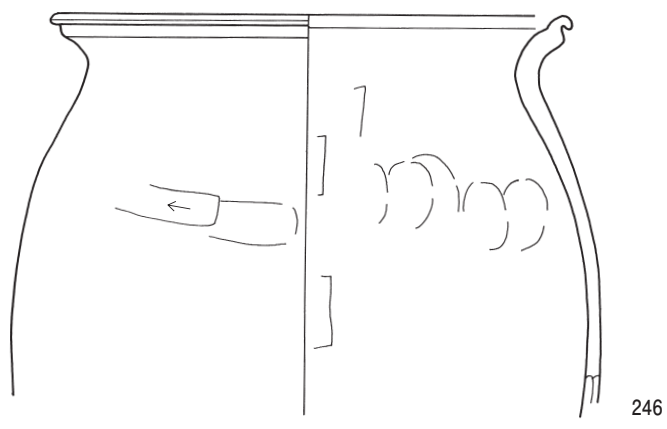
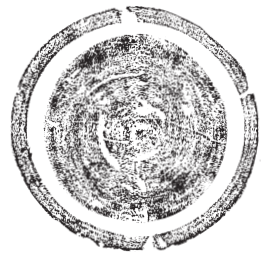
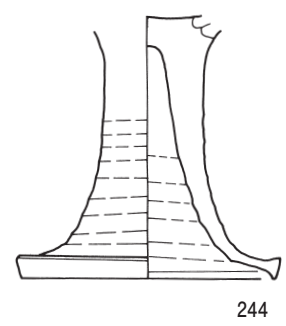
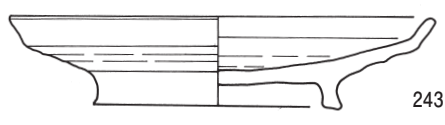
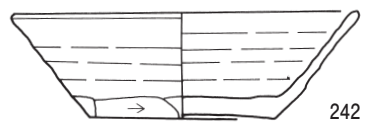
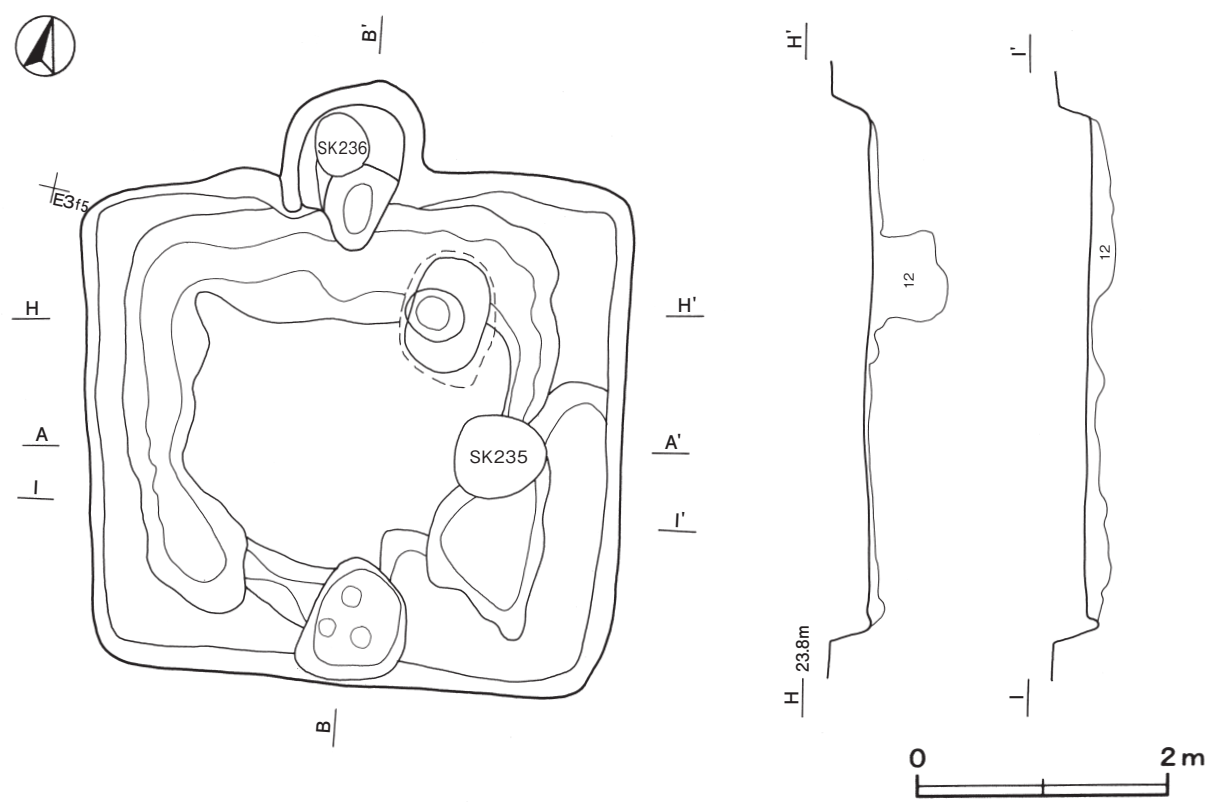
1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	11	黒褐色	ローム粒子微量
5	暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	12	黒褐色	ロームブロック中量
6	黒褐色	粘土ブロック少量	13	にぶい褐色	ロームブロック多量
7	黒褐色	ローム粒子少量			

遺物出土状況 土師器甕2点, 須恵器坏・盤・高盤・捏鉢各1点, 鉄鎌1点のほか, 土師器片356点(坏49・甕299・甌8), 須恵器片123点(坏84・高台付坏2・蓋5・盤4・高盤2・甕26)が出土している。242は東側, 243はP3の北側, 244は南壁際の床面からそれぞれ出土している。245は中央付近, M18は北壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。247は左袖の基部から逆位で据えられた状態で出土しており, 竈補強材として転用されていたものである。246は左袖の先端部と燃烧部から出土した破片が接合したものである。

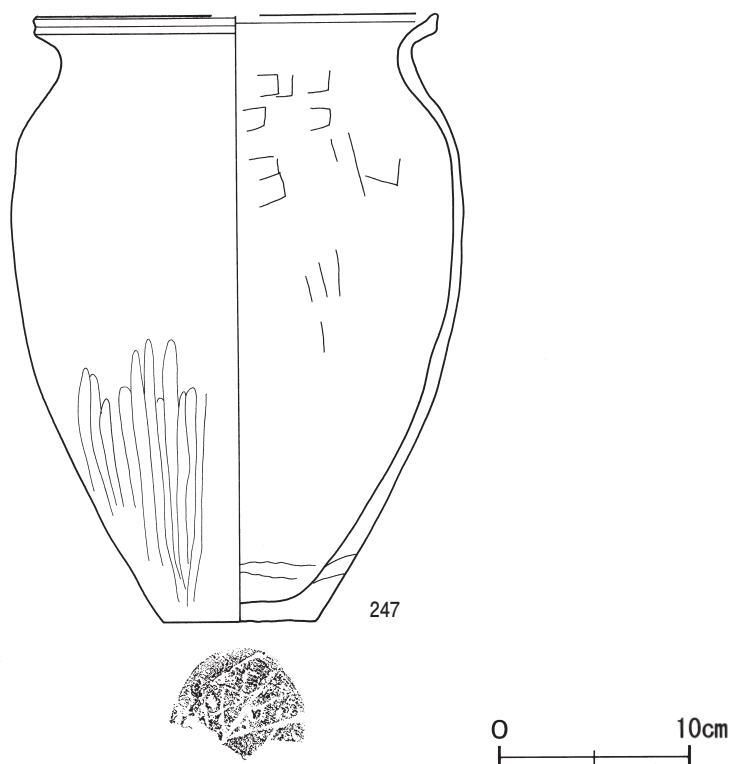
所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第133図 第8号住居跡実測図



第134图 第8号住居跡・出土遺物実測図



第135図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表（第134・135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
242	須恵器	坏	13.6	4.3	7.4	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す一方向の雑なナデ	床面	100% PL73
243	須恵器	盤	16.9	3.6	9.9	長石・細礫	灰	良好	底部回転へら削り後、高台貼り付け	床面	100% PL73
244	須恵器	高盤	—	(10.5)	10.0	長石	灰	普通	残存脚部 内・外面ロクロナデ	床面	30% PL73
245	須恵器	捏鉢	—	(6.3)	[8.0]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向の手持ちへら削り	覆土上層	20%
246	土師器	甕	20.0	(15.9)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部手持ちへら削り 内面指頭痕 二次焼成	竈袖	20%
247	土師器	甕	[21.0]	32.2	[8.0]	長石・石英	灰	普通	体部下半へら磨き 内面へら当て痕 輪積痕	竈袖補強材	40% PL75

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	鎌	(14.2)	3.1	0.2	(31.1)	鉄	柄装着部は上方へ90度折り曲げ	覆土上層	PL94

第9号住居跡（第136・137図）

位置 調査区南部のE3e4区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.88m、短軸2.70mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は19cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 中央部がややくぼんだ貼床で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。貼床は、中央部を径約1m、確認面から約50cmの土坑状に、それ以外は約25cm掘り込み、ロームブロックを含む暗褐色土を埋めて構築されている。

竈 北壁東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで101cm、燃焼部幅54cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、ロームブロックと砂質粘土ブロックを含む暗褐色土を積み上げて構築されている。第5～9

層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き45cm、幅40cm掘り込んで構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 | | |

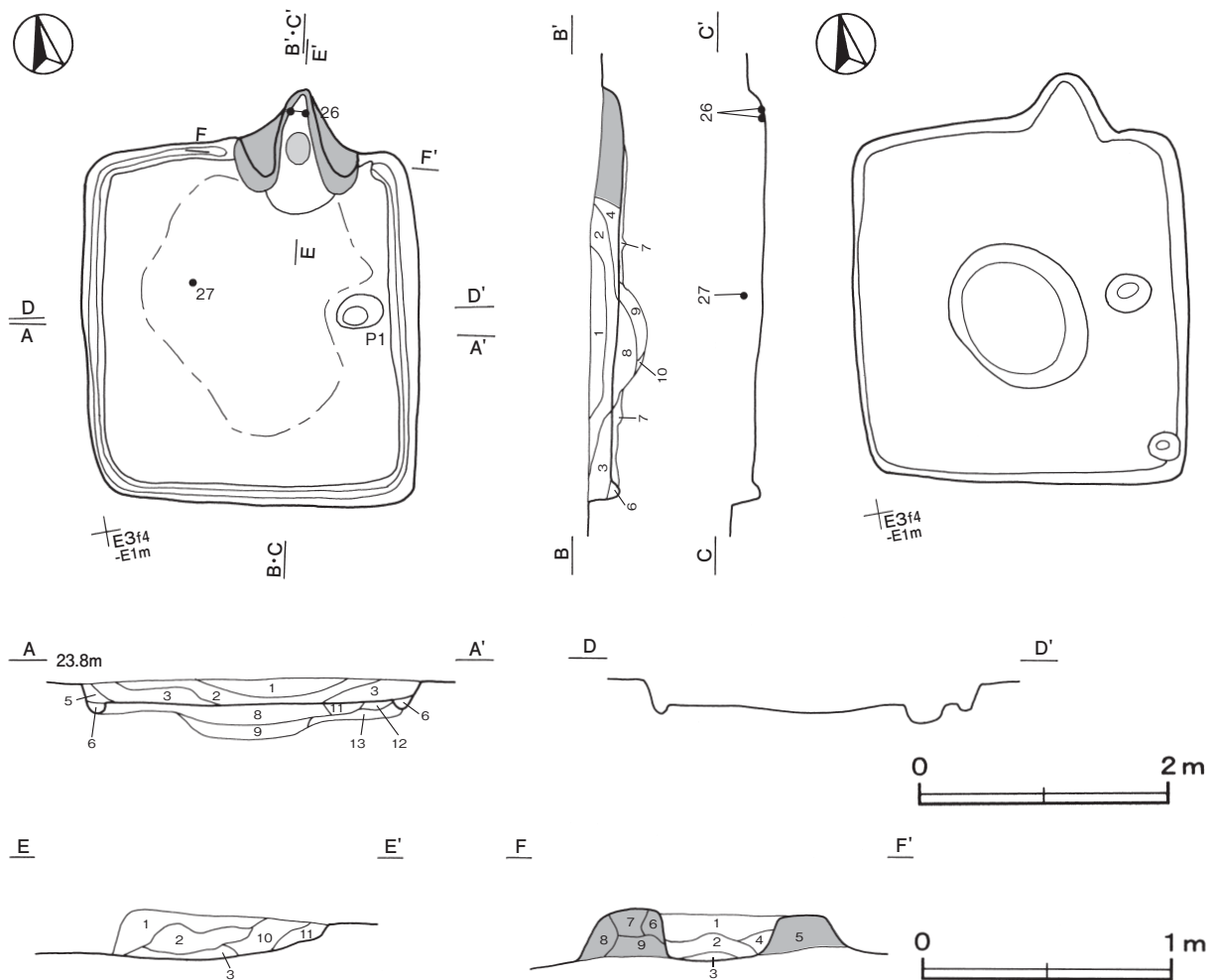
ピット 深さ18cmで東壁際に位置しているが、性格は不明である。

覆土 6層に分層できる。第7～13層は貼床の構築土である。各層にロームブロックが含まれているが、レンズ状の堆積から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 にぶい褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | 12 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 13 褐色 | ロームブロック少量 |

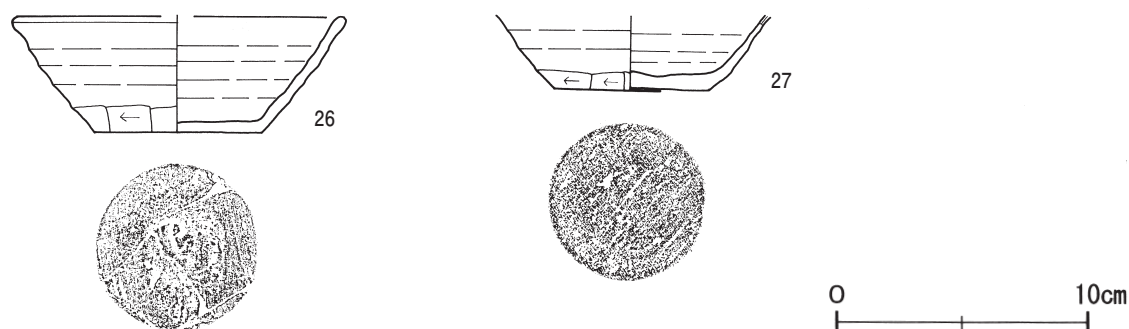
遺物出土状況 須恵器坏2点のほか、土師器片76点(坏11・甕65)、須恵器片40点(坏22・甕17・鉢1)、鉄滓



第136図 第9号住居跡実測図

1点が出土している。26は竈煙道部の底面、27は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第137図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表（第137図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
26	須恵器	坏	[13.0]	4.6	6.6	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	床面	50% PL73
27	須恵器	坏	—	(3.0)	6.1	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	覆土上層	20%

第12号住居跡（第138・139図）

位置 調査区南部のF 3 a5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号住居跡を掘り込み、北東部を第14号住居、第33号土坑（第2号粘土採掘坑）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.92m、短軸2.67mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は19cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。確認した部分では壁溝が全周している。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。焚口部から煙出部までは推定で103cm、燃焼部幅39cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、ロームブロックと砂質粘土ブロックを含む黒褐色土を積み上げて構築されているが、大部分は失われている。第8層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き57cm、幅52cm掘り込み構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

電土層解説

1	暗褐色	炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量	5	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量	6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	7	黒褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量、ロームブロック極微量
4	暗褐色	焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	8	黒褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量

覆土 8層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

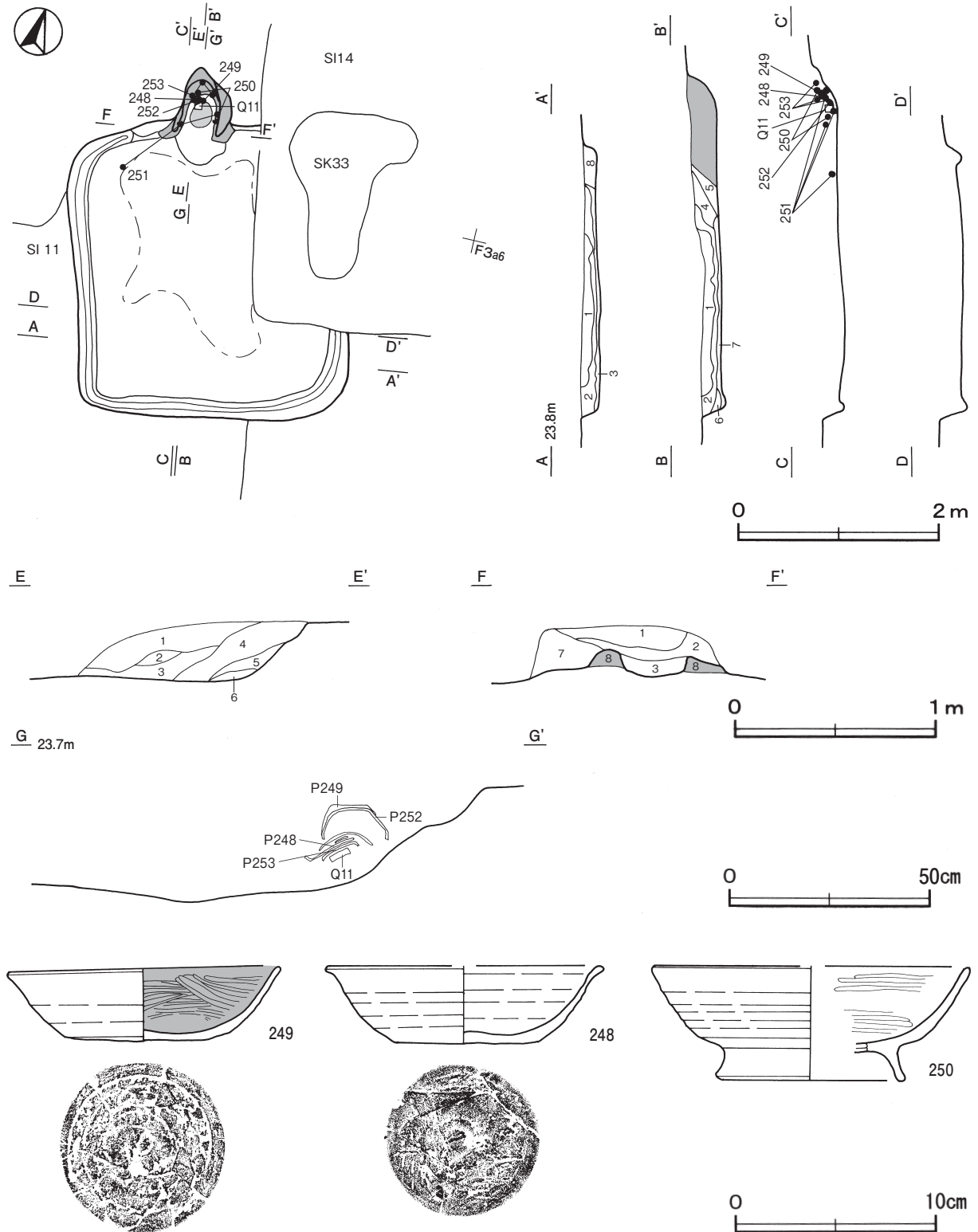
土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
2	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	6	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3	褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量	7	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

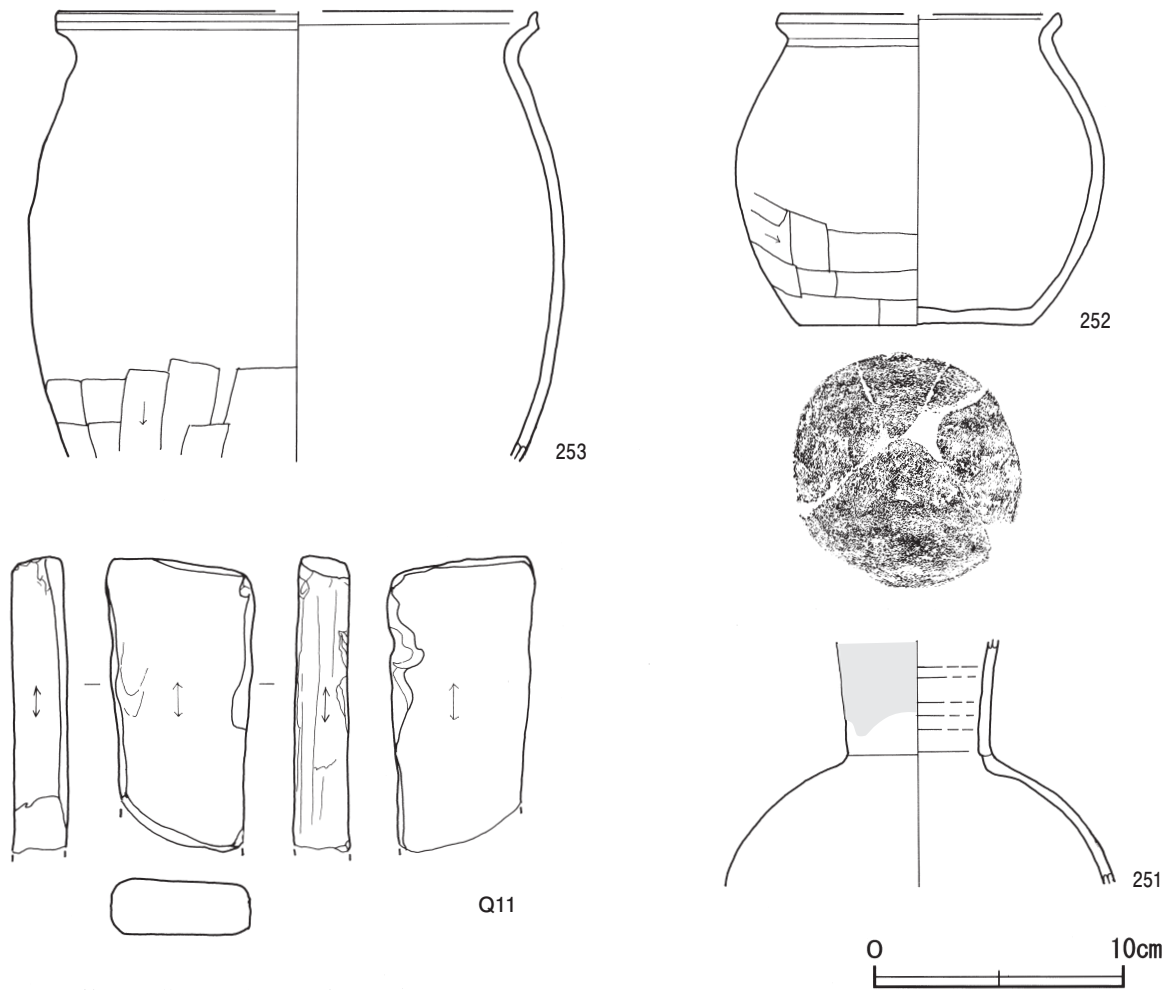
遺物出土状況 土師器坏2点、高台付坏1点、小形甕・甕各1点、灰釉陶器長頸瓶1点、砥石1点のほか、土

師器片184点（坏30・甕153・甑1），須恵器片40点（坏8・甕32）が出土している。251は竈内と北部の床面から出土した破片が接合している。竈火床部からはQ11・253・248・252・249の順に積み重ねられた状態で、250はその周囲から出土している。これらは、支脚として転用されていたものと思われる。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第138図 第12号住居跡・出土遺物実測図



第139図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第138・139図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
248	土師器	坏	[13.4]	3.9	7.4	砂粒・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向の雑なナデ	竈支脚転用	60% PL74
249	土師器	坏	13.3	3.8	8.3	砂粒	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り 内面ヘラ磨き 黒色処理	竈支脚転用	80% PL74
250	土師器	高台付坏	[15.6]	5.7	[8.8]	長石・砂粒	にぶい褐	—	内面ヘラ磨き 二次焼成	竈支脚転用	30%
251	灰釉陶器	長頸瓶	—	(9.8)	—	緻密	灰白	普通	外面オリーブ釉 二段接合	床面	20% PL74
252	土師器	小形甕	[11.0]	12.5	9.3	長石・細礫	明赤褐	普通	体部下半手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り後ナデ	竈支脚転用	70% PL74
253	土師器	甕	[19.0]	(18.0)	—	長石・雲母	橙	普通	体部下半手持ちヘラ削り	竈支脚転用	20%

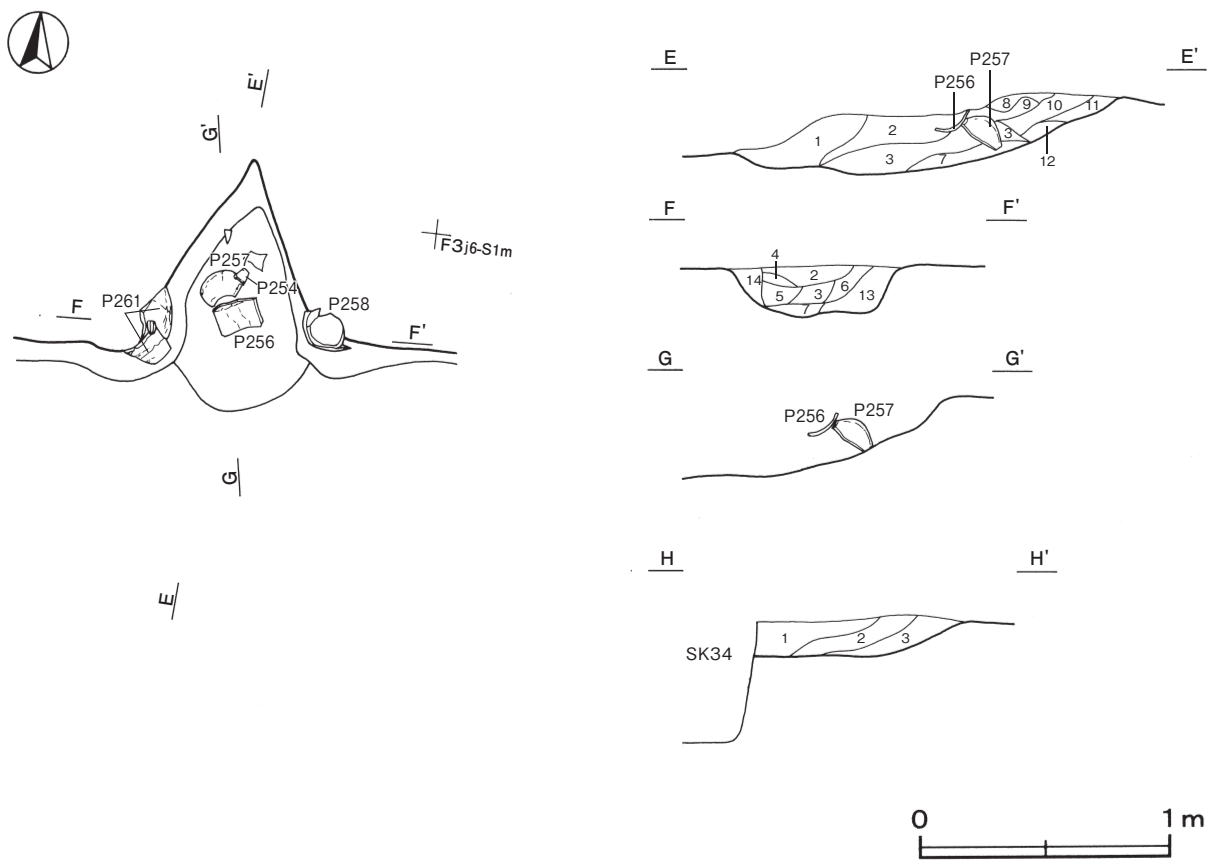
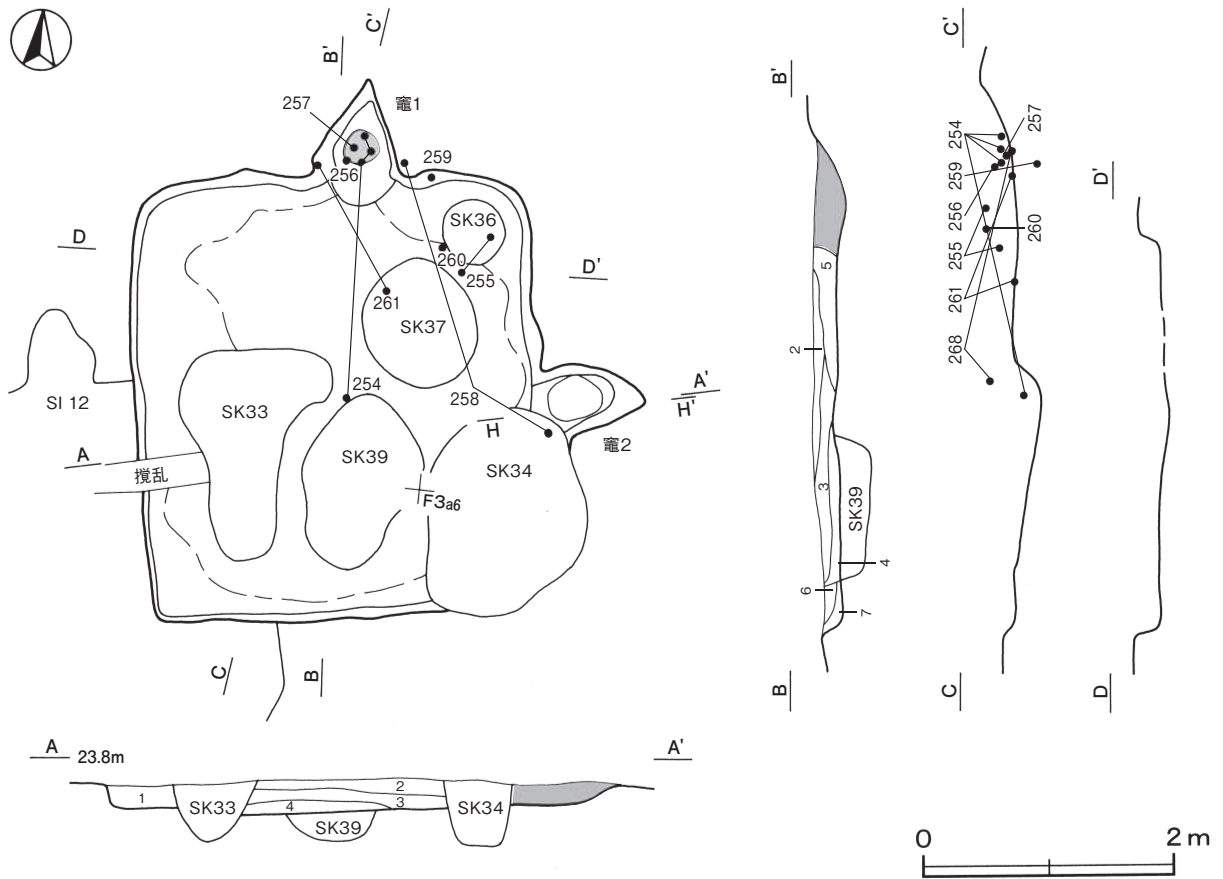
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	砥石	(11.7)	5.9	2.3	(292.0)	雲母片岩	砥面4面	竈支脚転用	PL93

第14号住居跡（第140～142図）

位置 調査区南部のE 3j5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 床面を第33・34・36・37・39号土坑（第2号粘土採掘坑）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.56m、短軸3.20mの長方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は9～20cmで、外傾して立ち上がっている。



第140图 第14号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

竈 2か所。竈1は北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで102cm、燃焼部幅42cmである。袖部は地山を掘り残し、須恵器甕、土師質土器置き竈を補強材にして構築されている。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き75cm、幅67cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈2は東壁の中央部に付設されている。袖部が遺存していないので竈2から竈1へ作り替えられたと考えられる。残存しているのは燃焼部及び煙出部だけで、壁外へ三角形に奥行き85cm、幅35cm掘り込んで構築されている。

竈1 土層解説

- | | | | |
|-----------|-----------------------|------------|----------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 9 暗 褐 色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック多量、炭化ブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 灰 褐 色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 4 極 暗 褐 色 | 焼土ブロック少量、炭化物微量 | 12 暗 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 黒 褐 色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 13 暗 褐 色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 6 黒 褐 色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 | 14 黒 褐 色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 7 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |
| 8 黒 褐 色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 | | |

竈2 土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|---------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗 褐 色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | | |

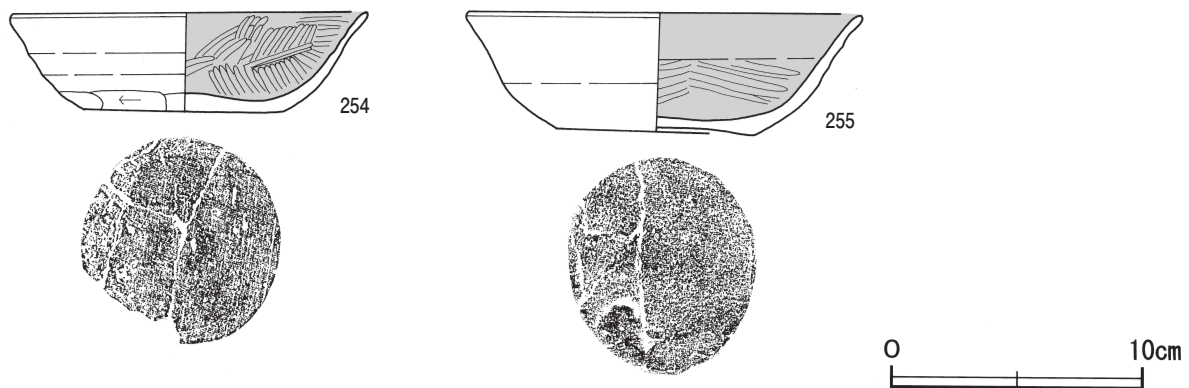
覆土 7層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

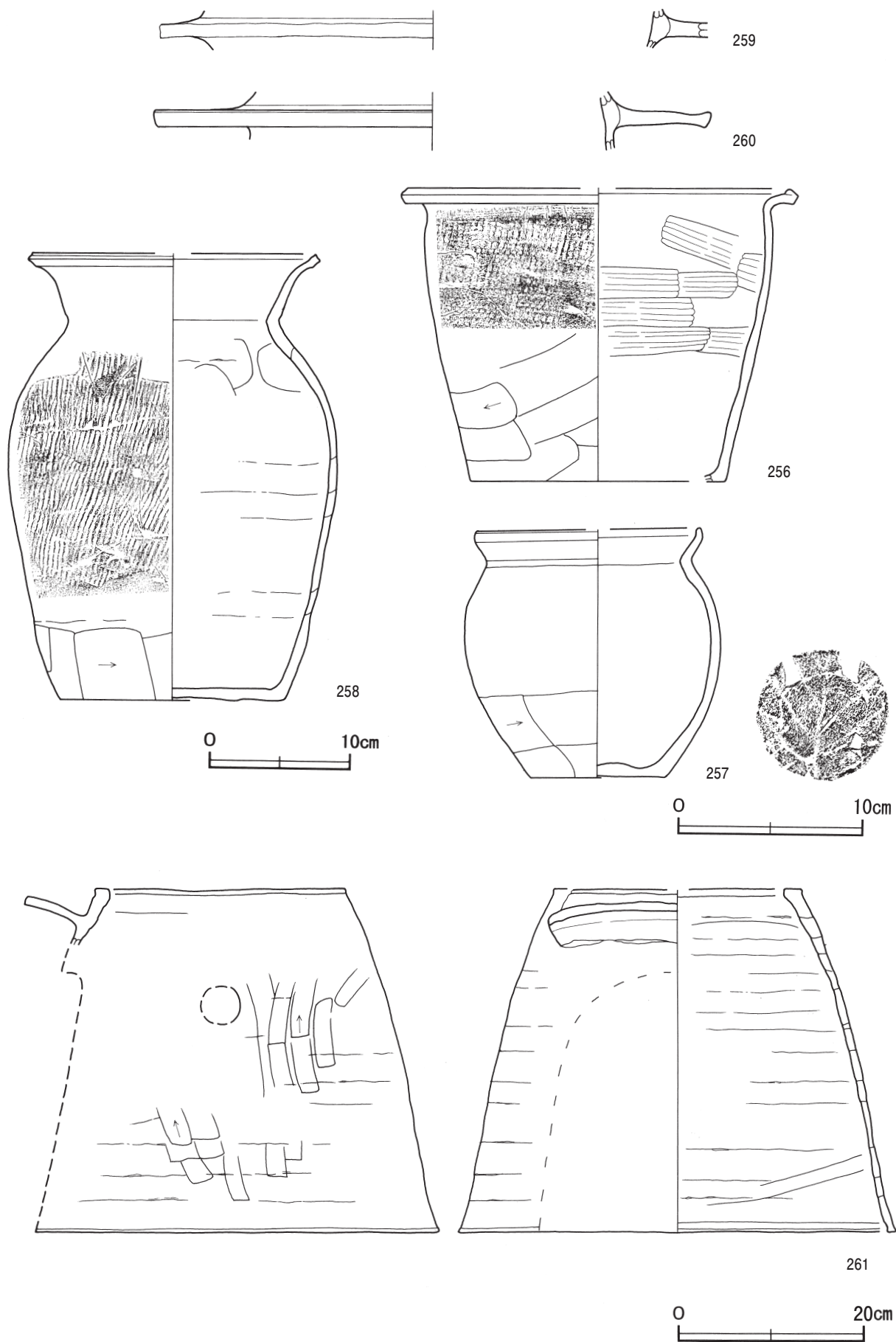
- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|----------------------|
| 1 黒 褐 色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 黒 褐 色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器坏2点、小形甕1点、須恵器鉢・甕各1点、土師質土器羽釜2点、置き竈1点のほか、土師器片317点（坏49・高台付坏2・甕266）、須恵器片128点（坏62・蓋1・甕65）が出土している。254・256・257は竈の火床部から出土しており、支脚として転用されていたものである。258は竈右袖に、261は竈左袖に貼り付けられた状態で出土しており、袖の補強材として用いられたものである。258は第36号土坑の覆土中からも同一個体が出土している。259は北壁際、260は北東部の覆土上層からそれぞれ出土している。255は北東部の覆土中層と第36号土坑の覆土から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀中葉に比定できる。調査段階では東竈の住居を第13号住居跡、北竈の住居を第14号住居跡と捉えていたが、竈の作り替えと判断した。



第141図 第14号住居跡出土遺物実測図（1）



第142図 第14号住居跡出土遺物実測図(2)

第14号住居跡出土遺物観察表（第141・142図）

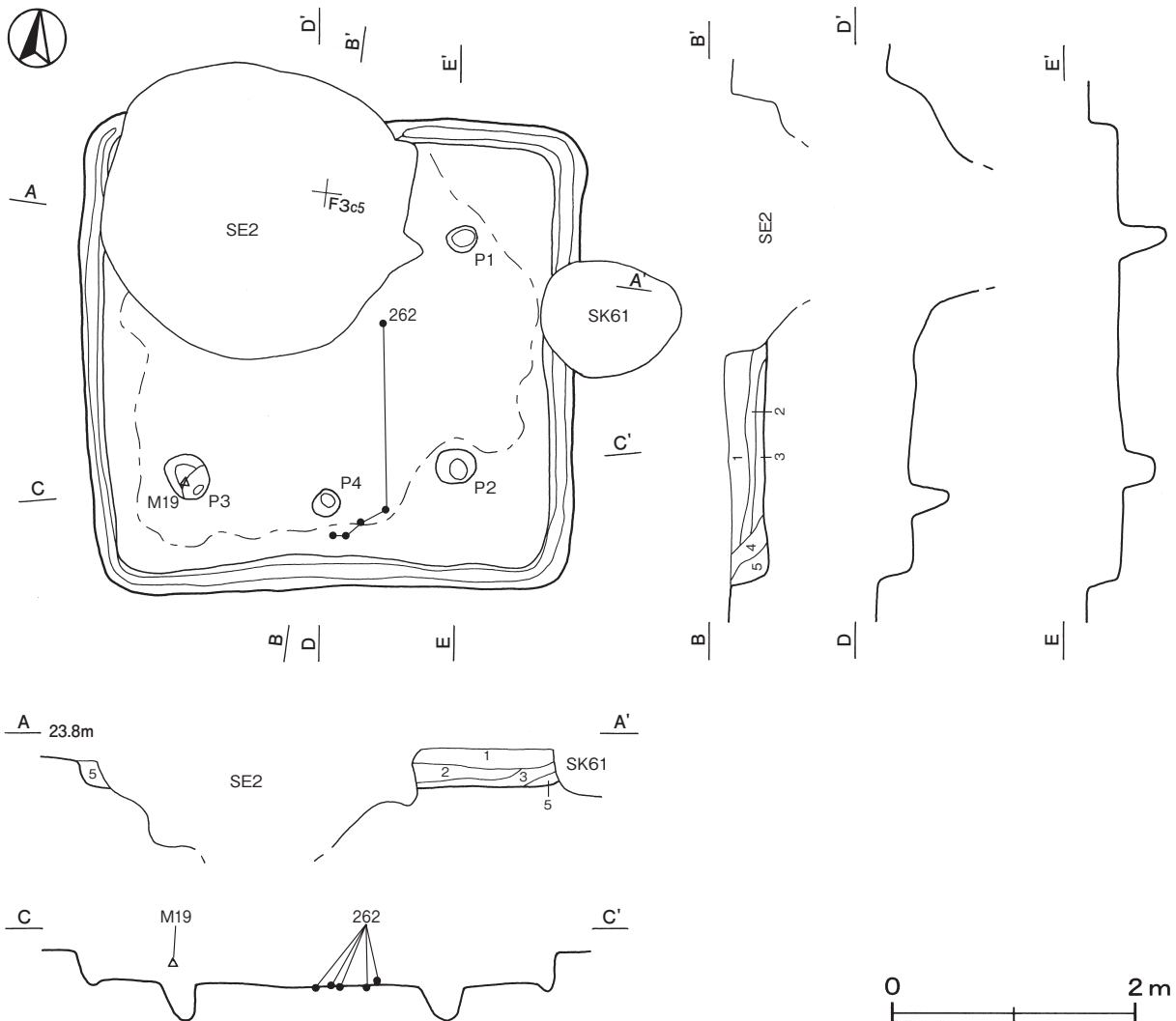
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
254	土師器	坏	14.0	4.1	8.0	砂粒・赤色粒子	にぶい褐	—	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り 内面へら磨き 黒色処理 二次焼成	竈支脚転用	60% PL74
255	土師器	坏	15.5	4.9	7.8	砂粒	橙	普通	底部一方向の手持ちへら削り 内面へら磨き 黒色処理	覆土中層 SK36覆土	70% PL74
256	須恵器	鉢	[20.6]	15.8	[13.8]	長石・雲母	にぶい赤褐	—	体部上半擬格子叩き 下半手持ちへら削り 内面粗い刷毛状工具によるナデ 二次焼成	竈支脚転用	30% PL75
257	土師器	小形甕	[12.0]	13.5	7.2	長石、粗い	にぶい褐	—	体部下半手持ちへら削り 二次焼成	竈支脚転用	70% PL74
258	須恵器	甕	[20.4]	32.1	[16.0]	長石・雲母	にぶい褐	不良	体部縦位の平行叩き 下端手持ちへら削り 輪積痕 押圧痕	右袖材	40% PL75
259	土師質土器	羽釜	—	(2.0)	—	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	つば部分のみ ナデ調整	床面	5%
260	土師質土器	羽釜	[30.0]	(3.1)	—	長石	橙	普通	つば部分のみ ナデ調整	覆土上層	10%
261	土師質土器	置き竈	[26.8]	[37.3]	[47.4]	長石・雲母	にぶい褐	普通	背面に孔を穿つ 外面縦方向のへら削り 内面ナデ つば端部指頭押圧痕 輪積痕	左袖材	20% PL76

第15号住居跡（第143・144図）

位置 調査区南部のF 3 c5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北西部を第2号井戸，東壁部を第61号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.33m，短軸4.05mの方形で、主軸方向はN - 6° - Wである。壁高は25cmで、ほぼ直立し



第143図 第15号住居跡実測図

ている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁に付設されていたとみられるが、第2号井戸によって失われている。

ピット 4か所。P1～P3は深さ27～35cmで、各コーナー部寄りに位置していることから主柱穴である。P4は深さ32cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットである。なお、北西隅の主柱穴は、第2号井戸によって失われているものとみられる。

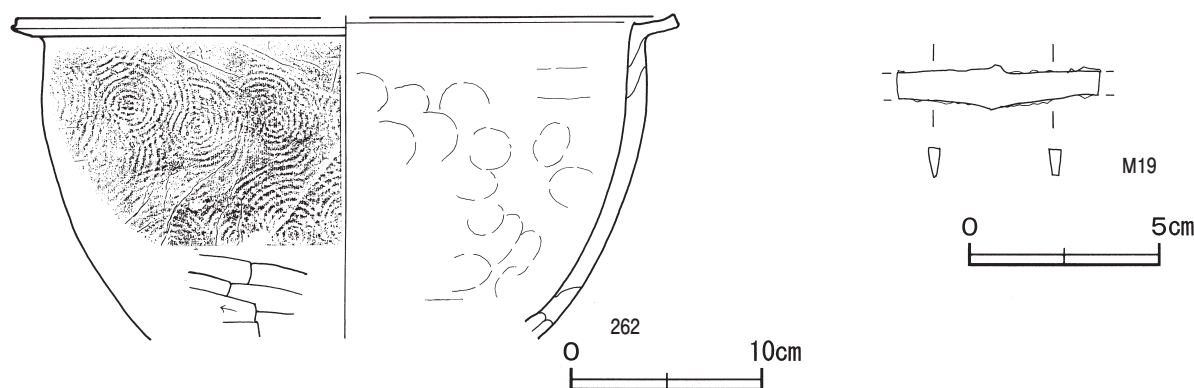
覆土 5層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 須恵器鉢1点、刀子1点のほか、土師器甕片71点、須恵器片6点（坏4・甕2）が出土している。262は中央部と南部の床面から出土した破片が接合したものである。M19は南西部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第144図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第144図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
262	須恵器	鉢	[35.0]	(17.0)	—	長石	灰白	普通	体部同心円文の叩き 内面押圧痕 輪積痕	床面	20% PL75

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M19	刀子	(5.4)	1.1	0.3	(3.42)	鉄	刃部断面三角形 茎部欠損	覆土中層	PL94

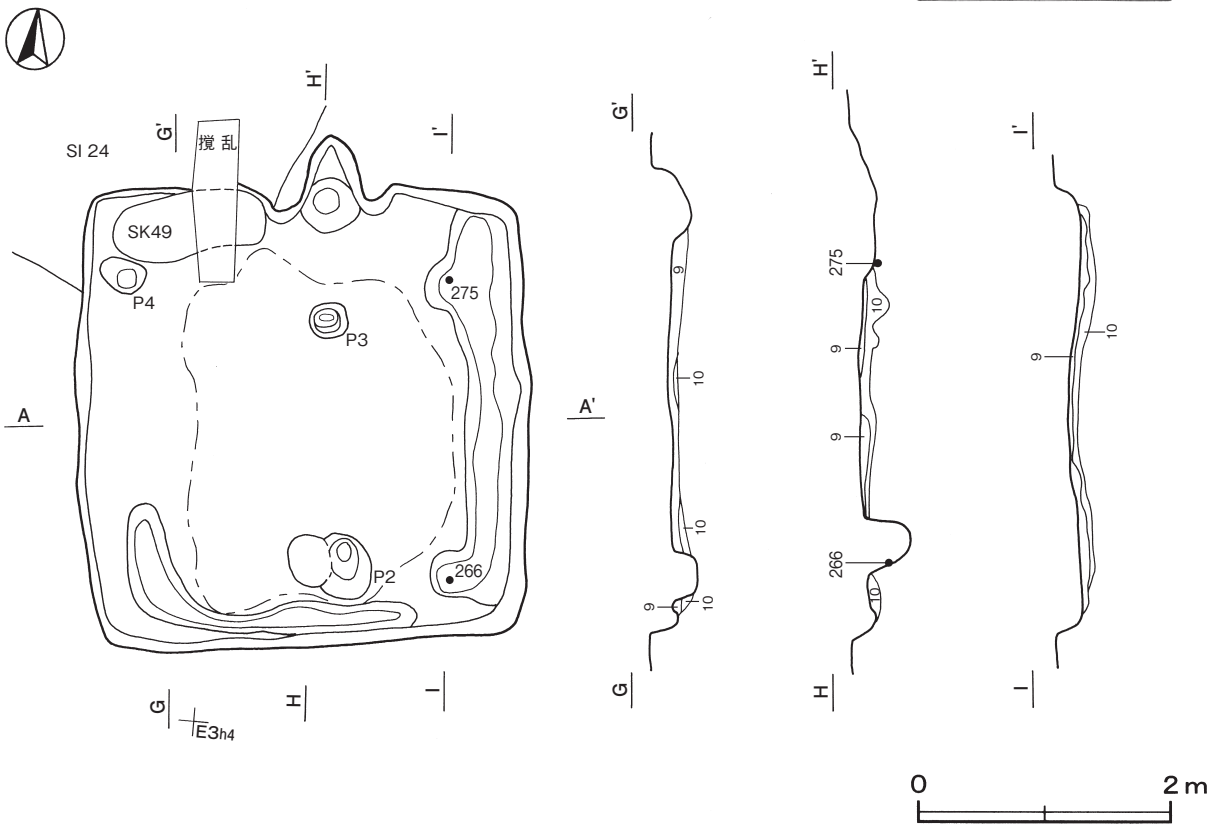
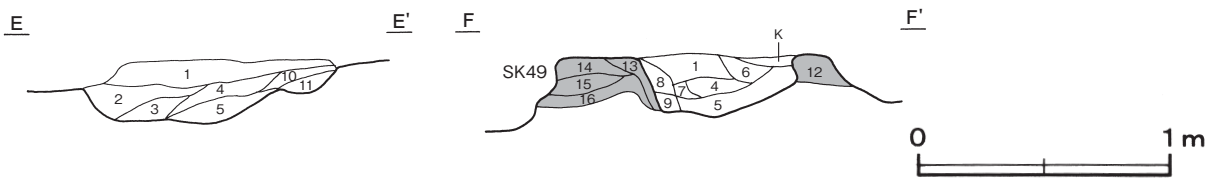
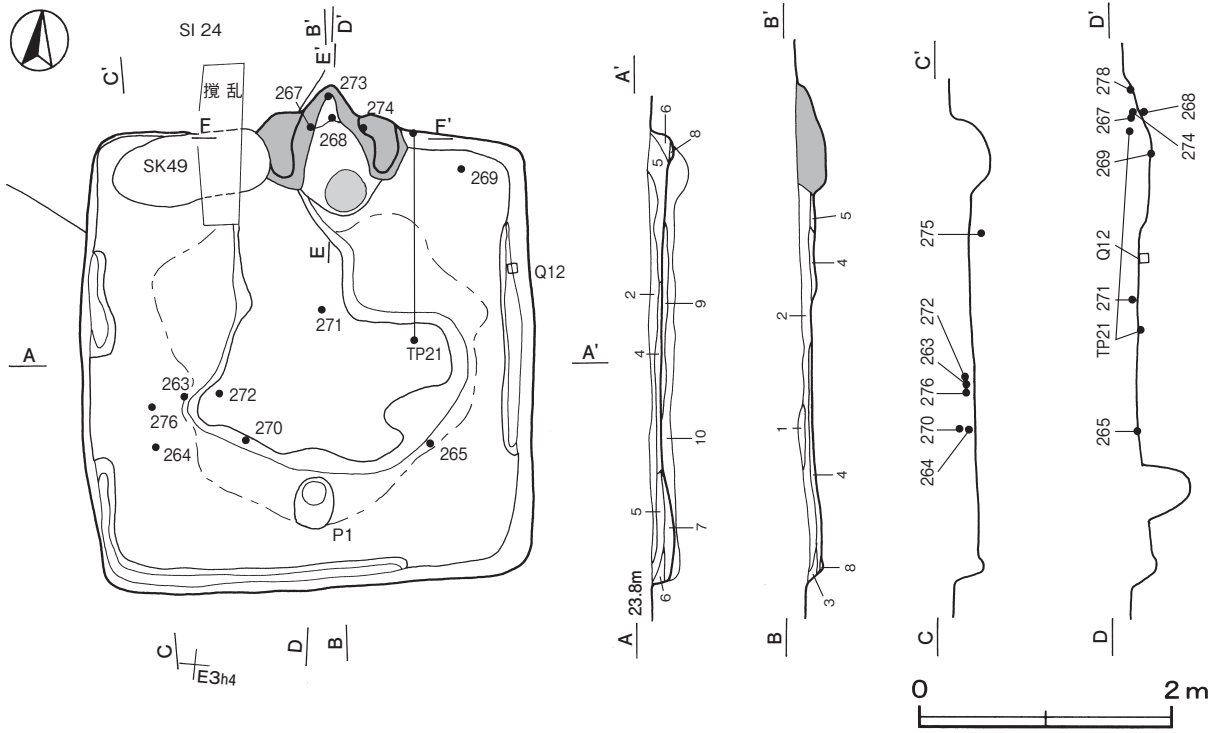
第16号住居跡（第145～147図）

位置 調査区南部のE3g4区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第24号住居跡を掘り込み、北西部を第49号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.51m、短軸3.50mの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は17cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 中央部が高く、壁際に向かって傾斜している貼床である。壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が東・南・



第145图 第16号住居跡実測図

西壁下に巡っている。貼床は、中央部を浅く、壁際を深さ21cmとやや深く掘り込み、ロームブロックを含む黒褐色土を埋めて構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで130cm、燃烧部幅48cmである。袖部はロームを削り残した上に、ロームブロックと砂質粘土ブロックを含む暗褐色土を積み上げて構築されている。第12～16層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形状に奥行き30cm、幅42cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を12cmほど掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	9	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	にぶい黄褐色	炭化粒子中量、焼土粒子少量	10	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量	11	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量
4	灰黄褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量	12	灰黄色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量
5	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	13	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子極微量
6	黄褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量	14	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	15	黒褐色	ローム粒子少量
8	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	16	暗褐色	ロームブロック少量

ピット P1は深さ36cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P2～P4は床下ピットである。

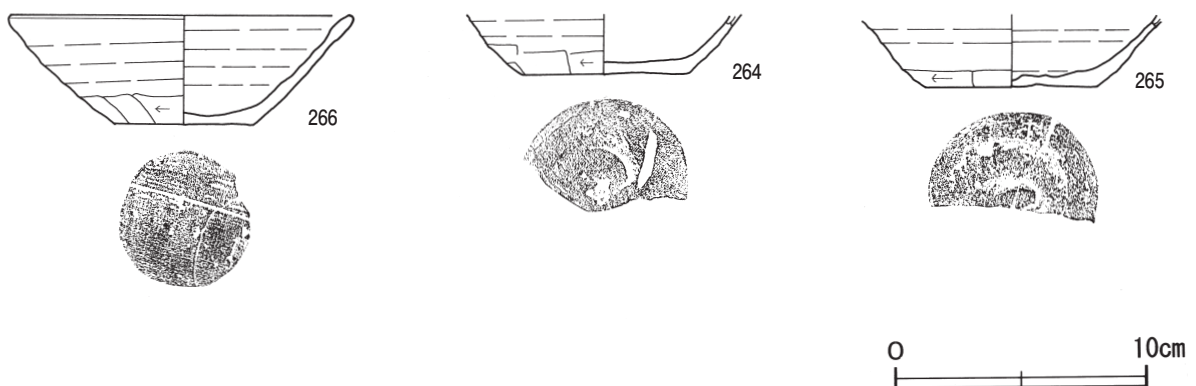
覆土 8層に分層できる。第9・10層は貼床の構築土である。大半の層にロームブロックが含まれているが、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

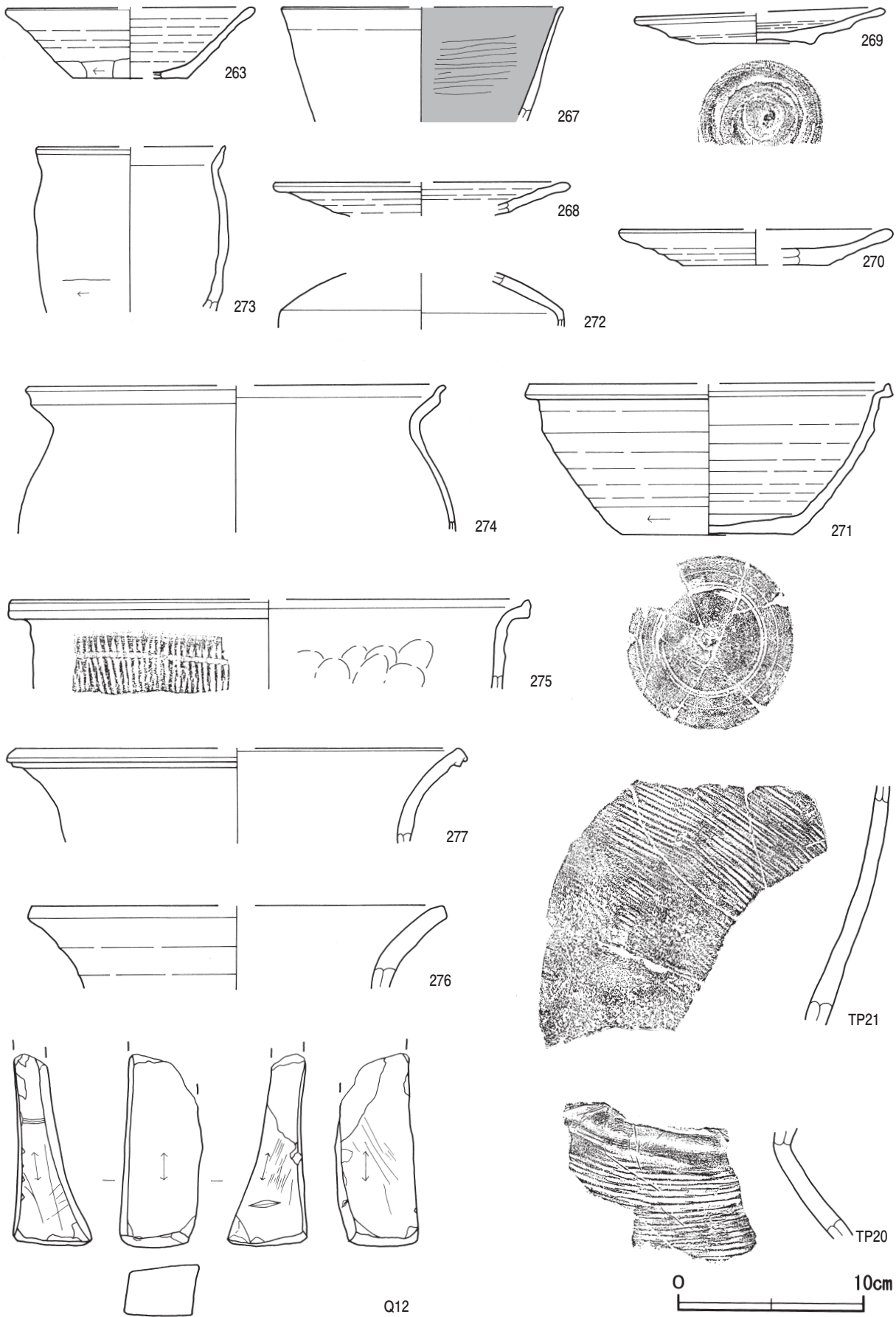
1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	7	黒褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック中量	8	黒褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器椀1点、皿2点、小形甕・甕各1点、須恵器坏4点、皿・鉢・壺各1点、甕5点、砥石1点のほか、土師器片173点（坏14・皿5・甕154）、須恵器片82点（坏41・盤1・蓋1・鉢1・甕37・甌1）が出土している。263・264・270・272・276は南西部、265は南東部、269は北東コーナ部、271は中央部の床面からそれぞれ出土している。268・273は竈煙道部の底面、267は竈の覆土中層、274は竈右袖、277は竈の覆土中、TP20は覆土中、Q12は東壁溝内からそれぞれ出土している。TP21は中央部の床面から出土した破片と覆土中層から出土した破片が接合したものである。266・275は貼床の構築土内から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第146図 第16号住居跡出土遺物実測図（1）



第147图 第16号住居跡出土遺物実測図 (2)

第16号住居跡出土遺物観察表（第146・147図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
263	須恵器	坏	[13.2]	3.8	[6.0]	長石	にぶい黄橙	不良	体部下端手持ちヘラ削り	床面	20%
264	須恵器	坏	—	(2.4)	[6.7]	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	床面	20%
265	須恵器	坏	—	(2.9)	[6.8]	長石・雲母・赤色粒子	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕	床面	20%
266	須恵器	坏	13.4	4.3	5.4	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	貼床内	50% PL74
267	土師器	椀	[15.0]	(6.2)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理	竈覆土中層	5%
268	土師器	皿	[15.6]	(1.8)	—	長石・石英	褐灰	普通	口縁部ロクロナデ	煙道部底面	10%
269	土師器	皿	[13.1]	1.9	6.2	長石・石英	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後、外周部回転ヘラ削り	床面	30%
270	須恵器	皿	[14.4]	1.9	[8.0]	長石・細れき、粗い	灰	普通	底部回転ヘラ削り 内面に重ね焼き痕	床面	30%
271	須恵器	鉢	[19.4]	8.1	9.2	長石・雲母	灰	普通	体部下端 底部回転ヘラ削り	床面	40% PL75
272	須恵器	壺	—	(2.9)	—	砂粒	灰白	普通	肩部に自然袖付着	床面	5%
273	土師器	小形甕	[10.1]	(9.9)	—	長石・石英	赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	煙道部底面	50% PL75
274	土師器	甕	[22.2]	(7.9)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部ロクロナデ	右袖部	10%
275	須恵器	甕	[27.8]	(4.8)	—	長石・雲母	灰	普通	体部縦位の平行叩き 内面指頭押圧痕	貼床内	5%
276	須恵器	甕	[22.2]	(4.5)	—	長石・雲母	灰	普通	口縁部ロクロナデ	床面	5%
277	須恵器	甕	[23.8]	(5.1)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	不良	口縁部ロクロナデ	竈覆土中	10%
TP20	須恵器	甕	—	(6.1)	—	長石・雲母	灰	普通	外面横位の平行叩き	覆土中	PL90
TP21	須恵器	甕	—	(13.0)	—	長石・雲母	灰	普通	外面斜位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り	床・中層	PL90

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	砥石	(10.3)	4.4	4.3	(178.6)	凝灰岩	砥面4面	東壁溝	PL93

第18号住居跡（第148～149図）

位置 調査区南部のF 3 b7区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第19号住居跡を掘り込み、中央部を第69号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.83m、短軸4.25mの長方形で、主軸方向はN-99°-Eである。壁高は16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、南東部のみに硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 東壁のやや南寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで109cm、燃焼部幅60cmである。袖部は地山を掘り残し、右袖には補強材として土師質土器羽釜を貼り付けて構築されている。燃焼部は壁外に位置している。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き65cm、幅75cm掘り込み構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでいるが、火床面は焼土化していない。火床部に羽口が埋め込まれ、その上部に高台付坏が逆位で乗せられ、周りにはロームブロックを貼り付けて支脚としていた。第9層が掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|---------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 にぶい褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 極暗赤褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子・細砂微量 | | |

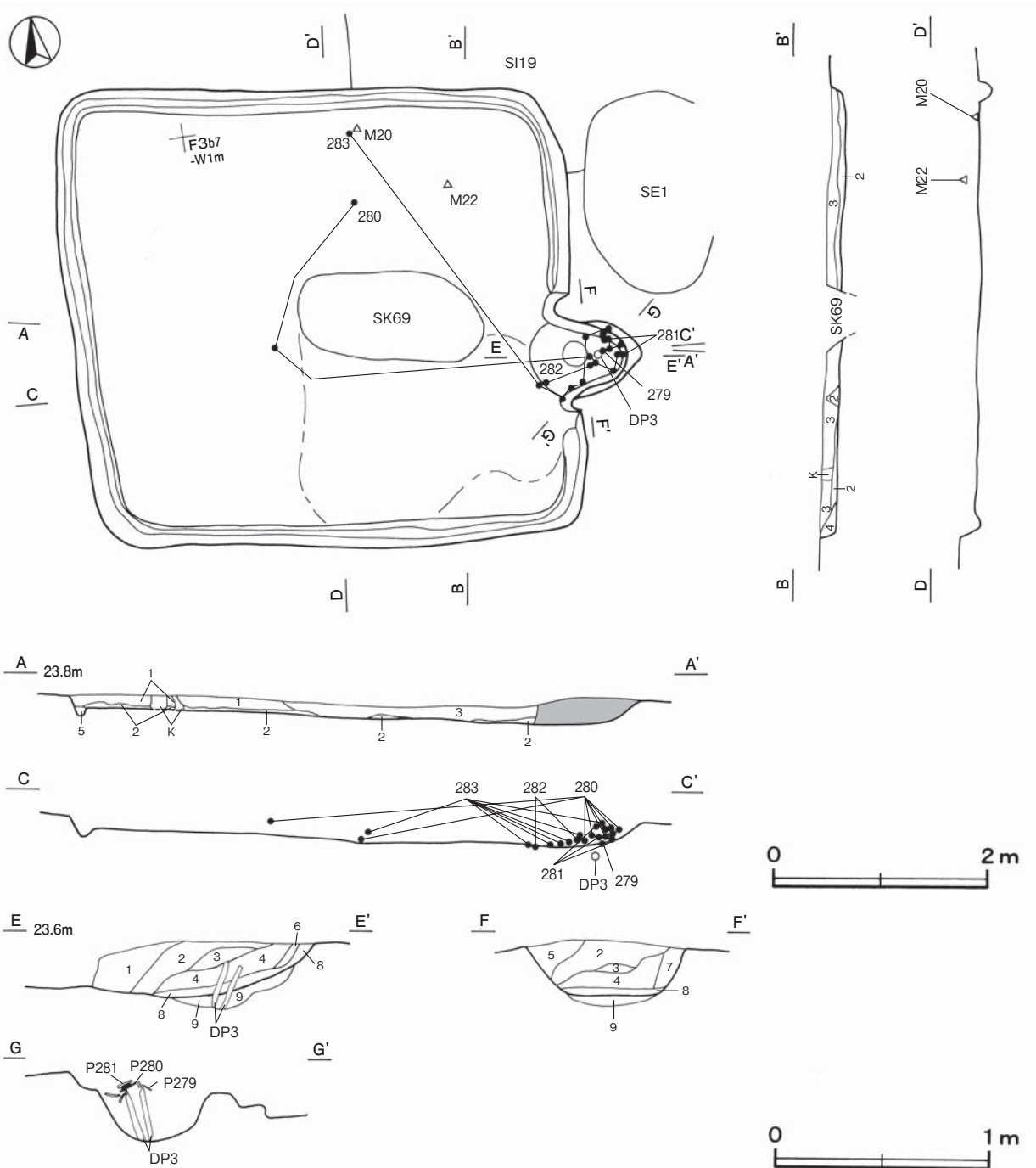
覆土 5層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

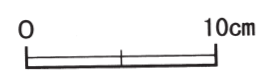
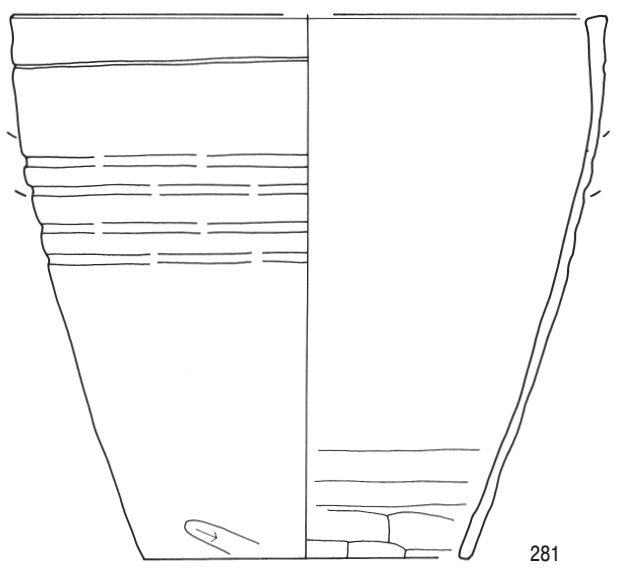
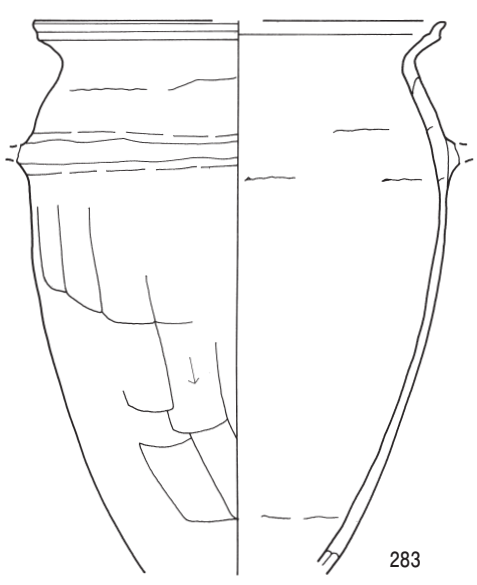
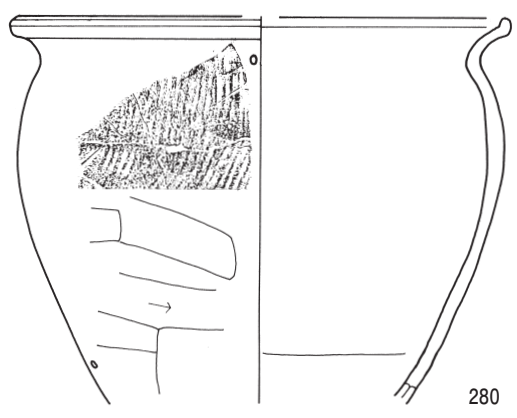
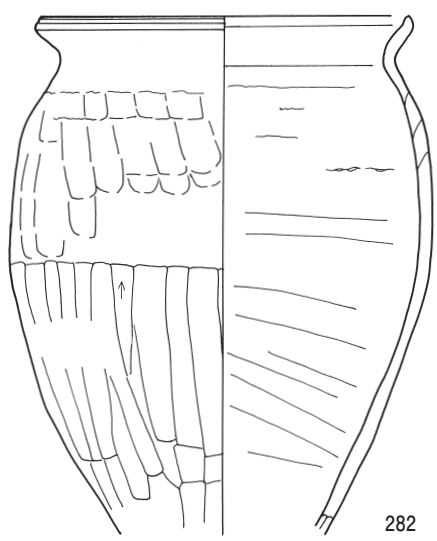
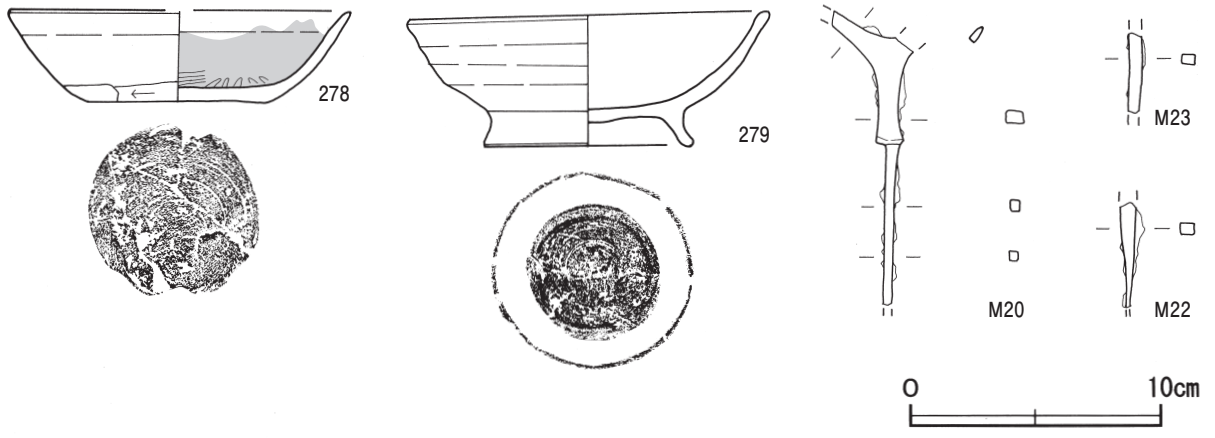
- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器坏・高台付坏・甕・各1点，土師質土器羽釜1点，須恵器甕・甑各1点，羽口1点，鉄鏃3点のほか，土師器片94点（坏13・高台付坏1・甕80），須恵器片48点（坏28・高台付坏1・高台付皿1・甕11・甑7），壁材と思われるスサ入り粘土が出土している。DP3は火床部に埋め込まれ，279はその上に逆位で乗せられ，280・281はその上から破片で出土し，接合したものである。282は前面に倒れ押しつぶされた状態で火床部の覆土上層から出土している。283は右袖に貼り付けられた状態のものと，竈前面の床面や北壁際の床面から出土した破片が接合したものである。M20は北部の床面，M22は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。278・M23は覆土中から出土している。

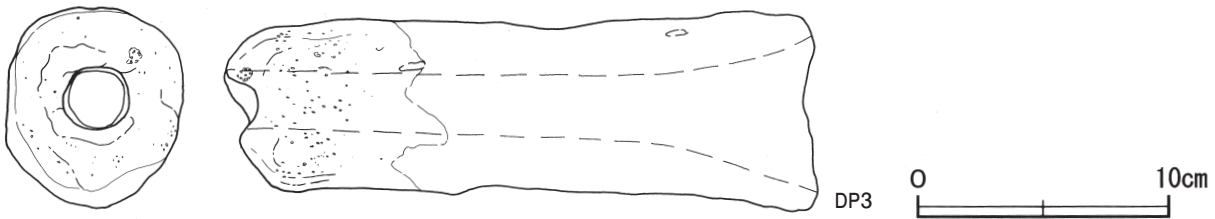
所見 時期は，重複関係や出土土器から10世紀中葉に比定できる。



第148図 第18号住居跡実測図



第149图 第18号住居跡出土遺物実測図(1)



第150図 第18号住居跡出土遺物実測図（2）

第18号住居跡出土遺物観察表（第149・150図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
278	土師器	坏	[13.6]	3.7	7.2	長石・石英	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら削り 内面へら磨き、漆処理	覆土中	50% PL77
279	土師器	高台付坏	14.2	5.4	8.0	長石・雲母	橙	普通	底部回転へら削り後、高台貼り付け	火床部支脚	100% PL77
280	須恵器	甕	[26.0]	(20.5)	—	長石・雲母	灰黄	普通	体部下手持ちへら削り 上半縦位の平行 叩き 2孔あり、補修孔あり	火床上層	40% PL75
281	須恵器	甕	[31.6]	28.8	[17.4]	長石・雲母・細礫	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へらナデ 把手欠損	火床上層	30% PL76
282	土師器	甕	19.6	(27.5)	—	長石・石英	橙	普通	体部下手持ちへら削り 上半押圧痕 内面へらナデ 輪積痕	火床上層	80% PL76
283	土師質 土器	羽釜	[21.8]	(29.4)	—	長石・石英	褐灰	普通	体部手持ちへら削り つば貼り付け後、 ナデ 輪積痕	右袖、床面	30% PL76

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質（胎土）	特徴	出土位置	備考
DP3	羽口	23.5	7.9	7.1	2.5	1010	土（長石・細砂・スサ）	ナデ 端部に鉄付着 支脚転用	火床面	PL91

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	鏃	(11.75)	(3.25)	0.95	(11.3)	鉄	雁股鏃 茎部欠損	床面	PL94
M22	鏃	(4.2)	(0.7)	0.5	(2.80)	鉄	断面方形 鏃身部欠損	覆土中層	
M23	鏃	(3.2)	(0.5)	0.4	(2.20)	鉄	断面方形 鏃身部欠損	覆土中	

第19号住居跡（第151・152図）

位置 調査区南部のF 3 a7区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南西コーナー部を第18号住居、南壁部を第1号井戸、北西部を第63・64号土坑、第66号土坑（第3号粘土採掘坑）、北東コーナー部を第65号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.48m、短軸3.76mの長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は15~21cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が北東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁の東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで123cm、燃焼部幅71cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、暗褐色土を積み上げて構築されている。第7~9層が袖部の構築土である。左袖部の内側には、板石が補強材として使用されている。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き30cm、幅50cm掘り込み構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

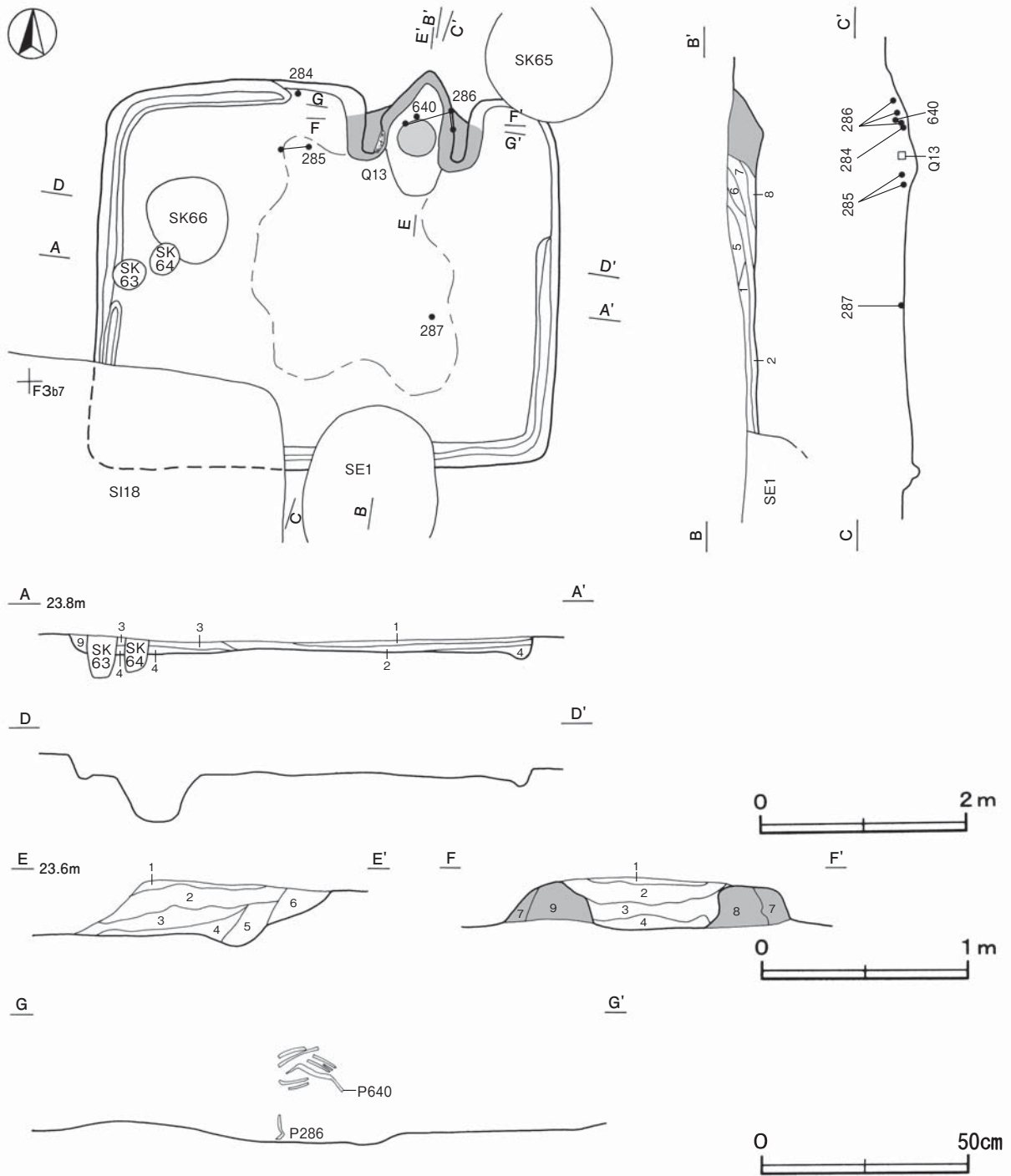
竈土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	6	褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	7	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	8	にぶい黄褐色	ロームブロック少量
4	褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量	9	褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量			

覆土 9層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

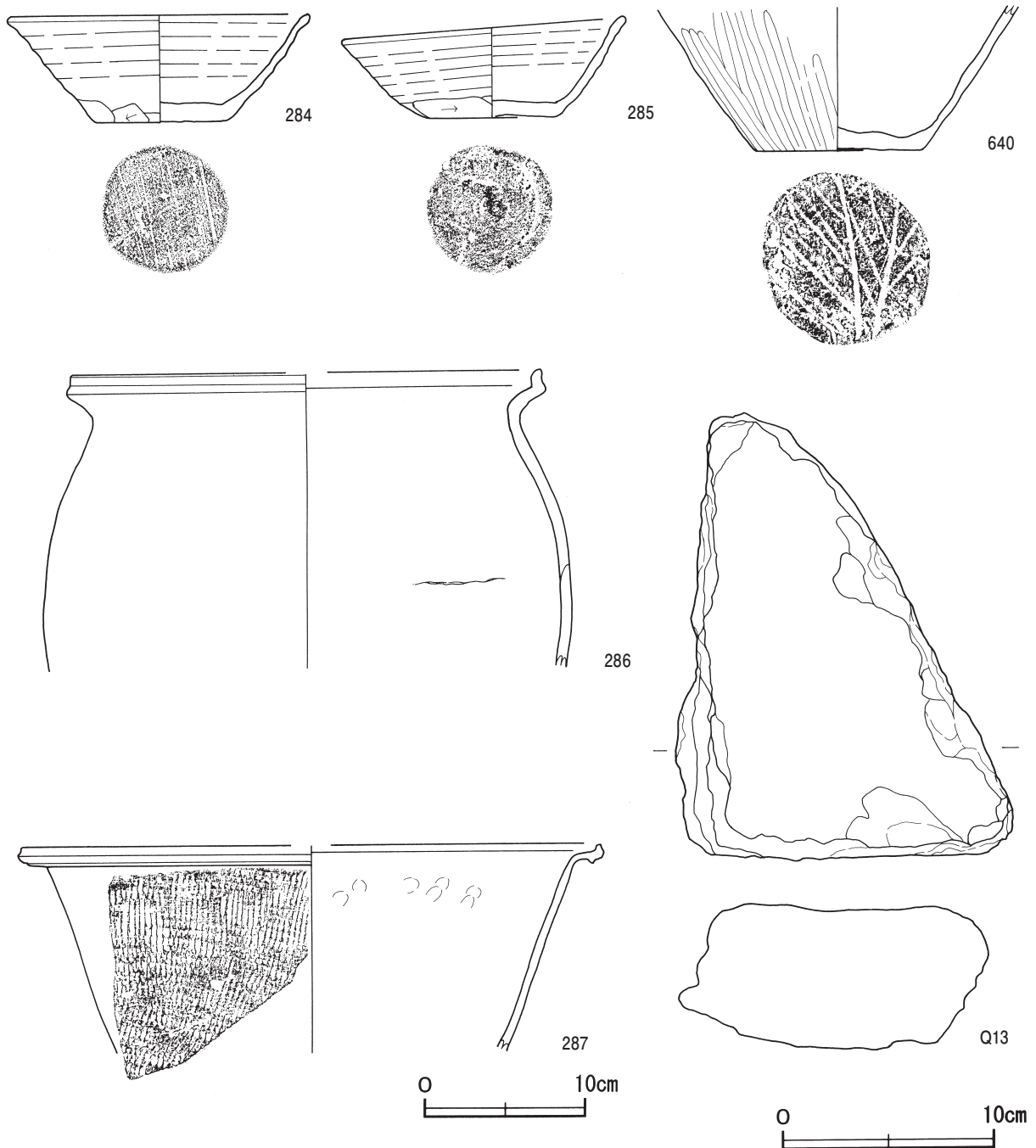
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 5 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | | |
| 6 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | | |



第151図 第19号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器甕2点，須恵器坏2点，甕1点，竈補強材の雲母片岩のほか，土師器片127点（坏3，甕124），須恵器片70点（坏42・高台付坏2・皿1・蓋1・甕24）が出土している。284は北壁際の床面，285は北部の覆土下層，287は中央部の床面からそれぞれ出土している。286は火床面に逆位で据えられ，640はその上に伏せられており，支脚として転用されていた。Q13は左袖の内側に立てられており，補強材として使用されていたものである。

所見 時期は，重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第152図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
284	須恵器	坏	13.8	5.1	5.8	長石・雲母	暗灰色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	床面	70% PL77
285	須恵器	坏	13.6	4.3	6.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土下層	70% PL77
286	土師器	甕	[22.0]	(14.0)	—	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ナデ 輪積痕	竈支脚転用	10%
287	須恵器	甕	[36.6]	(13.0)	—	長石・雲母	灰	普通	体部擬格子の叩き 内面指頭押圧痕を残す横ナデ	床面	10%
640	土師器	甕	—	(6.7)	7.8	長石・石英	明赤褐	普通	体部ヘラ磨き 内面ナデ	竈支脚転用	10%

番号	器種	長さ(径)	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	竈袖材	20.6	15.1	6.0	(2470.0)	雲母片岩	被熱痕あり	左袖	PL93

第21号住居跡（第153・154図）

位置 調査区南部のE 3j2区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第22・23号住居跡の上部に構築され、北東コーナー部を第35号土坑、西部を第38号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.17m、短軸3.03mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は17cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで124cm、燃焼部幅64cmである。袖部は地山を若干掘り残し、粘土を貼って構築されている。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き77cm、幅147cm掘り込んで構築されている。火床部は壁外に位置し、床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。第12層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	9	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量	10	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5	黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量	12	暗褐色	ローム粒子中量
6	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量			
7	黒色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・砂質粘土ブロック微量			

ピット 深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

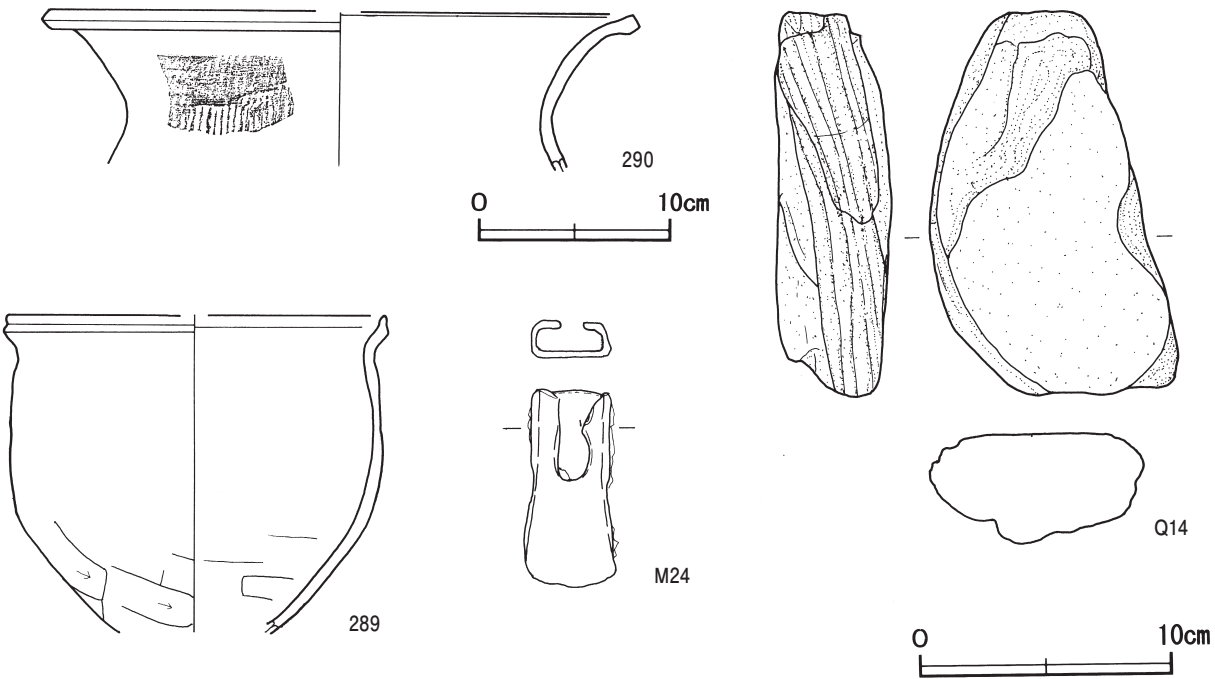
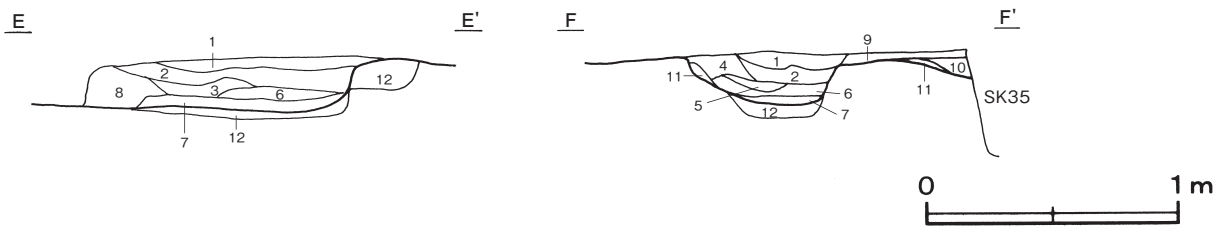
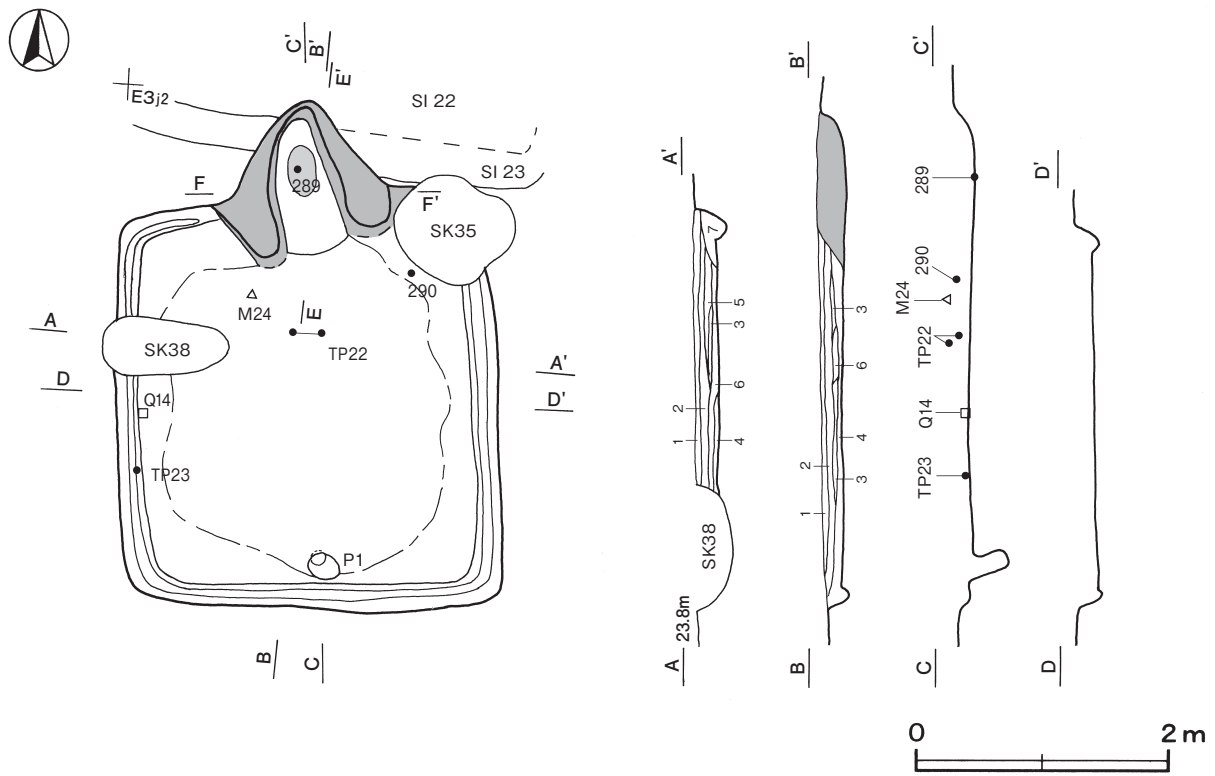
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれている層が多く、埋め戻されている。

土層解説

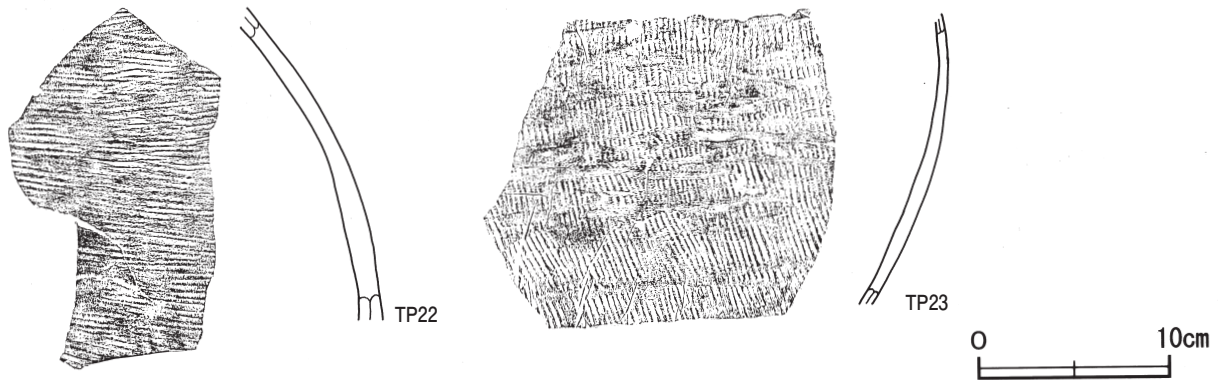
1	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	5	暗褐色	ロームブロック中量
2	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	6	暗褐色	ロームブロック少量
3	黄褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量	7	暗褐色	ローム粒子少量
4	褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 土師器小形甕1点、須恵器甕3点、鉄斧1点、雲母片岩1点のほか、土師器片157点（坏32・甕125）、須恵器片99点（坏42・甕57）が出土している。289は火床面に逆位で据えられており、支脚として転用されていたものである。290は北東部、TP22は中央部、M24は左袖前面の覆土上層からそれぞれ出土している。TP23・Q14は西壁際の床面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀代に比定できる。



第153図 第21号住居跡・出土遺物実測図



第154図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第153・154図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
289	土師器	小形甕	[15.0]	(12.6)	—	長石・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ナデ	火床面 支脚転用	30%
290	須恵器	甕	[31.0]	(8.2)	—	長石・赤色粒子	灰黄	普通	体部縦位の平行叩き	覆土上層	5%
TP22	須恵器	甕	—	(16.7)	—	長石	灰	普通	外面横位の平行叩き 内面当て具痕	覆土上層	
TP23	須恵器	甕	—	(15.5)	—	長石	灰	普通	外面縦位の平行叩き後、横ナデ 内面当て具痕	床面	PL90

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	石	15.2	9.9	4.6	877.0	雲母片岩	被熱痕あり	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	斧	7.8	3.6	0.95	(82.8)	鉄	方形の袋部をもつ	覆土上層	PL94

第22号住居跡（第155図）

位置 調査区南部のE 3 i2区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南壁を第21号住居、北東コーナー部を第70号土坑、北部の床面を第2号掘立柱建物P 5～P 7に掘り込まれ、上部に第23号住居が構築されている。

規模と形状 長軸4.09m、短軸3.97mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は16～21cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 中央部がわずかに高く、硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで81cm、燃焼部幅46cmである。上部に第23号住居が構築されているため、遺存状況は良好でない。袖部は地山を掘り込んで、ロームブロックと白色粘土ブロックを含むにぶい赤褐色土を積み上げて構築されている。第4層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き60cm、幅90cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を15cmほど掘り込んで、ロームブロックと白色粘土ブロックを含む暗褐色土を埋土して構築され、火床面は床面より若干高く、赤変硬化していない。第3層は掘方への埋土である。

竈土層解説

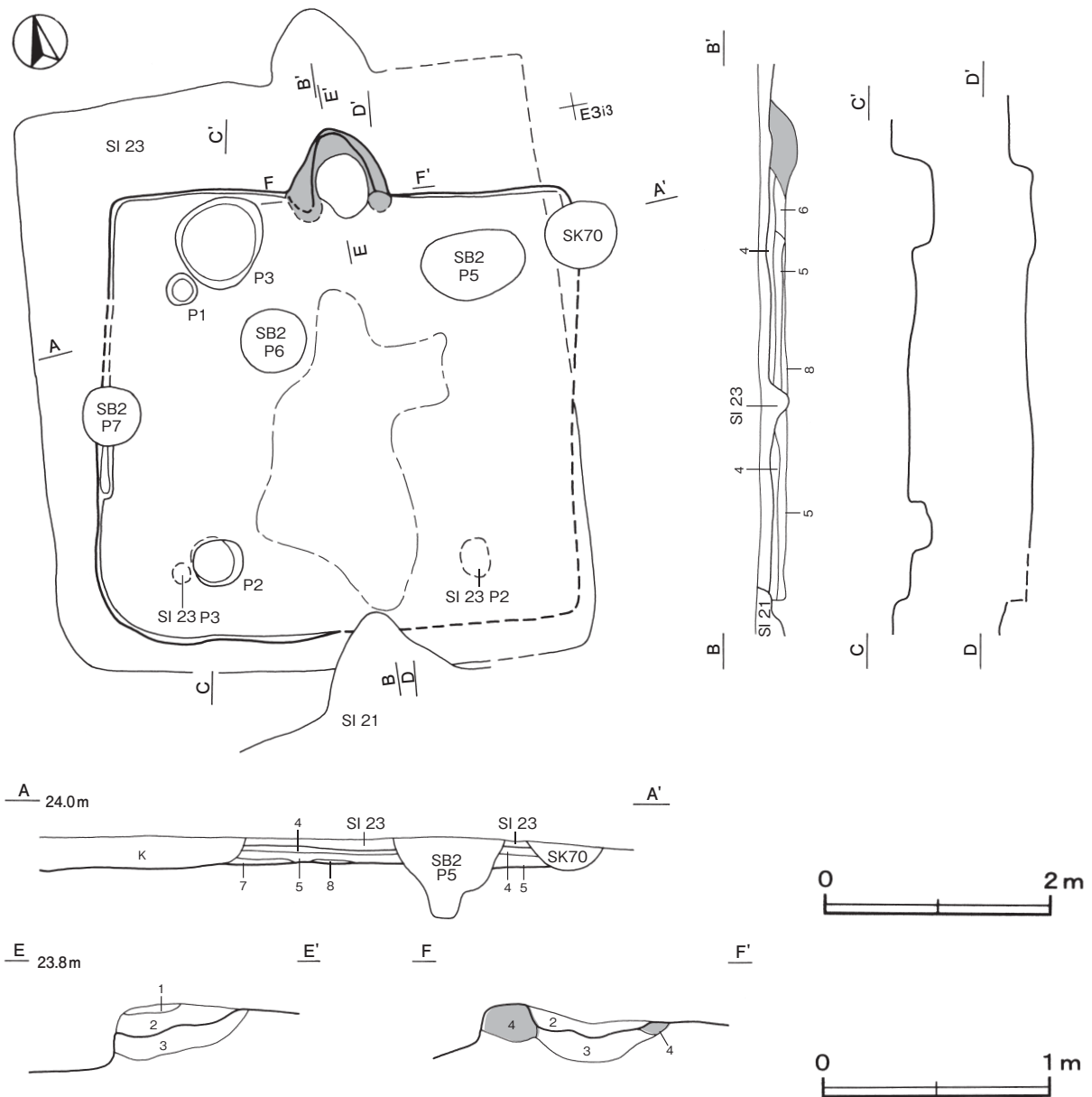
- | | | | |
|--------|-------------------------------|----------|----------------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 4 にぶい赤褐色 | 白色粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化物粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、白色粘土ブロック・炭化物少量 | | |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロック・炭化物少量 | | |

ピット 3か所。P1は深さ34cmで、北西コーナー部に位置しており、主柱穴と思われる。その他の主柱穴は上部に構築された第23号住居の柱穴や第2号掘立柱建物により掘り込まれ確認することはできなかった。P2は深さ21cmで南西コーナー部に、P3は深さ22cmで北西コーナー部に位置しているが、性格は不明である。

覆土 5層に分層できるが、いずれも第23号住居の貼床構築土であることから、第23号住居跡の項で解説する。

遺物出土状況 すべてのが貼床構築土内から出土していることから、第23号住居跡に所属するものである。

所見 本跡を拡張し建て替えられたものが第23号住居跡であることから、第23号住居跡とは時期差はほとんどないと思われ、時期は9世紀後葉に比定できる。

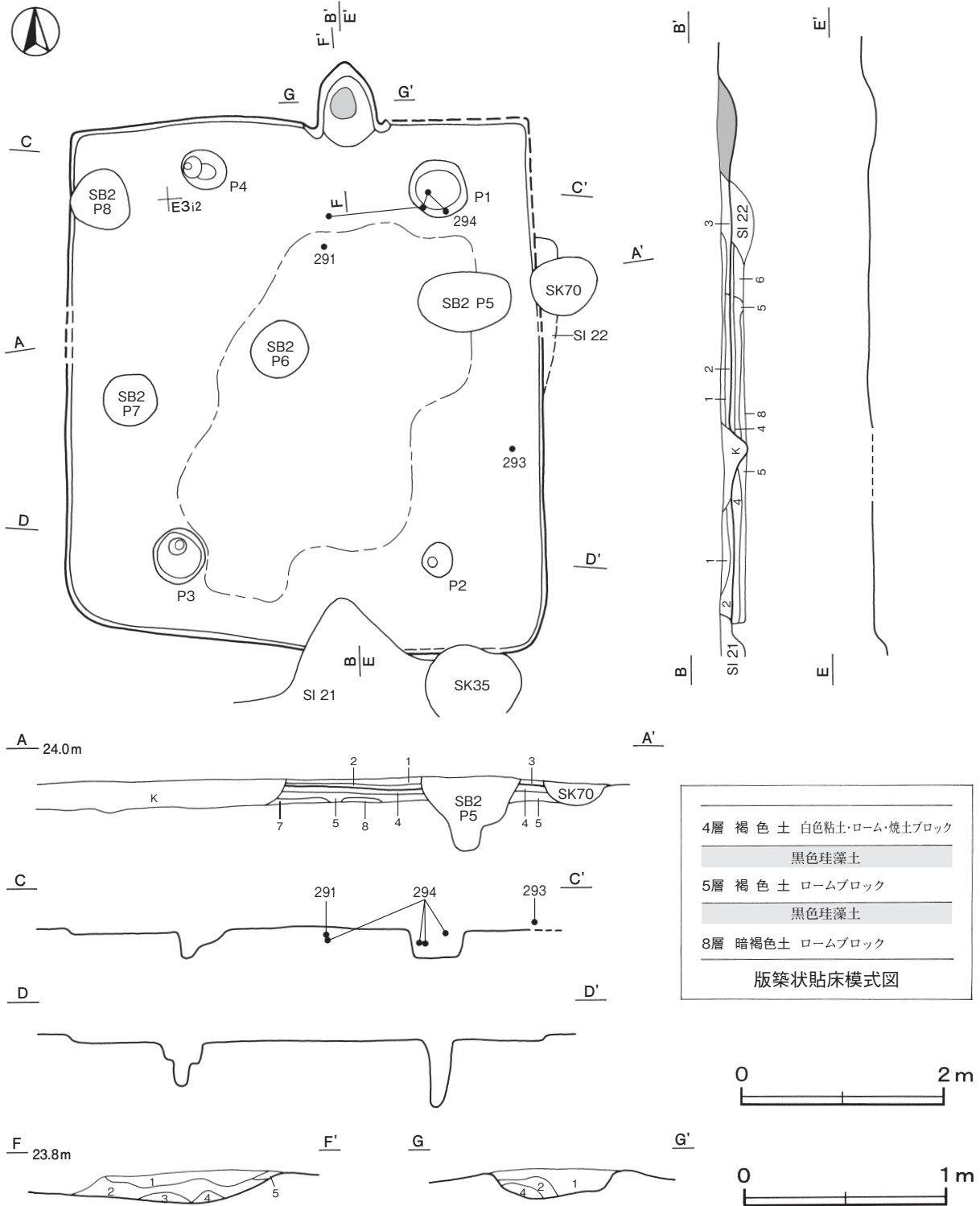


第155図 第22号住居跡実測図

第23号住居跡 (第156・157図)

位置 調査区南部のE 3 i2区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第22号住居跡の上部に構築され、南壁を第21号住居と第35号土坑、北東部を第70号土坑、北部の床面を第2号掘立柱建物のP 5～P 8に掘り込まれている。



第156図 第23号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.51m, 短軸4.73mの長方形で, 主軸方向はN-5°-Eである。壁高は5~8cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で, 中央部に硬化面が認められる。貼床は, ロームブロックを多く含む暗褐色土を埋め, その上にロームブロック・焼土ブロック・白色粘土を含む褐色土を貼り構築されている。各層間には, 図では表現できない程度の薄い黒色土が存在し, 各層は水平で版築状を呈している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで90cm, 燃焼部幅48cmである。袖部は地山を掘り残して構築されている。煙道部は, 壁外へ三角形に奥行き60cm, 幅55cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1・P4は深さ28cm・26cm, P2・P3は深さ67cm・43cmで, 規模と位置から支柱穴である。

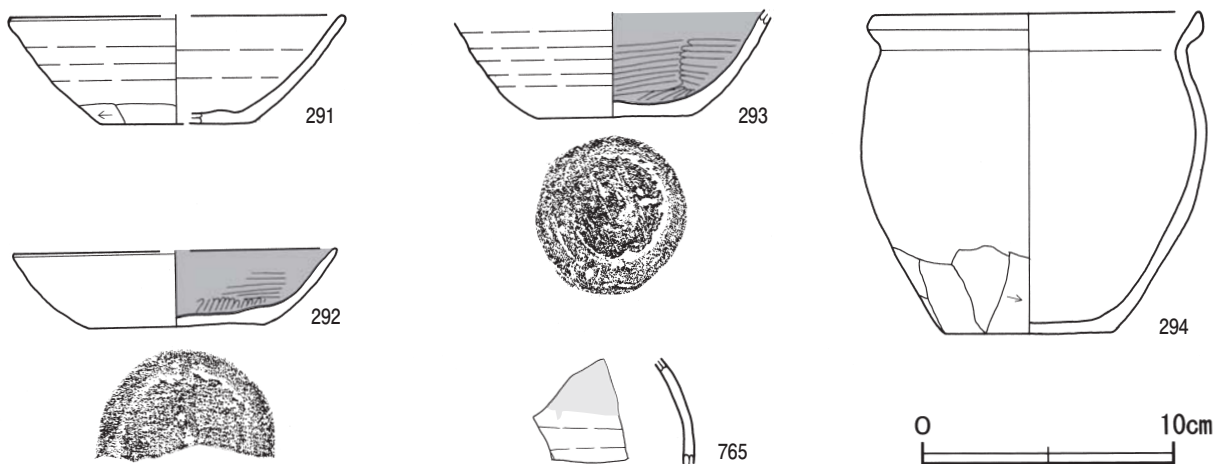
覆土 3層に分層できる。ロームブロック・白色粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。第4~8層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|-------|---------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロック中量 | 6 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 褐色 | 焼土ブロック・白色粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器坏3点, 小形甕1点, 灰釉陶器長頸瓶1点のほか, 土師器片355点(坏16・皿1・甕338), 須恵器片41点(坏13・甕28)が出土している。291は竈左袖付近の貼床構築内, 292・294・765は貼床の構築土内, 293は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は, 第22号住居跡の上部に拡張して建て替えられた住居である。貼床の構築法は, 第55号住居跡のような強固な版築技法ではないものの, 褐色土と薄い黒色土が交互に叩きしめられていた。薄い黒色土は粘性が強く, 第51号住居跡の貼床の構築土にも使用されていたものと同様で, 湿気を吸収する珪藻土である。時期は, 出土土器から9世紀後葉に比定でき, 重複する第22号住居跡との時期差はほとんどないと思われる。



第157図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
291	須恵器	坏	[13.2]	4.3	[6.0]	長石・雲母	橙	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 二次焼成	貼床内	30%
292	土師器	坏	[12.8]	3.1	7.0	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部一方向のヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	貼床内	30%
293	土師器	坏	—	(4.2)	6.0	長石	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土下層	50%
294	土師器	小形甕	13.4	12.7	6.7	長石・細礫, 粗い	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	貼床内	80% PL75
765	灰釉陶器	長頸瓶	—	(4.2)	—	長石	灰	普通	灰オリーブ釉	貼床内	5%

第27号住居跡（第158・159図）

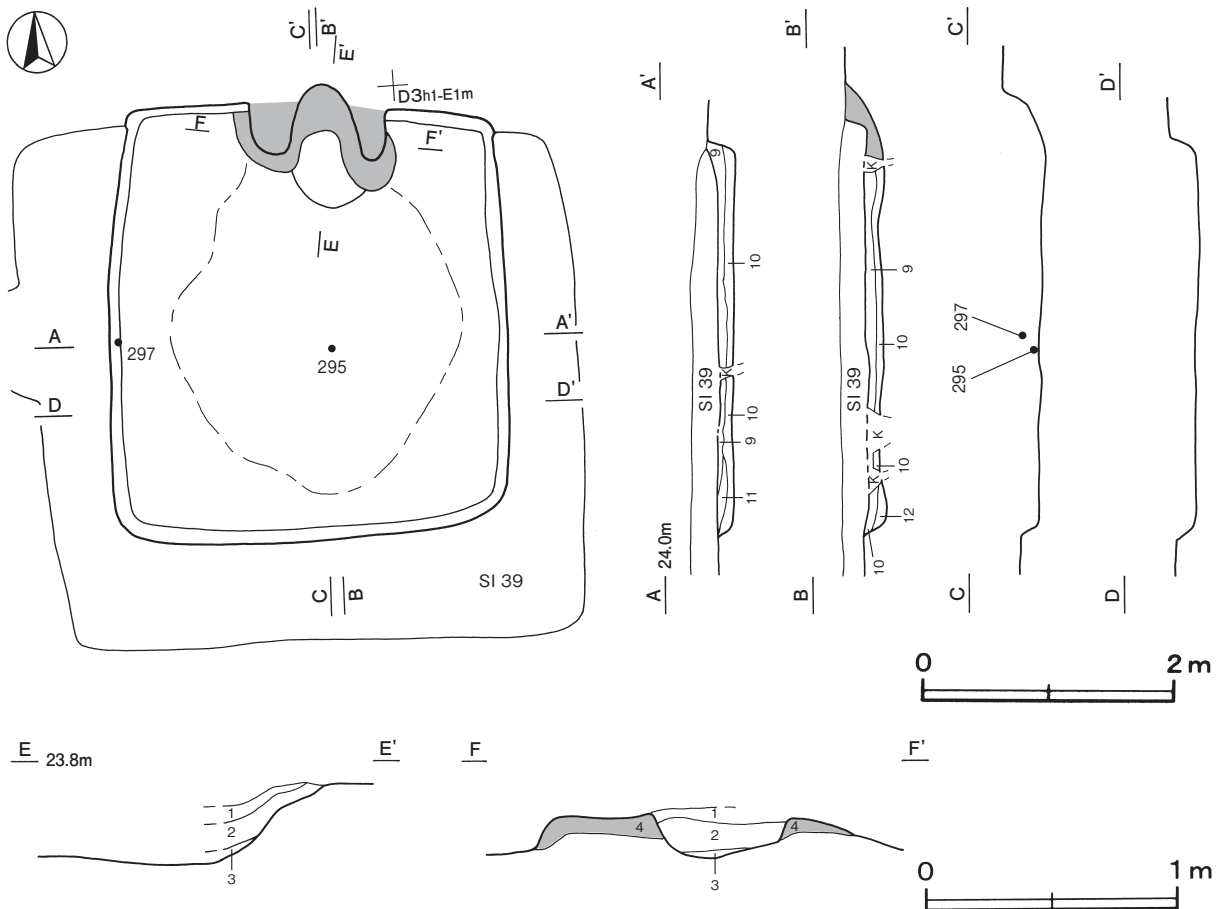
位置 調査区中央部のD3h1区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 上部を第39号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.39m、短軸3.29mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は23cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで98cm、燃烧部幅32cmである。袖部は地山を掘り残した上に、ロームブロックを含む褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き15cm、幅40cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。



第158図 第27号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|----------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

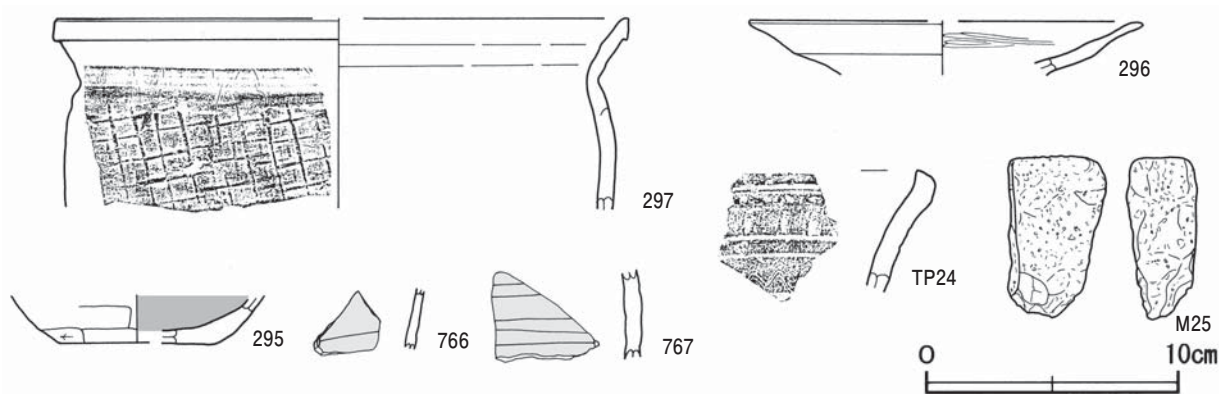
覆土 4層に分層できる。全ての層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第1～8層は第39号住居跡の覆土である。

土層解説 (第1～8層は第39号住居跡参照)

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-------------------|
| 9 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 10 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器坏・高台付皿各1点, 須恵器甕2点, 灰釉陶器椀・長頸瓶各1点, 鉄滓1点のほか, 土師器片125点(坏13・甕112), 須恵器片142点(坏56・甕86)が出土している。295は中央部の床面, 297は西壁際の覆土上層, 296・766・767・TP24・M25は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第159図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表 (第159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
295	土師器	坏	—	(1.9)	[6.0]	長石	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら削り 内面黒色処理	床面	10%
296	土師器	高台付皿	[15.2]	(2.1)	—	長石	橙	普通	体部下端 底部回転へら削り 内面へら磨き 高台剥離	覆土中	10%
297	須恵器	甕	[22.6]	(7.6)	—	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	体部粗い擬格子叩き 輪積痕	覆土上層	10%
766	灰釉陶器	椀	—	(2.4)	—	緻密	灰	良好	灰オリーブ釉	覆土中	5%
767	灰釉陶器	長頸瓶	—	(3.5)	—	緻密	灰	普通	オリーブ黄釉	覆土中	5%
TP24	須恵器	甕	—	(4.8)	—	長石	灰	普通	4条の櫛描き状波状文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M25	鉄滓	6.4	3.85	2.75	58.2	鉄	灰色 着磁なし	覆土中	

第39号住居跡 (第160・161図)

位置 調査区中央部のD3h1区で, 標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第27号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.33m, 短軸4.12mの方形で, 主軸方向はN-88°-Wである。壁高は19cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床である。

竈 西壁のやや北寄りに付設されているが、大部分が攪乱により失われている。遺存している燃焼部幅は45cmである。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子微量 | |

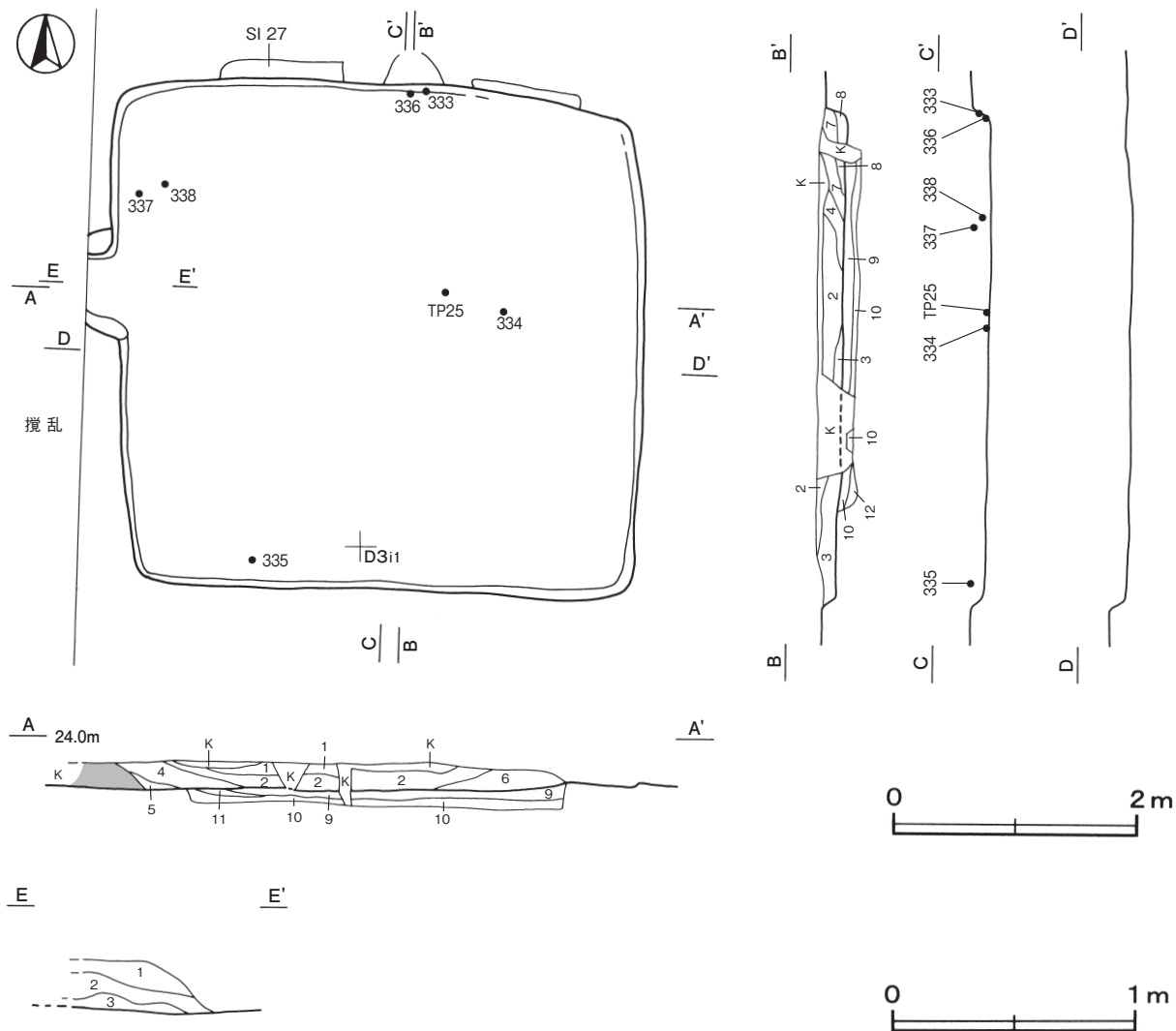
覆土 8層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。第9～12層は貼床の構築土である。

土層解説

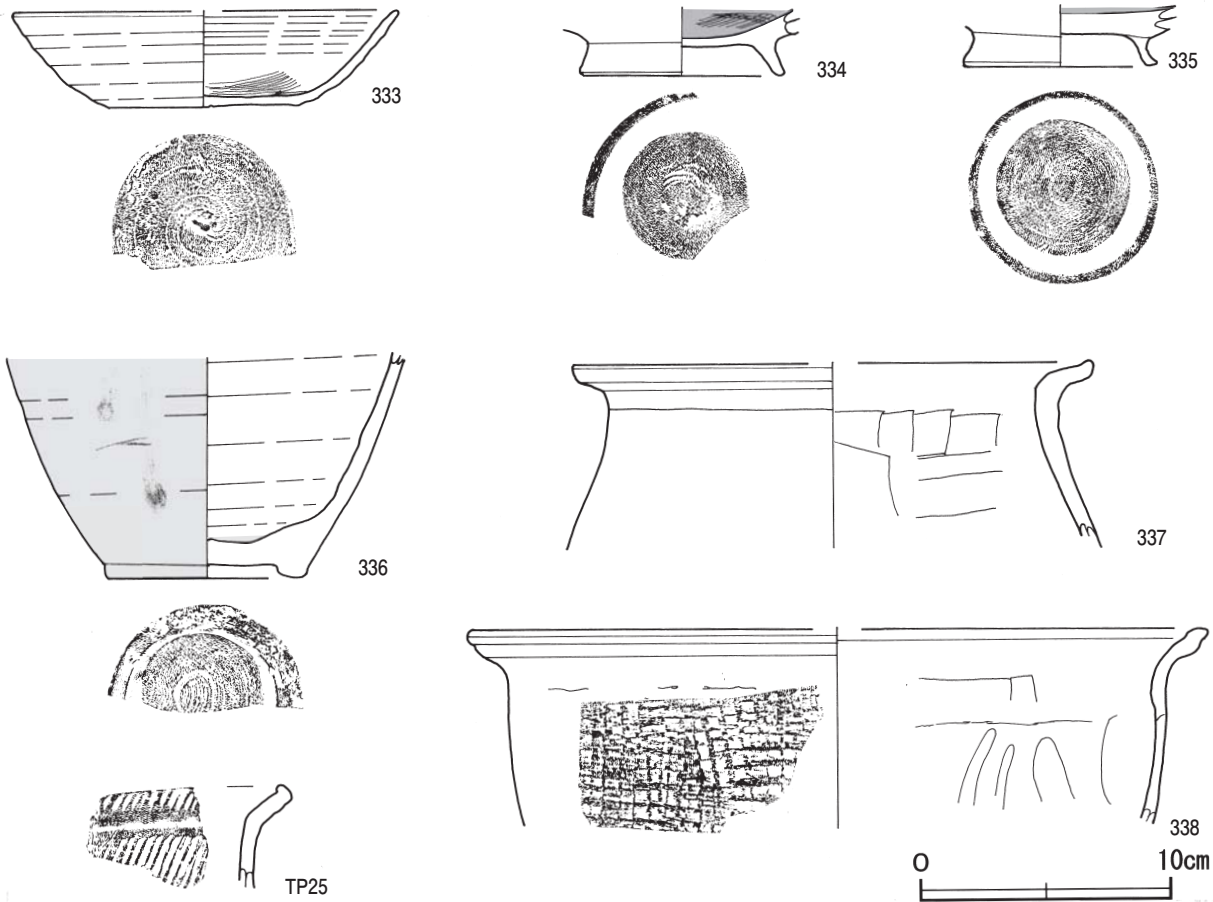
- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 8 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 10 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器坏1点, 高台付坏2点, 甕1点, 須恵器甕・鉢各1点, 灰釉陶器長頸瓶1点のほか, 土師器片18点(坏4・甕14), 須恵器片7点(坏5・甕2)が出土している。333・336は北壁際の床面, 334・TP25は中央部の床面, 338は西部の床面, 337は西部の覆土上層, 335は南壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第160図 第39号住居跡実測図



第161図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表（第161図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
333	土師器	坏	[15.4]	3.8	[7.6]	石英・密	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り 底部内面ヘラ磨き	床面	30%
334	土師器	高台付坏	—	(2.6)	[8.2]	石英・密	にぶい橙	普通	底部内面ヘラ磨き 黒色処理	床面	20%
335	土師器	高台付坏	—	(2.5)	7.7	長石・石英	にぶい橙	普通	底部内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土上層	20%
336	灰釉陶器	長頸瓶	—	(8.7)	[8.0]	長石	灰白	良好	底部回転糸切り 高台貼り付け後ナデ 灰オリーブ釉 底部内面灰オリーブ釉	床面	20%
337	土師器	甕	[20.6]	(7.4)	—	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ当て痕	覆土上層	10%
338	須恵器	鉢	[28.8]	(7.9)	—	長石	にぶい黄橙	不良	体部格子状の叩き ヘラ状工具痕	床面	10%
TP25	須恵器	甕	—	(4.1)	—	長石・石英	黄灰色	不良	口縁部・外面縦位の平行叩き	床面	

第29号住居跡（第162・163図）

位置 調査区西部のD 2 c2区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第64号住居跡の上面に構築されている。

規模と形状 長軸2.93m、短軸2.50mの長方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は17cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。

竈 北壁の東壁寄りに付設されている。軸は住居跡の軸と異なっており、コーナー竈に類する状況である。焚口部から煙出部まで108cm、燃焼部幅58cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、砂質粘土ブロックと

ロームブロックを含む暗褐色・黄褐色土・褐色土を積み上げて構築されている。第5～8層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き60cm、幅100cm掘り込んで構築されている。火床部は、第64号住居跡の竈火床部上部に構築されており、火床面は赤変硬化していない。第10～15層は掘方への埋土である。

竈土層解説

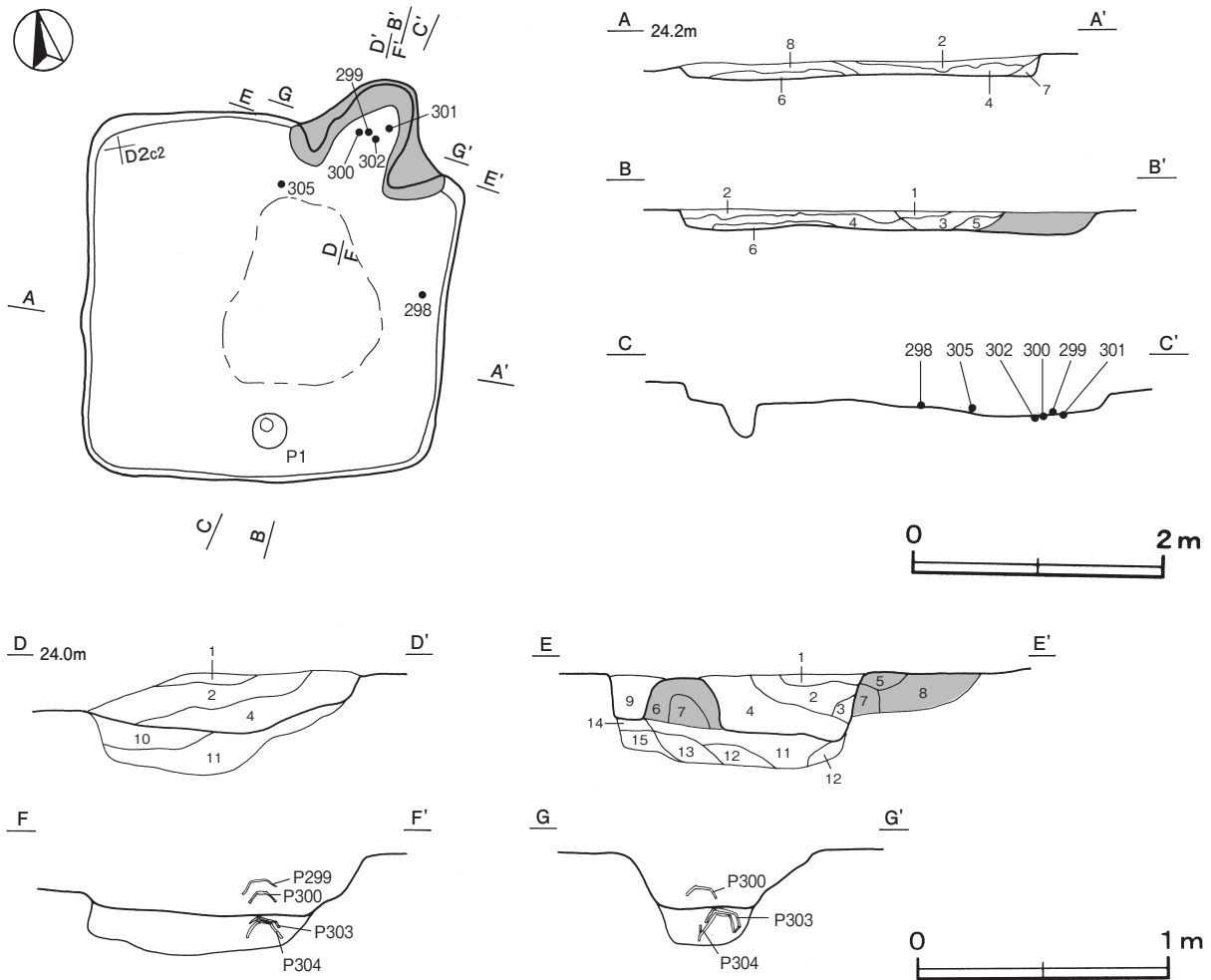
- | | | | |
|----------|------------------------------|-----------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 11 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・灰中量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 にぶい褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 14 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 15 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |

ピット 深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 8層に分層できる。不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

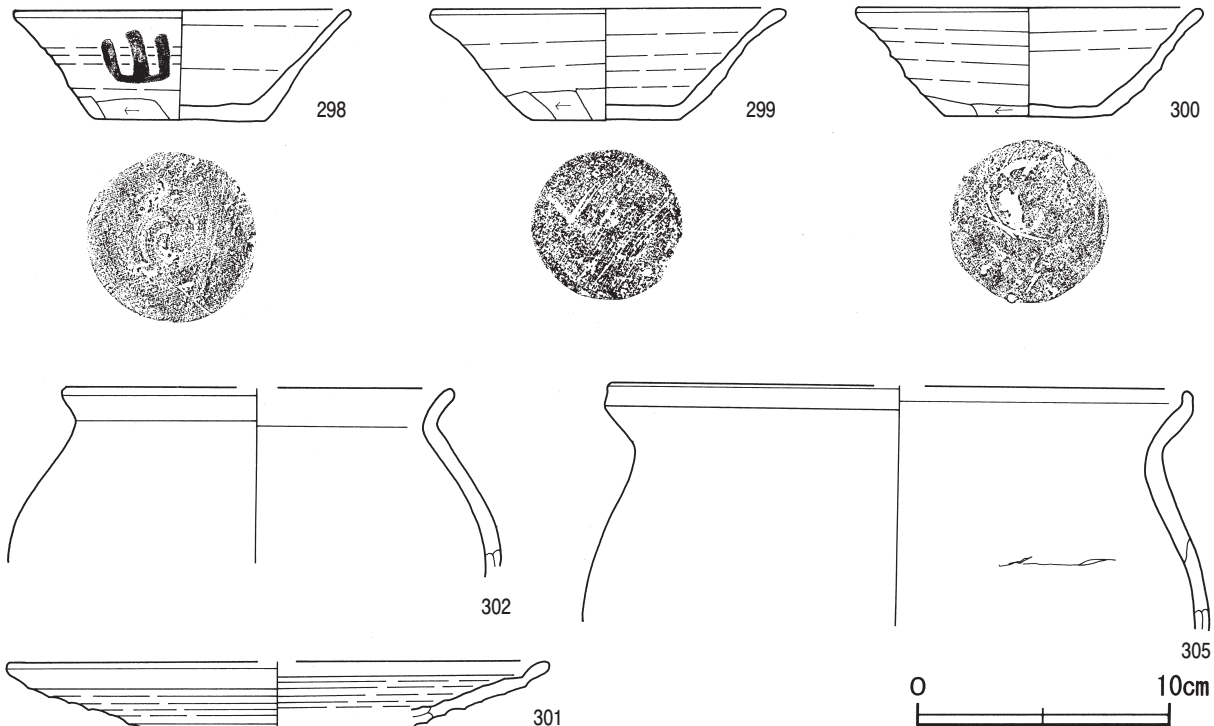
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |



第162図 第29号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器小形甕・甕各1点、須恵器坏3点、盤1点のほか、土師器甕片61点、須恵器片31点（坏28・甕3）が出土している。298は東壁際、305は北部の床面からそれぞれ出土している。299～302は火床面から出土しており、300が逆位で据えられ、その上に299が伏せられた状態で出土しており、支脚として転用されたものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。本跡は第64号住居跡の上に同規模で貼床をして構築された住居である。竈の位置も同じ場所で作り替えられており、遺物からも時期差はみられない。



第163図 第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表（第163図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
298	須恵器	坏	13.2	4.5	6.8	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す一方向のへら削り 体部「市」則天文字墨書	床面	70% PL77
299	須恵器	坏	13.8	4.4	6.0	長石	にぶい褐	不良	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	火床面 支脚転用	95% PL77
300	須恵器	坏	13.6	4.3	6.6	長石・雲母	にぶい黄橙	不良	体部下端手持ちへら削り 底部へら切り痕を残す一方向のへら削り	火床面 支脚転用	90% PL77
301	須恵器	盤	[21.2]	(2.5)	—	長石	暗灰	良好	底部回転へら削り	火床面	20%
302	土師器	小形甕	[15.6]	(7.6)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ	火床面	20%
305	土師器	甕	[22.8]	(9.5)	—	長石	にぶい橙	普通	内面輪積痕	床面	10%

第64号住居跡（第164・165図）

位置 調査区西のD 2 c2区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 上部に第29号住居が構築されている。

規模と形状 長軸2.90m、短軸2.59mの長方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は17cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、東半部に硬化面が認められる。

竈 北東コーナー部に付設されている。焚口部から煙出部まで145cm、燃焼部幅63cmである。袖部は上部の第29号住居によって壊され遺存していない。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き48cm、幅73cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さである。

竈土層解説（第1～9層は第29号住居跡参照）

- | | | | |
|----------|-----------------------|-----------|------------------|
| 10 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 11 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・灰中量 | 14 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 12 にぶい褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |

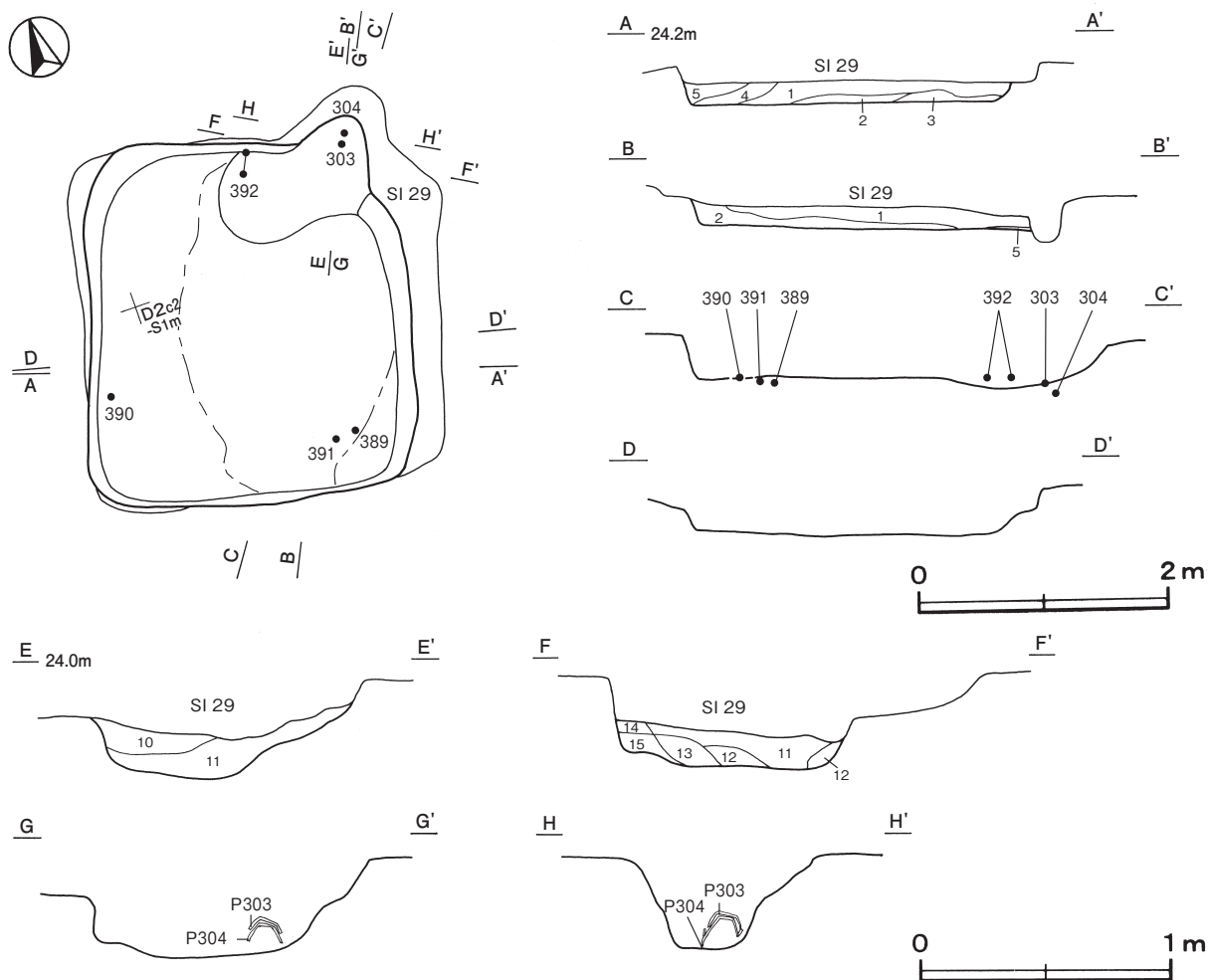
覆土 5層に分層できる。いずれも第29号住居跡を構築するために埋め戻されている。

土層解説

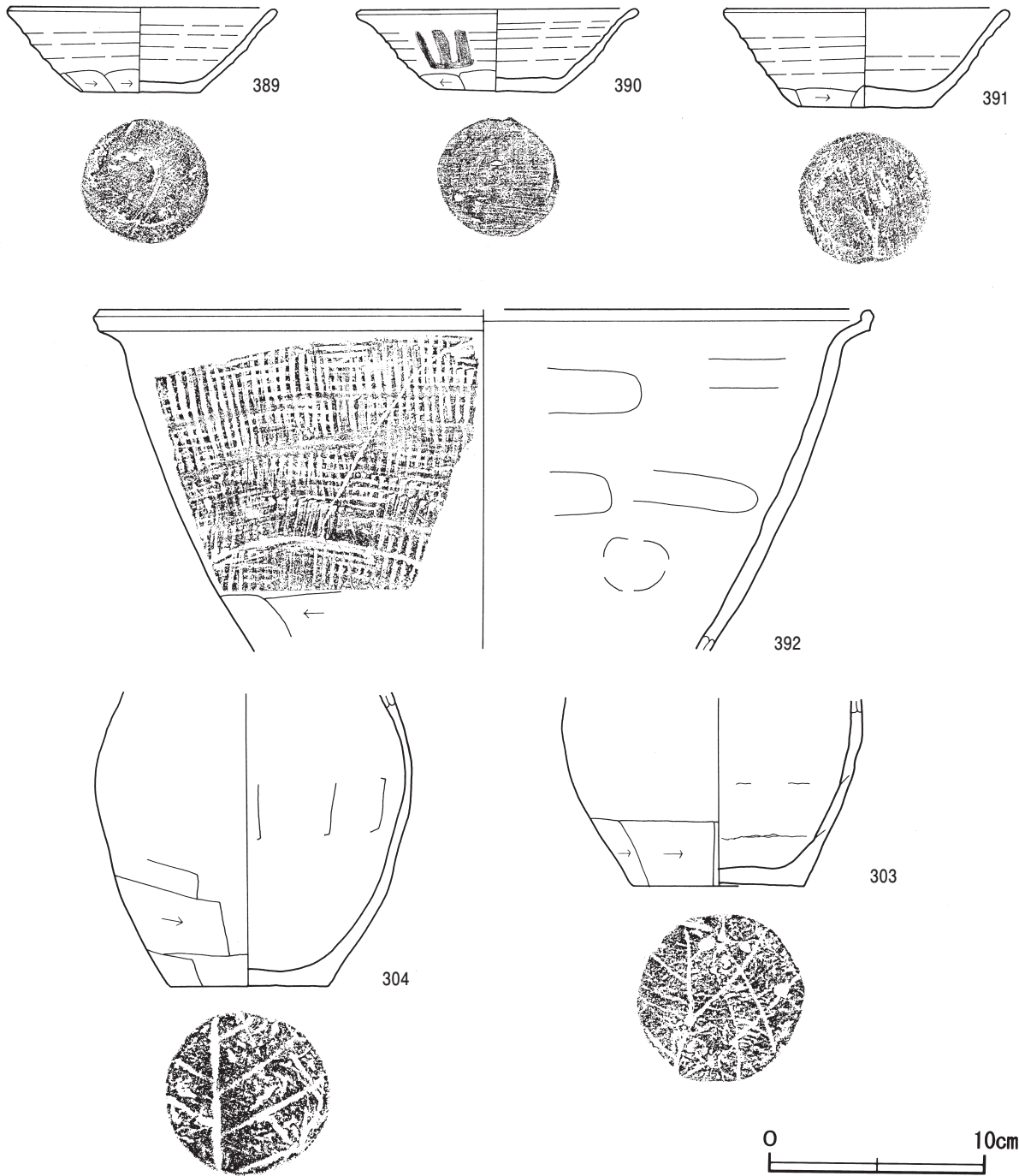
- | | | | |
|---------|-------------------|-------|-------------|
| 1 にぶい褐色 | ロームブロック・黒色土ブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | 灰多量, 焼土粒子中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器小形甕2点、須恵器坏3点、鉢1点のほか、土師器甕片3点、須恵器甕片1点が出土している。389・391は南東部、390は西壁際、392は北壁際の床面からそれぞれ出土している。303と304は逆位で重ねられ、火床面に埋め込まれた状態で出土しており、支脚として転用されたものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第164図 第64号住居跡実測図



第165図 第64号住居跡出土遺物実測図

第64号住居跡出土遺物観察表（第165図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
389	須恵器	坏	12.3	3.9	5.7	長石・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	床面	100% PL82
390	須恵器	坏	12.8	4.0	5.6	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 体部「雨」則天文字墨書	床面	90% PL82
391	須恵器	坏	12.9	4.6	6.2	長石・雲母	黒	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	床面	80% PL82
392	須恵器	鉢	[36.0]	(15.7)	—	長石	灰	普通	体部擬格子の叩き 体部下端手持ちヘラ削り	床面	20%
303	土師器	小形甕	—	(8.2)	8.0	長石・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 輪積痕	火床面 支脚転用	40%
304	土師器	小形甕	—	(13.6)	7.6	長石・雲母	明赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ当て痕	火床面 支脚転用	60%

第32号住居跡 (第166・167図)

位置 調査区西部のD 2h2区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.05m、短軸2.77mの長方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は31cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が北東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁の東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで83cm、燃烧部幅48cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上にロームブロックと砂質粘土を含む暗褐色土を積み上げて構築されている。第8・9層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形形状に奥行き25cm、幅85cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を15cmほど掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

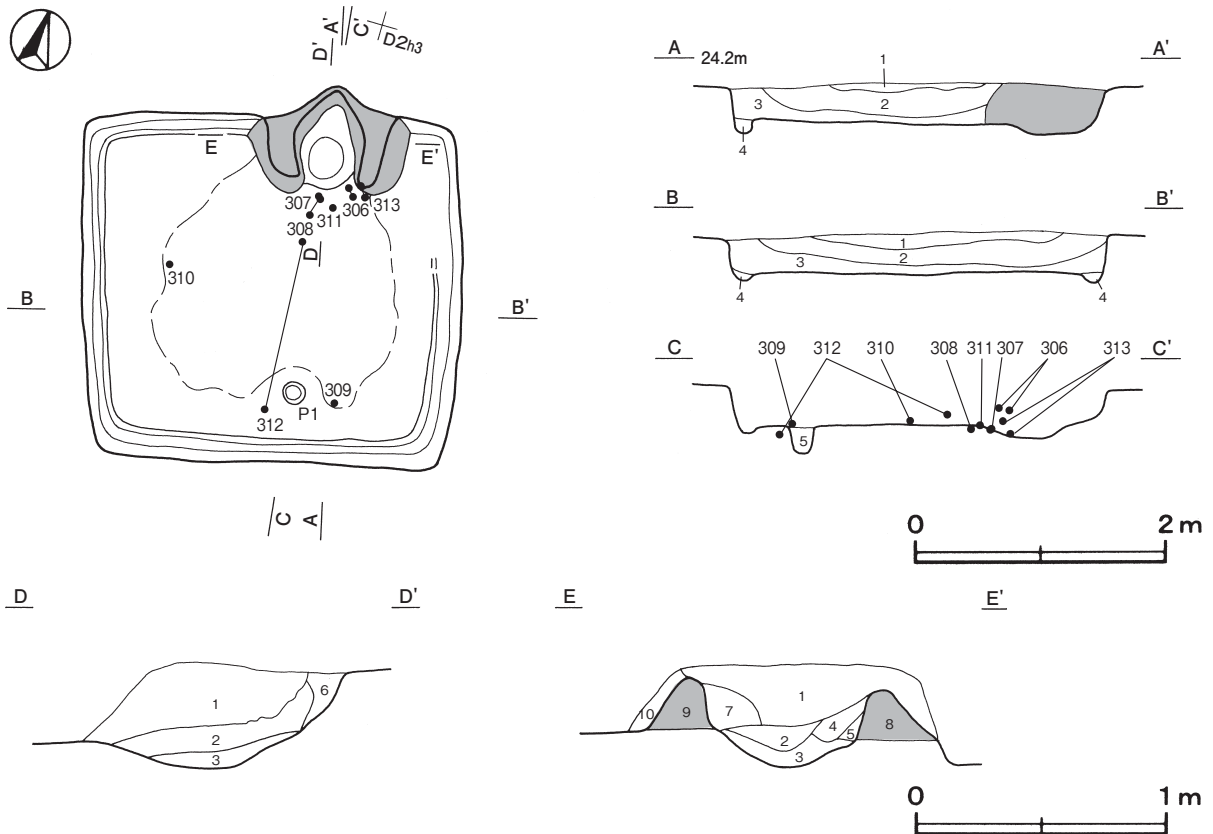
- | | | | |
|----------|-------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

ピット 深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

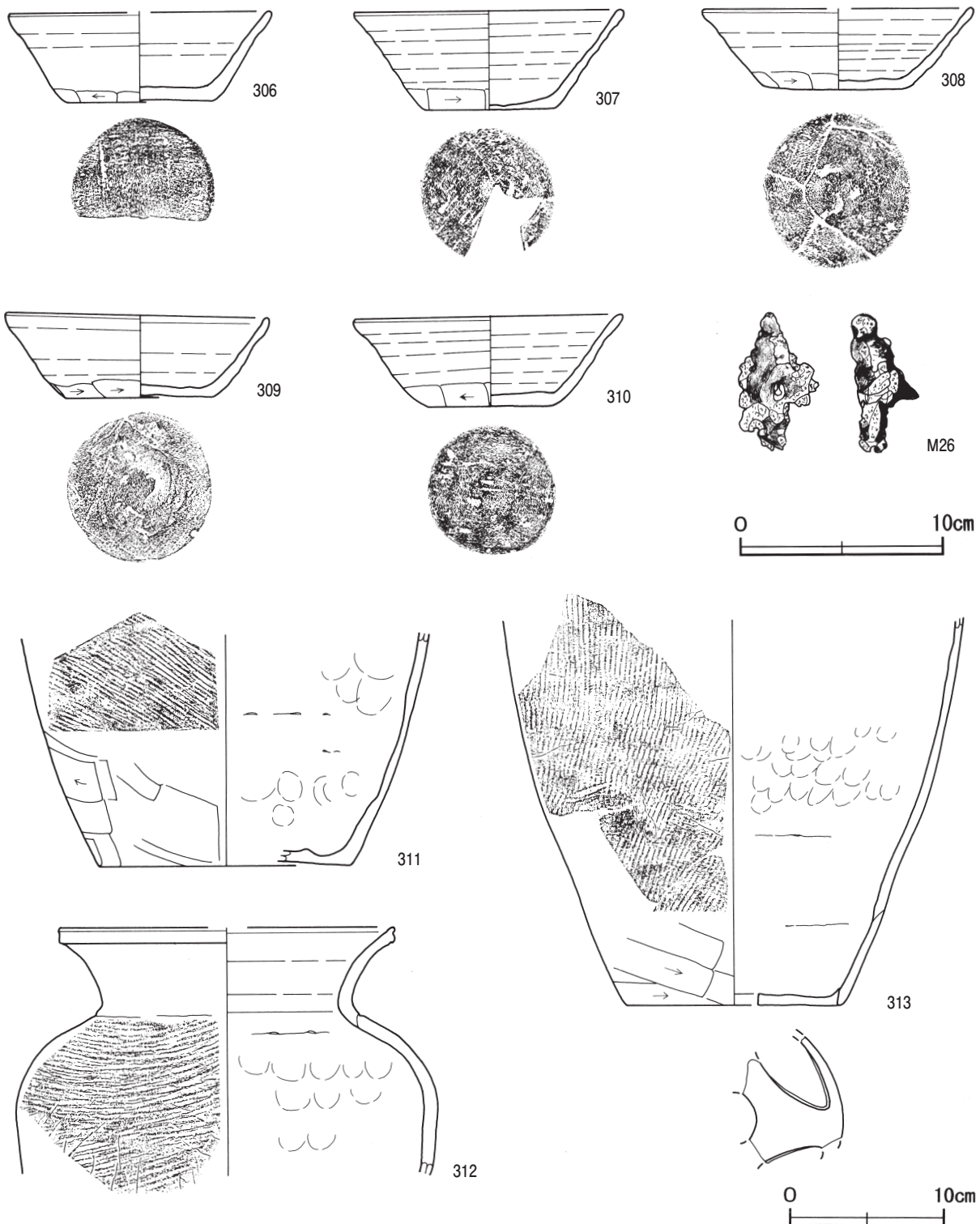
- | | | | |
|--------|---------------------|-------|-----------|
| 1 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第166図 第32号住居跡実測図

遺物出土状況 須恵器坏5点, 鉢・甕・甑各1点, 鉄滓1点のほか, 土師器甕片60点, 須恵器坏片30点が出土している。306は竈前面の覆土中層, 310は西部の覆土下層, M26は覆土中からそれぞれ出土している。307・308・311は竈前面, 309はP 1の東側, 313は竈右袖付近の床面からそれぞれ出土している。312は北部の覆土下層と南壁寄りの床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第167図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表（第167図）

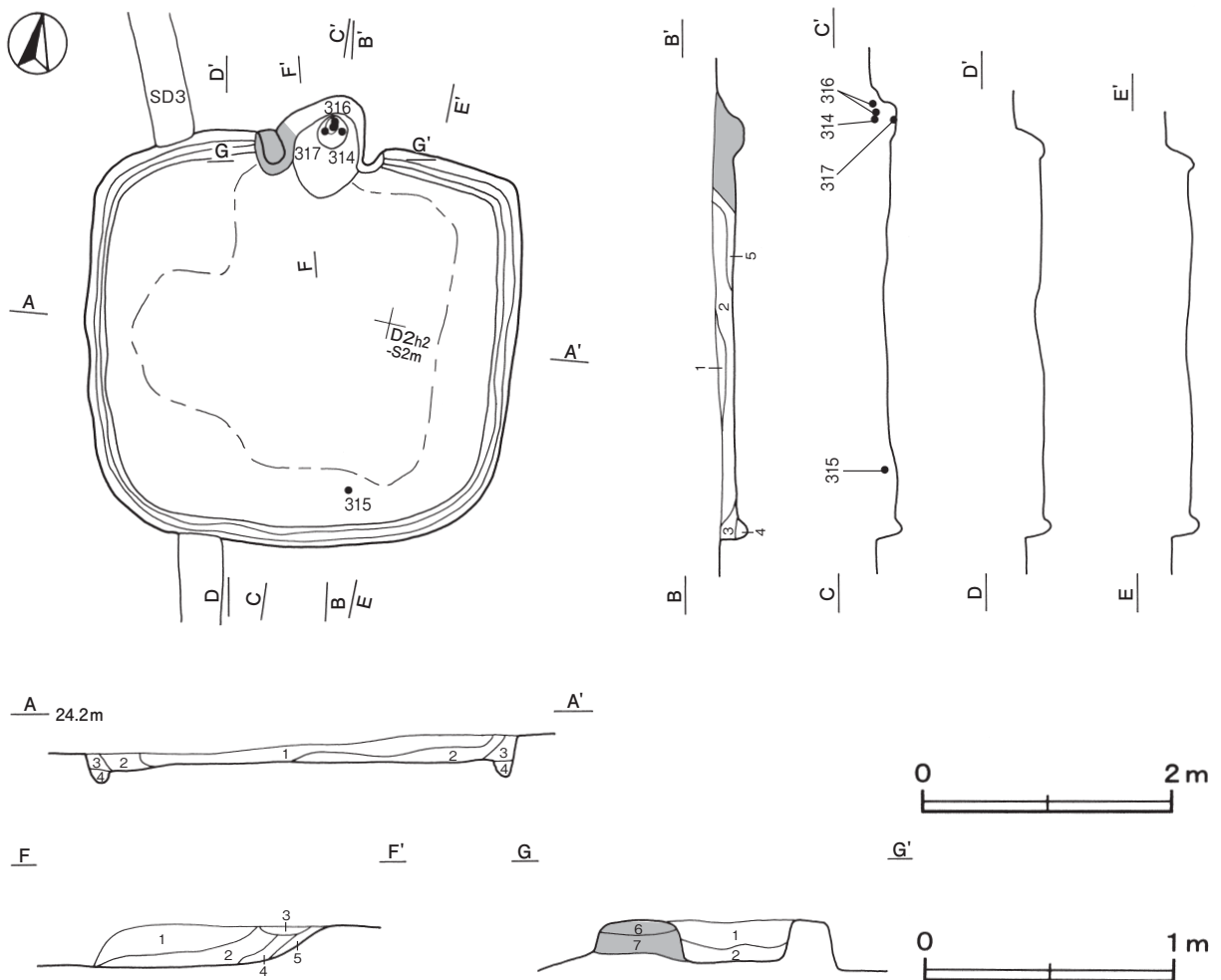
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
306	須恵器	坏	[12.8]	4.4	7.0	長石	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向のへら削り	覆土中層	30%
307	須恵器	坏	13.0	4.9	6.4	長石・雲母・細礫、粗い	灰黄褐	不良	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	床面	70% PL77
308	須恵器	坏	[13.0]	4.0	7.1	長石・雲母・細礫、粗い	灰黄褐	不良	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す一方向のへら削り	床面	70% PL77
309	須恵器	坏	13.0	3.8	7.2	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す不定方向のへら削り	床面	75% PL77
310	須恵器	坏	13.0	4.5	6.2	長石・細礫	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	覆土下層	80% PL77
311	須恵器	鉢	—	(15.2)	[16.8]	長石・雲母・細礫	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 上半斜位の平行叩き 内面指頭痕	床面	20%
312	須恵器	甕	[22.0]	(16.4)	—	長石・石英	褐	普通	体部斜位の平行叩き 内面指頭押圧痕	床面・下層	20%
313	須恵器	甕	—	(25.6)	[14.4]	長石・雲母・細礫	暗赤褐	普通	体部縦位の平行叩き 下端手持ちへら削り 内面指頭痕 輪積痕	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M26	鉄滓	6.8	4.0	3.4	20.8	鉄	暗灰色 着磁なし	覆土中	

第33号住居跡（第168・169図）

位置 調査区西部のD 2h1区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。



第168図 第33号住居跡実測図

規模と形状 長軸3.46m，短軸3.24mの隅丸方形で，主軸方向はN-9°-Wである。壁高は20cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで83cm，燃烧部幅63cmである。袖部は，左袖部が床面と同じ高さの地山の上に赤暗褐色土を積み上げ，右袖部は地山を掘り残して構築されている。第6・7層が袖部の構築土である。煙道部は，壁外へ三角形状に奥行き45cm，幅65cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり，火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 5 灰褐色 焼土粒子少量 |
| 3 にぶい橙色 焼土ブロック少量 | 6 灰赤色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| | 7 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

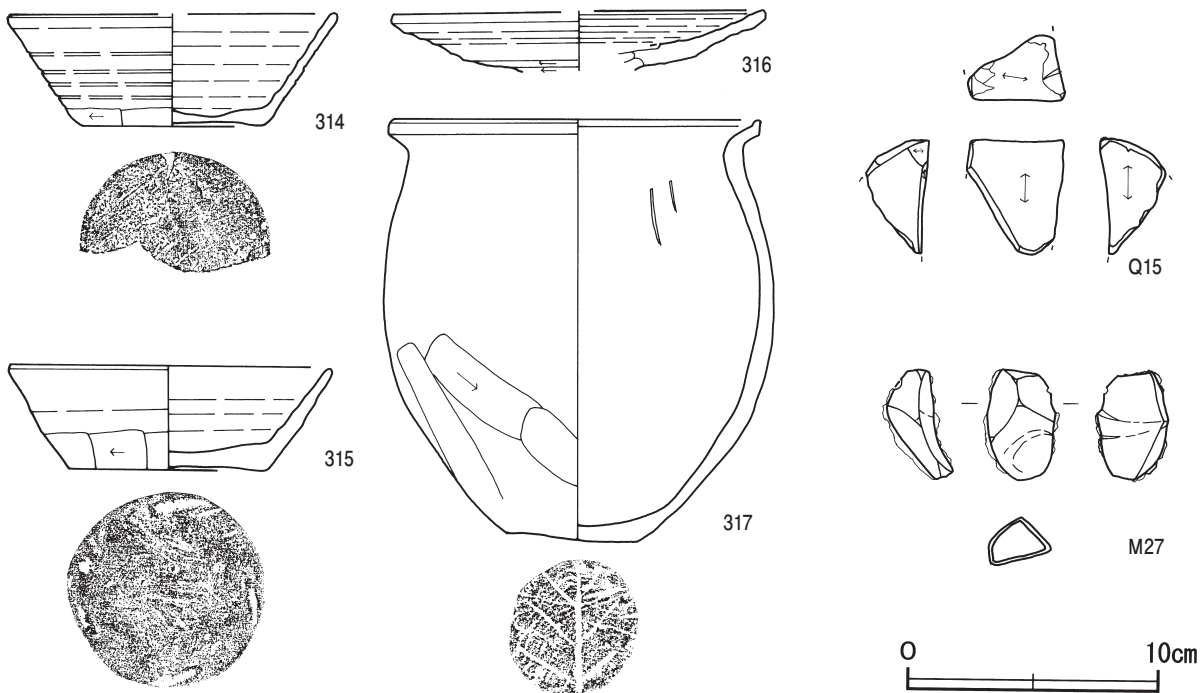
覆土 5層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器小形甕1点，須恵器坏2点，高盤1点，砥石1点，不明鉄製品1点のほか，土師器片55点（甕54・甌1），須恵器片44点（坏41・蓋1・甕2）が出土している。315は南壁寄りの覆土下層，314・316・317は火床面，Q15・M27は覆土中からそれぞれ出土している。317は火床面に逆位で埋め込まれ，その上に314・316が重ねられた状態で出土しており，支脚として転用されていたものである。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第169図 第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表（第169図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
314	須恵器	坏	[12.8]	4.4	[7.2]	長石・雲母	灰白	普通	体部工具によるロクロナアヘラ削り 二次焼成 底部一方向のヘラ削り	火床面 支脚転用	40%
315	須恵器	坏	13.2	4.1	7.8	長石・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り	覆土下層	95% PL78
316	須恵器	高盤	[14.6]	(2.3)	—	長石	灰	普通	盤部のみ 底部回転ヘラ削り 二次焼成	火床面 支脚転用	20%
317	土師器	小形甕	14.6	16.7	5.2	長石・細礫、粗い	にぶい褐	普通	体部下手持ちヘラ削り	火床面 支脚転用	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	砥石	(4.5)	(3.8)	(2.5)	(30.6)	凝灰岩	砥面3面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	不明 鉄製品	4.45	2.3	2.0	35.4	鉄	内は空洞	覆土中	

第34号住居跡（第170・171図）

位置 調査区西部のD1j5区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.29m、短軸3.18mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は46cmで、ほぼ直立している。

床 壁際がやや低いがほぼ平坦で、東及び西壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで133cm、燃烧部幅73cmである。袖部は地山を掘り残し、上部に砂質粘土を貼り付けて構築されている。第10層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き56cm、幅60cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

1 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量	6 極暗赤褐色	灰中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
2 灰褐色	焼土ブロック中量	7 灰褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
3 暗褐色	灰中量、ローム粒子・焼土粒子少量	8 暗赤褐色	焼土ブロック少量
4 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	9 暗赤褐色	ソフトロームが赤変した層（内壁）
5 褐色	ロームブロック少量	10 灰褐色	砂質粘土層

覆土 11層に分層できる。レンズ状の堆積状況であるが、大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第12層はP2、第13・14層はP3の覆土である。

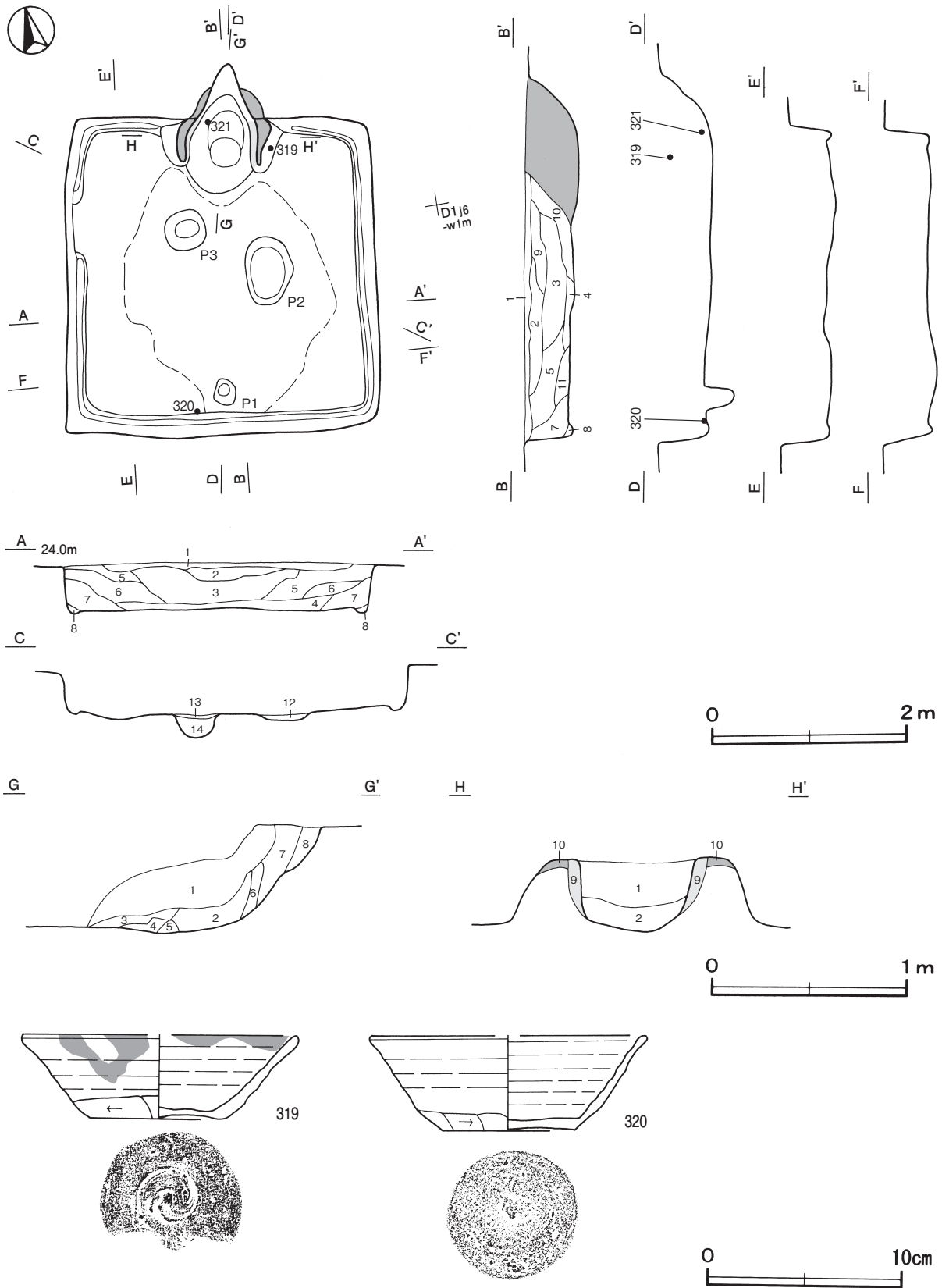
土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量
2 極暗褐色	ロームブロック微量	10 灰褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量	11 明褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子 微量
4 黒褐色	ロームブロック微量	12 暗赤褐色	灰多量、焼土ブロック中量
5 灰褐色	ローム粒子少量	13 にぶい黄褐	ロームブロック・焼土ブロック中量
6 褐色	ロームブロック少量	14 褐色	ロームブロック中量
7 褐色	ロームブロック微量		
8 褐色	ローム粒子中量		

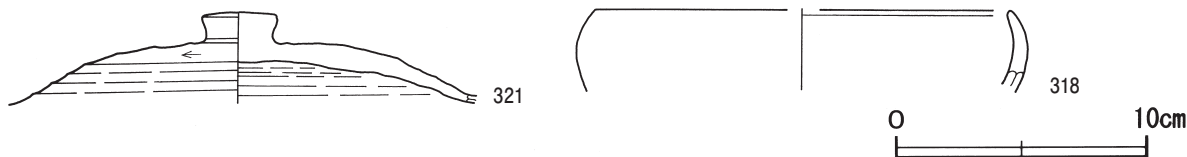
ピット 3か所。P1は深さ31cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P2は深さ8cmと浅く、灰や焼土を多量に含んでいるが、性格は不明である。P3は深さ27cmで、上部に貼床が構築されていることから、床下土坑と思われる。

遺物出土状況 須恵器坏2点、仏鉢・蓋各1点のほか、土師器片38点（坏8・甕30）、須恵器片28点（坏19・甕9）が出土している。318は覆土中、320は南壁際の床面、319は竈袖部付近の覆土上層、321は竈の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第170図 第34号住居跡・出土遺物実測図



第171図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表 (第170・171図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
318	須恵器	仏鉢	[16.4]	(3.2)	—	石英	灰	普通	口縁部ロクロナデ	覆土中	10%
319	須恵器	坏	[14.0]	4.3	7.0	長石・雲母	にぶい黄橙	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す雑なナデ 二次焼成 煤付着	覆土上層	50% PL78
320	須恵器	坏	[14.0]	4.9	6.8	長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	床面	60% PL78
321	須恵器	蓋	—	(3.6)	—	長石・細礫	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け 内面重ね焼き痕	竈覆土下層	30%

第35号住居跡 (第172・173図)

位置 調査区北部のD 2 f3区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.69m、短軸3.66mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は24cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、主柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が北東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで118cm、燃焼部幅は69cmである。袖部は地山を掘り残し、上部に粘土を貼り付けて構築され、第7層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き58cm、幅70cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面はわずかに焼土化しているだけで赤変硬化していない。

竈土層解説

1 灰褐色	ロームブロック・山砂少量	5 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・灰少量
2 褐色	焼土ブロック・山砂少量	6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
3 褐色	山砂中量、焼土ブロック少量	7 褐色	褐色粘土多量
4 暗褐色	焼土ブロック少量		

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ12～25cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。P 5は深さ25cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P 6・P 7は深さ13cmで、P 1とP 4の北側に位置しているが、性格は不明である。

覆土 15層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、不自然な堆積であることから埋め戻されている。

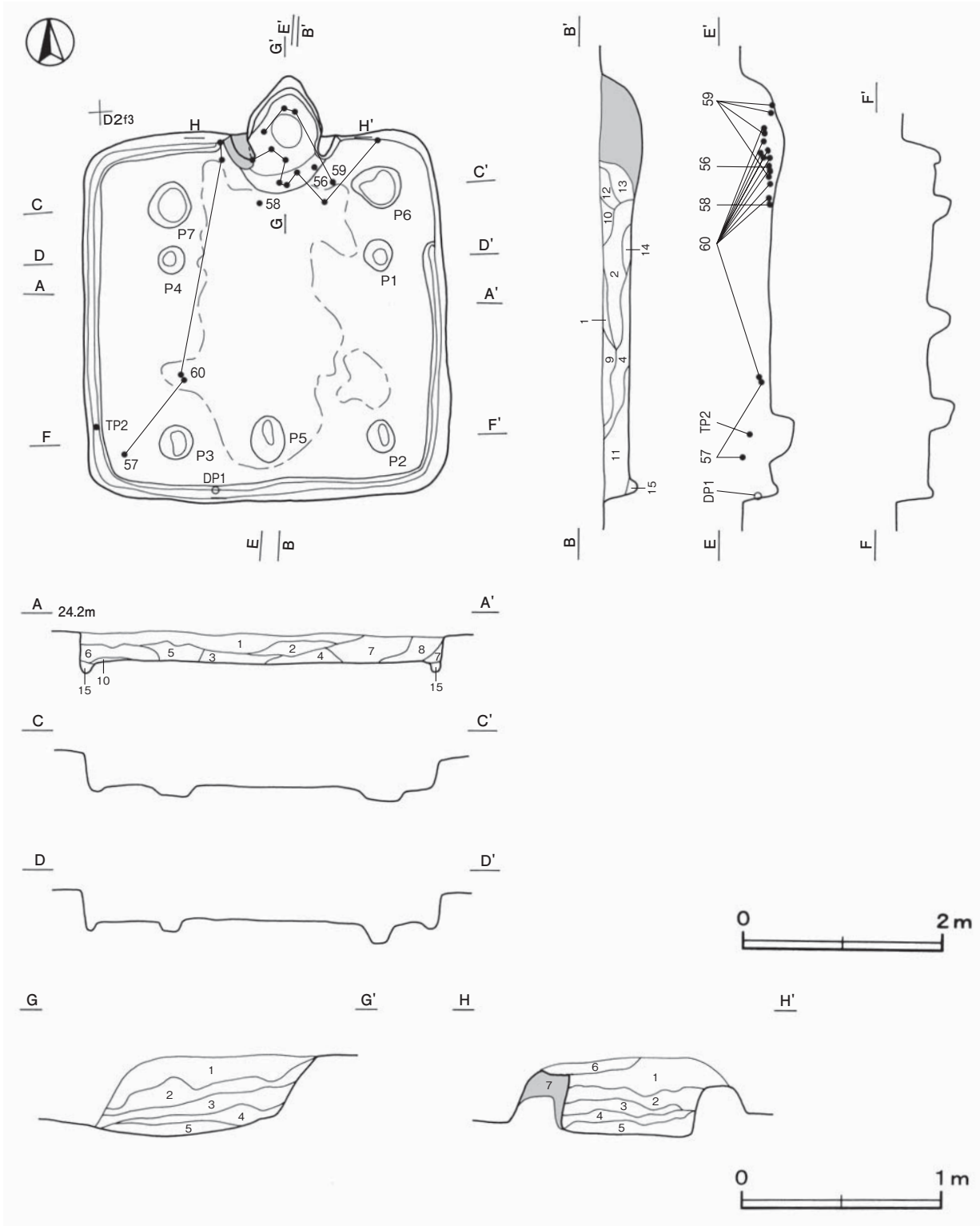
土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック微量	10 極暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	12 褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
6 灰褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	14 黒褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	15 褐色	ロームブロック少量
8 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量		

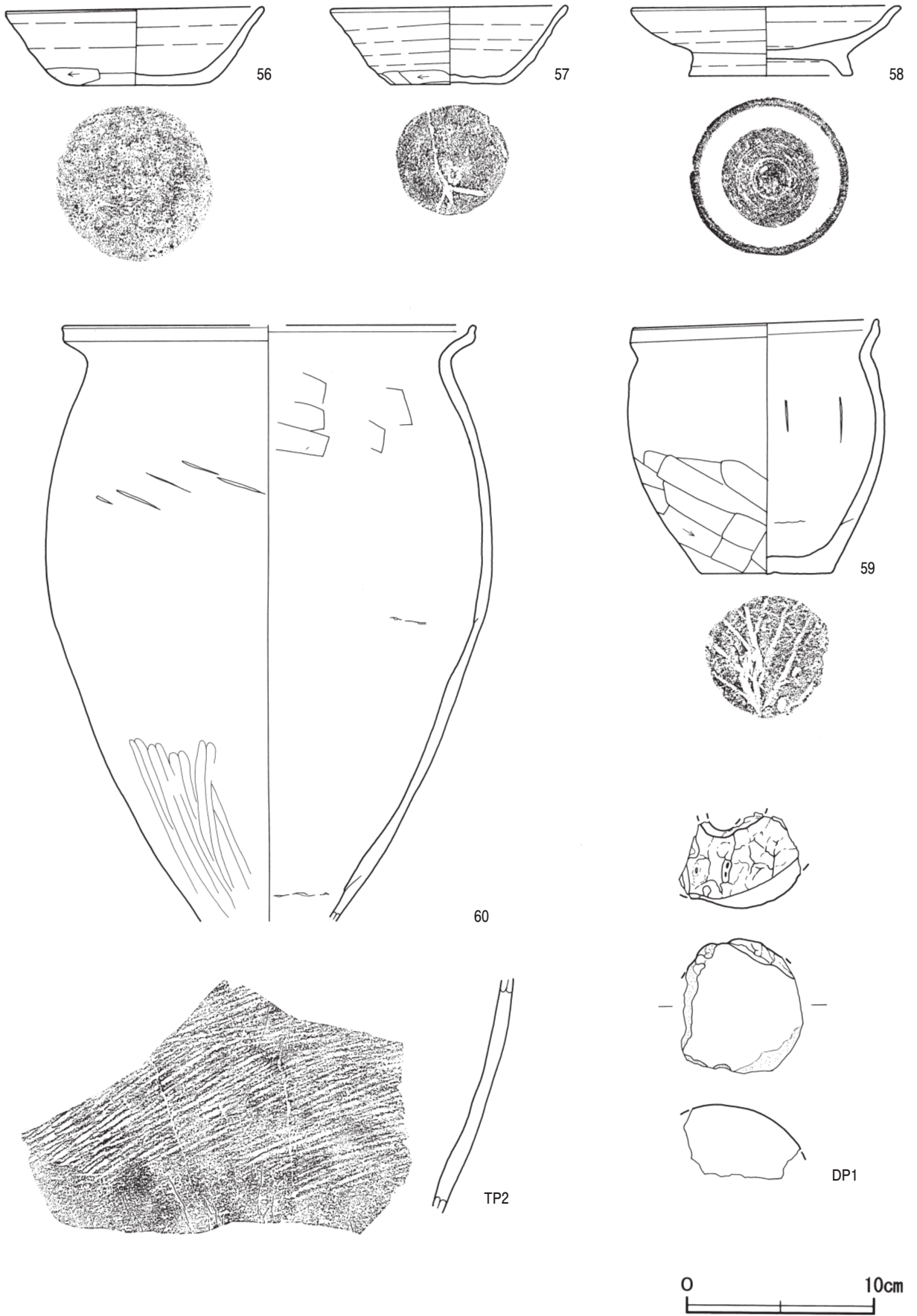
遺物出土状況 土師器坏・小形甕・甕各1点、須恵器坏・盤・甕各1点、土製羽口1点のほか、土師器甕片82点、須恵器片35点(坏25・高台付坏1・甕9)が出土している。56は竈近くの床面、58は竈前面の床面、TP 2は西壁際の覆土上層、DP 1は南壁際の床面からそれぞれ出土している。57は南西部の覆土下層と上層から

出土した破片が接合したものである。59は竈の支脚として転用されていたもので、 焼部底面に逆位で据えられており、 竈周辺の床面から出土した破片が接合している。60は竈周辺の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第172図 第35号住居跡実測図



第173图 第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
56	土師器	坏	13.7	4.2	8.0	赤色粒子	浅黄色	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向手持ちへら削り	床面	95% PL78
57	須恵器	坏	12.7	4.2	6.2	長石・石英	灰褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向手持ちへら削り	覆土下層	70% PL78
58	須恵器	盤	14.4	3.7	8.7	長石・小礫	にぶい黄橙	普通	底部回転へら削り後、高台貼り付け 二次焼成	床面	60% PL78
59	土師器	小形甕	12.9	13.6	7.0	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部下半手持ちへら削り	竈支脚	70% PL78
60	土師器	甕	[21.8]	(31.8)	—	長石	灰	普通	体部へら磨き 内面へらナデ	床面	70%
TP2	須恵器	甕	—	(12.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	不良	外面横位平行叩き	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質（胎土）	特徴	出土位置	備考
DP1	羽口	(7.1)	(6.5)	(4.2)	—	(154.8)	土（長石・細砂・スサ）	ナデ 端部に鉄付着	床面	

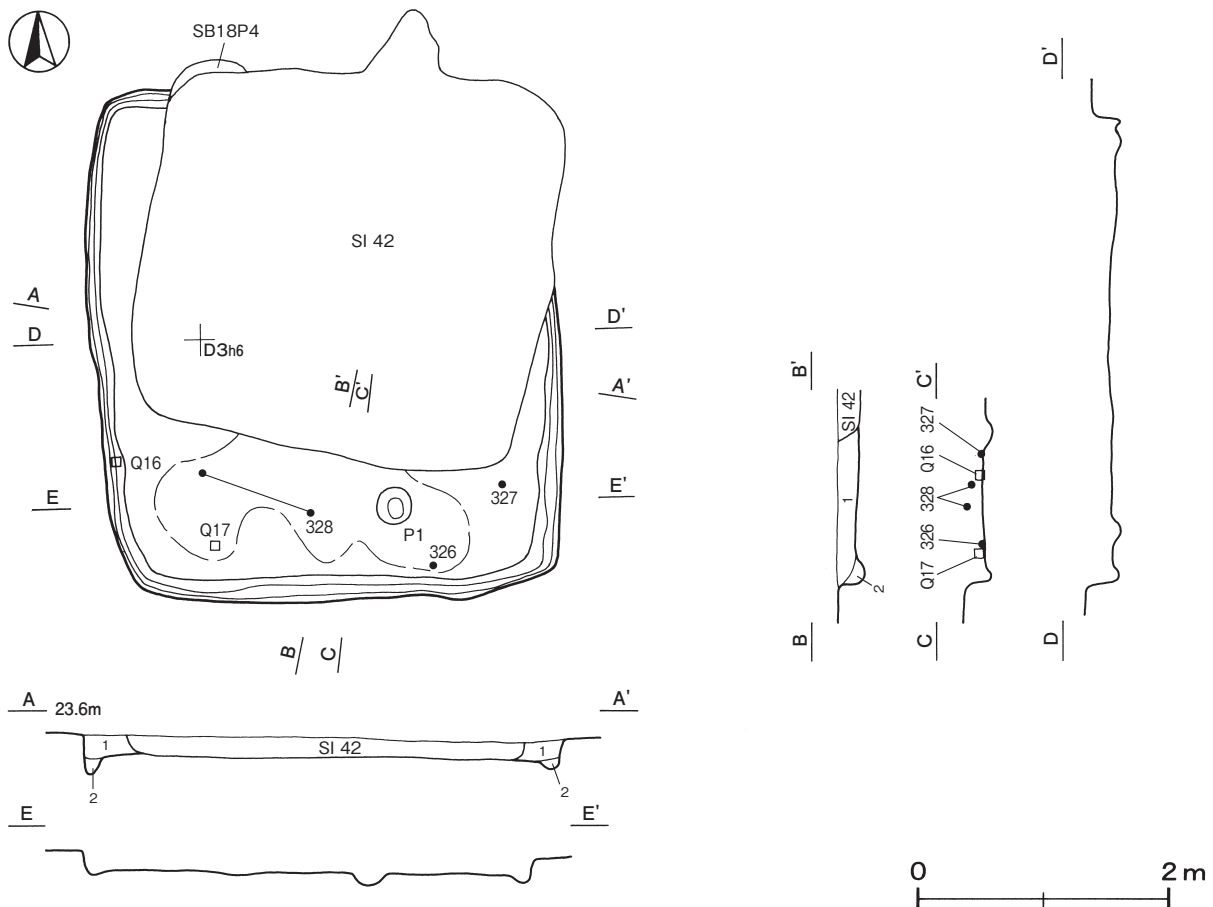
第37号住居跡（第174・175図）

位置 調査区中央部のD3h6区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第18号掘立柱建物跡P4を掘り込み、北半部を第42号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.38m、短軸3.82mの長方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は20cmで、ほぼ直立している。

床 確認できた部分はほぼ平坦で、硬化面が認められる。



第174図 第37号住居跡実測図

竈 第42号住居に掘り込まれているため遺存していない。

ピット 深さ10cmで、規模と位置から出入り口施設に伴うピットである。

覆土 2層に分層できる。ローム粒子を多量に含んでいることから埋め戻されている。

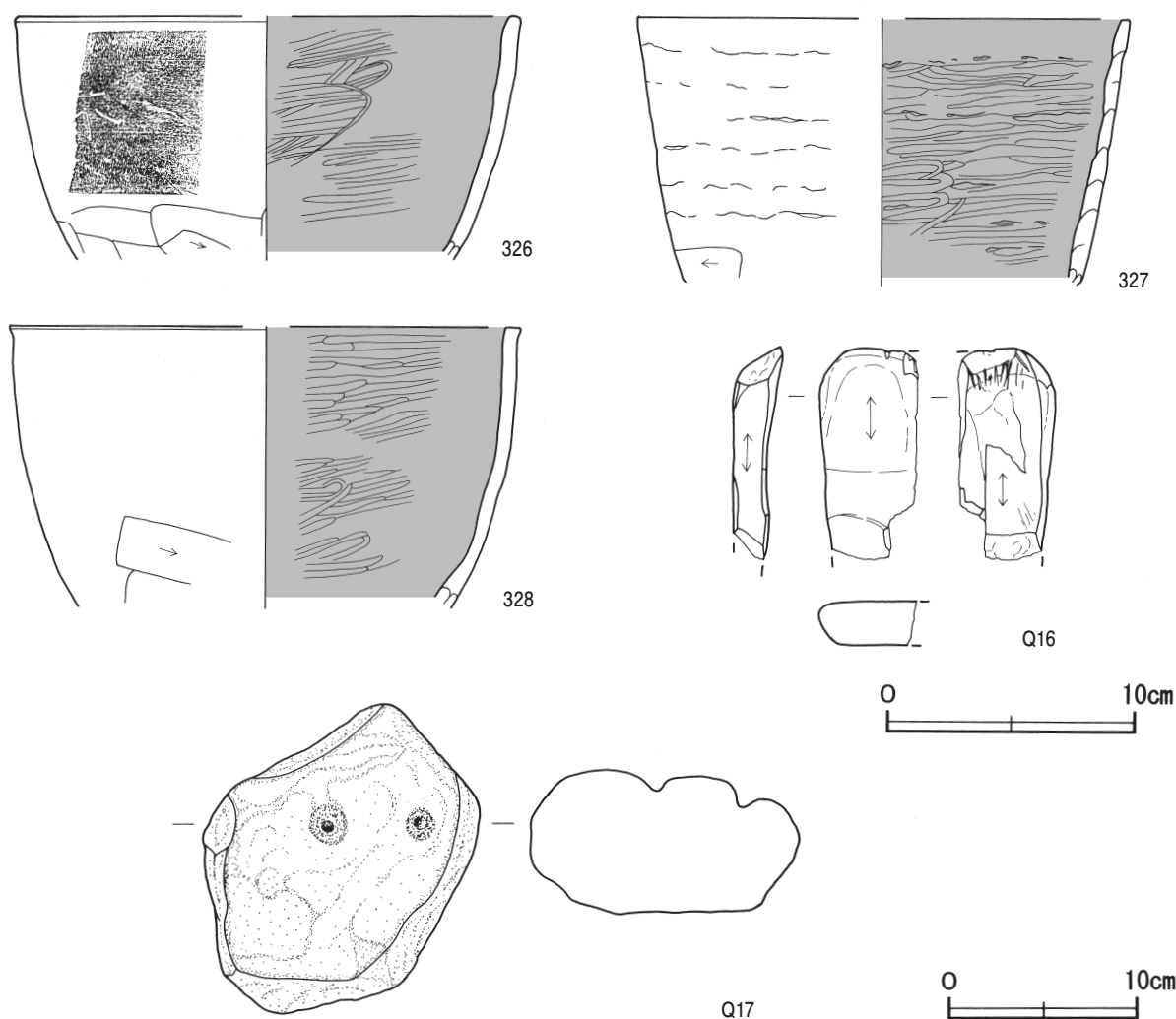
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子多量

2 黒褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器鉢3点、砥石・凹石各1点のほか、土師器片20点（坏5・甕15）、須恵器片31点（坏13・高台付坏1・甕17）が出土している。326・327・Q16・Q17は南部の床面、328は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第175図 第37号住居跡出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表（第175図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
326	土師器	鉢	[20.4]	(9.8)	—	砂粒	橙	良好	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き、 黒色処理 外面刻書「木カ」	床面	20%
327	土師器	鉢	[20.0]	(10.7)	—	砂粒	にぶい褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き、 黒色処理 内・外面ともに輪積痕	床面	20%
328	土師器	鉢	[20.6]	(11.3)	—	砂粒	にぶい橙	良好	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き、 黒色処理	覆土中層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	砥石	(8.6)	(4.0)	2.1	(88.7)	凝灰岩	砥面3面	床面	PL93
Q17	凹石	16.5	14.8	7.6	2460.0	雲母片岩	凹部2か所	床面	PL93

第42号住居跡 (第176・177図)

位置 調査区北部のD 3g6区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第37号住居跡を掘り込み、第18号掘立柱建物P4に掘り込まれている。

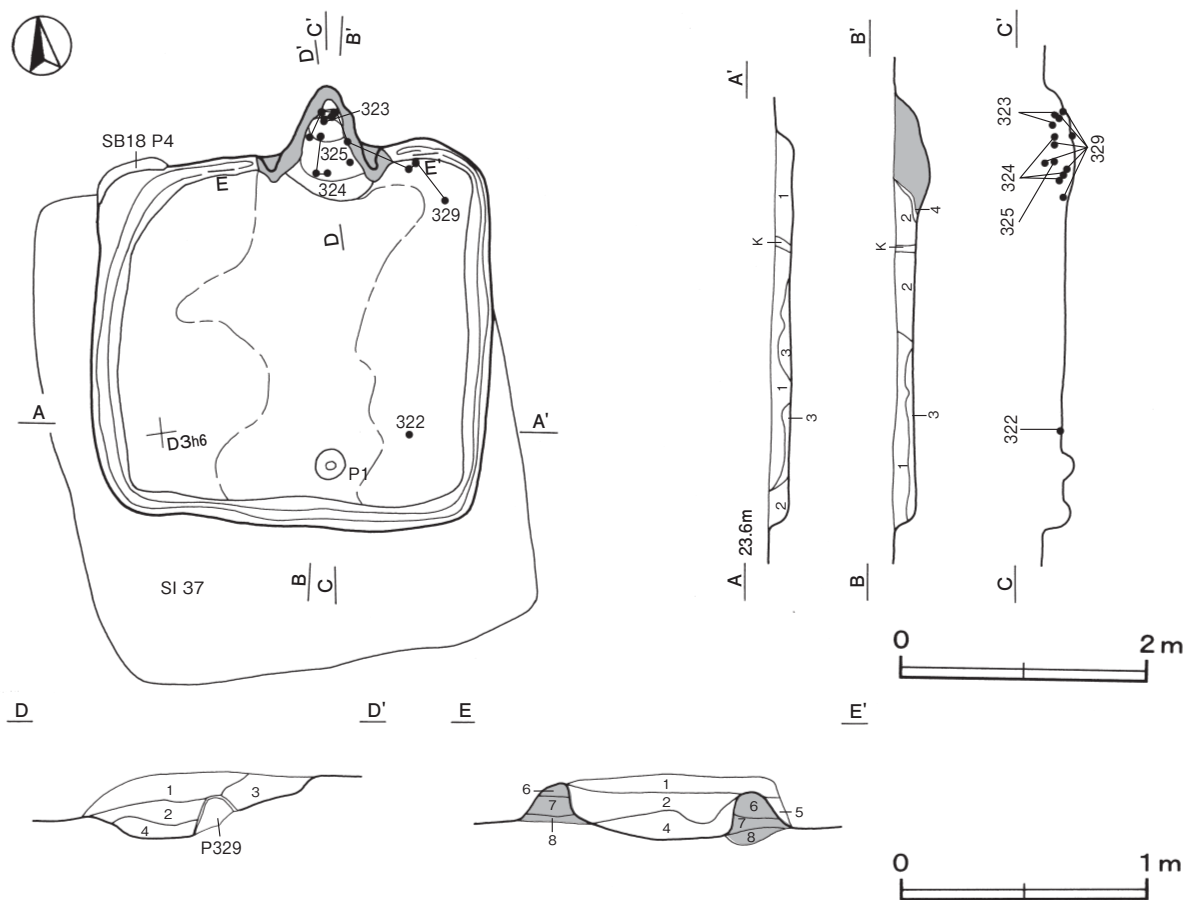
規模と形状 長軸3.25m、短軸3.00mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は20cmでほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から南壁下にかけての中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで93cm、燃焼部幅51cmである。左袖部は床面と同じ高さの地山の上に、右袖は地山をわずかに掘り込んでロームブロックや砂質粘土粒子を含む暗褐色土を積み上げて構築されている。第6～8層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き50cm、幅60cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

- | | |
|---------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子多量, 炭化物微量 | 7 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子多量 | 8 灰褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量 | |



第176図 第42号住居跡実測図

ピット 深さ10cmで、竈と向かい合う南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層に分層できる。不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

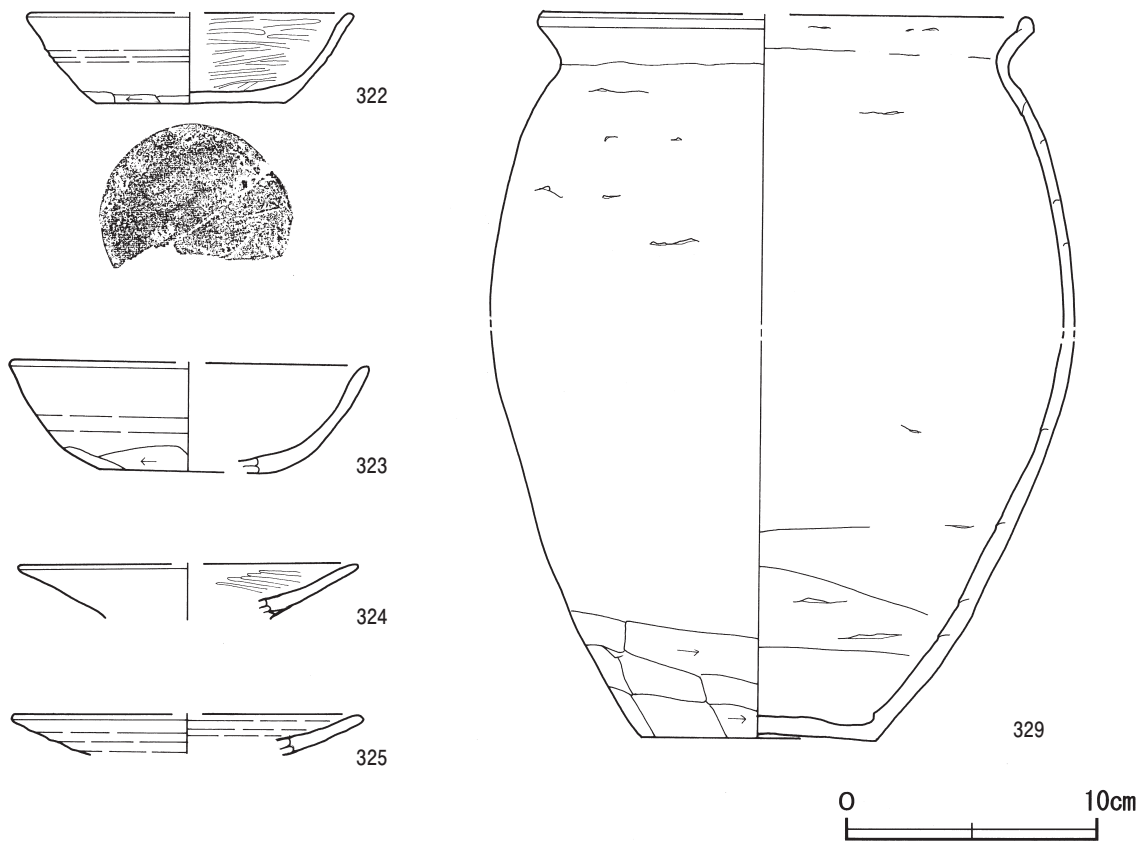
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器坏2点、皿・高台付皿・甕各1点のほか、土師器片36点（坏6・甕30）が出土している。

323は火床面竈の覆土中層から出土した破片が、324は竈前面の床面と火床面から出土した破片が、325は右袖付近床面と竈の覆土中から出土した破片がそれぞれ接合している。329は火床面に逆位で埋め込まれた状態で出土しており、支脚に転用されたものである。322は南東部の床面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第177図 第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表（第177図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
322	土師器	坏	[12.8]	3.6	7.5	砂粒	にぶい黄褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	30%
323	土師器	坏	[14.4]	4.3	[6.8]	長石	にぶい橙	—	体部下端手持ちヘラ削り	火床面	30%
324	土師器	高台付皿	[13.4]	(2.2)	—	長石	橙	—	内面ヘラ磨き	火床面	30%
325	土師器	皿	[13.6]	(1.6)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	ロクロによるナデ	床面	20%
329	土師器	甕	[19.4]	[28.8]	9.4	長石	にぶい赤褐	—	体部下端手持ちヘラ削り 支脚転用 輪積痕	火床面	40%

第38号住居跡（第178・179図）

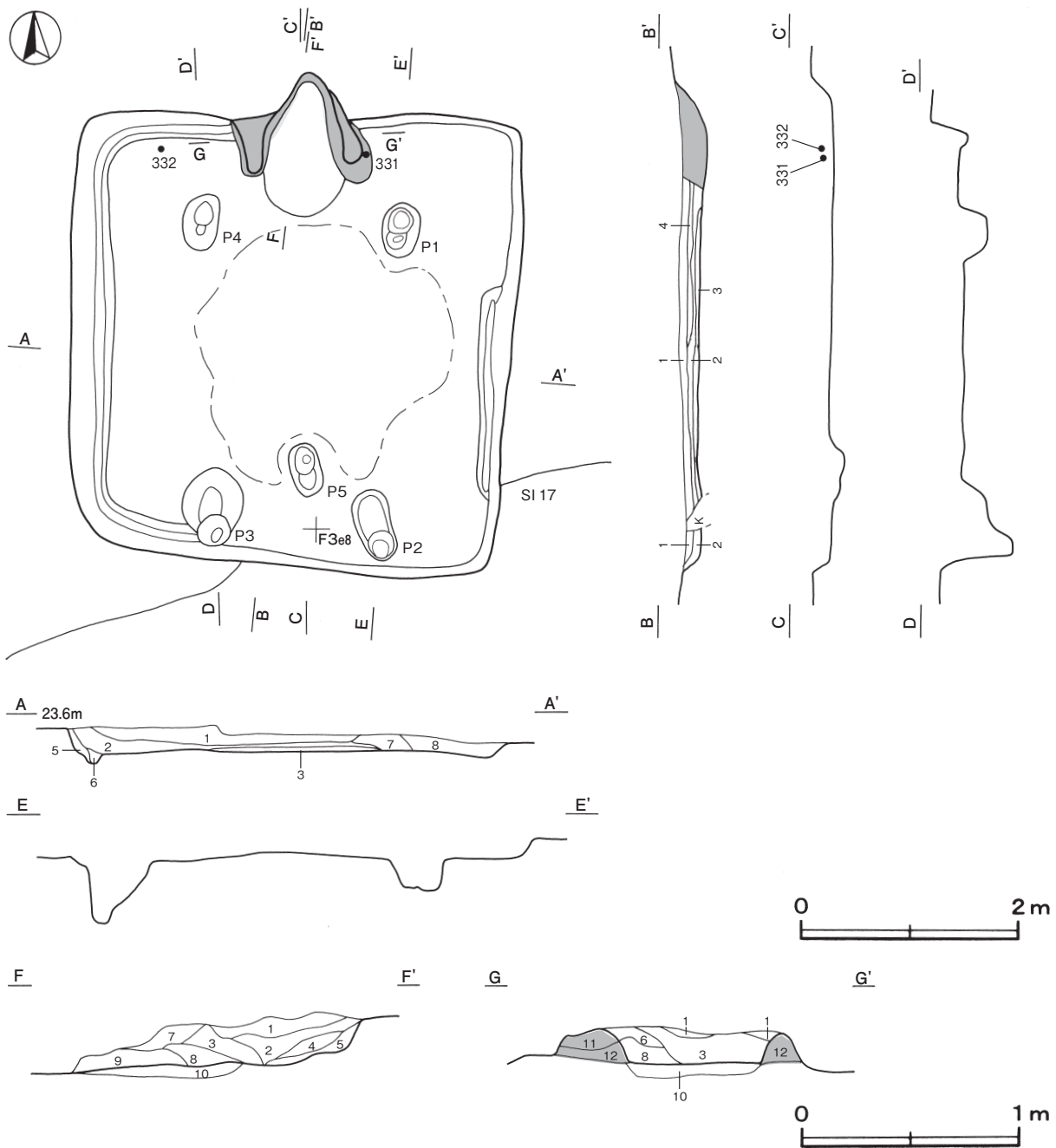
位置 調査区南部のF 3 d7区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第17号住居跡の竈を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.16m、短軸4.07mの方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁高は30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、支柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が西半部と東壁下の一部に認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで129cm、燃焼部幅69cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを含む暗褐色土を積み上げて構築されている。第11・12層が袖の構築土である。



第178図 第38号住居跡実測図

煙道部は、壁外へ三角形に奥行き45cm、幅75cm掘り込んで構築されている。火床部は床面をわずかに掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P1・P4は深さ28cm・24cm、P2・P3は深さ57cm・46cmで、いずれもコーナー部に位置していることから支柱穴である。4か所ともに重複して掘られていることから、立て替えが行われたものとみられる。P5は深さ14cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

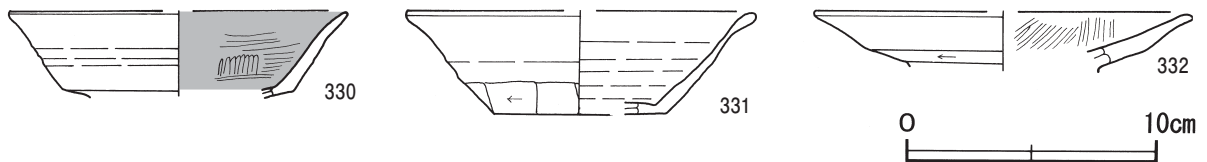
覆土 8層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、不自然な堆積であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器高台付坏・高台付皿各1点、須恵器坏1点のほか、土師器片284点（坏18・甕266）、須恵器片95点（坏34・甕61）が出土している。330は覆土中、331は竈右袖東側の覆土下層、332は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第179図 第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表（第179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
330	土師器	高台付坏	[13.4]	(3.4)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	内面へら磨き 黑色処理	覆土中	20%
331	須恵器	坏	[13.8]	4.1	[6.8]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちへら削り	覆土下層	20%
332	土師器	高台付皿	[15.2]	(2.3)	—	石英	橙	普通	体部下端回転へら削り 内面へら磨き	覆土下層	20%

第40号住居跡（第180～182図）

位置 調査区中央部のD3f1区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北東コーナー部を第55号住居に、中央部の床面を第135号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.90m、短軸4.85mの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は6～12cmで、ほぼ直

立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、支柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が全周している。貼床は中央部を深さ20cmの方形の土坑状に掘り込み、砂質粘土ブロックやロームブロックを含むにぶい褐色土を埋土し、その上に、粘性のある黒色土を貼って構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで117cm、燃焼部幅71cmである。火床部から右袖部は地山を掘り込んで、焼土ブロックや砂質粘土ブロックを含む暗赤褐色土とにぶい褐色土を埋土し、さらに、ロームブロックと砂質粘土ブロックを含む灰褐色土を積み上げて構築されている。第6層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き65cm、幅145cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を15cmほど掘り込んで、焼土ブロックと砂質粘土ブロックを含む赤暗褐色土とにぶい褐色土を埋土して構築されている。第7～11層は掘方への埋土である。

電土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量	7	にぶい褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、ローム粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・砂粒微量	8	暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
3	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、砂粒微量	9	黒褐色	ローム粒子微量
4	にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	10	にぶい褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	11	褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
6	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量			

ピット 5か所。P1～P4は深さ62～70cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ60cmで、南壁寄りの中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

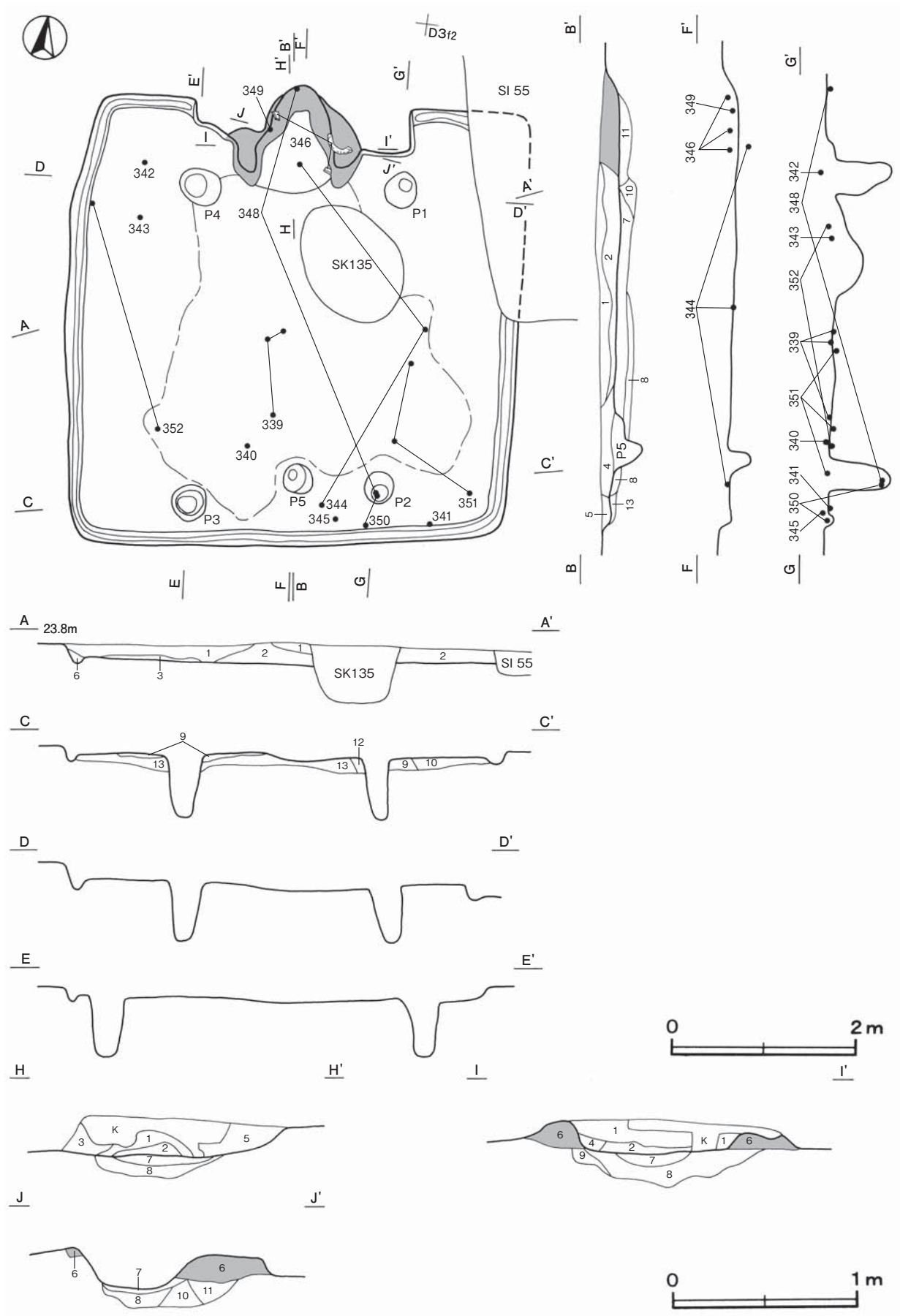
覆土 6層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。第7～13層は貼床の構築土である。

土層解説

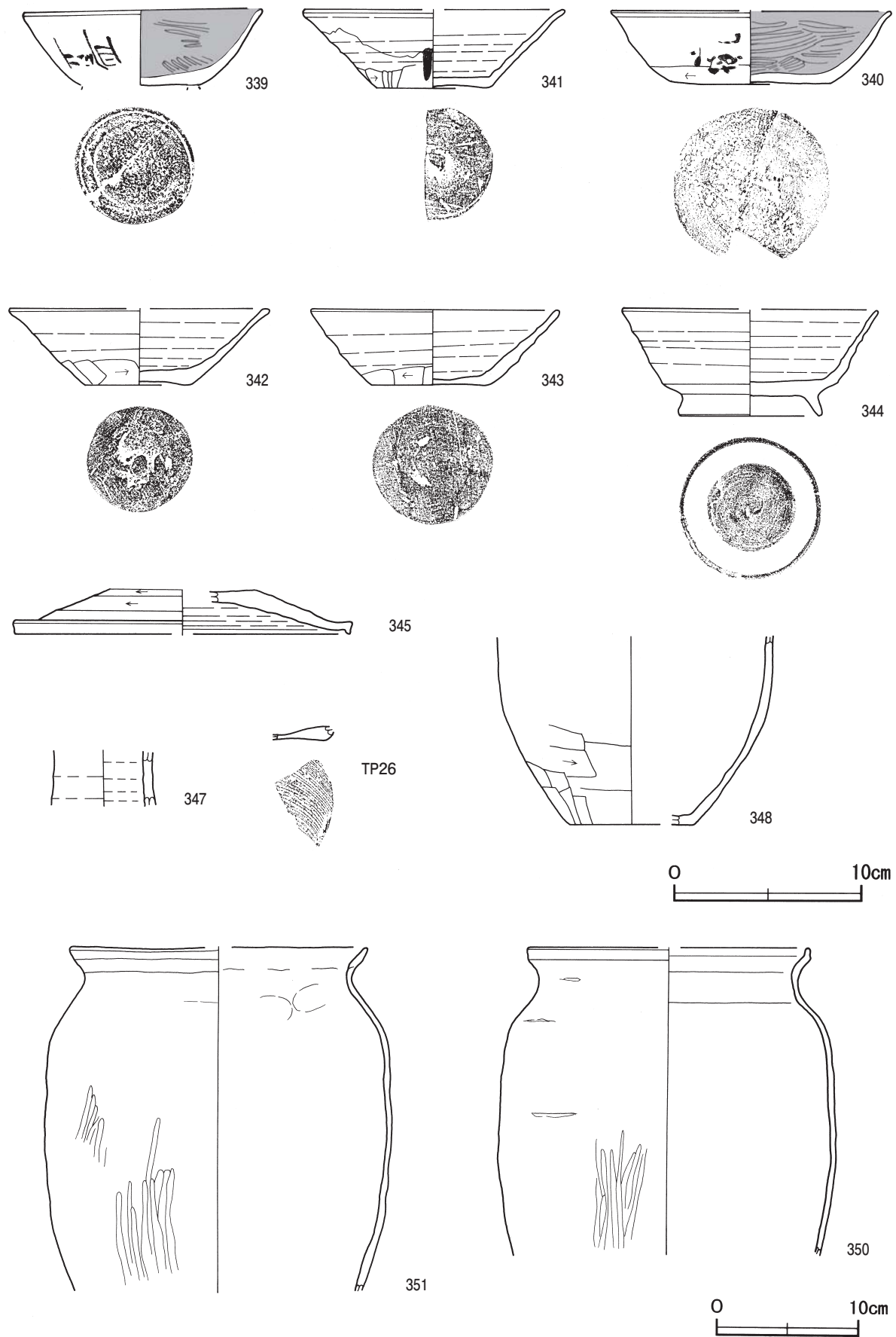
1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	7	黒褐色	炭化物微量(粘性多い)
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	8	黄褐色	砂質粘土粒子多量
3	暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	9	褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	にぶい褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	11	にぶい褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	12	にぶい褐色	砂質粘土ブロック中量
			13	暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器坏・高台付坏・小形甕各1点、甕3点、須恵器坏4点、高台付坏・蓋・鉢・甕各1点、灰釉陶器長頸瓶1点のほか、土師器片258点(坏18・高台付坏2・甕238)、須恵器片176点(坏92・高台付坏2・蓋10・甕72)、羽口片1点が出土している。340は南部、341は南東コーナー部の壁際、345は南部の壁際、351は南東部、352は西部の床面からそれぞれ出土している。347・TP26は覆土中、342・343は北西部の覆土中層、349は竈左袖部からそれぞれ出土している。339は中央部の床面から出土した破片同士、344は南部と中央部の床面と火床面から出土した破片、348はP2の覆土下層と火床面から出土した破片、350はP2の覆土下層と南部壁際の床面から出土した破片がそれぞれ接合している。346は竈の両袖に逆位で埋め込まれており、袖の補強材に転用されたものである。

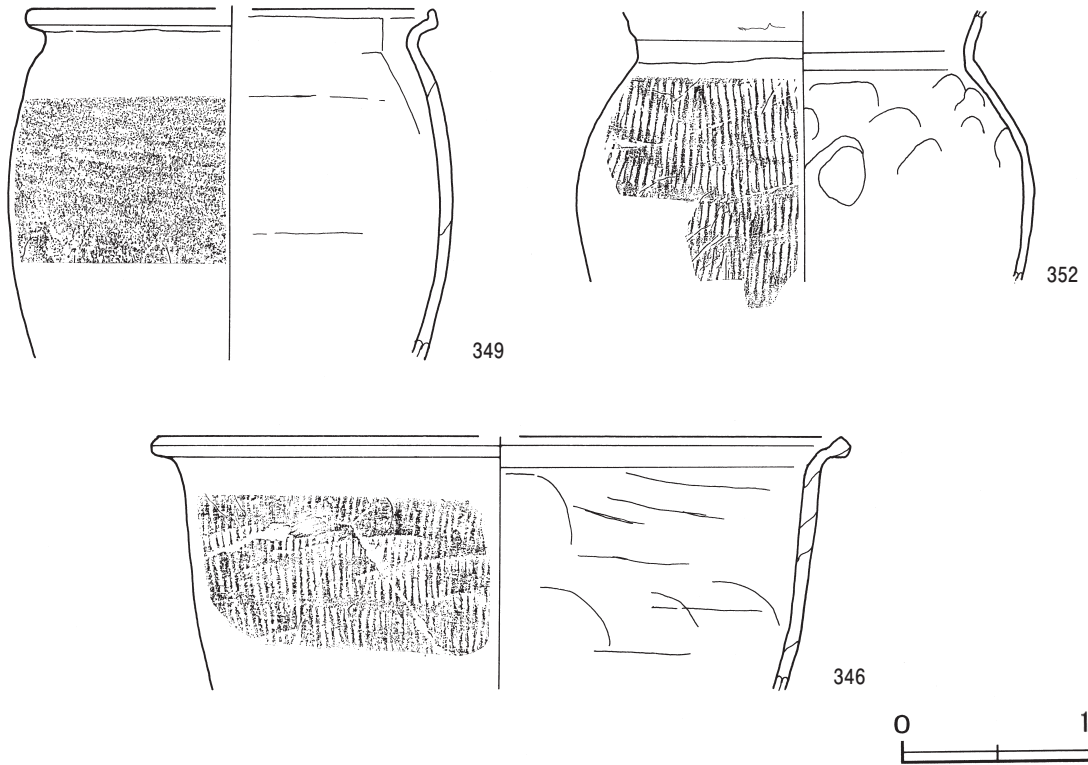
所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。重複関係から第55号住居よりは古いことは明らかであるが、遺物からは大きな時期差はみられない。



第180图 第40号住居跡実測図



第181図 第40号住居跡出土遺物実測図 (1)



第182図 第40号住居跡出土遺物実測図（2）

第40号住居跡出土遺物観察表（第181・182図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
339	土師器	高台付坏	12.6	(4.1)	6.1	赤色粒子	にぶい橙	普通	高台部剥離 内面へら磨き 黒色処理 体部外面「万益」墨書	床面	90% PL78
340	土師器	坏	[14.8]	3.9	8.5	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端・底部回転へら削り 内面へら磨き 黒色処理 体部外面「□」墨書	床面	60%
341	須恵器	坏	[14.0]	4.2	6.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕 を残す一方向のへら削り 体部外面「□」墨書	床面	30%
342	須恵器	坏	[13.8]	4.1	5.7	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り 痕を残す不定方向のへら削り	覆土中層	50% PL78
343	須恵器	坏	13.0	4.0	6.4	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り 痕を残す不定方向のへら削り	覆土中層	80% PL78
344	須恵器	高台付坏	[13.4]	5.7	7.4	長石	灰	普通	底部回転へら削り後、高台貼り付け	床面 火床面	60% PL79
345	須恵器	蓋	[17.8]	(2.4)	—	長石・雲母	灰	普通	天井部回転へら削り	床面	30%
346	須恵器	鉢	[36.0]	(13.3)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部縦位の平行叩き 輪積痕	竈袖補強材	30%
347	灰釉陶器	長頸瓶	—	(2.9)	—	堅緻	暗灰	良好	外面灰オリープ釉	覆土中	10%
348	土師器	小形甕	—	(10.0)	6.6	長石、粗い	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り	覆土下層 火床面	30%
349	土師器	甕	[21.4]	(18.5)	—	長石	橙	普通	体部太く粗いへら状工具によるナデ 輪積痕	竈底面	20%
350	土師器	甕	[19.6]	(21.6)	—	長石・雲母	橙	普通	体部下半へら磨き	P3・床面	20%
351	土師器	甕	[20.8]	(24.2)	—	長石	にぶい黄橙	普通	体部下半へら磨き 輪積痕	床面	30%
352	須恵器	甕	—	(14.1)	—	長石・石英	暗灰	良好	体部縦位の平行叩き 内面強い押圧痕	床面	20%
TP26	須恵器	坏	—	(0.8)	—	長石	緑灰	普通	底部回転糸切り	覆土中	

第41号住居跡（第183・184図）

位置 調査区中央部のD3d1区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北は4.85mで、東西は3.80mを確認しただけで、主軸方向がN-1°-Wの長方形と推測できる。壁高は6cmで西壁しか確認できなかった。

床 ほぼ平坦で、東壁際と西壁際を除いて硬化面が認められる。

竈 北壁の西寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで80cm、燃焼部幅30cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、ロームブロックを含む褐色土と暗褐色土を積み上げて構築されている。第4・5層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き15cm、幅15cm掘り込んで構築されている。火床部は床面をわずかに掘り込んでいるが、火床面は赤変硬化していない。

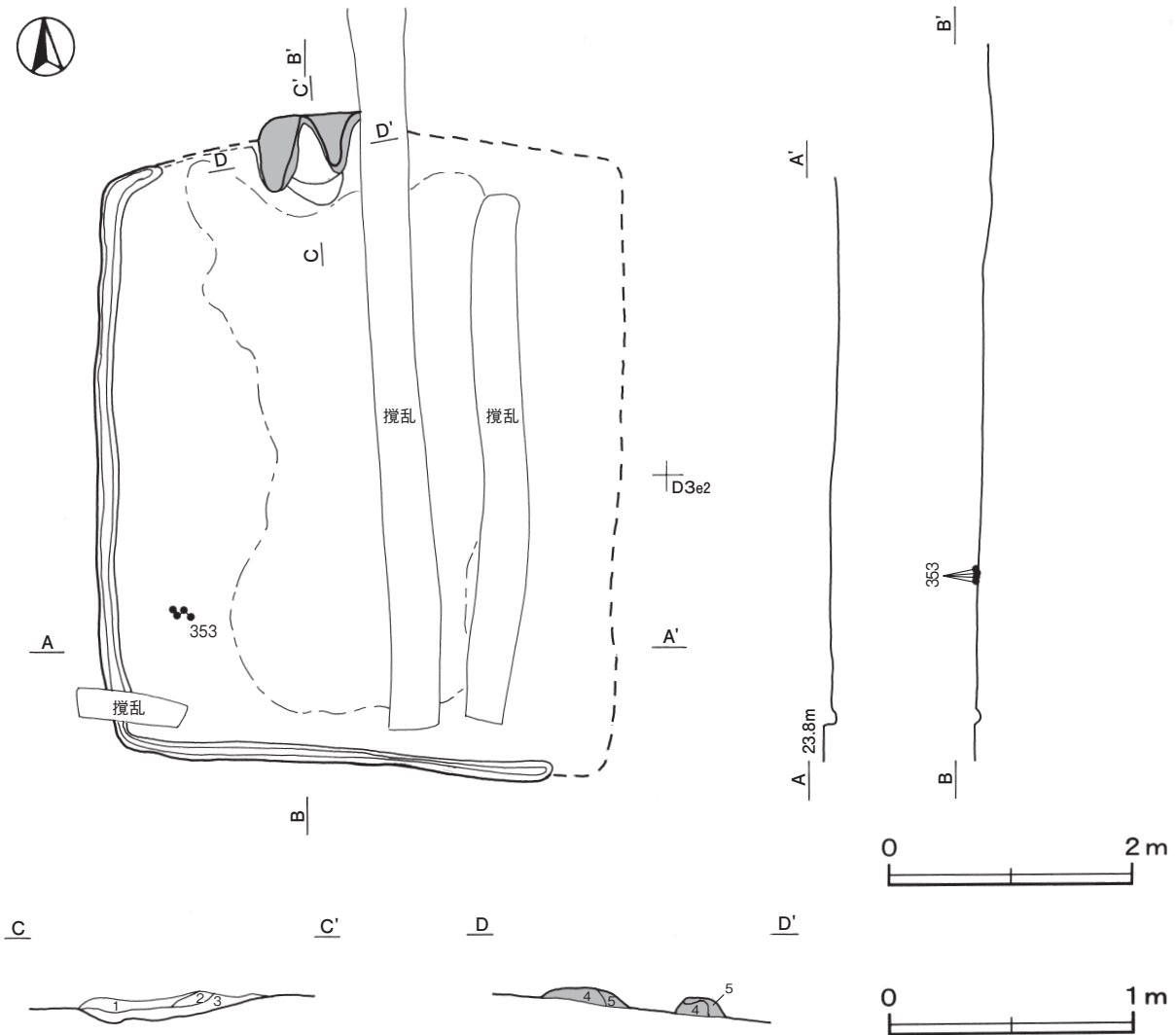
竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | | |

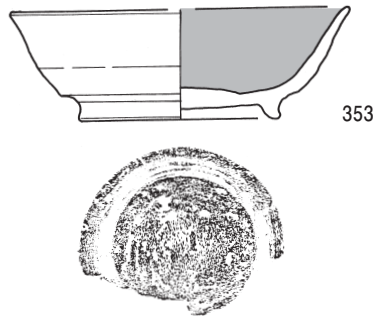
覆土 覆土がなく、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器高台付坏1点のほか、土師器片58点（坏5・高台付坏1・甕52）、須恵器片17点（坏3・甕14）が出土している。353は西部の床面から出土した破片が接合している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第183図 第41号住居跡実測図



第184図 第41号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表（第184図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
353	土師器	高台付杯	[13.2]	4.3	7.8	長石、粗い	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け 内面黒色処理	床面	40%

第43号住居跡（第185・186図）

位置 調査区中央部のD 2 f9区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第26号掘立柱建物跡のP 1～P 3を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.70m、短軸3.34mの長方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は8～13cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前面から南壁下にかけての中央部に硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで128cm、燃焼部幅42cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、ロームブロックを含む暗褐色土を積み上げ、左袖には須恵器鉢を補強材として貼り付けている。第8・9層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き61cm、幅108cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

ピット 深さ26cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

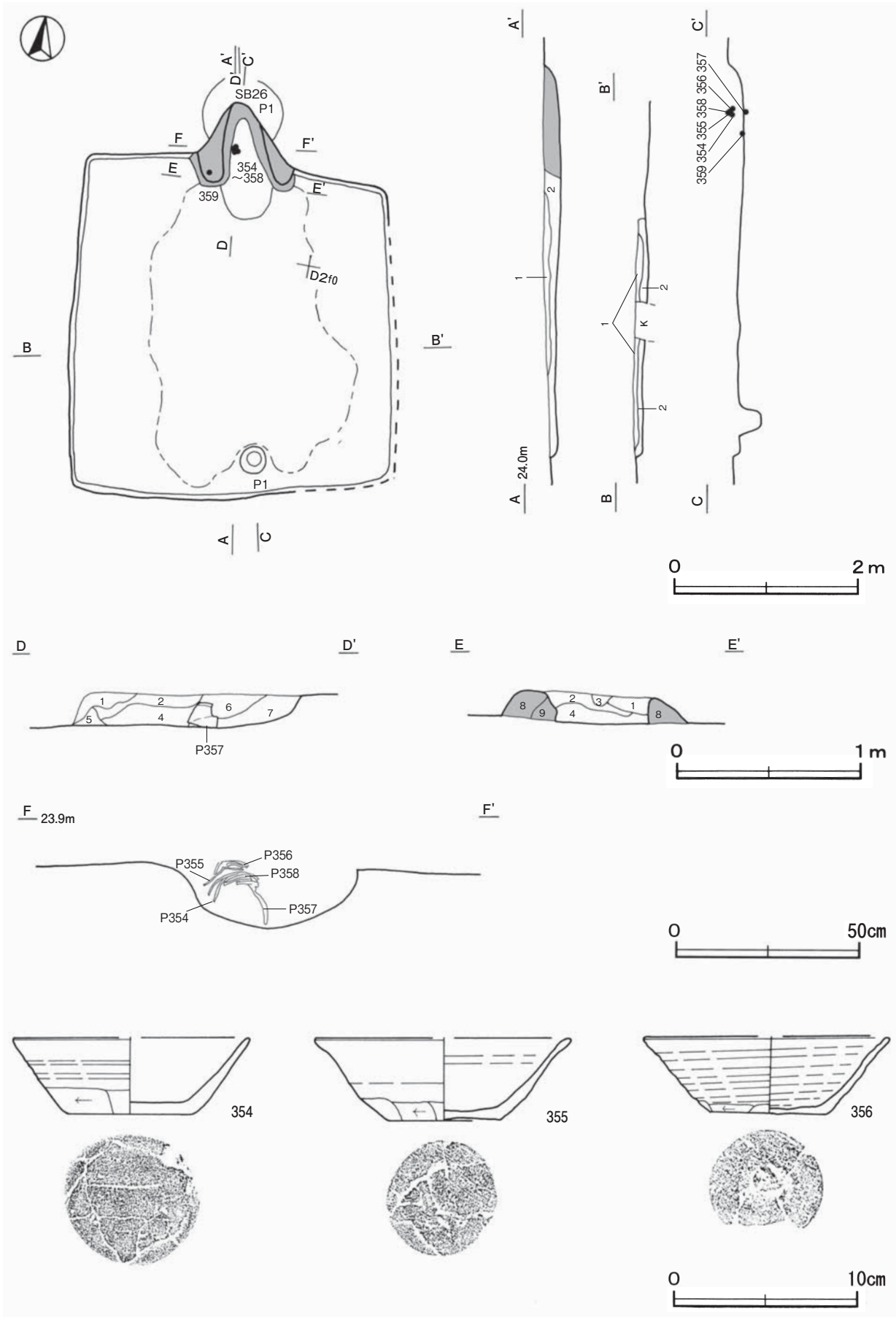
覆土 2層に分層できる。堆積状況から自然堆積とみられる。

土層解説

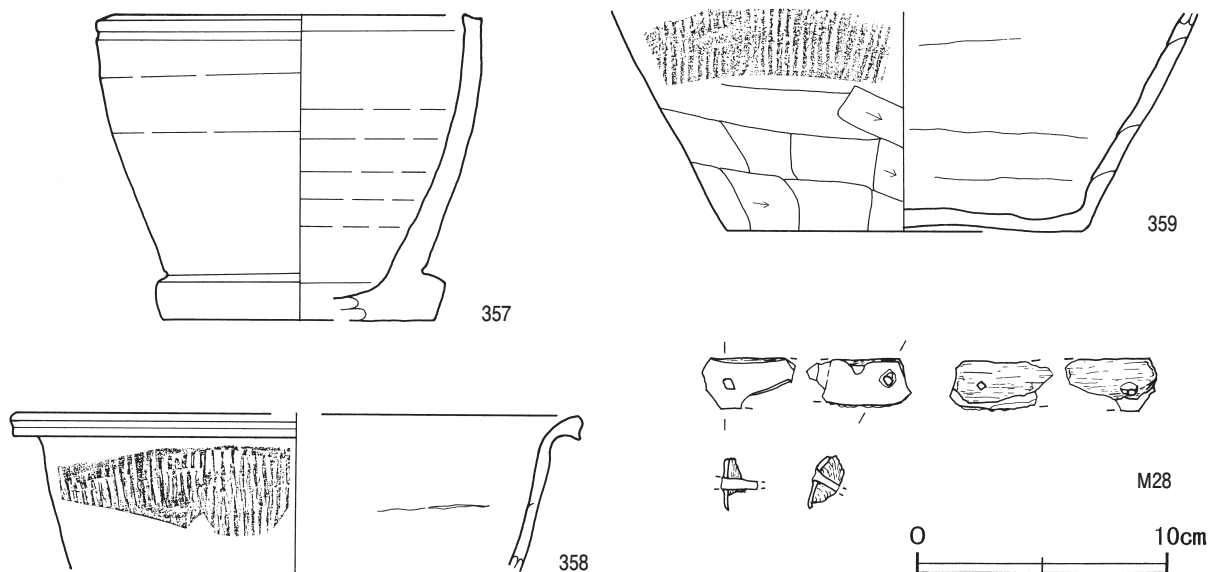
- | | | | |
|-------|--------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 2 黒褐色 | ローム粒子少量 |
|-------|--------------|-------|---------|

遺物出土状況 須恵器杯3点、鉢2点、捏鉢1点、鉄製穂摘具1点のほか、土師器片48点（杯4・甕44）、須恵器片9点（杯5・甕4）が出土している。354～358は竈火床面に下から357・358・354・355・356の順に逆位で重ねられた状態で出土しており、支脚に転用されたものである。359は竈左袖に貼り付けられた状態で出土しており補強材に転用されたものである。M28は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第185図 第43号住居跡・出土遺物実測図



第186図 第43号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表（第185・186図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
354	須恵器	坏	[12.7]	4.2	6.8	長石・雲母	明黄褐	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 二次焼成	火床面 支脚転用	70% PL78
355	須恵器	坏	[13.7]	4.5	6.1	長石、粗い	にぶい黄褐	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 二次焼成	火床面 支脚転用	60% PL79
356	須恵器	坏	[13.4]	4.4	6.2	長石・雲母	灰黄褐	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り 痕を残す不定方向のヘラ削り 二次焼成	火床面 支脚転用	40%
357	須恵器	捏鉢	14.0	12.3	10.8	雲母	にぶい黄褐	—	体部ロクロナデ 底部不定方向のヘラ削り 二次焼成	火床面 支脚転用	50%
358	須恵器	鉢	[22.6]	(6.3)	—	長石	にぶい赤褐	—	体部縦位の平行叩き 二次焼成 輪積痕	火床面 支脚転用	10%
359	須恵器	鉢	—	(13.8)	14.2	長石・雲母	褐	—	体部縦位の平行叩き 体部下端手持ちヘラ 削り 輪積痕 二次焼成	左袖補強材	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M28	總摘具	[8.5]	2.0	(1.5)	(13.0)	鉄	鉄製鋏により、刃部と木部が接合	覆土中	PL95

第44号住居跡（第187～190図）

位置 調査区西端部のD 1 a5区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

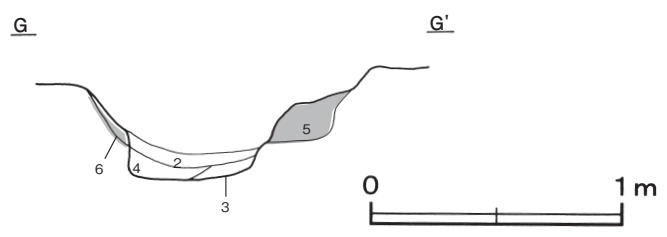
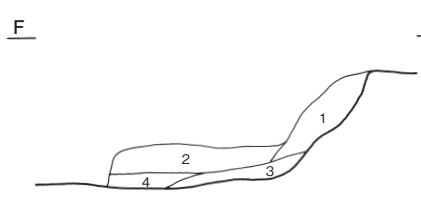
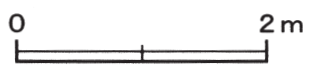
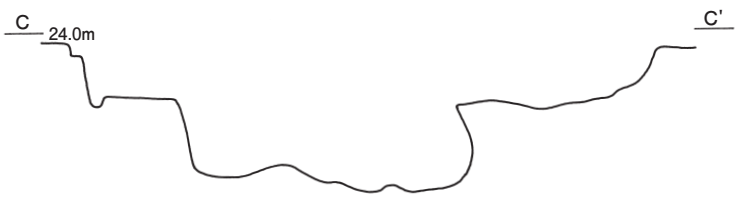
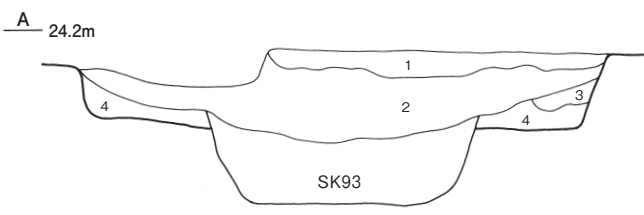
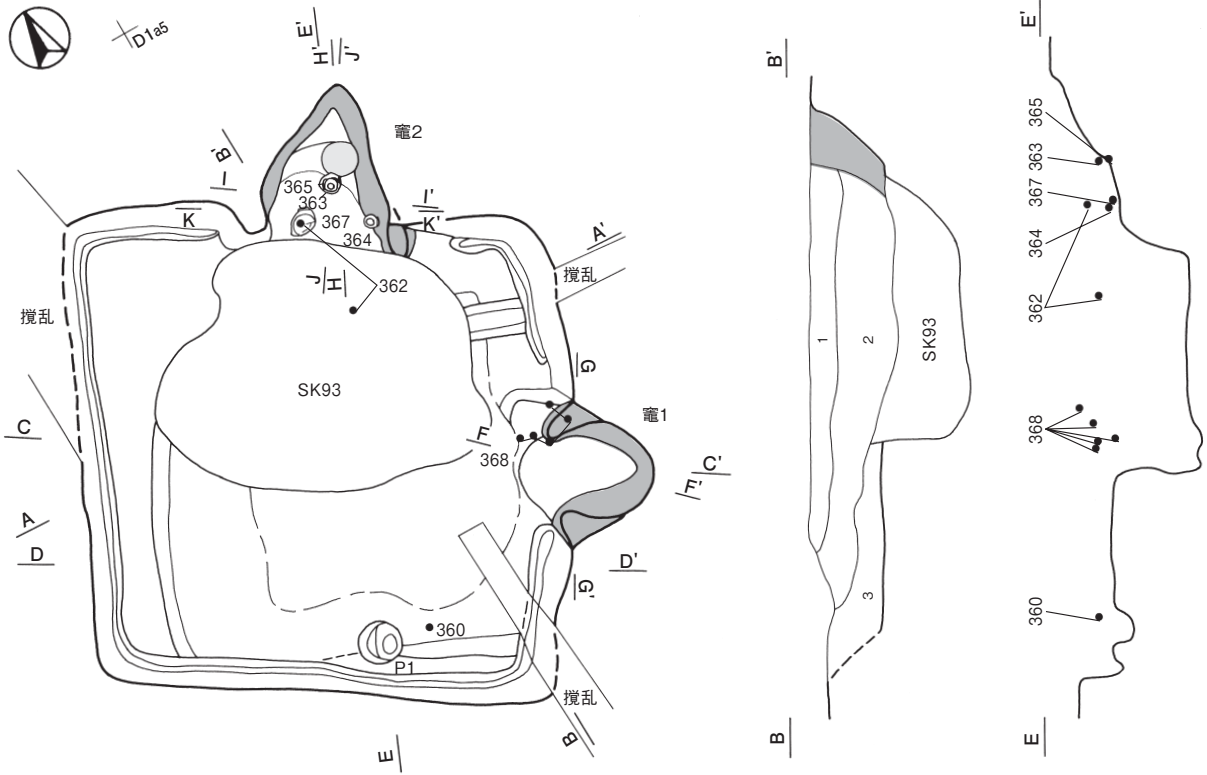
重複関係 北東部の床面を第93号土坑（第4号粘土採掘坑）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.90m、短軸3.84mの方形で、主軸方向はN-25°-E。壁高は33～41cmで、外傾して立ち上がっている。

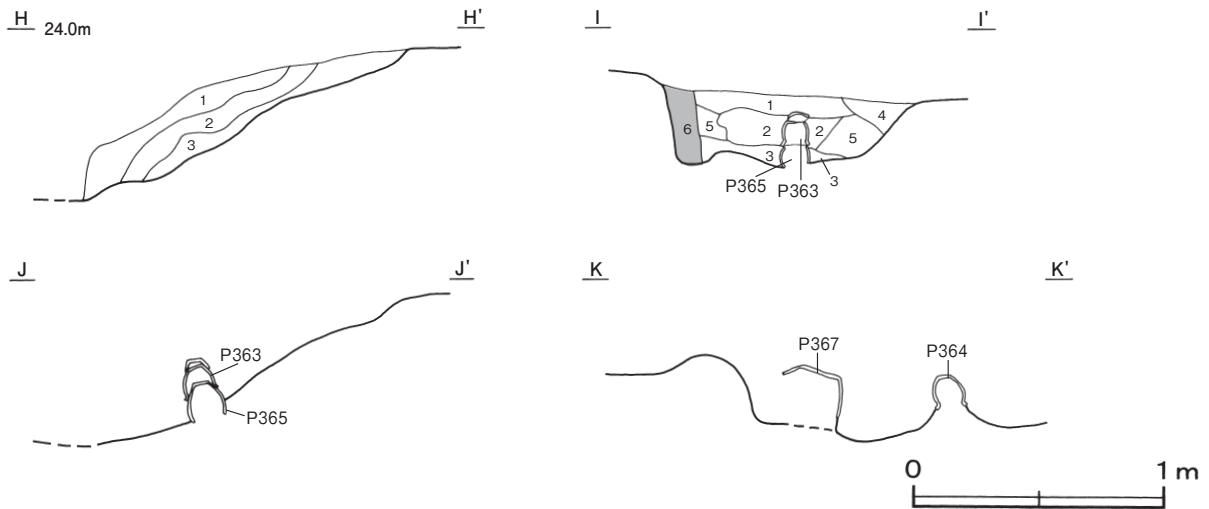
床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 2か所。竈1は東壁中央部に付設されている。袖部の焚口寄りの部分が遺存していない。床面状況から推定した焚口部から煙出部まで108cm、燃焼部幅53cmである。残存していた部分の袖部は地山を掘り残した上に、ロームブロックを含む褐色土を積み上げて構築されている。第5・6層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形状に奥行き67cm、幅85cm掘り込んで構築されている。

竈2は北壁の中央部に付設されている。焚口部は第93号土坑に掘り込まれているため、遺存しているのは燃焼部及び煙出部だけで、燃焼部から煙出部まで124cm、燃焼部幅104cmである。右袖部は地山を掘り残し、左袖部は掘り残した地山にロームブロックを含む暗褐色土を貼り付けて構築されている。第6層が袖部の構築土で



第187图 第44号住居跡実測图 (1)



第188図 第44号住居跡実測図（2）

ある。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き100cm、幅105cm掘り込み構築されている。火床部は壁外に位置し、床面より高くなだらかなスロープ状を呈し、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈1 土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子・砂粒微量 | 5 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 3 極暗褐色 砂粒少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |

竈2 土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 黄褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

ピット 深さ16cmで、南壁際の東寄りに位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

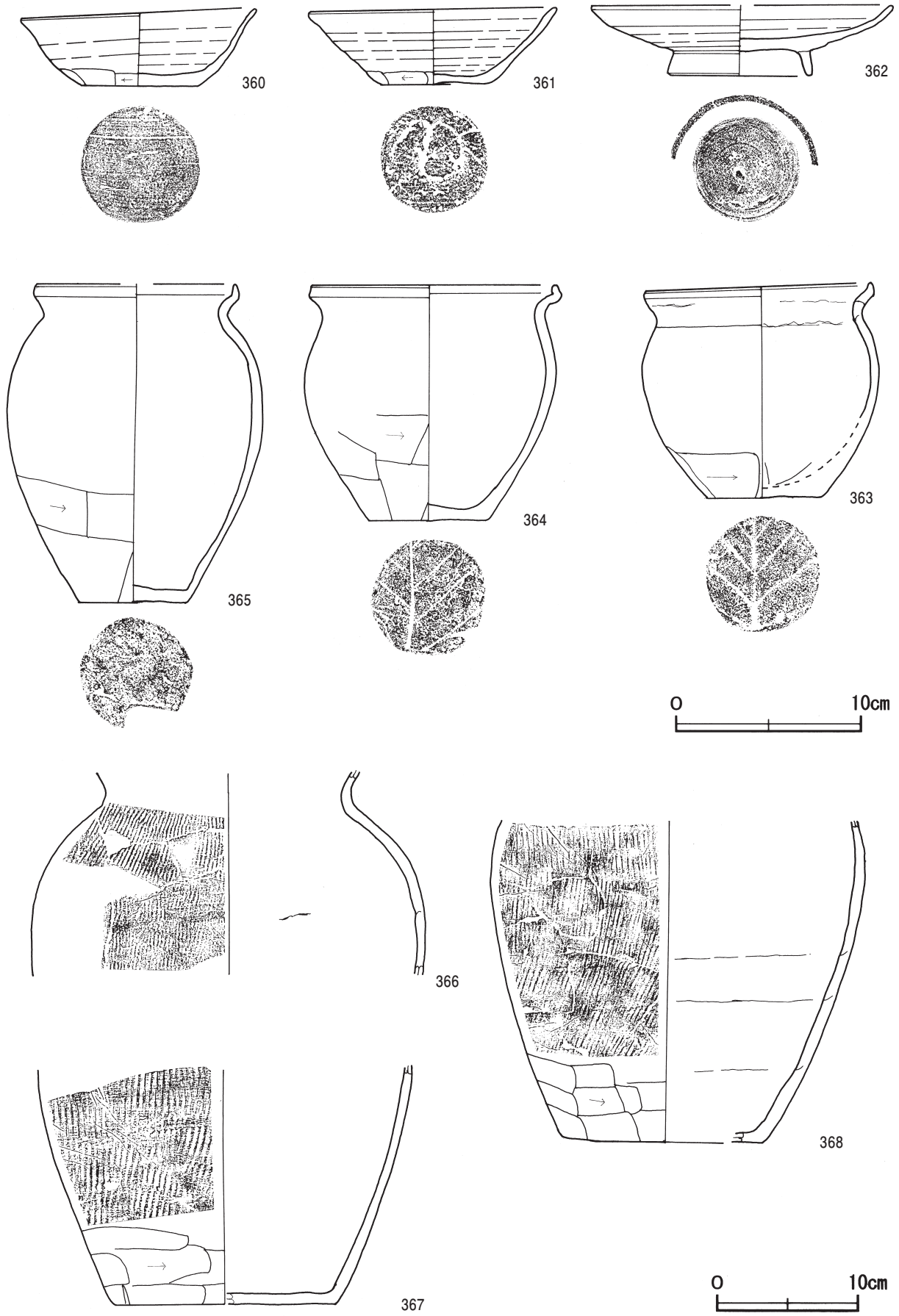
覆土 4層に分層できる。大半の層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

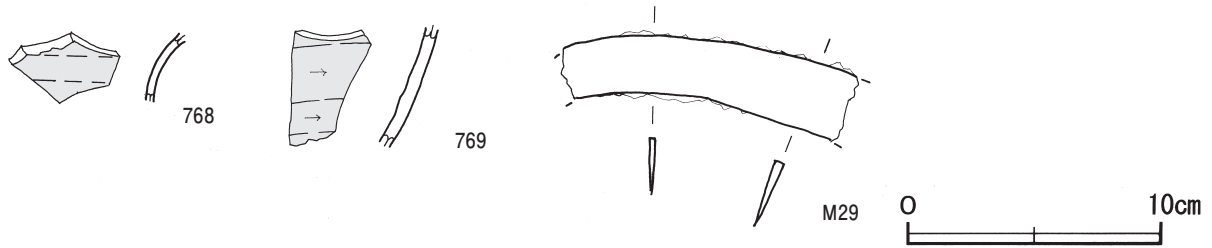
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 黒褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器小形甕3点、須恵器坏2点、盤・鉢各1点、甕2点、灰釉陶器長頸瓶2点、鉄鎌1点のほか、土師器坏片262点、須恵器片237点（坏83・高台付坏3・甕148・甌3）、灰釉陶器長頸瓶片2点が出土している。365は竈2の火床面に逆位で据えられ、その上に363が伏せられた状態で出土しており、支脚に転用されたものである。367は竈2の燃烧部底面から逆位で出土している。364は竈2の右袖部から逆位で出土しており、補強材の可能性がある。360は南部の覆土下層、368は東壁際竈1付近の覆土中層、M29は覆土中からそれぞれ出土している。768・769は灰釉陶器長頸瓶の同一個体片と思われる破片が、それぞれ覆土中から出土している。362は竈2の覆土下層と第93号土坑の覆土中から出土した破片が接合したものである。361・366はいずれも覆土中と第93号土坑の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。竈1は袖部の焚口寄りの部分が遺存していないこと、竈2の火床部内に支脚に転用された遺物が良好な状態で残されていたことから、竈1から竈2への作り替えと判断した。



第189图 第44号住居跡出土遺物実測図 (1)



第190図 第44号住居跡出土遺物実測図（2）

第44号住居跡出土遺物観察表（第189・190図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
360	須恵器	坏	12.6	4.3	6.4	長石・雲母	にぶい褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方のヘラ削り	覆土下層	80% PL79
361	須恵器	坏	13.2	4.1	5.8	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り 痕を残す一方向のヘラ削り	覆土中 39土坑	80% PL79
362	須恵器	盤	[16.0]	3.9	[7.6]	長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	竈2 覆土下層・39土坑	70% PL79
363	土師器	小形甕	12.4	11.6	6.2	長石・雲母	にぶい赤褐	—	体部下端手持ちヘラ削り 二次焼成	竈2 火床面	90%
364	土師器	小形甕	13.1	12.8	6.4	長石・石英	明赤褐	—	体部下端手持ちヘラ削り 二次焼成	竈2 右袖部	80%
365	土師器	小形甕	[10.8]	17.2	6.0	長石・雲母	にぶい橙	—	体部下端手持ちヘラ削り 二次焼成 摩滅が激しい	竈2 火床面 支脚転用	70%
366	須恵器	甕	—	(14.3)	—	長石・雲母	黄灰	普通	体部縦位の平行叩き 輪積痕	覆土中 39土坑	10%
367	須恵器	鉢	—	(16.8)	15.9	長石	暗赤褐	—	体部縦位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ 二次焼成	竈2 燃焼部 底面	40%
368	須恵器	甕	—	(22.9)	14.2	長石	灰	普通	体部縦位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面輪積痕 二次焼成	覆土中層	30%
768	灰釉陶器	長頸瓶	—	(2.7)	—	緻密	明緑灰	良好	内面灰オリブ釉	覆土中	5%
769	灰釉陶器	長頸瓶	—	(4.8)	—	緻密	明緑灰	良好	回転ヘラ削り	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M29	鎌	(11.8)	(2.7)	0.3	(30.3)	鉄	切先部・柄装着部欠損	覆土中	PL94

第46号住居跡（第191図）

位置 調査区西部のC 1 j8区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北東コーナー部を第82号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.10m、短軸2.63mの長方形で、主軸方向はN-11°-Eである。壁高は20~39cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前面に硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。遺存状況は不良で、袖部は確認できなかった。壁外へ逆U字状に奥行き26cm、幅72cm掘り込んだ煙道部が確認されただけである。

竈土層解説

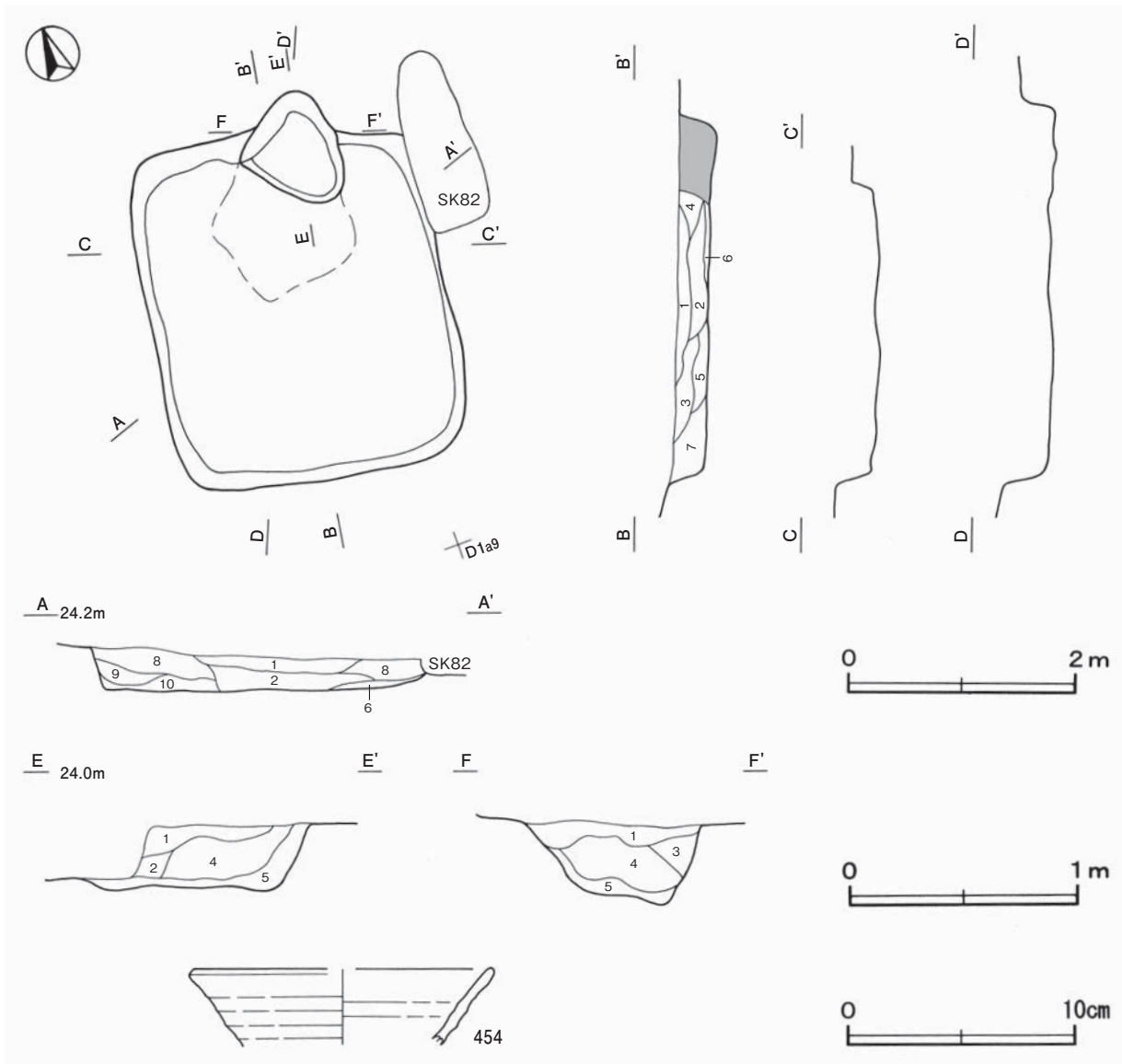
- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 オリブ褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量 | | |

覆土 10層に分層できる。ロームブロックを含み、不自然な堆積であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 須恵器坏1点のほか、土師器片21点（坏9・甕12）が出土しているが、ほとんどが細片である。そのほか、流れ込んだ敲石1点も出土している。454は覆土中から出土している。所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第191図 第46号住居跡・出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第191図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
454	須恵器	坏	[132]	(3.3)	—	石英	黄灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5%

第47号住居跡（第192図）

位置 調査区西部のC1j3区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外であるため、南北軸3.46mで、東西軸は1.72mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-3°-Eの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は24~26cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁溝が北部を除いて巡っている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ42cm・33cmで、いずれもコーナー部に位置していることから支柱穴である。

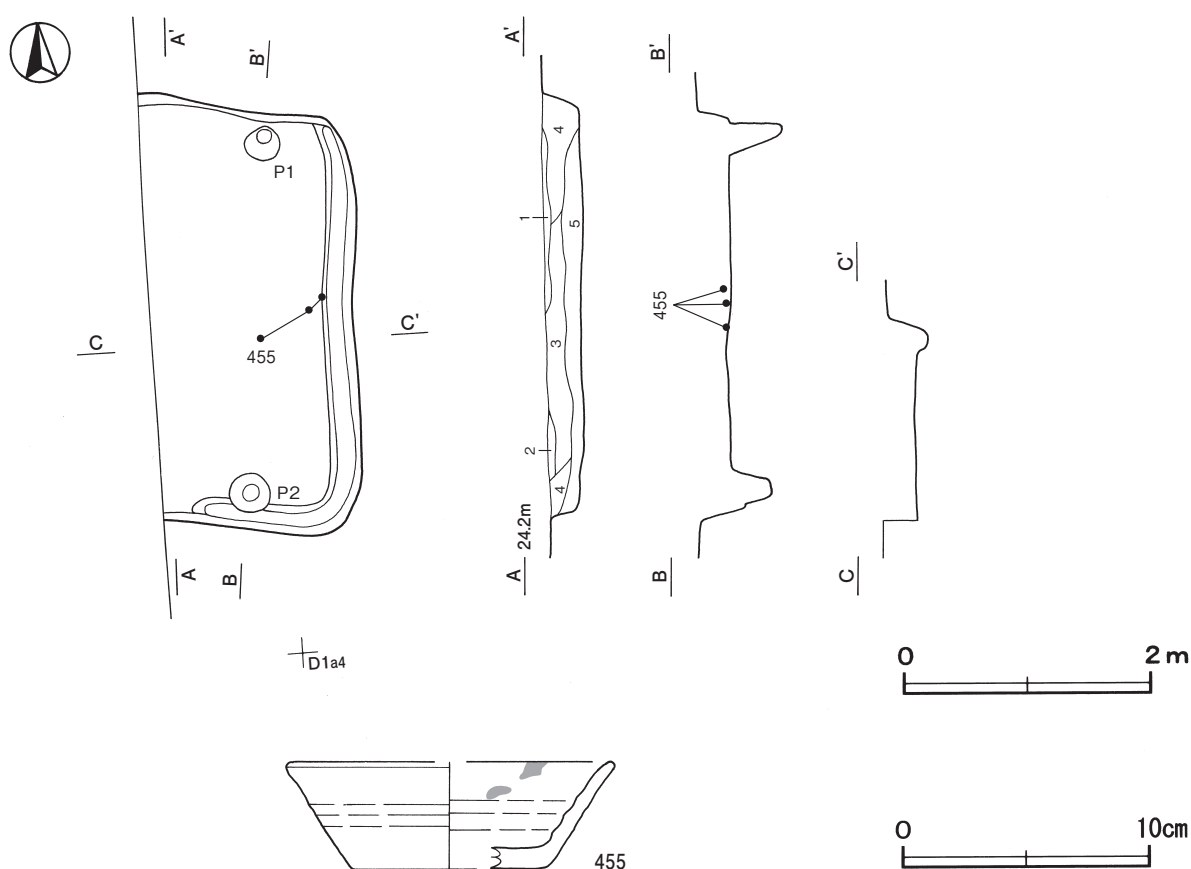
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含み、不自然な堆積であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 須恵器坏1点のほか、土師器片5点(坏2・甕3)、須恵器坏片3点が出土している。455は東壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第192図 第47号住居跡・出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表 (第192図)

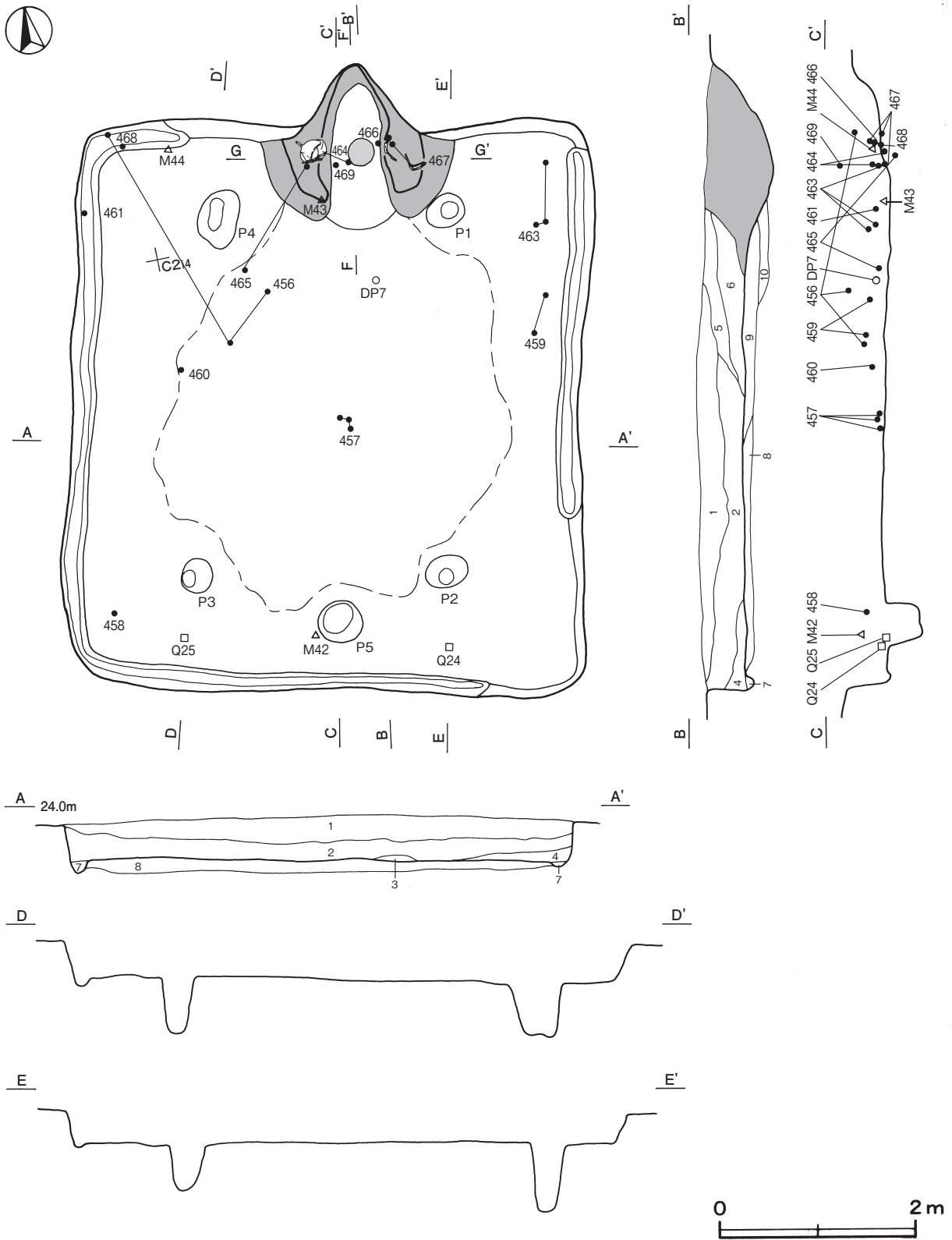
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
455	須恵器	坏	[12.9]	4.3	[7.8]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部一方向のヘラ削り 油煙付着	床面	40%

第49号住居跡 (第193~196図)

位置 調査区西部のC2i4区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第123号住居跡の上部に構築されている。

規模と形状 長軸5.90m, 短軸5.34mの長方形で, 主軸方向はN-16°-Eである。壁高は28~42cmで, ほぼ直立している。

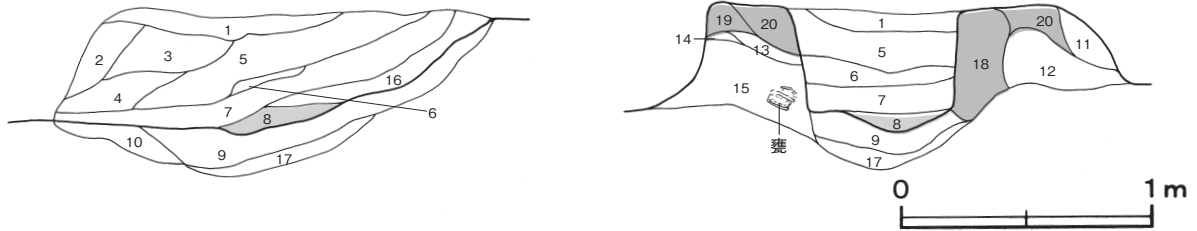


第193図 第49号住居跡実測図(1)

F 24.0m

F' G

G'



第194図 第49号住居跡実測図(2)

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は砂質粘土ブロックを含む灰褐色土を12cmほど埋めて構築されている。壁溝が南東コーナー部と北東部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで170cm、燃焼部幅52cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを含む暗褐色土を積み上げて構築されている。また、両袖部の補強材として、土師器甕、須恵器鉢各1点がそれぞれ使用されている。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き62cm、幅108cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とくらべ若干くぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量 | 14 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック中量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 6 黒褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物中量、ローム粒子少量 | 16 黄褐色 | 焼土ブロック・白色粘土ブロック中量 |
| 7 赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子少量 | 17 にぶい赤褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・白色粘土ブロック多量、ローム粒子少量 | 18 にぶい黄褐色 | 白色粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 9 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック多量、炭化物中量 | 19 にぶい黄褐色 | 白色粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 20 にぶい黄色 | 白色粘土ブロック中量、焼土ブロック微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ45～67cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。P5は深さ35cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 7層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。第8～10層は貼床の構築土である。

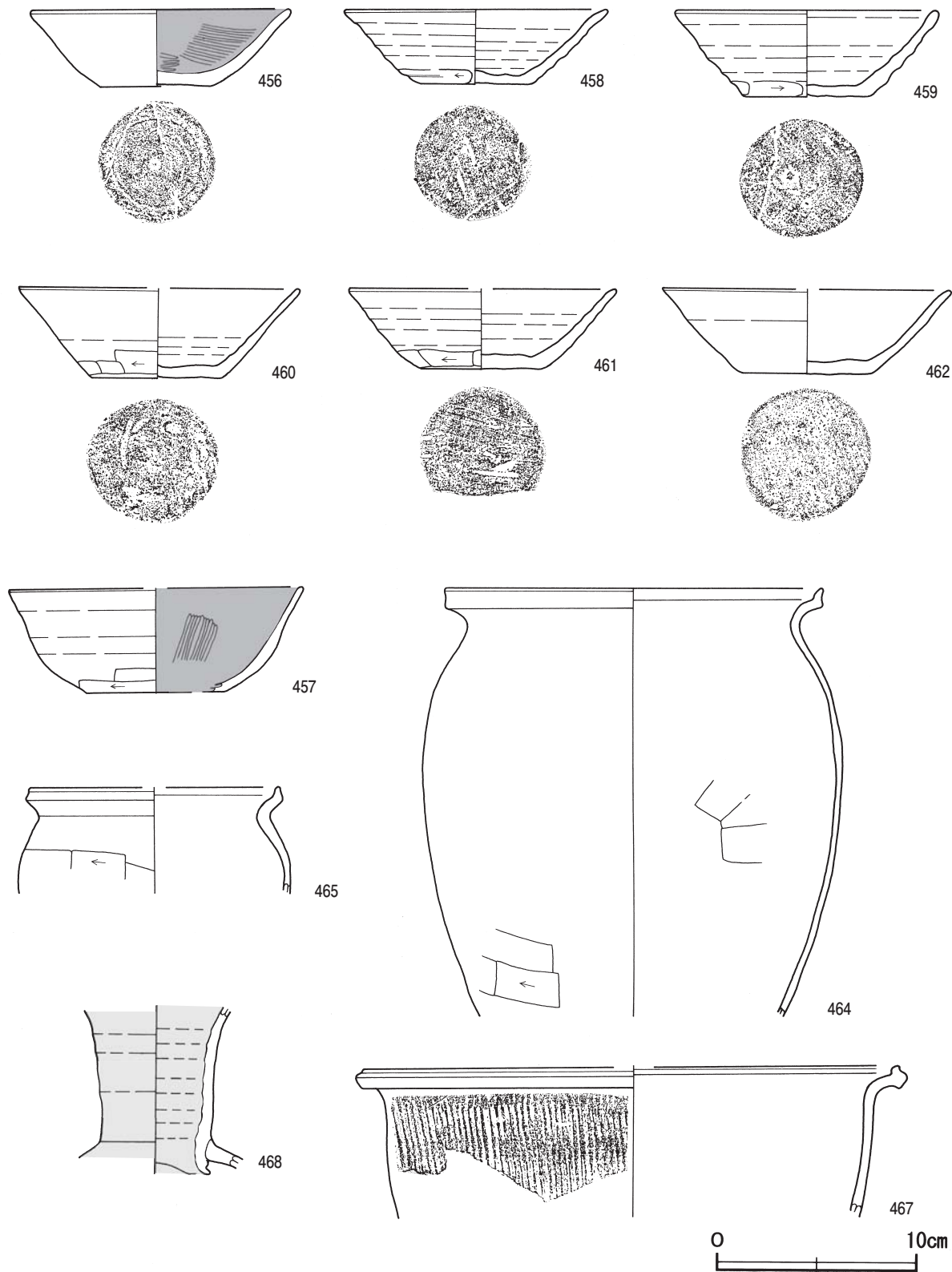
土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 にぶい褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | 砂粒少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 6 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 | | |

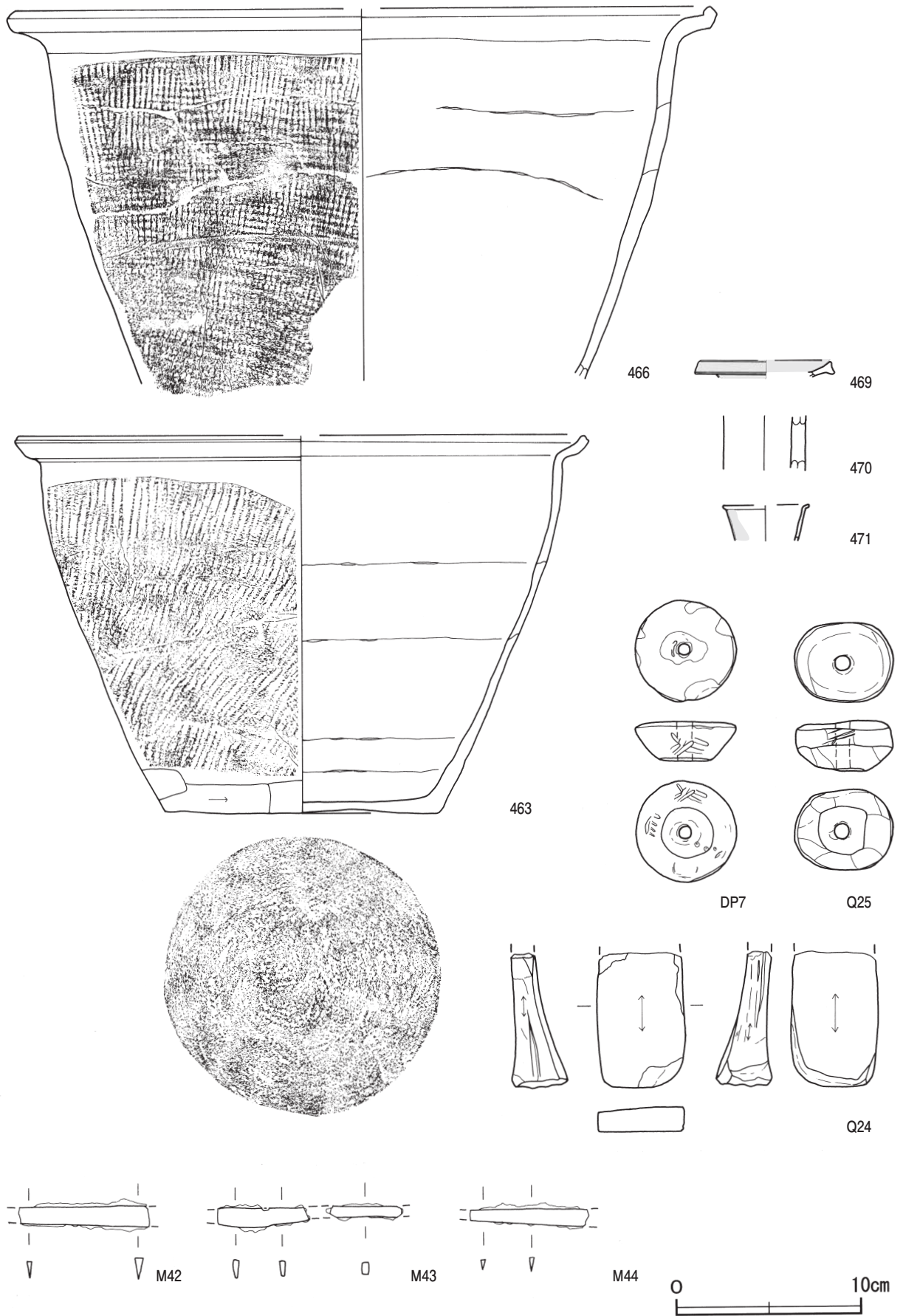
遺物出土状況 土師器坏2点、小形甕・甕各1点、須恵器坏5点、鉢1点、甗2点、灰釉陶器長頸瓶4点、刀子3点、土製紡錘車・石製紡錘車・砥石各1点のほか、土師器片1485点(坏100・高台付坏2・皿4・甕類1379)、須恵器片957点(坏437・高台付坏2・皿2・盤4・蓋7・甕505)、灰釉陶器片3点、陶器片2点が覆土中・床面・貼床構築土内から出土している。464・466は竈の両袖部の補強材として使用されていたもので、464は左袖部内に逆位で据えられた状態、466は右袖部に貼り付けられた状態でそれぞれ出土している。457は中央部の床面、463は、北東部の覆土下層、456は北西部の覆土中層、459は東部の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。467は竈右袖部の覆土下層、M43は竈の火床部付近、Q24・Q25は南壁寄りの覆土下層から出土している。458・460・461は西部、DP7は中央部、M42は南部の覆土中層からそれぞれ出土し

ている。462・465は貼床構築土内から出土している。

所見 本跡は第123号住居跡を拡張し建て替えられたものである。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定でき、重複する第123号住居跡との時期差はほとんどないと思われる。



第195図 第49号住居跡出土遺物実測図（1）



第196图 第49号住居跡出土遺物実測図(2)

第49号住居跡出土遺物観察表（第195・196図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
456	土師器	坏	12.7	3.8	5.6	長石・石英	橙	普通	内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り 黒色処理	覆土中層	50% PL79
457	土師器	坏	[14.6]	5.2	[6.8]	長石・石英・赤色 粒子・雲母	明赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	床面	50%
458	須恵器	坏	13.1	3.8	5.3	長石・石英・雲母	褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘ ラ削り	覆土中層	90% PL79
459	須恵器	坏	13.1	4.3	6.2	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘ ラ削り	覆土中層	80% PL79
460	須恵器	坏	[14.0]	4.5	6.5	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の ヘラ削り	覆土中層	60% PL80
461	須恵器	坏	[13.3]	4.0	6.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘ ラ削り	覆土中層	60%
462	須恵器	坏	[14.4]	4.2	6.4	長石・石英	にぶい黄褐	普通	底部一方向のヘラ削り	貼床内	30%
463	須恵器	鉢	[30.6]	20.3	15.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部縦位の平行叩き 下端ヘラ削り 輪積痕	覆土下層	65% PL79
464	土師器	甕	18.8	(21.5)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈左袖部	60%
465	土師器	小形甕	[12.4]	(5.3)	—	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部ヘラ削り 内面ヘラナデ	貼床内	5%
466	須恵器	甌	[37.6]	(20.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部格子状の叩き 内面ヘラナデ 輪積痕	竈右袖部	25%
467	須恵器	甌	[26.7]	(7.5)	—	長石・石英	黄灰	普通	体部格子状の叩き 内面ヘラナデ	竈右袖部	10%
468	灰釉陶器	長頸瓶	—	(8.4)	—	長石	オリープ灰	緻密	二段接合 内・外面施釉	覆土下層	5% PL80
469	灰釉陶器	長頸瓶	[7.0]	(0.9)	—	長石	浅黄	緻密	内・外面オリープ釉	覆土中層	5%
470	灰釉陶器	長頸瓶	—	(2.9)	—	長石・赤色粒子	灰白	緻密	頸部破片	覆土中	5%
471	灰釉陶器	長頸瓶	[4.6]	(1.9)	—	長石	灰黄	緻密	外面刷毛塗り	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP7	紡錘車	5.4	2.2	0.9	56.1	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL92
Q25	紡錘車	5.3	2.7	0.8	76.2	凝灰岩	全面研磨 一方向からの穿孔 側面線刻有り	覆土下層	PL92

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q24	砥石	(7.3)	4.7	3.0	107.4	凝灰岩	砥面4面のうち2面に溝状の研磨痕有り	覆土下層	PL93

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M42	刀子	(7.0)	1.1	0.4	(12.4)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形	覆土中層	
M43	刀子	(8.8)	1.1	0.4	(4.4)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形 茎部断面長方形	竈左袖部	
M44	刀子	(6.4)	0.95	0.3	(5.2)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形	覆土下層	

第123号住居跡（第197図）

位置 調査区西部のC2i4区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 上部に第49号住居が構築されている。

規模と形状 長軸5.18m、短軸4.81mの長方形で、主軸方向はN-16°-Eである。

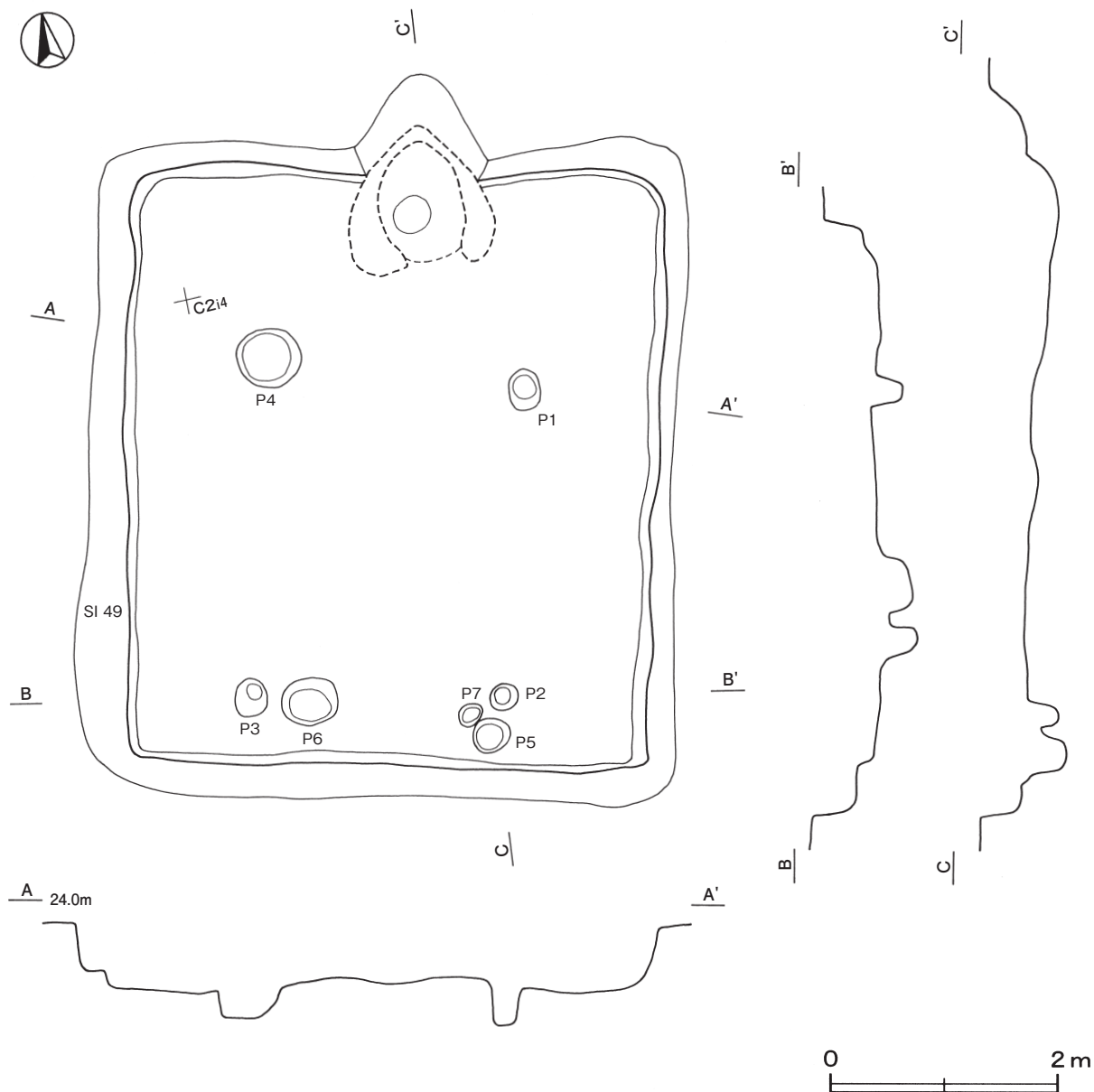
床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央部に付設されており、上部に第49号住居の竈が構築されているため火床部が遺存しているだけで、袖部の構築土は確認できなかった。

ピット 7か所。P1～P4は深さ32～40cmで、規模と位置から支柱穴である。P5とP6は深さ34cm・36cmで、南壁際に位置していることからいずれも出入り口施設に伴うピットと想定される。P7は深さ20cmで、南壁際に位置しているが性格は不明である。

覆土 すべての第49号住居の貼床の構築土であることから、第49号住居跡の項で解説する。

所見 本跡は第49号住居に拡張し建て替えられており、本跡に属する遺物がないため時期を決定することはできないが、第49号住居の時期と時期差はあまりないと思われ、9世紀中葉に比定できると考える。



第197図 第123号住居跡実測図

第50号住居跡（第198～200図）

位置 調査区北西部のC 1 e9区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.08m、短軸3.82mの方形で、主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は30～38cmで、やや外傾して立ち上がっている。

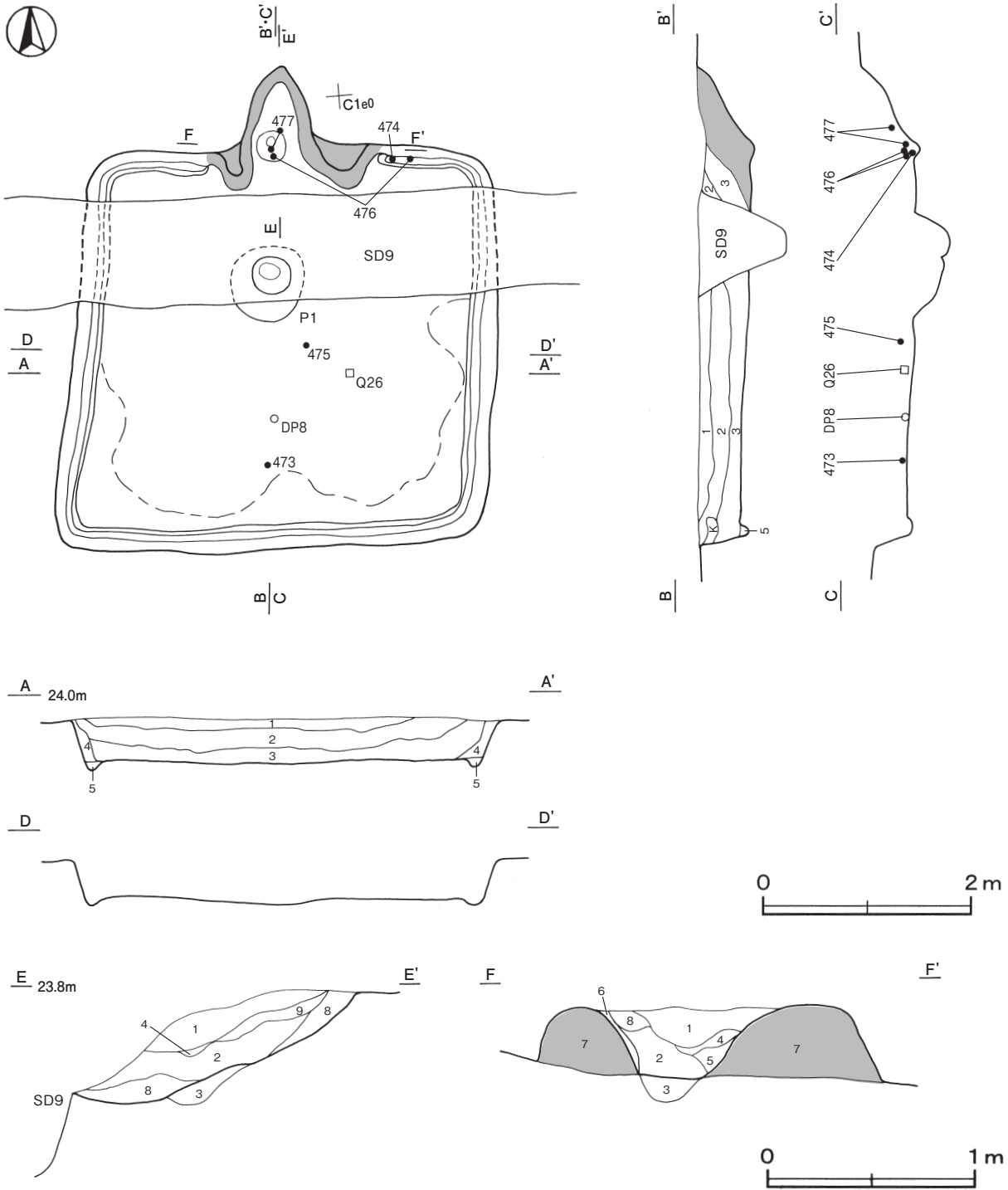
床 中央部が若干低いほかはほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口南部が第9号溝に掘り込まれているため、確認された煙出部までの長さは123cm、燃焼部幅は36cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、砂質粘土を含む暗褐色土を積み上げて構築されている。第7層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き64cm、幅95cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を12cm掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。第3層の上面が最

終の火床面である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|----------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量, 砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| | | 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |



第198図 第50号住居跡実測図

ピット 深さ25cmで、中央部に位置しているが、性格は不明である。

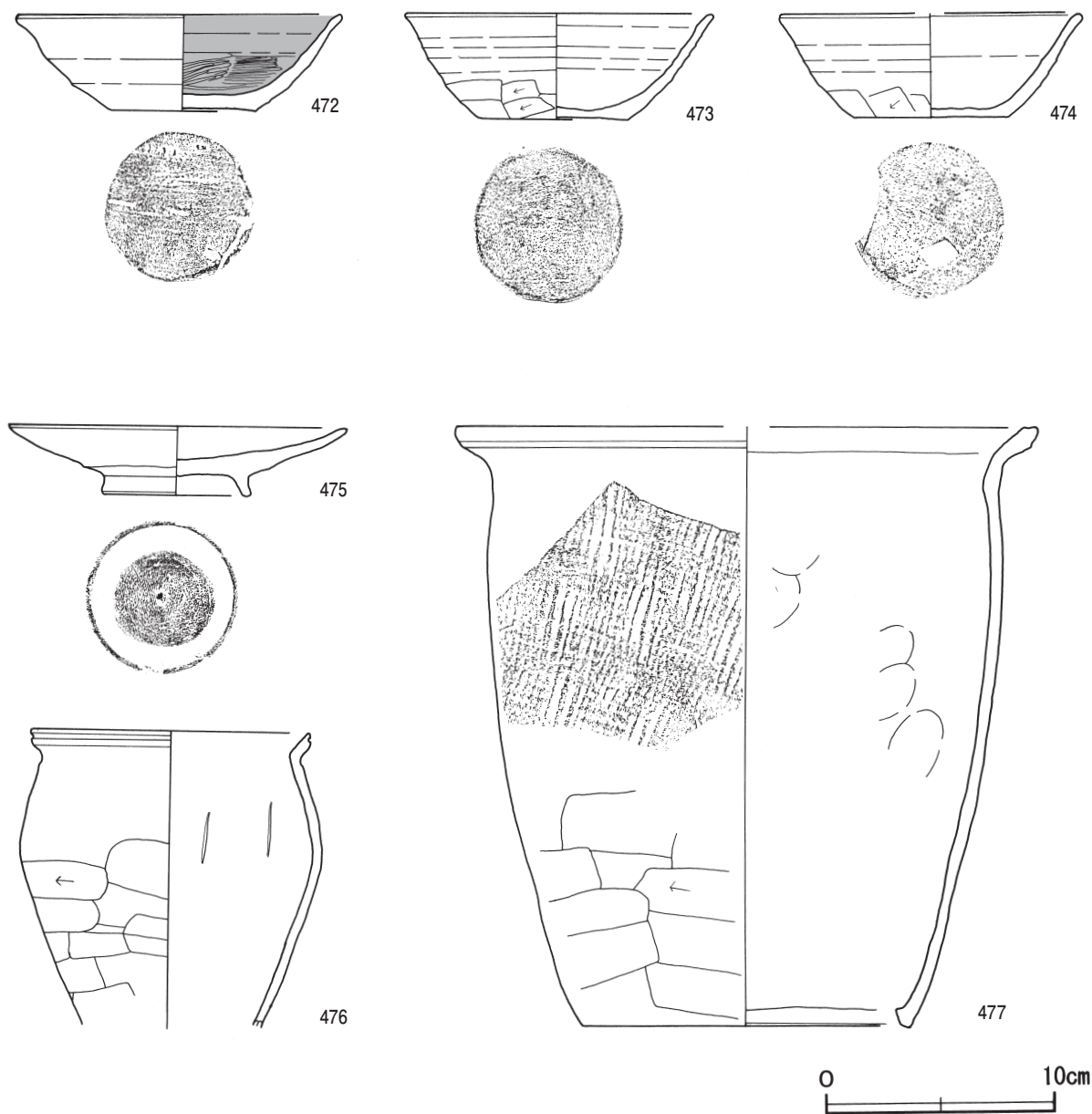
覆土 5層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

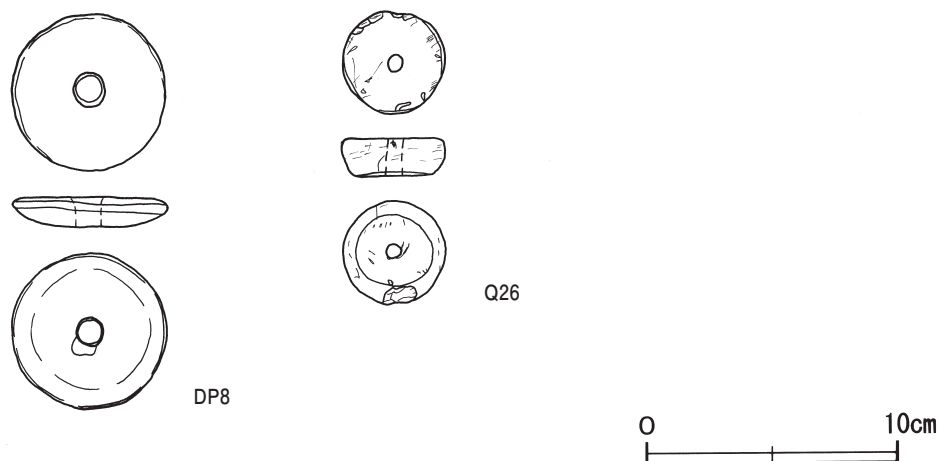
- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器坏・甕各1点、須恵器坏2点、高台付皿・甌各1点、土製紡錘車・石製紡錘車各1点のほか、土師器片441点（坏112・碗1・高台付坏2・甕326）、須恵器片155点（坏59・高台付坏1・高台付皿1・甕94）、陶器甕片3点が出土している。476・477は竈内、473とDP8は南壁際の床面、475・Q26は中央部の覆土中層、472は覆土中からそれぞれ出土している。474は北壁際の覆土下層から出土したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第199図 第50号住居跡出土遺物実測図（1）



第200図 第50号住居跡出土遺物実測図（2）

第50号住居跡出土遺物観察表（第199・200図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
472	土師器	坏	14.2	4.3	6.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	60% PL80
473	須恵器	坏	13.2	4.7	6.4	長石・石英・雲母	オリーブ黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	床面	98% PL80
474	須恵器	坏	[13.2]	4.6	6.6	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	50% PL80
475	須恵器	高台付皿	14.8	3.0	5.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼付	覆土中層	75% PL80
476	土師器	甕	12.0	(12.8)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下位ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈覆土下層	50% PL79
477	須恵器	甌	[25.5]	26.1	[14.4]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部格子状の叩き 体部下端ヘラ削り 内面指頭痕	竈覆土中層・下層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP8	紡錘車	6.2	1.2	1.3	41.8	土(長石・石英・雲母)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL92
Q26	紡錘車	4.1	1.5	0.7	(45.4)	粘板岩	全面研磨 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中層	PL92

第51号住居跡（第201～204図）

位置 調査区北西部のC1d5区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南西コーナーを第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.10m、短軸3.98mの方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は35～43cmで、外傾して立ち上がっている。

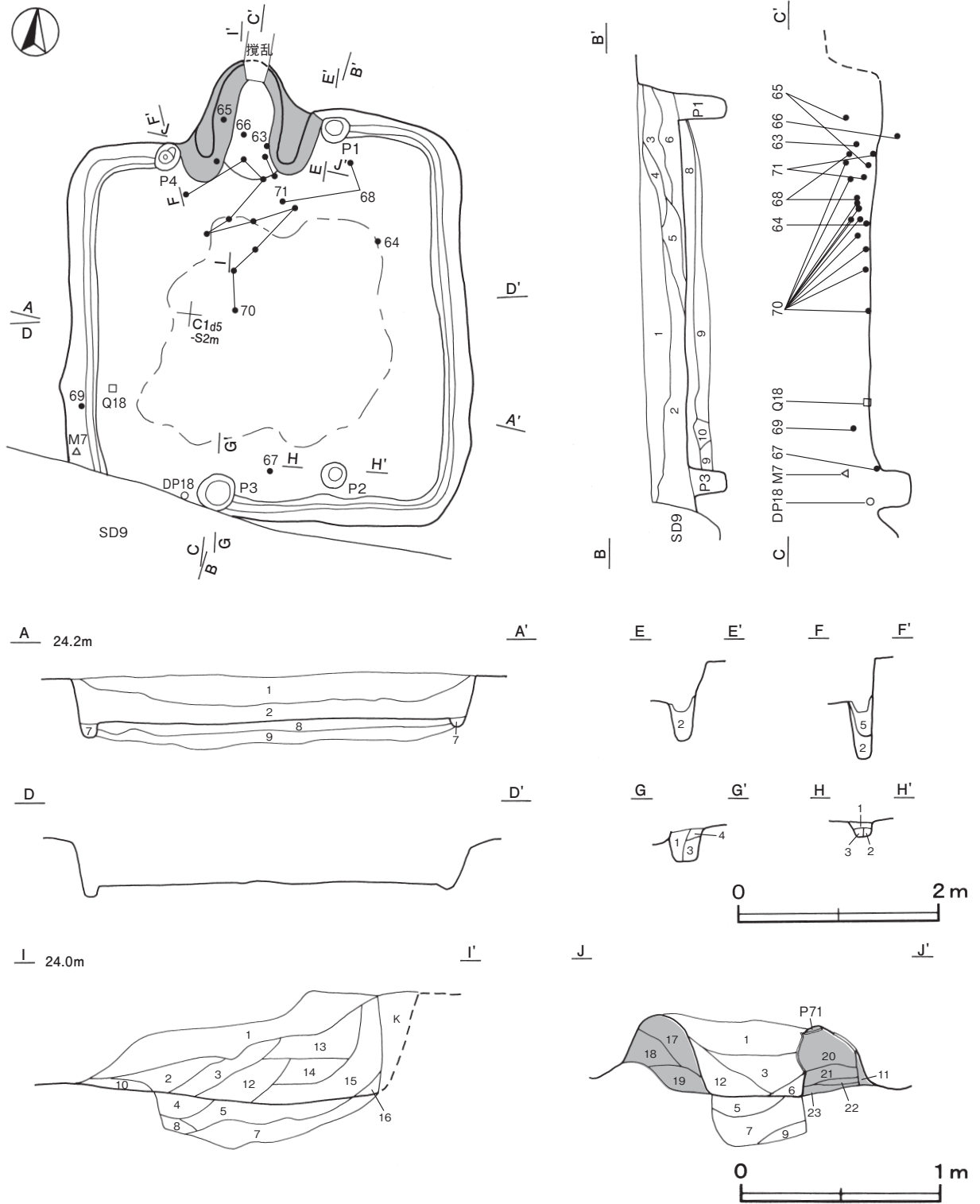
床 ほぼ平坦な貼床で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。貼床は、中央部を確認面から20cmの深さで方形に、南東コーナー部を確認面から40cmの深さの不整形な土坑状に掘り込み、ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子を含む褐色土・黒褐色土を埋めて構築されている。

竈 北壁西寄りに付設されている。煙出部上面は攪乱により削りとられているため、焚口部から煙出部までは推定118cm、燃焼部幅40cmである。左袖部は削り残した地山の上に、ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土ブロックを含む黄褐色土を積み上げて構築されている。右袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロックを含む灰褐色・暗赤褐色土を積み上げ、土師器甕を据え付けて構築されている。第11・17～23層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字形状に奥行き64cm、幅98cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量
- 3 極暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 灰微量
- 4 にぶい褐色 ロームブロック・灰中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

- 5 灰褐色 灰中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 極暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 にぶい褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 極暗赤褐色 ロームブロック中量
- 9 褐色 ロームブロック中量, ローム粒子少量



第201図 第51号住居跡実測図(1)

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|----------------------------|
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 17 黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 11 明赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量 | 18 明黄橙色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 12 明赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 19 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 13 明赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 20 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 14 極暗赤褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土ブロック少量 | 21 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 15 赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック, 粘土粒子微量 | 22 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 16 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 23 黒褐色 | 炭化物少量 |

ピット 4か所。P1・P4は深さ39cm・58cmで、いずれも北壁際に、P2・P3は深さ20cm・34cmで、いずれも南壁寄りに位置している。いずれも壁柱穴で主柱穴である。

ピット土層解説

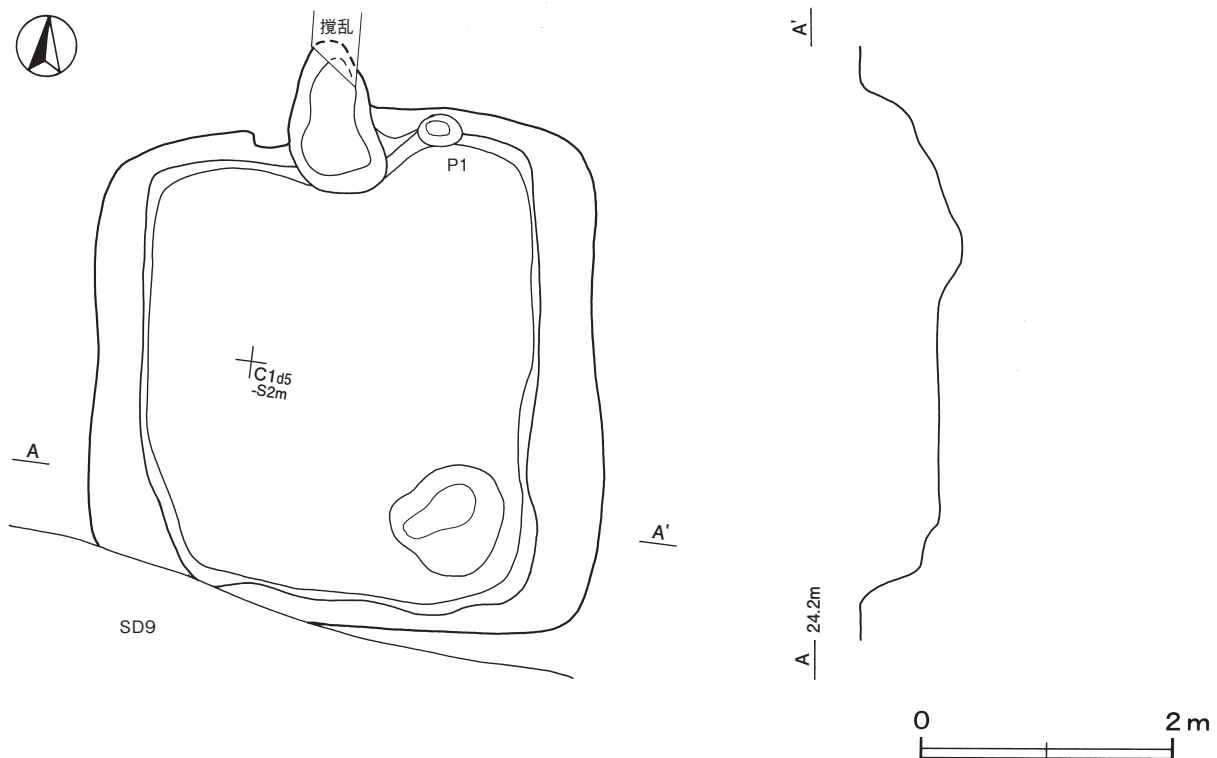
- | | | | |
|--------|-----------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

覆土 7層に分層できる。第8～10層は貼床の構築土である。レンズ状の堆積から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量(壁溝) |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 8 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 黒色 | ローム粒子・焼土粒子微量, 粘性強 |
| 5 褐色 | 砂粒少量, ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |

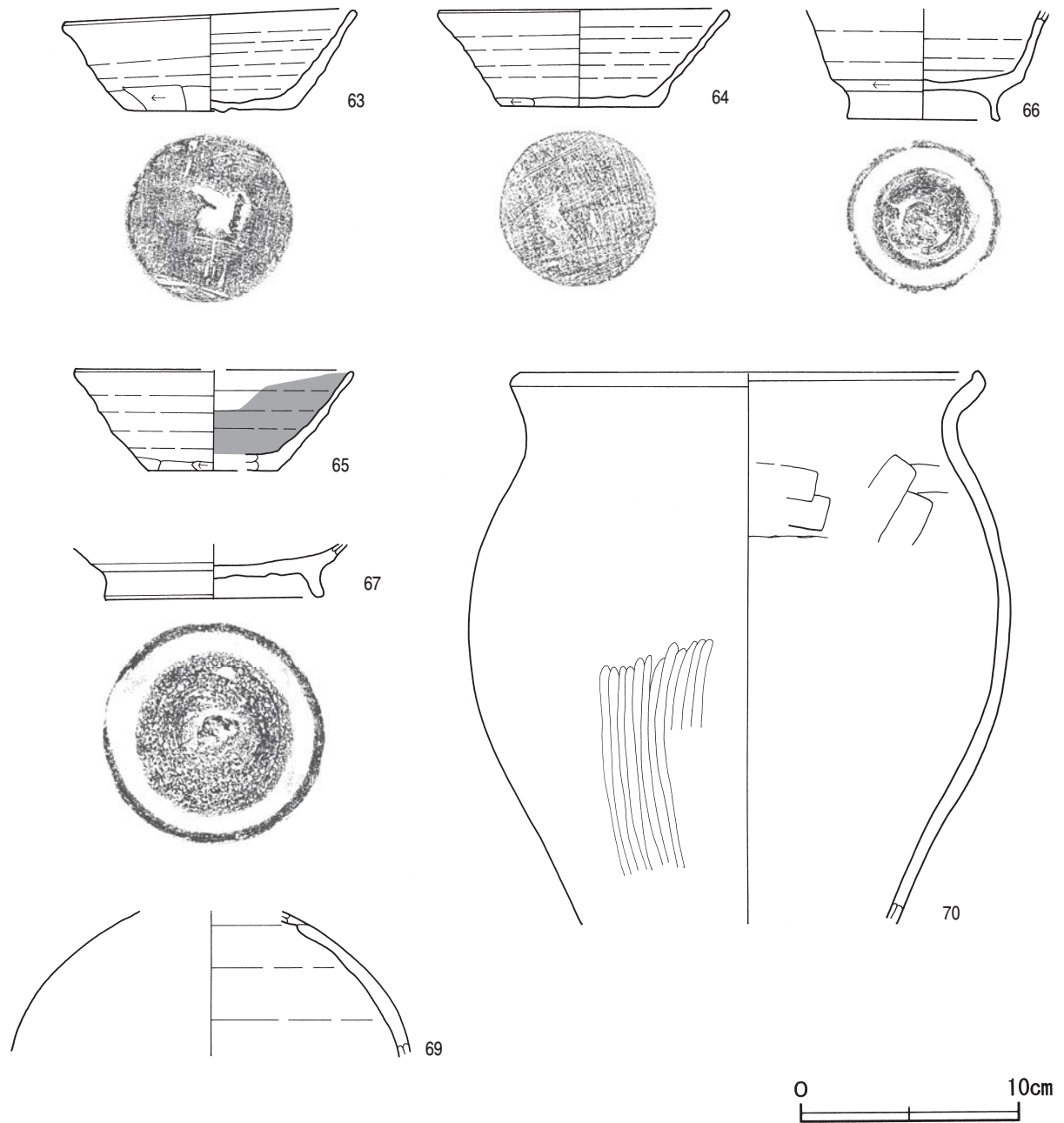
遺物出土状況 土師器甕1点, 須恵器坏3点, 高台付坏1点, 盤2点, 甑1点, 灰釉陶器長頸瓶1点, 紡錘車・凹石・釘各1点のほか, 土師器甕片266点, 須恵器片73点(坏36・蓋1・甕35・高台付坏1)が出土している。63は竈の覆土下層, 64は東部の床面, 66は竈の掘方内, 67は南部の床面, 69は西壁際の覆土中層, Q18は西壁



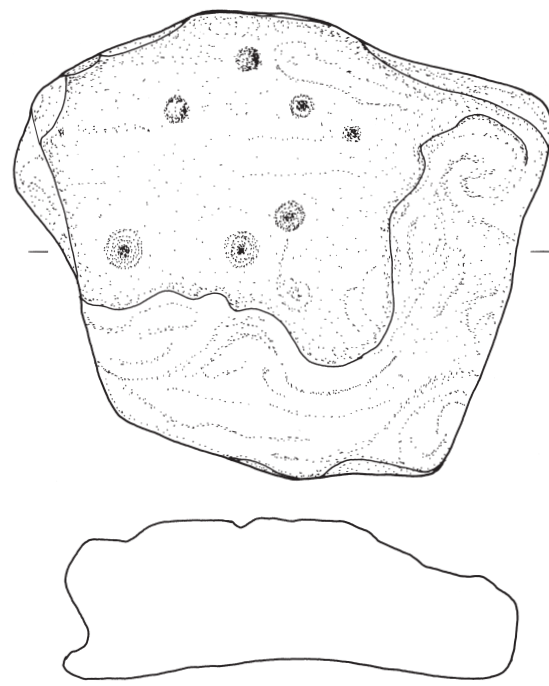
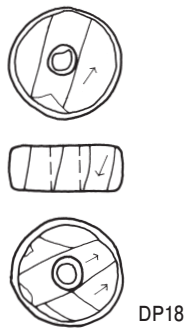
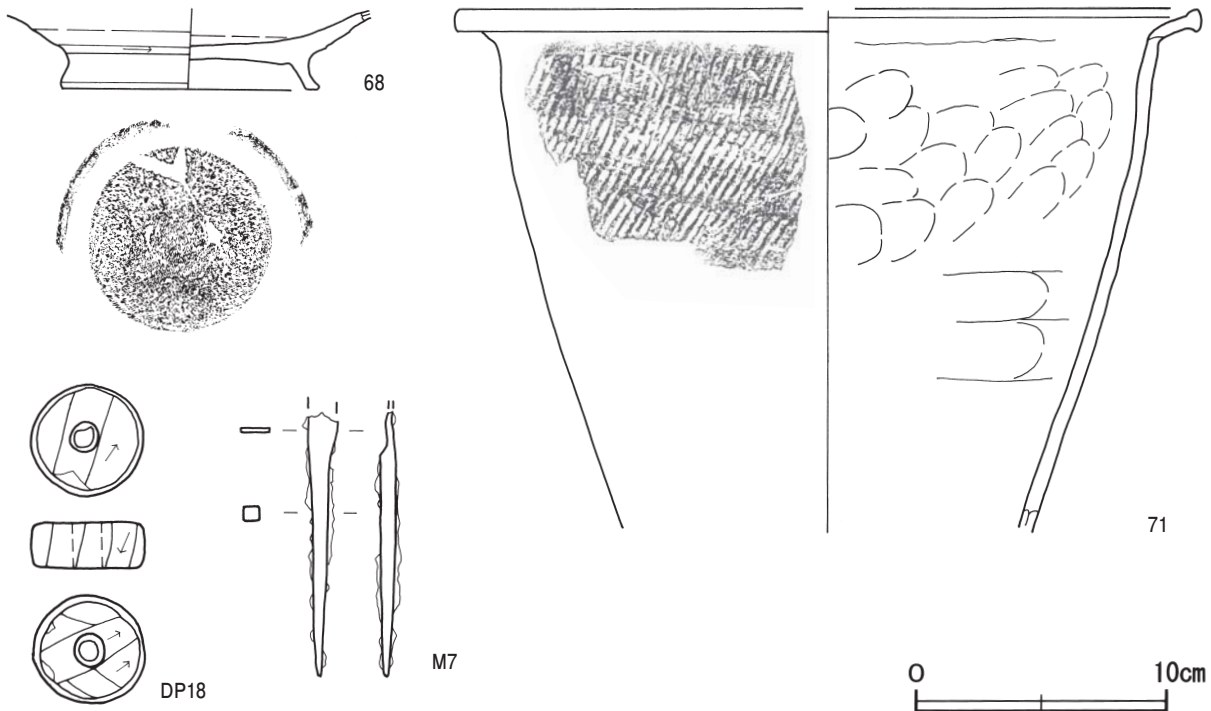
第202図 第51号住居跡実測図(2)

際の床面，M7は南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。65は竈左袖部付近の火床面と竈の覆土中層から，68は北側の覆土下層から中層にかけて，70は中央部の床面から北側の覆土中層にかけて，71は右袖部付近の覆土下層と竈の火床部の底面付近から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 本跡は北壁の竈の両側に支柱穴を持つ壁柱穴の住居跡である。時期は，出土土器や遺構の形状から9世紀前葉に比定できる。本跡の貼床の構築土は，他の住居跡とは異なり，粘性の強い黒色土が用いられていた。土壌分析の結果，この黒色土には耐乾性に富んだ陸生珪藻が90パーセント含まれており，床面の湿気を吸収する性質の土であったことが判明した。



第203図 第51号住居跡出土遺物実測図（1）



第204図 第51号住居跡出土遺物実測図(2)

第51号住居跡出土遺物観察表(第203・204図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
63	須恵器	坏	13.4	4.6	7.8	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向手持ちへら削り	覆土下層	80% PL81
64	須恵器	坏	13.2	4.5	7.2	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向手持ちへら削り	床面	70% PL81
65	須恵器	坏	[12.8]	4.6	[6.0]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方方向手持ちへら削り 二次焼成	火床面	30%
66	須恵器	高台付坏	—	(5.1)	7.0	長石・雲母	褐灰	普通	底部回転へら削り後, 高台貼り付け	竈の掘方	30%
67	須恵器	盤	—	(2.5)	10.0	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	底部回転へら削り後, 高台貼り付け	床面	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
68	須恵器	盤	—	(32)	[10.2]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	30%
69	灰釉陶器	長頸瓶	—	(6.6)	—	緻密	灰オリーブ	良好	三段接合 オリーブ灰釉 井ヶ谷78号窯式	覆土中層	10%
70	土師器	甕	[21.0]	(25.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	60% PL80
71	須恵器	甌	[29.4]	(20.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	不良	体部縦位の平行叩き 内面指頭押圧 輪積痕	覆土下層	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP18	紡錘車	4.4	1.8	1.1	42.5	土師器転用	上下、側面不定方向のヘラ削り	床面	PL92

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	凹石	24.9	28.6	8.1	7520.0	雲母片岩	凹部8か所	床面	PL93
M7	釘	(10.6)	(1.0)	0.6	(18.7)	鉄	断面方形	覆土上層	PL94

第52号住居跡（第205・206図）

位置 調査区北西部のC 2g9区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.87m、短軸3.50mの長方形で、主軸方向はN-100°-Eである。壁高は18～30cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部に硬化面が認められる。

竈 東壁南寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで90cm、燃焼部幅は42cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを含む灰褐色土を積み上げて構築されている。また、右袖部の補強材として、土師器甕1点が使用されている。第7～12層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き31cm、幅74cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	8	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	9	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量、粘土粒子・灰微量
3	黒褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子・灰微量	10	明赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	11	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	12	灰褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量			
7	極暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量			

ピット 深さ34cmで、北西コーナー部に位置しているが、性格は不明である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含み、不自然な堆積であることから埋め戻されている。

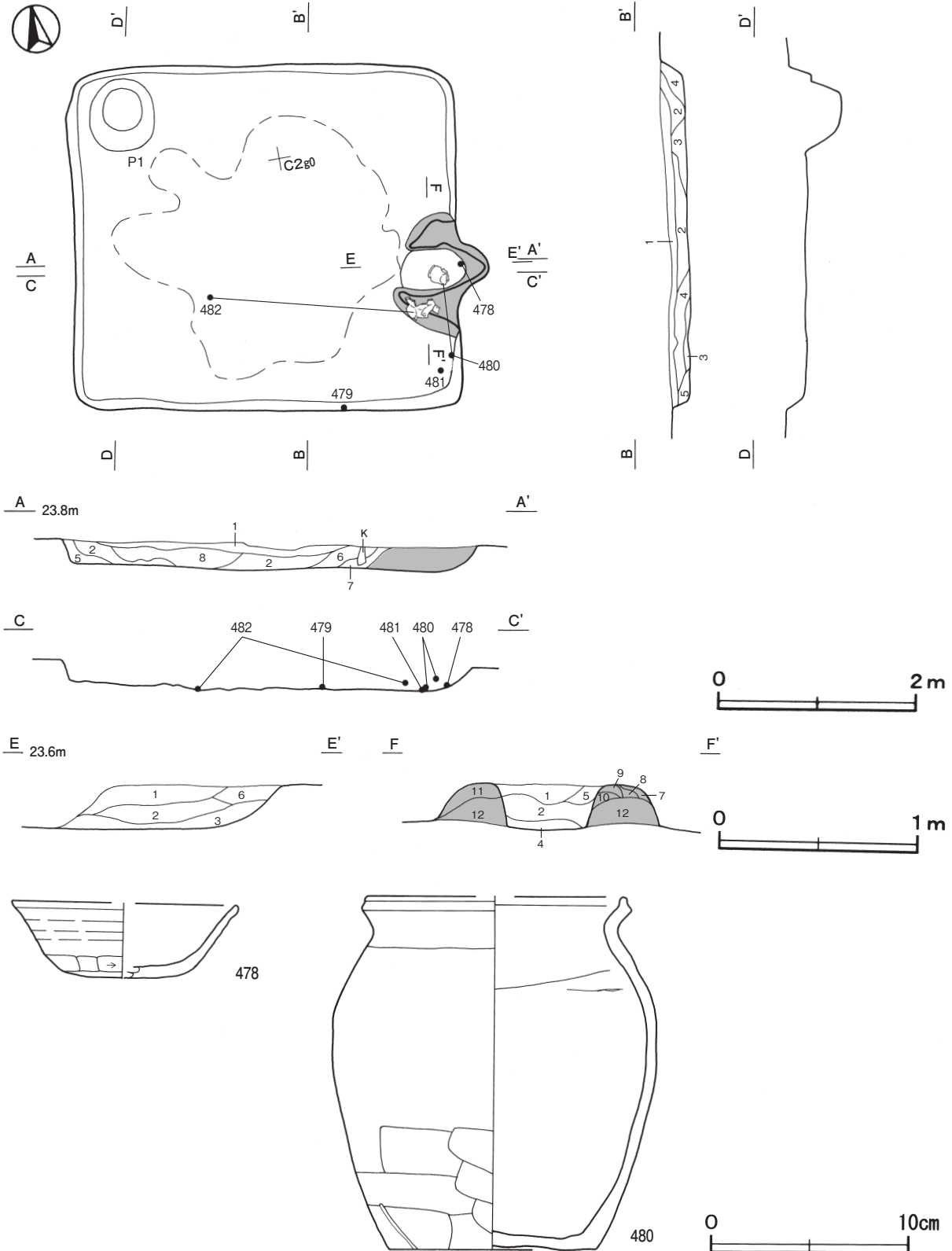
土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	6	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、粘土ブロック微量
2	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	7	暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量、粘土ブロック・ローム粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量			
5	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量			

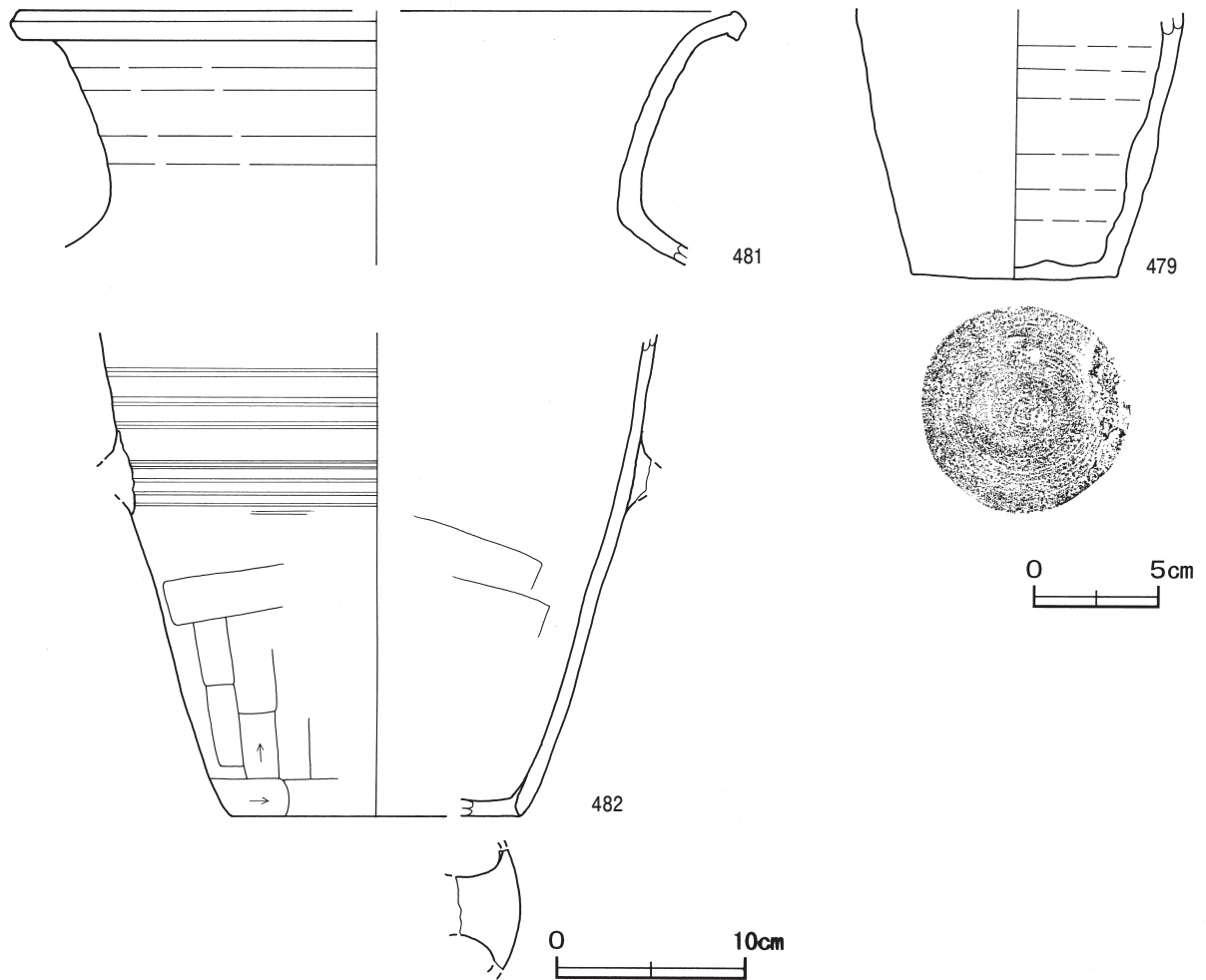
遺物出土状況 土師器坏・小形甕・甌各1点、須恵器甕・灰釉陶器長頸瓶各1点ずつのほか、土師器片165点（坏28・高台付坏1・甕136）、須恵器片25点（坏3・甕22）、陶器皿片1点が出土している。480は竈の火床面に据えられた状態で出土しており、支脚として使用されていたものと考えられる。482は右袖部に貼り付けられた

状態で出土しており、竈の補強材として使用されていたものである。481は南東コーナー部の床面から、479は南壁際の覆土下層から、478は竈の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第205図 第52号住居跡・出土遺物実測図



第206図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表（第205・206図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
478	土師器	坏	[11.2]	3.8	6.3	長石・石英・礫	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	竈覆土下層	25%
479	須恵器	長頸瓶カ	—	(10.8)	8.3	長石・石英	黄灰	普通	体部外面・底部内面自然軸 底部回転ヘラ削り	覆土下層	15%
480	土師器	小形甕	[12.9]	17.9	10.4	長石・石英	明赤褐	普通	体部ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	竈火床面	50% PL80
481	須恵器	甕	[38.4]	(13.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	床面	10%
482	土師器	甕	—	(25.5)	15.4	長石・石英・礫	にぶい黄橙	普通	体部ヘラ削り 把手部欠損	竈覆土下層	40%

第55号住居跡（第207～209図）

位置 調査区中央部のD 3 e2区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第40号住居跡を掘り込み、第100号住居跡の上部に構築されており、本跡が最も新しい。

規模と形状 長軸5.45m、短軸5.00mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は6～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦な貼床で、支柱穴の内側に硬化面が認められる。壁溝が北壁の東側を除いて巡っている。貼床は竈前面部では、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・粘性の強い黒色土などを含む赤褐色土と黄褐色土、ローム

ブロックを含む明黄褐色土を交互に水平に、その他の部分ではロームブロック・粘性の強い黒色土を含む褐色土と黒褐色土を交互に水平に突き固めており、版築状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで119cm、燃焼部幅55cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、ロームブロックと砂質粘土ブロックを含むにぶい褐色土と暗褐色土を積み上げ、上部には土師器甕を貼り付けて構築されている。第6～9層が袖部の構築土である。煙道部は壁外へは掘り込まれていない。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	8 褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	10 にぶい赤褐色	土層第29層と同一
4 暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	11 黒褐色	土層第26層と同一
5 暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・砂質粘土粒子少量	12 褐色	土層第25層と同一
6 暗褐色	ロームブロック多量、砂質粘土粒子中量	13 にぶい橙色	土層第28層と同一
7 にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量	14 にぶい橙色	土層第27層と同一

ピット 6か所。P1～P4は深さ24～37cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ45cmで南壁寄りの中央部に位置していることから出入り口に伴うピットである。P6は深さ27cmで性格は不明である。

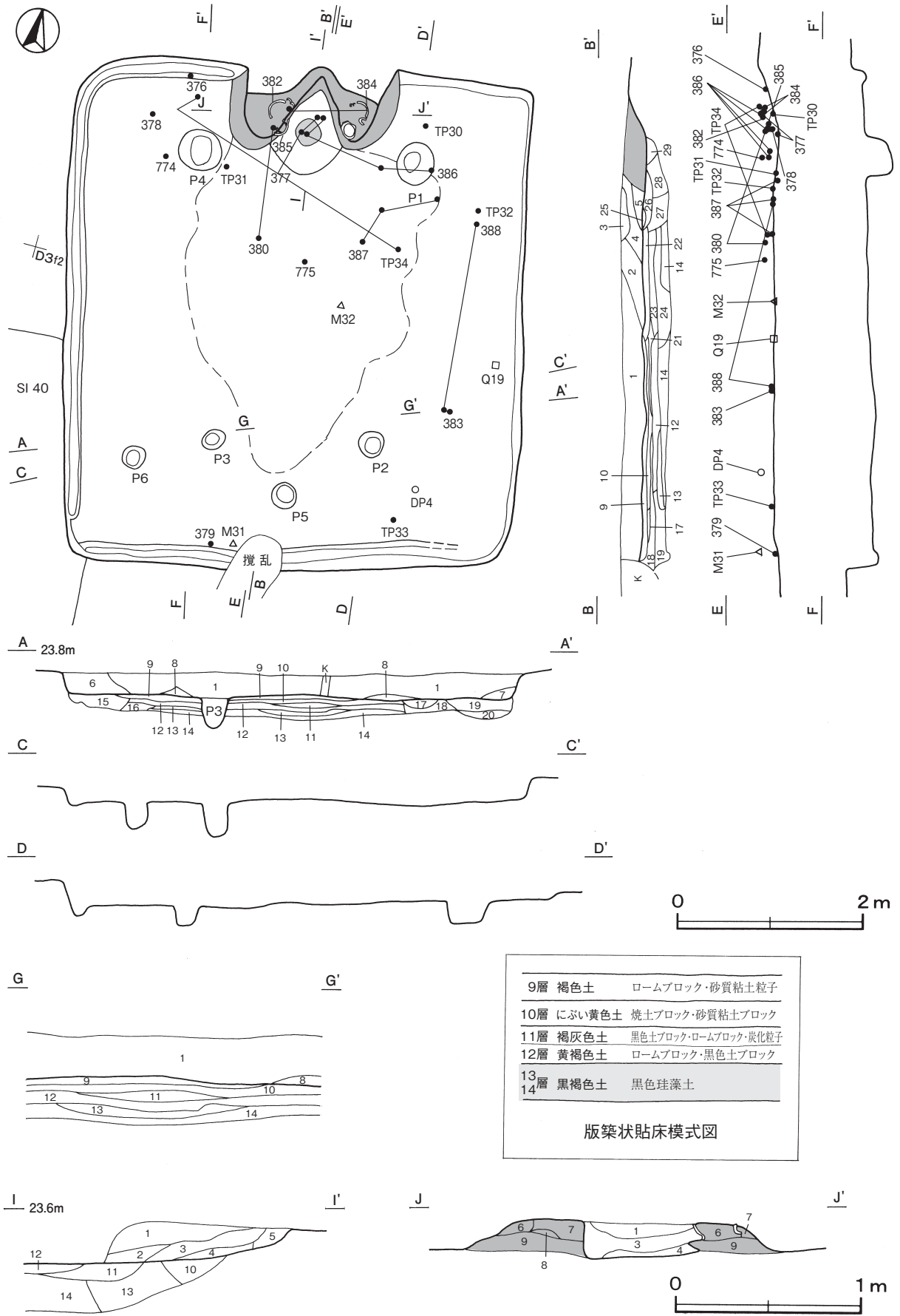
覆土 8層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。第9～29層は版築状を呈する貼床の構築土である。

土層解説

1 極暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	16 灰黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
2 極暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	17 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18 暗褐色	ロームブロック少量
4 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	19 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロック少量
5 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	20 褐色	焼土粒子少量
6 暗褐色	ロームブロック多量	21 黒褐色	砂質粘土粒子少量
7 極暗褐色	ローム粒子少量	22 にぶい橙色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・黒色土ブロック中量
8 明褐色	ロームブロック中量	23 灰黄色	砂質粘土ブロック・黒色土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
9 褐色	ロームブロック多量、砂質粘土粒子少量	24 明黄褐色	ロームブロック多量
10 にぶい黄色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量	25 褐色	ロームブロック・焼土ブロック多量
11 褐灰色	黒色土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量	26 黒褐色	黒色土ブロック多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
12 黄褐色	ロームブロック多量、黒色土ブロック少量	27 にぶい橙色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量
13 黒褐色	黒色土ブロック多量、ロームブロック中量	28 にぶい橙色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量
14 黒褐色	黒色土ブロック多量、ロームブロック少量	29 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロックが赤変硬化
15 にぶい黄褐色	焼土ブロック少量		

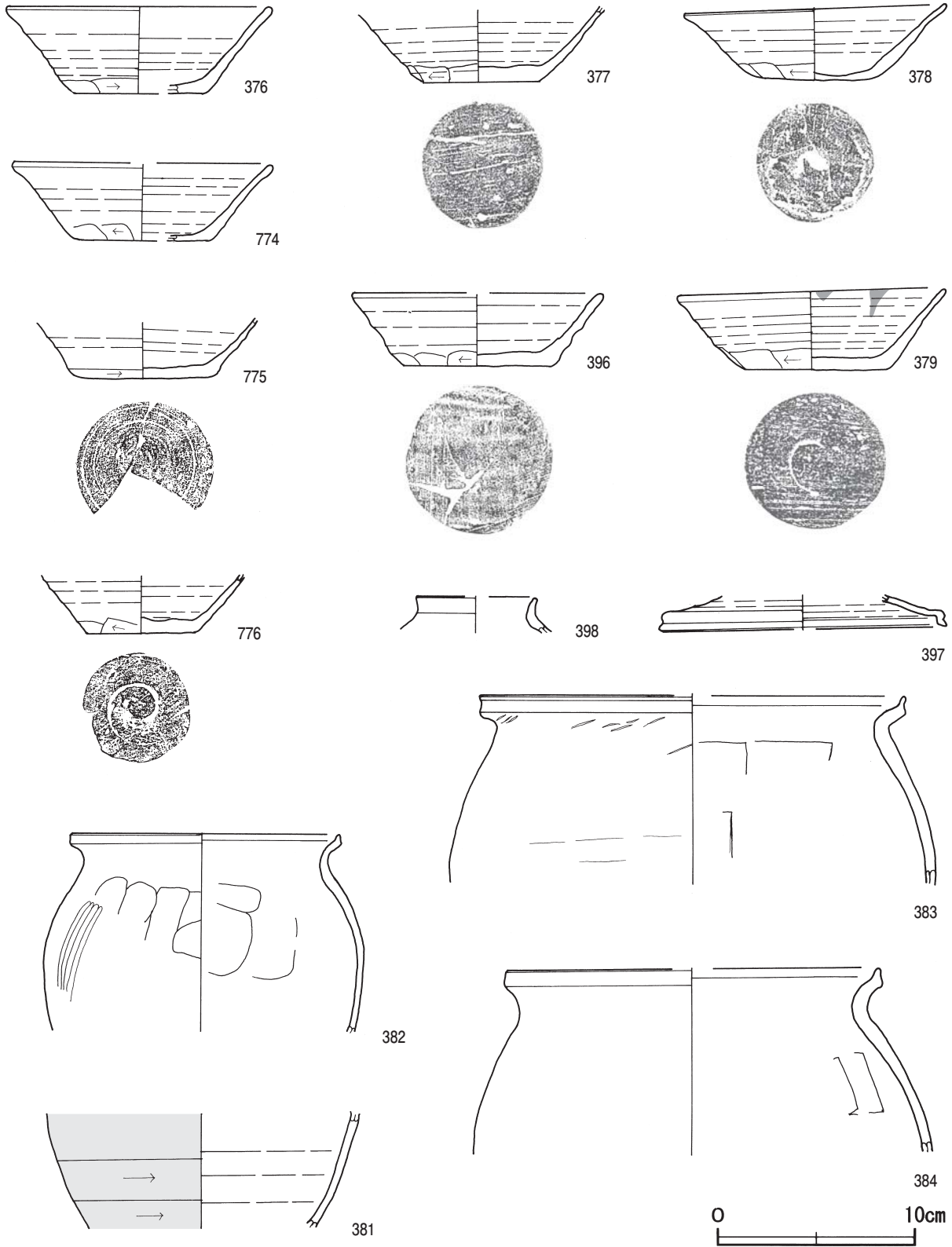
遺物出土状況 土師器小形甕1点、甕5点、須恵器坏8点、蓋・鉢・小形短頸壺・甌各1点、甕8点、灰釉陶器長頸瓶1点、石製紡錘車・砥石・管状土錘・釘カ・環状鉄製品・不明鉄製品各1点のほか、土師器片601点（坏3・鉢598）、須恵器片452点（坏272・高台付坏4・盤7・蓋12・甕152・甌5）が出土している。379は南壁際、383は東部、387は北東部、388は東部、TP32・Q19は東部壁際、TP33は南東部、TP30・TP31は北部の床面からそれぞれ出土している。376は北壁際、378は北西コーナー部、775は中央部、DP4は南東部、TP34は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。377は竈の覆土中層と北東部の床面から出土した破片、386は竈の覆土下層と北東部の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合している。380と385は左袖部に逆位で、382は右袖部に逆位で、384は右袖部と左袖部に2分割されて逆位で埋め込まれた状態でそれぞれ出土しており、袖の補強材として使用されたものである。381・776・TP27～TP29は覆土中からそれぞれ出土している。396～398・M32・M34・Q21は貼床の構築土内から出土したもので、貼床構築時に混入したものである。

所見 時期は9世紀中葉に比定できる。本跡は第100号住居を拡張して建て替えており、その際の貼床の構築

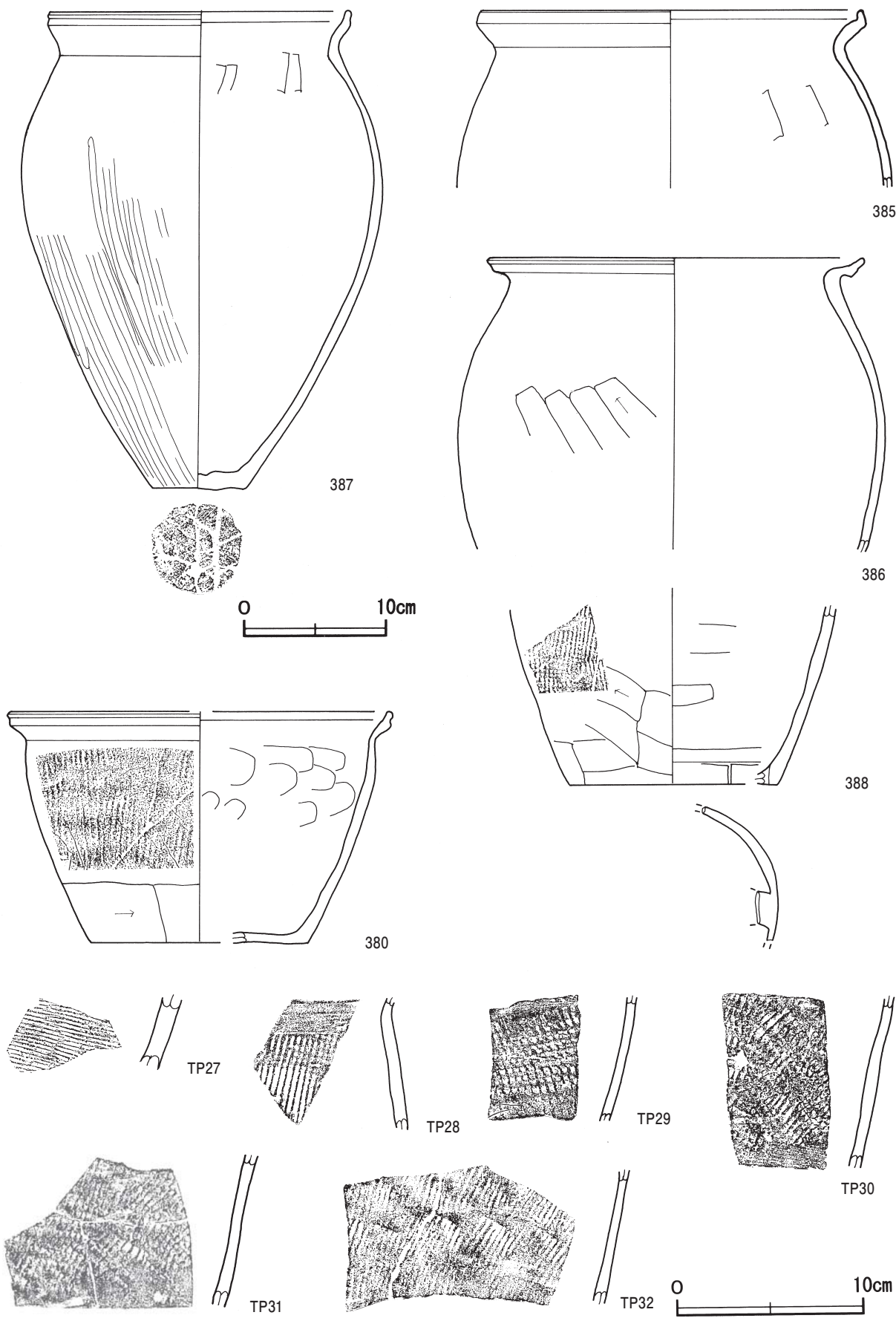


第207図 第55号住居跡実測図

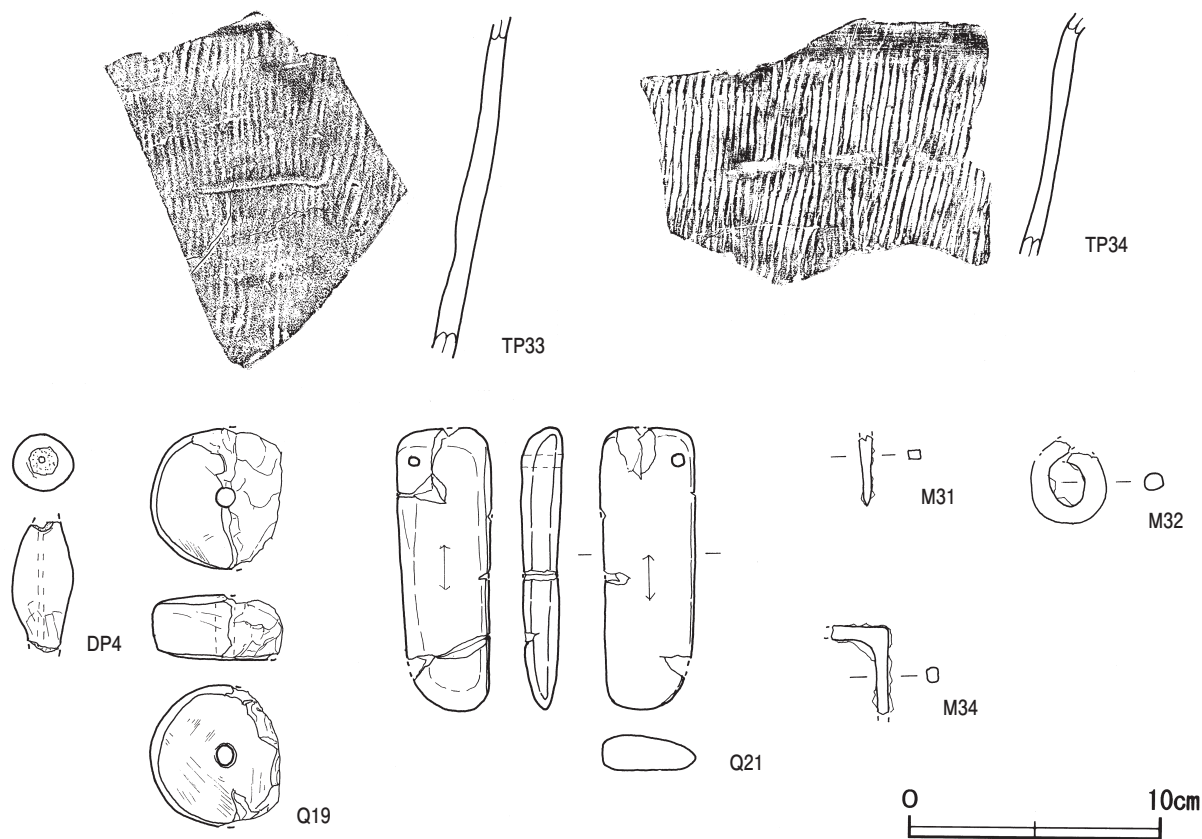
法に特徴がある。最下層に粘性のある珪藻土を埋め、ロームブロック・砂質粘土ブロック・黒色土ブロックを含む褐色土、黄褐色土、黒色土を交互に叩き締める版築技法を用いている。同様な技法を用いているのは第63号住居跡、簡略化したものでは第23号住居跡も挙げることができる。



第208図 第55号住居跡出土遺物実測図（1）



第209図 第55号住居跡出土遺物実測図(2)



第210図 第55号住居跡出土遺物実測図（3）

第55号住居跡出土遺物観察表（第208～210図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
376	須恵器	坏	[13.2]	4.4	[6.6]	長石・石英	灰黄色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	30%
377	須恵器	坏	—	(3.7)	6.1	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 二次焼成	床面 竈覆土中層	40%
378	須恵器	坏	13.2	4.8	6.0	長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り 痕を残す一方向のヘラ削り	覆土下層	90% PL81
379	須恵器	坏	13.7	4.1	7.1	長石・雲母	灰黄褐	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り 痕を残す一方向のヘラ削り 二次焼成 油煙付着	床面	90% PL81
774	須恵器	坏	[13.0]	4.0	[6.8]	長石・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	竈覆土中	30%
775	須恵器	坏	—	(3.0)	7.0	長石・雲母	橙	—	体部下端・底部回転ヘラ削り 二次焼成	覆土下層	50%
776	須恵器	坏	—	(2.9)	5.7	長石	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り 痕を残す一方向のヘラ削り	覆土中	40%
396	須恵器	坏	[12.6]	3.7	7.6	長石	青灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り	貼床構築土	60%
397	須恵器	蓋	[14.5]	(1.7)	—	細砂, 緻密	灰	普通	ロクロナデ	貼床構築土	5%
398	須恵器	小形短頸壺	[6.0]	(1.8)	—	細砂	灰	普通	自然釉付着	貼床構築土	5%
380	須恵器	鉢	[27.0]	16.5	15.6	長石・雲母, 粗い	にぶい黄橙	—	体部下位手持ちヘラ削り 体部縦位の平行叩き 内面当て具痕	左袖補強材	40%
381	灰釉陶器	長頸瓶	—	(5.8)	—	砂粒	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	5%
382	土師器	小形甕	13.6	(10.0)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	—	体部上位ヘラ磨き後, 縦方向のヘラナデ 内面押圧痕	右袖補強材	30%
383	土師器	甕	[21.4]	(9.5)	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部上位内・外面ヘラ当て痕	床面	5%
384	土師器	甕	[18.9]	(9.3)	—	長石・雲母, 粗い	にぶい褐	普通	体部上位ヘラ当て痕	両袖補強材	5%
385	土師器	甕	20.3	(9.5)	—	長石, 粗い	明赤褐	普通	体部上位ヘラ当て痕	左袖補強材	20%
386	土師器	甕	19.8	(15.6)	—	長石, 粗い	明赤褐	普通	体部縦位のヘラナデ	覆土下層	20%
387	土師器	甕	21.3	34.1	6.8	長石, 粗い	明赤褐	普通	体部下半ヘラ磨き	床面	80% PL81
388	須恵器	甌	—	(12.6)	[15.0]	長石・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 擬格子文の叩き 内面ヘラナデ	床面	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP27	須恵器	甕	—	(4.0)	—	長石	褐灰	普通	外面横位の平行叩き	覆土中	
TP28	須恵器	甕	—	(7.1)	—	長石・雲母	灰黄	不良	外面擬格子の叩き	覆土中	
TP29	須恵器	甕	—	(6.7)	—	長石・雲母	にぶい黄褐	不良	外面格子状の叩き	覆土中	
TP30	須恵器	甕	—	(9.2)	—	長石・雲母	黄灰色	普通	外面斜位の平行叩き	床面	
TP31	須恵器	甕	—	(8.1)	—	長石・雲母	灰	普通	外面擬格子の叩き	床面	
TP32	須恵器	甕	—	(7.2)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	外面縦位の平行叩き	床面	
TP33	須恵器	甕	—	(13.5)	—	長石・雲母	暗灰	普通	外面縦位の平行叩き	床面	
TP34	須恵器	甕	—	(9.5)	—	長石・雲母	灰黄褐	普通	外面縦位の平行叩き	覆土下層	PL90

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
DP4	管状土錘	2.4	(5.3)	0.2	(22.9)	土(細砂・雲母)	ナデ	覆土下層	PL92
Q19	紡錘車	5.6	2.6	0.8	(91.5)	凝灰岩	断面逆台形 全面研磨	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	砥石	11.1	3.9	1.7	(82.5)	凝灰岩	砥面3面 揚げ砥石 一方向からの穿孔	貼床構築土	PL93

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M31	釘カ	(2.9)	(0.5)	(0.3)	(0.93)	鉄	断面長方形	覆土中層	
M32	環状鉄製品	(3.2)	—	0.7	(11.1)	鉄	断面隅丸方形	貼床構築土	
M34	不明鉄製品	(3.5)	(2.3)	(0.7)	(4.96)	鉄	断面方形	貼床構築土	

第100号住居跡 (第211図)

位置 調査区中央部のD 3 e2区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 上部に55号住居が構築されている。

規模と形状 長軸3.92m、短軸3.83mの方形で、主軸方向はN-13°-Wである。壁高は35~46cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で、南西部と壁際を除いて硬化面が認められる。貼床は、ロームブロックを含む黄褐色土と粘性の強い珪藻土である黒色土を埋土し構築されている。壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。上部に第55号住居が構築されているため遺存状況は悪く、確認できたのは、壁外へ楕円形状に奥行き110cm、幅100cm掘り込んだ煙道部及び燃焼部である。

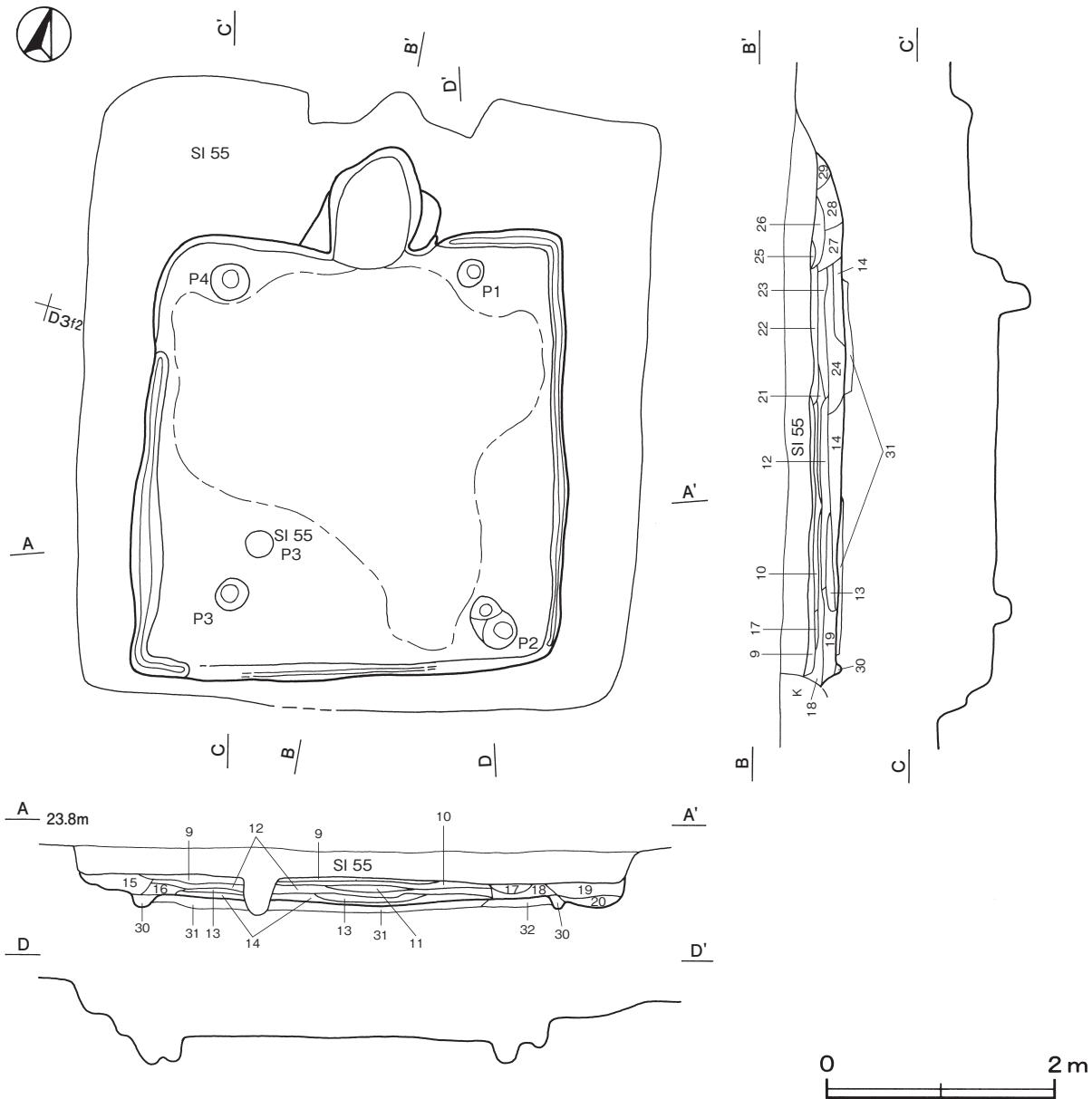
ピット 4か所。P 1~P 4は深さ21~29cmで、規模と位置から主柱穴である。

覆土 21層に分層できるが、いずれも第55号住居の貼床の構築土であることから、第55号住居跡の項で解説する。なお、第30層は壁溝の覆土、第31・32層は本跡の貼床の構築土である。

土層解説

30 暗褐色 ロームブロック少量 32 黒褐色 黒色土ブロック多量、砂質粘土粒子少量
31 黄褐色 ロームブロック・黒色土ブロック中量

所見 本跡は第55号住居に拡張して建て替えられており、本跡に属する遺物がないため時期を断定することはできないが、第55号住居の時期と時間差はあまりないと思われる、9世紀中葉に比定できると考える。



第211図 第100号住居跡実測図

第56号住居跡（第212・213図）

位置 調査区北西部のC 2 e2区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第57号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外であるため、東西軸3.80mで、南北軸は2.20mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-78°-Wの長方形と推測できる。壁高は30~34cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

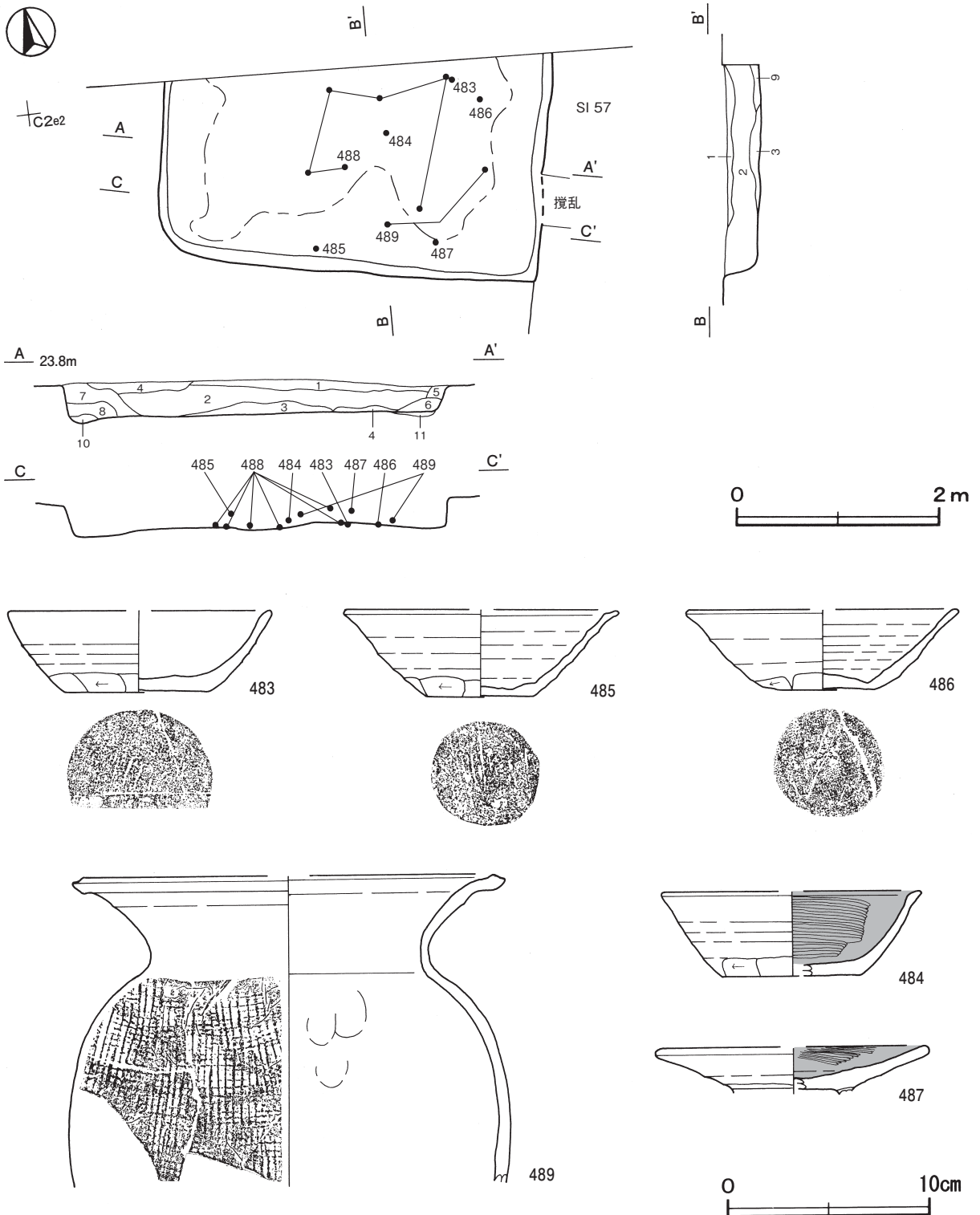
覆土 10層に分層できる。焼土ブロックや炭化物を多く含む人為堆積である。第11層は貼床の構築土である。

土層解説

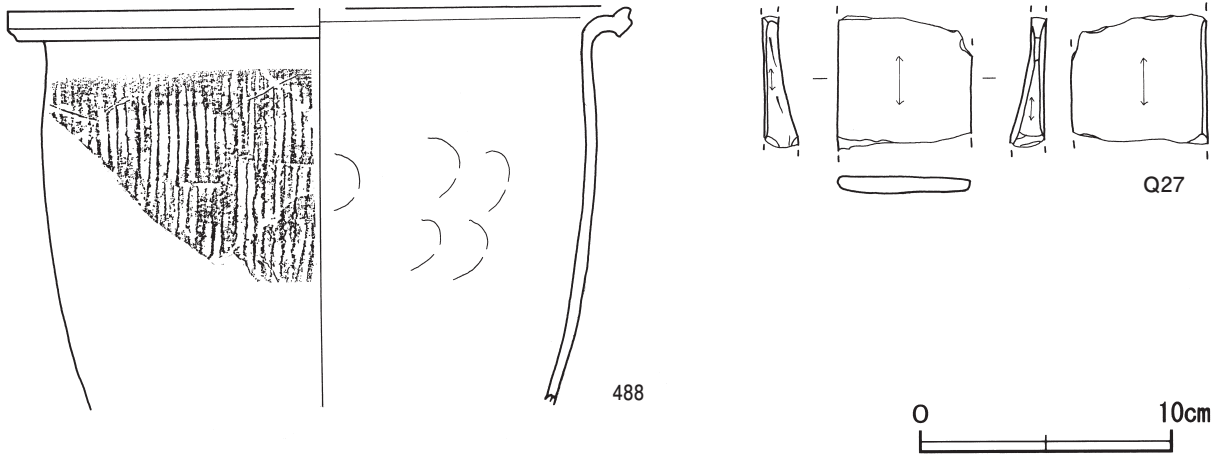
- | | | | |
|----------|--------------------|--------|---------------|
| 1 褐色 | 炭化材・ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 褐色 | 焼土粒子少量 |
| 2 褐色 | 炭化材中量、焼土ブロック少量 | 8 暗褐色 | 炭化物少量 |
| 3 明褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量 | 9 暗褐色 | 炭化物中量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 5 褐色 | 焼土粒子少量 | 11 褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器杯2点，高台付皿1点，須恵器杯・甕各2点，砥石1点のほか，土師器片64点（坏9・高台付坏1・皿1・高台付皿1・甕52），須恵器片62点（坏13・甕49），砥石1点が出土している。483・486は東部の床面から，485・487は南壁際，484は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。488は中央部の覆土下層，489は南側の覆土中層から下層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第212図 第56号住居跡・出土遺物実測図



第213図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表（第212・213図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
483	土師器	坏	[13.0]	4.0	7.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り	床面	50% PL81
484	土師器	坏	[12.8]	4.2	[6.8]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部ヘラ切り後、一方方向のヘラ削り 体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中層	45% PL81
485	須恵器	坏	[13.5]	4.3	5.3	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り	覆土中層	60%
486	須恵器	坏	[13.3]	4.0	5.1	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り	床面	50% PL81
487	土師器	高台付皿	[13.0]	(2.3)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中層	5%
488	須恵器	甕	[24.7]	(15.7)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部縦位の平行叩き 指頭痕	覆土下層	25%
489	須恵器	甕	[20.2]	(15.3)	—	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	体部格子状の叩き 指頭痕	覆土中層・下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q27	砥石	(5.2)	5.4	1.4	(40.0)	凝灰岩	砥面4点のうち1面に溝状の研磨痕有り	覆土中	

第60号住居跡（第214図）

位置 調査区南西部のE1d3区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外であるため、南北軸2.28m、東西軸1.69mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-28°-Eの方形もしくは長方形と推測される。壁高は27cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦である。壁溝が東壁下のみを巡っている。また、東部の床面から焼土が確認されている。

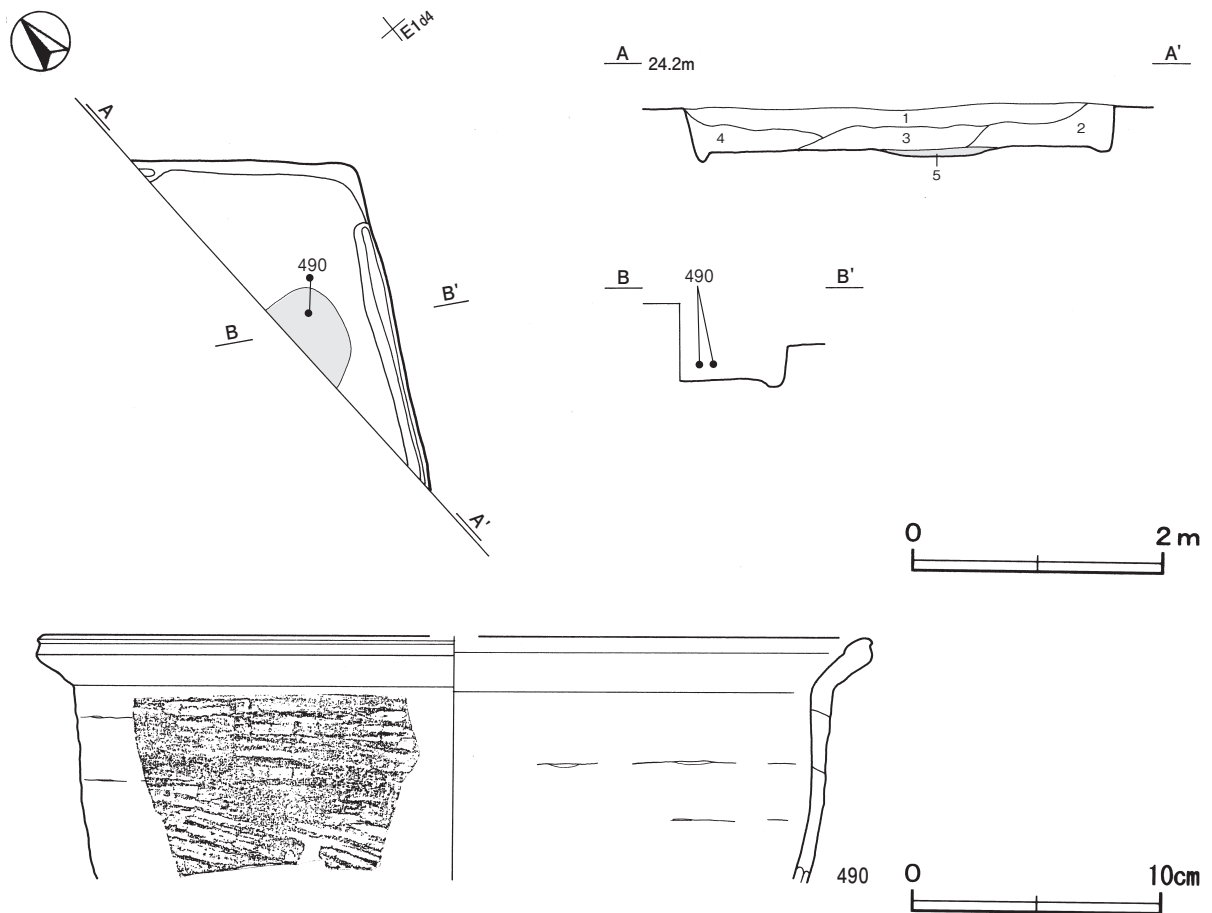
覆土 5層に分層できる。第1層は自然堆積であるが、第2～5層は不自然な堆積であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 5 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 須恵器甕1点のほか、土師器片81点（坏13・高台付坏1・甕67）、須恵器片14点（坏6・甕8）が出土している。また、流れ込んだ陶器片1点も出土している。490は東部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第214図 第60号住居跡・出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表（第214図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
490	須恵器	甌	[33.0]	(9.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部横位の叩き	覆土中層	10%

第63号住居跡（第215～217図）

位置 調査区南西部のE 2g9区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第62号住居跡，第159号土坑を掘り込み，第124号住居跡の上部に構築されている。

規模と形状 長軸5.11m，短軸4.88mの方形で，主軸方向はN-6°-Wである。壁高は10～14cmで，やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。壁溝が北西部のみに巡っている。貼床は第124号住居跡の床面上にロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロックを含む褐色土・暗褐色土・明褐色土を5～8cmの厚さで交互に水平に貼り，竈前面から住居の中央部にかけて版築状を呈し，壁際に近づくに従い互層は見られなくなる。中央部は6層から構成されている。各層間には，極めて薄い粘性の強い黒色の珪藻土が存在する。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで112cm，燃焼部幅は44cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に，砂質粘土ブロックを含む灰褐色土を積み上げ，補強材として土師器甕が逆位で埋め込ま

れて構築されている。第16・17層は袖部の構築土である。また、煙道部は、壁外へ三角形に奥行き58cm、幅105cm掘り込んで構築されている。最終火床面は第13層の上面で、床面とほぼ同じ高さである。火床面は火を受けて赤変硬化している。第12～15層は火床部の埋土である。

甕土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	9	暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量
2	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量	11	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	12	暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量
5	暗褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	13	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量
6	暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量	14	褐色	ロームブロック中量
7	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量	15	褐色	ロームブロック少量
8	黒褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	16	にぶい黄褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子少量
			17	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量
			18	褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量

ピット 2か所。P1は深さ30cmで、北西コーナー部に位置しているが、性格は不明である。P2は深さ28cmで、南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

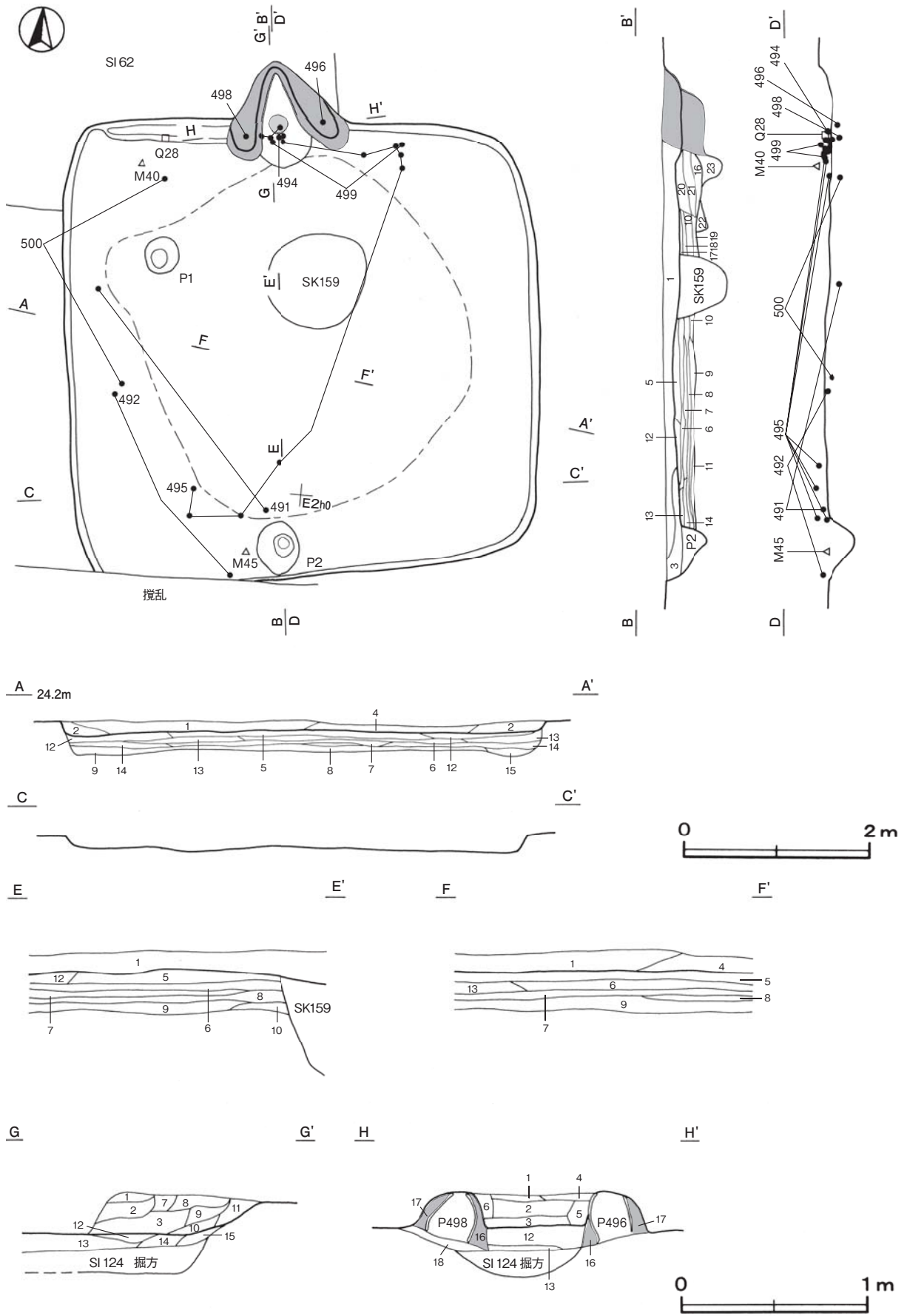
覆土 4層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。第5～21層は貼床の構築土、第22・23層は第124号住居跡の貼床の構築土である。

土層解説

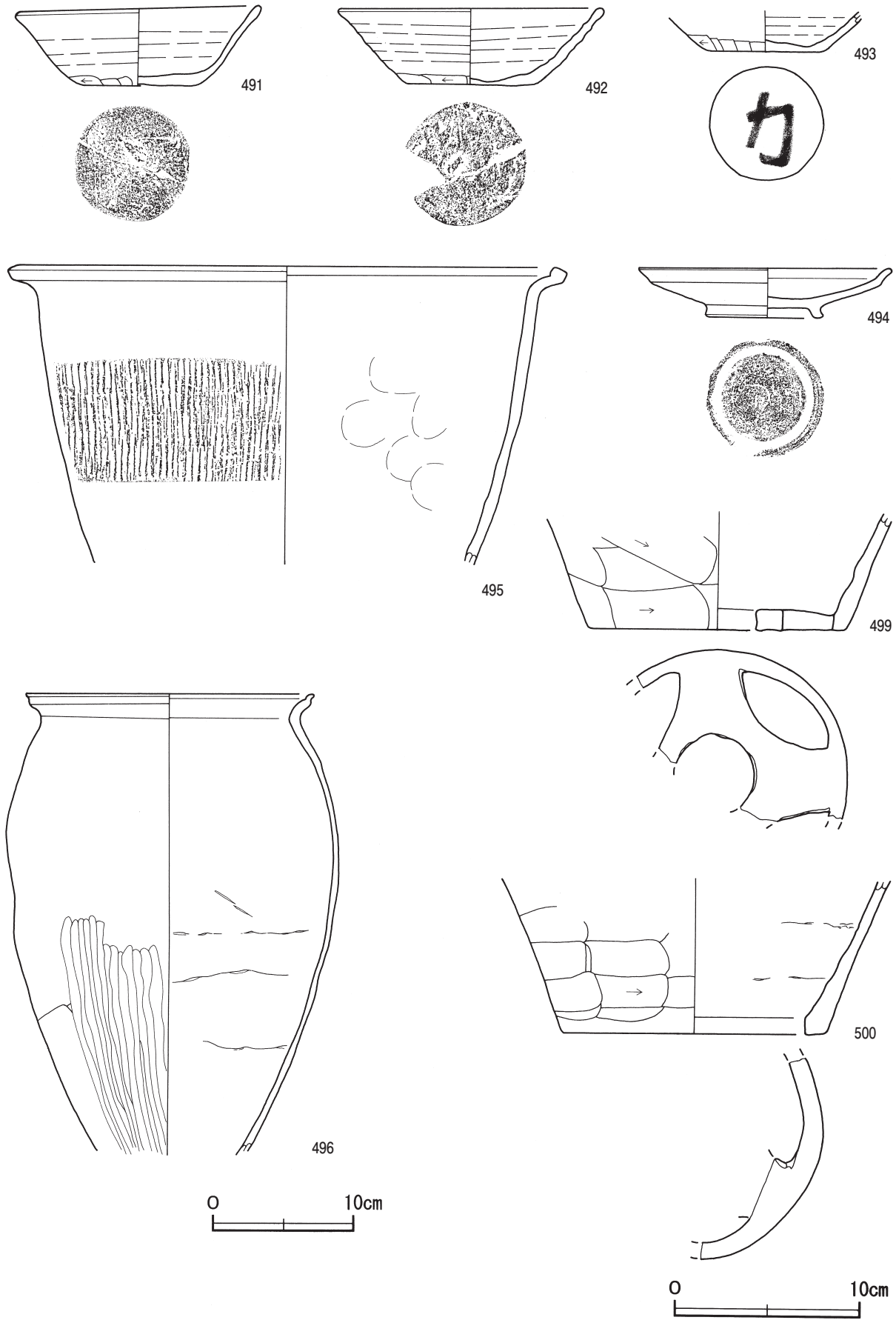
1	極暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	13	暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、粘土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	14	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子微量	15	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
4	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	16	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5	褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量	17	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
6	明褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量	18	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量
7	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量	19	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、粘土ブロック微量
8	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量	20	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
9	褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	21	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
10	明褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量			
11	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量			
12	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量			

遺物出土状況 土師器甕2点、須恵器坏2点、高台付皿・鉢各1点、甗2点、砥石2点、刀子・鉄鎌各1点のほか、土師器片836点（坏22・高台付坏4・甕810）、須恵器片302点（坏106・蓋9・甕187）が出土している。496・498は竈の袖部に逆位で据えられた状態で出土しており、補強材として使用されていたものである。494は竈の火床部付近、Q28は北壁際、M45は南壁際の覆土下層、M40は北壁際の覆土中層、493・Q29は覆土中からそれぞれ出土している。495は竈の覆土下層から南部の覆土下層、499は竈の覆土中層と北部の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。491・492・500は貼床構築土内から出土した破片がそれぞれ接合したもので、貼床の構築時に混入したものである。

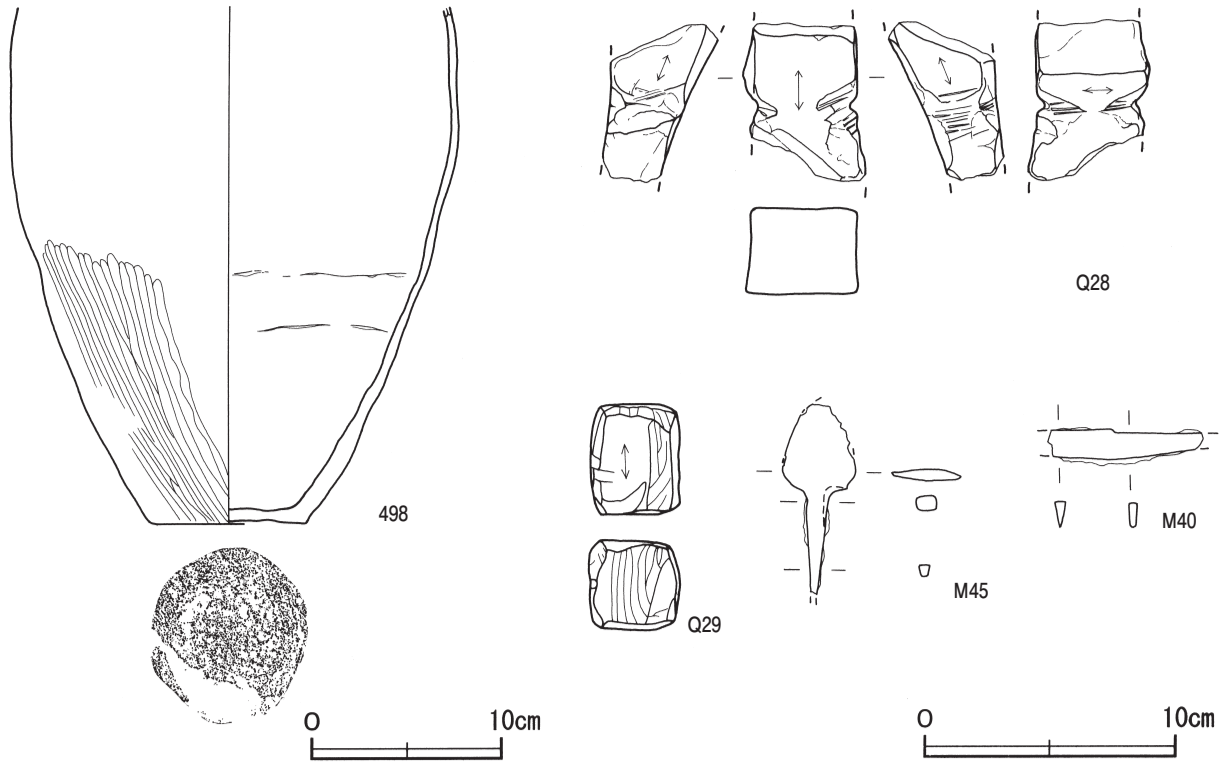
所見 本跡は第124号住居跡を拡張して建て替えており、その際の貼床の構築法に特徴がある。ロームブロック・焼土ブロックを含む褐色土・暗褐色土、粘性の強い珪藻土である黒色土を交互に叩き締めるといった強固な版築技法を用いている。同様な技法を用いているのは第55号住居跡がある。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定でき、短期間のうちに建て替えが行われたものとみられる。



第215図 第63号住居跡実測図



第216図 第63号住居跡出土遺物実測図 (1)



第217図 第63号住居跡出土遺物実測図（2）

第63号住居跡出土遺物観察表（第216・217図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
491	須恵器	坏	13.0	4.4	5.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	貼床内	80% PL82
492	須恵器	坏	14.0	4.2	6.7	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	貼床内	80% PL82
493	須恵器	坏	—	(22)	[6.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 墨書「カ」	覆土中	20% PL89
494	須恵器	高台付皿	13.6	2.8	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	竈火床部	90% PL81
495	須恵器	鉢	29.0	(16.0)	—	長石・石英	灰	普通	体部縦位の平行叩き 指頭痕	覆土下層	40% PL82
496	土師器	甕	20.5	(32.0)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	体部ヘラ削り後、ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕	竈覆土下層	70% PL81
498	土師器	甕	—	(27.1)	7.7	長石・石英	橙	普通	体部ヘラ削り後、ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕	竈覆土下層	70%
499	須恵器	甌	—	(5.9)	[13.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端ヘラ削り 5孔式	覆土中層	5%
500	須恵器	甌	—	(8.3)	[14.2]	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	貼床内	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q28	砥石	(6.3)	4.8	4.5	(114.9)	凝灰岩	砥面4面のうち2面に溝状の研磨痕有り	覆土下層	PL93
Q29	砥石	4.4	3.6	3.6	92.7	凝灰岩	砥面1面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M40	刀子	(6.2)	1.2	0.4	(9.5)	鉄	刃部欠損 背闊 刃部断面三角形 茎部断面長方形	覆土中層	PL94
M45	鎌	(7.6)	2.9	0.6	(15.3)	鉄	短頭三角鎌 鎌身断面両丸 篋被部断面方形 茎部断面方形	覆土下層	PL94

第124号住居跡（第218・219図）

位置 調査区南西部のE2g9区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 上部に第63号住居が構築されている。第159号土坑に掘り込まれている。

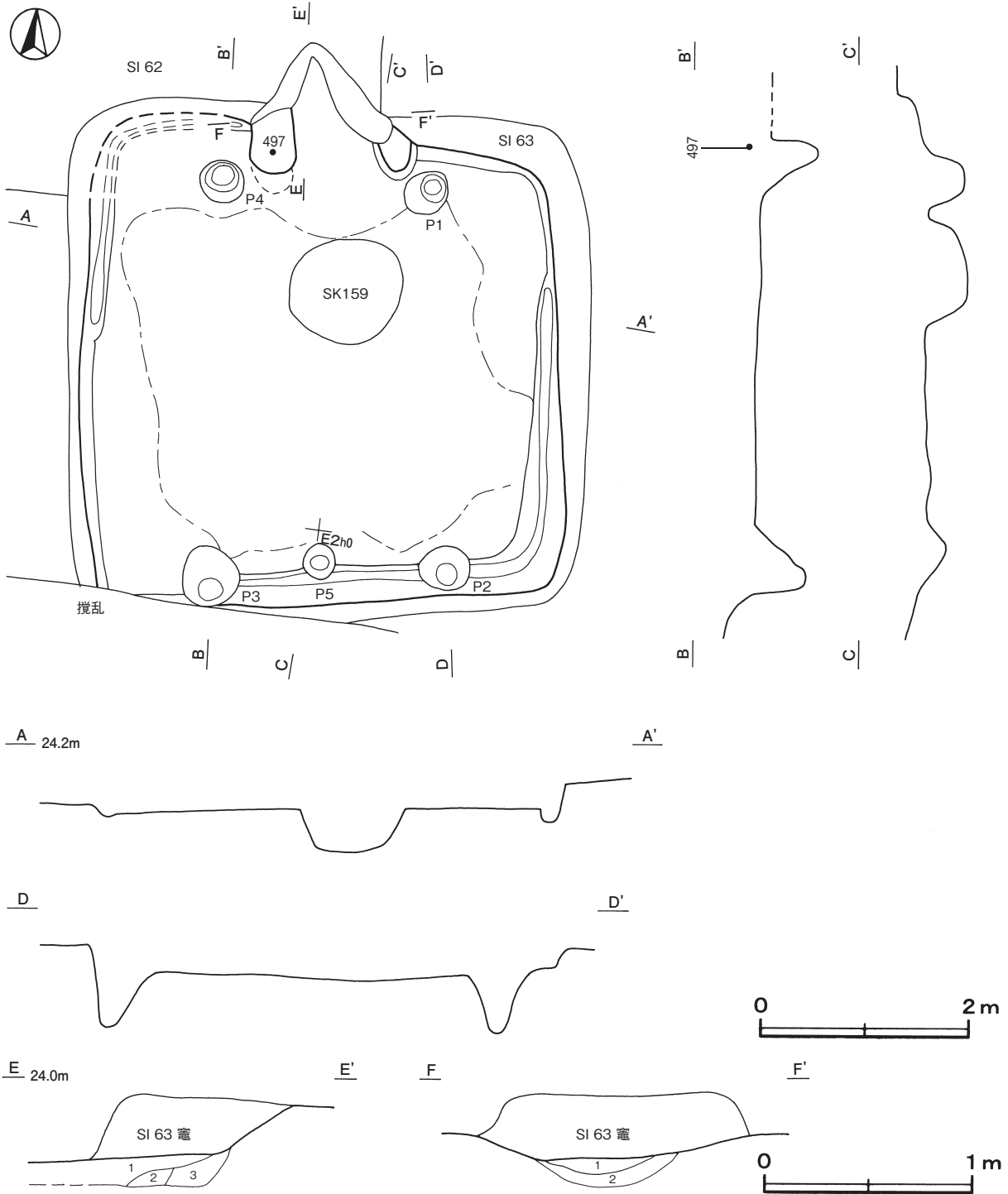
規模と形状 長軸4.58m, 短軸4.14mの長方形と推測できる。

床 床面はほぼ平坦で, 中央部に硬化面が認められる。壁溝が北西・南東コーナー部に巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。上部に第63号住居の竈が構築されており, 火床部のほかに左袖部の補強材と思われる土師器甕が確認できた。第1～3層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量 | 3 褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 | |



第218図 第124号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ56～58cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ17cmで、南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

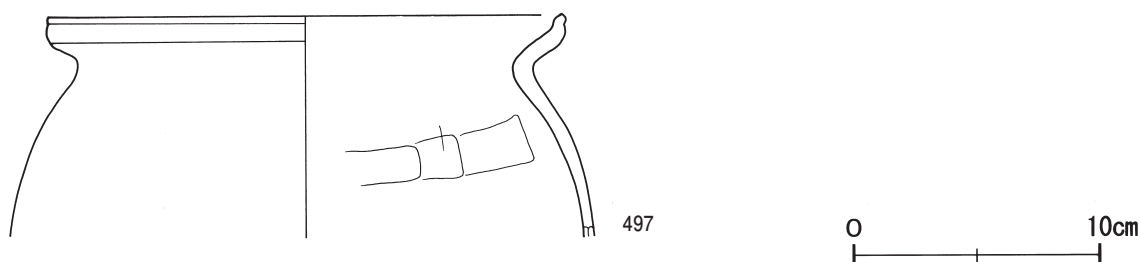
覆土 21層に分層できるが、いずれも第63号住居の貼床の構築土であることから、第63号住居跡の項で解説する。なお、第22・23層が本跡の貼床構築土である。

土層解説

22 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物微量 23 褐色 ロームブロック少量・焼土粒子微量

遺物出土状況 497は、竈の袖部に逆位で据えられた状態で出土しており、補強材として使用されていたものである。

所見 本跡は第63号住居に拡張し建て替えられており、時期差はあまりないと思われ、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第219図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表 (第219図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
497	土師器	甕	20.8	8.9	—	長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	内面ヘラナデ	竈覆土下層	30%

第65号住居跡 (第220図)

位置 調査区中央部のD3a0区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.18m、短軸2.89mの長方形で、主軸方向はN-18°-Eである。壁高は31～41cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 中央部が若干低いほかはほぼ平坦である。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで132cm、燃焼部幅は62cmである。袖部は地山を掘り残して構築されている。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き77cm、幅69cm掘り込んで構築されている。火床部は、床面を約15cm掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

1 褐色 焼土ブロック微量 5 極暗褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量
 2 褐色 焼土粒子少量 6 褐色 ロームブロック・炭化物少量
 3 暗褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量 7 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
 4 褐色 ロームブロック中量

ピット 深さは9cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットである。

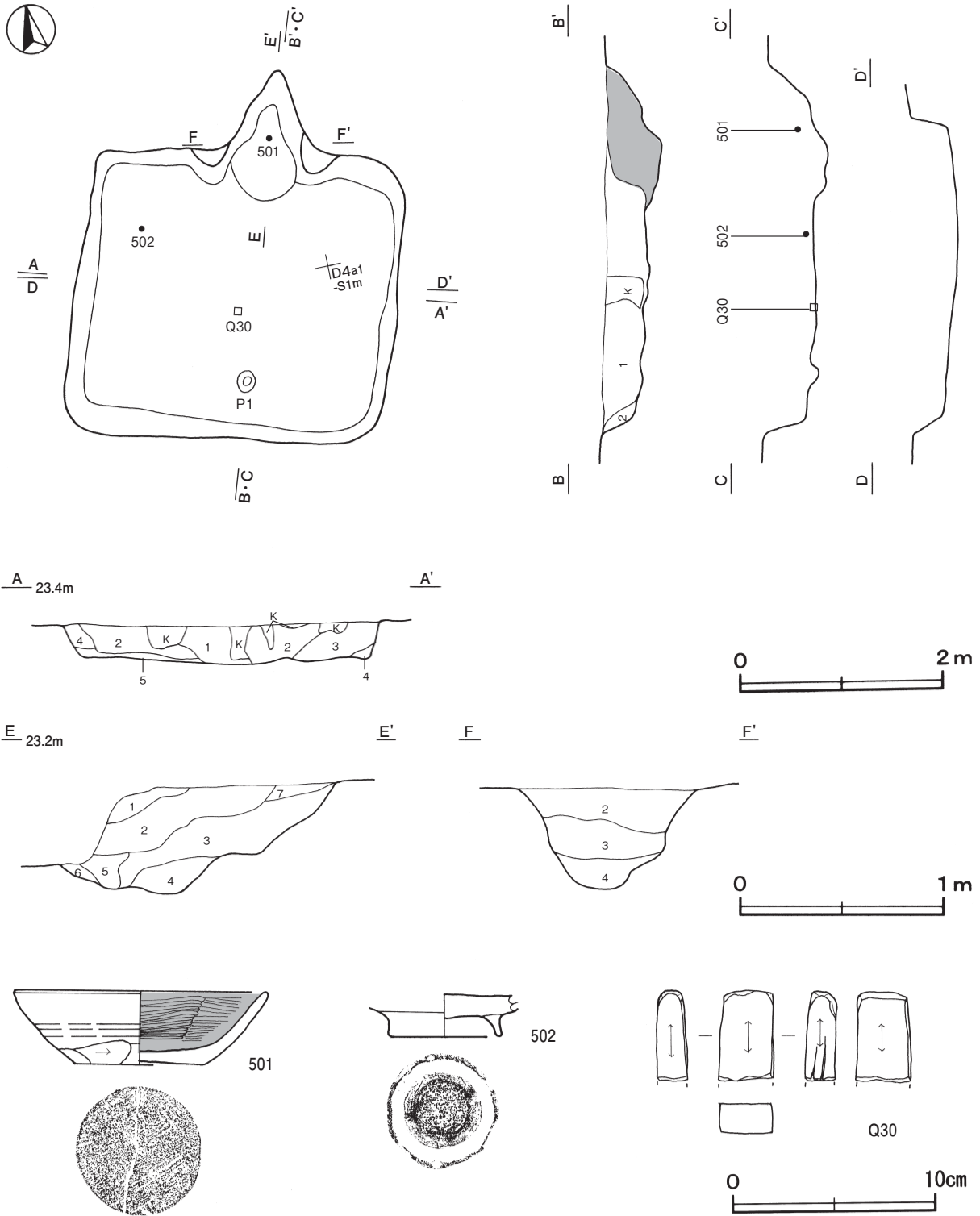
覆土 5層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子微量 4 褐色 ロームブロック少量
 2 暗褐色 ローム粒子少量 5 褐色 ロームブロック中量
 3 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器坏・高台付坏各1点，砥石1点のほか，土師器片11点（坏5・甕6），須恵器片5点（坏2・蓋1・甕2）が出土している。501は竈の火床面から逆位で出土している。502は北西部の覆土下層，Q30は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第220図 第65号住居跡・出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表（第220図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備 考
501	土師器	坏	12.7	3.7	6.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理 底部不定方向のヘラ削り	竈火床面	80% PL82
502	土師器	高台付坏	—	(2.1)	5.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け 内面 黒色処理	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q30	砥石	(4.5)	2.7	1.4	(33.0)	凝灰岩	砥面4面のうち1面に溝状の研磨痕有り	床面	PL93

第66号住居跡（第221～223図）

位置 調査区北部のB 3g8区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北西部が調査区域外であるため、南北軸は4.00mで、東西軸は3.85mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-2°-Eの方形と推測できる。壁高は45～55cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、東及び西壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が東部から南部にかけて巡っている。また、南西コーナー部の床面から焼土が確認されている。

竈 2か所。竈1は北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで120cm、燃焼部幅は64cmである。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き94cm、幅100cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と比べ若干くぼんでおり、火床面は赤変硬化していない。竈2は北壁中央部やや東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで110cm、燃焼部幅は43cmである。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き55cm、幅84cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を10cm掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。竈2から遺物が多く出土していることや竈1に壁材と思われる層が確認できることから、竈1から竈2へ作り替えられていると考えられる。

竈土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 灰 黄 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	8 暗 褐 色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	9 にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
4 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	10 灰 黄 褐 色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量
5 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11 灰 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
6 灰 黄 褐 色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子微量		

ピット 2か所。P1は深さ42cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットである。P2は深さ11cmで、南東コーナー部に位置しているが、性格は不明である。

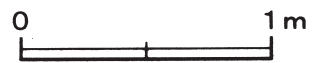
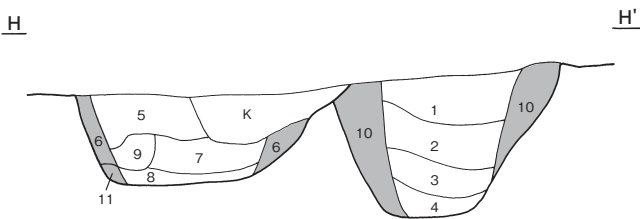
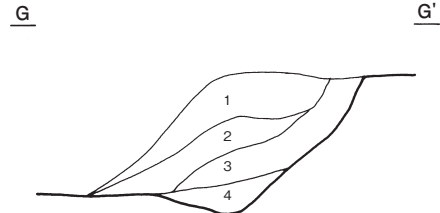
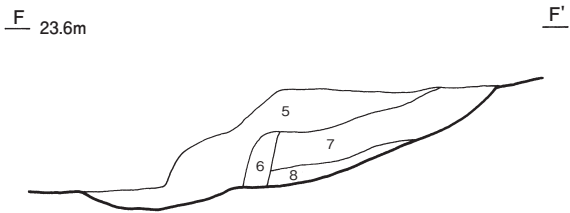
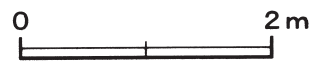
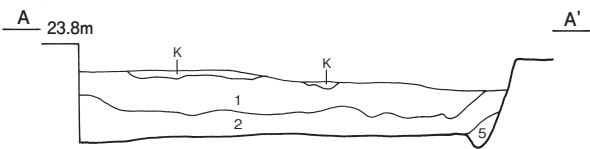
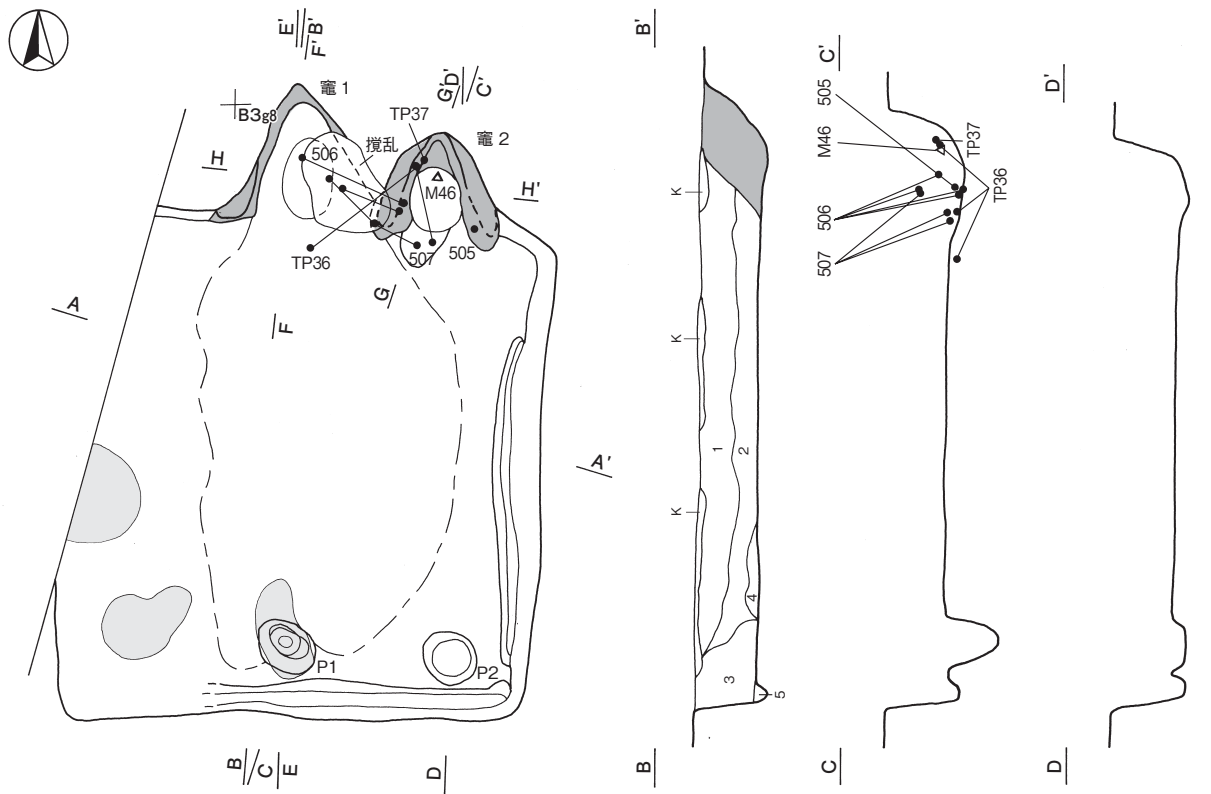
覆土 5層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

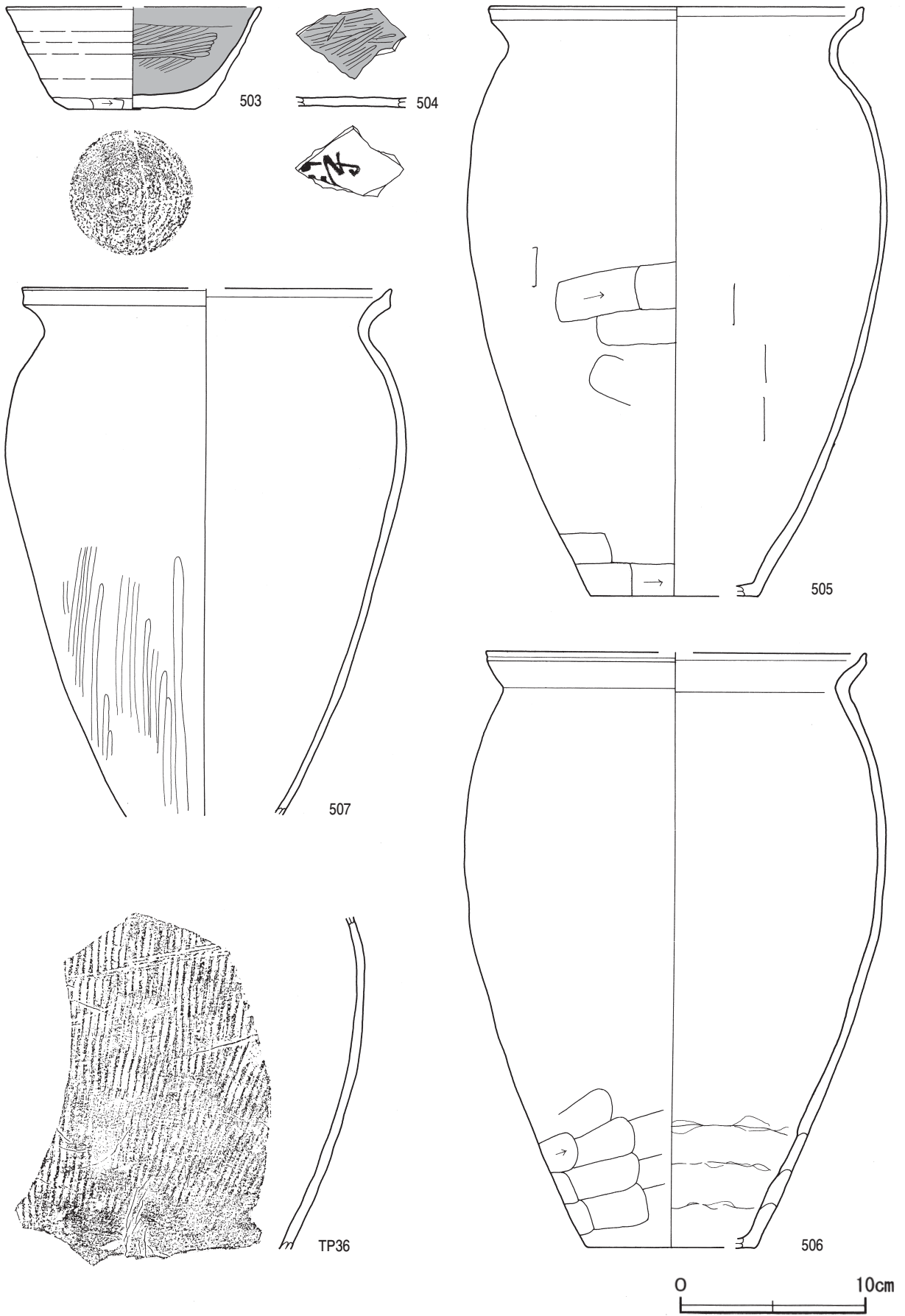
1 暗 褐 色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 にぶい黄褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	5 暗 褐 色	ロームブロック少量
3 黒 褐 色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器坏2点、甕3点、須恵器甕2点、鉄斧1点のほか、土師器片290点（坏27・皿2・甕261）、須恵器片76点（坏13・甕63）が竈2の前面を中心に出土している。そのほか混入した陶器甕片1点が出土している。506・507は竈周辺から破碎された状態で出土している。505は竈の火床部と右袖部から出土した破片が接合したものである。M46は竈の覆土下層、503・504は覆土中からそれぞれ出土している。

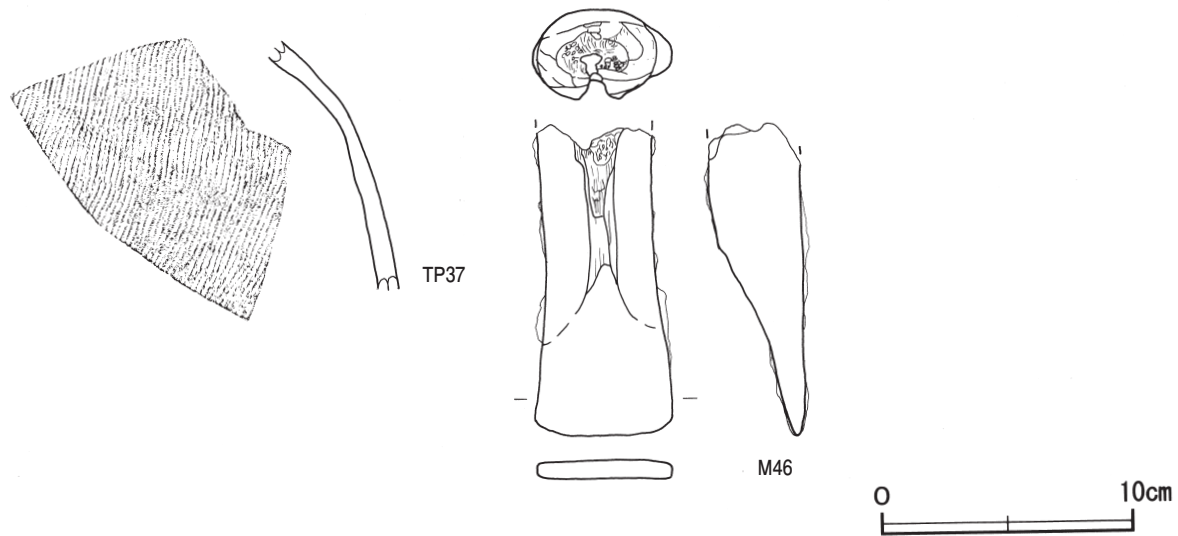
所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第221图 第66号住居跡実測図



第222図 第66号住居跡出土遺物実測図（1）



第223図 第66号住居跡出土遺物実測図（2）

第66号住居跡出土遺物観察表（第222・223図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
503	土師器	坏	[13.6]	5.0	6.8	長石・石英	黒褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	70% PL83
504	土師器	坏	—	(0.5)	—	長石・石英	黄褐	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り 墨書「□」 黒色処理	覆土中	5%
505	土師器	甕	20.1	31.5	[9.0]	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈覆土下層	70% PL82
506	土師器	甕	[20.6]	32.0	[9.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土下層	50%
507	土師器	甕	[19.9]	(28.4)	—	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部ヘラ磨き	覆土下層	60%
TP36	須恵器	甕	—	(17.9)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面縦位の平行叩き	竈覆土下層	PL90
TP37	須恵器	甕	—	(9.9)	—	長石・雲母	黄灰	普通	外面斜位の平行叩き 内面指頭痕	竈覆土中層	PL90

番号	器種	長さ(径)	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M46	鉄斧	(12.4)	3.8	3.6	(304.0)	鉄	方形の袋部をもつ。袋部には木質が残る。	竈覆土下層	PL94

第67号住居跡（第224～226図）

位置 調査区北部のB3g9区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

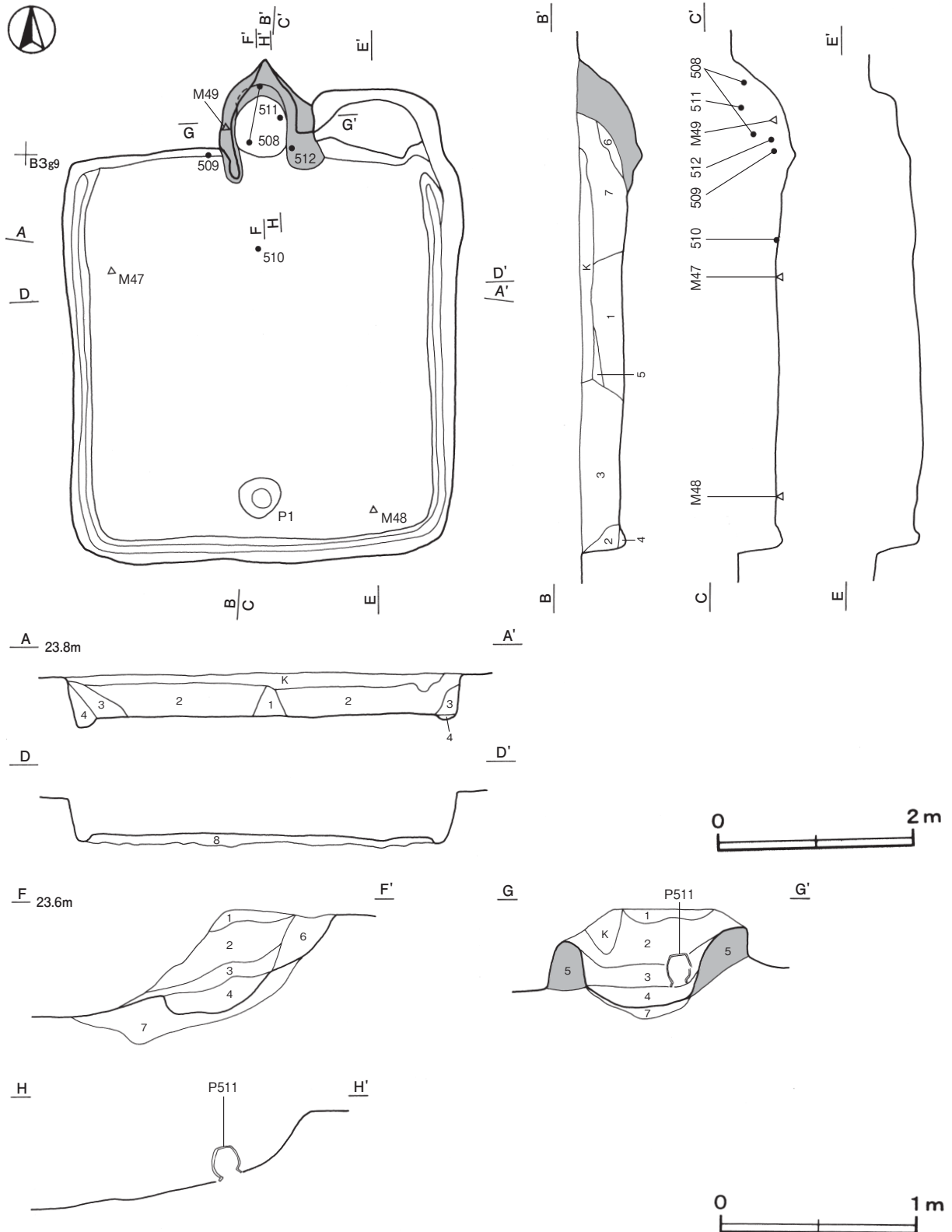
規模と形状 長軸4.77m、短軸4.13mの長方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は37～50cmで、ほぼ直立している。竈の右側に棚状施設が付設されている。幅95cm、奥行き53cmの隅丸長方形で、床面からの高さ13cm、確認面からの深さ27cmである。

床 ほぼ平坦な貼床で、北壁を除いて壁溝が巡っている。貼床は、外周部を確認面から54cmほど溝状に掘り込み、ロームブロックを含むオリーブ褐色土を埋めて構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで98cm、燃烧部幅は55cmである。袖部は地山を掘り残し、焼土ブロック・粘土ブロックを含む灰褐色土を積み上げて構築されている。第5層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き94cm、幅84cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と比べ若干くぼんでおり、火床面は赤変硬化していない。第7層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|----------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 灰褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |



第224図 第67号住居跡実測図

ピット 深さは30cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

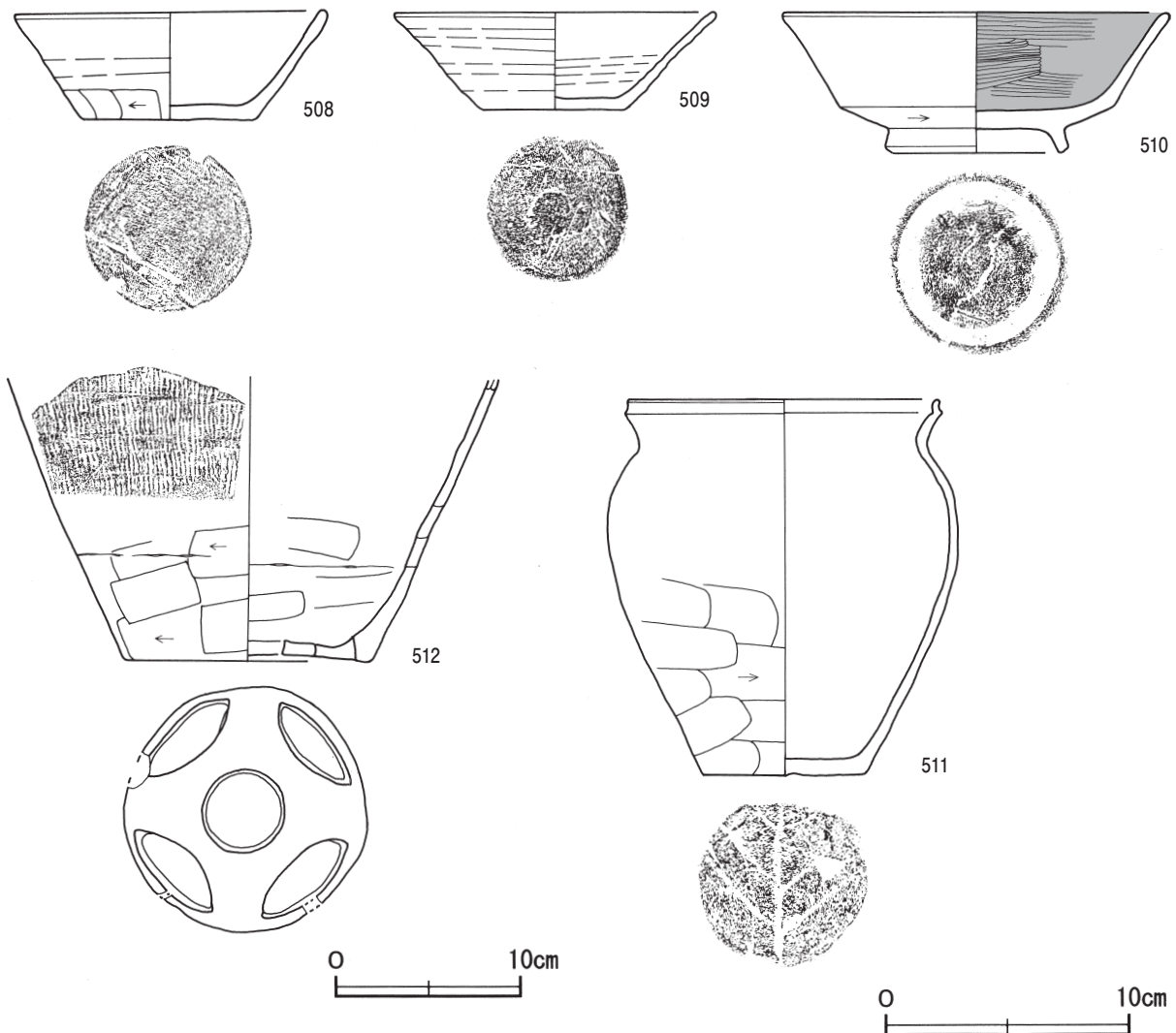
覆土 7層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。第8層は貼床の構築土である。

土層解説

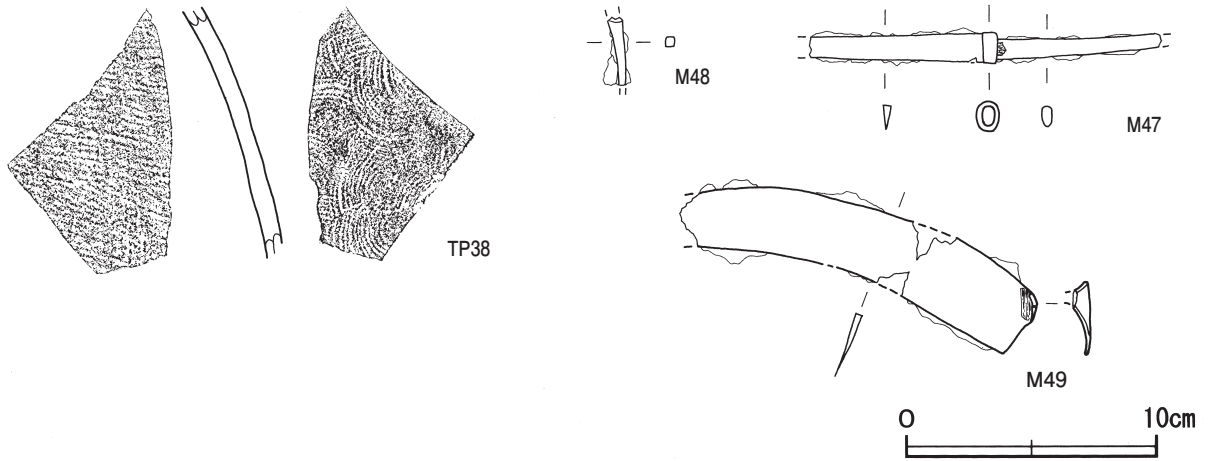
- | | | | |
|----------|------------------------------------|----------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・灰少量, 炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子・灰少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 オリーブ褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器高台付坏・小形甕各1点, 須恵器坏2点, 甕・甌各1点, 刀子・鉄鎌各1点のほか, 土師器片300点(坏26・高台付坏3・甕271), 須恵器片163点(坏20・鉢2・甕128・甌13)が出土している。511は竈の火床面に逆位で据えられた状態で出土しており, 竈で使用されていたものと考えられる。512は竈右袖部に貼り付けられた状態で出土しており, 竈の補強材として使用されていたものである。508は竈の中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。509は北部, 510は中央部, M47は西部, M48は南東部, M49は竈の覆土下層からそれぞれ出土したものである。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第225図 第67号住居跡出土遺物実測図(1)



第226図 第67号住居跡出土遺物実測図（2）

第67号住居跡出土遺物観察表（第225・226図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
508	須恵器	坏	12.8	4.6	7.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り	覆土中層	90% PL83
509	須恵器	坏	13.0	4.0	5.9	長石・石英・雲母	橙	普通	底部へら切り痕を残す一方向のへら削り	覆土下層	90%
510	土師器	高台付坏	15.7	5.7	6.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下端回転へら削り 内面へら磨き 黒色処理	覆土下層	75% PL83
511	土師器	小形甕	12.6	15.4	6.6	長石・石英	明赤褐	普通	体部へら削り 内面へらナデ	竈火床面	85% PL82
512	須恵器	甕	—	(15.4)	13.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部縦位の平行叩き 体部下端へら削り	竈覆土下層	40% PL83
TP38	須恵器	甕	—	(9.4)	—	長石・黒色粒子	灰黄	普通	外面横位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M47	刀子	(14.0)	1.1	0.5	(15.9)	鉄	刃部欠損 木質残存 刃部断面三角形 基部断面長方形 基部に貴金具残存	覆土下層	PL94
M48	釘	(2.7)	0.7	0.4	(2.2)	鉄	頭部 端部欠損 断面方形	覆土下層	
M49	鎌	(14.2)	3.2	0.2	(3.9)	鉄	刃部 基部一部欠損 刃部断面三角形	竈覆土下層	

第70号住居跡（第227・228図）

位置 調査区北部のC 4 a4区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第242号土坑を掘り込み、南西コーナー部の床面を第59号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.85m、短軸3.62mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は37~49cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が東部と西部に巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで134cm、燃焼部幅は60cmである。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き92cm、幅111cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	8 にぶい黄色	粘土ブロック中量
2 褐色	粘土ブロック中量	9 黄褐色	砂質粘土粒子中量
3 にぶい黄褐色	粘土ブロック少量	10 灰褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子少量	11 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、砂粒少量	12 にぶい黄褐色	ローム粒子微量
6 にぶい橙色	焼土ブロック・砂粒中量	13 にぶい黄褐色	焼土粒子中量、砂質粘土ブロック少量
7 明赤褐色	粘土ブロック・砂粒中量		

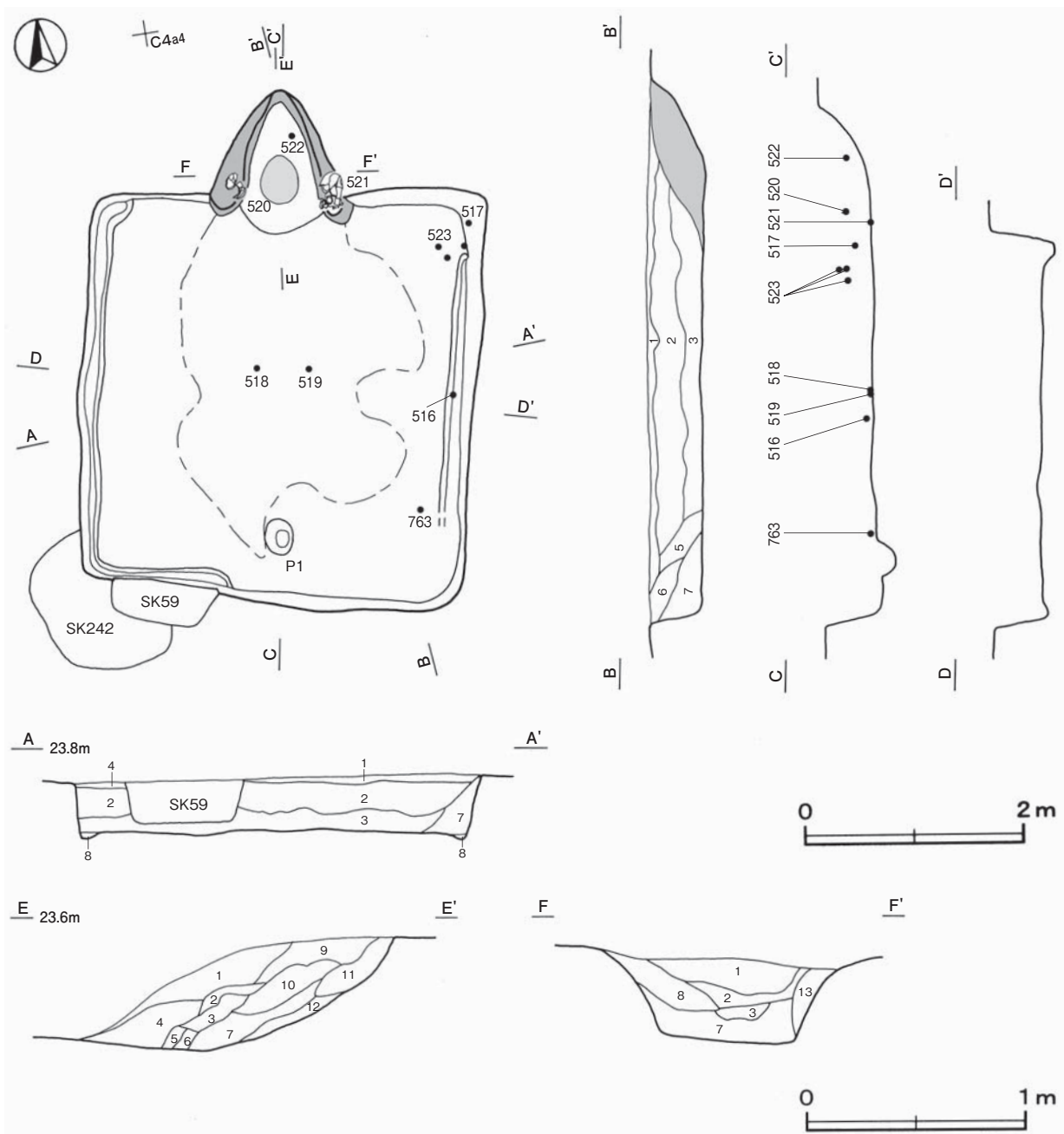
ピット 深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 8層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック少量 | 5 暗褐色 砂粒中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 暗褐色 砂粒中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 暗褐色 焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 暗褐色 ローム粒子微量 |

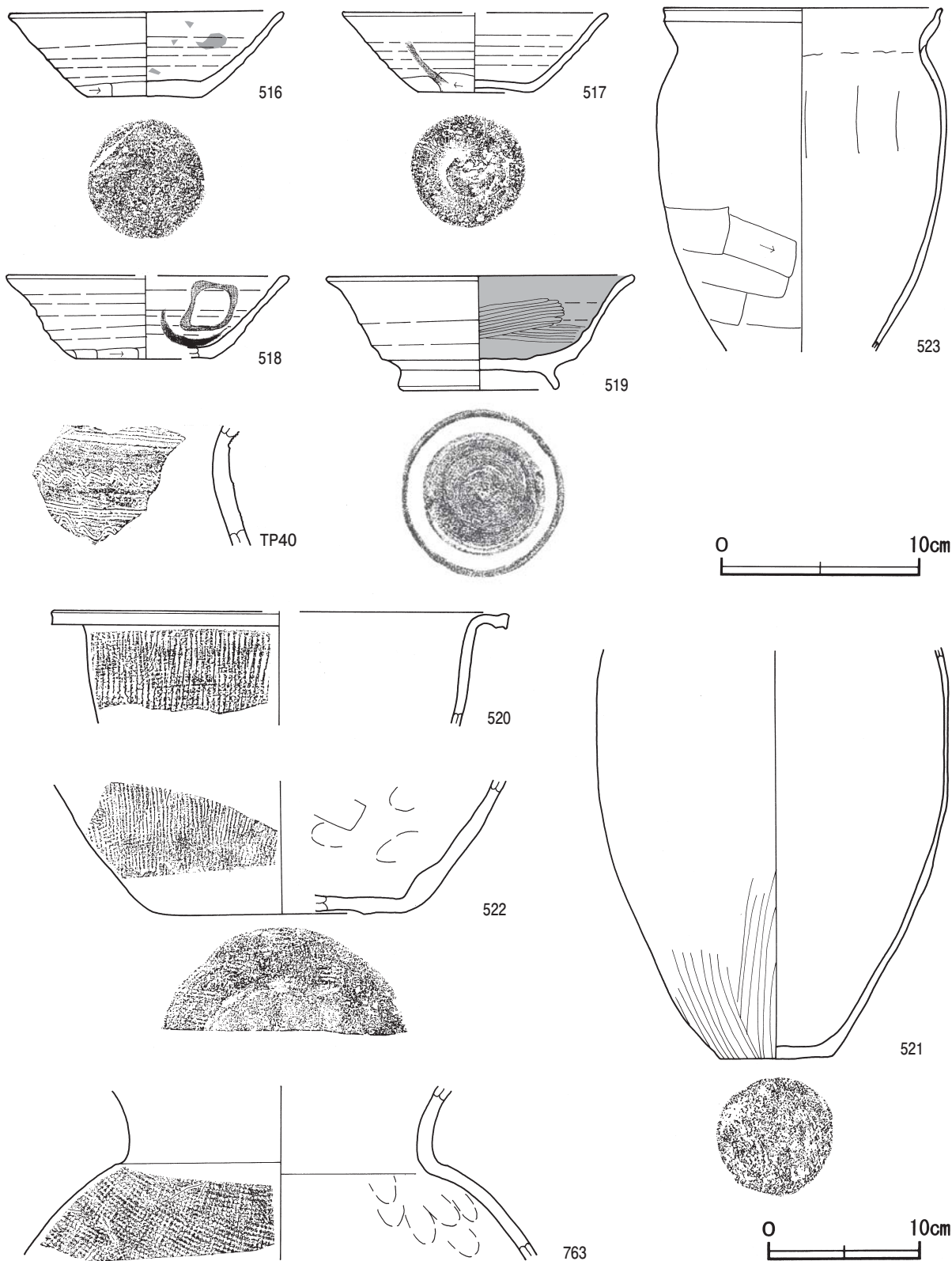
遺物出土状況 土師器高台付坏1点, 甕2点, 須恵器坏3点, 鉢1点, 甕3点のほか, 土師器片242点(坏5・甕237), 須恵器片91点(坏28・高台付坏1・甕60・甗2), 土製紡錘車1点が北部を中心に出土している。521は竈右袖内に埋め込まれた状態で, 520は竈左袖部に貼り付けられた状態でそれぞれ出土しており, 竈袖部の補強材として使用されていたものである。522は竈の火床部付近, 516は東壁寄りの床面, 517は北東部の覆土



第227図 第70号住居跡実測図

中層からそれぞれ出土している。518・519は中央部の床面から出土した破片，523は北東部の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第228図 第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表（第228図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
516	須恵器	坏	13.8	4.3	5.7	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り 油煙付着	床面	90% PL83
517	須恵器	坏	13.3	4.0	5.8	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	中層	60%
518	須恵器	坏	[14.3]	4.2	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 体部外面墨書「□」	床面	30% PL89
519	土師器	高台付坏	15.3	5.8	7.6	長石・石英・雲母	赤褐	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け 黒色処理	床面	60% PL83
520	須恵器	鉢	[30.0]	(7.5)	—	長石・石英	灰	普通	体部格子状の叩き 内面ヘラナデ	竈中層	10%
521	土師器	甕	—	(27.2)	7.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈下層	60%
522	須恵器	甕	—	(8.7)	[16.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部縦位の平行叩き 体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈火床部	10%
523	土師器	甕	14.0	(17.3)	—	長石・石英	橙	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土中層	50%
763	須恵器	甕	—	(11.5)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部格子状の叩き	覆土下層	10%
TP40	須恵器	甕	—	(6.1)	—	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	頸部櫛描波状文	覆土中	PL90

第73号住居跡（第229図）

位置 調査区北部のB 4g1区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.04m、短軸3.79mの方形で、主軸方向はN-18°-Eである。壁高は30～35cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで111cm、燃焼部幅は49cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、砂質粘土ブロックを含む灰褐色土を積み上げて構築されている。第6層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き56cm、幅83cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	4	灰褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	にぶい黄褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	オリーブ褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	6	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量

ピット 深さ32cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

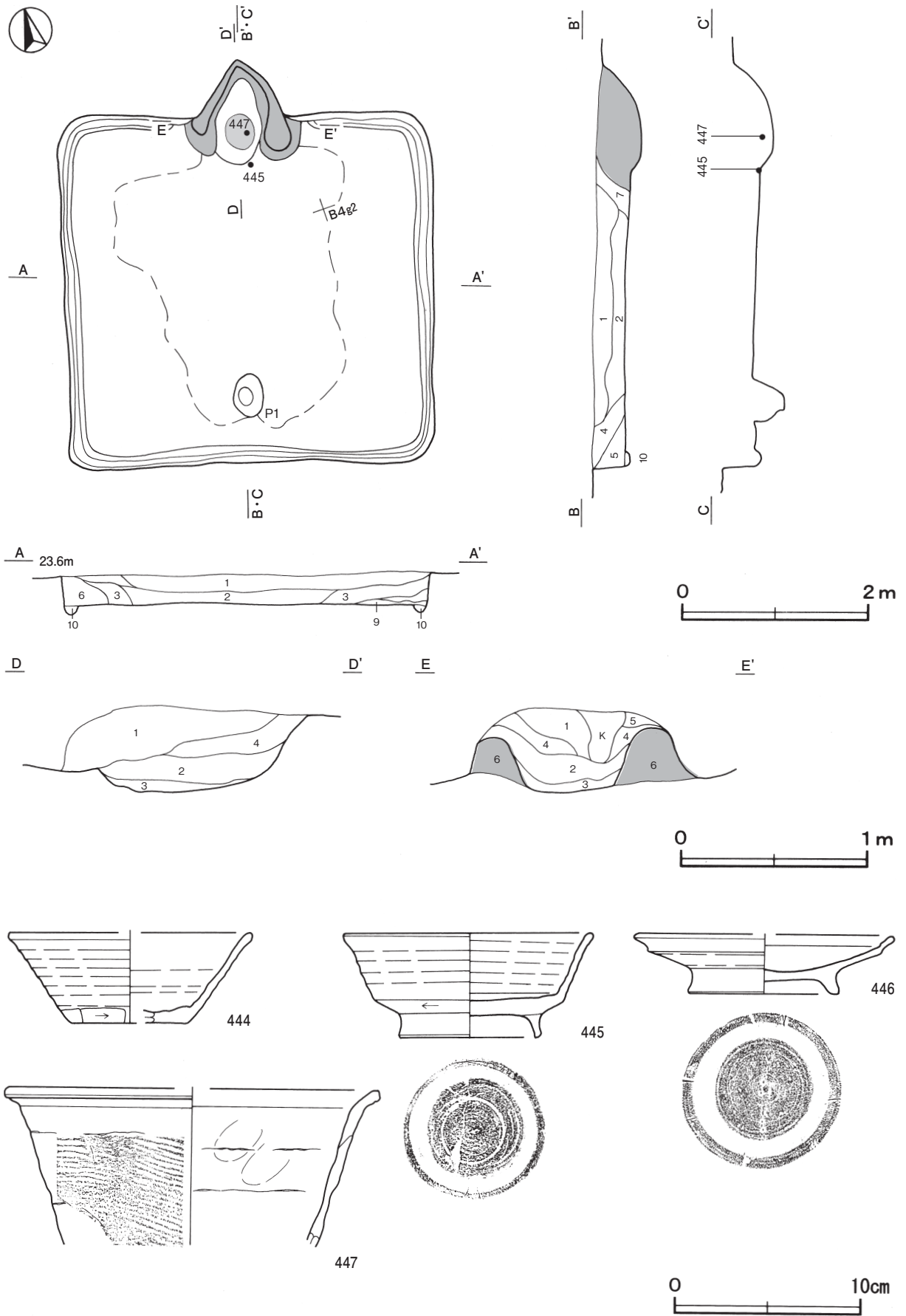
覆土 10層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	砂質粘土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	6	灰褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
3	にぶい黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	9	暗褐色	ロームブロック微量
5	暗褐色	砂粒中量、ロームブロック少量	10	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 須恵器坏・高台付坏・高台付皿・甌各1点のほか、土師器甕片78点、須恵器片22点（坏17・甕4・甌1）が出土している。447は竈の火床部付近から、445は竈前面の床面、444は竈の覆土中、446は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第229図 第73号住居跡・出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表（第229図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
444	須恵器	坏	[13.0]	4.9	[6.1]	長石・石英	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り	竈覆土中	35%
445	須恵器	高台付坏	13.4	5.6	7.5	長石・雲母	黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	床面	70% PL83
446	須恵器	高台付皿	[13.6]	3.2	8.0	長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中	50%
447	須恵器	甌	[20.0]	(8.4)	—	長石・石英・雲母	オリーブ黒	普通	体部横位の平行叩き 輪積痕 内面指頭痕	竈火床面	5%

第74号住居跡（第230・231図）

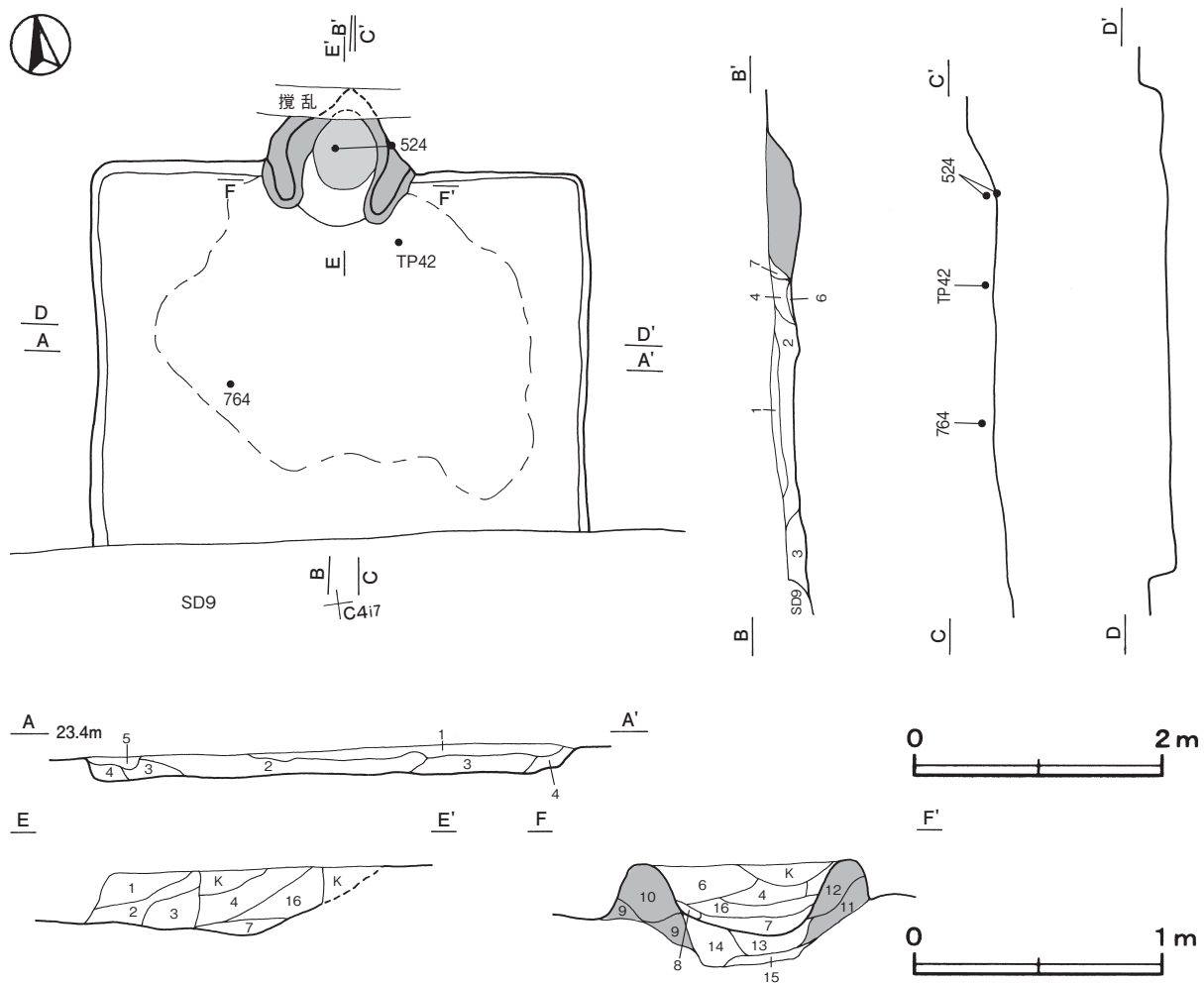
位置 調査区北部のC 4 h7区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南部を第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は4.02mで、南北軸は3.05mだけ確認できた。主軸方向がN-7°-Eの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は20cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。煙出部が耕作による攪乱を受けている。残存する規模は焚口部から煙出部まで87cm、燃烧部幅は53cmである。袖部は地山を掘り残し、白色粘土ブロックを含むにぶい黄褐色土を積み上



第230図 第74号住居跡実測図

げて構築されている。第9～12層は袖部の構築土である。火床部は床面と比べ若干くぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。第13～15層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 白色粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 黄褐色 | 白色粘土ブロック中量 |
| 5 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・白色粘土粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 | 13 にぶい橙色 | 焼土ブロック少量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量 | 14 にぶい橙色 | 白色粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| | | 15 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| | | 16 褐色 | 焼土ブロック多量, 白色粘土ブロック中量 |

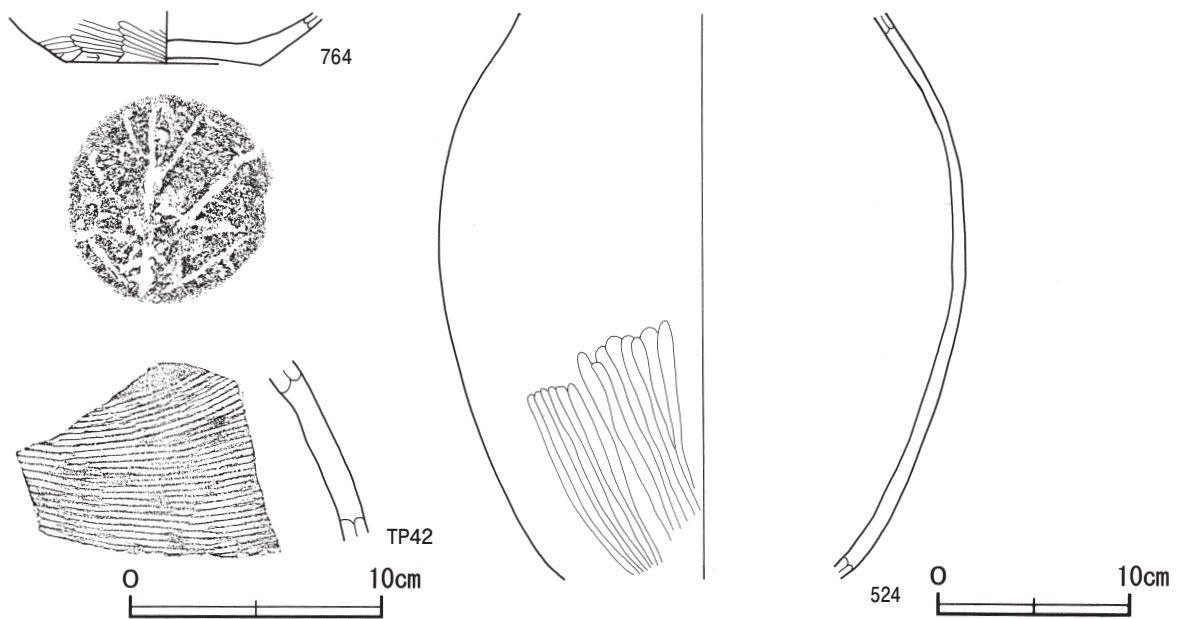
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含み、不自然な堆積であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子微量 |
| | | 7 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器甕2点、須恵器甕1点のほか、土師器片241点（坏5・甕236）、須恵器片52点（坏31・高台付皿1・蓋3・甕16・短頸壺1）が出土している。そのほか、混入した陶器片、磁器片各2点が出土している。524は竈の火床部から竈右袖部にかけて出土した破片が接合したものである。764・TP42は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第231図 第74号住居跡出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表（第231図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
524	土師器	甕	—	(29.5)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈火床部	40%
764	土師器	甕	—	(2.1)	7.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部下端ヘラ磨き	覆土中層	5%
TP42	須恵器	甕	—	(7.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部横位の平行叩き	覆土中層	PL90

第75号住居跡（第232・233図）

位置 調査区北部のC 5 a3区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

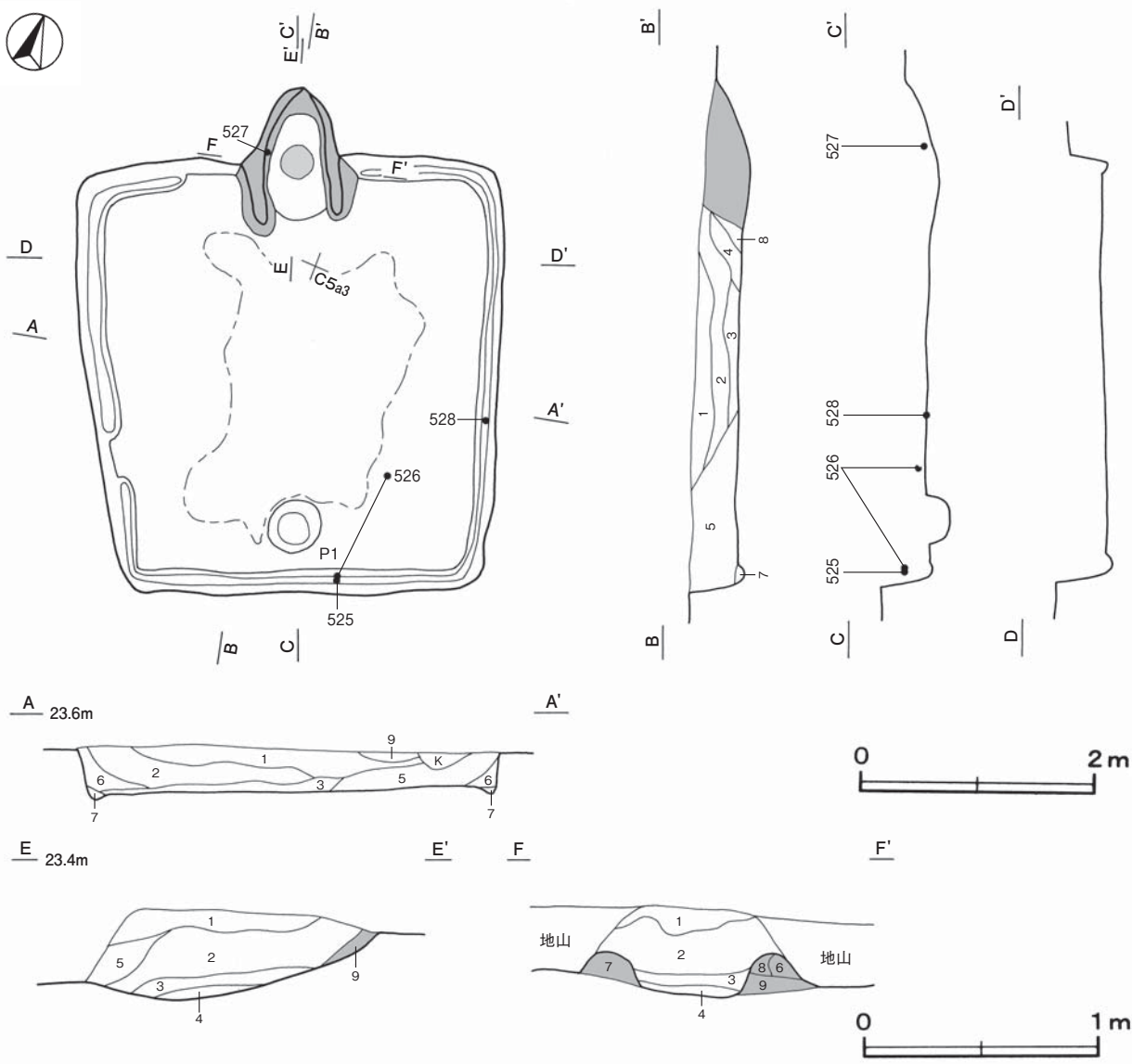
規模と形状 長軸3.74m，短軸3.65mの方形で，主軸方向はN-22°-Wである。壁高は27~45cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで127cm，燃燒部幅は48cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に，ロームブロックを含むにぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。第6~9層は袖部及び竈壁の構築土である。煙道部は，壁外へ逆U字状に奥行き58cm，幅66cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と比べ若干くぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|------------------|
| 1 褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 褐色 | 砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量 | 7 にぶい赤褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子中量，炭化粒子少量 | 8 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 9 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | | |



第232図 第75号住居跡実測図

ピット 深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

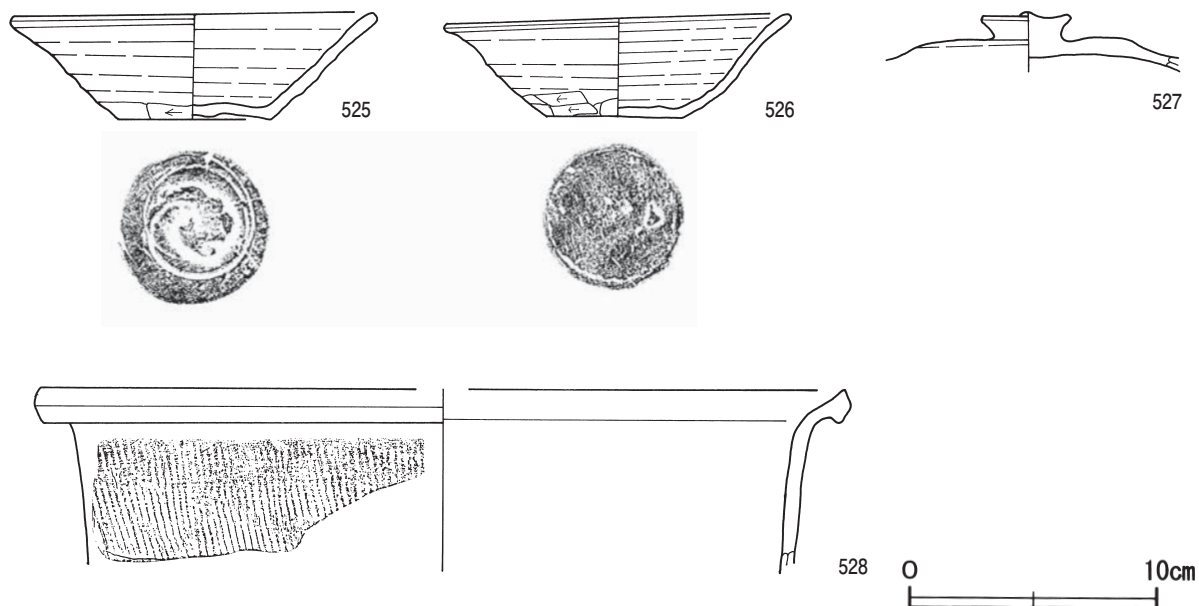
覆土 9層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 須恵器坏2点、蓋・鉢各1点のほか、土師器片206点（坏33・甕173）、須恵器片246点（坏102・蓋3・甕141）が出土している。527は竈の覆土下層、528は東部の壁溝覆土下層、525は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。526は南部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第233図 第75号住居跡出土遺物実測図

第75号住居跡出土遺物観察表（第233図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
525	須恵器	坏	14.2	4.3	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中層	90% PL83
526	須恵器	坏	13.5	4.3	5.4	長石・石英・雲母・細礫	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土中層～下層	90% PL83
527	須恵器	蓋	—	(2.3)	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	天井部回転ヘラ削り つまみ貼り付け	竈覆土下層	50%
528	須恵器	鉢	[32.0]	(7.2)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部縦位の平行叩き	覆土下層	10%

第77号住居跡（第234～236図）

位置 調査区北部のC 4 c3区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南部を第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.86m、短軸4.75mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は47～61cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が西部のみに巡っている。貼床は、外周部を確認面から45cmほど溝状に掘り込み、ロームブロックを含む褐色土を埋めて構築されている。

竈 2か所。竈1は北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで108cm、燃焼部幅は62cmである。袖部は地山を掘り残し、砂質ロームブロック・白色粘土ブロックを含む黄褐色土を積み上げて構築されている。第9・10層は袖部の構築土である。また、両袖部の補強材として土師器・須恵器甕各1点が使用されている。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き57cm、幅123cm掘り込んで構築されている。火床部は壁外に位置し、外傾して立ち上がっている。火床面は火を受けて赤変硬化している。竈2は、北壁の北東コーナー部に付設されている。焚口部から煙出部まで108cm、燃焼部幅は42cmである。袖部は地山を掘り残し、上部に砂質粘土を貼り付けて構築されている。第5層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形状に奥行き60cm、幅88cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。竈2に砂質粘土ブロックで壁を構築し、新たに竈1を構築したと思われる。

電土層解説

1	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	7	黄褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
2	灰黄褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	にぶい褐色	砂粒多量、ロームブロック中量、焼土粒子少量
3	灰褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量	9	黄褐色	砂粒多量、ロームブロック・白色粘土ブロック中量
4	暗褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	10	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
5	暗灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子中量、ローム粒子少量	11	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロック中量
6	にぶい黄色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量	12	にぶい赤褐色	砂粒多量、焼土ブロック・ロームブロック中量
			13	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量
			14	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
			15	にぶい褐色	焼土ブロック中量

ピット 5か所。P1～P4は深さ50～77cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。P5は深さ25cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

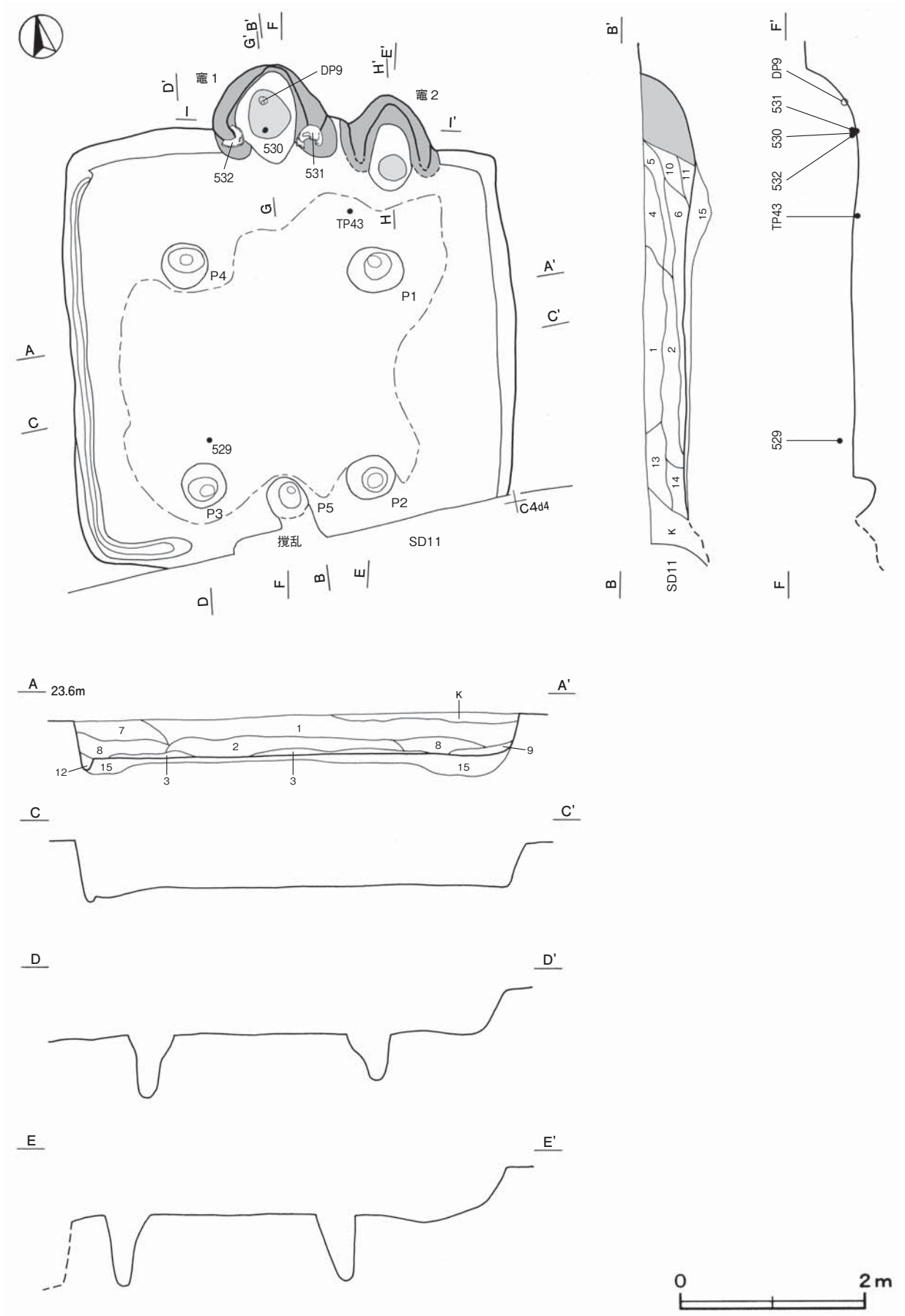
覆土 14層に分層できる。ロームブロックを含み、不自然な堆積であることから埋め戻されている。第15層は貼床の構築土である。

土層解説

1	極暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	8	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	9	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・山砂少量
4	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	11	褐色	ロームブロック・焼土粒子・山砂少量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量	12	褐色	ロームブロック少量
6	暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量	13	暗褐色	ロームブロック多量
7	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量	14	褐色	ロームブロック中量
			15	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器坏・甕各1点、須恵器高台付皿1点、甕2点、土製支脚1点のほか、土師器片576点（坏1・高台付皿1・蓋1・甕573）、須恵器片285点（坏100・蓋7・甕178）が状態で出土している。DP9は竈1の火床面に据えられた状態で出土している。532は竈1の左袖内に、531は竈1の右袖内に逆位で据えられた状態でそれぞれ出土しており、袖部の補強材として使用されたものである530は竈1の火床部付近、529は南西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 竈1の遺物出土状況や主柱穴の位置、竈2に壁材と思われる層が確認できることから、竈2から竈1へ作り替えられている。時期は、重複関係や出土土器から9世紀中葉に比定できる。



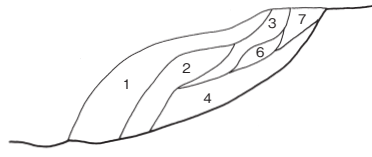
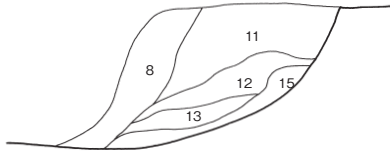
第234图 第77号住居跡実測図

G 23.6m

G'

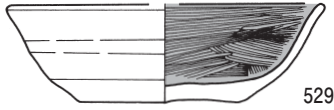
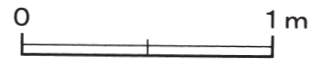
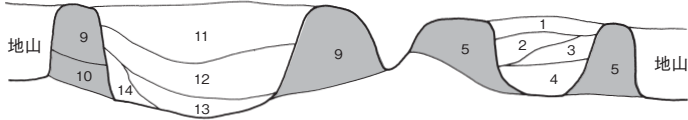
H

H'

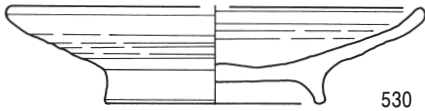


I

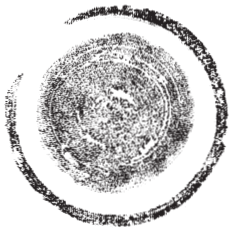
I'



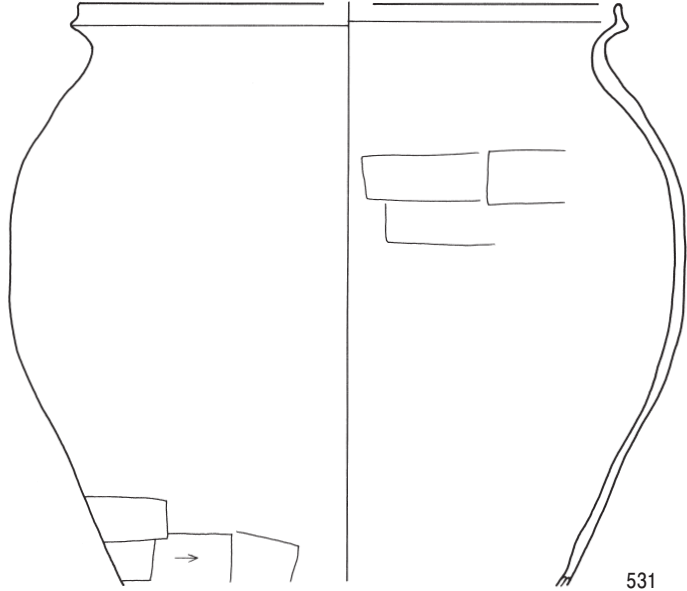
529



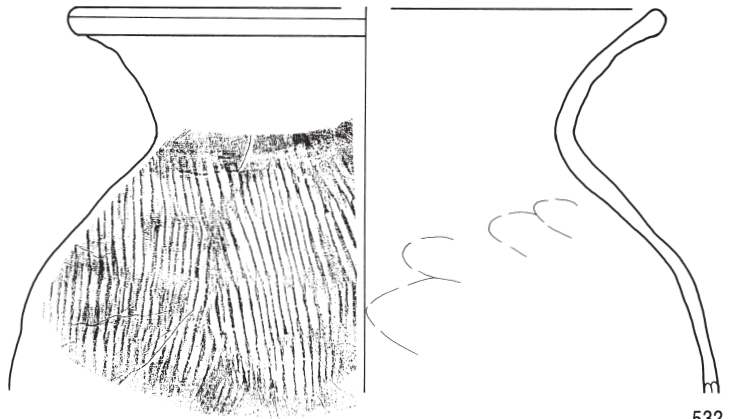
530



TP43



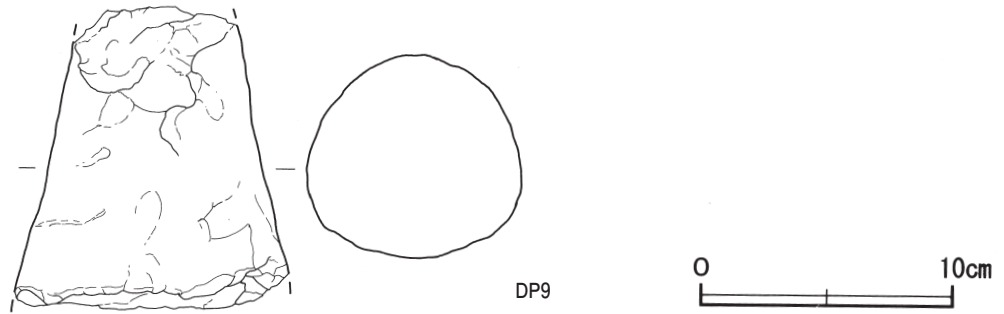
531



532



第235图 第77号住居跡・出土遺物実測図



第236図 第77号住居跡出土遺物実測図

第77号住居跡出土遺物観察表（第235・236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
529	土師器	坏	[12.4]	3.9	6.4	長石・石英・雲母・砂礫	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中層	60% PL84
530	須恵器	高台付皿	[16.2]	3.9	8.3	長石・石英・雲母・中礫	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	竈火床面	60% PL84
531	土師器	甕	[21.4]	(23.2)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈下層	50%
532	須恵器	甕	[23.2]	(15.2)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	体部縦位の平行叩き 指頭痕	竈下層	30%
TP43	須恵器	甕	—	(10.4)	—	長石・石英	灰	普通	外面縦位の平行叩き 指頭痕	覆土下層	PL90

番号	器種	長さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP9	支脚	(12.1)	(6.5)	(10.8)	(890.0)	土(長石)	ナデ 褐色	火床面	PL91

第78号住居跡（第237図）

位置 調査区北部のC 4e2区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南西コーナー部を第79号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.57m、短軸3.21mの長方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁高は30~36cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が南部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで93cm、燃焼部幅は40cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、砂質粘土ブロックを含む褐色土を積み上げて構築されている。第6層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き43cm、幅73cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と比べ若干くぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6	褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

ピット 深さ29cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

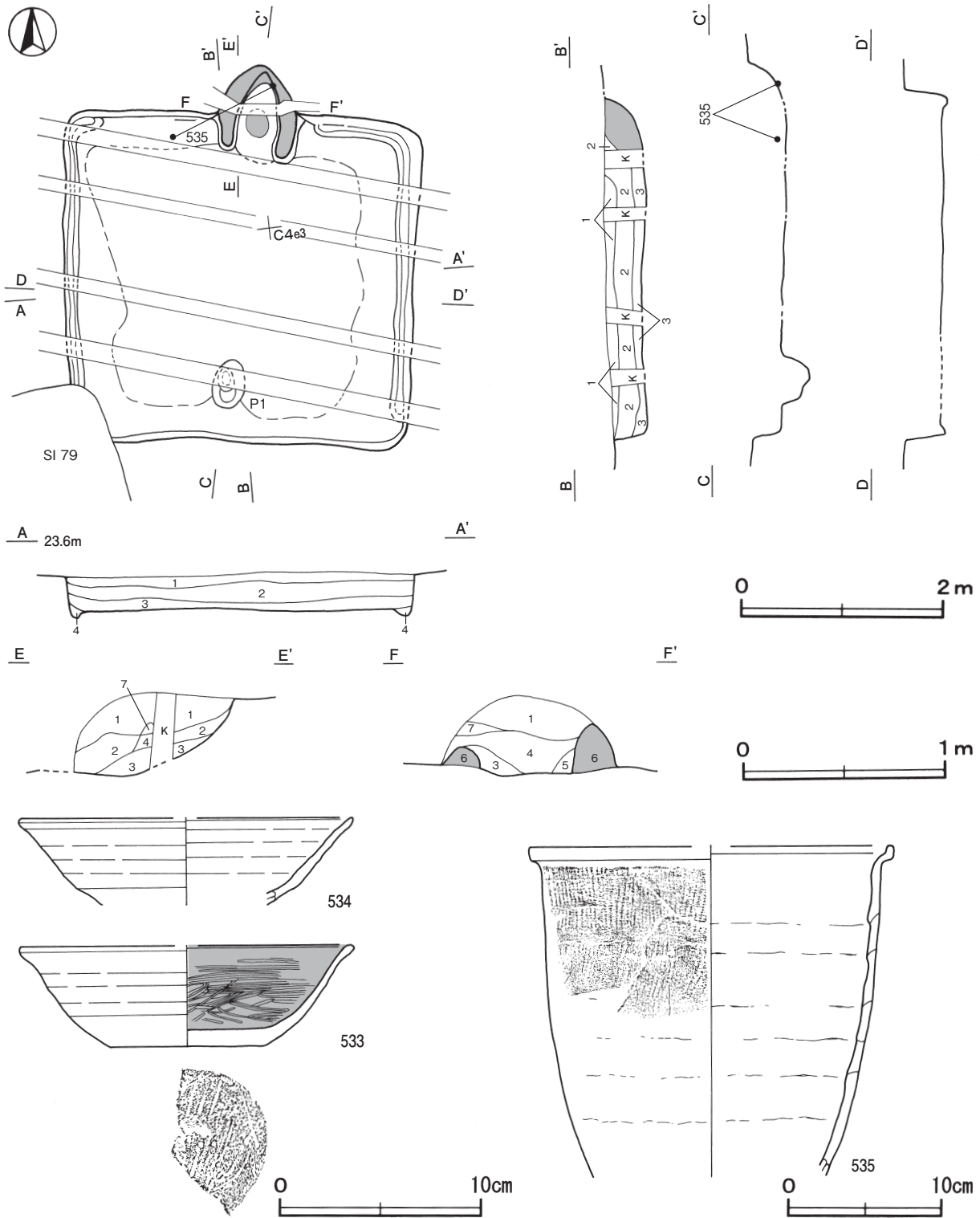
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	4	褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器坏1点、須恵器坏・甕各1点のほか、土師器甕片32点、須恵器片55点（坏15・蓋3・皿

1・甕29・甗7)が竈前面を中心に出土している。そのほか混入した瓦・不明鉄製品各1点ずつが出土している。535は竈の覆土下層と北壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。533・534は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第237図 第78号住居跡・出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表（第237図）

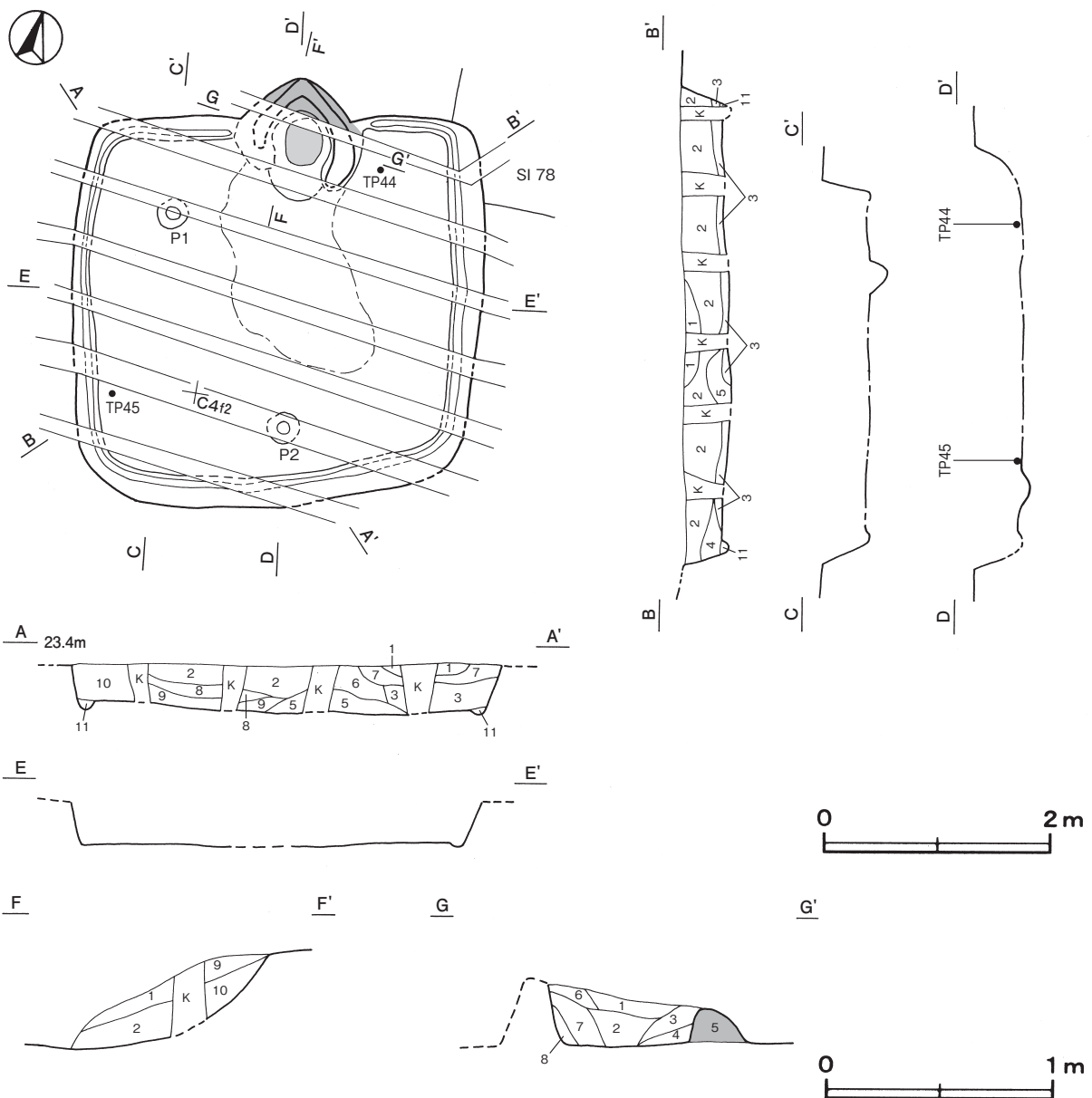
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
533	土師器	坏	[16.4]	5.0	7.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	40%
534	須恵器	坏	[16.4]	(4.3)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	10%
535	須恵器	甑	[23.8]	(21.6)	—	長石・石英・雲母・ 細礫	にぶい黄橙	普通	体部縦位の平行叩き 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土下層	30%

第79号住居跡（第238・239図）

位置 調査区北部のC 4e2区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第78号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.65m、短軸3.46mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は36~40cmで、やや外傾して立ち上がっている。



第238図 第79号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。天井部は崩落し、左袖部は攪乱を受けている。焚口部から煙出部まで110cm、燃烧部幅は52cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを含むにぶい褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き37cm、幅94cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------|----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 にぶい黄褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ローム粒子・白色粘土粒子少量 | 8 灰黄褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗灰黄色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |

ピット 2か所。P1は深さ17cmで、コーナー部に位置していることから主柱穴である。P2は深さ8cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

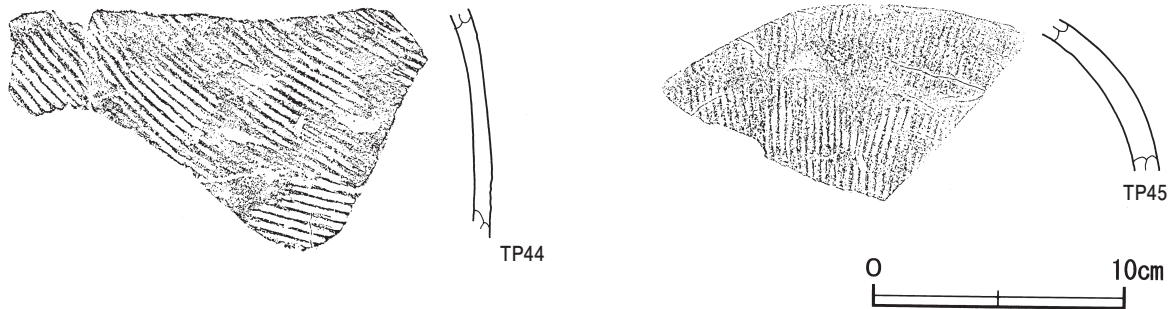
覆土 11層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| | | 11 暗褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 須恵器甕2点のほか、土師器坏片22点、須恵器片18点（坏7・甕11）が出土しているが、ほとんどが細片である。そのほか、混入した瓦1点が出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第239図 第79号住居跡出土遺物実測図

第79号住居跡出土遺物観察表（第239図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP44	須恵器	甕	—	(9.1)	—	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面斜位の平行叩き	覆土下層	PL90
TP45	須恵器	甕	—	(6.0)	—	長石・石英	灰	普通	外面縦位の平行叩き 指頭痕	覆土下層	PL90

第82号住居跡（第240・241図）

位置 調査区北東部のC5b4区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 西部を第11号溝、中央部を第21号溝に掘り込まれている。

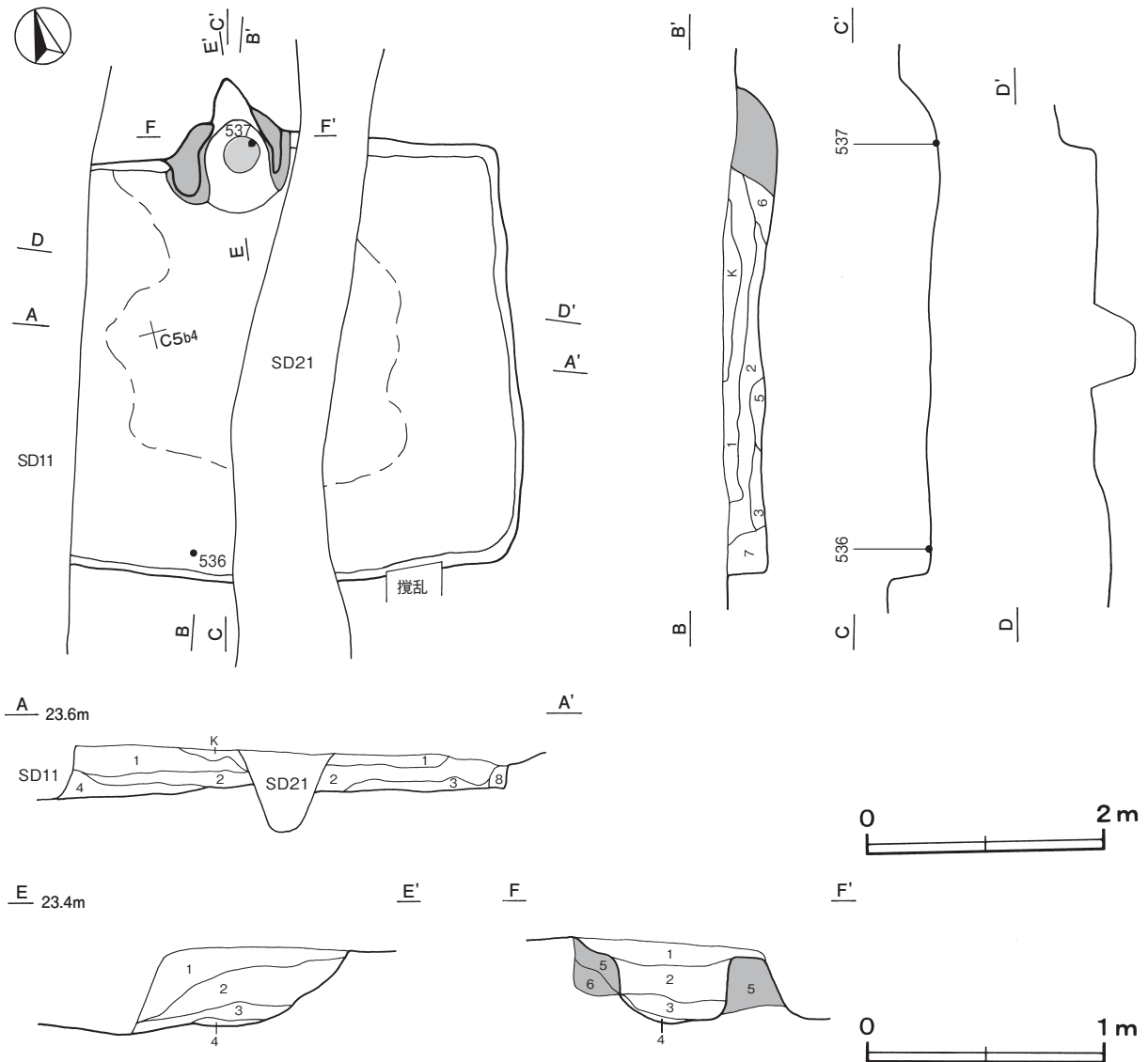
規模と形状 西部が第11号溝に掘り込まれているため、南北軸は3.80mで、東西軸は3.73mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-14°-Eの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は28~37cmで、ほぼ直立している。
床 中央部が若干高いがほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。

竈 北壁に付設されている。焚口部から煙出部まで118cm、燃焼部幅は56cmである。袖部は地山を若干掘り残し、砂質粘土粒子を含むにぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。第5・6層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き56cm、幅87cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を12cmほど掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム・炭化粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 にぶい黄褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |

覆土 8層に分層できる。第1~2層は自然堆積であるが、それ以外の層は不自然な堆積であることから埋め戻されている。



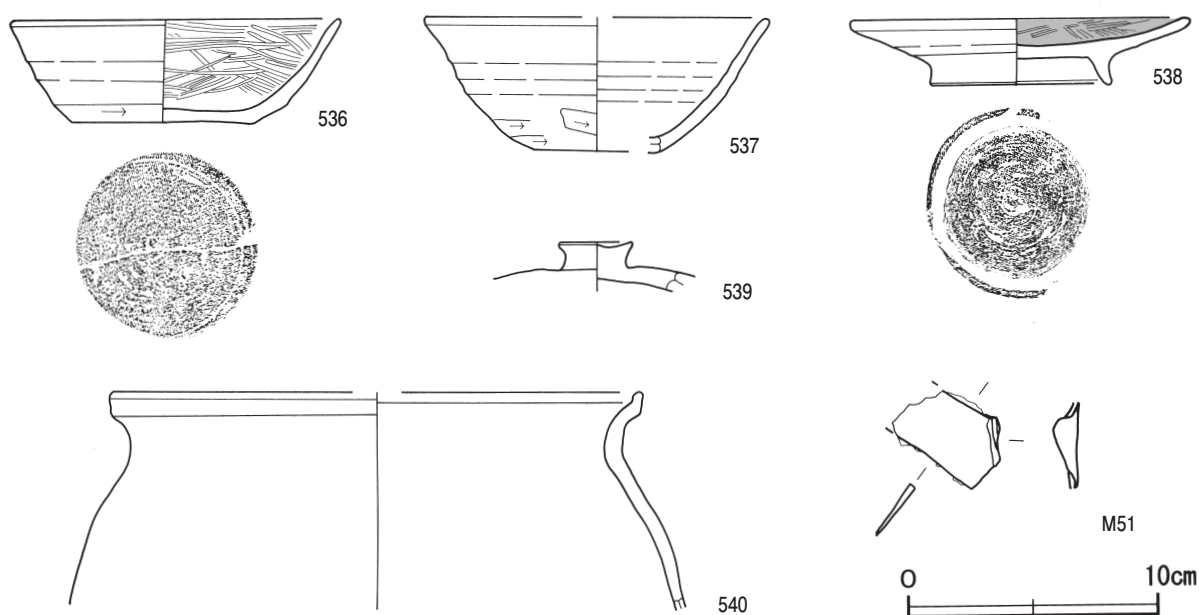
第240図 第82号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------|---------------|-----------------------------|
| 1 黒 褐 色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 6 灰 黄 褐 色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子・砂粒少量 | 8 に ぶ い 黄 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒 褐 色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |
| 5 暗 褐 色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器坏・高台付皿・甕各1点, 須恵器坏・蓋各1点, 鉄鎌1点のほか, 土師器片234点(坏43・甕191), 須恵器片134点(坏47・甕87)が出土している。そのほか, 流れ込んだ弥生土器片1点, 混入した陶器片2点も出土している。537は竈の火床部付近から出土している。536は南壁際の床面, 540は竈の覆土中, 538・539・M51は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第241図 第82号住居跡出土遺物実測図

第82号住居跡出土遺物観察表 (第241図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備 考
536	土師器	坏	13.1	4.2	7.4	長石・雲母	明褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 二次焼成	床面	70% PL84
537	須恵器	坏	[13.6]	5.3	[5.0]	長石・石英・雲母	明赤褐	—	体部下端手持ちヘラ削り 二次焼成	竈火床面	20%
538	土師器	高台付皿	13.4	2.7	7.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	90% PL84
539	須恵器	蓋	—	(2.0)	—	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
540	土師器	甕	[21.0]	(9.8)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	内面ヘラナデ	竈覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M51	鎌	(4.4)	2.9	0.2	(11.1)	鉄	切先部・刃部欠損	覆土中	

第83号住居跡 (第242・243図)

位置 調査区北東部のC 5 f7区で, 標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部の一部を残して攪乱を受けているため, 東西軸は2.67mで, 南北軸は0.35mしか確認できな

かった。形状から主軸方向がN-1°-Eの方形または長方形と推測できる。壁高は10cmで、やや外傾している。床 東部が若干低いがほぼ平坦で、明確な硬化面は確認できない。

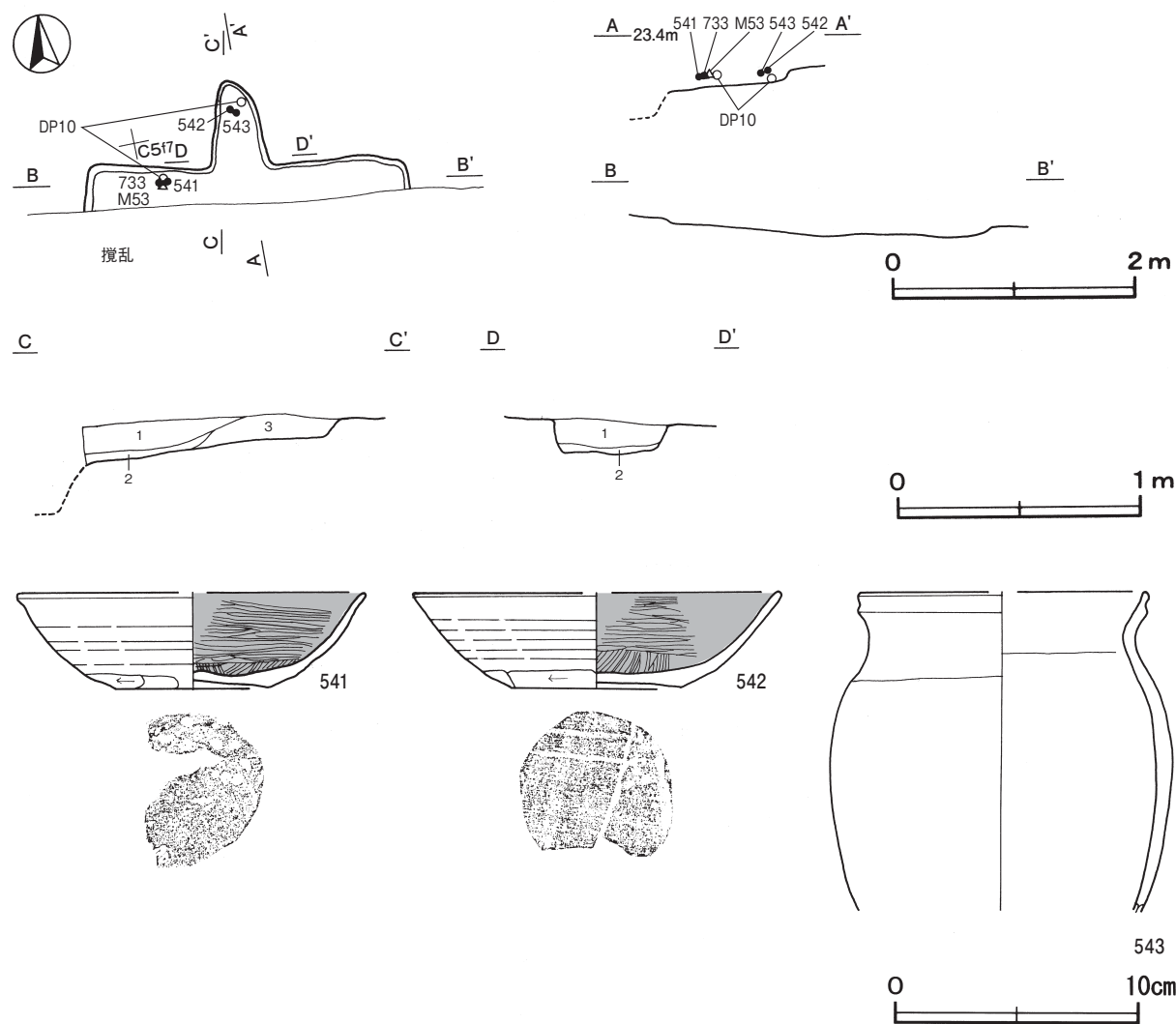
竈 北壁中央部に付設されており、天井部及び袖部の大部分は削平されている。焚口部から煙出部まで83cm、燃焼部幅は39cmである。煙道部は、壁外へ76cm、幅45cm掘り込んで構築されている。火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

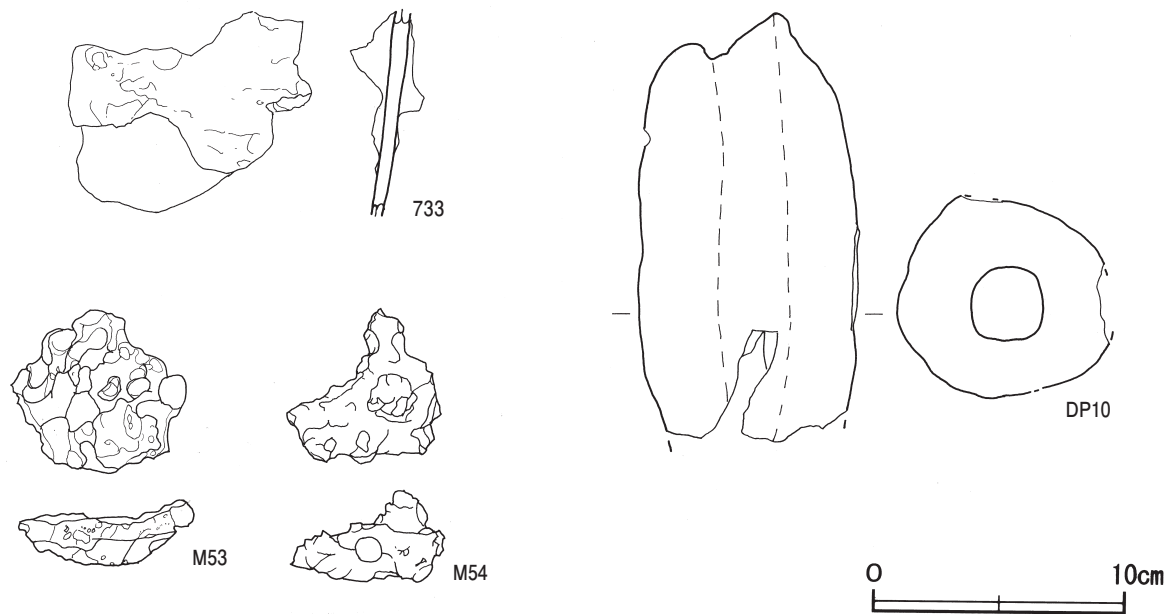
- 1 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量, ローム粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器坏・甕各2点, 土製羽口1点, 椀状滓2点のほか, 土師器片27点(坏7・甕20), 須恵器片16点(坏5・甕11)が出土している。DP10は火床面上に立てられた状態で出土した支脚である。また543は、DP10に被せる形で逆位で出土していることから、DP10と一体で支脚として機能していたと考えられる。541は北壁際の覆土中層, 542は竈の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第242図 第83号住居跡・出土遺物実測図



第243図 第83号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表（第242・243図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
541	土師器	坏	[14.0]	3.9	[6.2]	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中層	40%
542	土師器	坏	[15.0]	3.9	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土上層	25%
543	土師器	甕	[11.8]	(13.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラナデ	竈火床面	40%
733	土師器	甕	—	(7.7)	—	長石・石英・雲母	浅黄	普通	体部下端ヘラ削り 鉄滓附着	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	最大径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP10	羽口	(17.1)	8.8	(2.9)	(640.0)	土(長石)	被熱痕	竈火床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M53	椀状滓	6.9	6.4	2.5	82.1	鉄	皿状を呈す 着磁性弱い	覆土中層	
M54	椀状滓	6.2	6.1	3.7	48.5	鉄	着磁性弱い	覆土中	

第91号住居跡（第244図）

位置 調査区中央部のC4h6区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第81号住居跡を掘り込み、中央から南部を第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は2.89mで、南北軸は1.26mだけ確認できた。主軸方向がN-2°-Wの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は2~26cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、踏み固められた部分は確認されていない。

竈 北壁中央部に付設されている。遺存状況は不良で、燃烧部のみ確認できた。燃烧部幅は47cmである。火床部は床面を13cm掘り込んでおり、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1 褐色 焼土粒子少量 | 3 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック微量 |

覆土 2層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

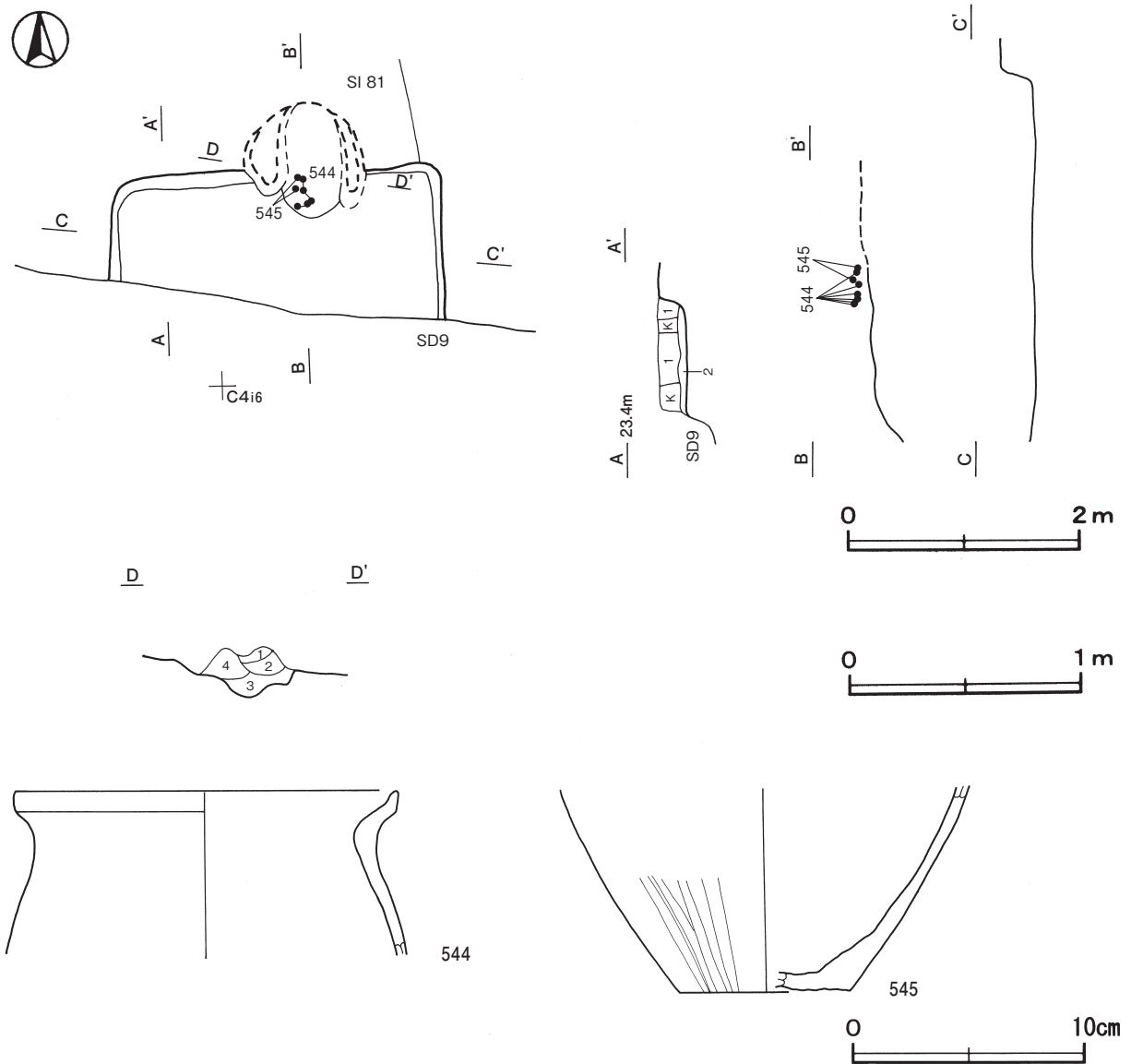
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

2 暗褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器甕2点のほか、土師器甕片18点が出土している。545は竈の火床面に据えられた状態で出土しており、支脚として使用されていたものと考えられる。544は竈の火床部から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、重複関係と出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第244図 第91号住居跡・出土遺物実測図

第91号住居跡出土遺物観察表（第244図）

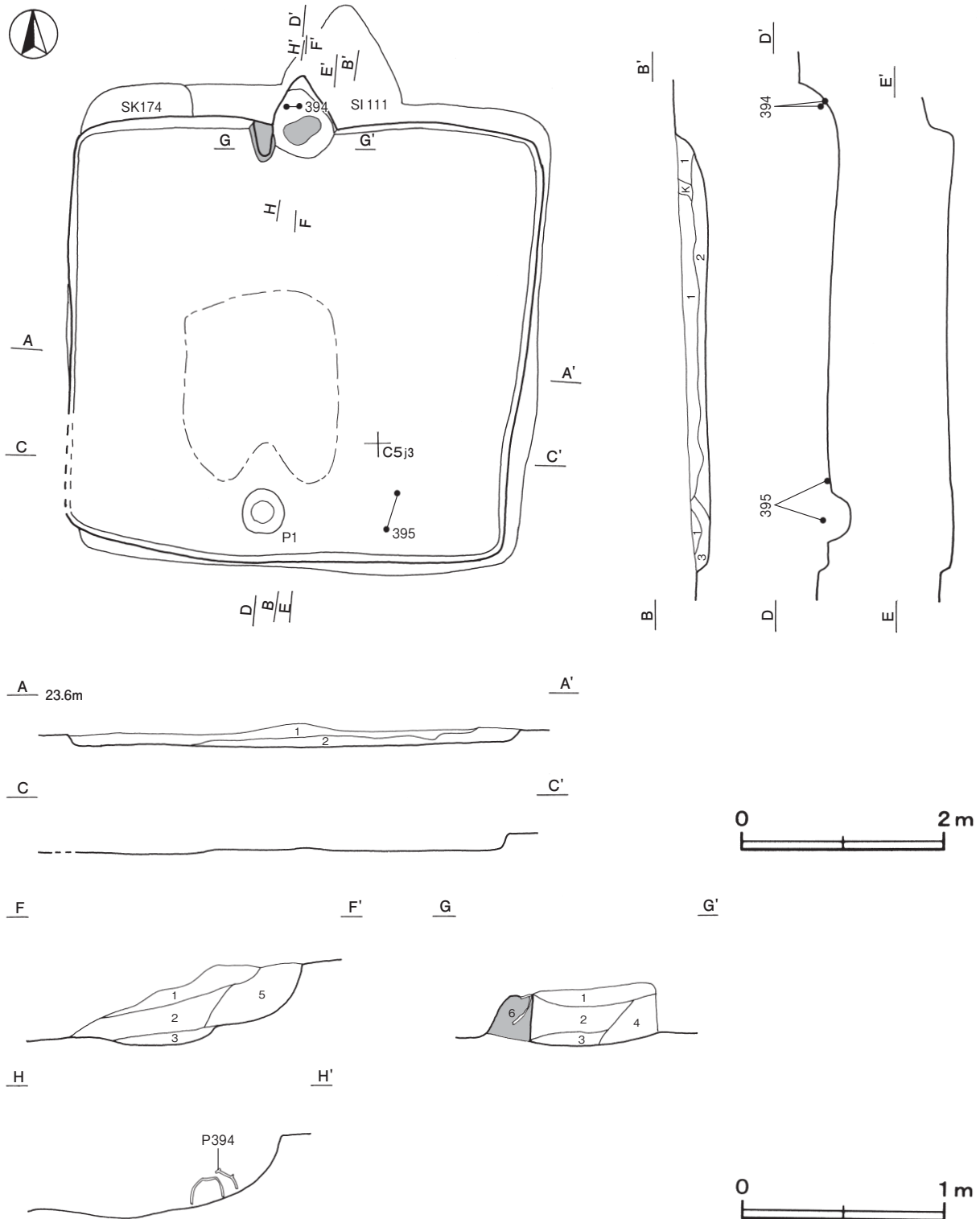
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
544	土師器	甕	16.4	(7.1)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラナデ	竈火床部	20%
545	土師器	甕	—	(8.8)	[7.3]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈火床部	10%

第93号住居跡（第245・246図）

位置 調査区北東部のC5i2区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第111号住居跡，第174号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.64m，短軸4.34mの方形で，主軸方向はN-4°-Eである。壁高は11~24cmで，外傾して立ち上がっている。



第245図 第93号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、中央部の南西寄りに硬化面が認められる。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで84cm、燃焼部幅60cmである。右袖部は遺存していない。左袖部は床面と同じ高さの地山の上に、ローム粒子と白色粘土ブロックを含むにぶい褐色土を積み上げ、内側に土師器甕を貼り付けて構築されている。第6層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形状に奥行き50cm、幅60cm掘り込んで構築されている。火床部は床面から高くなだらかなスロープ状を呈し、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 灰褐色 焼土ブロック少量 | 4 灰褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 にぶい褐色 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 6 にぶい褐色 ローム粒子・白色粘土粒子・焼土粒子少量 |

ピット 深さ20cmで、南壁寄りの竈に対面する位置にあることから出入り口施設に伴うピットである。

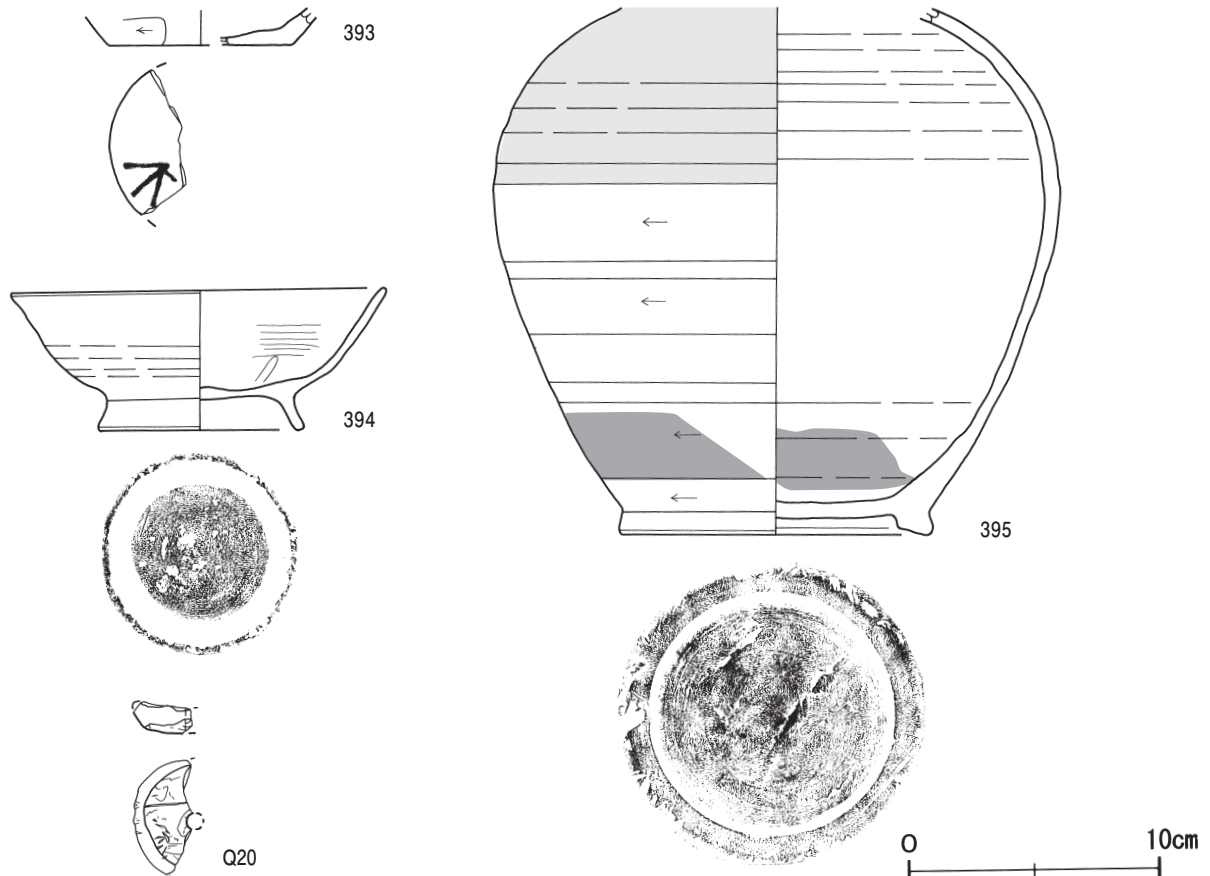
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器高台付坏、須恵器坏、灰釉陶器長頸瓶、石製紡錘車各1点のほか、土師器片290点（坏23・高台付坏3・甕264）、須恵器片53点（甕49・鉢1・甌3）が出土している。394は竈の火床面に伏せられた状態で出土しており、支脚に転用されたものである。395は南部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。393・Q20は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第246図 第93号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表（第246図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
393	須恵器	坏	—	(1.4)	[7.2]	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 底部外面墨書「不」カ	覆土中	10%
394	土師器	高台付坏	14.8	4.6	7.8	雲母	にぶい黄橙	—	内面ヘラ磨き 二次焼成	火床部支脚	60% PL84
395	灰釉陶器	長頸瓶	—	(21.0)	12.2	緻密	灰	良好	体部下半・底部回転ヘラ削り 灰オリブ釉 内・外面体部下端煤付着	覆土下層	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	紡錘車	(4.6)	(1.3)	(0.6)	(11.0)	粘板岩	側面研磨 上面・下面欠損	覆土中	

第111号住居跡（第247～250図）

位置 調査区北東部のC5i2区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第93号住居，第174号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.73m，短軸4.68mの方形で，主軸方向はN-4°-Eである。壁高は36～44cmで，やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際と竈前面を除いて硬化面が認められる。壁溝が北西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで90cm，燃烧部幅60cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に，砂質粘土ブロックを含む灰黄褐色土を積み上げ，内側に土師器甕を貼り付けて構築されている。第5層が袖部の構築土である。煙道部は，壁外へ三角形に奥行き86cm，幅60cm掘り込んで構築されている。火床部は壁外に位置し，床面より高くなだらかなスロープ状を呈し，火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|--------|-------------------|
| 1 にぶい褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子少量 |
| 2 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 5 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量，炭化粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 | 焼土ブロック中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ48～83cmで，規模と位置から主柱穴である。P5は深さ68cmで南壁寄りの中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

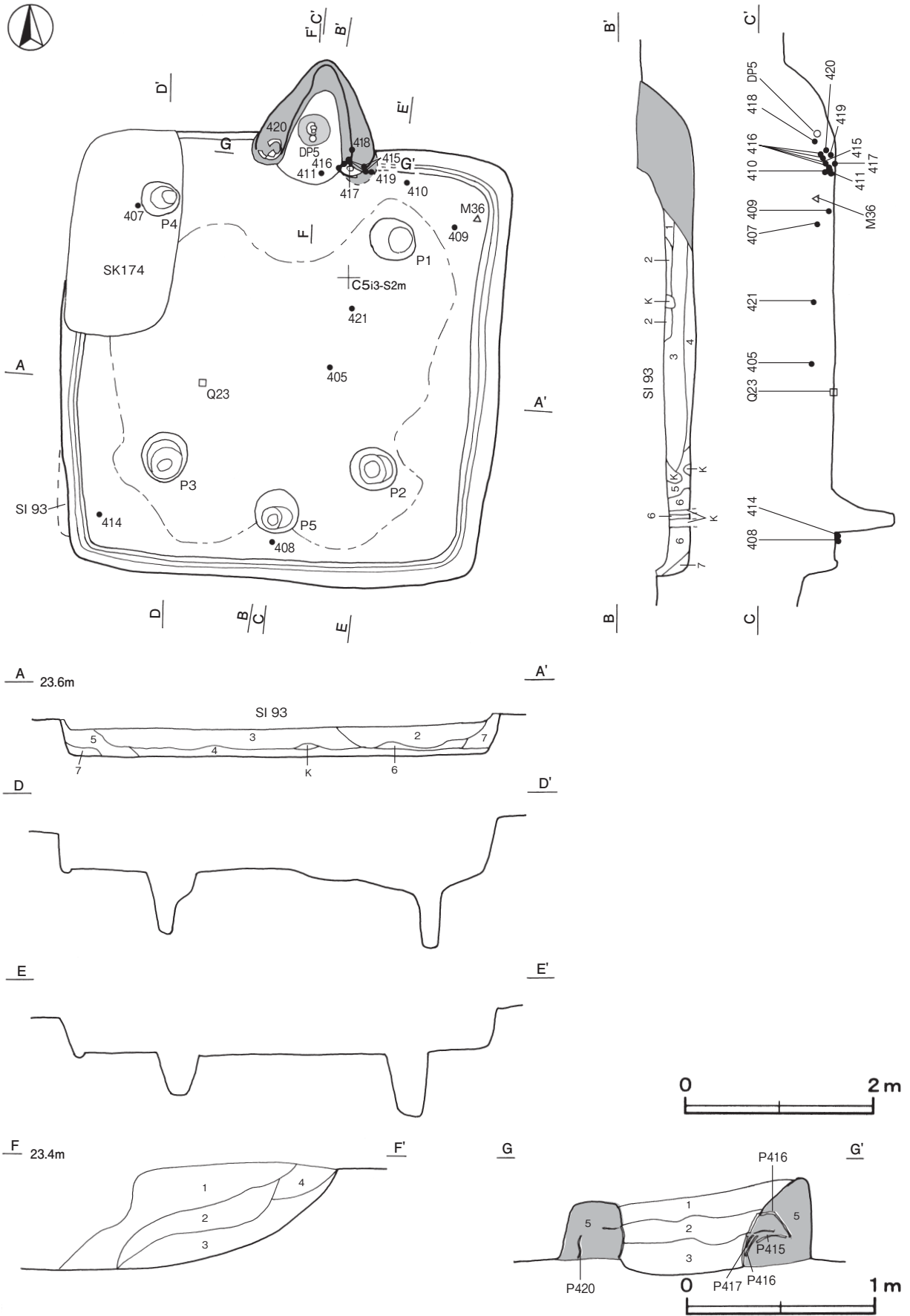
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含み，不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

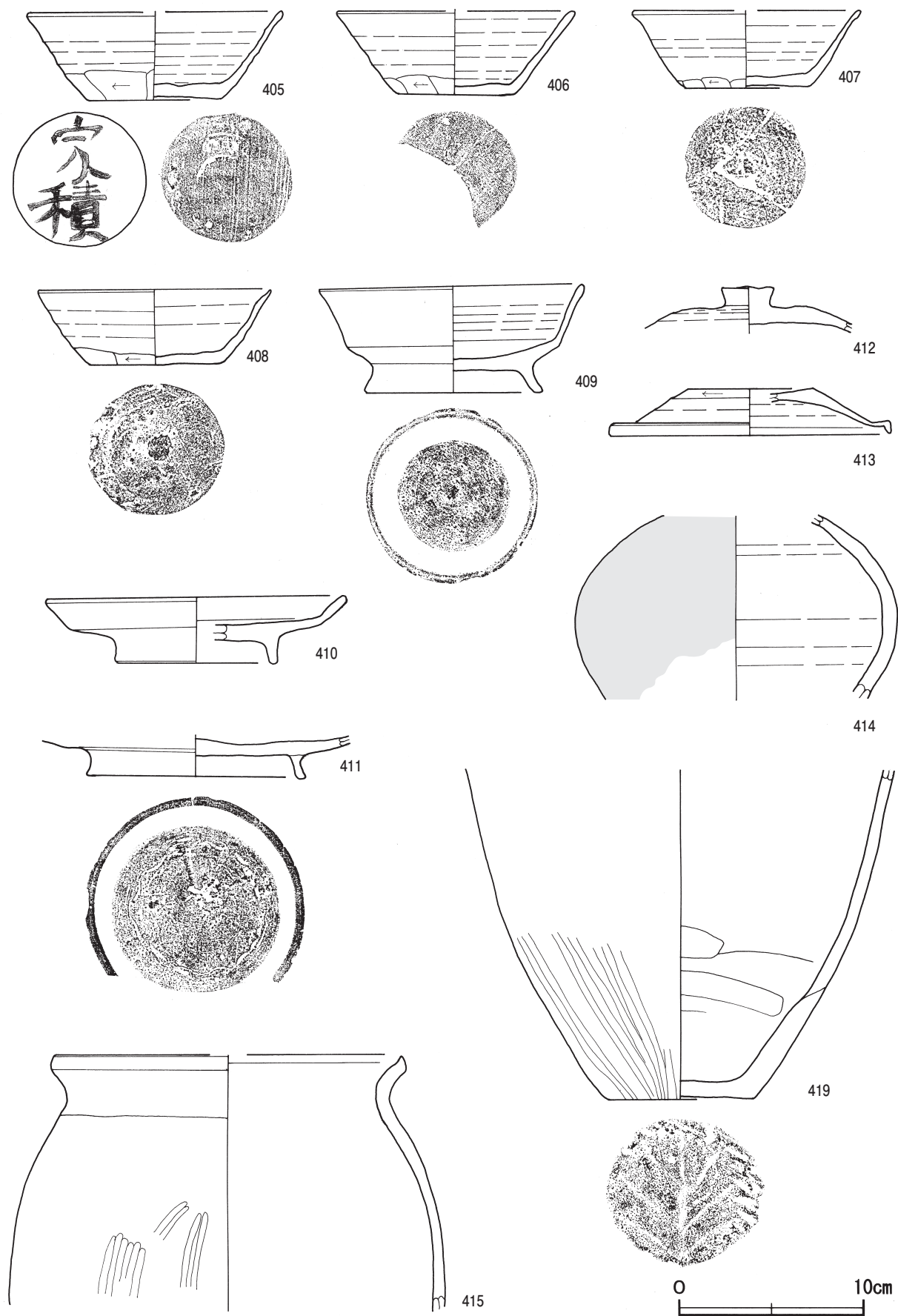
- | | | | |
|---------|------------------|---------|--------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 にぶい褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 土師器甕6点，須恵器坏4点，高台付坏1点，盤・蓋各2点，長頸瓶・甕各1点，砥石2点，小鎌・土製支脚各1点のほか，土師器片390点（坏37・高台付坏3・甕350），須恵器片191点（坏126・盤5・高盤1・蓋20・甕31・甌1・盤7）が出土している。408は南壁際，414は南西コーナー部，409は北東部，Q23は中央部の床面からそれぞれ出土している。410は北壁際，411は右袖付近の覆土下層からそれぞれ出土している。M36は北東コーナー部の覆土中層，405・421は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。415～419は右袖部に逆位で，420は左袖部に逆位で据えられた状態でそれぞれ出土しており，袖の補強材として使用されたものである。DP5は火床部に据えられた状態で出土している。406・412・413・Q22は覆土中，407はP4付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

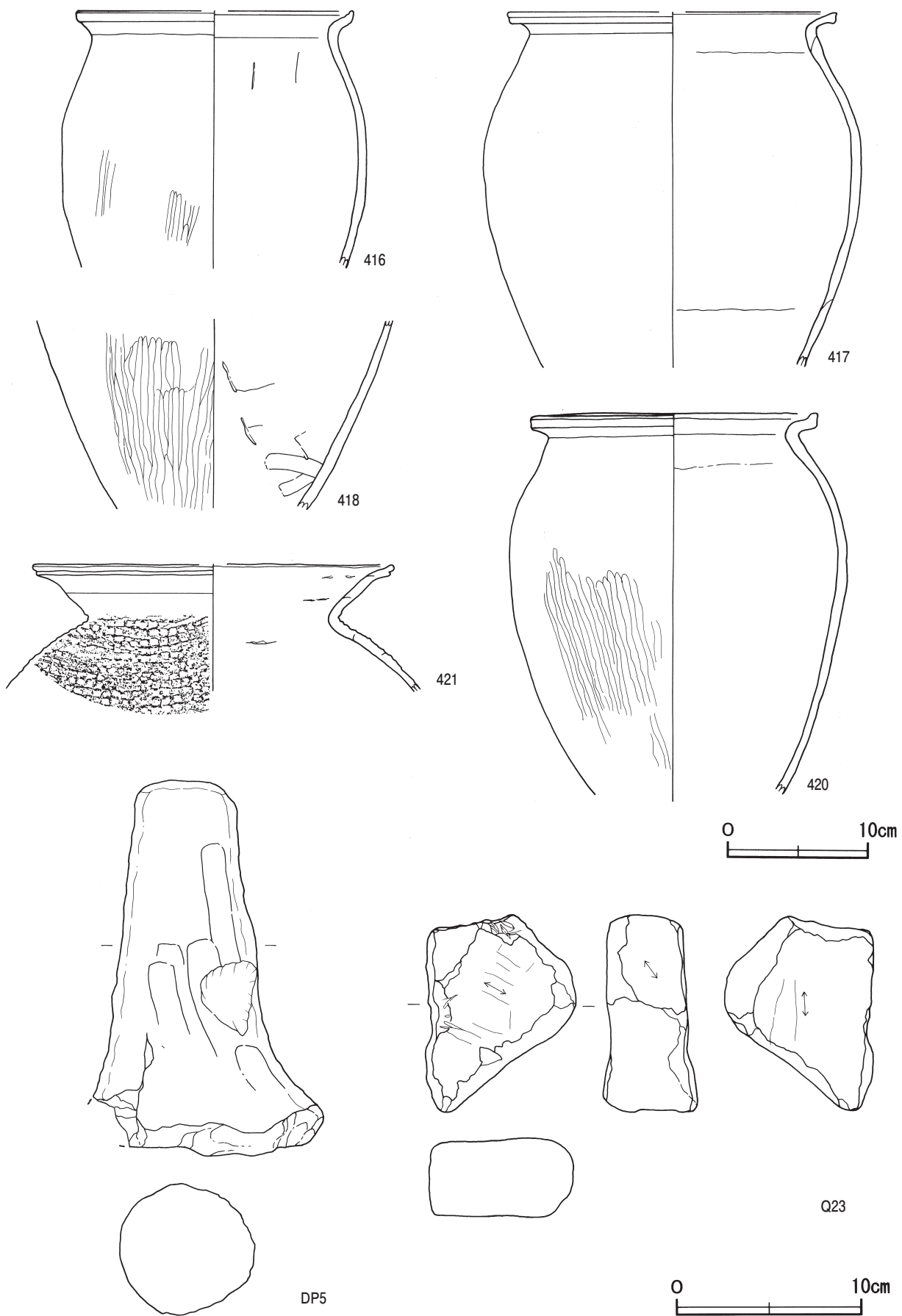
所見 時期は，重複関係や出土土器から9世紀前葉に比定できる。



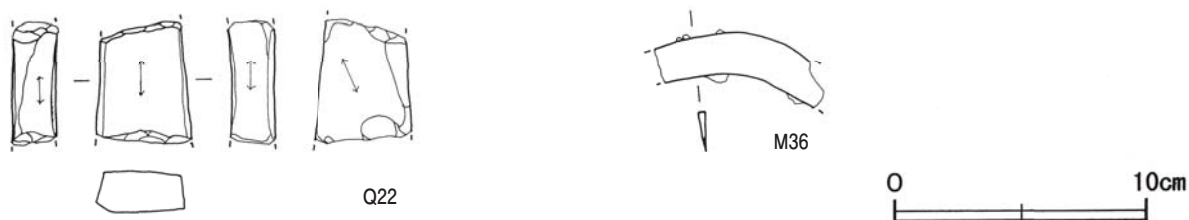
第247图 第111号住居跡実測図



第248図 第111号住居跡出土遺物実測図 (1)



第249图 第111号住居跡出土遺物実測図(2)



第250図 第111号住居跡出土遺物実測図(3)

第111号住居跡出土遺物観察表(第248~250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
405	須恵器	坏	[13.6]	4.8	7.2	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 底部外面墨書「家カ積」	覆土上層	40% PL89
406	須恵器	坏	[12.8]	4.5	6.4	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土中	40%
407	須恵器	坏	[12.1]	4.2	6.7	長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	覆土中層	60% PL86
408	須恵器	坏	12.4	4.1	7.4	長石	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向の雑なナデ	床面	90% PL86
409	須恵器	高台付坏	14.2	5.9	9.5	長石・雲母, 粗い	暗灰	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	床面	90% PL86
410	須恵器	盤	16.0	3.7	8.6	長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	覆土下層	50% PL87
411	須恵器	盤	—	(2.4)	11.6	長石・細礫	灰	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	覆土下層	50%
412	須恵器	蓋	—	(2.5)	—	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後, つまみ貼り付け	覆土中	30%
413	須恵器	蓋	[15.1]	(2.5)	—	長石・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り つまみ欠損	覆土中	30%
414	須恵器	長頸瓶	—	(9.9)	—	長石	灰	普通	肩部に自然袖付着	床面	10%
415	土師器	甕	[18.8]	(13.8)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部上位ヘラ磨き	右袖補強材	10%
416	土師器	甕	[19.8]	(18.3)	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部上位ヘラ磨き	右袖補強材	10%
417	土師器	甕	[23.4]	(25.4)	—	長石・雲母, 粗い	橙	—	二次焼成が強く器面剥離のため調整不明 輪積痕	右袖補強材	20%
418	土師器	甕	—	(13.5)	—	長石	にぶい赤褐	—	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ 二次焼成	右袖補強材	20%
419	土師器	甕	—	(17.8)	7.8	長石・細礫, 粗い	橙	—	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ 二次焼成 輪積痕	右袖補強材	30%
420	土師器	甕	20.5	(27.2)	—	長石・雲母	にぶい橙	—	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ 二次焼成	左袖補強材	70% PL86
421	須恵器	甕	[25.5]	(9.0)	—	長石・雲母	灰	普通	体部格子状の叩き 輪積痕	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP5	支脚	20.3	(12.6)	7.1	(1310.0)	土(長石)	側面ヘラ削り	火床面	PL91

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q22	砥石	(4.9)	3.9	1.9	(50.9)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	
Q23	砥石	10.6	8.0	4.9	481.0	砂岩	砥面3面	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M36	小鎌	(6.7)	(1.7)	(0.3)	(9.5)	鉄	切先部・柄付部欠損	覆土中層	PL94

第94号住居跡(第251~253図)

位置 調査区北東部のC5h4区で, 標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第107・108号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が攪乱を受けているため, 東西軸は4.03mで, 南北軸は2.61mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-6°-Wの長方形と推測できる。壁高は25~34cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 明確な硬化面は確認できない。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで96cm, 燃焼部幅は53cmである。袖部は地山を掘り残して構築されている。煙道部は, 壁外へ弧状に奥行き24cm, 幅59cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

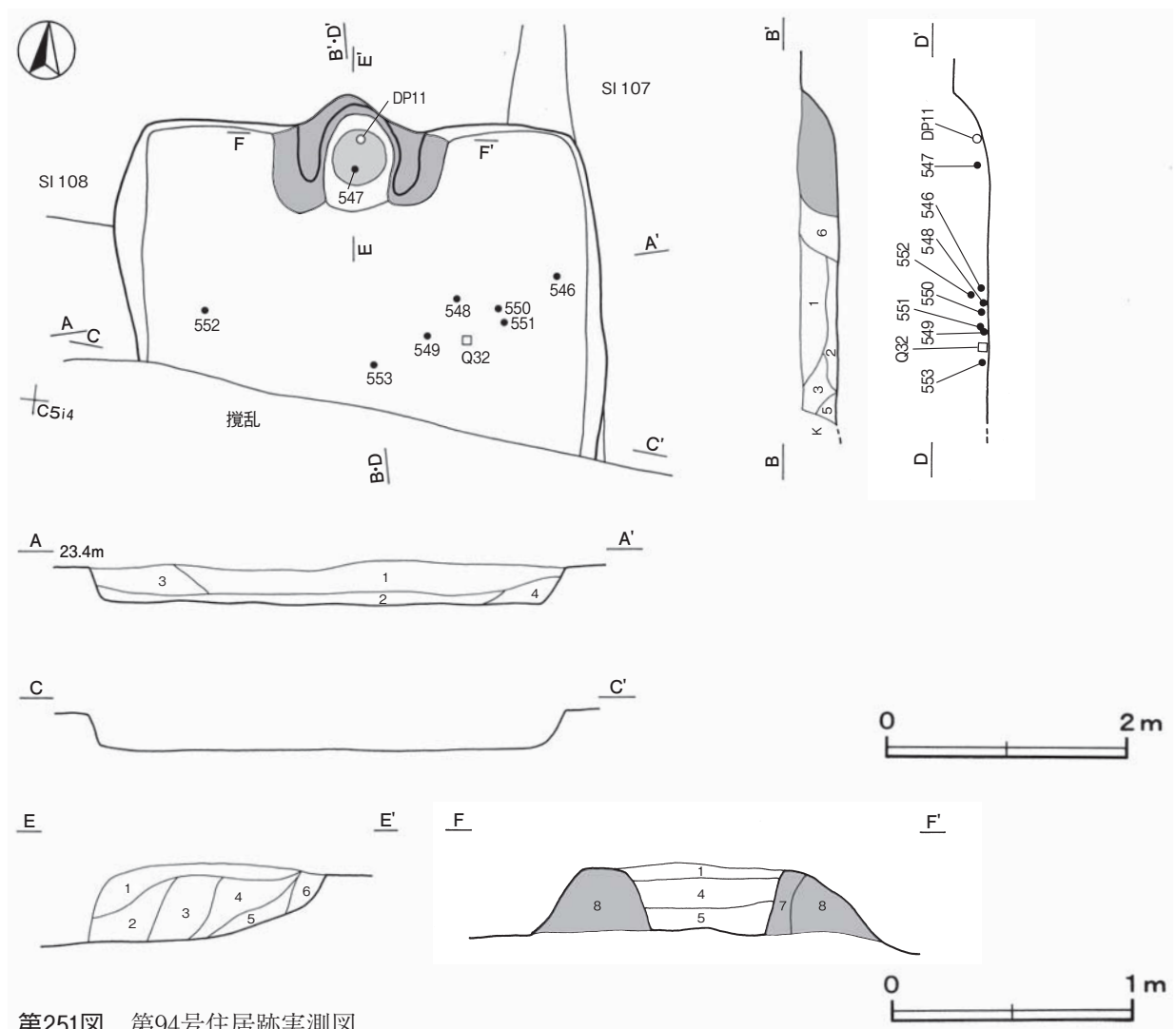
- | | | | |
|----------|------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 (赤変硬化した内壁) |
| 3 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 8 灰褐色 | ロームブロック多量, 砂質粘土粒子中量 |
| 4 にぶい褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂粒少量 | | |
| 5 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂粒中量 | | |

覆土 6層に分層できる。粘土ブロックを含み, 不自然な堆積であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 |

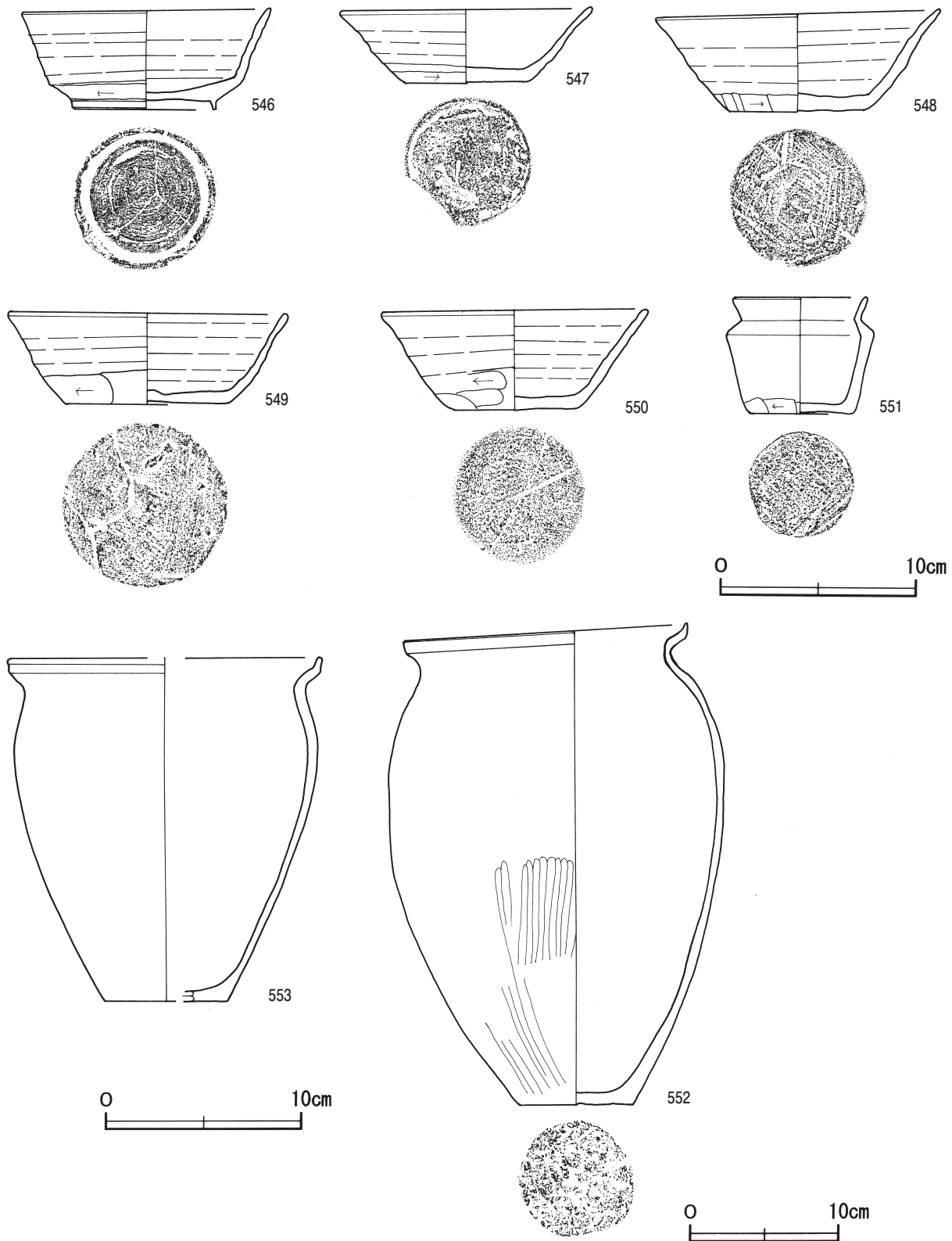
遺物出土状況 土師器甕2点, 須恵器坏4点, 高台付坏・短頸壺各1点, 土製支脚・石製紡錘車各1点のほか, 土師器片167点 (坏7・甕160), 須恵器片41点 (坏20・高台付坏3・蓋4・甕13・甑1), 礫1点が東部を中心に出土している。そのほか, 流れ込んだ弥生土器片1点, 混入した陶器片2点も出土している。DP11は火床面上に立てられた状態で出土した竈支脚である。547は竈の火床部付近から出土している。546・548・



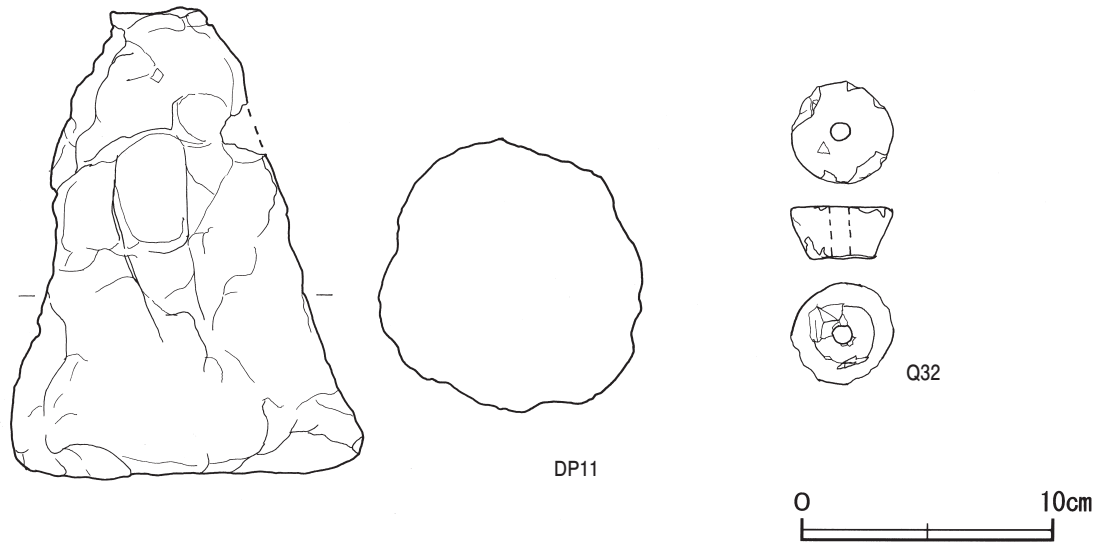
第251図 第94号住居跡実測図

549・550・551・Q32は東壁寄りの覆土下層，552は西壁寄りの覆土中層，553は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第252図 第94号住居跡出土遺物実測図（1）



第253図 第94号住居跡出土遺物実測図（2）

第94号住居跡出土遺物観察表（第252・253図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
546	須恵器	高台付坏	12.7	5.5	7.1	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土下層	98% PL84
547	須恵器	坏	12.6	3.8	6.4	長石・石英・雲母	灰黄	—	体部下端回転ヘラ削り 二次焼成	竈火床部	95% PL84
548	須恵器	坏	14.4	5.2	6.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土下層	95% PL84
549	須恵器	坏	14.0	4.7	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土下層	85% PL84
550	須恵器	坏	13.5	5.1	6.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	90% PL85
551	須恵器	短頸壺	6.6	6.0	5.3	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	100% PL85
552	土師器	甕	18.9	32.2	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中層	90% PL85
553	土師器	甕	[15.9]	17.5	[6.2]	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラナデ	覆土下層	60%

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP11	支脚	18.7	14.0	3.9	(1850.0)	土（長石）	2個体の破片で復元	竈火床部	90% PL91

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q32	紡錘車	4.0	2.0	0.8	(34.6)	凝灰岩	端部欠損 二方向からの穿孔	覆土下層	PL92

第95号住居跡（第254・255図）

位置 調査区北東部のD 5 a6区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第105号住居跡を掘り込み、第18号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部が攪乱を受けているため、東西軸は4.64mで、南北軸は2.89mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-11°-Eの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は15~20cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が南壁と東壁に巡っている。

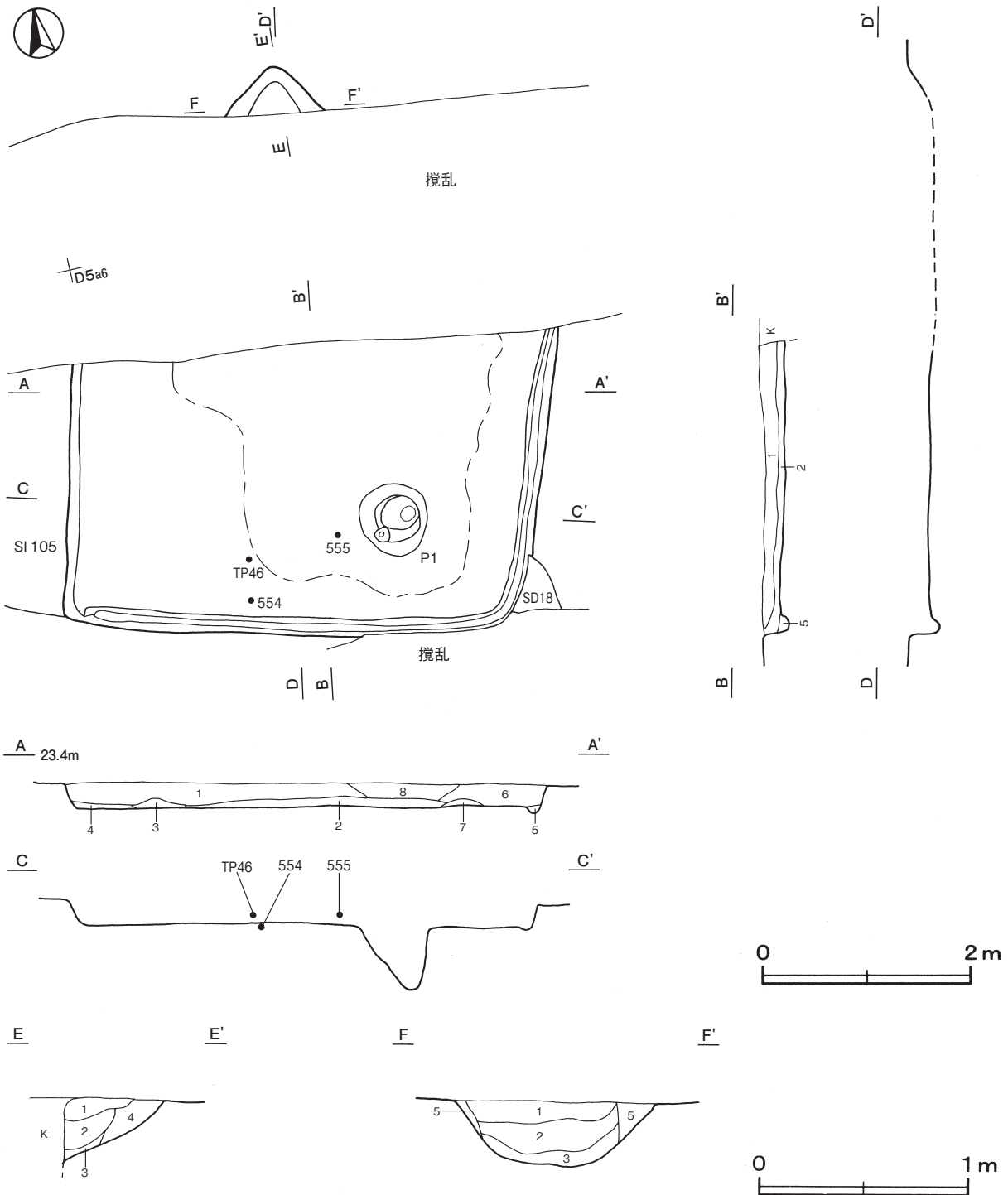
竈 北壁に付設されている。大部分が失われており、煙道部のみ確認できた。確認された範囲は奥行き47cm、幅85cmの煙出部の掘り込みだけである。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | | |

ピット 深さ61cmで、南東コーナー部に位置している。南西コーナー部に相対するピットはないが、主柱穴とみられる。

覆土 8層に分層できる。不自然な堆積であることから埋め戻されている。



第254図 第95号住居跡実測図

土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 灰 黄 褐 色 砂質粘土粒子少量 | 7 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器甕・須恵器鉢・甕各1点のほか、土師器片350点（坏16・高台付坏3・皿1・甕330）、須恵器片171点（坏88・高台付坏1・蓋1・甕76・甑5）が出土している。また混入した陶器片5点（碗4・甕1）、磁器碗片6点も出土している。554は南壁際の床面、555は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。
 所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第255図 第95号住居跡出土遺物実測図

第95号住居跡出土遺物観察表（第255図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備 考
554	須恵器	鉢	—	(5.7)	[16.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部縦位の平行叩き 体部下端ヘラ削り	床面	5%
555	土師器	甕	[14.4]	(4.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	内面ヘラナデ	覆土中層	5%
TP46	須恵器	甕	—	(7.0)	—	長石・石英	灰褐	普通	外面斜位の平行叩き	覆土中層	PL90

第96号住居跡（第256図）

位置 調査区北東部のC5c7区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が攪乱を受けているため、東西軸は3.35mで、南北軸は2.14mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-9°-Eの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は22cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、明確な硬化面は確認できない。

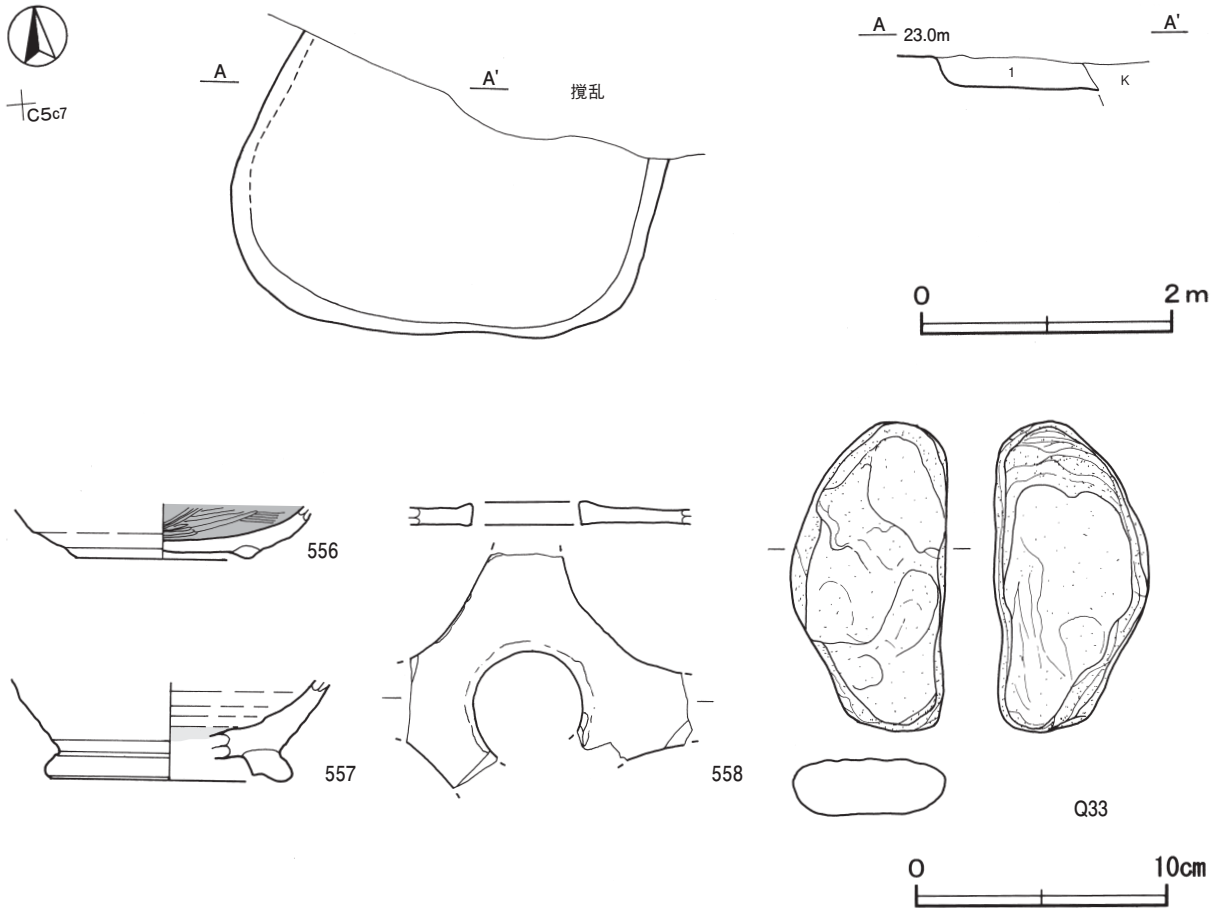
覆土 単一層であることと、含有物から埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器高台付碗・須恵器甑・灰釉陶器長頸瓶・石製支脚カ各1点のほか、土師器片59点（坏7・高台付坏1・皿1・甕50）、須恵器片37点（坏4・高台付坏1・甕31・甑1）、礫1点が出土している。556・557・558は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 東部に壁の立ち上がり確認されたため、住居跡と判断した。時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第256図 第96号住居跡・出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表（第256図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
556	土師器	高台付椀	—	(2.2)	[6.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	5%
557	灰釉陶器	長頸瓶	—	(3.9)	[9.4]	長石	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ切り 底部内面釉付着	覆土中	5%
558	須恵器	甌	—	(0.9)	—	雲母・白色粒子	黄灰	普通	底部5孔式	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q33	支脚カ	12.2	6.2	2.2	260.0	雲母片岩	被熱痕	覆土中	

第97号住居跡（第257図）

位置 調査区北東部のC5h0区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が攪乱を受けているため、東西軸は3.82mで、南北軸は2.56mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-12°-Eの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は6cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。

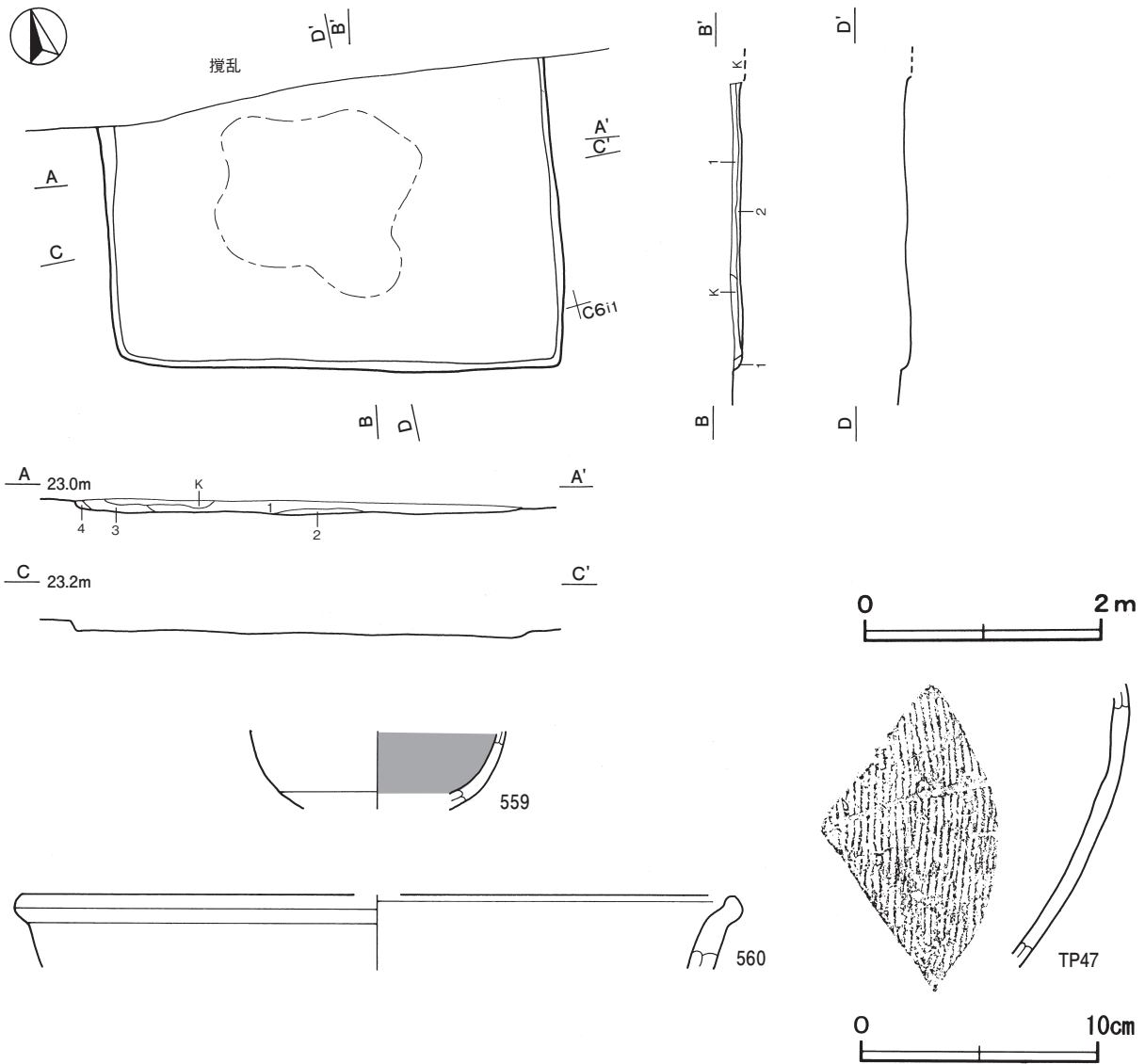
覆土 4層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 におい黄褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器坏・須恵器鉢・甕各1点のほか、土師器甕片8点、須恵器甕片5点が出土している。
559・560は覆土中から出土している。

所見 覆土が薄く遺存状況が不良のため、確認された出土遺物は少量である。時期は、出土土器と遺構の形状から9世紀中葉に比定できる。



第257図 第97号住居跡・出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表（第257図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
559	土師器	坏	—	(3.3)	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面煤付着	覆土中	5%
560	須恵器	鉢	[30.0]	(3.2)	—	長石・雲母	灰白	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%
TP47	須恵器	甕	—	(12.0)	—	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	外面縦位の平行叩き	覆土中	

第98号住居跡（第258・259図）

位置 調査区北東部のD5a5区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第105号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が攪乱を受けているため、東西軸は2.83mで、南北軸は1.32mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-11°-Eの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は2~10cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈前面に硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで64cm、燃焼部幅は44cmである。袖部は、床面と同じ高さの地山の上に、砂質粘土ブロックを含む灰黄褐色土を積み上げて構築されている。第5層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き41cm、幅66cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 ぶい黄褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 5 暗黄褐色 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 ぶい赤褐色 焼土ブロック中量 | 6 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | |
| 4 暗褐色 焼土粒子微量 | |

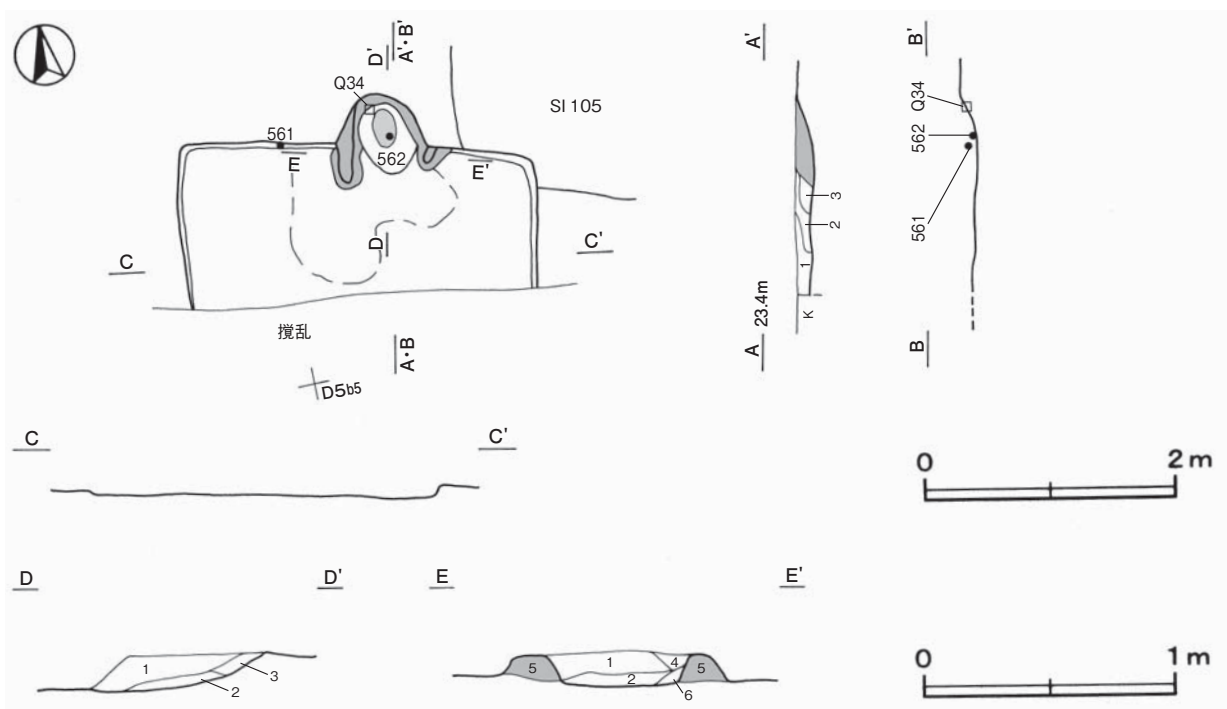
覆土 3層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

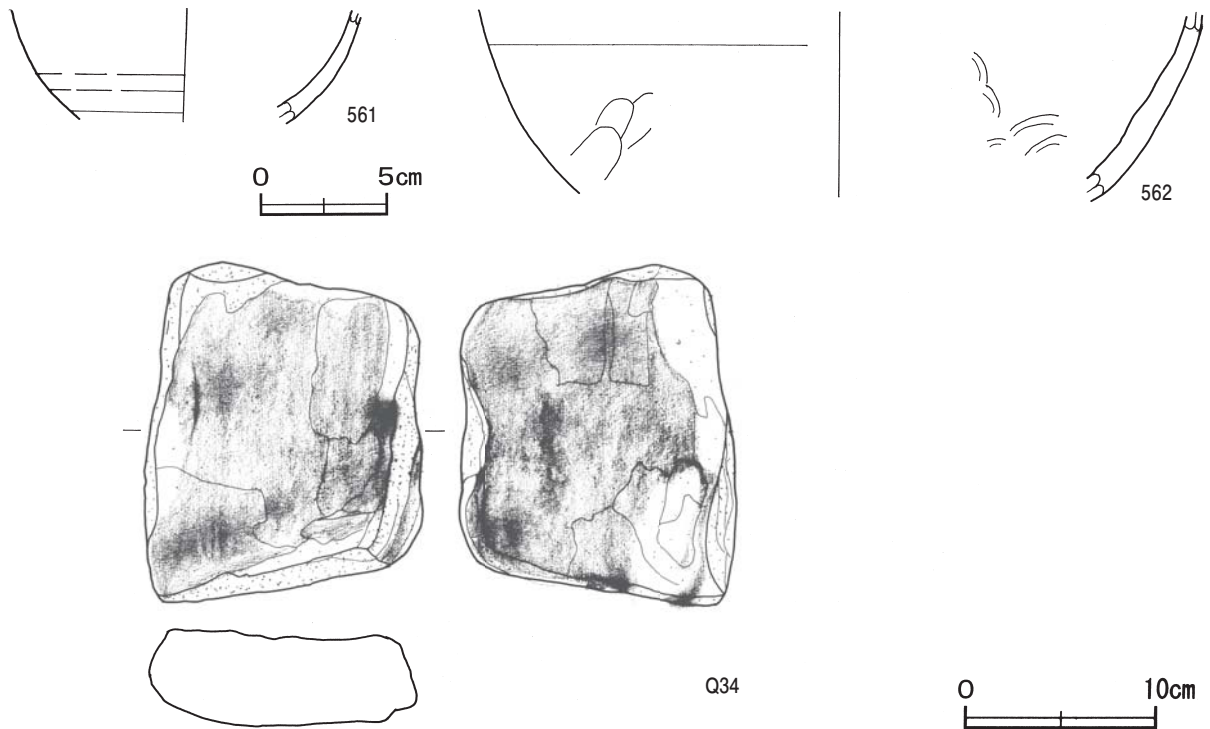
- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 3 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器椀・須恵器甕・石製支脚各1点のほか、土師器片15点（坏3・甕12）が出土している。Q34は竈の火床面に据えられた状態で出土しており、支脚として使用されていたと考えられる。562は竈の火床部付近、561は北壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 攪乱を受けているため、確認された出土遺物は少量である。時期は、出土土器と遺構の形状から9世紀後葉に比定できる。



第258図 第98号住居跡実測図



第259図 第98号住居跡出土遺物実測図

第98号住居跡出土遺物観察表（第259図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
561	土師器	椀	—	(4.5)	—	長石・石英・赤色 粒子・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ	覆土中層	10%
562	須恵器	甕	—	(9.7)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ヘラナデ 内面当て具痕	竈火床部	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q34	支脚	17.7	14.5	5.1	2110.0	雲母片岩	被熱痕	竈火床面	PL93

第99号住居跡（第260図）

位置 調査区東部のD 6 d1区で、標高22.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北西コーナー部・南部を第33号掘立柱建物に掘り込まれている。中央部が攪乱によって失われている。

規模と形状 長軸4.18m、短軸3.95mの長方形で、主軸方向はN-14°-Eである。壁高は23~30cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 中央部が若干高いがほぼ平坦で、明確な硬化面は確認できない。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため袖部は確認できなかった。確認された範囲は、焚口部から煙出部まで75cm、燃焼部幅41cmである。煙道部は、壁外へ三角形状に奥行き42cm、幅44cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 灰黄褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 5 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |

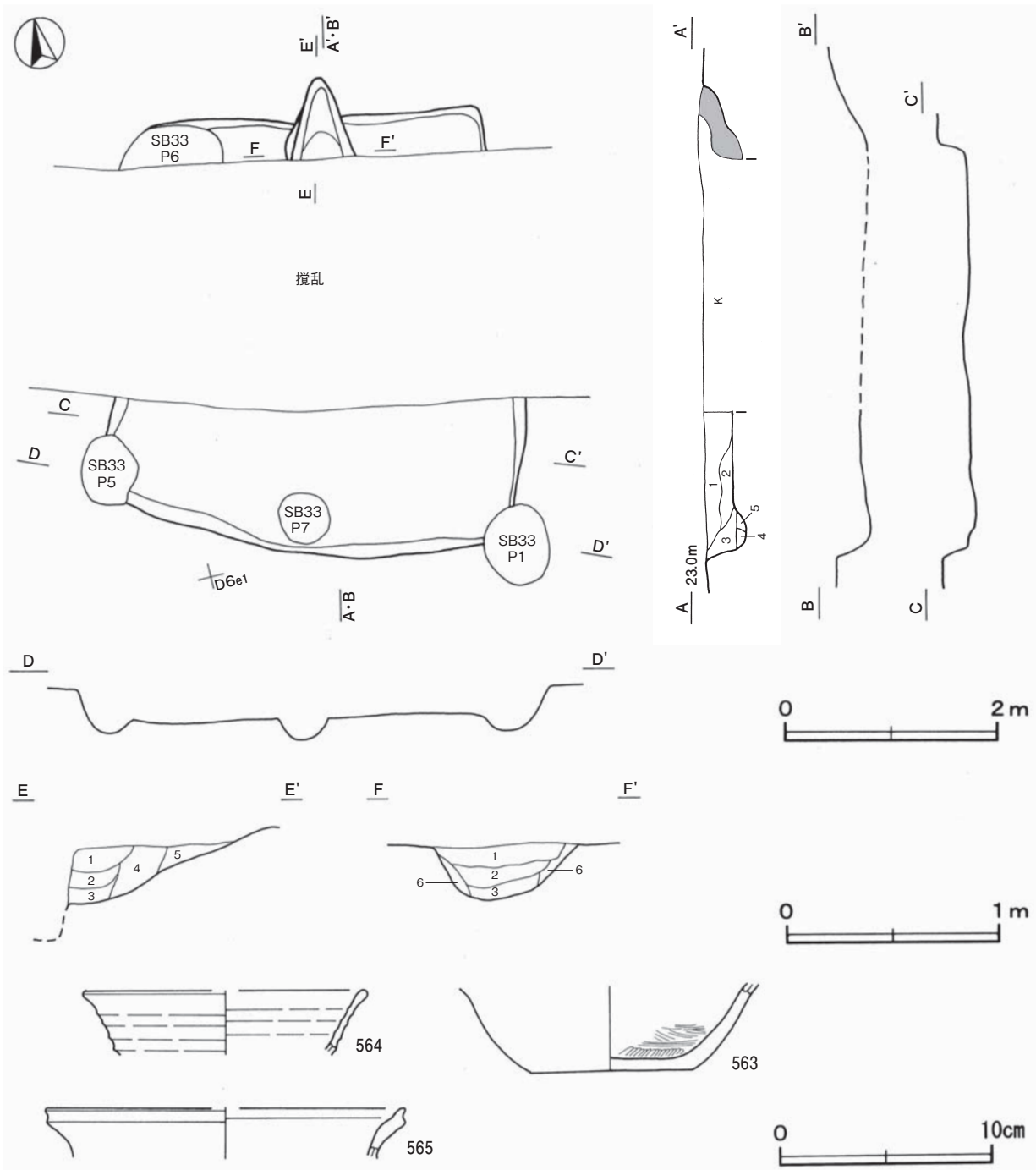
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器坏・甕各1点，須恵器坏1点のほか，土師器片56点（坏12・甕44），須恵器片19点（坏7・甕12），灰釉陶器碗片1点が出土している。563は竈の覆土中，564・565は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第260図 第99号住居跡・出土遺物実測図

第99号住居跡出土遺物観察表（第260図）

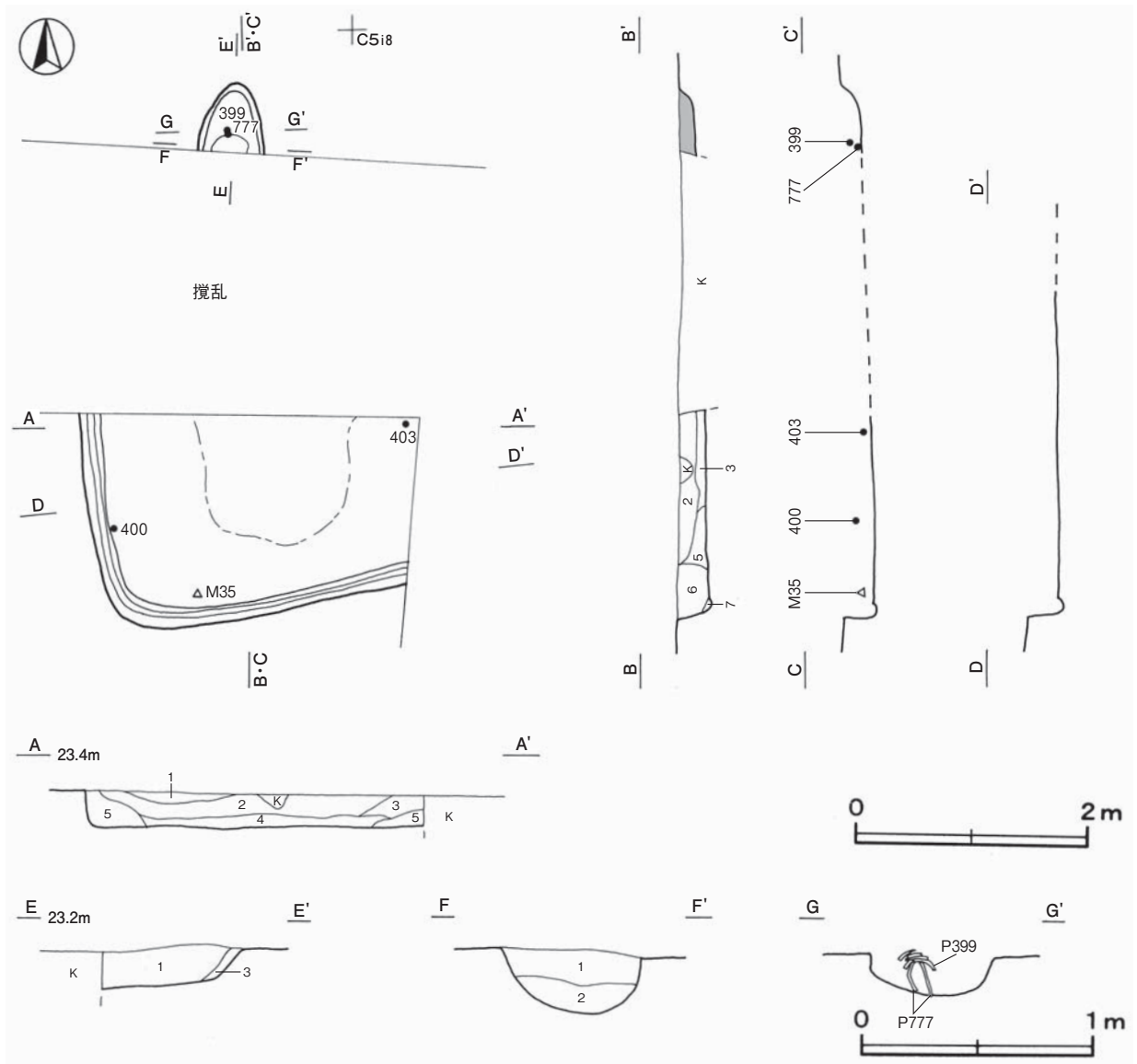
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
563	土師器	坏	—	(4.0)	[7.5]	雲母・赤色粒子・ 黒色粒子	明黄褐	普通	内面ヘラ磨き 外面摩滅	竈覆土中	25%
564	須恵器	坏	[13.2]	(3.0)	—	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5%
565	土師器	甕	[17.0]	(2.4)	—	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5%

第101号住居跡（第261・262図）

位置 調査区北東部のC 5i7区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部・東部が攪乱を受けているため、東西軸は2.93m、南北軸は1.82mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-7°-Wの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は25cmで、ほぼ直立している。

床 確認できた部分はほぼ平坦で、南側の中央部に硬化面が認められる。確認できた範囲では壁溝が全周している。



第261図 第101号住居跡実測図

竈 北壁に付設されている。大部分が失われており、煙道部のみ確認できた。確認された範囲は奥行き60cm、幅60cmの煙出部の掘り込みだけである。

竈土層解説

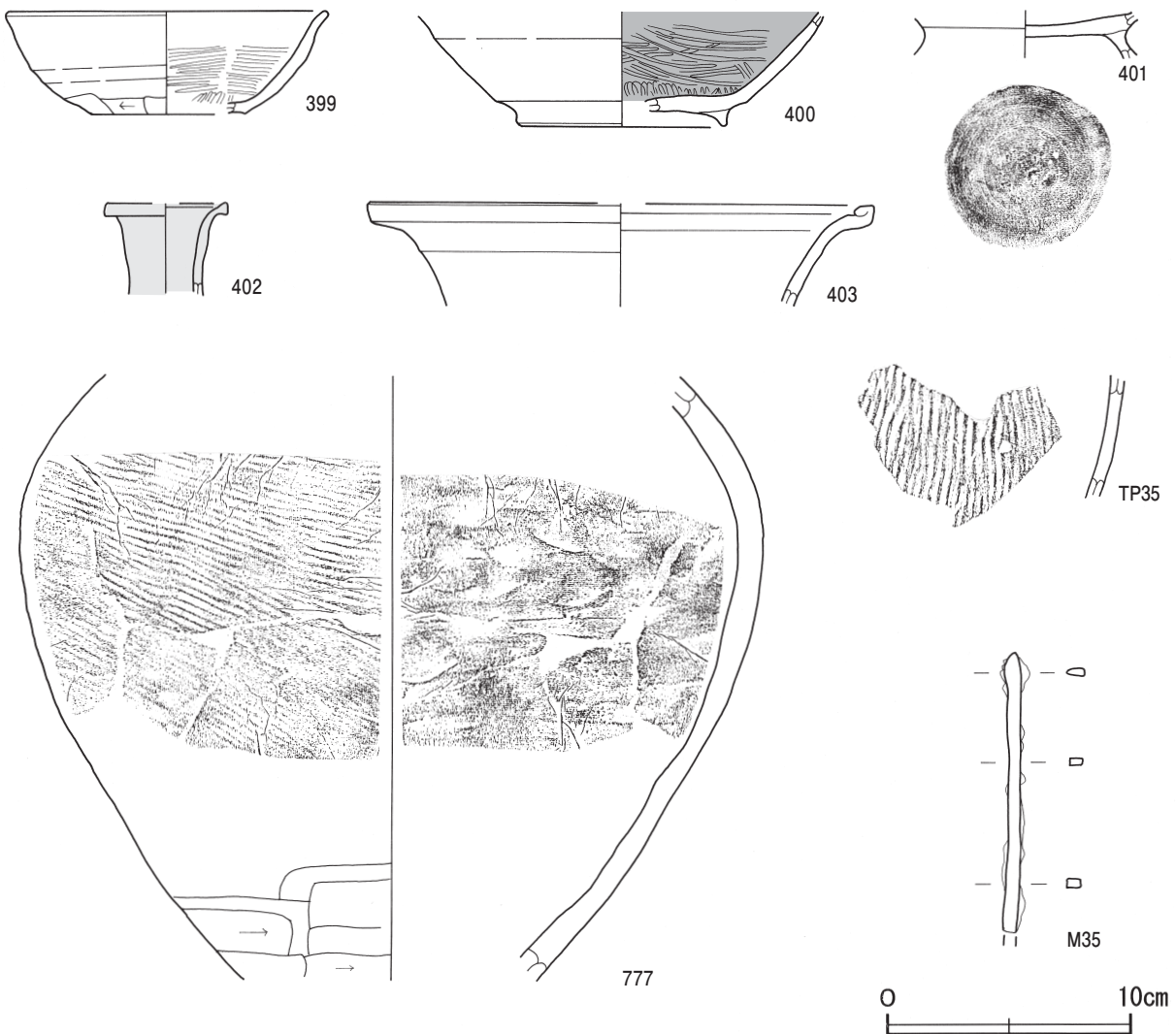
- | | | | |
|---------|---------------------|-------|--------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

覆土 7層に分層できる。不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 灰黄褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| | | 7 暗褐色 | 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器坏1点、高台付碗2点、須恵器甕3点、灰釉陶器長頸瓶1点、鉄鏃1点のほか、土師器片110点(坏5・甕105)、須恵器片41点(坏4・甕36・甑1)が出土している。777は竈の火床面に立位で、その上に399が伏せられた状態で出土しており、いずれも竈の支脚に転用されたものである。400は西壁際の覆土中層、403は東部の覆土下層、M35は南壁際の覆土下層、401・402・TP35は覆土中からそれぞれ出土している。所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第262図 第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表（第262図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
399	土師器	坏	13.0	4.3	[6.2]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	—	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り 内面へら磨き 二次焼成	火床面 支脚転用	90% PL84
400	土師器	高台付椀	—	(4.7)	[8.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転へら削り後、高台貼り付け 内面へら磨き 黒色処理	覆土中層	20%
401	土師器	高台付椀	—	(1.9)	—	赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転へら削り後、高台貼り付け 内面へら磨き	覆土中	20%
402	灰釉陶器	長頸瓶	[4.8]	(3.7)	—	堅密	灰	良好	内・外面オリーブ黄釉	覆土中	5%
403	須恵器	甕	[20.6]	(4.2)	—	長石・雲母	灰白	普通	口唇部内側に折り曲げ	覆土下層	10%
777	須恵器	甕	—	(24.9)	—	長石・雲母	灰	普通	体部横位の平行叩き 下端手持ちへら削り 内面当て具痕	火床面 支脚転用	20%
TP35	須恵器	甕	—	(5.1)	—	長石・雲母	灰	普通	外面縦位の平行叩き	覆土中	

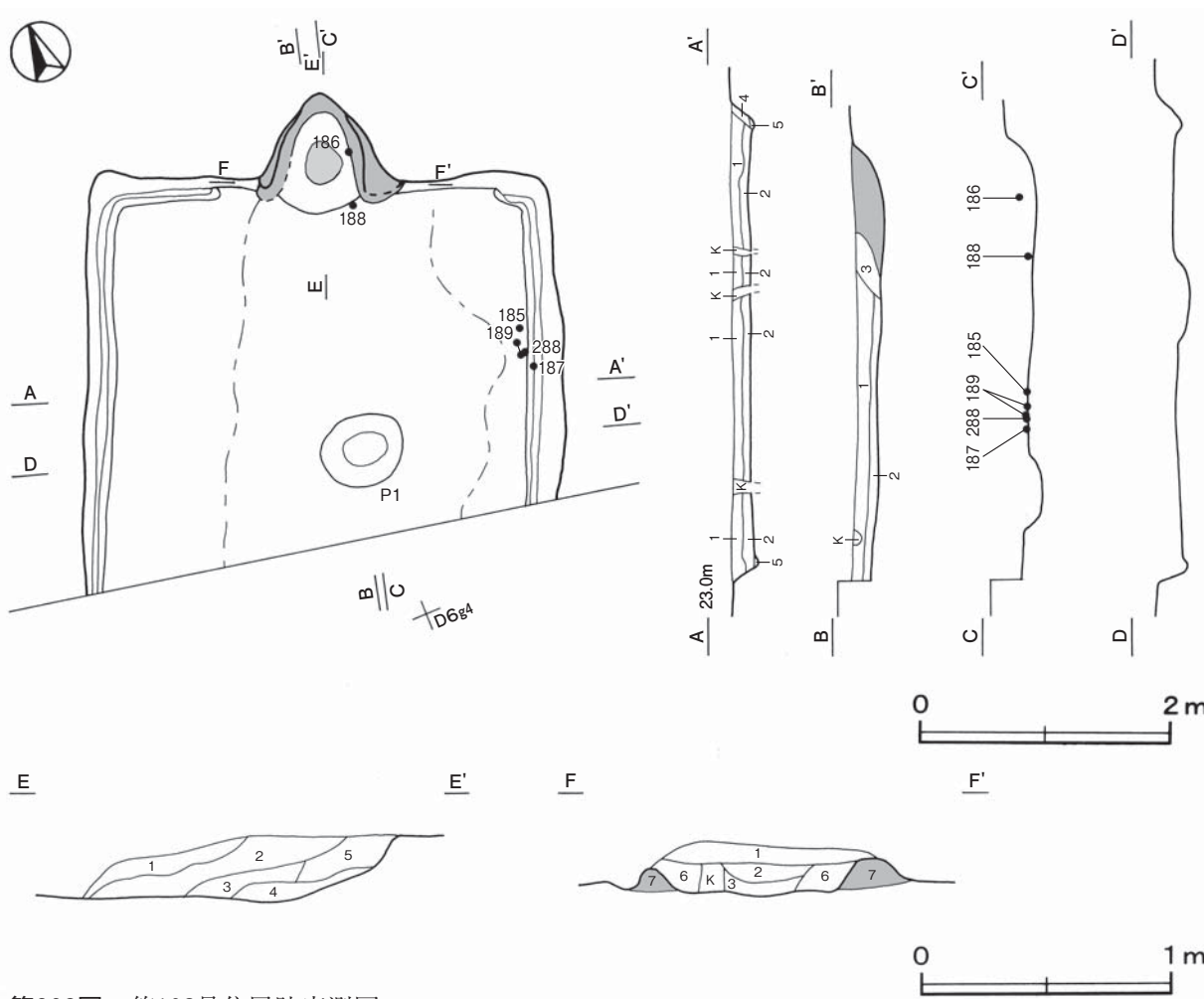
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M35	鍬	(11.5)	(0.9)	0.4	(13.2)	鉄	尖根式	覆土下層	PL94

第102号住居跡（第263・264図）

位置 調査区東端部のD6f3区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南側が調査区域外に延びているために、東西軸は3.87mで、確認できた南北軸は3.50mである。

形状から、主軸方向がN-20°-Eの方形または長方形と推測できる。壁高は16~23cmで、外傾して立ち上がっ



第263図 第102号住居跡実測図

ている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が北壁の東側を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで98cm、 燃烧部幅52cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、ロームブロックと砂質粘土粒子を含むにぶい褐色土を積み上げて構築されている。第7層が袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き70cm、幅113cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|---------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 にぶい褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | | |

ピット 深さは14cmで、中央部の南寄りに位置しているが性格は不明である。

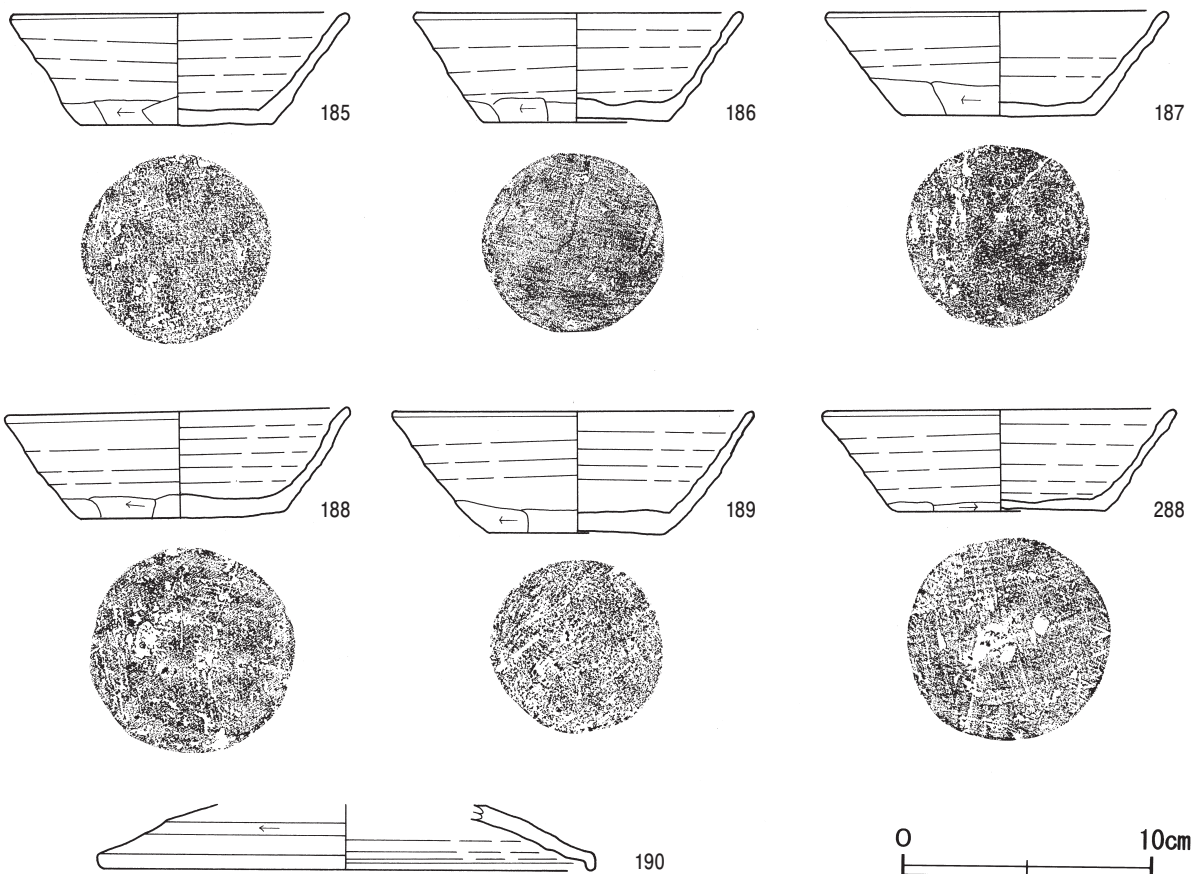
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|---------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 にぶい褐色 | 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 須恵器坏6点、蓋1点のほか、土師器片132点（坏4・小形甕21・甕107）、須恵器片32点（坏29・蓋1・盤1・高盤1）が出土している。185・187・189・288は、東壁際の床面からまとまった状態で出土している。186は竈の覆土中層、188は竈焚き口付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第264図 第102号住居跡出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表（第264図）

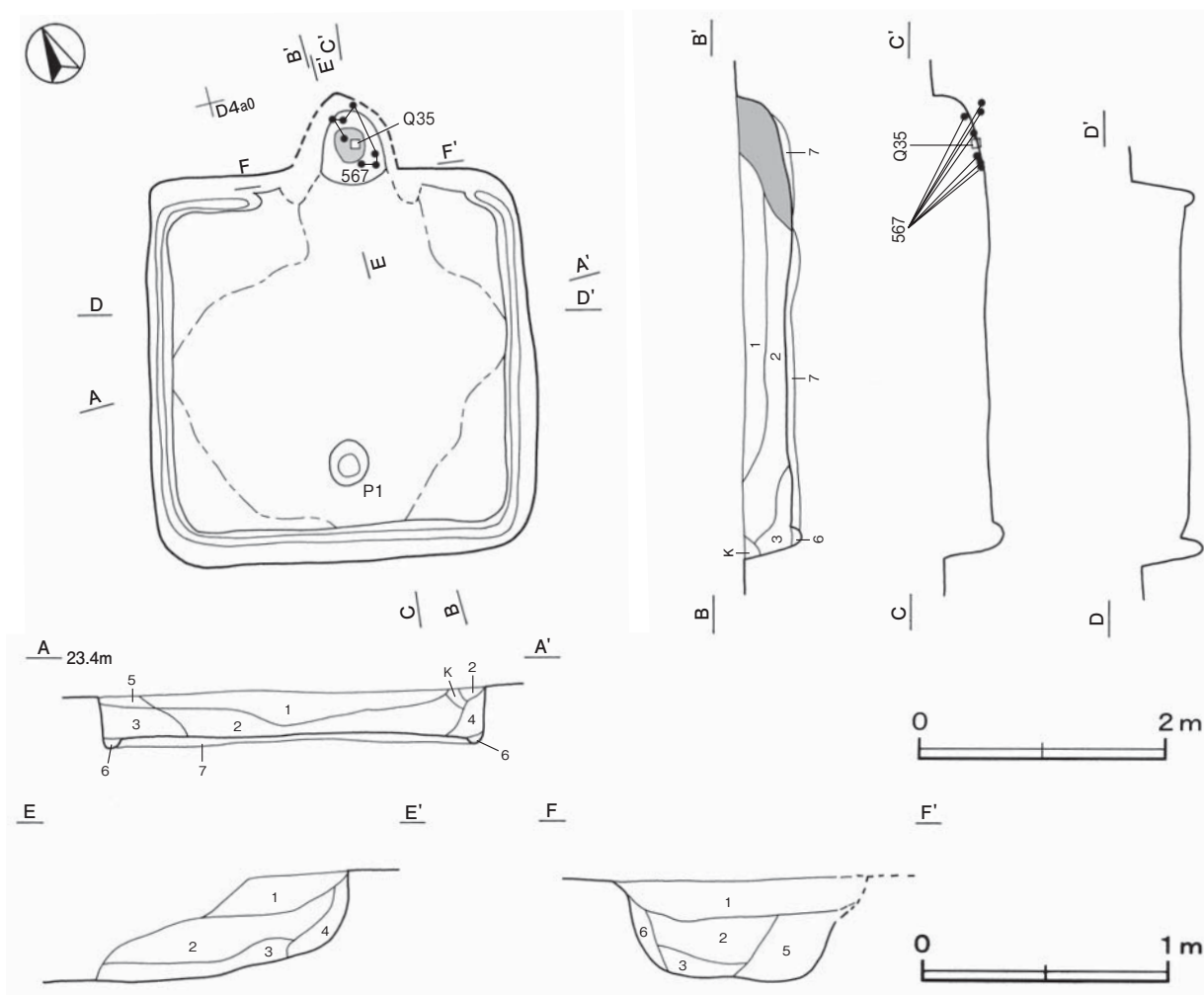
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
185	須恵器	坏	13.4	4.5	7.6	長石・石英・雲母	灰	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り 二次焼成	床面	80% PL85
186	須恵器	坏	12.9	4.4	7.4	長石・石英・雲母	灰黄	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り 二次焼成	竈覆土中層	100% PL85
187	須恵器	坏	13.6	4.3	7.6	長石・細礫、粗い	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	100% PL85
188	須恵器	坏	13.8	4.4	8.2	長石・細礫、粗い	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	100% PL85
189	須恵器	坏	14.2	4.9	7.0	長石・雲母・細礫、粗い	にぶい黄橙	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り 二次焼成	床面	80% PL86
288	須恵器	坏	13.9	4.1	8.4	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り 痕を残す一方向の手持ちヘラ削り 二次焼成	床面	100% PL86
190	須恵器	蓋	[20.0]	(2.6)	—	長石・石英	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20%

第104号住居跡（第265・266図）

位置 調査区中央部のD 4 a0区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.16m、短軸3.15mの方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁高は40~48cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。貼床は、ロームブロック・粘土ブロックを含む褐色土を10cmほど埋めて構築されている。



第265図 第104号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。遺存状況は不良で、袖部は確認できなかった。焚口部から煙出部まで74cm、燃焼部幅は51cmである。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き55cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 におい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 | 6 におい黄褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |

ピット 深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

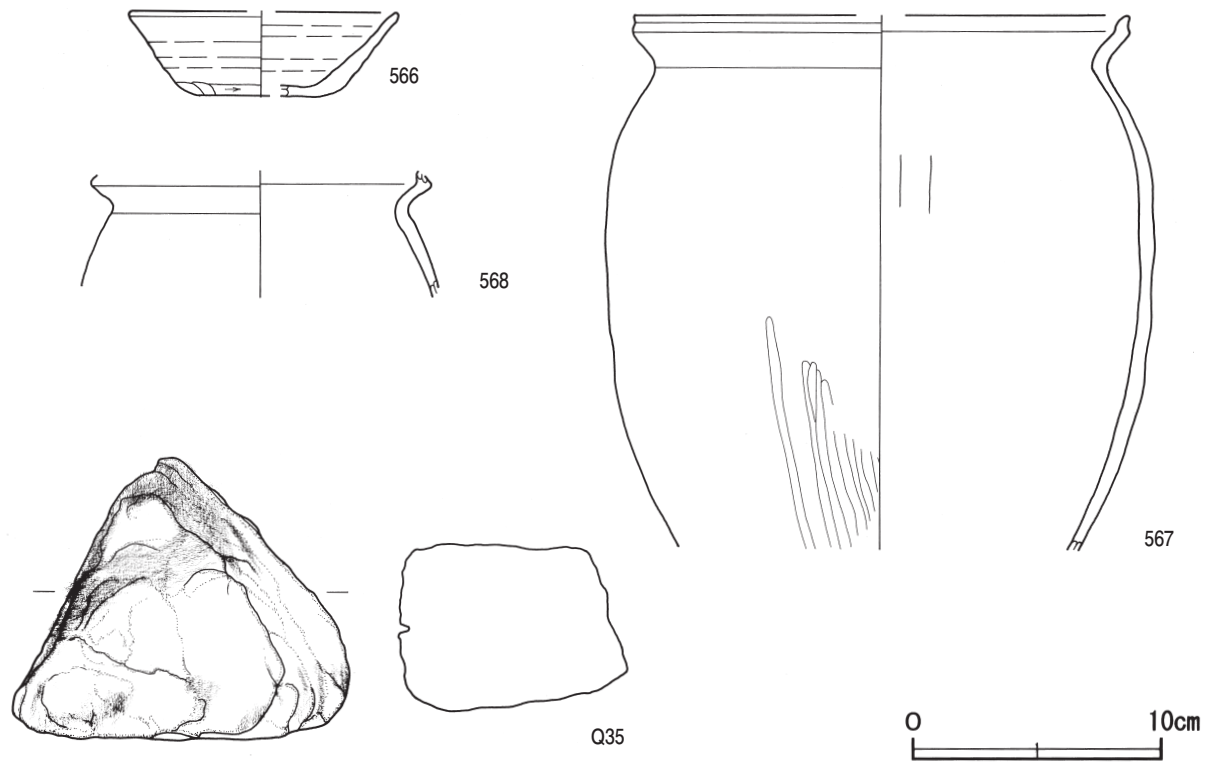
覆土 6層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|----------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 におい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子微量 |
| | | 7 褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器甕2点、須恵器坏1点、石製支脚1点のほか、土師器片46点（坏5・甕41）、須恵器片12点（坏8・蓋1・甕3）が竈周辺を中心に出土している。Q35は火床面上に立てられた状態で出土した支脚である。567は竈周辺から破砕された状態で出土している。566は竈の覆土中、568は貼床構築土からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第266図 第104号住居跡出土遺物実測図

第104号住居跡出土遺物観察表（第266図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
566	須恵器	坏	[10.6]	3.4	[5.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	竈覆土中	10%
567	土師器	甕	[19.8]	(21.5)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	体部ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈覆土下層	50%
568	土師器	甕	—	(5.1)	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q35	支脚	11.4	13.6	6.7	1240.0	雲母片岩	被熱痕	竈火床面	

第105号住居跡（第267・268図）

位置 調査区北西部のD 5 a5区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 東部を第95号住居に、南西コーナー部を第98号住居に掘り込まれている。

規模と形状 確認できたのは南北軸2.27m、東西軸1.97mで、主軸方向がN-12°-Eの方形または長方形と推測できる。壁高は12~22cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、南東コーナー部を除いて硬化面が認められる。壁溝が南部と西部に巡っている。貼床は、ローム粒子を含むにぶい黄褐色土を10cmほど埋めて構築されている。

ピット 深さ63cmで、東部に位置していることから、主柱穴の可能性はある。

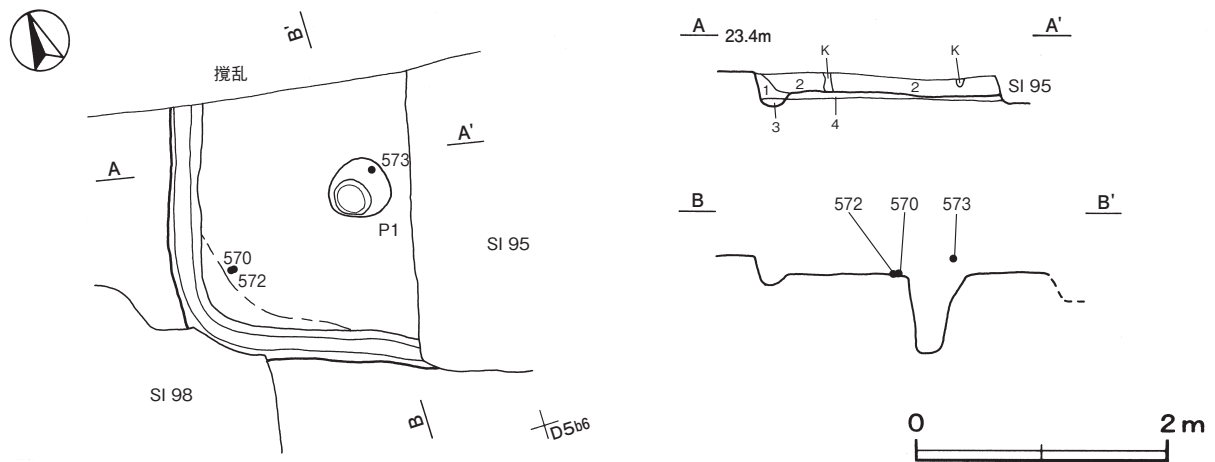
覆土 3層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。第4層は貼床の構築土である。

土層解説

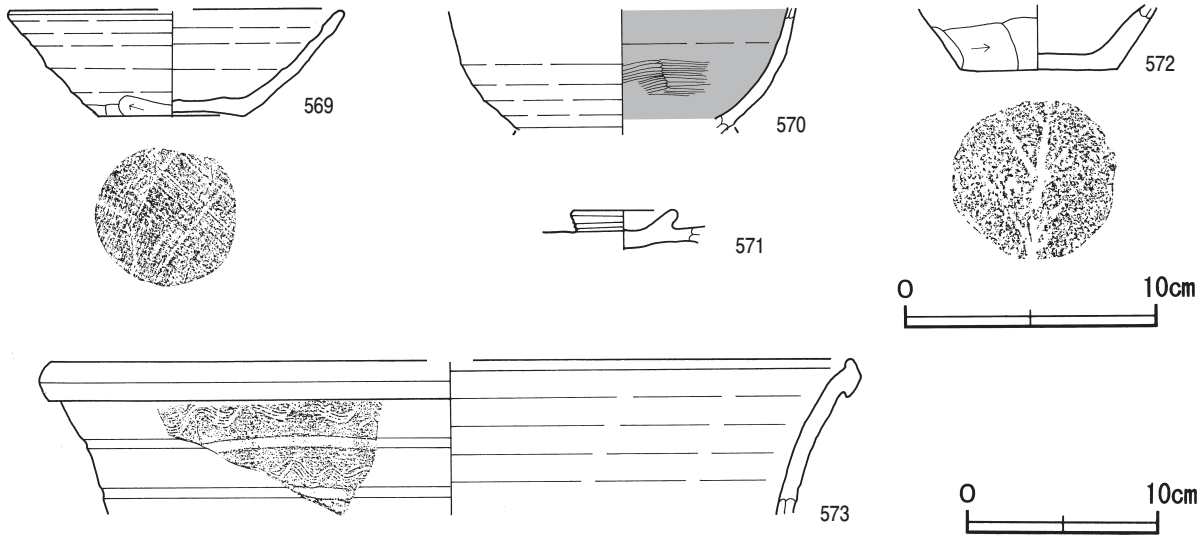
- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 4 にぶい黄褐色 ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器高台付坏・甕各1点、須恵器坏・蓋・甕各1点のほか、土師器片57点（坏4・甕53）、須恵器片23点（坏2・皿1・甕20）が出土している。570・572は南西コーナー部の床面、573は南部の覆土中層、569・571は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第267図 第105号住居跡実測図



第268図 第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表 (第268図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
569	須恵器	坏	[13.3]	4.3	[5.8]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土中	50%
570	土師器	高台付坏	—	(5.0)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	ロクロ成形 内面ヘラ磨き 黒色処理	床面	5%
571	須恵器	蓋	—	(1.5)	—	長石・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土中	5%
572	土師器	甕	—	(2.6)	6.4	長石・石英	橙	普通	体部下端ヘラ削り	床面	10%
573	須恵器	甕	[42.0]	(8.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	頸部櫛描波状文 内面ロクロナデ	覆土中層	5%

第109号住居跡 (第269・270図)

位置 調査区東部のD5c3区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南部は攪乱をうけているため、東西軸は3.50mで、南北軸は4.05mだけ確認できた。主軸方向がN-106°-Eの長方形と推測できる。壁高は25~40cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、コーナー部を除いて硬化面が認められる。壁溝が南部を除いて巡っている。貼床は、砂質粘土ブロックを含む灰黄褐色土を6cmほど埋めて構築されている。

竈 東壁に付設されている。焚口部から煙出部まで86cm、燃焼部幅は40cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、砂質粘土粒子を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。第5層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き36cm、幅84cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。第6・7層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 6 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | |

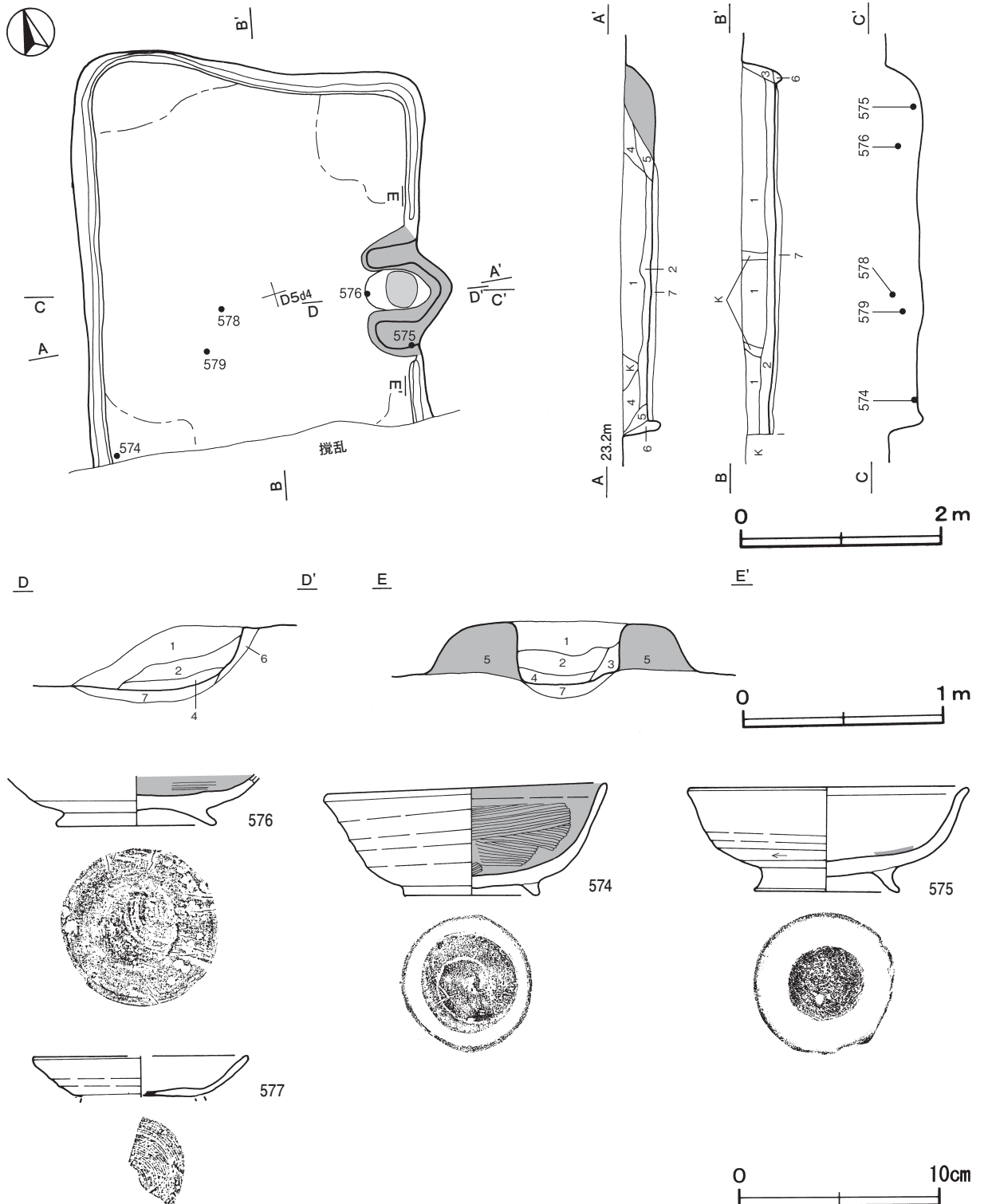
覆土 6層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

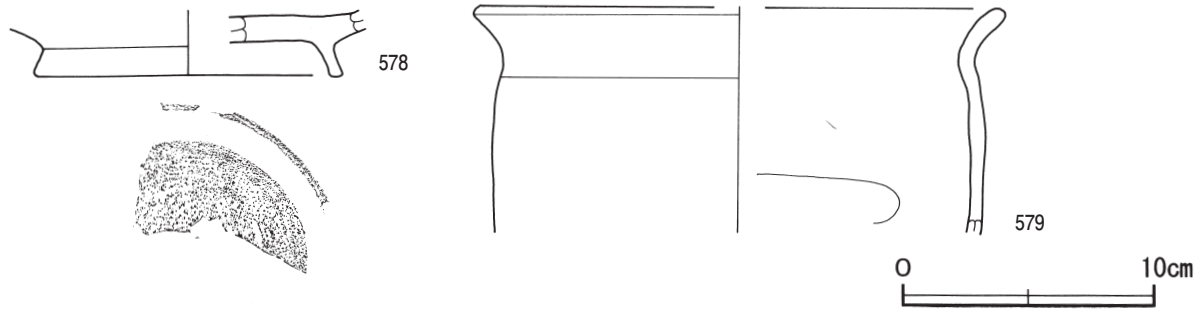
- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 灰黄褐色 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器高台付坏4点、甕1点、須恵器高台付坏1点のほか、土師器片78点（坏15・高台付坏3・皿1・甕59）、須恵器片48点（坏16・高台付坏1・蓋2・甕29）、灰釉陶器碗片1点が出土している。そのほか、混入した陶器片、磁器片各1点も出土している。575は竈右袖部の覆土下層、574は西壁際の床面、576は竈の覆土中層、578・579は中央部の覆土中層、577は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第269図 第109号住居跡・出土遺物実測図



第270図 第109号住居跡出土遺物実測図

第109号住居跡出土遺物観察表（第269・270図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
574	土師器	高台付坏	13.9	5.6	6.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理	床面	80% PL86
575	土師器	高台付坏	13.8	5.3	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 油煙付着	竈覆土下層	70% PL86
576	土師器	高台付坏	—	(2.4)	7.9	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理	竈覆土中層	50%
577	土師器	高台付坏カ	[10.6]	(2.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後、無調整	覆土中	15%
578	須恵器	高台付坏	—	(2.6)	[12.2]	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土中層	20%
579	土師器	甕	[20.5]	(9.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラナデ	覆土中層	5%

第110号住居跡（第271・272図）

位置 調査区東部のD 4g0区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.46m、短軸3.23mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は40~46cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で、中央を除いた周辺部に硬化面が認められる。壁溝が北西部を除いて巡っている。貼床は、ロームブロックを含む褐色土を9cmほど埋めて構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部の遺存状況は悪く、床面の状況から想定した。焚口部から煙出部まで91cm、燃焼部幅は48cmと推測できる。煙道部は、壁外へ三角形状に奥行き51cm、幅70cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

電土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |
| 3 にぶい黄褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量 |

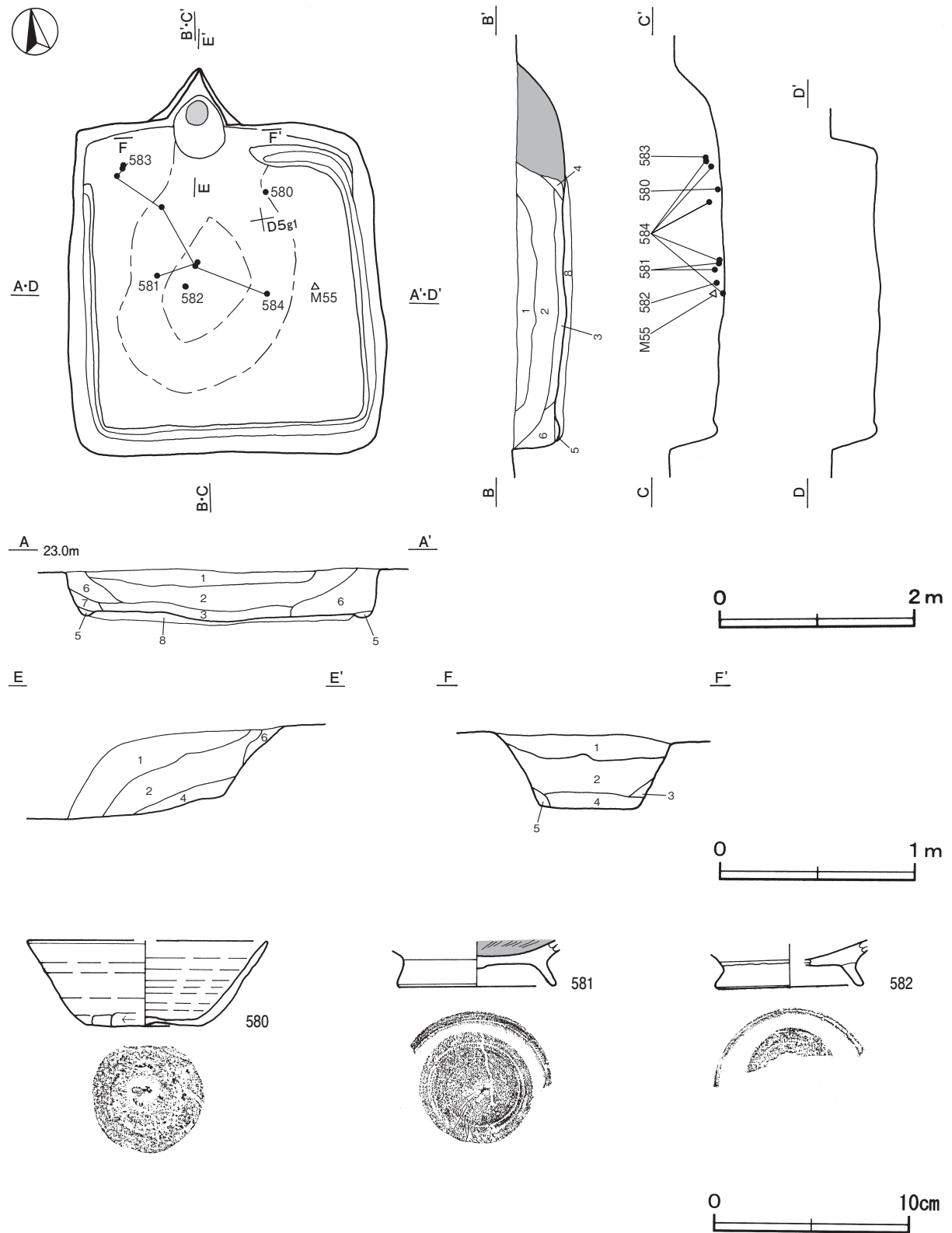
覆土 7層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。第8層は貼床の構築土である。

土層解説

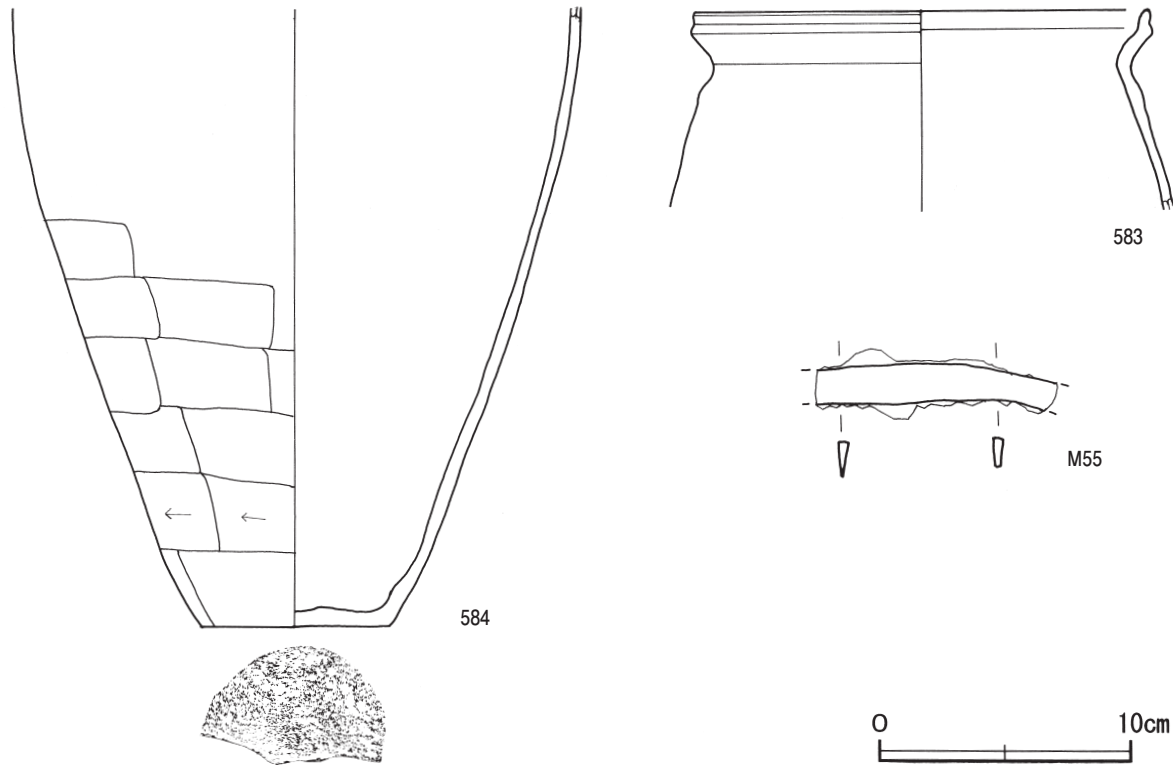
- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器高台付坏1点、甕2点、須恵器坏・高台付坏各1点、刀子1点のほか、土師器片83点（坏8・甕75）、須恵器片33点（坏12・蓋3・甕18）が出土している。580は北東部の床面、582は中央部の覆土下層、583は北西部の覆土中層、M55は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。581は中央部の覆土中層と下層から出土した破片、584は北西部から中央部の覆土中層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第271図 第110号住居跡・出土遺物実測図



第272図 第110号住居跡出土遺物実測図

第110号住居跡出土遺物観察表（第271・272図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
580	須恵器	坏	[12.2]	4.4	6.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	床面	50%
581	土師器	高台付坏	—	(2.3)	[7.9]	長石・石英・赤色粒子・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中層・下層	30%
582	須恵器	高台付坏	—	(2.3)	[7.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土下層	10%
583	土師器	甕	18.0	(8.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	10%
584	土師器	甕	—	(24.4)	7.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中層	40% PL85

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M55	刀子	(9.5)	2.0	0.5	(28.5)	鉄	刃部・基部欠損 刃部断面三角形	覆土下層	

第113号住居跡（第273図）

位置 調査区北東部のD 5 e3区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が攪乱を受けているため、東西軸は3.29m、南北軸は3.05mだけ確認できた。形状から南北軸方向がN-13°-Wの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は31~37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 東側がわずかに低くなっている。中央部に硬化面が認められる。確認できた範囲では壁溝が全周している。

ピット 深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

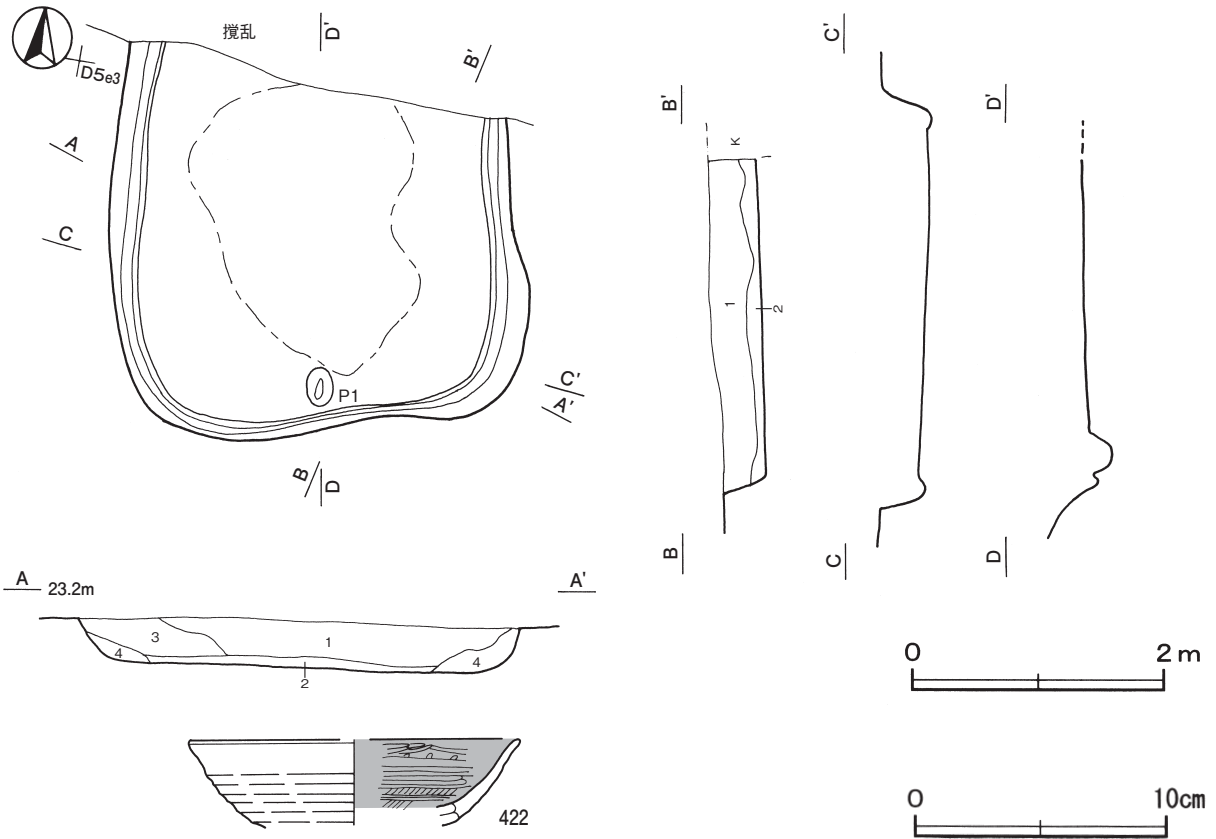
覆土 4層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器坏1点のほか、土師器片26点（坏6・甕20）、須恵器片25点（坏8・甕17）が出土している。422は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第273図 第113号住居跡・出土遺物実測図

第113号住居跡出土遺物観察表（第273図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
422	土師器	坏	[13.0]	(3.4)	—	長石・雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	10%

第114号住居跡（第274図）

位置 調査区北東部のC 5j0区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 覆土が薄く遺存状況は不良で、確認できた壁と床面から長軸3.05m、短軸2.60mの長方形と推測できる。主軸方向はN-3°-Eである。確認できた壁高はわずか3cmほどで、立ち上がりは判然としない。

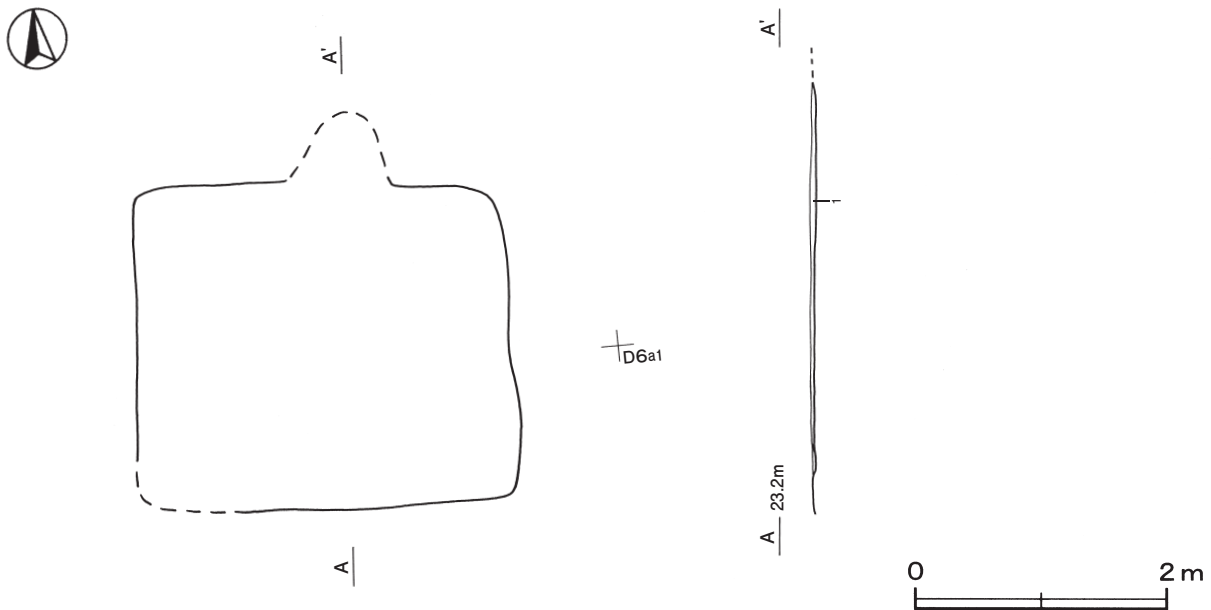
床 ほぼ平坦で、明確な硬化面は確認できない。

覆土 単一層で層厚が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

1 褐色 ローム粒子微量

所見 出土遺物がないため時期判断が困難であるが、遺構の形状から9世紀代と考えられる。



第274図 第114号住居跡実測図

第115号住居跡（第275図）

位置 調査区中央部のE 4 d9区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 東部を第19号溝に、北西コーナー部を第37号掘立柱建物P 3に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は3.02mで、東西軸は3.27mだけ確認できた。主軸方向がN-4°-Eの方形と推測できる。壁高は35~45cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が北壁部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部は遺存状況が悪く確認できなかった。焚口部から煙出部まで115cm、燃焼部幅は33cmである。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き75cm、幅74cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は赤変硬化していない。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |

ピット 深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

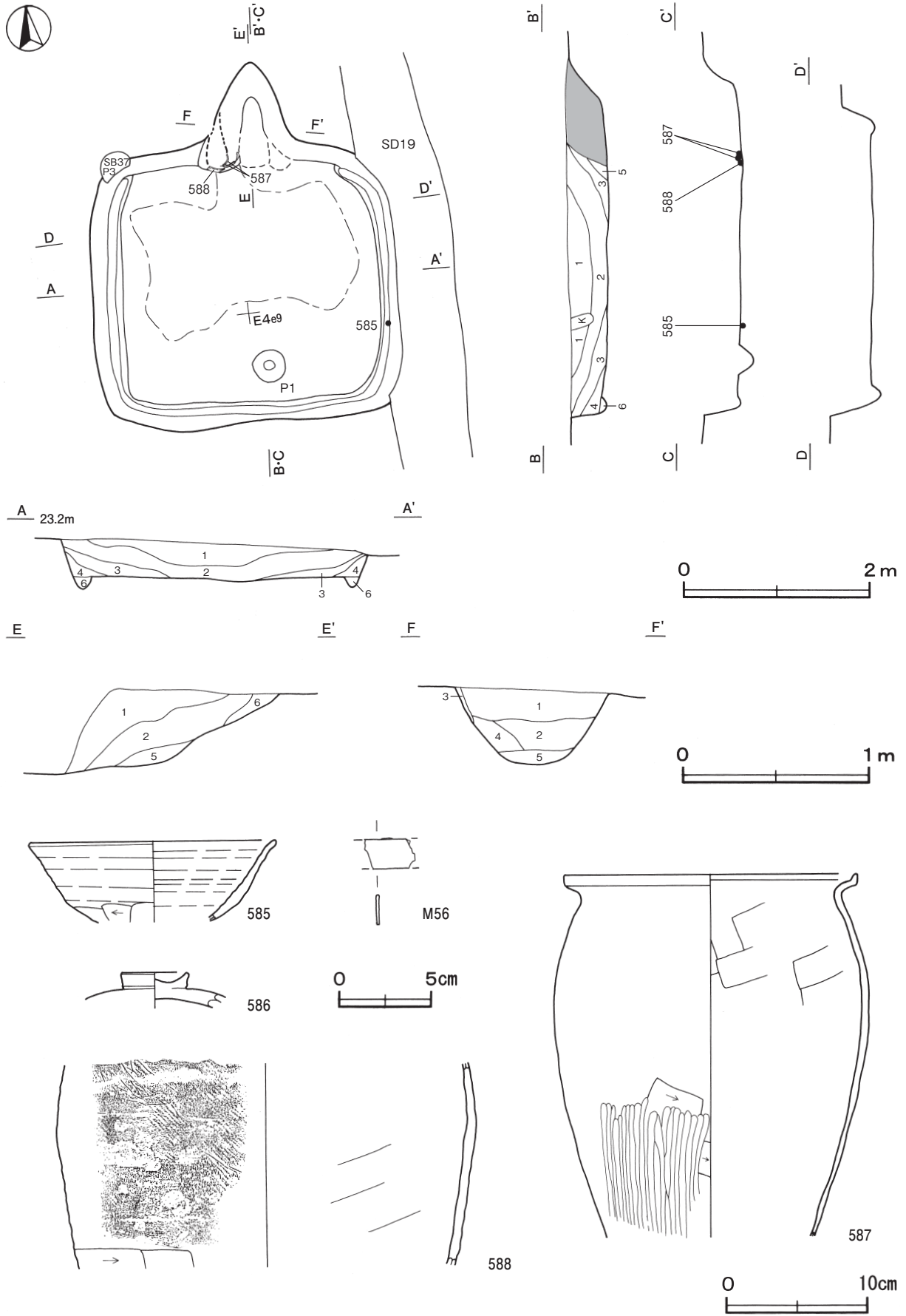
覆土 6層に分層できる。レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 にぶい褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器甕1点、須恵器坏・蓋・甕各1点、刀子1点のほか、土師器片106点（坏21・碗1・甕84）、須恵器片51点（坏17・蓋2・甕32）が出土している。587・588は竈左袖に補強材として逆位で据えらていたものである。585は東部壁溝の覆土中、586・M56は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第275图 第115号住居跡・出土遺物実測図

第115号住居跡出土遺物観察表（第275図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
585	須恵器	坏	13.0	[4.3]	—	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	壁溝覆土	40%
586	須恵器	蓋	—	(1.9)	—	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土中	5%
587	土師器	甕	[20.8]	(25.6)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈左袖 竈補強材	30%
588	須恵器	甕	—	(14.3)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部斜位の平行叩き 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈左袖 竈補強材	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M56	刀子	(2.7)	1.6	0.18	(2.2)	鉄	刃部・茎部欠損	覆土中	

第116号住居跡（第276・277図）

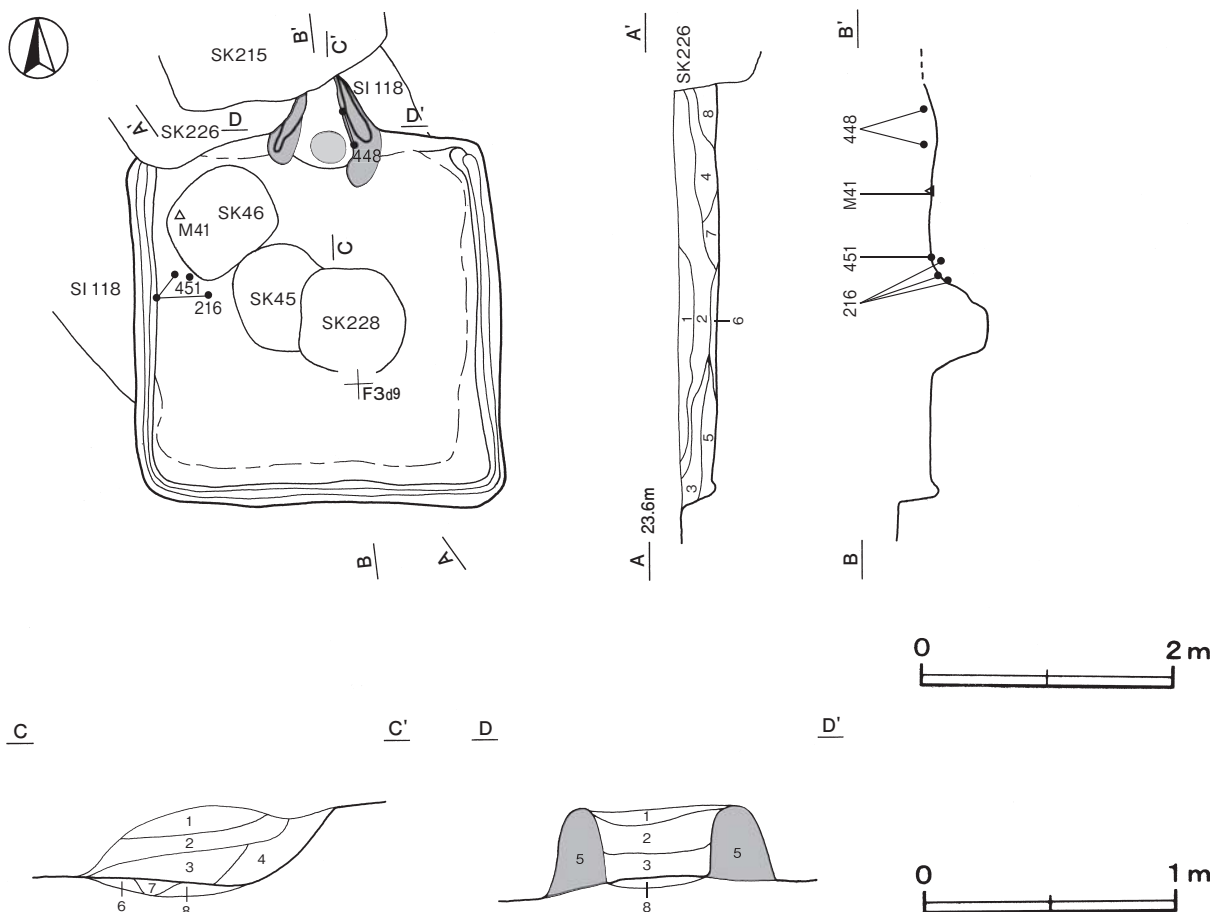
位置 調査区南部のF3c8区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第118号住居跡を掘り込み、北部を第215・226号土坑に、中央部を第45・46・228号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.95m、短軸2.92mの方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁高は25cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が北壁を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。燃烧部幅は40cmで、焚口部から煙出部までは69cm確認されている。袖部は



第276図 第116号住居跡実測図

床面と同じ高さの地山の上に、白色粘土ブロックを含む暗灰黄色土を積み上げて構築されている。第5層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に幅67cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と比べ若干くぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。第6～8層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗灰黄色 | 白色粘土ブロック多量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗灰黄色 | 白色粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

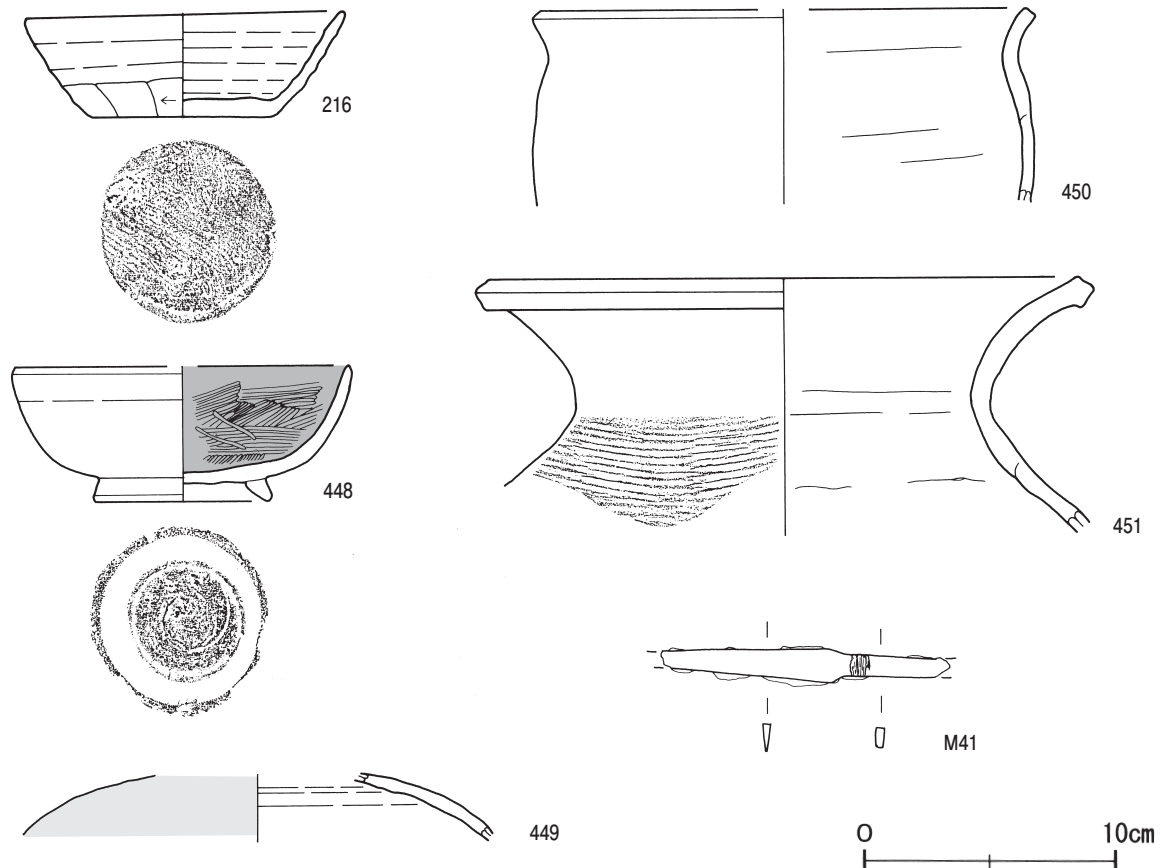
覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・白色粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 灰褐色 | 白色粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器高台付坏・甕各1点, 須恵器坏・甕各1点, 灰釉陶器長頸瓶・刀子各1点のほか, 土師器片91点(坏15・高台付坏3・高坏3・甕70), 須恵器片45点(坏18・高台付坏1・蓋5・甕21)が東部を中心に出土している。451は第118号住居跡からの流れ込みと考えられる。M41は西部の床面, 449・450は覆土中からそれぞれ出土している。448は竈の覆土下層から出土した破片, 216は西部の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第277図 第116号住居跡出土遺物実測図

第116号住居跡出土遺物観察表（第277図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
216	須恵器	坏	12.7	4.2	7.2	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部へらナデ	床面	80% PL86
448	土師器	高台付坏	[13.2]	5.5	6.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転へら切り後、高台貼り付け 内面へら磨き 黒色処理	竈覆土下層	50%
449	灰釉陶器	長頸瓶	—	(2.7)	—	長石	灰白	普通	体部内面ロクロナデ 外面施釉	覆土中	5%
450	土師器	甕	[19.1]	(7.7)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	内面へらナデ 輪積痕	覆土中	10%
451	須恵器	甕	23.3	(10.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部横位の平行叩き 輪積痕	床面	20%

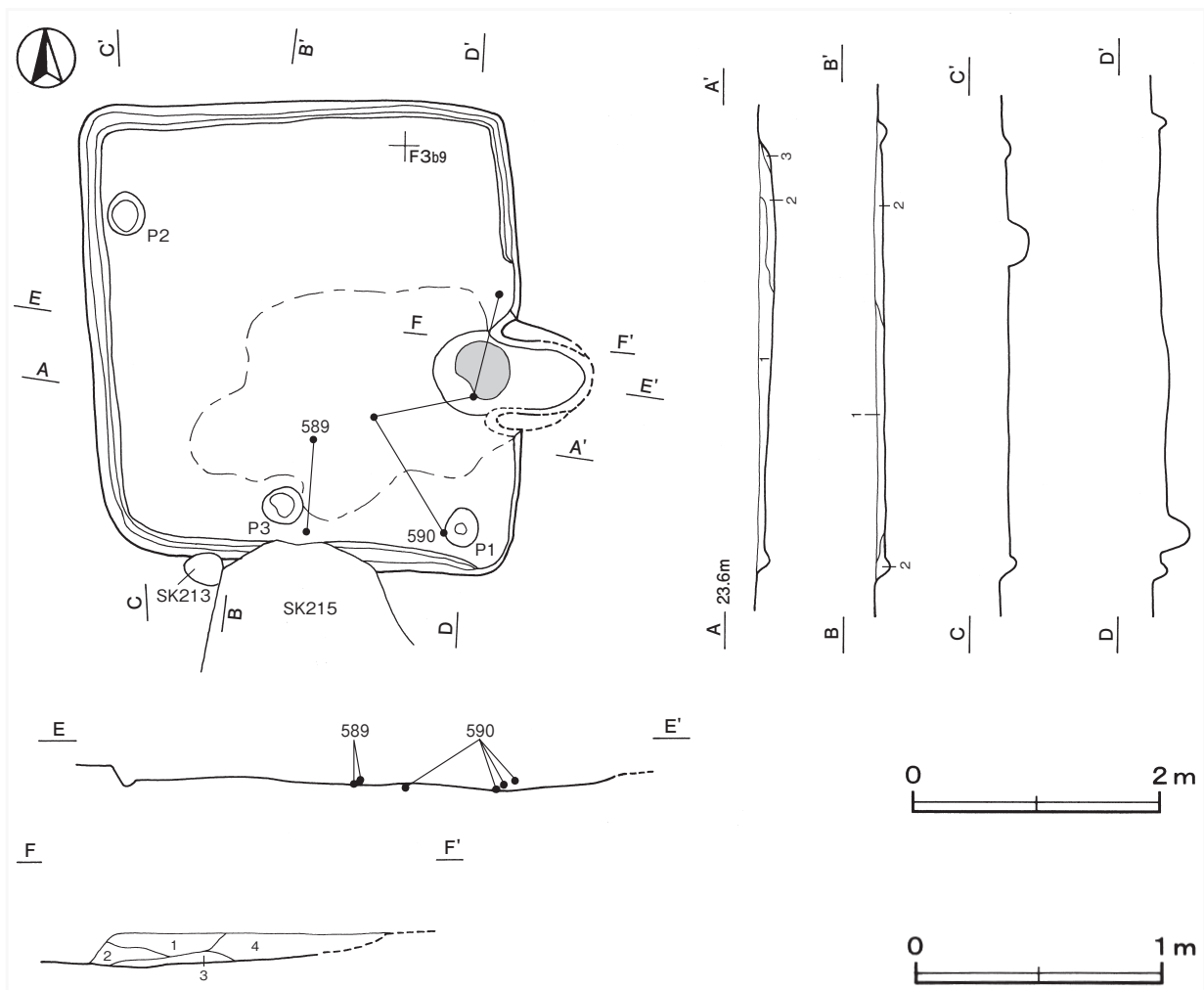
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M41	刀子	(11.5)	1.4	0.4	(15.5)	鉄	刃部欠損 両関 茎部木質付着	床面	

第117号住居跡（第278・279図）

位置 調査区南部のF 3b8区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南部を第213・215号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.80m、短軸3.55mの方形で、主軸方向はN-97°-Eである。壁高は3~11cmで、やや外傾して立ち上がっている。



第278図 第117号住居跡実測図

床 東部が若干低いがほぼ平坦で、竈前面に硬化面が認められる。壁溝が南東部を除いて巡っている。

竈 東壁中央部に付設されている。袖部の遺存状況が悪く、床面の状況から想定した。焚口部から煙出部まで124cm、燃焼部幅は52cmである。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き50cm、幅88cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 3 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 |

ピット 3か所。P1・P2は深さ23cm・16cmで、いずれもコーナー部に位置しているが性格は不明である。P3は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

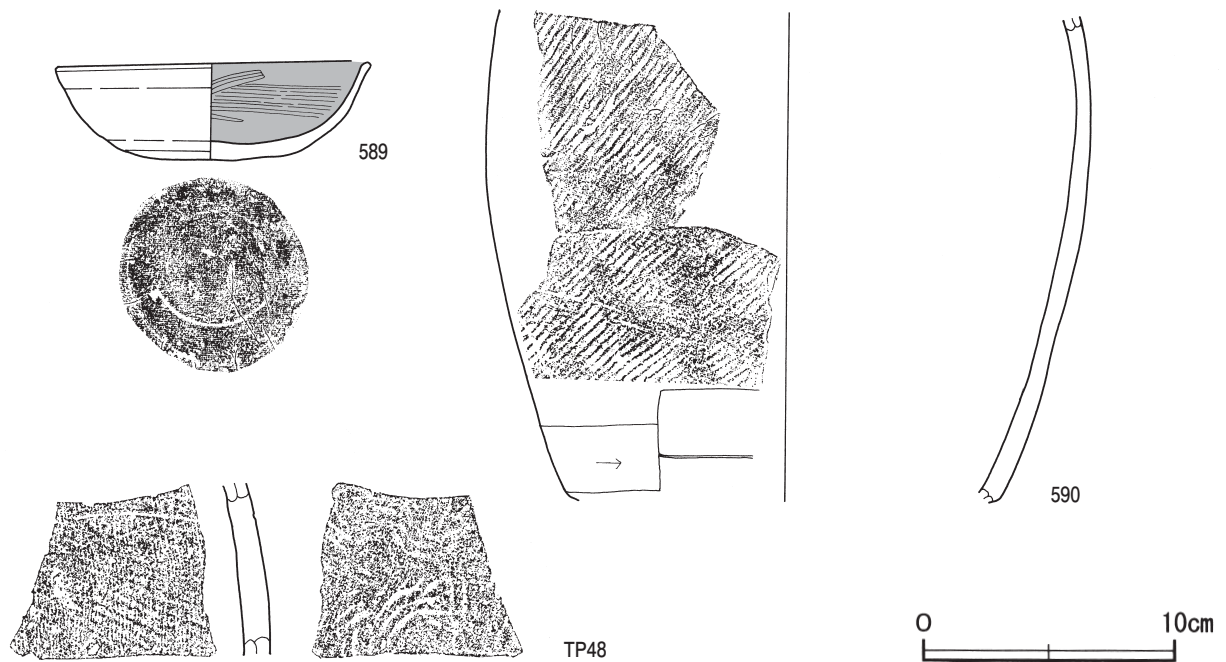
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器坏1点、須恵器甕・甑各1点のほか、土師器片30点（坏5・高台付坏1・甕24）、須恵器片13点（坏1・高台付坏1・蓋2・甕9）が南側を中心に出土している。589は南壁際の覆土下層から出土した破片、590は竈の火床部から東壁にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第279図 第117号住居跡出土遺物実測図

第117号住居跡出土遺物観察表（第279図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
589	土師器	坏	12.3	4.0	5.6	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り後、不調整 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土下層	90% PL87
590	須恵器	甕	—	(19.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部斜位の平行叩き 下端ヘラ削り	竈火床部	10%
TP48	須恵器	甕	—	(6.9)	—	長石・石英	褐灰	普通	外面格子状の叩き 内面当て具痕	覆土中	

第120号住居跡（第280・281図）

位置 調査区南部のF 4 d5区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.82m、短軸2.52mの長方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は9~11cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで125cm、燃焼部幅は40cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを含む灰黄褐色土を積み上げて構築されている。第5層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き72cm、幅51cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は赤変硬化していない。第6層は掘方への埋土である。

竈土層解説

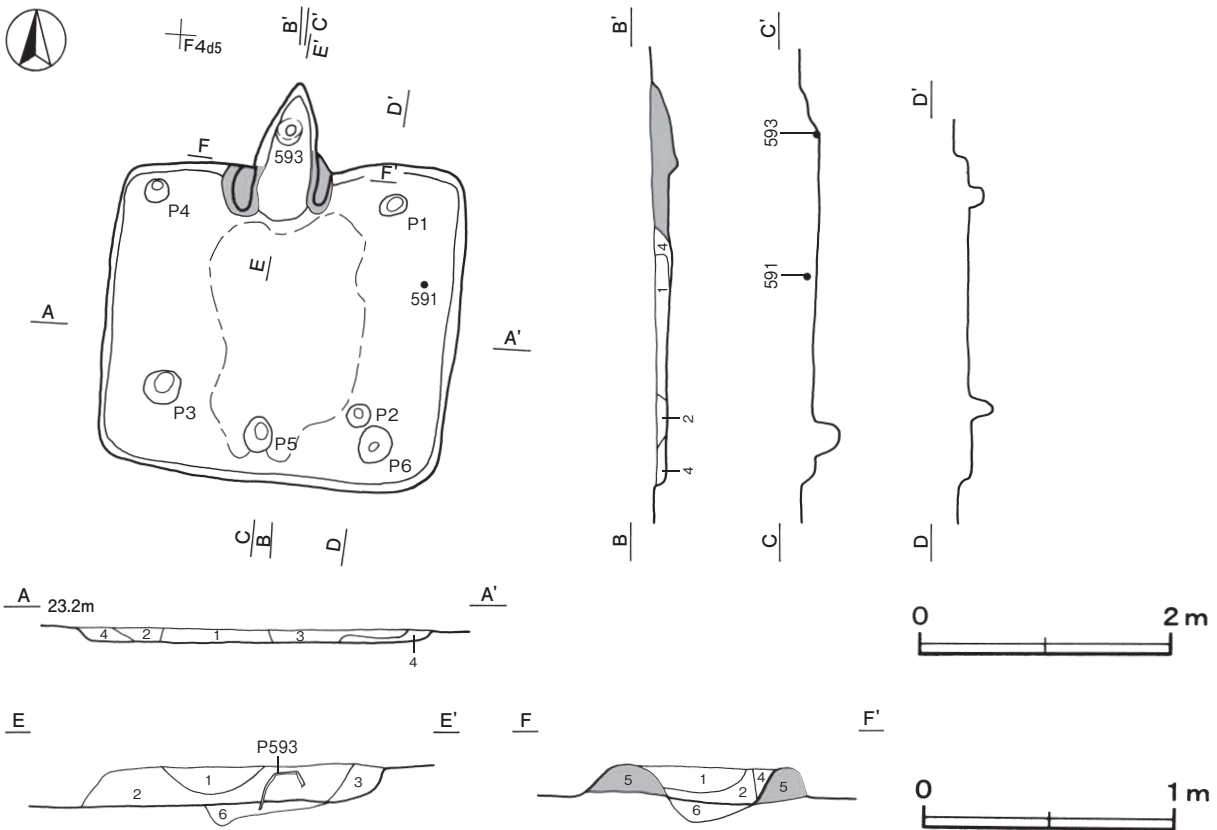
- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子中量 |
| 3 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック少量 |

ピット 6か所。P1~P4は深さ8~35cmで、いずれもコーナー部に位置していることから主柱穴である。P5は深さ22cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットである。P6は深さ26cmで、P2の補助柱穴と考えられる。

覆土 4層に分層できる。不自然な堆積であることから埋め戻されている。

土層解説

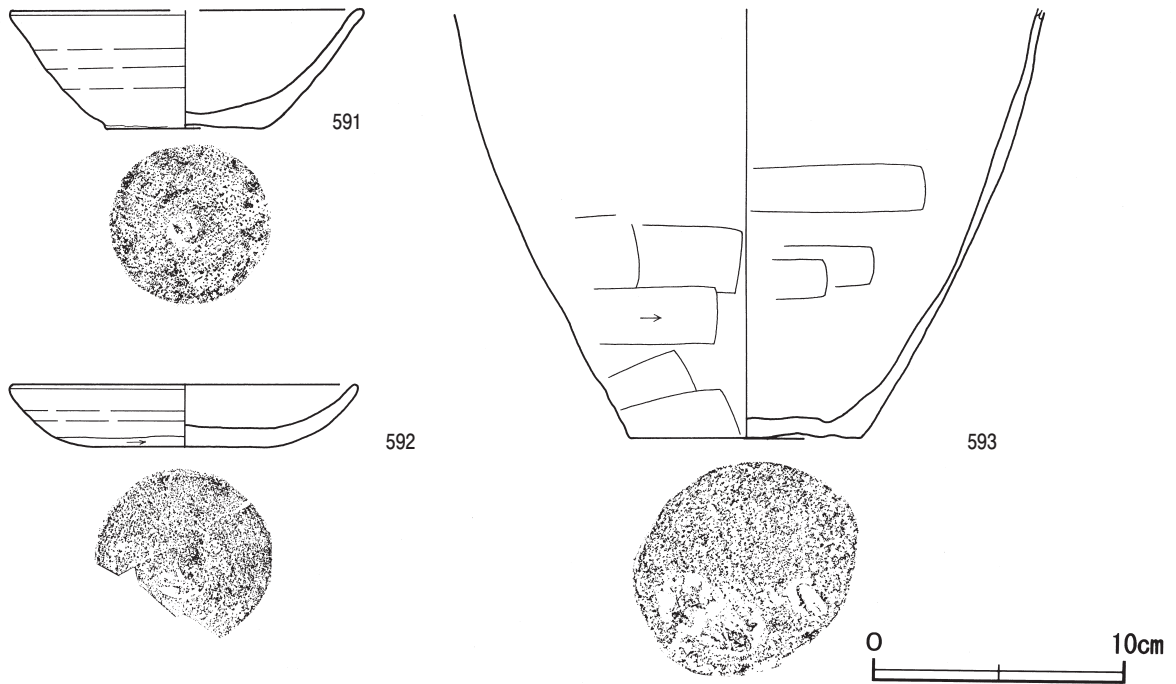
- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |



第280図 第120号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器坏・皿・甕各1点のほか、土師器片13点（坏6・皿1・甕6）、須恵器片13点（坏5・高台付坏1・蓋2・甕5）、礫6点が出土している。593は竈の火床面に据えられた状態で出土しており、支脚に転用されたものと考えられる。591は東壁際の覆土中層、592は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第281図 第120号住居跡出土遺物実測図

第120号住居跡出土遺物観察表（第281図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
591	土師器	坏	[13.8]	4.7	6.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部一方向のヘラ削り	覆土中層	60%
592	土師器	皿	13.8	2.5	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後、不調整 体部下端回転ヘラ削り	覆土中	60% PL87
593	土師器	甕	—	(17.0)	9.3	長石・石英・雲母	橙	普通	体部ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈火床面	20%

表7 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
								支柱穴	出入口	ピット	竈			
1	B 4 e9	方形	N-15°-W	3.24 × 3.23	59	平坦	全周	—	2	1	北壁	人為	土師器・須恵器・丸玉・鉄鏃・釘	9C中 本跡→21土坑→本跡
2	A 4 j1	[方形]	N-1°-E	2.90 × (1.30)	50	平坦	全周	—	1	—	不明	人為	土師器・須恵器	9C中
4	E 3 i6	方形	N-113°-E	3.53 × 3.46	15	平坦	ほぼ全周	1	2	—	東壁	自然	土師器・須恵器・釘・平瓦・鉄鏃	9C中 本跡→5掘立・22・23土坑
5	E 3 g6	長方形	N-2°-W	3.31 × 2.97	16~25	平坦	一部	4	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器	9C前
6	F 3 e6	方形	N-2°-W	4.16 × 4.05	38	凹凸	—	—	—	—	北壁	自然	土師器・須恵器	9C前 本跡→30~32土坑
8	E 3 f5	方形	N-9°-W	4.18 × 3.98	24~30	平坦	ほぼ全周	4	1	1	北壁	自然	土師器・須恵器・鉄鏃	9C前 236土坑→本跡→235土坑
9	E 3 e4	方形	N-9°-E	2.88 × 2.70	19	凹凸	全周	—	—	1	北壁	自然	土師器・須恵器・鉄鏃	9C中
12	F 3 a5	方形	N-12°-W	2.92 × 2.67	19	平坦	全周	—	—	—	北壁	自然	土師器・須恵器・灰釉陶器・砥石	10C前 11住→本跡→14住・33土坑
14	F 3 a5	長方形	N-4°-W	3.56 × 3.20	9~12	平坦	—	—	—	—	北・東壁	人為	土師器・須恵器・羽釜・置き竈	10C中 本跡→33・34・36~39土坑
15	F 3 c5	方形	N-6°-W	4.33 × 4.05	25	平坦	全周	[4]	1	—	[北壁]	自然	土師器・須恵器・刀子	9C前 本跡→61土坑・2井戸

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
								主柱穴	出入口	ピット	竈			
16	E 3 g4	方形	N-6°-W	3.51 × 3.50	17	凹凸	一部	—	1	3	北壁	自然	土師器・須恵器・砥石	9C後 24住→本跡→49土坑
18	F 3 b7	長方形	N-99°-E	4.83 × 4.25	16	平坦	全周	—	—	—	東壁	自然	土師器・須恵器・羽釜・羽口・鉄鎌	10C中 19住→本跡→69土坑
19	F 3 a7	長方形	N-3°-E	4.48 × 3.76	15~21	平坦	一部	—	—	—	北壁	自然	土師器・須恵器・雲母片岩	9C後 本跡→18住, 63~66土坑, 1井戸
21	E 3 j2	方形	N-2°-W	3.17 × 3.03	17	平坦	全周	—	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器・鉄斧・雲母片岩	10C前 22・23住→本跡→35・38土坑
22	E 3 i2	方形	N-7°-W	4.09 × 3.97	16~21	凹凸	—	1	—	2	北壁	人為		9C後 本跡→21・23住→2掘立, 70土坑
23	E 3 i2	長方形	N-5°-E	5.51 × 4.73	5~8	平坦	—	4	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・灰釉陶器	9C後 22住→本跡→21住, 2掘立, 35・70土坑
27	D 3 h1	方形	N-2°-E	3.39 × 3.29	23	平坦	—	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄滓	9C後 本跡→39土坑
29	D 2 c2	長方形	N-12°-E	2.93 × 2.50	17	平坦	—	—	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器・墨書土器	9C中 64住→本跡
32	D 2 h2	方形	N-12°-W	3.05 × 2.77	31	平坦	全周	—	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器・鉄滓	9C中
33	D 2 h1	隅丸方形	N-9°-W	3.46 × 3.24	20	平坦	全周	—	—	—	北壁	自然	土師器・須恵器・不明鉄製品	9C前
34	D 1 j5	方形	N-9°-E	3.29 × 3.18	46	平坦	全周	—	1	2	北壁	人為	土師器・須恵器	9C中
35	D 2 f3	方形	N-20°-E	3.69 × 3.66	24	平坦	全周	4	1	2	北壁	人為	土師器・須恵器・羽口	9C中
37	D 3 g6	長方形	N-0°	4.38 × 3.82	20	平坦	—	—	1	—	—	人為	土師器・須恵器・砥石・凹石	9C後 本跡→42住, 18掘立
38	F 3 d7	方形	N-5°-E	4.16 × 4.07	30	平坦	一部	4	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器	9C後 17住→本跡
39	D 3 h1	方形	N-88°-W	4.33 × 4.12	19	平坦	一部	—	—	—	西壁	自然	土師器・須恵器・灰釉陶器	9C後 27住→本跡
40	D 3 f1	方形	N-6°-W	4.90 × 4.85	6~12	平坦	全周	4	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器・灰釉陶器・羽口・墨書土器	9C中 本跡→55住, 135土坑
41	D 3 d1	[長方形]	N-1°-W	4.85 × (3.80)	6	平坦	半周	—	—	—	北壁	—	土師器・須恵器	9C中
42	D 3 g6	方形	N-3°-E	3.25 × 3.00	20	平坦	全周	—	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器	9C後 37住, 18掘立→本跡
43	D 2 f9	長方形	N-12°-W	3.70 × 3.34	8~13	平坦	—	—	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器・鉄製穂摘具	9C中 26掘立→本跡
44	D 5 a5	方形	N-12°-W	3.90 × 3.84	33~41	平坦	全周	—	1	—	北・東壁	人為	土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄鎌	9C中 本跡→93土坑
46	C 1 j8	長方形	N-11°-E	3.10 × 2.63	20~39	平坦	—	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・敲石	9C中 本跡→82土坑
47	C 1 j3	[長方形]	N-3°-E	3.46 × (1.72)	24~26	平坦	一部	2	—	—	—	人為	土師器・須恵器	9C中
49	C 2 i4	長方形	N-16°-E	5.90 × 5.34	28~42	平坦	全周	4	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器・灰釉陶器・土製紡錘車・石製紡錘車・刀子	9C中 123住→本跡
50	C 1 e9	方形	N-6°-E	4.08 × 3.82	30~38	平坦	全周	—	—	1	北壁	自然	土師器・須恵器・土製紡錘車・石製紡錘車・刀子	9C中 本跡→9溝
51	C 1 d5	方形	N-9°-W	4.10 × 3.98	35~43	平坦	全周	4	—	—	北壁	自然	土師器・須恵器・灰釉陶器・石製紡錘車	9C前 本跡→9溝
52	C 2 g9	長方形	N-100°-E	3.87 × 3.50	18~30	平坦	—	—	—	1	東壁	人為	土師器・須恵器・陶器	9C前
55	D 3 e2	方形	N-10°-W	5.45 × 5.00	6~20	平坦	全周	4	1	1	北壁	人為	土師器・須恵器・灰釉陶器・石製紡錘車	9C中 100住→本跡→40住
56	C 2 e2	[長方形]	N-78°-W	(3.80 × 2.20)	30~40	平坦	—	—	—	—	—	人為	土師器・須恵器・砥石	9C後 57住→本跡
60	E 1 d3	[方・長方形]	N-28°-E	(2.28 × 1.69)	27	平坦	一部	—	—	—	—	人為	土師器・須恵器	9C後
63	E 2 g9	方形	N-6°-W	5.11 × 4.88	10~14	平坦	一部	—	1	1	北壁	自然	土師器・須恵器・砥石・刀子・鉄鎌・墨書土器	9C中 62住・124住→本跡
64	D 2 c2	長方形	N-12°-E	2.90 × 2.59	17	平坦	—	—	—	—	北東コーナー	人為	土師器・須恵器・墨書土器	9C後 本跡→29住
65	D 3 a0	長方形	N-18°-E	3.18 × 2.89	31~41	平坦	—	—	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器・砥石	9C中
66	B 3 g9	[方形]	N-2°-E	(4.00 × 3.85)	45~55	平坦	一部	—	1	1	北2	自然	土師器・須恵器・鉄斧	9C前
67	B 3 g9	長方形	N-0°	4.77 × 4.13	37~50	平坦	全周	—	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器・刀子・鉄斧	9C中
70	C 4 a4	方形	N-10°-E	3.85 × 3.62	37~49	平坦	一部	—	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器・墨書土器	9C中 242土坑→本跡→59土坑
73	B 4 g1	方形	N-18°-E	4.04 × 3.79	30~35	平坦	全周	—	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器	9C中
74	C 4 h7	[方・長方形]	N-7°-E	4.02 × (3.05)	20	平坦	—	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器	9C中 本跡→9溝
75	C 5 a3	方形	N-22°-W	3.74 × 3.65	27~45	平坦	ほぼ全周	—	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器	9C中
77	C 4 c3	長方形	N-10°-E	4.86 × 4.75	47~61	平坦	一部	4	1	—	北2	人為	土師器・須恵器・土製支脚	9C中 本跡→9溝
78	C 4 e2	長方形	N-13°-E	3.57 × 3.21	30~41	平坦	半周	—	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器	9C前 本跡→79住
79	C 4 e2	方形	N-7°-E	3.65 × 3.46	36~40	平坦	全周	1	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器	9C中
82	C 5 b4	[方・長方形]	N-14°-E	3.80 × (3.73)	28~37	平坦	—	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・鉄鎌	9C中 本跡→11・21溝
83	C 4 e2	[方・長方形]	N-1°-E	2.67 × (0.35)	10	平坦	—	—	—	—	北壁	—	土師器・須恵器・羽口・鉄滓	9C中
91	C 4 h6	[方・長方形]	N-2°-W	2.89 × (1.26)	2~26	平坦	—	—	—	—	北壁	—	土師器・須恵器	9C前 本跡→9溝
93	C 5 i2	方形	N-4°-E	4.64 × 4.34	11~24	平坦	—	—	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器・灰釉陶器・石製紡錘車・墨書土器	9C後 111住, 174土坑→本跡

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
								主柱穴	出入口	ピット	竈			
94	C 5h4	[長方形]	N-6°-W	4.03 × (2.61)	25~34	平坦	—	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・土製支脚・石製紡錘車	9C中 107・108住→本跡
95	D 5a6	[方・長方形]	N-11°-E	4.64 × (2.89)	15~20	平坦	—	1	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器	9C中 105住→本跡→18溝
96	C 5c7	[方・長方形]	N-9°-E	3.35 × (2.14)	22	平坦	—	—	—	—	—	人為	土師器・須恵器・灰釉陶器・礫	9C後
97	C 5h0	[方・長方形]	N-12°-E	3.82 × (2.56)	6	平坦	—	—	—	—	—	自然	土師器・須恵器	9C中
98	D 5a5	[方・長方形]	N-11°-E	2.83 × (1.32)	2~10	平坦	—	—	—	—	北壁	自然	土師器・須恵器・雲母片岩	9C後 105住→本跡
99	D 6d1	[長方形]	N-14°-E	4.18 × 3.95	23~30	平坦	—	—	—	—	北壁	自然	土師器・須恵器・灰釉陶器	9C中 本跡→33掘立
100	D 3e2	方形	N-13°-W	3.92 × 3.83	35~46	平坦	ほぼ全周	4	—	—	北壁	人為		9C中 本跡→55住
101	C 5i7	[方・長方形]	N-7°-W	(2.93 × 8.12)	25	平坦	(全周)	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄鏃	10C前
102	D 6g3	[方・長方形]	N-20°-E	3.87 × (3.50)	16~23	平坦	ほぼ全周	—	—	1	北壁	自然	土師器・須恵器	9C前
104	D 4a0	方形	N-15°-E	3.16 × 3.15	40~48	平坦	全周	—	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器・雲母片岩	9C中
105	D 5a5	[方・長方形]	N-12°-E	(2.27 × 1.97)	12~22	平坦	(全周)	[1]	—	—	—	自然	土師器・須恵器	9C中 本跡→95・98住
109	D 5c3	[長方形]	N-106°-E	(4.05) × 3.50	25~40	平坦	(全周)	—	—	—	東壁	自然	土師器・須恵器・灰釉陶器	10C前
110	D 4g0	方形	N-10°-E	3.46 × 3.23	40~46	平坦	ほぼ全周	—	—	—	北壁	自然	土師器・須恵器・刀子	9C中
111	C 5i2	方形	N-4°-E	4.73 × 4.68	36~44	平坦	ほぼ全周	4	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器・砥石・小鎌・土製支脚・墨書土器	9C前 本跡→93住・174土坑
113	D 5e3	[方・長方形]	N-13°-W	3.29 × (3.05)	31~37	平坦	(全周)	—	1	—	北壁	自然	土師器・須恵器	9C後
114	C 5j0	長方形	N-3°-E	3.05 × 2.60	3	平坦	—	—	—	—	—	—		9C前
115	E 4d9	方形	N-4°-E	(3.27) × 3.02	35~45	平坦	ほぼ全周	—	1	—	北壁	人為	土師器・須恵器・刀子	9C後 本跡→37掘立・19溝
116	F 3c8	方形	N-1°-E	2.95 × 2.92	25	平坦	全周	—	—	—	北壁	人為	土師器・須恵器・灰釉陶器・刀子	10C前 118住→本跡→45・46・215・226・228土坑
117	F 3b8	方形	N-97°-E	3.80 × 3.55	3~11	平坦	ほぼ全周	2	—	1	東壁	人為	土師器・須恵器	9C中 本跡→213・215土坑
120	F 4d5	長方形	N-2°-E	2.82 × 2.52	9~11	平坦	—	4	1	1	北壁	人為	土師器・須恵器・礫	9C中
123	C 2i4	長方形	N-16°-E	5.18 × 4.81	—	平坦	—	4	2	1	北壁	人為		9C中 本跡→49住
124	E 2g9	長方形	N-5°-W	4.58 × 4.14	—	平坦	—	4	1	—	—	自然	土師器	9C中 本跡→63住・159土坑

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第285図)

位置 調査区南部のE 3e7区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-2°-Wの南北棟である。規模は、桁行7.20m、梁行3.90mで、面積は28.08㎡である。柱間寸法は桁行が2.4m(8尺)、梁行が1.95m(6.5尺)で等間隔に配置され、柱筋はほぼ揃っている。

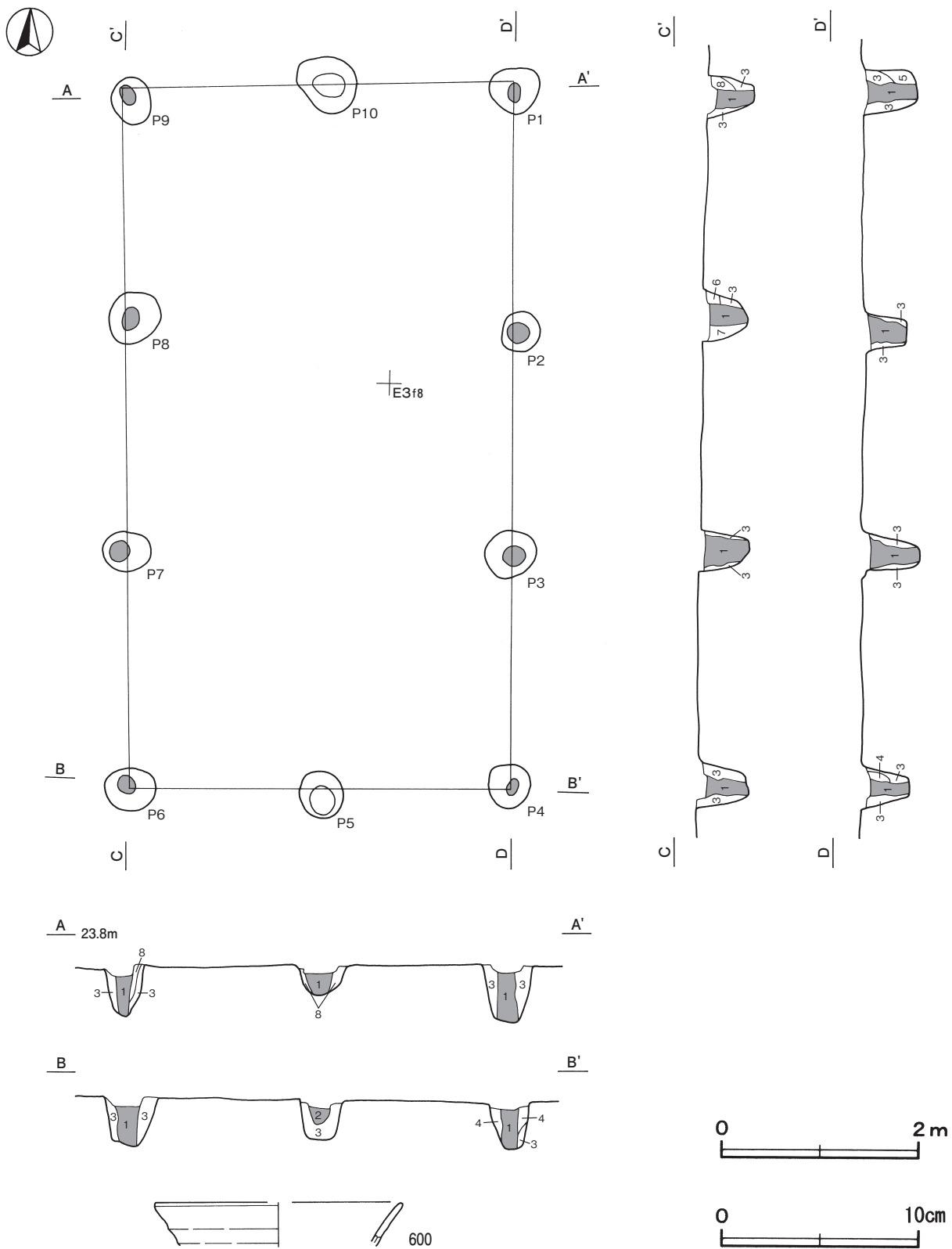
柱穴 10か所。平面形は円形で、径42~60cmである。深さは30~60cmで、掘方の断面形はU字形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕、第3~8層が埋土である。P1~P4、P6~P9の底面で、柱のあたりが確認されている。

土層解説 (各柱穴共通)

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
3	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック中量	8	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 須恵器坏1点のほか、土師器甕片1点、須恵器坏片・甕片各1点が出土している。600はP4の柱抜き取り痕内から出土している。

所見 柱穴は小形ながら加重を受けた痕跡が認められ、「屋」として機能していたものと思われる。南5mに位置する第5号掘立柱建物跡とは桁行方向・柱穴規模などがほぼ一致することから同時期に存在していたと推測される。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第282図 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第282図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
600	須恵器	坏	[12.4]	(2.2)	—	長石・雲母	灰	普通	ロクロナデ	P4 抜き取り痕	10%

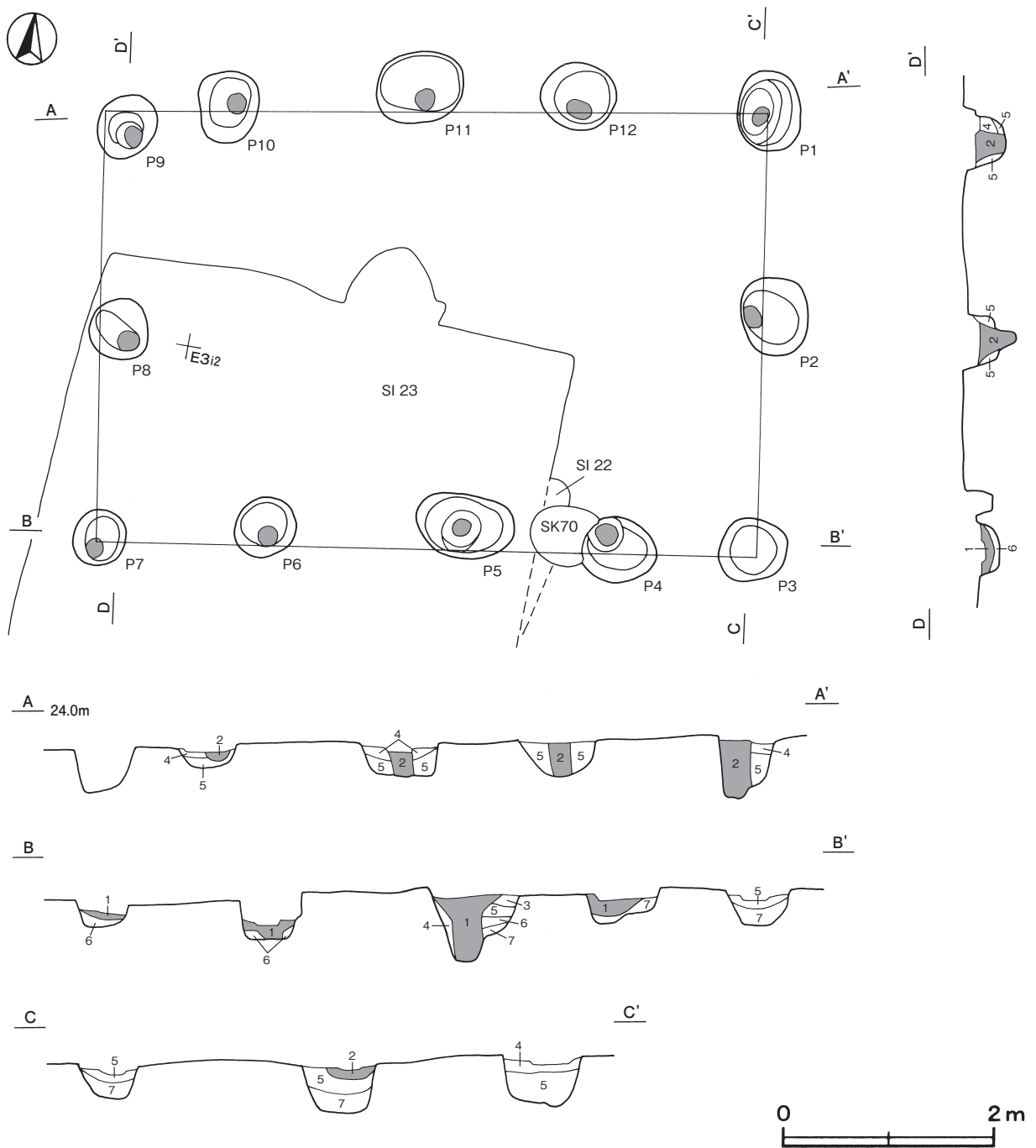
第2号掘立柱建物跡 (第283・284図)

位置 調査区南部のE3h2区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P5～P8が第22・23号住居跡を掘り込み、P4が第70号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-81°-Eの東西棟である。規模は、桁行6.30m、梁行4.20mで、面積は26.46㎡である。柱間寸法は桁行が西妻から1.2m(4尺)・1.8m(6尺)・1.5m(5尺)・1.8m(6尺)、梁行が2.1m(7尺)で等間隔に配置され、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は円形又は楕円形で、長径52～93cm、短径50～62cmである。深さは25～62cmで、掘方の



第283図 第2号掘立柱建物跡実測図

断面形は逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕，第3～7層が埋土である。P3を除く柱穴の底面で，柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|---------------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・白色粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロック微量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器高台付坏，須恵器甕各1点のほか，土師器片39点（坏4・甕35），須恵器片13点（坏1・高台付坏1・甕10・長頸瓶1）が出土している。601はP8，TP49はP1の埋土から出土している。

所見 柱穴は加重を受けた痕跡が認められ，「屋」として機能していたものと思われる。時期は，出土土器や重複関係から9世紀前葉に比定できる。



第284図 第2号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第284図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
601	土師器	高台付坏	[13.0]	(4.1)	—	石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理	P8埋土	40%
TP49	須恵器	甕	—	(4.3)	—	長石・雲母	灰	普通	外面同心円文の叩き	P1埋土	

第3号掘立柱建物跡（第285・286図）

位置 調査区南部のF3a3区で，標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P4が第11号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN-18°-Wの南北棟である。規模は，桁行6.30m，梁行3.90mで，面積は24.57㎡である。柱間寸法は桁行が2.1m（7尺），梁行が1.95m（6.5尺）で，等間隔に配置され，柱筋はほぼ揃っている。

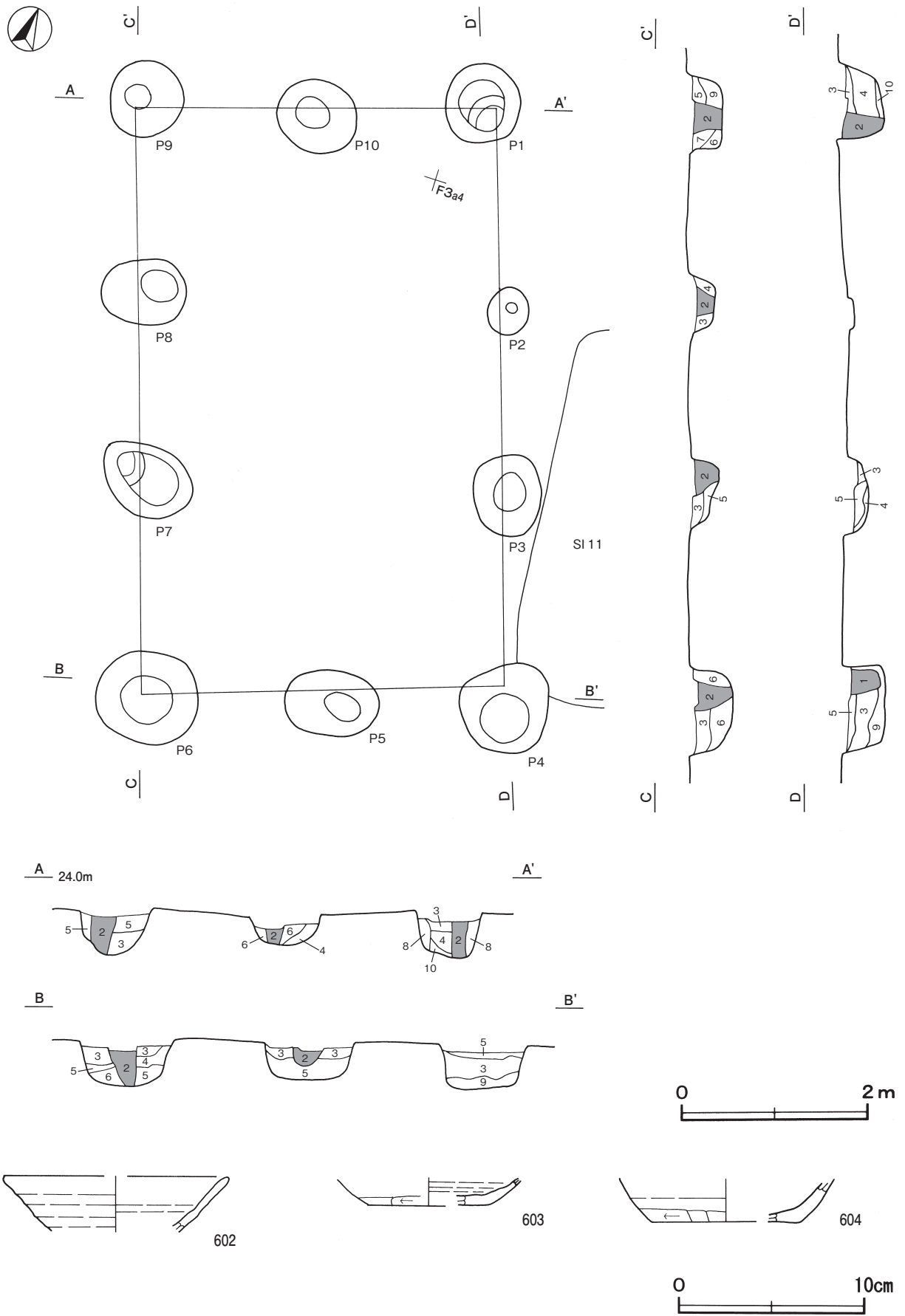
柱穴 10か所。平面形は円形又は楕円形で，長径60～110cm，短径45～90cmである。深さは25～55cmで，掘方の断面形は逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕，第3～10層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|----------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック多量，炭化物・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 須恵器坏3点，甕2点のほか，土師器片48点（坏4・甕44），須恵器片23点（坏12・高盤1・甕10）が出土している。602・TP50・TP51はP9，603はP1，604はP7の埋土からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から9世紀前半と思われる。



第285図 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図



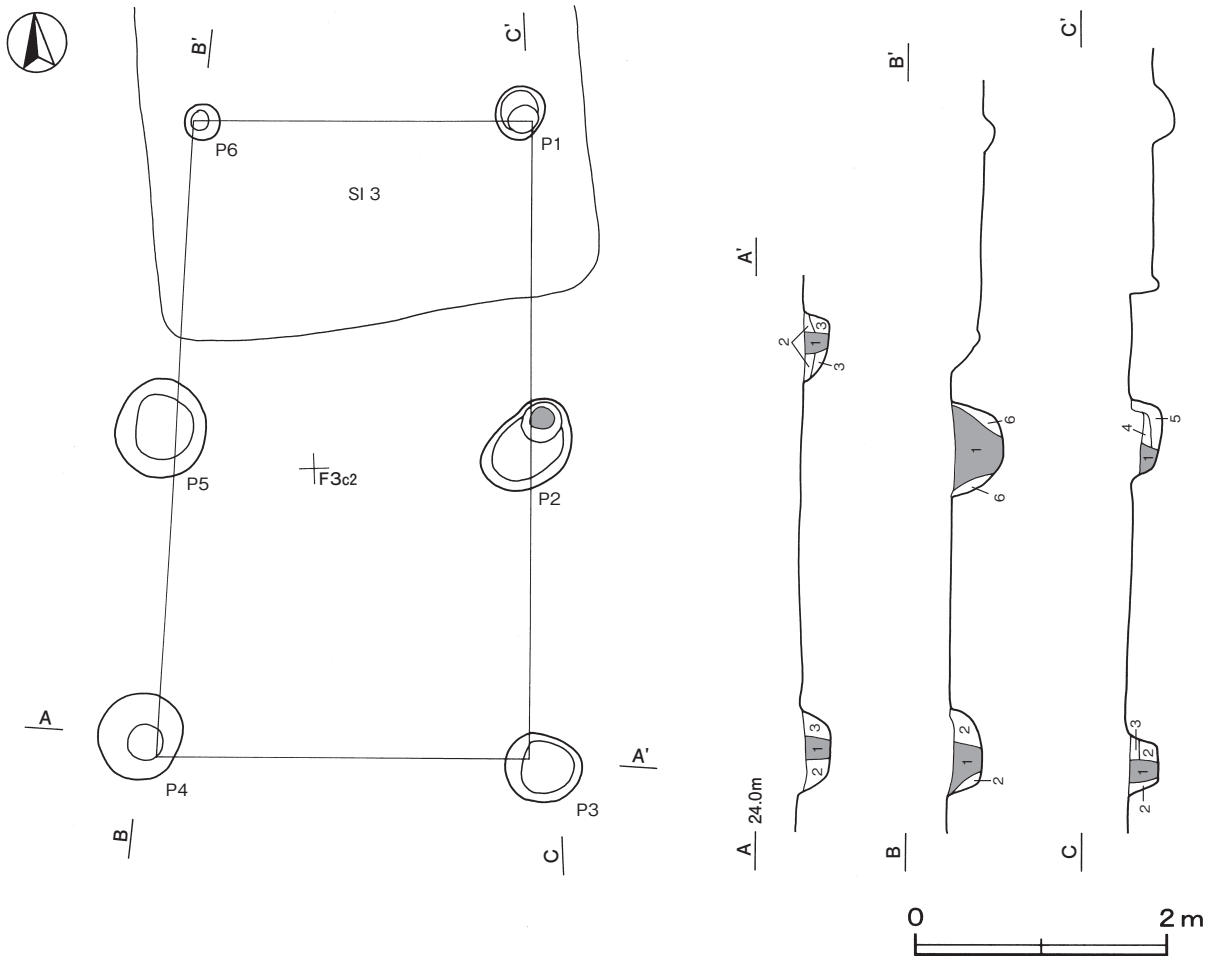
第286図 第3号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第285・286図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
602	須恵器	坏	[13.0]	(3.0)	—	石英・雲母	灰	普通	ロクロナデ	P9埋土	10%
603	須恵器	坏	—	(1.5)	[6.4]	石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向のへら削り	P1埋土	10%
604	須恵器	坏	—	(2.3)	[8.0]	長石・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	P7埋土	10%
TP50	須恵器	甕	—	(7.4)	—	長石・石英	灰褐	普通	外面縦位の平行叩き	P9埋土	PL90
TP51	須恵器	甕	—	(6.8)	—	長石・石英	灰	普通	外面縦位の平行叩き	P9埋土	

第4号掘立柱建物跡 (第287・288図)

位置 調査区南部のF3b2区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。



第287図 第4号掘立柱建物跡実測図

重複関係 P 1・P 6が第3号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間，梁行1間の側柱建物跡で，桁行方向がN-5°-Eの南北棟である。規模は，桁行5.10m，梁行3.00mで，面積は15.30㎡である。柱間寸法は桁行が2.55m（8.5尺），梁行が南梁3.0m（10尺）・北梁2.7m（9尺）である。

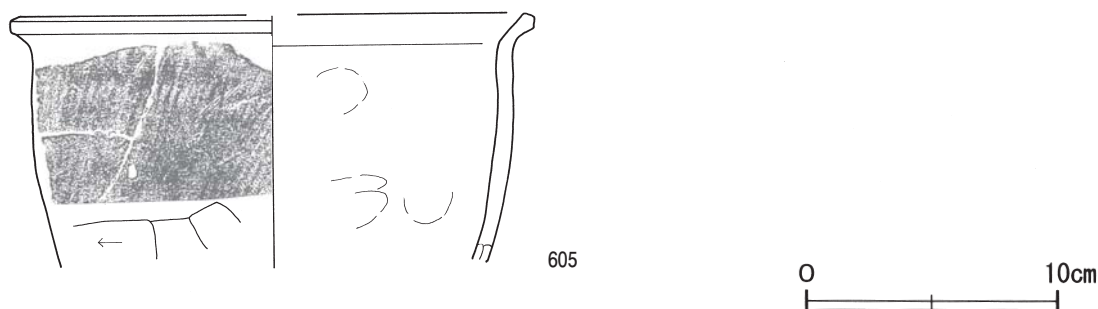
柱穴 6か所。平面形は円形又は楕円形で，長径63~84cm，短径38~50cmである。深さは25~45cmで，掘方の断面形は逆台形又はU字形である。土層は第1層が柱抜き取り痕，第2~6層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 須恵器鉢1点のほか，土師器片10点（坏2・甕8），須恵器片21点（坏12・甕9）が出土している。605はP 6の埋土から出土している。

所見 北東20mに位置する第5号掘立柱建物跡と桁行方向・柱穴規模などがほぼ一致することから，同時期に存在していたと推測される。時期は，出土土器や重複関係から9世紀中葉に比定できる。



第288図 第4号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第288図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
605	須恵器	鉢	[20.0]	(9.9)	—	長石・雲母	褐灰	普通	体部縦位の平行叩き 体部下端手持ちヘラ削り	P 6埋土	20%

第5号掘立柱建物跡（第289図）

位置 調査区南部のE 3 h6区で，標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P 4が第4号住居跡を掘り込み，P 7が第24号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN-4°-Eの南北棟である。規模は，桁行3.90m，梁行3.90mで，面積は15.21㎡である。柱間寸法は桁行が1.95m（6.5尺），梁行が2.10m（7尺）・1.8m（6尺）である。

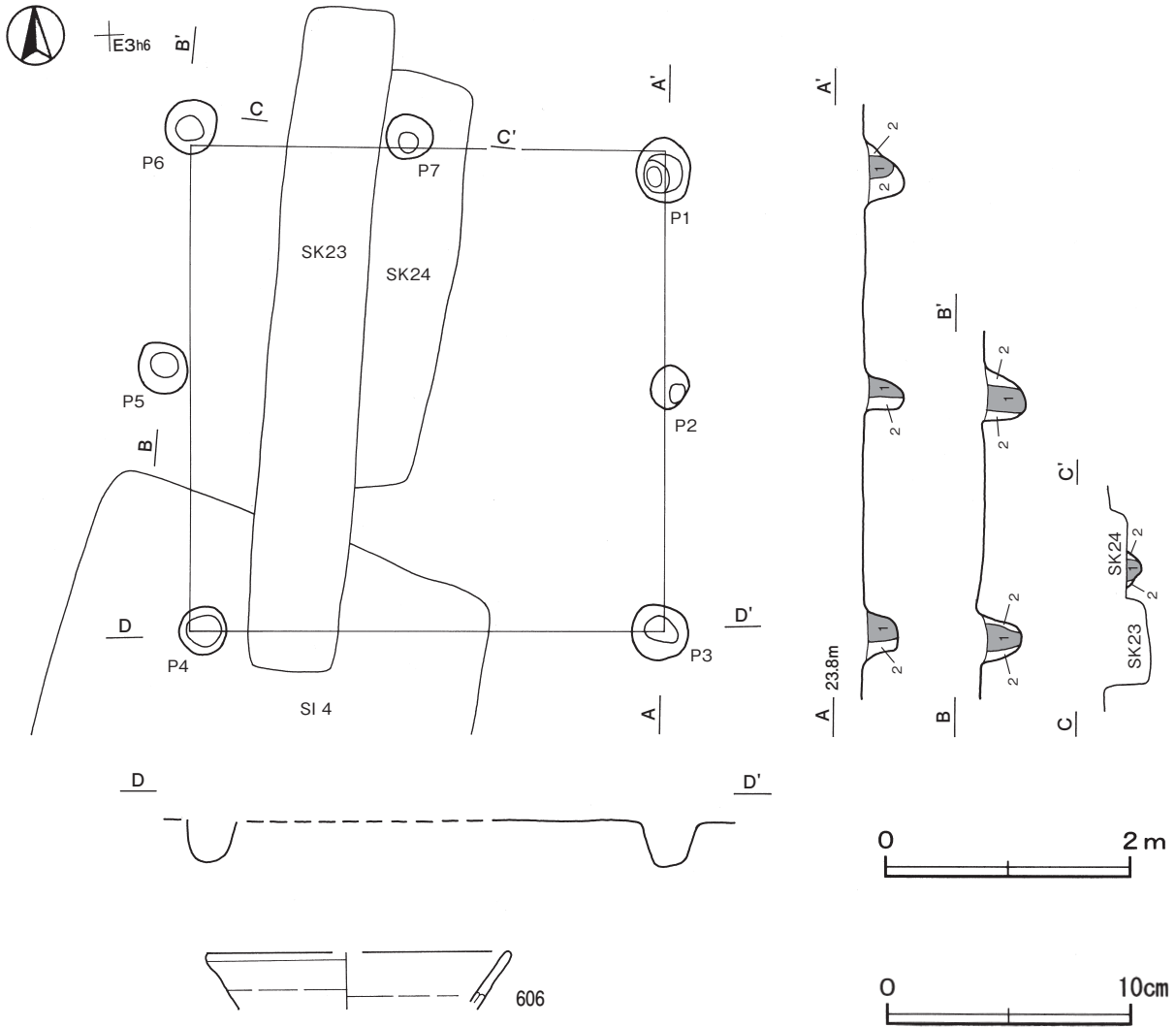
柱穴 7か所。平面形は円形で，径35~50cmである。深さは30~38cmで，掘方の断面形はU字形である。土層は第1層が柱抜き取り痕，第2層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 2 暗褐色 ロームブロック少量 |
|---------------|-----------------|

遺物出土状況 須恵器坏1点のほか、土師器甕片9点、須恵器片4点（坏1・甕3）が出土している。606はP3の埋土から出土している。

所見 北5mに位置し、9世紀中葉と推定している第1号掘立柱建物跡と桁行方向・柱穴規模などがほぼ一致することから同時期に存在していたと思われ、時期は、出土土器や重複関係から9世紀中葉に比定できる。



第289図 第5号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

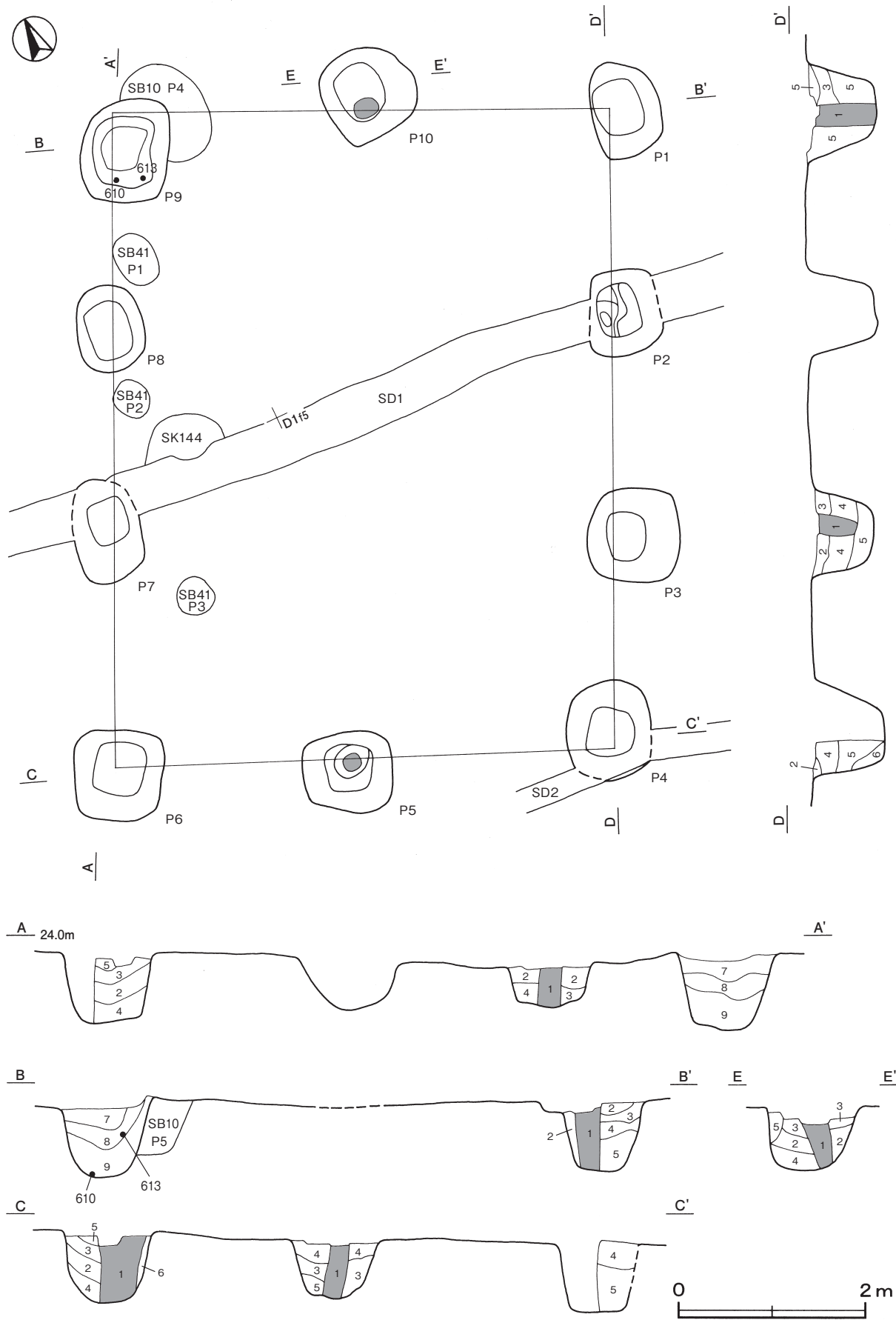
第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第289図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
606	須恵器	坏	[13.2]	(3.3)	—	長石・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ	P3埋土	5%

第6号掘立柱建物跡（第290～292図）

位置 調査区西部のD1f5区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P9が第10号掘立柱建物跡のP4を掘り込み、P2・P7が第1号溝、P4が第2号溝に掘り込まれている。第41号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴同士の重複が無いため新旧関係は不明である。



第290图 第6号掘立柱建筑物迹实测图

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN-25°-Eの南北棟である。規模は，桁行6.90m，梁行5.40mで，面積は37.26㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から2.4m（8尺）・2.1m（7尺）・2.4m（8尺），梁行が2.7m（9尺）で等間隔に配置され，柱筋はほぼ揃っている。P5・P10の底面で，柱のあたりが確認されている。

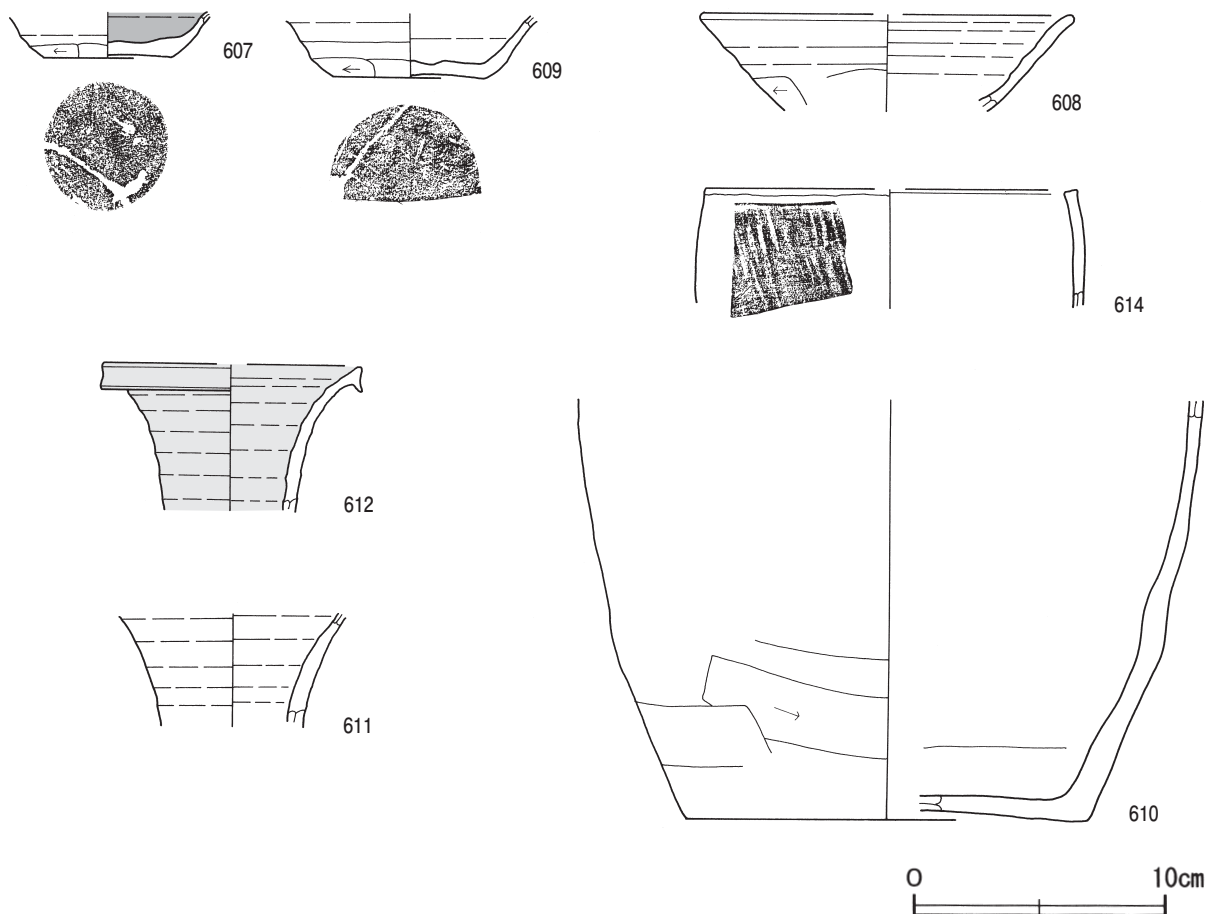
柱穴 10か所。平面形は隅丸長方形で，長軸90~110cm，短軸70~100cmである。深さは63~75cmで，掘方の断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕，第2~6層が埋土，第7~9層が覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

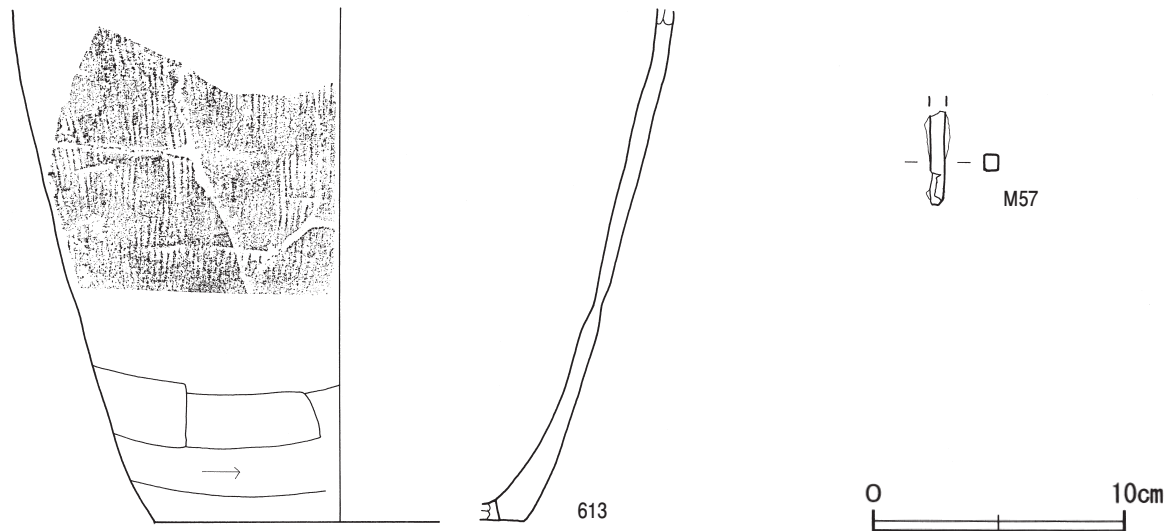
1 黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック多量	8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
5 褐色	ロームブロック多量（締まり強）		

遺物出土状況 土師器坏1点，須恵器坏2点，鉢・長頸瓶・甑・鉢形土器各1点，灰釉陶器長頸瓶1点，鉄釘1点のほか，土師器片87点（坏4・皿1・甕82），須恵器片61点（坏27・蓋2・甕31・長頸瓶1）が出土している。608はP1，611・614はP10の埋土から，607はP6，M57はP8の柱抜き取り痕，609・612はP9の覆土中からそれぞれ出土している。610・613はP9の底面と覆土中層から出土した破片が接合している。

所見 柱穴は加重を受けた痕跡が認められ，「屋」として機能していたものと思われる。東3mに位置する第43号掘立柱建物跡，北9mに位置する第8号掘立柱建物跡とは桁行方向がほぼ一致することから同時期に存在していたと推測される。時期は，出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第291図 第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図（1）



第292図 第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図(2)

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第291・292図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
607	土師器	坏	—	(1.8)	5.0	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 内面黒色処理	P6 抜き取り痕	20%
608	須恵器	坏	[14.8]	(3.8)	—	長石・雲母	にぶい赤褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り	P1 埋土	20%
609	須恵器	坏	—	(2.5)	6.0	長石・雲母	灰黄	—	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り 二次焼成	P9 覆土中	30%
610	須恵器	鉢	—	(16.8)	[16.0]	長石・細礫	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 自然釉	P9 底面, 覆土中層	30%
611	須恵器	長頸瓶	—	(4.5)	—	長石	灰白	不良	ロクロナデ	P10埋土	10%
612	灰釉陶器	長頸瓶	[10.2]	(5.8)	—	細砂	灰	良好	口縁部オリブ釉	P9 覆土中	10%
613	須恵器	甌	—	(20.5)	[14.6]	長石・雲母	灰	—	体部下端手持ちヘラ削り 体部縦位の平行叩き 二次焼成	P9 底面, 覆土中層	30%
614	須恵器	鉢形土器	[14.6]	(4.7)	—	石英・雲母	灰	普通	体部縦位の平行叩き	P10埋土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M57	釘	(3.7)	0.6	0.6	(4.3)	鉄	頭部欠損 断面方形	P8 抜き取り痕	

第7号掘立柱建物跡(第293図)

位置 調査区西部のC1g9区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P3・P7の上面を第7号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-12°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.40m、梁行4.20mで、面積は22.68㎡である。柱間寸法は桁行が1.8m(6尺)、梁行が2.1m(7尺)で、等間隔に配置され、柱筋は揃っている。P4・P5・P6・P9の底面で、柱のあたりが確認されている。

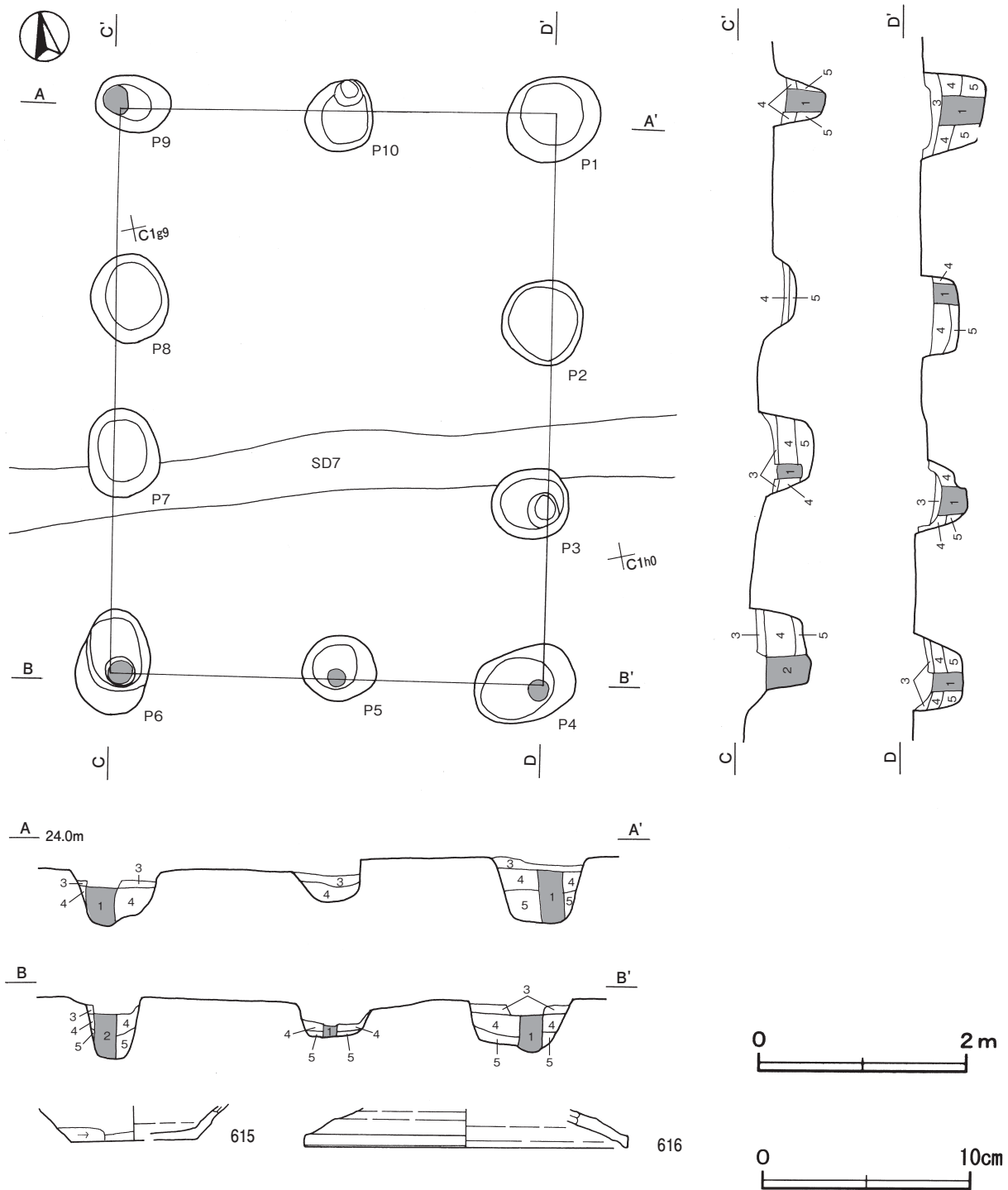
柱穴 10か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で、長軸70~100cm、短軸55~80cmである。深さは42~65cmで、掘方の断面形は逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕、第3層が覆土、第4・5層が埋土である。

土層解説(各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量(締まり強) |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量(締まり強) |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 須恵器坏・蓋各1点のほか、土師器片26点（坏1・甕25），須恵器片12点（坏6・蓋1・甕5）が出土している。615はP 7，616はP 4の埋土からそれぞれ出土している。

所見 柱穴は加重を受けた痕跡が認められ、「屋」として機能していたものと思われる。東3mに位置する第9号掘立柱建物跡とは桁行方向・規模等がほぼ一致することから同時期に存在していたと推測される。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第293図 第7号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

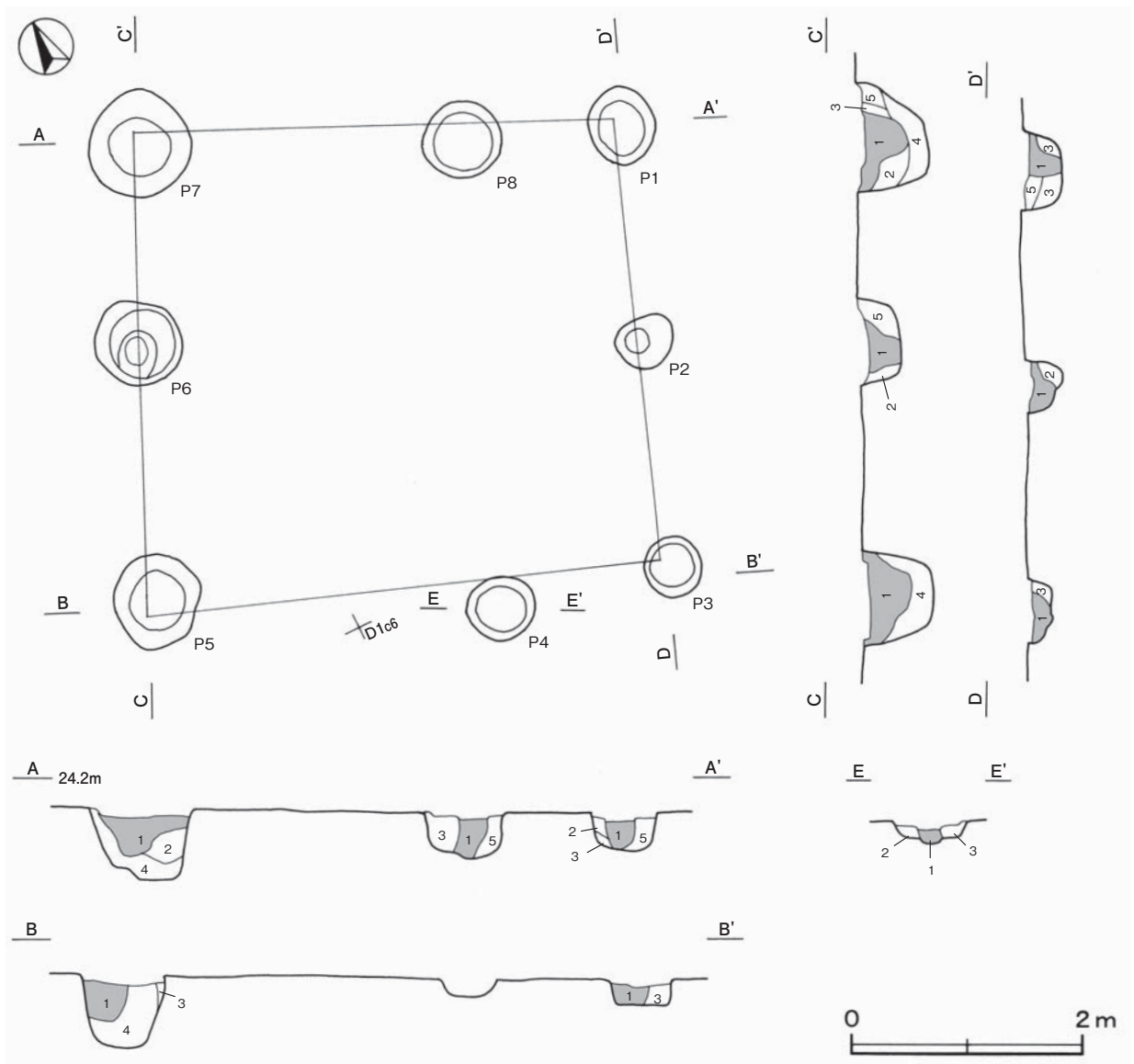
第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第293図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
615	須恵器	坏	—	(1.7)	[6.0]	石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り	P7埋土	10%
616	須恵器	蓋	[15.4]	(1.8)	—	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	P4埋土	5%

第8号掘立柱建物跡（第294・295図）

位置 調査区西部のD 1 b6区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-24°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.20m、梁行4.20mで、面積は17.64㎡である。柱間寸法は桁行が西妻から2.4m（8尺）・1.8m（6尺）、梁行が3.0m（10尺）・1.2m（4尺）と、不揃いな配置である。



第294図 第8号掘立柱建物跡実測図

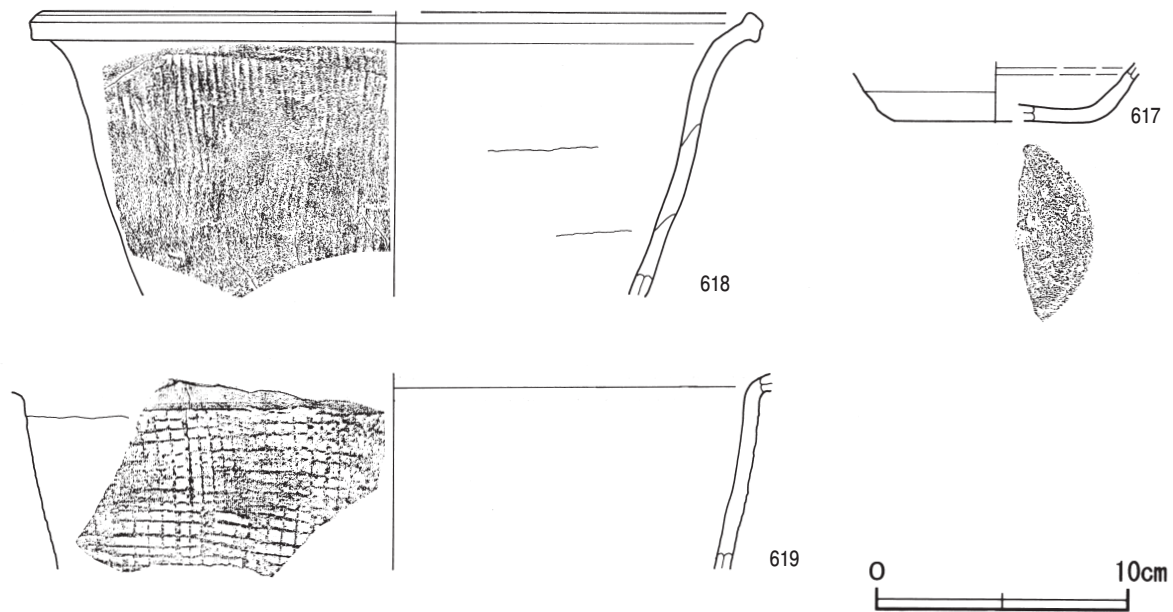
柱穴 8か所。平面形は円形で、径50～90cmである。深さは20～62cmで、掘方の断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第3～5層が埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|-------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 (縮まり弱) | 4 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 須恵器坏1点、鉢2点のほか、土師器片10点 (坏2・甕8), 須恵器片7点 (坏3・甕4) が出土している。617はP4, 618・619はP6の埋土からそれぞれ出土している。

所見 南9mに位置する第6号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致することから同時期に存在していたと推測される。時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第295図 第8号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第295図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
617	須恵器	坏	—	(2.4)	[8.0]	長石	灰黄褐	—	底部不定方向のヘラナデ 二次焼成	P4埋土	10%
618	須恵器	鉢	[28.0]	(11.3)	—	長石・雲母	黄灰	普通	体部縦位の平行叩き 輪積痕	P6埋土	10%
619	須恵器	鉢	—	(7.1)	—	長石・雲母	灰	普通	体部格子目叩き	P6埋土	10%

第9号掘立柱建物跡 (第296・297図)

位置 調査区西部のC2g1区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P3が第210号土坑を掘り込み、P7の上面を第7号溝、P1～P4の上面を第25号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-12°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.10m、梁行3.60mで、面積は18.36㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.5m (5尺)・1.8m (6尺)・1.8m (6尺)、梁行が1.8m (6尺)の等間隔で配置され、柱筋は揃っている。P1・P3・P7・P8の底面で、

柱のあたりが確認されている。

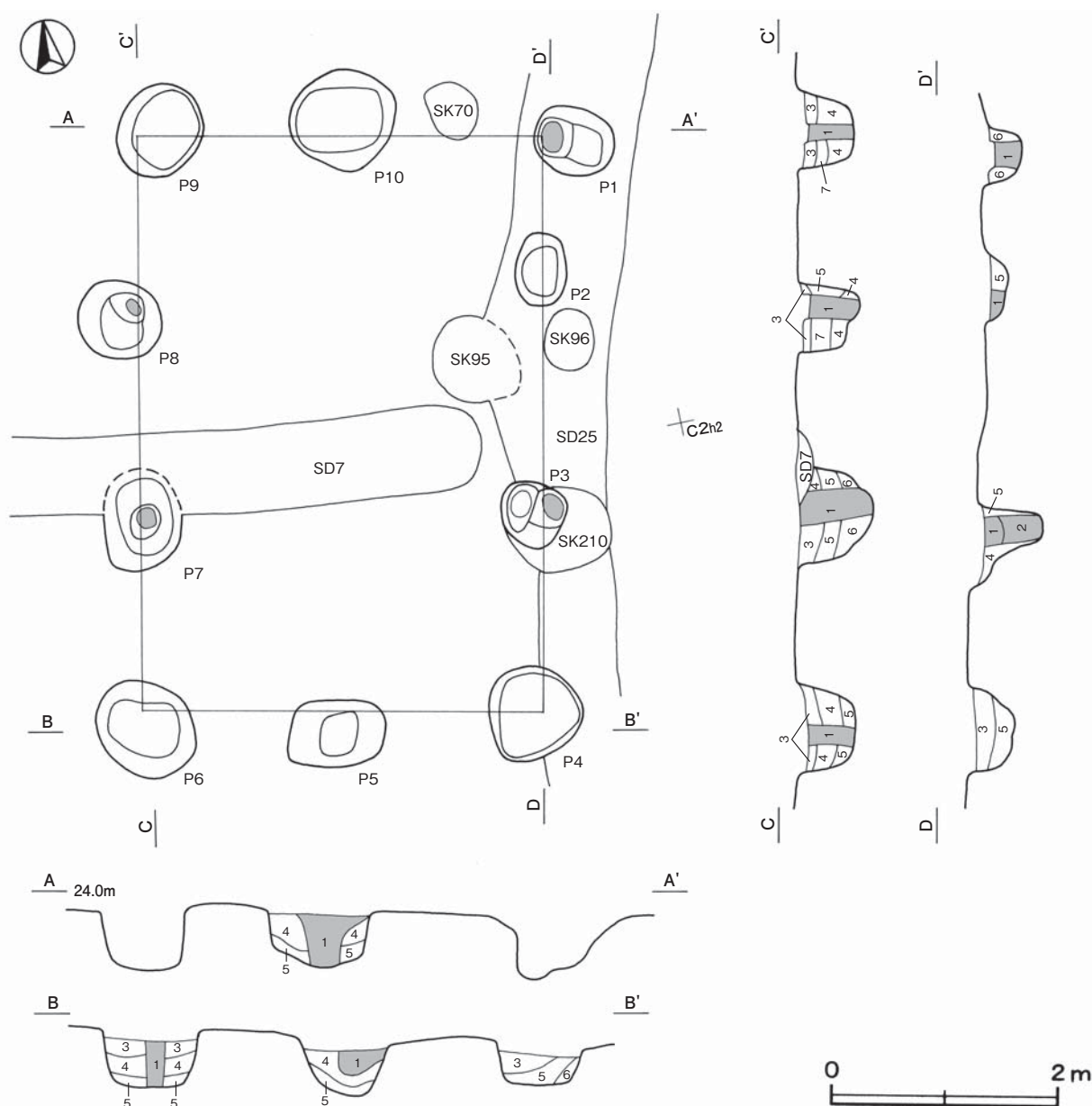
柱穴 10か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で、長軸65～95cm、短軸50～90cmである。深さは35～68cmで、掘方の断面形は逆台形である。土層は第1・2層が柱痕及び柱抜き取り痕、第3～7層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

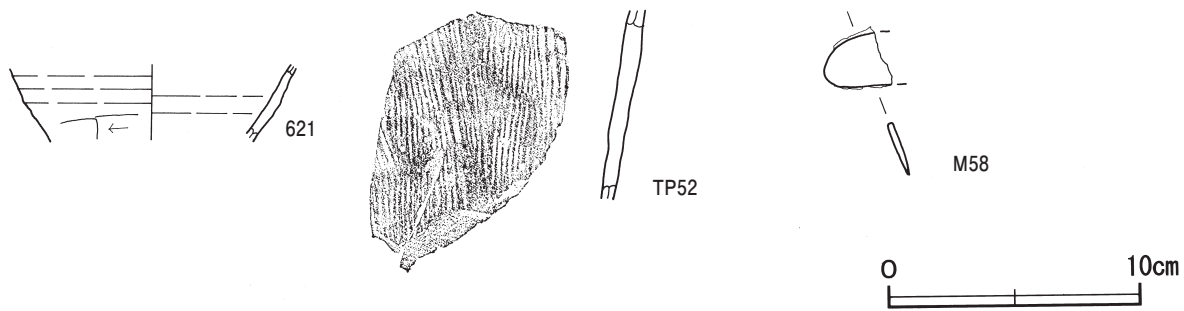
- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 須恵器坏・甕各1点、鉄鎌1点のほか、土師器片26点（坏1・甕25）、須恵器片12点（坏6・蓋1・甕5）が出土している。621・M58はP5、TP52はP6の埋土からそれぞれ出土している。

所見 柱穴は加重を受けた痕跡が認められ、「屋」として機能していたものと思われる。西3mに位置する第7号掘立柱建物跡とは桁行方向・規模等がほぼ一致することから同時期に存在していたと推測される。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第296図 第9号掘立柱建物跡実測図



第297図 第9号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第9号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第297図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
621	須恵器	坏	—	(3.0)	—	長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	P5埋土	5%
TP52	須恵器	甕	—	(7.6)	—	長石・雲母	灰	普通	外面縦位の平行叩き	P6埋土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M58	鎌	(2.7)	(2.2)	(0.25)	(3.5)	鉄	切先部	P5埋土	

第10号掘立柱建物跡（第298・299図）

位置 調査区西部のD1d5区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P4・南東隅の柱穴が第6号掘立柱建物のP9・P10に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-17°-Eの南北棟である。規模は、桁行7.20m、梁行3.90mで、面積は28.08㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から2.4m（8尺）・2.1m（7尺）・2.7m（9尺）、梁行が1.95m（6.5尺）の等間隔で配置され、柱筋は揃っている。

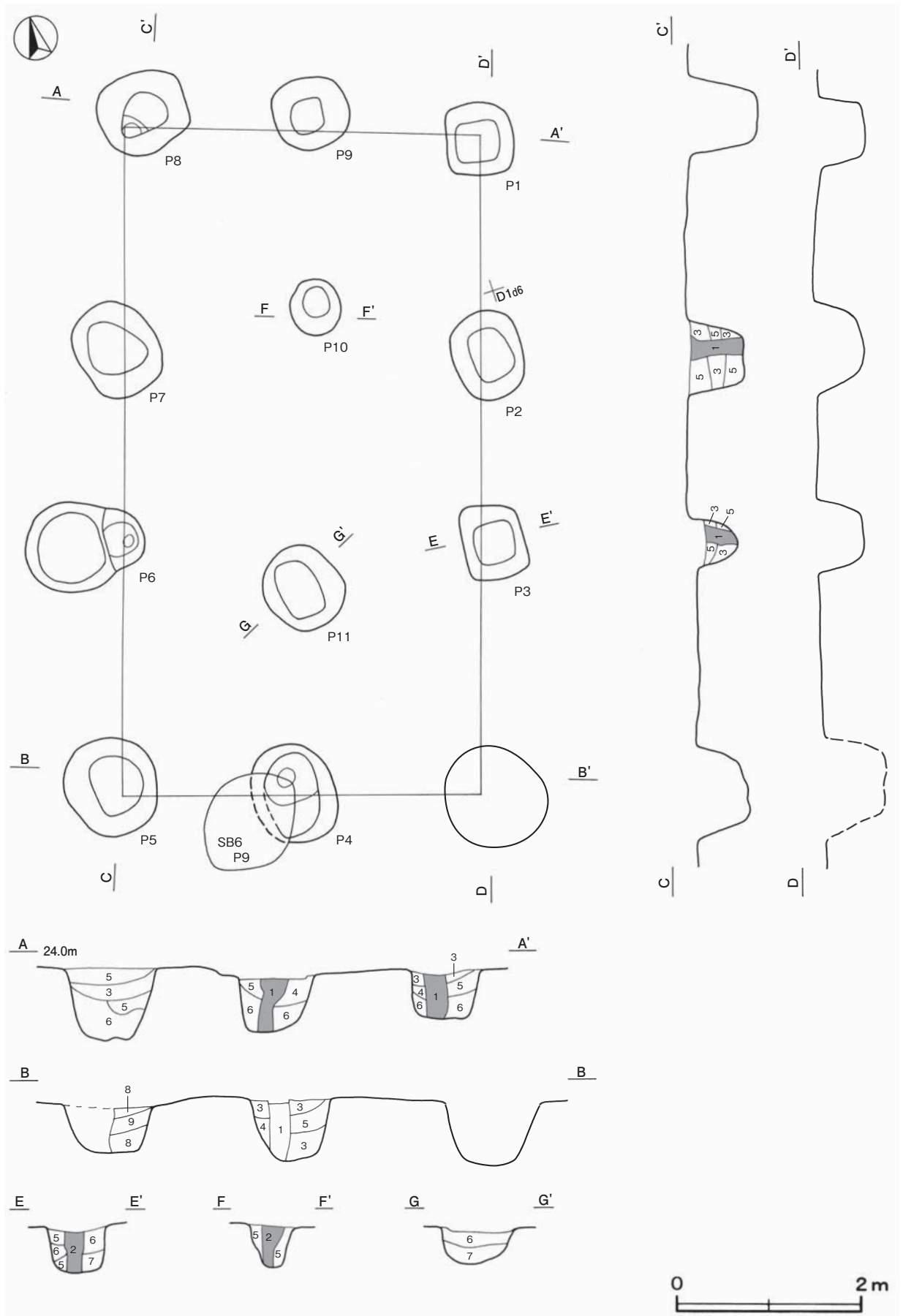
柱穴 11か所。平面形は隅丸長方形で、長軸80～105cm、短軸70～100cmである。深さは55～75cmで、掘方の断面形は逆台形である。側柱に囲まれたP10は径60cm、深さ45cm、P11は長軸90cm、短軸80cm、深さ40cmと側柱の柱穴より小さく浅いので、床束もしくは間仕切りの柱と判断した。土層は第1・2層が柱抜き取り痕、第3～9層が埋土である。南東隅の柱穴は第6号掘立柱建物のP10に掘り込まれているため、確認できなかった。

土層解説（各柱穴共通）

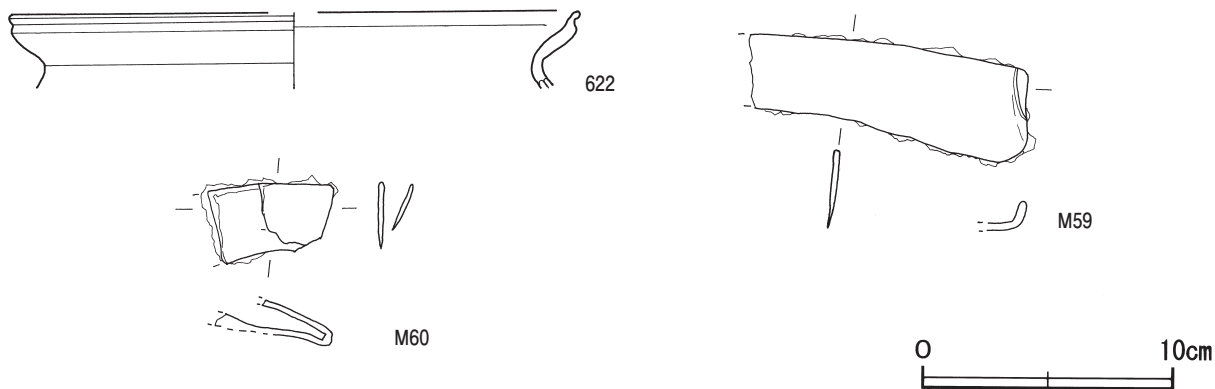
1 極暗褐色	ローム粒子少量	6 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	7 褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	ロームブロック少量	8 極暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量	9 極暗褐色	ロームブロック多量
5 褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器甕1点、鉄鎌2点のほか、土師器甕片6点、須恵器坏1点が出土している。622はP3の埋土、M59・M60はP3の柱抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係、第7・9号掘立柱建物跡と桁行を同じくして配置されていることから9世紀中葉に比定できる。



第298图 第10号掘立柱建物跡実測図



第299図 第10号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第299図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
622	土師器	甕	[22.4]	(3.1)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部ナデ	P3埋土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M59	鎌	(13.0)	5.0	0.35	(49.8)	鉄	切先部欠損 柄装着部上方へ90°折り曲げ	P3抜き取り痕	PL94
M60	鎌	(5.4)	3.4	0.3	(20.4)	鉄	刃部二つに折れ曲がる	P3抜き取り痕	

第11号掘立柱建物跡（第300図）

位置 調査区中央部のE 3 b7で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-7°-Wの南北棟である。規模は、桁行・梁行共に3.60mで、面積は12.96㎡である。柱間寸法は東平が1.8m（6尺）で等間隔に、西平が北妻から1.65m（5.5尺）・1.95m（6.5尺）、梁行が1.95m（6.5尺）・1.65m（5.5尺）で配置され、柱筋は揃っている。

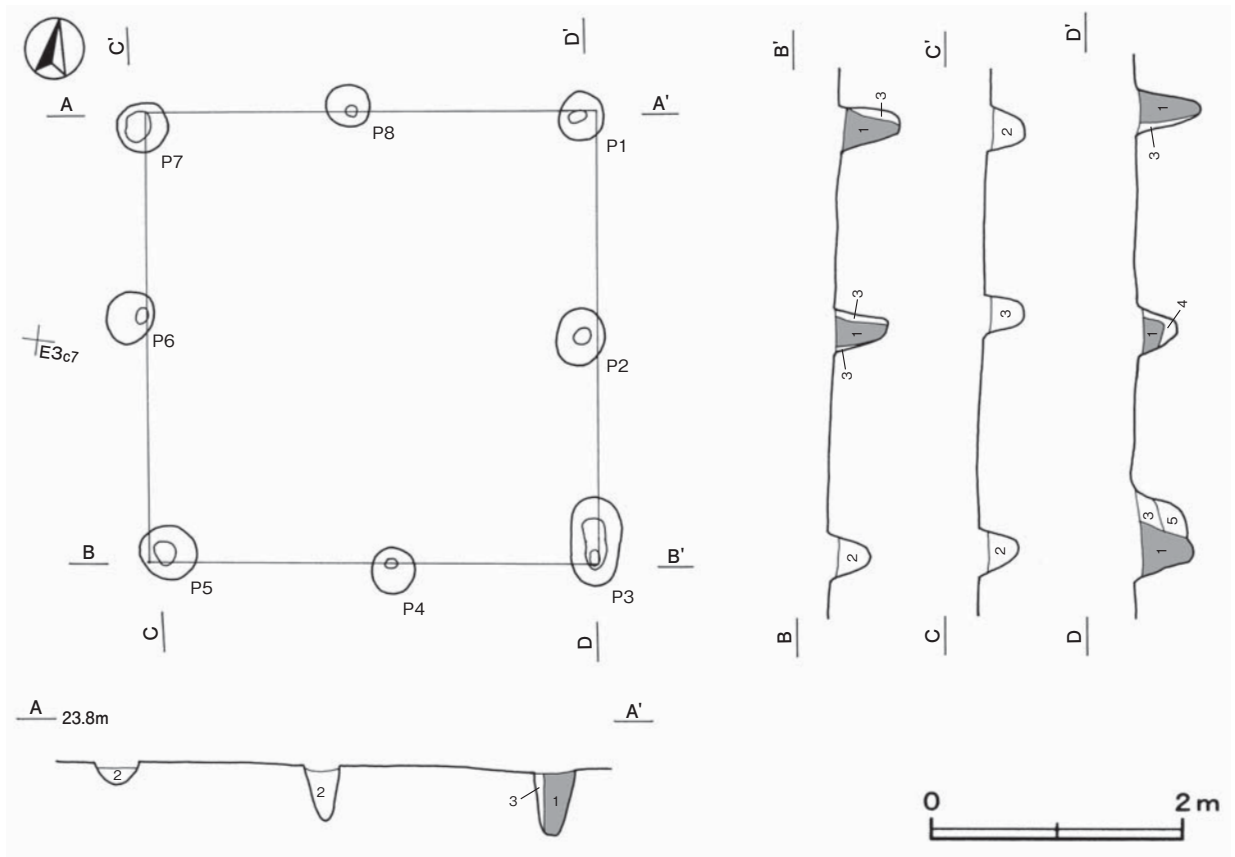
柱穴 8か所。平面形は円形で、径35～45cmである。深さは30～55cmで、掘方の断面形はU字形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2～5層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|---------|-----------------------|---------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 5 にぶい褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器甕片2点がP3から出土しており、いずれも細片である。

所見 本跡の西4.5mに第12号掘立柱建物跡が位置し、本跡の北梁行と第12号掘立柱建物跡の南桁行が一直線に並び、軸方向・柱穴規模等がほぼ一致することから同時期に存在していたと推測される。また、南7.5mにも軸方向・柱穴規模等が一致する第1号掘立柱建物跡が存在する。時期は、出土土器が細片のため断定はできないが、建物の配置等から9世紀中葉と考えられる。



第300図 第11号掘立柱建物跡実測図

第12号掘立柱建物跡 (第301図)

位置 調査区中央部のE 3 b5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-86°-Eの東西棟である。規模は、桁行5.70m、梁行3.60mで、面積は20.52㎡である。柱間寸法は桁行が西妻から1.8m(6尺)・1.8m(6尺)・2.1m(7尺)、梁行が1.8m(6尺)で等間隔に配置され、柱筋は揃っている。

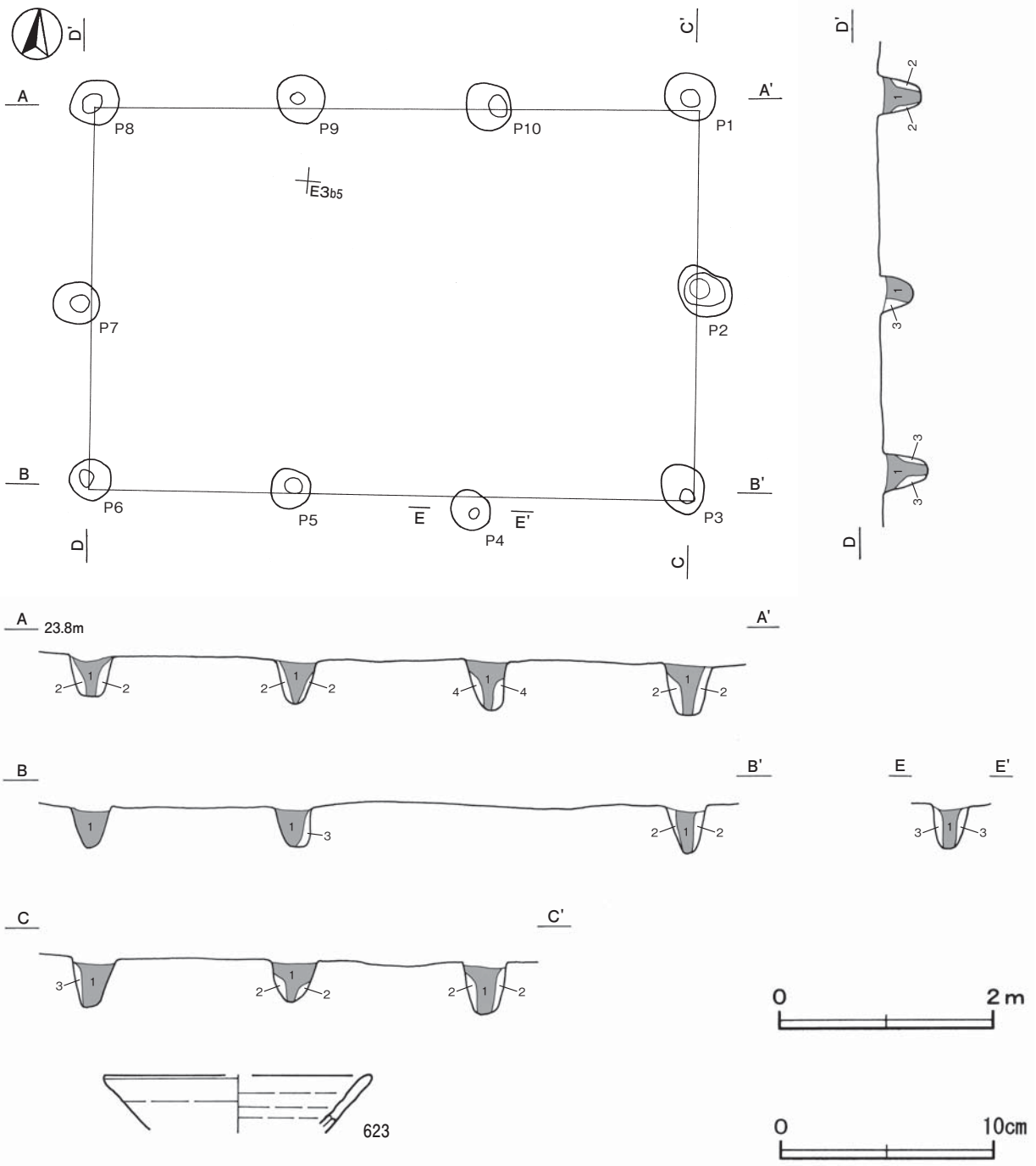
柱穴 10か所。平面形は円形で、径40~50cmである。深さは35~50cmで、掘方の断面形はU字形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2~4層が埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 須恵器片1点がP1の柱抜き取り痕から出土している。

所見 本跡の東4.5mには第11号掘立柱建物跡が位置し、本跡の南桁行と第11号掘立柱建物跡の北梁行が一直線に並び、軸方向・柱穴規模等がほぼ一致することから同時期に存在していたと推測される。また、南10mにも軸方向・柱穴規模等が一致する第1号掘立柱建物跡が存在する。時期は、出土土器や建物の配置等から9世紀中葉に比定できる。



第301図 第12号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第301図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
623	須恵器	坏	[124]	(27)	—	長石・雲母	暗灰黄	普通	ロクロナデ	P1 抜き取り痕	10%

第13号掘立柱建物跡（第302図）

位置 調査区西部のE 1 e4区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-83°-Eの東西棟である。規模は、桁行

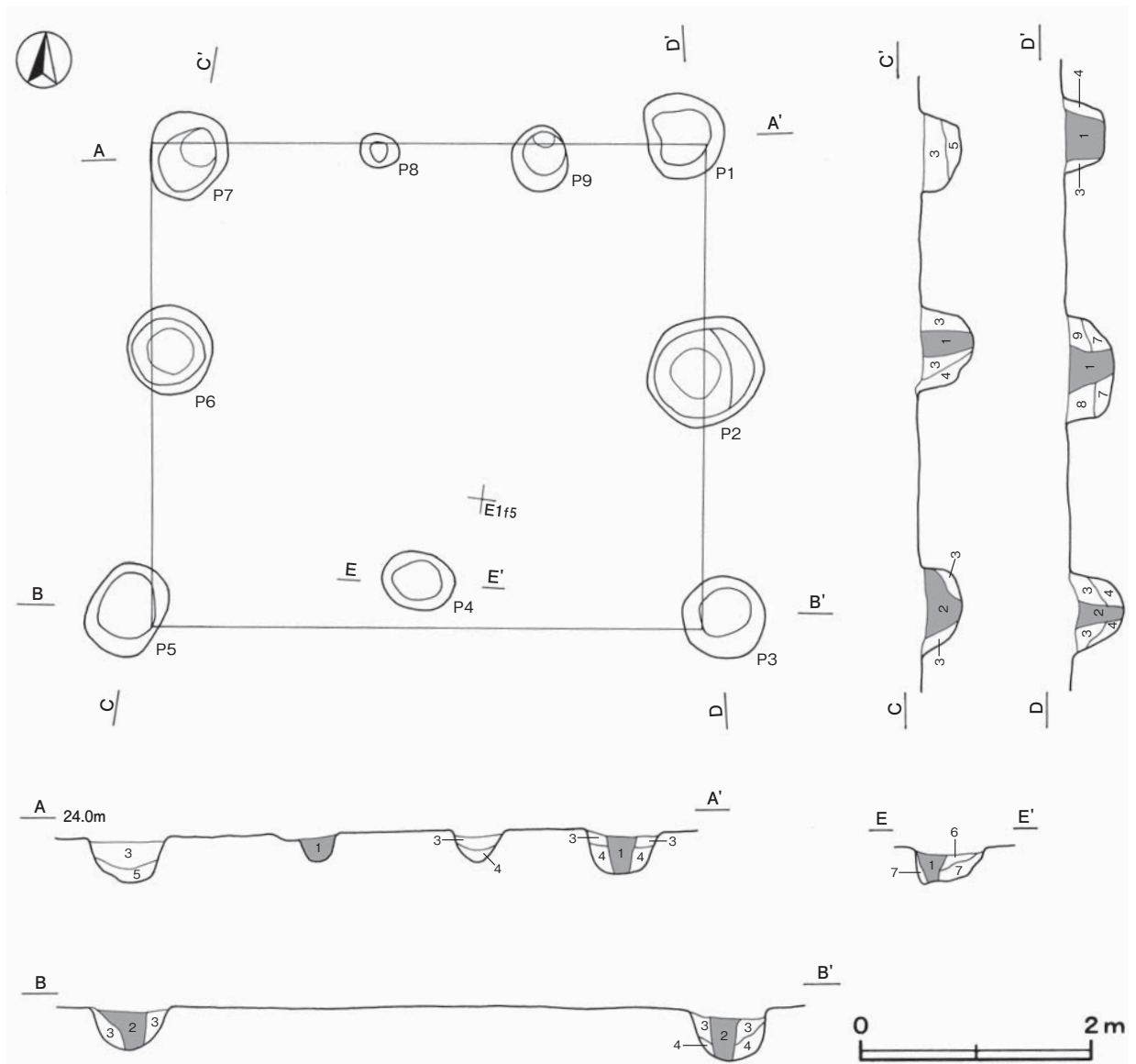
4.80m, 梁行4.20mで, 面積は20.16㎡である。柱間寸法は西妻から北平が1.8m (6尺), 1.5m (5尺), 1.5m (5尺), 南平が2.4m (8尺) の等間隔に, 梁行が2.1m (7尺) で等間隔に配置されている。

柱穴 9か所。平面形は円形または楕円形で, 長径60~95cm, 短径50~90cmである。深さは35~50cmで, 掘方の断面形は逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕, 第3~9層が埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|------------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 9 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器甕片3点, 須恵器片3点(坏2・甕1)が埋土から出土しており, いずれも細片である。
 所見 出土土器が少なく, 細片のため時期判断は困難であるが, いずれも9世紀代と思われるものであることから, 時期は9世紀代と考えられる。

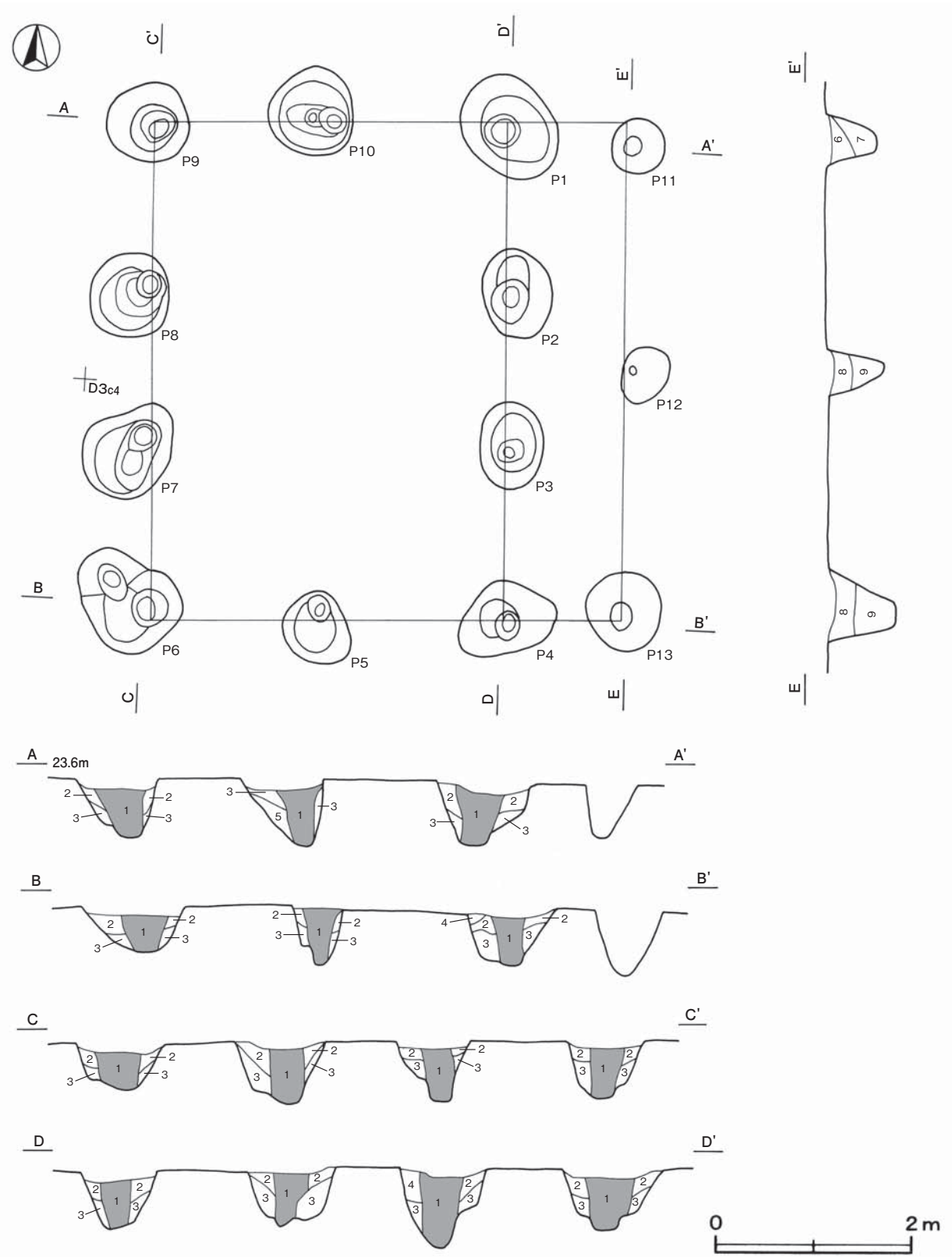


第302図 第13号掘立柱建物跡実測図

第14号掘立柱建物跡 (第303・304図)

位置 調査区中央部のD3b4区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の身舎に東庇が付く、桁行方向N-3°-Wの南北棟である。規模は、身舎



第303図 第14号掘立柱建物跡実測図

が桁行5.10m、梁行3.60mで面積は18.36㎡である。庇の出は1.2mで、庇も含めると梁行は4.8mで、面積は24.48㎡である。身舎の柱間寸法は桁行が北妻から1.8m（6尺）・1.5m（5尺）・1.8m（6尺）、梁行が1.8m（6尺）で等間隔に配置され、柱筋は揃っている。庇の柱間寸法は2.55m（8.5尺）の等間隔である。

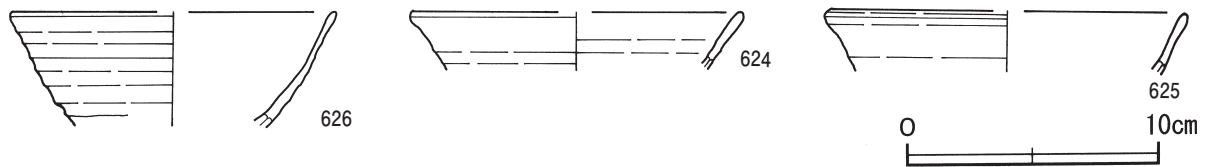
柱穴 13か所。身舎柱穴の平面形は円形または楕円形で、長径752～112cm、短径58～90cmである。深さは45～72cmで、掘方の断面形は逆台形である。庇柱穴の平面形は円形で、一辺56～80cmである。深さは48～62cmで、掘方の断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2～5層が埋土、第6～9層が柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 明褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 須恵器坏3点のほか、土師器片12点（坏2・甕10）、須恵器片20点（坏12・蓋1・甕7）が出土している。624～626はP1・P6の埋土からそれぞれ出土している。

所見 庇が付く建物であることから主屋として機能していたと思われる。構造は桁行2間に対して、庇の柱が桁行の中間に1本で、南5mに位置する第19号掘立柱建物跡と同様な構造である。時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第304図 第14号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第14号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第304図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
624	須恵器	坏	[13.0]	(2.3)	—	石英	にぶい黄橙	不良	ロクロナデ	P1埋土	10%
625	須恵器	坏	[14.4]	(2.4)	—	長石	灰褐	不良	ロクロナデ	P6埋土	10%
626	須恵器	坏	[12.8]	(4.5)	—	長石	灰	普通	ロクロナデ	P6埋土	10%

第15号掘立柱建物跡（第305・306図）

位置 調査区西部のE2d6区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P5が第133号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-1°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.50m、梁行3.60mで、面積は16.20㎡である。柱間寸法は桁行が1.5m（5尺）、梁行が1.8m（6尺）で等間隔に配置され、柱筋は揃っている。

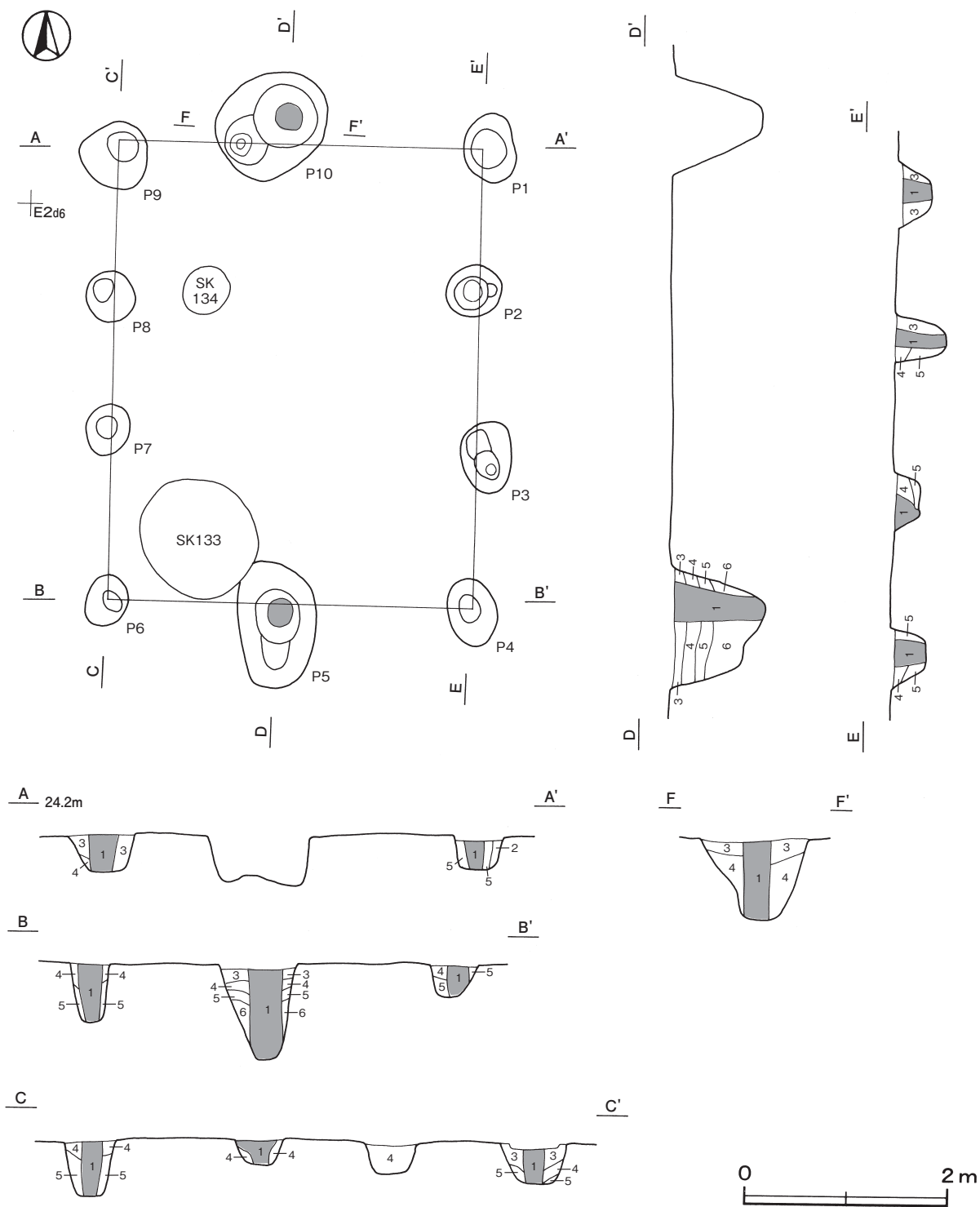
柱穴 10か所。桁行柱穴の平面形は円形で、径50～70cm、深さ28～60cmである。梁行柱の平面形は楕円形で、長径115cm・124cm、短径80cm・98cmで、ほかの柱に比べて規模が大きく、やや外側に位置していることから棟持柱と考えられる。掘方の断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2～6層が埋土である。P5・P10底面で、柱のあたりが確認されている。

土層解説 (各柱穴共通)

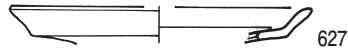
- | | | | |
|--------|-----------|-------|----------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 須恵器盤1点のほか, 土師器甕片2点が出土している。627はP8の埋土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第305図 第15号掘立柱建物跡実測図



第306図 第15号掘立柱建物跡出土遺物実測図

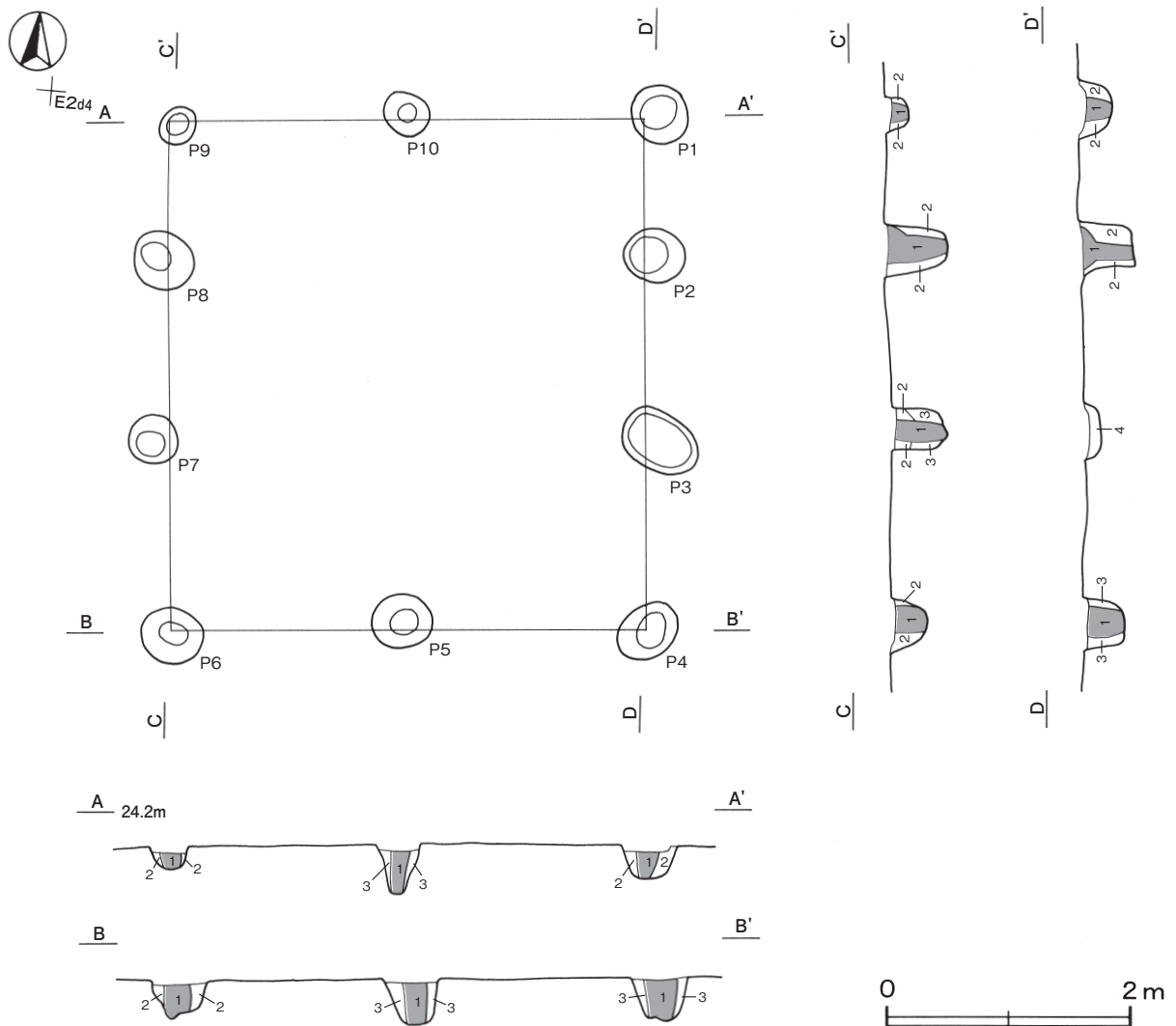
第15号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第306図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
627	須恵器	盤	[12.0]	(1.4)	—	長石・雲母	黒褐	不良	ロクロナデ	P8埋土	10%

第16号掘立柱建物跡（第307図）

位置 調査区西部のE 2 d4区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-4°-Wの南北棟である。規模は、桁行4.20m、梁行3.90mで、面積は16.38㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.2m（4尺）・1.5m（5尺）・1.5m（5尺）、梁行が1.95m（6.5尺）で等間隔に配置され、柱筋は揃っている。



第307図 第16号掘立柱建物跡実測図

柱穴 10か所。平面形は円形で、径30～55cmである。深さは15～53cmで、掘方の断面形はU字形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2～4層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器甕片2点が出土しており、いずれも細片で図示できない。

所見 出土土器が細片のため時期判断は困難であるが、西35～40mに位置する第1・5・11・12号掘立柱建物跡と桁行方向や柱穴規模等がほぼ一致することから同時期に存在していたと推測され、時期は9世紀中葉に比定できる。

第18号掘立柱建物跡（第308図）

位置 調査区中央部のD3f5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P4が第37・42号住居に、P1・P9・P10が第19号掘立柱建物のP4・P5・P6に掘り込まれている。第20号掘立柱建物跡とも重複しているが、柱穴同士の重複が無いため新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-2°-Wの南北棟である。規模は、桁行5.40m、梁行3.60mで、面積は19.44㎡である。柱間寸法は桁行が1.8m（6尺）、梁行が1.8m（6尺）で等間隔に配置され、柱筋は揃っている。

柱穴 10か所。平面形は隅丸長方形で、長軸85～115cm、短軸72～100cmである。深さは53～82cmで、掘方の断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2～7層が埋土である。P3～P6・P10の底面で、柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 5 におい黄褐色 ロームブロック多量、黒色土ブロック少量 |
| 2 褐色 黒色土ブロック中量、ロームブロック少量 | 6 灰黄褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 | 7 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器甕片1点が出土しているが、細片で図示できない。

所見 柱穴は加重を受けた痕跡が認められ、「屋」として機能していたものと思われる。時期は、9世紀後葉の第37・42号住居に掘り込まれていることから、それより古い段階の9世紀中葉と考えられる。

第19号掘立柱建物跡（第309図）

位置 調査区中央部のD3e5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P4～P6が第18号掘立柱建物跡のP1・P9・P10を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の身舎に東庇が付く、桁行方向がN-1°-Eの南北棟である。規模は身舎が桁行5.10m、梁行3.30mで、面積は16.83㎡である。庇の出は1.35mで、庇も含めると梁行は4.65mで、面積は23.715㎡である。身舎の柱間寸法は桁行が北妻から1.8m（6尺）・1.5m（5尺）・1.8m（6尺）、梁行が1.65m（5.5尺）で等間隔に配置され、柱筋は揃っている。庇の柱間寸法は2.55m（8.5尺）の等間隔である。

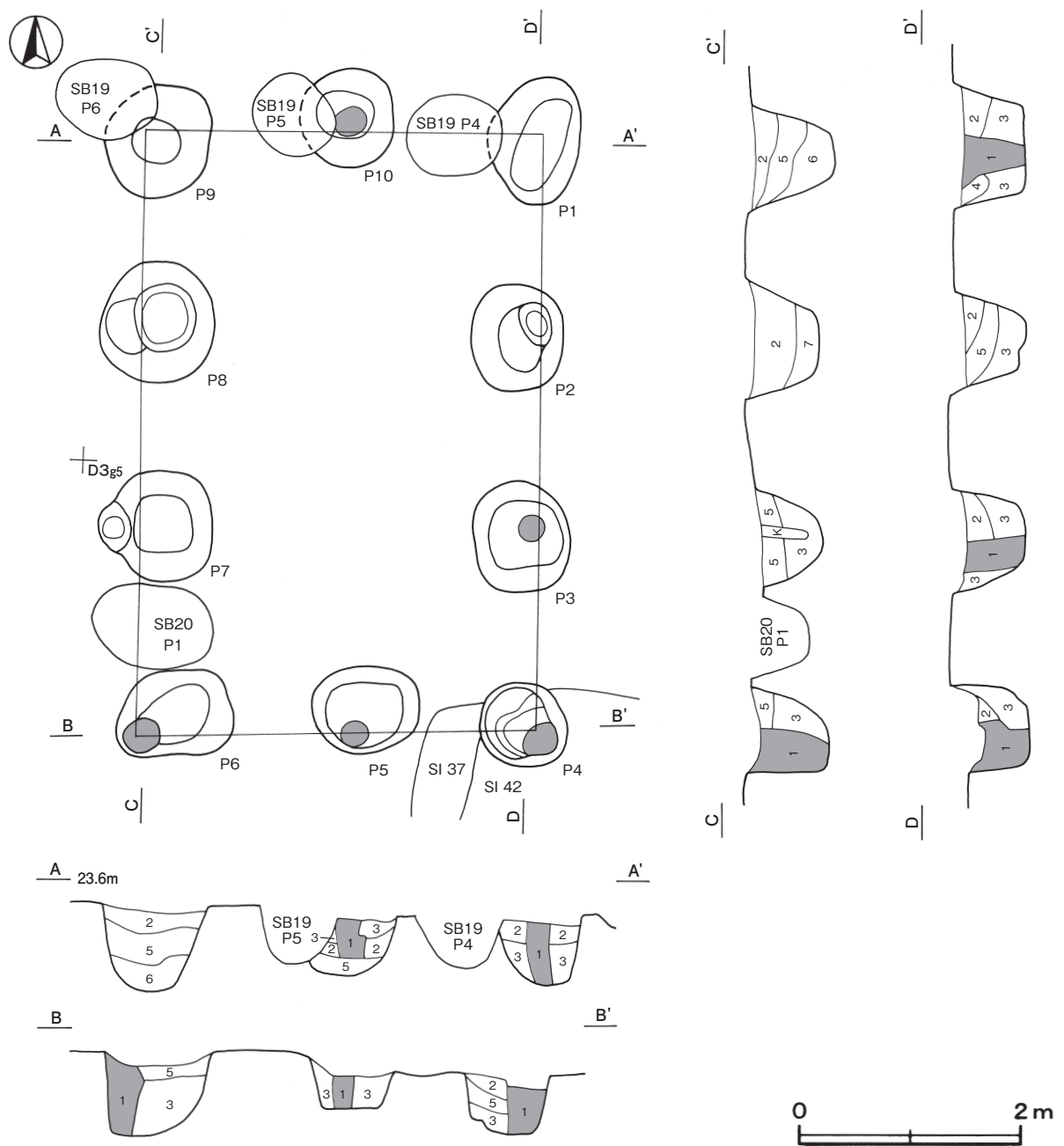
柱穴 13か所。身舎柱穴の平面形は隅丸方形で、一辺70～105cmである。深さは58～78cmで、掘方の断面形は逆台形である。庇柱穴の平面形は円形または隅丸方形で、一辺31～65cmである。深さは38～45cmで、掘方の断面形はU字形である。土層は第1～3層が柱抜き取り痕、第4～12層が埋土である。身舎の柱穴は全ての底面で柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

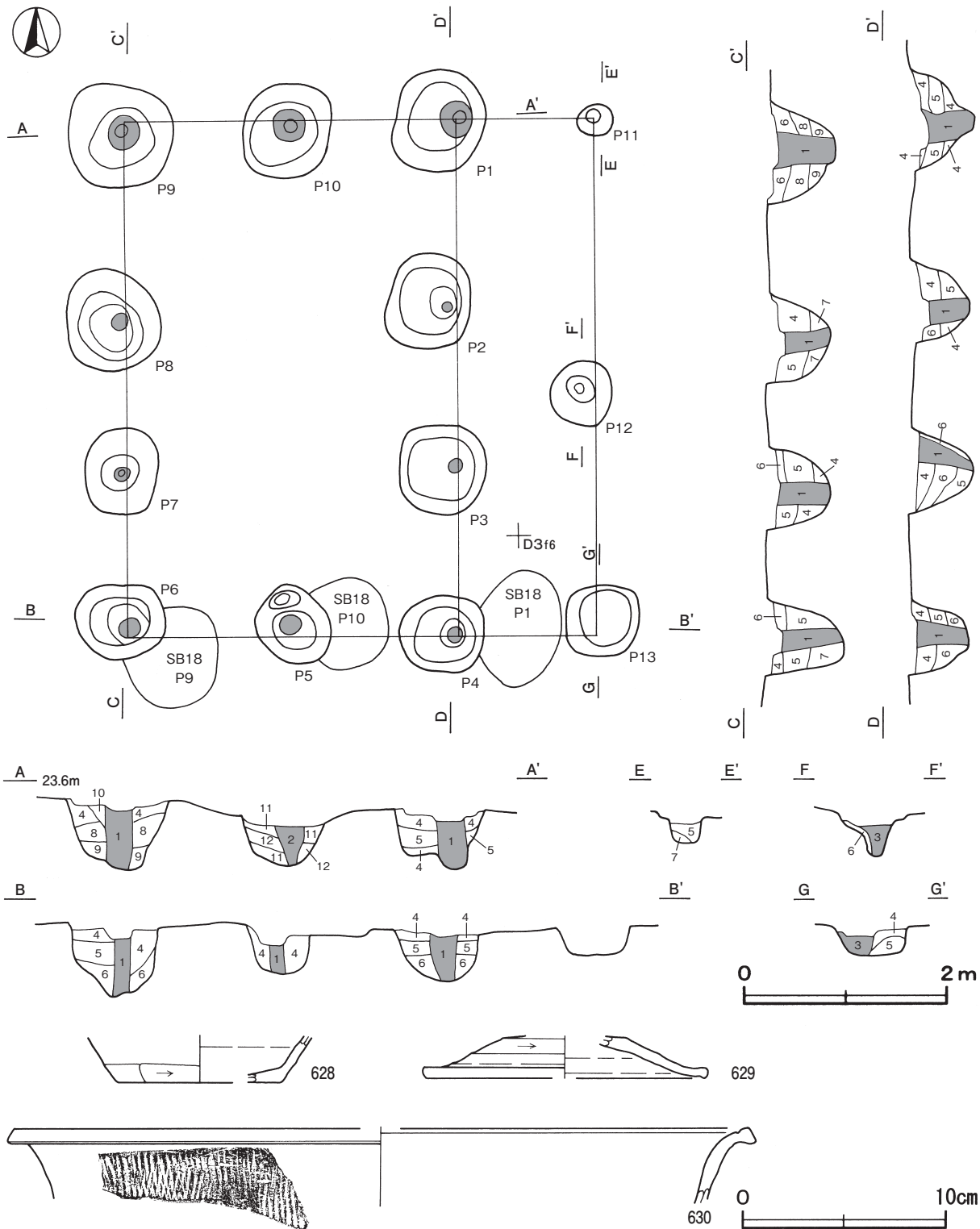
- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 (締まり強) |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 (締まり強) |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 11 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量 (粘性強) |

遺物出土状況 須恵器坏・蓋・鉢各1点ほか, 土師器甕片16点, 須恵器片29点 (坏13・甕16) が出土している。628はP7, 629はP9, 630はP2の埋土からそれぞれ出土している。

所見 庇が付く建物であることから主屋として機能していたと思われる。構造は桁行2間に対して, 庇の柱が桁行の中間に1本であり, 北5mに位置する第14号掘立柱建物跡と同様な構造である。時期は, 重複関係から9世紀後葉に比定できる。



第308図 第18号掘立柱建物跡実測図



第309図 第19号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

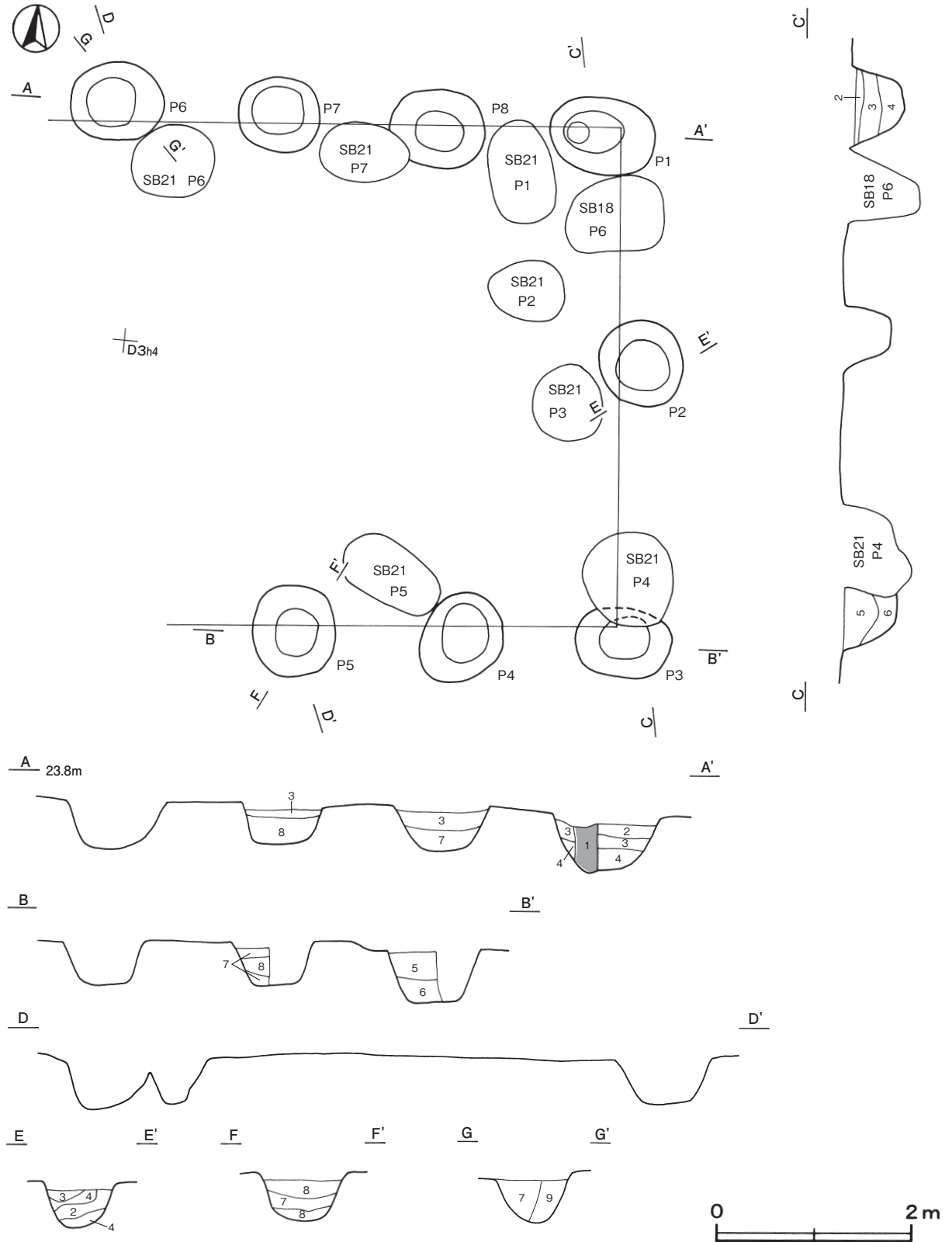
第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第309図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
628	須恵器	坏	—	(2.3)	[8.0]	長石	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	P7埋土	10%
629	須恵器	蓋	[13.8]	(2.1)	—	長石・雲母	灰黄	普通	天井部回転へら削り 内面重ね焼き痕	P9埋土	30%
630	須恵器	鉢	[36.4]	(3.7)	—	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部縦位の平行叩き 内面へらナデ	P2埋土	10%

第20号掘立柱建物跡 (第310・311図)

位置 調査区中央部のD 3g4区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P 3・P 6・P 8が第21号掘立柱建物のP 4・P 6・P 7に掘り込まれている。第18号掘立柱建物



第310図 第20号掘立柱建物跡実測図

跡とも重複しているが、柱同士の重複が無いため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間以上、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-85°-Eの東西棟である。規模は、桁行5.40m以上、梁行5.10mで、面積は27.54㎡以上である。攪乱のため西梁が確認できなかった。柱間寸法は桁行が1.8m（6尺）、梁行が2.55m（8.5尺）で等間隔に配置され、柱筋は揃っている。

柱穴 8か所。平面形は隅丸方形又は隅丸長方形で、長軸85~108cm、短軸70~80cmである。深さは45~65cmで、掘方の断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2~9層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|--------|-------------------|----------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、黒色土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 黄褐色 | ロームブロック少量（締まり強） |
| 4 褐色 | ロームブロック多量 | 9 黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 灰黄褐色 | ロームブロック・黒色土ブロック中量 | | |

遺物出土状況 須恵器蓋1点のほか、土師器片12点（坏3・甕9）、須恵器片18点（坏3・甕15）が出土している。631はP2の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀前葉と思われる。



第311図 第20号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第20号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第311図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
631	須恵器	蓋	[16.0]	(1.5)	—	長石	灰	普通	ロクロナデ	P2埋土	10%

第21号掘立柱建物跡（第312図）

位置 調査区中央部のD3g4区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P4・P6・P7が第20号掘立柱建物跡のP3・P6・P8を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間以上、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向N-77°-Eの東西棟と推測される。規模は、桁行3.60m以上、梁行4.50mで、面積は16.20㎡以上である。攪乱のため西梁が確認できなかった。柱間寸法は桁行が1.8m（6尺）で等間隔に、梁行が北妻から1.5m（5尺）・1.2m（4尺）・1.8m（6尺）で配置されている。

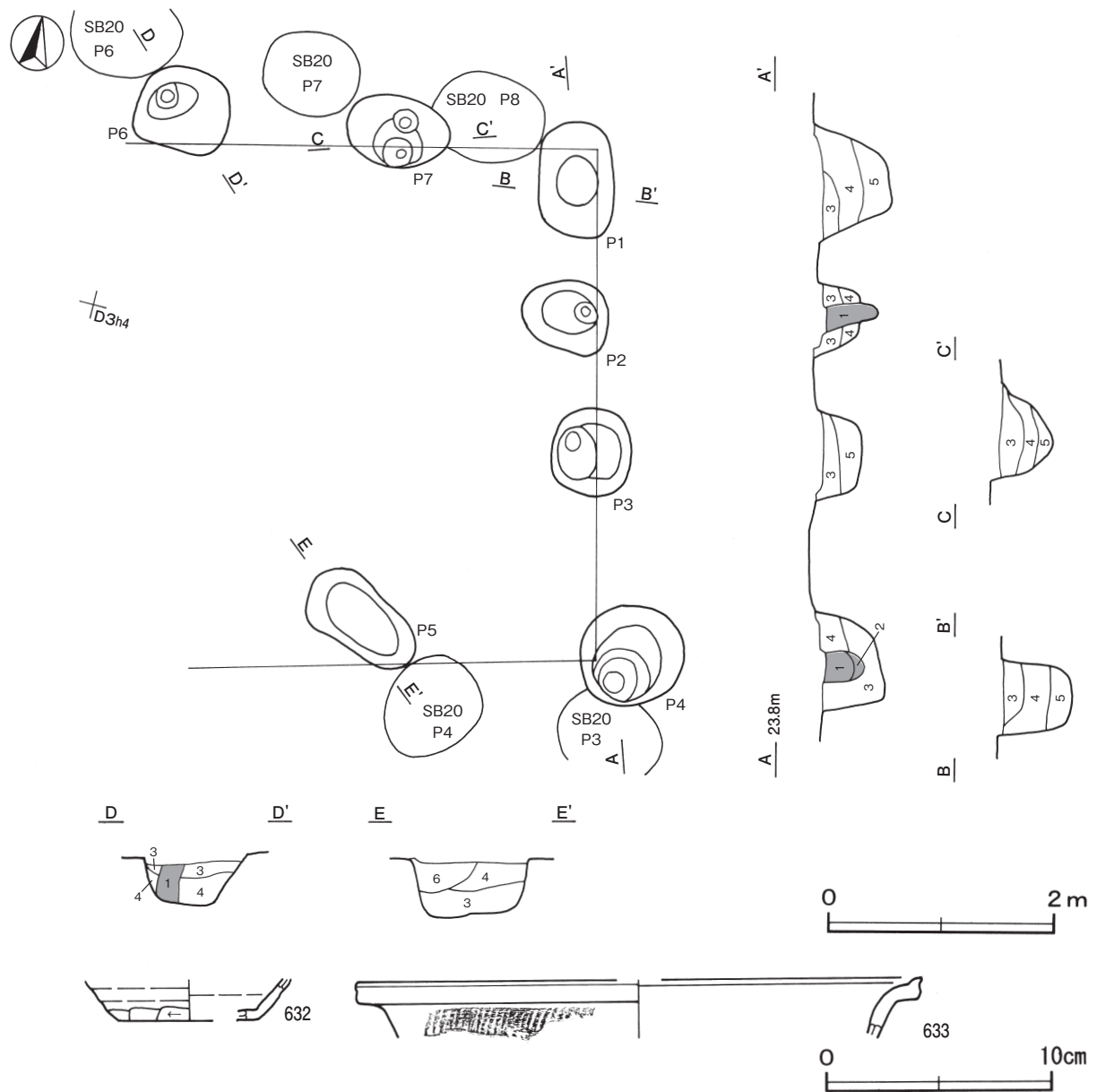
柱穴 7か所。平面形は隅丸方形又は隅丸長方形で、長軸70~102cm、短軸60~90cmである。深さは44~70cmで、掘方の断面形は逆台形又はU字形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕、第3~6層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|--------|-----------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量 |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 須恵器坏・鉢各1点のほか、土師器片10点（坏2・甕8）、須恵器片13点（坏8・甕5）が出土している。632はP1、633はP5の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀中葉に比定できる。



第312図 第21号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第21号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第312図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
632	須恵器	坏	—	(1.8)	[6.0]	長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	P1埋土	10%
633	須恵器	鉢	[25.0]	(2.6)	—	長石・雲母	灰黄	普通	体部縦位の平行叩き	P5埋土	10%

第22号掘立柱建物跡（第313図）

位置 調査区中央部のD 2 b9区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P 5が第24号掘立柱建物跡のP 1を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-82°-Wの東西棟である。規模は、桁行4.20m、梁行3.90mで、面積は16.38㎡である。柱間寸法は西妻から北平が2.4m（8尺）・1.8m（6尺）、南平が2.7m

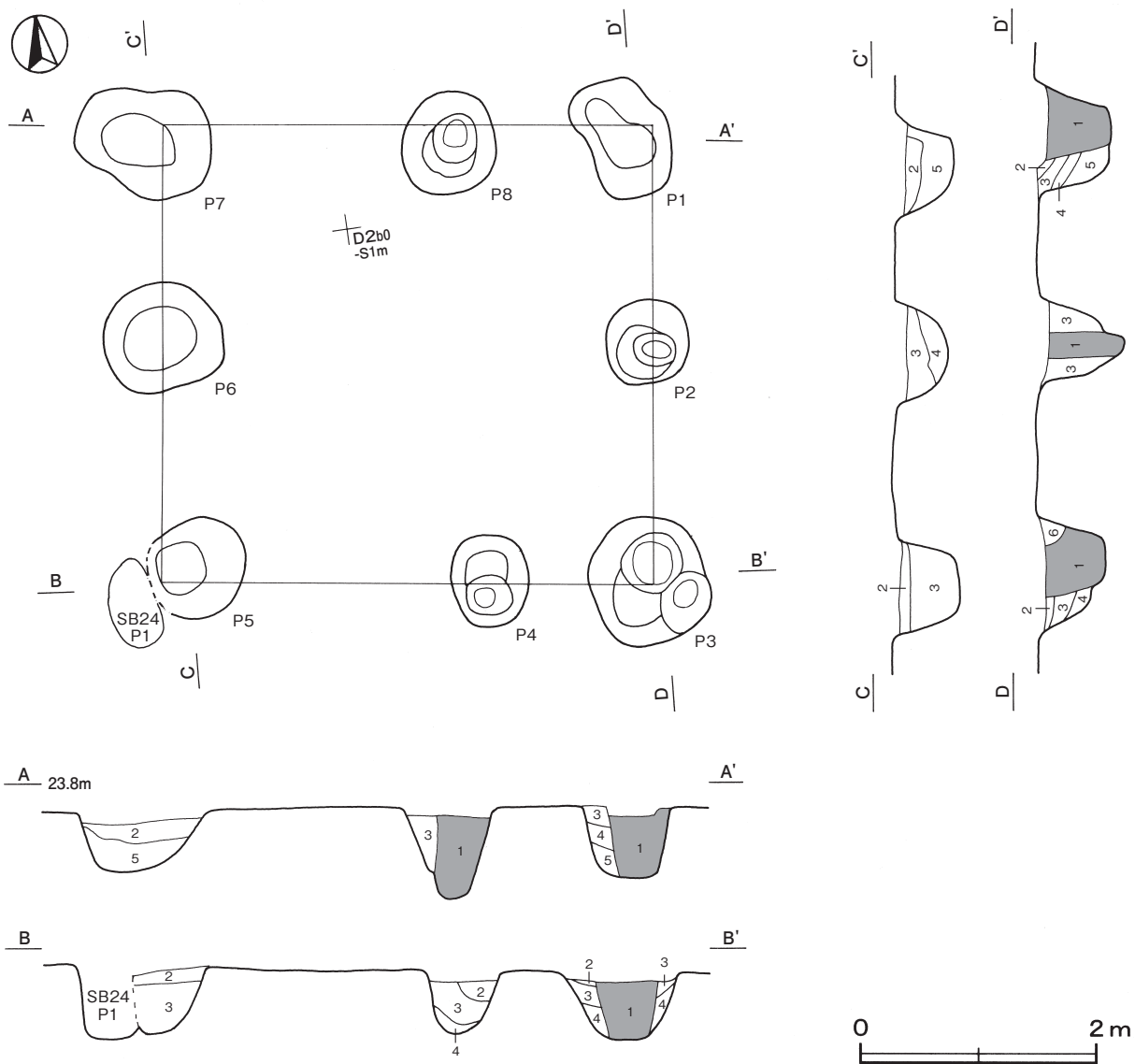
(9尺)・1.5m (5尺), 梁行が1.95m (6.5尺) で等間隔に配置され, 柱筋は揃っている。

柱穴 8か所。平面形は隅丸方形又は隅丸長方形で, 長軸70~116cm, 短軸60~95cmである。深さは52~80cmで, 掘方の断面形は逆台形又はU字形である。土層は第1層が柱抜き取り痕, 第2~6層が埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック中量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

所見 北西30mに位置する第7・9号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致することから同時期に存在していたと推測される。時期は出土土器がないため断定はできないが, 建物の配置等から9世紀中葉と考えられる。



第313図 第22号掘立柱建物跡実測図

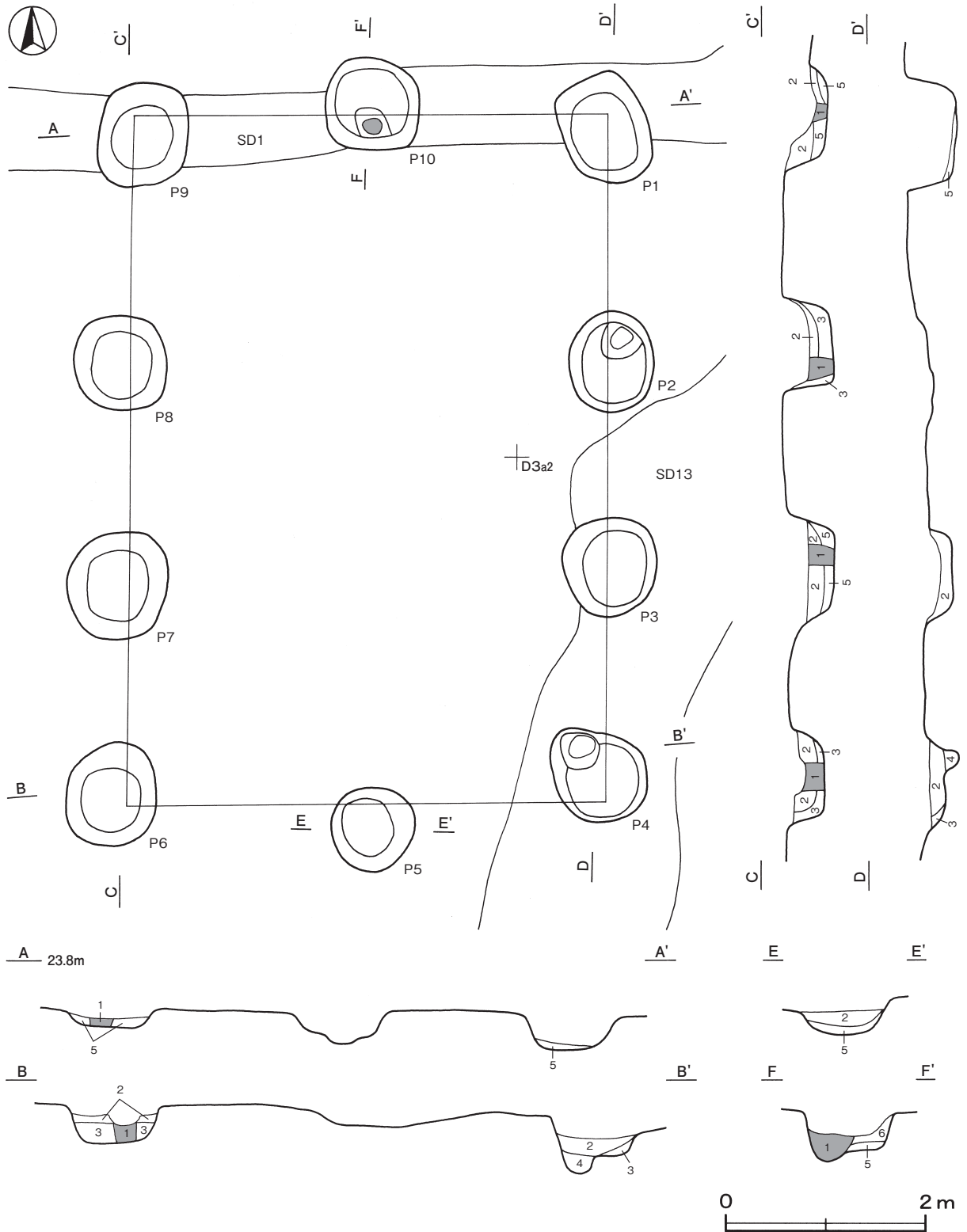
第27号掘立柱建物跡 (第314図)

位置 調査区北部のC 3j1区で, 標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P1・P9・P10の上部を第1号溝, P3・P4の上部を第13号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-0°の南北棟である。規模は, 桁行6.90m,

梁行4.80mで、面積は33.12㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から2.4m（8尺）・2.1m（7尺）・2.4m（8尺）、梁行が2.4m（8尺）の等間隔に配置され、柱筋は揃っている。P10の底面で、柱のあたりが確認されている。柱穴 10か所。平面形は隅丸方形で、一辺85～105cmである。深さは40～55cmで、掘方の断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2～6層は埋土である。



第314図 第27号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|---------|----------------|-----------|----------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子微量 | 4 極 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐 色 | ロームブロック少量 | 6 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |

所見 棟持ち柱が若干外側に位置するタイプの建物で、「屋」として機能していたと思われる。南東24mに位置する第27・39号住居跡や南東15mに位置する第19号掘立柱建物跡とは桁行・主軸方向等がほぼ一致することから同時期に存在していたと推測される。時期は出土遺物がないため断定はできないが、建物の配置等から9世紀後葉と思われる。

第29号掘立柱建物跡（第315・316図）

位置 調査区北部のB 4h2区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡あるいは床束建物跡で、桁行方向がN-87°-Eの東西棟である。規模は、桁行6.00m、梁行4.20mで、面積は25.20㎡である。桁行の柱間寸法は西妻から北平が2.1m（7尺）・1.5m（5尺）・2.4m（8尺）、南平が2.1m（7尺）・1.2m（4尺）・2.7m（9尺）、梁行が2.1m（7尺）の等間隔に配置され、柱筋は揃っている。P 2・P 5・P 6の底面で、柱のあたりが確認されている。

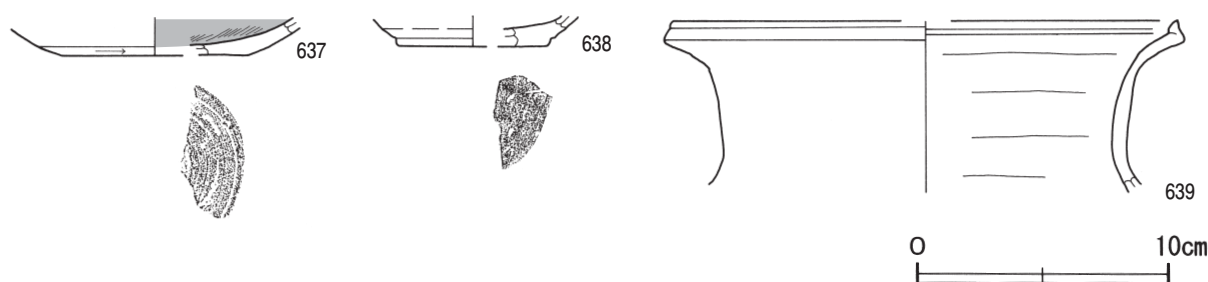
柱穴 12か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で、長軸65～85cm、短軸50～60cmである。深さは30～70cmで、掘方の断面形は逆台形又はU字形である。P 11・P 12は径30～35cmの円形で、深さ25～30cmと側柱の柱穴より小さく浅いため、床束もしくは間仕切り柱と判断した。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2～8層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|---------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 にぶい褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 褐 色 | 炭化粒子少量 | 7 暗 褐 色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 褐 色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器坏1点、須恵器坏・甕各1点のほか、須恵器片12点（坏2・蓋1・甕7・甑2）が出土している。637はP 5の抜き取り痕、638はP 1の埋土、639はP 5の埋土から出土している。

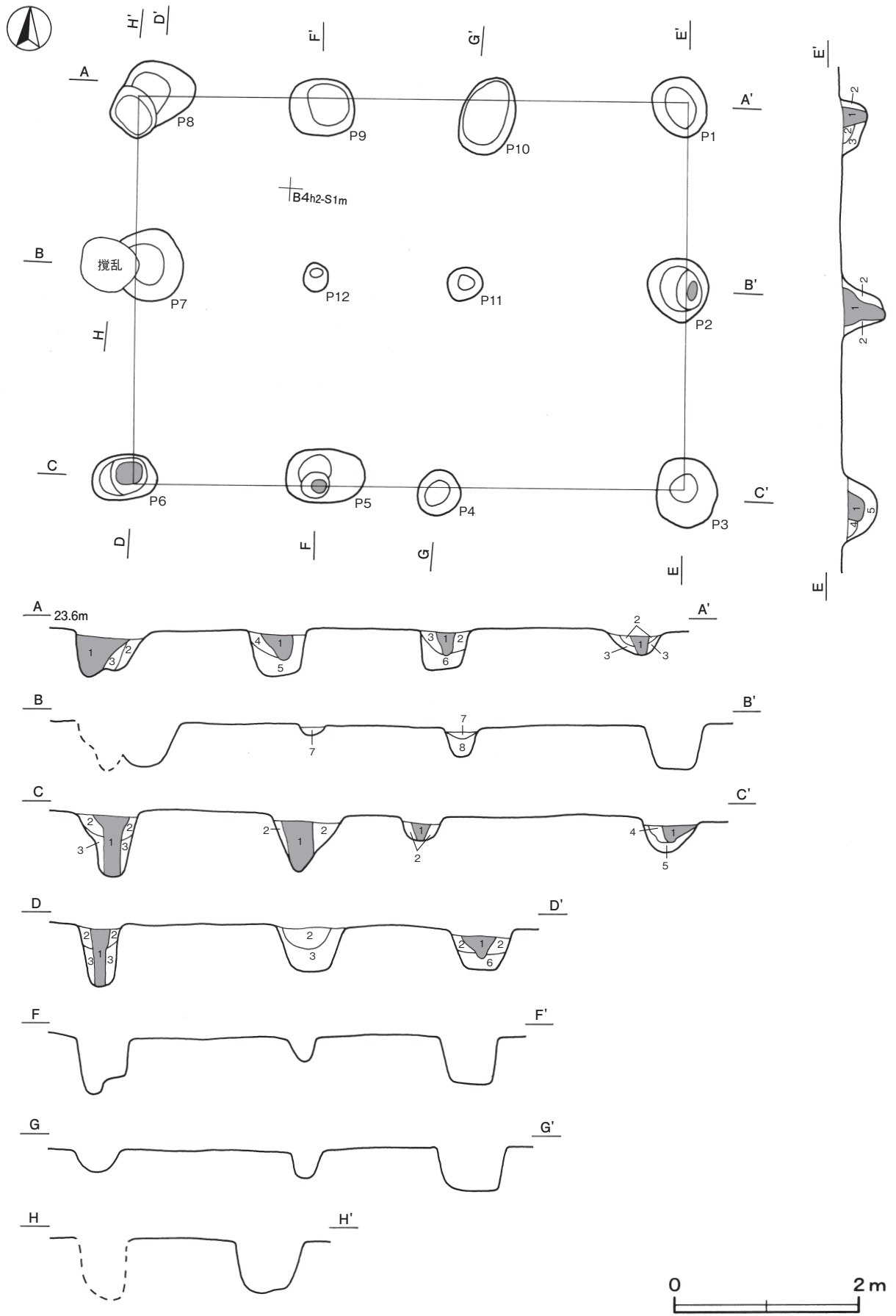
所見 時期は、出土土器から10世紀前葉に比定できる。



第315図 第29号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第29号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第315図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備 考
637	土師器	坏	—	(1.5)	[7.4]	長石	褐	普通	底部・体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	P 5抜き取り痕	10%
638	須恵器	坏	—	(1.2)	[6.0]	長石・雲母	灰	普通	底部ヘラナデ ヘラ書きカ	P 1埋土	10%
639	須恵器	甕	[20.0]	(6.8)	—	長石・雲母	にぶい橙	—	口唇部内側に折り曲げ 二次焼成	P 5埋土	10%



第316图 第29号掘立柱建物迹实测图

第30号掘立柱建物跡（第317図）

位置 調査区北部のB3j0区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-5°-Wの南北棟である。規模は、桁行3.90m、梁行2.70mで、面積は10.53㎡である。柱間寸法は桁行が1.95m（6.5尺）の等間隔、南梁行が西妻から1.5m（5尺）・1.2m（4尺）に配置されている。北梁の中間柱は確認できなかった。

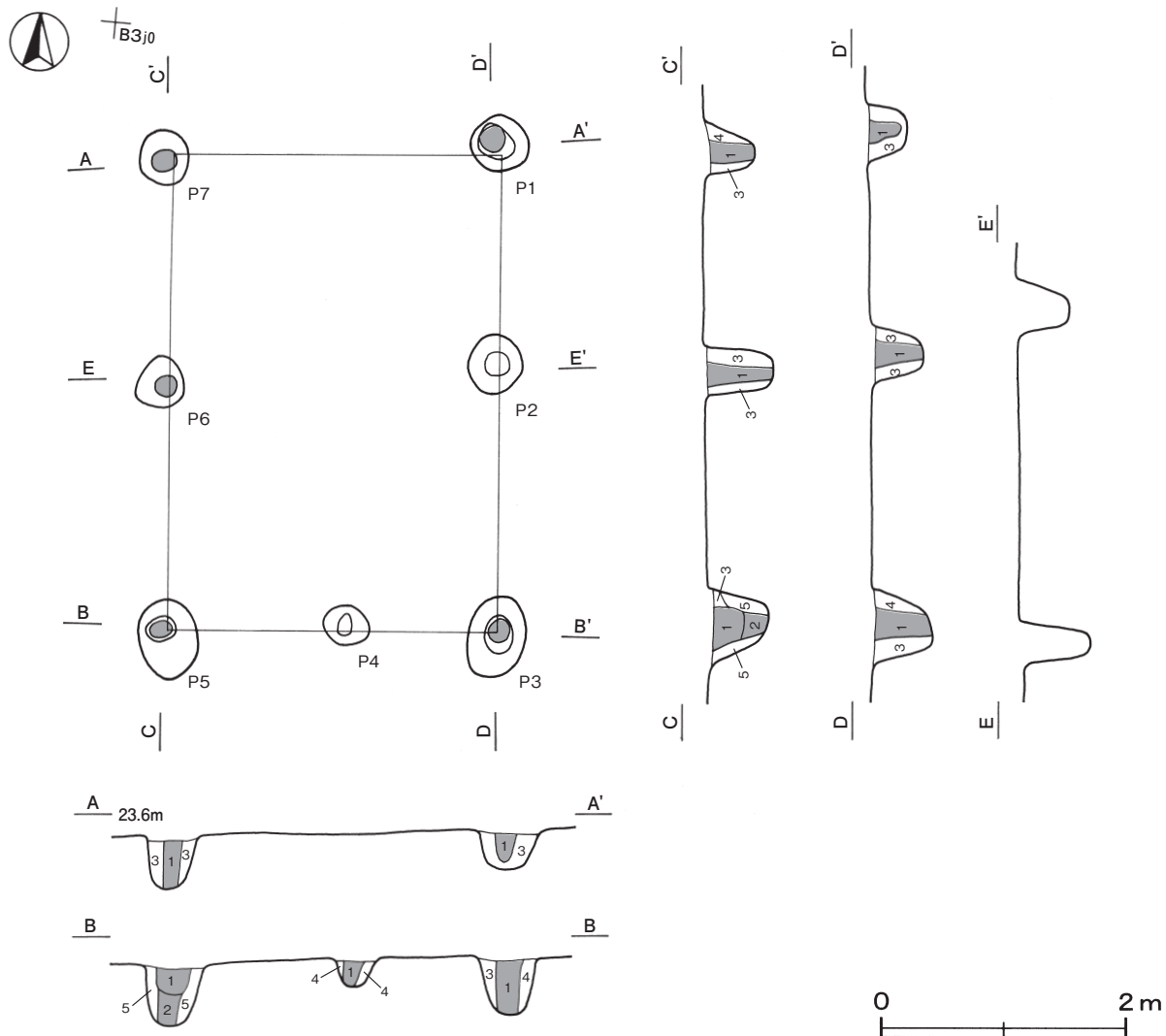
柱穴 7か所。平面形は円形で、径40~60cmである。深さは35~60cmで、掘方の断面形はU字形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕、第3~5層は埋土である。P1・P3、P5~P7の底面で柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量(縮まり強) |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器甕片2点、須恵器片3点（坏2・甕1）が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 出土土器が細片のため時期判断は困難であるが、9世紀代に比定できる土器が出土していることや、遺構の配置などから、時期は9世紀代と思われる。



第317図 第30号掘立柱建物跡実測図

第33号掘立柱建物跡（第318図）

位置 調査区北部のD 6 d1区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第99号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 北半部が攪乱により失われているため、桁行3間、梁行2間の総柱建物跡と推定され、桁行方向がN-23°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.50m、梁行3.90mで、面積は18.72㎡である。柱間寸法は桁行が1.5m（5尺）、梁行が1.95m（6.5尺）の等間隔に配置されている。

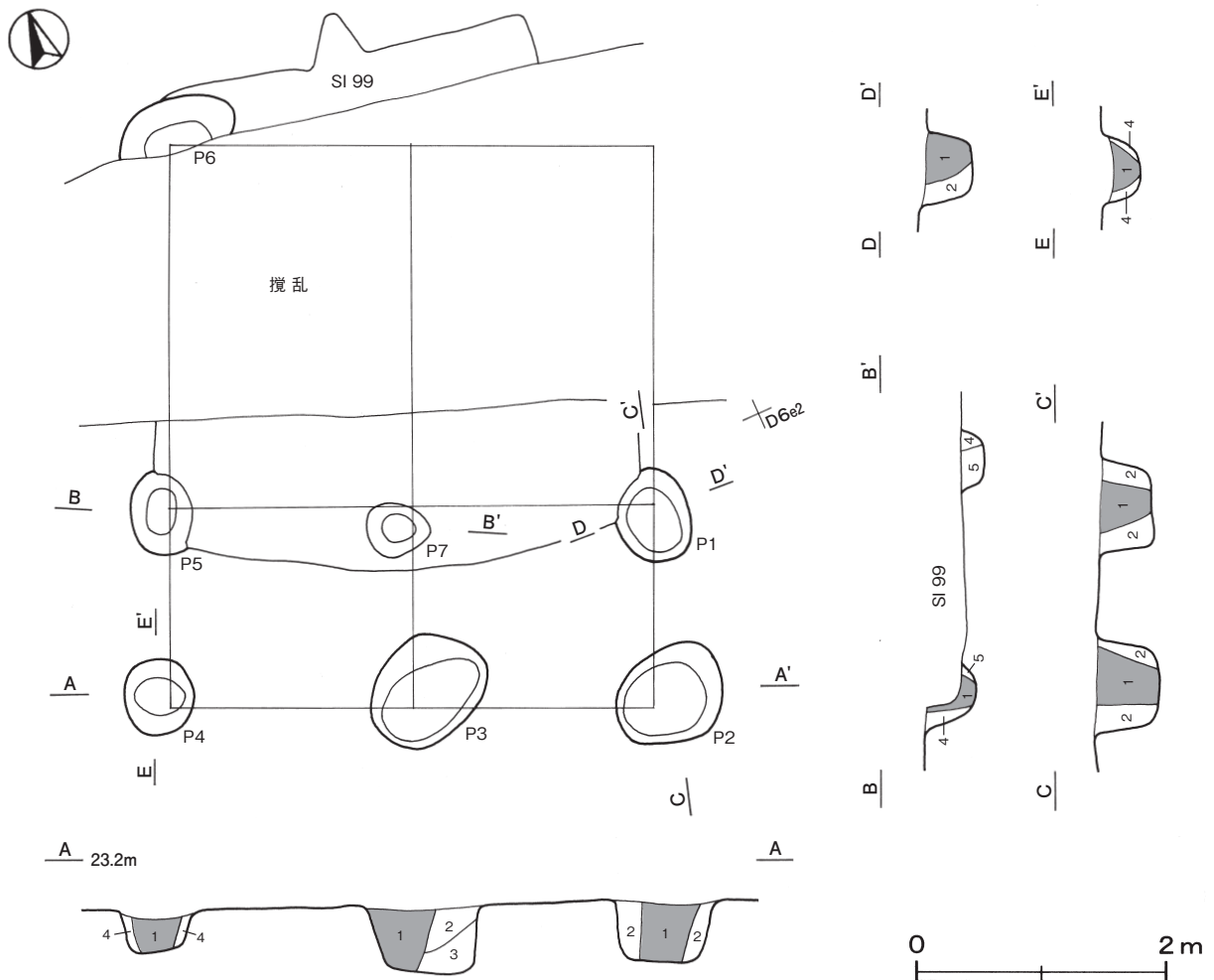
柱穴 7か所。平面形は円形で、径50~90cmである。深さは47~50cmで、掘方の断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2~5層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 にぶい褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器甕片1点、須恵器片3点（坏2・甕1）が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 総柱建物が想定できることから、倉として機能していたと思われる。時期は、9世紀中葉の第99号住居跡を掘り込んでいることや出土土器などから、9世紀後葉と思われる。

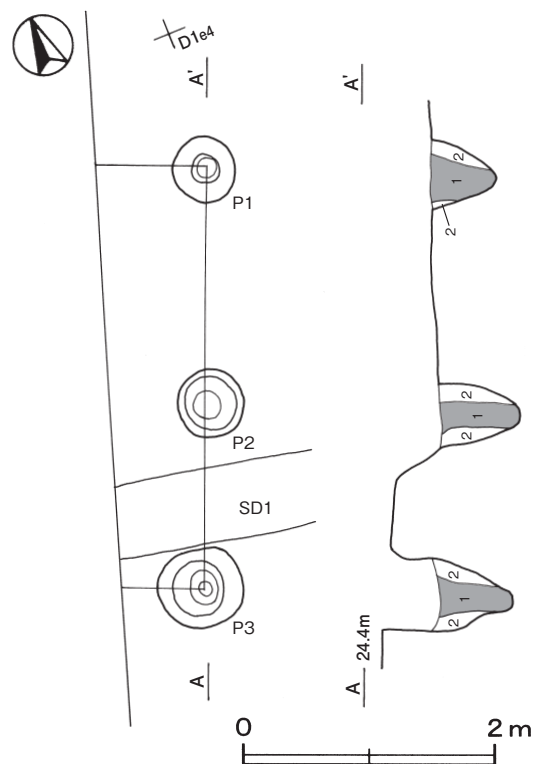


第318図 第33号掘立柱建物跡実測図

第43号掘立柱建物跡（第319図）

位置 調査区西部のD 1 e3区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 南北方向に3か所の柱穴が並んでおり、桁行又は梁行が2間以上の建物跡で、南北軸方向がN -



22° - Eである。規模は、長さが3.30mで、柱間寸法は北から1.8m（6尺）・2.5m（5尺）で配置されている。柱穴 3か所。平面形は円形で、径50～55cmである。深さは50～60cmで、掘方の面形はU字形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）
 1 暗褐色 ローム粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片2点（坏1・甕1）、須恵器片3点（坏2・甕1）が出土しており、いずれも細片のため、図示できない。

所見 柱穴の規模や形状と、東3mに存在する第6号掘立柱建物跡と軸がほぼ一致することから掘立柱建物跡と判断した。時期も、第6号掘立柱建物跡と同様に9世紀後葉と考えられる。

第319図 第43号掘立柱建物跡実測図

表8 平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	構造	桁行方向	柱間数		面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴 (cm)			主な出土遺物	備 考 重複関係 (古→新)
				桁行 × 梁間	桁行 × 梁間		桁行	梁間	柱穴数	平面形	深さ		
1	E 3 e7	側柱	N - 2° - W	3 × 2	7.20 × 3.90	28.08	2.40	1.95	10	円形	30～60	土師器 須恵器	8C中
2	E 3 h2	側柱	N - 81° - E	4 × 2	6.30 × 4.20	26.46	1.20 1.50 1.80	2.10	12	円形 楕円形	25～62	土師器 須恵器	9C前 22・23住→本跡→70土坑
3	F 3 a3	側柱	N - 18° - W	3 × 2	6.30 × 3.90	24.57	2.10	1.95	10	円形 楕円形	25～55	土師器 須恵器	9C前 11住→本跡
4	F 3 b2	側柱	N - 5° - E	2 × 1	5.10 × 3.00	15.30	2.55	2.70 3.00	6	円形 楕円形	25～45	土師器 須恵器	9C中 3住→本跡
5	E 3 h6	側柱	N - 4° - E	2 × 2	3.90 × 3.90	15.21	1.95	1.80 2.10	7	円形	30～38	土師器 須恵器	9C中 4住→本跡→24土坑
6	D 1 f5	側柱	N - 25° - E	3 × 2	6.90 × 5.40	37.26	2.10 2.40	2.70	10	隅丸長方形	63～75	灰釉陶器 釘 土師器 須恵器	9C後 10掘立→本跡→1・2溝 41掘立新旧不明
7	C 1 g9	側柱	N - 12° - E	3 × 2	5.40 × 4.20	22.68	1.80	2.10	10	隅丸方形 隅丸長方形	42～65	土師器 須恵器	9C中 本跡→7溝
8	D 1 b6	側柱	N - 24° - E	2 × 2	4.20 × 4.20	17.64	1.80 2.40	1.20 3.00	8	円形	20～62	土師器 須恵器	9C後
9	C 2 g1	側柱	N - 12° - E	3 × 2	5.10 × 3.60	18.36	1.50 1.80	1.80	10	隅丸方形 隅丸長方形	35～68	土師器 須恵器 鎌	9C中 210土坑→本跡→7・25溝
10	D 1 d5	側柱	N - 17° - E	3 × 2	7.20 × 3.90	28.08	2.10 2.40 2.70	1.95	12	隅丸長方形	55～75	土師器 須恵器 鎌	9C中 本跡→6掘立
11	E 3 b7	側柱	N - 7° - W	2 × 2	3.60 × 3.60	12.96	1.65 1.80 1.95	1.65 1.95	8	円形	30～55	土師器	9C中
12	E 3 b5	側柱	N - 86° - E	3 × 2	5.70 × 3.60	20.52	1.80 2.10	1.80	10	円形	35～50	須恵器	9C中

番号	位置	構造	桁行方向	柱間数		規模(m)	面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴 (cm)			主な 出土遺物	備 考 重複関係 (古→新)
				桁行 × 梁間	桁行 × 梁間			桁行	梁間	柱穴数	平面形	深さ		
13	E 1 e4	側柱	N-83°-E	3 × 2	4.80 × 4.20	20.16	1.50 1.80 2.40	2.10	9	円形 楕円形	35~50	土師器 須恵器	9C代	
14	D 3 b4	東庇 身舎 庇舎	N-3°-W	3 × 2	5.10 × 3.60	18.36	1.50 1.80	1.80	10	円形 楕円形	45~72	土師器 須恵器	9C後	
					5.10 × 4.80	24.48	2.55	1.20	3	円形	48~62			
15	E 2 d6	側柱	N-1°-E	3 × 2	4.50 × 3.60	16.20	1.50	1.80	10	円形 楕円形	28~60	土師器 須恵器	9C前 本跡→133土 坑	
16	E 2 d4	側柱	N-4°-W	3 × 2	4.20 × 3.90	16.38	1.20 1.50	1.95	10	円形	15~53	土師器	9C中	
18	D 3 f5	側柱	N-2°-W	3 × 2	5.40 × 3.60	19.44	1.80	1.80	10	隅丸長方形	53~82	土師器	9C中 本跡→37・42 住・19掘立 20掘立新旧不明	
19	D 3 e5	東庇 身舎 庇舎	N-1°-E	3 × 2	5.10 × 3.30	16.38	1.50 1.80	1.65	10	隅丸方形	58~78	土師器 須恵器	9C後 18掘立→本跡	
					5.10 × 4.65	23.71	2.55	1.35	3	円形 隅丸方形	38~45			
20	D 3 g4	側柱	N-85°-E	(3) × 2	5.40 以上 × 5.10	27.54 以上	1.80	2.55	8	隅丸方形 隅丸長方形	45~65	土師器 須恵器	9C前 本跡→21掘立 18掘立新旧不明	
21	D 3 g4	側柱	N-77°-E	(2) × 3	3.60 以上 × 4.50	16.20 以上	1.80	1.20 1.50 1.80	7	隅丸方形 隅丸長方形	44~70	土師器 須恵器	9C中 20掘立→本跡	
22	D 2 b9	側柱	N-82°-W	2 × 2	4.20 × 3.90	16.38	1.50 1.80 2.40 2.70	1.95	8	隅丸方形 隅丸長方形	52~80		9C中 24掘立→本跡	
27	C 3 j1	側柱	N-0°	3 × 2	6.90 × 4.80	33.12	2.10 2.40	2.40	10	隅丸方形	40~55		9C後 本跡→1・13 溝	
29	B 4 h2	側柱	N-87°-E	3 × 2	6.00 × 4.20 4.50	25.20	1.20~ 2.70	2.10	12	隅丸方形 隅丸長方形	30~70	土師器 須恵器	10C前	
30	B 3 j0	側柱	N-5°-W	2 × 1	3.90 × 2.70	10.53	1.95	1.20 1.50	7	円形	35~60	土師器 須恵器	9C代	
33	D 6 d1	総柱	N-23°-E	3 × 2	4.50 × 3.90	18.72	1.50	1.95	7	円形	47~50	土師器 須恵器	9C後 99住→本跡	
43	D 1 e3	側柱	N-22°-E	2以上	3.30以上		1.80 2.50		3	円形	50~60	土師器 須恵器	9C後	

(3) 方形竪穴遺構

第1号方形竪穴遺構 (第320・321図)

位置 調査区北部のD 4 d5区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 上面を第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は長軸3.35m、短軸3.02mの隅丸長方形で、長軸方向はN-82°-Wである。壁高は48~61cmで、外傾して立ち上がっている。

ピット 2か所。P 1の深さは48cm、P 2の深さは29cmで、形状から柱穴と考えられる。重複状況から、建て替えが想定される。

床 南部が北部より10cmほど低く、有段状である。ともに平坦で、南部は踏み固められている。

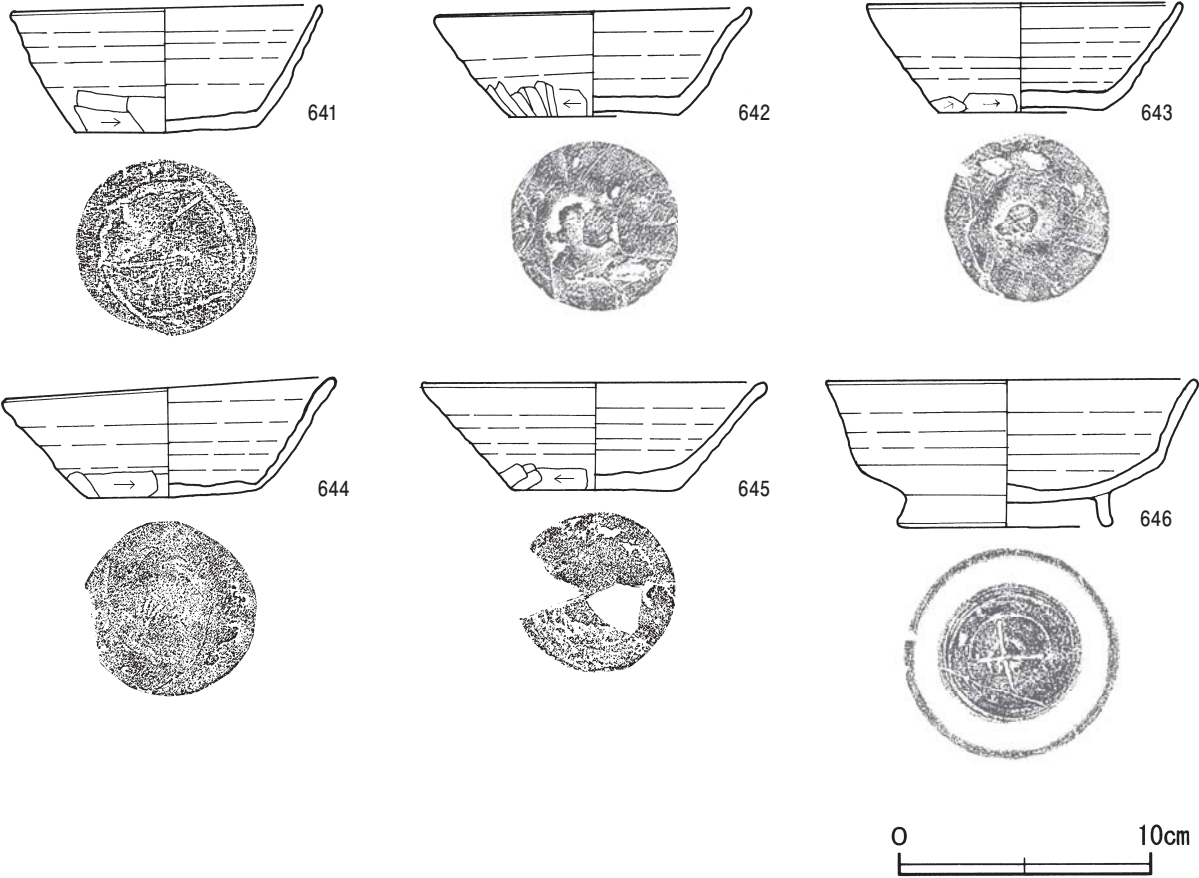
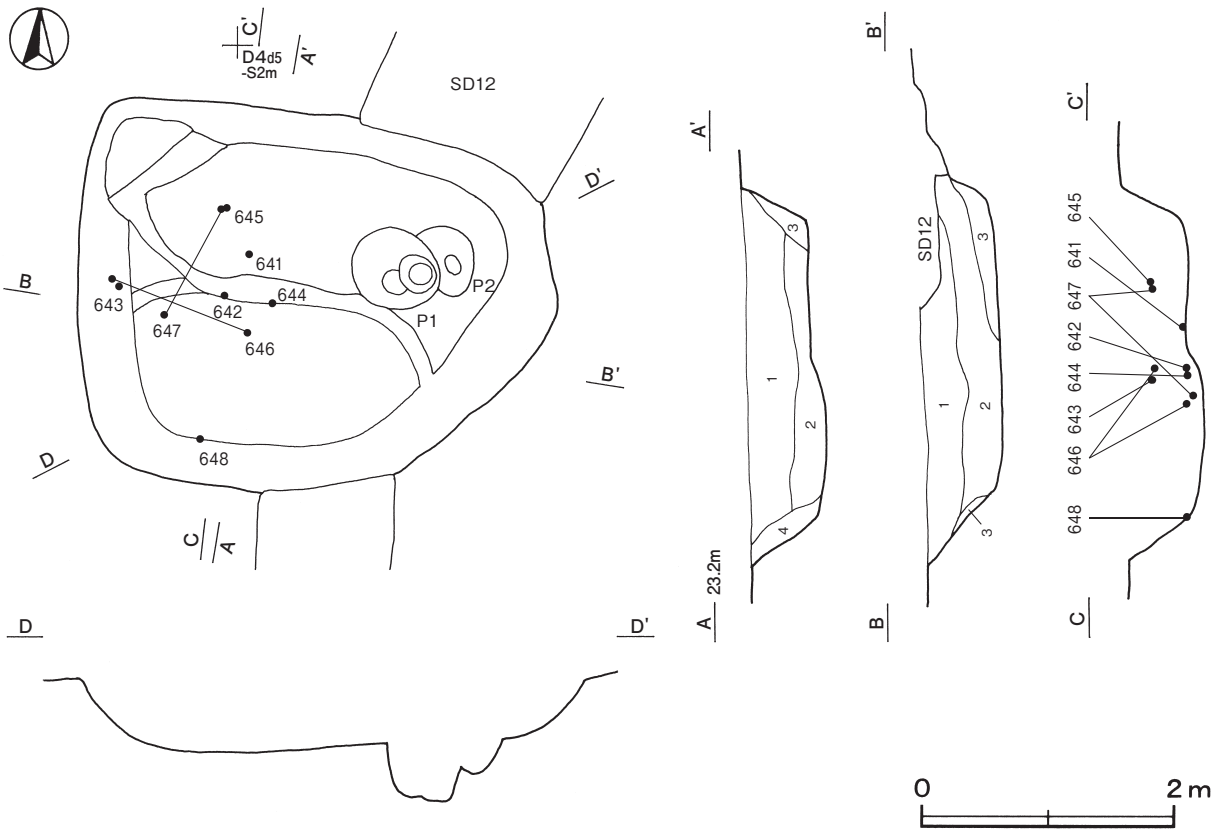
覆土 4層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが不自然に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

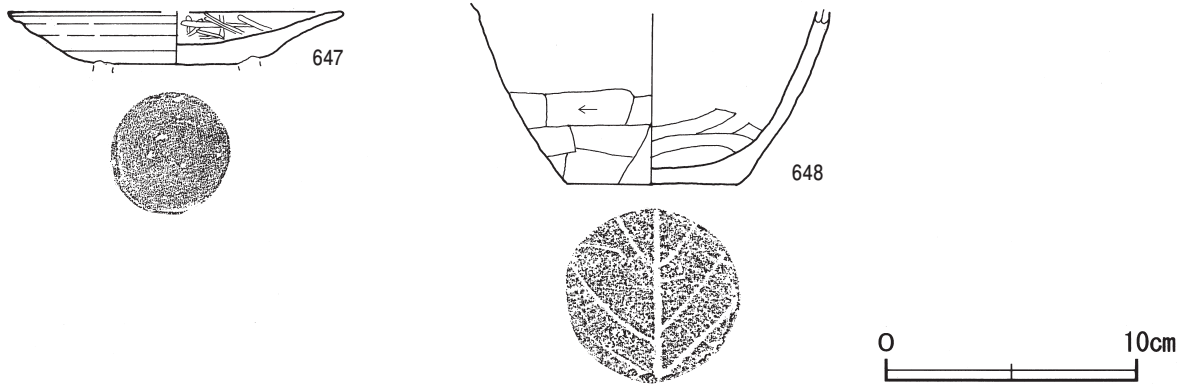
- | | | | |
|---------|-----------------------------|---------|----------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子
微量 | 3 暗 褐 色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 2 黒 褐 色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子少量、焼土粒子
微量 | 4 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器高台付皿・甕各1点、須恵器杯5点、高台付杯1点のほか、土師器片38点(杯12・甕26)、須恵器片165点(杯123・盤1・甕41)が出土している。646・647のように時期差の見られる土器が、ほかの土器と同じレベルで出土していることから、埋め戻された際に混入したものとみられる。

所見 有段の竪穴状遺構で、形状が第2号方形竪穴遺構と類似していることから、関連が想定される。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第320図 第1号方形堅穴遺構・出土遺物実測図



第321図 第1号方形堅穴遺構出土遺物実測図

第1号方形堅穴遺構出土遺物観察表（第320・321図）

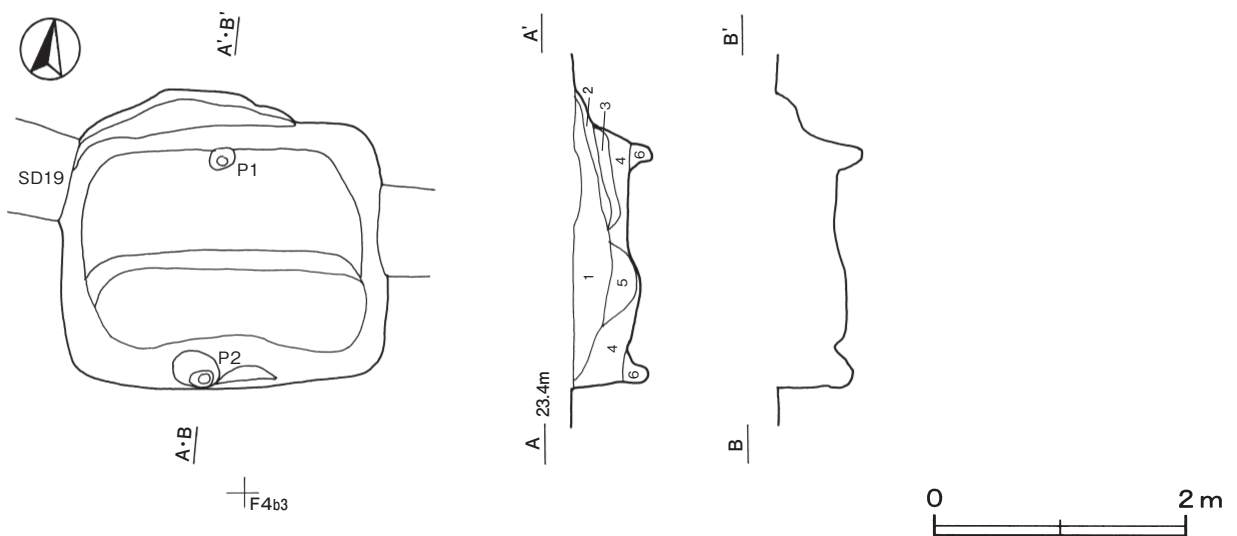
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考	
641	須恵器	坏	12.2	5.0	7.2	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り後、一方向のヘラ削り	底部回転ヘラ削り	覆土下層	95% PL87
642	須恵器	坏	12.7	4.3	6.7	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り後、一方向のヘラ削り	底部回転ヘラ削り	覆土下層	80% PL87
643	須恵器	坏	12.6	4.3	6.6	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り後、一方向のヘラ削り	底部回転ヘラ削り	覆土中層	70% PL87
644	須恵器	坏	13.0	4.7	7.0	長石	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り後、ヘラナデ	底部回転ヘラ削り	覆土下層	90% PL87
645	須恵器	坏	13.8	4.3	6.4	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り後、回転ヘラ削り	底部回転ヘラ削り	覆土中層	90% PL87
646	須恵器	高台付坏	14.4	5.8	8.0	長石	灰黄褐	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	ヘラ記号「×」	覆土中層～下層	90% PL87
647	土師器	高台付皿	[13.4]	(2.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	覆土中層～下層	50%
648	土師器	甕	—	(6.8)	6.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り	高台欠損	床面	20%

第2号方形堅穴遺構（第322・323図）

位置 調査区北部のF 4 a2区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 上面を第19号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は長軸2.52m、短軸2.37mの隅丸方形で、長軸方向はN-87°-Wである。壁高は45~53



第322図 第2号方形堅穴遺構実測図

cmで、外傾して立ち上がっている。

ピット 2か所。P 1の深さは22cm、P 2の深さは15cmで、規模と配置から柱穴と考えられる。

床 南部が北部より10cmほど低く、有段状である。ともに平坦で、踏み固められた痕跡は確認できなかった。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックが不自然に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 椀状滓1点(255g)のほか、土師器片19点(坏2・甕17)、須恵器片8点(蓋1・瓶1・甕6)、雲母片岩片1点が出土している。M61は覆土中から出土している。出土土器は、細片で図示できないが、埋め戻された際に混入したものとみられる。

所見 有段の竪穴状遺構で、形状が第1号方形竪穴遺構と類似していることから、関連が想定される。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第323図 第2号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第2号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第323図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	着磁	材質	特徴	出土位置	備考
M61	椀状滓	(7.1)	8.9	3.2	(255.0)	有	鉄	中央部で切断。地色は青灰色で、重量感がある。表面は比較的平滑で、中央部がやや窪む。底面に多くの顆粒状突起。	覆土中	

表9 平安時代方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
1	D 4 d5	隅丸方形	N-82°-W	[3.35] × 3.02	48~61	平坦	—	—	—	2	—	—	人為	土師器・須恵器	9C中 本跡→12溝
2	F 4 a2	隅丸方形	N-87°-W	2.52 × 2.37	45~53	平坦	—	—	—	2	—	—	人為	鉄滓	9C中 本跡→19溝

茨城県教育財団文化財調査報告第326集

下平塚蕪木台遺跡

葛城一体型特定土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

上巻

平成 21(2009)年 3 月 18 日 印刷

平成 21(2009)年 3 月 23 日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 光和印刷
〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町1823-22
TEL 029-247-4362

茨城県教育財団文化財調査報告第326集

しもひらつかかぶきだい
下平塚蕪木台遺跡

葛城一体型特定土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

下 卷

平成 21 年 3 月

独立行政法人都市再生機構茨城地域支社
財団法人茨城県教育財団

目 次

— 下 卷 —

(4) 鍛冶工房跡	363
(5) 粘土採掘坑	366
(6) 井戸跡	376
(7) 土坑	391
4 中世・近世の遺構と遺物	407
(1) 掘立柱建物跡	407
(2) 溝跡	417
(3) 井戸跡	418
5 その他の遺構と遺物	420
(1) 溝跡	420
(2) 土坑	426
(3) ピット群	462
(4) 遺構外出土遺物	480
第4節 まとめ	486
1 集落の変遷	486
2 河内郡内における集落の動向	499
付 章	509
下平塚蕪木台遺跡における黒色土の分析	509
下平塚蕪木台遺跡出土井戸枠の樹種について	517
写真図版	PL1 ~ PL96
抄録	
付図	

(4) 鍛冶工房跡

第1号鍛冶工房跡（第324～326図）

位置 調査区北部のD3b0区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面が長軸2.72m、短軸1.72mの範囲に、炉跡1基、土坑3基、ピット2か所が不定形に連なって確認された。確認面範囲の長軸方向はN-82°-Wである。

炉 長径65cm、短径50cmの楕円形で、深さ20cmの椀状を呈している。炉床に赤変した部分は認められず、炉面は遺存していない。覆土は8層に分層でき、火熱を受けて還元・酸化した粘土ブロックと鉄滓が覆土中に散在している。

炉土層解説

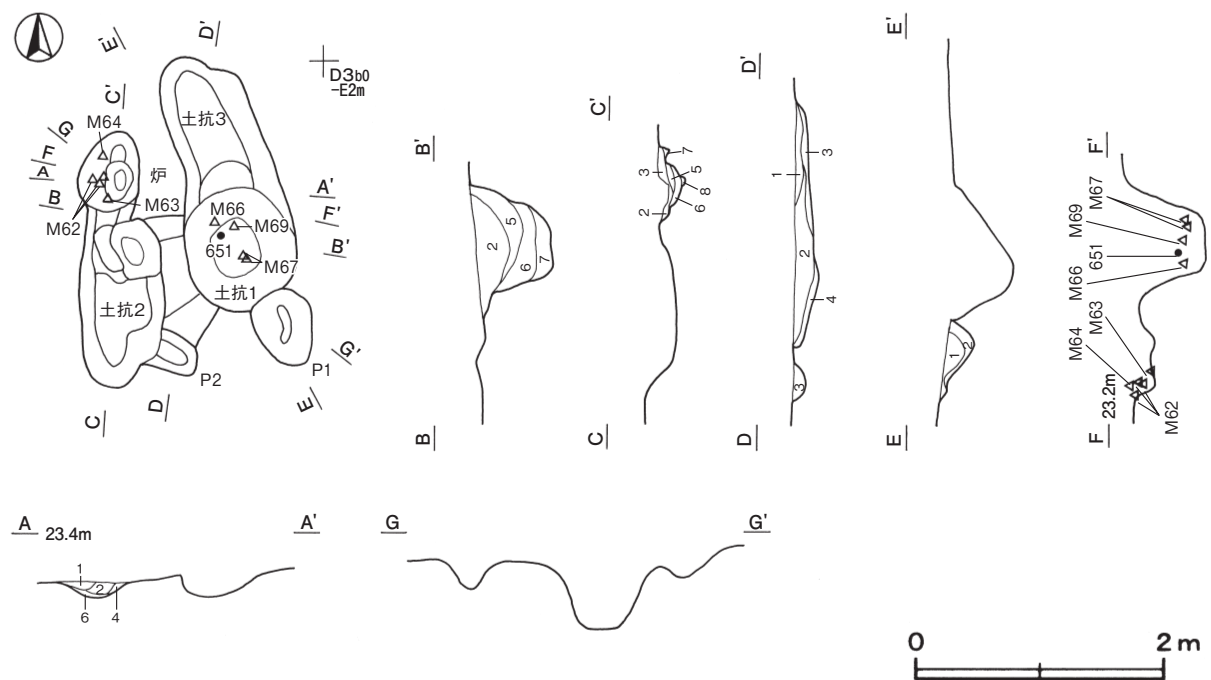
- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1 灰オリーブ色 砂質粘土ブロック多量 | 5 暗灰黄色 炭化物・ローム粒子・砂質粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 炭化物少量、焼土粒子微量 | 6 黄褐色 ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量 | 7 にぶい褐色 炭化物・砂質粘土ブロック少量 |
| 4 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 砂質粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |

土坑 3か所。7層に分層でき、鉄滓を含んでいることから、廃絶時に埋め戻されている。土坑1は長軸94cmほどの隅丸方形である。深さは48cmで、底面が平坦で踏み固められていることから、鍛冶工房に係わる作業場として機能していたと推測される。土坑2は炉と隣接しており、長径140cm、短径70cmの楕円形で、深さは22cm、壁高は20cmほどである。炉との位置関係から、輪の設置場所と推測される。土坑3は、長軸112cm、短軸70cmの隅丸長方形で、深さは8cmほどである。底面に踏み固められた痕跡は見あたらず、性格は不明である。

土坑土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化材・焼土ブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・鉄滓少量、ローム粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 鉄滓多量、炭化材中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子微量 | |

ピット 2か所。P1は土坑1と重複しており、長径68cm、短径48cmの楕円形である。深さは31cmで、底面は皿状である。P2は土坑2と重複しており、長径35cm、短径30cmを確認した。深さは20cmで、底面は皿状であ



第324図 第1号鍛冶工房跡実測図

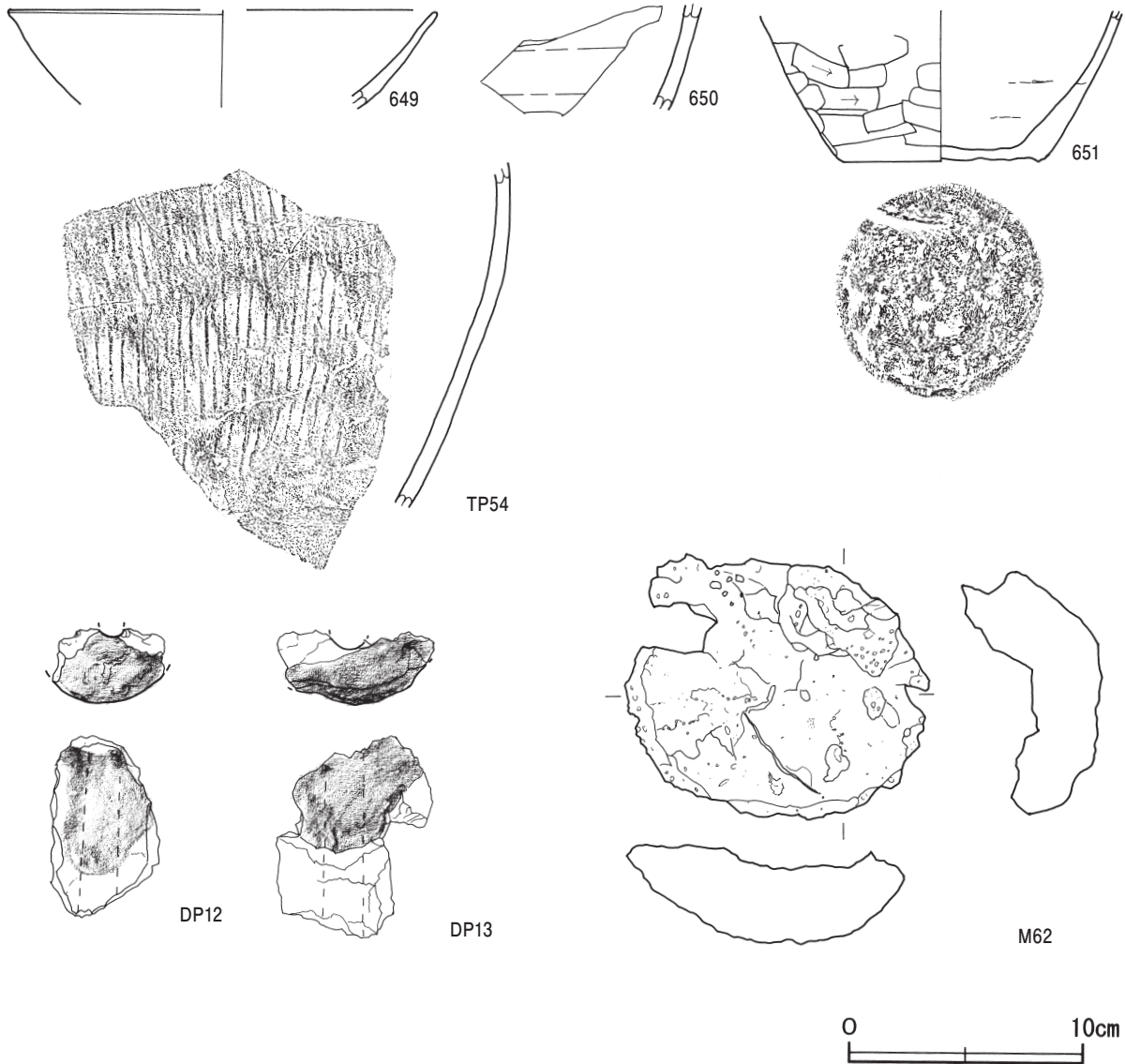
る。2か所のピットともに、性格は不明である。

ピット土層解説

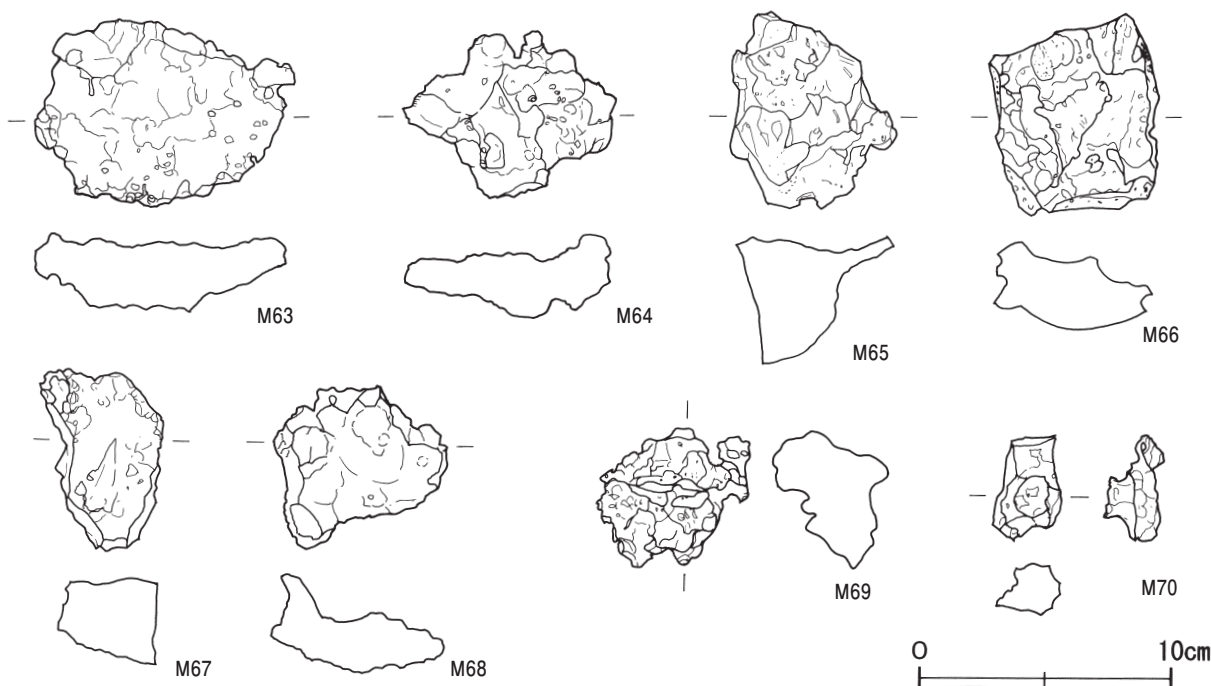
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器坏・甕各1点, 須恵器甕・瓶各1点, 土製羽口2点, 椀状滓7点, 鉄滓2点のほか, 土師器片38点(坏11・高台付皿1・甕26), 須恵器片169点(坏128・盤1・甕40), 椀状滓3441.3g, 粒状滓56.90g, 鍛造剥片443.71g, 鉄滓5302.58gが出土している。なお, 椀状滓は破片の接合状況から, 9点が個体として確認できた。649は土坑3の覆土中, 651は土坑1の覆土下層と土坑3の覆土中から出土したものがそれぞれ接合している。650は覆土中から出土している。DP12・DP13は炉の覆土中から出土し, 椀状滓は炉やその周辺, 土坑1の覆土下層から主に出土している。粒状滓や鍛造剥片は, 土坑1・土坑2内及びその周辺から主に確認されている。

所見 本跡は, 金床石や鉄製品は出土していないが, 椀状滓, 粒状滓, 鍛造剥片及び羽口が出土していることから, 鍛冶工房跡と推測される。時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第325図 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図(1)



第326図 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)

第1号鍛冶工房跡出土遺物観察表(第325・326図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
649	土師器	坏	[18.4]	(4.1)	—	雲母	にぶい黄橙	普通	内面摩滅により調整不明	土坑3覆土中	10%
650	須恵器	瓶	—	(4.6)	—	長石・石英	黄灰	普通	体内内・外面ロクロナデ	覆土中	5%
651	土師器	甕	—	(6.4)	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部ヘラ削り 輪積痕	土坑1覆土下層	40%
TP54	須恵器	甕	—	(14.6)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面縦位の叩き 内面二次焼成	土坑3覆土中	PL90

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP12	羽口	(7.7)	(5.0)	(3.2)	(83.0)	長石・石英・スサ	外面ヘラ削り 先端部は火熱で溶解されており、溶着滓が付着	炉覆土中	
DP13	羽口	(8.6)	(6.8)	(8.6)	(88.0)	長石・石英・スサ	外面ヘラ削り 先端部は火熱で溶解されており、溶着滓が付着	炉覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	着磁	材質	特徴	出土位置	備考
M62	椀状滓	11.3	13.2	3.3	978.0	強	鉄	一部青灰色で全体的には赤褐色 表面中核部が円形に窪む 端部一部欠損 多くの気孔	炉覆土上層	PL95
M63	椀状滓	7.5	10.4	2.6	286.0	強	鉄	地色は黒褐色 表面は比較的滑らかで、底面は顆粒状突起が多く粘土付着 断面はやや薄くひび割れている	炉床面	PL95
M64	椀状滓	6.6	8.5	2.4	147.0	有	鉄	大形椀状滓の端部 表面は凹凸が激しく、底面は顆粒状突起及び気孔顕著 暗青灰色 粘土・焼土付着	土坑1覆土下層	PL95
M65	椀状滓	7.8	6.6	5.0	287.0	有	鉄	中核部付近で切断 表面は黒褐色で滑らか 下半部は半球状で気孔多い 底面は暗青灰色 断面と表面に木炭残す	確認面	PL95
M66	椀状滓	8.0	6.8	2.6	198.9	有	鉄	方形に切断されている 表面は黒褐色で顆粒状突起間に微細な木炭を残す 底面は青灰色	確認面	PL95
M67	椀状滓	7.2	4.9	3.3	205.9	やや有	鉄	中核部の滓で、端部は切断 表面は暗青灰色で滑らか 断面下半部に気孔 底面は極暗赤褐色で微細な気孔と顆粒状突起	土坑1覆土下層	
M68	椀状滓	6.5	7.0	2.4	156.3	やや有	鉄	中核部の滓で、端部は切断 表面は黒褐色で滑らか 底面は暗青灰色で微細な気孔	確認面	PL95
M69	鉄滓	5.5	6.1	4.6	69.3	やや有	鉄	青灰色 やや軽量で、ほぼ全面に微細な気孔と顆粒状突起	土坑1覆土下層	
M70	鉄滓	4.2	2.4	1.9	10.8	有	鉄	折り曲がった鉄片状の鉄塊系遺物に鉄滓が付着	確認面	

表10 第1号鍛冶工房跡鉄塊系出土遺物重量計測表

単位：g

出土位置	塊状滓	粒状滓	鍛造剥片	鉄滓
1区覆土中（土坑3及び周辺）	566.7	18.80	95.84	1245.03
2区覆土中（土坑1周辺）	792.2	19.18	215.23	2803.00
3区覆土中（土坑2及び周辺）	0.0	12.53	130.20	1043.65
炉覆土中	1270.0	2.61	2.36	140.50
土坑1覆土中	156.3	0.58	0.08	70.40
確認面	656.1	3.20	0.00	0.00
計	3441.3	56.90	443.71	5302.58

(5) 粘土採掘坑

粘土採掘坑は竪穴住居跡7軒から計20基が確認された。これらの粘土採掘坑は単独のものもあるが、竪穴住居跡内で群としてとらえられることから、以下、粘土採掘坑群ごとに記述する。

第1号粘土採掘坑（第327図）

位置 調査区南部のF3d6区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

確認状況及び重複関係 第6号住居跡の床面を掘り込んでいる第30～32号土坑を第1号粘土採掘坑とした。第30号土坑は、第6号住居跡の覆土下層と中央付近の床を掘り込み、第31・32号土坑は、第6号住居跡の床から掘り込んでいる。

規模と形状 第30号土坑の確認面は、長径0.92m、短径0.72mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。確認面からの深さは50cm、底面は皿状で、粘土層を掘り込んでいる。壁は外傾して立ち上がっている。第31号土坑の確認面は、長径1.72m、短径1.20mの楕円形で、長径方向はN-29°-Eである。確認面からの深さは40cm、底面は平坦で、粘土層を掘り込んでいる。壁は外傾して立ち上がっているが、南壁の一部はオーバーハングしている。第32号土坑の確認面は、長径2.92m、短径1.82mの不整楕円形である。長径方向はN-10°-Wである。確認面からの深さは48cm、底面は平坦で、粘土層を掘り込んでいる。壁は緩やかに立ち上がっているが、東壁のみオーバーハングしている。

覆土 第30号土坑は3層、第31号土坑は5層、第32号土坑は6層に分層できる。3基ともに堆積状況から、埋め戻されている。

第30号土坑土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | |

第31号土坑土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | |

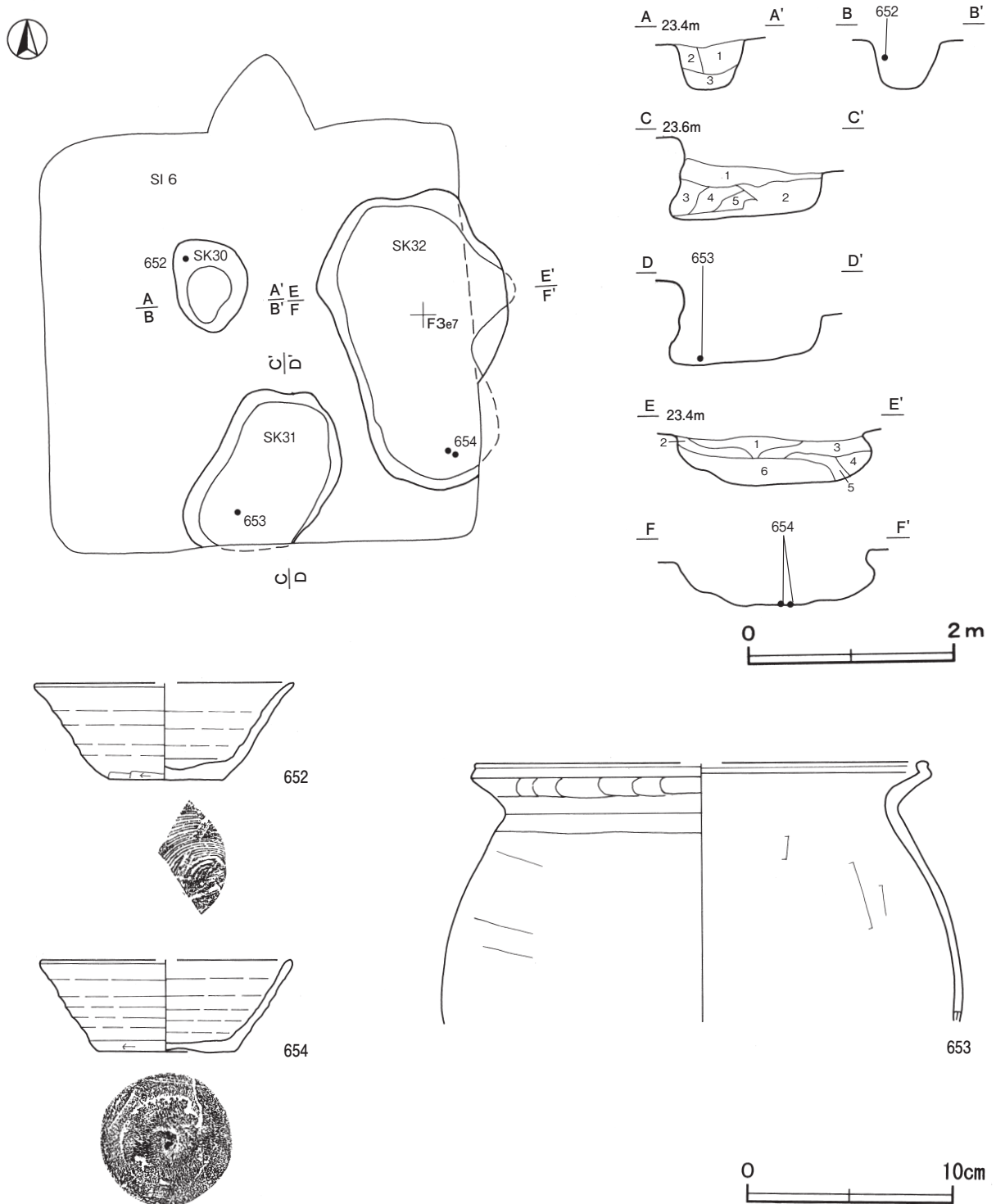
第32号土坑土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 第30号土坑は、須恵器坏1点のほか、土師器甕片4点が出土している。652は覆土上層から出土している。第31号土坑は、土師器甕1点のほか、土師器甕片21点、須恵器片10点（坏7・甕3）が出土している。653は覆土下層から出土している。第32号土坑からは、須恵器坏1点のほか、土師器片42点（坏1・甕

41), 須恵器片29点(坏25・高台付坏1・蓋1・甕2)が出土している。654は底面から出土している。それぞれの土坑から出土した土器は、第6号住居跡の出土土器と様相が類似しているが、接合関係はない。

所見 床を掘り込み、粘土層まで達していることから、粘土採掘坑ととらえた。第6号住居跡が若干埋没した段階に掘り込んでいることから、時期は、第6号住居跡廃絶後間もない9世紀中葉に比定できる。



第327図 第1号粘土採掘坑・出土遺物実測図

第1号粘土採掘坑（第30～32号土坑）出土遺物観察表（第327図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
652	須恵器	坏	[12.6]	4.7	[5.6]	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り	SK30 覆土上層	20%
653	土師器	甕	[22.0]	(12.6)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面ナデ 体部内・外面ナデ	SK31 覆土下層	20%
654	須恵器	坏	[12.0]	4.5	6.5	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り 後、一方向のヘラ削り	SK32 底面	40%

第2号粘土採掘坑（第328・329図）

位置 調査区南部のE3j5区、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

確認状況及び重複関係 第14号住居跡の床面を掘り込んでいる第33・34・36・37・39号土坑を第2粘土採掘坑とした。

規模と形状 第33号土坑の確認面は、長径1.68m、短径1.20mの不定形で、長径方向はN-4°-Wである。確認面からの深さは42cmで粘土層まで掘り込んでいない。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。第34号土坑の確認面は、長径1.72m、短径1.32mの楕円形で、長径方向はN-10°-Eである。確認面からの深さは56cm、底面は平坦で、粘土層を掘り込んでいる。北・西壁は外傾して立ち上がっているが、東・南壁はオーバーハングして立ち上がっている。第36号土坑の確認面は、径0.52mの円形である。確認面からの深さは28cmと浅く、粘土層まで掘り込んでいない。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。第37号土坑の確認面は、長径1.04m、短径0.92mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。確認面からの深さは32cmで、粘土層まで掘り込んでいない。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。第39号土坑の確認面は、長径1.32m、短径0.92mの不定形で、長径方向はN-3°-Eである。確認面からの深さは36cm、底面は平坦で、粘土層を掘り込んでいる。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 第33号土坑は、深さが浅いため明確でないが、黒褐色土の単一層であることから、自然堆積と考えられる。第34号土坑は、深さが56cmで、ロームブロック・焼土ブロックを含んでおり、埋め戻されている。第36号土坑は、下層がブロック状に堆積していることから埋め戻されており、上層は自然堆積である。第37号土坑は、全体的に自然堆積ではあるが、中間層の第2層はしまりが強く、色調が異なる様相を示していることから、埋没している段階に埋め戻されている可能性がある。第39号土坑は、レンズ状に堆積した自然堆積である。

第33号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量

第34号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
 4 灰褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
 5 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
 6 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

第36号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

第37号土坑土層解説

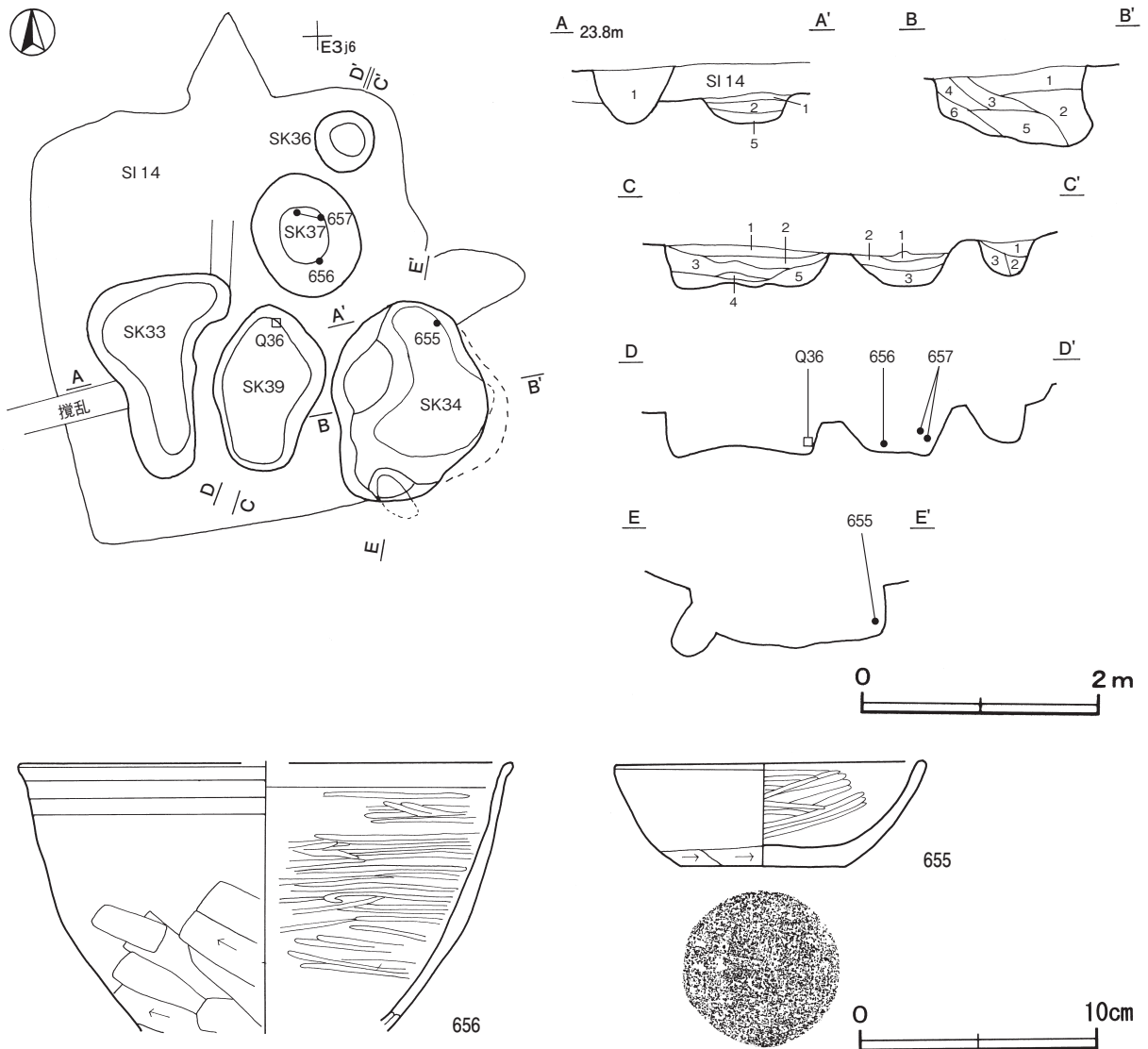
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量

第39号土坑土層解説

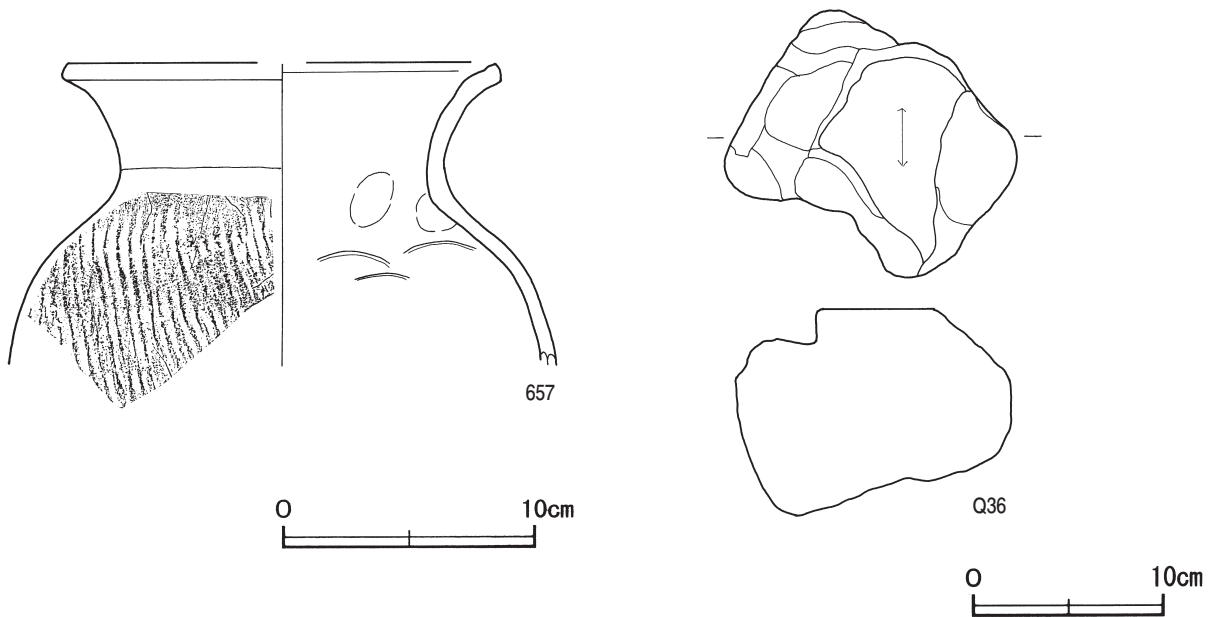
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
 5 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 第33号土坑は、土師器甕片13点、須恵器片7点（坏1・甕6）が出土している。出土土器は細片で図示できない。第34号土坑は、土師器坏1点のほか、土師器片61点（坏1・甕60）、須恵器片37点（坏10・蓋1・甕26）が出土している。655が覆土下層から出土しているほか、覆土中の破片が第14号住居跡の土器として図示した258に接合している。第36号土坑は、土師器片27点（坏6・甕21）、須恵器片28点（坏19・甕9）が出土している。出土土器はいずれも細片で図示できないが、第14号住居跡の土器として図示した255・258にそれぞれ接合している。第37号土坑は、土師器鉢1点、須恵器甕1点のほか、土師器片19点（高台付皿1・甕17・甕1）、須恵器片15点（坏8・甕7）が出土している。656・657が覆土下層から出土しているほか、覆土中の破片が第14号住居跡の土器として図示した255に接合している。第39号土坑は、砥石1点のほか、土師器片55点（坏1・甕54）、須恵器片31点（坏25・蓋6）が出土している。Q36が覆土下層から出土しているほか、覆土中の破片が第14号住居跡の土器として図示した258に接合している。

所見 掘り込みが浅く、粘土層まで達していないものも含まれているが、同一住居内に位置し、床を掘り込んでいることから、粘土採掘における一連の行為と推測される。時期は、第14号住居跡の床を掘り込み、覆土を掘り込んでないことから、第14号住居跡の廃絶後間もない10世紀中葉に比定できる。



第328図 第2号粘土採掘坑・出土遺物実測図



第329図 第2号粘土採掘坑出土遺物実測図

第2号粘土採掘坑（第34・37・39号土坑）出土遺物観察表（第328・329図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
655	土師器	坏	12.9	4.5	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	良好	体部ロクロナデ 内面ヘラ磨き	SK34 覆土下層	90% PL87
656	土師器	鉢	[20.8]	(11.3)	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面ナデ 体部ヘラ削り 内面ヘラ磨き	SK37 覆土下層	20%
657	須恵器	甕	[17.2]	(11.9)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部縦位の平行叩き 内面ヘラナデ 指頭圧痕 当て具痕	SK37 覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	砥石	14.2	15.5	10.9	2080.0	雲母片岩	端部欠損 砥面1面	SK39 覆土下層	

第3号粘土採掘坑（第330図）

位置 調査区南部のF3a7区、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

確認状況及び重複関係 第19号住居跡床面を掘り込んでいる第66号土坑を第3号粘土採掘坑とした。南部を第64号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は長径0.88m、短径0.76mの楕円形で、長径方向はN-45°-Wである。確認面からの深さは46cm、底面は平坦で、粘土層を掘り込んでいる。壁は緩やかに立ち上がっている。

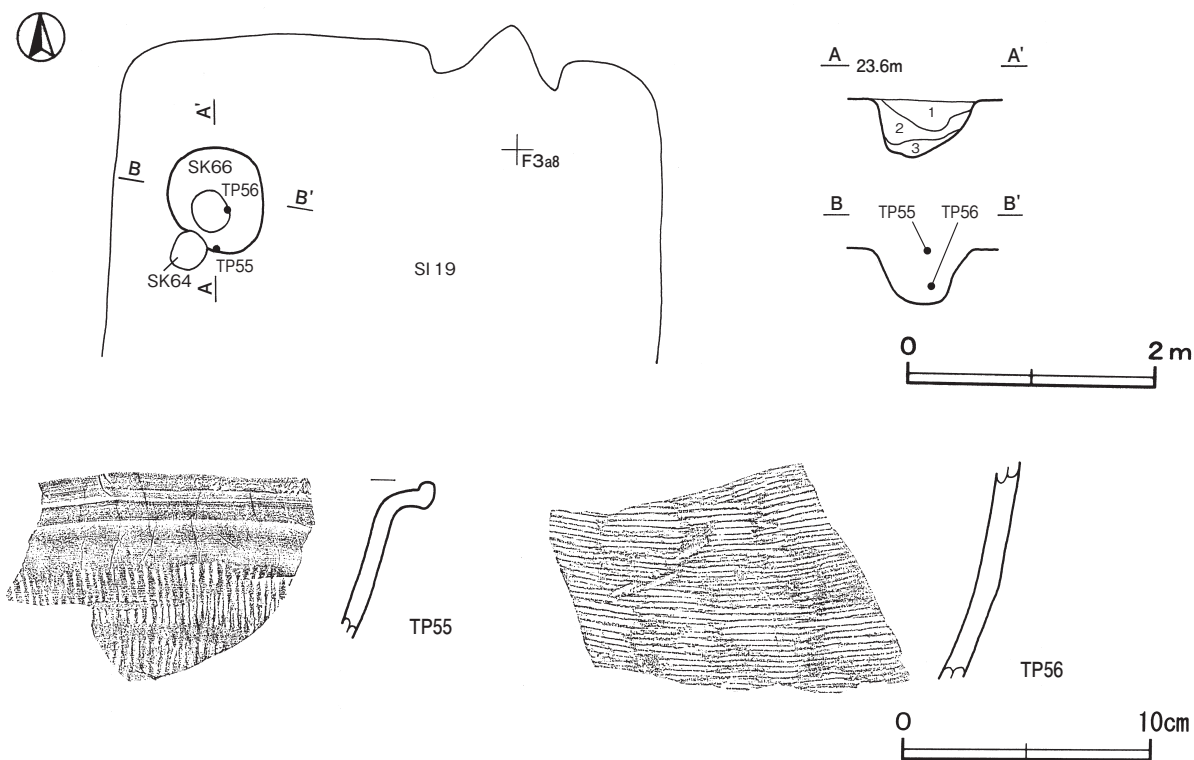
覆土 3層に分層できる。ロームブロックの堆積状況から、埋め戻されている。

第66号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量

遺物出土状況 須恵器甕2点のほか、土師器片6点（坏1・甕5）、須恵器坏片1点が出土している。TP55は覆土上層、TP56は覆土下層からそれぞれ出土している。ほかに出土した土器は、第19号住居跡の出土土器と様相が類似しているが、接合関係はない。

所見 時期は、第19号住居跡の廃絶後間もない9世紀後葉に比定できる。



第330図 第3号粘土採掘坑・出土遺物実測図

第3号粘土採掘坑（第66号土坑）出土遺物観察表（第330図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
TP55	須恵器	甕	—	(6.2)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面縦位の平行叩き 内面ナデ	覆土上層	PL90
TP56	須恵器	甕	—	(8.6)	—	長石・雲母	黄灰	普通	外面横位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土下層	

第4号粘土採掘坑（第331図）

位置 調査区西部のD 1 a5区、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

確認状況及び重複関係 第44号住居跡の床面を掘り込んでいる第93号土坑を第4号粘土採掘坑とした。

規模と形状 第93号土坑の確認面は、長軸2.71m、短軸2.00mの不定形で、長径方向はN-40°-Wである。確認面からの深さは68cm、底面はほぼ平坦で、粘土層を掘り込んでいる。壁はほぼ外傾して立ち上がっているが、一部オーバーハングしている。

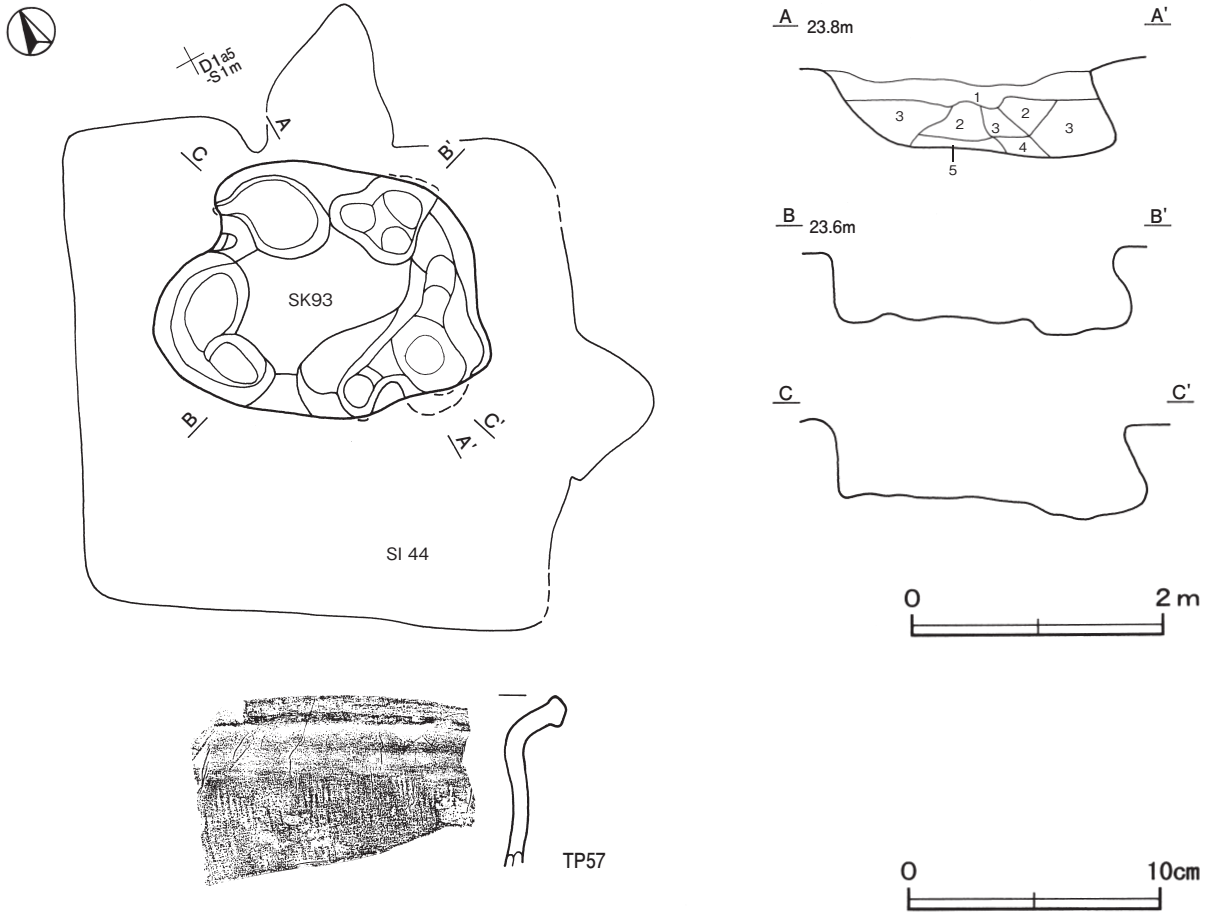
覆土 5層に分層できる。ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。

第94号土坑土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|----------|-----------|
| 1 オリーブ褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器坏片28点、須恵器片27点（坏4・甕23）が出土している。TP57が覆土中から出土しているほか、覆土中の破片が第44号住居跡の遺物として図示した361・362・366にそれぞれ接合している。

所見 時期は、第44号住居跡の床を掘り込んでいるが、覆土を掘り込んでいないことから、第44号住居跡の廃絶後間もない9世紀中葉に比定できる。



第331図 第4号粘土採掘坑・出土遺物実測図

第4号粘土採掘坑（第93号土坑）出土遺物観察表（第331図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
TP57	須恵器	甕	—	(6.7)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	外面縦位の平行叩き 内面ナデ	覆土中	

第5号粘土採掘坑（第332図）

位置 調査区西部のE 2 b6区，標高23.5mの台地平坦部に位置している。

確認状況及び重複関係 第30号住居跡の床面を掘り込んでいる第94・104～108号土坑6基を第5号粘土採掘坑とした。第94号土坑が第105号土坑を掘り込んでおり，第105号土坑が第106号土坑を掘り込んでいる。第104号土坑は第94号土坑を掘り込んでいるが，第105号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 第94号土坑の確認面は，径0.95mほどの円形である。確認面からの深さは52cm，底面は皿状で，粘土層を掘り込んでいる。壁は緩やかに立ち上がっている。第104号土坑の確認面は，長径1.39m，短径1.14mの楕円形で，長径方向はN-54°-Wである。確認面からの深さは32cm，底面は皿状で，粘土層を掘り込んでいる。壁は緩やかに立ち上がっている。第105号土坑の確認面は，長径2.12m，短径1.26mの長楕円形で，長径方向はN-21°-Wである。確認面からの深さは24～40cm，底面は凹凸があり，粘土層を掘り込んでいる。壁は緩やかに立ち上がっている。第106号土坑の確認面は，径0.7mほどの円形である。確認面からの深さは26cm，底面は皿状で，粘土層を掘り込んでいる。壁は緩やかに立ち上がっている。第107号土坑の確認面は，長径1.48m，短径0.80mの不定形で，長径方向はN-41°-Eである。確認面からの深さは28cm，底面は皿状で，

粘土層を掘り込んでいる。壁は緩やかに立ち上がっている。第108号土坑の確認面は、長径1.02m、短径0.84mの不定形で、長径方向はN-33°-Eである。確認面からの深さは18cm、底面は皿状で、粘土層を掘り込んでいる。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 第94号土坑は5層、第104号土坑は4層に分層できる。2基ともにロームブロックを多量に含んでいることから、埋め戻されている。第105号土坑の堆積状況は、不明である。第106号土坑は3層、第107号土坑は2層に分層できる。2基ともに焼土や炭化物が含まれず、ローム主体の土であることから、掘り込んだ土で埋め戻されている。第108号土坑は単一層である。焼土ブロックを多量に含んでおり、埋め戻されている。

第94号土坑土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|----------------------------|
| 1 灰黄褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 灰黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | | |

第104号土坑土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|------|---------------------|
| 1 灰黄褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |

第106号土坑土層解説

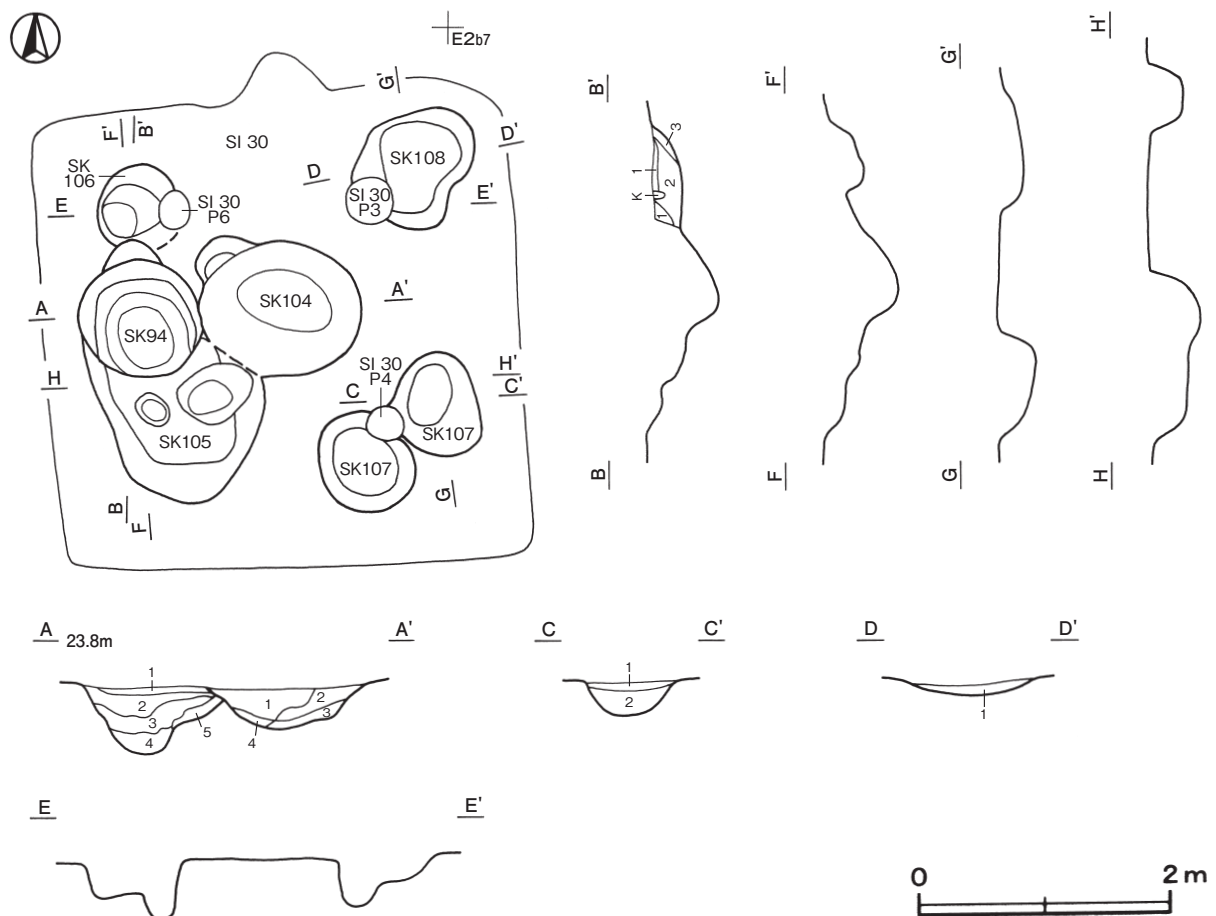
- | | | | |
|-------|-----------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 鉄分中量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 鉄分中量 | | |

第107号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 2 黒褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|-----------|-------|-----------|

第108号土坑土層解説

- | | |
|--------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物・粘土ブロック少量 |
|--------|------------------------|



第332図 第5号粘土採掘坑実測図

遺物出土状況 第94号土坑は、土師器甕片11点、須恵器片6点（坏4・甕2）が出土している。第104号土坑は、土師器甕片9点、須恵器坏片6点が出土している。それぞれの土坑から出土した土器は、第30号住居の出土土器とは、接合関係はなく、また細片で図示できない。

所見 第105～108号土坑の底面及び壁面に、第30号住居跡の柱穴が確認されていることから、柱抜き取り後に粘土採掘行為を行ったものとみられる。また、本土坑群の重複関係から、数回にわたる粘土採掘行為が想定される。時期は、第30号住居跡の床を掘り込んでおり、出土遺物から9世紀前葉と思われる。

第6号粘土採掘坑（第333図）

位置 調査区南部のE2g4区、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

確認状況及び重複関係 第61号住居跡の床面を掘り込んでいる第136・137・139号土坑の3基を第6号粘土採掘坑とした。

規模と形状 第136号土坑の確認面は長径1.20m、短径0.80mの不定形で、長径方向はN-35°-Wである。確認面からの深さは24cm、底面は皿状で、粘土層を掘り込んでいる。壁は外傾して立ち上がっている。第137号土坑の確認面は、長径0.84m、短径0.68mの楕円形で、長径方向はN-5°-Eである。確認面からの深さは39cm、底面は平坦で、粘土層を掘り込んでいる。壁は外傾して立ち上がっている。第139号土坑の確認面は、長径0.68、短径0.60mの楕円形で、長径方向はN-5°-Eである。確認面からの深さは25cm、底面は皿状で、粘土層を掘り込んでいる。壁は外傾して立ち上がっている。

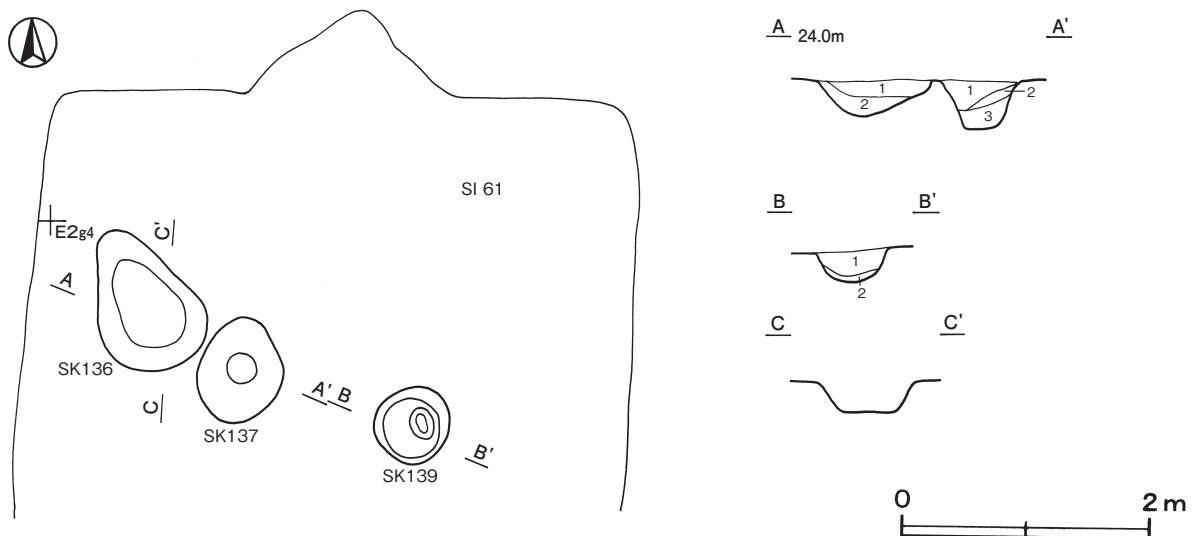
覆土 第136号土坑は、2層に分層できる。下層はロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。上層は自然堆積である。第137号土坑は3層、第139号土坑は2層に分層できる。2基ともに、堆積状況から埋め戻されている。

第136号土坑土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 2 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子微量 |
|---------------------------|-------------------------------|

第137号土坑土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1 にぶい褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 | 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | |



第333図 第6号粘土採掘坑実測図

第139号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 2 褐色 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 第136号土坑からは, 土師器甕片4点, 須恵器坏片1点, 第137号土坑からは, 土師器甕片10点, 須恵器高台付坏片1点が出土している。第139号土坑からは, 土師器甕片10点, 須恵器高台付坏片1点が出土している。3基の土坑から出土した土器は, 第61号住居跡の出土土器と様相が類似しているが, 接合関係はなく, すべて細片で図示できない。

所見 時期は, 重複関係や出土土器などから9世紀代と思われる。

第7号粘土採掘坑 (第334図)

位置 調査区南部のE3f5区, 標高23.5mの台地平坦部に位置している。

確認状況及び重複関係 第8号住居跡の覆土下層から掘り込んでいる第235号土坑を第7号粘土採掘坑とした。

規模と形状 確認面は, 長径0.90m, 短径0.78mの楕円形で, N-80°-Eである。確認面からの深さは70cm, 床は平坦で, 粘土層を掘り込んでいる。壁は外傾して立ち上がっている。

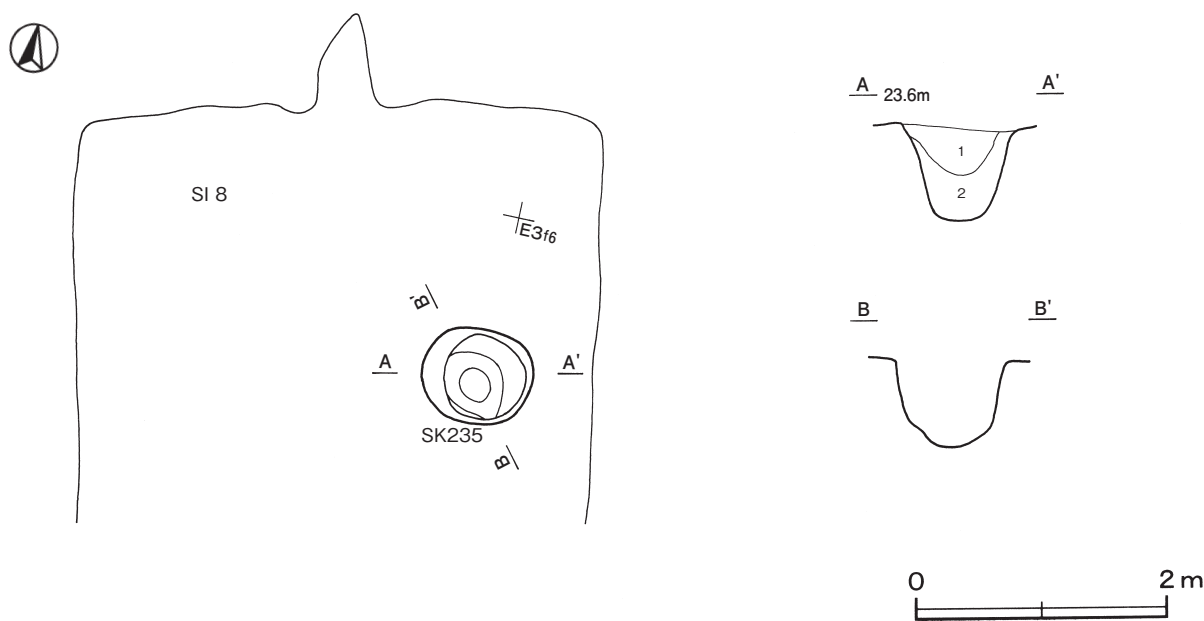
覆土 2層に分層される。ロームブロックを多量に含んでいることから, 埋め戻されている。

第235号土坑土層解説

1 にぶい褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 2 暗褐色 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量, 炭化物微量

遺物出土状況 土師器甕片1点, 須恵器坏片2点が出土している。第8号住居跡の出土土器と様相が類似しているが, 接合関係はなく, 細片で図示できない。

所見 時期は, 第8号住居跡の床を掘り込んでいるが, 覆土を掘り込んでいないことから, 第8号住居跡の廃絶後間もない9世紀前葉に比定できる。



第334図 第7号粘土採掘坑実測図

表11 粘土採掘坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)			断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径 × 短径	深さ(cm)						
1	SK30	F 3 d6	N - 20° - W	楕円形	0.92 × 0.72	50	外傾	皿状	人為	土師器・須恵器	6住→本跡
	SK31	F 3 d6	N - 29° - E	楕円形	1.72 × 1.20	40	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	6住→本跡
	SK32	F 3 d6	N - 10° - W	不整楕円形	2.92 × 1.82	48	緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器	6住→本跡
2	SK33	E 3 j5	N - 4° - W	不定形	1.68 × 1.20	42	外傾	皿状	自然	土師器・須恵器	14住→本跡
	SK34	E 4 a6	N - 10° - E	楕円形	1.72 × 1.32	56	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	14住→本跡
	SK36	E 3 j6	—	円形	0.52 × 0.52	28	外傾	皿状	自然・人為	土師器・須恵器	14住→本跡
	SK37	E 3 j5	N - 20° - W	楕円形	1.04 × 0.92	32	緩斜	平坦	自然・人為	土師器・須恵器	14住→本跡
	SK39	E 3 j5	N - 3° - E	不定形	1.32 × 0.92	36	外傾	平坦	自然	土師器・須恵器・石器	14住→本跡
	SK66	F 3 a7	N - 45° - W	楕円形	0.88 × 0.76	46	緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器	19住→本跡
4	SK93	D 1 a5	N - 40° - W	不定形	2.71 × 2.00	68	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	44住→本跡
5	SK94	E 2 b6	—	円形	0.96 × 0.95	52	緩斜	皿状	人為	土師器・須恵器	30住→105土坑→本跡 →104土坑
	SK104	E 2 b6	N - 54° - W	[楕円形]	1.39 × 1.14	32	緩斜	皿状	人為	土師器・須恵器	30住→94土坑→本跡
	SK105	E 2 b6	N - 21° - W	長楕円形	2.12 × 1.26	24~40	緩斜	凹凸	不明		30住→106土坑→本跡 →94・104土坑
	SK106	E 2 b6	—	[円形]	0.70 × [0.68]	26	緩斜	皿状	人為		30住→本跡→105土坑
	SK107	E 2 b6	N - 41° - E	不定形	1.48 × 0.80	28	緩斜	皿状	人為		30住→本跡
	SK108	E 2 b6	N - 33° - E	不定形	1.02 × 0.84	18	緩斜	皿状	人為		30住→本跡
6	SK136	E 2 g4	N - 35° - W	不定形	1.20 × 0.80	24	外傾	皿状	自然・人為	土師器・須恵器	61住→本跡
	SK137	E 2 g4	N - 5° - E	楕円形	0.84 × 0.68	39	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	61住→本跡
	SK139	E 2 g4	N - 5° - E	楕円形	0.68 × 0.60	25	外傾	皿状	人為	土師器・須恵器	61住→本跡
7	SK235	E 3 f5	N - 80° - E	楕円形	0.90 × 0.78	70	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	8住→本跡

(6) 井戸跡

第2号井戸跡 (第335図)

位置 調査区中央部のF 3 b4区, 標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第15号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は径約2.5mの円形である。上部は確認面から深さ90cmほどまで傾斜している。西側に平場が形成されている。下部は径0.8mの円筒形で、深さ200cmほど掘り下げたが、底面は湧水のため確認できなかった。

ピット 2か所。P 1・P 2ともに深さ10cmほどで、配置から柱穴の可能性はある。

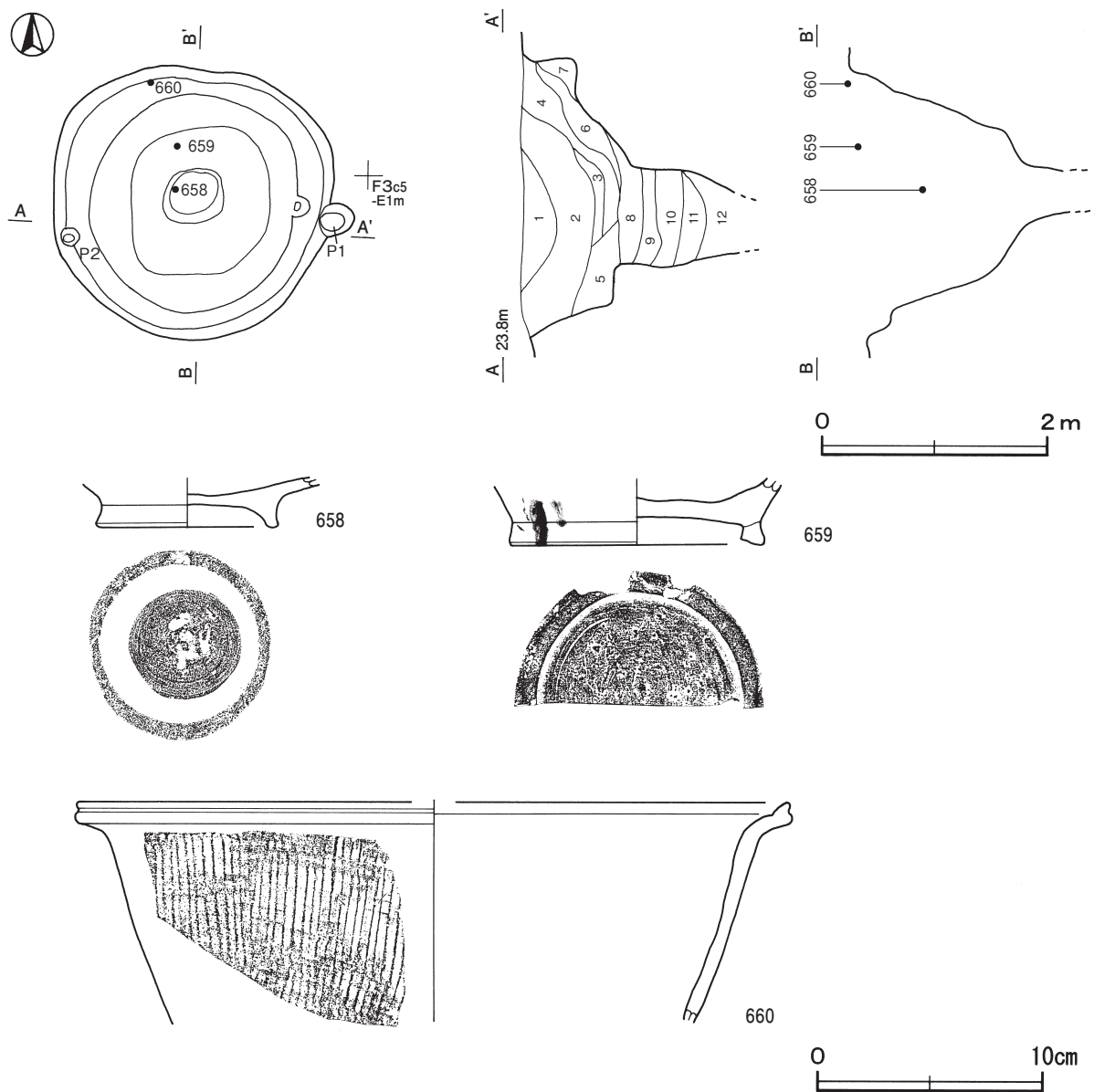
覆土 12層に分層できる。第1・2層は、周囲からの流れ込みを示す自然堆積である。第3層以下は、粘土ブロックを含んでおり、不自然な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子微量 | 9 黒褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 須恵器盤・瓶・甕各1点のほか, 土師器片174点 (坏38・甕136), 須恵器片71点 (坏22・蓋1・甕48) が出土している。658は覆土中層, 659・660は覆土上層から出土している。下層から出土した土器は細片で図示できない。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第335図 第2号井戸跡・出土遺物実測図

第2号井戸跡出土遺物観察表（第335図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
658	須恵器	盤	—	(2.2)	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	—	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け 二次焼成	覆土中層	20%
659	須恵器	瓶	—	(3.0)	11.1	長石・石英	褐灰	—	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け 自然釉 二次焼成	覆土上層	5%
660	須恵器	甕	[30.6]	(9.7)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部縦位の平行叩き	覆土上層	5%

第3号井戸跡（第336・337図）

位置 調査区中央部のD 3 e8区，標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は長径3.81m，短径3.34mの楕円形で，長径方向はN-22°-Wである。上部は確認面から深さ160cmまで傾斜している。下部は径0.8mの漏斗形である。250cmほど掘り下げたが，底面は湧水のため

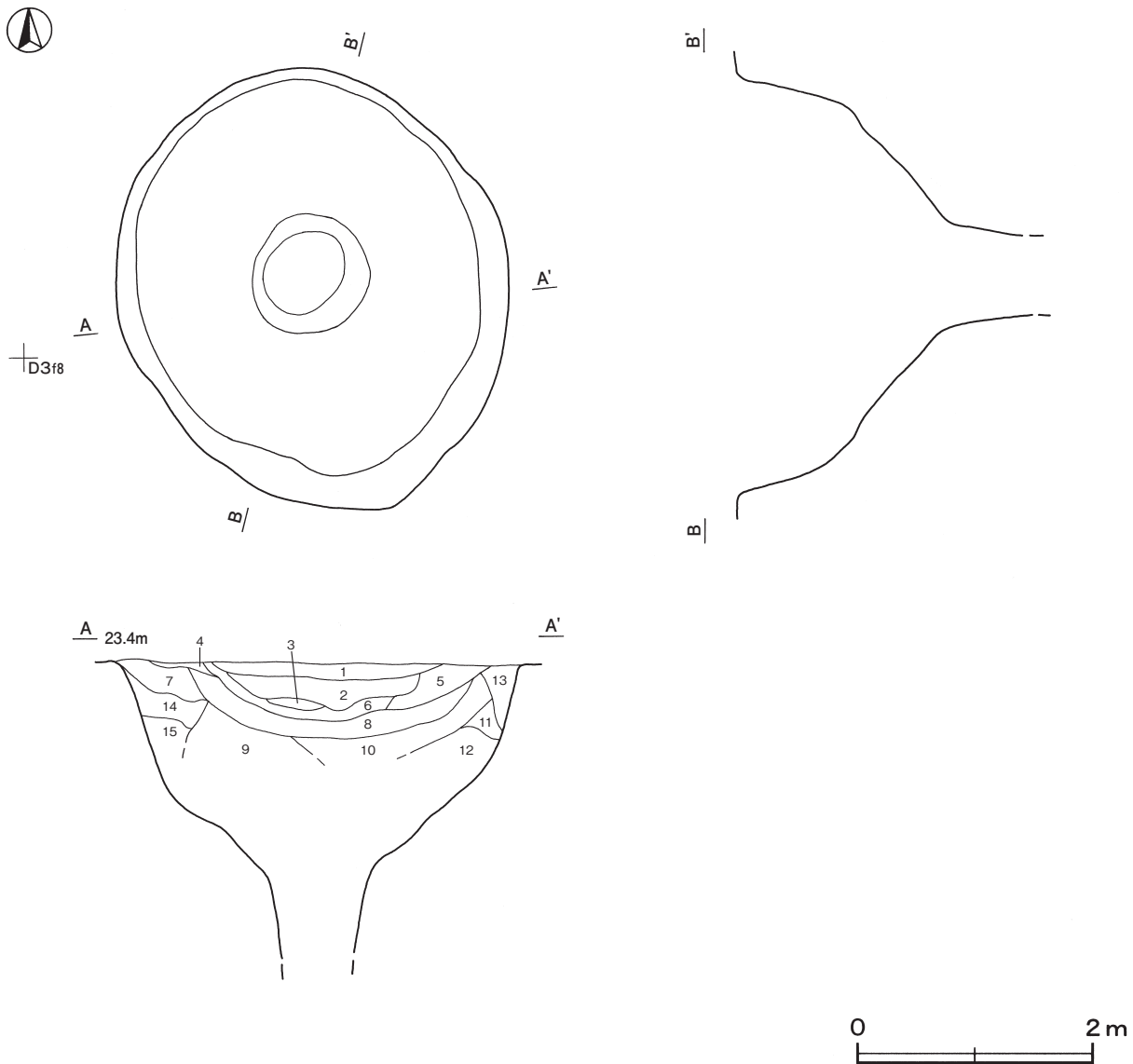
確認できなかった。

覆土 15層に分層できる。第1～8層は、黒色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第13～15層は、ロームブロックを多く含んでいることから、壁の崩落土と推定される。第9～12層は埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子微量	9 極暗褐色	ローム粒子少量, 粘土粒子微量
2 黒褐色	粘土ブロック少量, ロームブロック微量	10 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量	11 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量	12 極暗褐色	ロームブロック少量
5 黒色	ローム粒子少量, 粘土ブロック微量	13 褐色	ロームブロック中量
6 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	14 褐色	ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
7 褐色	ロームブロック中量, 粘土粒子微量	15 褐色	ロームブロック少量
8 黒色	ローム粒子・粘土粒子微量		

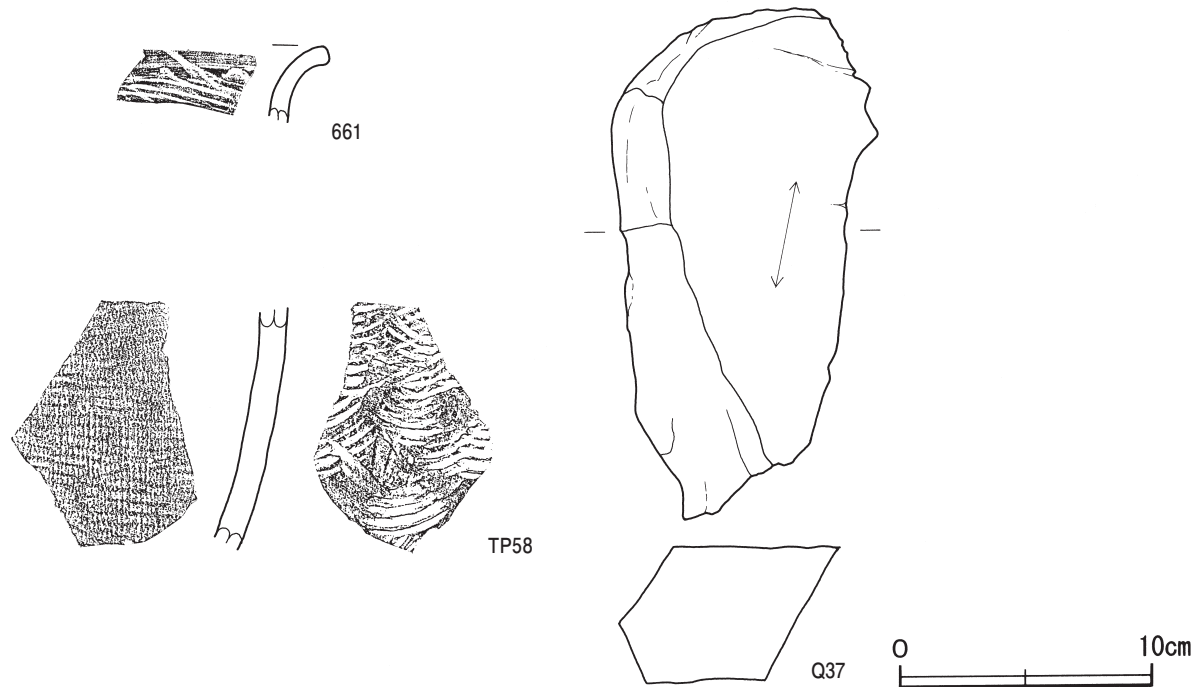
遺物出土状況 須恵器甕2点, 砥石1点のほか, 土師器片37点(坏7・高台付坏2・甕28), 須恵器51点(坏16・盤2・蓋4・甕29), 鉄滓4点, 砥石2点, 雲母片岩6点, 砂岩1点が出土している。図示した661・TP58・Q37はすべて覆土中の黒色土からの出土で, 埋没している過程の投棄とみられる。なお, 総重量は鉄



第336図 第3号井戸跡実測図

滓が361 g, 石器が2360 g, 雲母片岩が2060 g, 砂岩が1110 gである。

所見 本跡は, 出土土器から9世紀前葉に機能していたものと考えられるが, 第1号鍛冶工房跡からの投棄と考えられる鉄滓や砥石が出土していることから, 第1号鍛冶工房跡が機能している9世紀中葉まで埋没していなかったと推測される。



第337図 第3号井戸跡出土遺物実測図

第3号井戸跡出土遺物観察表 (第337図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
661	須恵器	甕	—	(3.3)	—	長石・雲母	褐灰	普通	体部横位の平行叩き	覆土中	5%
TP58	須恵器	甕	—	(9.5)	—	長石・雲母	灰	普通	外面格子状叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q37	砥石	20.2	10.7	5.5	1410.0	凝灰岩	砥面1面 砥面はわずかに波状	覆土中	PL93

第4号井戸跡 (第338図)

位置 調査区中央部のC3h2区, 標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径約1.55mの円形である。形状は, 上部がやや外傾している。深さは145cm, 底面は皿状で, 粘土層を掘り込んでいる。

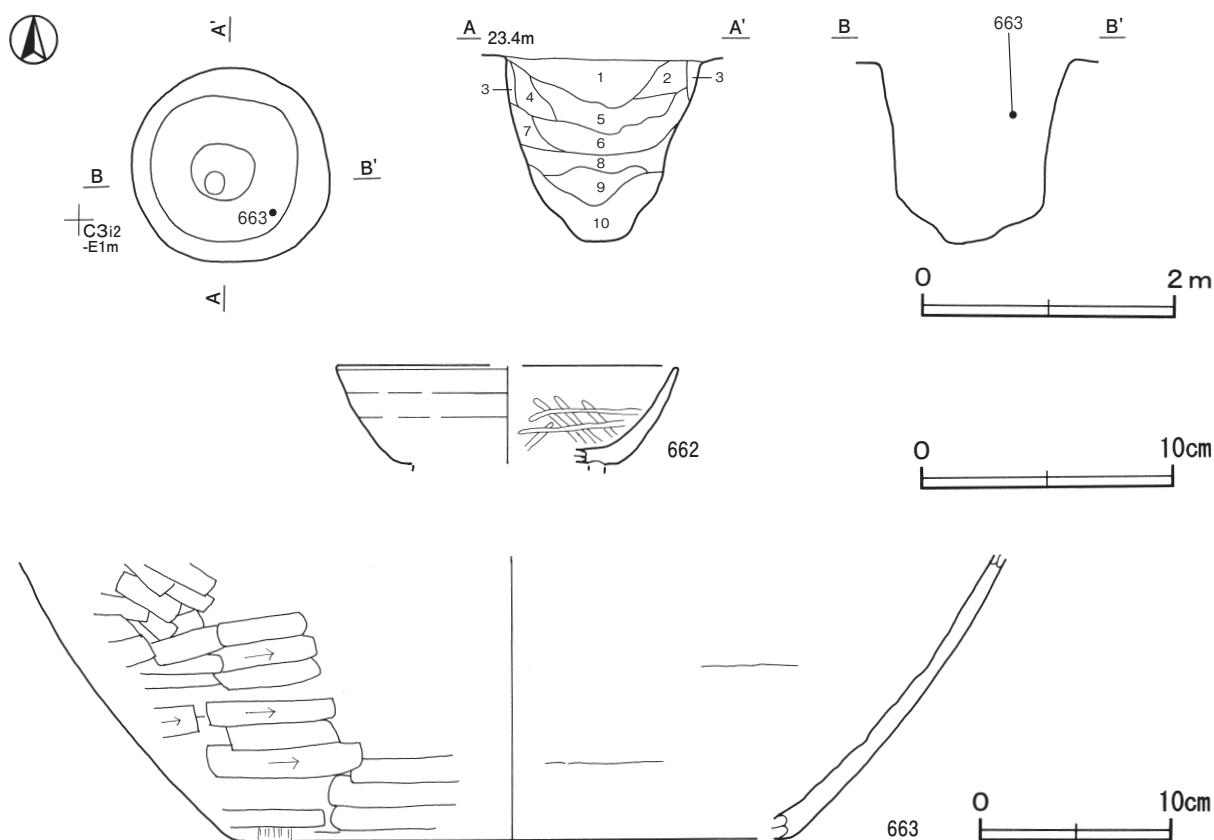
覆土 10層に分層できる。第1～7層は, 黒色土がレンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。第8・9層は, ロームブロックや粘土ブロックを含んでいることから, 埋め戻されている。最下層である第10層にはローム粒子を多く含んでいることから, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|--------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量・粘土ブロック少量 |
| 3 明褐色 | ローム粒子中量 | 8 褐色 | ロームブロック多量・粘土ブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 9 褐色 | ローム粒子多量, 粘土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器高台付坏・須恵器鉢各1点のほか、土師器片8点（坏5・甕3）、須恵器片4点（坏2・甕2）が出土している。662は覆土中から、663は覆土中層からの出土である。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第338図 第4号井戸跡・出土遺物実測図

第4号井戸跡出土遺物観察表（第338図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
662	土師器	高台付坏	[13.5]	(3.9)	—	長石・雲母	橙	普通	体部ロクロナデ 内面へら磨き 二次焼成 底部回転へら削り 高台欠損	覆土中	30%
663	須恵器	鉢	—	(14.6)	[29.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部縦位の平行叩き後、へら削り 内面全面剥離 輪積痕	覆土中層	5%

第5号井戸跡（第339～347図）

位置 調査区中央部のD4 d3区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺3.74mの隅丸方形の掘方を持ち、深さは292cmである。上部は確認面から深さ245cmまでわずかにすぼまり、緩やかな傾斜面が作り出され、下部は漏斗状に292cmまで掘り下げ、砂質粘土層まで掘り込ん

でいる。

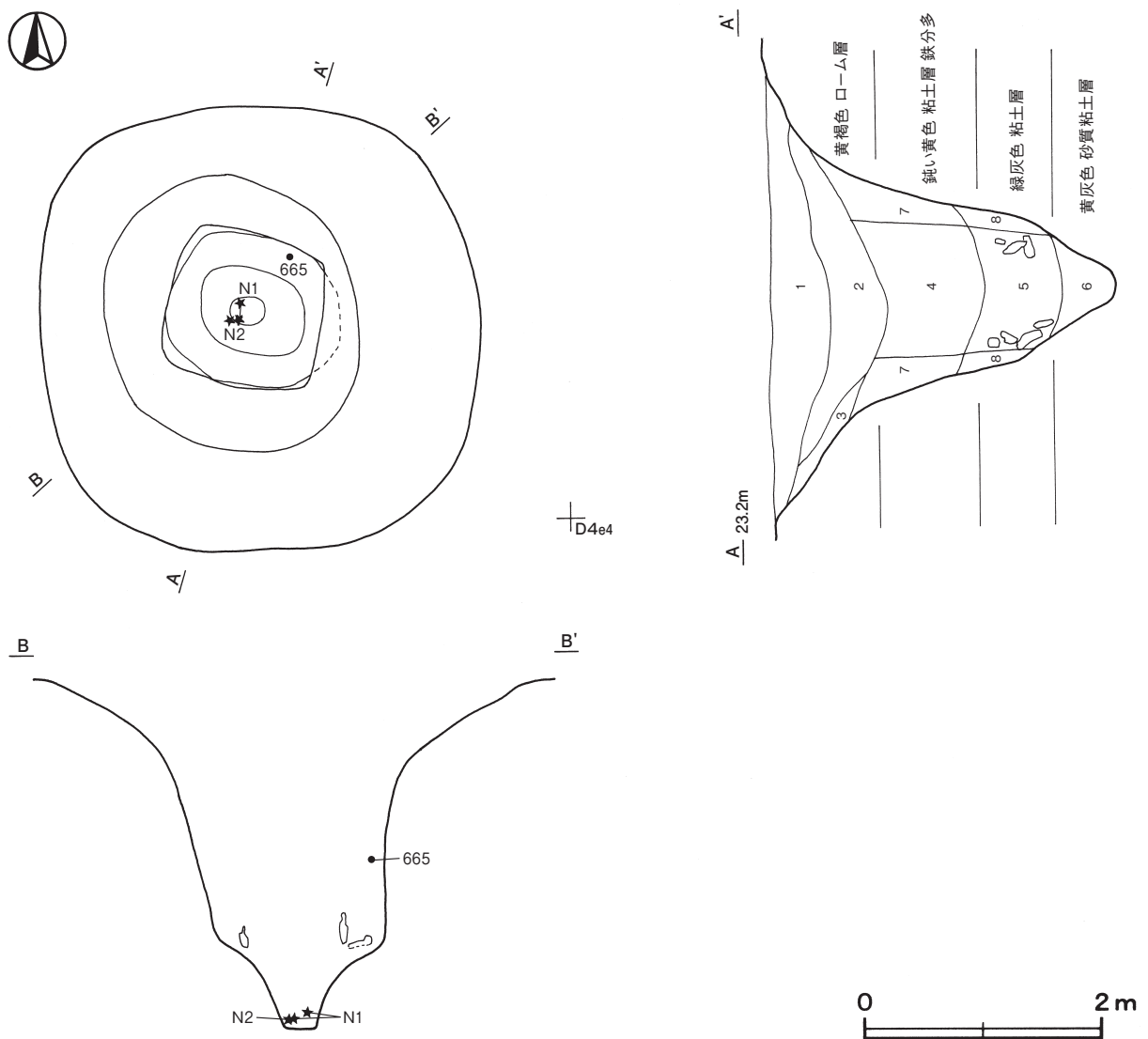
緩やかな傾斜面には内法0.72mの方形の井戸枠が設置され、緑灰色の粘土が充填されている。井戸枠は横井組相欠き仕口型構造の3段組である。南側の井戸枠は上からW1～W5の順に出土している。W1・W2・W5は欠損が著しく、W1・W2は同一材であったものが割れてしまっている。W5は一番低い位置から出土しているが、枠からはずれて内側に落ちたものと思われる。北面の井戸枠は上からW6～W8の順に出土している。W6は東の先端部がずれた状態である。東面の井戸枠は上からW9～W11の順に、西面は上からW12・W13の順に出土している。W10・W12のいずれも枠の外側に大きくずれ落ちた状態である。

覆土 6層に分層できる。第7・8層は掘方への埋土、第5層は井戸枠内覆土である。第4層はロームブロック・粘土ブロックを含んでいることから、埋め戻されて、その後上層の第1～3層は自然堆積している。

土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 にぶい黄色 | 黄色粘土・砂粒多量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量 | 6 明黄褐色 | 砂質粘土多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック量 | 7 にぶい黄褐色 | 黄色粘土多量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック中量 | 8 灰黄褐色 | 緑灰色粘土多量 |

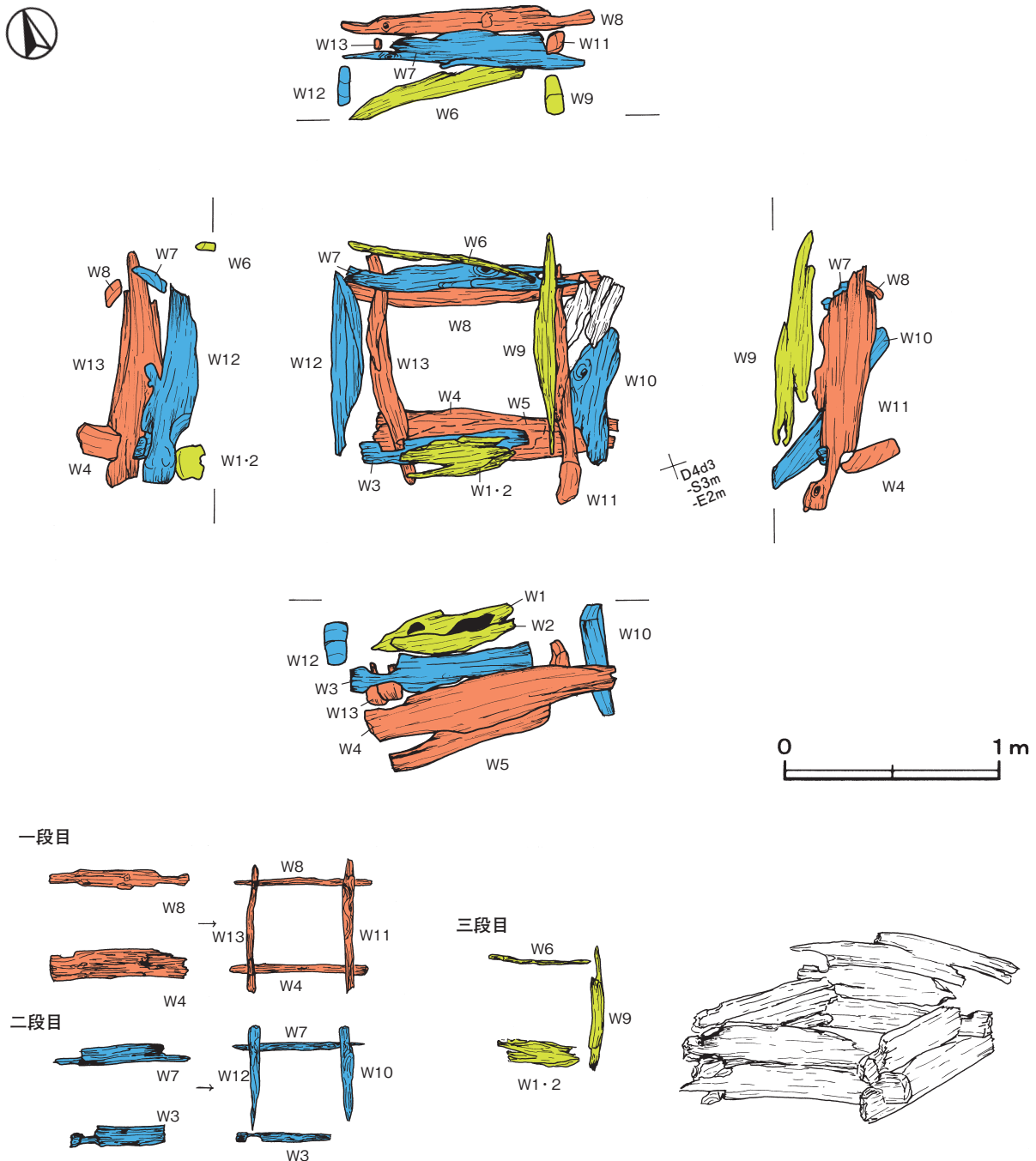
遺物出土状況 土師器坏・高台付坏各1点、須恵器坏2点、長頸瓶・甌各1点、瓢箪2点のほか、土師器片



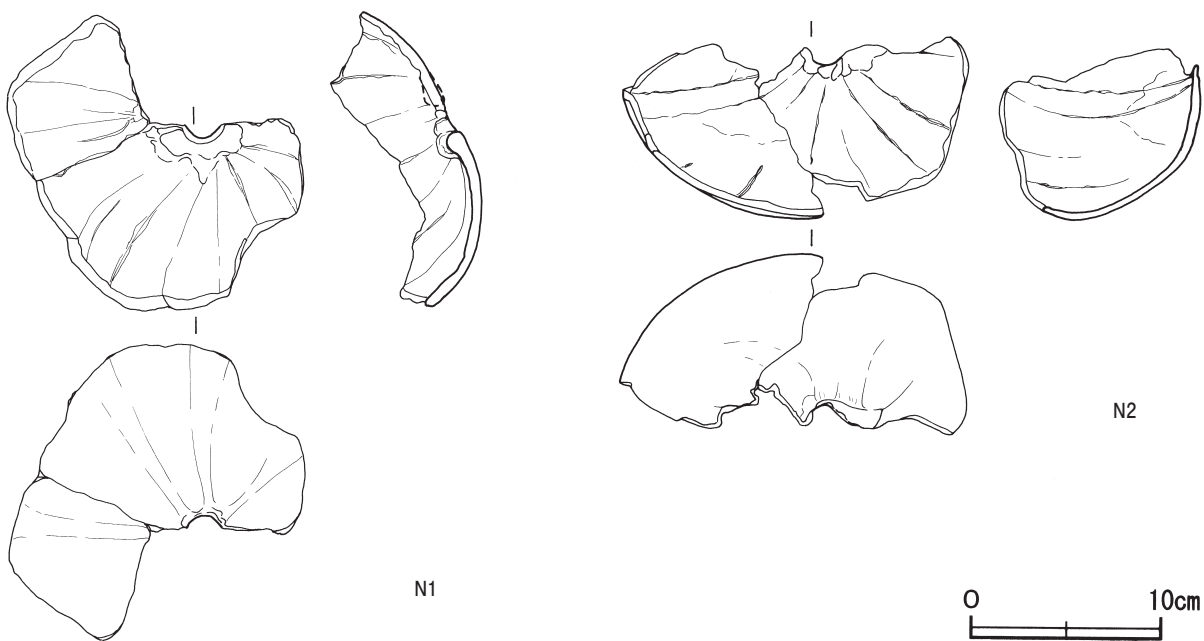
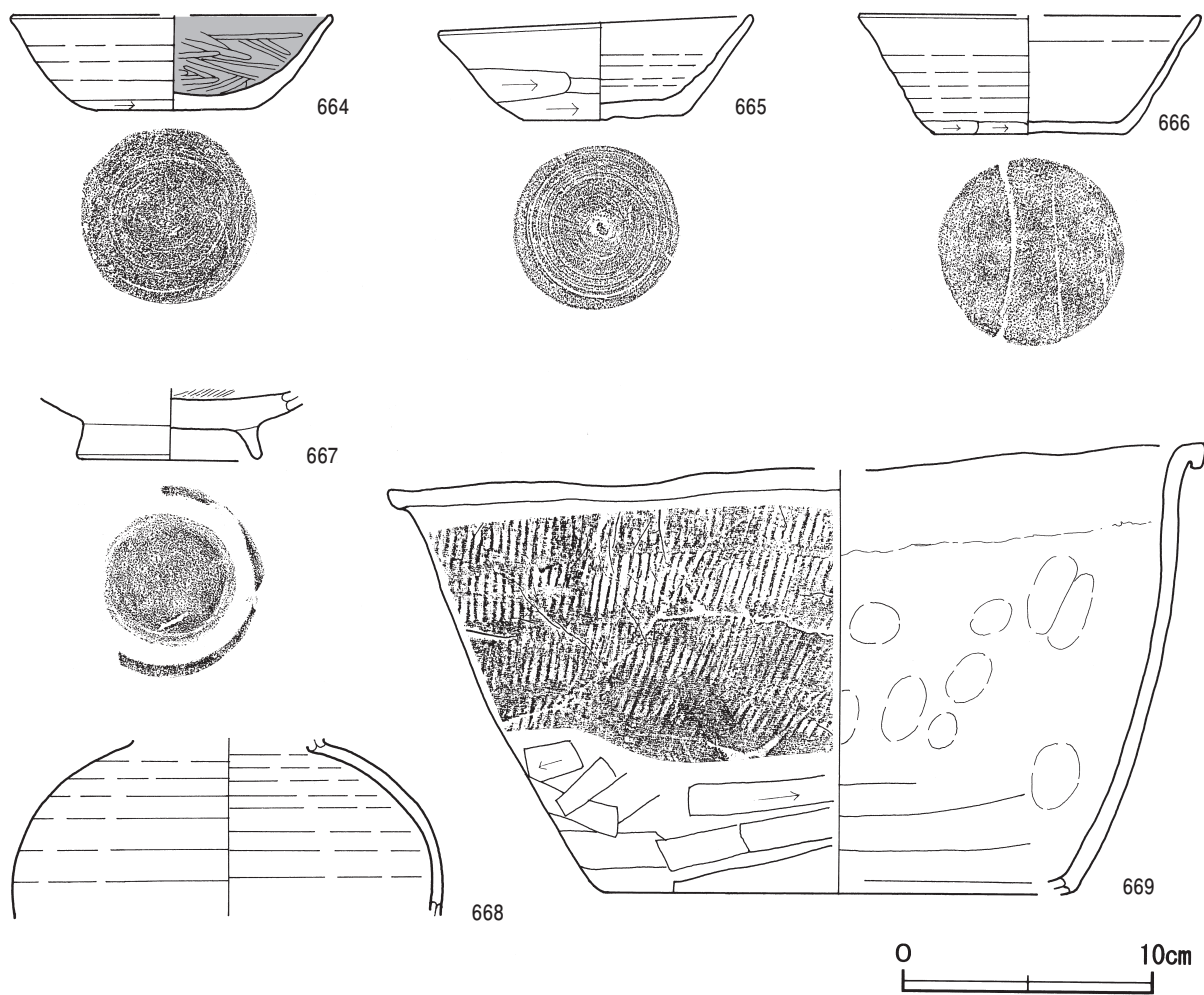
第339図 第5号井戸跡実測図

29点（坏6・甕23），須恵器片94点（坏41・高台付坏2・甕51），鉄滓2点が出土している。665は北壁の覆土中層，666～669は井戸枠内の覆土中，664は覆土中から出土している。N1・N2は底面近くから出土している。

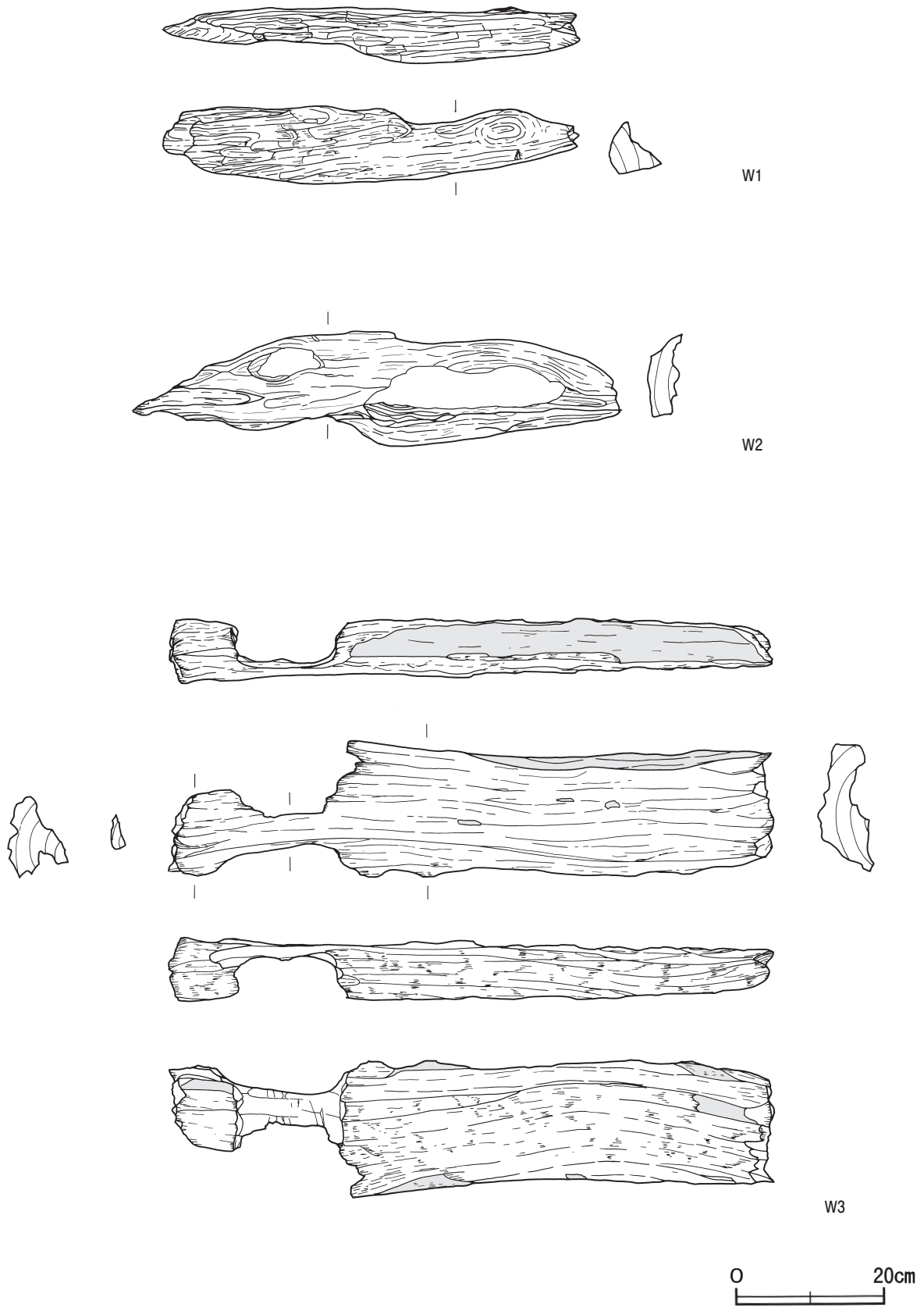
所見 時期は出土土器から9世紀中葉に比定できる。井戸枠は，出土状態から横井組相欠き仕口型構造の3段組で，南・北面を設置した後に東・西面を設置していると判断した。まず，南面のW4，北面のW8を組み，その上に東面のW11，西面のW13を組み第1段目となる。南面のW4は高さ調節のために10cmほど埋め込まれている。第2段目は南面にW3，北面にW7，東面にW10，西面にW12が組まれていたと思われる。3段目は南面のずれ落ちていたW5と一番上のW1・W2は同一の可能性があり，南面の3段目を構成していたものと思われる。北面にはW6，東面にはW9が生まれ西面の井戸枠は欠落している。井戸枠の材は全てクリ材である。



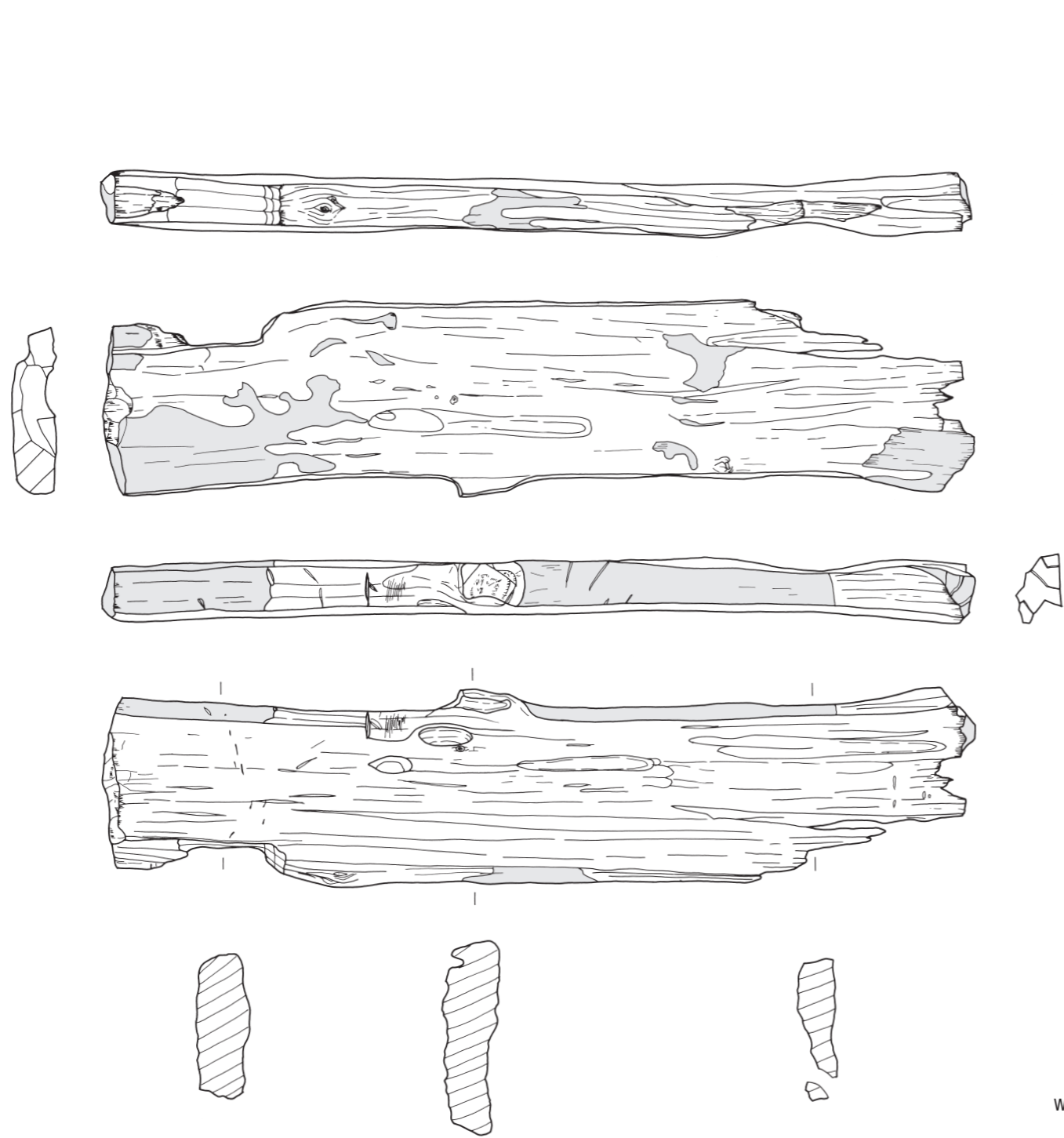
第340図 第5号井戸跡平面図及び側面図



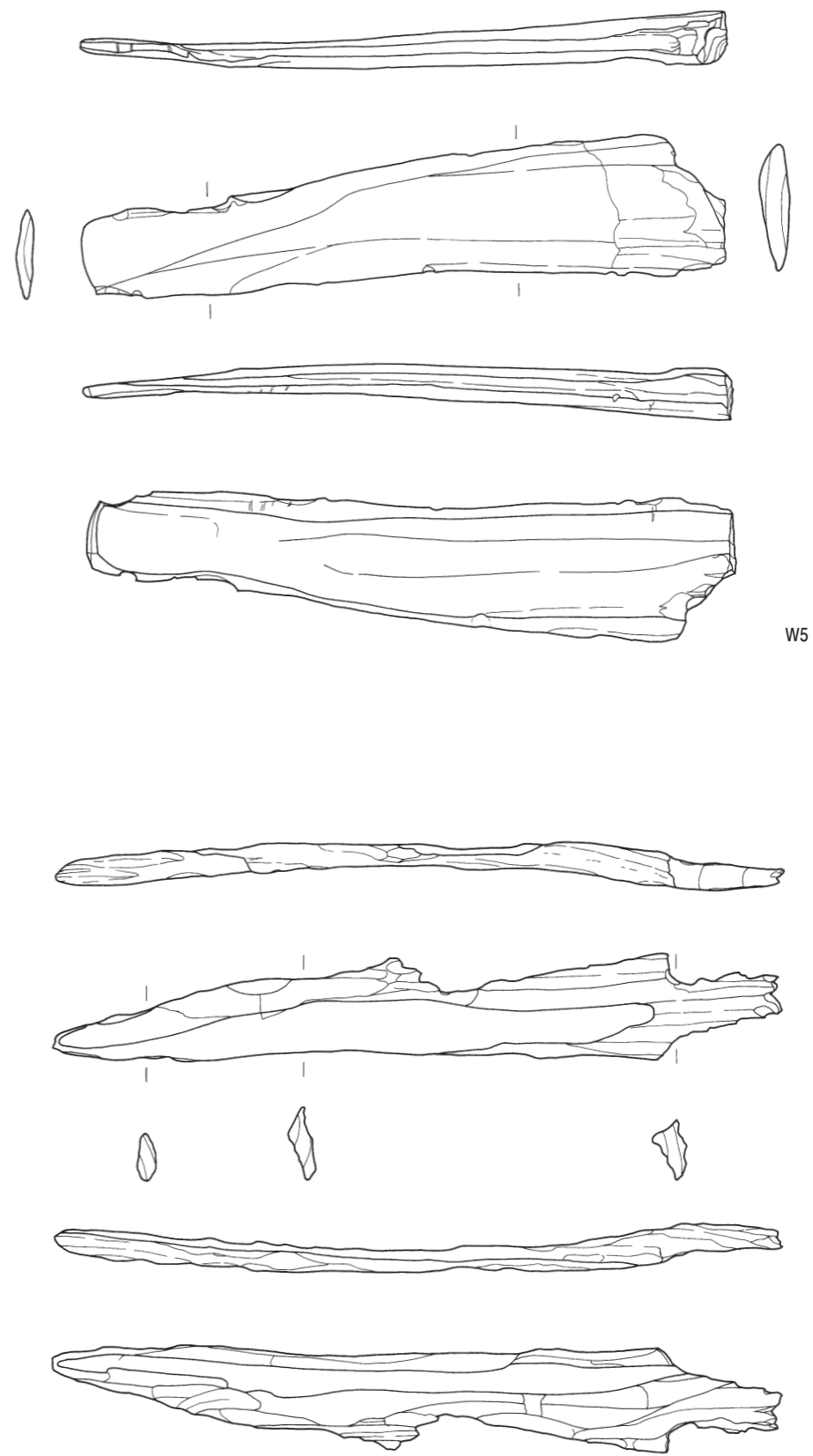
第341図 第5号井戸跡出土遺物実測図(1)



第342図 第5号井戸跡出土遺物実測図(2)



W4

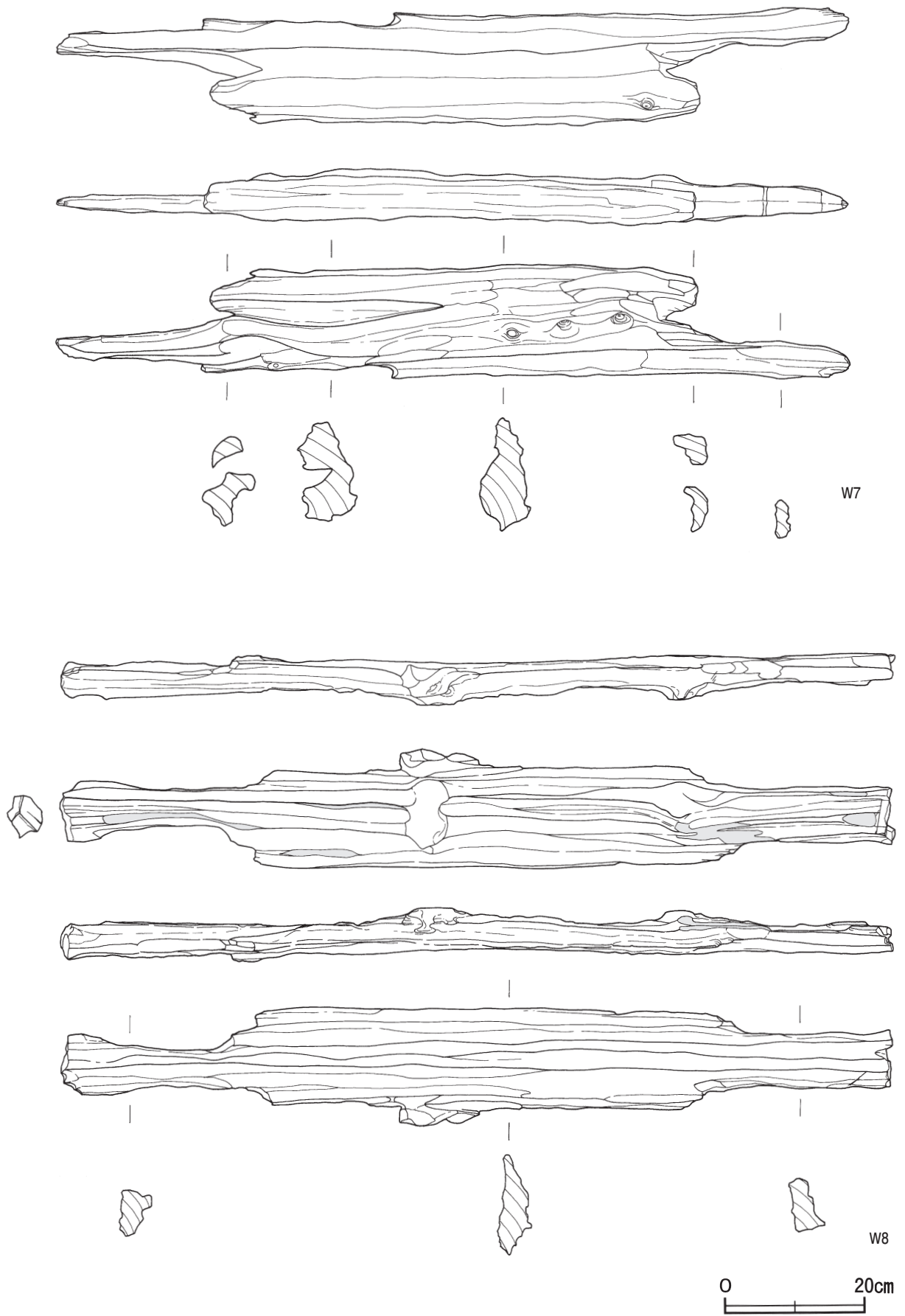


W5

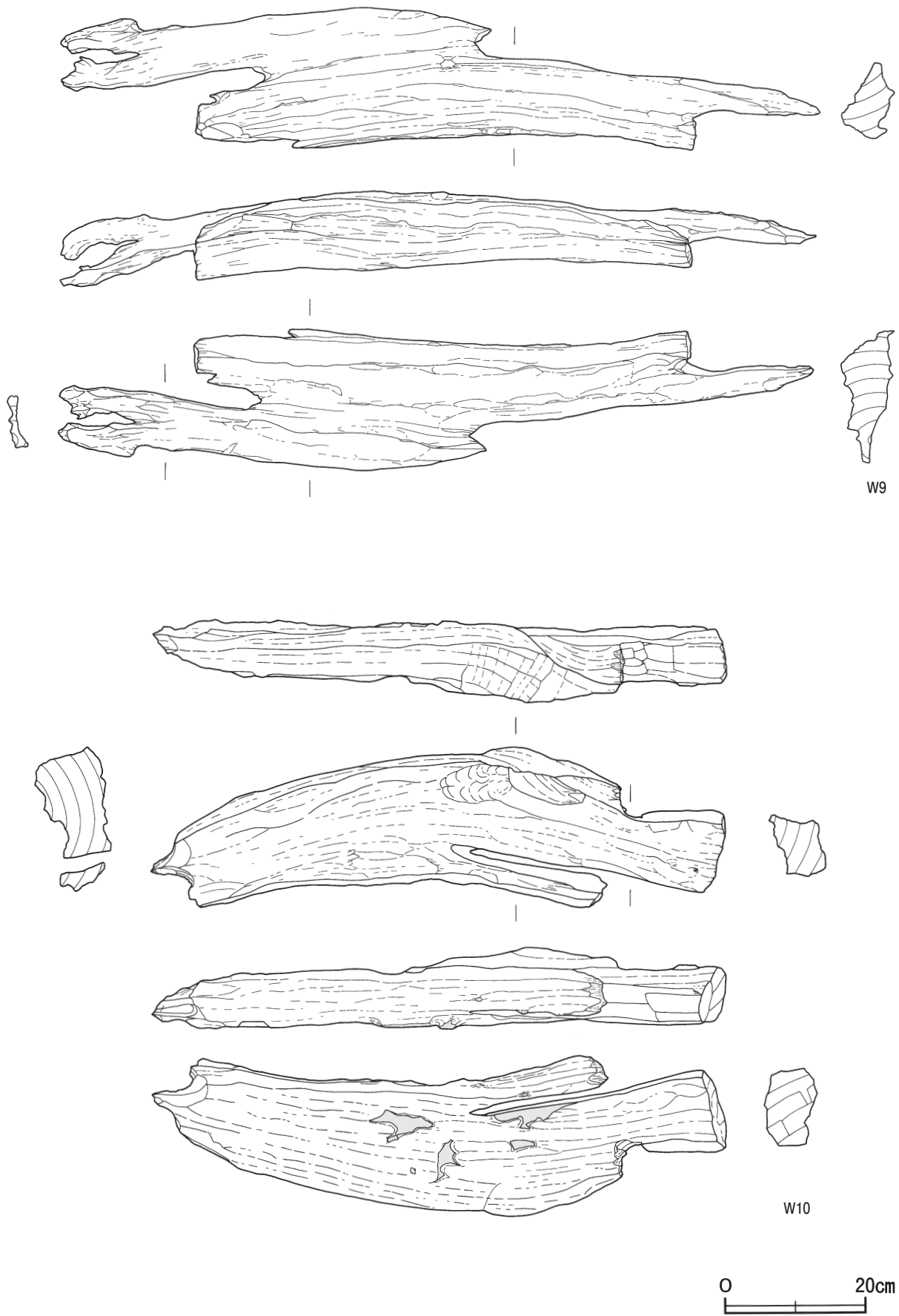
W6



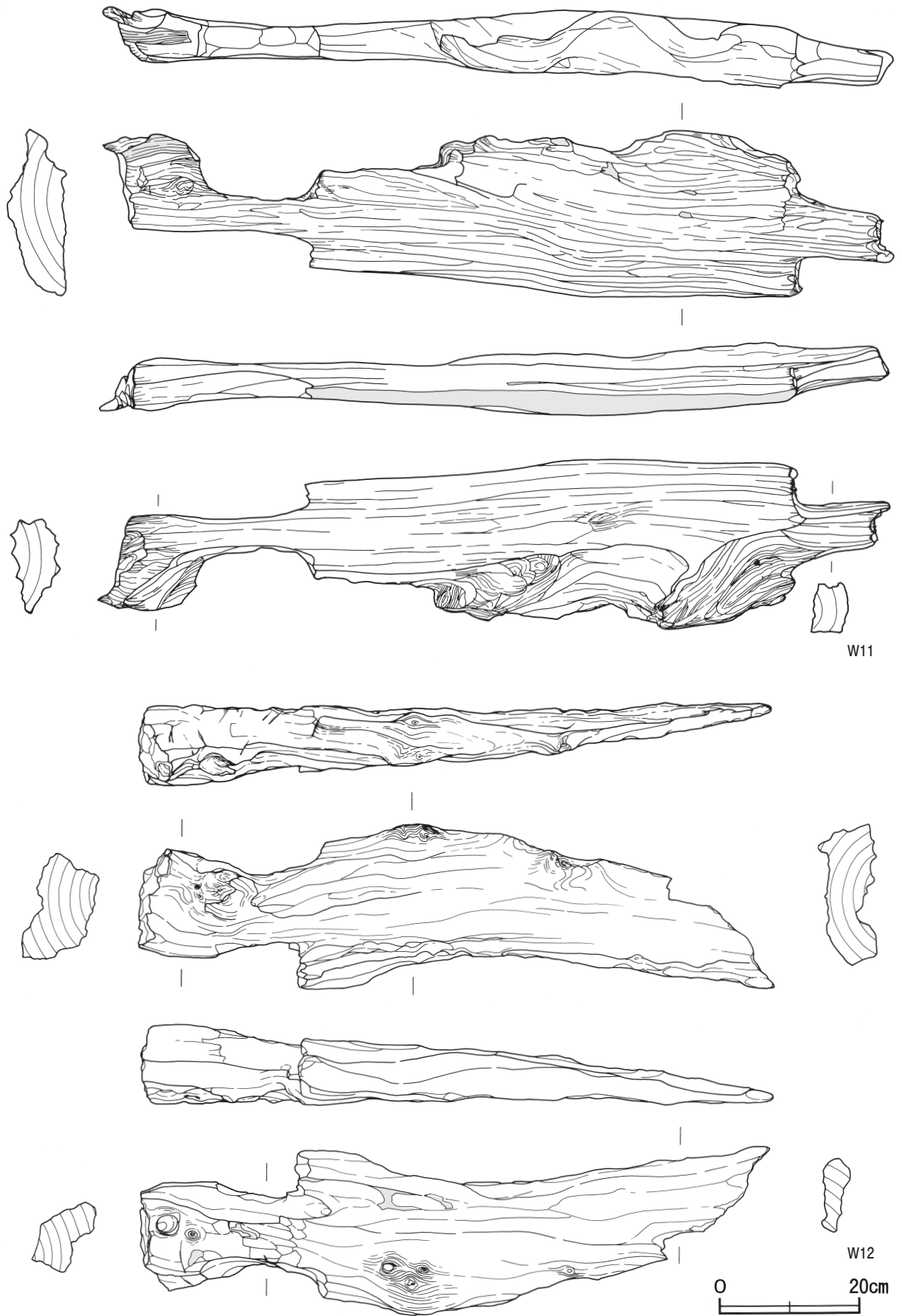
第343图 第5号井戸跡出土遺物実測図(3)



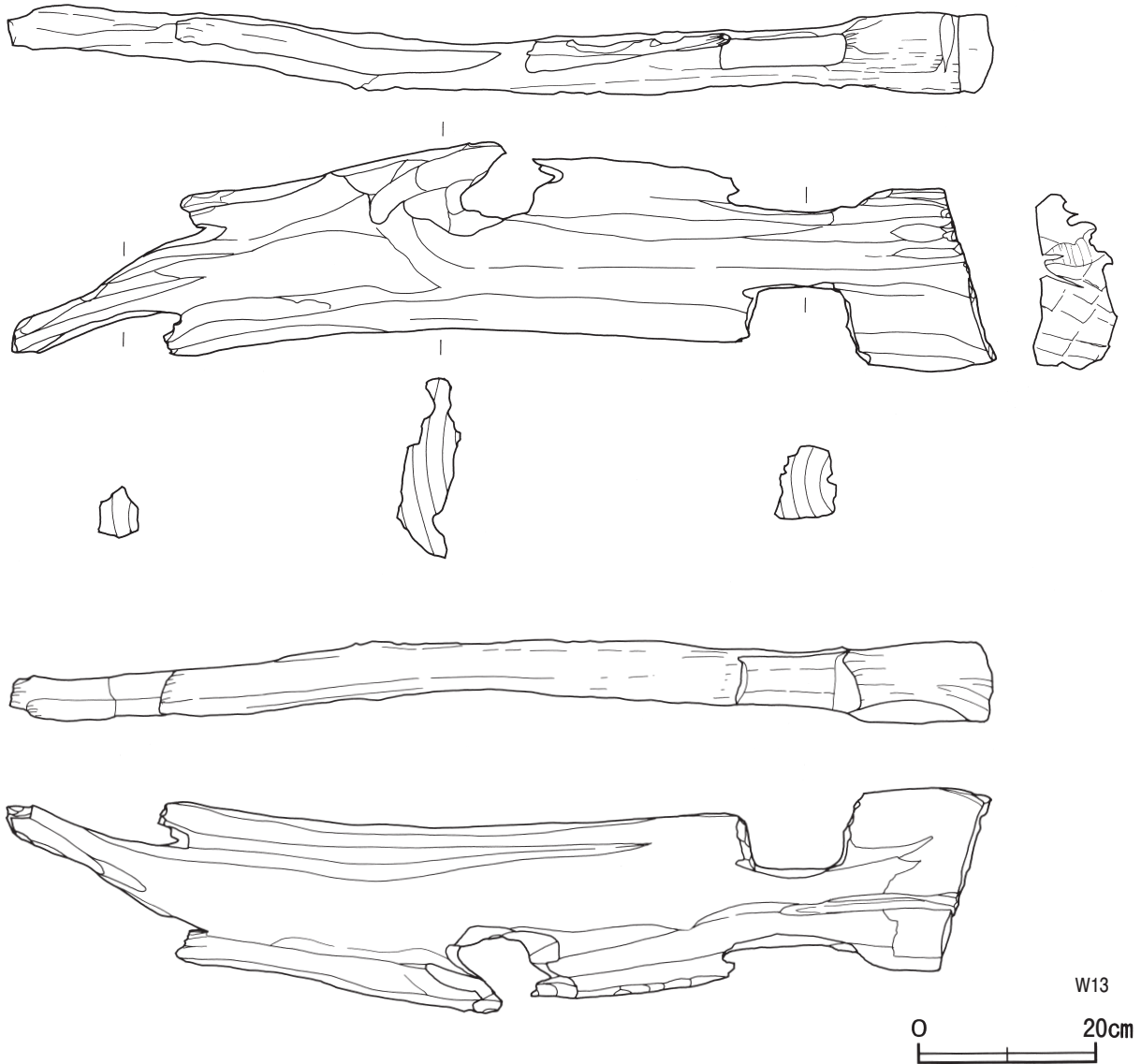
第344图 第5号井戸跡出土遺物実測図(4)



第345図 第5号井戸跡出土遺物実測図(5)



第346図 第5号井戸跡出土遺物実測図(6)



第347図 第5号井戸跡出土遺物実測図(7)

第5号井戸跡出土遺物観察表(第341~347図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
664	土師器	坏	[12.7]	3.8	6.2	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理 底部回転ヘラ削り	覆土中層	70%
665	須恵器	坏	12.4	4.2	6.6	長石	赤灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中層	95% PL88
666	須恵器	坏	[13.6]	4.8	7.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り	覆土中	50%
667	土師器	高台付坏	—	(2.7)	7.0	長石・雲母	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中	30%
668	須恵器	長頸瓶	—	(7.0)	—	長石・石英	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%
669	須恵器	甌	[32.8]	18.0	[19.0]	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部縦位の平行叩き 内面指頭圧痕 輪積痕	覆土中	50%

番号	種別	全長	幅	厚さ	内法	仕口幅				重量	木取り	形状・加工の特徴など	備考
						左上	右上	左下	右下				
W1	井戸枠	56.5	12.0	7.6	—	—	—	—	—	1390	板目	クリ材	PL96
W2	井戸枠	66.4	16.1	4.8	—	—	—	—	—	1300	板目	クリ材	
W3	井戸枠	82.7	18.5	8.5	(60.0)	(12.0)	—	(13.0)	—	4800	板目 辺材	クリ材 えぐり2か所 右端欠損	PL95
W4	井戸枠	117.8	26.4	7.9	72.0	10.5	11.5	×	×	12200	板目	クリ材 えぐり2か所 左木口に斧による加工痕	PL96

番号	種別	全長	幅	厚さ	内法	仕口幅				重量	木取り	形状・加工の特徴など	備考
						左上	右上	左下	右下				
W5	井戸枠	78.4	17.4	6.3	(71.0)	—	(6.0)	—	(6.0)	2600	板目	クリ材 えぐり1か所 右木口斧による加工痕	PL96
W6	井戸枠	88.0	12.7	5.0	71.0	(13.0)	—	(13.0)	—	13400	板目	クリ材 えぐり2か所 右端欠損	
W7	井戸枠	114.5	15.0	7.8	71.0	×	×	(17.0)	(17.5)	4600	柵目	クリ材 えぐり2か所	PL96
W8	井戸枠	120.4	17.0	6.0	72.0	(15.0)	(24.0)	(15.0)	(21.0)	3700	板目 板目 辺材	クリ材 えぐり4か所 左木口に斧による加工痕	PL95
W9	井戸枠	108.5	20.1	13.8	71.5	—	—	(19.5)	(18.0)	4200	柵目	クリ材 えぐり2か所	PL95
W10	井戸枠	82.3	22.7	11.6	(66.0)	(15.0)	—	(15.0)	—	7000	板目 板目 辺材	クリ材 えぐり2か所 左木口に斧による加工痕 右端欠損	PL95
W11	井戸枠	114.4	23.9	10.4	72.0	14.0	(13.0)	(14.0)	14.0	8400	板目 板目 辺材	クリ材 えぐり4か所 右端欠損	PL96
W12	井戸枠	90.5	23.7	11.5	(67.5)	22.0	—	22.5	—	6800	板目	クリ材 えぐり2か所 左木口に斧による加工痕	PL95
W13	井戸枠	111.8	21.1	7.0	(66.5)	(11.5)	—	(10.5)	—	7600	板目 半截材	クリ材 えぐり2か所 右端欠損	PL96

番号	種別	器種	最大幅	残存高	孔径	材質	色調	特徴	出土位置	備考
N1	瓢箪	加工 容器カ	(15.8)	(6.9)	1.8	瓢箪	明黄褐	用途不明, 容器として使用されたカ	底面	50%
N2	瓢箪	加工 容器カ	(18.4)	(9.3)	1.8	瓢箪	明黄褐	用途不明, 容器として使用されたカ	底面	50%

表12 平安時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)			断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)	
				長径	×	短径						深さ (cm)
2	F3b4	—	円形	2.56	×	2.32	(200)	円筒形	不明	自然・人為	土師器・須恵器	15住→本跡
3	D3e8	N-22°-W	楕円形	3.81	×	3.34	(250)	漏斗状	不明	自然・人為	土師器・須恵器・石器・鉄滓	
4	C3h2	—	円形	1.56	×	1.54	145	円筒形	皿状	自然・人為	土師器・須恵器	
5	D4d3	—	隅丸方形	3.74	×	3.74	292	漏斗状	平坦	人為	土師器・須恵器・木製 井戸枠・瓢箪	

(7) 土坑

平安時代と考えられる土坑は、28基確認されている。ここでは、特徴ある10基について記述し、その他については、一覧表と実測図および土層解説を記載する。また、遺物については、実測図と観察表を記載する。

第7号土坑 (第348図)

位置 調査区北部のB3d0区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.02m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。深さは37cmで、底面は皿状である。壁は、外傾して立ち上がっている。

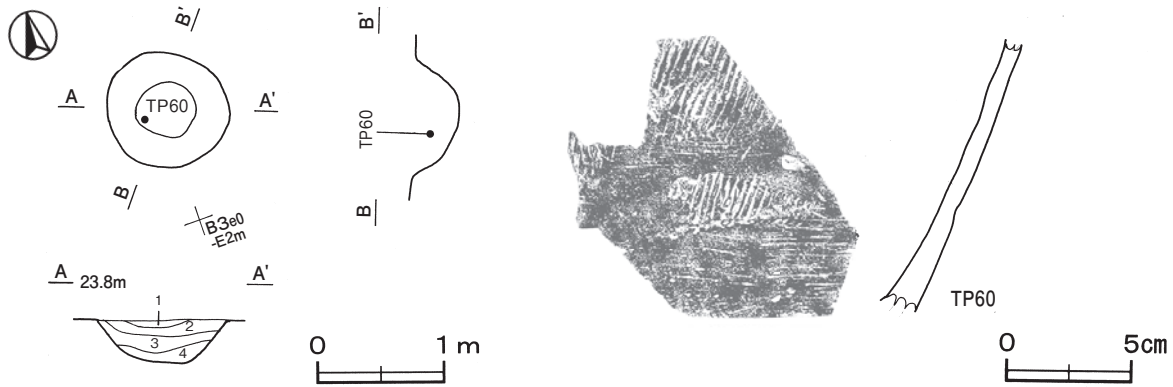
覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------|-------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 須恵器甕1点のほか、土師器甕片2点、須恵器坏片1点が出土している。TP60は、西部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第348図 第7号土坑・出土遺物実測図

第7号土坑出土遺物観察表（第348図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
TP60	須恵器	甕	—	(11.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面斜位の平行叩き 下端横位のヘラ削り 内部横位のナデ	覆土中層	

第21号土坑（第349図）

位置 調査区北部のB 4e8区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 東半部を第1号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東半部を第1号住居に掘り込まれているため、南北径は1.32m、東西径は0.68mしか確認できなかった。下端の形状から、東西方向に長径を有する楕円形と推測できる。深さは41cmで、底面は平坦である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。

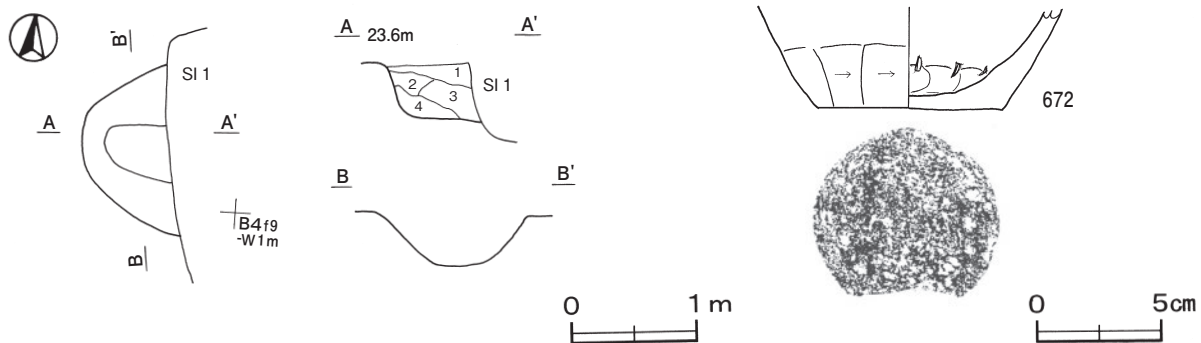
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれており、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器甕1点が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第349図 第21号土坑・出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表（第349図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
672	土師器	甕	—	(4.0)	7.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端横位のヘラ削り 内面ナデ	覆土中	10%

第28号土坑（第350図）

位置 調査区南部のF 3 a1区，標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径1.07m，短径0.66mの楕円形で，長径方向はN-20°-Eである。確認面からの深さが70cm，底面は皿状である。壁は北壁が外傾，南壁がオーバーハングして立ち上がっている。

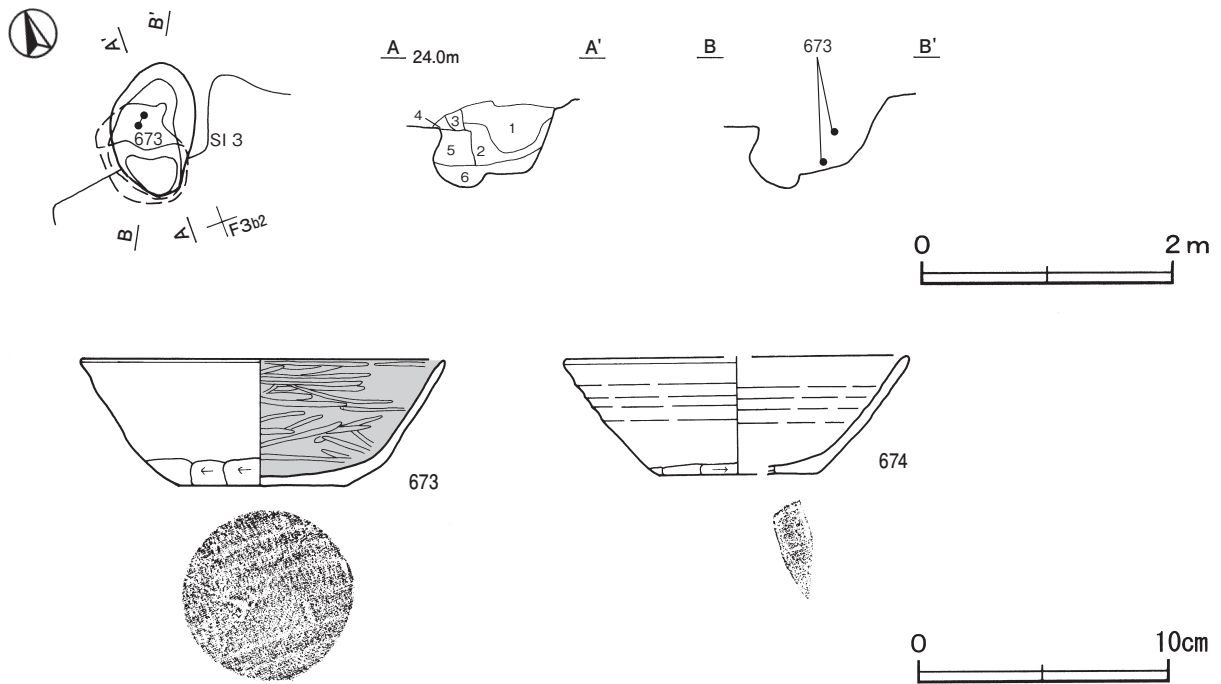
覆土 6層に分層できる。不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器杯・須恵器坏各1点のほか，土師器片35点（坏6・甕29），須恵器片6点（坏1・甕5）が出土している。673は覆土中層から出土した破片が接合したもので，674は覆土中から出土したものである。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第350図 第28号土坑・出土遺物実測図

第28号土坑出土遺物観察表（第350図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
673	土師器	坏	14.2	5.0	6.6	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中層	60% PL88
674	須恵器	坏	[13.6]	4.6	[6.2]	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ削り	覆土中	10%

第35号土坑（第351図）

位置 調査区南部のE 3 j2区，標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径0.96m, 短径0.88mの楕円形である。長径方向はN-80°-Eである。確認面からの深さは40cm, 底面は平坦である。壁はほぼ外傾して立ち上がっているが, 東壁は緩やかに立ち上がっている。

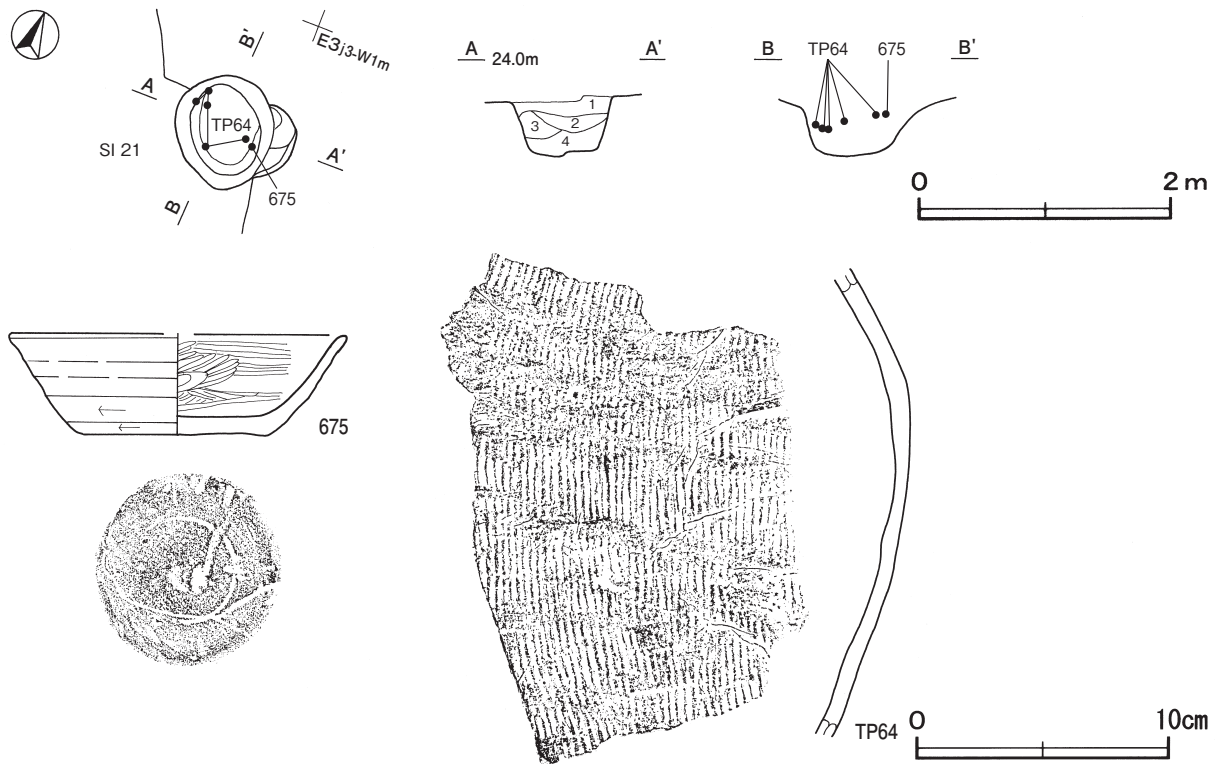
覆土 4層に分層でき, 各層ともに締まりがある。ロームブロックを含んでいることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック中量, (鉄分多量)
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器坏1点, 須恵器甕1点のほか, 土師器片22点(坏2・甕20), 須恵器片6点(坏3・甕3)が出土している。675は覆土中層から出土したもので, TP64は覆土中層に散在した破片4点が接合したものである。

所見 覆土にロームブロックを含み, 埋め戻されているが, 性格は不明である。時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第351図 第35号土坑・出土遺物実測図

第35号土坑出土遺物観察表 (第351図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
675	土師器	坏	[13.4]	4.0	7.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 体部下端回転ヘラ削り 回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	底部 覆土中層	70% PL88
TP64	須恵器	甕	—	(18.6)	—	長石・石英	褐灰	普通	縦位の平行叩き 内面当て具痕	覆土中層	PL90

第79号土坑 (第352図)

位置 調査区南部のE 3 b2区, 標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外に延びており, 全容は明らかでない。確認された規模は, 南北径が1.70m, 東西径が0.92mしか確認できなかったが, 楕円形と推定される。確認された部分の長径方向はN-20°-Eである。

深さは70cm, 底面は凹凸があり, 壁は外傾して立ち上がっている。

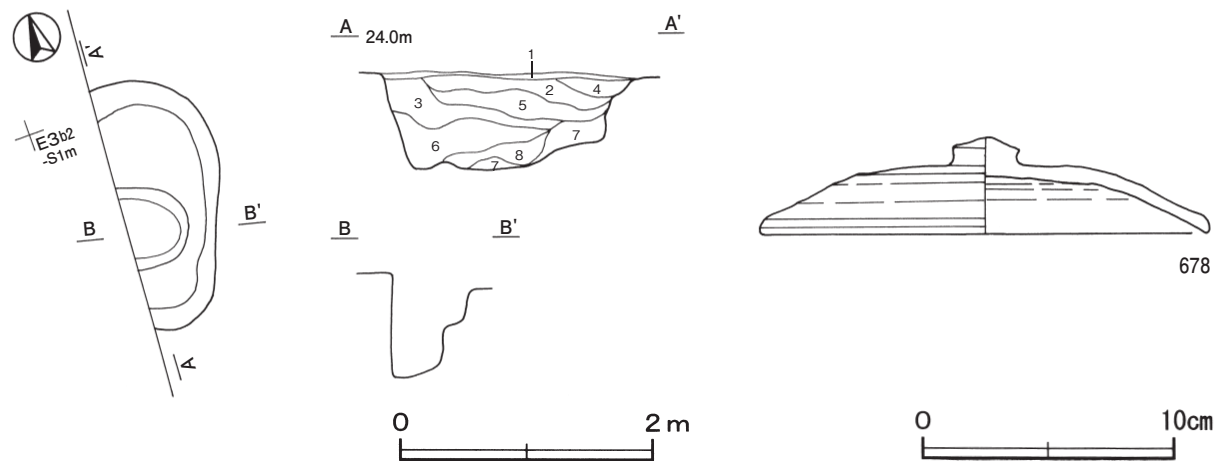
覆土 8層に分層できる。第1層は表土である。覆土は, ロームブロックを多量に含んでいることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 褐色 | 炭化物中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 にぶい褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 |

遺物出土状況 須恵器蓋1点のほか, 土師器片3点(坏1・甕2), 須恵器片2点(坏・甕)が出土している。678は, 覆土中から出土したものである。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第352図 第79号土坑・出土遺物実測図

第79号土坑出土遺物観察表 (第352図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
678	須恵器	蓋	[17.6]	3.8	—	長石・石英・雲母	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中	25%

第135号土坑 (第353図)

位置 調査区北部のD 3 fl区, 標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第40号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径1.36m, 短径1.07mの楕円形で, 長径方向はN-46°-Wである。深さは60cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

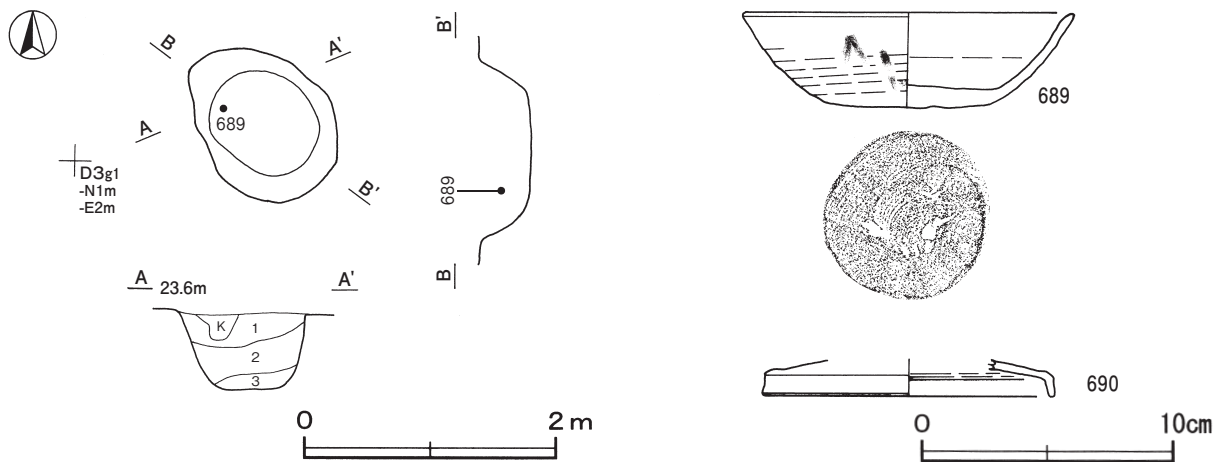
土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 明褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器坏1点, 須恵器蓋1点のほか, 土師器片64点(坏12・甕52), 須恵器片22点(蓋1・甕21), 灰釉陶器瓶片1点が出土している。689は覆土中層, 690は覆土中から出土したものである。ほかの破片

は流れ込んだものとみられ、細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第353図 第135号土坑・出土遺物実測図

第135号土坑出土遺物観察表（第353図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
689	土師器	坏	12.9	3.8	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後、回転ヘラ削り 墨書「□」	覆土中層	80% PL88
690	須恵器	蓋	[11.4]	(1.4)	—	長石	にぶい黄橙	良好	天井部に自然釉	覆土中	5%

第155号土坑（第354図）

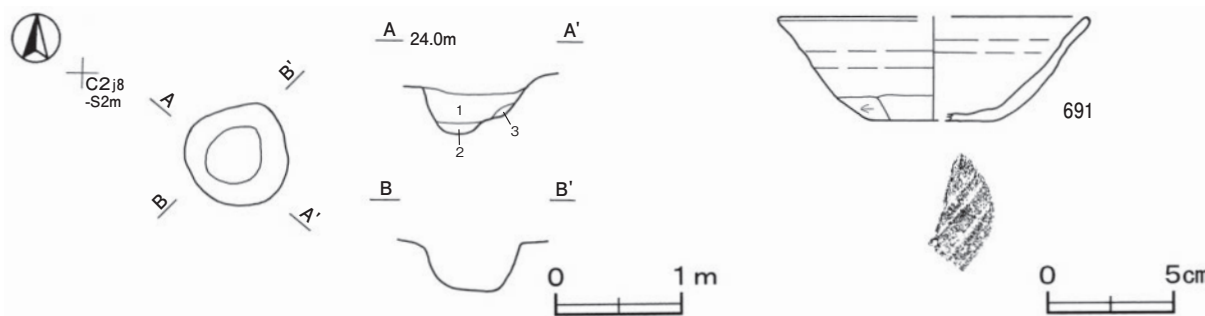
位置 調査区北部のC 2j8区、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径0.85mほどの円形である。深さは37cm、底面は平坦で、南・西壁は外傾し、北・東壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ほとんどが黒褐色の土で、堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ローム粒子少量
 2 極暗褐色 ロームブロック少量



第354図 第155号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 須恵器坏1点のほか、土師器甕片11点、須恵器高台付坏片1点が出土している。691は覆土中から出土したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。

第155号土坑出土遺物観察表（第354図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
691	須恵器	坏	[12.2]	4.2	[4.8]	長石	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中	20%

第162号土坑（第355・356図）

位置 調査区北部のB4h7区、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

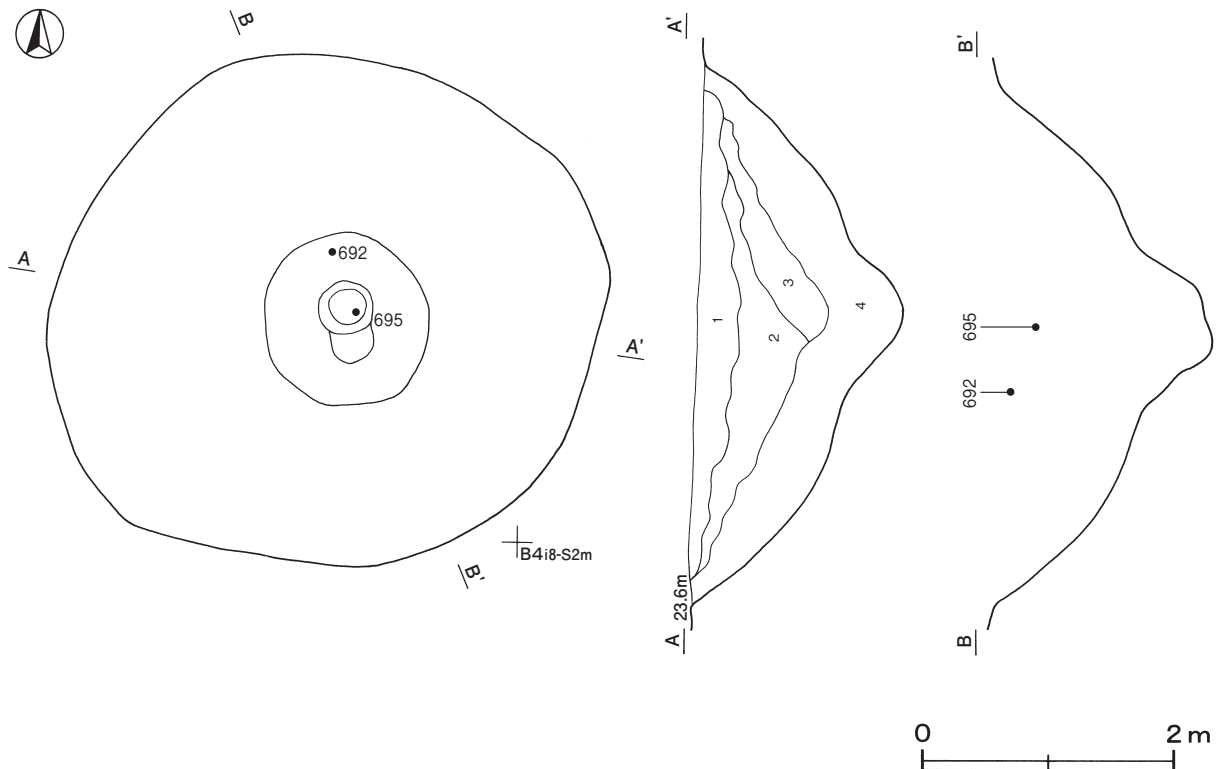
規模と形状 径4.3mほどの円形で、深さは162cmである。形状は挿鉢状である。底面に径140cm、深さ65cmの円筒形の掘り込みがある。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積しているが、ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|---------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 黒色 | ロームブロック少量 | 4 にぶい褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

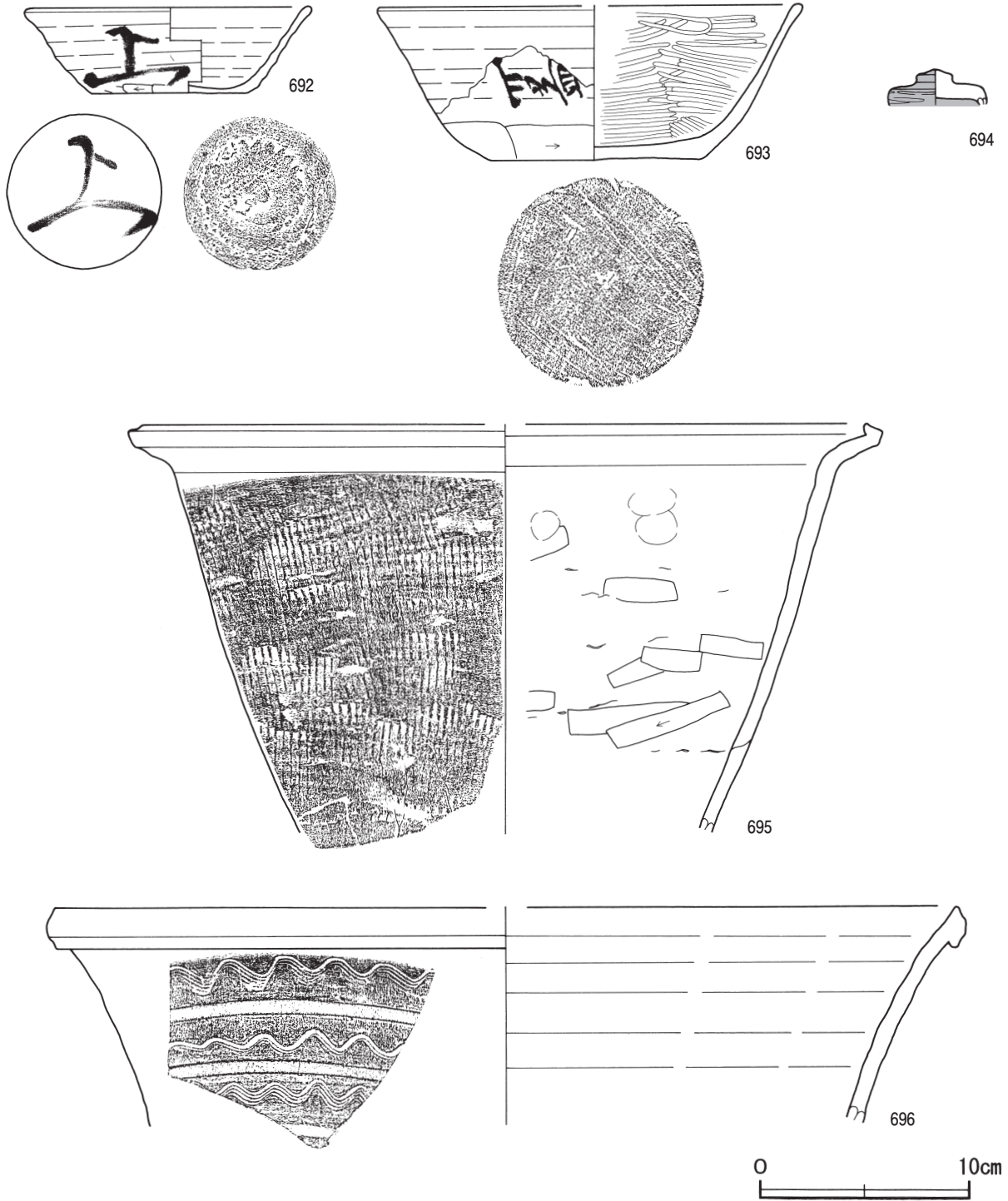
遺物出土状況 土師器椀・蓋カ各1点、須恵器坏・鉢・甕各1点のほか、土師器片10点（坏2・甕8）、須恵器片50点（坏8・蓋2・甕40）が出土している。692・695は覆土上層から、693・694は覆土中から出土してい



第355図 第162号土坑実測図

る。696は流れ込んだものとみられる。692は体部と底部に「上」の文字が、693は体部に「万益」の文字が墨書されている。

所見 播鉢状で底面に円形の掘り込みがある形状から、氷室状土坑と考えられているものである。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第356図 第162号土坑出土遺物実測図

第162号土坑出土遺物観察表（第356図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
692	須恵器	坏	13.7	4.2	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り 体部・底部に墨書「上」	覆土上層	95% PL88
693	土師器	椀	[20.1]	7.4	10.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ち ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部一方向のヘ ラ削り 体部に墨書「万益」	覆土中	70% PL89
694	土師器	蓋カ	—	(1.7)	—	長石・石英・雲母	黒	普通	内・外面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	80% PL88
695	須恵器	鉢	[34.6]	(19.5)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部縦位の平行叩き 内面ヘラ削り 指頭圧痕 輪積痕	覆土上層	20%
696	須恵器	甕	[43.2]	(10.4)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	頸部に3本以上の横位の沈線間に櫛描状波 状文	覆土中	5%

第163号土坑（第357図）

位置 調査区東部のC5f4区，標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第84号住居跡を掘り込んでいる。

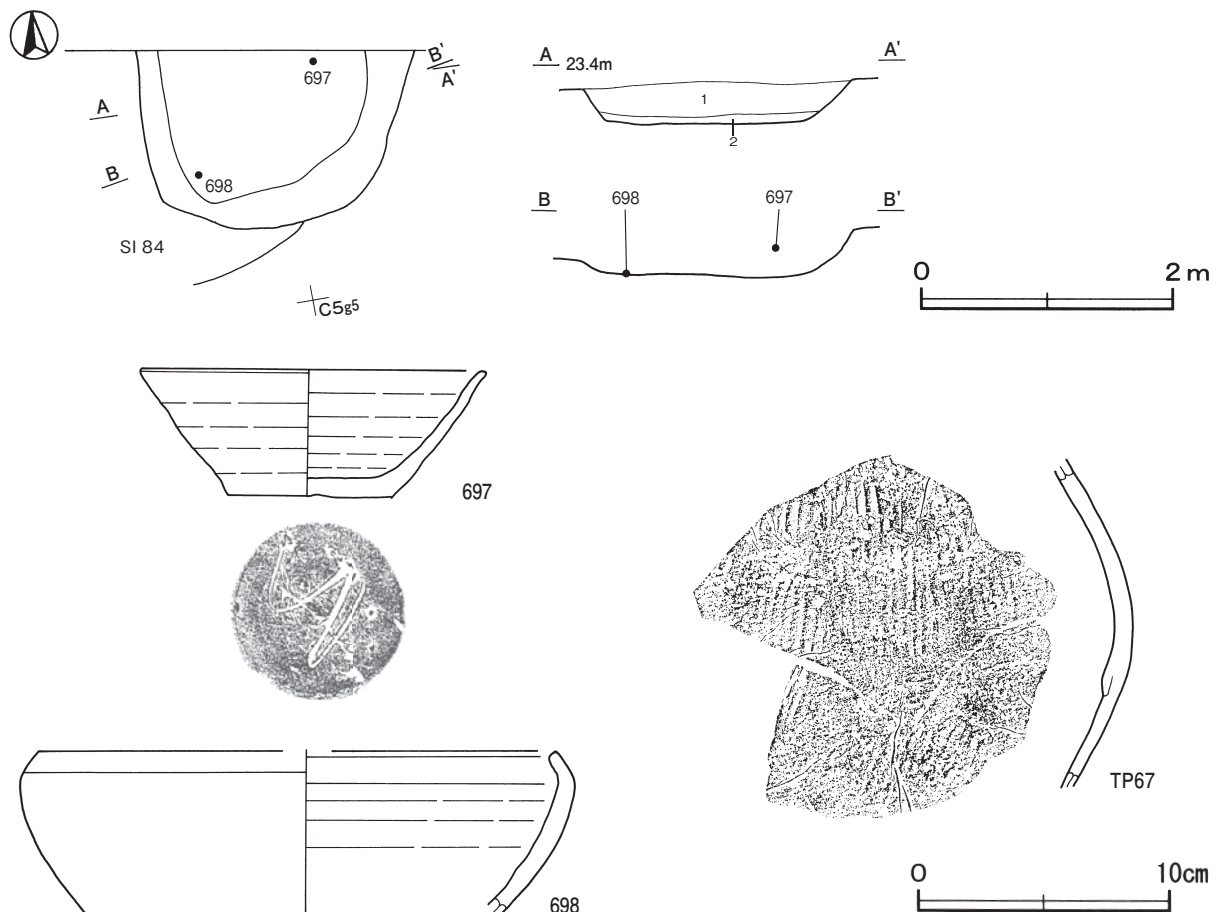
規模と形状 北半部が攪乱を受けており，全容は明らかでない。確認された規模は東西径2.18mで，南北径は1.42mしか確認できなかったが，楕円形と推定される。確認された部分の長径方向はN-80°-Wである。深さは40cm，底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流れ込みの状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

2 黒褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量



第357図 第163号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 須恵器坏・甕・仏鉢各1点のほか、土師器甕片2点、須恵器片3点（坏・甕・甑）が出土している。697は覆土上層、698は底面から、TP67は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。

第163号土坑出土遺物観察表（第357図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
697	須恵器	坏	13.7	5.1	6.4	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、不定方向のナデヘラ記号「W」	覆土上層	80%
698	須恵器	仏鉢	[20.5]	(6.5)	—	長石・石英・雲母	褐灰	普通	内・外面ロクロナデ	底面	5%
TP67	須恵器	甕	—	(13.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面縦位の平行叩き 内面剥離	覆土中	

第174号土坑（第358・359図）

位置 調査区東部のC5j2区、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第111号住居跡を掘り込み、第93号住居に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は長軸2.22m、短軸1.16mの長方形で、長軸方向はN-5°-Eである。深さは20cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

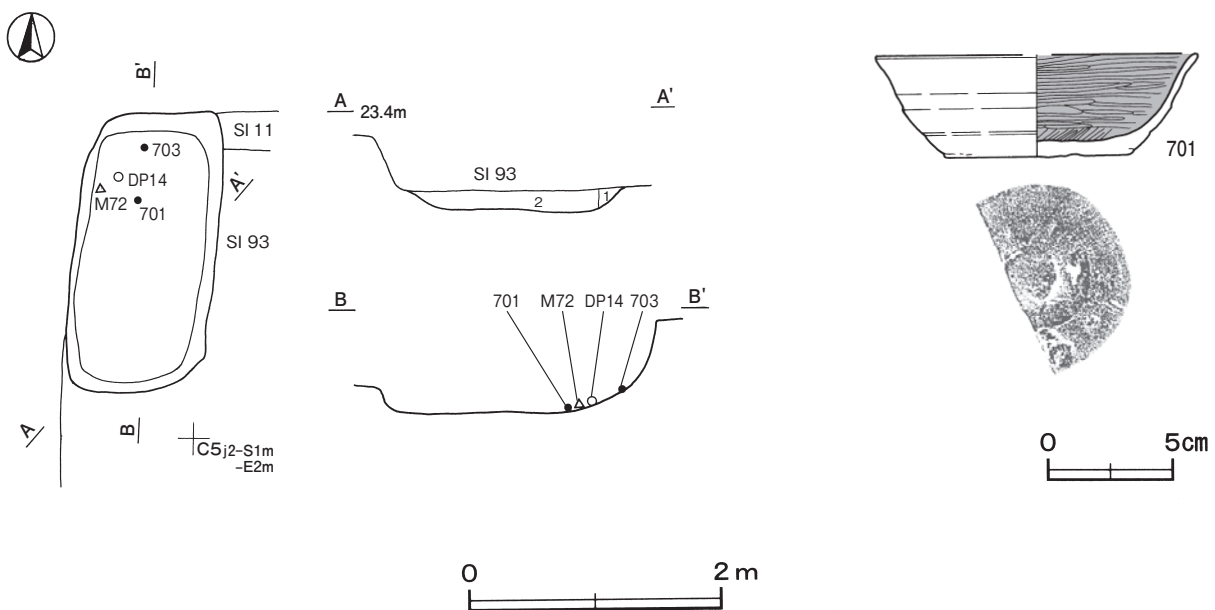
覆土 2層に分層できる。不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

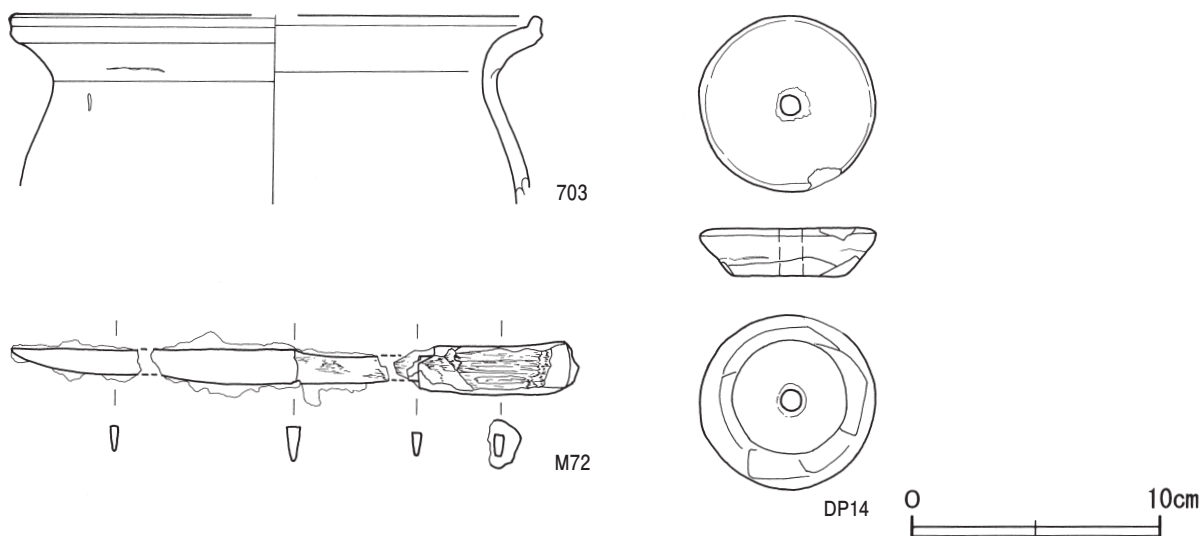
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器坏・甕各1点、土製紡錘車・刀子各1点のほか、土師器片35点（鉢1・甕34）、須恵器片3点（坏・蓋・甕）が出土している。図示した遺物は、すべて北部底面から集中して出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。形状や出土遺物の状況から、墓坑の可能性が想定できるが、骨片や骨粉は認められていないため、明確ではない。



第358図 第174号土坑・出土遺物実測図



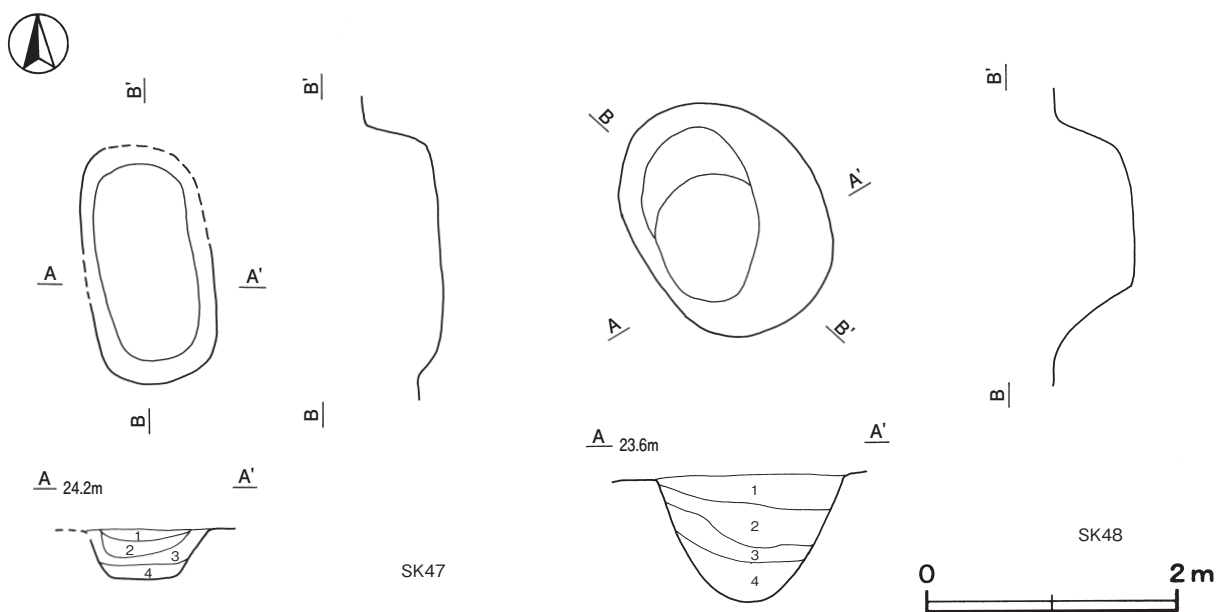
第359図 第174号土坑出土遺物実測図

第174号土坑出土遺物観察表（第358・359図）

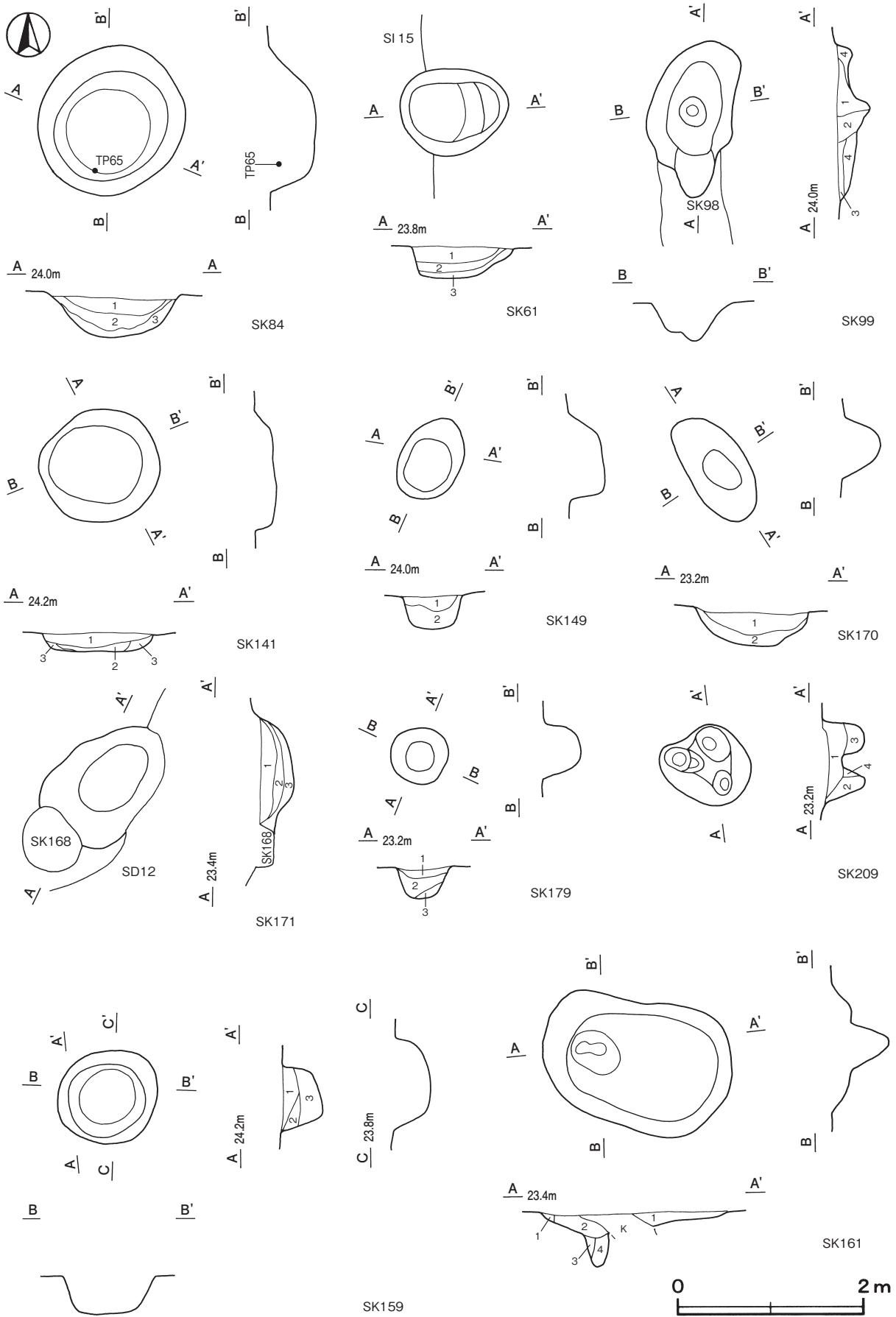
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
701	土師器	坏	[12.8]	4.1	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内面へら磨き 黒色処理 底部回転へら切り後ナデ	底面	40%
703	土師器	甕	[21.5]	(7.6)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ	底面	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP14	紡錘車	7.1	2.0	0.8	(88.6)	土製	ナデ 孔周囲使用痕明瞭	底面	PL92

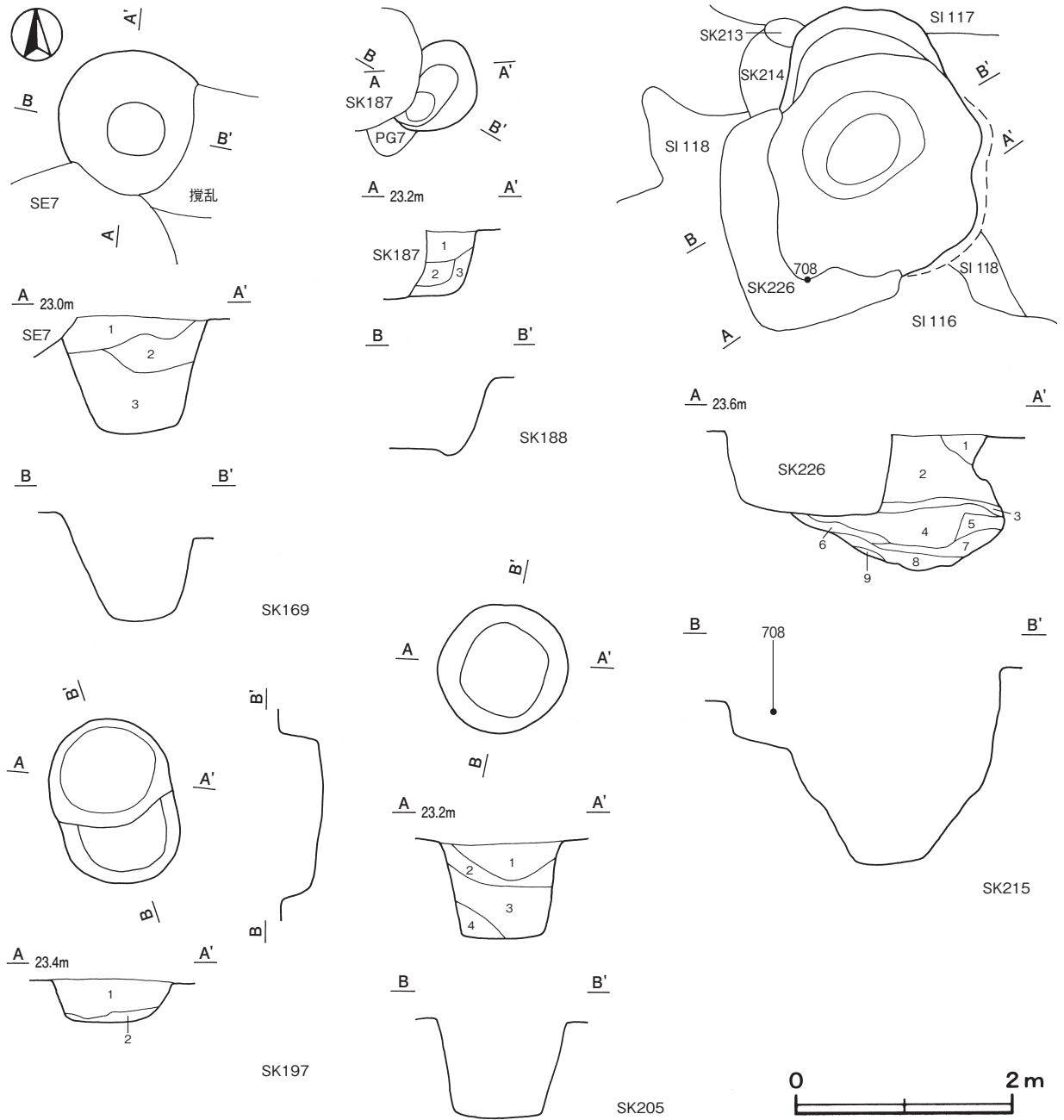
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M72	刀子	[22.5]	1.4	0.6	(34.3)	鉄	一部欠損 片閃カ 茎部木質残存	底面	PL94



第360図 平安時代のその他の土坑実測図（1）



第361図 平安時代のその他の土坑実測図（2）



第362図 平安時代のその他の土坑実測図（3）

第47号土坑土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|-------|------------|
| 1 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | 白色粘土ブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・青灰色粘土粒子少量 | | |
| 3 灰黄褐色 | 青灰色粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

第48号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック中量 |

第61号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|---------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子極微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

第84号土坑土層解説

- | | | | |
|------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 3 暗黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒色 | ロームブロック少量 | | |

第99号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

第141号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

第149号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
|-------|-----------|-------|-------------------|

第159号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

第161号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |

第169号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 3 黒色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

第170号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子少量 |
|-------|--------------|-------|---------|

第171号土坑土層解説

- | | | | |
|----------|---------|-------|---------|
| 1 にぶい黄褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

第179号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|---------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子極微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子微量 | | |

第188号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|---------|------|---------|
| 1 褐色 | ローム粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | | |

第197号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子極微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
|-------|--------------------|-------|-------------------|

第205号土坑土層解説

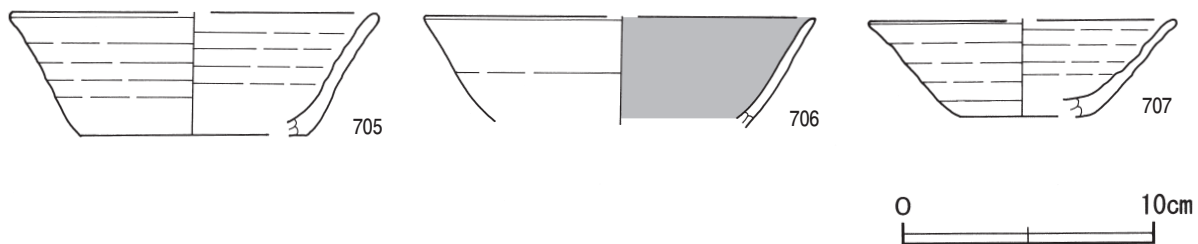
- | | | | |
|---------|-----------|-------|-------------------|
| 1 にぶい褐色 | ロームブロック中量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子極微量 |

第209号土坑土層解説

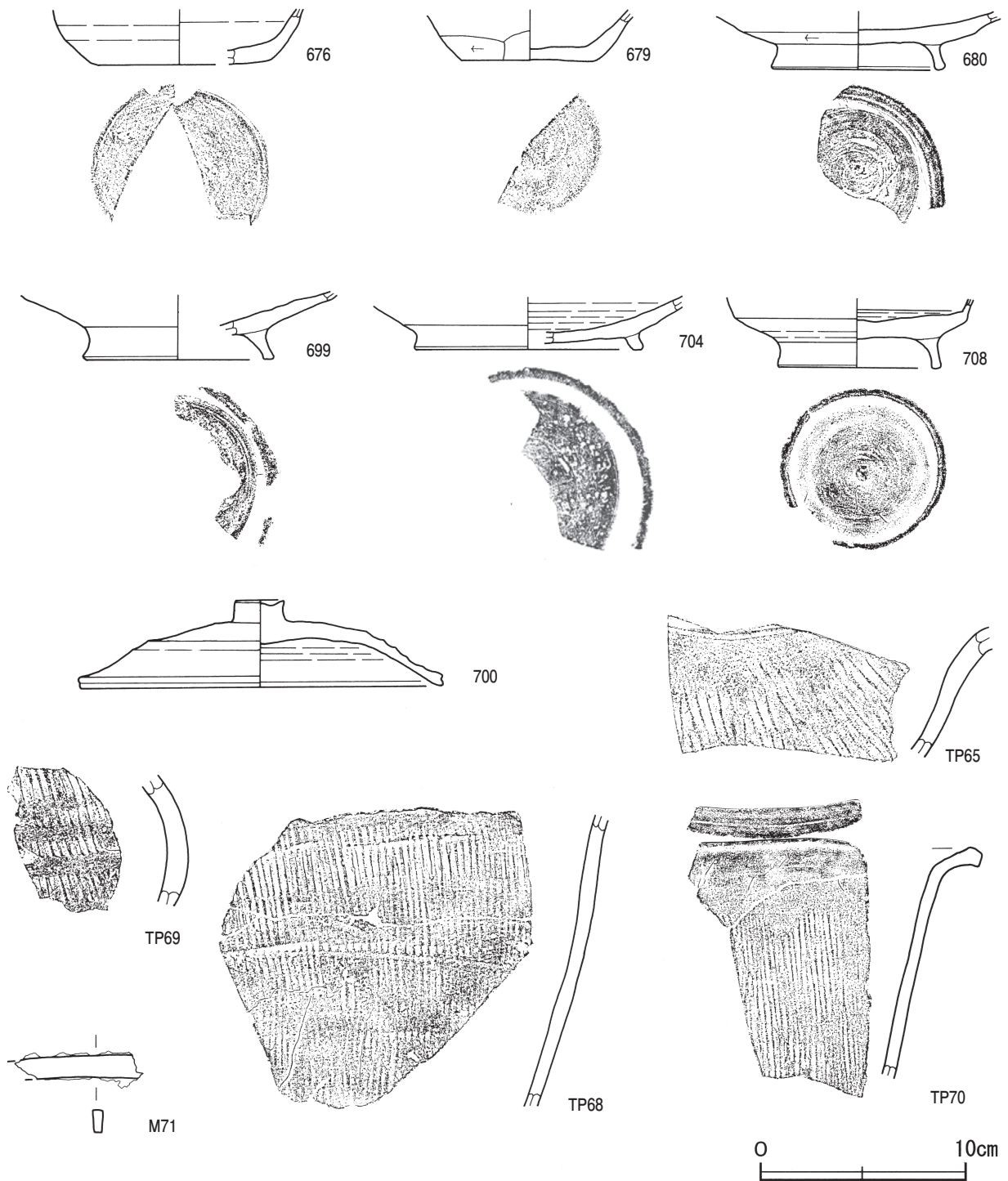
- | | | | |
|-------|-------------------|---------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 にぶい褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

第215号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 白色粘土ブロック微量, ローム粒子極微量 |
| 2 黒褐色 | 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・白色粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 白色粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・白色粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量, 白色粘土ブロック微量 | 8 黒褐色 | 白色粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |



第363図 平安時代のその他の土坑出土遺物実測図(1)



第364図 平安時代のその他の土坑出土遺物実測図（2）

平安時代のその他の土坑出土遺物観察表（第363・364図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
676	土師器	坏	—	(2.7)	8.5	長石・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り	SK47	20%
679	土師器	坏	—	(2.5)	[6.5]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後、ナデ	SK84	10%
680	須恵器	高台付皿	—	(2.8)	[8.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	SK99	10%
699	須恵器	盤	—	(3.3)	[8.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切りカ	SK170	15%
700	須恵器	蓋	[17.4]	4.2	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	SK170	75% PL88

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
704	須恵器	盤	—	(2.6)	[11.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、高台貼付け	SK179	15%
705	須恵器	坏	[14.5]	4.9	[8.9]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端ヘラ削り 底部ヘラ削り	SK188	5%
706	土師器	坏	[15.4]	(4.3)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	黒色処理	SK205	5%
707	須恵器	坏	[12.1]	3.8	[4.9]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	SK209	10%
708	土師器	高台付坏	—	(3.4)	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼付け	SK215	50%
TP65	須恵器	甕	—	(6.3)	—	長石・石英	黄灰	良好	外面縦位の平行叩き 内面当て具痕	SK84	PL90
TP68	須恵器	甕	—	(14.3)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	外面縦位の平行叩き	SK170	
TP69	須恵器	甕	—	(6.3)	—	長石・石英	褐灰	良好	外面縦位の平行叩き	SK205	
TP70	須恵器	甕	—	(11.2)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面縦位の平行叩き 内面当て具痕	SK215	PL90

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M71	刀子	(6.3)	1.2	0.5	(15.7)	鉄	断面長方形	SK47	

表13 平安時代土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m, 深さはcm)			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ						
7	B 3 d0	楕円形	N-58°-W	1.02 × 0.90	37	外傾	皿状	自然	土師器・須恵器	9C中	
21	B 4 e8	(楕円形)	—	(1.32) × (0.65)	41	緩斜	平坦	人為	土師器	9C前 本跡→1住	
28	F 3 a1	楕円形	N-20°-E	1.07 × 0.66	70	外傾・内傾	皿状	人為	土師器・須恵器	9C中 3住→本跡	
35	E 3 j2	円形	—	0.96 × 0.88	40	外傾・緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器	9C中 21住→本跡	
47	E 2 f9	[隅丸長方形]	N-10°-W	[1.92] × 1.00	60	緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器・刀子	62住→本跡	
48	C 4 f7	楕円形	N-33°-W	1.96 × 1.54	108	緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器	72住→本跡	
61	F 3 c5	楕円形	N-85°-E	1.15 × 0.96	35	外傾・緩斜	平坦	自然		15住→本跡、東壁側に段差あり	
79	E 3 b2	[楕円形]	N-20°-E	(1.70 × 0.92)	70	外傾	凹凸	人為	土師器・須恵器	9C前	
84	C 1 h6	円形	—	1.60 × 1.52	50	外傾・緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器・陶器・磁器		
99	D 2 i9	不整楕円形	N-6°-E	1.72 × 0.92	43	外傾・緩斜	皿状	人為	土師器・須恵器	98土坑→本跡	
135	D 3 f1	楕円形	N-46°-W	1.36 × 1.07	60	外傾	平坦	自然	土師器・須恵器・灰釉陶器	9C後 40住→本跡	
141	E 2 d7	円形	—	1.28 × 1.22	24	外傾・緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器		
149	C 2 j7	楕円形	N-25°-E	0.95 × 0.68	39	外傾・緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器		
155	C 2 j8	円形	—	0.85 × 0.85	37	外傾・緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器	9C中	
159	E 2 g9	楕円形	N-60°-E	1.16 × 1.03	53	外傾	皿状	自然	土師器・須恵器	63住→本跡	
161	C 4 f2	楕円形	N-70°-W	2.09 × 1.43	21	緩斜	皿状	自然	土師器・須恵器・陶器	西側がピット状に下がる	
162	B 4 h7	円形	—	4.30 × 4.30	162	緩斜	播鉢状	人為	土師器・須恵器	9C中	
163	C 5 f4	[楕円形]	N-80°-W	2.18 × (1.42)	40	緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器・磨石	9C中 84住→本跡	
169	D 4 f7	[円形]	—	(1.30 × 1.27)	106	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	本跡→7井戸	
170	D 4 e6	楕円形	N-33°-W	1.25 × 0.63	42	外傾・緩斜	皿状	自然	土師器・須恵器		
171	D 3 a9	楕円形	N-47°-E	(1.38) × 1.00	25	緩斜	皿状	自然		本跡→34掘立→12溝	
174	C 5 i2	長方形	N-5°-E	2.22 × 1.16	20	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器・刀子・土製紡錘車	9C中 93住→本跡→111住	
179	D 4 e8	円形	—	0.65 × 0.60	40	外傾	皿状	自然	土師器・須恵器		
188	D 4 e8	楕円形	N-30°-E	0.92 × (0.52)	71	外傾	皿状	自然	須恵器	本跡→187土坑	
197	F 3 a0	楕円形	N-15°-W	1.56 × 1.13	39	外傾	平坦	人為	須恵器		
205	F 4 e7	円形	—	1.21 × 1.16	90	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器		
209	E 4 a3	不定形	N-74°-W	1.02 × 0.87	46	外傾	凹凸	人為	須恵器		
215	F 3 c8	不定形	N-12°-W	2.53 × 1.97	183	外傾・内傾	平坦	人為	土師器・須恵器	116・117・118住、213・214土坑→本跡→226土坑	

4 中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡10棟、溝跡1条、井戸跡2基が確認されている。以下、検出した遺構と遺物について記述する。なお、溝跡については土層断面図と出土遺物実測図を掲載し、平面図については遺構全体図に掲載する。

(1) 掘立柱建物跡

第17号掘立柱建物跡（第365図）

位置 調査区西部のE 2e1区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第28号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴同士の切り合いがないため新旧は不明である。

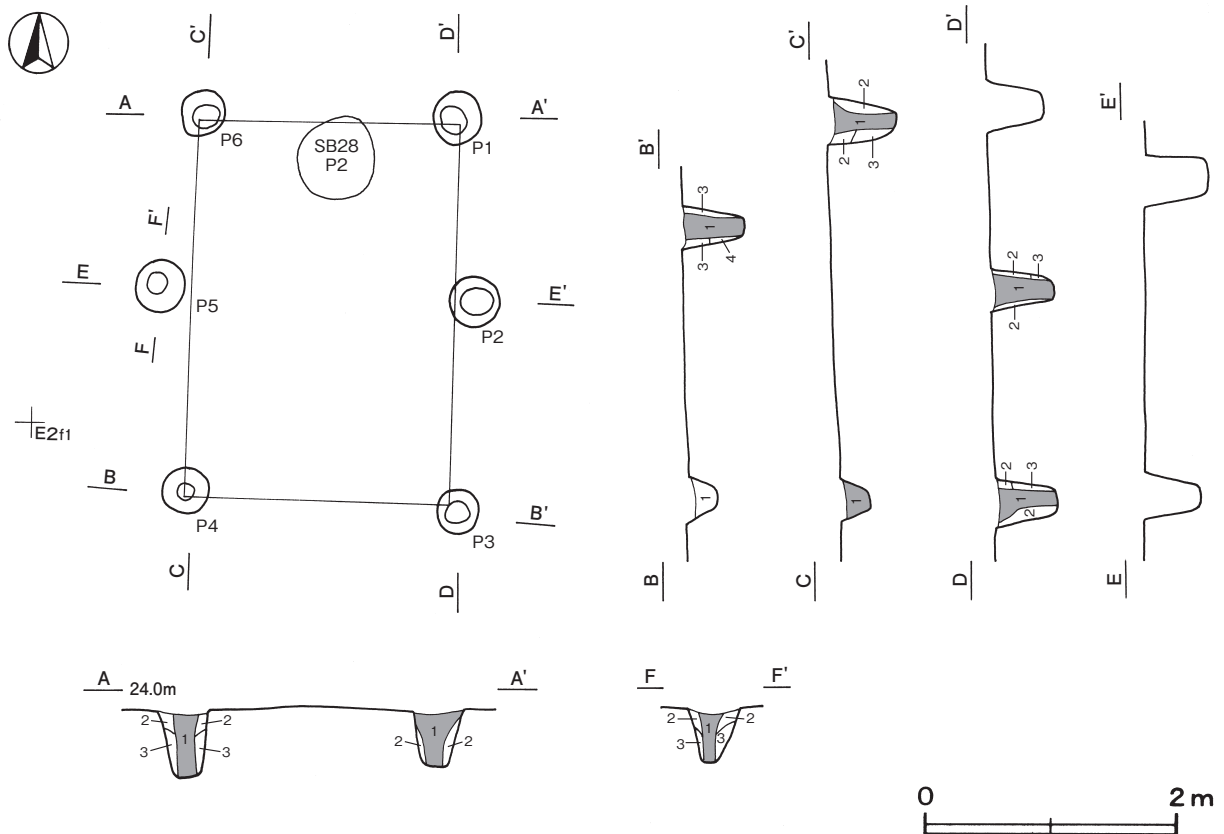
規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-2°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.00m、梁行2.10mで、面積は6.30㎡である。柱間寸法は桁行が1.5m（5尺）、梁行が2.1m（7尺）で等間隔に配置されている。

柱穴 6か所。平面形は円形で、径36~42cmである。深さは25cm~52cmで、掘方の断面形はU字形である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2・3層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | |

所見 出土土器がないため時期判断は困難であるが、中世に比定している第41号掘立柱建物跡と柱穴の規模や形態が類似していることから、時期は中世と考えられる。



第365図 第17号掘立柱建物跡実測図

第28号掘立柱建物跡（第366図）

位置 調査区西部のE 2e1区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第17号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴同士の切り合いがないため新旧は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-4°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.00m、梁行2.40mで、面積は7.20㎡である。柱間寸法は桁行が1.5m（5尺）、梁行が2.4m（8尺）の等間隔に配置されている。東平の柱穴2か所は攪乱のため確認できなかった。

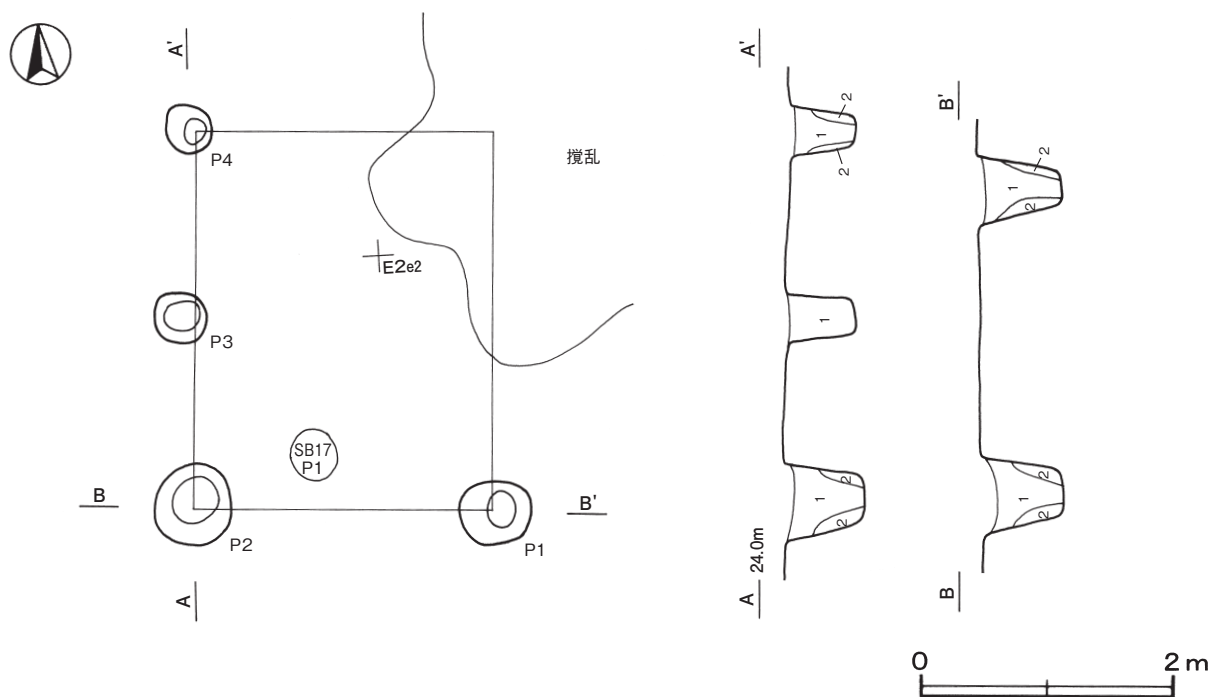
柱穴 4か所。平面形は円形で、径40～63cmである。深さは57～65cmで、掘方の断面形は逆台形である。土層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 極暗褐色 ローム粒子少量

所見 出土土器がないため時期判断は困難であるが、中世に比定している第17・41号掘立柱建物跡と柱穴の規模や形態が類似していることから、時期は中世と考えられる。



第366図 第28号掘立柱建物跡実測図

第34号掘立柱建物跡（第367図）

位置 調査区中央部のD 3b0区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第171号土坑を掘り込み、第12号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向はN-89°-Eである。規模は、桁行6.2～6.9m、梁行5.1～6.0mで、面積は34.41㎡である。柱間寸法は、桁行2.8～3.8m、梁行2.1～3.0mで、柱筋は不揃いである。

柱穴 12か所。深さは6～46cmである。5層に分層でき、柱はすべて抜き取られており、抜き取り後の覆土である。柱のあたりは確認できなかった。

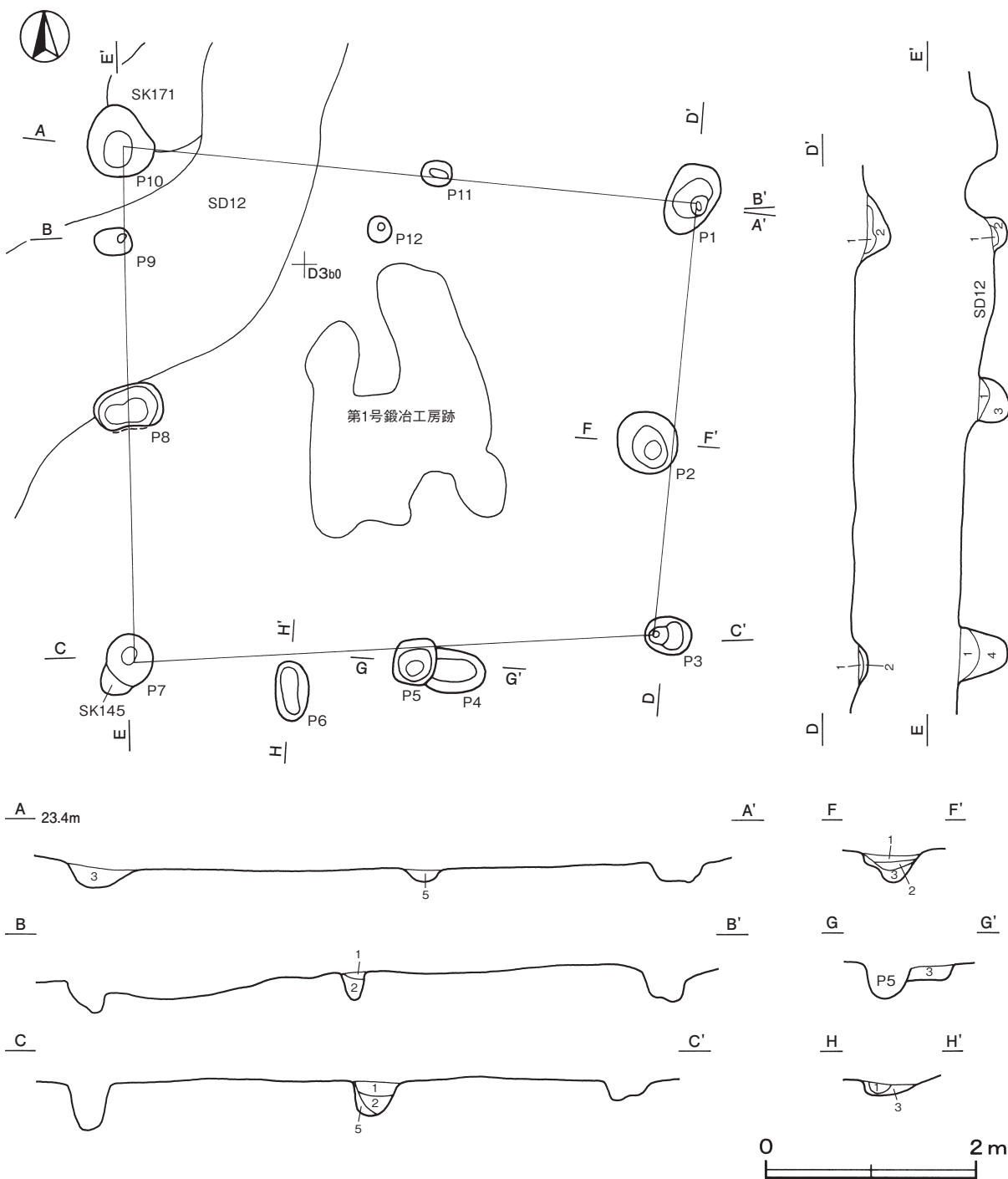
土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

- 4 極暗褐色 ローム粒子少量
- 5 明褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 須恵器甕片 3点がP12の柱抜き取り後の覆土中から出土している。出土土器は、すべて細片で図示できない。

所見 時期は、柱穴の形状及び重複関係から、中世・近世と考えられる。



第367図 第34号掘立柱建物跡実測図

第36号掘立柱建物跡（第368図）

位置 調査区中央部のD 4 e1区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号ピット群と重複しているが、柱穴同士の切り合いが無いため新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向はN-3°-Wである。規模は、桁行4.04~4.60m、梁行4.20~4.48mで、面積は18.37㎡である。柱間寸法は、桁行が1.7m~2.7m、梁行が1.7m~2.5mで、不揃いである。

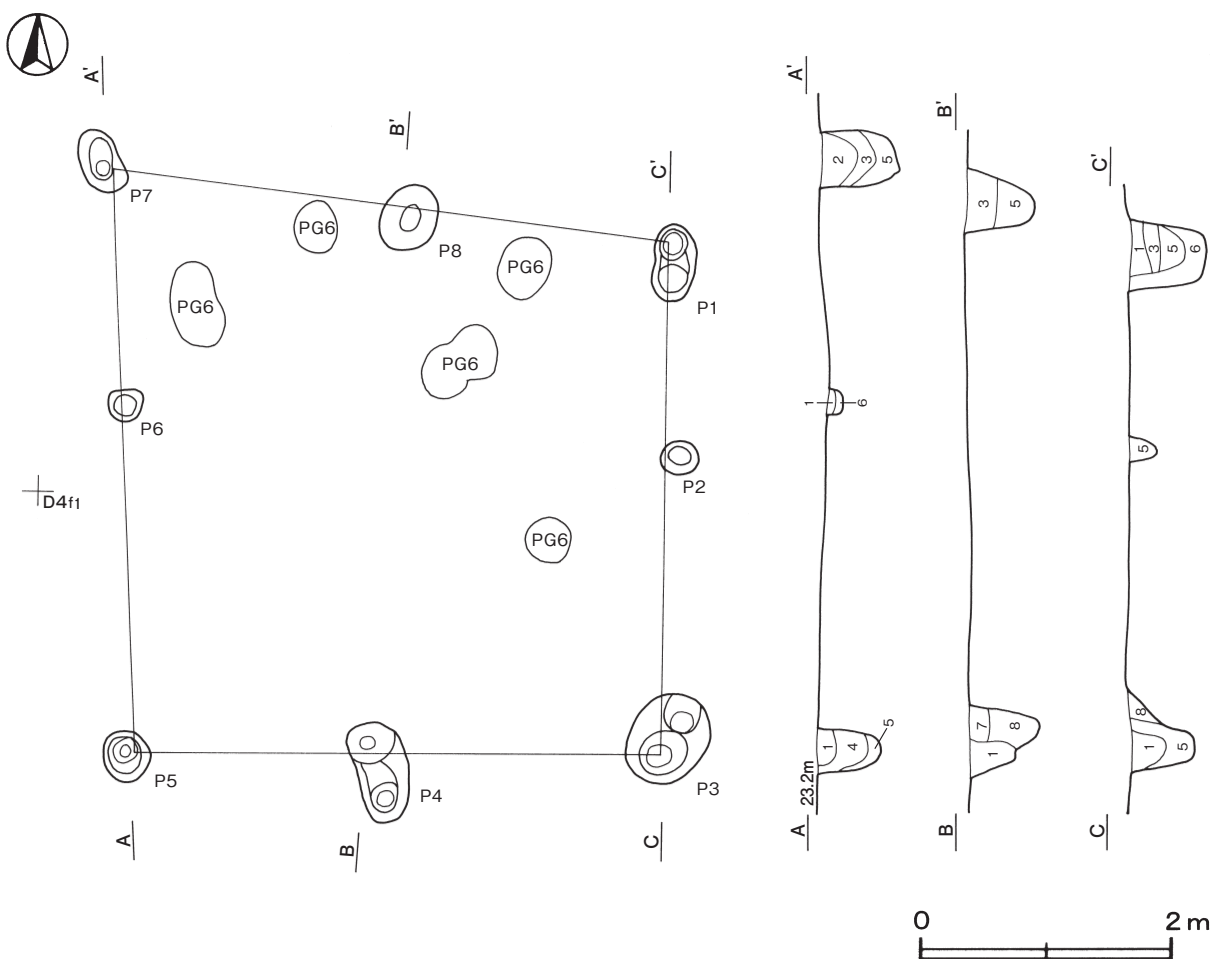
柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径24~80cm、短径24~76cmである。深さは10~64cmで、断面形はU字状または逆台形である。P1・P3・P4は2個のピットが重複している。土層は8層に分層でき、すべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 炭化材中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 褐色 ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化材少量 | 8 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片3点（坏1・甕2）が出土しているが、柱抜き取り後の流れ込みと考えられる。

所見 柱のあたりは確認できなかったが、柱穴の形状から建て替えが行われた可能性がある。時期は、柱穴の形状が南部に位置する第38・39号掘立柱建物跡と類似していることから、中世・近世と考えられる。



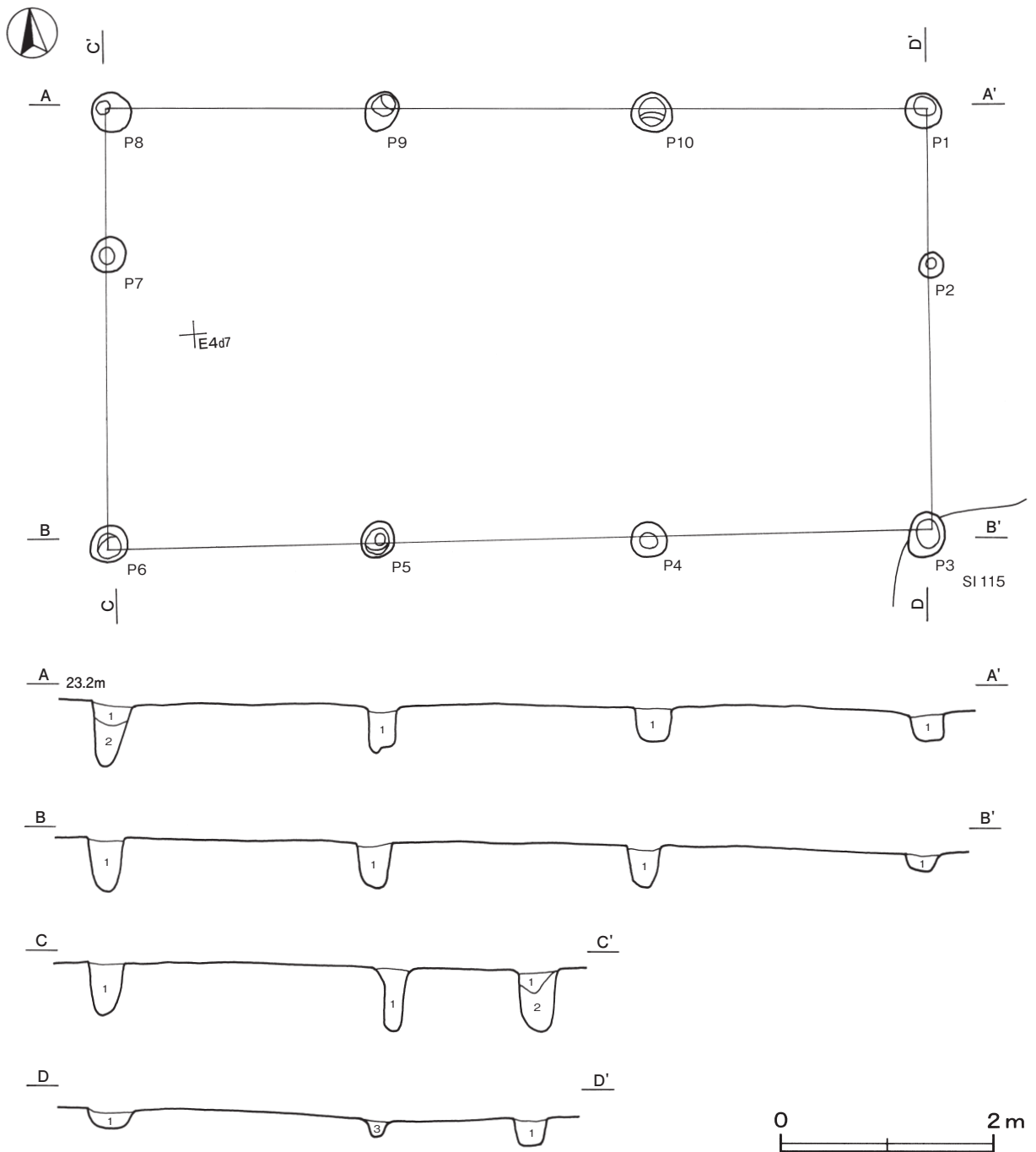
第368図 第36号掘立柱建物跡実測図

第37号掘立柱建物跡（第369図）

位置 調査区東部のE 4 d7区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 P 3が第115号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-87°-Wの東西棟である。規模は、桁行7.80m、梁行4.20mで、面積は32.76㎡である。桁行柱間寸法は西妻から北平が2.7m（9尺）・2.4m（8尺）・2.7m（9尺）、南平が2.4m（8尺）・2.7m（9尺）・2.7m（9尺）、西梁行が北妻から1.5m（5尺）・2.7m（9尺）、東梁行が1.5m（5尺）・2.4m（8尺）に配置されている。



第369図 第37号掘立柱建物跡実測図

柱穴 10か所。平面形は円形で、径25～38cmである。深さは20～45cmで、掘方の断面形はU字形である。土層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

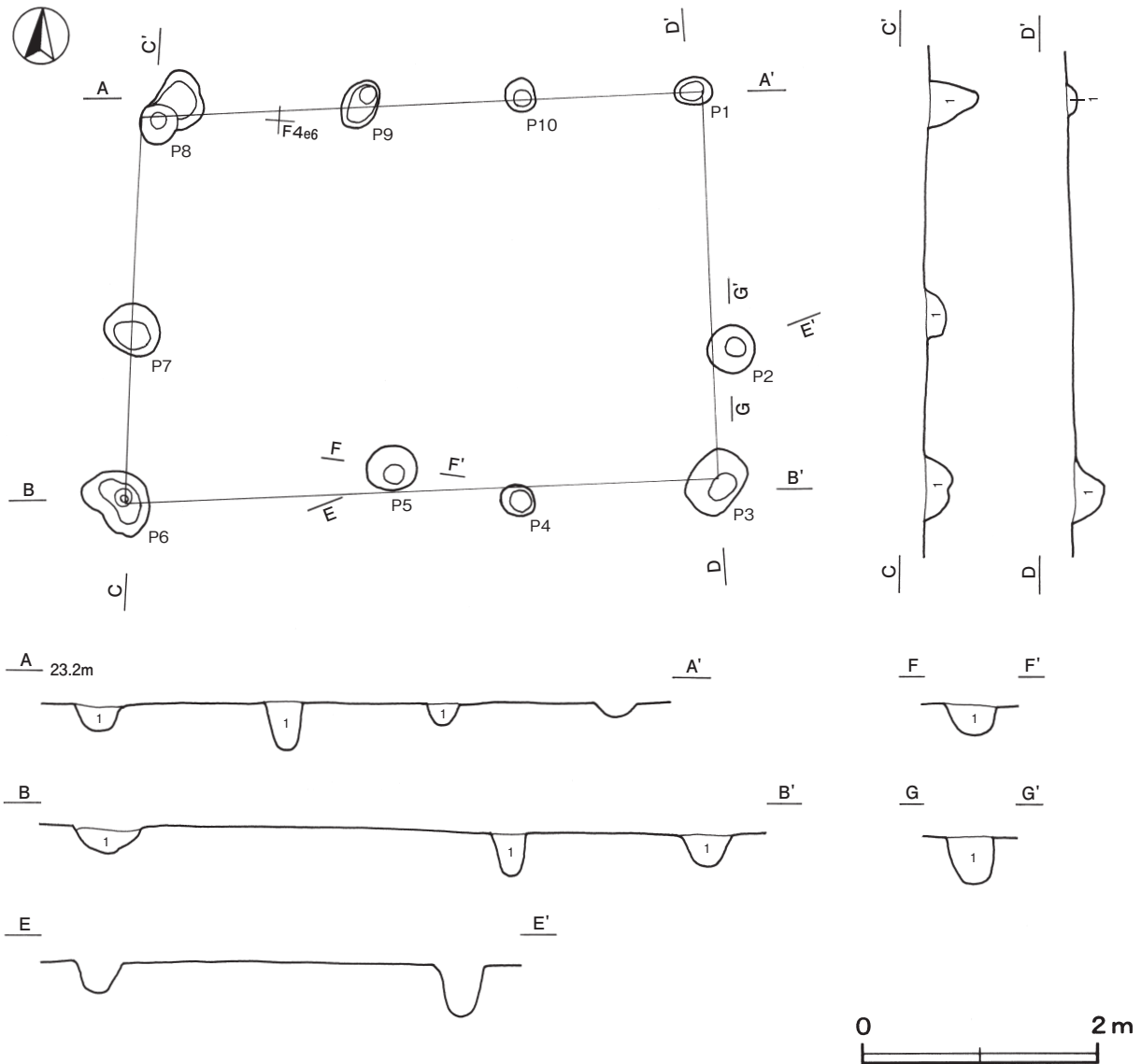
- 3 褐色 ローム粒子中量

所見 出土土器がないため時期判断は困難であるが、9世紀後葉の第115号住居跡を掘り込んでいること、中世に比定している第17・38・39・41・42号掘立柱建物跡等と柱穴規模が類似していることなどから中世と考えられる。

第38号掘立柱建物跡（第370図）

位置 調査区東部のF 4 e6区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-83°-Eの東西棟である。規模は、桁行5.10m、梁行3.30mで、面積は16.83㎡である。桁行の柱間寸法は西妻から北平が1.8m（6尺）・1.5m（5尺）・1.5m



第370図 第38号掘立柱建物跡実測図

(5尺), 南平が2.4m (8尺)・0.9m (3尺)・1.8m (6尺), 東梁行が2.1m (7尺)・1.2m (4尺), 西梁行が1.8m (6尺)・1.5m (5尺)に配置されている。

柱穴 10か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径32~65cm, 短径28~42cmである。深さは12~40cmで, 掘方の断面形はU字形である。土層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 褐色 ローム粒子微量

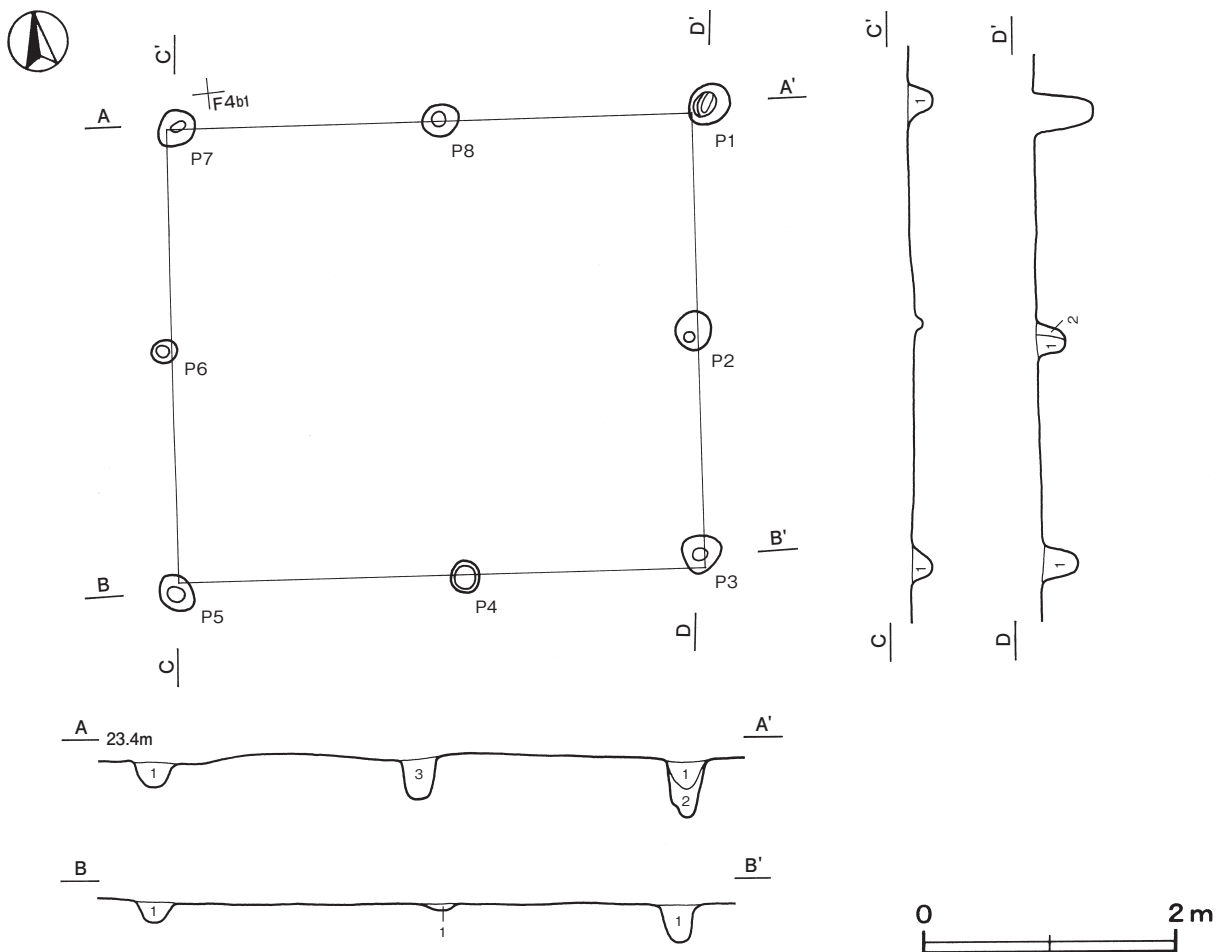
所見 出土土器がないため時期判断は困難であるが, 中世に比定している第17・37・39・41・42号掘立柱建物跡等と柱穴規模が類似していることなどから中世と考えられる。

第39号掘立柱建物跡 (第371図)

位置 調査区南部のF 4 b1区で, 標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-85°-Wの東西棟である。規模は, 桁行4.20m, 梁行3.60mで, 面積は15.12㎡である。柱間寸法は桁行が西妻から2.25m (7.5尺)・1.95m (6.5尺), 梁行が1.8m (6尺)の等間隔に配置されている。

柱穴 8か所。平面形は円形で, 径22~30cmである。深さは8~45cmで, 掘方の断面形はU字形である。土層は柱抜き取り後の覆土である。



第371図 第39号掘立柱建物跡実測図

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

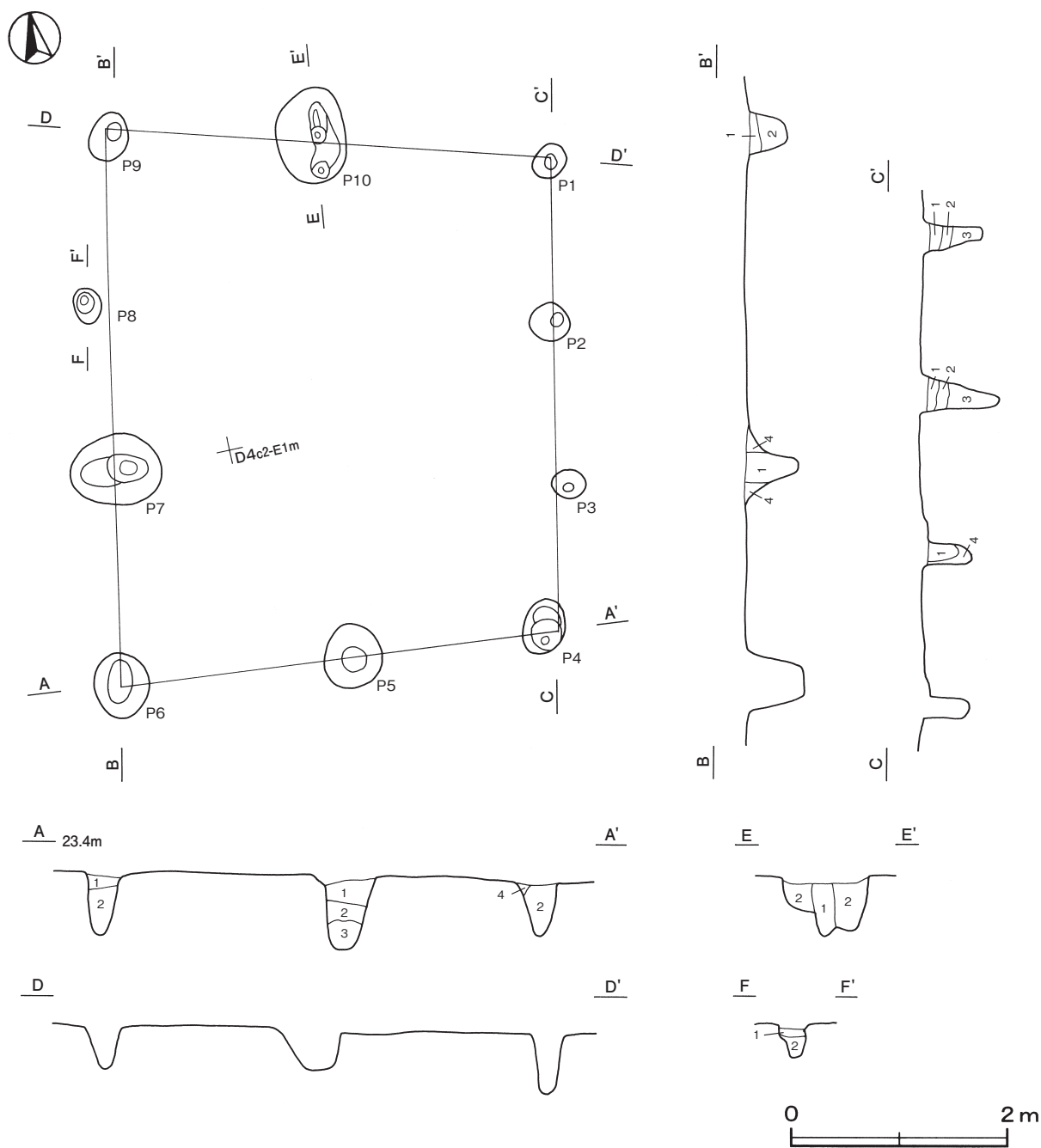
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

所見 出土土器がないため時期判断は困難であるが、中世に比定している第17・37・38・41・42号掘立柱建物跡等と柱穴規模が類似していることなどから中世と考えられる。

第40号掘立柱建物跡 (第372図)

位置 調査区中央部のD 4 b2区, 標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向はN-10°-Eである。規模は, 桁行4.36~5.12m, 梁行4.08mで, 面積は48.76㎡である。柱間寸法は, 桁行が1.34m~2.04m, 梁行が1.88m~2.20mで, 不揃



第372図 第40号掘立柱建物跡実測図

いである。

柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径28～96cm、短径28～64cmである。深さは39～68cmで、断面形はU字または逆台形である。土層は4層に分層でき、すべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子少量 |

所見 棟持ち柱の径がやや大きいことは、第15号掘立柱建物跡と類似している。また、周囲に第12号溝が廻っており、関連が想定される。時期は、出土土器がないため明確でないが、中世以降と考えられる。

第41号掘立柱建物跡（第373図）

位置 調査区西部のD1e4区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

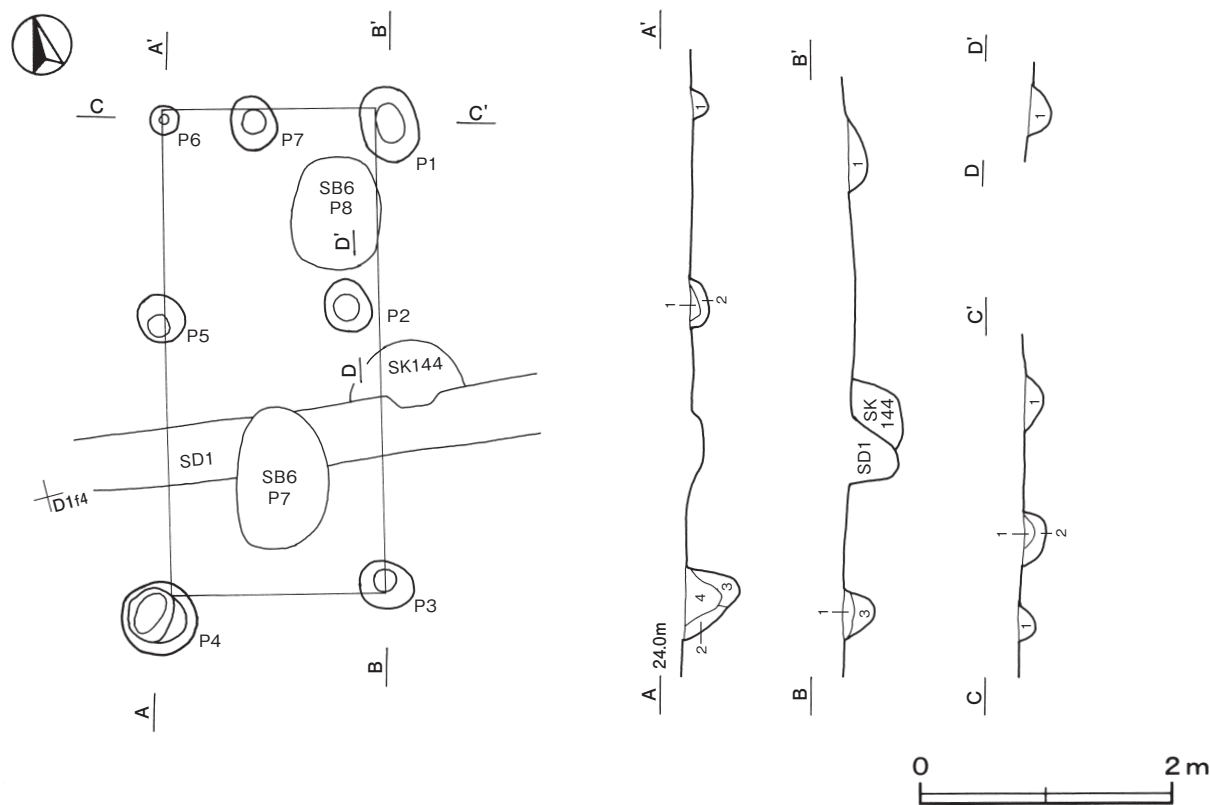
重複関係 第6号掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴同士の切り合いがないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-13°-Eの南北棟である。規模は、桁行が3.90m、梁行1.80mで、面積は7.02㎡である。柱間寸法は桁行が1.8m（6尺）・2.1m（7尺）・2.7m（9尺）、北梁行が0.9m（3尺）で配置されている。

柱穴 7か所。平面形は円形で規模は径22～58cmである。深さは15～40cmで、掘方の断面形はU字形である。土層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |



第373図 第41号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 磁器皿片1点，混入したと思われる土師器片2点，須恵器坏片1点が出土しており，いずれも細片である。

所見 出土土器が少量で細片のため，時期判断は困難であるが，柱穴の規模や形態から中世以降と考えられる。

第42号掘立柱建物跡（第374図）

位置 調査区北部のC 4 a2区で，標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号ピット群の中に位置しているが，柱穴同士の切り合いがないため，新旧関係は不明である。

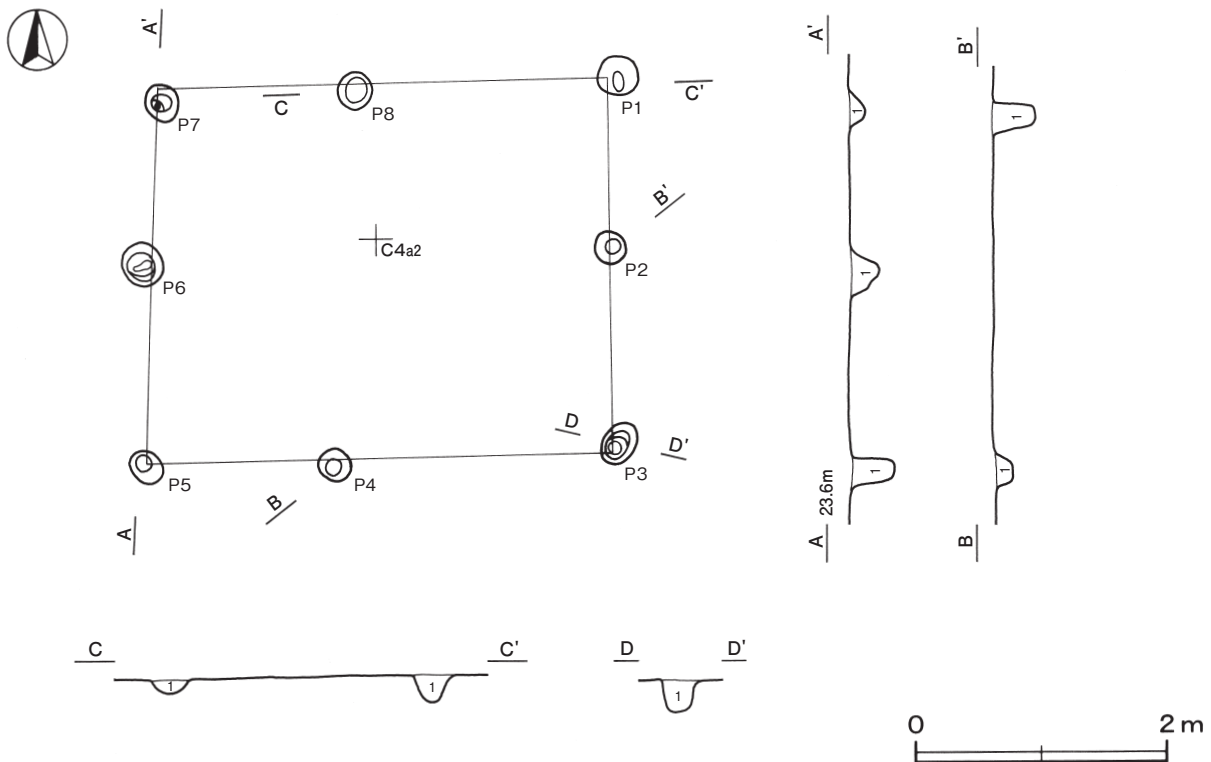
規模と構造 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN-89°-Eの東西棟である。規模は，桁行3.60m，梁行3.00mで，面積は10.80㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.5m（5尺）・2.1m（7尺），梁行が1.5m（5尺）の等間隔に配置されている。

柱穴 8か所。平面形は円形で，径30～45cmである。深さは15～35cmで，掘方の断面形はU字形である。土層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

所見 出土土器がないため時期判断は困難であるが，中世に比定している第17・37・38・39・41号掘立柱建物跡等と柱穴規模が類似していることなどから中世と考えられる。



第374図 第42号掘立柱建物跡実測図

表14 中世・近世掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	構造	桁行方向	柱間数		規模 (m)		面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴 (cm)			主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				桁行 × 梁間	桁行 × 梁間	桁行	梁間		柱穴数	平面形	深さ				
17	E 2 e1	側柱	N - 2° - E	2 × 1	3.00 × 2.10	6.30	1.50	2.10	6	円形	25~52		28掘立との新旧不明		
28	E 2 e1	側柱	N - 4° - E	3 × 1	3.00 × 2.40	7.20	1.50	2.40	4	円形	57~65		17掘立との新旧不明		
34	D 3 b0	側柱	N - 89° - E	2 × 2	6.20 × 5.10 6.90 × 6.00	34.41	2.80 3.80	2.10 3.00	12	円形	6~46	須恵器	171土坑→本跡→12溝		
36	D 4 e1	側柱	N - 3° - W	2 × 2	4.04 × 4.20 4.60 × 4.48	18.37	1.70 2.70	1.70 2.50	8	円形	10~64	土師器	6 P 群との新旧不明		
37	E 4 d7	側柱	N - 87° - W	3 × 2	7.80 × 4.20	32.76	2.40 2.70	1.50 2.70	10	円形	20~45		115住→本跡		
38	F 4 e6	側柱	N - 83° - E	3 × 2	5.10 × 3.30	16.83	1.80 1.50	2.10 1.50 1.60	10	円形 楕円形	12~40				
39	F 4 b1	側柱	N - 85° - W	2 × 2	4.20 × 3.60	15.12	2.25 1.95	1.80	8	円形	8~45				
40	D 4 b2	側柱	N - 10° - E	3 × 2	4.36 × 4.08 5.12 × 4.08	48.76	1.34 2.04	1.88 2.20	10	円形 楕円形	39~68				
41	D 1 e4	側柱	N - 13° - E	2 × 1	3.90 × 1.80	7.02	1.80 2.10 2.70	0.90	7	円形	15~40	磁器	6 掘立との新旧不明		
42	C 4 a2	側柱	N - 89° - E	2 × 2	3.60 × 3.00	10.08	2.10 1.50	1.50	8	円形	15~35		4 P 群との新旧不明		

(2) 溝跡

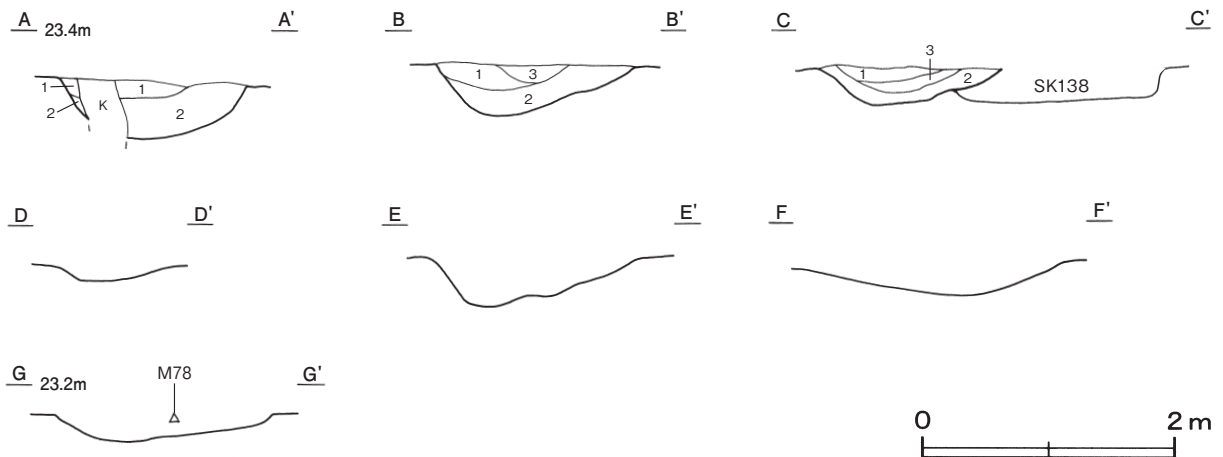
第12号溝跡 (第375・376図, 付図)

位置 調査区中央部の D 2 j9~D 4 f2区, 標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第34号掘立柱建物跡, 第23号溝跡, 第138・166・171号土坑を掘り込んでいる。内側には第1号鍛冶工房跡が構築されている。

規模と構造 溝は, 内法で東西25.1m, 南北21.0mの長方形状であるが, 北東及び北西隅はクランク状を呈し北側へ張り出す形状である。また, 南側中央部は13.3mにわたって溝が途切れている。溝の規模は, 上幅0.84~1.02m, 下幅0.13~0.25m, 深さ18~25cmで, 断面形は浅いU字状である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



第375図 第12号溝跡実測図

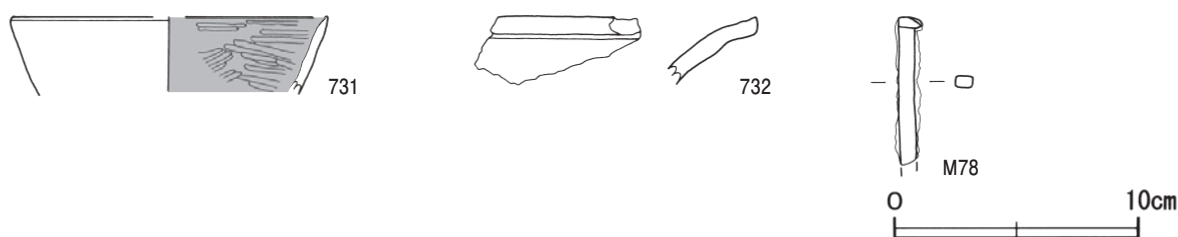
土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム粒子中量

3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器坏・須恵器甕・釘各1点のほか、土師器片28点（坏8・甕20）、須恵器片24点（坏1・蓋1・甕21・長頸瓶1）、鉄滓6点（180g）、雲母片岩1点（11g）が出土している。出土土器はすべて細片で、出土量も少ない。731・732は西部の覆土中から、M78は南東部の覆土上層からそれぞれ出土しており、いずれも流れ込んだものである。

所見 時期を決定できる遺物がなく、詳細は明確でないが、中世以降と考えられる。方形に巡る形状から、何らかの区画溝とみられる。内部に存在する第40号掘立柱建物跡とは方向が一致していることから、関連が想定される。



第376図 第12号溝跡出土遺物実測図

第12号溝跡出土遺物観察表（第376図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴など	出土位置	備考
731	土師器	坏	[12.9]	(3.2)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面ナデ 内面ヘラ磨き 黒色処理	西部覆土中	5%
732	須恵器	甕	—	(4.1)	—	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	西部覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・材質	特徴	出土位置	備考
M78	釘	(6.1)	0.9	0.5	(11.2)	鉄	断面方形 先端部欠損	覆土上層	

(3) 井戸跡

第1号井戸跡（第377図）

位置 調査区南部のF3b7区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第19号住居跡を掘り込んでいる。

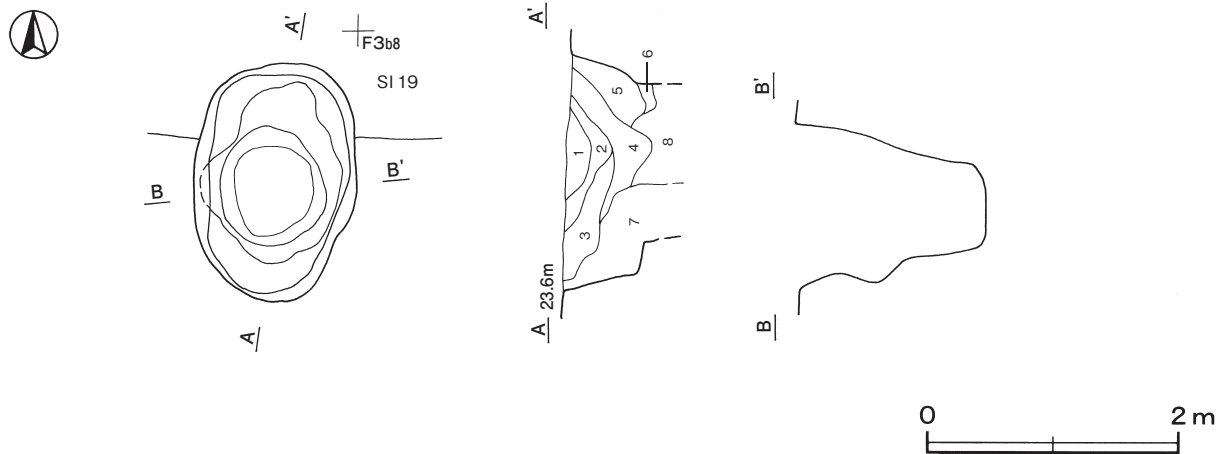
規模と形状 確認面は長径1.90m、短径1.32mの楕円形で、長径方向はN-9°-Eである。確認面からややすぼまりながら底面まで至っており、深さは148cmである。南側の中段に平坦部を有している。

覆土 確認できた部分は8層に分層できる。粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。下部は湧水のため、堆積状況を確認できなかった。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
3 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
4 黒褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
5 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
6 暗褐色 ロームブロック中量
7 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
8 暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量

所見 時期は、出土遺物がなく明確でないが、重複関係から中世・近世と考えられる。



第377図 第1号井戸跡実測図

第7号井戸跡（第378図）

位置 調査区中央部のD4f6区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第169号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径2.15m、短径2.12mの円形で、形状は確認面から0.4mまで緩やかに落ち込み、下部は径0.6mの漏斗形である。深さは204cmで、底面は平坦で、粘土層を掘り込んでいる。

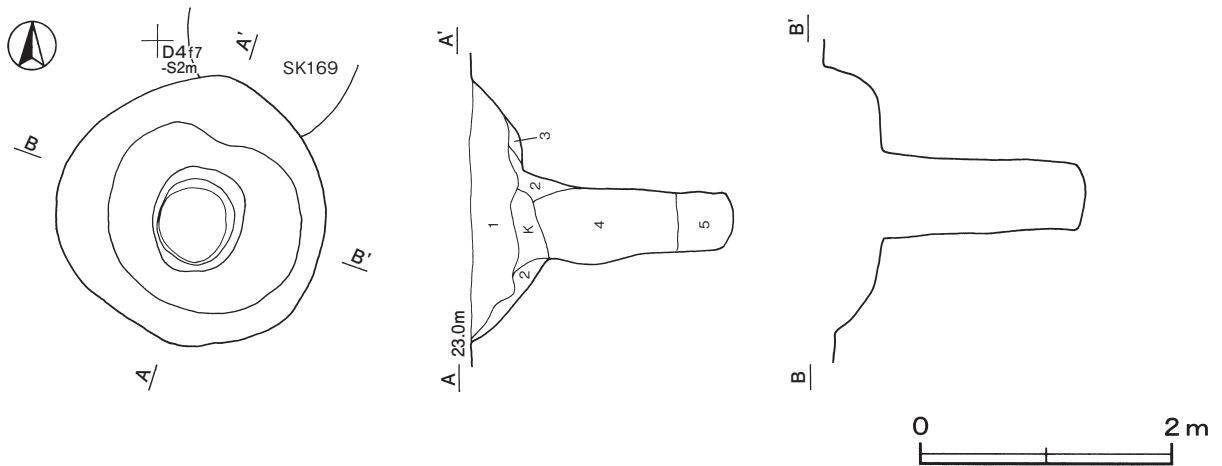
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 4 黒褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 2 にぶい褐色 ロームブロック少量 | 5 青灰色 粘土ブロック多量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片2点（坏・甕）、須恵器甕片1点、木製品1点（杭）が覆土中より出土している。杭は下層から単体で出土していることから、投棄されたものと考えられる。土器片は、すべて細片で図示できない。

所見 時期は、重複関係や形状から、中世・近世と考えられる。



第378図 第7号井戸跡実測図

表15 中世・近世井戸跡一覧表

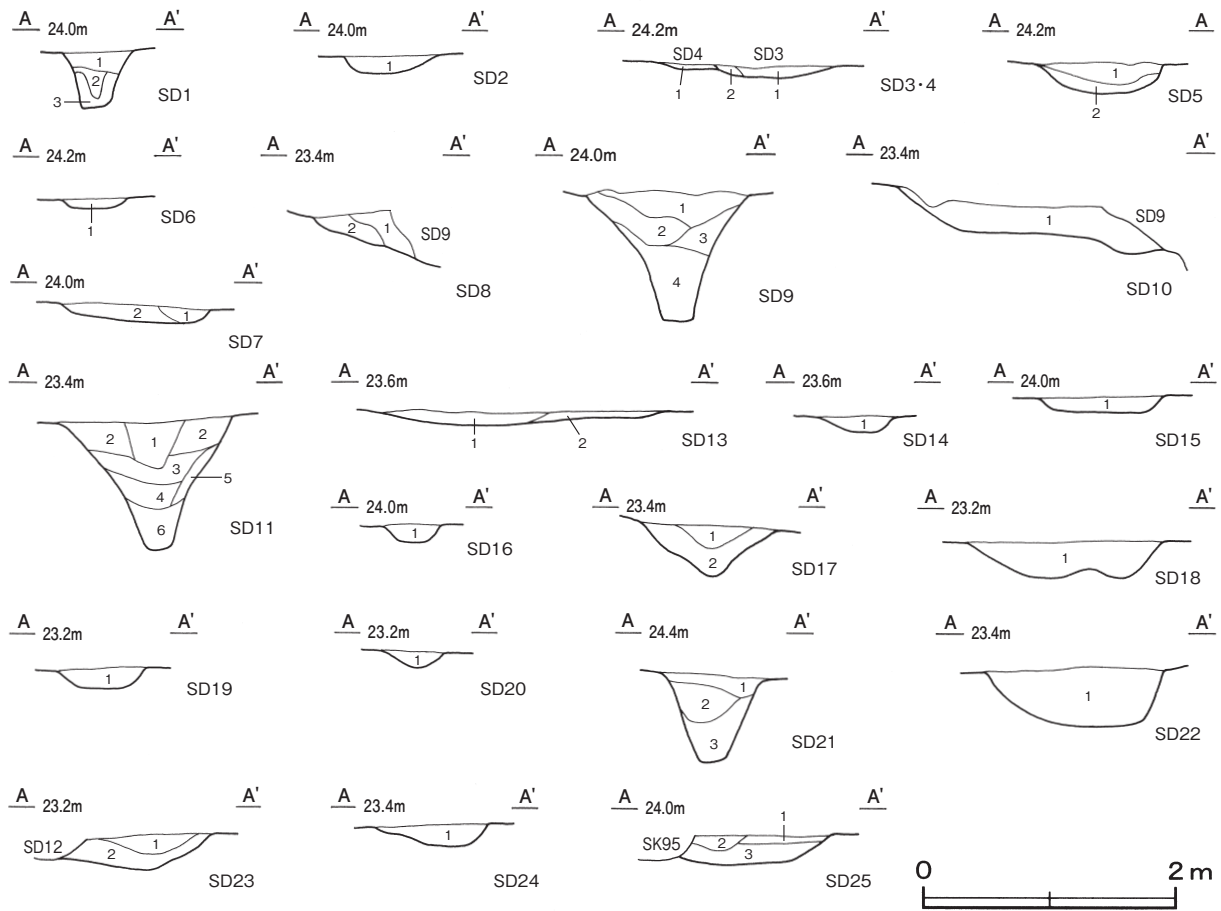
番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 古→新
				長径 × 短径	深さ (cm)					
1	E 3 b7	N-9°-E	楕円形	1.90 × 1.32	148	漏斗状 円筒形	皿状	人為		19住→本跡
7	D 4 f6	—	円形	2.15 × 2.12	204	漏斗状	平坦	人為	土師器・須恵器・木製品	169土坑→本跡

5 その他の遺構と遺物

遺物が出土していないことなどから時期を決定できない遺構として、溝跡24条、土坑188基、ピット群11か所が存在する。以下、これらの遺構のうち特徴的ないくつかについては文章で記述し、それ以外の遺構については実測図と一覧表を掲載する。

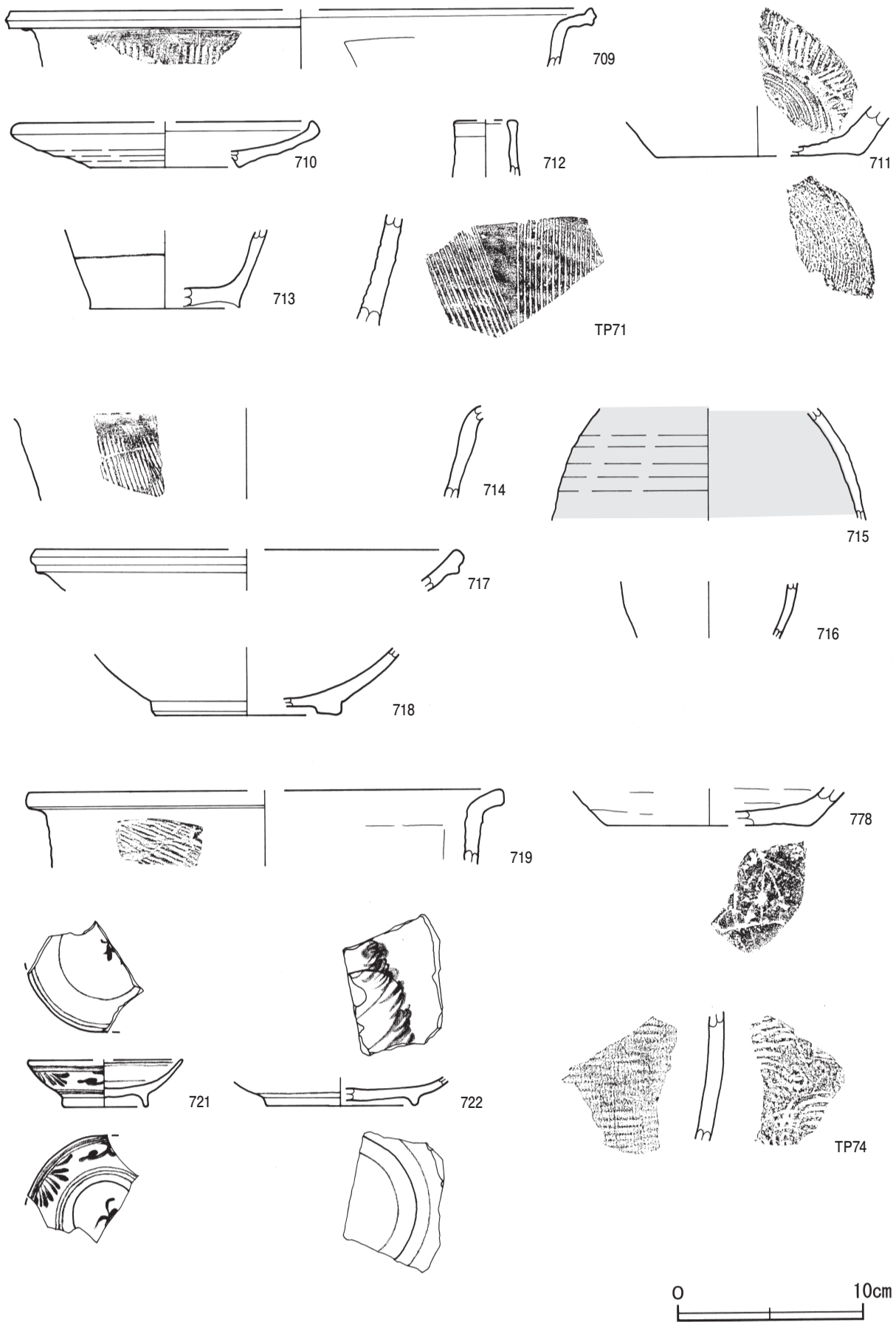
(1) 溝跡 (第379~382図, 付図)

今回の調査で、時期不明の溝跡24条が確認されている。いずれも伴う遺物の出土がなく、性格も不明である。ここでは土層断面図と出土遺物を掲載し、平面図は遺構全体図に示す。

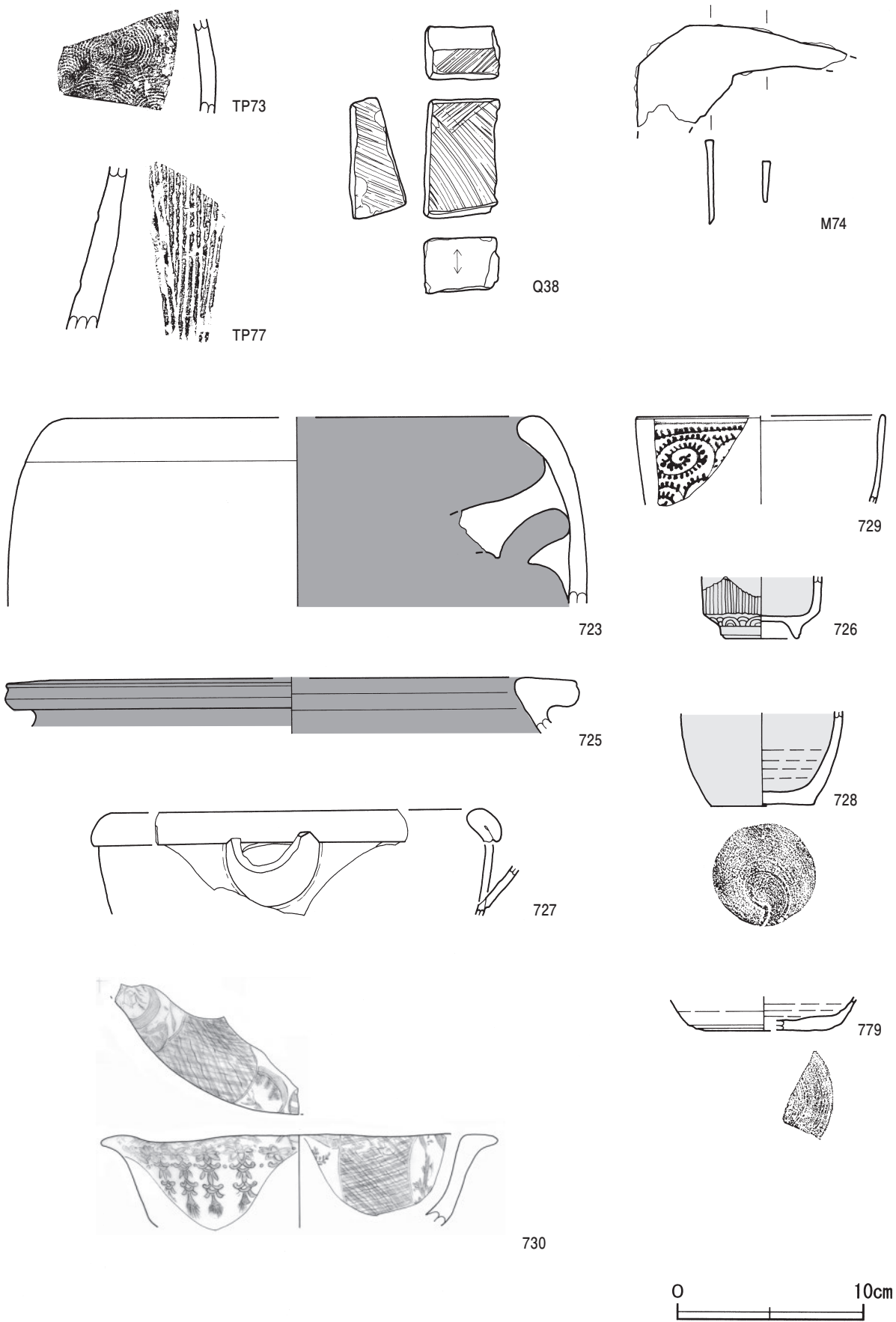


第379図 時期不明溝跡断面図

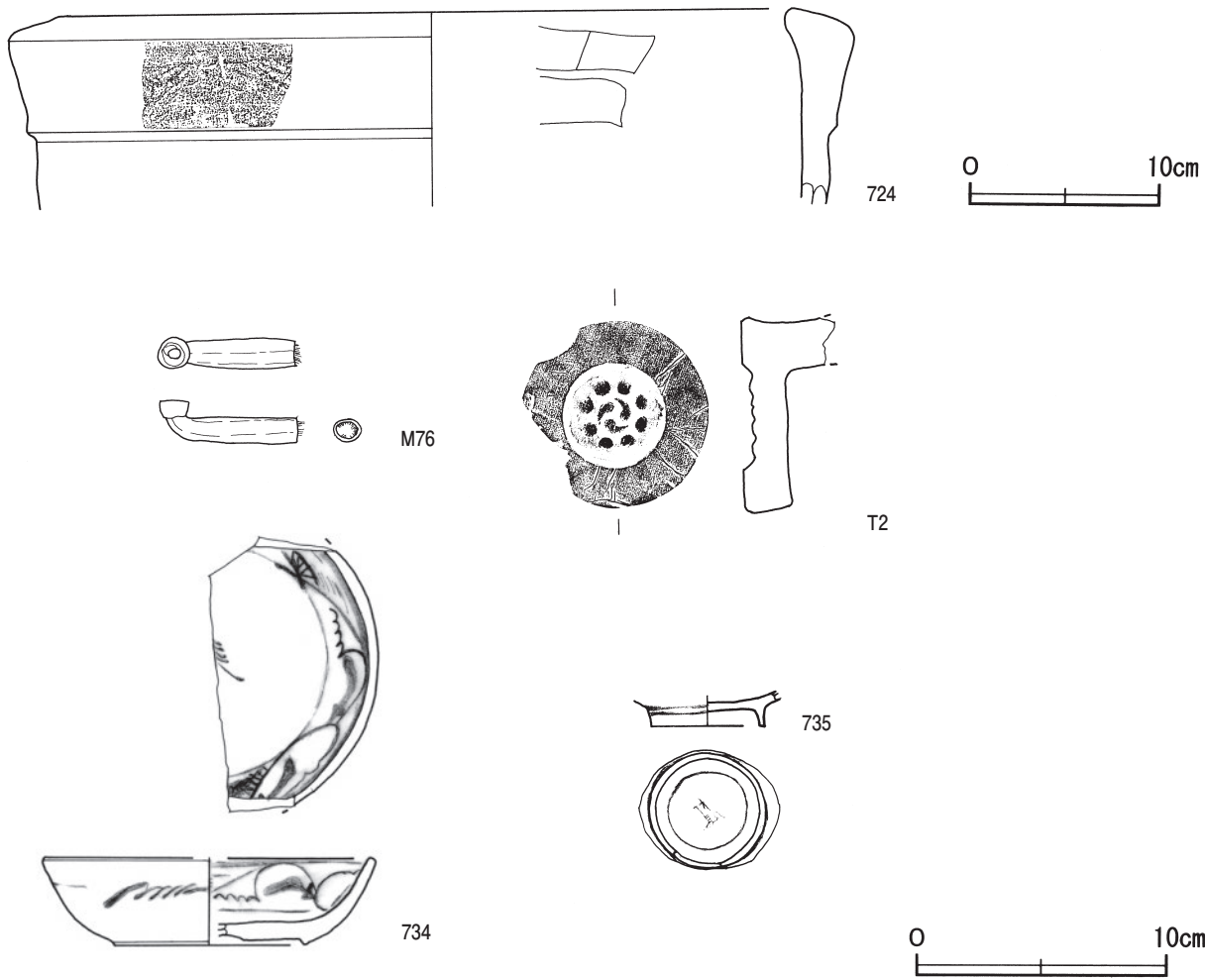
- 第1号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 第2号溝跡土層解説
 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 第3号溝跡土層解説
 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 第4号溝跡土層解説
 1 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 第5号溝跡土層解説
 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 第6号溝跡土層解説
 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 第7号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 第8号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 第9号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
 4 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 第10号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 第11号溝跡土層解説
 1 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
 4 黒 褐 色 ローム粒子微量
 5 褐 色 ロームブロック中量
 6 褐 色 ロームブロック多量
- 第13号溝跡土層解説
 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 第14号溝跡土層解説
 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 第15号溝跡土層解説
 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 第16号溝跡土層解説
 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 第17号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 第18号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 第19号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 第20号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 第21号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 第22号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 第23号溝跡土層解説
 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 第24号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 第25号溝跡土層解説
 1 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子微量
 2 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量
 3 黒 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子微量



第380図 時期不明溝跡出土遺物実測図（1）



第381図 時期不明溝跡出土遺物実測図（2）



第382図 時期不明溝跡出土遺物実測図（3）

第1号溝跡出土遺物観察表（第380図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
709	須恵器	甕	[31.2]	(3.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部縦位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土中	5%
710	陶器	灯明受皿	[15.6]	2.4	[8.0]	長石	黒褐	普通	ロクロ整形 施釉	覆土中	5%
711	陶器	播鉢	—	(2.7)	[11.0]	石英・黒色粒子	褐	普通	6条1単位の播り目	覆土中	5%
712	陶器	瓶	[3.0]	(3.0)	—	長石	オリーブ褐	普通	施釉	覆土中	5%
713	磁器	徳利カ	—	(4.6)	[8.0]	細砂・黒色粒子	灰白	緻密	染め付け文様不明 内面無釉	覆土中	5%
TP71	陶器	播鉢	—	(6.0)	—	細砂	灰赤	緻密	14条1単位の播り目	覆土中	

第5号溝跡出土遺物観察表（第380図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
714	須恵器	甌	—	(4.9)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部縦位の平行叩き	覆土中	5%

第7号溝跡出土遺物観察表（第380図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
715	灰釉陶器	長頸瓶	—	(6.0)	—	長石	にぶい黄橙	緻密	内・外面施釉	覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
716	陶器	碗	—	(3.0)	—	長石・石英	淡黄	普通	内・外面施釉	覆土中	5%
717	陶器	鉢カ	[22.7]	(2.2)	—	細砂	暗赤褐	緻密	内・外面施釉	覆土中	5%
718	陶器	鉢カ	—	(3.7)	[9.8]	細砂	灰黄褐	緻密	内・外面施釉	覆土中	10%

第9号溝跡出土遺物観察表 (第380・381図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
719	須恵器	甕	[25.4]	(4.0)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部斜位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土中	5%
721	磁器	皿	[8.4]	2.5	[4.5]	細砂	灰白	緻密	染め付け 草花文	覆土中	25%
722	磁器	皿	—	(1.5)	[8.0]	細砂・黒色粒子	灰白	良好	柳文	覆土中	10%
778	土師器	甕	—	(2.1)	[11.0]	長石・石英	にぶい褐	普通	木葉痕	覆土中	5%
TP73	須恵器	甕	—	(5.0)	—	長石・石英・雲母	灰白	普通	外面同心円文の叩き	覆土中	
TP74	須恵器	甕	—	(6.9)	—	長石・石英	灰	普通	外面格子状の叩き 内面同心円文の当具痕	覆土中	
TP77	陶器	播鉢	—	(8.8)	—	長石・石英	赤褐	普通	5条1単位の播り目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q38	砥石	6.4	4.0	3.0	100.3	凝灰岩	砥面4面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M74	不明品	(11.3)	(5.5)	0.5	(47.8)	鉄	端部欠損 若干のまがり	覆土中	

第11号溝跡出土遺物観察表 (第381・382図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
723	土師質土器	火鉢	[25.0]	(10.0)	—	長石・石英	赤褐	普通	内面ナデ 煤付着	覆土中	5%
724	土師質土器	火鉢	38.0	(10.3)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部型押文様(格子状) 内面ナデ	覆土中	5%
725	土師質土器	竈鏝	[30.5]	(3.0)	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部内ナデ 煤付着	覆土中	5%
726	磁器	小碗	—	(3.2)	3.8	細砂	暗赤褐	緻密	八角面取り 高台脇連弧文型押し	覆土中	15%
727	陶器	片口	[20.0]	(5.4)	—	細砂	浅黄	緻密	内・外面施釉	覆土中	5%
728	磁器	瓶	—	(5.0)	5.5	細砂	灰	緻密	底部回転糸切り	覆土中	10%
729	磁器	碗	[13.4]	(4.7)	—	細砂	灰白	緻密	染め付け 蜻唐草文	覆土中	10%
730	磁器	鉢	[21.0]	(4.8)	—	細砂	灰白	緻密	銅板絵付け 山水文	覆土中	5%
779	須恵器	坏	—	(1.8)	[7.4]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転糸切り	覆土中	5%

番号	器種	長さ	火皿径	小口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M76	煙管	5.5	1.3	0.9	12.5	銅	雁首のみ 羅字残存	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T2	瓦	7.7	—	(3.2)	(147.5)	長石・黒色粒子	珠文数8 巴向き右巻き 圏線無	覆土中	

第22号溝跡出土遺物観察表 (第382図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
734	陶器	皿	[12.8]	3.3	[7.6]	細砂	灰白	良好	内・外面透明釉 朝顔文	覆土中	40%
735	磁器	碗	—	(1.4)	4.5	細砂	灰白	緻密	染め付け 文様不明	覆土中	10%

表16 時期不明溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	D 1 e3~C 3 j2	N-97°-E N-10°-E N-93°-E	クランク状	(101.3)	0.40~2.17	0.11~0.46	32~69	緩斜 外傾	皿状	人為	土師器・須恵器・ 陶器・鉄滓	6掘立, 43・144 土坑→本跡→13 溝
2	D 1 g3~D 1 g7	N-81°-E	直線状	(18.7)	0.20~0.69	0.10~0.52	14~60	緩斜	皿状	自然	須恵器	6掘立→本跡
3	D 2 g1~E 2 a2	N-12°-W N-85°-E	鉤の手状	19.0	0.29~0.65	0.15~0.28	8~20	緩斜 外傾	皿状	自然	—	33住, 4溝→本跡
4	E 1 b0~D 2 i3	N-50°-E	直線状	(16.56)	0.35~0.65	0.12~0.36	5~16	緩斜	皿状	自然	—	本跡→3溝
5	C 1 i3~C 1 i6	N-95°-E	直線状	(12.7)	0.96~1.13	0.40~0.84	28	緩斜	皿状	自然	土師器・須恵器	
6	C 1 g3~C 1 g6	N-93°-E	直線状	(11.3)	0.31~0.86	0.15~0.57	8~13	—	—	自然	土師器	
7	C 1 g6~C 2 g1	N-0° N-95°-E	鉤の手状	24.96	0.28~1.30	0.13~1.04	11~16	緩斜	皿状	自然	弥生土器・土師器・須 恵器・陶器・不明鉄製 品・鉄滓	7掘立→本跡
8	C 4 h1~C 5 i2	N-97°-E	直線状	43.1	0.80~1.92	0.20~0.44	(20)	—	—	自然	—	86・106住→本跡 →9溝
9	C 1 d3~C 5 i2	N-97°-E	直線状	(154.79)	0.57~2.35	0.02~0.74	50~97	緩斜 外傾	皿状 平坦	人為	土師器・須恵器・陶器・ 磁器・土師質土器・土 製品・砥石・不明鉄製 品・鉄滓・瓦	50・51・57・74・ 81・86・91住, 8・ 10・11・7溝, 110・ 158土坑→本跡
10	C 3 g3~C 4 h1	N-97°-E	直線状	30.2	(15.6)	(11.2)	(20~48)	緩斜	皿状	人為	—	17溝→本跡→9溝
11	C 3 d8~C 5 a3	N-10°-E N-100°-E	鉤の手状	71.03	0.3~2.10	0.12~0.30	8.2~26	外傾	皿状	人為	縄文土器・土師器・須 恵器・陶器・磁器・土師 質土器・砥石・不明銅製 品・鉄製品・鉄滓・瓦	77・80・82住→ 本跡→9・10溝
13	C 3 h3~D 3 c1	N-28°-E	直線状	20.56	0.95~2.18	0.80~1.80	10	緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器	1・13溝, 27掘 立→本跡
14	D 3 a4~D 3 c6	N-13°-W	直線状	(13.18)	0.30~0.76	0.10~0.32	16	緩斜	平坦	自然	—	
15	E 1 d7~E 1 h4	N-44°-E	直線状	18.86	0.52~1.02	0.13~0.82	13~28	緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器	
16	E 2 c3~E 2 f3	N-1°-W	直線状	11.8	0.31~0.55	0.16~0.36	22~30	緩斜	皿状	自然	—	
17	C 3 g4~C 3 i4	N-10°-E	直線状	7.80	0.54~0.96	0.03~0.08	30~55	緩斜	皿状	自然	—	53住→本跡→ 10・13溝
18	D 5 b6~D 5 f6	N-5°-E	直線状	19.76	1.26~1.60	0.21~0.52	22~30	緩斜	平坦	自然	—	95住→本跡
19	D 4 g9~F 4 a1	N-7°-E N-84°-W	L字状	[86.6]	0.42~1.00	0.12~0.68	5~16	緩斜	平坦	自然	—	115住, 20溝, 194・ 21土坑→本跡
20	F 4 a4~F 4 f4	N-5°-E	直線状	(19.59)	0.30~0.60	0.18~0.36	3~14	緩斜	平坦	自然	土師器・磁器	本跡→19溝
21	B 5 j4~C 5 e3	N-14°-E	直線状	19.22	0.70~1.18	0.18~0.42	59~75	緩斜 外傾	平坦	人為	不明鉄製品	82住→本跡
22	C 5 j2~D 5 a3	N-93°-E	直線状	(7.17)	1.36~1.62	0.70~0.88	45	緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器・陶器・ 磁器・瓦	
23	D 4 a5~D 4 a7	N-91°-E	直線状	(6.16)	0.46~1.42	0.20~0.47	17~27	緩斜	平坦	人為	—	本跡→12溝
24	C 2 a7~C 2 a8	N-82°-W	直線状	(5.45)	0.51~0.99	0.18~0.49	16	緩斜	平坦	自然	土師器	
25	C 2 f2~C 2 h1	N-12°-E	直線状	5.4	0.6~1.18	0.22~0.46	21	緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器・瓦	48住, 96・210土 坑→本跡→95土坑

(2) 土坑

今回の調査で、時期・性格ともに不明の土坑188基が確認されている。以下、それらの土坑のうち、特徴的なくつかについては文章で記述し、それ以外の遺構については実測図(第399~411図)と一覧表を掲載する。

第13号土坑(第383図)

位置 調査区北部のB 4 b1区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径3.98m, 短径1.37mの長楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。深さは34cmで、底面は平坦である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。

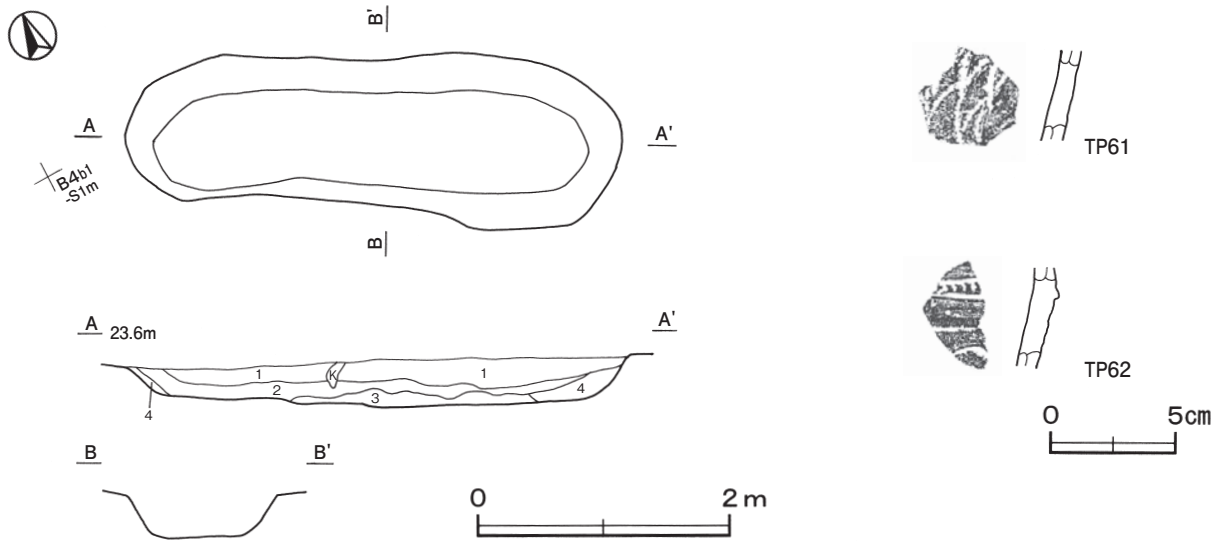
覆土 4層に分層できる。すべての層に炭化物や焼土粒子が含まれており、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|----------------------|
| 1 褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 褐色 | 炭化物中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 炭化物多量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器2点のほか、土師器甕片1点が、覆土中から出土している。

所見 覆土に炭化物が多量に含まれているが、時期・性格ともに不明である。



第383図 第13号土坑・出土遺物実測図

第13号土坑出土遺物観察表（第383図）

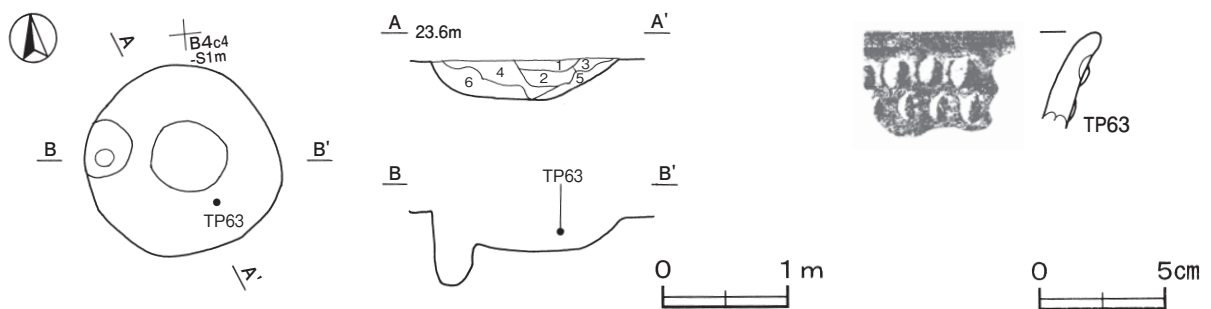
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP61	縄文土器	深鉢	—	(3.6)	—	長石・石英	橙	普通	貝殻腹縁文	覆土中	PL90
TP62	縄文土器	深鉢	—	(3.9)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	キザミが施された隆帯に沿って沈線文	覆土中	PL90

第18号土坑（第384図）

位置 調査区北部のB4c3区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.57m、短径1.54mの円形である。深さは31cmで、底面は平坦である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。西壁部に深さ60cmのピットが掘られている。

覆土 6層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれており、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



第384図 第18号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器1点 (TP63) が, 南部の覆土中層から出土している。

所見 時期・性格ともに不明である。

第18号土坑出土遺物観察表 (第384図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP63	縄文土器	深鉢	—	(33)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	半截竹管による刺突文	覆土中層	PL90

第38号土坑 (第385図)

位置 調査区南部のE 3j2区で, 標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号住居に掘り込まれている。

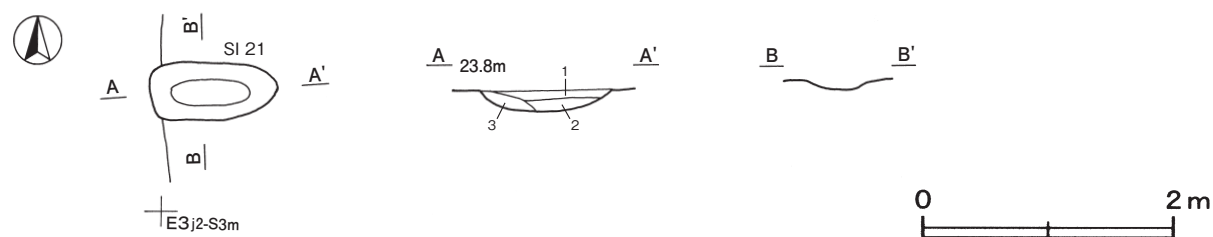
規模と形状 長径1.02m, 短径0.44mの楕円形で, 長径方向はN-86°-Eである。深さは16cmで, 底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層がブロック状に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | | |

所見 平安時代の第21号住居に掘り込まれていることから, 平安時代以前と推測されるが, 詳細な時期や性格は不明である。



第385図 第38号土坑実測図

第43号土坑 (第386図)

位置 調査区西部のD 1e4区で, 標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長径0.5m, 短径0.36mの楕円形で, 長径方向はN-4°-Wである。深さは24cmで, 底面は中央部がピット状に下がっている。壁は外傾して立ち上がっている。

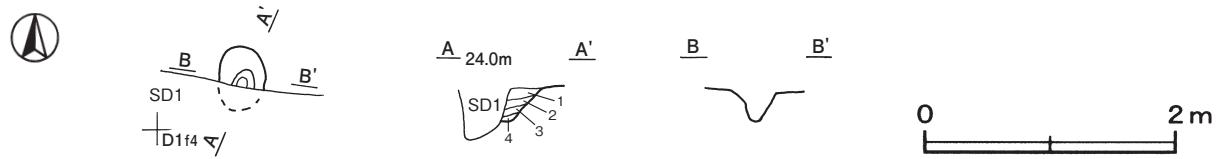
覆土 4層に分層できる。ロームブロックをやや多く含む層が水平に堆積していることから埋め戻されている。

第44号土坑と覆土および堆積状況が類似している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック微量 |

所見 時期・性格ともに不明である。



第386図 第43号土坑実測図

第44号土坑（第387図）

位置 調査区西部のD1f3区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

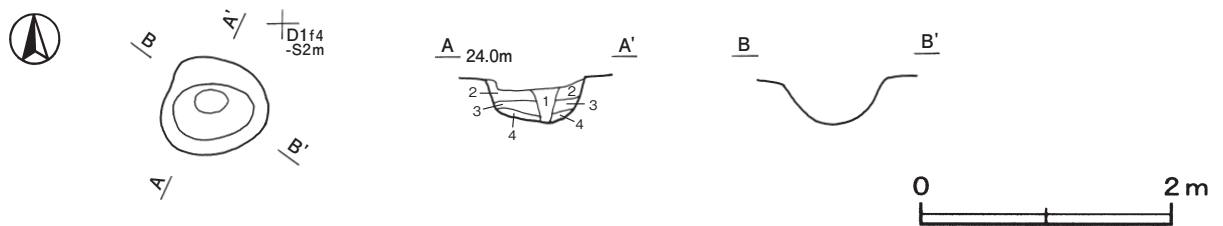
規模と形状 長径0.84m、短径0.8mの円形である。深さは34cmで、底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。中央部の第1層は柱痕状で、外周部はロームブロックをやや多く含む締めまりのある層が水平に堆積し、埋められている。第43号土坑と覆土および堆積状況が類似している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

所見 時期・性格ともに不明である。



第387図 第44号土坑実測図

第45号土坑（第388図）

位置 調査区南部のF3c8区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第116号住居跡・第46号土坑を掘り込み、第228号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.84m、確認できた短径0.55mの楕円形で、長径方向はN-15°-Wである。深さは34cmで、底面は平坦で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

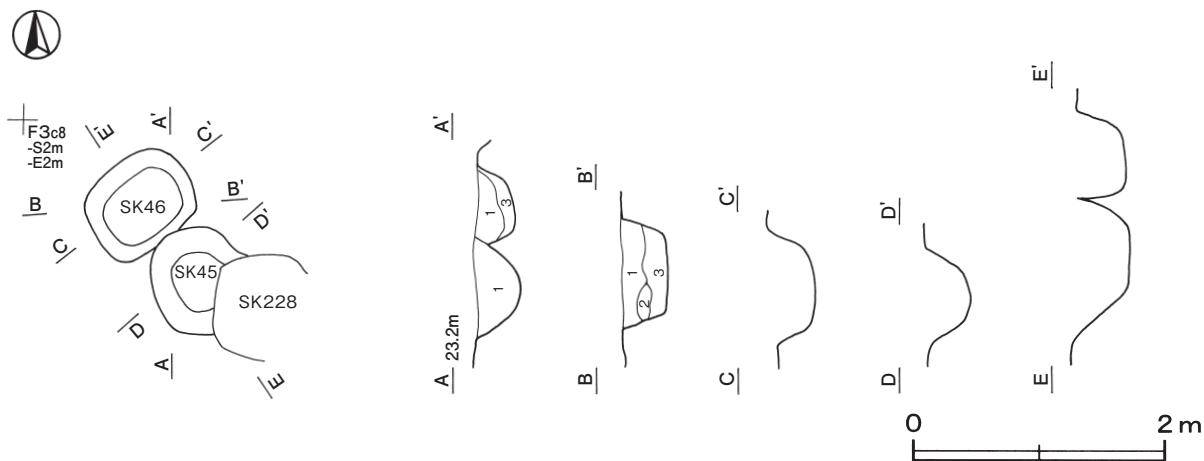
覆土 ロームブロック・粘土ブロックを含む層が堆積していることから、埋め戻されたとみられる。

土層解説

- | | |
|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
|-------|------------------|

遺物出土状況 土師器甕片1点、須恵器甕片1点が出土している。

所見 覆土に粘土ブロックを含んでおり、周辺には第30～34・36・37・39号土坑（第1・2号粘土採掘坑）など、住居跡を掘り込んだ粘土採掘坑が多く分布していることなどから、本跡も粘土採掘坑の可能性がある。



第388図 第45・46号土坑実測図

第46号土坑（第388図）

位置 調査区南部のF 3c8区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第116号住居跡を掘り込み、第45号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸0.87m、短軸0.73mの長方形で、長軸方向はN-53°-Eである。深さは33cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックを含む層がブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 灰黄褐色 | ローム粒子・白色粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 須恵器甕片5点が出土している。

所見 覆土に粘土を含んでおり、本跡の周辺には第30～34・36・37・39号土坑（第1・2号粘土採掘坑）など、住居跡を掘り込んだ粘土採掘坑が多く分布していることなどから、本跡も粘土採掘坑の可能性がある。

第62号土坑（第389図）

位置 調査区南部のE 3d5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第26号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.86m、短径0.80mの円形である。深さは56cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。第1・2層は焼土ブロックを含んでいるが、自然堆積とみられる。第26号住居跡の覆土と近似している。

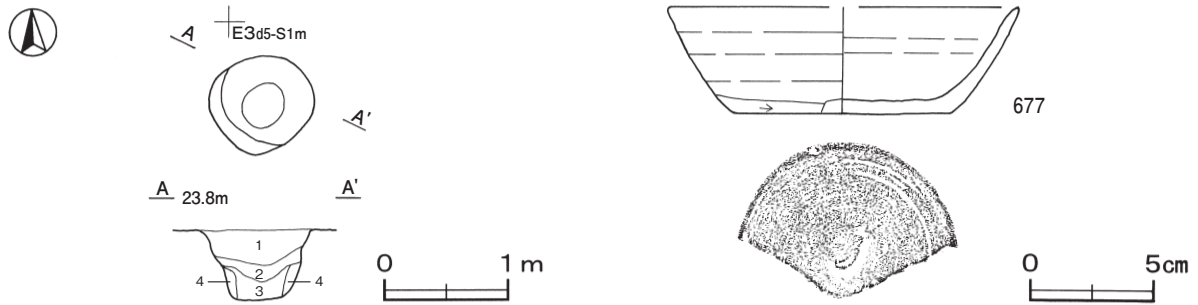
土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|-----------|
| 1 灰褐色 | 焼土ブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 須恵器坏1点のほか、土師器甕片2点が出土している。P677は覆土中から出土しており、8世紀中葉に比定でき、第26号住居跡の出土遺物と時期的に大差ないことから、第26号住居跡に伴う可能性が高い。

所見 本跡に伴う出土土器がないことから、時期・性格ともに不明である。本跡の周辺には第30～34・36・

37・39号土坑（第1・2号粘土採掘坑）が存在していることから、本跡も粘土採掘坑の可能性はあるが、覆土に粘土粒子等を含んでいないことから、その可能性は低いものと推測される。



第389図 第62号土坑・出土遺物実測図

第62号土坑出土遺物観察表（第389図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
677	須恵器	坏	[14.2]	4.3	8.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中	40%

第138号土坑（第390図）

位置 調査区中央部のD3d8区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.44m、確認できた短軸1.44mの長方形で、長軸方向はN-15°-Eである。深さは25cmで、底面は平坦である。壁は、直立している。

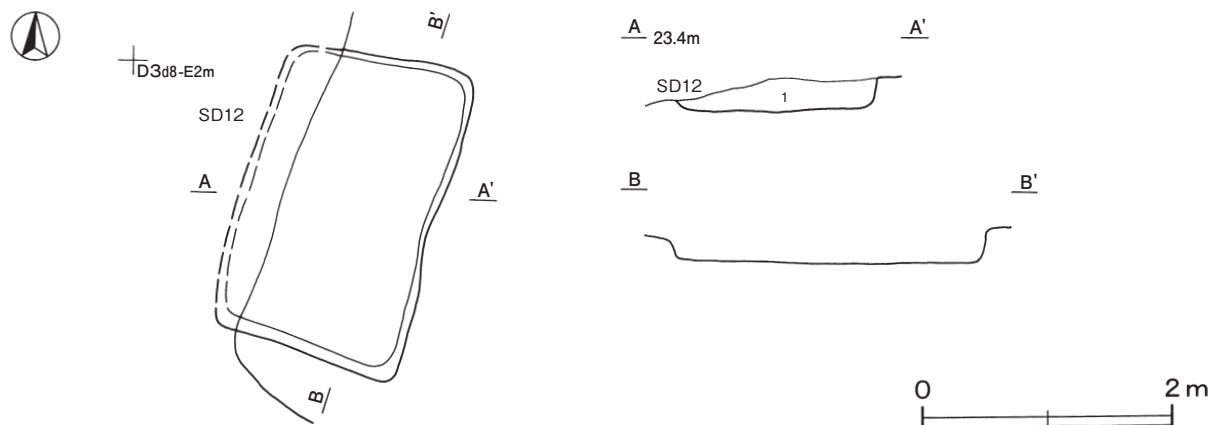
覆土 ロームブロックを多量に含む層が堆積することから埋め戻されている。

土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、黒色粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師器片3点（坏1・甕2）、須恵器坏片2点が出土している。

所見 中世に比定している第12号溝に掘り込まれていることから、それ以前と推測されるが、詳細な時期や性格は不明である。



第390図 第138号土坑実測図

第158号土坑（第391図）

位置 調査区北部のC 3g5区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号溝に掘り込まれている。

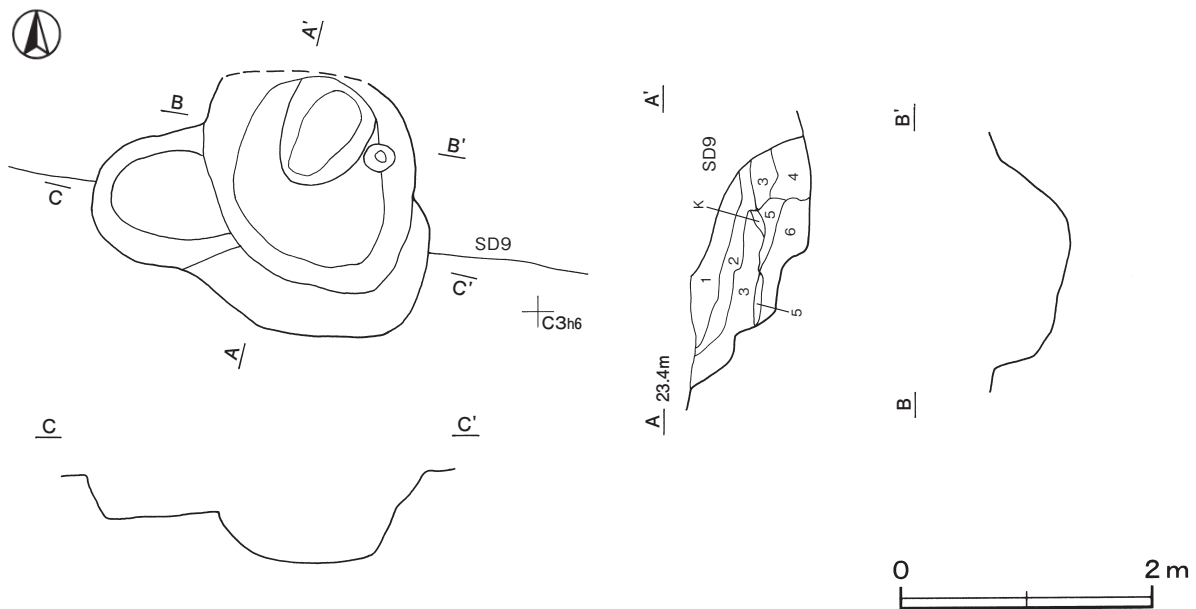
規模と形状 長径2.74m、確認できた短径2.10mの不定形で、南壁は階段状に立ち上がっている。深さは92cmで、北壁際が一段くぼんでいる。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。第1～3層はレンズ状の自然堆積であるが、第5・6層はロームブロックと粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子中量 |
| 2 黒色 | ローム粒子中量 | 5 暗褐色 | 粘土ブロック・炭化物中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子中量、炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量 |

所見 時期・性格ともに不明である。



第391図 第158号土坑実測図

第160号土坑（第392図）

位置 調査区南西部のE 2f4区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第61号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.12m、短径0.83mの楕円形で、長径方向はN-35°-Wである。深さは33cmで、底面は中央部が一段くぼんでいる。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

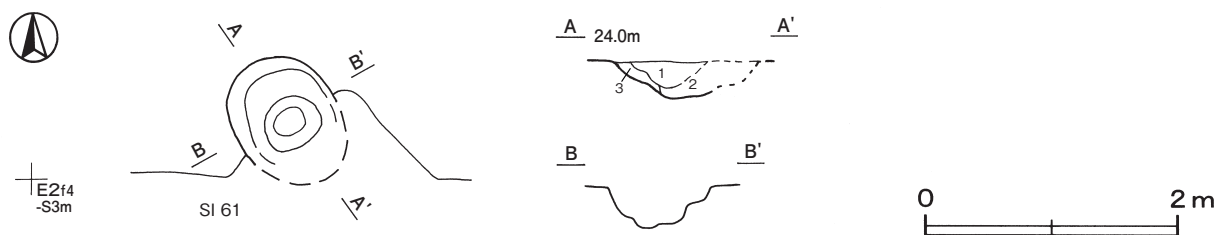
覆土 3層に分層できる。すべての層に焼土粒子を含んでいるが、レンズ状の堆積から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------|------|-------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量 | 3 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器甕片24点が出土している。

所見 時期・性格ともに不明である。



第392図 第160号土坑実測図

第184号土坑（第393図）

位置 調査区中央部のC 4j1区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第185号土坑を掘り込み、第12号溝に掘り込まれている。

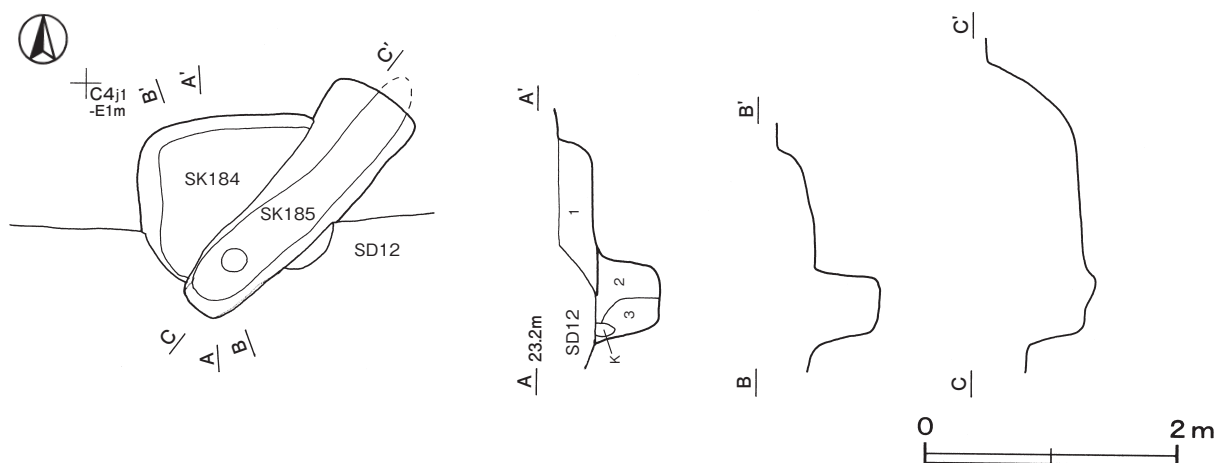
規模と形状 確認できた長軸1.54m、短軸1.25mの長方形で、長軸方向はN-83°-Eである。深さは28cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

覆土 ロームブロックを少量含む単一層で、埋め戻されているとみられる。

土層解説

1 にぶい赤褐色 ロームブロック少量

所見 中世に比定している第12号溝に掘り込まれていることから、それ以前と推測されるが、詳細な時期や性格は不明である。



第393図 第184・185号土坑実測図

第185号土坑（第393図）

位置 調査区中央部のC 4j1区で、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第184号土坑、第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.25m、短軸0.60mの長方形で、長軸方向はN-43°-Eである。深さは81cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっているが、北壁のみオーバーハングしている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 にぶい赤褐色 ロームブロック少量（第184号土坑覆土） 3 褐色 ロームブロック多量
2 黒褐色 ロームブロック少量

所見 中世に比定している第12号溝に掘り込まれていることから、それ以前と推測されるが、詳細な時期や性格は不明である。

第210号土坑（第394図）

位置 調査区中央部のC 2h1区で、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号掘立柱建物、第25号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.92m、短径0.78mの楕円形で、長径方向はN-65°-Wである。深さは24cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

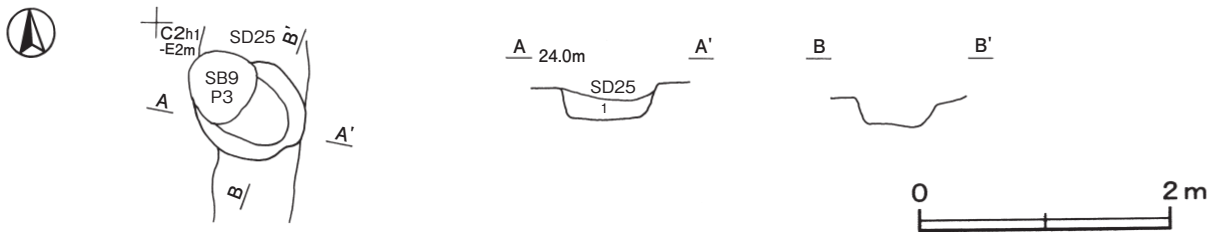
覆土 ローム粒子・焼土粒子を微量に含む単一層であり、自然堆積とみられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器甕片1点、須恵器片2点（坏1・甕1）が出土している。

所見 9世紀中葉に比定している第9号掘立柱建物に掘り込まれていることから、それ以前と推測されるが、詳細な時期や性格は不明である。

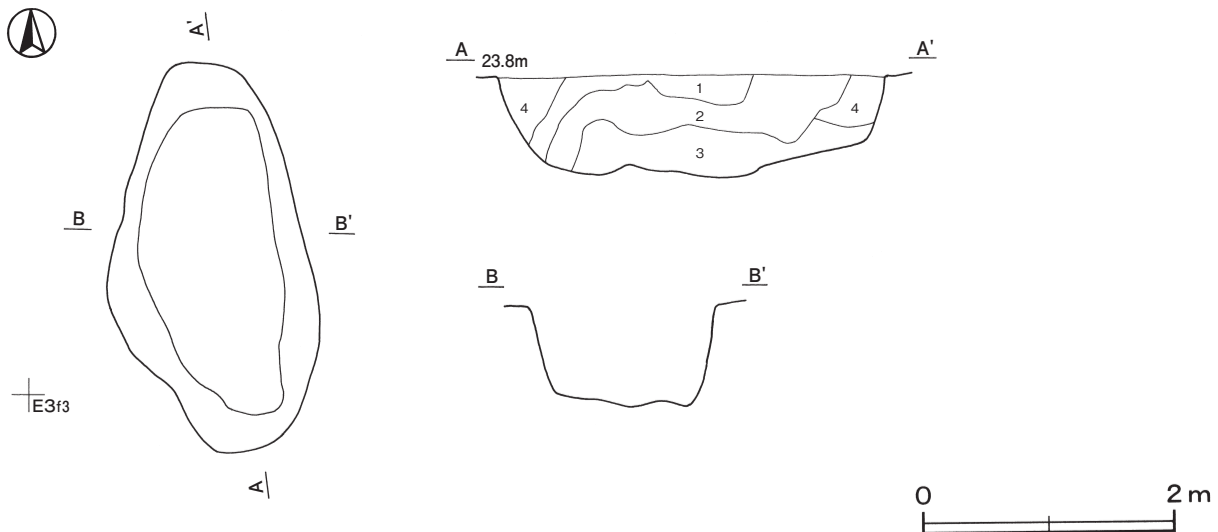


第394図 第210号土坑実測図

第218号土坑（第395図）

位置 調査区南部のE 3e3区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径3.12m、短径1.61mの不整楕円形で、長径方向はN-7°-Wである。深さは79cmで、底面



第395図 第218号土坑実測図

は凹凸がある。南・北壁は緩やかに傾斜して立ち上がっているが、東・西壁は急に立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。粘土ブロックやロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-------------------------|---|----|-----------------|
| 1 | オリーブ褐色 | ロームブロック少量(鉄分含む) | 3 | 褐色 | 焼土粒子微量(鉄分含む) |
| 2 | 明褐色 | 粘土ブロック中量,ローム粒子極微量(鉄分含む) | 4 | 褐色 | ロームブロック少量(鉄分含む) |

所見 時期・性格ともに不明である。

第226号土坑(第396図)

位置 調査区北部のF 3c8区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第116・118号住居跡、第214・215号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.00m、短軸1.49mの長方形で、長軸方向はN-13°-Wである。深さは73cmで、底面はほぼ平坦である。壁は、直立している。

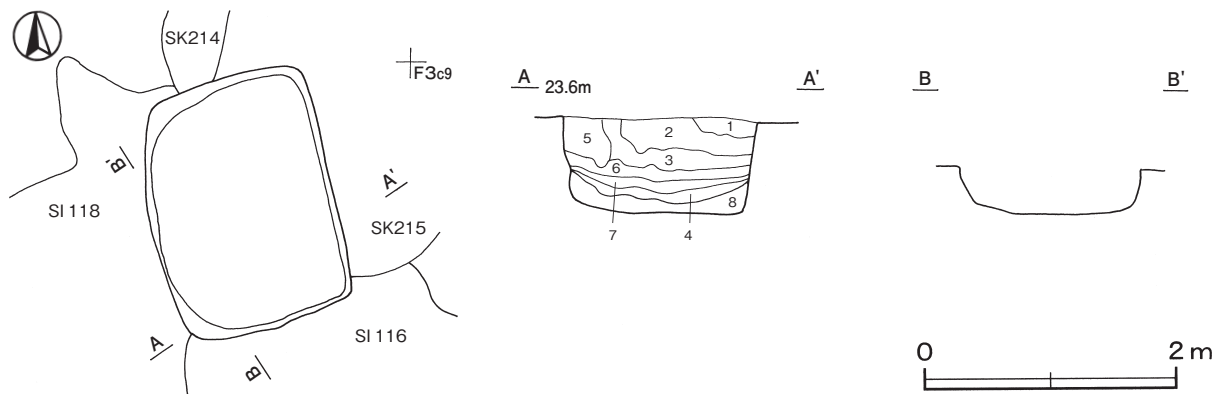
覆土 8層に分層できる。第1~4層はロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されているようである。第5~8層は、いずれの層にもロームブロックが含まれているが、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|------|---------------------------------|---|-----|------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子極微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 | 7 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック微量, 炭化粒子極微量 | 8 | 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 | 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子極微量 | | | |
| 5 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子極微量 | | | |

遺物出土状況 土師器甕片1点が出土している。

所見 時期・性格ともに不明である。



第396図 第226号土坑実測図

第236号土坑(第397図)

位置 調査区南部のE 3e5区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北1.03m、東西0.85mを確認しただけで、おそらく円形あるいは楕円形と推測される。深さは56cmで、底面は皿状である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。

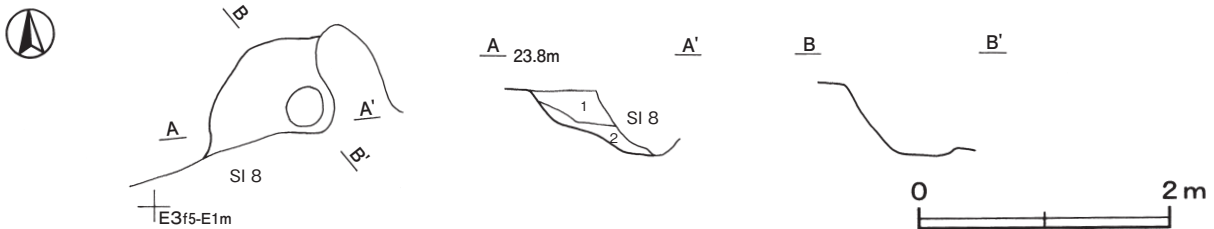
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを少量含み、レンズ状の堆積から自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 にぶい褐色 ロームブロック少量

所見 9世紀前葉に比定している第8号住居に掘り込まれていることから、それ以前と推測されるが、詳細な時期・性格は不明である。



第397図 第236号土坑実測図

第242号土坑（第398図）

位置 調査区北部のC4b3区で、標高23.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第70号住居、第59号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長径1.36m、短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-15°-Wである。深さは44cmで、底面は段差を有し、北側に下がっている。壁は、南側は外傾しているが、北側は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。粘土ブロックを中量含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

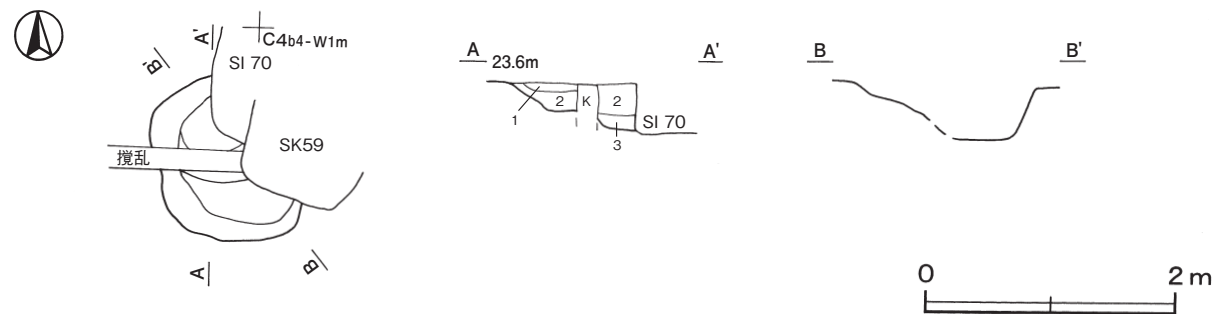
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

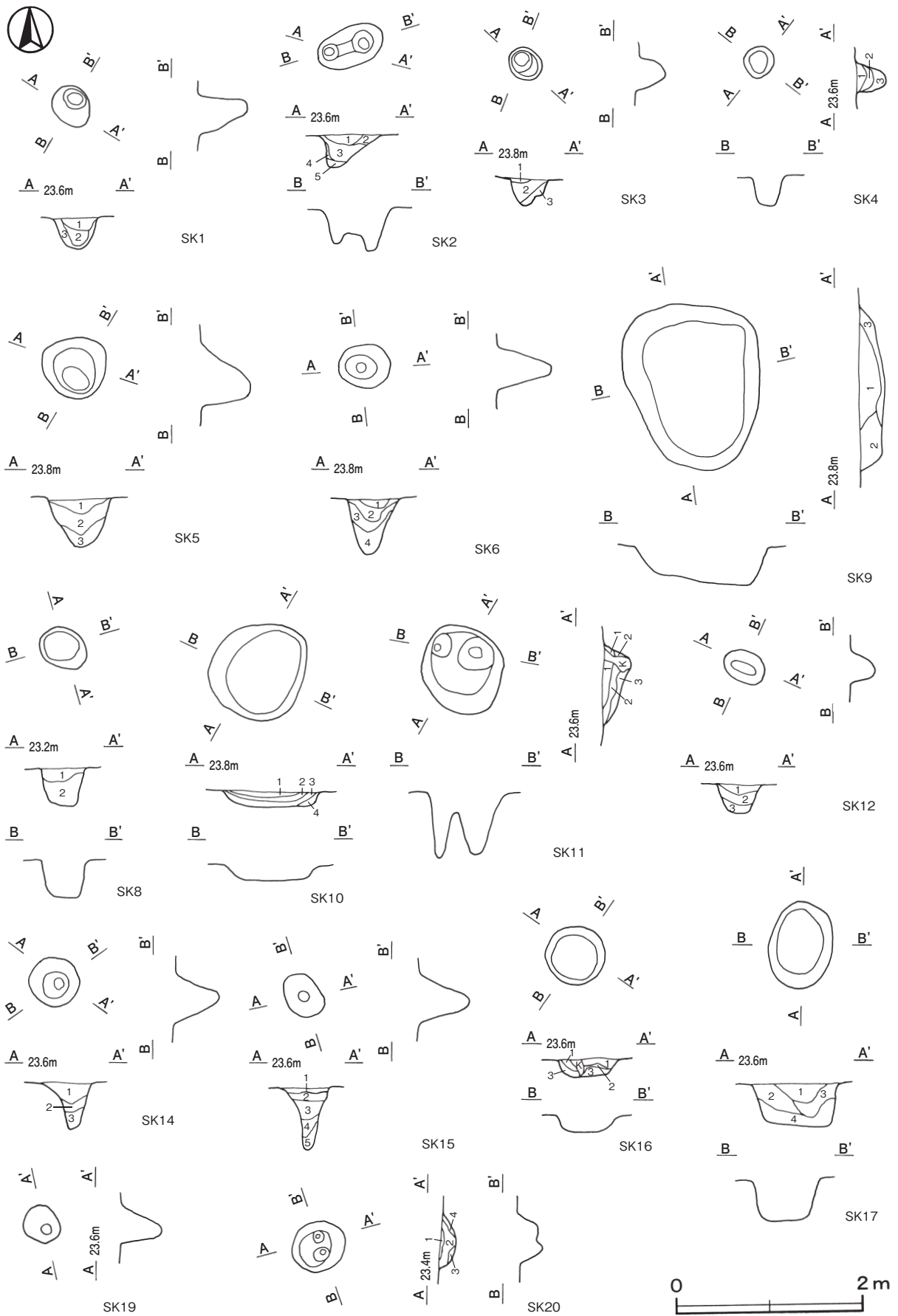
3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量

2 暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

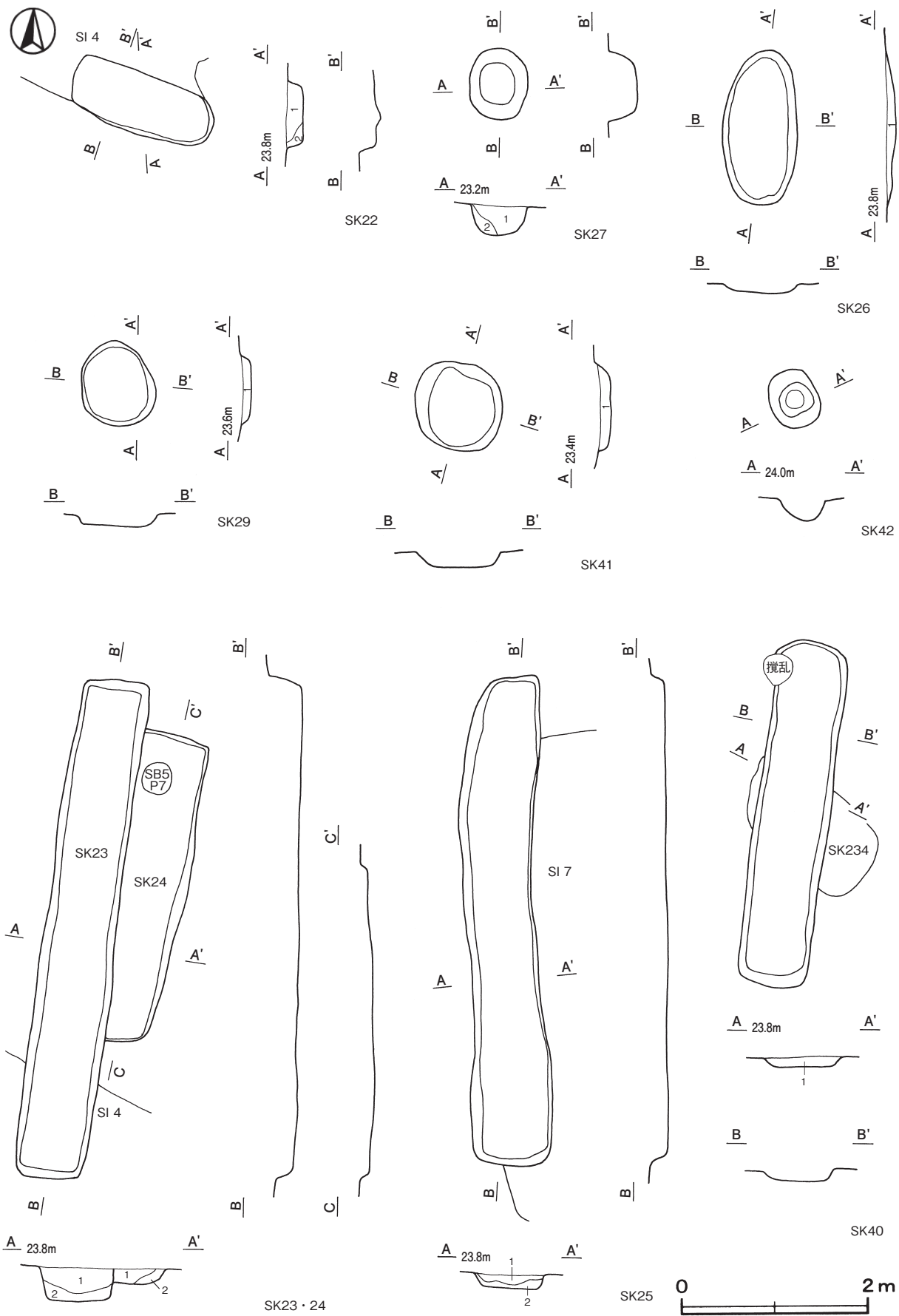
所見 9世紀中葉に比定している第70号住居に掘り込まれていることから、それ以前と推測されるが、詳細な時期・性格は不明である。



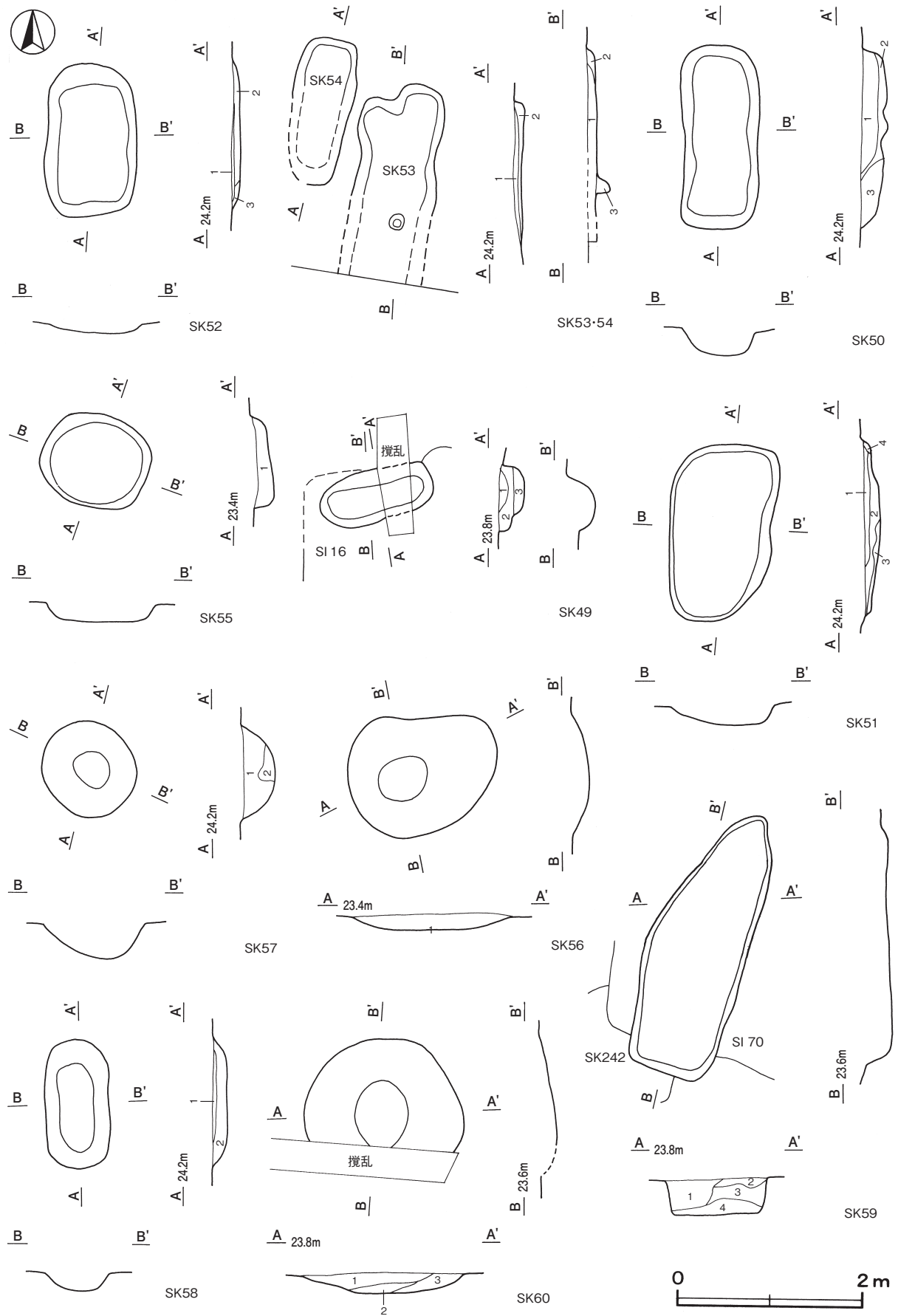
第398図 第242号土坑実測図



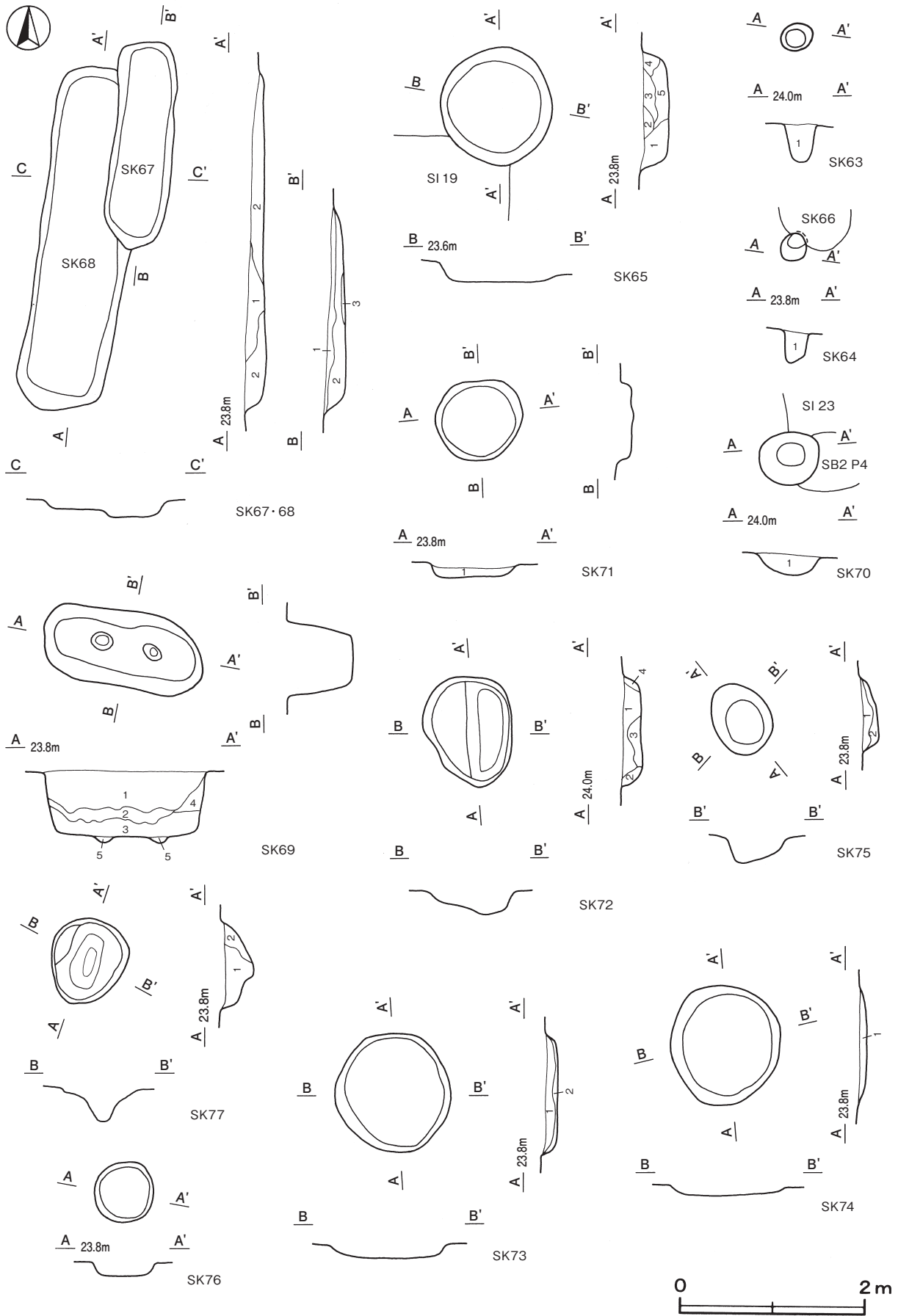
第399图 时期不明土坑实测图 (1)



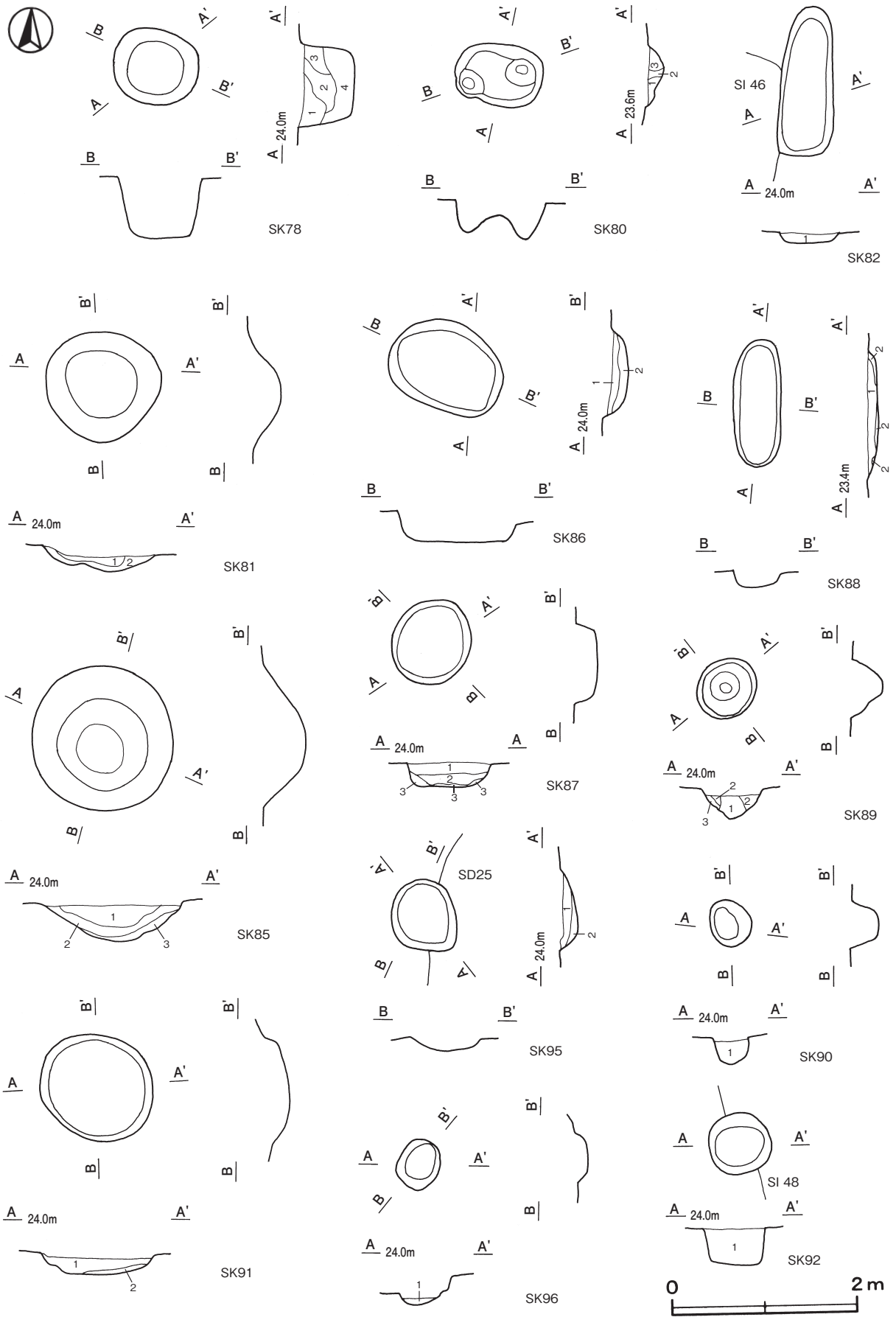
第400図 時期不明土坑実測図(2)



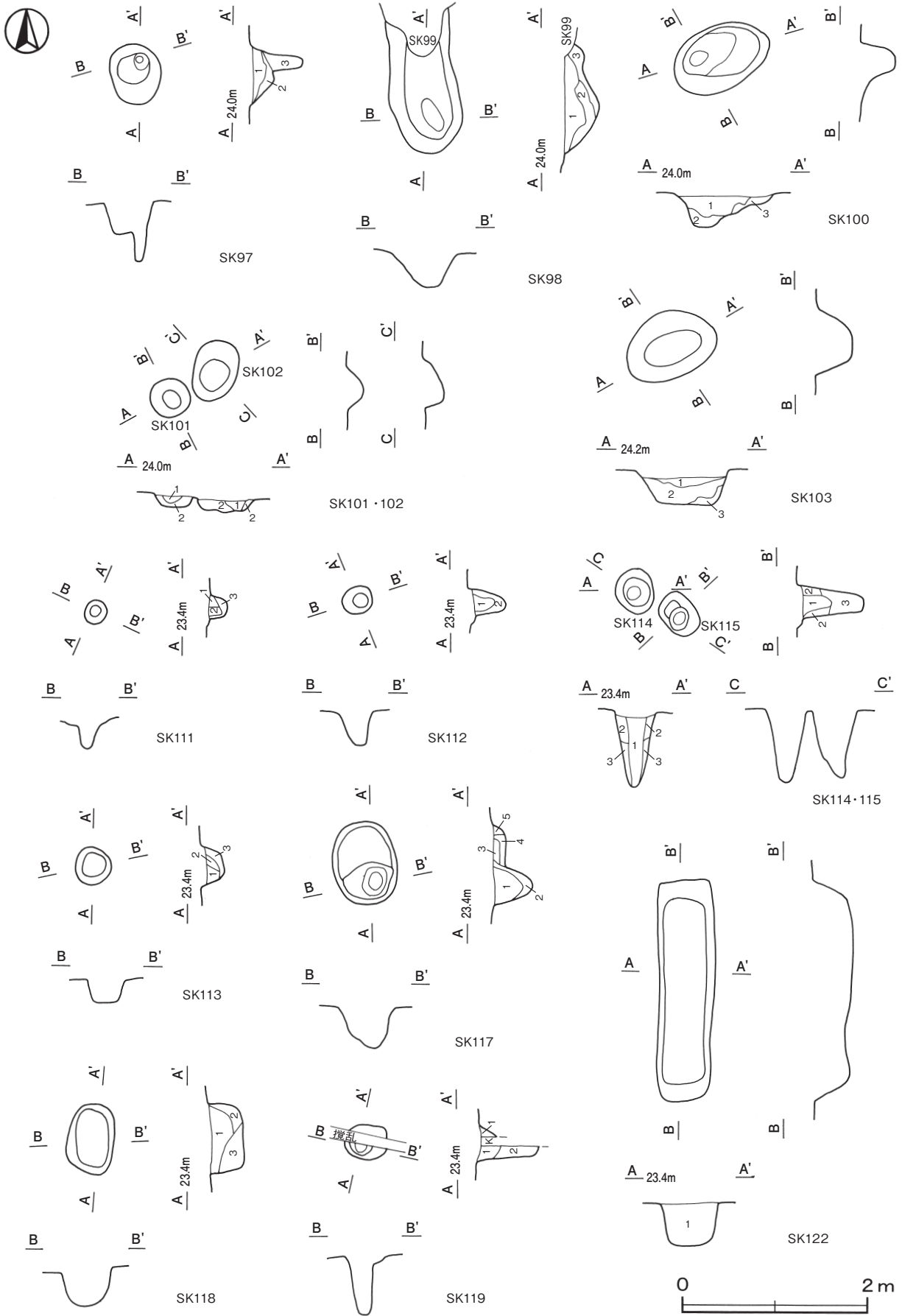
第401図 時期不明土坑実測図 (3)



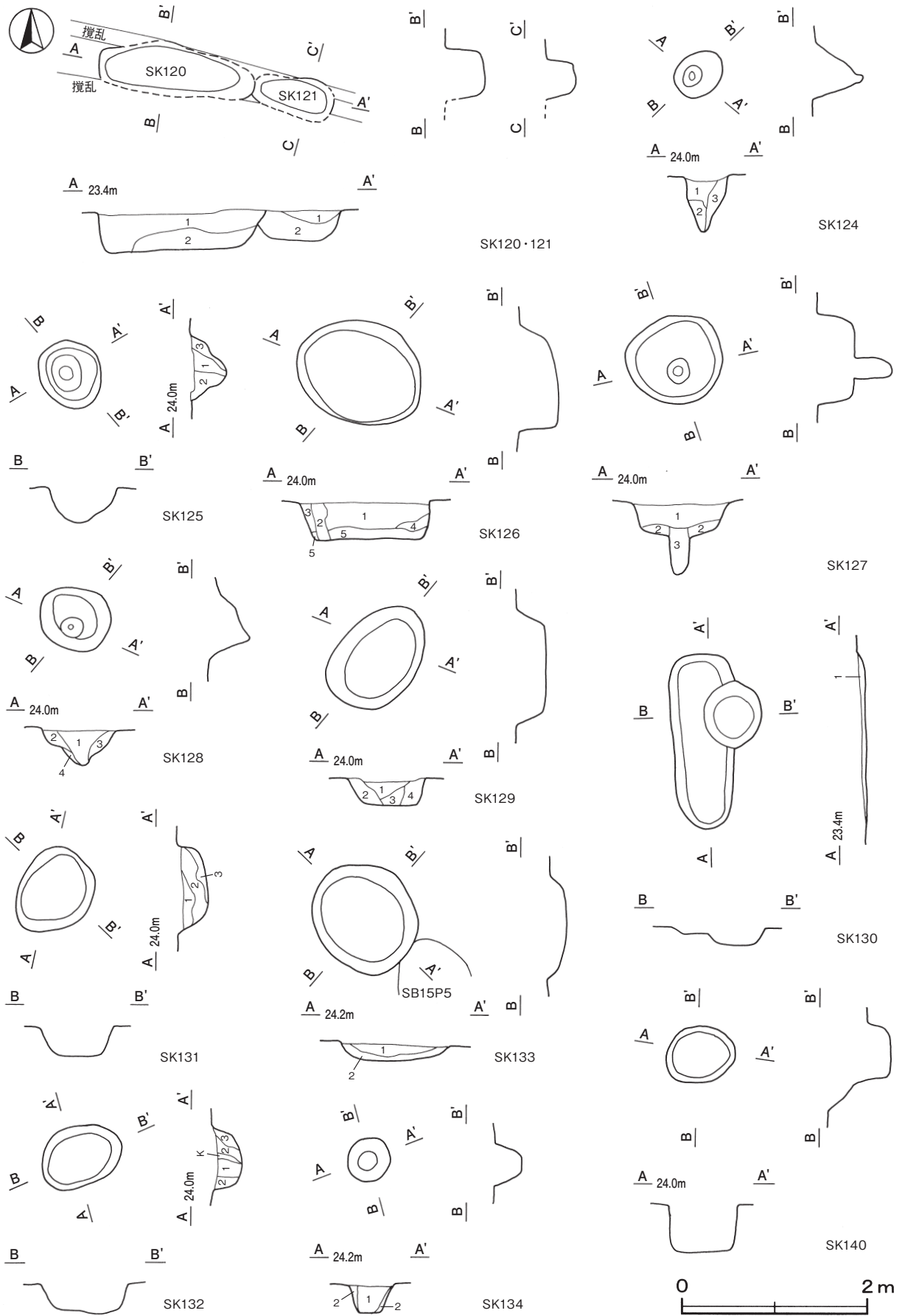
第402図 時期不明土坑実測図(4)



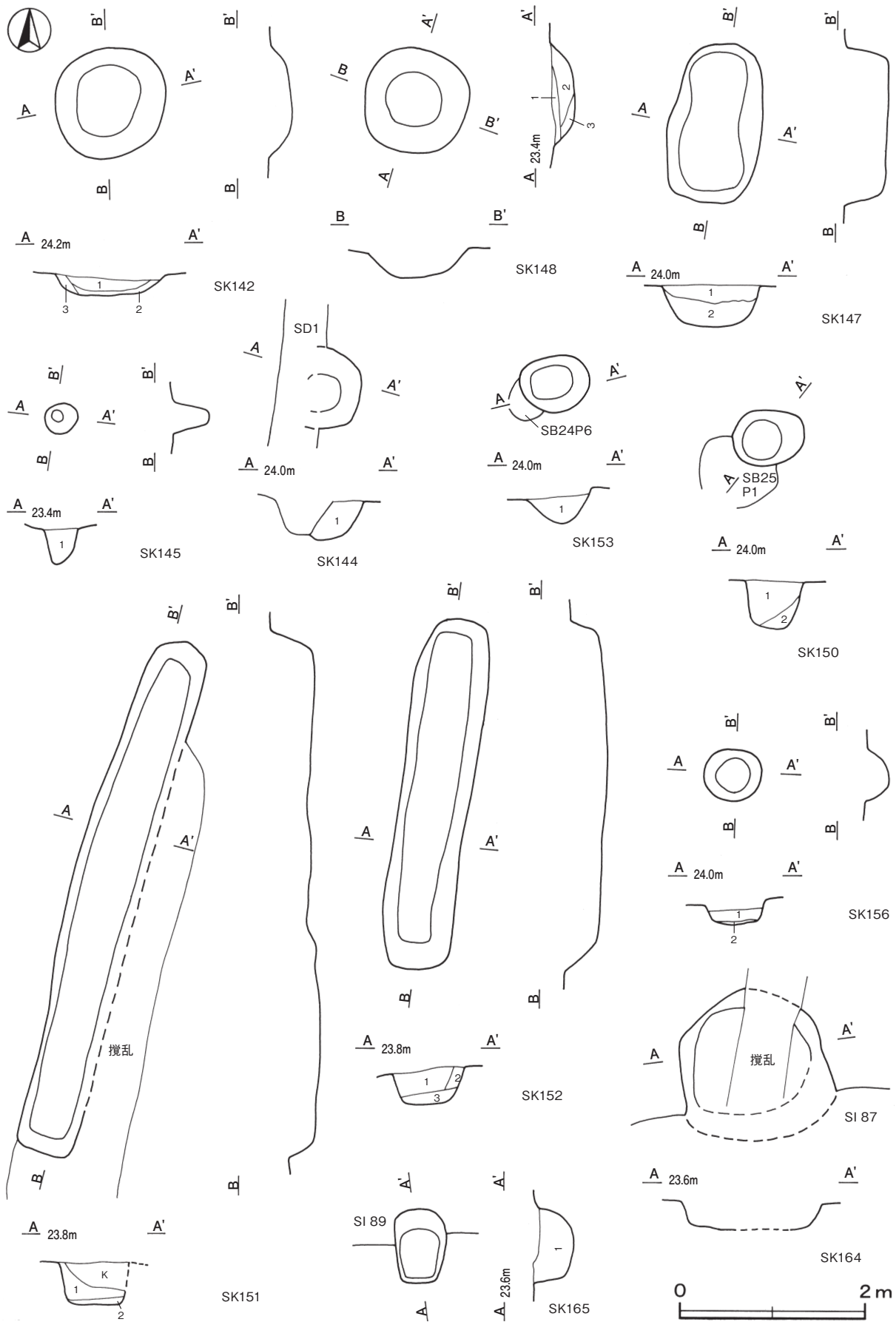
第403图 时期不明土坑实测图 (5)



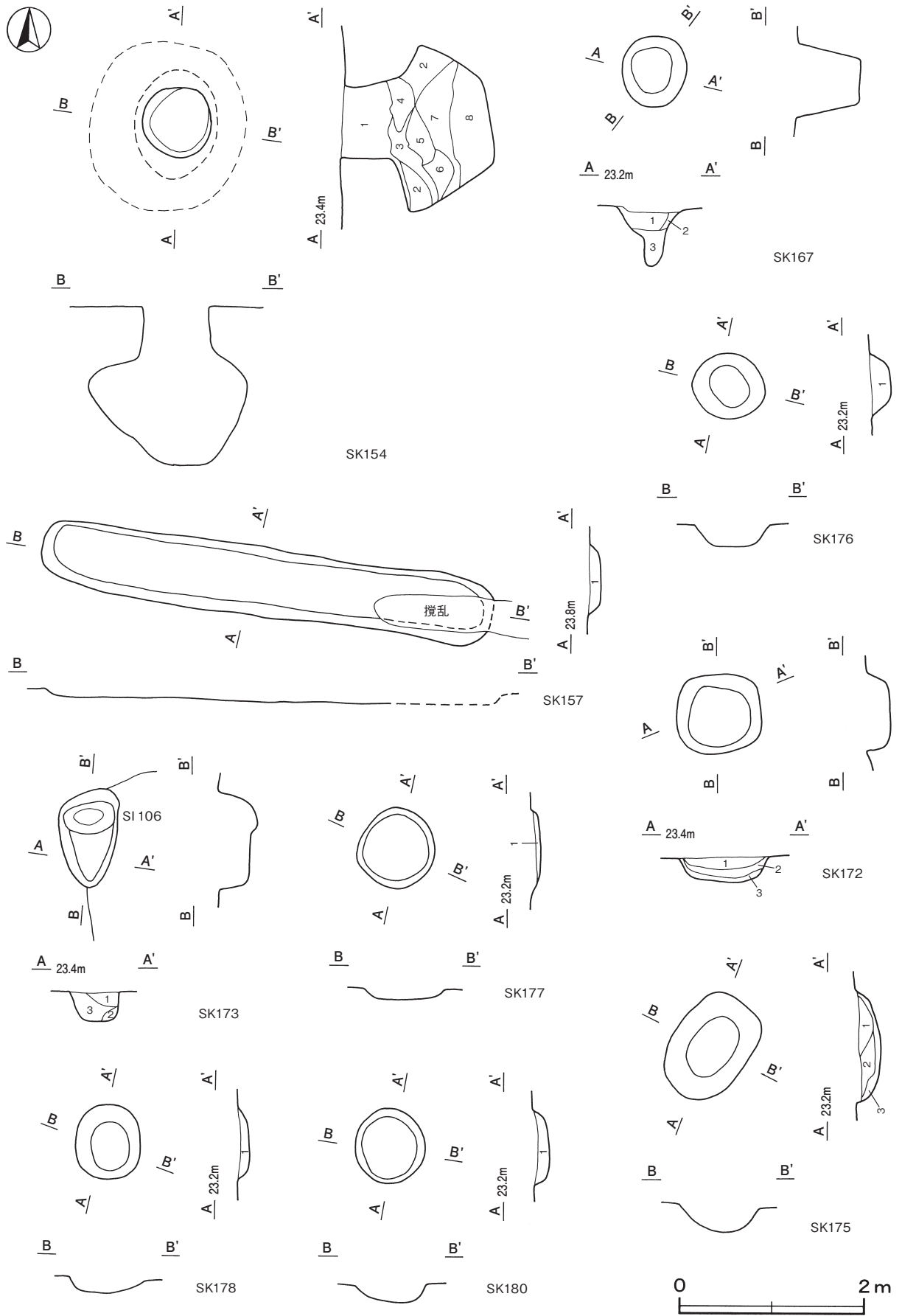
第404图 时期不明土坑实测图(6)



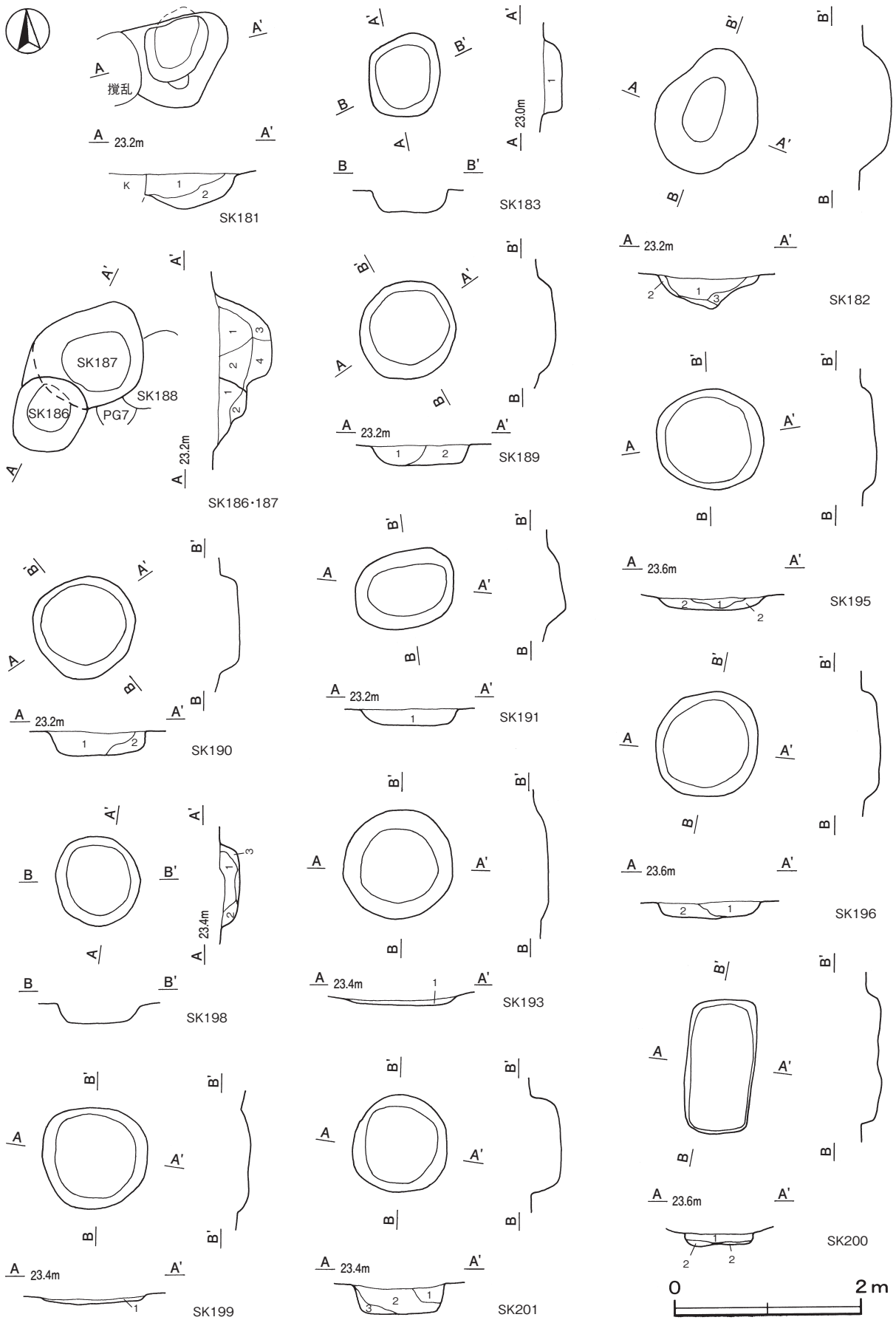
第405图 时期不明土坑实测图 (7)



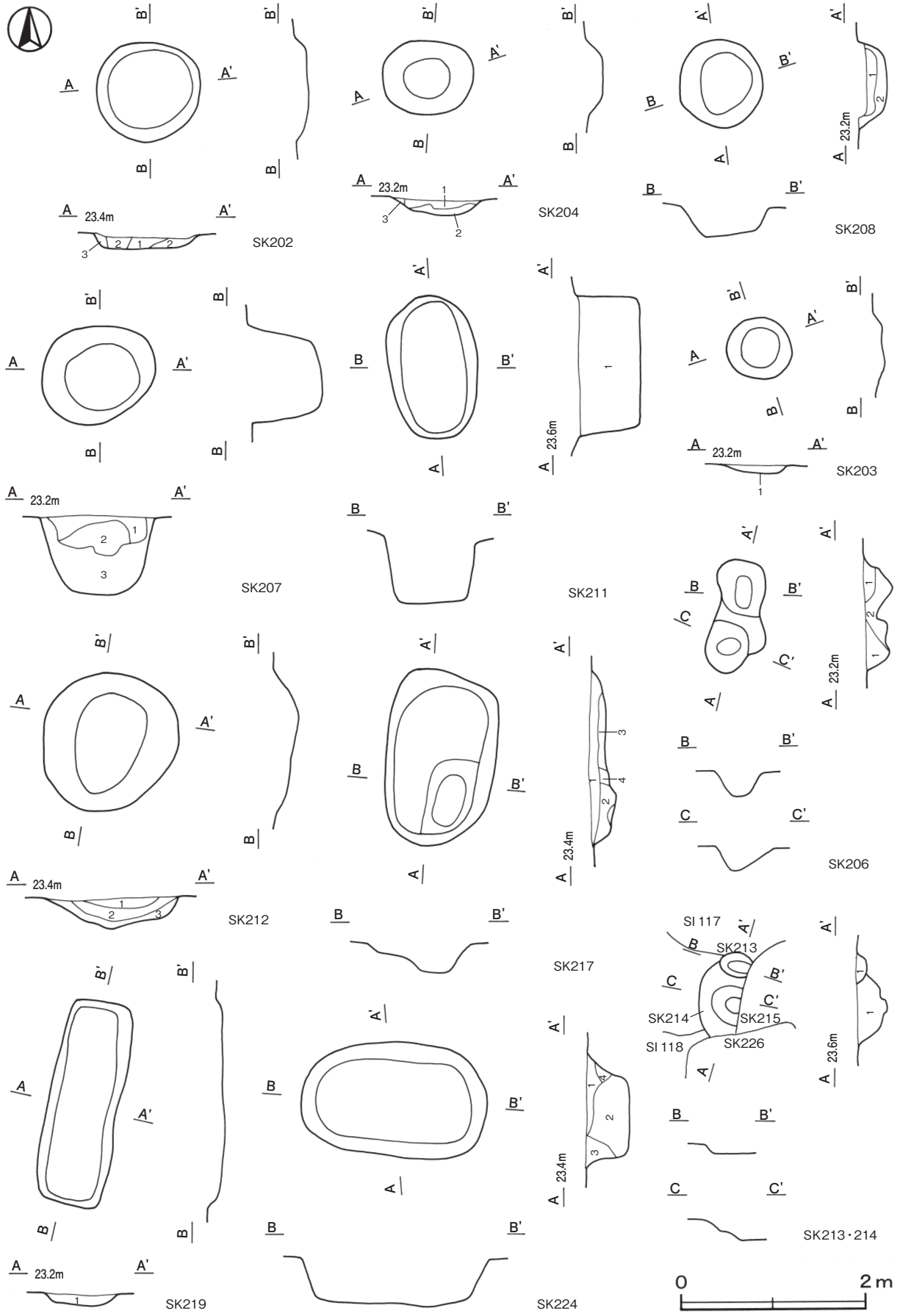
第406图 时期不明土坑实测图 (8)



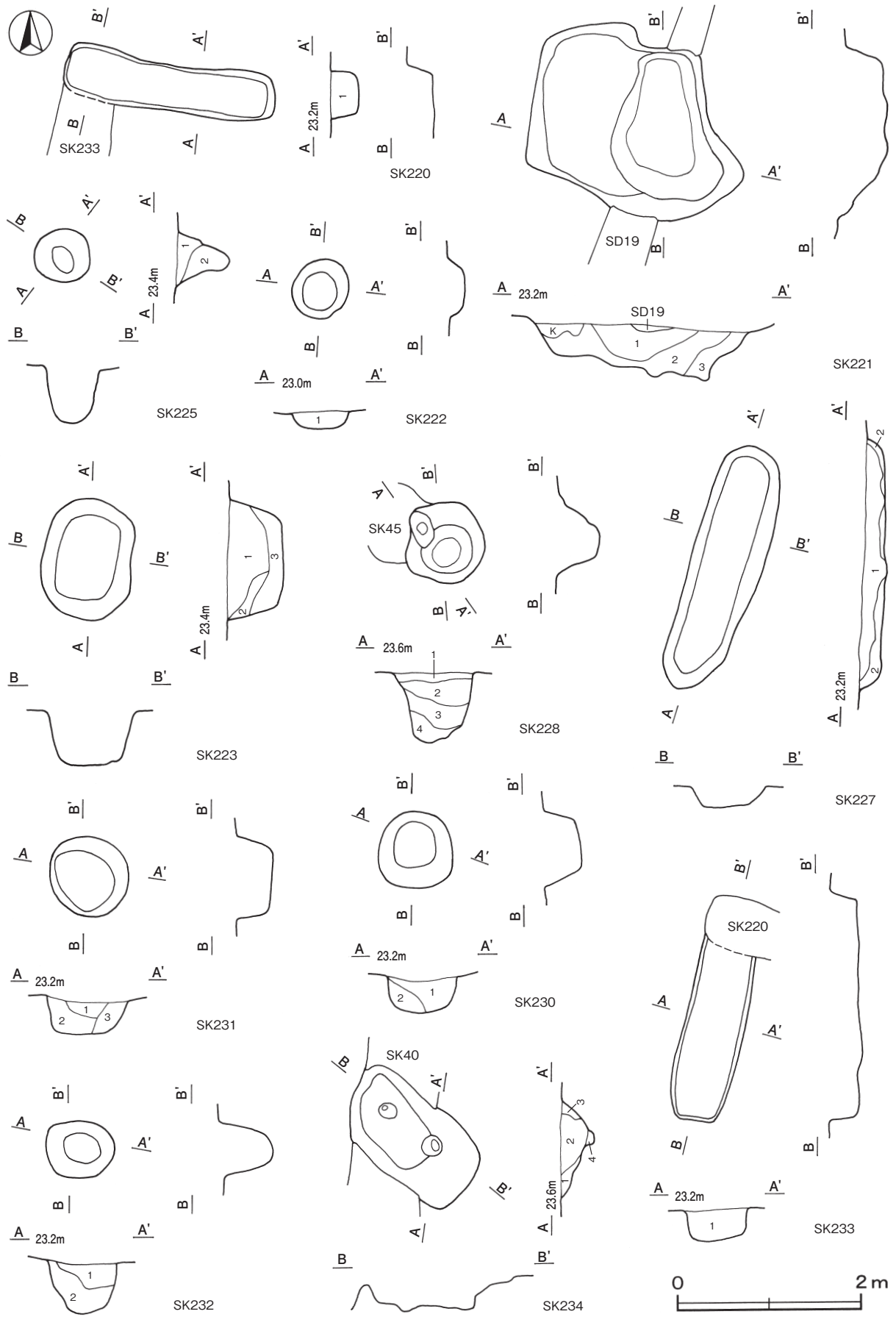
第407图 时期不明土坑实测图 (9)



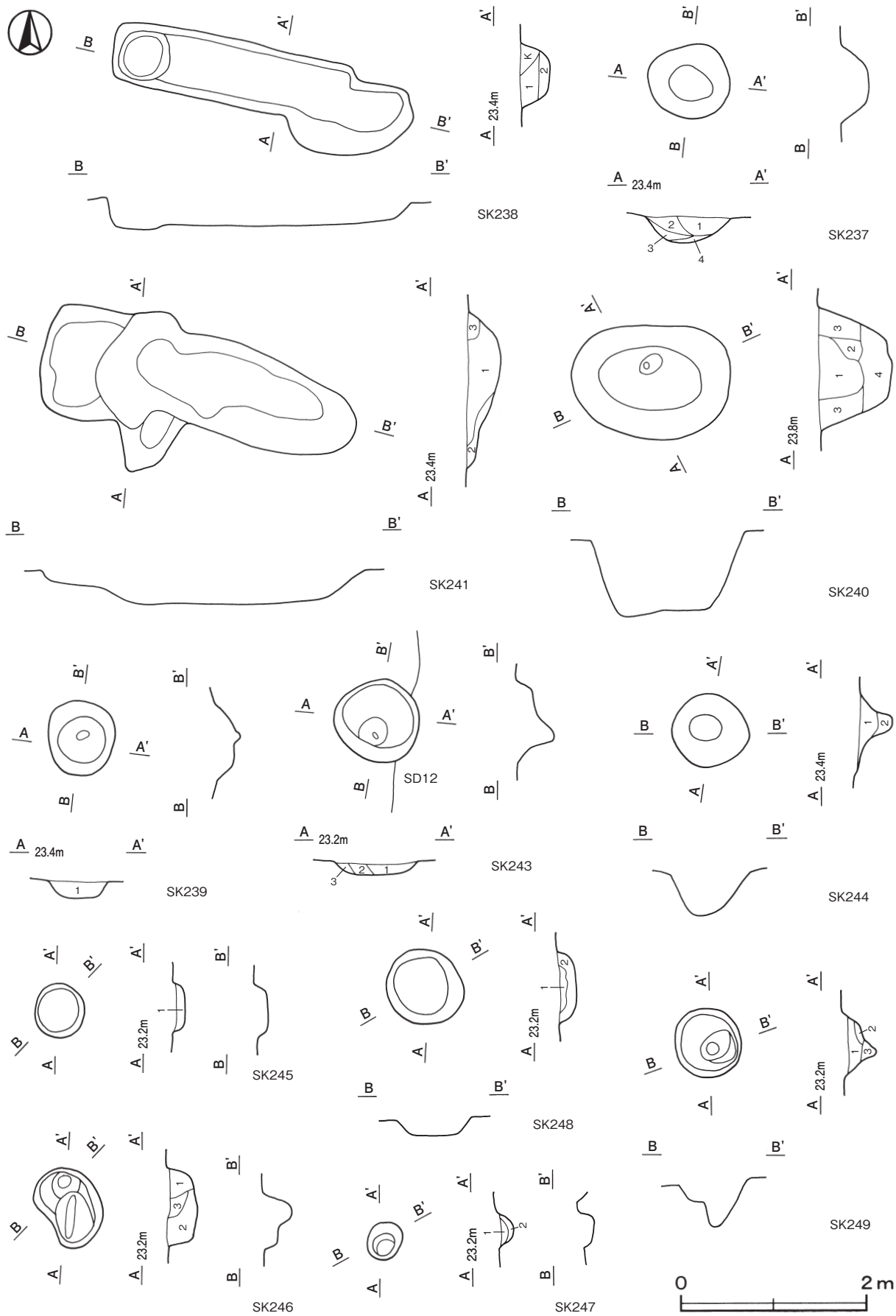
第408図 時期不明土坑実測図 (10)



第409图 时期不明土坑实测图 (11)



第410图 时期不明土坑实测图 (12)



第411図 時期不明土坑実測図 (13)

第1号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | | |

第2号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|-----------|-------|---------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 4 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック微量 | 5 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | | |

第3号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|-----------|---------|---------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

第4号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|---------|-------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 3 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | | |

第5号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|--------------|-------|---------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック微量 | | |

第6号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|--------------|---------|---------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | 4 褐 色 | ローム粒子少量 |

第8号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|---------|-----------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
|---------|----------------|---------|-----------------|

第9号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|---------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

第10号土坑土層解説

- | | | | |
|-----------|---------|---------|-----------|
| 1 極 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |

第11号土坑土層解説

- | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 2 極 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | | |

第12号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | | |

第14号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|---------|-------|---------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 3 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | | |

第15号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|-------|--------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

第16号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒 褐 色 | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

第17号土坑土層解説

- | | | | |
|-----------|-------------------|---------|-------------------|
| 1 極 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 3 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |

第20号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|-----------------|
| 1 赤 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

第22号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|---------|------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子微量, 炭化粒子極微量 | 2 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子極微量 |
|---------|-----------------------|---------|------------------|

第23号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|---------|-----------|
| 1 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子極微量 | 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
|-------|--------------------|---------|-----------|

第24号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
|---------|---------|---------|-----------|

第25号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 2 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量

第26号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第27号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量 2 にぶい褐色 ロームブロック少量

第29号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第40号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第41号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量

第49号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量, 炭化粒子極微量 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

第50号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子極微量
2 褐色 ロームブロック少量

第51号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子極微量 3 褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量 4 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量

第52号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 3 褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量

第53号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 3 褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ローム粒子中量

第54号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 2 褐色 ローム粒子中量

第55号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量, ローム粒子少量, 焼土粒子極微量

第56号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ローム粒子中量

第57号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子極微量 2 褐色 炭化粒子微量, ロームブロック極微量

第58号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子極微量 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量

第59号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土ブロック少量 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量 4 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土ブロック少量

第60号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量 3 黄褐色 ロームブロック中量
2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

第63号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第64号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第65号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

第67号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 3 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

第68号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|---------|------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 2 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
|---------|-------------------|---------|------------------------|

第69号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒 褐 色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 5 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | | |

第70号土坑土層解説

- | | |
|---------|---------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
|---------|---------------------|

第71号土坑土層解説

- | | |
|-------|---------------------------|
| 1 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
|-------|---------------------------|

第72号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|---------|-------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 4 にぶい褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |

第73号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|-------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 2 褐 色 | ロームブロック少量 |
|---------|---------------------|-------|-----------|

第74号土坑土層解説

- | | |
|---------|------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
|---------|------------------------|

第75号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|---------|---------|-----------|
| 1 褐 色 | ローム粒子微量 | 2 明 褐 色 | ロームブロック少量 |
|-------|---------|---------|-----------|

第77号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|---------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 にぶい褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
|---------|------------------------|---------|---------------------|

第78号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|---------|----------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 褐 色 | ロームブロック少量 |

第80号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

第81号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量 | 2 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
|---------|---------|---------|-----------|

第82号土坑土層解説

- | | |
|---------|---------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量 |
|---------|---------|

第85号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 1 黒 色 | ローム粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒 色 | ロームブロック少量 | | |

第86号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|---------|----------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 2 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
|---------|------------------|---------|----------------|

第87号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 3 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

第88号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|-------|---------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子微量, 焼土粒子極微量 | 2 褐 色 | ローム粒子中量 |
|---------|------------------|-------|---------|

第89号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

第90号土坑土層解説

- | | |
|---------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
|---------|-----------|

第91号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 2 褐 色 | ロームブロック少量 |
|---------|-------------------|-------|-----------|

第92号土坑土層解説

- | | |
|---------|---------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |
|---------|---------|

第95号土坑土層解説

- | | | | |
|---------|-----------|--------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 2 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
|---------|-----------|--------|-----------|

第96号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

第97号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

第98号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

3 暗褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

第100号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック少量

第101号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量

第102号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量

第103号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック中量

第111号土坑土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック中量

3 褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ロームブロック中量

第112号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ローム粒子少量

第113号土坑土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック中量

3 褐色 ロームブロック多量

2 極暗褐色 ロームブロック多量

第114号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

3 にぶい黄褐色 ローム粒子少量

2 黄褐色 ロームブロック中量

第115号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ロームブロック多量

2 黄褐色 ロームブロック中量

第117号土坑土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック中量

4 褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ローム粒子少量

5 極暗褐色 ロームブロック多量

3 褐色 ロームブロック少量

第118号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

3 明褐色 ロームブロック多量

2 明褐色 ロームブロック中量

第119号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ローム粒子少量

第120号土坑土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック中量

第121号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量

2 明褐色 ロームブロック中量

第122号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量

第124号土坑土層解説

1 にぶい褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 褐色 ロームブロック・粘土粒子少量

第125号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第126号土坑土層解説

1	にぶい褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	5	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック少量			

第127号土坑土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	3	褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量			

第128号土坑土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	3	暗褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	4	暗褐色	焼土粒子中量, ローム粒子微量

第129号土坑土層解説

1	黒色	焼土粒子少量, ローム粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	4	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量

第130号土坑土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量, 焼土粒子極微量
---	-----	------------------

第131号土坑土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	3	褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量			

第132号土坑土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	3	鈍褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量			

第133号土坑土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	2	極暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
---	-----	--------------	---	------	------------------------

第134号土坑土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	2	暗褐色	ロームブロック微量
---	-----	----------------	---	-----	-----------

第142号土坑土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	3	にぶい褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量			

第144号土坑土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量
---	-----	-------------------------

第145号土坑土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量
---	-----	---------

第147号土坑土層解説

1	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	2	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
---	------	----------------	---	-----	-------------------

第148号土坑土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	3	褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ロームブロック少量			

第150号土坑土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	2	暗褐色	ローム粒子微量
---	-----	----------------	---	-----	---------

第151号土坑土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	2	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
---	-----	---------------------------	---	-----	------------------------

第152号土坑土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3	黒褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量			

第153号土坑土層解説

1	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
---	------	----------------

第154号土坑土層解説

1	暗褐色	粘土ブロック微量	5	にぶい黄褐色	粘土ブロック多量
2	褐色	ローム粒子少量	6	暗褐色	粘土ブロック中量
3	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量	7	灰黄褐色	粘土ブロック多量 (鉄分含む)
4	暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子微量	8	褐灰色	粘土ブロック中量 (鉄分含む)

第156号土坑土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	2	褐色	ロームブロック少量
---	-----	---------	---	----	-----------

第157号土坑土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
---	-----	---------------------

第165号土坑土層解説

1 にぶい褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第167号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック極微量

第172号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

3 にぶい褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック少量

第173号土坑土層解説

1 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子極微量

3 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

2 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第175号土坑土層解説

1 黒褐色 ローム粒子極微量

3 褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子微量

第176号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

第177号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

第178号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

第180号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

第181号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 極暗褐色 ローム粒子少量

第182号土坑土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック少量

3 明褐色 ロームブロック多量

2 褐色 ロームブロック中量

第183号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

第186号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量

2 褐色 ロームブロック微量

第187号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量

3 褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

4 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

第189号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 にぶい褐色 ロームブロック中量

第190号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 褐色 ロームブロック少量

第191号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

第193号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第195号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第196号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第198号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

3 黒褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子微量

第199号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

第200号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

- 第201号土坑土層解説
 1 黒 色 ロームブロック少量
 2 黒 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子極微量
 3 黒 褐色 ローム粒子中量
- 第202号土坑土層解説
 1 黒 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
 2 黒 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
 3 黒 褐色 ロームブロック少量
- 第203号土坑土層解説
 1 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 第204号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量, 炭化粒子極微量
 2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
 3 暗 褐色 ローム粒子中量
- 第206号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック少量
 2 褐色 ロームブロック中量
- 第207号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ローム粒子微量
 2 褐色 炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量
 3 暗 褐色 ローム粒子少量
- 第208号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
 2 褐色 ロームブロック少量
- 第211号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 第212号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ローム粒子微量
 2 黒 褐色 ローム粒子極微量
 3 暗 褐色 ローム粒子中量
- 第213号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ローム粒子微量
- 第214号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 第217号土坑土層解説
 1 黒 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
 2 にぶい黄褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量
 3 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量
 4 褐色 ローム粒子中量
- 第219号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 第220号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 第221号土坑土層解説
 1 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 3 黒 褐色 ローム粒子少量
- 第222号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 第223号土坑土層解説
 1 黒 褐色 ロームブロック少量
 2 暗 褐色 ロームブロック中量
 3 褐色 ロームブロック中量
- 第224号土坑土層解説
 1 黒 褐色 ロームブロック極微量
 2 黒 色 ローム粒子極微量
 3 暗 褐色 ローム粒子少量
 4 褐色 ローム粒子中量
- 第225号土坑土層解説
 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子極微量
 2 暗 褐色 ローム粒子微量
- 第227号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック微量, 焼土粒子極微量
 2 褐色 ロームブロック少量
- 第228号土坑土層解説
 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
 2 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 3 黒 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 4 極暗褐色 粘土ブロック少量
- 第230号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ローム粒子極微量
 2 にぶい褐色 ロームブロック少量

第231号土坑土層解説		1 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	3 にぶい褐色 ローム粒子少量
		2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量	
第232号土坑土層解説		1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量	2 にぶい褐色 ローム粒子少量
第233号土坑土層解説		1 にぶい褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量	
第234号土坑土層解説		1 褐色 ロームブロック中量	3 にぶい褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
		2 暗褐色 ロームブロック少量	4 褐色 ロームブロック少量
第237号土坑土層解説		1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量	3 にぶい褐色 ロームブロック少量
		2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
第238号土坑土層解説		1 暗褐色 ロームブロック少量	2 にぶい褐色 ロームブロック中量
第239号土坑土層解説		1 暗褐色 ローム粒子少量	
第240号土坑土層解説		1 褐色 粘土粒子中量, ローム粒子微量 (鉄分含む)	3 褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子微量 (鉄分含む)
		2 にぶい黄褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量 (鉄分含む)	4 褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量 (鉄分含む)
第241号土坑土層解説		1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量	3 にぶい褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
		2 褐色 ロームブロック少量	
第243号土坑土層解説		1 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量	3 褐色 ロームブロック少量
		2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量	
第244号土坑土層解説		1 暗褐色 ローム粒子微量	2 褐色 ロームブロック少量
第245号土坑土層解説		1 暗褐色 ローム粒子微量	
第246号土坑土層解説		1 暗褐色 ローム粒子微量	3 褐色 ローム粒子微量
		2 褐色 ローム粒子少量	
第247号土坑土層解説		1 黒褐色 ローム粒子極微量	2 暗褐色 ローム粒子微量
第248号土坑土層解説		1 暗褐色 ローム粒子微量	2 褐色 ローム粒子少量
第249号土坑土層解説		1 暗褐色 ローム粒子微量	3 黒褐色 ローム粒子極微量
		2 褐色 ロームブロック微量	

表17 時期不明土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
1	B 3 a9	楕円形	N-48°-W	0.45 × 0.39	53	外傾	皿状	自然		
2	B 3 b9	楕円形	N-70°-E	0.75 × 0.41	36~47	外傾	皿状	自然		
3	B 4 e3	楕円形	N-49°-W	0.38 × 0.34	30	外傾	皿状	人為		
4	B 4 c5	円形	—	0.34 × 0.32	33	外傾	皿状	自然		
5	B 4 f6	円形	—	0.69 × 0.69	56	外傾	皿状	自然		
6	B 4 f6	楕円形	N-68°-E	0.56 × 0.47	59	外傾	皿状	自然		

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m. 深さはcm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
8	B 5 e1	楕円形	N - 52° - W	0.53 × 0.41	41	外傾	平坦	人為		
9	B 4 f6	不整楕円形	N - 28° - W	1.87 × 1.52	40	外傾	平坦	人為		
10	B 4 d1	不整楕円形	N - 48° - E	1.14 × 1.03	16	外傾	平坦	自然		
11	B 3 a1	楕円形	N - 21° - W	0.99 × 0.85	66~71	直立	凹凸	自然		
12	B 3 b9	楕円形	N - 60° - W	0.45 × 0.33	28	外傾	皿状	自然		
13	B 4 b1	長楕円形	N - 58° - W	3.98 × 1.37	34	緩斜	平坦	人為	縄文土器・土師器	
14	B 4 b2	円形	—	0.53 × 0.53	49	直立	皿状	自然		
15	B 4 b4	楕円形	N - 41° - W	0.50 × 0.39	67	直立	皿状	自然	土師器	
16	B 4 d6	円形	—	0.64 × 0.64	18	外傾	平坦	人為		
17	B 4 c5	楕円形	N - 3° - E	0.92 × 0.66	46	直立	平坦	人為	土師器	
18	B 4 c3	円形	—	1.57 × 1.54	31	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
19	B 4 c4	円形	—	0.41 × 0.38	45	直立	皿状	—		
20	B 4 h0	楕円形	N - 69° - E	0.60 × 0.51	23~26	外傾	凹凸	人為		
22	E 3 i6	長楕円形	N - 70° - W	1.60 × 0.64	18	外傾	平坦	自然	土師器・須恵器・礫	4住→本跡
23	E 3 h6	長方形	N - 8° - E	5.42 × 0.78	36	外傾	平坦	自然	土師器・須恵器・陶器・鉄製品・土製品	4住・24土坑→本跡
24	E 3 h6	[長方形]	N - 12° - E	3.38 × (0.72)	16	外傾	平坦	自然		本跡→23土坑
25	E 3 d1	長方形	N - 3° - E	5.24 × 0.88	18	外傾	平坦	自然	土師器・須恵器	7住→本跡
26	F 3 d2	楕円形	N - 5° - E	1.68 × 0.79	10	緩斜	平坦	自然	土師器	
27	C 3 h5	楕円形	N - 3° - E	0.75 × 0.62	30	外傾	平坦	自然		
29	E 3 j8	楕円形	N - 3° - W	0.92 × 0.80	13	外傾	平坦	人為		
38	E 3 j2	楕円形	N - 86° - E	1.02 × 0.44	16	外傾	皿状	人為		本跡→21住
40	E 3 e6	隅丸長方形	N - 8° - E	3.73 × 0.80	12	緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器	234土坑→本跡
41	E 4 a1	楕円形	N - 33° - W	1.04 × 0.92	18	外傾	平坦	自然		
42	D 1 e4	楕円形	N - 25° - W	0.63 × 0.53	23	緩斜	皿状	—	土師器・須恵器	
43	D 1 e4	[楕円形]	N - 4° - W	[0.50] × 0.36	24	外傾	ビット状	人為		本跡→1溝 柱穴状
44	D 1 f3	円形	—	0.84 × 0.80	34	緩斜	皿状	人為		柱穴状
45	F 3 c8	楕円形	N - 15° - W	0.84 × (0.55)	34	緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器	116住・46土坑→本跡→228土坑
46	F 3 c8	長方形	N - 53° - E	0.87 × 0.73	33	緩斜	平坦	人為	須恵器	116住→本跡→45土坑
49	E 3 g3	楕円形	N - 75° - E	1.28 × 0.55	28	外傾・有段	平坦	自然	土師器・須恵器	16住→本跡
50	E 2 b4	隅丸長方形	N - 3° - E	2.00 × 0.88	28	外傾	凹凸	自然	土師器・須恵器	
51	E 2 b4	隅丸長方形	N - 9° - E	1.92 × 1.16	24	外傾	傾斜	自然	縄文土器・土師器	
52	E 2 b3	隅丸長方形	N - 2° - W	1.62 × 1.00	12	外傾	平坦	自然		
53	E 2 b1	[不整長方形]	N - 11° - E	(2.14) × 0.92	19	緩斜	平坦	自然		
54	E 2 b1	[隅丸長方形]	N - 10° - E	1.60 × 0.70	12	緩斜	平坦	自然		
55	E 4 d1	楕円形	N - 78° - E	1.21 × 1.05	19	直立	平坦	自然		
56	E 3 c9	不整楕円形	N - 62° - E	1.70 × 1.41	18	緩斜	皿状	自然		
57	D 2 j7	円形	—	1.08 × 1.00	26	外傾	皿状	人為		
58	D 2 j6	楕円形	N - 3° - W	1.40 × 0.72	19	外傾	平坦	自然		
59	C 4 a3	舟形	N - 20° - E	2.96 × 1.10	36	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	70住・242土坑→本跡
60	C 4 a3	[円形]	—	1.70 × (1.18)	20	緩斜	皿状	自然	土師器	
62	E 3 d5	円形	—	0.86 × 0.80	56	緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器	26住→本跡
63	F 3 a7	楕円形	N - 65° - E	0.36 × 0.28	35	外傾	平坦	自然		19住→本跡 柱穴状
64	F 3 a7	円形	—	0.30 × 0.28	35	直立・外傾	皿状	人為	須恵器	119住・66土坑→本跡 柱穴状
65	F 3 a8	円形	—	1.28 × 1.20	20	外傾・緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器	19住→本跡
67	F 3 b6	長楕円形	N - 6° - E	2.24 × 0.68	18	外傾	平坦	人為		68土坑→本跡
68	F 3 b6	隅丸長方形	N - 10° - E	3.73 × 0.98	12	緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器	本跡→67土坑

番号	位 置	平面形	長径(軸)方向	規 模 (m, 深さはcm)		壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
69	F 3 b3	楕円形	N-79°-W	1.76 × 0.84	58	外傾	平坦	自然	須恵器	底面にピット2か所
70	E 3 i2	楕円形	N-75°-E	0.66 × 0.59	25	緩斜	皿状	自然		23住・2掘立P4→本跡
71	F 3 b5	円形	—	0.94 × 0.88	16	外傾	平坦	自然	土師器	
72	E 3 g2	楕円形	N-23°-W	1.20 × 0.96	24	外傾	平坦	人為		
73	E 3 b3	円形	—	1.30 × 1.22	16	外傾	平坦	自然		
74	E 3 c3	円形	—	1.28 × 1.20	12	外傾	平坦	自然		
75	E 3 e2	楕円形	N-30°-W	0.81 × 0.61	28	外傾	傾斜	自然		
76	E 3 f2	円形	—	0.70 × 0.65	15	外傾	平坦	—		
77	E 3 e3	楕円形	N-22°-W	0.94 × 0.80	42	外傾	有段	自然		
78	C 2 f1	楕円形	N-73°-W	0.91 × 0.81	65	外傾	平坦	人為		
80	E 3 b6	楕円形	N-71°-W	0.94 × 0.68	41	外傾	凹凸	人為		
81	E 2 a9	円形	—	1.22 × 1.20	32	緩斜	皿状	自然	土師器・須恵器	
82	C 1 j9	長楕円形	N-4°-E	1.56 × 0.60	12	外傾	平坦	自然	土師器	46住→本跡
85	C 1 h7	円形	—	1.56 × 1.50	44	緩斜	皿状	自然	土師器・須恵器	
86	C 1 f8	楕円形	N-65°-W	1.24 × 0.96	28	外傾	平坦	自然	土師器・須恵器	
87	C 1 g0	楕円形	N-28°-E	0.96 × 0.83	30	外傾	平坦	自然		
88	E 4 a1	楕円形	N-2°-E	1.36 × 0.50	17	外傾	皿状	自然	須恵器・瓦	
89	C 2 f1	楕円形	N-50°-E	0.68 × 0.60	34	緩斜	皿状	人為	土師器・須恵器	
90	C 2 g1	楕円形	N-42°-W	0.53 × 0.44	32	外傾	平坦	自然		
91	C 1 f9	楕円形	N-60°-W	1.30 × 1.08	24	外傾	皿状	自然	土師器	
92	C 2 i1	円形	—	0.68 × 0.68	40	直立	平坦	自然		48住→本跡
95	C 2 g1	楕円形	N-40°-W	0.94 × 0.72	16	外傾・緩斜	皿状	自然	土師器	25溝→本跡
96	C 2 g1	楕円形	N-39°-E	0.54 × 0.46	16	外傾	皿状	自然		25溝との新旧不明
97	C 2 g2	楕円形	N-19°-W	0.66 × 0.54	64	外傾	平坦	人為		柱穴状
98	D 2 i9	不整楕円形	N-10°-W	(1.33) × 0.74	38	緩斜	皿状	自然	土師器	本跡→99土坑
100	D 2 i9	楕円形	N-68°-E	1.10 × 0.68	36	外傾	有段	自然		
101	D 2 j9	円形	—	0.46 × 0.42	16	緩斜	平坦	人為		
102	D 2 j0	楕円形	N-11°-E	0.68 × 0.50	24	外傾	平坦	人為		
103	D 2 h3	楕円形	N-59°-E	1.02 × 0.72	40	外傾	平坦	自然		
111	C 3 f4	円形	—	0.26 × 0.24	24	外傾	皿状	人為		
112	C 3 e5	楕円形	N-80°-E	0.33 × 0.28	36	直立	皿状	人為		
113	C 3 f5	円形	—	0.42 × 0.40	22	外傾	平坦	人為		
114	C 3 f7	楕円形	N-16°-W	0.51 × 0.40	79	直立	皿状	人為		柱穴状
115	C 3 f7	隅丸長方形	N-49°-W	0.49 × 0.35	72	直立	皿状	人為		柱穴状
117	C 3 c8	楕円形	N-9°-W	0.89 × 0.70	46	外傾	有段	人為		南側がピット状に下がる
118	C 3 c0	隅丸長方形	N-5°-E	0.74 × 0.50	38	直立	平坦	自然		
119	C 3 d0	楕円形	N-78°-W	[0.46] × 0.37	62	直立	皿状	自然		柱穴状
120	C 3 d9	楕円形	N-85°-W	1.68 × [0.59]	44	外傾	平坦	自然		121土坑→本跡
121	C 3 d0	楕円形	N-78°-W	(0.87) × [0.45]	32	外傾	皿状	自然		本跡→120土坑
122	C 3 j8	長方形	N-0°	2.38 × 0.61	45	外傾	凹凸	自然		
124	E 1 d4	楕円形	N-50°-E	0.58 × 0.45	53	外傾	皿状	人為		柱穴状
125	E 1 e6	楕円形	N-28°-W	0.76 × 0.66	38	緩斜	有段	自然		
126	E 1 h7	楕円形	N-68°-W	1.42 × 1.12	40	直立・外傾	平坦	人為	須恵器	
127	E 1 d6	円形	—	1.04 × 0.96	81	外傾	平坦	人為		中央部にピット
128	E 1 h8	楕円形	N-63°-W	0.78 × 0.66	44	緩斜	有段	自然	土師器	南西部がピット状に下がる
129	E 1 h7	楕円形	N-39°-E	1.24 × 0.86	32	外傾	平坦	人為		

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
130	D 4 ji	楕円形	N-3°-W	1.89 × 0.96	20	緩斜	凹凸	自然	土師器・須恵器	ピット状の張り出しあり
131	E 1 d6	楕円形	N-48°-E	0.94 × 0.76	32	外傾	皿状	自然		
132	E 1 d6	楕円形	N-66°-E	0.92 × 0.64	32	外傾	凹凸	自然	土師器	
133	E 2 d6	円形	—	1.20 × 1.10	10	緩斜	皿状	自然		15掘立P5→本跡
134	E 2 d6	円形	—	0.48 × 0.46	28	外傾	平坦	人為		柱穴状
138	D 3 d8	長方形	N-15°-E	2.44 × (1.44)	25	直立	平坦	人為	縄文土器・土師器・須恵器	本跡→12溝
140	E 2 g7	楕円形	N-85°-E	0.76 × 0.62	52	直立	平坦	—	土師器	59住→本跡
142	E 2 c8	円形	—	1.26 × 1.20	24	緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器	
144	D 1 e4	[円形]	—	(0.88) × (0.38)	42	外傾	皿状	自然		本跡→1溝
145	C 2 a7	楕円形	N-72°-E	0.36 × 0.32	40	外傾	平坦	自然		柱穴状
147	E 2 d5	長方形	N-10°-E	1.70 × 1.02	45	外傾	平坦	人為	土師器	
148	C 3 h5	円形	—	1.17 × 1.16	30	緩斜	皿状	自然		
150	D 2 c9	[楕円形]	N-90°	0.77 × (0.55)	50	直立	平坦	自然		25掘立P1→本跡
151	D 3 b3	[長方形]	N-16°-E	5.70 × [0.74]	54	外傾	凹凸	人為		
152	D 3 d3	長方形	N-8°-E	3.80 × 0.78	42	外傾	平坦	人為		
153	D 2 d8	楕円形	N-78°-E	0.73 × 0.60	38	緩斜	平坦	自然		24掘立P6→本跡
154	F 4 e2	円形	—	0.76 × 0.75	171	内傾~緩斜	平坦	人為	礫	
156	C 2 j7	楕円形	N-85°-W	0.62 × 0.55	27	外傾	皿状	自然		
157	D 3 j3	長方形	N-82°-W	[4.92] × 0.76	13	外傾	平坦	自然		
158	C 3 g5	不定形	—	2.74 × (2.10)	92	緩斜	凹凸	人為 自然		本跡→9溝
160	E 2 f4	[楕円形]	N-35°-W	[1.12] × 0.83	33	緩斜	凹凸	自然	土師器	61住→本跡
164	C 5 f2	[円形]	—	1.64 × (1.22)	30	外傾	平坦	—	土師器・須恵器・瓦	87住→本跡
165	C 5 g1	長方形	N-3°-E	0.80 × 0.53	42	外傾	平坦	人為		89住→本跡
167	D 6 e2	円形	—	0.76 × 0.72	68	外傾・有段	平坦	自然	土師器	
172	C 4 j0	隅丸長方形	N-87°-W	0.94 × 0.86	26	外傾	平坦	自然	土師器・須恵器・鉄製品	
173	C 5 j1	不定形	N-3°-W	1.03 × 0.67	43	外傾	有段	自然		106住→本跡
175	D 4 e6	楕円形	N-35°-E	1.18 × 0.84	28	緩斜	皿状	自然		
176	D 4 e7	円形	—	0.74 × 0.72	24	緩斜	平坦	自然		
177	D 4 d7	円形	—	0.84 × 0.82	12	緩斜	平坦	自然		
178	D 4 d7	楕円形	N-2°-E	0.81 × 0.71	16	緩斜	平坦	自然	須恵器	
180	D 4 e7	円形	—	0.80 × 0.76	20	外傾	皿状	自然		
181	D 4 f8	不定形	N-67°-E	(1.00) × 1.00	38	緩斜	皿状	自然	須恵器	
182	D 4 i6	不整楕円形	N-18°-E	1.38 × 1.10	34	緩斜	皿状	人為		
183	D 4 h9	隅丸長方形	N-2°-E	0.88 × 0.78	25	外傾	平坦	自然		
184	C 4 ji	長方形	N-83°-E	[1.54] × 1.25	28	外傾	平坦	人為		185土坑→本跡→12溝
185	C 4 ji	長方形	N-43°-E	2.25 × 0.60	81	外傾	平坦	人為		本跡→184土坑・12溝
186	D 4 f8	楕円形	N-21°-E	0.82 × 0.73	38	緩斜	平坦	自然		187土坑→本跡
187	D 4 e8	隅丸長方形	N-68°-E	1.20 × 1.03	63	外傾	平坦	人為		188土坑・7P群→本跡 →186土坑
189	F 4 b8	円形	—	1.13 × 1.03	19	緩斜	平坦	人為	土師器・陶器	
190	F 4 b8	円形	—	1.08 × 1.06	20	外傾	平坦	自然		
191	F 4 b8	楕円形	N-75°-E	1.08 × 0.84	20	緩斜	傾斜	自然		
193	F 4 a8	円形	—	1.17 × 1.17	10	緩斜	平坦	人為		
195	F 3 a0	円形	—	1.18 × 1.10	14	緩斜	平坦	自然		
196	E 3 j0	円形	—	1.20 × 1.13	16	外傾	平坦	自然		
198	F 3 a0	円形	—	0.95 × 0.91	21	外傾	平坦	自然		
199	F 4 a1	円形	—	1.15 × 1.13	13	緩斜	平坦	人為		

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
200	E 3 j0	長方形	N - 4° - E	1.42 × 0.73	20	直立	凹凸	自然		
201	F 3 a0	円形	—	1.11 × 1.05	33	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	
202	E 4 j2	円形	—	1.13 × 1.08	18	外傾	平坦	人為		
203	F 4 j7	円形	—	0.70 × 0.68	12	緩斜	平坦	自然		
204	F 4 j7	楕円形	N - 80° - W	0.98 × 0.82	16	緩斜	平坦	自然		
206	F 4 e7	不定形	N - 12° - E	1.24 × 0.60	24	外傾	凹凸	人為		
207	F 4 f5	楕円形	N - 64° - E	1.26 × 1.05	79	外傾	平坦	人為		
208	E 4 a3	円形	—	0.91 × 0.91	35	緩斜	平坦	自然		
210	C 2 h1	[楕円形]	N - 65° - W	0.92 × 0.78	24	外傾	平坦	自然	土師器・須恵器	本跡→9掘立P3・25溝
211	E 3 g8	楕円形	N - 7° - W	1.52 × 0.97	70	直立・外傾	平坦	人為	土師器	
212	E 4 j1	楕円形	N - 42° - E	1.56 × 1.43	25	緩斜	皿状	自然		
213	E 3 b8	[楕円形]	N - 84° - W	(0.32) × 0.26	10	外傾	平坦	自然		117住・214土坑→本跡→215土坑
214	E 3 b8	[楕円形]	N - 18° - E	(0.76) × (0.46)	22	緩斜	有段	自然		118住→本跡→213土坑→215・226土坑
217	F 4 d3	不整楕円形	N - 11° - E	1.87 × 1.19	32	緩斜	有段	人為	土師器・須恵器	南側がピット状に下がる
218	E 3 e3	不整楕円形	N - 7° - W	3.12 × 1.61	79	直立・緩斜	凹凸	人為		
219	C 5 d9	長方形	N - 11° - E	2.23 × 0.75	16	緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器	
220	C 5 d9	長方形	N - 80° - W	2.31 × 0.60	32	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器・磁器	233土坑との新旧不明
221	E 4 i8	不定形	N - 49° - W	2.56 × 1.98	62	外傾・緩斜	凹凸	自然	土師器・須恵器・鉄滓	本跡→19溝
222	C 5 f6	楕円形	N - 40° - W	0.65 × 0.58	16	緩斜	平坦	自然		
223	E 4 j4	楕円形	N - 11° - E	1.28 × 0.98	58	外傾	平坦	自然		
224	E 4 j2	楕円形	N - 85° - W	2.02 × 1.24	50	外傾	平坦	人為		
225	E 4 j4	円形	—	0.60 × 0.60	60	外傾	皿状	自然		柱穴状
226	F 3 c8	長方形	N - 13° - W	2.00 × 1.49	73	直立	平坦	人為 自然	土師器	116・118住, 214・215土坑→本跡
227	E 4 a7	楕円形	N - 18° - E	2.74 × 0.80	22	緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器・鉄滓	
228	F 3 c8	楕円形	N - 16° - E	0.88 × 0.78	48	外傾	皿状	自然	土師器・須恵器	45土坑→116住→本跡
230	C 5 e8	円形	—	1.37 × 1.36	42	外傾	平坦	自然	土師器	
231	C 5 e9	円形	—	0.88 × 0.84	29	外傾	平坦	人為		
232	C 5 e9	楕円形	N - 54° - W	0.76 × 0.68	55	外傾	皿状	人為	土師器	
233	C 5 e8	長方形	N - 13° - E	(1.87) × 0.65	31	直立	平坦	自然		220土坑との新旧不明
234	E 3 e6	不整長方形	N - 49° - W	1.60 × 0.90	30	緩斜	皿状	自然		本跡→40土坑 ピット2か所
236	E 3 e5	[円・楕円形]	—	(1.03) × (0.85)	56	緩斜	皿状	自然		本跡→8住
237	C 3 b5	楕円形	N - 80° - W	0.94 × 0.83	30	緩斜	皿状	自然		
238	C 3 h4	不定形	N - 77° - W	3.32 × 0.96	36	外傾	有段	自然	土師器・陶器	西側がピット状に下がる
239	C 3 b4	楕円形	N - 2° - W	0.79 × 0.71	19	緩斜	有段	自然		
240	F 3 a6	楕円形	N - 90° - W	1.72 × 1.20	84	外傾	平坦	人為		
241	C 3 h5	不定形	N - 72° - W	3.40 × 1.70	40	緩斜	平坦	自然		西壁側に段差あり
242	C 4 b3	[楕円形]	N - 15° - W	1.36 × (0.96)	44	外傾・緩斜	平坦	人為		本跡→70住・59土坑
243	D 4 c5	円形	—	0.92 × 0.86	40	外傾・緩斜	有段	人為		12溝→本跡 南壁際がピット状に下がる
244	C 4 j2	円形	—	0.84 × 0.78	44	緩斜	皿状	自然		
245	D 4 d3	円形	—	0.58 × 0.54	14	外傾	平坦	自然		
246	D 4 d4	楕円形	N - 30° - W	0.84 × 0.62	33	外傾・緩斜	凹凸	人為		
247	D 4 d3	楕円形	N - 20° - E	0.42 × 0.36	20	外傾	平坦	自然		
248	D 4 d4	楕円形	N - 31° - W	0.88 × 0.80	23	外傾	平坦	自然		
249	D 4 d3	円形	—	0.76 × 0.72	50	外傾・緩斜	有段	自然		南側がピット状に下がる

(3) ピット群

今回の調査で、11か所でピット群が確認された。各ピットの形状や規模は様々であるが、平面形は円形を呈し、径30～60cm、深さ20～40cmのものが多い。一部のピットには土層断面図中に柱痕跡が認められ、何らかの建物の一部であった可能性もあるが、建物の配列や構造を特定することはできない。また、これらのピットから出土した土器はいずれも細片で、遺物から時期を判断することができない。以下、実測図と一覧表で紹介する。また、図示した遺物については、出土遺物観察表で記載する。

第1号ピット群（第412図）

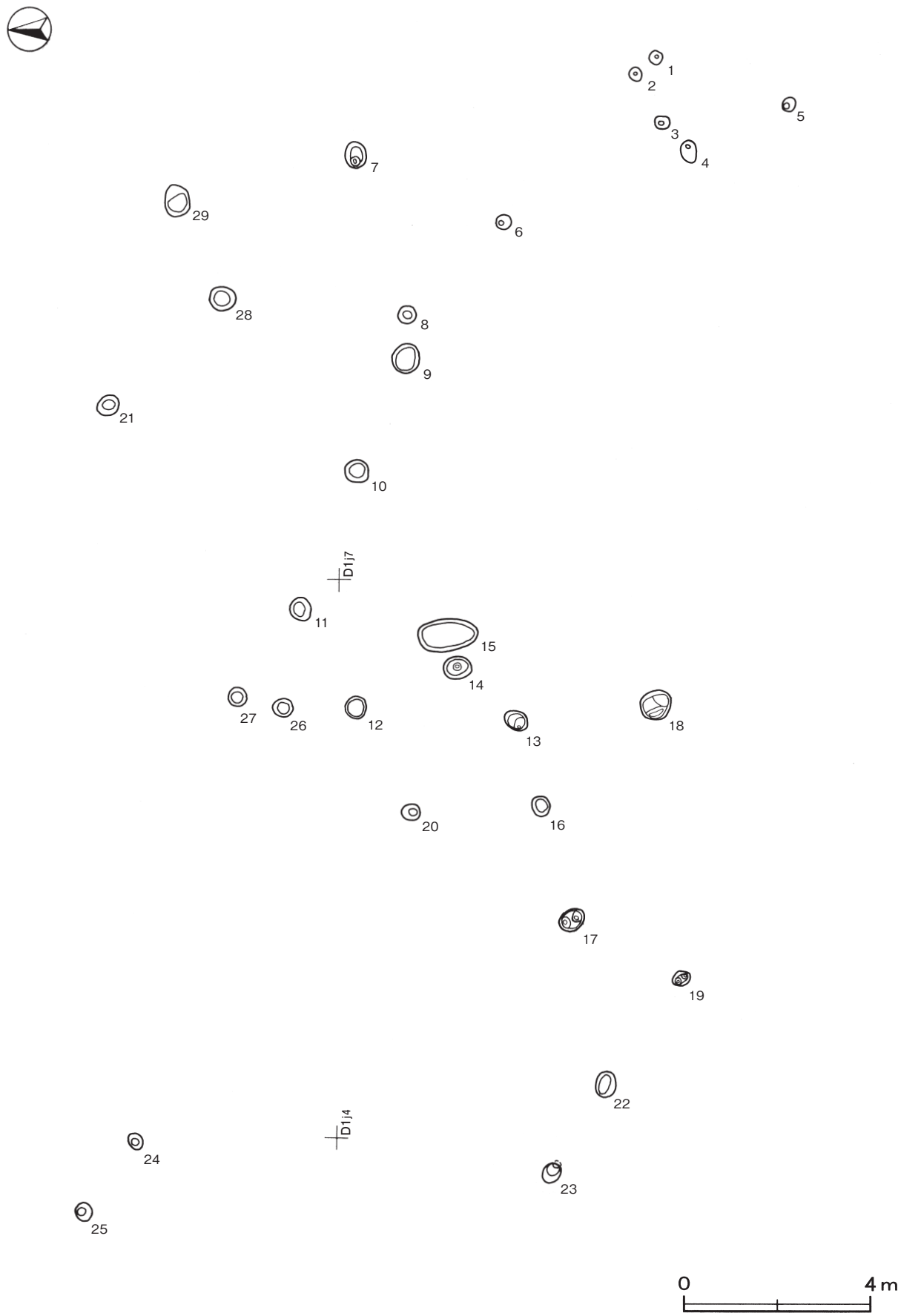
調査区西部のD 1 h3～E 1 b9区から29か所のピットが確認された。標高24.0mほどの台地平坦部に位置している。平面形は長径29～126cm、短径26～66cmの円形または楕円形で、深さは14～60cmである。縄文土器片1点（深鉢）、土師器片7点（坏1・甕6）、須恵器片9点（坏3・甕6）が出土しているが、いずれも流れ込んだ細片のため、時期は不明である。

表18 第1号ピット群ピット計測表

ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)					
	長 径	×	短 径		深 さ	長 径	×		短 径	深 さ	長 径	×	短 径	深 さ
1	29	×	26	46	11	49	×	46	32	21	51	×	46	20
2	29	×	26	42	12	49	×	44	41	22	57	×	46	24
3	36	×	30	52	13	48	×	43	52	23	45	×	38	46
4	50	×	32	43	14	61	×	50	53	24	42	×	29	25
5	34	×	31	53	15	126	×	66	22	25	44	×	29	26
6	33	×	31	33	16	45	×	40	25	26	44	×	40	32
7	55	×	47	45	17	57	×	41	30	27	43	×	40	14
8	42	×	37	39	18	74	×	62	60	28	56	×	54	18
9	64	×	50	22	19	36	×	35	36	29	68	×	55	20
10	52	×	49	25	20	41	×	36	22					

第2号ピット群（第413図）

調査区南部のF 3 a2～F 3 c4区から22か所のピットが確認された。標高24.0mほどの台地平坦部に位置している。平面形は長径23～49cm、短径18～46cmの円形または楕円形で、深さは12～43cmである。土師器片13点（坏2・甕11）、須恵器片17点（坏5・甕12）が出土しているが、いずれも流れ込んだ細片のため、時期は不明である。



第412図 第1号ピット群実測図



第413図 第2号ピット群実測図

表19 第2号ピット群ピット計測表

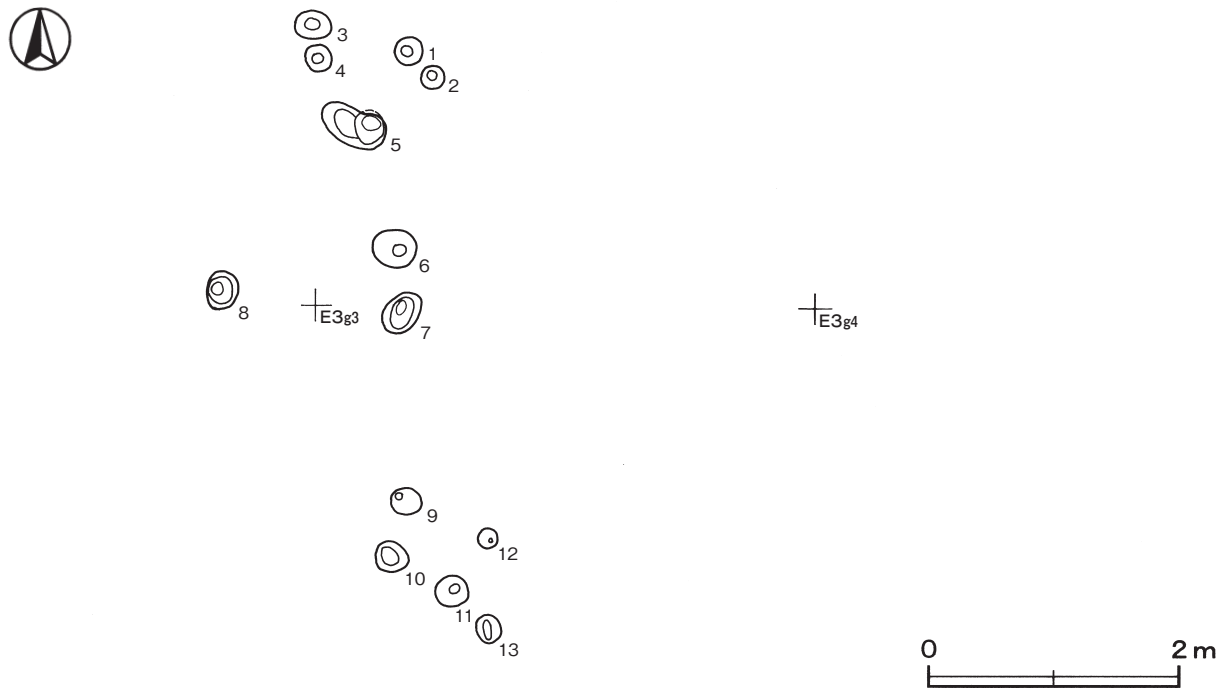
ピット 番号	規 模 (cm)		
	長 径 × 短 径	深 さ	
1	38 × 36	32	
2	49 × 46	12	
3	37 × 35	34	
4	42 × 38	32	
5	41 × 41	31	
6	33 × 26	35	
7	29 × 26	30	
8	44 × 34	29	

ピット 番号	規 模 (cm)		
	長 径 × 短 径	深 さ	
9	31 × 28	35	
10	38 × 34	19	
11	28 × 25	33	
12	30 × 26	28	
13	27 × 25	43	
14	34 × 31	30	
15	40 × 34	17	
16	37 × 34	35	

ピット 番号	規 模 (cm)		
	長 径 × 短 径	深 さ	
17	33 × 29	23	
18	42 × 40	27	
19	23 × 18	30	
20	31 × 31	38	
21	29 × 27	16	
22	38 × 34	39	

第3号ピット群（第414図）

調査区中央部のE 3 f2～E 3 g3区から13か所のピットが確認された。標高24.0mほどの台地平坦部に位置している。平面形は長径19～53cm，短径15～33cmの円形または楕円形で，深さは10～50cmである。土師器片21点（坏2・甕19）が出土しているが，いずれも流れ込んだ細片のため，時期は不明である。



第414図 第3号ピット群実測図

表20 第3号ピット群ピット計測表

ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)					
	長 径	×	短 径		深 さ	長 径	×		短 径	深 さ	長 径	×	短 径	深 さ
1	24	×	22	28	6	35	×	31	32	11	26	×	24	31
2	19	×	17	31	7	37	×	25	37	12	19	×	15	19
3	31	×	23	10	8	31	×	26	28	13	24	×	19	31
4	23	×	21	12	9	26	×	22	50					
5	53	×	33	43	10	25	×	24	22					

第4号ピット群（第415図）

調査区北部のB 3 j9～C 4 b3区から9か所のピットが確認された。標高23.5mほどの台地平坦部に位置している。平面形は長径24～49cm，短径22～36cmの円形または楕円形で，深さは11～28cmである。土師器片10点（坏3・高台付坏1・甕6）が出土しているが，いずれも細片である。ピット群域には，倉庫的な機能をもつ建物と想定される第30・42号掘立柱建物跡が位置していることから，それらの建物群と関連して機能していたと考えられる。



第415図 第4号ピット群実測図

表21 第4号ピット群ピット計測表

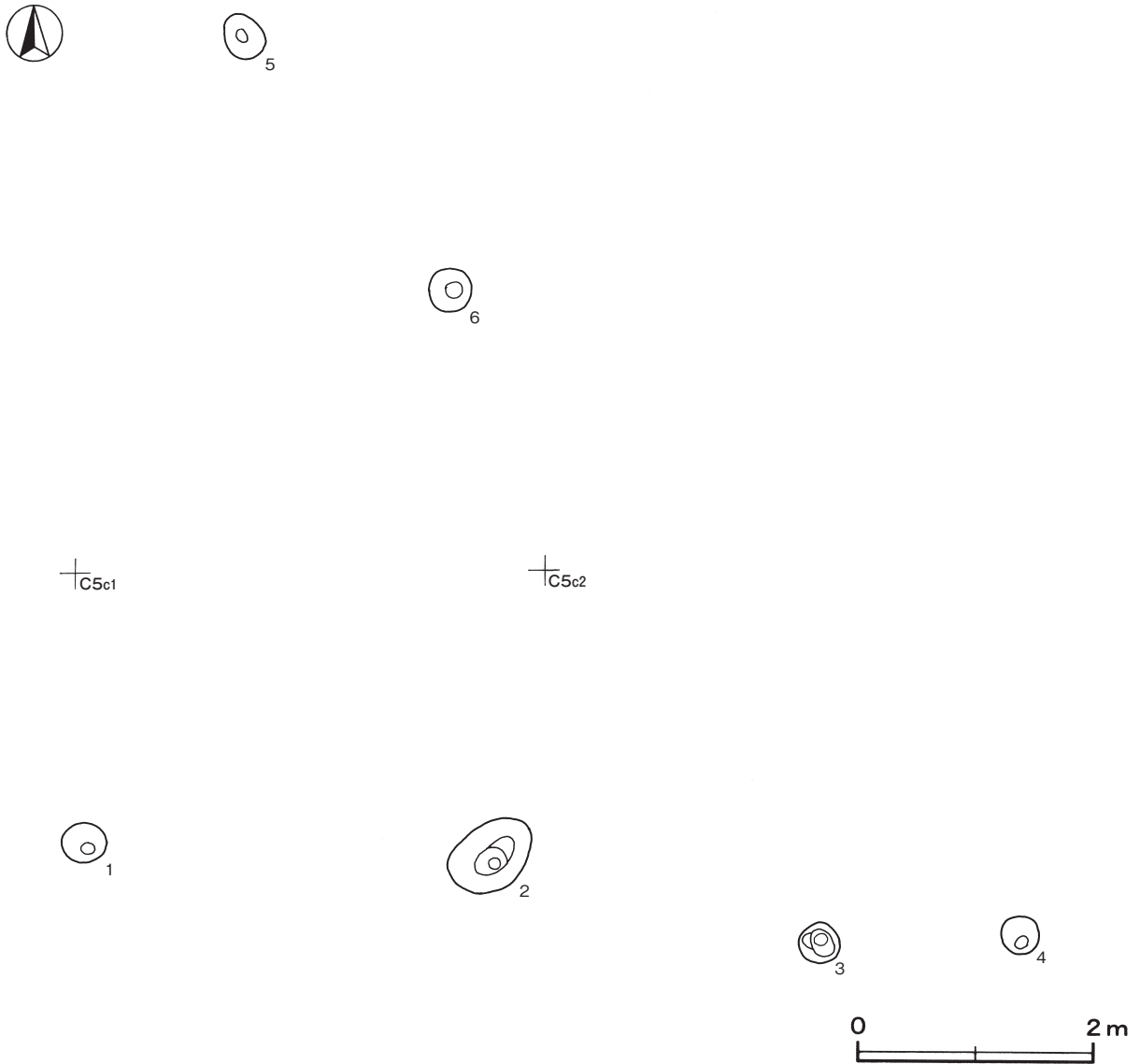
ピット 番号	規 模 (cm)		
	長 径	× 短 径	深 さ
1	30	× 26	16
2	49	× 32	22
3	37	× 35	22

ピット 番号	規 模 (cm)		
	長 径	× 短 径	深 さ
4	35	× 27	11
5	32	× 28	28
6	35	× 29	28

ピット 番号	規 模 (cm)		
	長 径	× 短 径	深 さ
7	24	× 22	12
8	24	× 23	17
9	41	× 36	15

第5号ピット群 (第416図)

調査区北部のC 5 a1～C 5 c3区から6か所のピットが確認された。標高23.5mほどの台地平坦部に位置している。平面形は長径33～79cm，短径31～55cmの円形または楕円形で，深さは19～55cmである。遺物が出土していないため，時期については不明である。



第416図 第5号ピット群実測図

表22 第5号ピット群ピット計測表

ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)					
	長 径	×	短 径		深 さ	長 径	×		短 径	深 さ	長 径	×	短 径	深 さ
1	40	×	35	27	3	36	×	35	55	5	43	×	34	19
2	79	×	55	26	4	33	×	31	28	6	40	×	38	39

第6号ピット群 (第417図)

調査区中央部のD 3 e0~D 4 f3区から14か所のピットが確認された。標高23.5mほどの台地平坦部に位置している。平面形は長径28~74cm, 短径26~55cmの円形・楕円形または不定形で、深さは24~83cmである。土師器甕片1点, 須恵器片3点(坏1・甕2)が出土しているが、いずれも流れ込んだ細片のため、時期は不明である。

表23 第6号ピット群ピット計測表

ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)					
	長 径	×	短 径		深 さ	長 径	×		短 径	深 さ	長 径	×	短 径	深 さ
1	36	×	36	—	6	62	×	55	53	11	31	×	28	33
2	67	×	42	83	7	74	×	37	49	12	34	×	26	34
3	67	×	40	—	8	39	×	34	24	13	29	×	26	36
4	41	×	35	29	9	54	×	37	47	14	39	×	34	44
5	50	×	40	42	10	28	×	26	29					

第7号ピット群 (第418・419図)

調査区中央部のD 3 f0~E 4 d0区から150か所のピットが確認された。標高23.0mほどの台地平坦部に位置している。平面形は長径23~120cm, 短径20~73cmの円形・楕円形または不定形で、深さは15~68cmである。土師器坏2点, 須恵器甕1点のほか、土師器片4点(坏1・甕3), 須恵器片4点(蓋1・甕3)が出土している。737はP119, 738はP117, TP76はP65の覆土中からそれぞれ出土している。いずれも流れ込んだ可能性が高く、時期は不明である。

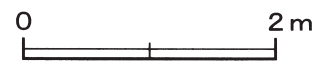
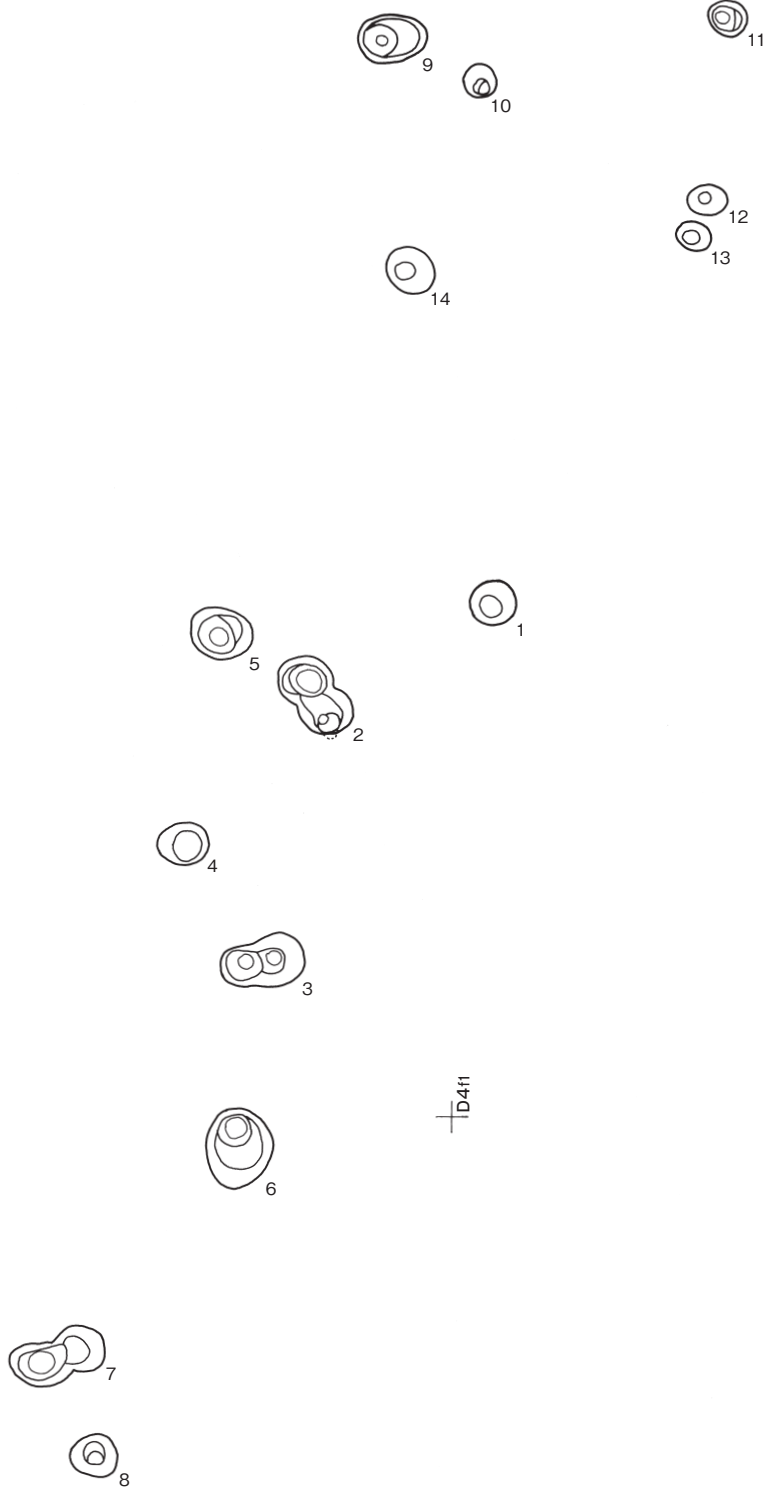
表24 第7号ピット群ピット計測表

ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)					
	長 径	×	短 径		深 さ	長 径	×		短 径	深 さ	長 径	×	短 径	深 さ
1	61	×	46	52	11	39	×	28	54	21	27	×	27	26
2	51	×	45	33	12	54	×	50	27	22	42	×	38	28
3	46	×	42	23	13	28	×	23	18	23	57	×	44	58
4	37	×	37	55	14	32	×	29	21	24	44	×	37	42
5	35	×	30	49	15	35	×	32	35	25	38	×	30	55
6	34	×	31	19	16	37	×	34	48	26	53	×	48	60
7	26	×	25	15	17	23	×	22	42	27	70	×	67	58
8	34	×	31	35	18	37	×	29	43	28	48	×	48	43
9	38	×	36	35	19	52	×	46	39	29	30	×	29	54
10	50	×	35	53	20	35	×	31	20	30	63	×	60	40

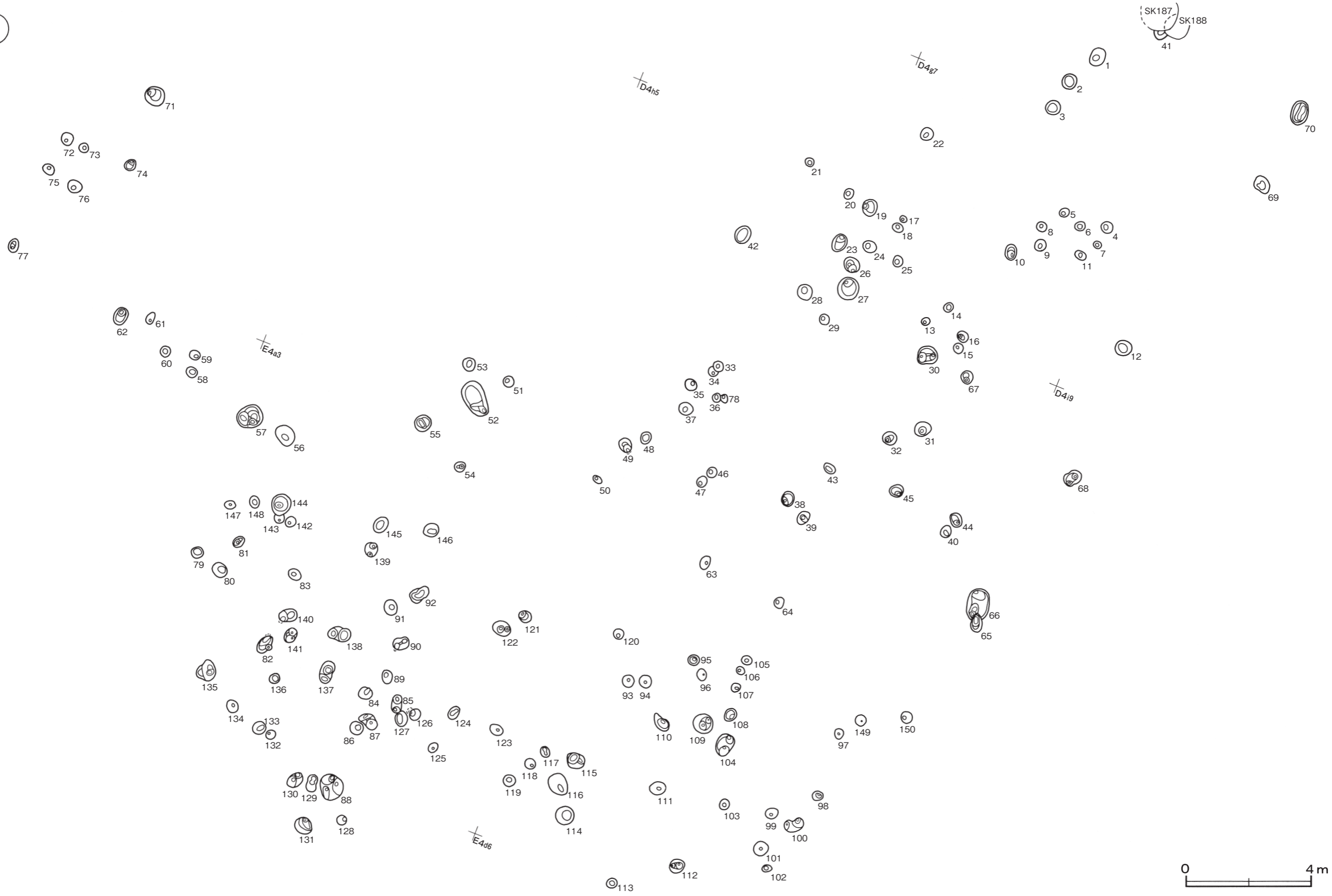
ビット 番号	規 模 (cm)		
	長 径	× 短 径	深 さ
31	53	× 47	35
32	47	× 42	32
33	36	× 34	43
34	34	× (20)	44
35	38	× 36	40
36	27	× 27	35
37	45	× 40	45
38	45	× 37	39
39	45	× 32	66
40	40	× 36	30
41	(42)	× (36)	50
42	57	× 49	38
43	40	× 29	45
44	48	× 34	24
45	45	× 38	40
46	34	× 31	33
47	35	× 30	54
48	39	× 32	31
49	45	× 40	40
50	33	× 20	33
51	36	× 35	44
52	120	× 70	57
53	43	× 38	51
54	35	× 29	23
55	53	× 48	25
56	66	× 55	23
57	84	× 70	54
58	36	× 35	26
59	34	× 32	27
60	35	× 33	28
61	40	× 28	40
62	55	× 40	30
63	44	× 30	60
64	35	× 32	30
65	(65)	× 37	53
66	102	× 68	54
67	41	× 37	30
68	55	× 49	48
69	59	× 46	31
70	74	× 51	26

ビット 番号	規 模 (cm)		
	長 径	× 短 径	深 さ
71	66	× 60	38
72	42	× 39	33
73	33	× 32	24
74	40	× 35	20
75	40	× 34	23
76	45	× 38	26
77	45	× 33	32
78	27	× 25	57
79	40	× 37	56
80	50	× 44	59
81	43	× 31	62
82	65	× 45	59
83	44	× 38	40
84	43	× 38	38
85	57	× 31	44
86	41	× 40	26
87	(40)	× 39	51
88	81	× 73	63
89	42	× 35	47
90	48	× 37	29
91	47	× 40	68
92	64	× 36	65
93	40	× 39	43
94	45	× 41	41
95	38	× 35	52
96	37	× 31	30
97	35	× 30	50
98	34	× 27	49
99	43	× 33	35
100	62	× 37	56
101	46	× 40	36
102	30	× 22	33
103	33	× 31	26
104	72	× 50	56
105	33	× 31	58
106	31	× 26	20
107	30	× 26	26
108	44	× 35	51
109	63	× 60	58
110	65	× 38	61

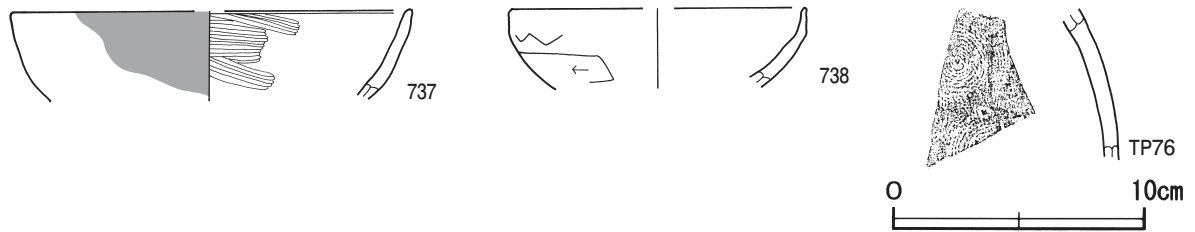
ビット 番号	規 模 (cm)		
	長 径	× 短 径	深 さ
111	50	× 40	40
112	50	× 43	47
113	35	× 31	66
114	60	× 57	57
115	55	× 53	52
116	75	× 59	43
117	38	× 28	55
118	37	× 33	55
119	38	× 36	35
120	31	× 30	42
121	40	× 35	38
122	60	× 48	45
123	44	× 36	39
124	47	× 33	24
125	36	× 32	39
126	40	× 37	53
127	49	× 39	35
128	33	× 31	53
129	54	× 30	50
130	52	× 39	65
131	58	× 55	46
132	35	× 31	30
133	46	× 41	47
134	40	× 37	56
135	65	× 63	65
136	35	× 34	29
137	72	× 47	32
138	71	× 40	28
139	44	× 42	53
140	60	× 38	60
141	49	× 34	52
142	38	× 35	63
143	(25)	× 30	54
144	70	× 60	47
145	53	× 43	33
146	52	× 41	27
147	35	× 30	47
148	39	× 34	31
149	36	× 33	60
150	39	× 36	43



第417図 第6号ピット群実測図



第418図 第7号ピット群実測図



第419図 第7号ピット群出土遺物実測図

第7号ピット群出土遺物観察表 (第419図)

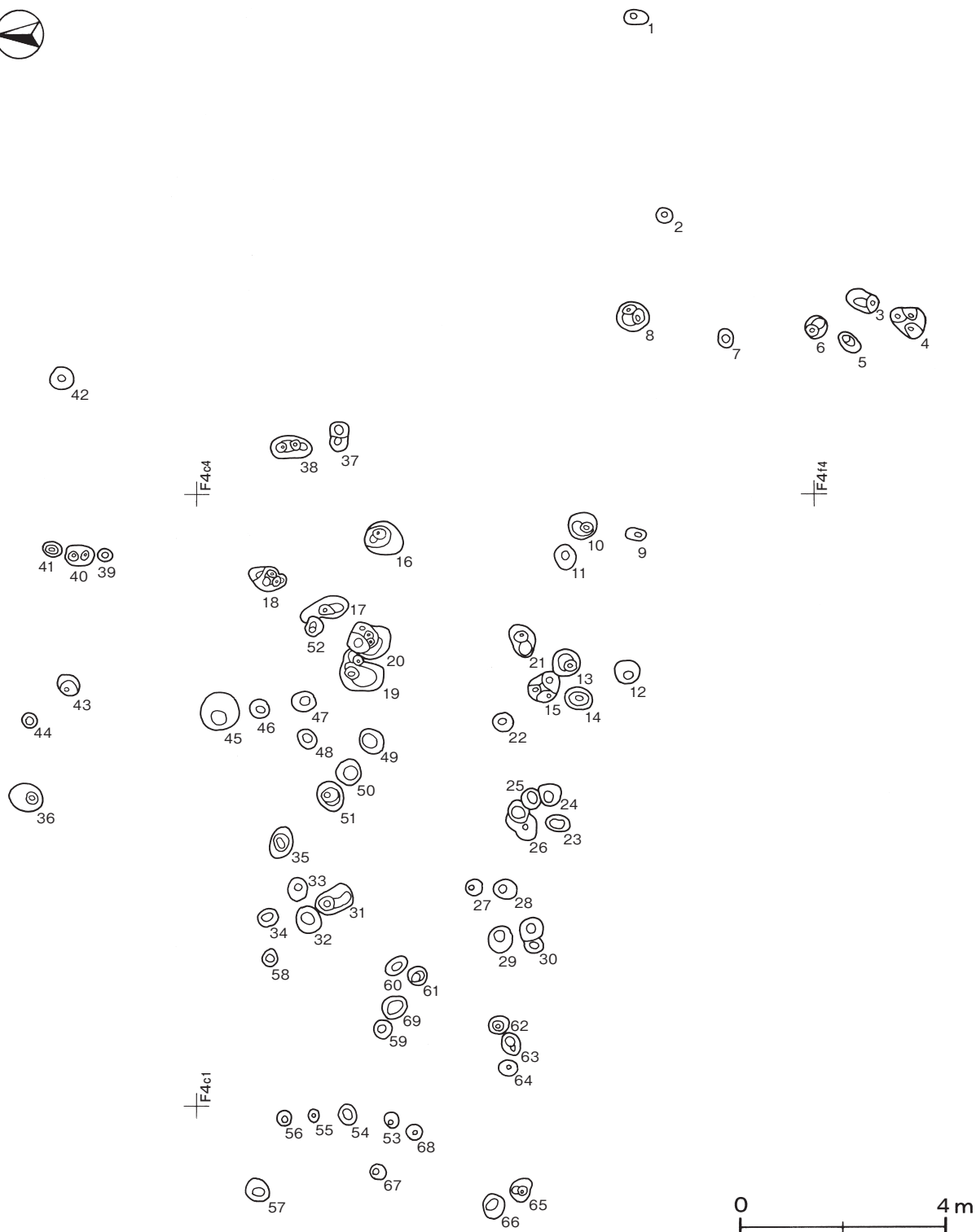
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
737	土師器	坏	[16.0]	(3.5)	—	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き 煤附着	覆土中	5%
738	土師器	坏	[10.6]	(3.2)	—	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	10%
TP76	須恵器	甕	—	(6.0)	—	長石	褐灰	普通	外面同心円文の叩き 内面ヘラナデ	覆土中	

第8号ピット群 (第420図)

調査区南部のF 3 b0～F 4 f6区から69か所のピットが確認された。標高23.0mほどの台地平坦部に位置している。平面形は長径24～98cm, 短径22～71cmの円形または楕円形で、深さは14～73cmである。土師器坏片5点, 須恵器片5点 (坏1・蓋1・甕3) が出土しているが、いずれも流れ込んだ細片のため、時期は不明である。

表25 第8号ピット群ピット計測表

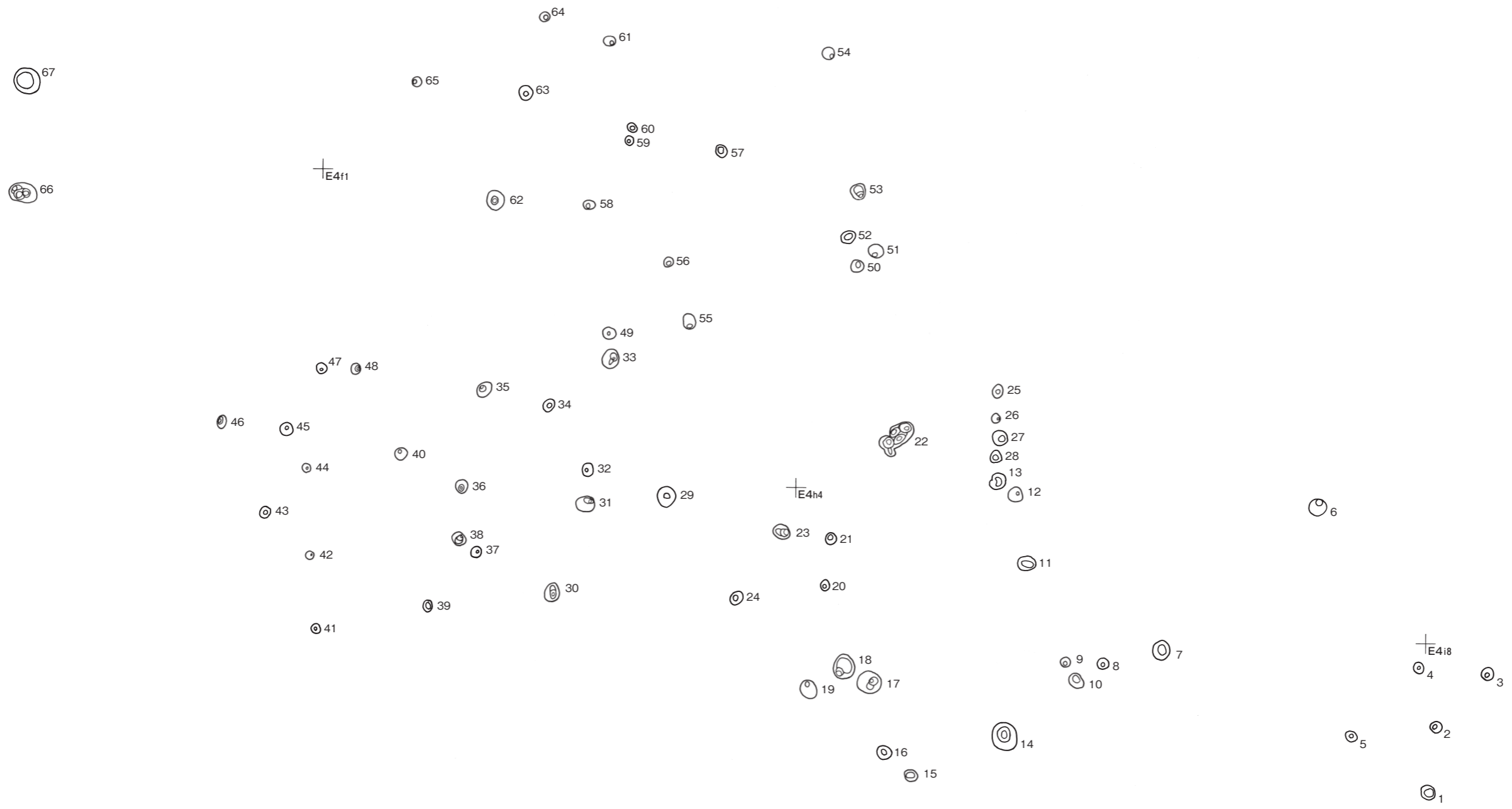
ピット 番号	規模 (cm)			ピット 番号	規模 (cm)			ピット 番号	規模 (cm)					
	長径	×	短径		深さ	長径	×		短径	深さ	長径	×	短径	深さ
1	47	×	32	35	24	49	×	41	49	47	47	×	44	55
2	33	×	30	27	25	39	×	39	38	48	48	×	36	45
3	66	×	41	49	26	80	×	53	41	49	49	×	46	16
4	75	×	55	46	27	34	×	32	48	50	50	×	50	50
5	44	×	29	39	28	44	×	37	28	51	56	×	51	48
6	45	×	40	45	29	55	×	44	40	52	52	×	32	49
7	39	×	28	41	30	74	×	48	46	53	53	×	26	25
8	63	×	55	54	31	77	×	47	46	54	54	×	30	30
9	40	×	22	36	32	49	×	49	47	55	55	×	23	34
10	56	×	50	50	33	50	×	36	40	56	56	×	27	45
11	50	×	43	44	34	40	×	36	19	57	57	×	43	28
12	48	×	43	32	35	63	×	42	52	58	58	×	32	16
13	54	×	51	55	36	64	×	52	43	59	59	×	33	41
14	54	×	42	32	37	56	×	32	52	60	60	×	34	35
15	60	×	54	60	38	77	×	42	51	61	61	×	37	40
16	71	×	64	40	39	30	×	29	45	62	62	×	35	50
17	98	×	43	51	40	58	×	42	59	63	63	×	32	51
18	75	×	46	48	41	37	×	30	60	64	64	×	29	38
19	84	×	59	46	42	47	×	43	42	65	65	×	36	32
20	78	×	66	73	43	46	×	40	40	66	66	×	42	50
21	66	×	47	35	44	30	×	30	33	67	67	×	29	36
22	40	×	34	36	45	76	×	71	15	68	68	×	25	33
23	47	×	29	35	46	38	×	36	58	69	69	×	44	14



第420図 第8号ピット群実測図

第9号ピット群 (第421図)

調査区南部のE 3 e9～E 4 i8区から67か所のピットが確認された。標高23.0mほどの台地平坦部に位置している。平面形は長径21～96cm、短径20～61cmの円形・楕円形または不定形で、深さは16～59cmである。土師器高台付坏片1点、須恵器片4点(坏2・甕2)が出土しているが、いずれも流れ込んだ細片のため、時期は不明である。



第421図 第9号ピット群実測図

表26 第9号ピット群ピット計測表

ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)					
	長 径	×	短 径		深 さ	長 径	×		短 径	深 さ	長 径	×	短 径	深 さ
1	39	×	34	19	24	35	×	29	16	47	27	×	27	25
2	30	×	30	47	25	32	×	26	38	48	27	×	25	48
3	33	×	30	33	26	23	×	22	20	49	31	×	31	25
4	29	×	28	57	27	39	×	36	37	50	33	×	33	42
5	30	×	27	52	28	30	×	28	28	51	39	×	35	43
6	45	×	43	40	29	51	×	44	40	52	37	×	31	43
7	48	×	43	36	30	52	×	39	38	53	40	×	37	33
8	28	×	26	36	31	45	×	41	51	54	32	×	31	43
9	26	×	24	34	32	32	×	28	21	55	39	×	34	36
10	39	×	32	49	33	49	×	43	45	56	28	×	23	31
11	45	×	34	20	34	34	×	27	36	57	31	×	28	38
12	36	×	35	55	35	44	×	34	46	58	26	×	23	35
13	40	×	37	34	36	36	×	29	34	59	21	×	20	23
14	68	×	53	55	37	25	×	24	21	60	27	×	23	20
15	33	×	29	24	38	32	×	31	25	61	30	×	26	44
16	40	×	35	56	39	26	×	24	21	62	49	×	43	37
17	58	×	55	59	40	31	×	29	26	63	36	×	35	19
18	60	×	52	28	41	25	×	23	24	64	25	×	24	33
19	48	×	40	43	42	22	×	21	30	65	24	×	24	37
20	26	×	24	28	43	27	×	25	18	66	69	×	49	37
21	30	×	28	25	44	23	×	21	44	67	67	×	61	16
22	96	×	49	42	45	33	×	32	37					
23	46	×	37	44	46	32	×	23	44					

第10号ピット群 (第422図)

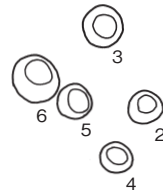
調査区南部のE 3 d7～E 3 f8区から9か所のピットが確認された。標高23.0mほどの台地平坦部に位置している。平面形は長径22～40cm、短径19～38cmの円形または楕円形で、深さは17～37cmである。遺物が出土していないため、時期については不明である。第1号掘立柱建物跡と重複しているが、柱同士の切り合いがないため新旧は不明である。

表27 第10号ピット群ピット計測表

ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)					
	長 径	×	短 径		深 さ	長 径	×		短 径	深 さ	長 径	×	短 径	深 さ
1	22	×	19	17	4	27	×	26	21	7	37	×	33	27
2	28	×	27	25	5	33	×	25	25	8	30	×	30	33
3	33	×	30	24	6	39	×	38	23	9	40	×	34	37



±E3e8



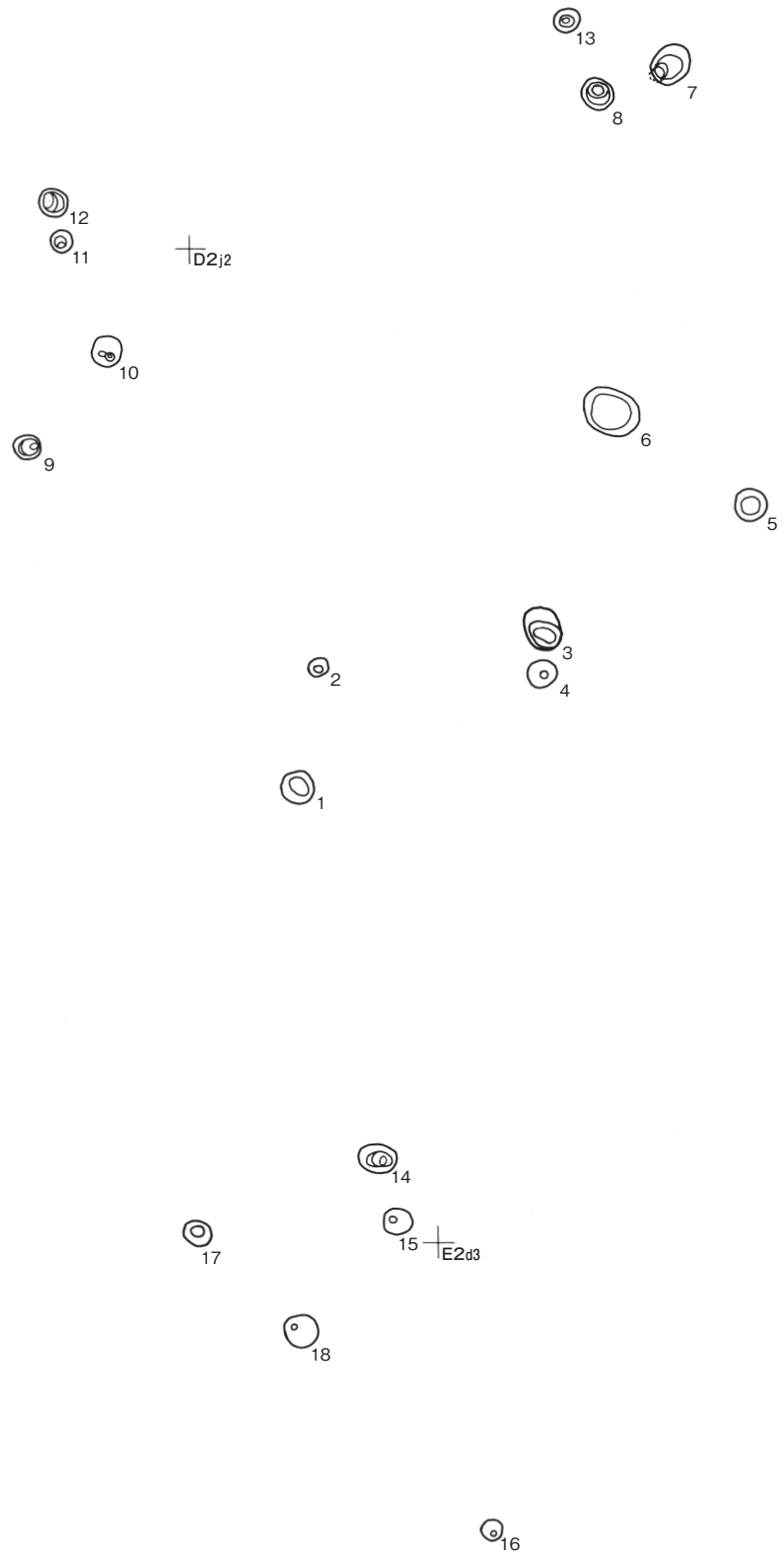
±E3f8



第422図 第10号ピット群実測図

第11号ピット群（第423図）

調査区西部のD 2 i1～E 2 e4区から18か所のピットが確認された。標高24.0mほどの台地平坦部に位置している。平面形は長径33～96cm，短径30～73cmの円形または楕円形で，深さは18～65cmである。土師器甕片8点，須恵器坏片1点が出土しているが，いずれも流れ込んだ細片のため，時期は不明である。



第423図 第11号ピット群実測図

表28 第11号ピット群ピット計測表

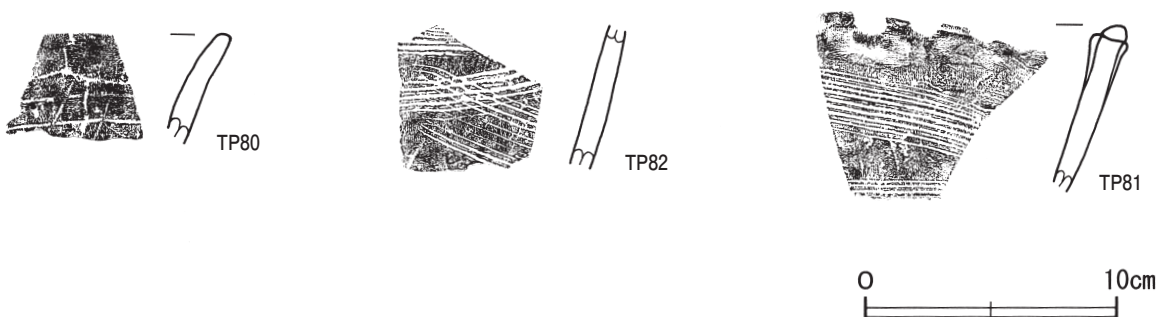
ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)			ピット 番号	規 模 (cm)					
	長 径	×	短 径		深 さ	長 径	×		短 径	深 さ	長 径	×	短 径	深 さ
1	54	×	53	24	7	68	×	58	48	13	39	×	34	26
2	33	×	30	22	8	51	×	48	50	14	61	×	50	54
3	71	×	58	44	9	43	×	38	50	15	50	×	45	39
4	50	×	45	48	10	52	×	50	24	16	36	×	32	53
5	53	×	50	18	11	42	×	35	65	17	48	×	43	50
6	96	×	73	20	12	47	×	42	53	18	58	×	52	35

表29 時期不明ピット群 一覧表

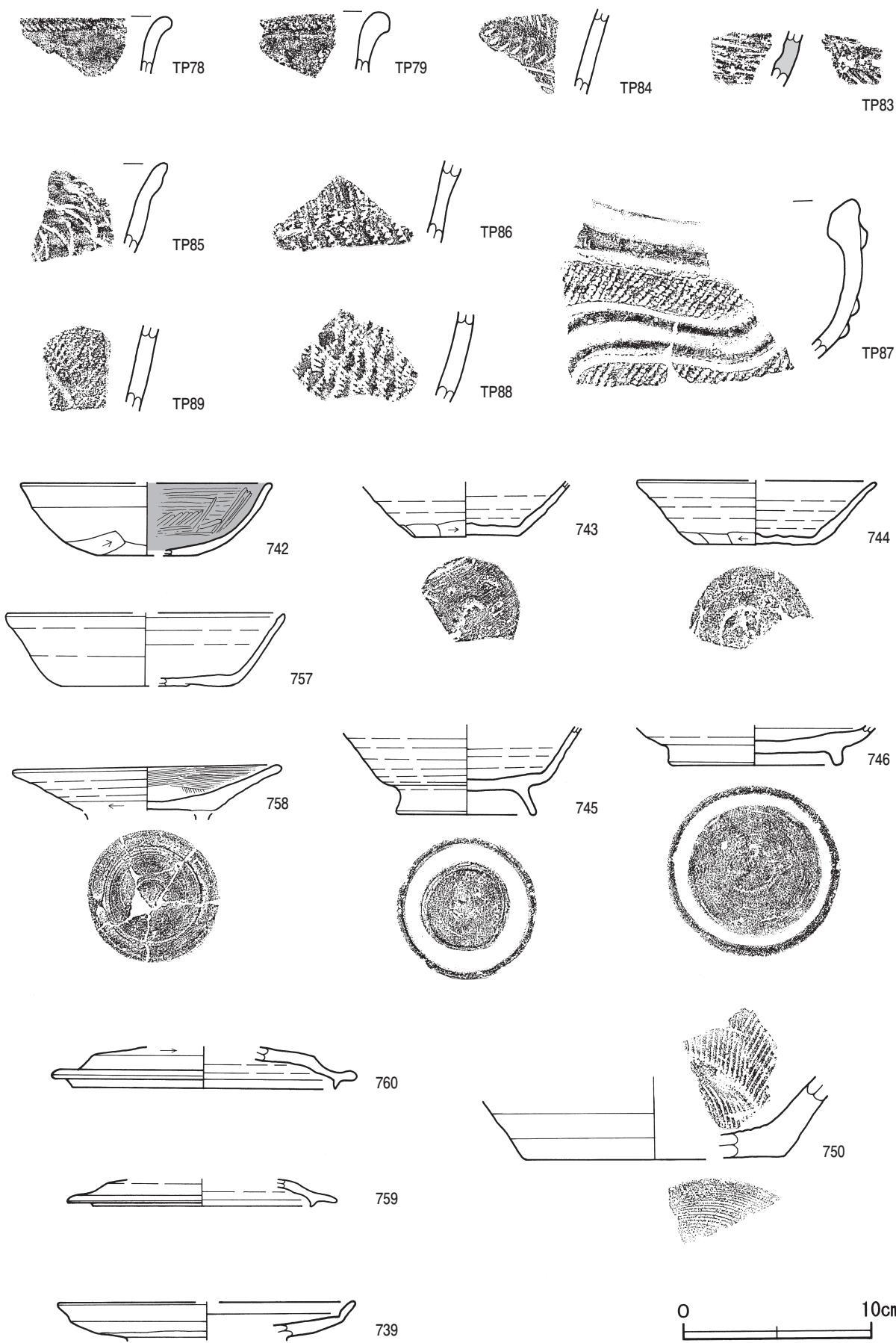
番号	位置	柱穴 (長さの単位はcm)					出土遺物	備考
		柱穴	平面形	長径	短径	深さ		
1	D 1 h3~E 1 b9	29	円形・楕円形	29~126	26~66	14~60	縄文土器・土師器・須恵器	
2	F 3 a2~F 3 c4	22	円形・楕円形	23~ 49	18~46	12~43	土師器・須恵器	
3	E 3 f2~E 3 g3	13	円形・楕円形	19~ 53	15~33	10~50	土師器	
4	B 3 j9~C 4 b3	9	円形・楕円形	24~ 49	22~36	11~28	土師器	
5	C 5 a1~C 5 c3	6	円形・楕円形	33~ 79	31~55	19~55		
6	D 3 e0~D 4 f3	14	円形・楕円形・不定形	28~ 74	26~55	24~83	土師器・須恵器	
7	D 3 f0~E 4 d0	150	円形・楕円形・不定形	23~120	20~73	15~68	土師器・須恵器	
8	F 3 b0~F 4 f6	69	円形・楕円形	24~ 98	22~71	14~73	土師器・須恵器	
9	E 3 e9~E 4 i8	67	円形・楕円形・不定形	21~ 96	20~61	16~59	土師器・須恵器	
10	E 3 d7~E 3 f8	9	円形・楕円形	22~ 40	19~38	17~37		
11	D 2 i1~E 2 e4	18	円形・楕円形	33~ 96	30~73	18~65	土師器・須恵器	

(4) 遺構外出土遺物

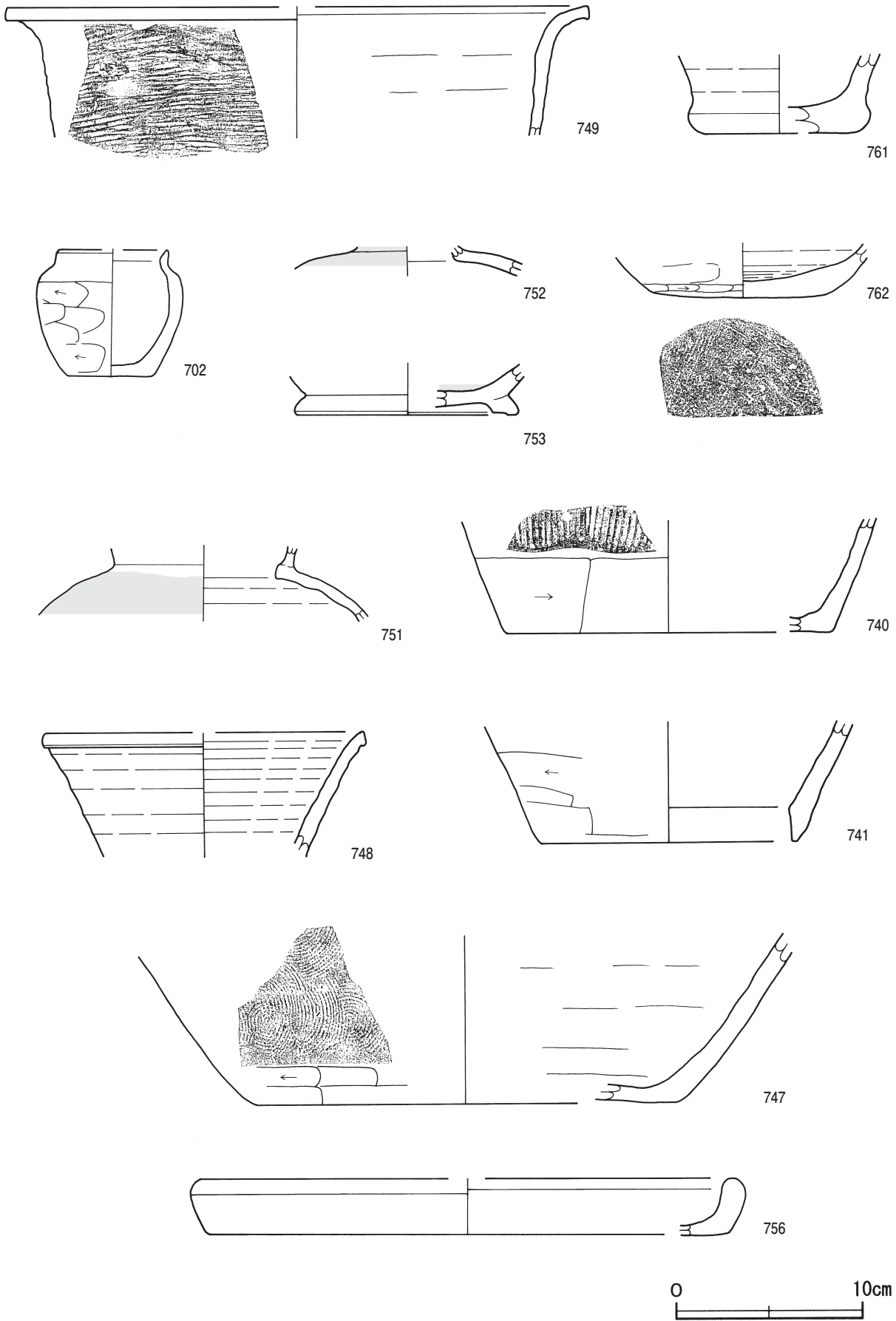
今回の調査で、出土した縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・土師質土器・土製品・石器・鉄製品等の遺構に伴わない遺物について、実測図（第424~428図）と観察表を掲載する。



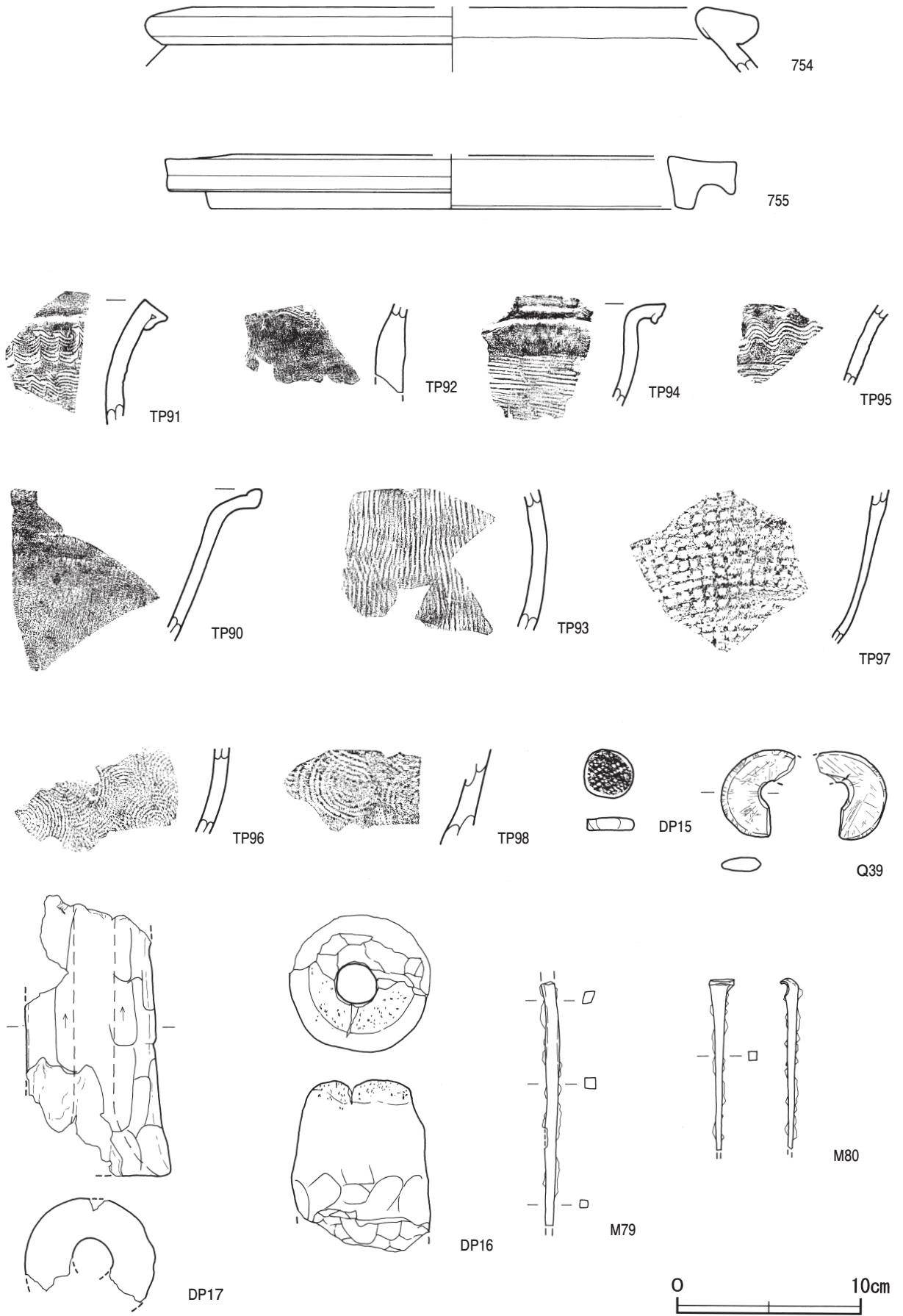
第424図 遺構外出土遺物実測図 (1)



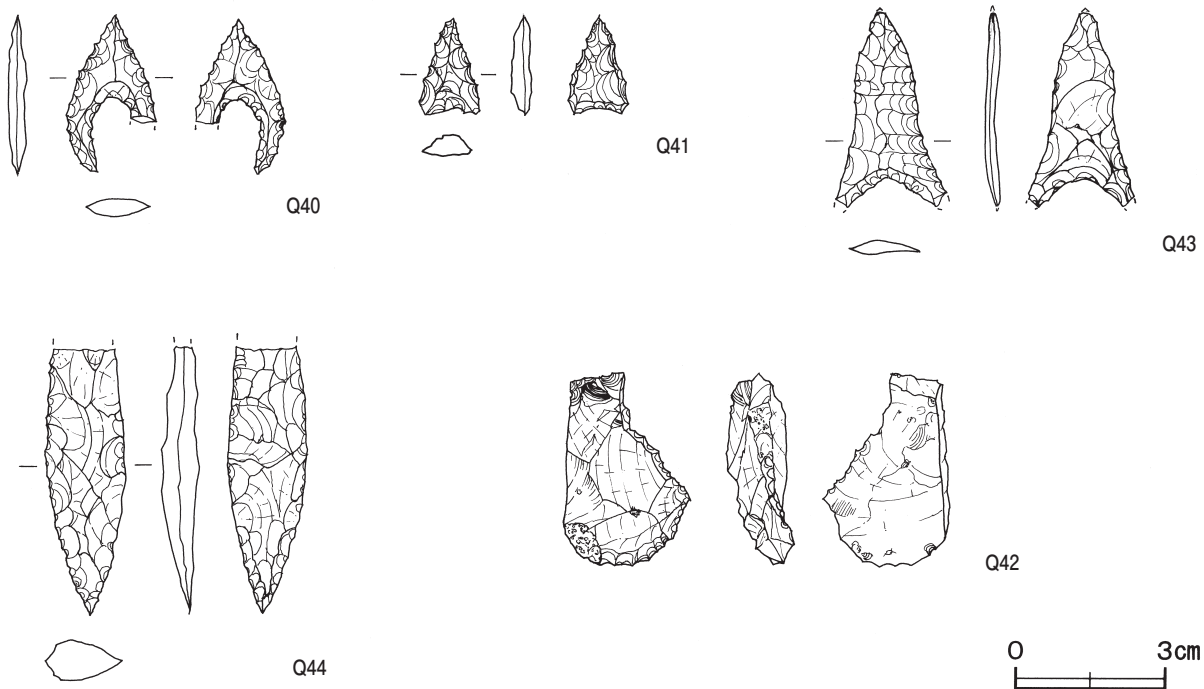
第425図 遺構外出土遺物実測図(2)



第426図 遺構外出土遺物実測図（3）



第427図 遺構外出土遺物実測図(4)



第428図 遺構外出土遺物実測図（5）

遺構外出土遺物観察表（第424～428図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP78	縄文土器	深鉢	—	(3.0)	—	長石・石英・雲母	明褐	普通	口唇部に燃糸文押捺	表土	PL91
TP79	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口唇部に燃糸文押捺	表土	PL91
TP80	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	平行沈線文	表土	PL91
TP81	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口唇部に指頭による押捺 胴部櫛歯状工具による平行沈線文	表土	TP82と同一個体 PL91
TP82	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	櫛歯状工具による波状沈線文	表土	TP81と同一個体 PL91
TP83	縄文土器	深鉢	—	(2.9)	—	長石・石英・繊維	橙	普通	外・内面条痕文	表土	PL91
TP84	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	長石・石英	明赤褐	普通	平行沈線文と貝殻腹縁文	表土	PL91
TP85	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部に棒状工具による押捺 体部貝殻腹縁文	表土	PL91
TP86	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	長石・石英	明赤褐	普通	貝殻腹縁文	表土	PL91
TP87	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	砂粒・雲母・スコリア	橙	普通	隆帯で区画し単節縄文充填	表土	PL91
TP88	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	長石・石英・雲母	浅黄	普通	貝殻腹縁文	表土	
TP89	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	沈線で区画し単節縄文充填	表土	PL91

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
739	須恵器	盤	[16.0]	(2.0)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	内・外面ロクロナデ	表土	10%
740	須恵器	甕	—	(6.0)	[17.6]	長石・石英	褐灰	普通	体部縦位の平行叩き 体部下端横位のヘラ削り	表土	5%
741	須恵器	甌	—	(6.5)	[13.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端横位のヘラ削り 内面横位のナデ	表土	5%
702	土師器	小形壺	[5.8]	6.8	4.6	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ナデ	SK174	60% PL88
742	土師器	坏	[13.2]	3.8	[5.4]	長石・石英	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	K-10	20%
743	須恵器	坏	—	(2.9)	[5.6]	長石・石英	黄灰	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り 痕を残す一方向のヘラ削り	K-6	40%
744	須恵器	坏	[12.6]	3.4	[6.4]	長石・細礫、粗い	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	K-9	30%
745	須恵器	高台付坏	—	(4.7)	7.4	長石・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	K-9	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備 考
746	須恵器	高台付坏	—	(2.1)	8.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	K-3	20%
747	須恵器	甕	—	(8.9)	[22.8]	長石・雲母	灰	普通	体部同心円の叩き 下端手持ちヘラ削り	K-4	20%
748	須恵器	甕	[17.0]	(6.7)	—	長石・雲母	灰	普通	内・外面クロコナデ	K-3	10%
749	須恵器	鉢	[31.2]	(6.9)	—	長石・雲母・小石	暗褐	不良	体部横位の平行叩き	K-3	10%
750	陶器	播鉢	—	(4.2)	[14.0]	緻密	にぶい褐	普通	内面10条1単位の播り目 内外面施釉 鉄釉	K-1	10% 瀬戸
751	灰釉陶器	長頸瓶	—	(4.1)	—	堅密	灰	良好	二段接合 外面オリーブ黄釉	K-9	10%
752	灰釉陶器	長頸瓶	—	(1.6)	—	堅密	灰	普通	二段接合 外面オリーブ黄釉	K-6	5%
753	灰釉陶器	長頸瓶	—	(2.8)	[11.6]	堅密	灰	良好	底部内面釉付着	K-1	5%
754	土師質土器	竈鏝	[27.7]	(3.5)	—	長石	にぶい橙	普通	内面ナデ	K-3	5%
755	土師質土器	竈鏝	[23.8]	(2.9)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	K-10	5%
756	土師質土器	焙烙	[28.6]	3.0	[27.8]	長石・赤色粒子	褐	普通	内・外面ナデ	K-8	5%
757	須恵器	坏	[14.8]	3.9	[9.0]	長石・雲母	灰	普通	口唇部に一条の沈線 底部回転ヘラ切り痕を残す雑なナデ	表土	30%
758	土師器	高台付皿	14.4	(2.8)	—	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	高台部欠損 内面ヘラ磨き	表土	70%
759	須恵器	蓋	[11.6]	(1.4)	—	長石・石英	灰白	普通	内・外面クロコナデ	表土	5%
760	須恵器	蓋	[14.0]	(2.2)	—	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	表土	10%
761	須恵器	捏鉢	—	(4.2)	[8.2]	長石・雲母	灰	普通	底部不定方向のヘラ削り	表土	10%
762	須恵器	平瓶	—	(2.9)	[10.0]	長石・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り	表土	10%
TP90	須恵器	鉢	—	(8.2)	—	長石・石英・雲母	黄褐	やや不良	外面縦位の平行叩き	表土	
TP91	須恵器	甕	—	(6.7)	—	長石・石英	暗灰	普通	頸部7本櫛歯による櫛描波状文	表土	TP92と同一個体
TP92	須恵器	甕	—	(4.8)	—	長石・石英	暗灰	普通	頸部櫛描波状文	表土	TP91と同一個体
TP93	須恵器	甕	—	(7.5)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	外面縦位の平行叩き 内面無文の当て具痕	表土	
TP94	須恵器	鉢	—	(5.6)	—	長石・石英・雲母	灰黄	やや不良	外面横位の平行叩き	K-6	
TP95	須恵器	甕	—	(4.3)	—	長石・石英	暗灰	普通	頸部5本櫛歯による櫛描波状文	K-6	
TP96	須恵器	甕	—	(4.6)	—	長石・石英	暗灰	普通	外面同心円の叩き	K-6	
TP97	須恵器	甕	—	(8.2)	—	長石・石英・雲母	灰黄	やや不良	外面格子目の叩き	K-10	PL91
TP98	須恵器	甕	—	(5.2)	—	長石・石英・雲母	灰黄	やや不良	外面同心円の叩き	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP15	土器片 円盤	2.7	2.7	0.7	6.40	土(砂粒・雲母)	外周部を磨っている	表土	PL92
DP16	羽口	(9.2)	7.6	7.4	(351.0)	土(長石・スサ)	ナデ 端部鉄滓付着 火を受けた部分極暗赤褐色 孔径2.2cm	K-8	
DP17	羽口	(15.1)	(7.9)	(5.6)	(362.0)	土(長石・スサ)	ヘラ削り 孔径2.2cm	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q39	珠状 耳飾り	4.7	(4.0)	0.8	(17.40)	滑石	表裏面・側縁とも粗い擦痕	SI 1	PL92
Q40	鉢	3.1	1.8	0.4	(1.16)	頁岩	押圧剥離による調整	表土	PL92
Q41	鉢	1.9	1.2	0.4	0.62	チャート	押圧剥離による調整	表土	PL92
Q42	搔器	3.8	2.4	1.1	8.40	黒曜石	端部に急角度調整で刃部をつくる	SI 121 覆土	
Q43	鉢	(3.8)	(2.7)	0.3	(2.12)	チャート	押圧剥離による調整	表土	PL92
Q44	尖頭器	(5.3)	1.6	0.8	(5.80)	頁岩	押圧剥離による調整	SI 82 覆土	PL92

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M79	釘	(13.15)	(1.05)	(0.75)	(25.1)	鉄	断面正方形	表土	
M80	釘	(9.40)	1.40	0.70	(15.5)	鉄	断面正方形	表土	PL94

第4節 ま と め

当遺跡の調査は、平成18年4月から5月、平成19年6月から平成20年3月にかけて実施され、竪穴住居跡123軒、掘立柱建物跡43棟、方形竪穴遺構2基、井戸跡8基、鍛冶工房跡1基、粘土採掘坑20基、土坑220基、溝跡25条、ピット群11か所などが確認されている。これまでの調査から、当遺跡は古墳時代後期から平安時代を中心とする複合遺跡であることが明らかになった。

ここでは、出土遺物からみた古墳時代から平安時代までの大まかな集落の変遷をたどり、さらには古代の河内郡内の集落の動向とともに下平塚蕪木台遺跡の位置づけを行っていくことにする。

1 集落の変遷

ここで取り上げる古墳時代から平安時代の遺構は、竪穴住居跡123軒、掘立柱建物跡33棟、方形竪穴遺構2基、鍛冶工房跡1基、粘土採掘坑20基、井戸跡6基、土坑32基である。

(1) 古墳時代（第429図）

当時代の遺構は竪穴住居跡5軒が確認されている。6世紀後葉に第17・62号住居跡の2軒が調査区南部に出現する。これが下平塚蕪木台集落の始まりである。それに継ぐ7世紀前葉に比定できる住居跡は調査区内では確認できなかった。7世紀中葉の遺構は調査区西部で第48・61号住居跡、7世紀後葉の遺構は調査区東部で第107号住居跡が確認されている。以後10世紀中葉まで連綿と続いていく。

(2) 奈良時代

当時代の遺構は竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡7棟、井戸跡2基、土坑4基等が確認されている。出土遺物から8世紀前葉、中葉、後葉の3時期に区分して集落の様相を述べる。

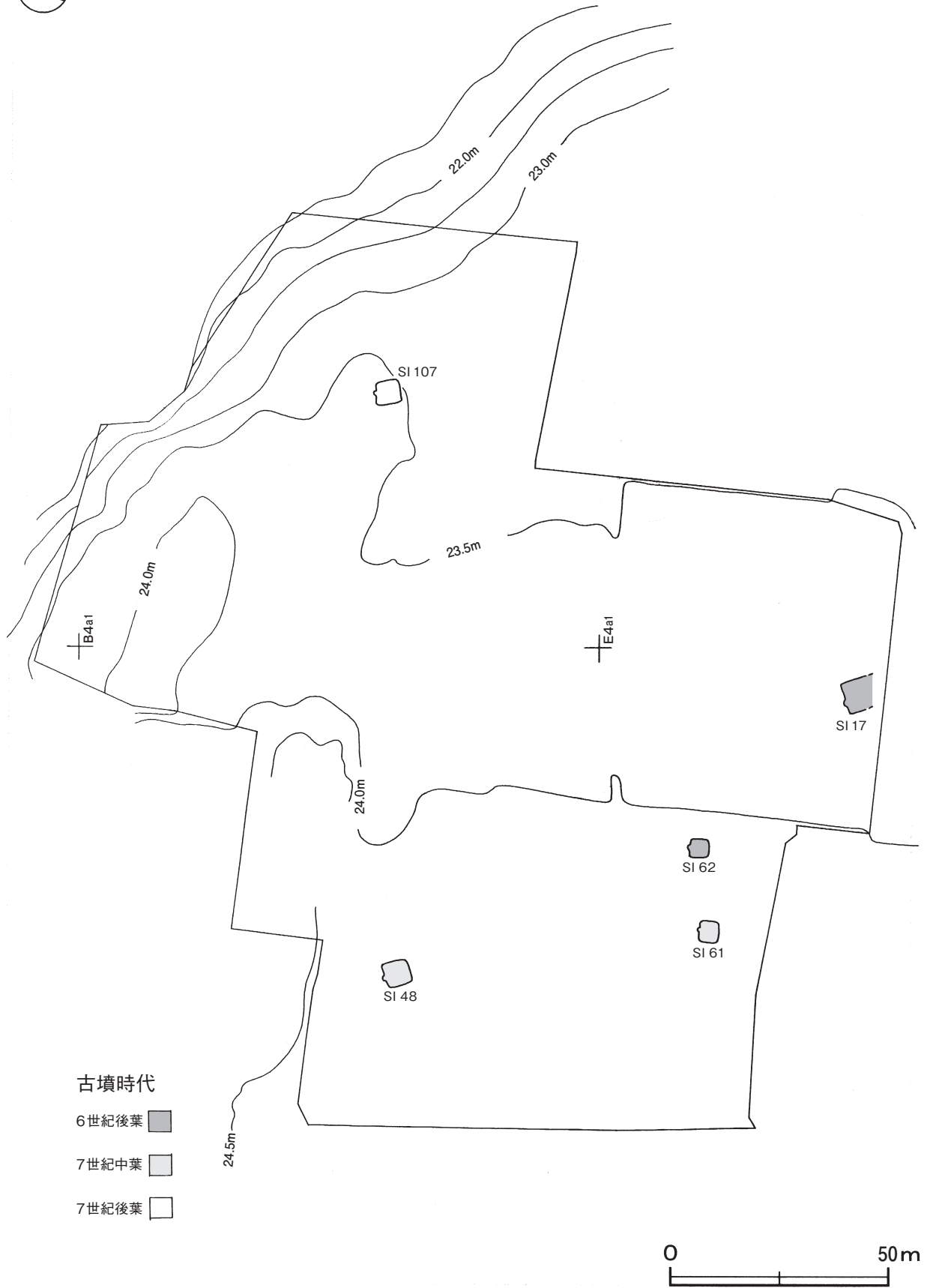
第I期（第430図）

第10・11・24・25・36・53・69・76・80・86・89・112・122号住居跡の13軒、第8号井戸跡が該当し、出土した土器の様相から8世紀前葉に比定できる。これらの住居跡は、南部の第10・11・24・36・122号住居跡からなるグループ、中央部の第25・53号住居跡からなるグループ、北東部の第69・76・80・86・89・112号住居跡からなるグループに分けられ、3つの単位集団を形成している。

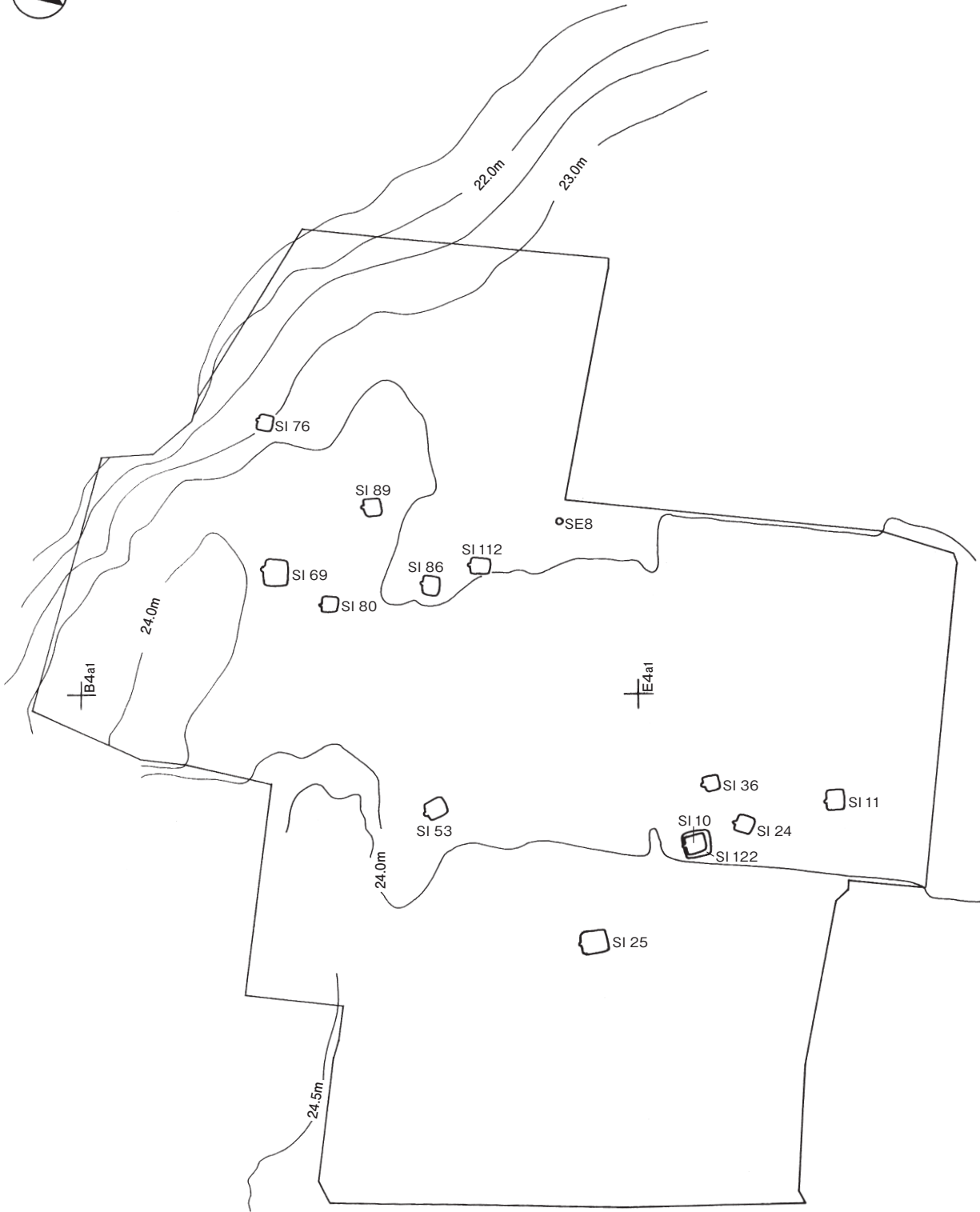
南部グループの土器様相は8世紀前葉の中でも古い傾向にあり、8世紀初頭に比定でき、その中の第10号住居跡は第122号住居跡の上部に貼床を行い構築しており、時間差はわずかであることから、第122号住居跡が7世紀末に遡る可能性もあり、南部の集団は第122号住居跡によって始まると言ってもよい。これらの住居跡の主軸方向は第24号住居跡を除いて西に6～10度振れている。

中央部グループは第25・53号住居跡の2軒だけであるが、北側の調査区域外に存在していると考えられる未確認の住居跡を含めてグループをなしていたと思われる。第25号住居跡は床面積29㎡と広く、銅製耳環が出土している。

北東部グループのうち、第76・89号住居跡の土器様相は古い傾向にあり8世紀初頭に比定でき、その後第69・80・86・112号住居跡が続くものとみられる。これらの主軸方向は東に0～8度振れている。



第429図 下平塚蕪木台遺跡集落変遷図(1)



I期



第430図 下平塚燕木台遺跡集落変遷図(2)

第Ⅱ期 (第431図)

第7・20・26・30・45・59・71・72・84・85・88・92・103・106・108号住居跡の15軒，第31・32・35号掘立柱建物跡の3棟，第6号井戸跡の1基，土坑4基が該当し，出土した土器の様相から8世紀中葉に比定できる。本期から掘立柱建物跡がみられるようになる。南部・北東部の集団はⅠ期から引き継がれ，新たに西部にも展開するようになる。中央部の集団は北側の調査区域外に中心が移ったものと思われ，確認されたのは第110・116号土坑だけである。本期以降は南部・中央部・北東部・西部の4つの単位集団で集落は形成される。

南部グループは，第7・20・26・30・59号住居跡で，前期よりも西側に広がっている。第7号住居跡から鉄鏃1点，第26号住居跡から砥石・鉄鎌・刀子が各1点，第59号住居跡から刀子1点，第30号住居跡から「定カ万」の墨書土器1点が出土している。

北東部グループは，第71・72・84・85・88・92・103・106・108号住居跡，第31・32・35号掘立柱建物跡，第6号井戸跡である。大形の第72号住居跡と屋である床面積38㎡の第31号掘立柱建物跡を中心に南側に弧状に住居が配置され，北側には床面積13㎡の小形掘立柱建物跡が配される。南部と中央部をつなぐ中間地点に第35号掘立柱建物跡と第6号井戸跡が位置している。第71・103号住居跡から石製紡錘車が各1点，第84号住居跡から鉄鎌・鉄鏃各1点，第88号住居跡から砥石1点，第92号住居跡から刀子1点，第108号住居跡から鉄鏃1点が出土している。

西部にも新たに住居が展開するようになる。調査では第45号住居跡1軒が確認されたのみであるが，西側の調査区域外に存在していたと考えられる未確認の住居を含めてグループをなしていたと思われる。

当期の鉄器や石器等の道具類の保有率をみると，刀子・鉄鏃が3軒から3点で20%，鉄鎌・石製紡錘車・砥石・鉄鎌がそれぞれ2軒から2点で13%である。

第Ⅲ期 (第432図)

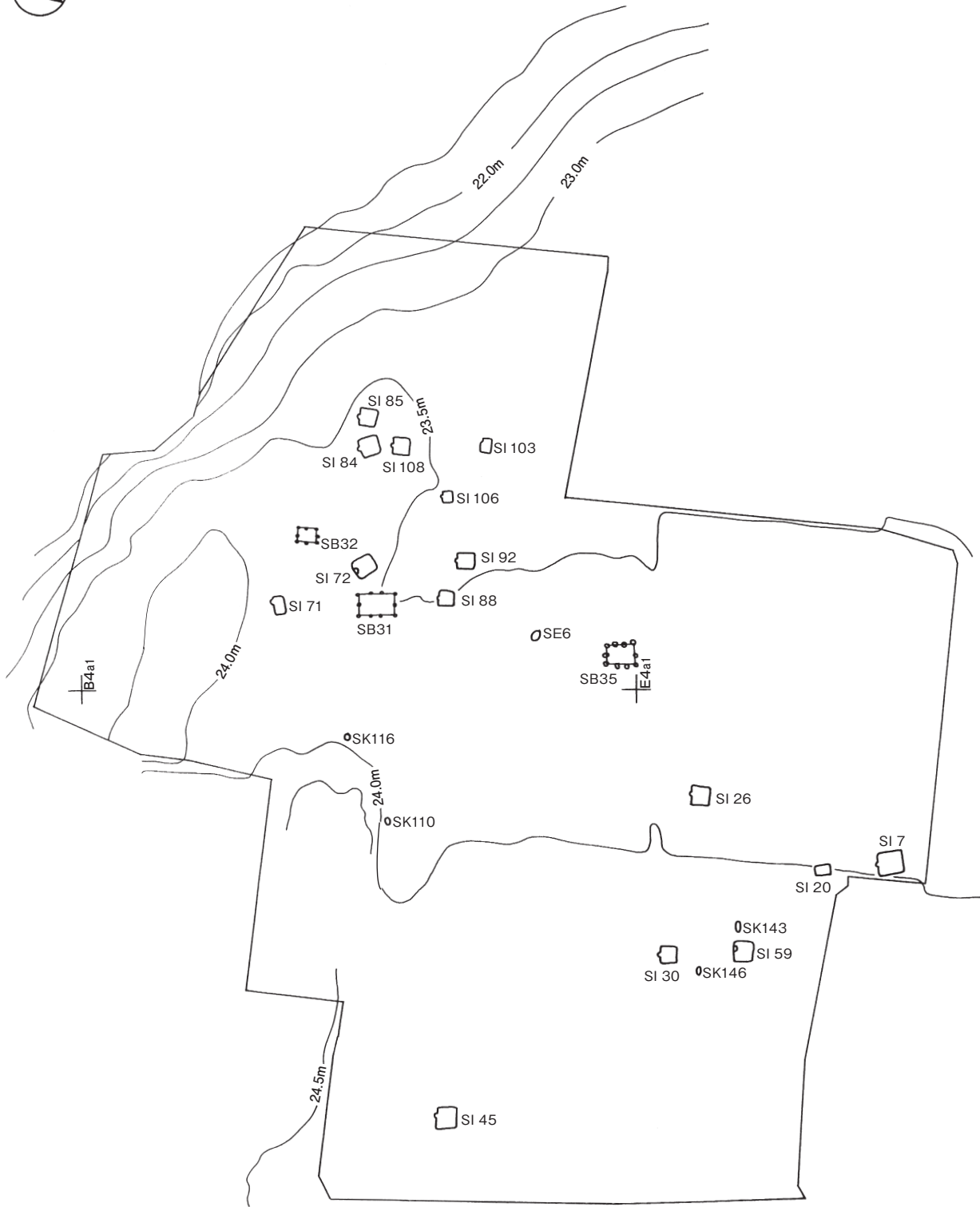
第3・28・31・54・57・58・68・81・87・90・118・119・121号住居跡の13軒，第23・24・25・26号掘立柱建物跡の4棟が該当し，出土した土器の様相から8世紀後葉に比定できる。この時期になると，中央部と北東部の集団では，建物の主軸方向に規格性がみられるようになる。

南部グループは，第3・58・118・119・121号住居跡の5軒が10～15mの間隔で東西に散らばって存在する。第3・58号住居跡からは合わせて刀子3点，鉄鏃1点が出土している。第121号住居跡からは須恵器のコップ形土器が出土している。

中央部グループは，小形の第28・31号住居跡の2軒，第23～26号掘立柱建物跡の4棟で，主軸方向が東へ8～27度振れている。2軒の住居跡の北側には2間×3間の掘立柱建物跡が2m間隔で南北に立ち並んでいる。いずれも側柱建物で，床面積は北側2棟が約26㎡，南の1棟が18㎡である。これらは，集落の中央に位置し，中央部グループと南部グループに明確な境界が見られないことから集落全体の「屋」として機能していたものと思われる。

北東部グループは，第54・81・87・90号住居跡と中央部寄りの第68号住居跡の5軒である。前者の主軸方向は西へ10～13度振れ規格性がある。第68号住居跡から砥石1点，第87号住居跡から石製紡錘車・砥石が各1点出土している。

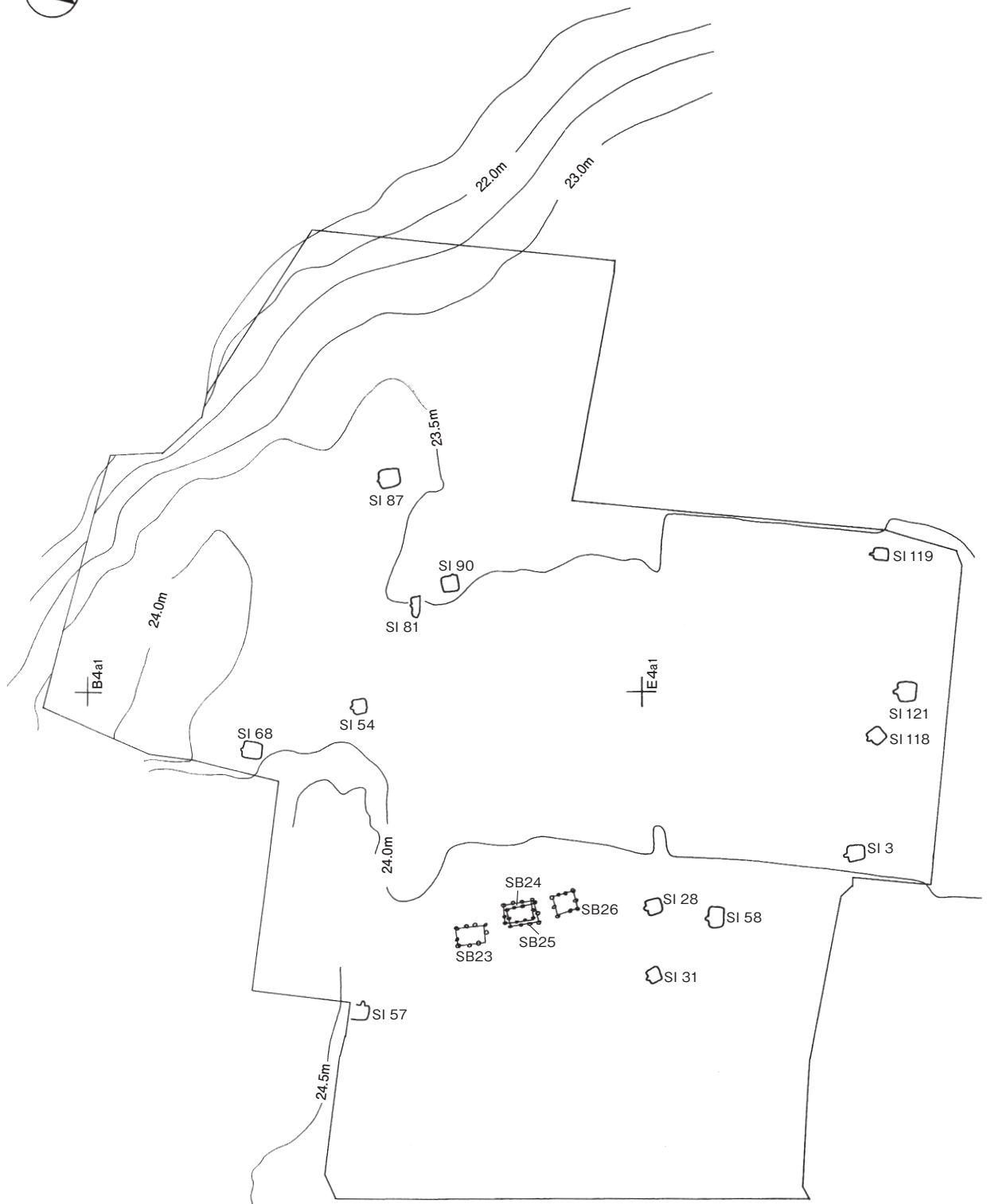
西部グループは第57号住居跡の1軒だけである。調査区域外の北・西に未確認の住居跡が存在している可能性がある。



Ⅱ期



第431図 下平塚燕木台遺跡集落変遷図 (3)



Ⅲ期



第432図 下平塚蕪木台遺跡集落変遷図(4)

当期の鉄器や石器等の道具類の保有率をみると、刀子が2軒から3点で14%、砥石が2軒から2点で14%、鉄鎌・石製紡錘車が各1軒から1点で7%である。

(3) 平安時代

当時代の遺構は竪穴住居跡77軒、掘立柱建物跡26棟、方形竪穴遺構2基、鍛冶工房跡1基、粘土採掘坑7か所で20基、井戸跡4基、土坑28基等が確認されている。出土遺物から9世紀前葉、中葉、後葉、10世紀前葉、中葉の5時期に区分して集落の様相を述べる。なお、期名は奈良時代から継続してⅣ期からとする。

第Ⅳ期 (第433図)

第5・6・8・15・33・40・41・51・52・66・78・91・102・111・114号住居跡の15軒、第3・13・15・20・30号掘立柱建物跡の5棟、第5号粘土採掘坑1か所、第3号井戸1基で集落は構成され、出土した土器の様相から9世紀前葉に比定できる。

南部グループは、第5・6・8・15号住居跡の4軒、第3・15号掘立柱建物跡の2棟、第5号粘土採掘坑1か所である。4軒の住居跡と屋である床面積26㎡の第3号掘立柱建物跡は一つのまとまりを呈し、竪穴住居跡の主軸方向は一様に西へ2～9度振れるようになる。このまとまりから北西へ15mほど離れて、床面積16㎡の小形の掘立柱建物跡と第5号粘土採掘坑群が位置している。第8・15号住居跡からは鉄鎌、刀子が各1点出土している。

中央部グループは、第40・41住居跡2軒と第20号掘立柱建物跡1棟が一つのまとまりを呈している。このまとまりから北へ14mに東竈の第52号住居跡が位置している。これらの住居跡の主軸方向は第52号住居跡を除いて西へ1～9度振れている。中央部グループと北東部グループの間には第3号井戸跡が位置している。第40号住居跡から灰釉陶器長頸瓶・羽口が各1点出土していることから、この時期から集落内で鍛冶関連が始まったものと思われる。

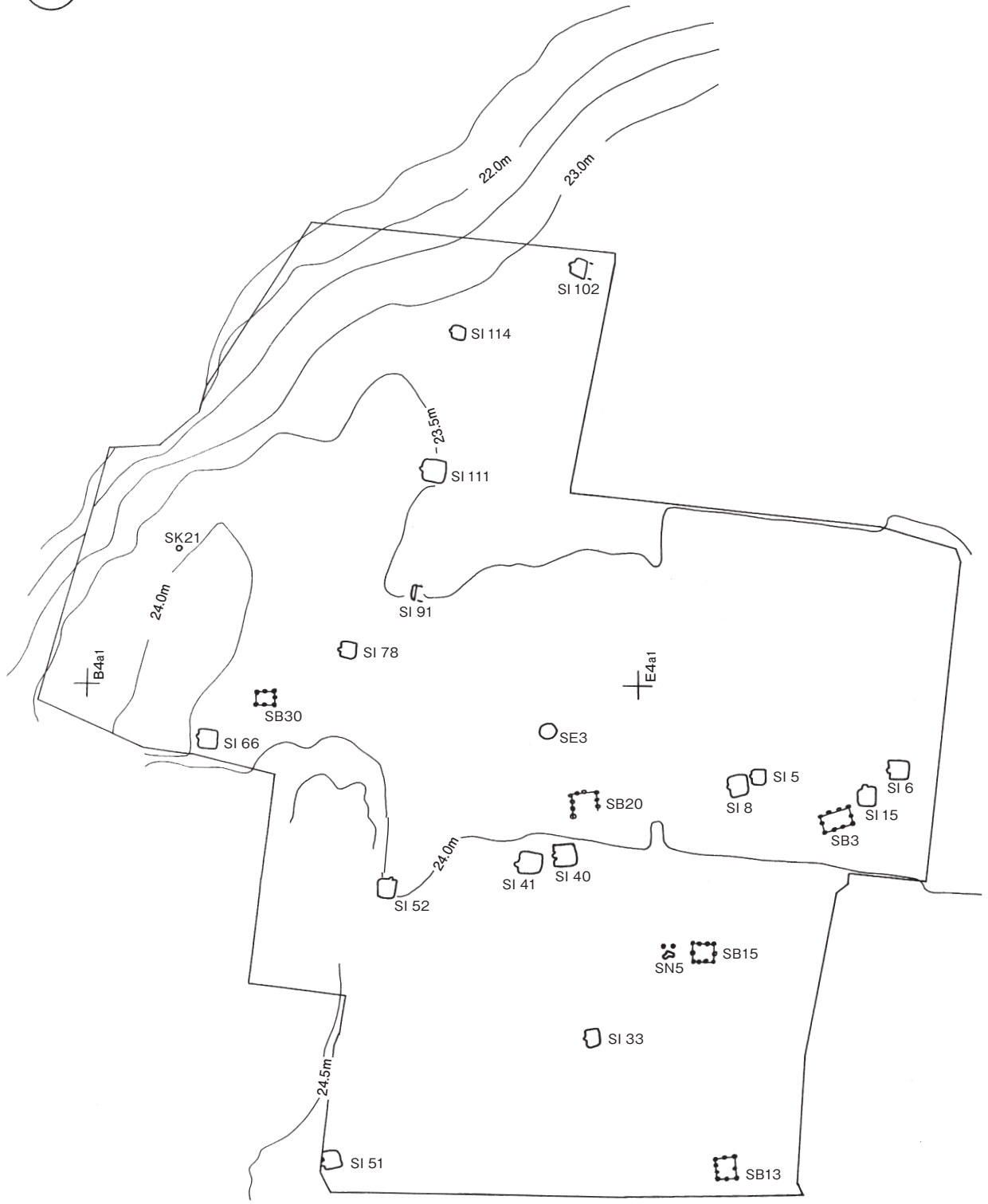
北東部グループでは、第66・78・91・102・111・114号住居跡、第30号掘立柱建物跡が5～10mの間を置いて点在している。前期では主軸方向は西に振れていたのに対し、当期には2～20度の範囲で一斉に東に振れるようになる。第66号住居跡から鉄斧1点、第111号住居跡から小鎌・砥石が各1点出土している。

西部グループは、第33・51号住居跡、第13号掘立柱建物跡が、20～30mの距離をおいて点在している。いずれの主軸方向も7～9度西に振れている。第51号住居跡からは灰釉陶器長頸瓶・石製紡錘車・刀子が各1点ずつ出土している。また、51号住居跡は壁柱穴をもつ建物であり、貼床の構築土に珪藻土を用いて湿気を取り除くことを意識した構築を行っている。

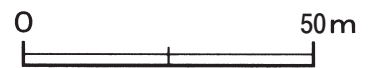
当期の鉄器や石器等の道具類の保有率は、刀子・鎌・灰釉陶器がそれぞれ2軒から2点で13%、砥石が2軒から3点で13%、鉄斧・石製紡錘車・羽口がそれぞれ1軒から1点で7%である。

第Ⅴ期 (第434図)

第1・2・4・9・29・32・34・35・43・44・46・47・49・50・55・63・64・65・67・70・73・74・75・77・79・82・83・94・95・97・99・100・104・105・110・120・123・124号住居跡の38軒、第1・4・7～12・14・16・18・21・22・29号掘立柱建物跡の14棟、第1・4・6・7号粘土採掘坑群の4か所、第1・2号方形竪穴遺構の2基、第1号鍛冶工房跡の1基、第2・5号井戸跡の2基、土坑8基が該当し、出土した土器の様相から9世紀中葉に比定できる。Ⅰ期～Ⅳ期までの集落は、15軒前後の一定した規模を以降で、



IV期



第433図 下平塚蕪木台遺跡集落変遷図(5)

保って変遷していたが、当期には一気に住居軒数が2倍以上増えている。さらには集落内には粘土採掘坑・鍛冶工房・氷室状土坑・井戸など様々な施設も備え、集落が最も繁栄する時期である。なお、住居跡の主軸方向は全体的に東に振れる傾向にある。

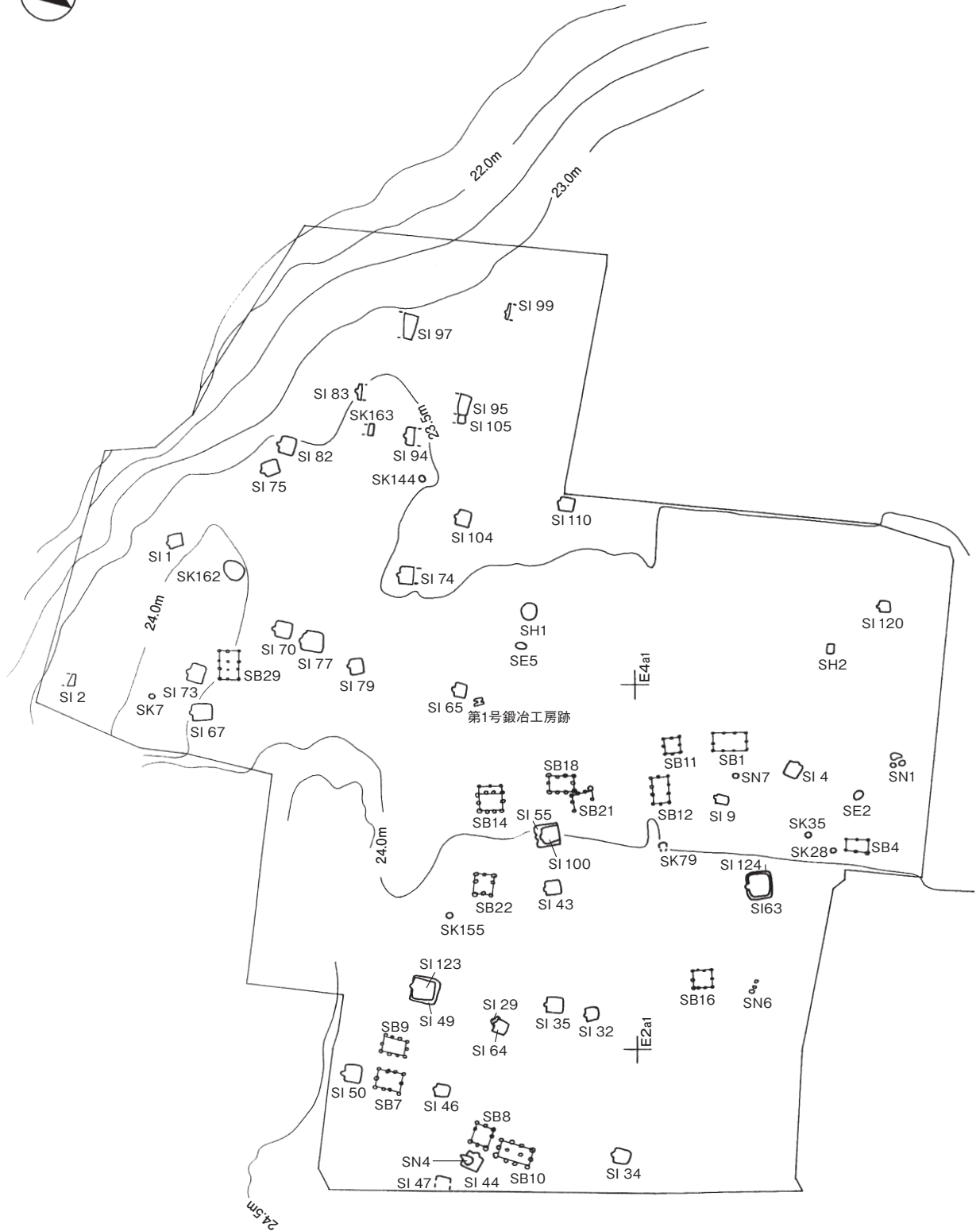
南部グループは、第4・9・63・120・124号住居跡の5軒、第1・4・11・12・16号掘立柱建物跡の5棟、第2号井戸跡、第2号方形竪穴遺構、第1・6・7号粘土採掘坑で構成されている。中心となるのは大形の第63号住居跡で、その周りに小形の住居跡や小規模な掘立柱建物跡が点在している。第63号住居跡は、第124号住居跡を拡張し、貼床を施して作り替えられている。その際、掘立柱建物跡や基壇建物跡の基礎構築と同様の版築技法で貼床を構築しているもので、一般集落の竪穴住居を構築する際の技法としては例をみないものである。第63号住居跡からは、刀子・鉄鎌各1点、砥石2点、第4号住居跡からは雁股鎌・釘・瓦片が各1点出土している。

中央部グループは、主屋である庇付第14号掘立柱建物跡と大形の第55号住居跡とを中心に第43号住居跡、第18・21号掘立柱建物跡の一群（A群）と、第1号鍛冶工房跡、第1号方形竪穴遺構、第5号井戸跡、第65号住居跡の一群（B群）に分けられる。A群は、「主屋の掘立柱建物+大形住居+小形住居+屋」の構成で、本集落の中心的存在であったことがうかがえる。A群から東へ30mに位置しているB群は工房関連の集団と思われる。第55号住居跡は、南部グループの中心住居である第63号住居跡と同様な版築技法を用いて床が構築されている。第43号住居跡から鉄製穂摘具、第55号住居跡からは灰釉陶器長頸瓶・油煙付須恵器杯・土製紡錘車・石製紡錘車・釘・環状鉄製品各1点、第66号住居跡から砥石1点出土している。

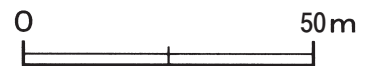
北東部グループは、東側の第95・97・99・105・110号住居跡の一群（C群）と、円を描くように配される第70・77・79・74・104・94・83・82・75号住居跡、第29号掘立柱建物跡、第162号土坑の一群（D群）と、北側の第1・2・67・73号住居跡の一群（E群）に分けられる。これらの大部分の住居跡は主軸方向が東へ10度前後振れている。C群の第99号住居跡からは灰釉陶器椀、第110号住居跡からは刀子が出土している。D群の第70号住居跡からは土製紡錘車、第82号住居跡からは鉄鎌、第83号住居跡からは羽口・鉄滓、第94号住居跡からは石製紡錘車、小形短頸壺、第162号土坑からは「上」「万益」の墨書土器が出土している。なお、162号土坑は氷室状土坑と言われているものである。E群の第1号住居跡からは鉄鎌・釘・石製丸玉各1点、第67号住居跡からは刀子2点、鉄斧1点出土している。

西部グループは、第7・9号掘立柱建物跡を囲むように配される第46・49・50・123号住居跡の一群と、第8・10号掘立柱建物跡を囲むように配される第29・64・35・32・34・44・47号住居跡の一群に分けられる。西部グループはこれまで小規模であったのが一斉に膨れ上がり、北東部グループの影響を受けたかのように主軸方向が東へと変換する。北東部グループが住居跡数18軒という大規模な割には屋を備えていないことを考え合わせると、この西部グループの4棟の掘立柱建物跡は、集落全体の屋として機能していたと思われる。第50号住居跡から刀子・石製紡錘車・土製紡錘車各1点、第49・123号住居跡から灰釉陶器長頸瓶片7点、刀子3点、石製紡錘車・土製紡錘車・砥石各1点、第29・64号住居跡から則天文字「市」の墨書土器2点、第34号住居跡から鉄滓1点、鉄鉢形土器1点、第35号住居跡から羽口1点、第44号住居跡から灰釉陶器長頸瓶片4点、鉄鎌1点、第10号掘立柱建物跡からは鉄鎌2点出土している。

当期の鉄器や石器等の道具類の保有率をみると、刀子が5軒から8点で13%、鉄鎌・砥石がそれぞれ3軒から4点で8%、釘が3軒から3点で8%、鎌（穂摘具を含む）・羽口がそれぞれ2軒から2点で5%、灰釉陶器が4軒から13点で10%、石製紡錘車・土製紡錘車がそれぞれ4軒から4点で10%である。紡錘車は、4軒中3軒（第49・50・55号住居跡）では石製・土製の両方を保有している。集落が大きくなったた



V期



第434図 下平塚蕪木台遺跡集落変遷図(6)

め保有点数はふえているものの、道具類の保有率には変化はなく安定した保有率である。

第Ⅵ期（第435図）

第16・19・22・23・27・37～39・42・56・60・93・96・98・113・115・116号住居跡の17軒，第5・6・19・27・33・43号掘立柱建物跡の6棟，第3号粘土採掘坑1基，土坑1基が該当し，出土した土器から9世紀後葉に比定できる。前期に比べると建物軒数が半減し集落は縮小している。

南部グループは，建て替えを行った第22・23号住居跡を中心に，第16・19・38・116号住居跡，第5号掘立柱建物跡で構成されている。大部分の住居跡の主軸方向は東に3～5度振れている。第16号住居跡から砥石1点，第23号住居跡から灰釉陶器長頸瓶1点，第115号住居跡から刀子1点，第116号住居跡から灰釉陶器長頸瓶・刀子各1点が出土している。

中央部グループは，主屋の庇付第19号掘立柱建物跡を中心に，建て替えを行っている第27・39号住居跡，屋の第27号掘立柱建物跡で構成されている。この「主屋+大形住居+小形住居+屋」の構成は前期を踏襲しており，依然として集落の中心的存在であったと思われる。第27号住居跡から灰釉陶器椀・長頸瓶各1点，第39号住居跡から灰釉陶器長頸瓶1点が出土している。

北東部グループは，東側に展開する前期のC群を踏襲している集団で，大形の第93号住居跡を中心に第96・98・113号住居跡が南北に点在し，東端に「屋」である第33号掘立柱建物跡が位置する。第93号住居跡から灰釉陶器長頸瓶・石製紡錘車・墨書土器各1点，第96号住居跡から灰釉陶器長頸瓶1点が出土している。

西部グループは，北端に第56号住居跡，南端に第60号住居跡が80mの距離をおいて点在し，西端に第6・43号掘立柱建物跡が位置している。「屋」である第6号掘立柱建物跡は床面積約38㎡と当集落では大形である。

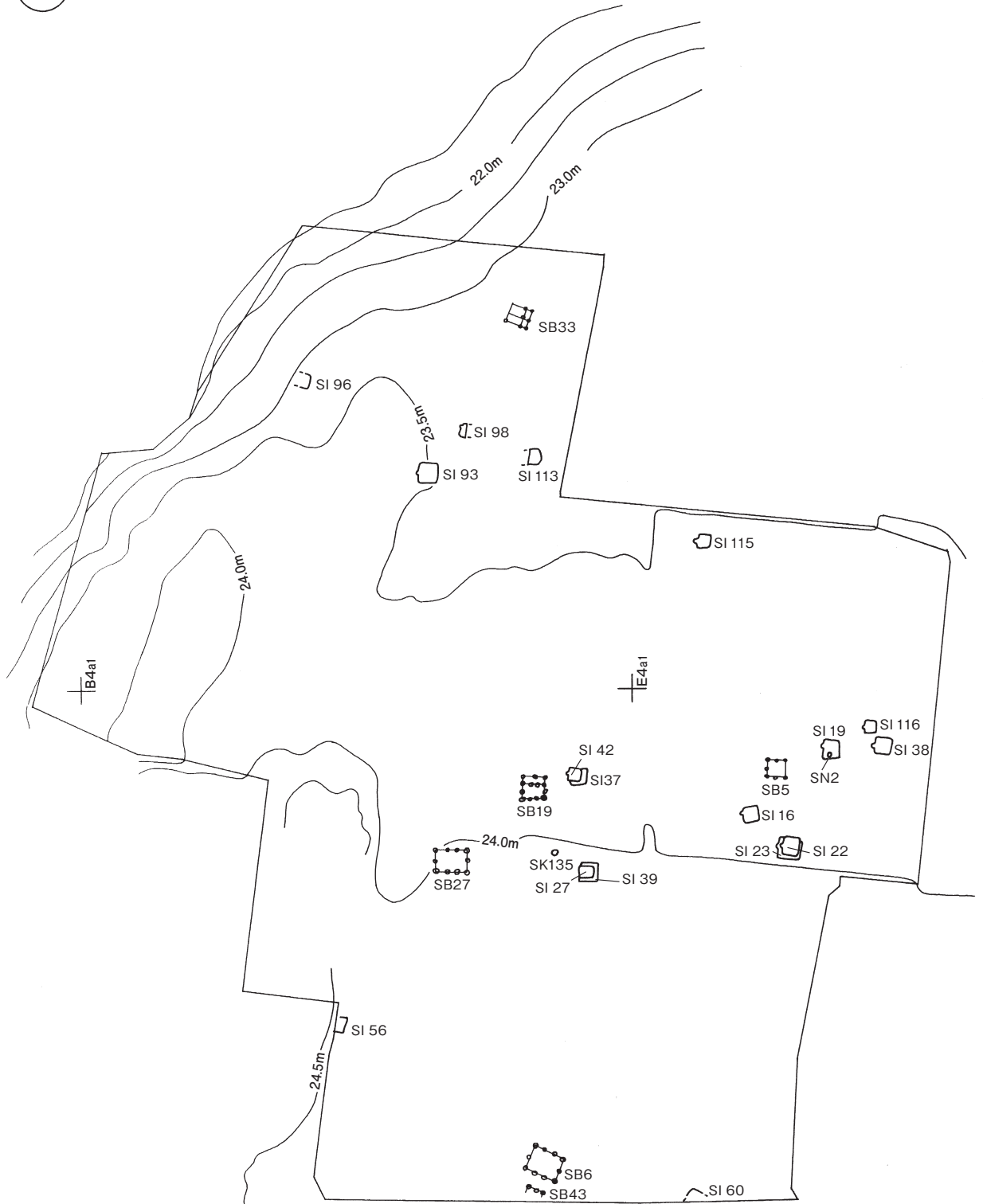
当期の鉄器や石器等の道具類の保有率は，刀子・砥石がそれぞれ2軒から2点で11%，石製紡錘車が1軒から1点で5%，灰釉陶器が6軒から7点で33%である。集落が縮小したため保有点数は減っているものの，保有率に変化は見られない。灰釉陶器に関しては，集落が縮小したにも関わらず，保有率が前期の3倍にもなっている。

第Ⅶ期（第436図）

第12・21・101・109号住居跡の4軒と第2号掘立柱建物跡1棟が該当し，出土土器の様相から10世紀前葉に比定できる。集落は東部グループが東端に住居跡2軒，南部グループが南端に住居跡2軒と掘立柱建物跡1棟だけになる。東部の第101号住居跡からは灰釉陶器長頸瓶，尖根式鉄鏃各1点，第109号住居跡からは灰釉陶器長頸瓶1点が出土している。南部の第12号住居跡からは灰釉陶器長頸瓶，砥石各1点が出土している。灰釉陶器の保有率は，4軒中3軒で3点保有しており75%と高い。鉄鏃・砥石の保有率は，4軒中1軒から1点で25%である。

第Ⅷ期（第436図）

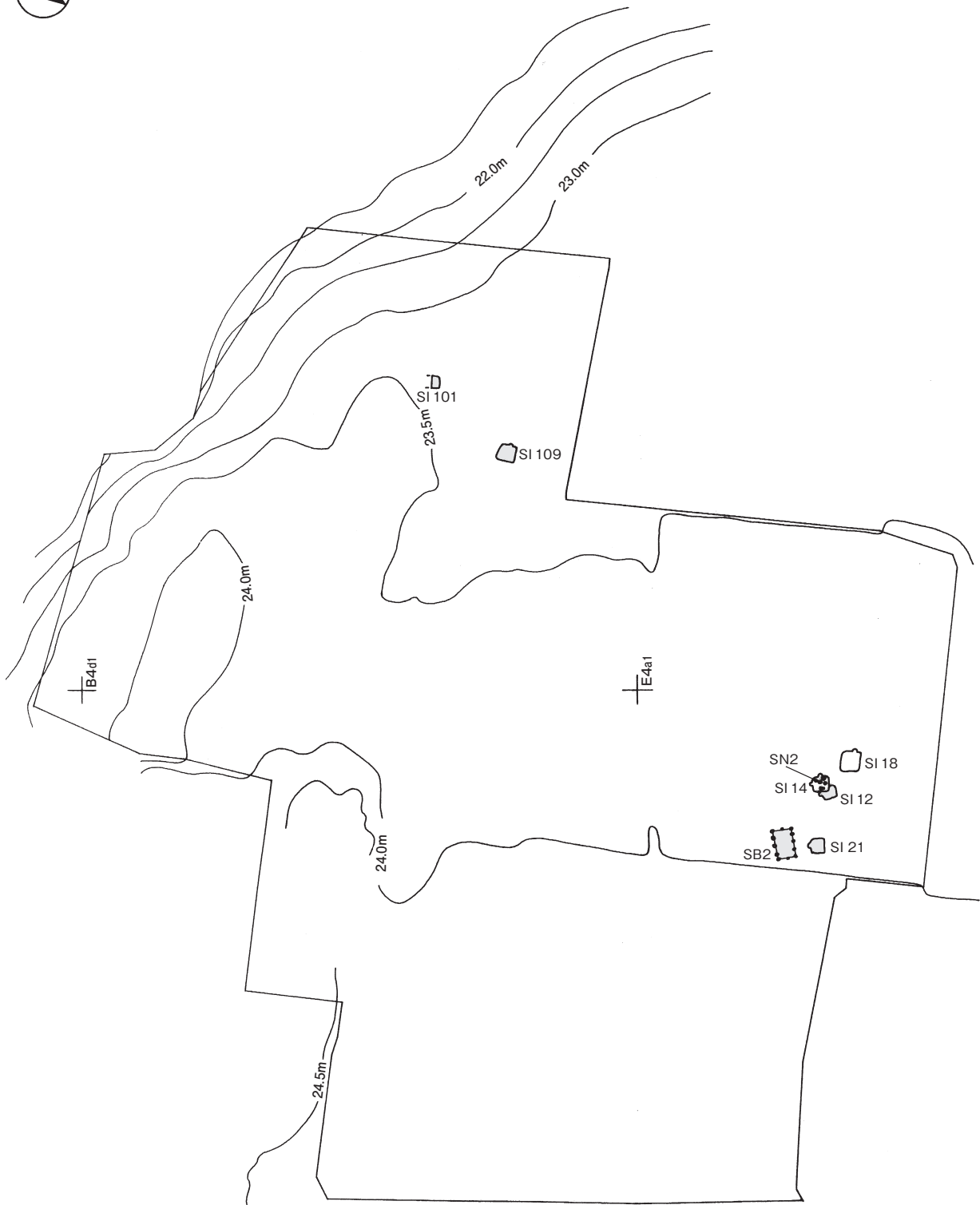
第14・18号住居跡の2軒と第2号粘土採掘坑1基が該当し，出土土器から10世紀中葉に比定できる。いずれの住居跡からも羽釜や置き竈が出土している。いずれも住居跡の東壁には竈が作られていることから，この時期には作り付け竈と移動式の置き竈の両者が使用されていたものと思われる。第18号住居跡では羽




VI期



第435图 下平塚蕪木台遺跡集落変遷図(7)



VII期 

VIII期 



第436图 下平塚燕木台遺跡集落変遷図(8)

口1点、鉄鏃4点（内1点は雁股式）が出土している。この時期をもって古代蕪木台の集落は終焉を迎える。

以上、述べてきたように、下平塚蕪木台集落は、6世紀後葉から7世紀後葉までは1・2軒の住居で始まっている。奈良時代になると、前期を踏襲して本格的に北東部と南部で集落が営まれるようになる。集落の規模は8世紀前葉から9世紀前葉までは13～15軒の規模で安定しており、9世紀中葉になると38軒と集落は繁栄する。以後、9世紀後葉には再び9世紀前葉までと同様な規模となっている。10世紀に入ると集落は急速に衰退していく。

集落は住居等のあり方から3つの画期が見いだすことができる。第1の画期は本格的な集落形成期である8世紀前葉、第2の画期は集落の繁栄期である9世紀中葉、第3の画期は衰退期である10世紀前葉である。特に、9世紀中葉は特徴的で、集落中央部に庇付掘立柱建物が建ち、その周囲には屋や大形住居を配するようになる。大形住居からは油煙付きの須恵器が出土していることから、集落内への仏教浸透がうかがえ、この住居や庇付建物がこの集落の結節点として存在していたものと思われる。さらにこの住居が版築技法を用いて建てられていることも集落の有力者の存在を裏付けるものになるかもしれない。これらの中心集団の東側は、「鍛冶工房+井戸+作業工房」の工房関連エリアとなっている。当集落では出現期の8世紀初頭から井戸が掘削され、各時期とも井戸を有している。鍛冶工房の東に付随するような第5号井戸跡は、3段組木製井戸枠を使用しているものである。

遺物の面からは墨書土器、灰釉陶器、羽口・紡錘車などの土製品や石製品、刀子・鎌・鏃・釘・斧等の鉄器類などの保有量をみてきたが、集落の性格に関わるような際立った様相は見いだすことはできなかった。灰釉陶器については供給地の様相を反映しており、9世紀中葉から増えている。

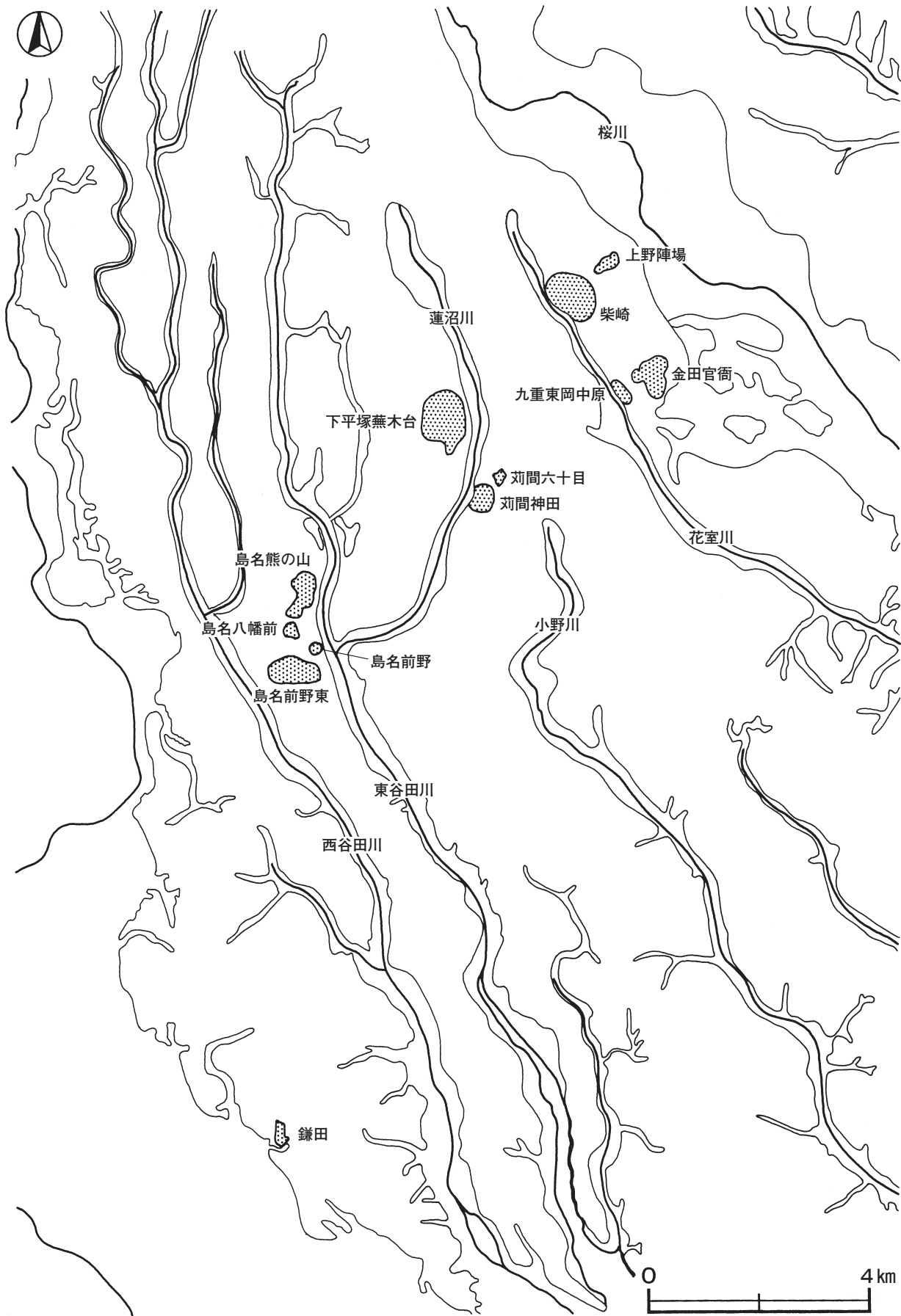
2 河内郡内における集落の動向

ここでは、河内郡衙が所在する桜川と花室川流域、古墳時代から開発される東谷田川流域、当遺跡が所在する蓮沼川流域に分けて河内郡内の集落の動向を概観し、当遺跡の位置づけを行いたい（第437図）。

(1) 4～7世紀の動向（第438図）

まず、郡衙が置かれる以前の桜川と花室川流域の集落について概観する。柴崎遺跡は6世紀中葉に竪穴住居跡3軒で始まっている。その後、6世紀後葉には13軒が増えているが、7世紀代には集落が縮小されるものの継続し、8世紀へとつながっている。上野陣場遺跡は、4世紀中葉に竪穴住居跡5軒で始まり、その後、集落は途絶え5世紀末に2軒の住居が営まれている。以後、集落が本格的に展開するのは6世紀後葉である。6世紀後葉は22軒、7世紀前葉は24軒、7世紀中葉は9軒、7世紀後葉は16軒と住居跡数はほぼ安定して、8世紀へとつながっている。

次に、東谷田川流域の動向について外観する。島名熊の山遺跡は、4世紀に起源を持つ県内屈指の大集落で、現在も調査は進行中で竪穴住居跡が2000軒を超えている。集落は4世紀に形成され、6世紀前半までは廃絶・小移動を繰り返し、6世紀後葉から7世紀前葉には住居数200軒を超え、台地を覆い尽くすまで繁栄する。7世紀中・後葉になると一時的に集落は住居100軒以下に縮小する。島名熊の山遺跡では、すでに7世紀後葉の段階で6間×3間側柱建物や5間×2間総柱建物等の大形建物が建てられており、在地首長層の集落であったことを物語っている。島名前野東遺跡は4世紀代に10軒の住居跡から始まり、5世紀代が27軒、6～7世紀代が26軒で断続的に形成されている集落である。島名八幡前遺跡は、5世紀前半の8軒で集落が始まっているが、5世紀後半から6世紀前半の間は住居は見られない。再び集落が展開するのは6世紀後半



第437図 桜川，花室川，蓮沼川，東谷田川流域の遺跡

以降で、10軒程度の住居跡がみられる。東谷田川流域では、4世紀代には台地縁辺部に小規模に断続的に展開され、中期になると集落はあまり見られなくなる。それと交代するかのように西谷田川流域に島名ツバタ遺跡・元宮本前山遺跡・谷田部漆遺跡などの集落が展開するようになる。6世紀になると島名熊の山遺跡をはじめとする東谷田川流域の集落が再び展開されるようになり、西谷田川流域の集落は消滅している。このように東谷田川流域は早くから開発の手が入り、熊の山遺跡は伝統的な大集落へ成長していく。

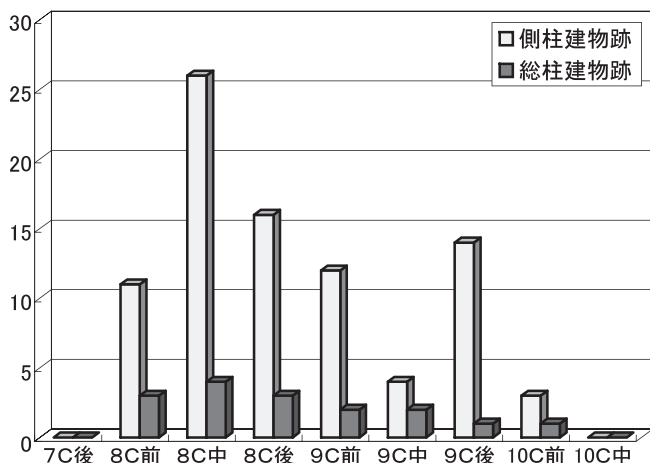
当遺跡が所在する蓮沼川流域の下平塚蕪木台遺跡・苅間神田遺跡・苅間六十目遺跡について概観する。下平塚蕪木台遺跡は6世紀後葉に2軒の住居で始まり、その後7世紀中葉に2軒、7世紀後葉に1軒というように単発的に営まれている。蓮沼川を挟んで南東1kmに位置している苅間神田遺跡では4世紀に集落が形成されるものの、7世紀の後葉までの間は数軒の住居が点在する程度で、集落が断絶する時期もある。苅間六十目遺跡は3世紀末に集落が形成され、一時断絶する時期もあるが5世紀前半まで続いている。以後、8世紀後葉まで集落は営まれていない。このように、蓮沼川流域では、古墳時代前期から単発な集落が見られる程度で安定してはいない。言い換えれば、早くから開発が行われた桜川・花室川流域や東谷田川流域とは異なり、幾度と無く開発に着手したものの長続きはせず撤退していった可能性がある。

遺跡名	4世紀			5世紀			6世紀			7世紀			8世紀			9世紀			10世紀			11世紀		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
下平塚蕪木台遺跡																								
苅間神田遺跡																								
苅間六十目遺跡	■			■																				
東岡中原遺跡																								
柴崎遺跡																								
上野陣場遺跡	■																							
島名熊の山遺跡	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
島名前野東遺跡																								
島名八幡前遺跡																								
島名前野遺跡	■			■																				
鎌田遺跡																								
下大井遺跡																								

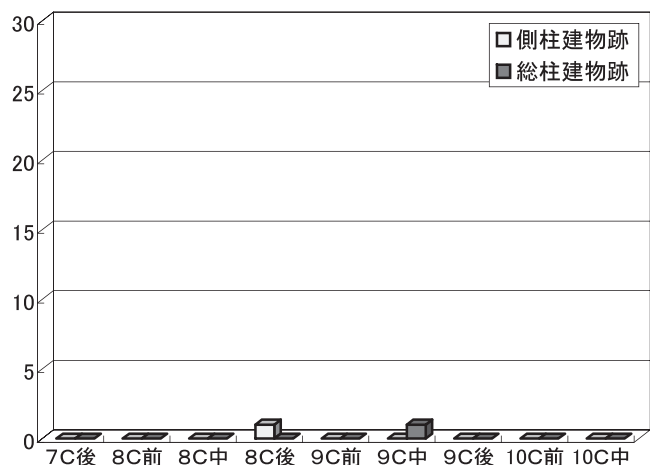
第438図 河内郡内の集落消長図

(2) 8世紀以降の動向 (第438図)

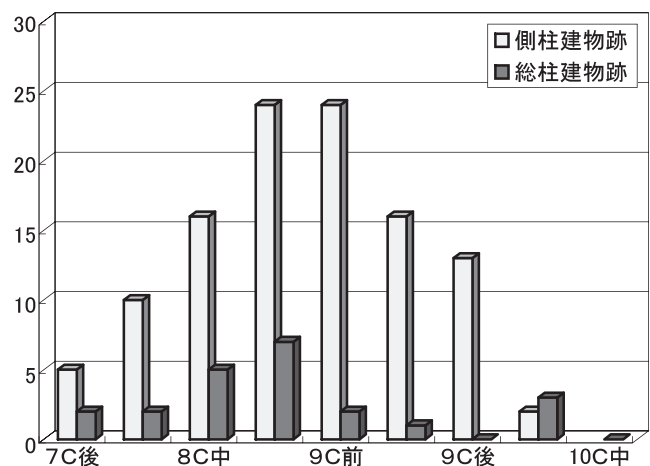
郡衙が置かれた桜川・花室川流域について概観する。8世紀になると金田西坪B遺跡には河内郡衙正倉が、金田西遺跡には郡庁院が置かれている。その周辺集落として8世紀に入って突如として成立している東岡中原遺跡では、8世紀前葉に30軒であった住居跡が、8世紀中葉には倍の60軒に膨れあがり、以後も60軒前後の安定した住居数で集落が続いている。その変遷は郡衙と密接に関連し、連動しているものである。集



第439図 東岡中原遺跡掘立柱建物跡棟数時期別棟数



第440図 柴崎遺跡掘立柱建物跡時期別棟数



第441図 島名熊の山遺跡掘立柱建物跡時期別棟数

落成立時から居住域と倉庫群を分け、集落構成は計画的であり、その倉庫群は10棟を数え8世紀中葉まで継続している。8世紀中葉には集落全域に屋である大形掘立柱建物跡のみられ、30棟近くを数える。9世紀に入ると庇付掘立柱建物跡がみられるようになる。9世紀後葉には住居軒数120軒、掘立柱建物15棟になり最も繁栄し、有力者の居宅である四面庇付掘立柱建物も建てられている。10世紀前葉には急速に衰退し、この期をもって終焉を迎えている(第439図)。

柴崎遺跡は7世紀後葉に6軒であった集落が、8世紀前葉・中葉ともに28軒ずつと大きくなっている。この時期の住居跡からは円面硯2点や金銅製杏葉が出土している。8世紀後葉には側柱掘立柱建物が見られるようになる。以後、8世紀後葉から9世紀前葉には住居軒数をわずかに減らしてはいるが、9世紀後葉に最大の37軒となっている(第440図)。

上野陣場遺跡は、桜川・花室川流域では古墳時代後期から開発され安定して集落が営まれている。特に7世紀後葉から8世紀前葉は集落が大きくなる傾向にある。8世紀中葉・後葉に小規模になるが、10世紀中葉まで継続している。

東谷田川流域では、古墳時代に在地首長層の集落であった島名熊の山遺跡でも8世紀前葉に転換期を迎えている。7世紀後葉には住居が61軒であったが、8世紀にはいと倍増し、住居形態も統一され集落が再編されている。その後9世紀後葉まで住居数は130軒前後の間で安定している。島名熊の山遺跡では掘立柱建物跡は7世紀後葉から見られ、8世

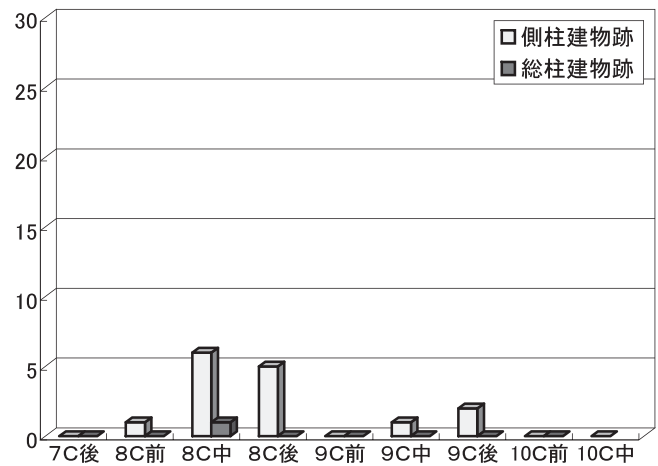
紀前葉・中葉には「大形住居+掘立柱建物」で集落が構成されている。8世紀後葉には総延長1000mを超える区画溝の内側には倉庫群が建てられ、掘立柱建物群が整備されている。これらの建物は、官衙風の配置で規格性の高い倉庫群で、郡衙機能の一部を担っていたと推測できる。このようにして島名の在地有力者は律令体制に組み込まれていったものとみられる。9世紀になると整然と配された倉庫群は姿を消し、大形掘立柱建物や住居を囲むように小形掘立柱建物が林立し、居宅の様相を呈するようになる。9世紀中葉には、主屋である2面庇付掘立柱建物と大形竪穴住居で構成される有力者の居宅となっている（第441図）。

島名八幡前遺跡は8世紀前葉に突如として集落が形成されている。7世紀後葉に住居2・3軒であったのが8世紀に入り数を増やし、10世紀代まで継続するという展開の仕方は東岡中原遺跡や当遺跡と同様である。当遺跡との大きな違いは、8世紀中葉には庇付掘立柱建物や総柱建物が見られるということである。8世紀代の島名八幡前遺跡は規模こそ島名熊の山遺跡には及ばないが、掘立柱建物跡の様相や朱書土器・円面硯・刀子・灰釉陶器などが出土していることなどから官的な一面を持っている。しかしながら、島名熊の山遺跡や東岡中原遺跡が9世紀には有力層に変化していったのに対して、島名八幡前遺跡は一般集落へと変化している（第442図）。

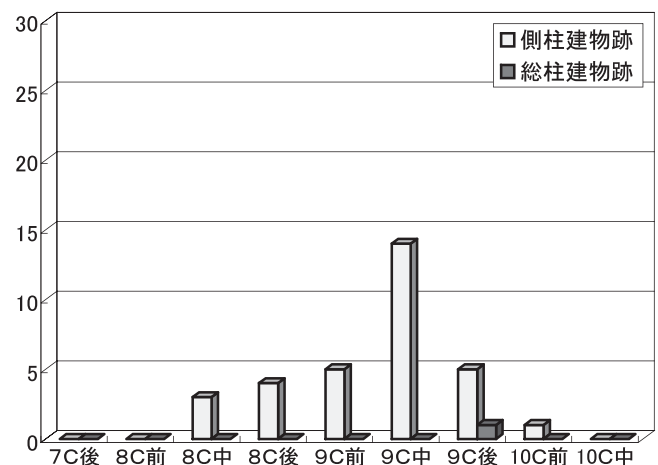
島名前野東・島名前野遺跡は8世紀の一時期だけに展開する集落であり、9世紀代には島名熊の山遺跡に取り組まれていったものと考えられている。

このように律令期の東谷田川周辺では、熊の山の集落を核として小集落が開発されたり統合されたりしている。

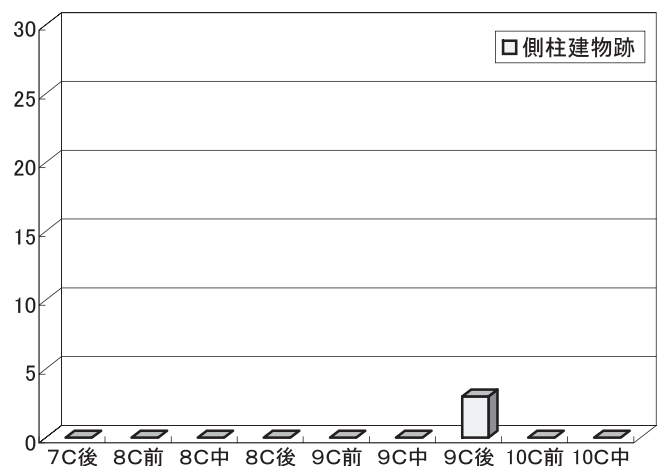
蓮沼川流域では当遺跡も苅間神田遺跡も一気に軒数を増し、本格的に集落が展開している。この二つの集落の変遷はほぼ同様で、住居10軒～20軒の間で安定して推移している。当遺跡では8世紀中葉から屋である掘立柱建物がみられ、9世紀中葉には住居38軒、掘立柱建物14棟とピークを迎えている（第443図）。集落中央部は、「主屋である庇付掘立柱建物



第442図 島名八幡前遺跡掘立柱建物跡時期別棟数

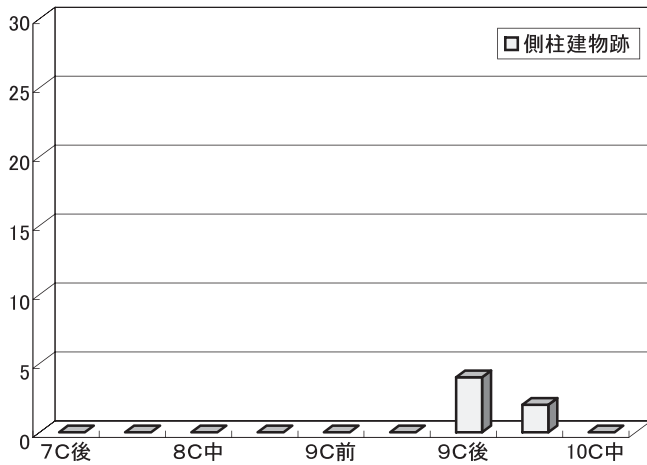


第443図 下平塚蕪木台遺跡掘立柱建物跡時期別棟数



第444図 苅間神田遺跡掘立柱建物跡時期別棟数

+大形竪穴住居+小形住居+屋」で構成され、当集落の象徴的集団である。一方の苅間神田遺跡は当遺跡より



第445図 苅間六十目遺跡掘立柱建物跡時期別棟数

りわずかに遅れて9世紀後葉にピークを迎えているが、当遺跡のような際立った繁栄をみせるわけではない。苅間六十目遺跡では8世紀後葉に集落が形成され、当遺跡と同様に9世紀中葉に集落が増大している。苅間神田遺跡では9世紀後葉に小形の屋である掘立柱建物3棟、苅間六十目遺跡でも4棟が見られるようになる(第444・445図)。3つの集落は共に10世紀を迎えると急速に衰退し、苅間神田・苅間六十目遺跡は10世紀前葉をもって、下平塚蕪木台遺跡は10世紀中葉をもって終焉を迎えている。

(3) 下平塚蕪木台遺跡の性格

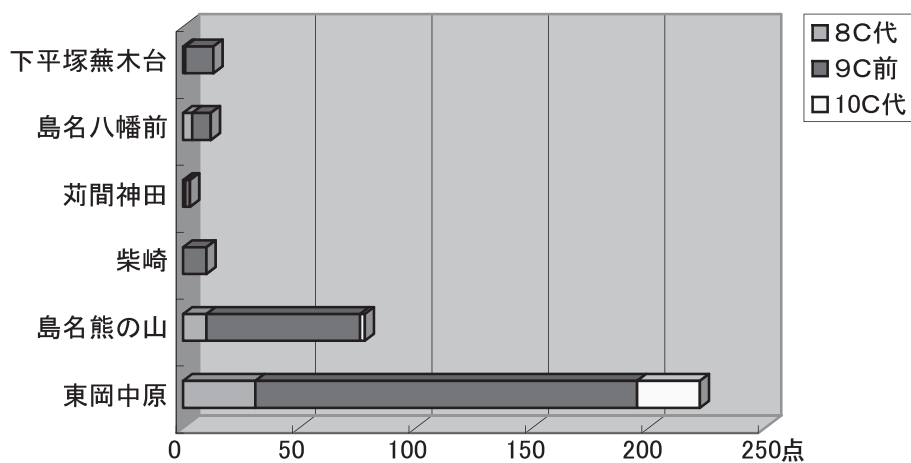
以上、郡内の集落の変遷を概観してきた。その結果、当遺跡は郡衙関連の東岡中原遺跡や古墳時代以来の伝統的集落である島名熊の山遺跡のような大集落ではないものの、少なからずこれらの影響を受けながら集落を形成していったことがうかがえる。まずは、集落の出現時期では、苅間六十目遺跡・島名前野遺跡を除く集落は8世紀に入ってまもなく出現するか、あるいは再編されて急激に集落が大きくなっている。先にも述べたように、蓮沼川流域は古墳時代から開発の手が入っているものの成功には至っていない。8世紀に入り、三世一身法、墾田永世私財法などが発布され、国家が開発を奨励したことを背景に蓮沼川低地を東に望む下平塚蕪木台遺跡、西に望む苅間神田遺跡が本格的に開発されたものと思われる。8世紀前葉には掘立柱建物跡は郡衙関連集落である東岡中原遺跡、伝統集落である島名熊の山遺跡の規格性のある倉庫群に限られていたが、8世紀中葉段階になると掘立柱建物跡が一般集落にまで及ぶようになっている。当遺跡でもこの時期から屋である掘立柱建物が建てられている。ただし、8世紀前葉段階でも島名八幡前遺跡のように掘立柱建物を伴う集落もある。8世紀中葉の島名八幡前遺跡では「大形の四面庇掘立柱建物跡の主屋+総柱建物の倉庫」という官的な構成で、一般集落とは異なる様相をみせている。言い換えれば8世紀前・中葉段階の一般集落には庇付掘立柱建物跡や総柱倉庫は存在しないということである。8世紀後葉になると東岡中原遺跡、島名熊の山遺跡では、規格性を持った倉庫群が主であったものが、屋と思われる掘立柱建物跡にとって変わっている。当遺跡は、屋が一般集落の中でも早めに導入され、その後も確実に棟数を増やしている。それは、墾田永世私財法などを契機に蓮沼川流域における経営拠点の拡大が図られたことによるものであり、蓮沼川流域開発の拠点集落へとようになっていく。

次の大きな変容は9世紀中葉から後葉にかけての時期である。どの遺跡も9世紀前葉段階で縮小傾向を見せているが、9世紀中・後葉段階には再び住居軒数を増している。住居軒数が増大するだけでなく、東岡中原遺跡・島名熊の山遺跡では有力者の居宅と思われる庇付掘立柱建物跡がみられるようになる。その主たるものは東岡中原遺跡の四面庇付掘立柱建物跡であり、そこでは灰釉陶器・緑釉陶器を始め舶載品の青磁・白磁まで保有していた。また、島名熊の山遺跡では「二面庇付掘立柱建物跡+大形住居」という構成で居宅が建てられている。この動きに連動するかのようには当遺跡でも熊の山遺跡と同様に「東庇付掘立柱建物+大

形住居+屋」が9世紀中葉・後葉を通して見られる。これらのことから、郡内の一般集落でも当遺跡で見られるように、有力者の居宅は、「庇付掘立柱建物+屋」あるいは「庇付掘立柱建物+屋+大形竪穴住居」の形態をとるようになるものとみられる。

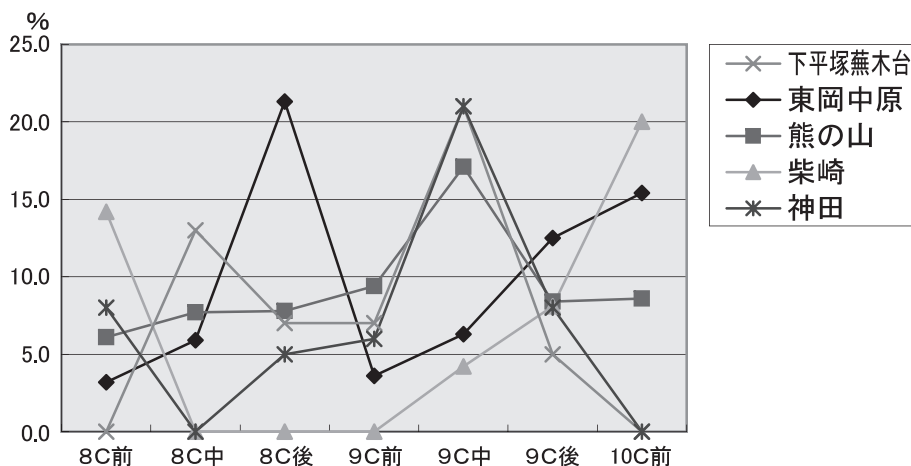
最後に出土遺物について触れる。

墨書土器が8世紀に出現するのは東岡中原遺跡、島名熊の山遺跡、そして集落構成からも官的様相が見られた島名八幡前遺跡である。墨書土器は当遺跡では13点出土しているが、8世紀代では8世紀中葉に1点だけである。8世紀代に墨書土器が出現しているということは、円面硯などの遺物は出土していないものの、当集落も文書行政に組み込まれていたと考えることができる。9世紀中葉・後葉になると多くの集落遺跡において墨書土器の出土量が増えるのは周知のとおりであり、当遺跡も10点を数える。その中でも当遺跡の特徴としては則天文字が出土していることである（第446図）。



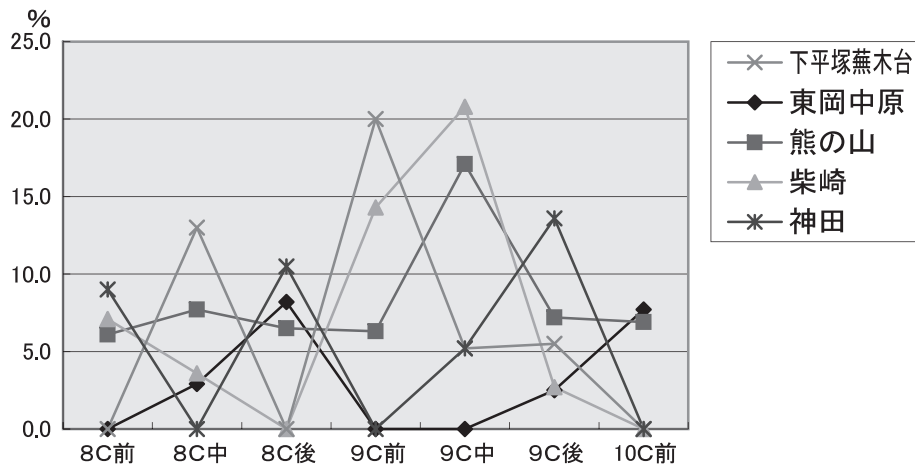
第446図 墨書土器出土数

紡錘車の保有数は8世紀中葉～9世紀中葉にかけては各時期1点ずつで、9世紀中葉に8点と膨れ上がり、全時期を通して12点である。保有割合は最も高い時期でも21%で、5軒に1点というものである。他の集落の様相と比較してみてもほぼ同様であり、一般集落のなかに繊維生産が浸透していたととらえられる。各遺跡における時期別の保有率の高低は、各集落での繊維生産の盛衰を反映するものであろう。当遺跡でいえば、集落が最も栄える9世紀中葉には繊維生産も盛んであったと言える（第447図）。



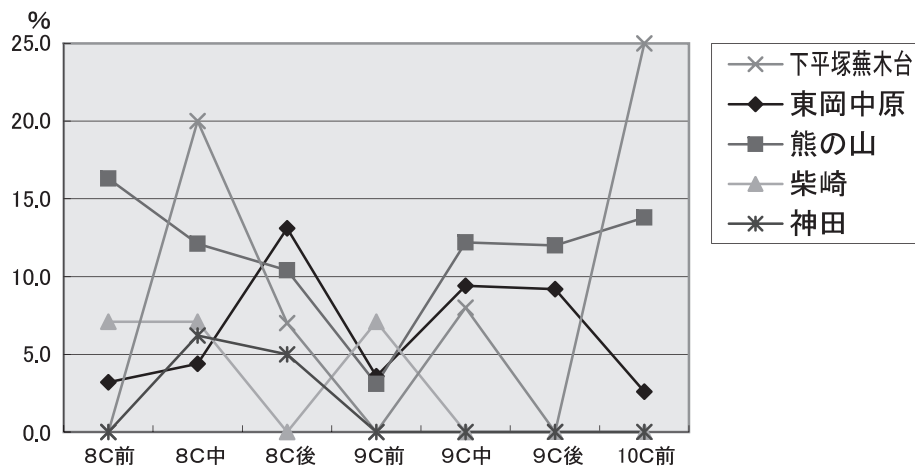
第447図 紡錘車保有割合

鎌・鋤先・鉄斧等の保有数は、8世紀中葉～9世紀中葉までの間に7点で、保有率は5～20%の間で変動している。島名熊の山遺跡のように安定した保有率は示さないが、菟間神田遺跡と同様な保有率を示している。開発された集落でも鉄器の農具の保有量はこの程度であった可能性がある（第448図）。



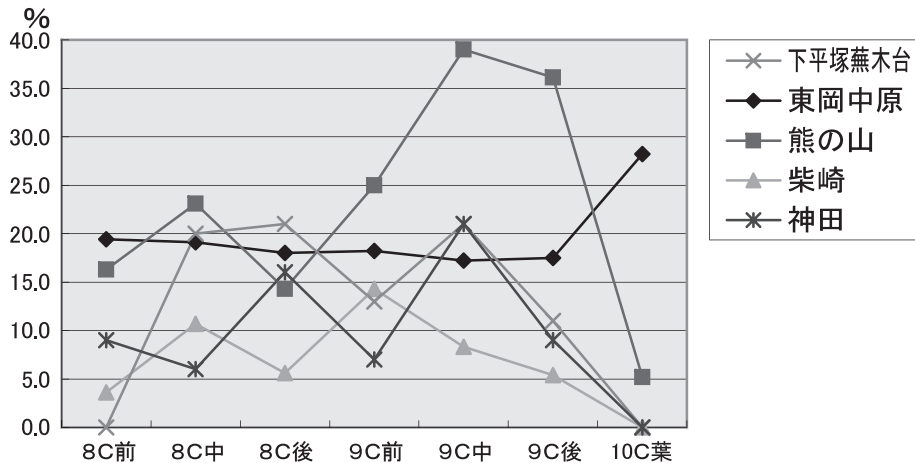
第448図 鎌・鋤先等保有割合

鉄鍬の保有率は東岡中原遺跡・島名熊の山遺跡では5～15%の間で推移しており、一定の保有率を保っている。当遺跡では8世紀中葉と10世紀前葉に保有率が高くなっていることが特徴である。菟間神田遺跡や柴崎遺跡では9世紀に入ると全く保有していない（第449図）。



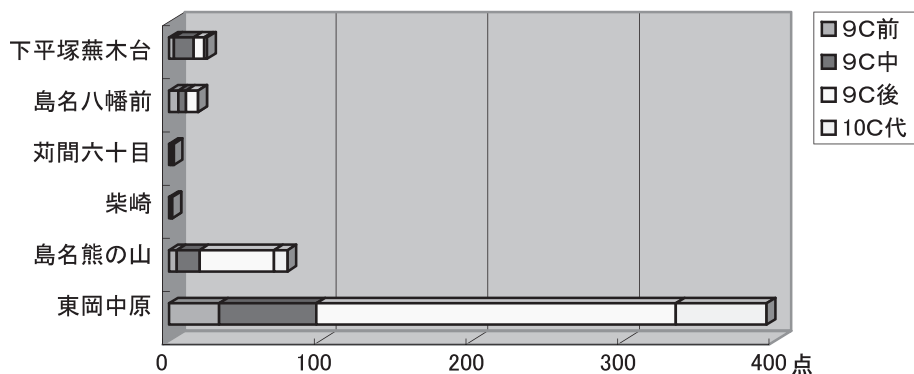
第449図 鉄鍬保有割合

刀子の保有率は各遺跡とも安定している。当遺跡では15～20%の間、菟間神田遺跡や柴崎遺跡では10%前後、東岡中原遺跡では20%前後、島名熊の山遺跡は多少の変動はあるものの25%前後の保有率である。これらの保有率の差が集落の格差によるものであるならば、一般集落でも10～20%の保有率を示すことになる（第450図）。



第450図 刀子保有割合

灰釉陶器は郡衙関連集落である東岡中原遺跡の保有量が圧倒的に高い。一般集落のなかでの保有量をみると、当遺跡は24点で一般集落のなかでは比較的高い保有量を示している。蓮沼川流域のなかでは、荻間神田遺跡では保有していないし、荻間六十目遺跡でも3点しか出土していない。このことから当遺跡は、一般の集落の中でも灰釉陶器を入手しやすい集落であったといえよう（第451図）。



第451図 灰釉陶器出土数

これまで、河内郡内における集落の動向・集落構成・出土遺物等を概観し、そのなかから下平塚蕪木台遺跡の特徴を見いだそうとしてきた。その結果、当遺跡は律令体制のもとで新たに蓮沼川流域の開発にあたった集落で、律令体制の崩壊とともに終焉を迎えたことが明らかになった。郡内にも同じような動向を示す集落が存在しているなか、当遺跡の特徴も見いだせた。河内郡内の動向で常に指標となるのが、郡衙関連集落である東岡中原遺跡と古墳時代以来伝統的集落の島名熊の山遺跡の二大集落である。当集落はそれらの影響を受けつつ成長してきたようである。特に、蓮沼川は東谷田川の支流であることから、当集落は、古墳時代から営まれていた熊の山集落を母村として新たに蓮沼川下流に営まれたものと思われる。当遺跡は一般集落という範疇ではあるものの、8世紀中葉における屋である掘立柱建物跡、9世紀中葉における居宅である庇付掘立柱建物跡の導入のされ方などを見ていくと、有力者集団の存在が見て取れる。遺物の面からも、先の二大集落には及ばず、一般集落としての様相である。そのなかでも集落構成と同様、遺物面でも他の一般集落よりは優位にあった状況が見て取れた。当遺跡は、蓮沼川流域の開発にあたった集落の中では優位に立っていたと思われ、開発拠点集落といえよう。

参考文献

- ・高村勇「研究学園都市計画柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）柴崎遺跡Ⅰ・Ⅱ-Ⅰ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第54集 1989年3月
- ・佐藤正好・松浦敏「研究学園都市計画柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）柴崎遺跡Ⅱ区 中塚遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第63集 1991年3月
- ・土生朗治「研究学園都市計画柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）柴崎遺跡Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第72集 1992年3月
- ・萩野谷悟「研究学園都市計画柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）柴崎遺跡Ⅱ・Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集 1994年3月
- ・新井聡・川村満博「(仮称) 鳥名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ-熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第120集 1996年3月
- ・成島一也「(仮称) 葛城土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ-神田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第121集 1997年3月
- ・小島敏・野田良直・真崎紀雄・白田正子「(仮称) 鳥名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ-熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集 1997年3月
- ・長岡正雄「(仮称) 葛城土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ-神田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第134集 1998年3月
- ・吉原作平・原信田正夫「(仮称) 鳥名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ-熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集 1999年3月
- ・成島一也・宮田和男「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ-中原遺跡2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第159集 2000年3月
- ・成島一也「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ-中原遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第155集 2000年3月
- ・小澤重雄「葛城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ-六十日遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第160集 2000年3月
- ・矢ノ倉正男・小林孝・川上直人「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集 2000年3月
- ・白田正子・高野節夫・仲村浩一郎・島田和宏「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-中原遺跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年3月
- ・藤田哲也・三谷正・原信田正夫・川上直人・稲田義弘「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ-熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第174集 2001年3月
- ・稲田義弘「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ-鳥名前野遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- ・川上直人・長谷川聡・大塚雅昭「上野陣馬遺跡 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第182集 2002年3月
- ・飯島一生「神田遺跡3 葛城土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第183集 2002年3月
- ・稲田義弘「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2001年3月
- ・吹野富美夫・青木仁昌「鳥名八幡前遺跡鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集 2003年3月
- ・稲田義弘・飯泉達司「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第214集 2004年3月
- ・飯泉達司「鳥名前野東遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第215集 2004年3月
- ・茨城県考古学協会シンポジウム実行委員会『古代地方官衙周辺における集落の様相』茨城県考古学協会 2005年2月
- ・松本直人「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅠ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第236集 2005年3月
- ・田中幸夫・酒井雄一・田月淳一・松本直人・桑村裕「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅡ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第264集 2006年3月
- ・酒井雄一・渡邊浩美・齋藤貴史・清水哲「鳥名熊の山遺跡鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第280集 2007年3月
- ・菊池直哉「鳥名八幡前遺跡 都市計画道路鳥名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第283集 2007年3月
- ・齋藤真弥・酒井雄一・渡邊浩美・松本直人・齋藤貴史・清水哲「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅤ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第291集 2008年3月
- ・川井正一・齋藤和浩「上野陣馬遺跡2 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅠ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第323集 2009年3月

付 章

下平塚蕪木台遺跡における黒色土の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 はじめに

つくば市に所在する下平塚蕪木台遺跡は、霞ヶ浦西方に広がる筑波稲敷台地の中部付近の台地平坦面上に位置する。台地の東縁は、南方へ流下する蓮沼川の沖積低地により区切られている。なお、貝塚爽平ほか編『日本の地形4』（2000）によれば、筑波稲敷台地の南端～南東端部を除く大部分は、上位台地Cという地形面に区分されている。上位台地Cは、下末吉期以後の海進によって形成された河成堆積物により構成されている地形面であり、その形成年代は10万年前頃とされる。

発掘調査では、古墳時代後期から平安時代に至る竪穴住居跡および掘立柱建物跡が多数検出され、当該期の集落跡が確認されている。検出された平安時代の竪穴住居跡の中には、床面を構成する土層が、褐色土と黒色土のように複数の土層からなっている状況や、さらには土層の薄層が積み重なっているいわゆる版築と思われる構造などが認められており、平安時代の竪穴住居に関する貴重な資料として注目されている。

本報告では、上述した竪穴住居跡の床面構成土層について、土層中に包含される鉱物の組成や微化石の組成および土壌理化学性を明らかにすることにより、その由来（例えば周辺の台地上の土壌あるいは台地下の沖積低地堆積物など）を検討する。

2 試料

試料は、下平塚蕪木台遺跡で検出された第51号と第55号竪穴住居跡の2軒の遺構より採取された。第51号住居跡では、床面が褐色土層、床面下位は黒色土層から構成されており、ここでは黒色土層が分析の対象とされ、試料が1点採取されている。採取された試料の外見は、黒褐色を呈する風成土壌いわゆる黒ボク土様を呈する。

第51号住居跡では、床面から掘方までが4枚の土層の薄層の積み重ねにより構成されていることが確認され、発掘調査所見では、それを版築であるとしている。上位より版築土層1～版築土層4とされ、試料は各層より1点ずつ採取された。分析には、版築土層2～版築土層4までの3点を選択する。いずれも、その外見は暗褐色～黒褐色を呈する風成土壌いわゆる黒ボク土様を呈する。

3 分析方法

試料の外見は、いずれも黒ボク土様を呈したことから、その由来は周辺の台地表層を覆う黒ボク土である可能性が考えられる。関東平野における台地表層の黒ボク土は、その母材として火山噴出物を多く含んでおり、いわゆる火山灰土の性質を有している。したがって、ここでは、土壌中に含まれる細砂径の鉱物組成と土壌の理化学性の一つであるリン酸吸収係数を求めることにより、火山灰土としての特性を確認する。さらに、第51号住居跡の黒色土については、これらの特性に加えて、形成された水域環境の指標となる珪藻化石の産状も明らかにして、その由来を検証する。以下に各分析方法の処理過程を述べる。

(1) 重軽鉱物分析

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm～1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウ

ム(比重約2.96)により重液分離,重鉍物と軽鉍物をそれぞれ250粒に達するまで偏光顕微鏡下にて同定する。重鉍物の同定の際,不透明な粒については,斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉍物」とした。「不透明鉍物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は,「その他」とした。「その他」は軽鉍物中においても同様である。また,火山ガラスは,便宜上軽鉍物組成に入れ,その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は,バブル型は薄手平板状,中間型は厚手平板状あるいは比較的大きな気泡を持つ塊状,軽石型は小気泡を非常に多く持つ塊状および繊維束状のものとする。

(2) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し,過酸化水素水,塩酸処理,自然沈降法の順に物理・化学処理を施して,珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後,カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後,プリユウラックスで封入して,永久プレパラートを作製する。検鏡は,光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い,メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し,珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は,原口ほか(1998),Krammer(1992),Krammer & Lange-Bertalot(1986,1988,1991a,1991b),渡辺(2005),小林ほか(2006)などを参照し,分類体系はRound, Crawford & Mann(1990)に従う。なお,壊れた珪藻殻の計数基準は,柳沢(2000)に従う。

同定結果は,中心類(Centric diatoms;広義のコアミケイソウ綱Coccosinodiscophyceae)と羽状類(Pennate diatoms)に分け,羽状類は無縦溝羽状珪藻類(Araphid pennate diatoms;広義のオビケイソウ綱Fragilariophyceae)と有縦溝羽状珪藻類(Raphid pennate diatoms;広義のクサリケイソウ綱Bacillariophyceae)に分ける。また,有縦溝類は,単縦溝類,双縦溝類,管縦溝類,翼管縦溝類,短縦溝類に細分する。

各種類の生態性については,Vos & de Wolf(1993)を参考とするほか,塩分濃度に対する区分はLowe(1974)に従い,真塩性種(海水生種),中塩性種(汽水生種),貧塩性種(淡水生種)に類別する。また,貧塩性種についてはさらに細かく生態区分し,塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。そして,産出個体数100個体以上の試料については,産出率2.0%以上の主要な種類について,主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また,産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として,完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたり,貧塩性種(淡水生種)については安藤(1990),陸生珪藻については伊藤・堀内(1991),汚濁耐性についてはAsai & Watanabe(1995),渡辺(2005)の環境指標種を参考とする。

(3) 土壌化学分析

リン酸吸収係数は2.5%リン酸アンモニウム液法(土壌標準分析・測定法委員会,1986)で行った。以下に操作工程を示す。

1) 分析試料の調製

試料を風乾後,土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし,分析に供する。風乾細土試料は,105℃で4時間乾燥し,分析試料水分を求める。

2) リン酸吸収係数

乾土として10.00gになるように風乾細土試料を遠沈管にはかり,2.5%リン酸アンモニウム液(pH7.0)20mlを加え,時々振り混ぜながら室温で24時間放置する。乾燥ろ紙を用いてろ過し,そのろ液100 μ lを50mlメスフラスコに正確にとり,水約35mlとリン酸発色a液10mlを加えて定容し,よく振り混ぜる。発色後30分間放置し,420nmで比色定量する。定量された試料中のリン酸量を2.5%リン酸アンモニウム液

(pH7.0) のリン酸量から差引き，リン酸吸収係数を求める。

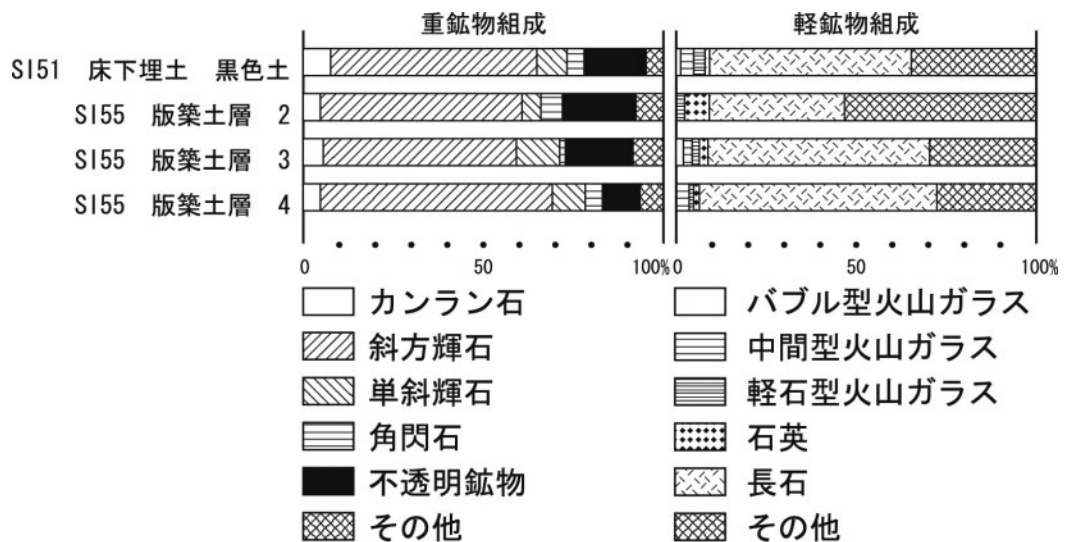
4 結果

(1) 重軽鉱物分析

分析結果を表30，第452図に示す。重鉱物組成および軽鉱物組成ともに4点の試料はほぼ同様である。重鉱物組成は，斜方輝石が最も多く，60%前後を占め，他に10～20%程の不透明鉱物と少量（5～10%程度）のカンラン石，単斜輝石，角閃石を伴っている。軽鉱物組成は，長石が最も多く，第55号住居跡版築土層2以外の試料では，60%程，第55号住居跡版築土層2では40%程を占める。他に微量～少量の火山ガラスと石英を伴っている。なお，微量ではあるが，火山ガラスの形態では，中間型および軽石型が多い傾向にある。

表30 重軽鉱物分析結果

遺構	土層	試料名	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑レン石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	長石	その他	合計
SI51	床下埋土	黒色土	19	143	21	12	0	1	43	11	250	3	9	8	3	140	87	250
SI55	版築土層	2	12	140	13	15	1	2	51	16	250	1	1	6	17	94	131	250
		3	14	134	30	4	0	0	47	21	250	5	6	5	6	154	74	250
		4	12	161	23	12	0	0	26	16	250	1	9	3	4	165	68	250



第452図 第51号住居跡床下埋土および第55号住居跡版築土層の重軽鉱物組成

(2) 珪藻分析

結果を表31, 第453図に示す。珪藻化石の産出頻度は, 少ない傾向にあったが堆積環境を検討する上で有意な量の珪藻化石が産出する。完形殻の出現率は, 約40%と化石の保存状態は良くない。産出分類群数は, 8属14分類群である。以下に珪藻化石群集の特徴を述べる。

黒色土は, 陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻が全体の約90%を占め優占する。主要種は, 陸生珪藻の中でも耐乾性の高い陸生珪藻A群の*Luticola mutica*, *Pinnularia borealis*, *Hantzschia amphioxys*がそれぞれ約25%と多産する。淡水域に生育する水生珪藻は, 流水不定性の*Gomphonema angustatum*等が約7%産出程度で少ない。

表31 珪藻分析結果

種 類	生態性			環境 指標種	SI51 床下埋土 黒色土
	塩分	pH	流水		
Bacillariophyta (珪藻植物門)					
Biraphid Pennate Diatoms (双縦溝羽状珪藻類)					
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	6
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	1
<i>Stauroneis borrichii</i> (Pet.) Lund	Ogh-ind	ind	ind	RI	3
<i>Luticola mutica</i> (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	26
<i>Luticola paramutica</i> (Bock) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	RB	1
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA, U	26
<i>Pinnularia borealis</i> var. <i>brevicostata</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	1
<i>Pinnularia borealis</i> var. <i>linearis</i> M.Per.	Ogh-ind	ind	ind	RA	7
<i>Pinnularia silvatica</i> Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	1
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB, S	1
<i>Sellaphora rectangularis</i> (Greg.) Lange-B.& Metzeltin	Ogh-ind	ind	ind		1
管縦溝類					
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA, U	24
<i>Nitzschia</i> cf. <i>perminuta</i> (Grun.) Peragallo	Ogh-ind	al-il	ind	RI, U	2
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	1
海水生種					0
海水～汽水生種					0
汽水生種					0
淡水～汽水生種					1
淡水生種					100
珪藻化石総数					101

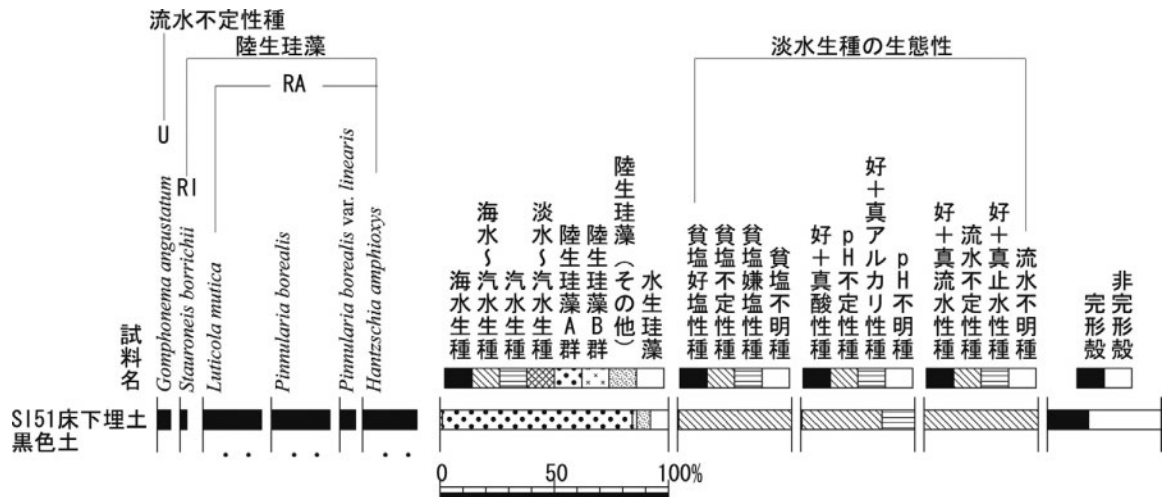
凡例

H.R. : 塩分濃度に対する適応性	pH : 水素イオン濃度に対する適応性	C.R. : 流水に対する適応性
Ogh-Meh : 淡水～汽水生種	al-bi : 真アルカリ性種	l-bi : 真止水性種
Ogh-hil : 貧塩好塩性種	al-il : 好アルカリ性種	l-ph : 好止水性種
Ogh-ind : 貧塩不定性種	ind : pH不定性種	ind : 流水不定性種
Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種	ac-il : 好酸性種	r-ph : 好流水性種
Ogh-unk : 貧塩不明種	ac-bi : 真酸性種	r-bi : 真流水性種
	unk : pH不明種	unk : 流水不明種

環境指標種群

S : 好汚濁性種, U : 広域適応性種, T : 好清水性種 (Asai and Watanabe, 1995)

R : 陸生珪藻 (RA : A群, RB : B群, RI : 未区分、伊藤・堀内, 1991)



各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。(U:広域適応性種, RA:陸生珪藻A群, RI:未区分陸生珪藻)

第453図 第51号住居跡床下埋土黒色土の主要珪藻化石群集

(3) 土壤化学分析

結果を表32に示す。第51号住居跡の黒色土は2000を超えるリン酸吸収係数を示す。一方、第55号住居跡の版築土層のリン酸吸収係数は、4層で最も高く約1800を示し、3層は約1700、2層で最も低く約1300を示す。

表32 土壤化学分析結果

遺構	土層	試料	土性	土色	リン酸吸収係数
SI51	床下埋土	黒色土	CL	10YR2/2 黒褐	2070
SI55	版築土層	2	CL	10YR3/4 暗褐	1270
		3	LiC	10YR3/4 暗褐	1690
		4	LiC	10YR2/3 黒褐	1790

(1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修、1967）による。

(2) 土性：土壤調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編、1984）の野外土性による。

CL・・・埴壤土（粘土15～25%、シルト20～45%、砂3～65%）

LiC・・・軽埴土（粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%）

5 考察

当社では、これまでに筑波稲敷台地を含めて常総台地の各地において、台地上のローム層および黒ボク土層の重鉍物組成を得ている。今回の試料4点に認められた重鉍物組成は、これまでの分析例では、ローム層最上部から黒ボク土層下部にかけての層位に認められている組成によく類似する。また、今回の試料には、いずれも軽鉍物中に中間型および軽石型火山ガラスが含まれているが、この特徴も、常総台地各地のローム層最上部から黒ボク土層下部にかけての層位に認められている。なお、この火山ガラスは、その形態と産出層位から、南関東において立川ローム層中に認められている立川ローム層上部ガラス質火山灰（UG：山崎、1978）に由来する可能性がある。

一方、今回の試料のリン酸吸収係数は、最も低い試料でも約1300の値を示している。リン酸吸収係数は、火山灰土と非火山灰土の識別に使用されることがあるが、1200ないし1500以上であることが火山灰土の目安とされている（庄子、1983）。これに従えば、今回の試料4点は、いずれも火山灰土の特性を有する土壤であると

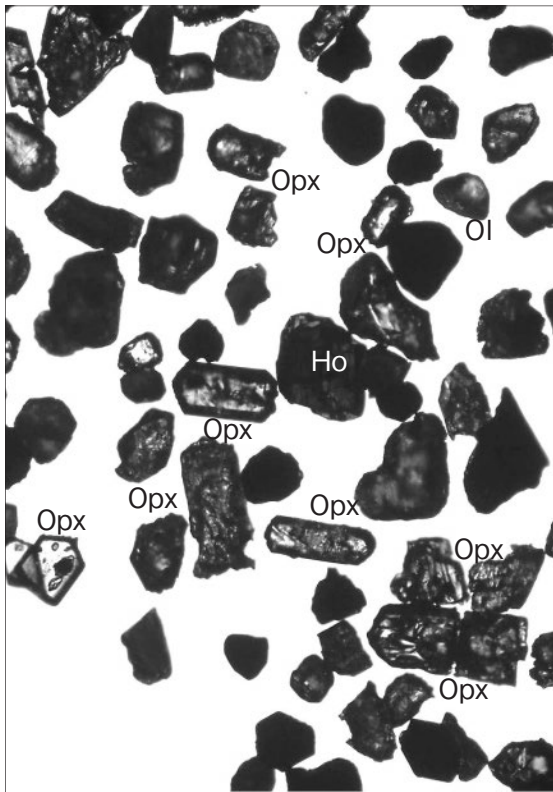
判断される。

以上述べた重軽鉱物組成およびリン酸吸収係数から、住居跡の床面に使用された土は、遺跡の立地する台地上表層の火山灰土に由来すると考えられる。また、その色調とUGの火山ガラスを含むことなどから、おそらく黒ボク土層下部の土が使用された可能性がある。このような黒ボク土は、現在の遺跡周辺には認められないが、奈良時代頃の台地上表層には存在し、それを住居床面下に用いたものと考えられる。

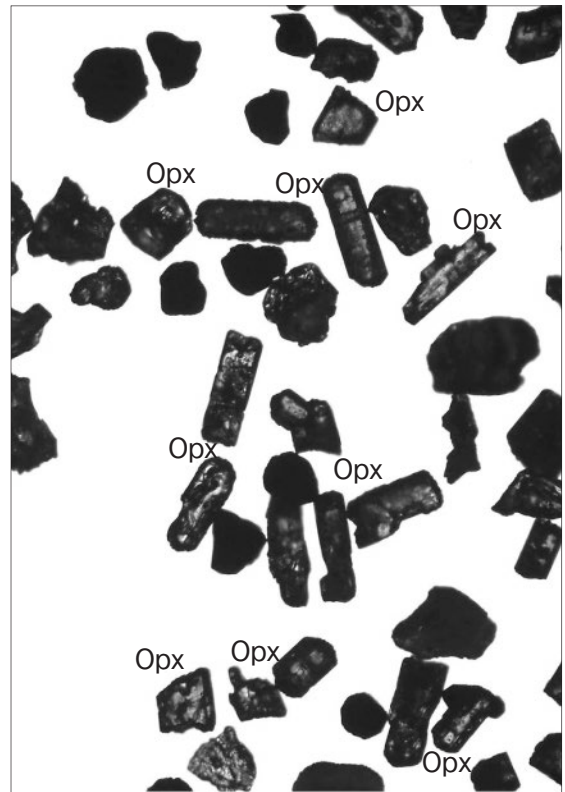
なお、第51号住居跡床下埋土の黒色土については、珪藻化石の産状も確認されたが、耐乾性の高い陸生珪藻A群が優占したことで特徴付けられた。このことは、黒色土が、もとは多少の湿り気を保持した好気的環境で形成された土壌であることを示唆している。また、実際に武蔵野台地上の黒ボク土の分析例（例えばパリノ・サーヴェイ株式会社・向方南遺跡調査会（1989）など）において、今回と同様の陸生珪藻の多産する珪藻化石群集が確認されている。これらのことは、第51号住居跡床下埋土の黒色土が黒ボク土層下部に由来することを支持している。

引用文献

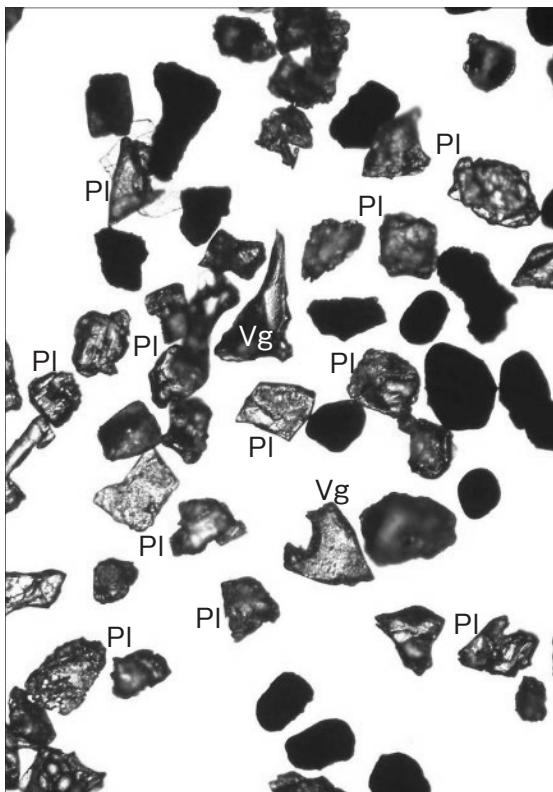
- 安藤 一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, 35-47.
- 土壤標準分析・測定法委員会編, 1986, 土壤標準分析・測定法. 博友社, 354p.
- 原口 和夫・三友 清史・小林 弘, 1998, 埼玉の藻類 珪藻類. 埼玉県植物誌, 埼玉県教育委員会, 527-600.
- Hustedt, F., 1937-1939, *Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen - Flora von Java., Bali und Sumatra*. Archiv für Hydrobiologie, Supplement, 15 : 131-177, 15 : 187-295, 15 : 393-506, 15 : 638-790, 16 : 1-155, 16 : 274-394.
- 伊藤 良永・堀内 誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, 23-45.
- 貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編, 2000, 日本の地形4 関東・伊豆小笠原. 東京大学出版会, 349p.
- 小杉 正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.
- 小林 弘・出井 雅彦・真山 茂樹・南雲 保・長田 啓五, 2006, 小林弘珪藻図鑑. 第1巻, (株)内田老鶴圃, 531p.
- Krammer, K., 1992, *PINNULARIA. eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26*. J. CRAMER, 353p.
- Krammer, K. & Lange - Bertalot, H., 1986, *Bacillariophyceae. 1. Teil : Naviculaceae. In : Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/1*. Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer, K. & Lange - Bertalot, H., 1988, *Bacillariophyceae. 2. Teil : Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. In : Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/2*. Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer, K. & Lange - Bertalot, H., 1991a, *Bacillariophyceae. 3. Teil : Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. In : Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/3*. Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K. & Lange - Bertalot, H., 1991b, *Bacillariophyceae. 4. Teil : Achnantheaceae, Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. In : Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/4*. Gustav Fischer Verlag, 248p.
- Lowe, R. L., 1974, *Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh - water Diatoms*. 334p.
In Environmental Monitoring Ser. EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U. S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修, 1967, 新版標準土色帖.
- パリノ・サーヴェイ株式会社・向方南遺跡調査会, 1989, 向方南遺跡自然科学分析調査報告. 41p.
- ベドロジスト懇談会編, 1984, 土壤調査ハンドブック, 博友社, 156p.
- Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G. 1990, *The diatoms. Biology & morphology of the genera*. 747p. Cambridge University Press, Cambridge.
- 庄子貞雄, 1983, 火山灰土の鉱物学的性質. 日本土壤学会編 火山灰土-生成・性質・分類-, 博友社, 31-72.
- Vos, P. C. & H. de Wolf, 1993, Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environments in coastal wetlands; methodological aspects. *Hydrobiologica*, 269/270, 285-296.
- 渡辺 仁治・浅井 一視・大塚 泰介・辻 彰洋・伯耆 晶子, 2005, 淡水珪藻生態図鑑. 内田老鶴圃, 666p.
- 山崎晴雄, 1978, 立川断層とその第四紀後期の運動. 第四紀研究, 16, 231-246.
- 柳沢 幸夫, 2000, II-1-3-2-(5) 計数・同定・化石の研究法—採集から最新の解析法まで—, 化石研究会, 共立出版株式会社, 49-50.



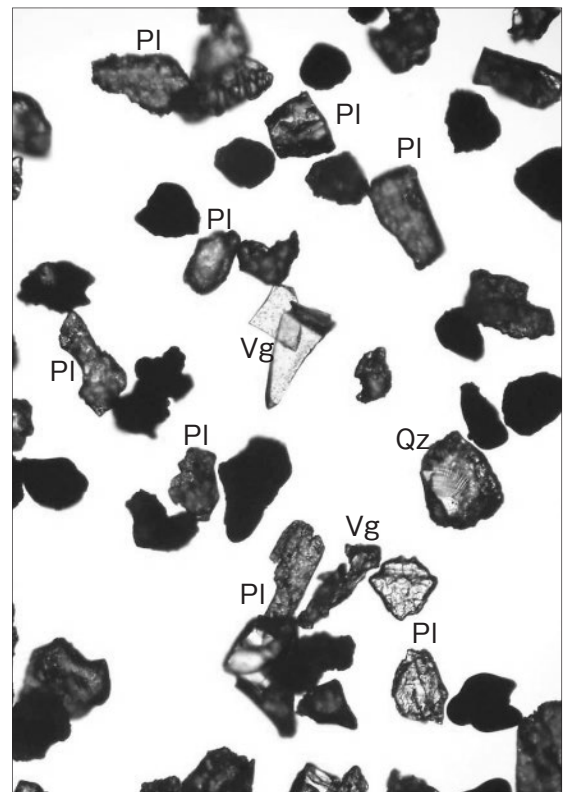
1. 重鉱物 (SI51床下埋土；黒色土)



2. 重鉱物 (SI55版築土層；3)



3. 軽鉱物 (SI51床下埋土；黒色土)

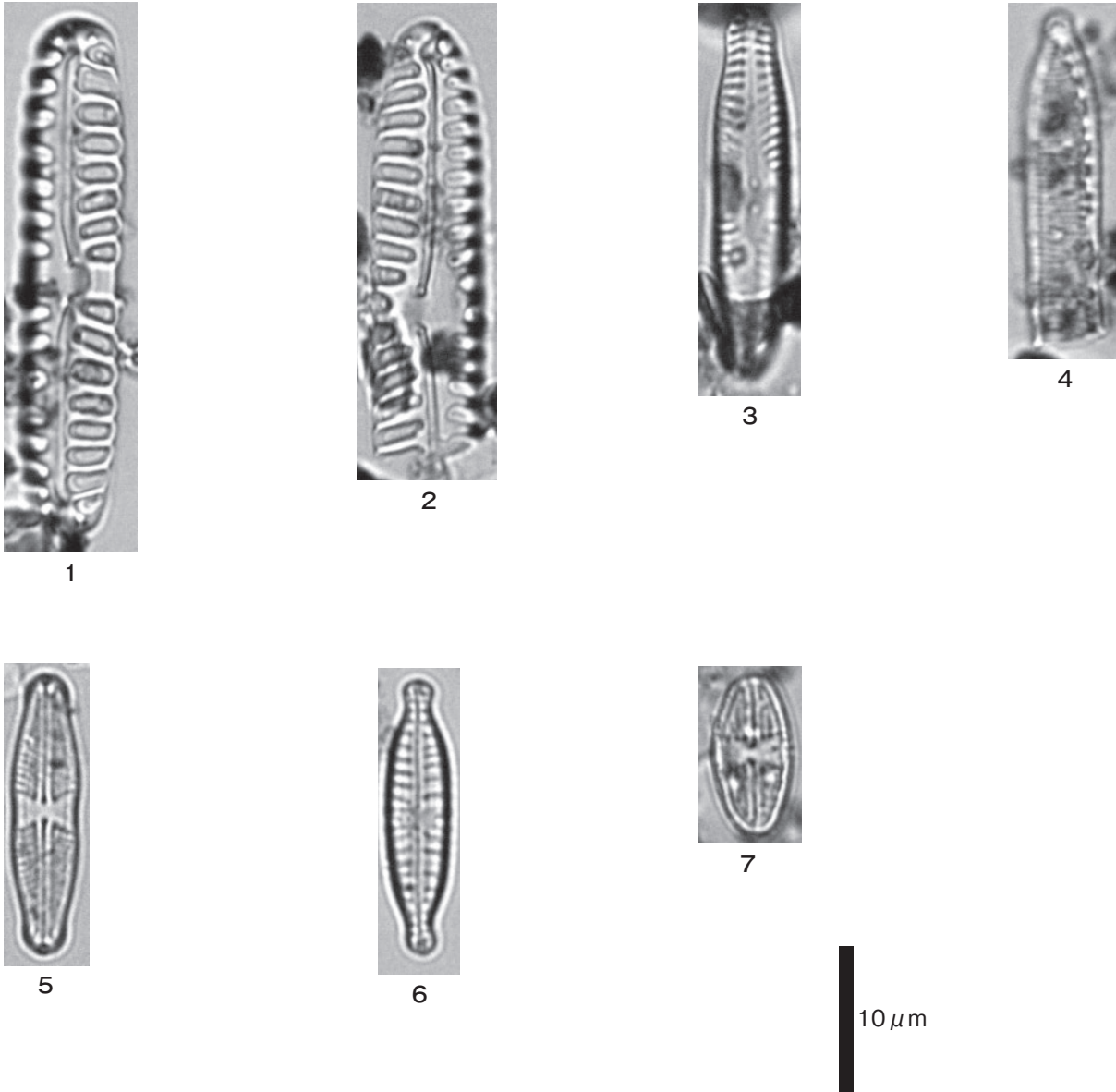


4. 軽鉱物 (SI55版築土層；3)

Ol：カンラン石 Opx：斜方輝石 Ho：角閃石 Vg：火山ガラス Qz：石英 Pl：斜長石.

0.5mm

第454図 重鉱物・軽鉱物



1. *Pinnularia borealis* Ehrenberg (SI51床下埋土；黒色土)
2. *Pinnularia borealis* var. *linearis* M.Per. (SI51床下埋土；黒色土)
3. *Pinnularia subcapitata* Gregory (SI51床下埋土；黒色土)
4. *Hantzschia amphioxys* (Ehren.) Grunow (SI51床下埋土；黒色土)
5. *Stauroneis borrichii* (Pet.) Lund (SI51床下埋土；黒色土)
6. *Gomphonema angustatum* (Kuetz.) Rabenhorst (SI51床下埋土；黒色土)
7. *Luticola mutica* (Kuetz.) D.G.Mann (SI51床下埋土；黒色土)

はじめに

つくば市に所在する下平塚蕪木台遺跡では木製品が出土している。出土した木製品の樹種を同定することにより、当遺跡の木材の使用状況を明らかにしたい。

1 試料

試料は第5号井戸跡から出土した建築部材13点である。

2 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3 結果

樹種同定結果（広葉樹1種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

(遺物No. 1 ~ 13)

(写真No. 1 ~ 13)

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（ $\sim 500\mu\text{m}$ ）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2～3個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

引用文献

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）

北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）

深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所史料第27冊木器集成図録近畿古代篇」（1985）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所史料第36冊木器集成図録近畿原始篇」（1993）

使用顕微鏡

Nikon DS-Fi1

表33 茨城県下平塚蕪木台遺跡出土木製品同定表

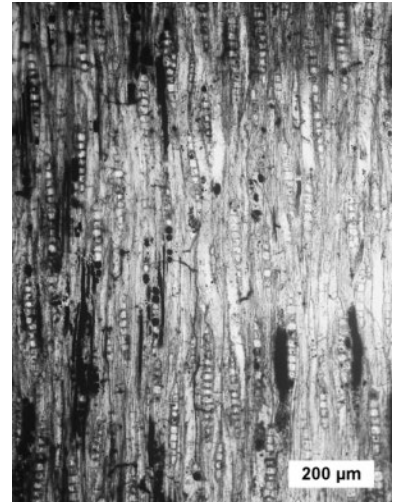
No.	遺物番号	品名	樹種
1	5①	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
2	5②	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
3	6	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
4	7	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
5	8	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
6	13	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
7	14	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
8	15	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
9	16	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
10	17	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
11	23	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
12	24	井戸杵	ブナ科クリ属クリ
13	26	井戸杵	ブナ科クリ属クリ



木口
No-1 ブナ科クリ属クリ



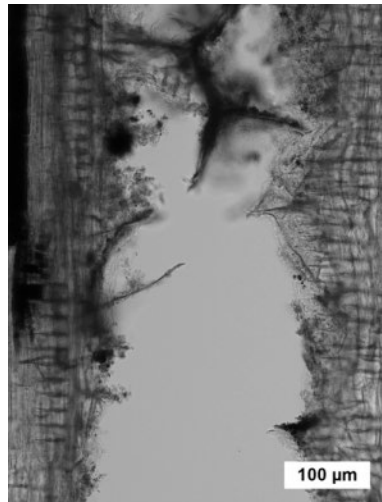
柁目



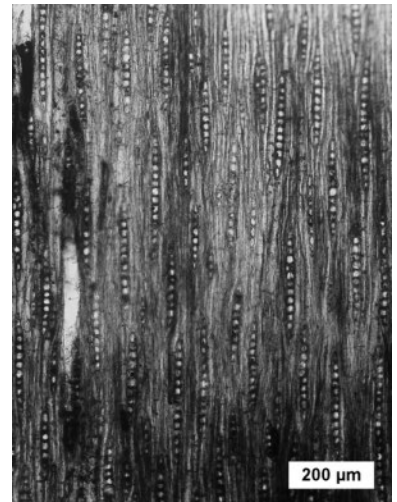
板目



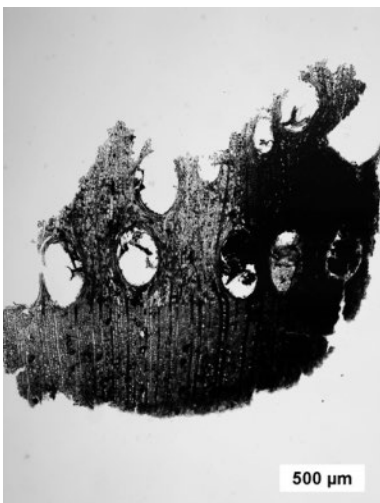
木口
No-2 ブナ科クリ属クリ



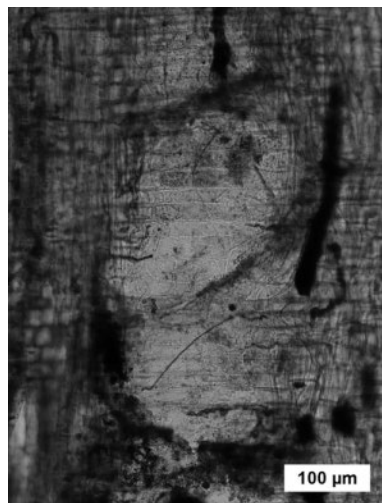
柁目



板目



木口
No-3 ブナ科クリ属クリ



柁目



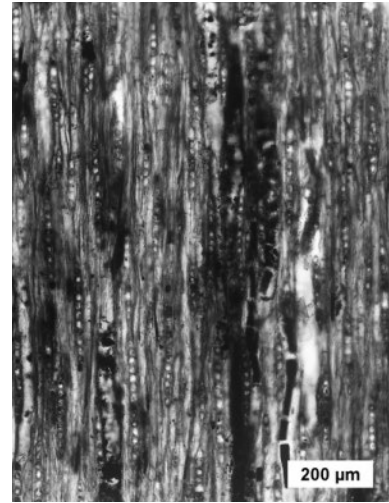
板目



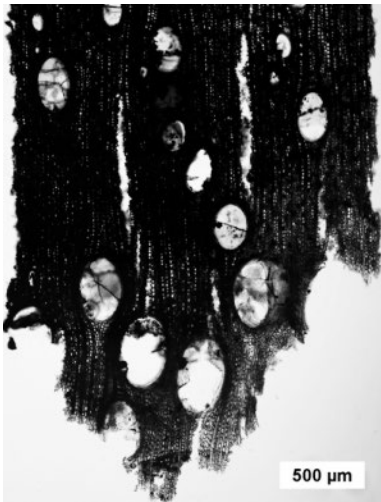
木口
No-4 ブナ科クリ属クリ



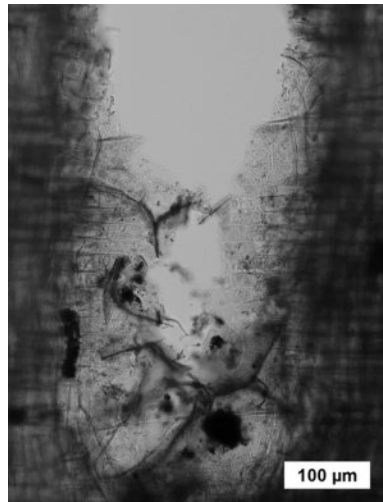
柁目



板目



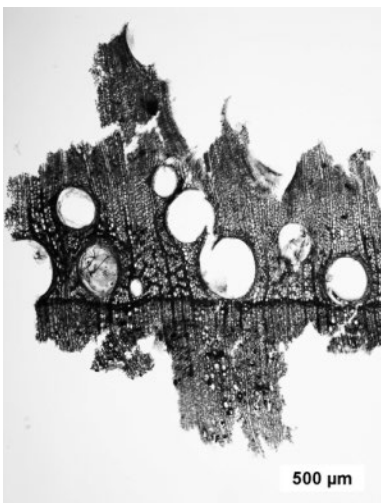
木口
No-5 ブナ科クリ属クリ



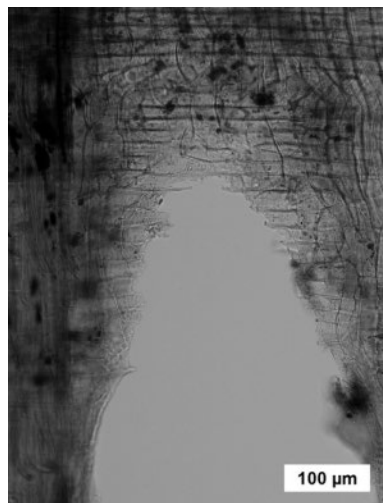
柁目



板目



木口
No-6 ブナ科クリ属クリ



柁目



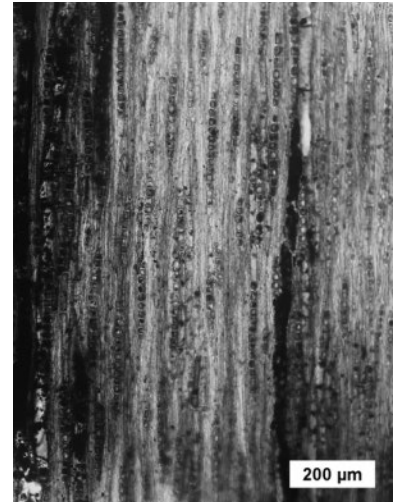
板目



木口
No-7 ブナ科クリ属クリ



柁目



板目



木口
No-8 ブナ科クリ属クリ



柁目



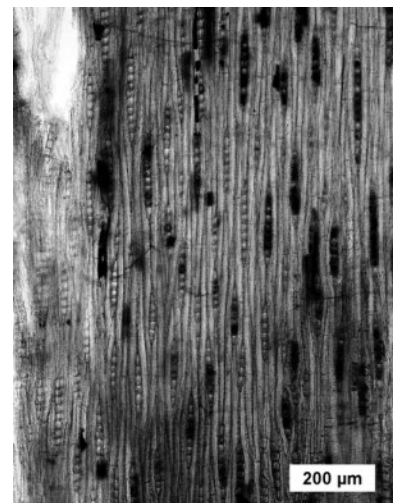
板目



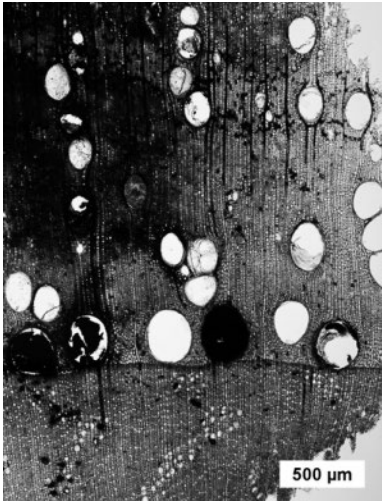
木口
No-9 ブナ科クリ属クリ



柁目



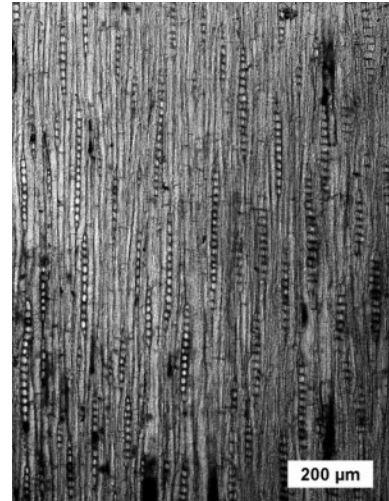
板目



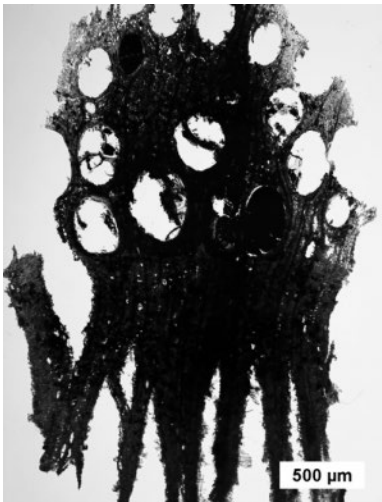
木口
No-10 ブナ科クリ属クリ



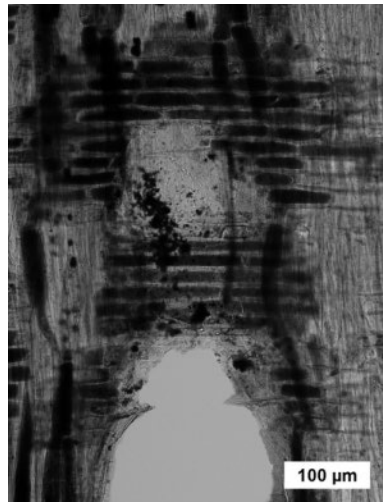
沓目



板目



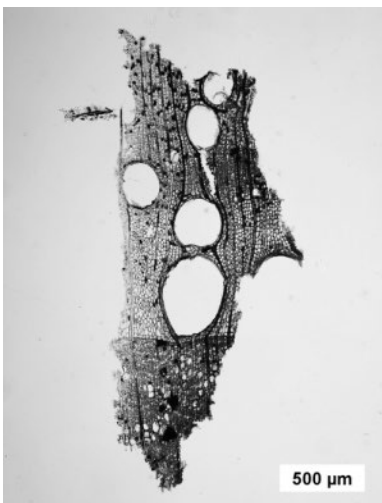
木口
No-11 ブナ科クリ属クリ



沓目



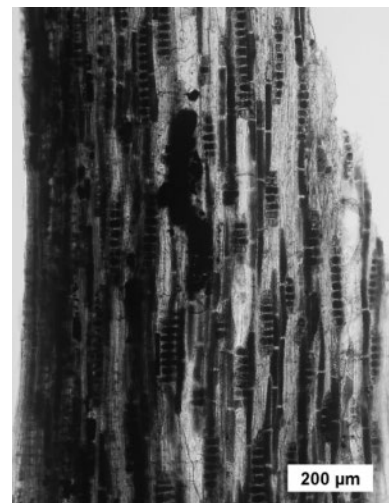
板目



木口
No-12 ブナ科クリ属クリ



沓目



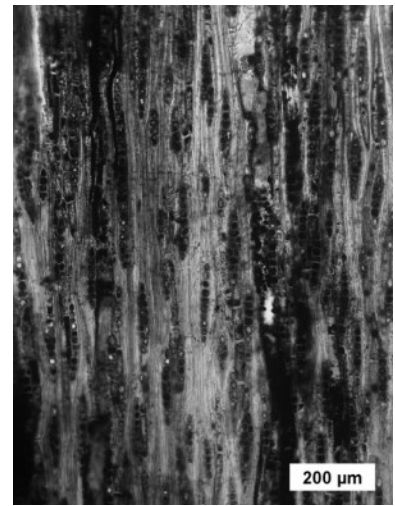
板目



木口
No-13 ブナ科クリ属クリ



柁目



板目

写 真 图 版



第53号住居跡出土遺物



調査区全景（北東上空から）



調査区南部完掘状況



調査区全景西半分完掘状況（北上空から）



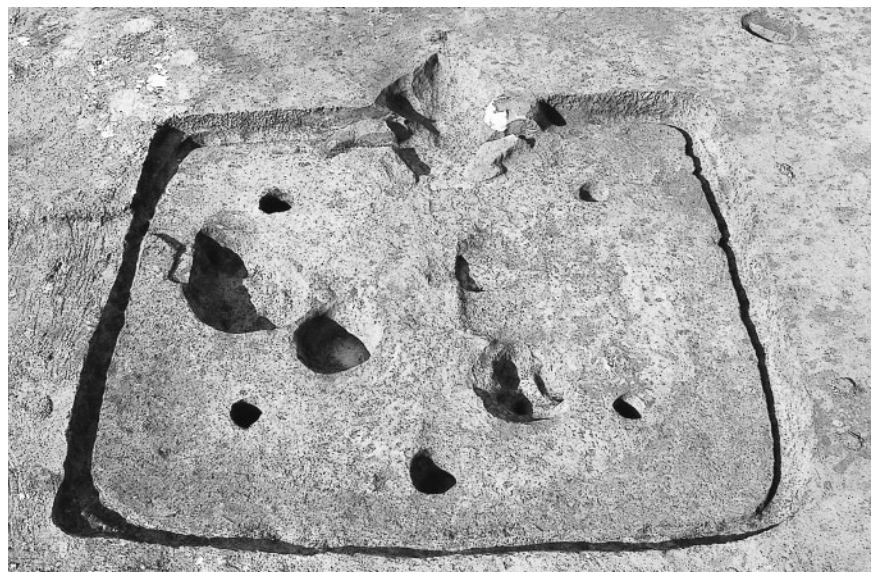
調査区中央部完掘状況



第 48 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 48 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 況



第 61 号 住 居 跡
完 掘 状 況

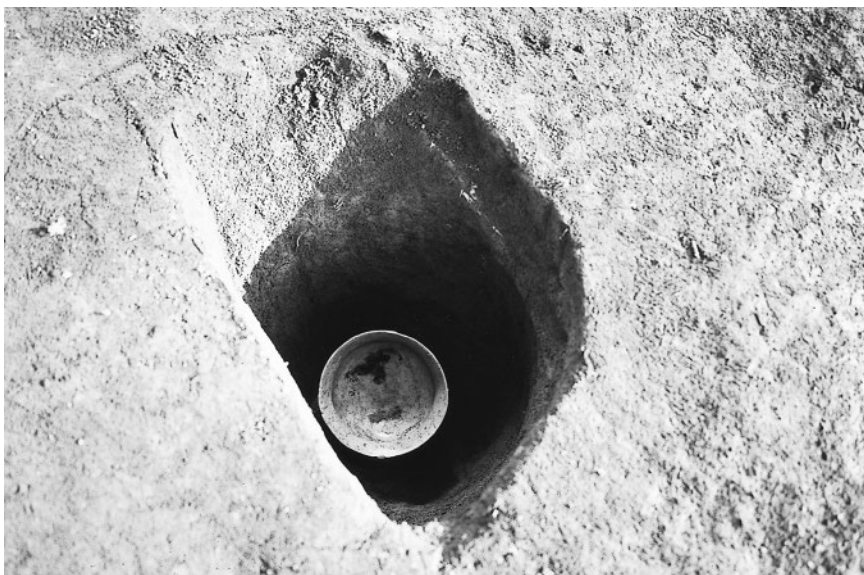
PL 4



第 61 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 62 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 107 号 住 居 跡
ピット遺物出土状況



第 3 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 3 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 況



第 7 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 10 号 住 居 跡
完 掘 状 況



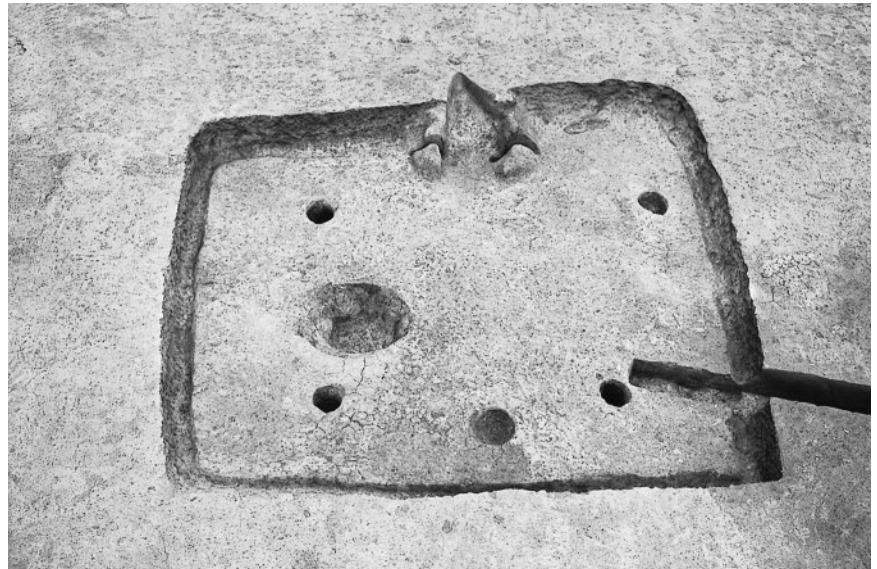
第 11 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 24 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 25 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 26 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 26 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 28 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 30 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 30 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況

第 31 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 31 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 45 号 住 居 跡
完 掘 状 況





第 53 号 住 居 跡
完 掘 状 況



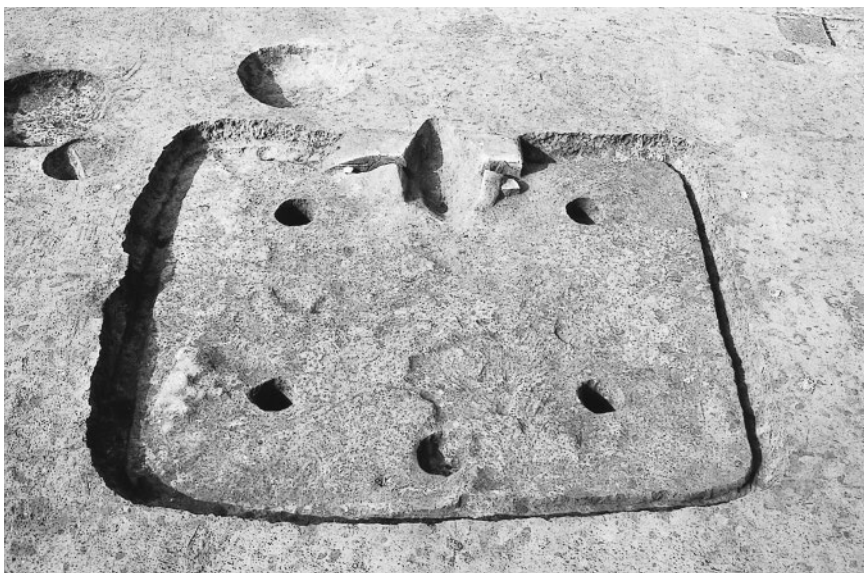
第 53 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 53 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 54 号 住 居 跡
完 掘 状 況



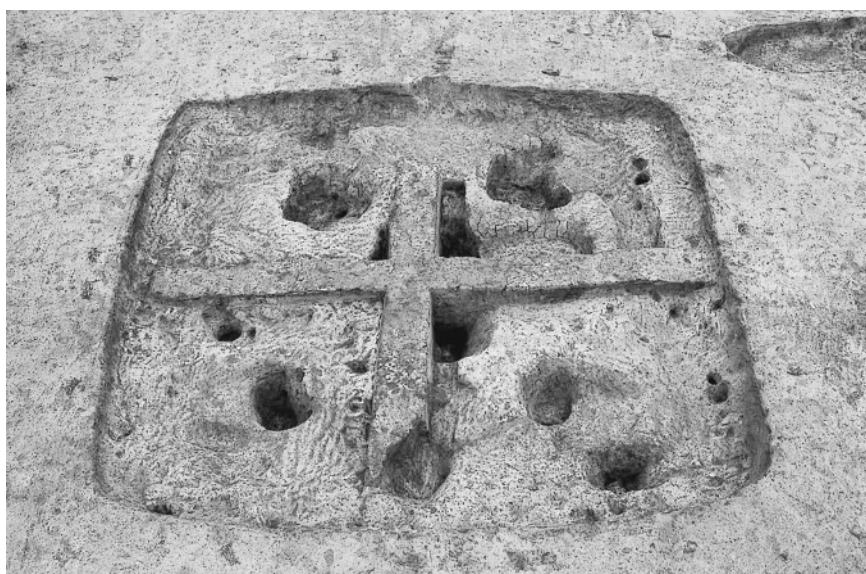
第 58 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 58 号 住 居 跡
掘 方 完 掘 状 況



第 59 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 59 号 住 居 跡
掘 方 完 掘 状 況



第 68 号 住 居 跡
完 掘 状 況

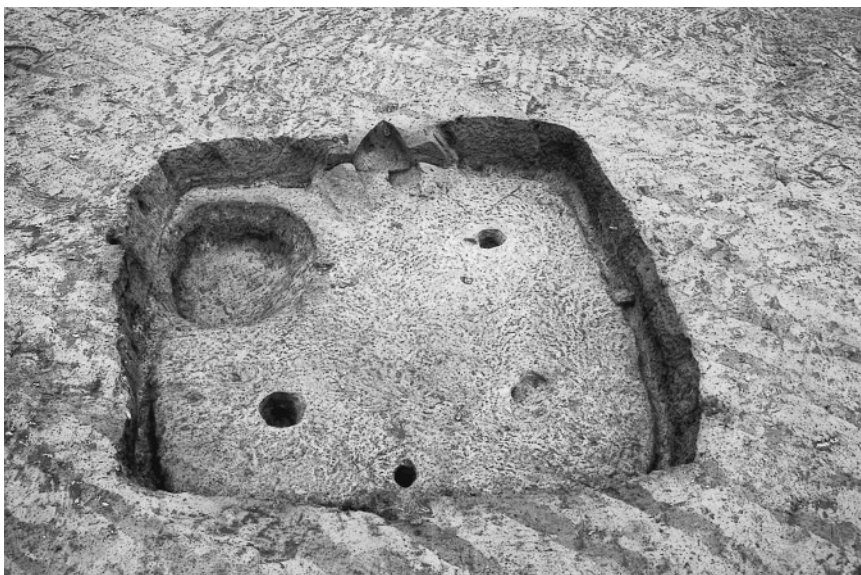
第 69 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 71 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 72 号 住 居 跡
完 掘 状 況





第 76 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 80 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 84 号 住 居 跡
完 掘 状 况

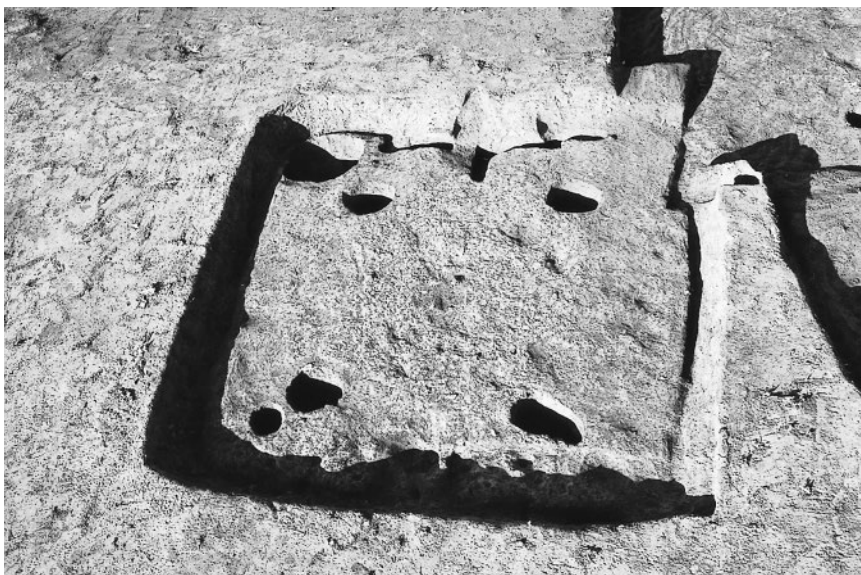
第 86 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 87 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 88 号 住 居 跡
完 掘 状 況

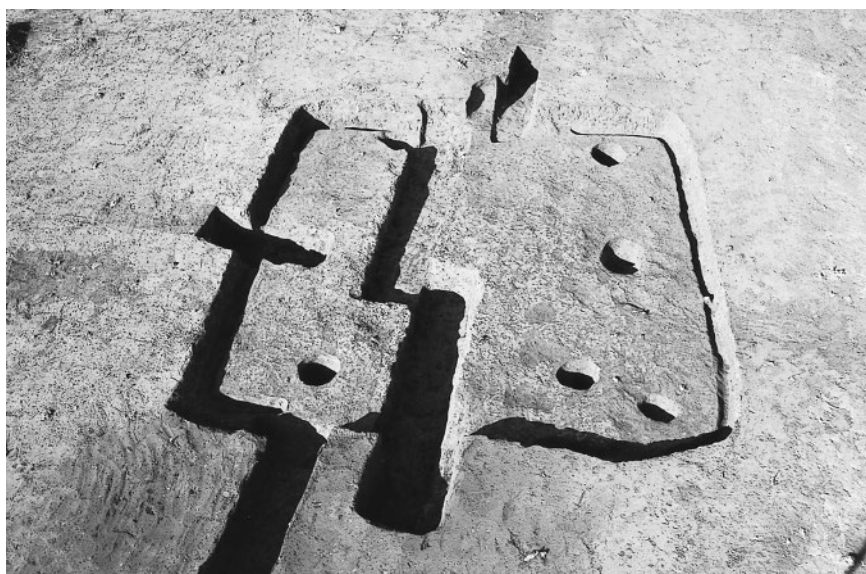




第 88 号 住 居 跡
掘 方 完 掘 状 况



第 89 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 92 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 92 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 103 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 103 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 106 号 住 居 迹
完 掘 状 况



第 108 号 住 居 迹
完 掘 状 况

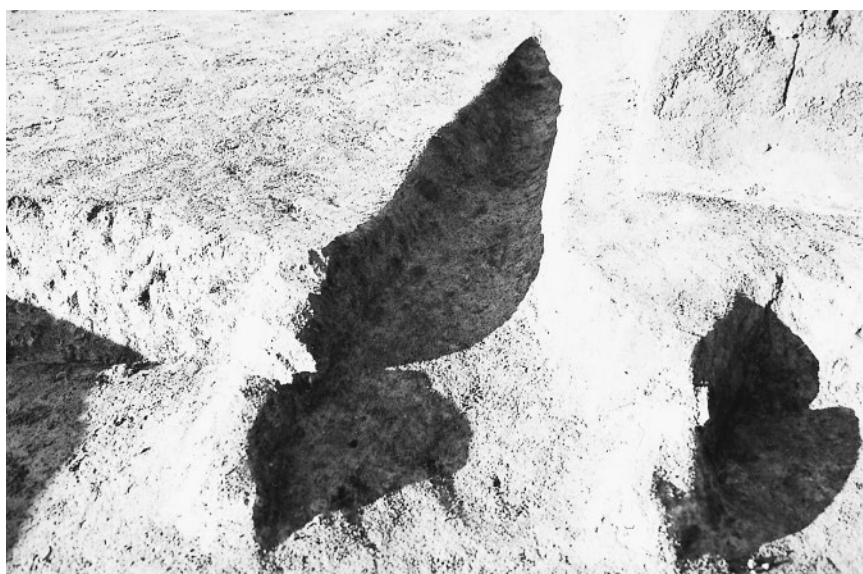


第 112 号 住 居 迹
完 掘 状 况

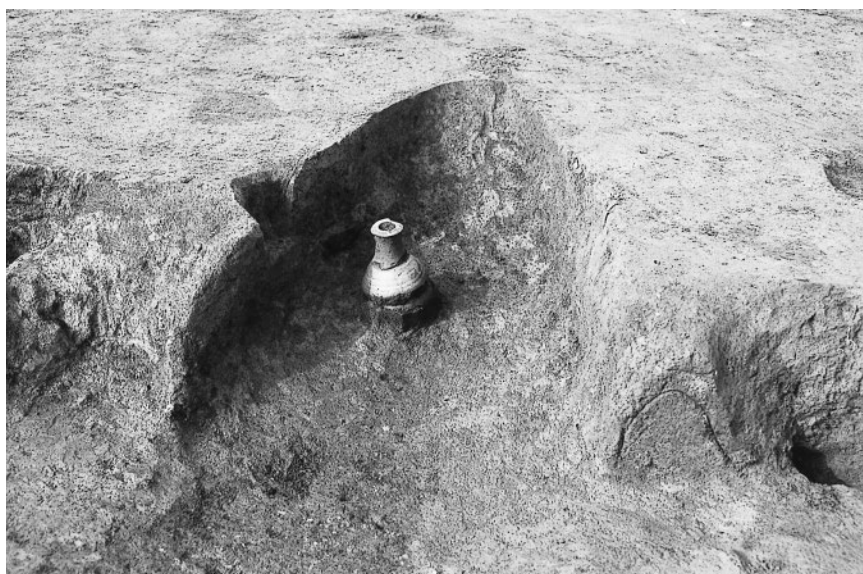
第 118 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 119 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 況



第 121 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 況





第26号掘立柱建物跡
完掘状況



第31号掘立柱建物跡
完掘状況



第32号掘立柱建物跡
完掘状況



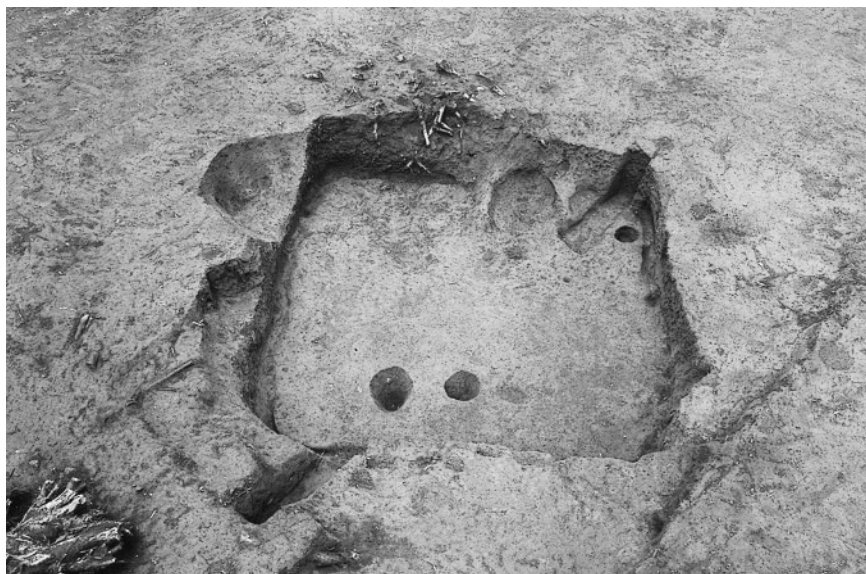
第35号掘立柱建物跡
完掘状況



第8号井戸跡
完掘状況



第143号土坑
完掘状況



第 1 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 1 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 况



第 4 号 住 居 跡
完 掘 状 况

第 4 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 4 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 5 号 住 居 跡
完 掘 状 況

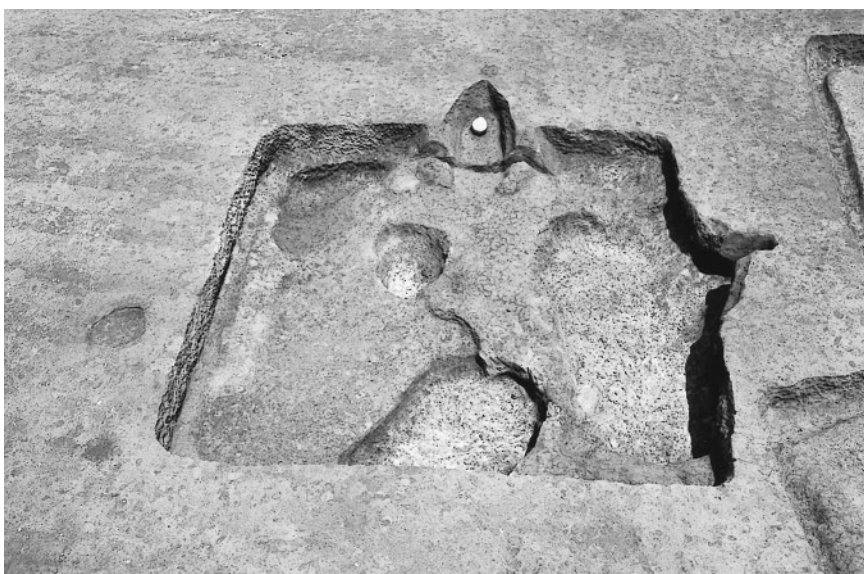




第 5 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 5 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 6 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第 6 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 況



第 8 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 9 号 住 居 跡
完 掘 状 況





第 12 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 12 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 12 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況

第 14 号 住 居 跡
第 2 号 粘 土 採 掘 坑
完 掘 状 况



第 14 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 况



第 14 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 况





第 15 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 18 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 18 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 况



第 18 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 18 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 19 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 19 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 況



第 21 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 27・39 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第 29 号 住 居 跡
完 掘 状 況

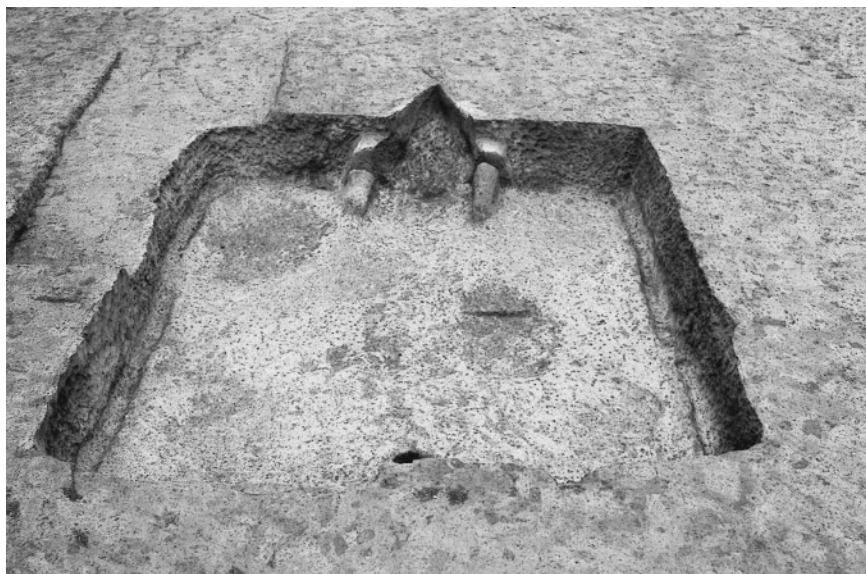


第 32 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 33 号 住 居 跡
完 掘 状 況





第 34 号 住 居 跡
完 掘 状 況

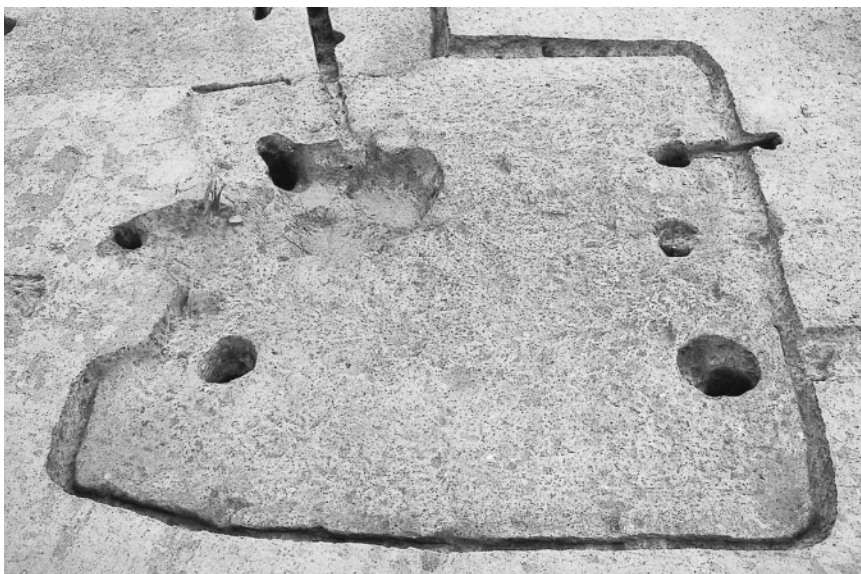


第 35 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 38 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第 40 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 41 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 43 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況





第 44 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 49 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 49 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 况

第 50 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 51 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 52 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況





第 55 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 100 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 100 号 住 居 跡
掘 方 完 掘 状 況

第 63 号 住 居 跡
完 掘 状 況

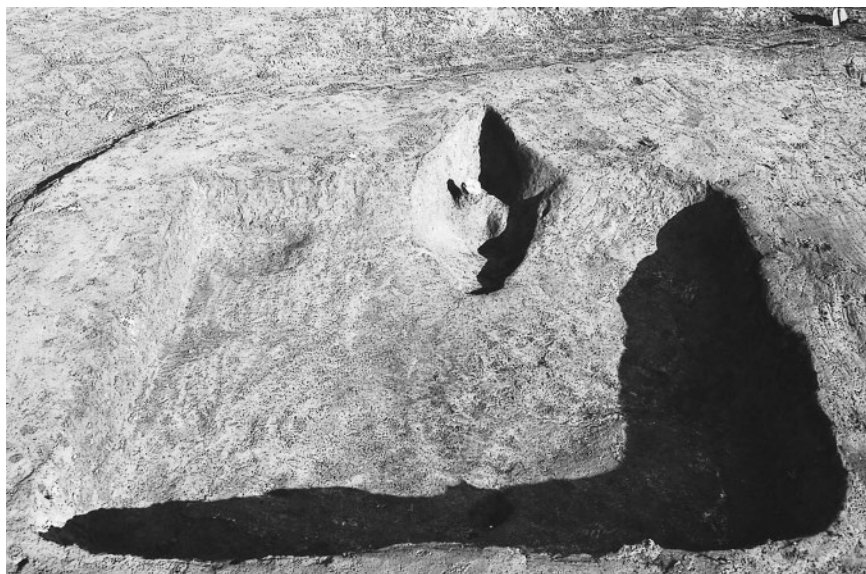


第 63 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 況



第 64 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況





第 65 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 66 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 66 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 况



第 67 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 70 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 73 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 75 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 77 号 住 居 跡
完 掘 状 況

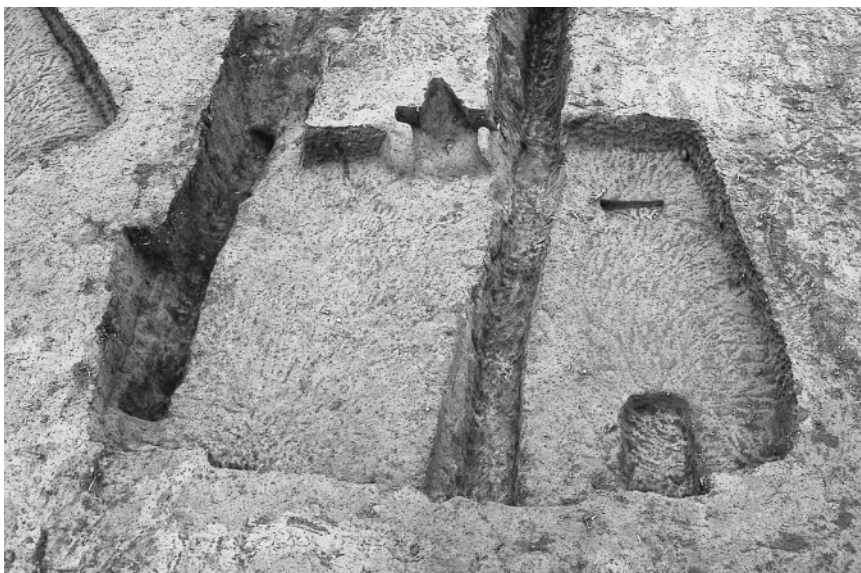


第 78 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第 79 号 住 居 跡
完 掘 状 況

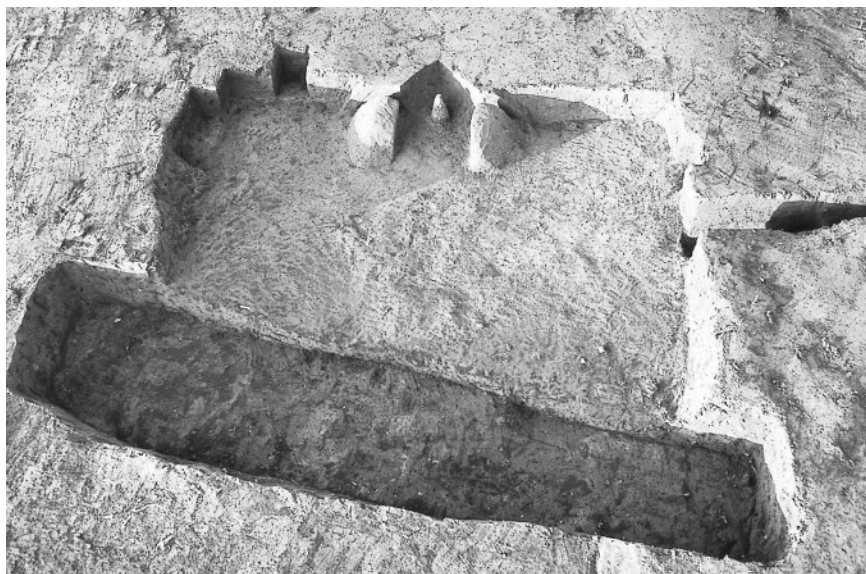


第 82 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 93 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 況





第 94 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 94 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 况



第 95 号 住 居 跡
完 掘 状 况

第 95 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 101 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 101 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況





第 102 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 102 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 104 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第 109 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 109 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 110 号 住 居 跡
竈 完 掘 状 況





第 111 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 113 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 115 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第 116 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 117 号 住 居 跡
完 掘 状 況

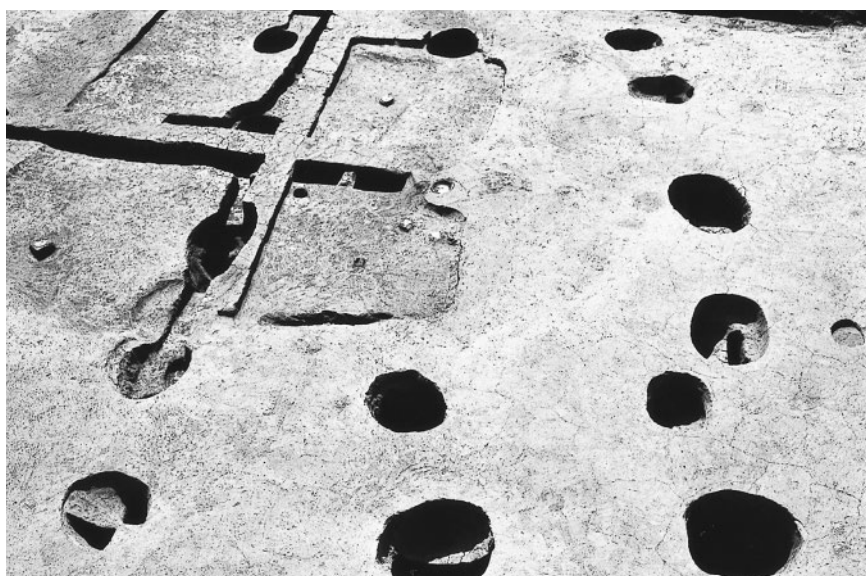


第 120 号 住 居 跡
完 掘 状 況





第120号住居跡
竈遺物出土状況



第2号掘立柱建物跡
完掘状況



第4号掘立柱建物跡
完掘状況

第5号掘立柱建物跡
完掘狀況



第6号掘立柱建物跡
完掘狀況



第7号掘立柱建物跡
完掘狀況





第8号掘立柱建物跡
完掘狀況



第9号掘立柱建物跡
完掘狀況



第10号掘立柱建物跡
完掘狀況

第 12 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第 13 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第 14 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況





第 15 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第 16 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第 20・21 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況

第 22 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第 29 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第 30 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況





第1号方形堅穴遺構
完掘狀況



第1号方形堅穴遺構
遺物出土狀況



第1号鍛冶工房跡
完掘狀況

第1号鍛冶工房跡
遺物出土狀況



第5号粘土採掘坑
完掘狀況

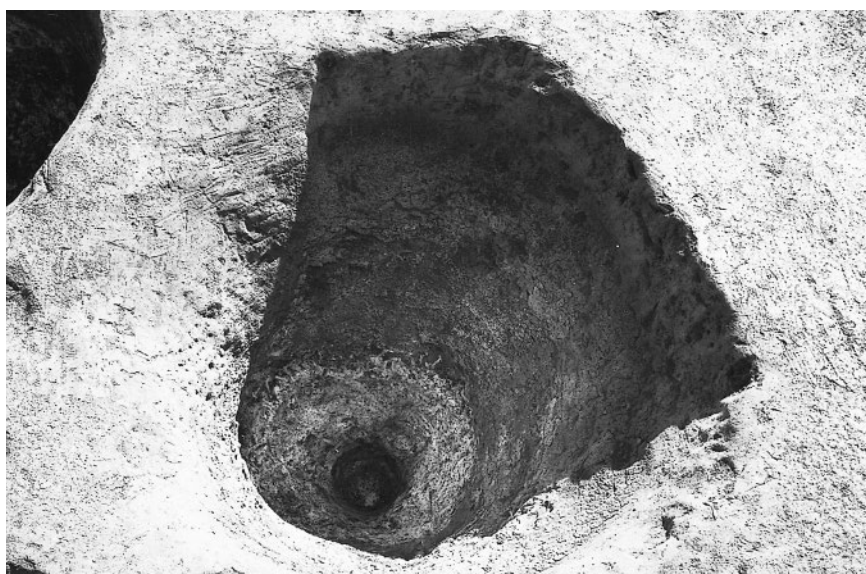


第2号井戸跡
完掘狀況





第 4 号 井 戸 跡
完 掘 状 況



第 5 号 井 戸 跡
完 掘 状 況



第 5 号 井 戸 跡
井 戸 枠 出 土 状 況

第 5 号 井 戸 跡
井 戸 杵 出 土 状 況



第 7 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



第 28 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況





第 35 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 135 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 162 号 土 坑
完 掘 状 况

第 162 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况

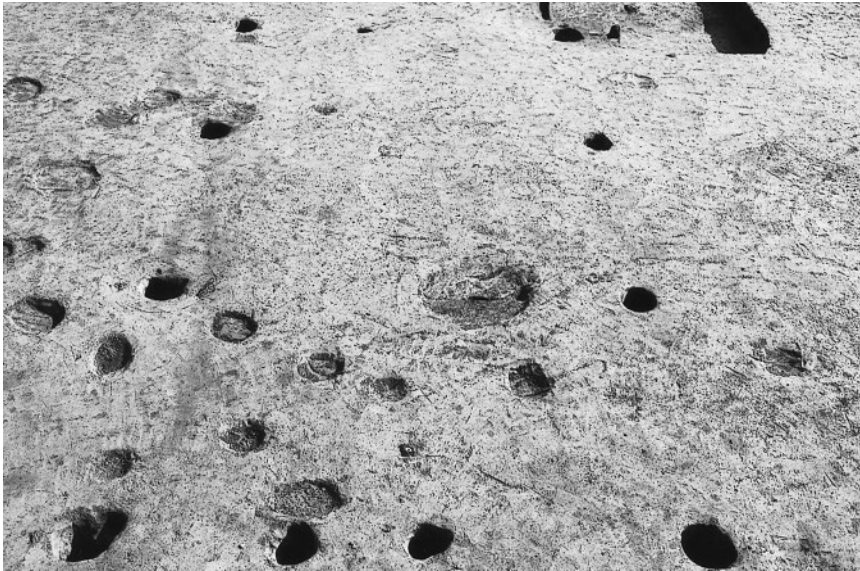


第 17 号 掘 立 柱 建 物 跡
完 掘 状 况



第 34 号 掘 立 柱 建 物 跡
完 掘 状 况





第 37 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第 38 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第 1 号 井 戸 跡
完 掘 状 況















第53号住居跡出土遺物













第1・6・8・9・119号住居跡，第110号土坑出土遺物



第1・12・14・16号住居跡出土遺物



第8・14・15・16・18・23号住居跡出土遺物













第51・55・56・63号住居跡出土遺物









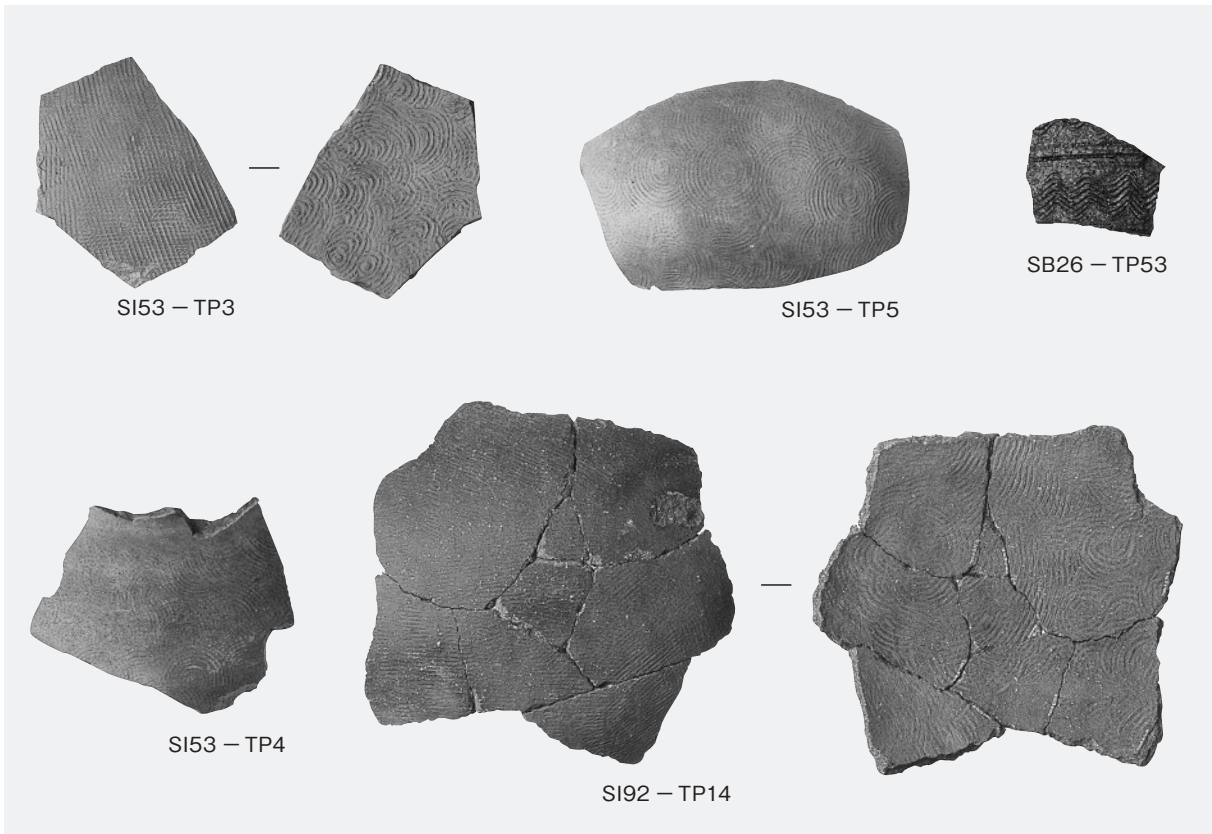
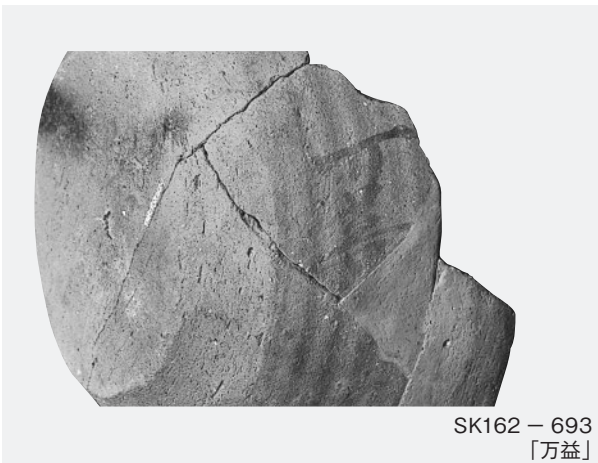




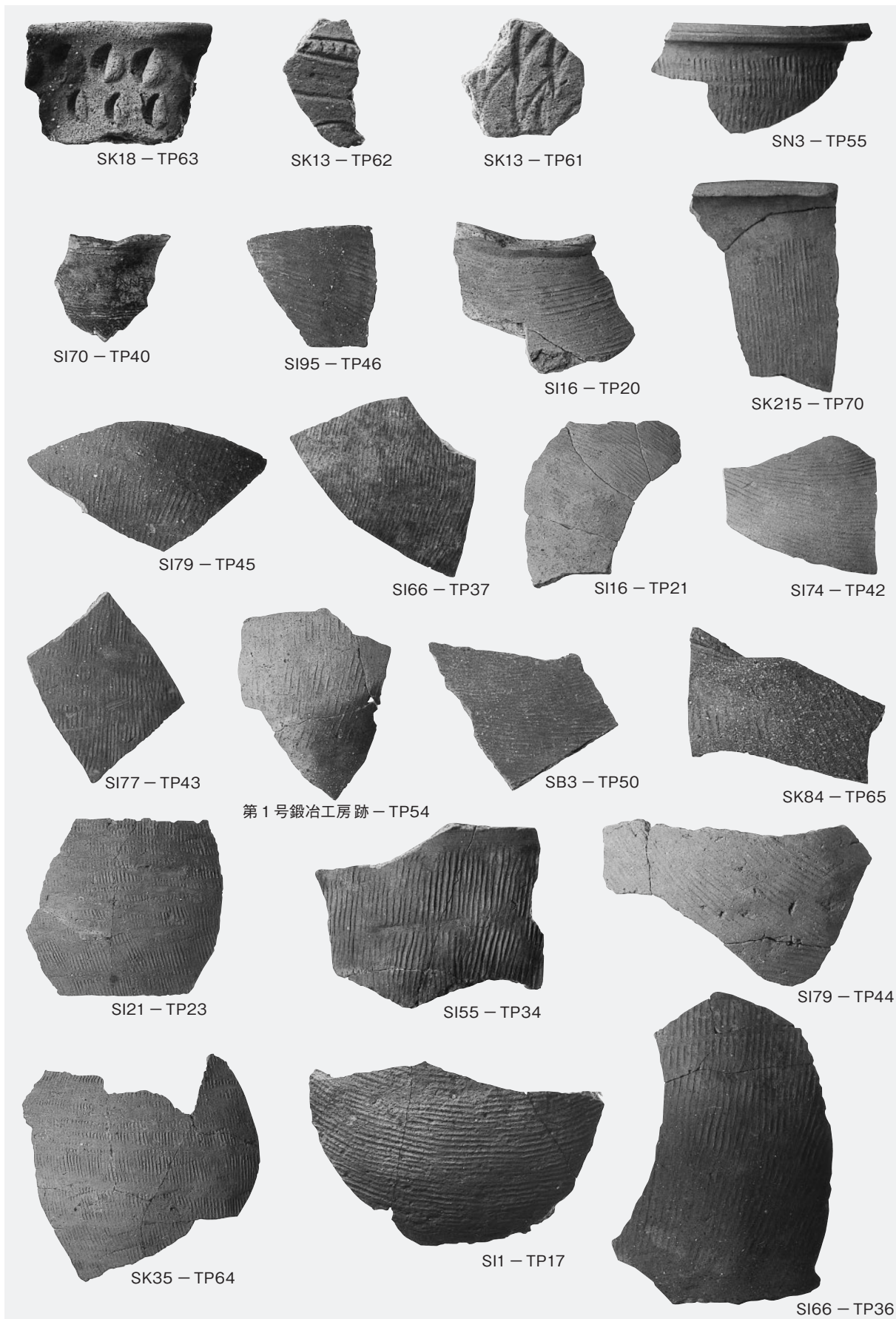
第111・117・120号住居跡，第1号方形堅穴遺構，第2号粘土採掘坑出土遺物



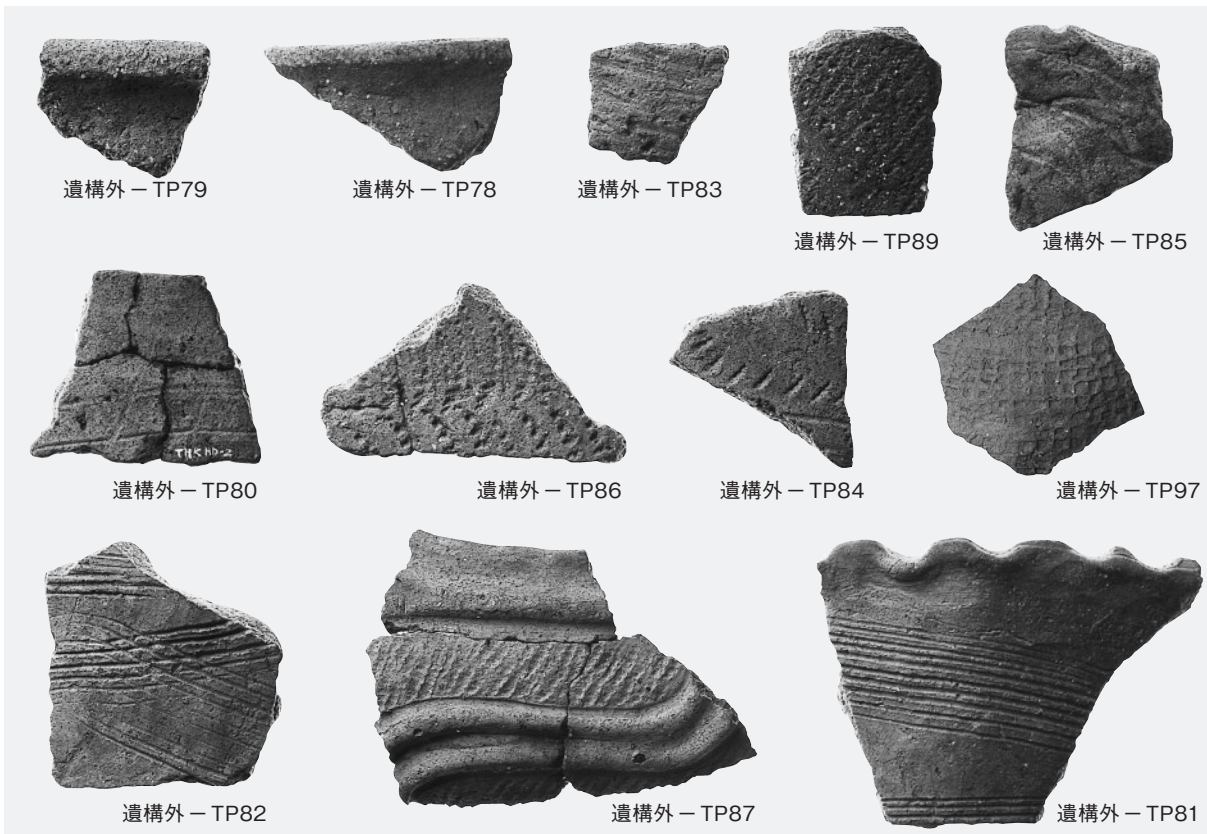
第28・35・135・162・170号土坑，第5号井戸跡，遺構外出土遺物



第30・53・63・70・92・111号住居跡，第26号掘立柱建物跡，第162号土坑出土遺物



第1・16・21・55・66・70・74・77・79・95号住居跡，第3号掘立柱建物跡，
第1号鍛冶工房跡，第3号粘土採掘坑，第13・18・35・84・215号土坑出土遺物

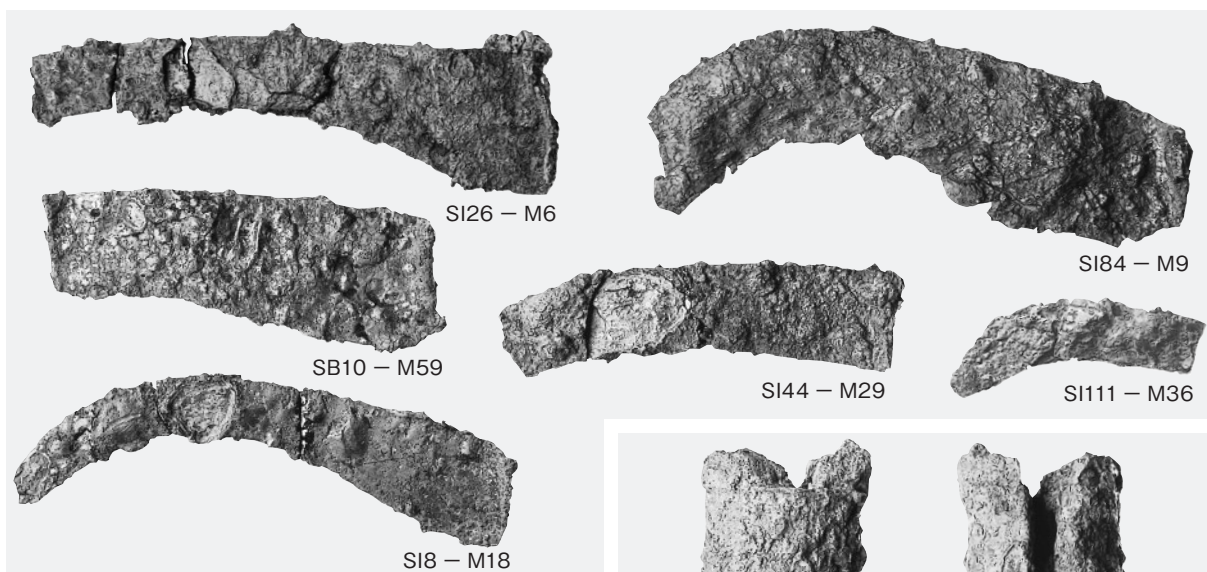


第18・58・77・94・111号住居跡，遺構外出土遺物



第1・49・50・51・55・94・103号住居跡，第174号土坑，遺構外出土遺物





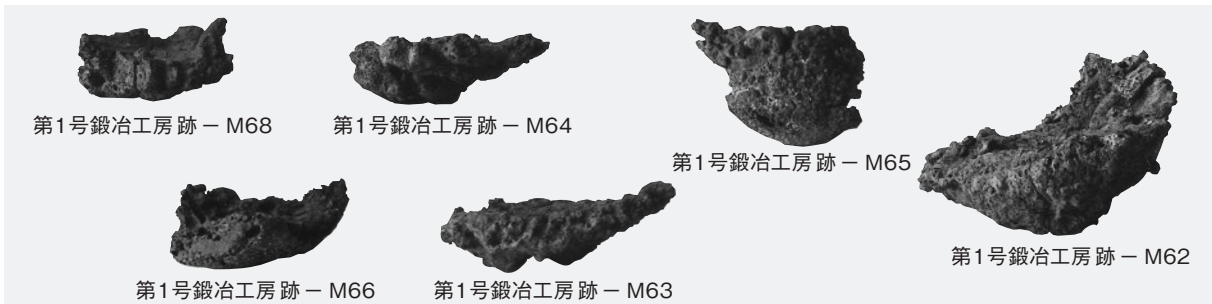
第4・8・15・18・21・26・44・51・58・63・66・67・84・92・101・111号住居跡,
第10号掘立柱建物跡・第174号土坑・遺構外出土遺物



SI43 - M28



SI25 - M4



第1号鍛冶工房跡 - M68

第1号鍛冶工房跡 - M64

第1号鍛冶工房跡 - M65

第1号鍛冶工房跡 - M62

第1号鍛冶工房跡 - M66

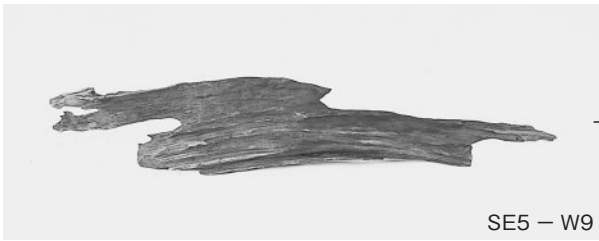
第1号鍛冶工房跡 - M63



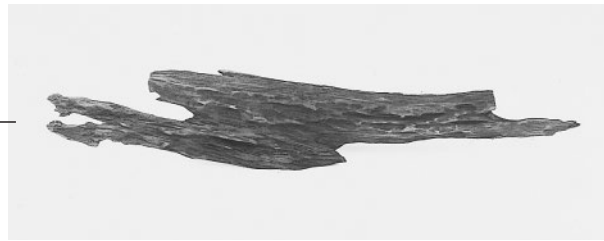
SE5 - W3



SE5 - W8



SE5 - W9



SE5 - W10



SE5 - W12



第25・43号住居跡, 第1号鍛冶工房跡, 第5号井戸跡出土遺物



第5号井戸跡出土遺物

抄 録

ふりがな	しもひらつかかぶきだい							
書名	下平塚蕪木台遺跡							
副書名	葛城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	VI							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第326集							
編著者名	白田 正子 飯田 浩彦 本橋 弘巳 齋藤 和浩 川井 正一 江原 美奈子							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行年月日	2009(平成21)年3月23日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
しもひらつかかぶきだい 下平塚蕪木台遺跡	いばらきけん 茨城県つくば市 しもひらつかかぶきつねわき 下平塚字狐脇 834番地の1ほか	8220 434	36度 5分 33秒	140度 5分 27秒	23 ~ 25m	20060401 ~ 20060531 20070601 ~ 20080331	1,293㎡ 24,306㎡	葛城一体型 特定土地区 画整理事業 に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下平塚蕪木台遺跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡	5軒	土師器(坏・椀・甕・甑), 須恵器(坏・蓋・甕), 土製支脚		第29・64号住居跡から則天文字「雨」の墨書土器が出土している。	
		奈良	竪穴住居跡	41軒	土師器(坏・椀・甕・甑), 須恵器(坏・蓋・高台付坏・井戸跡			
			掘立柱建物跡	7棟	盤・高盤・長頸壺・甕・鉢・甑・短頸壺蓋), 金属製品(耳環・鉄鏃・刀子・鉄鎌), 石製品(砥石・紡錘車)			
			井戸跡	2基				
	土坑	4基						
平安	竪穴住居跡	77軒	土師器(坏・甕・甑・皿・掘立柱建物跡		高台付皿), 須恵器(坏・高台付坏・盤・鉢・甕・長頸瓶・鍛冶工房跡			
中世 近世	掘立柱建物跡	溝跡	10棟	陶器(皿・播鉢・瓶・德利・鉢・片口), 磁器(碗・皿), 土師質土器(火鉢・竈)瓦, 煙管, 不明鉄製品				
		井戸跡	2基					
		土坑	28基					
その他	時期不明	溝跡	24条					
		土坑	188基					
		ピット群	11か所					
要約	古墳時代後期から平安時代にかけて集落が営まれた遺跡である。特に、一般集落では見られない版築技法で貼床を構築している住居跡, 良好な状態の横井組相欠き仕口型の井戸枠が出土した井戸跡, 鍛冶工房跡, 奈良~平安時代の掘立柱建物跡が多数確認されており, 蓮沼川流域の拠点集落である。							

茨城県教育財団文化財調査報告第326集

下平塚蕪木台遺跡

葛城一体型特定土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

下 巻

平成 21(2009)年 3 月 18 日 印刷

平成 21(2009)年 3 月 23 日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 光和印刷
〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町1823-22
TEL 029-247-4362



付図 下平塚燕木台遺跡 遺構全体図 茨城県教育財団文化財調査報告第326集